満支旅行年鑑

17

東亞旅行社
満洲支部

支那事變の最も輝かしい成果の一は、日本の指導の下に大陸交通の整備が著々進行されつゝある事實である。交通網は國土の動脈であり建設開發の根幹である。交通の整備なくして大業成れる歴史はない。新支那の産業も政治も文化も今後これを主として大なる發展を遂げるであらう。華北交通會社は、北支蒙疆の水陸交通の運營を掌る興亞の國策會社であつて、交通運營の傍ら、沿線住民のため愛路村工作を行ひ中國人子弟のため扶輪學校を經營するなど中國大衆に直接の福祉をも與へてゐる。卽ち日支提携の最も代表的な仕事を實際にやつてゐるわけで、日本の主唱する東亞新秩序建設の大業に對して、この會社が負ふべき役割は極めて重大である。事變以來この聖業に携つて名譽の殉職を遂げた交通從事員は既に一千名に近い。

華北交通株式會社

會社ノ組織

日華合辦
資本金 三億圓
社員 十一萬人
鐵道 六千キロ
自動車 一萬三千キロ
水運 四千二百キロ
愛護村 八千ヶ村
愛護村民 三千萬人
農事施設 二十四ヶ所
醫療施設 四十四ヶ所
教育施設
扶輪學校 三十三校
鐵路學院 七校
本社 北京
鐵路局 天津 北京 張家口 濟南 太原 開封
支社 東京市赤坂區葵町

昭和十七年

滿支旅行年鑑

東亞旅行社編纂



滿洲の觀光バス案內

旅順戰跡巡拜バス　（案內人付）

時　　間・夏期3回　冬期2回
料　　金・大連より旅順戰跡一巡……………………4圓20錢（通行稅別）
{大連——旅順間片道…………………………1圓10錢（　〃　）
{旅順戰跡一巡………………………………2圓00錢（　〃　）
（小兒半額）
發 着 場・大連——常盤橋バス案內所　（電話2—2090・2—2091）
旅順——乃木町バス案內所　（電話678）
訪問箇所・白玉山（納骨祠・表忠塔）——戰利品陳列館——東鷄冠山北砲壘——二龍山砲壘——水師營會見所——爾靈山（激戰地二〇三高地）

大連觀光バス

當分の間運行休止

奉天觀光バス

全コース

時　　間・午前9時發——午後3時歸着
料　　金・3圓（小人半額）
發 着 場・奉天驛前
コ ー ス・驛——忠靈塔——國立博物館——同善堂——北陵——北塔——柳條溝——北大營——城內——奉天神社——鐵西——三軒家——大越中佐自刄ノ地——于洪屯——驛
・いづれも明朗ガイドガール案內說明付

短コース

時　　間・午前9時・10時・午後1時・2時（1日4回發）
料　　金・2圓（小人半額）
發 着 場・奉天驛前
コ ー ス・驛——忠靈塔——同善堂——北陵——北塔——柳條溝——北大營——城內——奉天神社——驛

切符發賣所 {驛前—交通會社觀光バス案內所　（電3—3790）
{奉天觀光協會（三中井百貨店內）（電3—5502）



滿洲の觀光バス案內

撫順觀光バス　（明朗婦人案內說明付）

時　　間・午前11時・午後2時（1日2回發）
料　　金・2圓（小人半額）
發 着 場・撫順驛前
コ ー ス・驛——炭礦事務所——古城子露天掘——大山坑——撫順神社——譽ケ丘——驛
切符發賣所 {驛前—交通會社觀光バス係（電2028）
{驛前—撫順觀光協會（電5659）

國都觀光バス　（婦人案內說明付）

時　　間・自4月至10月…午前9時…午後1時30分（1日2回發）
自11月至3月…午前10時…午後2時………（　〃　）
料　　金・3圓（小人半額）　滿語2圓（小人半額）
コ ー ス・新京驛——新京神社、——駐滿大使館——忠靈塔——寬城子戰跡——宮廷府——濟眞寺——大同廣場——協和會本部——綜合運動場——南嶺戰跡——安民廣場——國務院——宮廷御造營地——南新京——興安大路——大同大街——寶山——新京驛
切符發賣所 {驛前—新京觀光協會（電3—4941）
{豐樂胡同—新京交通會社自動車課（電2—5680）
お 問 合 {新京觀光協會（電3—4941）
{新京交通會社（2—5680）

哈爾濱觀光バス　（日、滿、露婦人案內說明付）

時　　間・午前9時　午後2時（1日2回發）
料　　金・
乘 車 場・ハルピン驛前・キタイスカヤ街哈爾濱觀光協會前
コ ー ス・驛——哈爾濱神社——ミルレル兵營——忠靈塔——志士，烈士の碑——博物館——孔子廟——ロシヤ人墓地——ロパート高臺——傅家甸——埠頭（觀光艇乘船）——松花江（太陽島）——觀光亭——キタイスカヤ——新城大街——モストワヤ——地段街——驛
切符發賣所・ハルピン驛前・哈爾濱觀光協會（電3137）
お 問 合・哈爾濱交通會社（電3311. 6691）

國都御觀光には!!

旅館・乗物・おみやげ等の紹介斡旋は勿論國都觀光についてはあらゆる御便宜をお計ひ致します。

新京觀光バス切符發賣



新京驛…降車口前

新京觀光協會

電話｛案内所③四九四一番
　　　おみやげ部③三一八八番



世界有數の露天掘

炭都 撫順御觀光には

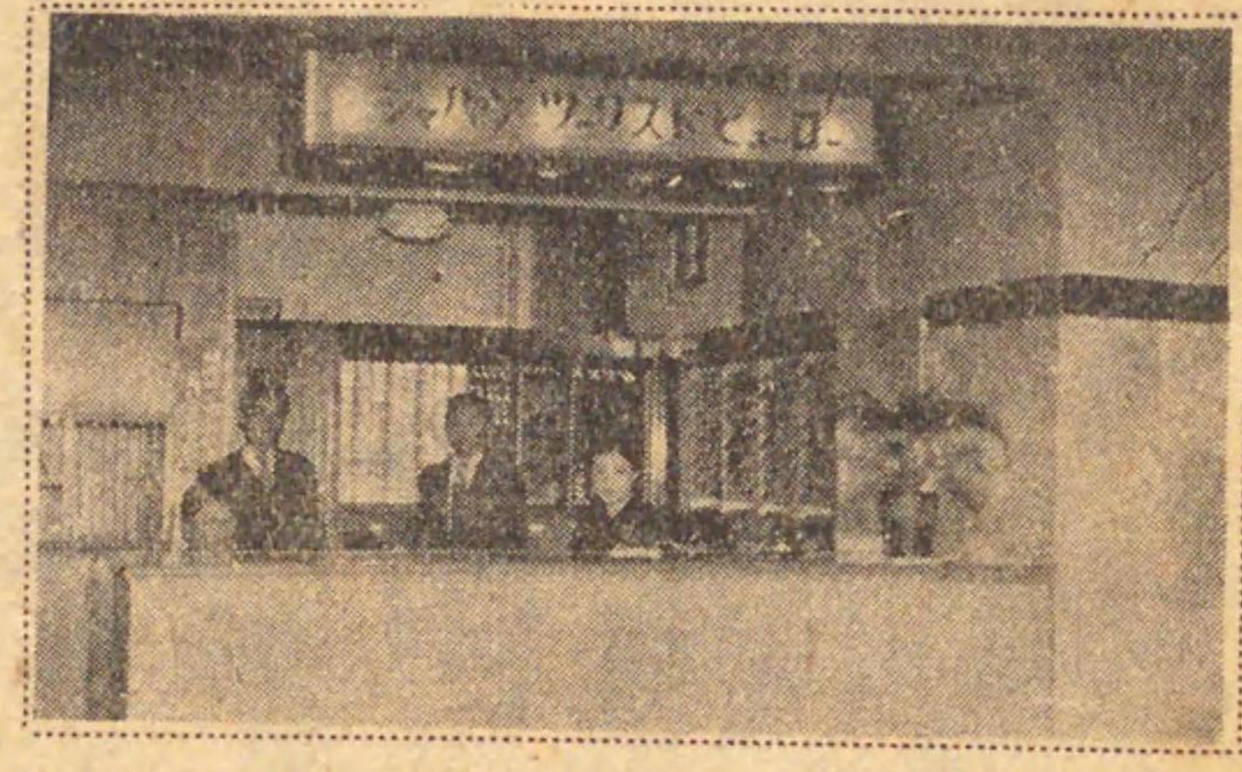


撫順觀光バス・旅館・乗物・おみやげ等の紹介斡旋竝に觀光に就てあらゆる御便宜取計ひます。

撫順驛前

撫順觀光協會

御利用を



切符の購求と旅行の相談と

は東亞旅行社へ!!

（トーア・ツーリスト・ビューロー）

東亞旅行社の事業

- ▶内外旅行の無料斡旋。
- ▶旅程の作成、旅費の見積り(無料)
- ▶風物、産業、美術、其の他一般文化の海外紹介宣傳。
- ▶汽車、汽船、航空、自動車等切符類の發行。
- ▶クーポン式乗車券、旅館券、社寺券、旅行小切手等の發行。
- ▶聖地巡拜、錬成其の他諸團體の引受及斡旋
- ▶時間表、觀光東亞、華文雜誌等月刊誌の發行。
- ▶一般旅行圖書、案內記、地圖類の發行及發賣。
- ▶旅行俱樂部、溫泉協會の事業。

各地案內所

大連　鞍山　奉天
四平　新京　安東
營口　撫順　吉林
延吉　圖們　通化
牡丹江　佳木斯　哈爾濱
齊齊哈爾　黑河　滿洲里
錦州　承德　山海關
羅津　北京　天津
塘沽　唐山　石門
保定　開封　太原
青島　濟南　徐州
連雲　張家口　大同
厚和　上海　蘇州
杭州　南京　漢口
其の他 日本、臺灣、朝鮮等の主要都市

昭和十七年 滿支旅行年鑑目次

日本紀元二六〇二年
西曆紀元一九四二年

昭和十七年・康德九年・壬午略曆

中華民國三一年
成紀七三七年

滿洲國

祝祭日	月日
元旦	一月一日
萬壽節	二月六日
建國節	三月一日
新穀祭	四月二十一日
訪日宣詔紀念日	五月二日
建國忠靈廟春季例祭	五月三十一日
建國神廟創建紀念日	七月十五日
建國忠靈廟秋季例祭	九月十九日
嘗新祭	十月十七日
春節	二月十五日
元宵節	三月一日
春丁祀孔	三月二十五日
端午節	六月十八日
秋丁祀孔	九月十一日
中秋節	九月二十五日
除夕	二月十四日
祀關岳	二月二十六日
釋迦佛廟會	四月四日
湯崗子娘娘廟會	四月十八日
天齊佛廟會	五月十二日
娘娘廟會	六月一日
藥王廟會	六月十一日
關帝廟會	六月二十六日
協和會創立紀念日	七月二十五日
日本承認滿洲國紀念日	九月十五日
祀關岳	十月二日
孔誕	十月七日

日本

祝祭日	月日
歲旦祭	一月一日
元始祭	一月三日
新年宴會	一月五日
紀元節	二月十一日
地久節	三月六日
春季皇靈祭	三月二十一日
神武天皇祭	四月三日
天長節	四月二十九日
秋季皇靈祭	九月二十三日
神嘗祭	十月十七日
明治節	十一月三日
新嘗祭	十一月廿三日
大正天皇祭	十二月廿五日
皇太后陛下御誕辰	六月二十五日
陸軍記念日	三月十日
海軍記念日	五月二十七日
橿原神宮祭	二月十一日
明治神宮祭	十一月三日
靖國神社祭	四月三十日・十月二十三日

陰曆大小

	大	小
壬午	正月 三月 四月 六月 七月 九月 十二月	二月 五月 八月 十月 十一月
辛巳		十二月

二十四節氣表

節氣	月日	時刻
小寒	一月六日	前八・〇三
大寒	一月二十一日	前一・二四
立春	二月四日	後一・四九
雨水	二月十九日	後三・四七
驚蟄	三月六日	後一・一〇
春分	三月二十一日	後三・一一
清明	四月五日	後七・二四
穀雨	四月二十一日	前二・三九
立夏	五月六日	後一・〇七
小滿	五月二十二日	前一・〇九
芒種	六月六日	後五・三三
夏至	六月二十二日	前一〇・一七
小暑	七月八日	前三・五二
大暑	七月二十三日	後九・〇八
立秋	八月八日	後一・三一
處暑	八月二十四日	前三・五九
白露	九月八日	後四・〇七
秋分	九月二十四日	前一・一七
寒露	十月九日	前七・二二
霜降	十月二十四日	前一〇・一六
立冬	十一月八日	前一〇・一二
小雪	十一月二十三日	前七・三一
大雪	十二月八日	前二・四七
冬至	十二月二十二日	後八・四〇

滿月表

月	日
一月	一日
二月	一日
三月	三日
四月	一日
五月	一日・三十日
六月	二十八日
七月	二十八日
八月	二十六日
九月	二十四日
十月	二十四日
十一月	二十三日
十二月	二十三日

雜節

雜節	月日
土用	一月十八日・四月十八日・七月二十日・十月二十一日
三伏	七月十六日・七月二十六日・八月十五日
社日	三月二十六日・九月二十二日
節分	二月三日
八十八夜	五月二日
入梅	六月二日
半夏生	七月二日
彼岸	三月十八日・九月廿一日
二百十日	九月一日

月食

三月三日（承德・海拉爾）
初　午前七時三十一分（方向左上之[illegible]）
月入　午前七時四十一分（方向左上之[illegible]）
食分一分五厘

日曜表

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
4	1	1	5	3	7	5	2	6	4	1	6
11	8	8	12	10	14	12	9	13	11	8	13
18	15	15	19	17	21	19	16	20	18	15	20
25	22	22	26	24	28	26	23	27	25	22	27
		29		31			30			29	

滿支年代表

年代（皇紀）／帝國／王號／重要記事

神代

年代：前二三五〇頃　前一九八〇頃　前一六九五頃　前一五九五頃　前一五四五頃　前一一〇六頃　前四六一頃

開創之世（三皇五帝）：燧人　伏羲　神農　黃帝　顓頊　帝嚳　帝堯　帝舜

夏（17主）：禹王　桀王（439年）

商（38主）：湯王　紂王（644年）

重要記事：
- 漢族西方より東南下し苗族を追ひ黃河畔に部落す
- 支那最初の統一（版圖北支全般に及ぶ）
- 歴法を定む
- 舜に讓る（禪讓の始）
- 九官を任じ學校を置く
- 禹の治水　貢法、車制を定む、子啓王に讓る（王位世襲の始）
- 商に亡ぼさる（放伐の始）
- 周に亡ぼさる

帝國：神武　綏靖　孝安　孝靈　孝元　開化　崇神　垂仁

年代：前四六二頃　前一一一頃　一　一一〇　二九〇　四〇五　四四〇　四五五　四五九　四六九　五〇七　五二一　五三一　五五三　六〇一　六六八　六八三

周（36主）：武王　康王　平王　惠王　威烈王　安王　赧王（867年）

秦（3主）：始皇帝　三世（15年）

西漢（12主）：高祖　武帝　宣帝　孺子嬰（210年）

新注―王莽（15年）

光武帝

重要記事：
- 周公制度を定む（周治）
- 周室東遷
- 春秋の世（293年）　孔子生る
- 戰國之世（183年）　孟子生る
- 周亡滅
- 天下一統
- 亡ぶ
- 項羽（楚）を討ち帝位に就く
- 衛滿（燕人）朝鮮王を稱す、吳楚七國の亂
- 年號の始　學振興　始儒
- 匈奴を征す　衛滿朝鮮亡
- 西域諸國を降す
- 王莽纂奪
- 新亡ぶ
- 倭人印綬を受く

帝國：景行　仲哀　神功（攝政）　應神　仁德　允恭　仁賢　欽明

年代：七二七　七五一　七五七　八六〇　八六八　八八〇　九二五　九四〇　九六〇　九七七　一〇八〇　一一五四　一二〇五　一二一二

東漢（14主）：明帝　獻帝（196年）

蜀（2主）：劉備（48）

魏（5主）：曹操（46）

吳（4主）：孫權（52）

西晉（4主）：武帝（52）

東晉（11主）：元帝（104）

南朝：後魏（一三主一四八年）　西魏（四主二四年）　東魏（一主一七年）　北齊（五主二八年）　北周（五主二五年）

北朝：宋（八主六〇年）　齊（七主二四年）　梁（四主五六年）　陳（五主三三年）

重要記事：
- 佛教渡來
- ローマ帝國との交通
- 西域都護を置く
- 神功三韓親征
- 赤壁の戰
- 東漢滅亡（三國分立）
- 三國時代（60年）
- 晉建國
- 王仁日本に文學を傳ふ
- 八王の亂
- 建康（南京）に都す（文化江南に移る）
- 東晉滅亡
- 龍門石佛開造
- 大同石佛開造
- 南北朝時代
- 佛教日本傳來

帝國：推古　齊明　天智　持統　元明　孝謙　淳仁　陽成　宇多　醍醐　村上

年代：一二六四　一二七八　一三二〇　一三二八　一三五〇　一三六五　一三七二　一三七三　一四一五　一四二三　一五四〇　一五五五　一五六七　一五六八　一五七六　一五八六　一六〇七　一六二〇

隋（4主）：文帝（30）

唐（20主）：高祖　大宗　中宗　睿宗　玄宗　肅宗　代宗　僖宗　昭宗　哀帝（290年）

五代：梁（三主一七年）　唐（四主一三年）　晉（二主一一年）　漢（二主四年）　周（三主九年）（53年）

太祖

重要記事：
- 天下統一　隋滅亡
- 百濟亡ぶ
- 高麗亡ぶ
- 諸國との修交（遣唐使）
- 武后國號を周と稱す
- 中宗唐に復す
- 韋后の禍
- 渤海建國
- 安祿山の叛
- 祿山平定
- 黃巢の亂
- 節度使擧兵
- 朱全忠纂奪
- 高麗朝鮮を統一
- 契丹の阿保機帝を稱す
- 渤海遼に亡ぼさる（十四主二一五年）
- 遼建國（契丹）
- 周を奪纂

帝國：圓融　花山　一條　御朱雀　鳥羽　崇德　御白河　土御門　順德　後堀河

年代：一六三九　一六四〇　一六四六　一六五四　一六六四　一七〇四　一七七五　一七八五　一七八六　一七八九　一八一六　一八六六　一八六九　一八七五　一八七八　一八七九　一八八二　一八八三　一八八七

宋（18主）（320年）

北宋：太宗　眞宗　仁宗　徽宗　欽宗

南宋：高宗　孝宗　寧宗　理宗

重要記事：
- 天下統一
- 安南半獨立
- 遼に破らる
- 遼高麗を下し强大
- 遼と和す
- 西夏と和す
- 金（女眞）建國
- 遼金に亡ぼさる（九主二一〇年）
- 金大擧入冦
- 金北支を奪取
- 杭州に遷都
- 金と和す
- 鐵木眞汗位に即く（成吉思汗―太祖）
- 成吉思汗西夏を降す
- 成吉思汗燕京を陷す
- 蒙古金の諸州を取る
- 成吉思汗西域を征す
- 蒙古印度に迫る
- 蒙古ロシヤを破る
- 成吉思汗死す

帝國：四條　後御深草　龜山　後宇多　後醍醐　後村上　長慶

年代：一八八九　一八九四　一八九五　一九一一　一九一八　一九二〇　一九二四　一九二六　一九三一　一九三四　一九三九　一九四一　一九八一　二〇一五　二〇一六　二〇二二　二〇二四　二〇二八

慶宗

元（11主）：世祖　英宗　順宗（105年）

太祖

重要記事：
- オゴタイ汗位に即く（太宗）
- 金蒙古に亡ぼさる（九主一二〇年）
- 蒙古和稱に都す
- 蒙古憲宗建つ
- 蒙古西域を平ぐ
- 忽必烈即位（世祖）
- 世祖北京に都す
- オゴタイ汗叛す
- 國號を元と稱す
- 元日本を侵す（文永の役）
- 宋滅亡
- 元再九州に來侵（弘安の役）
- オゴタイ汗亡ぶ
- 朱元璋安徽に叛す
- 朱元璋吳國公を稱す
- 元軍高麗兵に破る
- 朱元璋吳王を稱す
- 吳王國號を明と稱し、元を滅す（太祖より一[illegible]年）

後小松　二〇五二
二〇六二
二〇七〇
稱光　二〇七四
二〇八一
後花園　二一〇九
正親町　二二四二
後陽成　二二五二
二二五六
二二六一
後水尾　二二七六
二二八五
二二八七
明正　二二九一
二二九六
二二九七
後光明　二三〇四
後西　二三二一

明（17主）（277年）
惠帝　成祖　英宗　神宗　毅宗
世祖

李成桂朝鮮王となる
燕王纂立（成祖）
韃靼親征安南を征す
北京に遷都
瓦剌部を親征し大敗擒となる
ロシヤ西比利亞に侵入
文祿の役
慶長の役
キリスト教來る
奴爾哈赤國號を後金と稱す（後清太祖）
後金・瀋陽（奉天）に都す
後金大宗立つ
李自成叛す
後金國號を清とす
清朝鮮を降す
李自成京師を陷し明滅ぶ
清北京に都す
清兵緬甸に至る國人王を執へて清に獻ず

東山　二三四九
中御門　二三八七
桃園　二四一七
仁孝　二五〇〇
二五〇二
二五〇四
二五一〇
孝明　二五一六
二五一八
二五二〇
二五二四
明治　二五三一
二五四五
二五五四
二五五五
二五五六
二五五九
二五六一
二五六二

清（10主）（269年）
聖祖　高宗　宣宗　文宗　穆宗　德宗

ネルチンスク條約露清境界確定
外國貿易を廣東に制限す
阿片戰爭起る
南京條約締結
佛米と條約締結
長髮賊の亂
アロー號事件起る
天津條約・愛琿條約
英佛軍北京燒打、北京條約
長髮賊平定
日清條約締結
安南佛領となる
日清戰役起る
下關條約
露清條約
義和團の亂
義和團平定
日英同盟

二五六四
二五六五
二五七一
二五七二
大正　二五七三
二五七四
二五七七
二五七七
二五八五
昭和　二五八七
二五八八
二五九一
二五九二
二五九四
二五九六
二五九七
二六〇〇

宣統
中華民國
滿洲國
中華民國

日露戰役起る
日露講和
革命起る
清朝退位（太祖より一三王二九七年）
中華民國成立
支那國會開設
日本軍青島占領
張勳復辟運動
廣東軍政府組織（孫文大元帥）
廣東國民政府組織
國民革命軍漢口を陷す
國民政府南京に移る
國民黨中國統一
滿國事變
滿洲建國
滿洲國帝制
百靈廟事件
日支事變起る、蒙古聯盟自治政府成立
南京新政權成立、日獨伊三國同盟

大陸旅行時事

昭和十六年

一月〔一日〕・第二回非常時客荷輸送訓練旬間準備期間始まる。〔十一日〕・大連交通ではガソリンの制限對策として、老虎灘線のダイヤを全廢星浪線を大連驛迄延長。〔十二日〕・華北交通は京漢線望都―唐縣新自動車路線開始。〔十六日〕・豫て設立準備中の滿洲新聞協會は新京國務院講堂にて創立總會を開催。〔十七日〕・粤漢線沿線の治安回復により一般華人の便乘を軍より許可。〔二十一日〕・青島方面渡航者に對して從來の「コレラ」「腸チブス」豫防注射檢便證明書携行を解除する旨發表。〔二十一日〕・奉天觀光協會市公署に定期總會を開催。〔二十二日〕東亞交通に一エポックを劃する關門トンネルの開通と關釜連絡船三運航は相前後して遲くも明十七年秋迄には實現日滿支間の交通體制は大變革を來たす事となつたので之れに備へてダイヤ根本的改正につき滿鐵總局に於て鮮鐵、華北、滿鐵等の代表者出席の基に打合會を開催。〔二十五日〕・市制發布五周年記念事業として奉天市公署弘報股主催の「觀光寫眞今昔を語る懇談會」ヤマトホテルに開催〔二十八日〕・日本海ルートの積極的宣傳と對日滿洲紹介に小學生を對象とする二項に就き滿鐵總局に於いて旅客係長會議が開催。〔三十日〕・國土建設の一翼を擔つて、再出發する觀光國策の萬全を期し興亞觀光ルートの强化を謀る爲全滿、華北・華中・蒙疆・上海・東京・朝鮮より集つたビユーロー主任會議が本日より四日間總局で開催。

二月〔一日〕・(1)華中バスでは本日から北停留場より揚樹浦碼頭迄四・八粁を直通する新路線を開始。(2)日滿を結ぶ海上輸送ルートは最近大混亂を示し物品配給制の强化に伴ひ商品と認められる荷物を携行した旅客が多いため各船會社で無統制手荷物の制限申し合せを協議したが東亞海運は之に魁けて天津青島上海の各航路に實施する事になつた。(3)滿洲國は昨年十一月爲替管理法の一部を改正し北支向送金及び携帶通貨兌換限度の緩和を行つたが今回兩者間に協議成立し北支側も之に協力し本日より實施。(4)ビユーロー佳木斯案內所は商工公會前に安民街出張所を開設。(5)樞軸三國を結ぶ陸路であり現下の情勢に於て歐亞を連絡する唯一の交通路シベリヤ經由の旅客に對して滿鐵は過般來一枚の切符で目的地に行ける特種乘車券發行を研究中本日より實施。(6)北支向携帶通貨輸出全面的許可制を採用する旨本日より實施。〔四日〕・興安嶺猛獸狩開催。〔八日〕・ビユーローでは德石線の開通による重要性に鑑み二日より六月の間德縣に駐在員を設置。〔十日〕・(1)北支行滿支人には警察その他より發給する旅行證明書の携行が必要なる旨發表。(2)地下資源開發の軍要部門を擔つて膠濟支線博山八陡間九キロ七の路線は歷史的開通式を擧ぐ。〔十一日〕・北京バスでは新市街と西單牌樓間に運轉を開始。〔十五日〕・(1)華北交通は石太線竝同浦線の列車時間を改正し全般的にスピードアップをはかり乘客の便宜を計る事となつた。(2)華北交通では昨年末旅客運賃の引上げを斷行したが愈々本日より貨物運賃に對しても約三割の大幅値上げを行つた。(3)北支軍の手で運營されて來た石德線は沿線住民の翹望を浴びて本日から華北交通に移管正式營業を開始。(4)羅津雄基兩港竝びに北鮮鐵道の充實に備へ滿鐵では北鮮事務所を鐵道局に昇格羅津鐵道局と改稱。

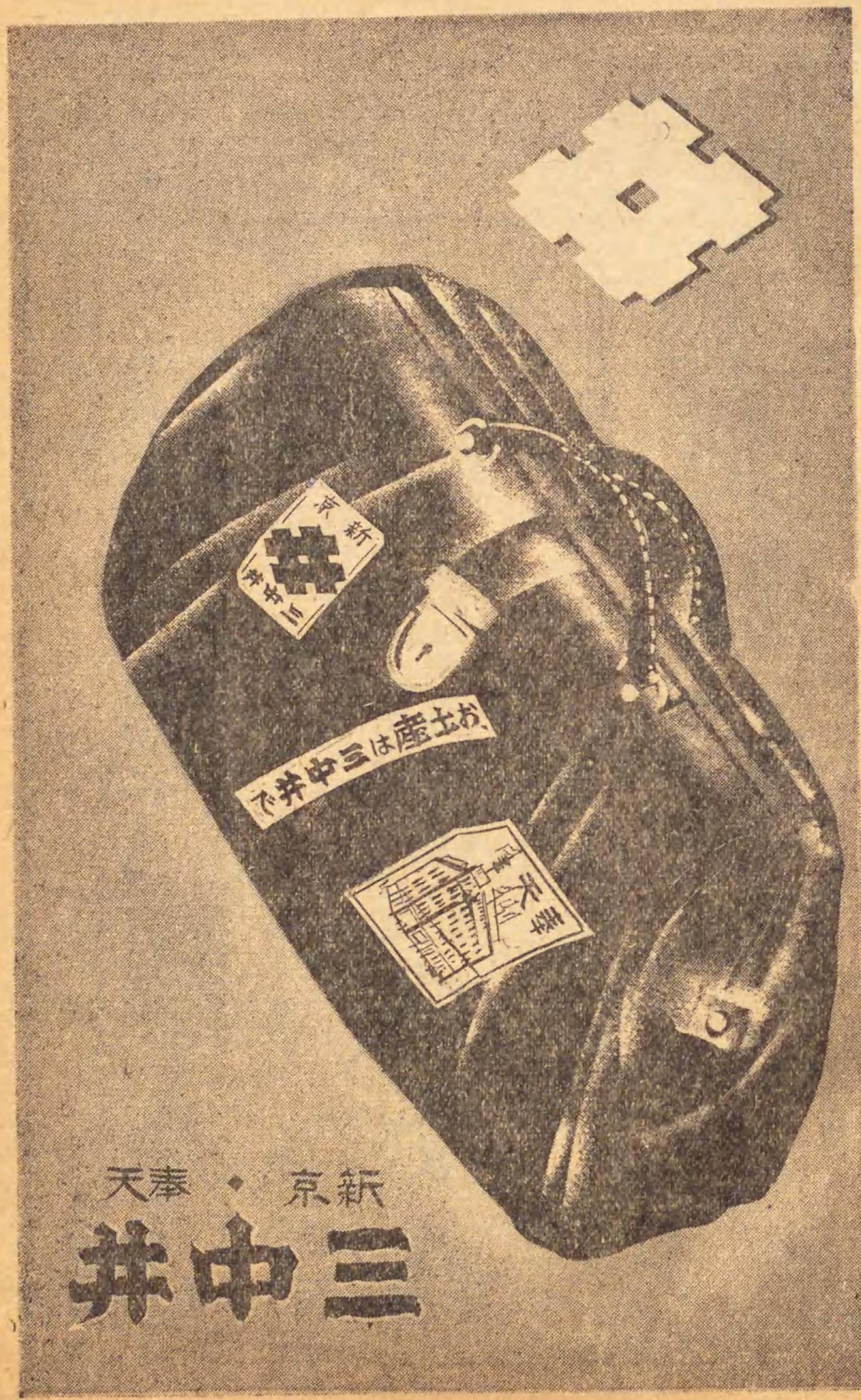
(5)餘暇利用による厚生運動に乘り出した鐵道總局旅客課觀光係とビューロー滿洲支部は各關係者列席の下に春の旅客誘致方策につき協議。〔二十日〕・(1)天然痘患者續出に鑑み日本大使館では滿洲地方に旅行せんとする者は必ず種痘證明書を携帶する樣全管下に注意を發した。(2)巴盟興亞協進會本部ではガソリン不足竝車體不足の現狀に鑑み北京の幌馬車十餘臺を買ひ入れ新城舊城間及び舊城停留場間の運轉を開始。(3)新京 南新京・孟家屯・東新京各驛に於ける乘車客にして種痘證明書を所持せざる者の乘車を禁止する旨鐵道警護總隊總監より佈告。(4)鐵道總局旅客課では第二回非常時客荷輸送訓練旬間に使用する新交通道德語竝びにラヂオドラマ脚本を募集中の處入選者決定。〔二十二日〕・(1)華北交通では沿線の民衆に悦を與へる厚生列車を運轉開始。(2)東滿觀光協會定期總會牡丹江厚生會館に於いて開催。〔二十五日〕・遼西の觀光資源を紹介する錦鐵ビューロー滿洲支部滿洲日日新聞竝びに大連日日新聞社共同主催の「觀光資源紹介寫眞展覽會大連三越支店五階に開催。(2)靑島は本日より防疫指定地に決定、天津より汽車汽船により旅行する者は種痘證明書を所持する樣領事館警察保安課より通告。〔二十六日〕・滿洲國を經由ソ聯に旅行せんとする者は種痘證明書を必要とする旨滿洲國ソ聯大使館より發表。

三　月〔一日〕・(1)東吉林交通株式會社資本金百萬圓で設立本日より營業を開始。(2)奉天交通會社では昨年十一月より中止中の長コースの運行を開始。(3)華北交通では一日から華北と歐亞を結ぶ普通乘車券にホテル食事赤帽サービス料を含むクーポン券を發賣。(4)鐵道總局ではシベリヤ經由歐亞旅客及び手小荷物連絡運輸規則を改正施行。(5)ソ聯では自國鐵道運輸料金の改正に就き豫てより關係各國宛要請し來つたが今般我が國に於いても之に關聯しシベリヤ經由歐亞旅客及手荷物の聯絡運轉規則竝に歐亞貨物聯絡運送規則を改正し旅客關係は本日より實施。〔五日〕・滿鐵列車區では時局ニュースを早く旅客に知らせるため本日より沿線主要驛でラヂオニュースをキヤッチしてこれを旅客にサーヴイスする事となつた。〔十日〕・(1)ビューロー滿洲支部では濟南市普利門街二大馬路舊法院に案内所を開設。(2)華北交通バスは本日より津高自動車路線(天津高牌店間)の開通式を擧げ運行を開始。〔十五日〕・(1)華中鐵道の復舊作業により南京下關驛と浦口驛を結ぶ貨物の航送連絡が開始。(2)滿洲と北中支を結ぶ貨物輸送動脈復活し本日より積荷開始。(3)滿洲觀光聯盟は鐵道總局に於いて總會を開催。(3)東潞鐵道は今回の改軌工事に依り全線廣軌線に改修され資源の開發治安の確保に多大の貢獻が期待されてゐる。(5)華北交通自動車局では禹順線(禹城順德間)及天高線(天津高牌店間)兩線に座席券發賣を開始。〔十八日〕・狹軌の柳泉炭礦線十五粁の改軌工業が完成し開通式を擧行。〔二十日〕・新京觀光協會では旅館業者竝びに女中百餘名を集め記念會館で講習會を開催。

四　月〔一日〕・中華航空では上海杭州間(一七〇粁)の新線を運轉開始。華北交通は津浦線濟寧站東方の赤柴炭礦及び華豐炭礦開設の目的目指して同站より分岐する二六・三粁の運炭線を建設中この程竣工し本日より運炭を開始。電々技術課では日滿絡船に電話を設置し滿洲國通信界に貢獻。中華航空の北京大連線を延長東京乘入れを計畫しつゝあつた大日本航空會社では諸般の準備を整へ大連經由東京北京間に本日よりロッキード機を就航せしめた。牡丹江交通株式會社が設立され創立總會を擧行。滿洲航空會社では本日より九月三十日迄夏季ダイヤを變更。大連觀光協會では本日より二十日迄三越百貨店四階にハイキングと旅行の臨時相談所を設け一般市民のハイキング知識普及に當る。滿鐵自動車運賃の値上げを斷行。大陸の新幹線平元線開通式を擧行。滿鐵では濱綏線綏西驛を河西に・三望溝驛を綏西と改正。滿鐵旅館課では直營の哈爾濱牡丹江兩ヤマトホテル齊々哈爾鐵道ホテル五龍背、溫泉、五龍閣、同保養館、興城溫泉、阿爾山兩ホテルの七旅館の宿泊料金を値上。ビューロー華中支部では日本國際觀光局を華中旅行局と改稱。〔十日〕第二回非常時客荷輸送訓練旬間本日より本旬間に入る。〔二十日〕開封鐵道路では西隴海線開封徐州間に食堂車を連結。〔二十二日〕中華航空では北京、運城間に開航式を擧行。〔二十五日〕華北交通では冀南自動車線計畫の一つとして唐官屯保定間の營業を開始。

五　月〔一日〕・滿鐵では主要驛の混雜緩和を圖るため先に定期入場券を發賣し多大の好評を博しつゝあるに鑑み本日より更に回數入場券を併せて發賣する事に決定。ビューローでは黑河街中原に案內所を開設。〔三日〕・朝鮮總督府では豫てより鮮・華・臺を結ぶ航路の開拓を計畫中であつたが本日から淸津上海間の朝鮮郵船北鮮ラインを臺灣へ延長する事になつた。〔五日〕・大連水上署では防諜取締りの立場から大連港出入船舶一般乘降客の携帶寫眞機は大連港一定の水域內携帶を禁止しその區域內に於いては取締官廳に於いて一時保管する制度を新に設け本日から實施。〔十五日〕・北滿江運局では北滿三江の運航を開始。〔十六日〕・歐亞を結ぶ待望の滿伊直通無線電信は兩國民歡喜のうちに本日午後四時を期して開始。〔二十日〕・曩に民間業者經營の主要自動車路線を吸收一元的經營にあたつてゐる山西省內の華北交通自動車路線はその後躍進を續け本日より次の八路線が一擧に開設、旅客貨物の營業を開始(平定—和順間)(代縣—繁峙間)(潞安—澤州間)(汾陽—孝義間)(臨汾—古城鎭間)(翼城—河津間)(臨晉—榮河間)(運城—夏縣間)・華北交通管內自動車路任邱—富庄間(約六十粁)德縣—景縣間(約四十粁)は過般來假營業中であつたが準備整ひ本營業開始。芝罘旅行者はコレラ豫防注射證明書の携帶を要する旨發表。

六　月・〔一日〕・內地からの來滿團體旅客の旅行斡施は從來滿鐵の鮮滿支案內所で行つてゐたが本日よりビューローに移される事となつた。ガソリン消費規正强化により大連交通ではバス路線の運轉を中止してゐたが代用燃料の運轉可能となつたので今迄中止してゐた星浪線大連驛櫻町廣場間を復活本日より櫻町黑石礁間の直通運轉を行ふ事になつた。大連交通では一時中止してゐた觀光バスの運行を開始した。中南北支の空に飛躍を續けてゐる中華航空ではかねて上海北京間(一二〇〇粁)廣東汕頭間(二五〇粁)廣東・海口(四七五粁)の營業定期の連絡準備を進めてゐたが愈本日から連絡を開始する事になつた。新線の上海・北京間は從來大連經由で連絡されてゐたものであり今回の開始によつて四時間半で連絡出來る事になつた亦廣東を中心とした二線も待望のルートであり南への進出には絶好のものと云へる。尙漢口・大江・安慶經由の漢口・南京間のローカル線も同日から上海迄延長する事になつた。大日本航空會社では本日から定期ダイヤ編成替へを行つたが新ダイヤによると東京・福岡線に一往復增加した外從來の福岡・靑島北京線



はなくなり北京行は京城經由となつたゝめ福岡・京城間も一往復增加となつた。〔二日〕・ビューロー滿洲支部では奉天住吉町奉ビル一階に出張所を開設。〔三日〕・中華航空では張家ロ－太原線の營業を開始。・華北交通水運局では監運河（海州－大浦間約十粁）の新航路を開設－旅客貨物小荷物の營業を開始。（五日）・廣東－海口・廣東－汕頭間は從來特殊定期航空路として中華航空がその運營にあたつてゐたが一般旅行者が著しく增加したので定期航空を開始。（七日）・從來砂糖綿布ゴム製品及地下足袋の滿洲國外への持出は本日以降禁令が强化され土産品程度の物も一切持出しを嚴禁。〔八日〕・滿鐵では鐵道直通航路自動車路線との間に、團體運賃の割引を實施。〔十日〕・唐津大連間定期航路が唐滿運輸會社によつて開始。・華北交通線と朝鮮郵船航路との連絡竝に同航路經由の朝鮮鐵道局線との連絡運送はかねて各方面から要望されてゐたが青島－仁川間に三汽船が就航一般旅客竝に手荷物の取扱を門始。〔十三日〕・中華航空では張家口と奧地貝子廣間に定期航空を開始。〔十六日〕・緣したゝる初夏の全滿各都市に於いて第二回全滿觀光週間始まる。〔二十二日〕

東亞旅行社では奉天三中井で旅の會と鄕土玩具の展覽會を開催。

七　月〔一日〕・觀光資源に富む東邊道を廣く宣傳積極的に觀光客を誘致しようとかねて省・縣・街公所商工公會等の肝入りで觀光協會設立の準備が進められてゐたが愈々本日東邊道觀光協會の發會式を擧行。華北交通では所管の鐵道自動車船舶による外國人の華北蒙疆地區內旅行につき一日から旅行證明書許可制を實施。〔十一日〕・奉天鐵道局では管下百六十驛より四十三驛を監理驛に指定局監理驛及その受持驛を一貫した監理體制を確立し非常時輸送業務に萬全を期することにした。〔十五日〕・華北交通では天津塘沽間の鐵道乘客輻輳を緩和し船車連絡の便を圖るため塘沽天津間の白河定期運航せしめる樣計畫發表。〔十六日〕・鐵道省では三等寢臺の連結を廢止し東海・山陽兩線を始め各線食堂車を取りはずし、その外に三等客車を連結輸送力の强化を圖つた。亦團體學生各種會合その他總ての運賃割引を停止。

八　月〔七日〕・總局水運局では會社所管航路の旅客及荷物の運送規則を改正實施。〔二十日〕滿鐵では小運送統制に對して着々と步を進めつゝあつたが愈々これが實施の前提として貨物取扱方を制定實施。・渾三線渾江三岔子間の鐵道は本日より假營業を開始。〔三十一日〕・東亞旅行社ニユーヨーク事務所は本日限り一時閉鎖。奉天交通會社觀光バス運行中止。

九　月〔一日〕・華中鐵道では本日よりダイヤを改正し日事變以來杜絕してゐた上海南京間夜行列車を復活。・國鐵では海底列車開通後に備へ新大里假驛の營業を一日より開始した。・滿鐵では四月以來海拉爾驛前に鐵道ホテルを建築中であつたがこの程竣工したので本日より營業を開始。〔二十五日〕・新京特別市防疫本部では本日午後一時より汽車乘降客はペスト豫防注射證明書が必要となる旨發表。

十　月〔一日〕・滿鐵では本日より旅客運賃の値上げと共に一部列車ダイヤ改正。・政府は時局財政の需要充足民間餘剩購買力の吸收にあるインフレ抑制等を目途とする應急施策の一環として汽車船舶及航空機等の乘客運賃を課税對象とする通行税を新設する事となり滿鐵當局との間に折衝をすゝめ諒解を遂げた結果本日より實施。・滿鐵では旅客及手小荷物の運賃料金を値上。

十一月〔一日〕・國都新京の電鐵敷設工事は市當局新京交通會社その他各機關の協力により本日より運行を開始。

回顧一年

滿洲國の人口
四千三百二十三萬
堂々世界第九位の大國

昭和十五年十月一日滿洲國最初の國勢調査が施行されたが、その結果に依る速報人口が一月二十五日發表された。それに依ると全國總人口は四千三百二十三萬三千九百五十四人で世界第九位を占め、男二千三百九十一萬九千九百六十三人、女千九百三十一萬三千九百九十一人、密度は方粁三三、二人を示してゐる。これを性別調査に見れば女約四百六十萬人の不足で特に甚しいのは黑河省で、女百人に對する男三二六、八人、次が興安北省の二二二、一人新京特別市の一六五人となつてゐる。

日滿支間陸海空の
交通政策を一元化
要綱二月十四日閣議で決定

高度國防建設のためには日滿支三國に亘る陸海空の交通政策を一元化し、物資輸送の體系を整備すると共に、輸送力を増强する必要があり、政府は之を基本國策の一つとして掲げ、内外の新情勢に對應すべき交通政策要綱を立案中であつたが、成案を得るに至つたので二月十四日院内に閣議を開き、星野企畫院總裁から右要綱について説明ありこれを決定した。

即ちわが國を中心に大東亞の陸、海、空三方面の交通ならびにこれと密接な關係にある通信と氣象を綜合的な立場から計畫的に整備擴充し有機的な交通、通信體制を確立しこれがために必要な行政諸機構の統合をはかることを根幹としたもので、陸運においては新線の建設は物資關係から緊急なるものゝみに止めるが、一方車輛の整備と路線の改良につとめ、また鐵道の補助機關を増强し、海運にあつては船腹の充實に重點を置き、南方諸地域に對する航路の擴充に努めることゝし、航空については日滿支三國間の航空路を整備强化すると同時に南方航空路の開發に努力することになつてゐる。これと並行して日滿支のケーブル網の擴張をはかり、電氣通信施設を整備して交通政策の圓滑なる具體化に協力せしめることゝしてゐるが、時世に鑑みこれら交通、通信の諸施設の具體化にあたつては防空に遺憾なきを期することゝしてゐるのが注目された。

關東州内人口漸増一途
十二末月現在—州廳調査發表

昭和十五年十二月末の關東州に於ける總人口は一、三九三、二二二人で、前年同月に比し一九、六九六人(人口千に付九四)を増加したと發表した。内、日本内地人は二〇二、八二七人で約一割

五分に當つてゐる。

觀光日本佛印と握手

日本紹介の店開き

大東亞共榮圏確立の一翼を擔つて日本の國情宣傳とアジヤ民族の握手を目指す東亞觀光事業の强化擴充に新發足した國際觀光局ではその手はじめとして佛印に呼びかけ新觀光ルートの開拓に着手した。同局ではすでに上海、北京、香港に觀光事務所を設置してゐるが、いよ〱本格的に東亞觀光事業に乘出すため上海、香港の兩事務所を擴充する傍ら一月末山口書記官以下三名を佛印に派遣してハノイにも觀光事務所を新設、日本紹介の店開きを行つたところ、最近同地事務所からの報告によると今事變以來日本の國情、文化などについて安南人の日本研究熱は驚くばかり、したがつて今後宣傳工作は何を行つても非常な效果があると張り切つてゐる。

速くなる興亞の旅

四月一日空のダイヤ大改正

日滿兩首都を僅か五時間で結ぶ〃大空の超特急〃新京―東京直行飛行は愈々四月一日から運行を開始、滿航一番機は三日晴の壯途についたが、滿航では國內各線のスピードアップ運行回數增加に依り、輸送能力の强化及び國際航空路の擴充を計るため、四月一日から空のダイヤ大改正を斷行、國內各線はもとより北京線の短縮等日滿支の距離をウンと縮め、興亞の輸送に應ずることゝなつた。

江運・自動車運賃値上

四月一日と開江即日

滿鐵では現行自動車竝に北滿河川江運兩事業の實績に鑑み豫て右兩事業の業務調整、機能刷新による經營の合理化を企圖しその一翼としての客貨運賃の適正化を計ることゝなり、自動車は四月一日から、江運關係は來る開江即日からそれ〲新改訂運賃の實施を見ることゝなつた。

今回の改訂運賃によれば滿洲國々有自動車路線の委託經營の衝に當る鐵道總局自動車局客貨新運賃の基本賃率は、一人一粁四錢乃至五錢となり現行賃率に比し一錢の値上げとなつて居り、また賃率種類は六種類で最高粁七錢、最低三錢で現率に比し最高で二錢、最低で一錢のそれ〲値上げとなつて居り大體約四割の引上げ、さらに貨物運賃は現行の一級（粁五錢五厘）二級（粁四錢五厘）の二級賃率を廢して粁五錢の一本建として客貨總計にて十六年度約四百萬圓の增收による赤字補塡を見込んでゐる。

更に北滿三江を中心とする江運賃銀の改正は一般滿洲產業經濟に及ぼす影響大なるものありとして、滿鐵當局でも愼重準備を進めて居たものであつたが、今回の改正の要點ともいふべきものは旅客運賃に在つては

一、地帶制運賃を廢し遠距離遞減を棄たる粁建運賃としたこと

二、日滿支觀光ルート編入により本年度より日滿支連絡旅客運送の取扱を爲すことゝなり、是ら內地よりの連絡團體旅客竝に開拓民輸送の便益に資し、さらに地方旅客への江上旅行の簡易化をはかるため哈爾濱、佳木斯間急行船に對し、三等特別室を新設三等運賃五割增程度の運賃にて旅客の利便を圖つたこと等であるが流域重要物資たる特產木材、石炭を中心とする運賃率については特殊の考慮が拂はれてゐる。

隣組も動員して 吹き込む「旅」の思想

更生旅行に新計畫（三月）

鐵道總局では餘暇善用、體位向上のため〃旅〃の思想を鼓吹することを新しい旅客誘致の方針とすることになつたが、誘致宣傳の重點を一般人と學生生徒の二つに置き

一般日系に對しハイキング、魚釣り、北滿の河江旅行、事變十年記念聖地巡拜、開拓地見學、狩獵、スキーなど、滿系には廟會愛護村民の都市見學などを企圖し、學生生徒に對しては南滿方面は北滿都市、開拓地、靑年義勇隊訓練所などの見學による產業開拓上の知識修得、北滿方面は南滿都市の見學により文化經濟、工業部門に對する認識を得させることになつた。

同時に誘致方策ならびに宣傳方法としては東亞旅行社、協和會など各關係機關と連絡打合せをなし各種銀行、會社、百貨店、婦人團體、病院、隣組に呼びかけ、東亞旅行社誘致施設として大連奉天、新京、哈爾濱の四大都市ならびに各鐵道局所在地を中心にその近郊に案內道標、便所、簡易休憩所を設置して旅行の便宜を計り、運賃割引を開始した。

客荷輸送訓練

第二回を迎へ愈々高潮

交通運輸戰線に課せられた責務は愈々重大なる現狀に鑑み、特に其重責を痛感する鮮鐵、滿鐵、華北交通の大陸三鐵道竝に東亞旅行社等では、一月一日から三月三十一日迄を準備訓練期間、四月一日から四月十日迄を準備旬間・四月十一日から四月二十日までを本旬間として第二回非常時客荷輸送訓練旬間を展開した。大陸交通運輸各機關が打つて一丸となり、この綜合的大規模訓練の結果は必ずや現今非常時輸送界の完璧を期待し得られやう。

滿洲開拓勤勞奉仕隊

總數一萬三千名來滿

滿洲農產物增產の大きな役割を果す本年度勤勞奉仕隊送出計畫は日滿間において豫算關係および本年度水田造成計畫ならびに飼料增產計畫、と睨み合せて送出數が決り、四月九日大連上陸の水田農場班を筆頭に總員一萬三千餘人の勤勞奉仕隊の入滿を見た。これ等奉仕隊員は水田建設、除草、穫穀に活躍、農場增產に挺身勤勞したのであるが人員は左表の通りである。

一、開拓生産隊	六、四〇〇
（イ）耕作農場班	三、二〇〇
（ロ）水田農場班	一、六〇〇
（ハ）開拓班	一、六〇〇
二、應援農業班	一、四〇〇
（イ）一般開拓團班	一、二〇〇
（ロ）義勇隊開拓團班	二〇〇
三、特殊作業隊	二、三〇〇
（イ）女子班	一〇〇
（ロ）特殊班	六〇〇
（ハ）一般學生班	一、〇〇〇
（ニ）醫學班	六〇〇
四、朝鮮隊	五〇〇
（イ）青年班	三〇〇
（ロ）學生班	二〇〇
五、現地隊	三、〇〇〇
總計	一三、六〇〇

選定ハイクコース
第一回分發表

〃健康と科學と自然を求めて〃と新しいハイク道を確立して家族連れ隣組のハイキング奨勵に乘り出した鐵道總局、東亜旅行社觀光聯盟では各地のハイク健全コースを選定中であつたが、三月二十七日第一回分南滿地區首山、鐵嶺、鞍山、橋頭、南攻、營盤元帥林、撫順近郊を決定發表した。

事變當初の約六倍
在支日本人數

聖戰既に四周年を迎へんとするとき中華民國に在留する邦人人口は外務省調査（四月一日現在）によれば北中南支を合して五十萬六千餘名を算し、これを事變勃發當時の同地域在留邦人八萬六千餘名に比べると優に五・九倍の激増振りを示してゐる。

昭和十六年四月一日現在	
北支	三四二、一一二
中支	一三三、二九一
南支	三〇、八二七
計	五〇六、二六〇
昭和十二年七月現在	
北支	四三、一〇八
中支	二九、四七九
南支	一四、二二六
計	八六、八一三

海南線を愈々複線化
四年後に登場する電撃列車
誇る鐵道日本の前進

中支の大動脈海南線が愈々明年度から三年計畫で複線化に着工されることに決定、昭和二十年から颯爽と上海―南京を四時間で快走する電撃列車が登場することになつた。國民政府が還都して以來南京上海間の人と物質の交流は物凄く、このまゝでは昭和十九年には晝夜兼行運轉しても運び切れない結果となるので、華中鐵道では昨年來全線に亘つて調査を完了し、先づ上海無錫間二十九キロの複線化に日本技術を打ち込んで着工することゝなつたわけである。かくて昭和十九年末には南京上海間三百十一キロが完成し一時間八〇キロの快スピード列車が江南平野を驀進する筈である。尚これと同時に呉淞線も複線化され、市民の足は益々明朗となら。

正しい觀光明るい國土
第二回觀光週間開く

建國こゝに九星霜餘今や東亜新秩序建設の樞軸として滿洲國の國礎いよ〳〵固く、その國運は世界各國に比肩せんとするにおよび滿洲觀光聯盟では文化建設の一翼をになつて、四千萬民衆を觀光更生すべく全滿觀光協會を動員して、四月十六日より一週間にわたつて第二回觀光週間を實施し銃後國民の心身錬成、餘暇善用をはかり觀光行政の達成に邁進することゝなり、各觀光協會ではこれと呼應して絢爛豪華の行事をくりひろげた。

獨伊以下八ケ國
國民政府正式承認

日滿支三國を中心とする大東亜新秩序建設に對應し、ヨーロッパ新秩序建設に邁進する獨、伊、兩國及びルーマニア、スロバキア、クロアチアの樞軸五ケ國政府は世界新秩序建設共同目標到達のため、東西相呼應して鞏固なる互助聯環關係を樹立せんことを期し、これが具體的表現として、日滿兩國と共同し、東亜新秩序建設の一翼を分擔して健闘する汪精衞を首班とする南京國民政府を承認することゝなり、七月一日五ケ國はそれ〴〵政府の名において「自今南京國民政府を中華民國に於ける唯一の政府と認定、直ちに之と正式國交を開始の用意ある」旨國民政府宛通達あり、之に引き續きスペイン、ハンガリヤ、ブルガリヤ三國も夫々同日附國民政府を正式承認する旨發表した。これで全歐の樞軸陣營は擧げて南京政府を承認したことゝなつた。

四平省新設
全滿一を誇る特産市場四平市

全滿一を誇る特産市場四平市の十萬市民が待望の四平省は、七月一日から開設され同時に四平街市も四平市と改稱された。思へば西紀一九〇二年ロシアが日清役の直後東方侵略政策の具體化として五站の驛名を以て生誕して十九年其後四平街と稱し露國の東方侵略の夢破れ、以來滿鐵が附屬地として行政を管理し更に治外法權の撤廢と共に市制施行され今日に至る迄市民はこの町を愛し、その風景を愛でゝ市の發展に盡して來たのだ、今日新しく四平省が開かれ四平市となつた事はどんな喜びであらう。

日佛印共同防衛協定成立
共榮圏安全を確保

日本政府は曩に中國國民政府と日華基本條約を締結すると同時に、日滿華三國共同聲明を發して、東亞新秩序建設の礎石を確立したが、今回更に大東亞共榮圏内の安全確保のためこれが一環をなす佛領印度支那との共同防衛に關し、日佛兩國政府間に完全なる意見の一致を見るに至り、日本帝國政府は七月二十六日正午聲明を公表、右共同防衛の精神を昂揚した。

本交渉は日本側澄田少將、小川總領事、中堂大佐、日笠中佐等佛印側ドクー總督、ゴーチエ總務長官以下で、僅か三日間の現地會談で意見が一致したのであるが、これは全く佛印側の國際情勢に對處する、正しき認識に基く友好的態度の賜であつた。

泰國政府
滿洲國を承認

泰國政府は八月五日正式に滿洲國を承認したが、六日午前八時四十分右の旨ピブン同國首相より張國務總理宛通報して來た。張國務總理は特に談話を發表して、今回泰國の承認により南北相呼應して今後一層東亞共榮圏の積極的發展に邁進せんとの決意を披瀝した。これに依つて滿洲國正式承認國は十五ヶ國を數へその國際的地位は愈向上するに至つた。

新増税斷行
賣錢税と通行税

政府は時局財政の要請に對應し、租税收入の増加と國民負擔の調整を圖ると共に、國民購買力の吸收及び規制を圖るため、豫てより新税創設について愼重考究中であつたが、八月中特別賣錢税法及び通行税法の成案を得、二十一日の國務院會議に附議、特別賣錢税法は九月一日、通行税法十月一日より夫々公布實施された。

今次の新増税による租税收入は、特別賣錢税に於て一千七百萬圓、通行税其他に於て約八千萬圓を見込まれて居り、年度内に於て特別賣錢税四百萬圓、通行税其他に於て二千萬圓即二千四百萬圓の増收を豫定されてゐるが、年度中途に於て今回の如き増新税措置の斷行せられたことは建國以來の新例であり、右の新増税により現下の時局に即應せる國家財政體形を一段と强化したことは極めて重視されてゐる。

尙右兩税法の制定によつて遊興飲食税法並に地方税法中の觀覽捐は共に廢止され、地方税たる觀覽捐の國税吸收に伴ふ地方費財源としては、特別賣錢税の徴税額中より一部を分與税として地方に附與する方針である。

夜間列車を復活
華鐵ダイヤの大改正

華鐵ダイヤは九月一日から改正された。其主なる點は天馬號の

上海發時刻を三十分、飛龍號の上海南京發時刻を各四十分、海杭線の上海杭州に於ける初發列車を三十分乃至四十分何れも繰下げローカル列車も現地の事情を考慮して編成したこと及び夜行列車戰後の復活である。寢台車は一輛で二十八名定員、料金は上段五圓下段七圓、時間的にも經濟的にも旅客にとつて便利となつた。

自動車交通事業法公布
バス・ハイヤー・トラックに適用

康德四年三月公布の自動車運輸事業法は、種々の事情により實施を見ずに今日に至つたが、其後自動車運送事業特にトラックに依る貨物輸送は國内生産擴充の進展に伴ひ急激なる發展を遂げ、その指導監督は刻下の急務となるに至つたので、滿洲國政府は同法を全面的に改正、自動車運送事業組合制度を新設すると共に、新に自動車交通事業法を制定し九月一日附公布、十月一日より實施された。

同法はバス事業、ハイヤー、タクシー業、トラック業に夫々適用されるもので、今後は旅客自動車運輸業並に事業區間を定むる貨物自動車運送業を經營せんとするものは、交通部大臣の定むるところにより、運賃其他事業計畫を定め、省長又は新京特別市長の許可が必要となり、又命をうけ自動車運送事業組合を設立することゝなつてゐる。

尙之による組合は運賃料金の統制、輸送の統制、資金、資材の斡旋を行はしめるものである。

興亞の歴史的盛典
建國十周年記念行事決定す

滿洲全土を擧げて新しき歴史への發足を祝福する明康德九年度の建國十周年慶祝記念行事は、政府の祝典事務局が中心となつて諸準備を急いでゐるが、先づ政府機關主催の記念行事が十月中次の如く決定、これに呼應して民間團體もそれ〴〵慶祝行事を計畫名實共に新東亞の歴史的盛典たらしめることゝなつた。慶祝行事は明春元旦匆々から始まり、一ヶ年を通じて「祝祭節」を中心に嚴肅且つ盛大に擧行されることゝなつた。

△二月二十六日—三月四日＝建國精神作興週間
（一）神社、寺廟、忠靈塔の勤勞奉仕に依る清掃（協和會）（二）孝子、節婦の表彰（民生部）（三）建國思想座談會（祝典事務局）
△三月一日＝建國節、新國歌の發表（弘報處）
△四月中＝感謝訪日使節團派遣（祝典事務局）
△四月三十日—五月四日＝興亞國民動員全國大會（協和會—新京）
△五月十六日＝物故建國功勞者慰靈祭（總務廳—新京）
△五月二十九日—三十一日＝東亞操觚者大會（弘報處—新京）
△六月一日＝國勢展覽會（弘報處—主要都市）
△七月二十二日—二十九日＝東亞敎育者大會（民生部—新京）
△八月十八日—二十三日＝東亞競技大會及日滿交驩武道大會（民生部—新京）
△八月二十八日—三十日＝東亞厚生大會（民生部—奉天）
△九月十三日—十九日＝國民慶祝週間 （一）十三日—十九日全國興農開拓共進會（興農部—新京） （二）十四日建國神廟、忠靈廟臨時大祭 （三）十五日建國十周年式典（祝典事務局—新京） （四）十七日—十九日建國十周年國民慶祝日
△十月十七日＝嘗新祭
△十一月一日—十二月二十日＝建國十周年祝典寫眞展（祝典事務局—各主要都市）

列車時刻

全面的大改正

華北交通十一月二十日から實施

華北交通では昨年十月十日管内全線に亘る列車運轉時刻を改正今日に至つたが、この間西佐線、石德線、赤柴線、八陸線、柳泉炭礦線、懷慶線等が開通、また部分的には速度の向上其他運轉時分の調整を要する部分を生じたので十一月二十日を期して全面的列車運轉時刻の改正を實施した。

尙隣接滿鐵線、鮮鐵線ではこの際一部の運轉時刻の修正に止まり、全面的改正は來秋關門トンネルの開通を期して實施される日本、大陸間の全面的一大編成替まで見送る筈である。

滿鐵・華北

汽車賃値上げ

滿鐵は十月一日より、華北交通は十一月十五日より夫々鐵道旅客運賃が又々改正實施され運賃、急行料金、寢臺料金等にも新通行税が附加されることゝなつた。

尙朝鮮、日本に於ても夫々鐵道運賃改正準備中にして明春頃實施される豫定なりと云ふ。

△滿鐵線

△滿鐵線	一等	六錢	二等	四錢	三等	二錢一厘
華北線	一等	三等の三倍	二等	三等の二倍	三等	二錢六厘

東京・柏林を十日間

亞歐を結ぶ一萬六千餘粁

直通列車〝調査會〟誕生

關門海底トンネルを貫通し、東京下關間彈丸列車の建設に著手した日本鐵道の技術者は、聖戰のさなか幾多の資材難を克服して國際情勢のめまぐるしいなかにも毅然として科學報國に邁進してゐるが、こゝに東京－伯林一萬六千六百餘粁を僅かに十日で結ぶ直通急行列車の建設計畫が我鐵道界の權威者によつて著手さるゝことゝなり、その母體となる「中央亞細亞橫斷鐵道調査會」の發會式が十一月四日丸の內の鐵道協會で盛大に擧行され、遠大な目標の第一歩を踏み出すことゝなつた。同調査會は會長井上匡四郎子、副會長久保田敬一男の外委員には大村滿鐵、宇佐美華北交通田華中鐵道の各總裁、鐵道省長崎運輸、倉田建設、阿曾沼工務各局長、笠間太平洋協會理事、永淵日航理事、松島大日本回教協會理事長その他官民、鐵道界の權威五十名を網羅し、その下に世界に誇る我が鐵道技術が總動員されて、樞軸を結ぶ急行列車が夢でない實現を期することゝなつた。

滿鐵貨物運賃を改正

車扱・小口に大巾値上げ

滿鐵では明春一月一日から鐵道貨物運賃を全面的に改正することゝなり、十月三十一日その內容を發表した、今次運賃改正は殆ど全貨物におよぶ廣汎なもので車扱において平均一割、小口扱において平均一割五分見當の値上となつてゐるが、車扱の穀類、生畜、石炭（五百キロ以內）については滿洲國第二次五ヶ年計畫重點產業たるに鑑み、基本的運賃の引上は行はず、積下し一趟當り平均五十錢程度の引上に留めた結果、平均石炭二％、木材十％、礦石九％、セメント十％程度の引上となつてゐる。

滿鐵の今次貨物運賃改正はさる十月一日實施された旅客運賃改正と一括して考慮されるもので滿鐵の全般的運賃値上げは昨十五年會社決算の內容から見て到底避けられないものとして會社ではすでに年度當初から監督官廳、滿洲國政府、滿鐵その他の關係方面の意向を徵して具體策を硏究してゐたものである。運賃引上げにあたつて當初もつとも憂慮したことは國家の堅持する低物價政策への惡影響であつたが、これは滿洲における諸物價の構成要素としての運賃が他の要素に比しその比率が極めて輕微であるといふ結論から解決された。

國民奬健地

更に五ヶ所を追加指定

國運の隆昌は國民體力の向上からと民生部では、全滿各地の景勝の地を選んで心身鍛錬の厚生道場たらしめやうとさきに△東陵、千山（奉天省）△大豐滿（吉林省）△玉泉（濱江省）△長白山（通化省）△橫道河子、鏡泊湖（牡丹江省）△扎蘭屯（興安東省）興城（錦州省）△興凱湖（東安省）の十ヶ所を「國民奬健地」に假指定し、四萬圓の補助金をもつてその土地柄に適した登攀、水泳、渡渉など各種體育施設を施すことゝなり諸般の調査を進めてゐるが、明年度さらにこれら十ヶ所のほかに五ヶ所を加へるべく硏究中である、目下白羽の矢の立てられてゐる候補地は

△哈爾濱郊外極樂寺△九連城（安東省）△蓋平（奉天省）△承德（熱河省）

などで、明年度は一ヶ所につき約六千圓の豫算を計上施設に萬全を期する方針であると。

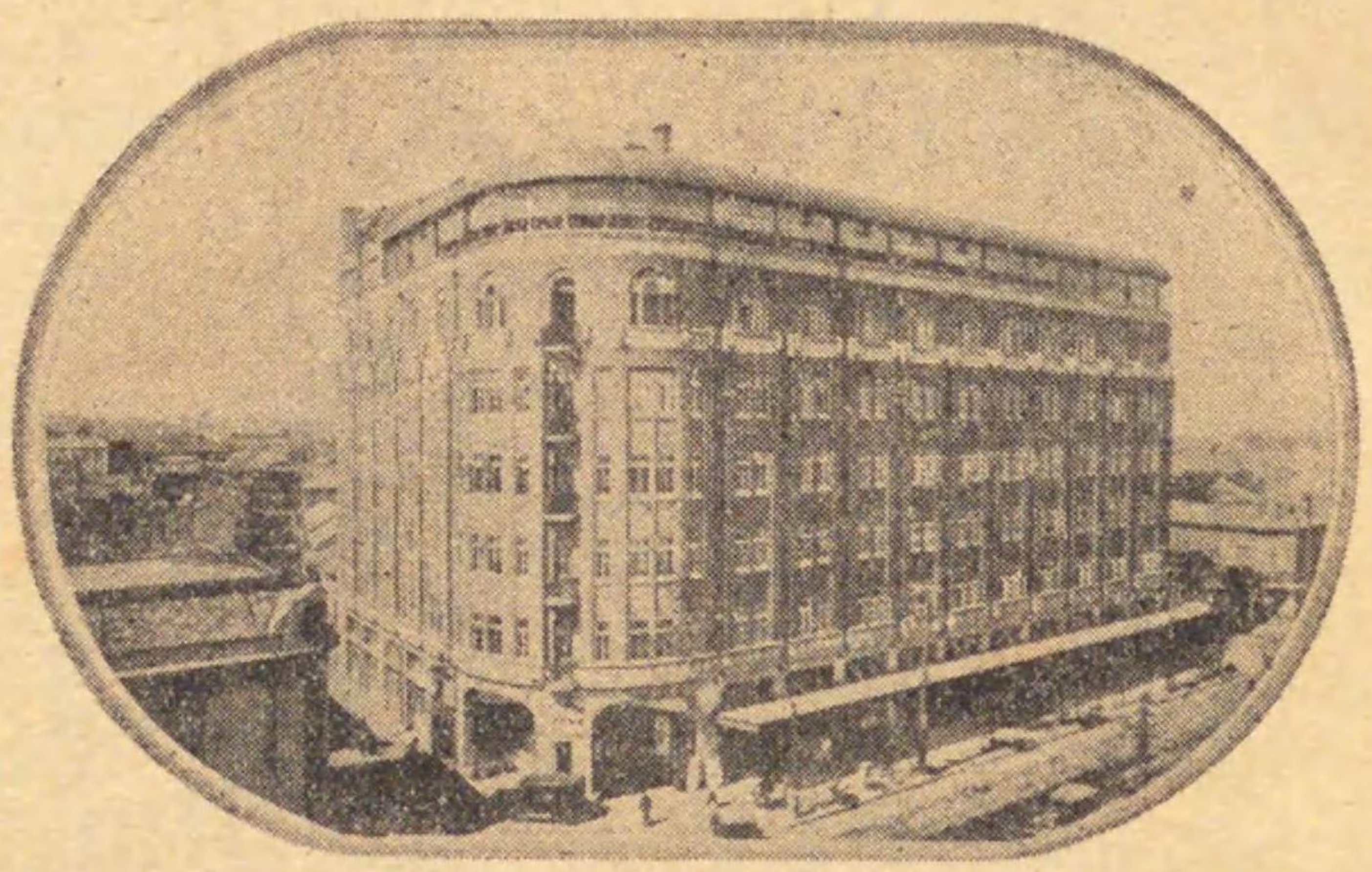
帝國、米英に宣戰布告

早くも敵軍事基地を電擊破壞

帝國陸海軍は八日未明西太平洋に於いて米英軍と戰爭狀態に入り、同午前十一時四十五分畏くも、對米英宣戰に關する詔書が渙發された。支那事變處理のため、東亞新秩序建設のため、將又世界再建のため、敢然として米英と兵火の間に相見える秋が來たのだ。世界史上に最大の劃期的意義を有つ東亞の大解放戰が遂に初まつたのだ。而して日本の戰爭目的と勝敗と興廢は、そのまゝ無條件に滿洲國の戰爭目的と勝敗と興廢であり、滿洲國は日本と同時に蹶起したのである。

開戰劈頭皇軍は長驅してハワイ方面の米國艦隊並に航空兵力に決死的大空襲を加へ、香港、ダヴアオ、ウエイク、グアム等の敵軍事施設を一齊に爆擊し、上海では米英の砲艦を降伏又は擊沈せしめ、更にシンガポールをも猛爆し、マレー半島の奇襲上陸作戰に成功更に英極東艦隊主力を潰滅するなど血湧き肉躍る勝報が櫛の齒を引くが如く至り、皇軍の活躍端倪を許さゞるものありて早くも全く敵を呑むの觀がある。

RYOTO HOTEL, DAIREN.



位置

市の中央大連銀座の稱ある浪速町と大山通との十字街頭に在り、四通八達の交通の要路に當り諸官衙大會社商店等に近接し、而も七層の高樓は客室より一眺大大連の全景を望み得られます。

御部屋

和、洋兩様と其の折衷とで各お部屋共洗面其他最新の設備を施し備付の電話は坐ながら自由に他と御通話が出來ます、御部屋は次の通りで御座います。

和室―五十六、洋室―一四〇

御食事

お美味しく安心して召上つて戴く事を信條として御定食及和、洋、支の各種料理より御好みに依り御選擇を願つて居ります。

館内施設

地階	理髪部
	露西亜式食堂
一階	事務所
	喫茶部
	百貨店
二階	御客室
	美容院
三階	御客室
四階	御茶席
五階	御客室
六階	和洋食堂
	支那式食堂
七階	大ホール
別館	洗濯部
	自動車部

大連

遼東ホテル

大山通

電話代表(二)三一七一番



觀光ルート



日滿支連絡

日・滿・支間の交通連絡狀況を日本滿洲間・滿洲支那間・日本支那間に分ち更に鐵道・海路・航空に分類すれば次の通りである。尙△印は主要ルートを示す。

（一）日本—滿洲間

【鐵道】△東京—下關—（連絡船）—釜山—安東—新京（所要時間五五時間一六分）

【海路】△東京—神戶＝大連—新京（所要時間九四時間五〇分大阪商船）△東京—下關（門司）＝大連—新京（所要時間七七時間一五分大阪商船）△東京—敦賀＝羅津—新京（所要八七時間二六分日本海汽船）△東京—新潟＝羅津—新京（所要七二時間四二分日本海汽船）△神戶＝關門＝淸津・羅津・雄基（大阪商船）那覇＝鹿兒島＝三角＝大連（大阪商船）△鹿兒島＝長崎＝大連△（日本郵船）△高雄＝基隆＝大連（大連汽船）△新潟＝伏木＝大連（大連汽船）△伏木＝淸津＝羅津（日本海汽船）

【航空】△東京—福岡—京城—奉天—新京—大日本航空）※東京—新京間直行

（二）滿洲—支那間

【鐵道】△奉天—山海關—北京（所要二一時間五分）奉天—承德—古北口—北京（所要五一時間二三分）

【海路】△大連＝靑島＝上海（所要五一時間大連汽船）△大連＝天津（大連汽船）△大連＝芝罘＝威海衞＝靑島（東亞海運）

【航空】△奉天—錦州—天津—北京—（休航・滿洲航空）△大連—天津—北京（所要二時間中華航空）△承德—張家口—大同—厚和—包頭（當分休航・滿洲航空）△承德—多倫—張家口（休航・滿洲航空）

（三）日本—支那間

【鐵道】△東京—下關—（連絡船）—釜山—奉天—北京（所要六九時間五〇分）

【海路】△神戶＝門司＝天津（所要一一〇時間東亞海運）△神戶＝門司＝靑島（所要七二時間東亞海運）△長崎＝上海（所要二六時間東亞海運）△神戶＝上海（東亞海運）△仁川＝上海（朝鮮郵船）△仁川＝靑島（朝鮮郵船）△高雄＝基隆＝上海（日本郵船）△基隆＝厦門＝高雄＝（東亞海運）

【航空】△東京—大阪—福岡—上海—南京（大日本航空）・△東京—大阪—福岡—靑島—北京（大日本航空）

鮮滿觀光ルート

第一案（往路朝鮮經由）

日次	地名	發著時刻	列車番號	備考
一日	下關	發 一〇・三〇	一便	宿船 連絡船
同	釜山	著 一八・〇〇		
同	同	發 二一・二〇	四三	
二日	京城	著 七・四九		旅館—朝鮮神宮—博文寺—經學院—昌慶苑—總督府（廳舍見學朝鮮事情紹介の映畫等）—博物館—京城德壽宮—朝鮮美術品製作所—旅館
三日	同	發 八・一〇	四三	

日次	地名	發著時刻	列車船名	觀察箇所竝順路	宿泊
同	平壤著	一五・〇七		驛—大神宮前—七星門—博物館—乙密臺—箕子廟—玄武門—牡丹臺—永明寺—お牧の茶屋—浮碧堂—淸流壁—大同江（舟で下る）—大同門—練光亭—妓生學校—驛	
同	同發	二〇・三五	急九		車中
四日	安東著	一・一〇			
同	同發	一・四〇	急九		
同	奉天著	七・四〇		旅館—奉天神社—忠靈塔—國立博物館—同善堂—北陵—北大營—宮殿前—吉順絲房—滿毛百貨店（又は三中井百貨店）—旅館	
五〇	同發	九・二〇	六四三		奉天
五日	撫順著	一〇・三七		驛—炭礦事務所—古城子—露天堀—製油工場—新市街—驛	
同	同發	一五・三三	六五二		
同	奉天著	一六・四九			
同	同發	二三・〇〇	二一		車中
	及び				
六日	新京著	七・三八		旅館—日本橋通—舊商埠地—國務院—宮廷府—北大營—城内—南嶺戰跡—大同廣場—關東軍司令部—兒玉公園—守備隊—大使館—寛城子戰跡—旅館	
七日	同發	九・〇〇	二〇七		新京
同	吉林著	一二・〇三			
同	同發	一七・五三	二〇八	市内及び豐滿ダム見學	
同	新京著	二〇・五〇			
八日	新京發	八・〇五	急一五		
同	哈爾濱著	一三・三四		驛—郵政管理局—濱江省公署—博物館—中央寺院—飛行場—志士の碑—ミルレル兵營—鐵路クラブ—鐵路局—極樂寺—露人墓地—孔子廟—傅家甸—ヨットクラブ—旅館	哈爾濱
九日	同發	一七・〇〇	急一六		車中
十日	大連著	九・四三		旅館—滿洲資源館—埠頭—油房—滿鐵本社—大廣場—遊覽道路—露天市場—星ケ浦—旅館	
十一日	同發	七・三〇	六〇一		大連
同	旅順著	八・五九			
同	同發	一六・四五	六一二		
同	大連著	一八・二六		驛—白玉山表忠塔—博物館—二〇三高地—戰利品記念館—東鷄冠山—北堡壘—バス停留所	大連
十二日	同發	—	大阪商船		
十三日	航海中	—			
十四日	門司著	—			

（2）一人當費用概算 二等團體 二六一・七〇圓 三等團體 一六二・四四圓

乘車船運賃	急行寢台料金	宿泊料金	食事料金	乘物料金	觀覽料	雜費
二等運賃 一一六・五〇 通行稅	急行料金（稅共） 二等 三等 平壤 奉天 三・二〇 一・一〇 新京 哈爾濱 一・六五 ・八〇	特等（一泊二食付 七・〇〇 二等團體に適用） 並等（一泊二食付	（一）旅館食事 朝食（四回） 二等 四・〇〇 三等 三・二〇 夕食（二回） 二等 四・〇〇	京城バス二十人乘一日貸切 三・五〇 平壤電車 ・二〇 ※奉天馬車 二・〇〇	京城 昌慶苑 五錢 德壽宮 同	一、旅館使用人心附支拂額の二割 二等 九・八〇 三等 七・六〇 二、食堂車使用人心附支拂額の二割 ・四〇

乘車船運賃	急行寢台料金	宿泊料金	食事料金	乘物料金	觀覽料	雜費
一・六〇 三等運賃 六〇・五四 通行稅 ・八〇	哈爾濱 大連 三・二〇 一・六五 寢台料金（稅共） 二等 三等 釜山 京城 四・九五 一・九五 平壤 奉天 四・九五 一・九五 奉天 新京 七・七〇 二・七五 哈爾濱 大連 七・七〇 二・七五	五・五〇 三等團體に適用） 二等 三等 京城 七・〇〇 五・五〇 奉天 七・〇〇 五・五〇 新京 一四・〇〇 一一・〇〇 哈爾濱 七・〇〇 五・五〇 大連 一四・〇〇 一一・〇〇	三等 三・〇〇 （二）晝食 市中食事（八回） 二等 一三・〇〇 三等 八・〇〇 （三）船及車中食事 晝食（三回） 二等 四・五〇 三等 三・〇〇 夕食（二回） 二等 四・〇〇 三等 二・〇〇	※撫順電車 ・四〇 新京バス 三・〇〇 ※哈爾濱馬車 二・〇〇 ※大連電車 ・五〇 旅順馬車 二・五〇 吉林バス 三・五〇 ※印は觀光バス運行不定の爲豫め確認の要あり	博物館 同 平壤 博物館 五錢 奉天 博物館 五錢 旅順 博物館 五錢 記念館 五錢	三、赤帽運搬賃（一箇に付五錢）三箇として一〇回分 一・五〇 四、驛旅館間荷物運搬賃 一・五〇 五、寢台ボーイ心附 二等 二・〇〇 三等 ・五〇 六、食堂心附 ・五〇
合計 二等 一一八・一〇 三等 六一・三四	二等 三三・四五 三等 一三・九五	二等 四九・〇〇 三等 三八・五〇	二等 二八・五〇 三等 二〇・二〇	一七・六〇	三五	二等 一五・七〇 三等 一三・〇〇

第二案（往路大連經由）

（1）旅行日程

日次	地名	發著時刻	列車船名	觀察箇所竝順路	宿泊
一日	門司發	—	大阪商船〇〇丸		船中
二日					同
三日	大連著	—		旅館—滿洲資源館—埠頭—油房—滿鐵本社—大廣場—遊覽道路—露天市場—星ケ浦—旅館	大連
	同發	七・三〇	六〇一		
四日	旅順著	八・五九		驛—白玉山表忠塔—博物館—二〇三高地—戰利品記念陳列館—東鷄冠山—北堡壘—バス停留所	
	同發	一六・四五	六一二		
	大連著	一八・二六			同
五〇	大連發	一〇・三〇	二五		
	奉天著	一八・五一			奉天
六日	滯在			旅館—奉天神社—忠靈塔—國立博物館—同善堂—北陵—北大營—宮殿前—吉順絲房—滿毛百貨店（又は三中井百貨店）—旅館	奉天
七日	奉天發	九・二〇	六四三	驛—炭礦事務所—古城子—露天堀—製油工場—新市街—驛	
	撫順著	一〇・三七			
	同發	一七・五〇	六五四		
	奉天著	一九・〇七			
	同發	二三・〇〇	二一		車中
八日	新京著	七・三七		旅館—日本橋通—舊商埠地—國務院—宮廷府—北大營—城内—南嶺戰跡—大同廣場—關東軍司令部—兒玉公園—守備隊—大使館—寛城子戰跡—旅館	新京

日次	地名	發著時刻	列車船名	觀察箇所竝に順路	宿泊
九日	同 發	九・〇〇	二〇七		
	吉林 著	一二・〇三			
	同 發	一七・五四	二〇八	市內及び豐滿ダム見學	
	新京 著	二〇・五〇			
	同 發	二三・五〇	九〇三		車中
十日	哈爾濱 著	七・五〇		驛—郵政管理局—濱江省公署—博物館—中央寺院—飛行場—志士の碑—ミルレル兵營—鐵路クラブ—鐵路局—極樂寺—露人墓地—孔子廟—傅家甸—ヨットクラブ—旅館	哈爾濱
十一日	同 發	九・三〇	二〇		
	奉天 著	二三・三六			
	同 發	二三・四五	四四		車中
十二日	平壤 著	一四・五四		驛—大神宮前—七星門—博物館—乙密臺—箕子廟—玄武門—牡丹臺—永明寺—お牧の茶屋—浮碧樓—清流壁—大同江(舟にて下る)—大同門—練光亭—妓生學校—旅館	平壤
十三日	同 發	一〇・一〇	二〇二		
	京城 著	一七・五二			京城
十四日	京城 發	二二・四五	一〇四	旅館—朝鮮神宮—博文寺—經學院—昌慶苑—總督府(廳舍見學朝鮮事情紹介映畫等)—博物館—德壽宮—朝鮮美術品製作所—旅館	車中
十五日	釜山 著	九・五二			
	同 發	一二・〇〇	二便		
	下關 著	一九・三〇			連絡船

(2) 一人當費用概算

二等團體　二六四・九五圓　三等團體　一六七・五九圓

費目	内譯	合計
乘車船運賃	二等運賃 一一六・五〇　通行税 一・六〇 三等運賃 六〇・五四　通行税 ・八〇	二等 一一八・一〇 三等 六一・三四
寢台料金	寢台料金(税共) 二等 三等 奉天　新京 七・七〇 二・七五 新京　哈爾濱 七・七〇 二・七五 奉天　平壤 四・九五 一・九五 京城　釜山 四・九五 一・九五	二等 三四・〇〇 三等 二一・一五
宿泊料金	特等(一泊二食附 七・〇〇 二等團體に適用) 並等(一泊二食附 五・五〇 三等團體に適用) 二等 三等 大連 一四・〇〇 一一・〇〇 奉天 一四・〇〇 一一・〇〇 新京 七・〇〇 五・五〇 哈爾濱 七・〇〇 五・五〇 平壤 七・〇〇 五・五〇 京城 七・〇〇 五・五〇	二等 五六・〇〇 三等 四四・〇〇
食事料金	(一)旅館食事 朝食(二回) 二等 二・〇〇 三等 一・六〇 夕食(二回) 二等 四・〇〇 三等 三・〇〇 (二)市中食事(九回) 晝食 二等 一三・五〇 三等 九・〇〇 (三)船及車中食事 朝食(二回) 二等 二・〇〇 三等 一・六〇 晝食(四回) 二等 四・一〇 三等 三・一〇 夕食(二回) 二等 四・〇〇 三等 三・〇〇	二等 二九・六〇 三等 二一・三〇
乘物料金	※大連電車 ・五〇 旅順馬車 二・五〇 ※奉天馬車 二・〇〇 ※撫順電車 ・四〇 新京バス 三・〇〇 吉林バス 三・五〇 ※哈爾濱馬車 二・〇〇 平壤電車 ・二〇 京城バス 三・五〇 ※印は觀光バス運行不定の爲豫め確認の要あり	一七・六〇
觀覽料	旅順　博物館 五錢　記念館 五錢 奉天　博物館 五錢 平壤　博物館 五錢 京城　昌慶苑 五錢　德壽宮 五錢　博物館 五錢	三五
雜費	一、旅館使用人心附支拂額の二割　二等 一二・七〇　三等 九・八〇 二、食堂車使用人心附支拂額の一割 ・三〇 三、赤帽運搬賃(一箇に付五錢)三個として一〇回分 一・五〇 四、驛旅館間荷物運搬賃 一・五〇 五、寢台ボーイ心附　二等 二・五〇　三等 一・〇〇 大、食堂心附 ・五〇	二等 一七・五〇 三等 一三・六〇

第三案(往路北鮮經由)

(1) 旅行日程

日次	地名	發著時刻	列車船名	觀察箇所竝に順路	宿泊
一日	敦賀 發	—	日本海汽船〇〇丸		船中二泊
三日	清津 著	—		市內一巡	
四日	同 發	—			
同	羅津 著	—		同	羅津
五日	同 發	—	二〇四		
六日	吉林 著	五・二三			吉林
六日	吉林 滯在			旅館—大馬路—文廟—河南街—牛馬街—德勝門—北山—小白山—吉林省公署—團山子—龍潭山—驛	同
七日	同 發	一七・五四	二〇八	旅館—日本橋通—舊商埠地—國務院—宮內府—北大營—城內—南嶺戰跡—大同廣場—關東軍司令部—兒玉公園—守備隊—大使館—寬城子戰跡—旅館	
	新京 著	二〇・五〇			新京
八日	同 發	二三・五〇	九〇三		
	哈爾濱 著	七・五〇		旅館—郵政管理局—濱江省公署—博物館—中央寺院—飛行場—志士の碑—ミルレル兵營—鐵道クラブ—鐵路局—極樂寺—露人墓地—孔子廟—傅家甸—ヨットクラブ—旅館	哈爾濱
九日	同 發	九・三〇	二〇		車中
九日	奉天 著	二三・三六			
十日	奉天 滯在			旅館—奉天神社—忠靈塔—國立博物館—同善堂—北陵—北大營—宮殿前—吉順絲房—滿毛百貨店(又は三中井百貨店)—旅館	奉天
十一日	奉天 發	九・二〇	六四三		
	撫順 著	一〇・三七		驛—炭礦事務所—古城子—露天掘—製油工場—新市街—驛	
	同 發	一五・三三	六五二		
	奉天 著	一六・四九			撫順
十二日	同 發	二一・五五	二四		
	大連 著	七・〇〇		旅館—滿洲資源館—埠頭—油房—滿鐵本社—大廣場—遊覽道路—露天市場—星ヶ浦—旅館	大連
十三日	同 發	七・三〇	六〇一		
	旅順 著	八・五九		白玉山表忠塔—博物館—二〇三高地—戰利品記念館—東鷄冠山—北堡壘—水師營會見所	
	同 發	一六・四五	六一六		
	大連 著	一八・二六			同
十四日	大連 發	一〇・三〇	二五		
	奉天 著	一八・五〇			車中
十五日	同 發	二三・四五	四四		
	平壤 著	一四・五四		驛—大神宮前—七星門—博物館—乙密臺—箕子廟—玄武門—牡丹臺—永明寺—お牧の茶屋—浮碧樓—清流壁—大同江(舟で下る)—大同門—練光亭—妓生學校—旅館	平壤
十六日	同 發	一〇・一〇	二〇二		
	京城 著	一七・五二		旅館—朝鮮神宮—博文寺—經學院—昌慶苑—總督府(廳舍見學—朝鮮事情紹介映畫等)—朝鮮博物館—德壽宮—朝鮮美術品製作所—旅館	京城
十七日	同 發	二二・四五	一〇四		
	釜山 著	九・五二			
	同 發	一二・〇〇			
十七日	下關 著	一九・三〇			船中

（2）一人當費用概算　二等團體　二九八・五〇圓　三等團體　一八八・九五圓

費目	內譯	二等	三等
乘車船運賃	二等運賃	一二一・七五	
	通行税	二・一〇	
	三等運賃		六四・六五
	通行税		一・〇五
	合計	一二三・八五	六五・七〇
寢台料金	寢台料金（税共）	二等	三等
	羅津—吉林	七・七〇	二・七五
	新京—哈爾濱	七・七〇	二・七五
	奉天—大連	七・七〇	二・七五
	奉天—平壤	四・九五	一・九五
	京城—釜山	四・九五	一・九五
	計	三三・〇〇	一二・一五
宿泊料金	特等（一泊二食付七・〇〇二等團體に適用）		
	並等（一泊二食付五・五〇三等團體に適用）		
	羅津	七・〇〇	五・五〇
	新京	七・〇〇	五・五〇
	哈爾濱	七・〇〇	五・五〇
	奉天	一四・〇〇	一一・〇〇
	大連	一四・〇〇	一一・〇〇
	平壤	七・〇〇	五・五〇
	京城	七・〇〇	五・五〇
	計	六三・〇〇	四九・五〇
食事料金	（一）旅館食事　朝食（三回）	三・〇〇	二・四〇
	夕食（三回）	六・〇〇	四・五〇
	（二）市中食事　晝食（九回）	一三・五〇	九・〇〇
	（三）船及車中食事　朝食（二回）	一・五五	一・三五
	書食（五回）	五・一〇	四・一〇
	夕食（四回）	六・〇五	四・一〇
	計	三五・七〇	二五・四五
乘物料金	羅津バス	・四〇	
	清津バス	・四〇	
	吉林觀光バス	三・五〇	
	新京觀光バス	三・〇〇	
	※哈爾濱馬車	二・〇〇	
	※奉天馬車	二・〇〇	
	※撫順電車	・四〇	
	※大連電車	・五〇	
	旅順馬車	二・五〇	
	平壤電車	・二〇	
	京城バス	三・五〇	
	※印は觀光バス運行不定の爲豫め確認の要あり		
	計	一八・四〇	
觀覽料	奉天　博物館	五錢	
	旅順　博物館	五錢	
	記念館	五錢	
	平壤　博物館	五錢	
	京城　博物館	五錢	
	昌慶苑	五錢	
	德壽宮	五錢	
	計	・三五	
雜費	一、旅館使用人心附は支拂額の二割	一二・七〇	九・九〇
	二、食堂車使用人心附	二・〇〇	一・五〇
	三、赤帽運搬賃	二・〇〇	
	四、驛旅館相互間荷物運搬賃	二・五〇	
	五、寢台ボーイ心附	三・〇〇	一・五〇
	六、食堂心附	一・〇〇	
	計	二四・二〇	一七・四〇

滿支觀光ルート

コース

【一號コース】發驛—下關…釜山—京城—安東—奉天—錦縣—山海關—（北支）

【二號コース】發驛—三ノ宮（門司）…天津（塘沽）—（北支）

【三號コース】發驛—三ノ宮（門司）…大連…天津（塘沽）—（北支）山海關—奉天—大連…三ノ宮—發驛

【四號コース】發驛—下關…釜山—京城—安東—奉天—山海關—（北支）—天津（塘沽）…三ノ宮—發驛

【五號コース】發驛—下關…釜山—京城—安東—奉天—山海關—（北支）—山海關—錦縣—奉天—大連 三ノ宮—發驛

【六號コース】發驛（長崎）—上海—南京—濟南—北京—山海關—奉天—安東—釜山—發驛

【七號コース】發驛—三ノ宮（門司）青島—濟南—北京—山海關—奉天—安東—釜山 發驛

以上の外敦賀又は新潟より清津—羅津に上陸新京を經て北支入コース、滿洲主要地を一巡して北支入コース等がある。

滿洲國內ルート

第一ルート

（A）大連發—旅順—奉天—撫順—新京—吉林—哈爾濱—佳木斯—牡丹江—羅津

（B）大連著—旅順—大連—金州—湯崗子—奉天—撫順—吉林—新京—哈爾濱—林口—佳木斯—牡丹江—羅津

（A）の逆（B）の逆

第二ルート

（A）安東—新京—吉林—哈爾濱—孫呉—黒河—孫呉—北安—齊齊哈爾—奉天—撫順—奉天—大連—旅順—大連發

（B）安東—新京—吉林—哈爾濱—呼蘭—哈爾濱—黒河—孫呉—北安—齊齊哈爾—奉天—撫順—奉天—湯崗子—大連—旅順—大連發

（A）の逆（B）の逆

第三ルート

（A）第二ルート逆（B）旅程と大連發より吉林著迄同一（吉林—南陽—羅津發）

（B）第二ルート逆（B）旅程と大連發より吉林著迄同一（吉林—圖們—南崗—雄基—羅津發）

（A）の逆 第二ルート（A）新京より大連發迄同—（羅津—南陽—吉林—新京發）

（B）の逆 第二ルート（B）新京發より大連發迄同—（羅津—雄基—圖們—吉林—新京發）

第四ルート

（A）大連發—旅順—大連—奉天—撫順—奉天—錦縣—承德—古北口—北京—天津—山海關—安東

（B）大連發—旅順—大連—金州—湯崗子—奉天—撫順—奉天—錦縣—承德—古北口—北京—青龍橋 北京—天津—山海關—奉天—安東

汽車汽船賃概算（東京發北京著）昭和十五年十二月一日現在

コース番號	種別	全區間一等	汽船一等汽車二等	全區間二等	汽船二等汽車三等	全區間三等	記事
一號	片道	一五七・四〇	一〇七・七〇	一〇三・六五	五七・〇五	五三・五〇	
一號	往復	二五一・八四	一七二・三二	一六四・二四	九一・二八	八五・六〇	
二號	片道	一〇三・〇〇	九二・〇〇	七〇・〇〇	五九・〇〇	三三・〇〇	乘船は神戸、上陸地は塘沽とす
二號	往復	一七八・八〇	一六一・二〇	一三一・六〇	一〇四・〇〇	五七・二〇	航路一等はB、二等は和食とす
三號	廻遊	二三六・七〇	二〇四・九〇	一六八・九〇	一三七・七八	七三・八八	一、乘船地は神戸、上陸地は塘沽とす
四號	廻遊	二一六・三三	一六四・四四	一四四・六四	八九・八〇	六六・四〇	二、大連天津（塘沽）間は二等設備なきため二等運賃欄の同區間は一等として計算せり
五號	廻遊	二六五・九四	一九八・三四	一七八・二三	一一三・六六	八七・四三	
六號	廻遊	三八一・四四	二〇五・〇八	二〇三・七六	一三七・六四	九六・〇〇	
七號	廻遊	三五八・八六	一九四・八三	一七一・八〇	一一〇・三三	八四・〇八	

訪日觀光ルート

滿支人訪日觀光團或は視察團のルートに就ては考慮す可き點多きに鑑み、當東亞旅行社滿洲支部に於ては過去の體験に基き種々研究の結果次の七コースを選び代表ルートとして推奬すること、なつた。

コース、日程、費用概算は次の通りである。

コース（—印は陸路、…印は海路）

第一ルート

大連…門司—九州各地—別府…大阪—東京—日光—名古屋—二見浦—山田—奈良—京都—嚴島—下關…釜山—京城—（蘇家屯）—大連

第二ルート

奉天—大連…神戸—大阪—奈良—名古屋—東京—日光—鬼怒川温泉—仙臺—松島—青森—山中温泉—福井—京都—嚴島—下關…釜山—京城—奉天

第三ルート

新京—奉天—京城—釜山…下關—嚴島—京都—奈良—名古屋—東京—日光—鎌倉—江ノ島—箱根—熱海—大阪…別府—中、北九州—門司…大連—新京

第四ルート

哈爾濱—（奉天）—京城—（釜山）…下關—嚴島—大阪—奈良—二見ヶ浦—伊勢神宮—名古屋—東京—日光—京都—神戸—別府—八幡—博多—門司…大連—哈爾濱

第五ルート

新京—羅津…新潟—長野—東京—日光—箱根—熱海—名古屋—京都—奈良—大阪—神戸…別府—中北九州—門司…下關…釜山—京城—奉天—新京

第六ルート

哈爾濱—新京—羅津…新潟—長野—東京—日光—名古屋—伊勢神宮—二見ヶ浦—奈良—京都—大阪—嚴島—下關…門司—八幡—下關…釜山—京城—奉天—哈爾濱

第七ルート

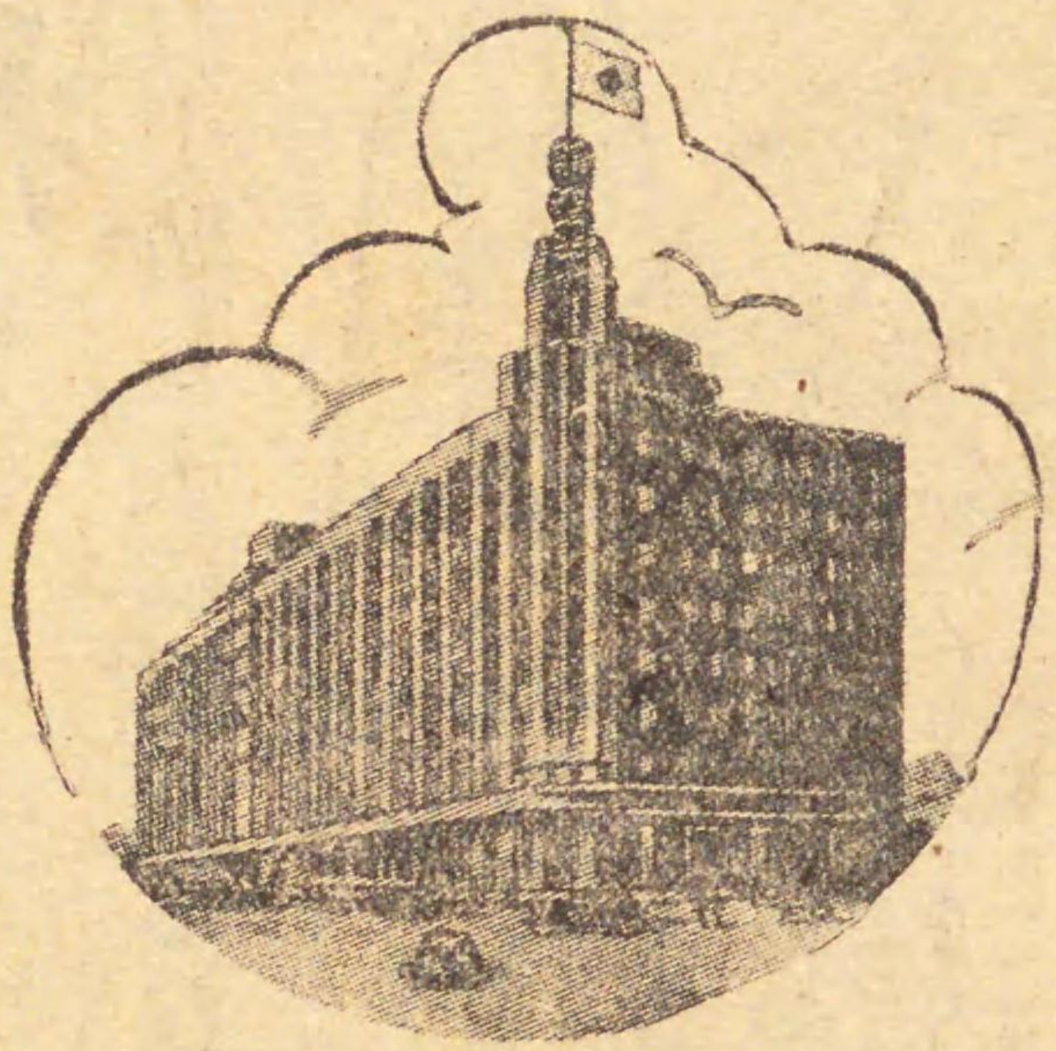
牡丹江—哈爾濱—新京—奉天—京城—釜山…下關門司—別府—大阪—奈良—京都—東京—日光—東京—新潟…清津—朱乙—輸城—牡丹江（又はこの逆コース）

費用概算

出發地	ルート	種別	所要日數	二等 一五人以上團體個人當り	三等 一五人以上團體個人當り
大連	第一ルート	含九州	二五日	三七五・00	二七五・00
奉天	第二ルート	含奧州	二三日	三三五・00	二六三・00
新京	第三ルート	普通	二一日	三二五・00	二三一・00
哈爾濱	第四ルート	特種	二三日	三六〇・00	二五八・00
新京	第五ルート	普通	二一日	三三〇・00	二三五・00
哈爾濱	第六ルート	特種	二一日	三三五・00	二三一・00
牡丹江	第七ルート	含新潟	二一日	三四五・00	二四三・00

・註 乘船車賃、寢臺急行料、宿泊食事料、手荷物赤帽代、心附、記念寫眞代等一切を含む

新亞細亞ホテル



上海

TEL 42210

位　置……市の核心……**ビジネス・センター**西廣場電車、**バス**停留所前に在り交通至便。大連驛へ二分、埠頭へ五分。（自動車）

建　物……最新式**インターナショナル・タイプ**七層建の壯麗なる大建築は眞に躍進都市大連の大偉觀。

客　室……和室、洋室兩樣式六十室を有する最高級**ホテル**設備完整。室料の合理化四圓以上十二圓迄。

食　堂……善美を極めたる大食堂は大連に於ける美味求眞の殿堂。

サービス……全從業員の至誠の**サービス**の萬全は……旅客各位の御旅情を慰むるに充分。

大連市西通四七（西廣場電車停留場前）

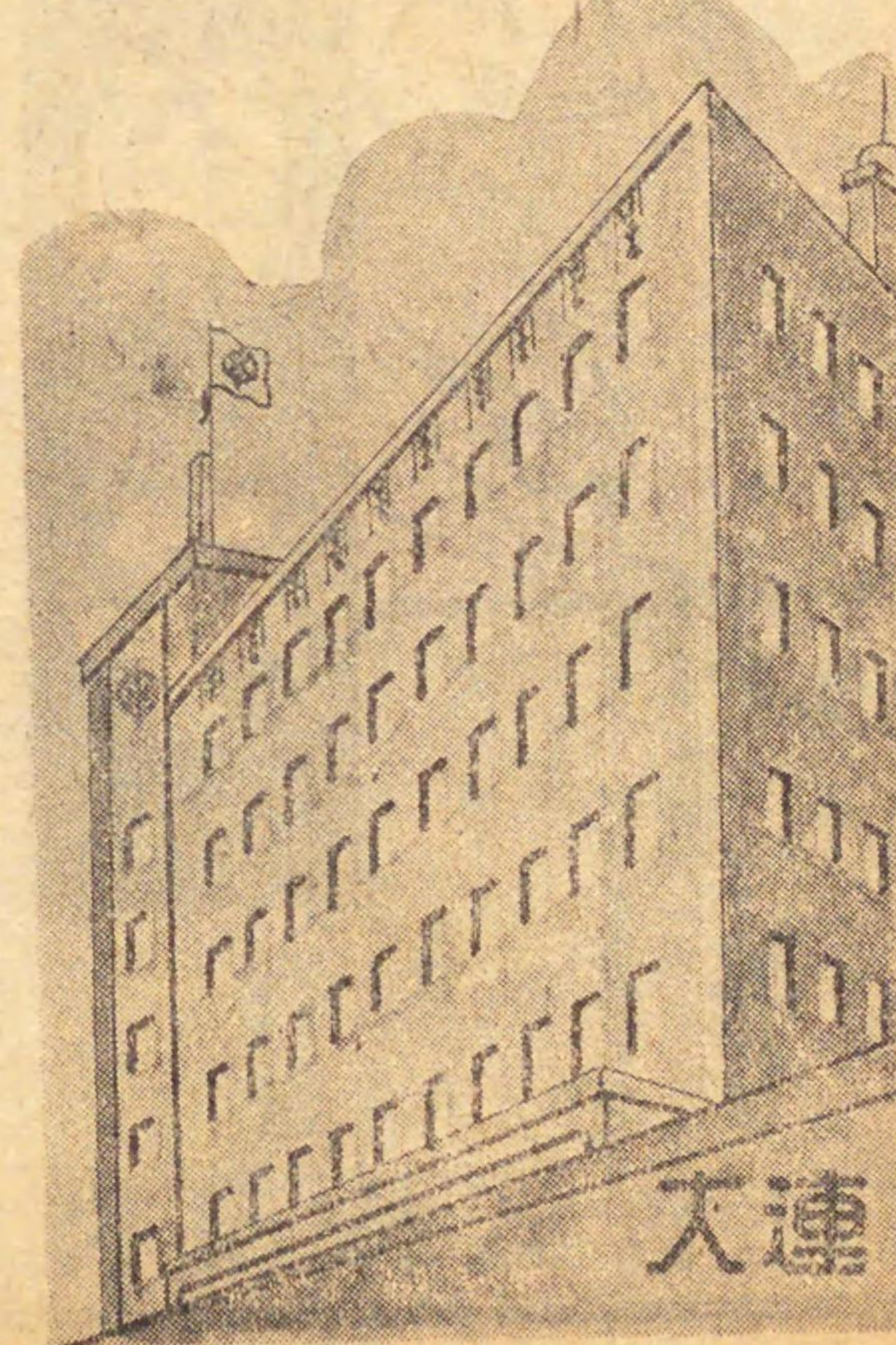
株式會社

中央ビル・ホテル

電話代表二・八一三四番

社長　副島千城

支配人　熊井辰治



觀光地

都市

滿洲及關東州



大連（京連）

大連は全滿洲を背後地として、そこで產出する豐富な特產物を輸出する大貿易港であり諸施設完備せる近代都市である。今市街となつてゐる地は靑泥窪と稱し極めて淋しい漁村が散在してゐるに過ぎなかつたが、一八九九年（明治三十二年）露國が此處にダールニイ市を建設し未だ完成を見ずして日露戰によつて我軍の占領するところとなり明治三十八年「大連」と命名され露治時代の市街計畫を踏襲し、一九〇三年の四萬餘の人口は三十八年後の昭和十五年には六十九萬一千四百八十九人（內地人十八萬八千七百四十人、半島人五千二百九人、滿洲人四十九萬五千九百二十八人、外人一千六百十二人）を數ふるに至り極東に於ける自由港として又大陸の關門、歐亞連絡の要衝港として年一千萬噸の貨物と百萬の旅客を吞吐する、名實ともに新興滿洲國の大玄關たるの搖ぎなき基礎を築くに至つた。大連港の消長が滿洲に於ける我が經濟的活動のバロメーターとなることに關しては今更呶々を要しない。



（視　察）普通團體及學生コース（乘物タクシー又は馬車とし、バスは當分の間運行休止）山ノ茶屋―忠靈塔―大連神社―大廣場―滿洲資源館―大佛―星ケ浦（晝食）―露天市場―油房―碧山莊―埠頭、タクシー三人乘十二圓位。

（土　產）（玩具、文房具、反物、茶、素麵、麻雀寶石、洋酒、硝子、陶磁器、煙草、寫眞機、望遠鏡等。）

（視察斡旋）驛鐵道案內所、東亞旅行社（伊勢町連鎖街、監部通、ヤマトホテル內）大連觀光協會（驛前連鎖街）。

旅　順（旅順）

元獅子口と稱へられ唐代日本の使節なども往復の途次立寄つてゐた處であるが明朝に到つて南方移民の渡來するもの多く、船舶の寄港頻繁を極め水陸行旅の順路に當つたので旅順の名を稱ふるに至つたと云ふ。

日淸日露の兩役起るに及んで二度まで戰亂の巷と化したが、爾來軍政署より關東都督府そして關東廳制による關東州廳となり昭和十二年同廳の大連移管に至る間の旅順は州內日本行政機關の中核地であつた。それだけに旅順は日本人に忘れ難い戰跡地としてまた避暑地避寒地として名が高い。

市街は中央を龍河によつて二分せられ、東を舊市街、西を新市街と呼ぶ。舊市街は大體に於て旅順の商業區で、乃木町、靑葉町迎橋一帶が賑つてゐる。新市街は工科大學を始め官衙學校多く且つ住宅區である。現在人口は約三萬七千五百餘人（日本人一萬三百餘）である。

（視　察）戰跡旅順參照

金　州（連京）

古來遼東半島の都城として地方の中心であつた。それ故城內にはどことなく落附いた氣分が漂ひ、附近は名所に富み風景に勝れてゐる。新市街は工業都市としての性質を有し金城線の基點であり、驛から城內へ通ずる街路を中心に略扇狀の市街が計畫されてゐる。此の地は苹果の產地であり又日露戰跡地としても名高い。人口約十六萬、日本人約三千人。

（視　察）（半日行程）城內―天齊廟―三崎山―南山

（一日行程）南山―露國墓地―城內、天齊廟―永慶寺―三崎山―龍王廟（大和尙山一日行程）八里莊乃木中尉墓―山頂城跡及石鼓寺―朝陽寺―響水寺
（土　產）果物、初茸、蛤、漬物、繪ハガキ等。

營口（營口）

今日十八萬一千八百七十一人（內地人七千六百二十七人昭和十六年六月現在）の人口を有する營口も百十餘年前は海中であつた。それが海岸線の隆起と遼河による泥土の堆積のため道光初年に至り陸地として出現し、海港の性質を帶ぶるに至つて村落を形づくつた。爾後上流に在る牛莊城及び田莊臺が河口港としての價値を減じその商勢が次第に營口に移り遂に今日の大をなしたものであり、市街は河口から十三浬の處にあり河岸に沿うた狹長な街にして大遼河の南岸に沿ひ、東西二里に亘り新舊市街に分れてゐる。新市街は驛の周圍東西に擴り、居住者の大部分は日本人で、滿洲事變後は產業貿易益々振興し、諸官衙會社住宅の新設も多い。舊市街は綏定橋に始まつて綏定門街、永世街、老爺閣街、西大廟街と連續し、特に老爺閣東大街から西大廟までは大厦高樓軒を並べ商業殷賑を極めてゐる。

又河岸には老舖多く、大問屋が軒を連ね、河面には常に汽船、帆船、戎克等無數に定泊し港町特殊の色彩を漂はしてゐる。營口港は今も沿岸貿易に於ては大連安東二港に比べて特殊の勢力を有し輸出入總額の四割乃至五割は該貿易で占めてゐる。

（視　察）楞嚴寺、油房、營口神社、忠靈塔、旭公園、東亞煙草會社製造所、滿洲タルク會社、田莊臺營口農村、東稅關附近海岸、支那街、滿鐵埠頭附近海岸、河北驛、防衞記念碑、遼河巡覽。
（視察コース）營口驛―營口神社―康德パルプ―防衞記念碑―煉瓦工場―水產學校―滿鐵埠頭―（滿鐵小蒸氣船）―河北驛―田莊臺―營口農村―河北驛―（滿鐵小蒸氣船）―東稅關―舊市街一帶―東亞煙草會社―營口驛、所要時間一日コース、概略費用一圓
（土　產）支那織物、銀飴、娘々豆、蛤、關東人蔘、蛤蝦佃煮、銀製品、蛤細工等。
（視察斡旋）驛鐵道案內所、驛前東亞旅行社、觀光協會、

鞍山（連京）

同市は製鐵所の所在によつて興された純粹な鑛業都市である。故に製鐵事業と其の盛衰を共にすべき運命に在る。大正六年鞍山製鐵所は出銑量百萬噸とその事業に伴ふ人口十五萬を目標として工場及び市場を設計されたが世界大戰終熄して製鐵業に影響を及ぼすや急轉直下總てが緊縮され、昭和八年六月一日を以て製鐵所は滿鐵より昭和製鋼所に讓渡されて獨立企業としての經營をみることゝなつた。

昭和製鋼所の誕生は鐵都鞍山をして滿洲に於ける一大商工業都市に急轉向せしめ爾來製鋼所の大擴張に伴ひ諸施設の飛躍的增設を來し、其人口も加速度に增加して昭和十六年七月現在二十一萬七千七百十八人（內地人四萬六千九百九十一人）を數ふるに至つた。

（視　察）驛―製鋼所―忠魂碑―市街―驛
料金馬車四時間一圓二〇錢、人力車七五錢、自動車一〇圓。
（土　產）繪葉書、鞍山名所煎餅、鐵羊羹
（視察斡旋）東亞旅行社（北二條町）觀光協會（市公署內）

遼陽（連京）

滿洲最古の都城の一で久しく滿洲に於ける政治の中心地であり且朝鮮支那本土に通ずる舊交通系統の中樞に衝つてゐた。此の地は戰國以後史上に現はるゝこと多く遼陽城の硏究は同時に滿洲歷史硏究の大きな部分を成すものであり、その附近は史蹟に富み舊都の面影を遺すものが多い。遼陽は特に白塔のある地として又日露役の激戰地として世人に廣く知られてゐる。昭和十四年一月に於ける人口は十萬人、內日本人六千八百人を數へてゐる。

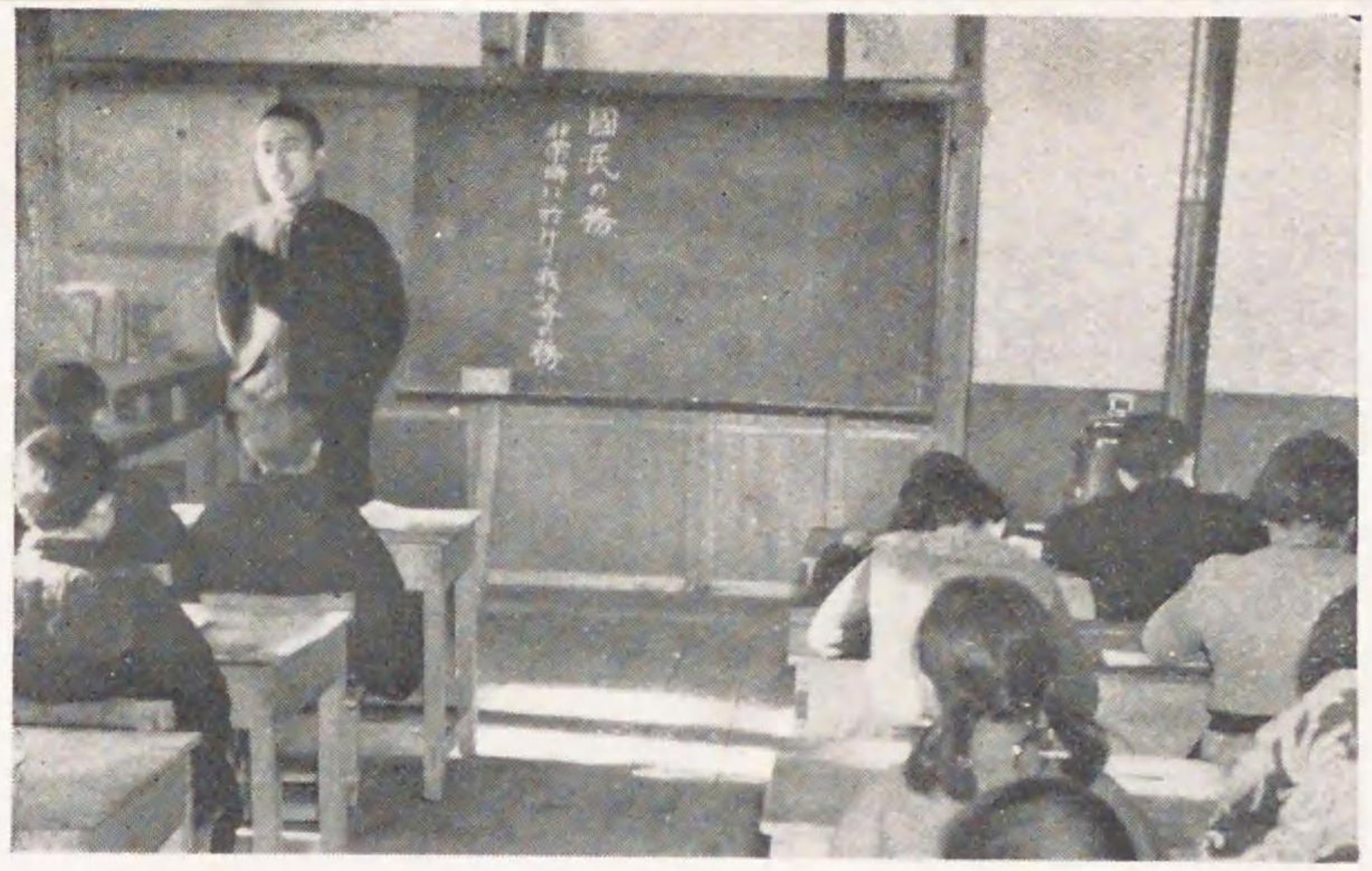
（視　察）驛―白塔―天齊廟―金銀庫―魁星樓―孔子廟―玉皇廟―蓮花寺―關帝廟―忠魂碑（所要時間馬車四時間）

學窓





開拓地の生徒













内蒙の馬車



女警（北京）

(土　產) 白塔煎餠、繪葉書、白塔饅頭、葡萄飴

奉天 (連京)

六條の鐵道を放射せしめ運河の水路を加へ滿洲稀に見る惠まれた地點である。治外法權撤廢に伴ふ滿鐵附屬地行政權移讓と同時に、市政區域を擴大した大奉天は昭和十六年五月人口百六萬三千餘人(日本人約十六萬人)を數へ更に在奉苦力を加ふれば百四十三萬人を突破して、全滿一の大都市である。滿蒙に於ける交通、經濟、工業の心臟部としての役割は北支の既に明朗化した今日愈々確固たるものとなり目下人口三百萬を抱擁する「大奉天」の建設に邁進してゐる。古來この地を相して城を置き又都するもの、遠く渤海の時代より元、明、清の諸代、名も瀋州、瀋陽、盛京、奉天と變遷し滿洲事變の起るまでは瀋陽の故名に復して張學良が東北四省の覇權を握つた土地、新に滿洲國の創建となつて首都は新京に移つたが今尚人口一千餘萬の奉天省公署の所在地であり滿洲第一都として貫錄と實力を遺憾なく發揮してゐる。奉天の名稱は清の順治十四年(一六五七年)初めて生れた。外國語はムクデンで通り、ムクは蒙古語で木の葉の萌えて伸び行く狀態惹いて興隆を意味するものである。奉天は又日露戰役に於ける兩軍の雌雄を決した屍山血河の巷として、更に滿洲事變發生の地として永遠に我が光輝ある歷史に大書せらるべき記念の地である。一度日々二萬餘の乘降客を呑吐する奉天驛前に立てばあらゆる人種と交通機關は蝟集去來して大奉天の繁榮振りを如實に物語つてゐる。

(觀　察) 定期觀光バス(目下運休)、長コース大人二圓五〇錢、小學生以下一圓二十五錢。驛—忠靈塔—國立博物館—北陵—北塔—柳條湖—北大營—天齊廟—城內—同善堂—奉天神社—鐵道總局—鐵西工業地區—南部住宅街—驛(所要約六時間)短コース、大人一圓五〇錢、小學生以下七五錢。驛—忠靈塔—北陵—北塔—柳條湖—北大營—城內—奉天神社—驛。(所要約三時間)

(土　產) 毛皮、支那反物、雜貨、麻雀、トランプ、寶石類、露西亞菓子、撫順琥珀細工、同石炭細工、寫眞帳、繪葉書、高粱餠、甘栗等。

(觀察斡旋) 驛構內「鐵道案內所」東亞旅行社(驛前、瀋陽區一德街一段、ヤマトホテル內、奉ビル內)濵速通三中井百貨店內奉天觀光協會。

撫順 (撫順)

撫順の市街は全く炭礦あるが爲に興つた鑛業都市で、石炭の埋藏量十億瓲、世界無比の露天堀と重油工業發電所等を持つてゐる。日露役後日本人の集住するに至る迄は千金寨に僅々四、五十戶の滿洲人部落があつたばかりでそれが滿鐵の炭礦經營に依つて一市街を形成今の舊市街となつたのであるが、此の地に日本側の總ての機關施設が置かれ商民が集り運河對岸に古くからある撫順城內からは撫順縣公署を初め大部分こゝへ移轉し來た爲に撫順城內は甚しく寂れ取毀された屋敷跡が夥しく目立つの逆現象を呈した。斯くして一旦完備した市街地が炭層上に建設せられたる爲露天堀擴張に伴ひ大正十三年には滿洲街のみを殘し日本人街は小官屯、山嘴子方面に移動して再び建設せられたのが今の新市街である。而して更にまた露天堀大擴張計畫は既存の滿洲街全部をも破壞する事となり千金寨市街は擧げて大官屯驛北方運河畔の埋立地域に移動することに決定してゐる。現在人口は約二十七萬九千人餘(內地人四萬七千六百餘人)

▼觀察箇所　炭礦事務所、發電所(構內入場禁止)古城子露天堀、東鄕坑(又ハ大山坑)、製油工場、觀樂園、永安臺社宅街、撫順城、觀音閣(佛塔)蓮池、譽ケ丘

▼(コース)驛—中央大街—西十條通—滿鐵醫院—炭礦事務所—地方法院前—製油工場前—露天堀—大山坑—ホテル前—柳通—中央廣場—永安臺—蓮池—大池—表忠碑—驛(觀光バス)所要約二時間大人一圓五十錢小人七十五錢(目下運休)

(土　產) 石炭細工(卷煙草入、パイプ、灰皿、花瓶、筆立、印材、人形、置物等)、琥珀細工(ネクタイピン、帶留、簪玉、カフスボタン、パイプ、首飾

滿人の正月

祭壇





祭竈

春聯書き



數珠等）繪葉書。
（視察斡旋）鐵道案內所、東亞旅行社（驛前通り）交通會社、觀光協會。

鐵　嶺（連京）

北に柴河流れ東に龍首山の峙つ麓、三基の佛塔に護られた鐵嶺の町は見るからに平和である。史上古く渤海時代は富州、遼代は銀州の名に現はれ明代に至つて鐵嶺衞が置かれた地である。こゝは綿糸布の產地で鐵嶺綿布の名に廣く知られ三十餘軒の綿糸布商が城內に在る。

鐵嶺は其の後方に特產物多き東山地方を有し、遼河水運の盛であつた頃は商勢甚だ振つてゐたが鐵道開通後、地の利を得て開原が特產市場として活躍するに及び繁榮を奪はれるに至つたとは雖尙相當に特產の出廻を見又一方では滿洲に於ける米の一產地として存在を保つてゐる。市街は概ね舊附屬地、舊商埠地、城內の三つに分かれ昭和十五年末現在人口約五萬六千（內地人三千五百餘人）を有する。

（視　察）驛—龍首山—鐵嶺公園—圓通寺の白塔（所要時間馬車にて約三時間）。
人力車（龍首山五〇錢）馬車（龍首山七〇錢）
（土　產）牛肉、味噌漬、繪葉書、モダン羊羹、深山餅。

四　平（連京）

北滿の動脈たる平齊、齊北、北黑各線に依りて北滿東部內蒙古への入口貨物中繼市場としての位置を益高めてゐる。もと荒原中の一小部落であつたが交通の發達に依つて成長特に四洮線（平齊線）開通後著しく擴充し滿洲建國後の發展は更に目覺しく尙昭和十六年七月吉林、奉天二省の一部を合して新に四平省の設置を見たるに依り省公署を初め有力機關を集中し市況は活氣を呈し頗る殷賑を極めてゐる。

またこの地の冬の寒さは所謂日溜りとも云ふべき地の利を占めて凌ぎ良く、春は杏花に梨花に昔ながらの名が高く殊に梨花は「梨樹」なる地名がある如くその美しさは隨所にみられる。

三十年前農家の點在するに過ぎなかつた此町は昭和十六年九月末に於て七萬七千二百八十八人（內地人九千餘）の人口を數ふるに至つてゐる。

（視　察）驛—中央大街—南ヶ丘公園—四平神社—中央公園—忠魂碑—原種圃—昭平橋—驛（馬車所要二時間半、六〇錢。自動車所要時間五〇分、三圓）
（土　產）ホームスパン・ネクタイ、繪葉書、瑪瑙工作品。
（視察斡旋）東亞旅行社（驛前）

新　京（連京）

附近一帶はもと蒙古郭爾羅斯前旗に屬する放牧地で漢人の開墾によつて初めて新京の北方十餘支里に「長春堡」が出來、清國道光五年、現城內に長春廳が置かれたのに始まり、爾來滿洲國の創建まで「長春」の名を傳承した。然し當時微々たる一小邑も一八九九年露國によつて寬城子に停車場を設置するに及んで漸く經濟的價値を認められ一躍人口六、七萬を算するに至つた。日露戰役後は日本側によつて城內、寬城子間の荒原を買收し遂に今日の如く殷盛な舊滿鐵附屬地を造り上げたのである。一方支那側は商埠地を設定し商民の移住を獎勵するに及んでこゝも城內に劣らぬ繁盛を呈し遂に舊稱城內、商埠地、附屬地の三を以つて今日の大市街を完成するに至つた。

滿洲建國後は一躍國都となり人口百五十萬を擁する大都市計畫をして着々その緒につかしめ政治、經濟、軍事、交通の中心地として實質上首都の面貌を兼ね備へその人口も昭和十五年末現在に於て約四十九萬三千人（內地人十一萬五千餘人）の多きに達した。

（視　察）「定期觀光バス」、大人一名三圓、小人一圓

五十錢—（コース）、驛—ヤマトホテル—滿鐵支社—新京神社—中央通—兒玉公園—關東軍司令部—軍人會館—忠靈塔—西廣場給水塔—三不管—寬城子戰跡—寬城子—日本橋通—日本橋公園—舊國務院—宮廷府—小盜市場—大馬路—淸眞寺—般若寺—大同廣場—協和會首都本部—大同公園—民生部—紅卍會—動物園—綜合運動場—中央觀象台—中央警察學校—南嶺戰跡—大同學院—建國廟—建國大學—南湖—綜合法院—順天大街—國務院—宮廷御造營地—獨伊公使館—滿映スタヂオ—國務總理官邸—興安大路—帝國領事館—驛。
（觀光バス三時間半、貸切バス三時間、馬車五時間半、タクシー二時間）
（土　產）豆麵、香木人形、新京人形、スッポンホルモン葡萄酒、刻磁器、滿洲煎餅、忠靈塔煎餅、滿洲菓子、滿洲漬、國都そうめん、孝子餅、協和豆
（視察斡旋）東亞旅行社（驛前、三中井デパート內、ヤマトホテル內、奉發合內）驛構內鐵道案內所　新京觀光協會（驛前）滿洲事情案內所（中央通六）。

安　東（安奉）

滿洲國東邊道の重要門戶として鴨綠江の河口を遡ること二十六粁、元寶、鎭江の諸山を背後に控へて右岸に市街を竝べ新義州に對する國境都市である。附近は清朝同治年間（慶應）に至つて山東及び遼東沿岸方面より移住した漁農民により初めて一部落をなし、地名を沙河子又は沙河鎭と稱へた。その後移民の增加と共に開拓の業勃興し、安東縣衙が置かれ材木の取引も盛んに發展して今日の沙河鎭をなし縣衙の置かれて以來安東縣の俗名を以て稱ばれてゐる。市街は新舊二つに分かれ舊市街は滿洲國人商家の櫛比する處、新市街は舊市街に接し驛を中心とした近代式の井然たる街衢をなしてゐる、安東市は朝鮮鐵道の接續により事實上歐洲への關門の一として重要なるのみならず鴨綠江竝に海路による交通の惠を充分にうけ農林產物に富む背後地を控へ、滿洲三大港の一として大連に次ぐ主要貿易港である。

目下滿洲國、滿鐵によつて大東港築港計畫が着々進んでゐるが、去る十五年十一月大東港地區を市に編入したるため、市區域は從來の九十平方粁から、一躍三百四十平方粁となり、昭和十五年末に於ける人口は約三十二萬七千餘人（內地人二萬五千餘人）に飛躍し尙漸增の傾向にある。朝鮮と一葦の流を隔てた此處では滿人の紺衣に鮮人の白衣を散見せしめ、滿鐵沿線都市唯一の異色となつてゐる。

（視　察）馬車にて三時間行程—驛—鎭江山—鴨綠江製紙會社—鴨綠江製材會社—鐵橋—滿洲街—驛
（土　產）白魚の筏干（加工品）毛皮類、寶石類、ダイヤ、ヒスイ、アレキサンダー、麻雀、露西亞毛布飴、栗、羊羹、石炭細工等
（視察斡旋）東亞旅行社、安東觀光協會（市公署內）驛構內「鐵道案內所」。

本　溪　湖（安奉）

撫順、鞍山と共に滿洲に於ける三大鑛業都市の一つである。無煙炭及鐵鑛が採れ、日滿合辦の本溪湖煤鐵公司で採炭、製鐵事業を行つてゐる。此處は曾て沙河大會戰の攻擊目標であつた。

一名窰街と稱せられ、缸窰（水甕製造所）多く其他陶器類と共に街の名物となつてゐる。昭和十四年十月に市制が實施され現在人口十萬餘人（日本內地人一萬餘）を有する。

通　化（梅輯）

龍崗山脈の支脈に圍繞された盆地の街にして東南を鴨綠江に注ぐ渾江の淸流が美妙な曲線を描いて流れてゐる。此の地一帶は滿洲肅愼族の發生地として歷史的に由緒深いものがある。

東邊道第一の都會、通化省の新設と共に省公署の所在地ともなり、東邊道鑛產資源開發の據點とし、又梅輯線は完成して日鮮滿を繫ぐ新ルートの樞要ポイントとして活況を呈し人口は既に昭和十六年七月に於て七萬一千五百餘人（內地人四千九百餘人）を數ふるに至つた。元來此地方は一體に山

岳地帶で平野に乏しく僅かに渾江の流域に耕地を有するだけであるが、附近に拘擁する鑛產資源開發も漸く緒に就き大栗子溝の鐵鑛脈、鐵廠子附近の炭礦脈等將來重工業地としても東邊道の心臟となるべきを約束されてゐる。

尙當地は日露戰爭當時花大人で有名な花田中佐の率ひる滿洲義軍が本據地として敵の側面攻擊を有效適切に致行した記念すべき土地である。

（視察）驛―通化橋―玉皇山公園―城內―神社―驛（馬車三時間二圓、但し冬季は三圓、自動車一時間半九圓）

▲東邊道鑛產資源視察箇所・コース・通化―大栗子溝―臨江―中江鎭―滿浦―輯安―鐵廠―通化（所要四日間費用三等四十圓）

（視察斡旋機關）東亞旅行社、東邊道觀光協會、東邊道開發會社

吉林（京圖・奉吉）

吉林は遠く二千年の昔鷄林と呼ばれ高勾麗の築城された所で渤海國の興るや吉林烏拉と改められた自然な沿江の都會地を成してゐる。

明代に征東水軍が駐屯し降つて淸の順治年間に戰船を造りしにより船廠とも呼ぶ。康熙十二年、始めて城壁が築かれ寧古塔將軍の移駐に依つて吉林と改め全省の首府となつた。淸朝になるや太祖愛親覺羅が率ゐた滿洲八旗の子孫はこの地に居し今に至るも滿洲旗人の名で呼ばれてゐる。現在人口二十一萬七千餘人（內地人二萬五千）を有し中部軍鎭の面目を保つてゐる。省城は天然の地形に順應し無計畫に發達したので城壁の形は他地方に見る長方形と異り街筋は蜘蛛の巢の如くに亂れてゐる。城內全體を通じ官吏、富豪、有閑階級の邸宅が多く古城市の感が深い。山紫水明「滿洲の京都」吉林は近年大豐滿ダムの出現と吉林大工業地帶の設定によつて之が觀光價値は新なる方面に加重されるに至つた。

（視察）觀光バスコース・驛―太馬路―神社―孔子廟―江岸―臨江門―ダム―北山―河南街―太馬路―驛（總局バス五時間貸切七十五圓三十名乘）、（交通會社バス五時間貸切四十九圓三十三名乘）、但夏期は鵜飼見物を加へ大人一名二圓小兒一圓增

（土產）蛤蟆油（山地に棲息する蛙の脂（精力劑））藥用人蔘、藥酒、ステツキ、搬不倒（起上小法師）、老虎枕頭廟會玩具、山葡萄酒。

（視察斡旋）驛、鐵道案內所、東亞旅行社（吉林太馬路一三九・城內）觀光協會（驛前）

延吉（京圖）

間島省は昔から半島と淺からぬ關係を持ち、今では朝鮮と滿洲を繋ぐ「固い楔」となつてゐる。昔から半島人の移住者特に多く從つてその地方色も滿鮮相半し、自然に「鮮滿一如」の具現をみてゐる。昭和九年此處に間島省公署が設置され、地方重要機關が悉く此の街に集中して力强い活氣を呈するに至つた。現在市街は驛を去ること約四粁、從つて交通其他多少の不便を感じつゝあるも新都市計畫が實現された曉に於て驛前にも壯麗な商店街が出現することゝなり、面目も一新される筈である。

最近市況は一段の活況を加え、人口の增加特に著しく旣に五萬（內地人約五千人）を數ふるに至つた。

（視察箇所）驛―省公署―忠魂碑―延吉橋―鮮人街―西公園―延吉神社―日本人街―滿人街―縣公署―驛、所要自動車一時間半六圓、馬車三時間四圓五十錢、人力車五時間四圓

（土產物）延吉飴、蜂蜜、杏羊羹、延吉饅頭

（視察斡旋機關）東亞旅行社（進學路十四―七）

圖們（京圖・圖佳）

舊名を灰幕洞と稱し、嘎呀河と布爾哈通河が合流して圖們江に注ぐ三角州に開けた町で、東部國境を扼する交通の要衝である。

滿洲事變前までは貧弱な一寒村であつたが京圖線と圖佳線の開通に依つて急激に發展した新興都市である。最近の人口は三萬七千五百餘內日本內地人五千五百餘人である。

（視察斡旋機關）東亞旅行社（春風路）驛鐵道案內所

牡丹江（圖佳・綏濱）

圖佳線の建設、北滿鐵道の買收を契機に急激に發達した新興都市であり背後地として牡丹江平野及び同江沿岸の森林地帶を有し、將來哈爾濱に次ぐ北滿の大都市に躍進すべく豫想されてゐる。昭和十五年末現在人口約二十萬人（內地人五萬七千餘人）である。が三十萬目標の都市建設計畫を急いでゐる。市街を分つて舊市街新市街の二とし舊市街は從來からの濱綏線の街、新市街は圖佳線の建設によつて生れた街でこの新舊兩市街を併稱して牡丹江と謂ふ。建設景氣横溢し市況極めて活潑に、避暑地竝水鄕として西に横道河子、一面坡南に鏡泊湖を控へ之等への門戶をもなしてゐる。濱綏、圖佳兩線の交叉點に當るこの街は東北部滿洲交通の中心地として鐵道局が置かれ昭和十一年より牡丹江省公署の所在地として地方政治の中心をなしてゐる。

（視察）驛―太平路―忠魂碑―舊驛―舊市街―第二新市街―神社―淸水公園―省公署―市公署―驛

（土產）蜂蜜、ブドウ酒

（視察斡旋）驛、東亞旅行社、（驛前）東滿觀光協會（大平路高岡號百貨店內）

佳木斯（圖佳）

佳木斯は松花江岸哈爾濱と撫遠との中間に位し、十四萬六千平方粁に及ぶ沃野を控へた東滿の一大都市である。明治末期までは戶數僅かに百餘戶に過ぎず大正五、六年頃、鶴立崗、梧桐河金鑛の開鑛に依つて相當人口の增加を見たが未だ三百餘戶と云ふ狀態で微々たる一部落であつたが、松花江岸に位置しながらも水害を蒙つたことなく、この點依蘭、富錦よりも惠まれて居り此のことが今日の隆盛を造る大きな素因ともなつたのである。

圖佳線の開通は從來の物資輸送徑路に一新機軸を促して北鮮諸港とも緊密な關係を生じ、水陸兼備の貿易市場となり、松花江岸隨一の良港として北東滿に於ける物資の集散輸出入貨物の荷卸地として全滿屈指の商業都市としての條件を完備し、都市計畫着手以來僅々三年にして近世都市の發達史上異數の高速度進運を示してゐる。又對岸鶴立崗炭礦を控へ良質の水を有することゝ相待つて工業都市としても將來を囑望されてゐる。

昭和十五年末人口は十一萬四千三百餘人（內地人一萬一千）を數ふるに至り明日への大飛躍が期待されてゐる。

康德元年（昭和九年）十二月、省政改革と共に三江省公署が置かれ、樺川縣公署の所在地でもありまた滿洲國國防上にも樞要の地である。

有名な彌榮・千振の開拓地は南方十數里にある。

（視察）驛―新埠頭―省公署―舊市街―東宮記念館―公園―忠靈塔―驛（馬車二時間三圓五十錢）（バス一台一時間二十一圓）

（視察斡旋）東亞旅行社（向陽大街三段地）

哈爾濱（京濱）

北滿洲の政治、經濟文化の中心都市としてまた過ぐる日まで東洋の巴里として特殊の異國情緒を持つ國際都市哈爾濱も一八九八年東淸鐵道の起工された當時は僅か五、六戶の家民が散在する廣漠無名の一漁村に過ぎなかつた。哈爾濱の歷史は東淸鐵道の建設によつて始まり之を中心とする露支兩國の勢力を不斷に反映しつつ發展した。そして昭和十年三月二十三日の北滿鐵路讓渡を契機として今日の哈爾濱は最早「東洋の巴里」でもなく又「東洋のモスコー」でもあり得ない。「哈爾濱夜話」時代を遠く過去に葬り去つて今や新興滿洲國の一心臟として躍動しつゝある。

氣候は緯度からみれば北海道の北端に當り冬期には零下三十度の極寒にも達するが

平均十五、六度で家屋の防寒設備によつて耐へ易く、夏季は最高三十四度位に昇ることもあるが平均二十二度、大陸性氣候の特徴として朝夕は殊の外涼しい。人口は昭和十五年末現在約六十八萬一千人（日本人約六萬三千五百人、外人竝に白系露人、三萬五千八百餘人）を數へ國內では奉天に次ぐ大都市である。

（視　察）驛―哈爾濱神社―中央寺院―忠靈塔―志士の碑―滿洲事變哈爾濱事變戰跡―王兆屯露人集團部落―ミルレル兵營―鐵道局―博物館―秋林洋行露人墓地―極樂寺―孔子廟―傅家甸―同埠頭―（觀光艇）―ザトン太陽島―キタイスカヤ―地段街―驛。

▼觀光バス―埠頭區の東亞旅行社を發著地とし所要時間約四時間、料金大人二圓五〇錢、小學生一圓五〇錢。

▼貸切自動車一時間五圓、市內見物約二時間十二圓

（土　產）ルパシカ（露製上衣）、寶石類、毛皮、白樺細工、ロシア菓子、ロシア食料品

（視察斡旋）東亞旅行社（中央大街七十八、丸商百貨店內、傅家甸、昌平二道街、ヤマトホテル內）觀光協會（中央大街）

齊齊哈爾（平齊）

氣候は所謂大陸的で寒暑の差が激しく冬季は最低三十八度夏季は最高四十度位に上ることあり降雨日數は約八十日位である。

齊齊哈爾は龍江或は龍沙とも呼ばれ、清朝が露國勢力の東侵に備へて建設した都市で二百數十年の歷史を有し當初から政治的、軍事的都市として發達した之は哈爾濱が露西亞人の手で純經濟都市として發達し僅々三十餘年の歷史しか有しないのに比して面白い對照である。昭和十五年末現在人口約十二萬人、（內地人三千七百餘人）龍江省の省城として政治的に重きをなしてゐる。又、經濟的にも消費市場としてではあるが哈爾濱以西に於て最も有力な都市である。

市街は嫩江を控へた大平原中に在る。內外の二城に繞まれ內城は官公衙街になつてゐる。日本人の多く居住してゐるのは外城の正陽街及び財神廟街である。

（視　察）驛―正陽大街―城內―南市場―嫩江―公園―忠靈塔―神社―關帝廟―天齊廟―驛。馬車で二時間半。

（土　產）瑪瑙細工、史國公酒、白樺細工。

（視察斡旋）東亞旅行社（大馬路）

黑　河（北黑）

咸豐八年（一八五八）締結せる璦琿條約實施後現在の對岸ブラゴエスチエンスク及黑河を總して黑河と稱し開市せるものにて目的は露領金鑛地方面より南下する支那人採金苦力引留策に黑河を慰安地たらしめ、一方、黑龍江右岸金鑛地方への物資供給地たらしめんがために、當時浦鹽にあつた山東人王治興に北地振興の特權を與へて華農を招致し、附近耕作地開發に努めたるに始まる。

其後光緒二十六年（一九〇〇）北清事變の際武市附近在住支那人約四千人の露兵による虐殺に遭い廢村となるも六年後浦鹽自由港撤廢に基き、南滿物資の露領輸入に起因して此の地に店舖を開くもの次第に增加し、加ふるに行政官廳の設置と共に各機關の中心地ともなり、第一次世界大戰勃發により、對岸貿易は一段の活況を呈し民國八、九年頃は貿易額大洋四千萬元、人口も五萬を算する殷盛時を現出した。

爾來蘇聯邦國策の變遷、國境紛爭、水害採金業の不振に兵變相次ぎ、住民の離散物資の缺乏と相俟つて商工業は逐次凋落の一途を辿り、大同二年皇軍の進出時には人口一萬に減少して極度の衰微を示せり。

滿洲建國後は治安の確保、黑龍江航行の復舊、北黑線の開通、道路の完成、林業の開發、新規金鑛脈採掘等北邊振興工作の進涉に依り著しく復活發展し人口も三萬五千餘を數ふるに至つた。

（視察箇所）黑龍江―ロシア人小學校―金廠―牡丹江製材、（所要二時間半、馬車三圓）。

（視察斡旋機關）東亞旅行社（中原街）滿拓公社

滿　洲　里（濱洲）

哈爾濱より汽車で約二十二時四十分、西部滿蘇國境驛である。歐亞連絡客は此處に入滿出滿の旅券檢査及び稅關檢査を受けなければならない。次驛オトポールでは蘇聯の稅關檢査、旅券檢査があり蘇貨への兩替も此處でする。人口約六千五百人、土產物はタルバガン毛皮がいゝ。

獨蘇開戰前までは亞歐を繫ぐ唯一のルートとして出滿旅客で雜踏を極めたが本ルートは現在杜絕してゐる。

（視　察）驛―エノケンチスカヤ神院―小原池―國境見學（要許可）―市政管理處―鐵道クラブ―驛

（以上馬車三時間二圓五〇錢）

（視察斡旋）東亞旅行社（三道街ニキチンホテル內）

錦　州（奉山）

錦州城は古く唐代から知られ、昔時遼西の貨物集散市場として頗る殷賑を極めてゐたが、その後營口の開港や南滿、京奉鐵道の敷設によつて經濟狀態は昔日の盛觀を失つたが、なほ熱河省を背後に持ち、近く壺蘆島の築港完成の曉は阜新炭田の開發と俟つて交通產業の上から當然重要性を加重されることゝなるであらう。現時に於ても熱河、內蒙に對する南支貿易の進口路に衝り、遼西の咽喉として、この地方の最大市場たるの面目を保持してゐる。

昭和六年七月現在人口約十四萬一千七百餘（內地人一萬八千二百餘人）に達し都市計畫の進展に伴つて益々人口の增加を豫想されてゐる。

（視　察）驛―錦州神社忠魂碑―鐵道局―中央大街―白雪公園―北門―文廟―市立民衆教育館―關帝廟―錦州塔―大廣濟寺―東門―地藏寺―驛（馬車三時間一圓八十錢、洋車一圓、自動車二時間八圓）

（土　產）錦州漬、瑪瑙細工、蜂蜜、棗漬。

（視察斡旋）東亞旅行社（驛前）觀光協會

承　德（錦古）

承德は滿洲事變後熱河討伐に依り一躍その名を邦人間に知られた所、清朝の蒙古民族懷柔の根據地として又同朝の離宮、喇嘛廟の所在地として更に又湯玉麟が一世の豪華を極めた名殘の地として幾多の歷史を有する東洋屈指の觀光地である。前記皇軍の熱河討伐と鐵道開通に依り久しく閉された秘境の扉は開かれ更に數年前承德北京間の鐵道建設により承德、北京の二大觀光地を結ぶ觀光ルートの完成を見て、今や世界的ツーリスト・ポイントとしての輝かしい前途を祝福されてゐる。人口四萬五千餘人（內地人四千餘人）。

承德を一名熱河と云ふのは、蒙古語のハロン・ゴル（熱い河）を漢人が直譯したものである。

（視　察）市內中心―忠靈塔―承德神社―西大街―觀光道路（展望地）―喇嘛廟（普寧寺、羅漢堂、須彌福壽廟、普陀宗乘之廟、殊像寺）―避暑山莊（離宮）―市內中心。

▲乘物料金、人力車四時間一圓（除觀光道路）馬車四時間二圓（除觀光道路）自動車三時間七圓、二時間五圓（除忠靈塔、觀光道路等）觀光バス―毎年九月一日より翌年三月末日迄冬季運行休止―三時間一圓五〇錢。

▼參觀料　避暑山莊―個人　大人一人に付國幣二角小兒一人に付國幣一角。團體二〇名以上のもの大人一人に付一角、小兒五分。

八大寺―大人五〇錢、軍人學生二〇錢、小學生以下一〇錢、團體（二〇人以上）一人に付大人二〇錢、中人一〇錢、小人五錢。

（土　產）熱河風俗人形各種、佛像模型、色紙風景壁掛、喇嘛寺煎餅、熱河魚化石、楡細工、絨氈、蒲の穗細工。

（視察斡旋）東亞旅行社（南營子大街）承德觀光協會）承德驛。

北　鮮

清　津（津清）

府民の大部分は商業を營み其の商勢圏も北鮮一帶は勿論間島省一圓、東北滿に及んでゐる。日露戰爭の際北韓軍の軍需品陸揚地となつて以來荒涼たる一漁村も一躍商埠地となつて內外人の移住

者逐年增加し明治四十一年開港場となり現在人口二十萬餘北鮮第一の大都市である。輸出入物の國際呑吐港として活躍し尙今後の素晴しい發展が期待されてゐる。府の西方輸城大平野は輸城川が貫流して居りその川尻に設けられた漁港は規模の大なること朝鮮第一で、沿岸一帶及び蘇領沿海州の豐富なる漁獲物の大部分は此處でフイッシュミール、魚油或は罐詰等に加工されて歐米に輸出され、將來の大工場地帶として諸工業が計畫され已に建造に着手されたるものもあり一面危惧された羅津開港等にも微動だにせぬ殷盛さを示してゐる。

此の地は日滿連絡の最短路たる敦賀―北鮮航路、新潟―北鮮航路の發着地である。

〔觀　察〕驛―工場地帶―漁港―高秣山（タクシー、貸切バス共に所要二時間）

〔土　產〕鹽うに、つるちゆく（白頭山に產する高山植物）、鏡城硯、水晶製品、林檎、白波干（鱈の干物）

〔觀察斡旋〕東亞旅行社（埠頭前）

羅　津（北鮮）

築港計畫が完成すれば、大連に比肩する繁盛を約束されて居り、東洋一を誇る良港の性質を備へてゐる。京圖線の終端港として日滿交通の最重要地點たるのみならず滿洲物資の歐米輸出港でもある。總督府に於ては人口三十萬を目標とする市街地計畫を完成し、滿洲の裏玄關として辱しからぬ近代都市美を完成するに至つた。

更に羅津の飛躍的發展を企圖し現在の羅津府と雄基邑との地域を劃する特別市制を造り、咸鏡北道より分離して羅津廳を開廳する時期も近きにありと信ずる。數年前まで戶數二十足らずの一漁邑新安洞も今では府制（市）が布かれ人口三萬五千人（內地人約一萬人）を數へ日一日と鮮やかな進展を續けてゐる新興都市である。

尙本港は滿洲開拓民の輸送路に當り每船數百名の拓士が陸續上陸して特有な風景を呈してゐる。

〔觀　察〕驛―ヤマトホテル―府廳―開拓館―鐵道局―埠頭港灣―驛―所要徒歩二時間、自動車約一時間、ハイヤー四圓、バス貸切 三十人乘 二十一圓、個人三十錢。

〔土　產〕帆立煎餅、うに、うに漬、帆立粕漬、明太子、ツルチユツクシロツプ等。

雄　基（北鮮）

朝鮮最北部日滿露三國境に近く、古くより海路交通の要衝に當り大正十五年開港、羅津、淸津と共に北鮮三港の一で人口二萬五千を有する北鮮屈指の港都である。木材石炭及び穀類等無盡藏の寶庫東北滿洲及び北鮮一帶を背後地として之等物資の輸出に獨自の活躍を示して居る。

中　國

山海關（奉山―京山）

山海關は奉山線の終點驛で京山線との接續驛である、前面渤海を控へ後に高嶺を負ひ東北に長城の蜿蜒たるあつて正に山海の關門を成してゐる。城內東門樓上に「天下第一關」の大額が幾星霜老大國の歷史を秘め今尙懸けられてゐる。有名な萬里の長城は千三百年の昔隋の煬帝の築くところで、南海第一砲下老龍頭より起り山海關市街を連ねて角山を攀ぢ之より右折して遠く西北方に走つてゐる。

市街は長城を滿支國境線として東羅城、城內、南門、西門の四部よりなつてゐる。

この地は國防の要地と共にまた物資の集散地であり昭和十六年七月現在人口四萬七千七百餘（內日本人約二千四百五十）滿支國境驛であるから此處で稅關檢查があり貨幣も兩替へせねばならぬ。

〔土　產〕鮎、海老のうるか漬、干鮎、落花生

〔觀　察〕半日コース　驛（旅館）―天下第一關―北門―角山寺―驛（旅館）一日コース　驛（旅館）天下第一關―角山寺―南門―石河―南海―驛（旅館）

乘物　驢馬―半日コース五時間半 二圓 五、六十錢 一日コース十時間四圓。

〔觀察斡旋〕東亞旅行社（南關中街七四號二）

唐　山（京山）

光緖以前は茫漠たる荒野に過ぎざりしが開灤炭礦採掘開始と共に漸く拓け、民國初年以來交通の發達に伴ひ穀物の集散地將又開灤炭の本場としてセメント、紡績、窯業等諸工業簇生し、工商益々殷盛に向ひつゝある。爲に狹隘なる市街は變則的に伸びて東部は灤縣に、西部は豐潤縣に屬し喬頭屯等十二ヶ村が本市の一部を構成してゐる。

支那事變中通州事變勃發により冀東自治政府は昭和十二年八月四日首都を通州より當市に移し、翌十三年二月臨時政府に合流後も依然冀東道公署所在地として名實共に冀東行政經濟の中心地たり。

產業としては先づ何よりも鑛業資源に惠まれ長城山脈一帶の金鑛を始めとし、石灰其他の資源は今や冀東の中心たる唐山を工業都市として飛躍せしめつゝあり。

尙當市には北支第一の華北交通鐵路工廠あり、十三年四月市制の實施を見今日に至つてゐる。

〔觀察箇所〕唐山站―開灤―啓新―糧市街―新立街

站より洋車にて二時間一圓五十錢。

〔土產物〕鷄の丸燒、蜂蜜、蒸糕（蜂蜜製菓子）

〔觀察斡旋機關〕東亞旅行社（新立街十九號）

天　津（津浦・京山）

天津は明の永樂二年此處に城を築いてより爾來六百年間白河を母體として發達した北支第一の經濟都市にして、白河河口より三十六哩、水陸交通の要地なり。現在の如く大發展を遂げたのは、主として北京條約の結果、此處に各國の居留地が設けられてからである。人口約百二十萬、北支第二の都會にして、市街は支那街、日英佛伊の租界及び特別區より形成され、各國の色彩を夫々此處に移して、異彩ある街衢が構成し宛然列國殖民地制度の展覽會場の如き觀を呈し、各國の對北支政策の基地であつた。

この地は元來觀光資源には乏しいが天津の特異性である各國獨自の租界經營狀態等を比較研究するには好箇の生きた資料でありまた興味深いものがある。

〔觀察順路〕天津站―萬國橋―佛界―英界（ビクトリアロード）―ビクトリア公園―特別一區―大連碼頭―英界（エレジンアベニユー）―馬廠道―ロンドンロード―廣東路―共同墓地―フランス公園―日本租界―旭街―宮島街―大和公園―天津神社―海光寺―福島街―南馬路―城內―鼓樓―西馬路―南大寺―北馬路―金鋼橋―李公祠―大經路―北寧公園―金鋼橋―舊河沿―金湯橋―特二區―伊租界―天津站（所要時間自動車にて約三時間、バス一時間十圓、ハイヤー一時間八圓）

〔土產物〕天津人形、甘栗、皮革類

〔觀察斡旋〕東亞旅行社（日本租界旭街一二、東馬路南大門一三六、驛前）

北　京（京山・京包・京漢）

北京は約一千餘年前、滿蒙地方に興つた遼が此の地に都城を築いて以來引續き金、元、明、淸の王朝が宮居した帝都で、淸朝が滅亡して中華民國となつた後も國民政府が南京に遷都するまでは、やはり支那の政治中心地として繁榮した北支那第一の大都會であり、今次支那事變を契機として中華民國臨時政府更に現華北政務委員會の首都となつた。

北京は一千年の間各朝廷が一國の首都として經營した上に近くは康熙、雍正、乾隆三代に亘る燦然たる東洋文化の黃金時代も實に此の地を中心として現出されただけに後年兵亂に依つて荒廢したとは云へ今なほ老大帝國の帝都としての偉觀を備へ、世界的觀光都市として全世界ツーリストの憧れの地となつてゐる。

北京市の總面積は大體七一九・二五平方粁で丁度東京市と同じ位の面積を持ち最近の人口は約二百萬（內地人十萬餘）を突破せんとしてゐる。市街は內城と外城よりなり內城は主として官衙、住宅街、外城は商業區となつてゐる。內城の公使館區域は共同租界の樣なもので一切支那人の居住を禁じ各國大公使館は凡てこの地域に軒をなら

べ外國商館等もこの區域にある。

北京は朱壁黃甍を隨所に見る街全體が一國の名所舊蹟である。從つて其の觀光箇所も非常に多く、一通り市內外を見物するとしても自動車で先づ二日乃至三日を要するであらう。

▲市營觀光バスコース
北京站—北海公園—古物陳列所—萬壽山—天壇（入場料共六圓所要七時間）

（土 產）毛皮、翡翠、珊瑚、骨董、文房具、七寶、玉細工等。

（觀察斡旋機關）北京驛構內案內所、東亞旅行社（北京東城崇文門大街、王府井大街、北京驛構內）

通州 （通州）

通州は事變前舊冀東防共自治政府の所在地であつた。支那事變の初期、昭和十二年七月冀東保安隊叛亂以來發展を阻止された貌となつたが皇軍の宣撫と新來邦人の努力に依つて城內に復歸するもの多く、復興通州をめざしての發展は見るべきものがあり現在人口は城內外を合せて三萬と云はれてゐる。此地は由來大運河北部の起點で鐵道開通迄は南方支那より北京に入る貨物の唯一の關門をなし又海路天津經由北京に入る要衝に當つてゐた。支那事變當初通州事件の發生地として日本人には忘れ得ない處である。

（觀 察）燃燈古塔—寶通寺—楡林—水月庵—鼓樓—八里橋—桃花林

保定 （京漢）

國民政府成立後は淸苑と改稱されてゐたが前淸以來保定府と稱ばれ舊直隸省の省城であつた。民國八年巡閱使曹錕が駐在するや、施設の改善、產業の振興に力を傾注した結果、未曾有の活況を見たが、民國八年曹錕の離去に從つて一時不況に陷つた。其後一時河北省政府を天津より移轉して景氣の恢復を見たが、支那事變勃發と共に支那軍に蹂躙された。其後皇軍援助のもとに同省公署の復活を見、急速な建設工作に依り面目を一新した。

此處は北京、石門の略中間にあり附近に數多の河流をもち、天津との間には自動車道路あり軍事上の要衝であり、曾て保定軍官學校の所在地であつた。現在人口約十三萬五千五百餘（內地人二千五百）である。

（觀察箇所）保定驛—忠魂碑—西關—天華市場—蓮花池—新民公園—保定驛（徒步約四時間、洋車約二時間約一圓）

（土產物）蓮藕、上布、醬菜、鐵球（手中に弄ぶ球）支那漬物。

（觀察斡旋機關）東亞旅行社（車站大街十五號）站案內所

石門 （京漢・石太・德石）

石門はもと獲鹿縣の一小村であつたが正太鐵道の敷設工事が開始され其の起點として光緒三十三年開通後は大小商店の進出增加し漸次繁盛を來すに至つた。

その後國內の動亂相續き農村は疲弊し商家の倒產するもの續出し市の發展上に大頓挫を來したが民國十七年北伐成功の後、內外の狀勢次第に復舊し漸次繁榮を來すに至つた。かくて支那事變勃發昭和十二年十月皇軍この地に入城してより各地に避難してゐた住民も次第に歸來し、今は人口十七萬七千餘（日本人側一萬三千餘）に激增し更に人口五十萬都市計畫をめざして躍進を續けてゐる。市街は京漢線により橋頭と橋西に分れてゐる。

昭和十五年德石線も開通し、無盡藏の資源を背後地竝に附近一帶に擁し交通上の要衝に位する當石門市の將來は實に洋々たるものがあらう。

附近正定、獲鹿には名勝舊蹟が多い。

氣候は極寒期と雖も零下四、五度程度であるが六月に入ると酷暑甚しく黃塵は天に冲し酷暑が襲來して近くは井陘、遠くは靑島方面に避暑する者が多い。

（觀 察）驛—興亞公園—大橋街—昌平街—共存街—新華街—石門神社—石門在支國民學校—女學校—阜寧路—驛。

（土 產）タオル、椅子用絨氈、センターピース、テーブル掛、座布團カバー、ブックカバー、ハンドバック、婦人丸帶、竹細工花籠、人形類、綿製マット。

（觀察斡旋）東亞旅行社（阜寧路）

濟南 （津浦・濟膠）

濟南は山東の省城で黃河によつて形成された肥沃な黃土地帶の中心地である。西は遙かに中原の大平野に續き、北は京津の政治經濟の中樞に連り、南は揚子江の膏腴地に至る。津浦、膠濟の兩鐵道はこゝに會して黃河の水運と連絡し北支に於ける北京、天津につぐ經濟交通上の大都市で昭和十五年七月末現在の人口五十一萬三千六百餘、內地人一萬七千七百餘を數へ、十二年十二月皇軍入城後已に二箇年餘により治安は全く恢復した。

（觀 察）驛—商埠中山公園（大觀園）—日本領事館—在支國民學校—同仁會濟南病院—忠魂碑—趵突泉—廣智院—千佛山—黑虎泉—太公望釣魚跡—舊省政府跡—太明湖—省公署—黃河—鐵橋—北公園（自動車四時間二四圓）

（土 產）硯、ステッキ、博山燒、濟南漬、肉の華（ドライビーフ）、碑文石刷、蓮實菓子。

（觀察斡旋）東亞旅行社（大馬路五〇七、會泉路、城內普利門街、東海飯店）。

青島 （濟膠）

市街は港灣に臨んだ丘陵の自然を利用しここに獨逸の文化を移したゞけに綠林に赤瓦を點綴した瀟洒な街相は街全體遊園地の趣がある。人口五十六萬二千餘（內地人二萬九千四百餘人）、卽墨、膠縣編入後の新市街總人口は百九十萬を數ふるに至つた。

この地は明代に海哨が置かれ和寇を防いだ所で降つて淸の乾隆年間に膠州稅關が設けられ、光緒十七年始めて砲臺を築いて沿海の要害に備へ鎭守軍署を置いたがなほ寥寂な村邑にすぎなかつた。其後獨逸の東亞進出の根據地となるや一躍黃海沿岸の主要市場として登場した。青島の名稱が世界的に知れ渡つたのは明治三十一年ドイツの膠州灣租借以來のことである。ドイツは此處を膠州灣保護領と稱し、東洋に於ける陸海軍唯一の根據地となし、要塞、軍港を築造市街を開設する等、孜々として經營に當り爾來十有六年日獨開戰に至るまで膠濟鐵道の敷設をはじめ、炭礦其他山東一帶の開發に投じた資本は實に二億マークの多きに上つた。然るに歐洲大戰後この地に有する獨逸の權益を一時わが國が繼承したが華盛頓會議に於て之が放棄を聲明し、山東鐵道の借款のみを保留したのであつた。かくて青島の行政權は二十六年振りにて中國の行政下に復歸した。支那事變起るや、十三年一月我が海の精鋭が無血上陸、續いて陸軍も來靑した。

（觀 察）旅館又は驛—埠頭—青島神社—市公署—湛山寺—太平公園—會姓岬—忠の海—第一公園—忠魂碑—太平路—海軍棧橋—山東路
料 金—タクシー四人乘二時間十六圓、バス二十人乘一臺三時間四八圓、觀光バス一周三時間三圓

（土 產）牛肉營養煮、蜂蜜櫻飴、小櫻飴、チョコビーフ、イチゴ（五、六月）リンゴ、西洋梨、ブドウ、水密桃（七月より十月）

（觀察斡旋）東亞旅行社（堂邑路二十八號、奉天路、東海飯店內）青島觀光協會、青島日本商工會議所）

芝罘 ・渤海岸・

渤海の咽喉を扼する要港にして北支貿易港として一時殷盛を極めたが輓近大連、青島、營口、龍口等に制せられ中繼港としての價値を失ひ幾分衰退の狀態にある。昔の狼煙臺—烽火を揚げ倭寇の防備に任ぜしめた地で支那人の間には昔ながらの煙臺の名をもつて呼ばれてゐる。

人口約十一萬と推せらる。

徐州 （津浦・隴海）

國民政府成立後銅山と改稱されてゐたが清朝は徐州府を置いた地で西楚霸王（項羽）

の古都であり古來より南北往來の要衝であつた。津浦、隴海兩鐵道開通後はその交叉點となり山東、河南、安徽、江蘇の軍事、交通上の死活を制する要地となり、民國以來幾度かの內戰において南北兩軍爭奪の地となつた支那中原の軍事的要衝地であつた。昭和十三年五月皇軍入城と共に次第に平和を取戻し人口十七萬三千五百餘（日本人六千七十）に增加し、附近には今尚名勝古跡多く昔漢の高祖と楚の項羽が戰つた古戰場などもある。また支那事變に西住戰車隊奮戰の地としても記念すべき地である。

市街は停車場附近に發達せる新市街と城內竝に城外は南關、東西關、北關の順序に殷盛なる街路を形成してゐるが、城壁は兵火水災によつて形態を止むるものなく、現在城內と新市街とを區別するに難い。

（視察）驛—徐州神社—忠魂碑—迎春臺—物產館—西楚故宮—雲龍山—戲馬臺—快哉亭公園—驛（徒步五時間、洋車三時間一圓五十錢）
（土產物）柳行李、鞣其他革製品、果物
（視察斡旋）東亞旅行社（月波街四八）

開封（隴海）

五代及び北宋の古都で淸朝は開封府を置いて治め以後河南省の省城であつた。附近一帶は平原であり北は黃河によつて河北、山西省と界し、東は山東及び江蘇徐州に通じ西は鄭州、洛陽を經て陝西省に至る隴海沿線中の人口二十萬七千人（內地人九千餘人）を有する河南に於ける經濟商業の中樞地であり支那中原の大都市である。此地は北宋の故都であつたので宋代の宮城その他の古跡が豊かである。

（視察）驛—河南省立博物館—新民公園—龍亭—鐵塔—相國寺—市場後街—驛（洋車にて二時間二圓）
（土產物）（綸ハカキ、桐下駄
（視察斡旋）東亞旅行社（相國寺後街三六）驛鐵道案內所

鄭州（京漢）

附近棉花及び米を多量に產し、事變前までは漢口及び上海方面の商取引が盛んであつた。平漢鐵道開通後商埠地に指定した爲漸次內外商人の進出するもの增加し中原に於ける一大貿易市場を形成するに至つた。この地は黃河南岸五十三支里の地點にあり京漢及び隴海線の交叉點に當る支那中原の軍事經濟上の重要都市である。

昭和十六年九月の河南作戰により鄭州も遂に皇軍入城を見るに至つた。

連雲（隴海）

連雲港は支那中原を貫く隴海線の門戶を扼し興都海州を背後に、門司との最短距離五百浬、徐州へ鐵路二二三粁の地點に在る今次事變に際し中國軍の手により徹底的に破壞され加へて長期間に亘り放置されてゐたので最近まで砂泥の堆積甚だしかつたが、其後日本側により修築されて漸く三千噸級船の離着が可能となり隴海線奧地の開發と棗莊、中興兩岸主要物資の輸出港として將來性をもつにいたつたが未だ開港場に非ず。現在人口は約五千（日本人一千餘）氣候は概ね溫暖にして寒暑の差すくなく日本人の居住に適す。

碼頭の前面に鷹遊島を控へ、背後に雲臺山を負ひ、市街は此の雲臺山腹の斜面に在る。

（視察斡旋）驛、東亞旅行社、碼頭事務所

太原（同蒲・石太）

山西省の省城で東北二面に山を控へ前後に河を有する要害堅固の地、山西地方政治經濟の中心地である。歷代太原府又は順撫使署等の行政廳が置かれ今次事變當時までは山西省政府の所在地であつた。位置は正太鐵道の終點で殆ど山西省の中央にある。

太原城は九百六十年の昔、宋の太宗により築かれたもので、其後明代に至つて修築され、規模宏大にして小北京の觀がある。

城內は鼓樓其他大厦高樓櫛比を竝べ、道路は鋪裝されてゐる。

久しく山西モンロー主義を唱へた閻錫山

の經營に依り幾多の工場建設があり、山西自給自足を目標とした近代工業の跡が見られる。

支那事變により抗日赤都太原は昭和十二年十一月皇軍の入城するところとなり現在人口十五萬二千餘（內地人一萬三千餘）、昔に優る繁榮を迎へ、周圍に幾多の地下資源を持つ太原の前途は刮目に價するものがあらう。

（視察）驛—新民公園—龍王廟—省公署—キリスト敎會—大北門—太原神社—博物館—驛（人力車四時間三圓五十錢、自動車一時間半約十圓）
（土產）銀製品、葡萄酒、葡萄、皮革類
（視察斡旋）東亞旅行社（首義門街四九）

上海（海南・海杭）

上海港が世界獨立國約六十の殆ど總てを相手として全支對外貿易額の一半以上を占め更に長江流域を其の直接の背景として同流域對外貿易の九割內外を掌理すると共に人口大約四百五十萬（日本人八萬三千餘人）を抱擁し而も世界約四十箇國の國民各人種を網羅し所謂國際都市として異狀な發達を遂げ財政、商業、工業及文化の諸點に於て全支那の指導的地位を獲得するに至つたについては遠く八百六十餘年の長き歷史を閱し、一八四三年の開港後に於ても尚對外貿易港として九十有五年の歷史を有してゐる。

宋の熙寧七年に初めて上海の地名が與へられた。以前は華亭海と呼ばれその後二百數十年を經て元代に縣城となつて稍繁盛を見た。蓋し今日の繁榮の基礎は南京條約に基き一八四三年開港された以後にある。而も之が繁榮の中心は租界に在り、なほその位置及び背後地との關係が中支における一大集散市場たらしめ、極東に於て大連、香港の鼎立關係に於て優位にあり今日の繁榮を遂げしめた主因である。貿易總額は一九三七年に於ては九億一千三百餘萬圓に上り實に全支輸出入額の五十五％餘を占めてゐる。又支那隨一の工業都市にて凡ゆる工場を有し邦人も紡織其他の工業に從事し巨大な勢力を有してゐる。商業の中心は共同租界殊に黃浦江に近接する部分で虹口方面は小賣業の盛地で邦人の居住者が多い。

（視察）旅館（呉淞路）—（虹口マーケット）—文路—日本人クラブ—北四川路—郵便局—北蘇州路—（ブロードウエイ・マンション）—ガーデン・ブリッヂ—パグリック・ガーデン—バンド（日本郵船、正金、キヤセイホテル）—南京路（パレス・ホテル、トーマスクツク、永安公司、先施公司、新新公司、大新公司、新世界）—靜安寺路（競馬場、パークホテル、外人墓地）—愚園路—ゼスフイールド公園—中山路—虹橋路—（東亞同文書院）—アベニユーヘーグ（徐家滙天文台）—祁齊路—（自然科學研究所）—畢勛路—（日本大使館）—霞飛路—愛多亞路—アベニユー・エドワード七世—（平和女神像）—バンド—（日本總領事館）—南潯路—閔行路—崑山路—（居留民團）—北四川路—（海軍陸戰隊）—上海神社—新公園—狄思威路—呉淞路（旅館）以上大約四時間

▲戰跡視察順路
呉淞路（旅館）—北四川路老舗子路（ポケット地帶）—北停車場—商務印書館—西八字橋—八字橋—水電路（廣中路激戰地）—江灣鎭—江灣競馬場—復旦大學（維新學院）—五條ケ辻—市政府、大正通—大場鎭—閘北戰跡—北四川路—呉淞路（以上大約四時間）
（土產）外國煙草、寶石類（翡翠、ダイヤモンド）支那特產糖果類、絹織物、絹手藝品、柴細工、骨董品、刺繡、麻雀、皮革製品等。
（視察斡旋）領事館、居留民會、商工會議所、東亞旅行社（北四川路一、三二四、四川路一一〇）

蘇州（海南・蘇嘉）

上海南京間の大都會にして、杭州と竝び稱せられる歷史上有名な都市で周初呉の太伯の邑で春秋の頃呉國の首都となり名を姑蘇と云つた、日淸戰爭の結果開市場となり我邦の專管居留地も存するが水路の要衝と產業的位置を上海に奪はれ政治は南京に移つて昔日の面目はなく貿易は殆ど國內取引に限られ事變以後は特別制限による陸路の交易に息をつく現況である。

古來「上有天堂下有蘇杭」と云はれた地上の樂園とされ又美姬の產地として知らる。

姑蘇二千六百橋と云はれる程水運に便であ

り支那のヴェニスと讃へられて名勝舊蹟に富み遊覽客が絶えない。

現在人口は復歸せる中國人を込めて四十萬(內地人三千)と稱せらる。

(土　產) 刺繡布、紫檀細工、麻雀

(觀　察) 驛—寒山寺—虎邱—西園 (以上城外コースタクシにて三時間)
驛—北寺塔—玄妙觀—獅子林—滄浪亭(以上城內コースタクシーにて二時間)。

(觀察斡旋) 東亞旅行社(蘇州百貨公司內)

無　錫 (海南)

江蘇第一の工業都市として上海についで江南に重きをなし、棉糸布、繭等を多額に產し、尙製粉、製油、染色、釀造等の諸工業甚だ旺んであり、又蕪湖と共に米穀の一大集散地である。今事變に於ては城の內外共大なる戰鬪はなかつたが空爆により街の大半は破壞せられた。

其後市街の復興目覺しく城の內外共戰前の繁榮を取戾すのも近きにありと見られてゐる。此の地は昔錫山又は有錫と稱したが漢の高祖が無錫と名付けたと云はれる。縣城の西南十粁餘に風光明媚を以つて名高い太湖、西に錫山、惠山、横山、九龍山、唐山等の諸山が連り、東北南は江南大平野である。縣城は驛の南約一粁にあり、就中北大街は商家櫛比し市第一の殷賑を極めてゐる。人口約二十五萬、內日本人は一千二百餘である。日本で愛玩されてゐる海鼠の火鉢、茶器、植木鉢等は此處で製造される。

(觀　察) 驛—(繁華街を視察)—控江門(北門)—(城內最繁華街)—新民路南端—(東　折)—南門—南門外側南禪寺—公園—光復門—驛(洋車約二元)
尙舟によつて城の外側クリークを巡するも可。

(土產物) 惠山泥人形、麵筋等。

常　州 (海南)

江蘇省武進縣の中央に位し、水陸交通の便によく、江南の主要都市として知られ驛は最近まで武進驛と稱ばれてゐた。

人口九萬を有し江南隨一の工業都市として染織機、製油機、紡績機等製作工場多く驛より二粁天寧寺は弘法大師留學所と云はれ、江南に於ける第一位寺院で事變前は僧侶六百人が修業してゐた。

鎭　江 (海南)

南京前衞樞要の地、西暦一八六一年天津條約に依り開港場となるも、鐵道開通により從來運河に依る生產物が鐵路に移つたため、爾來衰微の一途を辿つた。市街は城內と城外とに分れ、城壁は吳の孫權築造に係り、後長髮賊の亂に壞れて一部を殘してゐるに過ぎない。

支那事變では一時死都と化したるも、昭和十二年十二月皇軍の占據するところとなり、逐次恢復して人口も約十五萬五千(日本人一千百名)を數ふるに至つた。

市街は三方山を巡らし、自ら天險をなし一面揚子江に接する半盆地にして、市內と雖も丘陵多く從つて交通機關の發達をみない。

(觀察箇所) 金山寺—甘露寺—焦山島—鎭江公園—吳園—竹林寺
乘物料金…驛—中山路(五〇分、八〇仙)驛—金山寺—甘露寺—驛(三時間半、三弗五十仙)

(土產物) 金山漬

(觀察斡旋機關) 東亞旅行社

南　京 (海南)

こゝは戰國時代初めて金陵邑を置き秦の始皇帝は秣陵と改め兩漢がこゝにより三國の時吳の孫權は國都を建てゝ建業と名附け成祖の時南北兩京をたてゝ南京と稱した。南京の名はこの時から始まつたのである。

明の衰へると共に南京も亦昔日の盛華を失ひ清朝の興るに及んで兵戰の巷と化し、更に咸豐三年長髮賊は南京を占領して太平天國を建設したが再び清朝に歸した。

民國革命の勃發まで四十餘年間は太平無事にして諸般の生業は興り商運盛んとなる氣運にあつたが宣統三年革命渦中に陷り孫逸仙は中華民國第一次大總統としてこゝに

假政府を建て、以て永遠の首都とする意向であつたが、袁世凱が大總統となるに及び彼は遂に北京に留り、南京の諸機關は自ら北京に移つてしまつた。民國二年第二次革命には黃興が此處に據つて討袁の旗を飜したが、戰利あらずして海外に走り、張勳は部將として南京に打ち入り大に虎勇を奮つて商舖を掠め、良民を殺し、蠻行の限りを働いたのである。

國民革命軍は十六年三月江南を衝いて一大修羅場を現出し、南京を陷れるに及んでは各國在留民に對して暴虐を盡し、遂に在泊中の英米の砲艦をして火蓋を切るに至らしめ南京事件を惹起した。民國十七年夏以來國民政府の事實上の中華民國首都となつて新裝を凝らして來たが、支那事變によつて再び主要機關は打ち碎かれた。

南京の商取引の對象は地方的都會であつて遠地との通商は上海に讓る。然し生產物は豐富であり殊に織物業中でも絹織物の元靑緞(南京繻子)、緞子はこゝを本場とし日本婦女の帶地として愛用される。

城壁は周圍三十餘粁、十數門を以て外部と通じ規模の大なること北京につぎ支那事變後は維新政府の所在地となり、昭和十五年三月三十一日汪精衞を首班とする更生國民政府の還都あり爾來中國の首都である。人口約七十萬人にして日本人約二萬四千餘人。

(觀　察) 新市街口—玄武湖—中山門—明孝陵—中山陵—光華門—中華門—夫子廟—新街口 (遊覽バス二時間半三圓、(自動車一五圓)

(土　產) 繻子、緞子、團扇、陶磁器、板鴨(家鴨の鹽漬)等。

(觀察斡旋) 東亞旅行社(中山路一)

嘉　興 (海杭)

蘇家線の分岐點で戰前は人口十三萬を有してゐた。古くは楊州と稱し後に嘉興府となつたもので、附近一帶は平坦にして地質肥沃のため穀類の生產多く、殊に米は年產四百萬石を超へ、又繭、魚菜、煉瓦、織物紙、生絲を產し、今後に於ける產業方面の活躍が期待されてゐる。

(名　勝) 煙雨樓、三塔

杭　州 (海杭)

杭州は四千年來の古都で所謂彼の「楊州の域」と云ふのは今日の杭州府に屬する地域であると云ふ。浙江省の首都で馬關條約以來開港場となつて居る。市街は城內及び城外(湖墅)にわかれ鐵路、水路共至便で、商工業も極めて繁盛してゐるが西湖十景をはじめ名勝舊跡地としても有名で、元の始渡來せるマルコポーロをして景勝世界に冠たるものであると嘆賞せしめた程である。

氣候は概して良好で、四季の變化も餘り激しくなく日本人にも適するといはれて居る。冬は華氏四十度內外で寒氣はさほど激しくはないが、夏季は屢々百度に達する。降雨は一般に多く殊に六月と九月が最も多量である。

現在人口は三十五萬四千人(日本人二千五百人)である。

杭州城站より西約三粁、人力車、バス、自動車で數分乃至十數分で楊柳繁る西湖畔に杖を止むることが出來る。湖は白沙堤と蘇東坡の築造したと傳へらる蘇堤と金沙堤の三堤によつて西湖、北裏湖、西裏湖、南湖に分れて居り、その周圍十三粁、三面山を繞らして秀峰翠を競ひ、碧水滾々と流れ四季共に格別の趣がある。

一說によればこゝは錢塘江の流土によつて形成せられた陸地に殘留した河川の一部であるとされてゐるが眞僞は不明である。

附近には西湖十景を始め靈隱寺、天竺寺岳飛の墳その他名勝、古蹟は頗る多く、興亡幾百年の歷史を湖畔に秘めて古雅な香を放つてゐる。

(觀　察) 驛—城內三元坊—鳳山門—萬松嶺—淨慈寺—錢塘江—(六和塔)—蘇堤—岳王廟—玉泉寺—雲林寺—(三天竺)—中山公園—放鶴亭—平湖秋月—斷橋—湖濱公園—新市場—驛(自動車二時間乃至四時間、二五圓乃至三五圓、バス同時間五〇圓乃至七〇

圓、人力車六時間乃至十時間三圓乃至五圓

（土　產）龍井茶、鋏、鳳景綫、白扇子、藕粉、蒓菜。

（視察斡旋）東亞旅行社（新民路二區三二五）

蕪　湖　（南寧）

南京を朝の汽車で立つと夕方到着する。人口二萬を有し安徽省隨一の都會である。光緒二年（六五年前）英支芝罘條約により開放されに開港場で、目下日本人も七百餘名住居してゐる。市街は北京路、大馬路等あるも他は道路狹隘にして支那家屋櫛比混雜を極めてゐる。附近農民は米、菜種、小麥大豆、葉莨、茶等を產し、殊に米は蕪湖米として知られ支那隨一の稱がある。

驛より二粁李鴻章公園があり夏は納涼氣分を味ふ人々で賑ふ。

武漢三鎭　（京漢・粤漢）

武漢三鎭―漢口（百萬）、漢陽（二十萬）、武昌（三十萬）―は大約百五十萬の人口を擁したるも事變後の現在は大約百萬人程度（日本人一萬三千餘）周邊地區の治安も全く恢復して戰前にも優る活況を示してゐる。此處は上海地方に次ぐ中支に於ける政治、產業、文化の中心地であり、水運の上からみても海洋航路の六千噸級汽船が、揚子江六百三十哩上流の漢口まで定期に航行し夏湖は一萬噸の汽船も運行し京漢鐵路、粤漢鐵路の發着點にて、水陸四通八達、交通至便の要地である。資源の上からみても「兩湖みのれば天下饑ゑず」の諺にある程附近は農產物の產出が豐か、加ふるに大冶鐵山始め石炭、銅、錫、マンガン等の重要資源の產地を控へ　往古より「九省の會」と稱されてゐる。氣候は江南地方と大體同じであるが、河湖交錯し凹地を有してゐるため、夏は時に攝氏四十度と云ふ酷暑が襲ふも晩秋は爽快にして頗る長く、好季節である。

武昌は最古の市で省政府があり政治上の中心であり清末の傑物張之洞が湖廣總督として文化施設に努力した處で、支那事變數年前工費二百萬圓を以つて竣工した武昌大學はかつて共產抗日學生の巢窟であり、一九一一年辛亥革命の旗擧げをしたのも此地である。漢陽は揚子江の西岸漢口と漢水を隔てゝ位する工業都市、往年の製煉所、兵器工廠、製革工場等の跡を存し盛況がうかがはれる。

漢口は新興商業都市にして、市街は外國租界（日、佛）と特別區、支那街に分れて、市街の東北を占める外國租界地帶は近代的建築を持つ清潔な市街で江岸通りの廣いアスファルト路に各國の碼頭が竝んでをり、最も繁華なるは舊英租界と支那街の間にある江漢路である。尙漢口のバンドは東洋一と稱せらるゝ程の美觀である。

（視　察）

▲漢口、日界―バンド通（日界―特一區）―佛界―特二區（舊露租界）―特三區（舊英租界）―江漢路―中山公園―ゴルフ場―日界（自動車一時間半十五圓、洋車四時間二圓五十錢）

▲武昌、碼頭―黃鶴樓―蛇山公園―寶通寺―武漢大學―碼頭（洋車半日三圓、バス三時間半二圓）

（土產物）漢口盆、羽根布團、麻地、四川絹、革製品

（視察斡旋機關）東亞旅行社（江漢路一五七）

福　州　・福建省・

閩江の馬尾を約十三粁溯るところ、福建省の首府で巨大な城郭に圍まれてゐる。城外には江岸に市街をなし、また大石橋によつて結ばれた丘陵起伏の對岸南臺島上には外國人の共同居留地や我が專管居留地などがある。人口約二十餘萬本省第一の都會で商業もなか〱盛である。

長橋萬壽橋、洪山橋が閩江に架けられ南臺の町は支那町に結びつけられ橋のたもとには幾百千の民船蛋民の船が舳々相摩して泊つてゐる。福州の印象は白堊の建物と鼓山、烏石山の展望であり、鼓山の湧泉寺は僧空海が駐錫した處として日本人に緣が深い。

厦門（アモイ）　・福建省・

市街は厦門島と鼓浪嶼（コロスン）の兩島からなる。その間僅かに一粁許りであるが自然の良港をなし、市の大部分は厦門島の南西端に位し人口約三十萬、泉州、漳州の商賈を吸收して次第に發展して來たのであるが、その後奧地に資源がないこと、當地の主要輸出品茶がインド茶や臺灣茶の爲に販路を狹められ、紙、煙草、砂糖等も亦臺灣の割讓によつて需要を減じた等の理由により厦門の發展は次第に阻害されて來た。然し此處は汕頭と共に南洋各地への出稼移民が多いので、之等よりの巨額の送金を以て毎年入超のバランスを保つてゐる。

我臺灣島民の大部分がこの厦門、殊に鼓浪嶼からの移住であり從つて未だ言語、風俗、習慣等全然同一の點多きを見受けられ又今日約八千の臺灣籍民が此の地に渡つて臺灣公會を組織してゐる。臺灣にある媽祖や城隍廟、天后宮等があつて祭典等も殆ど同一である。

廣　東　（粤漢）

前面珠江に臨み、背後に觀音山、白雲山等を控へる廣東（廣州）は越人公師隅の築くところ、事變前九十萬と稱された人口は現在凡そ七十萬に減じたが吾國居留民の數は約一萬五千に激增してゐる。

民國中最も古くから外國と貿易を始めた港で、一名仙城又は羊城と云ひ、一八四二年南京條約に依り開放された貿易港である。兩廣物資の集散地として市況殷賑、大厦高樓軒を列べて居り、一九二七年一月國民政府を湖北武昌に移すまでは南方護法政府の所在地で政治、軍事の中心であり、支那事變では香港、廣東、漢口を繫ぐ援蔣ルートの樞要地で物情騷然たるものがあつたが皇軍入城後治安は全く確立した。

（視　察）驛―長堤―沙面―下九甫路―華林寺―六榕寺―中山記念塔―黃花崗七十二烈壯碑―中山大學―驛（自動車三時間乃至四時間二〇圓乃至三〇圓、人力車六時間乃至十時間四圓乃至七圓）

（土　產）翡翠、端溪硯、紫檀細工、象牙細工、骨董、石灣燒。

澳門（マカオ）　・廣東省・

香港を西に距る六四キロの地點にある半島で、爾來支那革命黨の策源地となり、或は敗軍將領の避難地となり、又海賊の逃難所ともなつてゐた。瀟洒たる一小區域で夏季は綠蔭に涼を納れるため廣東方面からの避暑客を以つて賑ふ。

一五三四年ポルトガル人が巨額の賄賂を支那官憲に贈り互市場としたのが初めてあり、當時外國貿易は殆ど葡人の專占する所となりその活動も目覺しいものであつたが其後昔日の態を失ひ今日では公許賭博場として其餘喘を保つてゐるに過ぎない。人口約十萬、葡人五千、サン・パウロ寺院ヴアスコ・ダ・ガマ銅像、カモンス公園等著名な名勝舊蹟がある。

北　海　（廣東省）

東京灣頭の一半島に位する開港場で、一八七六年芝罘條約により開港されたところで人口約七萬人、大體港灣內が非常に淺く船舶の出入不便であるため現在では一箇年を通じて出入船舶五、六百隻に過ぎない。嘗て上海事變の際日本軍に頑强に抵抗した十九路軍の蟠居した處であり、又一九三六年九月邦商中野氏が暴民に慘殺され日支間の國交とみに緊張した爲この小都會北海は俄然邦人間に著名となり、今次事變では日軍のバイアス灣敵前上陸以來いよ〱その存在性をもつに至り、惹いては南支新秩序建設の上からも此處は單なる小開港都市として看過すわけには行かなくなつた。

二　蒙　疆

張　家　口　（京包）

支那事變を契機として蒙疆七百萬民衆の首府として一躍東洋の檜舞臺に登場した張

家口は陸の港である。京包線中最大の商業都市で萬里の長城の門戸に位置し北は外蒙に通じてシベリヤに入り東は多倫を經て滿洲國に入り西は厚和、寧夏、新疆に走つて支那內地から邊境に入る要衝に當り蒙古の貿易市場たるばかりでなく昔時はロシア商品の通過地でもあつた。また察哈爾省主席宋哲元が此處に軍を置いた所で軍事上の要地でもある。

明代には此の地に馬市を開き蒙古と貿易を通じたが、清代に至つて口外の地を併せこゝに張家口廳を設け、次に縣城を北方九十支里に移したが、のちまた察哈爾特別行政區域の首都と定め、民國政府に及んで察哈爾省政府の所在地となり、現在は蒙古聯合自治政府竝同察南政廳の所在地となつてゐる。

昭和十五年末現在人口十二萬七千百五十三（日本人二萬五百五十、半島人六百、華人十萬五千七百二十、蒙古人二百八十三）を數へ日本人は逐年急激なる增加を示してゐる。

（視察）站―領事館―〇〇部隊―蒙古政府―察南政廳―大境門―水母宮―賜兒山―站（所要時間五時間、費用、バス貸切にて一人當一圓五十錢）。
（土産）駱駝模型、蒙古刀、獸皮、獸毛。
（視察斡旋）東亞旅行社（橋東五四）

大同　（京包・同蒲）

內長城の中間雁門關の嶮を控へ四周に山脈と長城を圍らした山西北門、蒙疆南門の要衝である。京包線の要地であると共に同蒲鐵道の終點に當り山西、蒙疆地方物資の集散地である。曾て清朝は此地に大同府を置いて治め北魏時代には拓跋珪の故都であつた。

古來より夷狄の南下を防禦した要害で目下は晋北政廳の所在地である。附近口泉鎭には石炭を多量に產する。

大同縣城內の人口は支那人約九萬、日本人は一萬餘を有し、古來山西人の外蒙古進出の根據地にして昔より內外蒙古に出でんとする支那人は一度は必ず此地に滯在準備を整へるの例であつた。西廿粁に雲崗の石佛寺がある。

（視察箇所）驛―石佛寺―上華嚴寺―下華嚴寺―九龍壁―南善化寺
（土産）蒙疆漬、七味漬、乾燥成吉思汗羊肉、繪ハガキ、石佛煎餅、寫眞等。
（視察斡旋）東亞旅行社（大東街一一二號、驛前）

厚和　（京包）

歸化城及綏遠城の二市街より成り兩市を合して厚和特別市と稱し、內蒙古五盟に對する商業上の樞要地にして現在人口二十八萬六千餘（日本人五千餘人、蒙古人一千餘）を有する。

海拔三千二百呎の高原に位し、空氣乾燥して寒暑共に激しく、四月解氷して十月に結氷する。

新城卽ち綏遠城は乾隆元年の建設になり些して廣くはないが立派な城壁を圍らし以來官衙街として發展して來た。

歸化城卽ち舊城は之に對し純然たる商業地域をなしてゐる。

由來張家口が蒙古との交易門戶をなしてゐるのに比して此の地は陝西、甘肅、新疆諸省との間に駱駝隊、自動車隊等に依る交易網を展開し繁榮を誇つてゐた。

（視察）大招（無量寺）、小招（安福寺）、錫拉圖招、卓爾齊招、五塔招、大淸山
（視察斡旋）東亞旅行社（舊城北門街）

包頭　（京包）

包頭は京包線の終點で山西、綏遠地方と寧夏甘肅地方を結ぶ物資の中心市場で、厚和に次ぐ蒙疆地域內第二の都會である。

住民は山西人がその六割を占めその他には蒙古人が多い。

尙少數のロシア人が皮革類の取引をなし居るも彼等は永住性を持つてゐない。寧夏甘肅方面との交易は殆ど黃河の水運によつて行はれてゐる。

包頭から一里の地點にある南海子がこれ等物資の發着港とも云ふべき處、移入物は

羊毛、皮革類、藥草、移出物は鐵、石油、茶等が主である。

寧夏から南海子までの下航は大體十七、八日を要し駱駝行と殆ど同じ日數がかゝるが遡航には約五十日を要する。

「包頭」と云ふのは元來蒙古語で「土地相會す」といふ意味を有し、前清時代にて薩拉齊廳の一部として純然たる蒙地であり明代には未だ蒙古に屬してゐた。

人口は約七萬で、邦人は五百余人である。

（視察）昭君墓、轉龍藏、廣覺寺等

名勝舊蹟

滿洲

連京線

◇**大連附近**【**老虎灘**】大連市の南方、灣を抱いた景勝の地、釣魚、汐干狩、海水浴場として知られてゐる。大連常盤橋から南する市內電車の終點。【**傅家庄**】老虎灘への途中桃源臺から西南約三粁、風景良く、釣魚竝に夏の行樂地。【**星ケ浦**】大連の西南約四粁、瀨戶內海を偲ばすやうな纖細なる風光の地、海岸遊園地を成し、好適な海水浴場傳說の黑石礁があり、市內電車は此處まで延びてゐる。【**旅大八景**】黃海海岸を傳ひ旅順と大連を結ぶ四十七粁二九の海岸道路自動車を驅れば一時間で走破することが出來る、沿道の風景實に麗しく　黑石礁、凌水寺、小平島　蔡大嶺、老座山　龍王塘、玉の浦、白銀山を選んで旅大南道路八景としてゐる。

南道路がもつ海岸線の女性美に對し所謂旅大の裏道路たる北道路は雄大な男性的山野の眺望を有してゐる。距離は五十三粁〇七、隨所に古代滿洲の遺址史蹟に富み滿洲色の濃厚な磊山屯、大東溝、牧城驛、雙臺溝、玉仙臺、長春庵、水師營、火石嶺の八景を抱いてゐる。

◇**旅順附近**　【**小松宮御駐輦跡**】市內海軍要港部參謀長官舍のある所は、日清戰役當時道台衙門の跡で、征清大總督を此處に置かれ、御名代小松宮彰仁親王殿下御駐輦あらせられた處である。

【**鴻臚井の遺蹟**】黃金山の西北麓、旅順港口に極めて近く海岸から半町ばかりの所にあり忻井とも云ふ。千二百餘年前、唐の開元二年、鴻臚卿崔忻が朝命を奉じて渤海に使すの途上、新井二口を鑿つて碑を建てたものである。碑石は我が千代田城懷遠府に藏せられてゐる。見學には海軍當局の許可を要する。【**明代の古墳**】黃金山には明代に旅順の守將で清軍に討たれ自刎した黃龍及び其の部將李維鸞、項祚臨、樊化龍、張大祿、尙可義の六忠士を合葬した古墳がある。【**老鐵山と牧羊城**】老鐵山麓を越える峠には有史以前の石塚が殘つてゐる。また峠を降れば石斧を始め石器、銅器、土器等の出る刁家屯の村がある。更に進めば漢代の古城址、牧羊城の遺蹟がある。

▲其他旅順に關しては「戰跡」「避暑地と水鄉」等を參照されたい。

◇**金州附近**　【**金州城**】元代既に土城があつたらしいが現存の城は清朝（西紀一七八三年）に修築したものである。孔子を祀る文廟は明の金州衞儒學の舊址、清朝となつては寧海縣學や金州書院の置かれたところである。境內にある「遼東金州先師廟碑記」「元張百戶墓碑」など貴重な史料がある。

城內諸寺廟多き中に天后宮は特に輪奐の美に富む。西門外に在る玉皇廟前の路傍に鐵牛と稱するものが半ば土中に埋れ橫はつてゐる。北門外にある天齊廟は邦人間には「地獄極樂のある寺」として知られてゐる。

【**釣鯨臺と龍王廟**】　北大河を渡り道を

西北に進めば暫くにして「釣鯨臺」と刻んだ巨巖に至る。往昔釣魚遊覽の地であつたものと思はれるが、今は海岸からかなり離れてゐる。尚進めば龍王廟のある小丘に達す。此處から渤海を望めば景觀壯麗である。

【大和尚山】海拔六百六十六米餘の高山で金州平野の東側を劃して立つ。山中の風景佳なると寺觀多きにより千山及び安奉線の鳳凰山と共に滿洲の名山である。南端には鳳凰山が三百九十三米餘の高さで翼を擴げてゐる。その昔、高勾麗はこゝに築城して遼東半島の咽喉を扼してゐた。卑沙城と呼ばれ後に大黑山城と呼ばれたものである。朝陽寺から約五百米にして響水寺がある。金州驛から八里庄を廻つて六粁、馬車で行ける。(三崎山は戰蹟の項參照)

◇二十里臺附近　【平山】二十里驛臺の西南六粁に聳えてゐる平山は海拔三百十米、頂の西北面には鐘乳洞があつて之を佛爺洞と呼んでゐる。深さ十五米ばかりの洞穴の奧に巨大な佛像が一體刻まれてあり明代から知られてゐる。驛からの道は良く、山を南に下れば六粁にして金州城に出る。

◇三十里堡附近　【化石採集地】驛の西方一粁餘、東山後屯の普通學堂から金州街道に出て南行すること半粁坂道の下りに沿つて含化石頁岩の斷層が數百米に亙つて續いてゐる。頁岩は厚く紅紫色を呈して無數の化石を含んでゐる。化石は古代カムブリヤ紀のレドリキア・シネンシスといふ三葉蟲が多く、其他にヒオリテス及び腕足類の一種オンレラ等の貝類もある。

◇石河附近　【石河城址】驛の西方約二百米、樹木茂り石壁を存して古城の趣が深い。こゝは既に明代の初に於て知られてゐた驛堡の一であつて城壁は清初に至り改築せられ約三百年を經過し城は金州城北方の押へとして重要な防禦地であつた。驛東約七百米の臺子山頂に烽火臺がある。城の南門外の佛爺廟は古名を石堡寺と稱し明代の創建と云はれてゐる。

◇普蘭店附近　【孛羅舖城址】驛の東北二粁、舊普蘭店と稱する村落に明代の古城址がある。城壁は石築にて南門上部の石額に「孛羅舖」なる文字が刻まれてある。孛羅なる語は蒙古語として考へられ普蘭店なる地名は之より轉訛したものである。城址の東方臺子山の頂上には烽火臺の跡があり城の背後に當る低く平な蜉々山の上には古墳と稱せられるものがある。

【劉家屯の蓮實】普蘭店の東北四粁、劉家屯には泥炭層があり、古碑によれば二百年前に一大蓮池のあつた所で今日その泥炭の上層から古い蓮の實が發掘される。この蓮の實は外種皮が既に硬化してゐるが發芽能力に於ても數量、性質の點でも有史以來の最高度を有する種實として世界の植物學界に珍重されてゐる。

◇瓦房店附近　【瓦房富士】驛南方四粁にある瓦房富士は海拔二百六十米、山形が凡富士山に似てゐるのでこの名がある。拘龍院は驛西方四粁餘、拘河口屯に在り邦人間には牡丹寺と稱せられ山を五臺山といふ。また驛の西北一粁の山嶺に東西二十四米、南北七米半、幅一米の石壁あり、壁內に到るところから煉瓦及び裝飾用瓦等の破片が出る。何家太山の遺蹟といはれてゐる。

【復州城】瓦房店西方四十粁にある復州城の城壁は乾隆三十一年の建設と云はれ城の中央は城隍廟、城外東南隅に永豐塔と呼ぶ古塔がある。塔は遼、金時代の築造と云ふ。【五湖嘴地方】三十里堡驛に下車して西北方十粁餘の三道灣から更に海路八粁、アダムス灣を渡つて行くが最も近い。此處には烽火臺の臺子山があり金家城子には土築の古城址がある。高麗墳と稱する古墳窯陶址等多くまた三稜山麓には石斧其他の遺物包含層がある。

◇王家附近　【甘泉寺】(湧泉寺)驛の西北約一粁半、回頭河の左岸にあり山を大明山と稱し全山巖石で覆はれ樹木茂りて奇觀を呈す。甘泉寺はその南麓にあり殿內の岩窟には觀音菩薩を本尊として祀り、康熙年間の開基といふ。

◇得利寺附近　【龍潭山の古城址】驛の西に間近く聳えてゐる龍潭山は海拔四百四十三米餘、こゝには古く得利嬴城(又は德里英城)の城址がある。城は元の遼東平章劉益が表を上つて明に降り明は此處に定遼を設けたところである。もと高勾麗の築城にかゝるもので門內の龍王廟前の龍潭池は往昔城兵の飲料水を求めたところである。山は奇巖突兀として聳え春季五六月の候は、躑躅美しく鈴蘭香り、また蕨狩にも好適の地である。驛の西北八粁、龍潭山の西に竝ぶ龍虎山の山腹に【得利寺】が在る。寺は明代に榮えたが今は僅かに山間に仙境を成して立つばかりである。岩窟內に羅漢を始め多くの佛像が安置されてゐる。

◇萬家嶺附近　【ドルメン】(石棚)驛の南方三臺子に在る。驛南の關子信號所に下車して東へ四粁進むが最も近い、このドルメンは石棚廟と稱して娘々を祀れる乾隆年間創始の廟屋內にあり　面積十五疊敷位に當る巨大なものである【小寺廟】驛西方三粁、石道河の淸流に沿うた寒村廟嶺にある。今から三百餘年前、乾隆年間の創設にかゝり娘々廟、五齊廟、十殿、自君廟を合祀したもので地獄極樂の偶像がある。

◇許家屯附近　【官馬山】驛西百數十米のところ、唐の太宗が軍を此處に駐め馬を山麓に放つて休養したといふ傳説に因りこの山名がある。山頂に立てば遙に渤海を望みまた四周の展望も美しい。

◇九寨附近　【ドルメン】(石棚)驛の西南、大石棚丁場を過ぎて西すれば石硼山(舊名娥眉山)と呼ぶ臺地の頂に達する。ドルメンを利用して廟の建物となし古雲寺と稱して娘々を祀る。上部の覆石は一邊の長さ八米四。他の一邊は五米四、厚さ五十四糎の花崗岩で、その支石の高さは二米三八・五で、古代巨石文化の跡を偲ぶことが出來る。【歸州城址】驛の西方十二粁の地、浮花河(龍口河)の河口に近い。遼代の古城として最南端に位し元この歸州の治所は歸勝縣といはれ金代には歸勝鎭と稱せられ史上著名な城である。

◇熊岳城附近　【古代住居址】驛の東南約二粁半、熊岳河右岸、溫泉附近の地凡そ一粁餘に亙つて古代住居址がある。漢代とも六朝以後とも云はれ有紋磚、無紋磚の破片、土器破片、石片等は今でも容易に包含斷層で採集することが出來る、其他漢の五珠錢、銅鏃等を出すこともある、この界隈にはまた貝塚や塼棺が多い。【熊岳城】驛の西南約一粁半、熊岳河の右岸に在る。

遼の盧州熊岳縣の遺址で後淸の太祖によつて攻略せられ城壁は乾隆四十三年に重修せられたものである。今南門だけに門樓が殘り東部の壁上に魁星樓らしき遺物がある。城內に元代の創に維係ると傳へる古刹道林に寺がある【望小山】(望兒山)と【天然橋】驛の東北三粁餘、附近の平野中に島嶼の如く孤立せる礫岩が六箇點在してゐる。その塔あるものを望小山といひ塔は俗に水難塔といふ。往昔一人の寡婦その子擧に臨じ渤海を渡つて京に上つたまゝ還らず寡婦日夜歸帆を眺め遂にこの丘頂で悶死したといふ傳説によりこの山に望小山の名が起つた。望小山の續きの孤丘は岩骨の一部が穿たれて天然橋をなし奇觀を呈してゐる。

【黃旗山】城南一粁餘に在る黃旗山は寶泉山ともいひ山一面の松林で老松の枝振り良く山頂に關帝を祀る石廟あり風景絶佳である。その麓に紅梨を栽培せる一大梨園がある。七十年前、淸朝に仕へて盛京將軍等に封じた韓思合の隱遁經營したところである。【觀音山望海寺】驛東方十二粁、靑松全山を包み山上より俯瞰する一望千里の風光甚だ佳良。寺は大巖洞の中に在り喇嘛趙法師の建立に係ると傳へられてゐる【盧家屯】古の盧州で知られた地である。附近の

古塚からは往々古代の刀貨、五珠錢、埴輪等が發掘せられる。

◇蓋平附近　**【蓋平城】**驛東三粁半、大清河の北岸に在り、城は明代以前既に土城があつたのを明の洪武五年と清朝年間に修築を加へられたもの、城内には今も舊城守尉府の建物や其他古色を帶びた寺廟が多い。特に元眞觀は築城前から存在してゐたと傳へられる古刹で西門に近く在り二十一體の稀に見る結構雄大典雅な佛像を安置してある。

【鐵塔嶺の佛塔】城東三粁餘、八蜡廟南方高地の南端にあり、もと鐵製であつた爲め鐵塔嶺の名を生じたものである。唐代創建といはれるが年代不詳である。**【靑石關】**城北八粁靑石嶺低所の岩石を開鑿して數十間の山道を成し關門を設けて在る。明代に重修したもので城東の石門關、城西の連雲島關、城南の陽關嶺と共に蓋平城北方の守りであつた。靑石關の西部には烽火臺が立つてゐる。**【石城山】**城北十二粁、靑石關を過ぎ高麗城子の傍に立つ山で石城を存し高麗城と呼んでゐる。石壁蜿蜒として山の背に連ること實に八粁餘に及ぶ大城址である。

◇太平山附近　**【烽火臺】**太平山附近には烽火臺多く、その中でも驛西一粁にある拉々山の路臺は甎築で完全に殘つて居り烽火臺研究には標本的なものである。驛東には田家屯、驛の東南には商家店、驛の南方太平庄には破臺子の路臺があり、破臺子の東方山上には圓臺子の路臺がある。

◇大石橋附近　**【蟠龍山】**大石橋市街の東北に位し遼河平原の眺望雄大にして公園内に杏樹多く風致に富む。同山には土石器を出す遺物包含層がある。**【迷鎭山の娘々廟】**驛の南六粁、野原の中に孤立した山で俗に瞭高山、晾甲山とも言ふ。寺名は海雲寺。雲霄、碧霄　瓊霄の三娘々を祀り、福壽、治眼、授兒の女神として廣く尊信を受けてゐる。滿洲到る處に娘々廟はあるが當廟は最も名高い。**【岳州城】**驛の北方二粁餘、**岳州城は遼代の耀州の城址で僅かに城壁を現存す。唐代獨木關の遺址とも傳へられるが詳でない。**蟠龍山の頂づたひに朝陽寺山があり、山容魁偉、奇岩に富み春秋風光絶佳な勝地である。**【聖水寺】**驛の南東約十二粁聖水寺村に在り景觀美事である。

【紅旗山】驛南方四粁、老松杏樹繁茂し花季の行樂地である。

◇營口附近　河北線の河北驛は舊市街の對岸にあり、こゝから下流六粁餘のところに往時海賊に備へた支那の舊砲臺が遺つてゐる。同治九年の築造であるが今は只城壁と砲身二つばかりを殘すのみで荒廢してゐる。

◇分水附近　**【分水のドルメン】**分水驛の東南六粁に當る石硼峪の丘上に稀に見る完全なドルメンがある。**【他山の毘盧寺】**他山驛で下車し東南三粁餘に毘盧寺がある。明代の創建に係る古刹である。

◇海城附近　**【海城】**海城はその名の表す如く往昔海に臨んでゐた地で遼河の沖積作用により次第に海岸から遠く離れるに至つた。八百年前遼時代に海州と呼ばれた所である。驛から東二粁にある城壁は高さ八米二の磚築で城内に在る寺廟の數は三十餘の夥しきに達してゐる。中でも三學寺の境域は宏壯である。**【欄柯山】**城の東門外六粁、全山に奇巖突出し老松多く山下には楊柳河の淸流があり風景が良い。山上南端に三官廟がある。**【英城子】**海城の東南十二粁、唐代、高勾麗の安子城址と想定されてゐる。**【析木城】**海城の東南約二十三粁、朝鮮街道上に在る。城は元代既に廢棄し今は只山間の一部落を留むるのみで荒廢してゐる。村の附近に有名な鐵塔、銀塔、金塔の三佛塔がある。金塔は遼東七塔の一に數へられる美塔である。また析木城の東南五粁餘に二箇のドルメンがある。土人之を姑嫂石と呼んでゐる。**【牛莊城】**驛西二十八

粁、遼河の左岸にある。今は殆んど破壞してゐる。**【甘泉舖の東廟と西廟】**甘泉舖は南臺驛北約四粁、もと藍泉堡と稱した村である。東端の關帝廟を東廟と稱し、西部の慈化寺を西廟と呼んでゐる。明の萬曆年間の創設に係る古刹である。また南臺驛の東十粁餘の山城子には烽火臺が殘つてゐる。

◇湯崗子附近　湯崗子驛に近き小丘の上に娘々廟がある。廟上からは溫泉場一帶の展望が良い、千山の西麓、上石橋子まではこゝから十六粁ばかりあり、以前は此處から馬背によつて千山登山を試みられてゐたが現在は大孤山からが便利である。

◇鞍山附近　**【鞍山堡】**千山驛の南方一粁餘、東鞍山々麓、鞍山河右岸に鞍山堡がある。もとは鞍山驛城、鞍山站とも稱してゐた。明の洪武二十年に驛を設けられ明の神宗の時城堡を建設せられた所で昔は遼陽街道上の重要な驛站として繁榮したが今は衰微してゐる。堡内に娘々廟があり西鞍山山上には烽火臺の跡が殘つてゐる。**【千山】**

湯崗子驛、千山驛等を列車が通過するとき車窓東方に望まれる鋸山の稜線を空際に劃してゐるのが千山である湯崗子驛の東二十粁に當り、山は外觀の複雜な割合には淺く、山谿と寺觀との諧調が甚だよくとれて眞に滿洲の名山として推奬するに足る。

山の範圍は東西十粁、南北十三粁、南中北の三嶺が竝び南北二峽がその間に溪谷を作つてゐる。北嶺には奇峰五佛頂、南嶺には千山最高の仙人臺が聳え全山花崗岩の風化面白く且つ松柏は峰に這ひ谿を埋め春は梨花、秋は紅葉に一入の美を增す。湖は四十八溪をなしこゝ幽邃閑雅の境を占めて立つ五大禪寺と二十五院とがある。頂山には五體の石佛がある。五佛頂は卽ち之である。

海拔約四百八十五米。龍泉寺は五大寺中の最大の伽藍で唐代の開基と傳へられてゐる。祖越寺は千山諸寺廟中最古のものと言はれるが今は本堂だけで振はない。羅漢洞の下にある大安寺の風光は千山第一に推されて居り、背後に群峰重なり巨巖老松の趣多く、南方は展けて連山を望む。仙人臺は千山の最高峰で海拔六百六米餘、頂上には五體の佛があり五佛頂は卽ちこれである。

千山へ登山するには普通鞍山と湯崗子との二地からであるが鞍山から山麓の大孤山まで電車で容易に達する。

【烽火臺と石圍】鞍山驛の南一粁半餘、新臺子村の西端に煉瓦造の烽火臺の跡がある。また立山驛に下車、櫻桃園の山腹にある圓形と方形との石圍（ストーン・サークル）は石器時代の遺蹟である。

◇遼陽附近　**【遼陽】**滿洲最古の都城の一で、久しく滿洲に於ける政治の中心地であり且つ、朝鮮支那本土に通ずる舊交通系統の中樞に衝つてゐた。この地の名は戰國以後史上に現はれること多く遼陽城の研究は同時に滿洲歷史研究の大きな部分を成すものである。

【白塔】白塔公園は元の廣祐寺の境内を利用したもので風致ある白塔のもと閑寂な境地を成し遼陽神社が建てられて在る。白塔は廣祐寺の佛塔であるが堂宇は亡びて塔を殘してゐるのみ。廣祐寺は俗に白塔寺と呼ばれその創建は金代の初、世宗の母后によつて創建せられ後大定初年世宗によつて增大されたものと云はれる。

【遼陽城】城はもと東北二城に分れてゐたが北城は破壞せられて今は長い土壁を存するのみである。本城は明の洪武五年に改築されたものであるが城濠は埋もれた箇所が多い。城内の東北部丘上の觀音閣は康熙年間の創建と云はれ、俗に此處を「金銀庫」と呼び明代の金銀庫の遺址とされてゐる。

文廟街の孔子廟は明の洪武年間に創められ境内廣大で文廟中稀な古廟である。この外に明代の古刹萬壽寺、長安寺等の寺院がある。大西門外の關帝廟は俗に老爺廟と呼び元代の創建で滿洲に於ける關帝廟の建築物中最古のもので、廟前の照壁は甚だ珍しいものである、城前の喇嘛園には蓮花寺が

あり創建年代は不明である。【東京城】遼陽城の東北五粁餘にあり金の東京に因んだものと云はれ、また築城の年代より名附けたものか新城とも稱されてゐる。本城は清初天命六年に高宗皇帝が築いて一時都した處だが今はその跡形もなく頽れてゐる。城內西部の岡上に立つ三官廟は清初の創建にかゝる。【東京陵】遼陽城の東北六粁五餘、陵は孤立した小丘の上に立つ。順治十一年の建設に係る「莊達汀漢把免魯親王碑」の大石碑が老松の下に立つてゐる。東京陵の山は積慶山と稱し俗に墳上といふ。莊王舒爾哈齊墓が最も規模大きく、その左後方に褚英墓、右方に貝勒稚爾哈齊墓と貝勒巴拉墓　また丘の東角に穆爾哈齊墓と達爾察墓がある。南麓の千佛寺は明代の創建で二百年を經た古刹である。【壁畫古墳】太子河岸には古墳が多い。就中、大正八年發見せられた石槨は珍しい壁畫を存して學界の注意を惹いた。之は驛北、迎水寺村の北で驛から四粁餘の太子河鐵橋の東約一粁、堤防の傍の畑中に存してゐたものである。

　この古墳は後漢時代又は三國の初期を下らない漢族關係のもので一千七百年前のものと推定されてゐる。今、旅順博物館前庭に置かれてゐるが壁畫は湮滅してゐる。

◇煙臺附近【遼州城】（燕州城）煙臺炭坑の東南十六粁、太子河右岸の石城山々上に在り高勾麗時代に築かれた白崖城である。唐の太宗之を攻略して岩州となし渤海の時に白岩城、遼代に白岩縣、金代に石城縣とされたと傳へてゐるが城史城名に就ては學說區々としてゐる。もと一門を開いたといふが今は其の跡を認めぬ。また張臺子驛に下車、黑英臺の東に在る村落に公主の墓陵が存してゐる。

◇奉天附近【黃寺】奉天小西邊門外、瀋陽公園の北にある。皇寺ともいひ本名は蓮華淨土實勝寺と稱し崇德三年建立、滿洲に於ける數多き喇嘛敎寺院中、勅建喇嘛寺の總本山ともいふべきものである。【西塔】奉天城外の西方に護國寺塔といふ都城鎭護のための勅建にかゝる四座の喇嘛塔がある。西塔はその中の代表的なもので西塔大街に沿ひ延壽寺の境內に古色蒼然たる姿を聳立させてゐる。【奉天城】城廓は元初に創建されたと傳へられてゐるが清の太祖が天聰五年に現存のものに改築せし洵に清朝興隆の歷史と共に忘るべからざる發祥の帝城である。而して天命十年（西紀一六二五年）太祖高皇帝が遼陽から遷都して以來順治元年北京に遷するまで十九年間の皇城で宮殿建築の一部は太祖の時に初まり、太宗の天聰六年に完成し後に乾隆帝が大增築したものである。奉天城は故宮殿を中心として方形の內城とそれを圍む不整楕圓形の邊牆とからなつてゐる。內城は甎築で城壁の長さ六粁、高さ十米六六糎、厚さ五米四五糎、八門を開いて內はこれ等に通ずる大道が井字を爲してゐる。故宮殿は奉天驛より四粁、大西門から入れば眞直ぐに進んでその前に出ることが出來る。宮殿の一般拜觀は禁止されてゐる。

　邊城は周圍十六粁の土壁であつたが今は破壞されて概ねその形を失つてゐる。邊牆と內城との間も民家稠密して居り近年交通通信上の障害から大南門と小東門を除く他の六樓門竝に十字路の鐘樓、鼓樓は全く取毀されて昔日の威風はないが、城廓は尙嚴かに城の固めを示し清朝の昔を語る宮殿の甍と共に今も都城の匂を高めてゐる。【小河沿】外城の東南隅にあたり大東門を出て南すれば小河沿に至る。これは舊運河の跡で本名を萬泉河といひ小瀋水とも呼ばれてゐる。橋の布置面白く蓮を植ゑてあり花時は紅白の蓮花が美しい。夏季滿人の遊園納涼地となつてゐる。舊曆七月十五日には流燈會の舊習が行はれてゐる。【法輪寺】西塔と共に護國寺塔の一である喇嘛の北塔はこの寺に聳えてゐる。天地廟には涅槃寂靜相を表現せる怪奇な男女交歡の像（天地佛）

を存置してゐる。【北陵】奉天驛の北方六粁。清明第二代太宗文皇帝の陵墓で隆業山昭陵と稱す。壇城の周圍約八粁、磚道の兩側に竝ぶ石獸は有名である。降恩門內の拜殿の背後には「太宗文皇帝之陵」の碑文ある明樓があり、半圓型の壁に圍まれて寢陵がある、順治元年、太宗文皇帝の靈柩を葬りなほ孝瑞文皇后をも合葬してゐる。【東陵】城內から東方約十四粁、天柱山福陵と稱へ清の太祖高皇帝を葬つたものである。運河の右岸に臨み全丘老松を以て蔽はれた中に朱壁綠瓦が聳えてゐる。

　天然風水の勝はかの昭陵及び肇祖、興祖、景祖、顯祖等の遠祖を葬つてゐる永陵（興京）よりも遙に秀で、その結構は北陵と全く酷似してゐる。

東陵へは奉吉線の東陵驛に下車するのが便であるが奉天驛前より總局經營の奉撫線バスによれば約五十分、料金片道五十五錢である。

北陵及び東陵の拜觀は監督官廳の許可を要することになつてゐるが、拜觀券は奉天浪速通三中井百貨店內奉天驛觀光協會で便宜取扱つてゐる。

◇撫順方面　撫順線の奧、運河の流れを遡れば興京あり、永陵あり、薩兒滸山あり明清兩民族の古戰場多く清朝の興祖奴兒哈赤の大業を偲ばしむる遺蹟に富む。【撫順城】撫順新市街の東北から運河に架る永安橋を渡り更に北へ進めば城廓に達す。撫順驛から城內まで約四粁、撫順城の東郊に奉吉線撫順城驛がある。撫順城は古の撫西城で明の洪武二十一年に千古所を置きまた撫順關と稱してゐた。この城は高麗の鎖陽城で唐の薛仁貴に攻略せられて後、撫順城と改め高麗が受撫歸順の意を示したと言はれてゐる。萬曆四十六年、清の太祖は撫順城を攻め落し翌年薩爾滸山に於て明の攻擊軍に對して防戰大勝した。その後諸官衙が置かれ商業も殷盛であつたが宣統三年諸機關を千金寨に移轉してからは頓に寂れてしまつた。【高爾山】撫順城の北門を出れば高爾山（萬山或は連山）稱する丘崗とがあり、その丘腹に觀音閣、丘上に古塔が聳えてゐる。觀音閣は康熙二十六年の創建、寺境よりの展望はよい。古塔は唐代の建立と云ふも不詳、日露戰役の際兩軍の彈雨を浴びて甚しく破損してゐる。丘の東麓に小廟朝陽寺がある。

撫順驛から城郭外を經て奉吉線撫順驛までバスが通じてゐる。

　もとの千金寨の南、千山臺に大悲寺が在りこの山巓には烽火臺の跡がある。驛から山麓附近までバスの便がある。【古陶窯址】大官屯、松田橋外に陶窯址があり往年古陶器を採集せられた。楊柏堡河のこの臺地はまた石器時代の遺蹟である。

◇奉天以北連京線方面【蒲河城】虎石臺驛東方十二粁餘に在る蒲河城は明代正統二年に築かれた土城、遼東十八城の一で清の太祖が明を征し降した城である。現在その土壁は荒れて上部は總て崩れたまゝ南西北三方に殘存してゐる。【懿路城址】

　新臺子驛の東六粁餘に人口六千の大きい村落があり此處に懿路城址が在る。遼代、興州の故地である。

　村落の北に塔山（元主山）と呼ぶ小山があり明の正統三年に建立した高さ約五米半の石塔が立つてゐる。【汎河城址】得勝臺驛の南五粁餘鐵道線路の西に近く沿ひ今は大汎河と呼ばれる村落が城址である。明の正統四年に左中千戶所を置いたところである。また同驛の北二粁半餘に遼の新興縣の遺址がある。大安寺は得勝驛の東南約八粁、殷家屯にあり明の萬曆二十二年建立の古寺である【帽峰山】（茂風山）鐵嶺驛の東南約四粁半に在り、山の形が帽子に似てゐる爲めこの名がある。また鉢卷山とも云はれてゐる。樹木多く幽邃閑雅な山で東南して朝陽寺がある。山頂に石棚と稱するものがあるけれども之は人爲的のドルメンではなくて自然の大岩石である。この山からは石斧その他の石器が出る。また唐の太宗が高勾麗軍を擊つた古戰場とも傳へられてゐる。

◇**鐵嶺附近**　【**鐵嶺城**】明の洪武二十六年の築造に係り元は東西五町四六間、南北六町二六間の方形に城壁を繞らし外濠を掘り東西南北の四門を開いてゐたが城濠は埋沒してその跡なく、城壁はその磚瓦を以て多く道路、排水溝等の築造に充てたが爲めに今は殆ど元の姿を失ひ城内と城外との區分は不明となつてゐる。城内の略ぼ中央は十字街をなし鐘樓が立つてゐる。清の乾隆五十年の建立で八角形の三層樓である。【**圓通寺と白塔**】城内西北隅に圓通寺あり俗に白塔寺と呼ぶ。創建年代不明の古刹であつたが明の天順年間及び萬曆年間に重修したものである。鐵嶺、開原、昌圖、撫順の各縣に散在せる道觀の總本山格である爲め道士の來宿する者が多い。寺の背後に聳えてゐる塔は八角十三層で金代の大定年間（西紀一一六一―一一八九年）の創建と看做され明の萬曆十九年に一品夫人李門宿氏を初め多くの夫人達が寄つて白塔を重修したものである。【**看花樓**】東門外、東門大街の萬盛德なる商戸の院内に在る。之は明の武將李成梁の故宅の樓址で今は甚しく荒廢してゐる。李成梁は明の萬曆年間、寧遠伯に封ぜられ寇賊を討つて武勳大なる名將であつた。【**龍首山**】鐵嶺驛から東へ一粁餘に當る龍首山は標高僅に一百米ではあるが頂上からの眺望は頗る廣濶である。往時この山麓一帶は渺茫たる湖沼を成し「鶯湖」と稱せられてゐた。この湖と美女を繞る悲戀のロマンスも口碑に殘されてゐる。景勝龍首山の名が喧傳され出したのは明朝の碩學陳循氏が滿洲へ流謫される時、特に景勝地をといふ切なる願ひから配所を鐵嶺とされたのに初まる。山頂には陳氏の寄食したといふ慈清寺がある。【**慈清寺と佛塔**】慈清寺は唐代の開基と傳へられる古刹である。慈清寺と竝んで龍首山上に巍然と聳えてゐる佛塔は高さ二一米、八角九層で塔身の鏬の鏽が歷史を語つてゐる。民國十六年の改修によつて稍々風致を損じたがその際黃金佛一體と圓形の銅鏡一面、更に塔の由來を刻んだ銅板二枚が發見されてよりこの塔が明の弘治二年（西紀一四八八年）の建立にかゝりその後萬曆十九年（西紀一五九一年）時の鎭守總兵寧遠伯李成梁氏（朝鮮役に有名なる明軍の將、李如松の父）が明の神宗皇帝の勅命を奉じて蒙古討征の際武運長久祈願のため重修したことが明かになつた。【**龍尾山の佛塔**】龍尾山峰は龍首山の南端峰、傳說の龍首山龍尾に當るところである。嘗て清の聖祖が駐蹕せられたといふ言ひ傳へに依つて駐蹕山とも稱へられてゐる。この山の佛塔は南塔と呼ばれ六角九層である。

【**七星屯**】鐵嶺の東方五粁、杏花、梨花の名所である。【**法庫門**】鐵嶺の北約六十粁清代柳條邊牆の一邊門で數十年前までは蒙古貿易に榮えたが今は衰へてゐる。【**中固城址**】中固驛の南二粁五、明の永樂五年に創設、撫順站を置き遼東十八城の一をなしてゐた。もとは城壁、城濠及び南北の二門を有してゐるが今は僅かに南部に城廓の一部を殘留するのみである。この地に老母廟があり明代の古刹で觀音を祀る。

◇**開原附近**　【**開原城**】驛の東北約六粁に在り、南滿洲最古の都市の一つで奉天城と同時に建てられたものである。初め元の金の咸平府をそのまゝ踏襲してその所治を開原縣城に置いた。至正二年（西紀一三四二年）之を咸平縣と改稱、更に至正二十四年開元路の治所を今の農安から開元に移してから咸平の別名を開元と呼ぶことゝなり開元が對音の關係から開原となつたものと云ふ。開原城は遼河の支流である清河の北岸に立つて居り明の洪武二十五年土城を改めて磚城としたのである。二・六粁四方の城壁は今尚殆んど完全に殘つてゐるが門樓は存しない。北部の金線河に架る趙氏虹橋を渡れば眞武廟がある。明の正統の初年の創建にして境內に古碑多く廟內には銅製金塗りの巨大な神像がある。鐘樓の南には康

熙初年に創建された關帝廟がある。城の西方に隣接して明代の土城壁が殘存してゐる。【**石塔寺と白塔**】石塔寺の寺名は金代に西塔寺と呼んだのを訛つて石塔寺と言ふやうになつた。金の正隆元年乃至大定三年の創建と云はれてゐる。白塔は寺の前に立ち八角十三層の磚造、金の大定三年の創建と傳へられ今は破損し相當荒廢してゐる。石塔寺に東隣する觀音堂は創建年代不詳の古刹である。【**威遠堡門**】開原城の東二十粁、清代邊牆の邊門所在地であるが明代の邊牆はこゝより遠く東北方に當る。この地は當時二十箇の墩臺を管轄してゐた。驛の西南八粁に突出した小山を成してゐるところは**高臺子の烽火臺**である。【**墩臺**】金溝子驛の東方、開原へ通ずる街道の中間に前三臺子の村落がある。その山上に墩臺がありこの山續きの北方にも三臺子、後三臺子の各村落と墩臺とがある。何れも土墩である。開原城防備の要所として明代邊牆の墩臺の一つと云はれる。また馬仲河驛の南六百米に清代邊牆の一部分が遺つてゐる。馬仲河驛の南四粁に在る馬千總臺邊門は威遠堡門、法庫門等と共に清代の邊牆に開かれた邊門の一つである。また馬仲河驛の南方三粁の大營盤城址は高麗城址と傳へられるが今は荒廢し耕地となつてゐる。

◇**昌圖附近**　【**昌圖城**】驛の西方十粁（乘合バスにて約十三分）昌圖城は明代に遼海衞を置いたところであるが明、清興亡の間、蒙古博王旗の領となり今から百年前嘉慶年間に墾田を始め漢人の集住するもの次第に增加して今日の發展を見るに至つた、漢人植民の初この地に楡の木が多かつた爲め楡樹城とも古楡山とも呼ばれてゐた。城外東南に文廟がある。驛の西北の鉢卷山には明代邊牆上の墩臺の跡がある。【**邊牆**】昌圖、滿井、泉頭の間には滿鐵線路近くに明代の邊牆と清代の邊牆とが竝び遺つてゐる。昌圖では滿鐵舊附屬地の南方に清代の長柵の跡が土手を成して殘つて居り、驛東數百米の清陽堡はこの附近の明代邊牆の十三臺の墩臺を管轄した地である。昌圖城の西南六粁に【**跑馬城址**】があり今は荒廢して畑地となつてゐるが、往年こゝは蒙古人の競馬場のあつた所といふ。【**天橋山**】驛の東四粁餘、この山頂より開原、泉頭一帶を指呼することが出來、山容は奇巖重疊、急坂にして眺望絕佳遊山の好適地である。

◇**泉頭附近**　【**邊牆**】山海關を基點として奉天、泉頭を經て遠く北滿に走つてゐる邊牆は、今から二百七、八十年前の明時代に、蒙古と滿洲の境界として掘鑿されたものである。泉頭驛の西北方一粁餘に當る小高い山にその跡がある。【**墩臺**】滿井から泉頭に亙つて五支里（三・三粁餘）毎に墩、十支里（六・六粁餘）毎に臺があり墩と臺との道路として老壕がある。墩臺は今から千二百年前、即ち唐時代に外敵襲來の際之に烽火を揚げて合圖としたと言はれてゐる。驛の東方四粁の地點に大墩臺があり、同墩臺には日露の役に露軍が利用して穿つた塹壕の跡が殘つてゐる。

◇**四平街附近**　【**半拉山門**】虻牛哨驛の東北十二粁にある清代邊牆上の一邊門にして、この地は山水の眺めが美しい。【**買賣街**】楊木林驛の西十二粁、通稱を梨樹といひ梨樹縣の縣公署所在地、舊名は奉化である。市街は土牆を繞らし井字形を成してゐる。この北方六粁に古昭蘇城といふ金の古城がある。偏臉城とも呼ばれてゐる。

【**三面城址**】郭家店驛の西南に當り、東西に走る臺地の盡きる端に三面城址がある。今は荒廢して土壁の跡を僅に殘し古瓦の破片が散亂してゐる。

◇**公主嶺附近**　【**公主陵**】驛の北方五粁餘、東西に走る丘陵の南面に古廟があり、その背後に二基の墳墓がある。二百年前、清の太宗の公主（皇女）が蒙古達爾罕王家に降嫁し帝都から來る途中病を得てこの地に薨じた爲め此處に祀つたと傳へてゐるが、信ずべき說としては嘉慶皇帝の姪鄕齡公主

の墓で道光年間の造營と言はれてゐる。

◇**新京附近**　**【長春】**　百三十餘年前、清の嘉慶七年蒙古郭爾羅斯前旗に屬する放牧地で漢人の開墾によつて初めて現在の新京の北方六粁半餘に「長春堡」が出來、清國道光五年、現城內に長春廳が置かれたのに始まり爾來滿洲國の創建まで長春の名を傳承した。**【長春城】**今から六十數年前、同治四年に匪賊防備の爲め市民の醵金により周圍十粁の不規則な長方形の城廓を築いたものであるが現在城壁の大部分は破壞してゐる。　**【石碑嶺】**　驛の東方十二粁、こゝには八百年前から在るといふ金の創業の功臣完顏婁室の古墳があり今は碑文の龜趺が三箇遺つてゐる。

◇**北滿方面**　**【雙城堡】**　南に遼陽北に雙城堡と往時から殷盛を唱へられたところ、市內には結構雄大にして雅趣に富む關帝廟があり、また公園の一角の魁星樓は一名を北門と呼び、華麗壯大な樓閣である、この地に韓光弟將軍の墓がある。

安奉線

◇**陳相屯附近**　**【塔山】**　陳相屯驛の東北沙河の流れを距て舊名龍虎山の山麓に安寧寺がありその佛塔が山上に立つてゐる。寺の碑記によれば唐代の建設とされてゐるがこの種小塔の比較研究に從へば金時代の建造とも推定されてゐる。**【奉集堡】**陳相屯驛の東四粁、漢魏以來の古縣に屬するところ、城壁の煉瓦は取去つて土城となつてゐる。清の太祖が明の守將李秉誠を破つた古戰場である。

◇**石橋子附近**　**【响山子の王墳】**　石橋子驛を出て暫し行けば車窓左手に老松の林で圍んだ墳墓が見える。清の太祖が帝業を興した際に軍功のあつた安平貝勒杜度の墳墓で碑は雍正元年の勅建に係る。

◇**本溪湖附近**　**【龍洞】**　滿洲街道を西に行けば本溪湖の街の盡きるところ左手の山腹に鐘乳洞が四、五見える。更に進めばそれと相對する山の麓に龍洞と呼ばれる石灰岩の洞窟がある。**【穎親王の墳墓】**太子河を渡れば河岸小丘上に和碩穎親王の墓がある。碑は康熙十一年の勅建に係る。この墳墓は初め遼陽城附近にあつたのを水害の爲此處へ卜葬したものである。

◇**湯山城附近**　**【湯山城】**　唐三城とも云ふ。昔は湯站と呼ばれ、遼陽に通ずる朝鮮街道の驛站の一で、城跡は驛の東方三百米開拓團や國民學校のある位置で、高麗時代の築城だが僅かに外廓を存してゐるに過ぎない。**【極樂峠】**驛西方七百米、日露戰役に我工兵隊の切開いた峠で頂上に記念碑あり**【彿爺山】**驛北方三粁、高麗時代の建立にして今は廢寺となつてゐる。**【石碑嶺】**驛西南八粁、多數の石塚がある。

◇**宮ノ原附近**　**【平頂山】**　驛の東五粁、海拔三百八十二米、珪岩から成る山で山頂には二つの池があり昔は奇魚が多數棲んでゐたが今は僅少となつてゐる。山腹に李武寺がある。驛の西方約四粁にある雙泉寺は古い禪林で、寺境幽靜閑雅である。

◇**橋頭附近**　**【朝陽寺】**　驛の南約一粁にあり山名を仁山と呼ぶ。白雲臺の斷崖の直下にある禪林で約百年前の建立と傳へられてゐる。日露戰役の際閑院宮殿下御駐泊の由緒を有す。**【釣魚臺と細河の溪谷】**釣魚臺は橋頭驛南六粁、只一つ獨立した岩石の臺を成したところ臺上に普濟寺が立ち、細河の水の碧潭に臨み風景絶佳である。**【南坟】**南坟はもと南墳と書いた。南坟驛西二粁餘、細河の對岸に清朝創業の功臣甘肅巡撫豐惠山の墳墓があり、この地に祭田があるによつてこの地名を生じたものである。その墓碣は康熙二十六年の建立である。

◇**連山關附近**　**【舊連山關と諸驛】**驛の東南約一粁、山隘を擁したところは古來朝鮮から支那に通ずる街道の最要衝地點で明時代には關門を設け遼陽に向ふ朝鮮入貢使が停つた所である。當時こゝは華夷の分界點とされ一名鴉鶻關又は東關とも言つてゐ

た。清朝に及んでは關を廢し驛站を置いた。**【石家沿の觀音堂】**連山關から摩天嶺への街道を行けば西一粁に在る。

　摩天嶺は五峰嶺とも呼ぶ、嶺下に五峰觀と呼ぶ古い關帝廟がある。嶺上の蟠龍寺には關帝と娘々とを祀つてある。

◇**通遠堡附近**　**【舊通遠堡】**　驛の北二粁半、明代に山寨を築き前後衞として戍兵を置いたところ、今は城壁を破壞して部內は田園となつて居り雙泉寺がある。北方の煙臺山と南方の龍鳳山とには往昔狼火臺を築いてゐたと傳へらる。

◇**秋木莊鷄冠山附近**　**【雲裡站城】**　秋木莊驛の東南、鷄冠山驛の東北十粁の地點にあたる。明代からの驛站であるが甎築の內城の西北部分と土壁の外城の西南部分とが殘存してゐる。

◇**鳳凰城附近**　**【鳳凰城】**　驛の東北方一粁、城壁は明の成化十七年始めて築造し、後に清の康熙二年重修して現存のものとなつた。大きな檜の老爺廟や古木のある上帝廟が一きは古めかしい氣分を釀してゐる。町の東端に近い文廟は清の光緒年間の建築である。**【鳳凰山】**驛の南に聳え鐵道線路に沿つて行けば二粁で登山口に着く、山の高さは九百三十米、一帶の奇巖怪石は悉く花崗岩から成り景勝絶佳である。山中には寺觀が多く總ての寺觀を巡るには半日以上を要する。鳳凰山の特長は大和尙山や千山などに比し女子供の登山にも容易なこと、山中淙々たる清流の絶えぬこと、殊に秋紅葉の美しいことである。**【メンヒル】**鳳凰城の西南三十二粁、石柱子にある。花崗岩で高さ八尺五寸、中央部分の幅一尺七寸、厚さ八寸の單立石（メンシル）であつて、巨石文化の遺物で非常に珍しいものである。**【城南山】**驛西南一粁、日露戰役戰歿者の骨灰埋葬記念碑あり**【孔子廟】**驛東方二粁光緒年間の建築にして規模壯大、安奉線中代表的な建築なり。**【西十堡の鶴】**驛東方二十二粁南滿唯一の鶴の渡來地にて春秋二回（三月中、下旬、九月中、下旬）數千羽飛來す。

◇**高麗門附近**　清初に朝鮮に對する防備として築かれた長柵がこゝを過ぎてゐる。

　此地はその邊門の一で高麗門又は鳳邊門と呼び釣魚臺なる地名も存してゐた。現在の市街はその所在地であつたと謂はれる。**【高麗城址】**驛西北二粁餘、大石城であつたが城壁の一部分と礎石を遺し城門の跡を僅かに留む。高勾麗時代の築城で史上に著はれてゐる烏骨城址である。**【青峰山】**驛北二粁餘、鳳凰連山の一部で山頂奇巖突兀とし風致に富んでゐる、また驛の北三粁足らずの山麓附近に一面山の土城址がある。

◇**安東附近**　**【九連城】**　蛤蟆塘驛の東方十六粁、安東から鴨綠江上流十三粁。もと九連城を連ねてゐたといふが殆ど遺蹟なく僅に一小土城の跡があるのみ。漢代から三國時代にかけての安平口も、唐代に築かれた泊汋城（博索城）もこの九連城に當ると見做されてゐる。安東から行くよりも蛤蟆塘驛からの方が道がよく便利である。**【鎭江山】**安東新市街の背後にあり山は公園となつてゐる。眺望雄大、櫻の名所として喧傳されてゐるが四季を通じて遊覽客が多い。**【元寶山】**安東市街東北の背後に聳ゆ、邦人間には安東富士と呼ばれ日露役の古戰場にして山の前面は公園となつて居り眺望佳良園內には由緒深い天后宮がある。**【蛤蟆塘】**驛東方二、五粁日露戰役の記念碑あり、木越旅團大勝の地。

京圖線

◇**東新京附近**　**【清眞寺】**　商埠地にあり、淸の道光二十二年の建造に係り俗に回回塔と呼び結構雄大である。**【大城子】**東新京の北約十粁、往昔高麗の駐兵した處と謂ふ。周圍約二粁の土墻を繞らしてゐる。

◇卡倫附近 【卡倫】 市街の南に在る。清の康熙年間に鎭臺を設け要關となつてゐた。卡倫は滿洲語を漢字に當てたもので邊臺を意味する。【興眞寺】は清の嘉慶年間の建立である。驛の南約二粁に在り三粁の土城は【小城子】といつて高麗の屯兵した處と謂はる。

◇飲馬河附近 この地は曾て驛馬河と稱してゐたが清の高宗東巡の折、馬に水飼ふた故事によつて飲馬河と改稱したと傳へらる。飲馬河驛の東南八粁に前清の旗人郭臺嶺催の墓前に巨人阮翁仲の石像及び牛羊等の石像がある。

◇下九臺附近 この地は往時晒爾哈臺と稱し附近に柳條邊墻の跡がある。驛の東二粁半餘に清の聖祖が東巡の際駐蹕せる裕泉寺がある。また營城子驛の南方に鎭臺のあつた土城址がある。

◇土們嶺附近 附近一帶は風光明媚で驛の東北四粁の瑪琥山嶺には石廟數箇あるが年代不詳。【烏拉城跡】孤店子の附近松花江の東岸にある。吉林烏拉(現在の吉林)に對して打牲烏拉と呼び遼金時代は地方文化の一中心をなしてゐた。約十粁の土城が繞つてゐるが大半は壞れてゐる。烏拉城の北方點將臺の上に三宵殿が建つてゐる九站驛の南方十二粁にある【行營跡】は清の高宗東巡の際駐蹕したところである。市街の東方八粁、三道嶺麓に德將軍の墓がある。

◇吉林附近 【吉林】 遠く二千年の昔鷄林と呼ばれ高勾麗の築城した所、次いで渤海國が興り吉林烏拉（滿洲語で大江に沿ふ意）と改めらる。日本よりの入唐者が千二百年の昔この地を踏んだ史實が殘つてゐる。

明末、長白山麓に發祥した一世の英傑、愛新覺羅（清朝の太祖、即ち現滿洲國皇帝の祖）が率ゐた所謂滿洲八旗の子孫は今に旗人と呼ばれこの地に住んでゐる。明代に征東水軍が駐屯し清の順治年間造船所を設けてより船廠と呼び寧古塔將軍がこの地に移駐して吉林と改稱した。【北山】吉林驛より西方約五粁、山の中腹より輪奐の美を極めた關帝廟、藥王廟、坎離宮、玉皇閣の四廟が蒼々たる楡樹の間に隱見してゐる。毎年舊曆四月の大祭には山中の諸廟は一齊に開張し全山賑はふ。吉林東萊門外の天壇胡同に(文廟)があり、北大街に回々教の【清眞寺】がある。【靈仙府】巴虎門外西北約五百米、望靈山麓にあり堂宇樓門の軒には無數の怪奇な獸頭の戲れる彫物があり數ある吉林の廟宇中に異彩を放つてゐる。

【玄帝觀】北極門外天嶺【砲臺山】頂上の廟宇が悉く黑色を以て彩られてゐる。

【萬壽宮】 西門外に見える黃金色の甍が萬壽宮で、清の乾隆三年の創建と傳へられる。清朝名筆家鐵保の碑石を保存してゐたが大正十二年、北山に移された。【團子山】吉林驛を出て松花江の鐵橋を渡つて右側に見える山で高麗城址と傳へらる。今も石器、土器等の古物が發掘されてゐる。【小白山】吉林省城の西南四粁餘、清の雍正十一年山上に正殿、祭器樓、碑樓等を建立長白望祭殿と呼び毎年春秋吉林將軍は清朝發祥の聖地長白山を望祭したと傳へらる。今は山頂の廟宇は頽廢し正殿のみ殘つてゐるまた吉林の東八粁の江沿に阿什哈達の小部落が在る。明將が女眞征伐の砌兵站を設けたところと傳へられる。【龍潭山】龍潭山驛より數百米で山麓に至る。山は一名尼什哈山(小魚の謂)といひ海拔四百六十米、山頂には乾隆年間に雨乞ひしたと傳へられる龍鳳寺がある。寺の西北に龍潭と呼ぶ底知れぬ池があり一名水牢とも稱せらる。この邊り景勝に富む。【天崗】驛より二粁に關帝廟がある。建立年代不詳、驛の南八粁、天橋崗の崗上からの眺望は西は老爺嶺、東は江密峰の間を一目に收め絶佳である。

◇敦化附近 【贅東城】 贅東城は唐代の舊址で敦化の舊名である。今は全く荒廢して牡丹江の左岸に僅かにその名殘を留めて

ゐる。東北約一粁のところ延吉街道の北側に渤海時代からの古城址があり、阿古勃城と云ひ二重の土塀を圍らしたものである。【銅佛寺】町の名を銅佛寺と呼ぶ古刹より出たものである。市街の北方、兵臺地に城址がある。

北鮮線

【鐘城】 太古肅愼時代より諸民族の興亡去來の地として知られ受降樓の舊跡がある。【白泉寺】金生驛より半粁、朝鮮古來の寺院にして 山上よりの眺望が佳い。【會寧】古來北邊六鎭の一に數へられ、文祿の役、加藤清正は長驅この地まで軍を進めたのであつた。また清朝發祥の地はこゝであるとも傳へられてゐる。【鏡城】往時より要害の地にして加藤清正の古戰場や石城跡があり史蹟に富む。また【穩城】は高勾麗、女眞時代から國防の要鎭であつた。【承良】驛の東南二粁に松林叢生し山上からの眺望佳良、これを龍堂と呼び李太祖時代に馬術、弓術の練習をしたところと謂はれてゐる。

圖佳線

【東京城】 東京城驛から四粁に東京城址がある。千二百年前滿洲族(古代靺鞨族)の作つた渤海王國の上京のあつたところで現在市街の周邊四粁四方に亙つて當時の土壁が殘され、街の西方に當時の宮殿跡や或ひは清時代に建立された南大廟中には渤海時代の燈籠、梵鐘が保存され當時の文化を偲ばせる。

【鏡泊湖】 東滿の神秘境たる鏡泊湖は東京城の西南方に當り周圍百十八粁、千古の大自然林に圍繞せられた幽邃境である。この湖には魚族が頗る豐富である。湖の水が牡丹江に流出する口に吊水樓瀑布が懸り甚だ壯觀を呈し、これに四季通、張家水鄉、鏡泊ライン、白崖島、眞珠門、大頂子、高麗城址と湖畔の七景を加へて鏡泊八景が設定されて居る。現在滿洲國政府直營で水力發電所工事中である。【寧安】別名を寧古塔と稱し東京城と同樣に渤海國以來の古都で市街は内外二重の城壁に圍まれて居る。

市街西方は牡丹江に臨み寧安公園及び殉國の勇士を祀る小島ケ崗があり、その西端に康熙三年建立の西閣觀音寺があり、昔寧古塔の街を水難より免れしめたと言ふ傳說がある。この對岸依田大橋を渡つた鐵道線路の西に建國大學稻葉博士が最近發見された清の黑龍江將軍傳察薩布素氏の碑がある

奉吉線

【元帥林】 高麗營子と呼んでゐたが張作霖がこの地を自分の墓地に遺言してから元帥林と改稱したものである。張學良は昭和四年陵墓建設に着手したが滿洲事變によつて中絶した。陵は驛の南方約一粁、水龍臥と稱する丘の上にあり、今は廢墟となつてゐるが前に渾河の清流を隔てゝ鐵龍山が聳え立ち景勝の地である。

【鐵龍山、薩爾滸山】 渾河を隔てゝ元帥林と相對する鐵龍山と營盤驛の東方にある薩爾滸山は兩山とも明、清の興亡を賭しての大激戰サルホの戰跡地である。この戰に於て清の太祖努爾哈赤は明將杜松の率ゐる大軍を擊破し清朝確立の第一步をこゝに樹立した。山上に城址がある。【碑樓子】營盤驛を距たる東南一粁に碑樓がある。清の太祖が明軍擊破を記念すべく建てたものである。

平梅線

◇西安附近 【龍首山と維摩羅詰公園】 龍首山は西安の市街の東南隅にあり附近一帶の眺望が佳い。この山の西側の公園内には佛殿、凉亭、魁星樓等があり絶好の行樂地である。【葉赫東城】龍首山に在り内外二城に分れ周圍約二粁半、明末の葉赫部の居城と傳へられてゐる。今は城址と四つの門を遺してゐるのみである。【柳河縣城】柳河驛の西南四粁、西門外の柳河橋附近の風景は佳良である。東門外には娘々廟がある。

濱洲線

◇**哈爾濱** 【**極樂寺**】 極樂寺は新市街と傅家甸との中間にあり市內唯一の支那寺院（西曆一九二二年創建）でこの南方數百米に文廟がある。【**露西亞寺院**】哈爾濱の市街美に大きな役割を果してゐるものゝ一つは露西亞寺院の大伽藍である。今尚帝政露西亞の夢を漂はせその名殘を留めてゐる。

◇**興安嶺** 濱洲線中の景勝地帶興安嶺の中でも扎蘭屯―興安間は最佳境である。夏季は山も草原も綠の絨毯となり、其間を草花で彩られる。白樺の疎生せる丘陵性の興安の山々の異色ある風景は何人をも魅せずには措かない。

◇**海拉爾** 由來バルガ或は呼倫貝爾蒙古の中心地として有名な所、市內には關帝廟孔子廟がある。

◇**甘珠兒廟** 海拉爾南方）片道自動車で一日、馬車で三日行程）にあり興安北省に於ける最大の喇嘛廟である。乾隆四十九年清の高宗帝の聖旨により壽寧寺の名を賜り後に西藏から甘珠兒經典を招來してより甘珠兒廟と俗稱してゐる。例祭は舊曆八月六日より十五日まで廟祭は廟市と共に名高い。

濱北・北黑・齊北線

◇**呼蘭** 北滿屈指の歷史を誇る古都で金時代に始まり經濟文化の中心を持續してゐたが哈爾濱の發展と共に漸次勢力を奪はれた。町の西方に西崗公園があり石人城の傳說で有名な石人はこの園內に祀られてゐる。

【**石公祠**】 風光明媚な呼蘭河沿岸の小高い丘にあり、鎭守使石中將の德を慕ふ市民の建設になる祠で環境雅致に富む。【**關帝廟**】呼蘭市內にあり前清時代の建設にかゝり堂宇の結構善美は全滿有數のもので當時の建築美術の粹を集めてゐる。市內にはその他娘々廟、天主堂、淸眞寺などがある。

【**綏化**】 呼蘭と共に北滿の古都で寺院が多い。娘々廟は綏化の名所を代表するもので外に祖師堂も有名である。【**海倫**】馬占山が假政府を立て蟠居してゐた所として知られ市內には娘々廟、祖師堂、聖朝廟がある。【**璦琿**】露西亞の滿洲侵略史の第一頁を飾る彼の璦琿條約で有名な所である。我國にとつては日淸協約に依り商埠地として開放された緣りの土地である。

【**齊齊哈爾**】 淸朝が露西亞の勢力の東侵に備へて建設した都市で二百數十年の歷史を有す。驛の西方四粁に龍沙公園（一名、倉西公園）があり嫩江を隔てゝ北滿の大曠野を望む景觀は極めて壯大である。

平齊・京白・白阿線

【**洮南**】 洮南はもと少鷄街毛頭（サチガイモト）と呼ばれてゐた。サチガイモトは楡の木の意で荒寥たる原野に一本の楡の大樹が茂り立ち、こゝに疲れを息める旅人の數が增して日を定めて市が立ち何時となく部落を成してその名を大樹に因んでサチガイモトと呼ばれるやうになつたとの口碑を傳へてゐるが、傳說の楡の木は齡盡きて枯木となり北門內の民家の屋根に瓦龍のやうな姿を覗かせてゐる。

【**雙塔子**】 雙塔子は洮南の東北二十粁。高さ六米餘の異樣な一對の喇嘛塔で附近の楡の木の茂みと共に賞すべき野趣がある。【**鄭家屯**】 鄭家屯驛の西方五粁に鄂博(オボ)がある。一望千里の曠野中にある高さ二十三、四米の小丘で山頂に蒙古王領の達爾罕(ダルハン)旗と博王(ボーワン)旗との境界の標識を爲す鄂博(オボ)があるのでこの名がある。鄂博とは蒙古人の尊崇する神を祀りまた境界線を示す役目を勤めるもので石や木を積み重ねた極めて原始的な祭壇である。

【**扶餘縣城**】 前郭旗驛の北方、第二松花江を隔てゝ六粁の地にある。扶餘はまた伯(ベ)都納(トナ)と謂ひ上古の肅愼（扶餘族）の地である。明の時代に至り蒙古族の侵略を受けて之に占據せられた。而して金の太祖が寡兵を以て遼の大軍を擊破しこの地に於て國礎を固めたことは史上有名である。また長春嶺の東南、石碑嶺子に在る得勝陀は七百餘年前、金の世宗が遼の誓師處を伐つた時に建立した記念碑である。扶餘縣城南門外に在る老爺廟は高麗時代の建築でこの外太陽廟は堂宇の華麗を以て名高い。また回教の淸眞寺もある。

【**阿拉街廟**(アラカイ)】 京白線王府驛の東方六粁にあり、蒙古爾羅爾斯(ゴルロス)前旗王の家廟で本名を崇化禪寧寺と稱し喇嘛教の寺院で堂宇極めて壯麗で廟祭には市も立ち殷盛を極む。

【**農安**】 農安縣、扶餘縣一帶は滿洲最古（紀元前三世紀）を誇る所謂扶餘文化の發祥地である。城の內外には古代の陶磁器及び煉瓦、屋根瓦等の破片が多い。

【**龍安塔**】 農安縣城西門外。八角、十三層高さ約七十八米の塔で遼代の建設と謂ふ。

【**葛根廟**】 白阿線葛根廟驛の北方三粁、景勝の地にあり明代の創建と傳へらる。蒙古札薩克圖旗王家の菩提寺で規模の雄大、堂宇の壯麗は大鄭線通遼驛西方の茂林廟と併稱されてゐる。喇嘛廟で僧侶約一千名を有する。

【**王爺廟**】 王爺廟驛の附近にある喇嘛の王爺廟は今は荒廢して見る影もない。王爺廟驛の西北四十粁、蘇鄂公府に滿洲建國の人柱となつた中村少佐、井杉曹長の靈の弔ふ記念碑が建てられてゐる。

【**阿爾山**】 白阿線の終點、阿爾山は大興安嶺を東から西に越えた斜面の高地にあり幾多の神秘と傳說に彩られた蒙古の聖地でまた溫泉鄉である。

大鄭・新義線

【**茂林廟**】 通遼驛から三十粁西方にある茂林は莫林とも書く。喇嘛教の古刹で乾隆三十一年の開基、堂宇は總て西藏式でその壯麗は內蒙古隨一の稱がある。

【**阜新**】 阜新縣城の西二十粁に當る王府には蒙古王族の邸宅や、喇嘛廟等があつて蒙古色豐かである、城西三十五粁には喇嘛僧二千を有する瑞應寺、城南十五粁には紅葉の名所吉慶寺等が散在してゐる。

◇**義縣附近** 【**義縣城**】 驛から三粁、大凌河に面し遼西に於ける有數の古城で約五百年前に改造されたものである、【**大佛寺**】 本名は奉國寺義縣城內東街にある。本堂大雄殿は遼の開泰九年（今から九百餘年前）の建立で佛寺としては滿洲最古の木造建築物として國寶的價値を有するものである。

【**嘉福寺**】 佳福寺とも云ふ。城內西南隅に在り境內には俗に義縣の白塔と謂はれてゐる磚塔がある。前記の大佛寺と共に遼の開泰九年の建造で高さ六米餘、遠く數里の地から望見される。【**萬佛洞**】縣城北門外西北約十粁の山中にあり大凌河はその下を環流してゐる。北魏の太和二十三年（今から約千四百三十年前）に建造されたもので京包線大同の石佛と同時代のものである。洞內の佛殿には大小の佛像數百體を安置し頗る偉觀を呈してゐる。

錦古線

◇**朝陽** 朝陽驛の南方約三粁、大凌河谷に位し景勝要害の地である。遠くは燕がこゝに城を築き五胡、十六國時代の古都であつた。【**三座塔**】 朝陽城內に在り遼金時代に建てられた三基の塔の中の二基は現存してゐて契丹文化約千年の歷史を傳へてゐる。

驛西十數粁の山上には由緒なほ不明の古塔が一基ある【**佑順寺**】朝陽城內の中央部に廣大な境內を占めてゐる。淸の乾隆帝の欽定にかゝり廟內には二百餘の喇嘛僧が住んでゐる。

【**鳳凰山**】 朝陽の東南十三粁餘、太凌河の彼岸に巍峨として聳ゆる山頂

に一塔あり、諸峰之を拘くが如き景觀を呈し山中の朝陽洞には臥佛像がある。朝陽の西方山に三塔のあるのを三塔山といふ。

◇凌　源　二百年前蒙古人によつて建設された市街である。市内には宏壯なる寺廟がある。【長壽山】凌源の東北二百四十粁山上に元の雲峰眞人康太眞の墓碑があり山麓には玉觀の舊址がある。【魚の化石】凌源の北十二粁の所は附近一帶に侏羅紀（百萬年前）の化石層が露出してゐる。

【瑙瓅山】 平泉驛の東方二十粁。山腹の洞に泰山神を祀る。二泉あり一は高巖より一は山麓より湧出で山下を遶つてゐる。

◇承　德　熱河地方は古く慕容氏燕國の渤興以來遼金の根據地となり元時代には大寗路に屬してゐた。清朝康熙帝の塞外巡幸によつて隙地の墾耕を諭し農民を招致し木蘭圍場の巻狩に從ふ者も此處に集り行宮以外に諸種の商舖軒を列ね塞外第一繁華街を現出した。清朝の雍正元年こゝに初めて熱河廳を設け直隸蒙古八旗を統轄せしめ赤峰朝陽方面より北京に通ずる要衝となつた。

【避暑山莊】 所謂熱河離宮であつて清の康熙帝が塞外巡狩の際この地の環境及び景勝の非凡なると、塞外經綸上好箇の地點たるに鑑みて康熙四十二年に工を起し次の乾隆帝がその末年に完成したものである。

清朝の中期以後、營繕行屆かず逐年朽破しその後心なき軍兵の蹂躪するところとなり急激に荒廢して誇りし輪奐は全く見る影もなき姿となつたのである。併しその規模の廣大と結構の美は往昔の盛觀を想ひ起すに難くない。山莊の周圍は十粁餘、東亞稀觀の舊蹟である。【喇嘛廟】避暑山莊外、武烈河を隔てゝ獅子溝竝に棒錘峰下の山丘に建造された喇嘛廟及び寺園を八大寺と謂ひ八大處とも稱へてゐる。孰れもその規模宏大華麗を極めたものであるが今は山莊と共に極度に荒廢してゐる。その背後の丘阜に倚つて建つ寺廟中、普寧寺、須彌福壽廟、普陀乘廟等は結構壯麗にして偉觀を呈し棒錘峰下の伊犂廟と共に熱河に於ける代表的な建造物として誇つてゐるのみでなく、東洋美術の豪華版としてその極致を示してゐる。山莊竝に八大寺その他の伽藍は最近滿洲國の保護建造物となり目下修築することとなり既に着手されてゐる。

詳細に觀察するには一週間以上を要するが大觀するには一日でもいゝ。案内料は一名に付き離宮三十錢喇嘛廟三十錢（學生團體十錢、普通團體十五錢）、寺廟拜觀料五十錢、喇嘛廟巡拜乘物（駱駝）四人乘一圓五十錢（羅漢山裏、棒錘山麓一周）

その他承德附近には文廟、關岳廟、城隍廟、清眞寺、酒仙廟、五火神廟、五指山、僧冠峰等の名勝舊蹟が散在してゐる。

【灤河下り】 承德から河北灤州まで三百三十餘粁、風景の最も勝れてゐるのは下板城から國境の喜峰口を過ぎ撒河橋までの間である。常水時下航四日、一艘五、六人乘り貸切三十圓前後。【雙塔山】 雙頭山驛の南方に大小二峰聳立すること百餘丈、その一峰は中間に三孔あり東塔の嶺に古廟があるが何人の建立か不詳。【豐寧】 承德の西北百粁、遼金時代の土城址にして灤河の支流興州河の上流谿谷中にある。【隆化】 承德の北方五十五粁、この地は康熙帝の長姑淑慧公主が巴林王に降嫁されたとき化粧料として下賜されたところ。康熙四十二年こゝに行宮が建設せられた。【圍場（ムーランウエチヤン）】 承德の北方百三十五粁、もと木蘭圍場と稱し清の皇室の御獵地である。【全寧】 烏丹城、赤峰の西北八十粁、元代に於ては魯王の封地で全寧路の首府であり蒙古名を波羅河屯（ボロホトン）といふ。波羅は靑黑の意で烏丹城の名は之より出づ。城内の老爺廟は乾隆十二年に建てられたもの古城址は烏丹城の西方にある。【大板上】 林西の東八十粁にある大巴林旗のことである。約二百年前成吉思汗の後裔が入り代々盟長を勤めてゐる。こゝの喇嘛廟は內蒙古西部地方を代表するもので舊曆七月一日から一箇月間に亙つて行はれる廟祭と同時に廟市を開き特種の殷盛を極め

てゐる。

【寧城】 赤峰南方八十二粁、遼代中京の跡で南方に大明城址があるが今は全く廢れて殆ど見る影もない。たゞ當時の盛榮を物語る三基の白塔が畔中に寂しく屹立してゐる。【建平】 朝陽西北九十二粁、淸の光緒三十一年縣を置き宣統三年土壁を築いた。

奉山線

【塔灣】 皇姑屯驛の西北三粁餘の丘陵の上に八角十三層の古塔がある。遼時代の建立と傳へらる。【巨流河】 驛の北四粁に巨流河城がある。清朝初年の築造で古くは唐、高勾麗時代の古戰場として知られ、清の康熙雍正年間相繼いでこの地を塡築して漸く坦路となつたと傳へらる。【王誥石】 高山子驛から十二粁の所にあり淸入關の時功臣王誥がこゝに殉節したと傳へらる。【閭山】 醫巫閭山は奉山線四大名勝の一つである。

溝幇子驛より二十八粁北鎭縣城の西にあたり蜿蜒と連なる秀峰は滿洲隨一の稱ある仙境閭山である。山中に四大古廟、四十有餘の寺觀が點在し、この山一帶は聖域として古く舜の頃から知られ遼朝以來樹木の伐採を禁止してゐたので老樹繁茂してゐる。遼の帝王の陵墓もあり東麓の北鎭廟は閭山の山神を祀つてあつて閭山總寺廟中の中心を爲すものである。【石山站】驛の北八粁、北大山の山頂に古刹がある。明代の建築と傳へられ四圍の風景絕佳である。【太凌河】大凌河の東方にあたるこの地一帶は明代に北防第一線としての要地であつたが明末清の太祖努爾哈赤（ヌルハチ）に攻め陷された所である。【雙羊店】 雙羊店驛の北二粁に錦州八景の一なる紫金山がある。

◇錦　州　錦縣驛から南約一粁半、古く唐代から知られ城は弘治十一年に時の參將胡忠併が舊城壁に修築を加へたものである。【廣濟寺】 錦州城内の中央に在り大佛寺とも言ふ。寺前の寶塔は高さ百十八米、八角十三層、千二百年前遼の道宗年間の建立で滿洲に於ける大塔の雄である。【古塔寺】 廣濟寺の大塔に對する小塔にして城内西南隅にある。また錦州城の北、二郎山に望海觀がある。【觀音洞】 錦州城北十粁の山中に二洞があり、中間に觀音閣が建ち傍に龍湫と呼ぶ泉がある。松樹の點在に風致を添へてゐる。【小洞山寺】 小洞寺山城北十三粁餘にある仙境で自然石の門内に洞がある。東洞に石佛、西洞に石榻があり淸の同治年間高士が登仙した地といふ。なほ乳峰山、十三山、小洞子山、白雲山、牛心山等の名所がある。また錦縣を中心とした附近の名勝には錦州八景があるが多くは交通不便の地に在り探勝は容易でない。【陳家屯】驛の西北十粁の山上に臥佛寺があり驛の西四十粁には普陀寺があり、浙江の普陀山に彷彿した景觀を呈してゐる。

【西海口】 高橋驛の東南十粁の海岸。蒙古人の神秘境としてゐるところで毎年舊曆五月五日前後には多數の蒙古人が水浴に來て賑はふ。附近に筆架山の名勝がある。

【虹螺山】 高橋驛の西北十六粁餘に當る小虹螺山には龍泉寺、望海寺、朝陽宮や虹螺女の梳粧樓などがある、更に十粁に大虹螺山がある。金の時代こゝに虹螺寨を置き明代には築城して邊防に備へたと傳へらる。錦西驛附近の連山明代に關所を設けて朝鮮より入貢の道としたところである。また壺蘆島線の終點附近一帶の海は風光明媚である。

◇興　城　地名を寧遠とも稱し古來地勢上要害の地として知られ、明代には廣寧の衞地となり明の宣德の頃に寧遠衞城を築かれた明末の英傑袁崇煥が滿洲王努爾哈赤の大軍を阻止し一時明朝の滅亡を支へたのはこゝである。今の城廓は驛の南六百米である。【祖氏石坊】 興城南門に高さ約十一米の石造の碑樓が二基ある。その彫刻は頗る精巧、明の英傑祖太壽の一族が建立し

たと傳へられてゐる。【首山】興城驛の東四粁半餘、遠く望めば三峰並峙して人首の如しといふ所からその名がある。秦將軍李信がこゝに屯兵したと謂はれ中峰の頂上に墩臺がある。山中に古刹朝陽寺があり南に近く渤海の青波を控へ山上からの眺望は廣濶絶佳。【興城溫泉】驛の東南四粁、古來靈泉の名高く唐の太宗遠征の砌、傷病將卒はこゝに療養し清の乾隆帝は東巡の折に湯治した史實がある。【菊花島】興城の南二十粁の海上に浮ぶ小島。島には大悲閣、八寶琉璃井、唐井洞、石佛寺、唐王城などの舊蹟がある。戰國の世、燕の太子丹、また明の祖太壽が逃入したのはこの島である。

【白廟子】驛北二粁に白廟があり東辛莊驛に近い鳳鳴山の山頂には娘々廟がある。

【綏中縣】縣城はもと中後所と稱し驛の北約一粁半餘、現在の城は唐宋の建築で東西南の三門を有し北門は無い、南門飛樓に「關外第一縣」の大扁額が懸つてゐる。

【前衞】市街は城壁に圍まれ長城外の小都市である。北方連嶺のうち三山は長城外の主要嶺で山中松樹多く山上の眺めは雄大壯麗である。また【前所】は明の宣德年間千戶所を置いたところである。【萬家屯】滿支國境に近く驛東の老軍屯は清朝皇帝が滿洲巡幸に出關の際通過された道筋に當る驛の西四粁餘に姜女祠がある。長城の築城にからまる悲戀物語の主人公孟姜女を祀つてあると謂ふ。

中國

京山線

◇山海關　古來北方より中原を窺ふものはこの地を脅かすことゝし隋末より唐宋時代は常に干戈の巷となつた。明の太宗洪武年間に三十二關を築造し一方では山海關城を築いた。今の城廓は即ちそれである。東門樓上には明の蕭顯の筆になる「天下第一關」の大額が興亡幾星霜、老大國の歷史を秘めて今に懸つてゐる。【萬里長城】山海關にある長城は千三百年の昔隋の煬帝の築いたものである。

【角山】山海關の城北三粁の地、角山上に棲賢寺があり境內の靈泉は萬病を癒すといふ。この東北約三粁に玄陽洞の洞穴があり佛像を安置して在る。【二郎廟】角山の西南約二粁に秦の大將軍李永の二子二郎王を祀る二郎廟がある。乾隆三十年の建立で四周聳張して山水の風致秀れた佳境である その西約三粁五泉山の山頂に五泉寺がある。

◇秦皇島　この地はもと藻塡子と呼ばれた一寒村で海岸から僅に突出した一小島であつたが清の光緒二十四年小海峽を埋立て陸と連絡したものである。【湯河寺】秦皇島驛から二十粁湯河寺の院外に溫泉湧き四圍清幽で春季は梨花の行樂地として賑ふ。【留守營】留守營驛の西五粁餘に清泉寺がある。傍に奎星閣、玉皇閣が建ち山林幽密にして高臺より望む南海の眺めは格別勝れてゐる。【昌黎】昌黎驛から約六百米に縣城がある。金の世宗が大定三年（西紀一一六三年）の築城にかゝる廣寧の古城。

この附近には韓文公祠を初め名勝舊蹟がある。また後封臺附近に興隆山の石佛洞や鳳凰山の清境がある。【安山】驛の背後に景勝地九龍山がある。また驛西北に千松嶺があり境內に馬蘭坡、桃花峪の諸勝がある

驛の東北一粁半の清峰寺に年代不詳の十八羅漢、如來佛の石像がある。

石龍驛から六粁半に書院山があり、山勢遏つて屛風の如き下に朝陽洞がある。また武山の山腹崖壁に闍黎洞があり、このあたりは遼金の時土民が兵を避けた處であるといふ。灤縣附近の灤水龍翔、岩石虎踞、偏凉虛閣、橫井浮烟は【灤州四景】として知られてゐる。雷莊附近の黑口舖に孤竹臥城がある。碑家店驛の近くに鮮卑仲吉の墓

があり、驛の後方約一粁半の萬福山に三皇藥王閣がある。明の萬曆年間の建立と謂はる。開平鎭は開平驛から約一粁半のところ、漢の石城故址である。【唐山】唐山驛の西方六粁の處に彌勒洞堂がある。彌勒洞は唐の太宗東征のとき築かれたといふ石城。また唐山の東麓に姜將軍の墓がある。

元代に建立された興國寺及び仙茶と甘洌の泉とは有名である。胥各莊驛から十數粁にある藥王廟は靈泉をもつて知られてゐる。【唐坊】驛の西南五粁餘、富家莊の藥王廟には肉胎像がある。涵宏僧の遺蛻といふ。【蘆臺】五代の時、劉守光は蘆臺軍を置き清末に駐在所を設けて兵を置いた。蘆臺場に鹽姥廟があり市內に寺廟が多い。【軍糧城】また梁城ともいひ、五代劉仁恭は嘗てこゝに築城してこの附近を開墾したものである。

◇天　津　古の春秋戰國時代に於ける燕國は今日の天津、北京一帶の地方をさしたものである。天津の名稱は明初、天津三衞鎭を設置したに始まり明の永樂二年（皇紀二〇六四年）城を築いて天津衞を置き、爾來各地より移住するもの次第に增加して市街を成したものである。【李公祠】天津市內にあり、清の光緒三十一年の勅建にかゝり北洋大臣たりし李鴻章を祀る。また城內の鼓樓は明の永樂二年天津城廓と共に建てられたものである。

回々教の會堂である【清眞寺】の宏壯な建物は天津城外の一偉觀である。【海光寺】

康熙四年、僧成衡の創建に係り聖祖の勅額により海光寺と稱するに至つた。【桃花堤】天津總站の北に當り、陽春桃花の名所である。【新河桃林】新河驛から約一粁半新河々沿にあり、數萬株の桃林があつて開花の候は賑はふ【豆張莊】驛から五粁餘の黃花鎭に玉皇閣がある。唐以前の建築と傳へらる。郞坊驛東六粁半餘に黃帝遺跡と傳へられる【安墟舊址】がある。また、萬莊驛近くに物見臺があり、樓上に懸る古鐘は大安年間の鑄造と謂はる。【豐臺】金代の郊臺であるが當時豐宜門（南門）外にあつたので豐臺と稱す。元代には花卉の栽培所で元人の園亭は多くこゝにあつた。

豐臺驛から二粁半餘、大井村に高さ三丈餘の古銅佛が一體ある。年代は不詳。また永定門驛の南に燕墩がある。東便門驛の對岸【蟠桃宮】附近は春から夏に河遊びの人々で賑はふ。

◇北　京　北京の名稱は明代に始まるがそれ以前にこの地は既に遼、金、元三朝の古都であり、更にその沿革を尋ぬれば遠く周代に遡る。現在の內城は大體に於て元の大都の舊を襲用したもので、明の永樂十五年（皇紀二〇七八年）從來の土城を磚城に改めた。その城壁の高さ約十米、周圍約二十四粁で稍々長い方形を成し周圍に九門を有し、外城は即ち羅城で明の嘉靖四十三年（皇紀二二二四年）に竣成、周圍十八粁餘の長方形で城壁の高さ約六米、周圍に七門を有してゐる。

皇城は正陽門內に突出してゐる中華門から天安門に亙る一部を正面とし、周圍約十粁四の地域を前清皇城としてゐたが墻壁は取壞され今では只その地名を存するのみである。【紫禁城】大體、明の永樂十八年（皇紀二〇八一年）の竣工であるが、明清兩朝にて屢々修繕增築せられ古い建物は比較的少い樣である。【午門】（歷史博物館）紫禁城外朝の正門で東西に兩廡を附してゐるのが特徵であり城門としては世界最大の建物であると謂ふ。【外朝の諸大殿】（古物陳列所）

外朝は紫禁城南半の一郭で主として天子の朝儀が行はれた所でその中央三分の一は專ら天子大朝の場所で東西の兩部は天子學問關係の用に充てられた所である。午門の北に五座の金水橋があり、之を渡れば太和門がある。門を入れば遙に高く三層の白石

基壇の上に太和・中和、保和の三大殿がある。この他に天子が春秋の經筵を行はれた文華殿、また傳心殿、文淵閣、武英本殿、谷德堂等もある。【內廷の諸宮殿】（故宮博物院）　紫禁城の北半部は內廷で明清兩朝を通じ帝后は日常生活の大部分を此處で送られてゐた。この一郭の內中路は內廷に於ける帝后の正殿たる乾清、坤寧の兩宮及び交泰殿が主になつてゐる。【太廟】（故宮博物院太廟分院）太廟は天安門の東にあり、紫禁城前の左に配せられ清朝帝后の神位を奉祀した所である。　太廟の西は舊　社稷壇】で、民國三年始めて中央公園として開放せられ今は北京公園と稱してゐる。

【景山】　北京內城の中央に位し山中に石炭を埋藏してゐるといふ傳說から俗に煤山とも稱してゐるが景山の名は萬民景仰の意味で東麓に近く明崇列帝の縊死せられた槐樹が今なほ存してゐる。流賊李自成の軍にこの帝都を蹂躪され明朝三百年の社稷は實にこの山下に絕えたのである。山上より俯瞰すれば紫禁城の壯觀一目の中に集り、北京の大觀を悉く指呼の間に知ることが出來る。

【西苑】　紫禁城の西苑は卽ち太液池で南中北の三海に分れてゐる。南海東岸の流杯渠は流觴曲水の遺址として珍しい。中海の西岸に近く卍字廊、居仁堂、懷仁堂、紫光閣等がある。北海の瓊華島は一に白塔山と稱し山上の喇嘛塔は清初の創建にかゝる。北岸の五龍亭、極樂世界、萬關佛樓、福寺、小西天、大西天、九龍壁及び北門內の先蠶壇等何れも一覽すべき場所である。

景山の西方の【大高殿】は天子祈雨の靈場で、門前の雨亭は人工の極を盡したものと稱せらる。後門外に【鼓樓及び鐘樓】がある。この邊は元の大都時代に於ける中心地で、中心臺とも稱してゐる。これ等は夜間市中に時刻を報じ、非常時の警報臺となつてゐたもので此處に懸けられてゐた鐘に絡まる傳說の鑄鐘娘々廟は樓西の胡同中に殘つてゐる。【國子監】成賢街にある。元、明、清三朝の國學の舊址、北に設けられた辟雍は周代天子の學宮たりし舊制に據り清の乾隆末に建てられたものである。孔子廟の東にある喇嘛廟【雍和宮】は康熙朝に於て雍親王府であつたが、雍正帝入りて大統を繼がれるに及び龍潛藩邸となつたもので之を喜捨して喇嘛の道場とした。廟東の柏林寺は元刹で北京著名の禪寺であり、廟の東北隅には舊離宮の跡もある。【文天祥祠】この邊が卽ち元代の柴市で文天祥授命の地であると謂ふ。祠後の小樓は文山公絆の舊址であると傳へられてゐる。【隆福寺】明代景泰三年の勅建で、この隆福寺街は前門外の琉璃廠と共に書影で有名な所である。

【護國寺】　元代開基の古刹で元明の碑數基を有す。隆福、護國兩寺は古くから東廟、西廟とも稱せられ廟市を以て知られてゐる

【白塔妙應寺】　阜成門內の喇嘛廟で、寺後の白塔は遼の壽隆三年（皇紀一七五七年）に佛舍利を奉藏する爲め建てられたもので、その東にある【歷代帝王廟】は嘉靖初年の創建で、當初は創業の君主のみを祀つたがその後屢々改變があり清末に於ては無道の帝王、弑に遭つた帝王、亡國の帝王を除いた歷代の帝王は何れも此處の正殿に祀られてゐた樣である。【萬松老人塔】　西四牌樓の南磚胡同にある七級の磚塔。この塔の創建に就ては判然しないが明の萬曆三十四年及び清の乾隆十八年の重修を經てゐる。【天壇】　明の永樂十八年（皇紀二〇八〇年）の竣工で內外二墻に圍まれ外墻の周圍は約六粁、城內の面積は約八十一萬坪と算せらる。天子の祭壇はこの外に地壇、社稷壇、日壇、月壇、先農壇及び先蠶壇があるが、天壇は實にこれ等の首位にある。天壇の主體である圜丘は祈年殿の南にあり天壇の西に先農壇がある。【法源寺】　唐の太宗の創建太宗が高麗親征の際に於ける戰死者の菩提を弔ふ爲めに建立したものである。【謝疊山祠】　法源寺の後街にあり宋の忠臣また文章軌範の編者として名高い文節公謝枋得の（疊山）の詞である。

【萬柳堂址】　廣渠門內拈花寺の傍にある。淸の康熙初年、馮益都が別業を此處に營み柳萬株を植ゑて元の廉希憲の故事にならひ、萬柳堂と稱した所で、當時名流遊宴の地であつた。【藥王廟】　北京には藥王廟の大なるものが四箇所あるがこの中で崇文門外のものは明代に武淸侯李誠銘の創建にかゝるもので、宏大な戲樓を有しており廟の西に天慶寺といふ古刹がある。【淸眞寺】回敎の寺院は北京に凡そ四十箇所あるが代表的なものとしては牛街の西寺と敎子胡同の東寺とが大きく且つ古い歷史を有してゐる。

【東嶽廟】　朝陽門外にある。支那五嶽の一なる泰山の神を祀り元の延祐年間（皇紀一九七五年頃）の創建である。【日壇】日壇は每年春分の朝、天子が太明を祀られた所、明の嘉靖九年（皇紀二一九〇年）の創建である。【二閘】　通惠河中に慶豐閘があり北京から第二の閘に當るので俗に二閘と呼ばれ、前淸時代から都人遊覽の場所であつた。康熙帝公主の陵も程遠からぬ所にある。

【架松】　淸初開國の元勳、肅武親王豪格一家の坟墓で城內には澤山の老松が茂り風致を添へてゐる。

北京の西にある翠黛の連峰は【西山】と總稱せられる太行山脈の一支脈で附近は隋唐時代から佛寺の造營せらるゝもの多く、「西山三百寺」「西山五百寺」等の稱さへある。現存するものでも二百寺以上に達する。

【萬壽山】　頤和園と稱し淸朝の離宮、北京の西北約十粁の地にある。この山は元代から甕山と呼ばれ、乾隆十四年に江南諸名園の布置結構に象り離宮を造營して好山園と稱したのが此處に離宮を設けられた濫觴である。乾隆二十五年に皇太后の萬壽節を祝する爲め帝は圓靜寺の故址に大報恩延壽寺を建て甕山の名を改めて萬壽山とされた。【昆明湖】　古くから西湖、西海または太泊湖として知られた湖で、乾隆年間離宮の造營と共に漢武帝昆明池の名に因んで今の名に改め滿洲八旗の精銳をして此處で水戰水技を練習せしめたのである。湖心の龍王廟は昆明湖の水神を祀り東堤に亘る「十七孔橋」は蘇州寶帶橋を模したものと謂はる。

【玉泉山】　萬壽山の西約三粁にあり、靜明園と稱する前淸の離宮址である。此處は金の章宗の時既に行宮を設けられた所で元明兩朝にも行宮の設けがあり淸に入つては康熙十九年に離宮を造營せられた。山後の東嶽廟內に琉璃塔があり、北峰に妙高塔がある。玉泉山の北に明朝第七世の天子景帝の陵がある。また萬壽山の東北にはもと圓明園の大離宮があつて周圍七十支里　四十六粁餘　と稱せられた。康熙、雍正、乾隆の三朝に亙つて造營せられ、輪奐の美を極めてゐたが咸豐十年　皇紀二五二〇年　英佛聯合軍の北京侵入の際燒拂はれてしまつた。【臥佛寺】　唐代の創建、淸の雍正帝が十方普覺寺の名を賜ひ、今それに依つてゐる。後殿に安置せられる銅の臥佛は長さ六米餘、釋尊涅槃の像で周圍の脇寺と共に出色の作である。【碧雲寺】　臥佛寺の西約二粁、元の耶律楚材の裔阿勒彌がその宅を喜捨して建立したもの。後臺の金剛寶座は乾隆十三年、西藏僧の齎せる印度須彌山の金剛寶座の型に依つて築造したものである。

民國十四年三月孫文の北京に客死するや其の遺骸を此處に移して安置し後南京に還葬したのである。

碧雲寺の西南【香山】には古く遼の中丞阿里吉が私宅を喜捨して建てた香山寺があつたが金の世宗の大定二十六年　皇紀一八四六年）之を重修して淸の乾隆十年に離宮として靜宜園と名づけられた所である。東北の一郭に昭廟の廢址があり立派な七級の琉璃塔が殘つてゐる。【西山八大處】香

山の西に當り翠微、平波、盧師の三山鼎立する間に八箇の刹が迪つてゐる。これが俗に八大寺と稱せられるもので多くは明代の創建であるが古くは隋、唐の開墓に係るものもある。麓の方のものから示すと長安寺、林官寺、三山庵、大悲寺、龍王堂、香界寺、寶珠洞の順で東方に離れて秘魔崖の一古刹がある。紅山口を越えて西山の陰に下ると黑龍潭がある。この他景勝寺院等見るべきものが多い。**【盧溝橋】** 彰儀門外約三粁には五顯財神廟があり、同門外十六粁西には永定河に架せられた蘆溝橋がある。マルコポーロの旅行記によつて紹介された名橋で、金の大定二十九年（皇紀一八四九年）に起工し、四箇年を工事に要したもので支那事變の端は此處に發した。

【南苑】 北京南郊永定門外にあり、元の飛放泊の舊址で歷代の遊獵地である。明初にその地域を擴大して園垣を設け南苑と稱した。永定門車站の南に燕墩がある。

【地壇】 北京北郊の安定門外にある大壇で明の嘉靖九年（皇紀二一九〇年）の創建である。**【元の土城】** 內城西北角の北に起り、內城の東北角に連る延長約十三粁の土城は曾て元大都の北半部を圍んだ墻壁であつた。また薊門は西直門の北約四粁、元の土城の一門をなす所でこの邊が所謂薊丘の地であると言ふ。薊門烟樹は北京八景の一になつてゐる。**【明十三陵】** 北京の北約五十粁、南口の東北約十三粁にあり、明の成祖以來北京に即位した十五世、十四帝の中で玉體を以て西山に葬られた景帝を除きたる十三帝の寢陵である。

京　包　線

南口から八達嶺に至る約二十粁の隘路は即ち居庸の溪谷で南口をその關口とし、これを居庸關及び上關を加へて居庸三關と稱せられるが、かの八達嶺と共に燕都の北門を扼する要害である。**【三堡】** 驛の西北に石佛寺山、五貫頭山の二峰があり、古蹟としての石佛は石佛寺山隧道の北口外にある。

西撥子驛の東三粁、**【岔道城】** は明の永樂年間には重兵が駐し靖嘉三十年城並聯を築いた。康莊驛の北に奇泉寺、大鄘山、佛塔口があり口內には白塔の屹立する白塔寺がある。**【懷來】** 城外西北隅の廣慈寺は俗に皇寺と謂ひ淸の順治五年の建立で內に行宮があり巡幸の避暑地となつてゐた。**【土木堡】** 城內には景泰の初め頃建てられた顯忠祠がある。堡北約一粁に寶殿山がある。**【下園】** 驛の左右に鷄鳴玉帶の兩山がある。鷄鳴山の腰にある永寧寺は遼の聖宗太平四年の建立である。花園は上下二園に分れ遼の蕭太后が花を植ゑたところであるが今はすつかり荒廢してゐる。**【宣化】** 明の初、左右前三衞となし巡撫都察院を設けてこゝに駐した。今の城は元の宣德府の舊址であつて明の洪武年間に谷王が擴張したものである。**【柴溝堡】** 明の正統二年に堡城を築き萬曆年間に擴張したものである。また玉泉閣は明の萬曆年間の建設である。

【西灣堡】 驛の東南三粁餘の慈化寺は唐代の建立。驛の南二十粁の枳嶺兒は昔高臺を設けて監視したところで邊境の要塞であつた。山上の眺望よく風光明媚である。

【永嘉堡】 驛を距る四粁の堡城は明の嘉靖三十七年の築造で、驛の南二十四粁に玉泉山がある。**【天鎭】** 縣城は驛の南三粁餘にあり、縣城西街の慈雲寺は唐時代の建築で關北の巨刹である。**【聚樂堡】** 聚樂城堡は驛の北四粁にあり、明の天順三年大同鎭城が孤城であるため東に聚樂、西に高山の二堡を築き左右の補衞としたものである。

◇大　同　もと北魏がこゝに都して名を萬年または平城と云つた。遼の時代に入つて西京、大同府、大同縣を設け、元、明、淸の歷朝は何れも大同縣を置いてゐた。城廓は驛の南三粁にあり市街全體が考古學上極めて貴重な資料とされ、城內には千五六百年前の木造建築十數箇あり城內の九龍壁、

上華嚴寺、下華嚴寺は有名である。**【雲岡の石佛】** 大同の西約二十粁にある。石佛は燉煌の鳴沙山、龍門、天龍山等と共に著名で世界的に知られてゐる。石窟は北魏時代（皇紀一一二〇年頃）の作と推定される。**【堡子灣】** 驛の東南祁皇墓は北魏の桓帝皇后祁氏の墓である。**【佛爺洞】** 福生莊驛の東南八粁、山に依つて石を穿ち二室に分れ內に多數の佛像を安置してある。**【白塔】** 淸の聖祖が葛爾丹を親征した時駐蹕したところで七層の白塔が存してゐる。

◇厚　和　もとの綏遠であつて新城（綏遠）と舊城（歸化城）に別れてゐる。**【大招】** 舊城大招街にある無量寺で大雄寶殿を中心にして最盛期には喇嘛が數千人ゐたと云ふ。**【小招】** 小招街にある宗福寺で淸の康熙年間の重建築であるが頽廢甚しい。**【錫拉圖招】** 小招の西數百歩の處にある延壽寺で創建年代は詳でないが康熙三十五年錫拉圖呼圖克圖が奏請して重修しその後火災に罹りまた重修したものである。その東南四粁の **【卓爾齊招】** は康熙年間に達爾班卓爾齊が個人で建立したものである。歸化城東の **【五塔招】** は建立年代は詳でないが乾隆年間に重修したもの。城北二十粁の **【大靑山】** は即ち庫々和屯で、蒙古語で靑を庫、城を和屯と云ふ意味から靑城と解し古くは陰山と稱した。**【百靈廟】** 綏遠城の西北、烏蘭察布盟にあり內蒙の聖地として知られまた天然の要害をなして居る。廟は約二百年前に開眼され民國二年兵火に罹り今日あるのはその後再建されたものである。イバガインゴール淸流の河西の地區には眞白な喇嘛寺、西藏式の大伽藍があり、蒙古高原に於ては稀に見る山紫水明の地である。

【沙爾沁召】 磴口驛の東北約十二粁崖によつて建てられ西藏の拉薩寺に倣つた喇嘛寺である。**【包頭】** 包頭は元來蒙古語で「土地相會す」といふ意味を有し丁度この附近が烏蘭察布盟の東西兩公旗、伊克昭盟の達拉特旗及び歸化城土默特旗の四旗地の會するところであるからこの名がついたと云ふ。

包頭の西南四十粁に匈奴に嫁した哀話の佳人 **【昭君墓】** がある。包頭の東門外の丘上の **【轉龍藏】** は樹木鬱蒼として風景淸幽、龍王廟がある。**【廣覺寺】** 俗に五當召と謂ひ磴口驛から西北四十四粁餘であるが包頭から行くのが便利である。寺は淸の乾隆年間の建築で喇嘛千餘人が居住し內蒙中最大の寺である。

膠　濟　線

◇靑　島　光緒十七年始めて砲臺を築いて鎭守軍署を置き衙門及荷揚場を造營したが當時なほ寂寥な村邑にすぎず、獨逸根據地となるや一躍黃海沿岸の主要市場として登場したのである。**【第一公園】** もと獨逸の植物育成試驗場の跡である。園內には世界各地の花卉樹木を集め山腹に日獨戰役の忠魂碑が巍然として聳えてゐる。

【旭山】 靑島隨一の高所で外海の風光を一望に蒐める佳勝の地である。獨逸はこの要塞に砲臺を設け日軍を惱ました。今尙ほ彈痕の跡を止めてゐる。萬年山には海面防禦の永久砲臺の跡があり、忠の海は波穩かに水碧く澄み白砂の海水浴場である。

【嶗山】 山東省の東部に連亙する一大山系の主峰で海拔千二百米餘、秦始皇が茲に登り遙か渺茫の東海を望んで蓬萊島に不老不死の靈藥を求め、また吳王夫差は靈寶度人經の貴書を得たのもこの山である。山中には九水、北九水、大嶗觀等の景勝がある。

【女姑口】 白沙口沿岸一帶の風景美しく河口に女姑山が孤立し頂上に仙女を祀る女姑祠が建ち、山北に漢の武帝の建てた明堂の遺址がある。

【城陽】 城陽驛の東北二十粁に即墨城が

ある。史上に殘る卽墨の古城は現城の西北四十餘粁にあり、俗に朱毛城といひ田單が火中の計を用ひて燕軍を破つた故址。また漢楚相爭つた頃齊王弟田橫は屢々項羽と爭つた故地である。不其城の遺址は驛を過ぎて車窓から東北の稍々小高い丘上に見える。驛の東北二十八粁の粥數城は唐太宗が高麗征伐の際に築いたものといふ。【膠州】縣城は明の洪武年間（約五五〇年前）に築城されたもの、古城は現城の西北にあり元の至正十七年（皇紀二〇一七年）毛貴の亂に破壞されて今の處に築城されたものである。驛西約四粁に西漢の肅生の故里また近郊に計斤古城の遺跡などもある。

【高密】縣城は驛の西南一粁餘、元の至正十二年に築かれ、明の嘉靖二年に石城に改築せらる。驛の西南三十二粁に項羽の將龍且の築いた龍且城址がある。【蔡家莊】驛の西四粁餘に漢成帝が淮王を封じた高陽故城がある。【柞山】驛東南約四粁に峽山、柞山、星星山が鼎峙し、欝翠幽邃の景勝地である。驛北二十粁に大小營城がある。

【維縣】縣城は驛北一粁半餘、漢初に築き明代に石城に改めたといふ。城內には石佛寺があり、宋の咸平二年僧元德の建立に係る。城東北一粁餘に王淸宮があり成吉思汗の聖旨碑やその他の古碑が多い。

【益都】驛南一粁半餘に靑洲城がある。漢代の益都城は今の壽光縣內にあつたが後に廣固縣に移され、宋に至つて劉容之を陷れ、城を陽水の北に築いて東陽城と稱し、更に陽水の南に移して南陽城と名づけたのは卽ち今の城である。【滿洲城】益都驛より一粁餘にあり、俗に北城と呼び北に洋水流れ滿洲八旗の居城であつた。益都縣城の西北四粁の【法慶寺】は膠濟線中最も著名な佛殿である。【穆山】普通驛の西南十六粁にあり齊宣王が始めて孔子廟を立てた所である。【臨淄】淄河店驛の西北十粁、興淄城は齊の都であつた。西北更に二粁に周代に太公望の都した營邱の址がある。

【昌圖古城】張店驛の南三粁餘、昔燕昭王が樂毅を封じて昌圖となした所である。

【淄川】縣城は崇禎十一年の築造、縣城の東北に反蹤城の址がある、魏の頃遼東の歸順民が居つたといふ、城內に龍興寺、普照寺があり、城北の瓦村莊には法王院がある。【博山】この地は明の頃、靑州兵備道であり、前淸の雍正十二年以來博山縣署の所在地であつた。東門外の怡園が范泉書院の故址である。驛の西南十二粁には俗に靑石關と稱する長城があり、驛西四粁餘の岳陽山下に石棚砦がある。【周村】驛北十二粁の於陵は戰國時代陳仲子の居つた遺址であり、長山縣城內に陳仲子の祠がある。

【明水】明水鎭は驛北約六百米にあり、隨所に淸水が滾々と湧出して所謂明水七十二泉として知られてゐる。【樂盤城】棗園寺驛の南二粁に樂盤城がある。齊孝王と陽邱の餞別せし所。【龍山】龍山上の妙眞寨は宋末、李金の妻妙眞の武勇で知られた所寨址はなほ存す。【王舍人莊】驛北に龍山佛峪の勝地がある。

◇濟　南　【大明湖】濟南城の三分の一を占め周二里、淸水を湛へた湖上や湖畔には歷下亭（李白、杜甫の詠熱した所）李公祠、張公祠、鐵公司、滙泉寺、曾公祠、北極臺、百花隄、北渚亭、天心水面亭等の古蹟勝地が點在し隨所に文人墨客の大明湖の風光を賞した詩句や題詠が碑記に殘されてゐる。【趵突泉】城內南關、呂祖閣の境內に湧出する趵突泉は七十二泉中第一泉の稱がある。城內東南隅の黑虎泉は水量豐富で釣魚臺は太公望が釣を垂れた所であると謂ふ。【千佛山】省城の南三粁餘、歷山または舜耕山ともいふ。山上に舜帝祠があり、山中の石崖には多數の佛像が彫まれてをり隋の開豐年間のものといふ。【開元寺】城南十粁大佛山上にあり唐の開元年間の建立。巖上に刻像が多く六朝時代の作といふ佛像がある。【龍洞】省城東南二十粁、泰

山支脈中の奇巖の壁立した中に龍洞寺があり、東一粁半許りに東龍寺と呼ぶ般若寺がある。共に附近は紅葉の佳勝である。城南十粁の【玉函山】は山中に諸勝多く山頂に碧霞殿がある。

津　浦　線

【楊柳靑】街の北約十粁に宋の咸平年中（皇紀一六〇〇年頃）に築かれた城である。呂彭城は東北十粁許りにあり、文昌閣は驛より二粁、明代の創建である。【靜海】金時代から榮え、當時は靖海と云つた。鳳凰臺は西八粁、移興寺は十六粁にあり、共に唐時代の創建に係る。【陳官屯】驛の北方四粁餘にある臥佛寺は殿宇頽廢してゐるが堂中に九尊の銅佛があり、何れも高さ十二米許りの立像。その中の一尊は殿前に橫臥し高さ六米餘。【靑縣】街の南方十二粁にある盤古溝には盤古氏の墓が水中にあつて石棺が鐵の鎖で繫いであつたと傳ふ。溝の北岸にある盤古廟は明の弘治十六年に重修されたものである。峭帆亭は盧臺故城の中にあり、運河の兩岸にある周公祠は淸の光緒十五年の建立である。【興濟】驛の東にある高臺は豐臺と云ひ古の望臺の址である。驛の下にある娘々墳は明の弘治皇后の父母竝にその祖先の墳墓であるが今は僅にその址を遺すに過ぎない。【滄州】滄州は舊蹟に富み觀光地としても知られてゐる。

附近には馬落坡、望海市臺、鐵獅、盟亭水月寺、包孝肅祠、聞遠樓等がある。【泊頭鎭】の附近には遇士亭、周尹吉甫墓、雋不疑墓等がある。【東光】魏文帝燕友臺は魏の文帝が燕と友好を結ぶ爲めに築いたもの。天胎山は城の南にあり、風光に惠まれ城內には普照寺鐵佛がある。【連鎭】山雨樓は明知縣にある。廣川臺は普州城の東にあり、自來鐘は城隍廟の傍にある。この鐘は明代からあるが何處から來たものか判らないので自來鐘または飛來鐘とも稱してゐる。【桑園】老君堂四古松は枝幹蒼勁、上に一大鐵鐘を懸け、由來は古いやうである。柘鎭の東南二十粁に割臏廟がある。

【德縣】董子讀書臺。唐の貞元五年に建立された永慶寺等がある。城の北門外には十二連城、城の北郭には濯錦園がある。

【黃河涯】驛の西八粁に陳公堤がある。宋の天喜五年に陳老佐が洪水を防ぎ堤防を築いて水を西に走らせたものである。崇興寺は淸の雍正五年本莊の草創にかゝり、黑龍潭は旱魃の年に鄕人が雨乞をすると必ず雨が降るといひ淸の同治年間に河の上に樹屛と一廟を建てた。【平原】驛から十二粁餘、縣の西方に桑邱城がある。驛から二十粁には北齊の時代に改建した平原故城があり、漢舞陽侯樊噲の墓は驛から一粁餘、城の南側にある大塚である。顏魯公祠は東門內驛から一粁餘、明の弘治十五年に知縣の朱良が建立したもの。附近に興泉寺千佛塔がある。【張莊】驛から二粁に黎吉寨がある。明から淸まで皆官驛を置いた所である。【禹城】驛から約四粁にあり、唐時代に始めて禹城と名づけらる。西門內にある禹廟の創建は不明なれど明の萬曆二十七年と天啓四年に重修してゐる。興雲寺は唐時代に建立、明時代に重修された。城內文廟の東に泰禹樓、縣の西關に三皇廟がある。

【晏城】街の東、齊河縣城を距る十六粁餘にあり、淸の道光年間に金華寺の側に移した。金華寺は戰國時代の齊王后無鹽氏の故宮、舊高唐は齊河縣の西四十粁の倫鎭にある。驛から四十四粁、蘇東坡が曾て此處を過ぎ祈願して世嗣を得たと傳へらる。狀元碑は鎭の西、二神廟の內にある。【岱廟】

泰安城內の岱廟は泰山の神靈を祀る。境內にある秦の始皇帝が自家功德を頌した秦碑の殘缺は泰山最古の遺物であつて名高い。【崮山】驛から二十四粁に長淸塔がある。驛の西南二粁には五峰山があり、山中には寺廟が多い。張夏驛から八粁餘の【透明洞】は盤郡山臥虎嶽の內にあり幽勝

の境地である。

萬德驛附近にある。【靈巖寺】の建築は甚だ古く、四季を通じて景勝の地である。

【泰山】泰安の北方四粁、帝王行幸の事蹟は竹帛に垂れ、宗教と政治に併用された記錄を多く殘してゐる名山である。泰安城より山麓まで一粁餘、絕頂まで約八粁である。轎で登れば約六時間下りは三時間。

東北堡附近の【波羅山】山中に七十二個所の寺刹があり、一日の遊覽に適す。

【徂徠山】大汶口驛の東二十四粁巨石巉巖の頂上に光化寺があり元代の碑が多い。徂徠山の南二聖宮には唐の竹溪六逸の遺跡がある。【駝羅山】吳村驛から十四粁、岩山の上に石門寺がある。また驛の北十粁には九山があり、山中によく千人を容れるに足る顏子洞がある。【曲阜】周初は周公の子伯禽を曲阜に封じて魯國を建てこゝに都した。漢は魯縣、隋は曲阜縣を設けその後一時城を東方に移したが明、淸の時代に現在の城に據つた。縣城は驛の東方約八粁、孔子の生誕と終焉の聖地として有名で、城內に文廟がありその他遠近に孔林尼山、啓聖王林、防山、泗水、沂水など孔子に關する遺蹟が多い。文廟の東北には顏子廟があり顏回陋巷の故宅と傳へらる。宋の熙寧年間にこゝへ顏樂亭を作り元の元貞年間に始めて廟を建てた。【兗州】春秋時代は魯の地、戰國時代は楚の國に屬し薛郡であつた。忠孝賢祠順賢、石佛寺靈石、嶽雲樓、府城、天仙行宮等名勝舊蹟が多い。【濟寧縣】この地は周代では任と郝の二國であつた。城の東南四十粁餘に承匡山、城北十粁に樊子故里、城東には任子故里がありその他遠近に太白酒樓、南池、鐵塔寺、晉陽山、鳳凰臺、蘆溝泉、南湖等の名勝舊蹟がある。【鄒縣】古くから聖賢達が釣遊したところで遺蹟は甚だ多い、伏羲畫卦處、昌平山、四基山（孟子の墓のあるところ）、小邾子故城、匡喆梵語、尼山、孟子廟、嶧山等がある。

【紀王城】兩下店驛東方二粁、春秋時代邾文公が都を遷したところ、故宮の遺址がある。驛から二粁半餘、嶧山五峰の下に玉皇宮がある。【滕縣】城の西北染山の上に伏羲廟があり、城東には龍泉寺塔が聳えてゐる。微山湖は城南六十粁に當る。【官橋】

驛の南に薛城があり、東南二十四粁の老君山には懸崖に彫つた十八羅漢がある。

【臨城】驛から十六粁に戚城がある。漢の高祖の寵姬戚氏の家が此處にあつたので高祖が城を築いたといふ。驛の東北十粁靑山の山中に白雲、朝陽の二洞がある。驛西南十二粁の十字河の傍に禹王臺があり、禹王治水の功を記念する爲め築かれたものらしい。臨棗支線齊村驛附近には許田泉がありその後方に荀卿寺、亭臺の遺跡がある。

【棗莊】驛から四十粁餘、晉時代蘭陵郡を置いたところで昔は繁榮を極めたといふ。嶧縣城東の匡丞相祠は宋の宣和年間の建立である。【韓莊】驛の東北十六粁餘今の陰平集に漢袁安舊治がある。この附近に劉伶古臺などの名勝がある。茅村驛から四粁【峒山】上に古刹あり山下の古洞は深邃である。【徐州】項羽が自ら西楚霸王と稱して都をこゝに置いてゐた。城內の黃樓は宋の蘇軾が守となつた時に增築したもの。子房山は漢の張子房が農事を開拓し、雲龍山は唐の張天翼が隱退したところでその他放鶴亭、快哉亭等の舊蹟があり、城の東北二十粁には名橋として知られた荊山橋がある。

【三舖】驛の西南五粁に聖人廠、驛西八粁に飛來佛石像、天門寺、驛西南六粁に龍泉寺がある。【皇藏峪】曹村驛の西八粁餘、皇藏禪房と名づける寺は漢の平帝が曾て新莽の亂を避けたところである。【符離集】附近に禹廟、臥佛寺、高皇山（漢の高帝の廟がある）大谷山、黃花洞等の舊蹟がある。【南宿州】驛の西六百米に縣城がある。東門甕城內に唐張巡、許遠を祀る二忠祠があり、北城上には扶疏亭がある。城の西

北四十粁の相山の下には漢の相城縣址がある。【固鎭】古の穀陽縣で、漢時代に縣を置き金代に鎭を設けたところである。

この西約八粁に當る霸王城は項羽屯兵の壘であつた。

【曹老集】驛から二十八粁に縣城がある附近に禹墟、柴王城、塗山等があり、塗山の西の峰には禹廟、東の峰には無量佛殿がある。また【蚌埠】驛から十六粁に禹王宮があり驛から十二粁餘に棲巖寺がある。

長淮驛附近の【十四王妃墓】は明の太祖の先代の墳墓で後に天下追封爲王と王妃との塋域を建てゝ祀つてある。【門台子】驛の西南十二粁にある。縣城の北に明の太祖が曾て幼少の頃修行したといふ龍興寺がある。また驛南十六粁には明の太祖の父の陵、明陵がある。【臨淮關】本蕭梁臨淮舊城の地、莊子臺の前の俗に莊臺寺といふ開元寺は唐の玄宗の時、開元年間に詔して州縣に各大寺を一箇寺宛建立したものゝ一つである。寺後の南華堂は明の嘉靖十三年に楊榮が創建したものであるが火災に罹り萬曆年間に重建したが今は廢れてゐる。驛から四十八粁の禪窟寺、離山上の雲寺、方山麓の橈寺梯など何れも佳境である。

【石門山】驛の東南約三粁、塗山の支脈にして谷の景色は絕佳、驛の西南八粁には燃燈寺がある。

【明光】驛の南四粁、李墓は明の太祖の妹が李姓に嫁したのを葬つた墓。都梁宮は隋の時代に都梁宮三百六十を建てたときの一つ。また傳說の望夫石もある。【管店】驛を距る五十二粁の釣魚臺は隋の煬帝の造つたところと傳ふ。沙河集驛の西南十粁にある一寺は元代の創建といひ當時寺後の洞內に米層があつて寺僧が取つて食してゐたと傳ふ。【滁州】この地は春秋時代に吳と楚が戰を交へたところで附近の風光には賞すべきものがある。城西の淸流關は宋の太祖が周師を率ゐて李景の兵を破つたところ。南門の內にある南橋は元の至正年間に拓き通濟橋と名づけられ橋の右に大聖塔がある。瑯琊山の開化禪寺、この他に醉翁亭、豐樂亭、茶仙亭、城內には懷嵩樓の遺蹟がある。

【花旗營】驛から二十四粁にある烏江は西楚の霸王項羽の死んだところで霸王祠がある。【浦鎭】明初江浦縣治を置いたので舊城が殘つてゐる。浦子口城は明の洪武四年應天衞がこゝに築城したが今は頹廢してゐる。東南浦子山上の中敵臺は民國二年に重修したものである。【浦口】驛の西十二粁餘に江浦縣城があり城の西南四十粁に赭落山がある。項羽が戰に敗れて東城に走つた際漢の兵が之を追ひ陣を造つたところ。縣の西南二十四粁の陽泉は梁の昭明太子が曾て浴したので太子泉と稱され、明の太祖は香泉の名を賜つた。

京漢線

【戒臺寺】長辛店驛の西二十粁の山麓にある。院宇は宏壯で夏季の避暑に好適の佳境。【良鄕縣】春秋時代燕の中都として殷盛を極めてゐた。縣の東二粁、燎石岡には隋代の建築にかかる多寶塔がある。縣の東北には廣陽城があり、漢はその屬廣陽國を置き小廣陽と云つてゐた。琉璃河の鐵橋の右方遙に明の永樂年間の建造になる石橋が架つてゐる。【涿縣】古の涿鹿の野奏上谷である。明の景泰（皇紀二一一〇年頃）の初めに築いたもの。城の北には二つの塔が聳えてゐる。縣城の西四十粁、石經山麓の西域寺は唐代の建立である。宋の太祖の碑文を存してゐる。【定興縣】驛の西二粁に縣城がある。金の大定七年（皇紀一八二七年）の築造で縣の易上村には唐時代に建立した聚泉寺がある。【固城鎭】驛の近くに明の萬曆年間に建立した觀音寺がある。驛の西一粁餘の鐵瓦寺も萬曆年間の建立で瓦が皆鐵瓦である。

【徐水縣】縣城はもと南北二つあり共に

五代の築城であるが、南城は無くなつて遺址もなく北城は明の景泰年間に重修したものである。縣の西二十六粁の班姫山は隋の煬帝東征の時、山上に班姫を置いたので廟に名つけたと謂はれてゐる。

【保定】 城は驛の東約八粁、明代の建造で城の東隅の三陵は宋の太祖が即位の際その四世の祖を祀つた陵である。この他に萬卷樓、永寧寺、靈雨寺、百花嶼、劉守眞廟、蓮花池、大慈閣、清苑河、廣養城、千里長堤、郎山等の名勝舊蹟がある。

【方順橋】 驛の附近にある方順橋は隋の文帝開皇年間の建造で、こゝから約四粁に當る丹朱城は堯朱丹の故居に因んで名づけたものである。【望都縣】 城は唐の武德年間に初めて土城を築いたのに創る。北關外の帝堯廟は元の世祖至元三年の建廟、城內西隅の壽聖寺は元の至元元年（皇紀一九二四年）の創草で明代に重修して居る。城東六粁、荆城村には唐代創建の甘露寺がある【定縣】昔土城であつた定州城は明の洪武年間に磚を用ひて重修された。城南の開元寺の瞭敵塔は宋代の創建である。【正定縣】

城の東北隅の開元寺（舍利寺）は唐の開元年間の建立、この他に天寧寺、崇因寺、隆興寺、滹沱河神廟等の寺廟がある。

【石門】 縣西六粁の抱犢山は、韓信が趙を伐つてからこの山に登つたといふ。山の南には蛟龍洞がある。驛から六粁、縣の西北二十四粁に當る西屏山は一群の勝地で東には黒風洞がある。驛の北西十四粁の趙陵は口碑によれば漢代南越の王趙佗親の塚であると、風景佳良。【元氏縣】 驛の西三粁餘に城がある。舊城は土城であつたが明の萬曆三十年に始めて磚城に改築した。城內の開花寺は隋の開皇年間の建立。また同地附近の封龍山は山勢奇勝を以て知らる。

【高邑縣】 縣城は明の洪武の初に舊址を重修したもの。縣の西北にある乾明寺は唐代の建築で寺の右に乾明塔がある。鎭內驛の西北三十二粁餘に千秋亭がある。その北三粁餘の王莽城は俗に王莽が都を建てたところと傳ふ。【內邱縣】 驛の東二粁に縣城がある。城の遠近には經閣寺、長春觀、郭巨塔、靑山、鵲山、白銀山、泜水、思親山等の名勝舊蹟がある【順德】 殷の邢都秦の鉅鹿の地、宋代に創建、明代に重修した堅固な城壁である。城の內外には響地、豫讓祠、双列祠、開元寺等の舊蹟がある。【沙河縣】 縣城は明の成化十八年に重修された。附近には宋文貞公祠、梅花亭、檀臺等の舊蹟があり、また蓮花池、蘇秦亭、馨口山、五指山、廣陽山等が遠近にある。

【邯鄲縣】 驛西約二粁の城內には趙の武靈王が築いたといふ叢臺がある。附近に呂仙祠、邯鄲宮などの舊蹟が多い。【彰德】 城外の天寧寺は隋代の建築で清の乾隆年間に重修したもの。城の內外には飛仙台、陷馬泉、曹洪故宅、魏徵故宅、韓忠獻公祠や袁大總統の墓もある。【湯陰縣】 縣城は明の洪武三十年の築城である。驛から四粁に明代の潞王墳があり、墳園外に潞藩城の牌坊がある。【新鄉】 驛から四粁に縣城がある。縣東一粁餘の岳忠武廟は明の萬曆四年の建築、城內には崔珏廟がある。【榮澤縣】

城は驛を距る八粁。縣の西北の石門は漢の靈帝の建寧四年の建造で縣の東南には平桃城、西には廣武山がある。

【鄭州】 禹の時代の豫州の地で、五代朝の後周の帝都である。鄭州城は驛から二粁餘。縣の北郊外には宋の熙寧年間創建に係る崇聯寺がある。縣の東南二粁半餘には僕射陂がある。謝莊驛の東南四粁【秋帝寺】には伯夷叔齊を祀る。【新鄭縣】 縣東南には華城があり、華陽臺と云つてゐる。縣の西北にある古鄭城は鄭の武公が始めて都したところである。

【確山縣】 城は驛から約二粁、縣の西三十二粁の南泉寺は寺中に多く牡丹を植ゑ、俗に牡丹寺と云ふ。縣の西北六粁には隋代に建立した北泉寺がある。縣の南一粁餘の

蟠龍山には明の崇王の墓がある。【信陽州】 城は驛から二粁、城內の朝陽塔は明の正德年間の建築。その他附近には景賢祠、兩相祠、環翠堂、下梁城、何先生祠等がある。

◇武漢三鎭 【漢口】 漢陽、武昌と共に上海に次ぐ支那の政治、產業、文化の中心となつてゐる。支那四鎭の一つと言はれた漢口は一八五八年天津條約によつて外國に開放された以後に發展したものである。

【漢陽】 縣城の北隅鳳棲山の上にある秋興亭は唐の賈至の建てたものと云はる。縣城の北、大別山にある太平興國寺は唐の太宗時代の建築で、宋の太平興國年間に重修し今の名に改めた。縣城の西約六粁の歸元寺は石榴花塔の西南馬家湖上にあり、內に五百羅漢殿がある。大別山の東麓には晴川閣があり江を隔てゝ黃鶴樓と對峙してゐる。縣の北、鳳棲山には周程張朱の四先生を祀る六先生祠があり、明の正德年間に楊時黃幹を增祀した。

【武昌】 三國時代、吳の孫權が都した鄂城の前衞として築城されたと云はれ、堅固な城郭をもつた古都である。漢陽門內の黃鶴樓が著名になつたのは六朝以前である。

布政司の前には唐の牛僧孺奇章臺の故址楚觀樓がある。縣城の東には鳳凰臺、黃鶴樓の西には石鶴亭石照亭がある。金口廻峰寺の左には陶公祠がある。晉の陶靖節が塗口を過した時作つた詩は江上吟詩と傳へられてゐる。

中支方面

上海【上海神社】 在留邦人唯一の氏神で、大正八年建立、脇殿の招魂社は上海事變に戰死した皇軍將士及び居留邦人を祀つてある。驛より二粁半【公園】上海北部隨一の公園で虹口公園とも稱し園內は池を除く外一面の芝生で、ゴルフ、庭球、野球、プール其他陸上競技場、射的場等あり、往年の極東オリンピックは此處で開催された。また先年上海事變後天長節祝賀式に參列された當時の白川大將、植田中將、重光總領事をはじめ諸名士が一暴漢の投じた爆彈に斃れ又は傷ついた事件のあつたのも此處である。驛より二粁半。【市政府】支那獨特の建築で內部は美麗を極め、戰前は集團結婚式場に屢々利用され、今事變には相當猛烈な砲火を浴び一部破損したが、既に皇軍の手に依り完全に修復された。以前は租界にあつたが、上海事變以後上海東部に新市街の開設を計畫しその市街の中央に市政府を建築したもので、費用三百萬弗を要したと云はれる。驛より十二粁。【パブリックガーデン】

蘇州河と黃浦江との合流點にあり、向ひ側は浦東に對し江中に船舶の往來を眺め、後方にバンドの高層建築物を望み遙か上流に十六舖の遠景がある。附近のガーデンブリッヂは上海最古の銅橋である。驛より二粁半。【靜安寺】 共同租界靜安寺路にあり約二千數百年前吳の大帝の建立にかゝり、歷史と傳說とを有つた古刹で、寺前の井戸は古來から支那第六泉の稱があつたと傳へられる。驛より五粁。【湖心亭】 驛より八粁、舊城內にあり、杭州の三潭印月に倣つた稻妻形に曲折した風雅な橋が斜に架つて居り、橋の半ばに亭を設け藥、點心等鬻いでゐる。

◇崑　山 【馬鞍山】 上海蘇州間は見渡す限りの平原であるが、崑山驛近く飄然と摺鉢を伏せたやうな山、これが馬鞍山で一名崑山とも云ふ。山頂に寺院あり背後に赤い古塔が中天高く聳え平原の風致を引き立てゝゐる。

◇蘇　州 【北寺】 驛より一粁半、吳の孫權（約千七百年前）が創建したと傳へられ報恩講寺とも呼ばれる。寺塔は高さ二百五十尺、直徑四間、石骨木造の九層樓で蘇州七塔中登り得るは此の塔のみである【瑞光寺】 驛より四粁二、吳の赤烏年間の建立で其後再三火災に逢ひ、現在のものは宣和年間（約八百五十年前）の建立と云はれ、往

時は點燈して舟行の目標とした。【開元寺】驛南方四粁、瑞光寺の稍北にあり、咸豐年間燒失して現在では無量殿のみ殘つてゐる。無量殿は明の萬曆年間神宗の勅命に依り大藏經を藏めるために建立したもので、火災に備へるため木材を使用せず、細甎にて造られ、殿內安置の石佛は晉の建興年間（約千六百年前）一漁夫が海中から拾ひ上げたものと傳へられる。【孔子廟】驛より四粁、北宋朝の賢臣范仲淹（九百餘年前）の建立にかゝり、境內二萬坪、規模の壯は江南第一と稱せられたが、惜しくも長髮賊の亂に蹂躙せられ現在のものは同治七年の重建になるものである。【滄浪亭】驛より四粁、別名を五百名賢祠と云ひ、吳越の時廣陵王の元璙池館の跡と傳へられ、宋の蘇舜欽が配謫の身を此處に寄せ、風光を樂んでゐたことによつて名高く、滄浪の詩はこの時作られたものである。【獅子林】驛より一粁七、元朝の至大年間に僧天如禪師が築造されたものでその風韻雅趣は世に知られた時もあつたが、現在は俗臭芬々として古趣の俤をとゞめてゐない。【寒山寺】驛より六粁、梁の文帝約（千五百年前）時代に建立されたが、前後五回の火災に遭ひ、長髮賊の亂には全くの焦土となつたが、淸末に至り愛知縣人山田寒山が此處に來て、文衡山筆の楓橋夜泊の詩碑を發見したのが再建の端緒となつたものである。古い詩碑は繼ぎ合せて壁に篏め保存してあるので讀み難いが新碑は淸末の儒者兪曲園の書で市井に賣られてゐる石刷はこれである。名聲に比し餘りにも貧弱な寺であるが、今は皇軍の手に依り寺院の內外共修理されてある。こゝの梵鐘は山田寒山が伊藤博文公を後援に內地で鑄造寄進したもので、鐘名は博文公の文選、書は杉聽雨子爵である。

【虎邱山】驛西北四粁、海湧山とも稱び、吳王闔閭を多數の寶物と共に葬つた處である。この附近には傳說に富む古蹟多く、憨々泉、試劍石、貞孃の墓、千人血石、劍池雲巖寺等がある。【邱虎塔】山頂に傾斜してゐる奇型の古塔で、隋の仁義年間（約千三百年前）の建立にかゝり、山麓には李鴻章を祀る淸園がある。【天平山】蘇州の西南二十支里、楓橋から稍南まで舟行し西へ折れると山麓に達することが出來る。山麓の白雲寺は宋の范仲淹の功德院で園は乾隆帝が高義園と名付けたものである。【靈巖山】蘇州の西三十支里、高さ三千六百尺、山中から硯石を產するので硯石山とも稱ばれ、山頂の圓照塔は蘇州七塔の一である。

◇無　錫　【太湖畫舫】城內に近く無錫河岸に畫舫、民船、荷物船等が群聚されてゐるが、こゝは無錫市街の碼頭で船客の出入多く、太湖を觀光するには此處から畫舫を浮かべると一時間にして達する。【妙光塔】驛より四粁、無錫城南門外にあり。なだらかな山上に聳えてゐるこの塔の眺望は雅趣掬すべきものがある。

◇常　州　【天寧寺】驛より二粁、弘法大師留學所と云はれ、江南に於ける第一寺院で、事變前は僧侶六百有餘が修業してゐた。現在でも二百名位居り、天王殿の佛像は泥製ではあるが羅漢五百體もあるので有名でるあ。

◇丹　陽　【文筆塔】驛より二粁、丹陽城東門外運河碼頭に聳立し、江南に於ける名塔の一であり、七層八角、平野に屹立する眺望は南畫そのものゝ雅趣である。

◇鎭　江　【金山寺】驛より一粁、府城の北平野の地點金山の頂上にある。創建は東晉代（約千四百年前）で寺院は宏壯な伽藍である。現在の堂宇は長髮賊の亂に燒けたものを再建したもので、空海が海路この寺に參禪修業したとも傳へられる。

【甘露寺】江岸に聳ゆる北固山上にあり、三面水を以て圍繞され、往時阿部仲麿がこの地に修業中「天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山に出でし月かも」の和歌を詠じたとの傳說あるも史實は明かでない

【焦山】江の中央に位し甘露寺と相對し遙かに金山寺を望み、山中に淸の行宮、自然庵、松廖閣、夕陽樓、文昌閣、定慧寺等あり各寶物を藏してゐる。【揚州】鎭江から小蒸汽で江を橫切れば瓜州に至り、こゝから更に二時間溯航すれば着く、隋の煬帝は江都として離宮を作り、國都長安から四十の離宮を連ねてこゝに至る三百里を遊里したと傳へられる。

◇南　京　古く春秋時代は吳に屬し戰國時代は楚に從ひ初めて金陵邑を置いた。明の成祖の時に南北兩京をたてゝ南京と稱した。【南京城壁】支那第一の大城と稱せられるもので明の太祖が七年間を費して築きあげた大營造物である。【貢院の跡】南京市政府の歷朝科學の登龍試驗場であつた貢院の跡である。明の永樂年間、明遠樓（市政府の表門）を中心として建てられたものである。【靈谷寺】鐘山の東南にあり、梁の武帝は寶誌禪師のために塔を建て開善寺と呼び宋は太平興國寺と稱し後に蔣山寺と改む。明に至つて靈谷寺と稱し三巨刹の一と謂はれてゐたが淸以來衰頽に委ねられてゐる。【草堂】鐘山の北にある。南北朝の時周顒が隱居していた所である。

【玄武湖】鐘山の南方にあたり南京大平門內にある【覆舟山】その南の【樂遊苑】は今は跡形もなく荒れてゐる。毘盧寺東南の荒墟が即ち有名な明の故宮で太祖洪武帝の紫禁城の遺址である。【淸涼山】漢西門から約一粁半餘、唐代は淸涼大道場となり宋代は廣慧禪寺と呼ばれてゐた禪宗の大道場である。唐代には日本から空海上人以下多數の僧侶が留學して參禪してゐた。水西門內にある【冶城山】は吳王夫差が佩劍を鑄たとの傳說の地である。中華門近く丘陵に雨花臺がある。梁の武帝の時名僧雲光法師がこゝに坐つて法を說くと天が感動して花の雨を降らしたと謂ふ。【釣魚巷】秦淮斜巷の中心地、河岸には無數の畫舫を纜し岸上には妓院酒樓が竝んでゐる。孝陵の右手鐘山腹の【中山陵】は孫文の遺骸を北京から帝王の禮を以て運び葬つたものである【雞鳴寺】梁の武帝が早朝、揶瑯城に行幸した時こゝに至つて始めて雞鳴を聞き、それに因つて同泰寺を雞鳴寺と改めたと傳へられてゐる。六朝累代の居城であつた建康宮の故址である。【鼓樓】明の洪武十五年の建造で樓上に聖祖の戒碑を安置し關壯繆を祀つてゐる。

雞鳴寺と鼓樓との間に高く聳えてゐる【北極閣】は元の至正年間に創立した觀星臺の遺跡である。【莫愁湖】水西門を出ると艷史に名高い莫愁湖がある。宋代の美妓虞莫愁がこゝに住んでゐたので莫愁湖の名が起つたと謂はる。【大報恩寺】城南聚寶門外の古長千里にある吳の大帝の創建で阿育王塔を置き江南に於ける塔寺の始めであると言はれ梁の武帝は之を重修し宋は天禧寺、元は慈恩旌忠寺と稱した。後に燒けて明の永樂十年に再建して今の寺號となつた。【明孝陵】鐘山の麓の大山陵は即ち孝陵で明の太祖とその妃とを倂葬してある。

朝陽門から麒麟門までの間に所謂十三陵があり、その中には吳大帝、宋の武帝、文帝、晉の元帝、明帝、成帝、哀帝の陵がある

【獅子山】儀鳳門內の小山が即ち獅子山で、晉の元帝が盧龍山と呼んだ山であつて今の名は明初から用ひられ古來軍事上の要所とされてゐる。故宮の東北に王安石の居室であつたといふ半山寺がある。蘇東坡が屢々遊んで詩を賦したところである。

◇新龍華　【龍華寺】驛より三粁、上海佛租界の西南十粁、黃浦江上流の西岸にあり、天台宗十刹の一である。孫時代の創建と云はれ、現在堂宇は九六〇年前の再建である。

◇嘉　善　【義園】驛より約一粁、北門外にあり、樓台、亭閣多く、築山なども設けられ、花卉を栽し、每年花季には之を開放して一般の觀覽に供してゐた。【採菱】嘉

善附近の湖沼には菱が多く產し、每年初秋から初冬に至る期間、水面に菱を泛べて池中の菱を採るのであるがその光景は風雅なものである。

◇嘉　興　【煙雨樓】蘇州美人の流れを酌むと云ふ女船頭の櫓に船中の人となり、柳堤の風趣に詩情を滿しつゝ平湖內の煙雨樓に至れば、往古の文人墨客の書多く保存されてゐる。【三塔】煙雨樓から更に船を西南に進むれば浙干河に達し、風雅な幾多の鼓橋を拔けつゝ溯航すれば至る。この塔は後唐の頃（約千一百年前）普豐と云ふ高僧が恩師孫一族の靈を慰むるため建立したものと云はれる。

◇長　安　海杭沿線上海より百五十餘粁にある。【錢塘江の觀潮】この潮流は世界に比類なしとまで云はれ、舊曆八月十五日前後は之を觀賞せんとする旅人の來遊頻繁である流下する水勢と上騰する潮水とが衝突し、潮水は流水を征服し二、三哩に亙る一條の水壁を作り漸次河にめがけて進む。この水壁は八呎乃至十二呎の高さに達し。一時間十三浬の速力を以て百雷の如き轟きを擧げながら狂奔せる悍馬の如き怒濤となつて河口に侵入し來る樣は實に偉觀である。

杭　州　禹貢の世には禹貢又は餘杭、秦漢時代は錢唐と稱し、唐時代は錢塘、宋の時代は臨安、元は杭州路とし明淸時代は杭州府、民國に入つて杭州市と改稱した。

【西湖畔の名勝】支那全土隨一の稱がある。湖は白沙堤と、蘇東坡の築造したと傳へられる蘇堤と、金沙堤の三堤によつて西湖、北裏湖、西裏湖、南湖に分れて居り、その周圍十三粁、三面山を繞らして秀峰翠を競ひ、碧水滾々と流れ、四季共に格別の趣かある。附近には西湖十景を始め靈隱寺、天竺寺、岳飛の墓その他名勝、古蹟頗る多く古雅な香を放つてゐる。【昭慶律寺】杭州驛西北方四粁、晉の高祖天福元年越王錢元瑾の建立である。【保俶塔】寶石塔）驛西北方五粁、塔は吳宰相、吳延爽の建立で最初九層であつたのを宋の咸平年間に重修し七層とした。

【斷橋殘雪】驛西北方約五粁白沙堤の東端にある。淸の康熙帝南巡の砌西湖十景の一とせられた。斷橋より白沙堤を西行し錦帶橋を渡れば孤山の東部入口に到る。此所の平湖秋月は西湖十景の一である。驛西方約六粁、孤山北部にある【放鶴亭】は元人陳子安が建てたもので、また中山公園西側の一部を占む【文瀾閣】は淸の乾隆帝の勅建で四庫全書を藏してゐる。【鳳林寺】驛西方七粁餘、葛嶺の西下にあり俗に喜鵲寺と呼ばれ唐の元和二年の建立、開山は道林即ち鳥窠禪師である。【岳王廟】鳳林寺の西方にあり有名な宋の忠臣岳飛を祀る。この他に淸漣寺、雙峰插雲、飛來峰、韜光下天竺、中天竺、上天竺、淨磁寺、雷峰塔遺址、汪莊、錢王祠、石屋寺、烟霞洞、虎跑寺、六和塔、湖心亭等名勝舊蹟が甚だ多い。

【錢塘の大潮】舊曆八月十六日の大潮は錢塘の呼び物で浙江の名勝として數へられてゐる。會稽山下に山蔭の蘭亭がある。晉の王羲之の蘭亭曲水の遊びで普く知られてゐるところである。

戰蹟

旅順線



旅順

半島の腥氣徐ろに去つて茲に三十歲、東亞の平和は日露戰役の賜である。旅順を圍繞する連峯と深碧の海面は幾萬の忠魂義烈が髣髴として永へに照臨し千載の下懦夫を起たしむる幾多の教訓が遺されてゐる。

【戰利記念品陳列館】建物は元の露軍下士集會所であつたのを其儘利用したもので、わが砲彈の跡を存し小さい乍らもよく充實した參考館である。現在各所の戰跡は爆破を受けた其の儘ではあるが、爾來歲を閱すること三十餘歲、然も戰跡に○○されてからは、その俤を異にするものもあるから、戰跡巡覽に向ふ人は茲に立寄つて充分なる當時の豫備知識を得られんことを勸める。

【閉塞隊記念碑】第三回の港口閉鎖に戰死した我が勇士の屍を露國側で手厚く葬つて置いて吳れた好箇の記念碑であり、こゝに櫻樹を植ゑて櫻山公園と稱してゐる。

【白玉山】旅順の中央に聳え、新舊市街の中間に當り山頂に碧空を突いて聳える表忠塔は工費二十五萬圓、二箇年五箇月を費して明治四十二年十一月竣工したもので、塔頂の砂彈臺には乃木、東鄉兩將軍の表忠記が刻まれてゐる。後方の納骨祠は旅順攻圍戰に於て護國の鬼と化した二萬四千五百四十八柱の遺骨を奉祀してゐる。

【老虎臺半島閉塞記念碑】老虎台燈台下の岩上にある。日露海戰に廣瀨中佐以下閉塞隊員の敵前敢行の武士道精神を永久に傳へるために建立せられ、刻字は東鄉元帥の書である。

【東鷄冠山北堡壘】旅順の防禦堡壘中の模範築城で、備砲數二十四、五門を有し、第一回の總攻擊には全滅の苦杯を嘗めた處である。その後我軍は地下坑道を掘り、敵の陣地を地下より大爆破、以後ベトン內部で露軍と數米の間に對峙し、一米又一米と戰友の屍を超えて進み、言語に絕する肉迫戰を演じ、我軍の死傷兵は九百、敵の守兵も殆ど戰死した激戰地である。

【望　臺】旅順背面第一の高峯で露軍の防戰最もよく努めた處、名著「肉彈」の著者櫻井忠溫氏が傷を負つて轉落したのは此の山である。

【盤龍山東堡壘】八月下旬第一回總攻擊の際第九師團の攻擊目標となり第七聯隊の如きは聯隊長以下悉く倒れ伏屍山を埋めたが、よく之を攻略し、旅順要塞に吾が光輝ある日章旗を立てた最初の堡壘である。この戰鬪に於ける姬野軍曹以下三名の機關銃座爆破は千古不滅の功績である。

【松樹山堡壘】山頂に近く右方に見える永久堡壘で砲二十七門を備へてゐた。この堡壘への攻擊は三條の坑道を穿つて大爆破をなしたもので、有名な白襷隊の突入したのは松樹山補備壕である。

【二龍山堡壘】我軍は第一回の總攻擊後、二龍山攻略の支障となる鉢卷山を占領し、第二回を經、第三回の總攻擊には近隣各堡壘の集中砲擊を受け、我が前進選拔部隊の過半が地中に生埋めとなり、當時殘存した敵兵が三名に過ぎなかつたのをみても如何に稀有な苦戰であつたかゞ判る。此處の占領はやがて旅順開城を促したものだと云はれてゐる。

【爾靈山　二〇三高地】此の山の攻擊で護國の鬼となつた將士の數は七千五百、旅順攻圍戰中最大の犧牲を拂つた聖山である。北方の斜面中腹には、乃木中尉戰死の碑があり、山頂には乃木將軍の有名な「爾靈山之詩」碑が聳え萬人に仰がれてゐる。

【水師營】開城に際し、一月五日、わが攻圍軍司令官乃木大將と露國極東軍司令官ステッセル中將との會見の地である。當時使用した民家は、目下戰跡保存會の手に委され彼の唱歌に名高き棗の樹は、今も庭にあつて緑濃くさかえてゐる。

【露國忠魂碑】市外小案子山東麓にあつてわが政府が建立したもの、明治四十一年六月十日の竣工、露國一萬四千六百三十一の英靈が永へに眠つてゐるのである。除幕式には我國より乃木大將勅命を奉じ、これに對し露國皇帝も同樣はる〴〵と名代を派遣された。これは又實に敵にもあつき武士道の精華を世界に示した我等の誇である。

觀察順路　左記の各項は驛を基點とする

イ　二日行程…第一日　閉塞隊記念碑―白玉山表

忠塔—博物館—大正公園—大案子山—二〇三高地—港口　第二日　戰利記念品陳列館—東鷄冠山北堡壘—望臺—盤龍山—二龍山—松樹山—水師營—露國墓地

ロ　一日行程…白玉山表忠塔—戰利記念品陳列館—東鷄冠山北堡壘—水師營—博物館—二〇三高地

ハ　半日行程…A…白玉山表忠塔—東鷄冠山北堡壘—戰利記念品陳列館

連京線

金州

【三崎山】　金州西門を出て西南約三百米のところ鐘崎、山崎、藤崎の三士が死に就いた地、一本の楡の木の下に柵を繞つて碑が立つてをり、山上東端に三烈士の石碑が立つてゐる。蓋し三崎山とは三士の姓に崎の字あるに據つたものである。城内より碑まで一・六粁。

日清の役にあたり、我が第二軍の通譯であつた此の三志士は明治二十七年十月二十三日花園口に上陸し、金復二州の敵情を探るべく變裝して碧流河畔に出たが、悉く清兵の爲に捕へられて金州の獄に繫がれ、同月三十日の日暮れ時、西門外刑場の露と消えたのであつた。翌二十八年二月七日漸くにしてその遺骸を發掘し、この岡の上に「大日本志士（各姓名）君捨生取義之碑」三基を建てたのであるが、遼東還附の事あるに及んで此の碑を東京泉岳寺に移し、後大正二年今の「殉節三烈士碑」が建設された。

【南　山】　金州驛西八百米。百米に足らぬ低い山で緩傾斜であるから登山極めて容易である。山腹には日露戰役後金州の滿洲人士が我軍の忠烈に感激して建てた昭忠碑があり、頂上近くには鎭魂碑、山頂には戰跡塔が聳えてゐる。

日露の役に當り露軍は之に三段の散兵壕を掘り鐵條網を張り半歳を支へ得る防備の施設と自信を有しフォーク將軍の率ゆる東部西伯利亞狙擊歩兵第四師團之を死守したるに對し我が奧大將の第二軍は筑紫、平遠、赤城、鳥海の四艦の協力を得て、明治三十七年五月二十六日の未明から總攻擊を開始し悪戰苦鬪の結果終に同日の日沒時に至つてこの堅壘を占領したのであつた。この戰鬪の如何に悽慘を極めたかは我軍の死傷者が四千三百八十七名に及んで實に全員の九分の一に相當したのを以ても想像し得る。

【乃木少尉の碑】　驛の東二粁、八里庄の警察官派出所の裏手、楹林の中に乃木勝典少尉の碑が立つてゐる。明治三十七年五月二十六日少尉が金州東門外に傷き此地に於て歿したのである。この一帶大和尚山麓の村は八里庄も七里庄上溝も陳家屯も清流のせゝらぐほとりに連つた平和な村里で杏花の名所として知られてゐる。

【王　家】　五家驛の東北畑地は奧軍前衛の砲列を布いたところである。驛北約六粁回頭河右岸の龍王廟は我軍の最も苦戰した地で記念碑が立つてゐる。又驛北四粁の老狐山は頂上に高麗城址と傳ふる高さ約一・二米の石壁が殘つてゐるが、我軍が砲を山頂に引上げて龍王廟に據る强敵を側射敗退せしめた戰場として傳へられてゐる。

得利寺の會戰は明治三十七年六月十四、十五日の戰で、敵將スタケルベルグの率ゆる三箇師團が旅順救援の目的を以て南下し來るを我が奧軍の三箇師團が迎擊せんが爲北進し瓦房店の接戰に始まつた遭遇戰であつて、王家と得利寺との中間なる龍王廟の丘陵で行はれたものである。彼我の砲門實に三百、一大激戰で我が死傷一千餘、敵の死屍二千を算した。

【太平山】　驛西六粁の太平山は日清役に乃木旅團苦戰の地東北十二粁の紅旗山、その南の靑龍山及び牛心山は共に日露役の大激戰地で敵將クロパトキン負傷し此の地の敗戰は大石橋陷落の原因を成した。

【海　城】　日清戰役に我が桂中將の率ゆる第三師團は明治二十七年十二月十三日海城を攻略したのであるが、岫巖、析木城を經て此處迄の行軍は路面氷結して人馬を苦

めたこと甚しかつた。同月十九日には海城の西南缸瓦塞へ進出して敵軍を擊退した。

日露戰役には、海城の敵軍は堅牢に造れる防禦陣地を棄てゝ遁走した爲、我が第二軍は一戰をも交へずして明治三十七年八月三日之を占領した。

【首　山】　日露戰役には敵の西比利亞第一軍團この丘陵に據り向陽寺、新立屯等にも陣地を築き第二軍團その東に連つて遼陽街道を扼したが交戰三日にして明治三十七年九月二日我が奧軍の手に歸し遼陽攻擊の根據地となつた。第三十四聯隊の關谷聯隊長、第一線右翼の橘大隊長等の勇戰討死したのはこの戰鬪で、今も軍神橘中佐の名は一小丘橘山の名を生み、山上の關谷大佐の碑と共に中佐戰死之處の碑を留めてゐる。

【遼　陽】　驛の南一・五粁に弔忠魂碑がある。碑の高さ十三・五米日露戰役に蓋平沙河間に於ける戰歿者一萬三千三百餘名の靈灰を納めてゐる。驛の東南四粁餘、城の南門外にある玉皇廟は遼陽戰に當り露軍が閉鎖堡及び角面堡等を設け半永久的に築城をなした所、我が第四軍が多大の犧牲を拂つて明治三十七年九月三日の夜奪取した戰場である。驛の西方三十五粁の黑溝臺は三十八年一月二十五日露將グリッペンブルグの率ゆる百二十箇大隊が我が滿洲軍の左翼立見支隊を包圍し危殆に瀕せしめたが我が援軍到つて漸く擊攘するを得た所である。

遼陽の大會戰は露軍の十三箇師團に對し我の十箇師團を以てしたもので、明治三十七年八月二十三日第一、二、四の三軍は遼陽總攻擊の準備成り八月三十日攻擊を開始し九月四日南門を占領するまで六日間の激戰が行はれた。堅固なる陣地を構築されてゐたから敵の抵抗頑强にして死傷者續出し慘憺たる戰鬪であつた。

【煙　臺】　驛東三粁の東煙臺は明治三十七年十月から翌三月に亘り我が滿洲軍總司令部を置き沙河戰及び奉天戰を統帥した地で記念碑が建てれらてある。

炭鑛を距る北西約十米平野の間に單獨直立せる小邱は有名なる三塊石山にして、丘上三箇の奇岩直立す故に此名あり、沙河會戰の際アレキサンダー第三世名譽聯隊の守備せし露軍の中堅にして我が姫路師團の勇戰奪取した所である。

寺山は炭鑛を距る北西約六粁石硎山とも稱し沙河會戰の當時ザルバエフ中將の主力此處に據りしを我が岡崎旅團が陷せし所。

饅頭山は炭鑛を距る南約十粁太子河右岸に屹立せる一小邱にして遼陽會戰の際黑木軍の第二師團が露軍の左背側を衞れる第十七軍團の一部を驅逐して山上を占領したる激戰場にして死傷の多きこと遼陽に亞ぐ。其他磨臍山、仁平山等何れも戰跡として著名である。

【沙　河】　日露戰役に著名なる沙河會戰沙河對陣の行はれた地である。明治三十七年十月十日から戰端を開き兩軍は沙河を挾んで相對し數月の嚴冬を迭つた戰線の中央で、驛現在の建物は當時彼我砲火の集中點となつたが大破を免れ、多少の修理を加へた記念す可き建物である。

驛の東南五粁、後臺山（勝山）は我が第二軍の戰場である。驛より約五百米、沙河鐵橋北岸の松林は地獄松原と呼ばれ、彼我の死傷算なく慘烈を極めた所である。驛東六粁には我軍の苦戰した萬寶山がある。

奉天

滿洲事變　滿洲事變は昭和六年九月十八日午後十時三十分突如として奉天、文官屯間の柳條溝に於て、我が滿鐵線を爆破したるに端を發した。

當時、虎石臺獨立守備歩兵第二大隊第三中隊は文官屯附近に於て、夜間警備演習中で、河本中尉の率ゆる線路巡察兵が線路上を南進して、北大營南方六、七百米附近に達した時、突如後方に一大爆音を聽き直に引返したところ、數名の中國正規兵が北大營方向に逃げるのでこれを追擊して爆破地點の北方二三百米、北大營構内に連る高粱

畑に達すると忽ち兵力二、三中隊を下らぬ部隊の射擊をうけたので直ぐ、文官屯附近にある所屬第三中隊長に急報すると共に之に勇進應射した。第三中隊長は直に携行せる警備彈を以つて北大營西南地區により河本中尉を援護した。因にこの北大營は奉天軍の精銳王以哲旅團の兵營で、當時八千乃至一萬と稱されて居た。

獨立守備第二大隊長島本中佐は、第三中隊長の報告に接して中國軍の有力なる部隊が攻擊前進を企圖し、既に兩軍間の戰鬪の事態を惹起して居るのに鑑み、今や我が寡兵を以て十數倍の敵に對抗するには迅速なる攻勢以外我が軍民の自衞と國威保全との途なきを察し、斷然機先を制して攻擊に決し、大隊本部及び第一、第四中隊は列車に搭じて午後十一時五十分柳條溝に下車、既に北大營西北の一角に地步を占めて居た第三中隊に連擊して攻擊を開始した。

北大營の兵舍は、中隊每に煉瓦造の平屋根を占めて竝んで居るので、一棟づゝ猛擊して之を奪取し、突擊に次ぐに手榴彈を以てして、逐次敵の抵抗を打ちまくつて行つた、數時間に亘る頑强な敵の抵抗を排除して、拂曉には逐次北大營東北地區に進出し午前五時三十分頃には同營全部を完全に占領するに至つた。この戰鬪に於ける我軍の戰死者二、負傷者二十二で、我軍の埋葬した敵屍は三百二十に達してゐる。

當時奉天にあつた第二師團の平田聯隊は事變を知ると直ぐ緊急集合をなし奉天城と兵工廠を占據東大營並飛行場を始末するため、夜半から行動を開始し、夜明迄には城內全部を占據した、又夜明けと共に、遼陽から多門師團長以下同地の步兵隊、海城から野砲隊が續々到著したので、師團長の指揮で午後二時迄には、東大營の飛行場、兵工廠等全部我が手に歸した。この間中國兵は機先を制せられ、遂に潰滅して東方に逃走した。

日露大會戰 奉天の大會戰は、奉天を中心に半徑約十二粁の圈內は總て當時の修羅の跡である。クロパトキン大將を總帥とする露軍は、從來の敗戰から一擧に奪回してわが軍に致命的の打擊を加へんとし、東は撫順馬群丹から、西は黑溝臺遼河に亘る實に八十餘粁の間、渾河を前にして彼我對陣した。我軍は既に沙河の冬營中に全軍の集中を終り、明治三十八年二月二十六日、大山總司令官より命令一下、奉天總攻擊の火蓋は切つて落され奮戰激鬪の後、三月十日、遂に奉天城頭高く日章旗を飜へし、わが名譽ある國史を飾つたのである。この會戰に參與した兵は、わか軍の二十五萬に對し敵三十二萬の多數で、わが軍死傷七萬、敵は九萬と算せられてゐる。鹵獲の主なるものは、軍旗三旒、砲四十八門、虜俘二萬二千。

【亂石山】 亂石山は滿洲事變に際し日本軍警の奮戰した所で記念碑がある。碑文に曰く「昭和六年十月二十一日夜日本軍及び日本鐵嶺警察隊は王以哲軍に屬する千二百餘の一團を迎擊之を潰走せしめたり」と。

尙此の記念碑の約十五米東方には亂石山居住民一同建立にかゝる王以哲軍戰歿者之墓がある。

【昌圖】 驛西三粁、山上に日露戰役に於ける「滿洲軍最終陣地記念碑」が立つてゐる。列車か驛に入る前、線路の西沿に其の道標が立つてゐる。

【旗盤山】 驛の東約四粁、天橋山に次ぐ高い山で昭和七年九月附屬地を襲擊せる匪賊討伐のため出動せる警官隊が苦戰奮鬪の末水間巡查部長以下四名枕を竝べて戰死せる所山頂に四勇士の記念碑を建立してある。

泉頭

・日露休戰締約地 驛南二粁西沙河子は明治三十八年九月十三日、福島少將とオラノフスキイ少將と會見し日露休戰條約を締結したる地で日露戰史の最後の頁を飾るべき最も記念深き所である。

顧るに日露戰役は開戰以來二十箇月を閱し、我軍の全兵力動員總數は約百萬人、我が損害は死者八萬四千餘、傷者十四萬三千陸軍々事費は十三億七千五百萬圓と註せられ其の大多數が滿洲の地に於て費された。

【四平】 四平市は明治三十八年十月十三日、我が滿洲軍參謀福島少將と露國滿洲軍參謀オラノフスキー少將が撤兵手續及び鐵道受渡順序を議定したる日露戰史上記念すべき地である。

新京

【南嶺】 附屬地から南方四粁餘の丘陵で、兵營は前淸朝時代咸豐年間(八、九十年前 に設けられるものにして、事變當時支那砲兵、步兵各一旅、外に機關銃隊、迫擊砲隊、輜重兵隊・自動車隊等四千四百の軍隊があつたが、昭和六年九月滿洲事變勃發するや、長春駐屯步兵第四聯隊第二大隊長石黑少佐は九月十九日午前三時から行動を起し、二箇中隊及び機關銃隊一箇小隊を率ゐて先づ砲兵營を攻略し、折柄來援の公主嶺獨立守備隊第一大隊と協力して步兵營に向ひ激戰九時間の後南嶺一帶の全陣地を占領した。此の戰鬪に於ける我軍の損害は守備隊側倉本少佐を初め戰死三十八名、負傷三十九名、四聯隊側戰死五名、負傷十六名、合計戰死四十三名、負傷五十五名で敵の損害は三百餘名に上つた。

【寬城子】 寬城子の兵營は曾て露國兵營であつたが、其の後吉林督軍麾下の兵營となつた。大正八年七月寬城子街道を通行中の一滿鐵社員に對し支那兵多數が暴行を加へ、瀕死の重傷を負はしたのに端を發し日支兩軍の衝突となり所謂寬城子事件を惹起した。昭和六年滿洲事變に際しては、我が步兵第四聯隊本部が十九日未明武裝解除に向ひたるに敵は之に抵抗し、戰鬪は午前五時から十一時迄繼續した、我軍の戰死二十四名、負傷四十三名を出し、敵は兵數六百名の中戰死傷約四十名、捕虜三百八十六名を算した。

寬城子、南嶺とも敵は白旗を揭げて降伏を裝ひながら、不意の攻擊を行ひたる爲我軍の損害は比較的大であつた。

營口線

【營口】 驛から二粁、郊外牛家屯に營口防衞記念碑がある。これは明治三十八年一月露將ミスチエンコが騎兵三千を提げて我が乃木軍の北進を防ぎ、海城大石橋方面の鐵道を破壞し、更に兵站部を置ける營口を奪取して我軍物資補給の道を絕たうとした時に際し、我軍は僅か一箇大隊の寡兵を以てよく防備して營口を危地より脫し、敵軍を退却せしめた記念の戰場である。今も碑の附近に往時を語る塹壕が殘つてゐる。

撫順・安奉線

【撫順】 撫順城一帶の地は日露戰役奉天會戰の最右翼に當り川村大將の率ゆる鴨綠江軍が惡戰苦鬪して天險に據り抵抗する敵將カタリンスキイの西比利亞第三軍團を擊破したところである。占領は明治三十八年三月十日。

吳家屯

【萬寶山】 驛の南二粁明治三十七年十月沙河會戰の追擊に際し第四十一聯隊を基幹とする山田少將の支隊夜襲を以て之を占領せしも露軍ノウキコフ支隊長及びブチロフ支隊の猛烈なる回復攻擊を受け鵜澤聯隊長以下殆ど全滅して敵手に奪回せられた。其後再び我軍が奪出したが後援續かず遂に守備を撤して退却の已むなきに至つたのである。之れ沙河城を通じて我が唯一の敗戰で我が死傷四百五十に對し敵は三千の多きに達した。

石橋子

【沙河の會戰地】 沙河の上流に位し沙河平野の漸く蹙つて峽谷となる其の入口にあたる。敵將スタケルベルグの率ゆる步兵七十三大隊砲百五十餘門が康大人

山から沙河を渡つて平臺子、石橋子に前進し此地の晌山子の墳塋前に於て分れて大嶺土門子嶺に向つたゲルングロス中將の軍團と孩兒嶺から本溪湖の背面に向つたイワノフ中將の軍團及び威寧營から太子河を渡り本溪湖の東南方に迂回したレネンカンプ大將の軍團の運動が沙河戰の動機となつたのである。明治三十七年十月敵の此の主力の襲來に對し此の附近大嶺に於て梅澤少將の率ゆる三大隊の寡兵がよく防戰、人間の持ち續けられる最後の力まで賭し全滅に瀕しつゝも敵の大軍を辛くも破つたことは、其後の戰況を非常に有利に導いたのである。

【大嶺の隧道】 安奉線に入つて最初の隧道である。此の隧道の上は梅澤旅團奮戰の地で隧道の前後にいづれも線路の左側にその導標が建てゝある。梅澤少將が近衞後備歩兵一聯隊の兵を以てゲルングロス中將の軍團に當つたのであるが隧道の東口にある娘々廟の僧が露軍に内應し山上から合圖して我が兵力を内報した爲一時苦戰に陷つたといふ。大嶺の戰蹟は一名軍旗山と稱する。

【本溪湖】 本溪湖は沙河大會戰の攻撃目標であつた。そして兜山はイワノフ中將の軍團によつて奪取を圖られ我が守備苦戰頑守し救援の島村旅團奮戰して前後五日の戰に彼我の死傷七千を算した。

【宮　原】 驛の東北四粁半、唐家庄子附近の地、小山の上に木標が立つてゐる。島村旅團を基幹とする諸隊が本溪湖東方高地にある優勢な敵の攻撃を受け、連日惡戰苦闘、一部敵の奪取するところとなり危急旦夕に迫つた時、閑院宮載仁親王殿下の騎兵第二旅團は橋頭を發し敵の背後を迂回、唐家庄子東方高地に展開し其の機關銃隊がレネンカンプ支隊の騎兵二十中隊を撃退した所である。宮の御武勳を永久に偲びまつる爲此の戰場を宮の原と稱する。

【橋　頭】 驛の南方一帶の台地白雲臺は明治三十七年七月露國第十軍團の歩兵約一箇師團砲兵半箇師團の陣地を布いたところその陣地跡に今「大日本第一軍忠魂碑」が立つ。驛西六粁の楡樹林子にも忠魂碑があり又驛西二十粁の寒坡嶺も皆共に同年七月中旬から八月下旬にかけて第十二師團激戰の地、就中橋頭は木越旅團奮戰の地として傳はる。驛南一粁、白雲臺南麓なる朝陽寺は楡樹林子の戰に井上第十二師團長駐屯し越えて宮ノ原の激戰に際しては閑院宮殿下御駐泊の寺と著聞されてゐる。

【連山關】 摩天嶺驛西十二・三粁、遼陽街道を扼した峠で我が箱根の險に似る、日清、日露の戰場として名高い。日清役には黑龍江將軍依克唐阿、敗兵を收容してこゝを守り我が第五師團の今田大隊之を一旦占領したが戰略上退却したところ、又日露役には第二師團戰闘を交へずして占領したが露軍東部支隊長ケルレル中將麾下の優勢な軍が明治三十七年七月四日及び十七日の兩度、曉霧に乘じて我が前哨に來襲し、撃退されたところである。こゝを亦五峯嶺とも呼ぶ、五箇の峙立した巖石のあるが爲である。嶺下に五峯觀と呼ぶ古い關帝廟がある。嶺上に日露役の戰跡碑あり、更に行けば丹朱の華表と石造の獅子とを置いた立派な蟠龍寺がある。關帝と娘々とを祭つてゐる。

【蛤蟆塘】 日露戰役の戰場は驛の東二・五粁のところ、鴨綠江岸に敗れた露將ザスリチの軍團が明治三十七年五月一日こゝの高地を收容陣地として退却掩護したるを我が木越旅團之を追撃して東西南の三方面から包圍し蛤蟆塘の谷底に追ひ込み劍尖敵背に擬して聯隊長以下多數の將校を生擒した。

【九連城】 驛の東方十六粁、此地は日露陸戰の第一戰の行はれた所で、この戰勝はその後の諸戰を好調子にした導因といつてよい。明治三十七年三月中旬から露將ザスリチ中將の一箇師團半、この附近一帶に陣地を構築して我軍の渡河前進を拒止せんとした。我が第一軍は四月二十九日より渡河を始め五月一日拂曉から全線に亘つて攻撃

を開始し九連城一帶の高地を占領したのである。死傷者我軍七百六十一名、敵は俘虜を合して二千八百九十七名。日露陸戰劈頭の勝利であつた。今九連城東北方の高地に記念碑が建てゝある。朝鮮新義州より望見せられる。

京濱・濱洲・寧墨線

【哈爾濱附近】 北滿の大都・哈爾濱附近は比較的平穩であつたが、滿洲國國家成立近しと見た學良は新政府樹立を妨げんとして丁超、邢占淸、李杜等をして反抗せしむるに至り、在哈邦人は極度の危險に襲はれ、皇軍の出動を要請した。依つて昭和七年二月三日から五日に至り戰闘は續けられて、遂に一萬四千の敵を驅逐して哈市を占據した、我軍の死傷九十六。叛軍は破れて濱綏沿線地方に現れたが、三月皇軍出動討伐に再起不能となつた。

【安　達】 昭和七年八月二十九日歩兵第五十聯隊畠山大隊はこの附近を占領せる李海靑軍一萬を攻撃し、激戰三日遂に之を撃破し李海靑を負傷せしめ大打撃を與へた。

【腰庫勒】 虎爾虎拉站北方約一粁の地にして昭和七年十一月十日岡原支隊奮戰の場所大興安嶺作戰の前衞地として蘇炳文軍主力に一大鐵槌を加へたる激戰地にして北方高地上に犧牲者二十勇士の記念碑がある。

【拉　哈】 昭和七年十月蘇炳文軍の背叛に伴ふ黑龍江省中原の擾亂に際し拉哈警備隊は三百に滿たざる寡兵を以て一部を停車場、主力を以て拉哈市街を守備し、敵將徐子鶴五千の重圍を受くること半月、この間よく孤軍奮闘屢々敵の虛に乘じて攻勢に轉じ敵に殲滅的打撃を與へ敵をしてチチハル襲撃の企圖を放棄し遠く敗退するの已むなきに至らしめた。

【訥謨爾河】 昭和七年十月黑田支隊は種村支隊を伴ひ、北方に敗走せる撲炳珊軍三千を急追し、十一月四日遂に一千五百の敵主力を訥河南方に包圍殲滅し、馬占山をして最後の雄圖を放棄し、當時海拉爾に在つた蘇炳文の許に奔らしむるに至つた。

齊北・濱北・平齊線

【克山城】 平松旅團主力は齊克沿線の兵匪を掃蕩しつゝ、昭和七年六月七日克山に入城以來此地に駐屯屢々附近の討伐に從ふ。此間敵は前後三回に亘り克山城を攻撃し來り、其の一部は城内に侵入彼我白兵戰を演ずるに至りたるも我兵の勇敢なる反撃に遭ひ、合計四百五十の死體を棄て潰走した。

【泰安附近】 昭和七年十月蘇炳文軍の背叛に伴ふ黑龍江省中原の擾亂に際し、我軍約八十名の中島支隊は敵約六千餘の猛攻を受け、一部を以て泰安停車場を、主力を以つて兵營を死守し健闘實に旬日の長きに亙り隊長以下相次いで殪れ、彈藥も亦漸く缺乏を告げしにもかゝはらず、孤軍奮闘其任を完了す。而も急を知りて馳せつけたる黑田、宍戸、種村支隊中宍戸隊に屬する川崎騎兵中隊は敵の重圍を突破して泰安兵營に入らんとし不幸千餘の敵の包圍に陷り隊長以下一名の生還者を除き全員呼裕爾河畔に恨みを呑んで悲壯な最後を遂げた。

【大荒臺】 呼蘭站東北約三十二粁にある昭和七年七月八日我が兩角隊は慶城方面より南下せる馬占山軍別動隊匪賊一千名の頑强なる抵抗を撃破して之に殲滅的打撃を與へ、馬占山をして越江及び吉林軍との提携を斷念せしめ、急遽胞子會附近より東北方の山地に遁入するに至らしめた。

【安古鎭】（海倫附近） 昭和七年七月二十七日歩兵第十五聯隊田中隊は馬占山軍主力を劉家店に迎撃し山林大濕地帶を急追二晝夜遂に西北河畔山神廟に於て之を撃滅した。

【大興附近】 昭和六年十月張海鵬軍に逐はれた馬占山軍は嫩江橋梁を破壞して北方に退却し大興東南方高地を占領した。依つ

て嫩江支隊は此の破壞橋梁修理を掩護中、十一月四日突如敵軍の挑戰をうけ、少數の兵力を以て惡戰苦鬪苦境に陷つたが、後續部隊の來着と共に一齊に攻擊前進し遂に敵を遠く西北方に擊退した地である。此の戰に於て安隊の將兵四百名中戰死者四十七名、負傷者百三十餘名を數へた。

大鄭・錦古線

【新立屯驛附近】 昭和七年一月十一日不破騎兵部隊は當驛を去る東北十粁の地點五臺子に於て敵兵二千有餘の重圍に陷りしも、隊長以下八十六騎は遂に之を擊退し、此時不破部隊長以下十四名壯烈なる戰死を遂げた。

【熱河討伐】 熱河方面は滿洲國たること顯著なるに拘らず反滿工作の巢窟となり省長湯玉麟及びその他の雜軍は張學良と通謀してわが軍の後方攪亂を圖つたゝめ、昭和八年二月下旬より日滿兩軍は一齊進擊行動を開始し、三月なかば、遂に彼等を關外に討伐驅逐した。我軍の戰死傷者三百八十九名。

かくて敗退せる支那軍は尙も執拗に挑戰を反復したるため、皇軍は再度北支に進出するの已むなきに至り、その先鋒將に北京に迫らんとするや、支那側は停戰希望を申出で五月三十一日塘沽に於て停戰協定成立し、東洋和平の曙光をみるに至った。

【公營子附近】 昭和八年四月二十日、長城線に於ける戰雲急なる時、我が兵站部員は兵器、糧秣輸送の任務を帶びて寡兵克く數粁に亙る長蛇の如き馬車列を督勵掩護し、黃塵渦卷く四百餘粁の惡路を進行中兵匪、土匪の襲擊を受けたるも良く之を擊退しその任を全うした。驛北方一粁。

奉山線

【繞陽河驛附近】 昭和六年十一月二十七日奉天獨立守備隊第二大隊は鐵道營備の命を受け第一輸送列車に乘じ、當站東方約五粁附近に達するや、前方にありし我が裝甲列車は、敵裝甲列車と遭遇戰鬪開始、此時裝甲列車は極力攻擊前進を續行せしかば、敵は線路橋梁を破壞して繞陽河に據り、尙頑强に抵抗した。この時大隊附板倉少佐は敵の砲彈破片腹部を貫通して名譽の戰死を遂げたるも全員よく戰ひ遂に之を擊退した。

【大凌河驛附近】 昭和七年一月二十五日舊正規兵を含む約一千の匪賊大凌河守備隊を夜襲した。當時步兵第七十三聯隊第五中隊中村少佐以下五十二勇士守備に任じ、中十一名は鐵道橋に派遣せられた。中村少佐はこの時壯烈な戰死を遂げたるも各將兵の奮鬪により敵を南方及び西方に擊退した。

【山海關】 昭和八年一月山海關に於ける滿洲國警察隊と何柱國軍との間に衝突を惹起、遂に戰ひ開かれて我が守備隊之を救援、敵を擊退、關外に撤退せしめた。

【滿洲事變の結末】 事變勃發後、皇軍は廣漠たる滿蒙の地に作戰死鬪を續くること滿二箇年餘、戰鬪回數は一千回を突破し、有力なる部隊を以て行つた作戰は二十數回に及び、事變以來の犧牲又少なからず、戰死者二千五百六十六名、戰傷者六千九百六十九名に達し本事變に使用した陸軍豫算は、昭和八年度末までを合して約三億六千萬圓に達し、突發的事變のため宣戰布告による戰爭ではなかつたが、滿洲國建國により大陸の地圖は爲に一變し、東洋の基礎茲に確固不動のものとなつた。

上海附近

【八字橋】 陸戰隊本部西北方約一粁半の虹口クリークに架けられた橋梁及附近一帶の地で、曩の上海事變に於ては我陸戰隊の激戰地、今次事變でも敵は堅固なる陣地を築き閘北と共に主要陣地と爲し有力部隊を以って八月十三日突如不法攻擊をなした。我方は之に膺戰、敵は直ちに西八字橋を爆破し山砲、野砲の攻擊を始めた。我方は迫擊砲を以て膺戰之を西方に擊退したが十五日には

夜襲し來り、十六日には特志大學方面より有力部隊が逆襲した。之に對し橋本部隊は寡兵を以て蜿蜒二里に亙る第一線を死守敵に多大の損害を與へた。然しこの戰鬪に於て貫志、甲斐、城各部隊長は名譽の戰死を遂げた。

【商務印書館】 北停車場と陸戰隊本部を結ぶ中間、寶山路にあり、敵の閘北陣地の重要據點で曩の上海事變に於て、我が攻擊により徹底的に損害を蒙り、修復せるところ、再び彼等の據るところとなつたもので、附近の密集せる大家屋に構築された陣地は、幾度か我が方の砲擊、空爆によつて損害を與へたが、敵は數回に亙り、新手の有力部隊を得て租界線に迫り、八月二十一日などは同方面正面の寶興路、虹口路、東虬江路一帶に再三夜襲を致行し來り更に二十三日拂曉には敵の猛擊で一時は我が戰線は危しとさへ思はれたが、皇軍はよく耐え之を死守した。

以後同方面の中央軍は吳淞方面に移動し、保安隊が據つたが、大場鎭の陷落で全線退却し、十月二十七日にはさしもの堅陣も寶山路より西進した大西部隊、佐野部隊の連繫により占據した。

【赫司克路(ヘスケロ)ポケット地帶】 邦人密集地帶に近い靶子路、北四川路が交叉する地帶である。南方は共同租界で外人義勇隊の警備區域を爲し北四川路方面よりの我が攻擊は不自由を極めたが、空軍の巧妙なる連繫による爆擊でさしもの堅陣も崩壞するに至つた。十月二日陸戰隊土師部隊は路上のトーチカを占據、老靶子路方面より北進の佐藤部隊と共に敵を上海印刷所附近に包圍し、肉彈戰を以て奪取した。

【鐵路管理局竝に北停車場】 鐵路管理局は赫司克路の西方にあり、八階建の堅固なるコンクリート造りで、それ自身堅固なる要害であつた。事變突發後は北停車場と同樣、共同租界に接近する特殊地域を利用し、敵の右翼部隊がこれに據つてゐた。土師部隊は閘北總攻擊後幾多の犧牲を拂つたが十月二十七日には遂にこれを占據した。

一方北停車場は管理局と同樣閘北戰線の最右翼として、共同租界南市より絕えず新手の兵を入れて執拗なる抗戰をなしたが、これも前者と同日土師部隊によつて占められた。

【楊樹浦】 共同租界東部方面就中楊樹浦、黃浦江沿岸は我が國の船會社、棧橋、倉庫、紡績工場竝に住宅等が多數に存在してゐる。八月十三日以後は逸早く、陸戰隊が警備の任についた。然し敵は有力なる大部隊を以て租界侵入を企て、こゝに幾度か彼我の間に激戰が行はれ敵の銃砲彈竝に空爆により火災を生じ、內外人所有の建築物も大部分烏有に歸した。戰鬪の最も熾烈であつたのは八月十七日の敵夜襲で、翌十八日迄延長十六時間ブッ通しに行はれ、我が陸戰隊は裝甲車を先頭に公平路を北進、渡邊部隊長指揮による砲兵は敵の第一陣地西華德路を砲擊、白兵戰の結果敵の第一陣地を占據。翌八月十九日より二十日拂曉に至つては、敵は我に十數倍する勢力を以て最右翼の最前線柴北部隊を攻擊し來たが、同隊は勇戰奮鬪これを擊退。八月二十一日夜には敵は楊樹浦方面西部に戰車を先頭として、迫擊砲、機關銃を以て同地警備の月岡部隊の正面を襲擊し來り、我方は直ちに反擊を加へたが、敵は幾度も執拗なる夜襲を試みた。此戰鬪中大淵部隊長以下數名の陸戰隊勇士は公平路に於て敵戰車三臺を捕獲した。二十二日夜には滙山公園北方地區の敵三六師の有力部隊の逆襲を受けたので我が土師部隊は之を反擊租界外に退けた。

【飯田棧橋、虹江碼頭、及東部軍工路】 國民政府は國權回收の一手段として虹江碼頭を大々的に建設し租界の繁榮を市中心地區に吸收せんとし、碼頭工事半ばにして今次事變に至つた。支那事變起るや蔣介石は我軍の上陸を虞れ黃浦江岸殊に東部軍工

路、市政府附近に陣地を構築し、上下する日本船を射撃した。九月六日飯田部隊長は軍工路の開放、公大飛行場の確保と云ふ任務で主力は滬江大學附近に、中村部隊は虹江碼頭に上陸した。敵の抵抗極めて頑强で交戰八日、飯田部隊長初め幾多の犧牲を拂ひ壯烈悲壯を極めたが、森原大尉よく部隊長の遺志をつぎ力攻更に五日間、九月十三日午前遂に軍工路の堅陣を突破し、市政府に進出し日章旗を高く樓上に揭げた。

軍工路の敵陣地は滬江大學東北約五百米附近クリークを右翼とし道路に沿ひ本陣地を築き鐵條網を張り其前方畦を利用し數線に陣地を構築して居た。軍工路敵陣地突破により我陸海軍の公大飛行場の使用と呉淞上陸と上海との連絡が可能となり、其功績は殊に偉大なる爲め、飯田部隊は松井軍司令官から感狀を掌けられ其名を永く戰史に止めることゝなつた。飯田部隊奮戰の地として行人の涙をそゝるものは虹江碼頭職員官舍跡（飯田部隊長戰闘指揮に當れる所）飯田棧橋（中村部隊奮戰の地にして飯田部隊數百の死傷者を收容せし所）飯田部隊長以下の墓地は此附近の軍工路にある。

【市政府・市中心地區・松井通】　市中心地區は國民政府が國權囘收、租界解消の目的を以つて立案した大上海都市計畫に基き建設途中にあつたもので、市政府、圖書館、博物館、病院、大運動場等があり、事變前上海市政は既に此所に於て執務して居た。

事變勃發するや此附近一帶は支那中央軍の據る所となり、市政府は敵軍戰闘據點となつて居た爲め我が砲艦射撃の目標となつた。

九月十三日森原部隊軍工路陣地を突破し敗敵を追つて同日晝頃市政府一帶の地區を占領し、片山部隊また北方廟行鎭方面から前進して、市政府北方音樂學校附近に進出し、江灣附近の敵と相對峙するに至つた。この日片山部隊と共に躍進した細見快速部隊は重疊する敵陣地を蹂躪して、復旦大學附近に至り又一隊は其美路（松井通）を南下して海軍陸戰隊と連絡を取つた。

市中心地區の各道路は國民政府の功勞者又は政策、主義等を表徵する名稱を附してあつたが將兵の記憶に不便なりとし赫々たる皇軍の戰捷を後世に記念するため加納、倉永等上海戰歿部隊長の名や關係ある地名、人名を取つて日本式の名稱がつけられた。

其美路は將來大上海建設の大動脈であり、また軍事上からも極めて重要な道路なので、軍司令官松井大將の名を冠し之を松井通と名付け、小野部隊が戰闘の餘暇を利用して路幅五十米に擴張し、昭和十三年十月一日其第一期工事を完成し開通式を行つた。

【江灣】（江灣鎭・江灣競馬場・復旦大學）

江灣鎭は上海防衞上の要衝である。從て昭和七年の上海事變に於ても江灣は有名なる激戰場であつて林少將、空閑少佐の壯烈な最期は今尙國民記憶に新たであり、其墓標は行人をして躊躇低徊去る能はざらしむるものがある。

支那事變に於ても此地は再び敵の嚴重なる防備を施す所となり、市政府附近に進出した我が片山部隊は江灣鎭、復旦大學、競馬場一帶に數線に構築した堅陣を寡兵を以て突破するは徒らに犧牲を拂ふ結果となるを慮り力攻を避けて對峙し後に谷川部隊到着するに及び之と交代して大場鎭攻擊に參加した。谷川部隊亦對陣約一ヶ月の後、主力軍の北方よりする大場鎭攻擊と共に之に呼應して猛然立つて攻擊を開始したが、敵は復旦大學等の建物を利用して頑强に死守した。十月二十六日大場鎭陷落するや前線總崩れとなり潰走を初めたので谷川部隊は直ちに急追を開始し、敗敵に多大の損害を與へつゝ蘇州河の線に敵を壓迫した。

江灣競馬場は一名萬國體育場と言ひ最近

まではゴルフ場として使用せられて居た。

復旦大學は抗日教育の徹底せることに於て有名であり、學生は事變の開始と共に頻りに抗日運動を行ひ中には第一線に從軍したものも尠くない。同大學の防備は極めて嚴重で正規軍之れに據り最も頑强に抵抗をした。我が軍は文化機關を破壞するに忍びずとなし校舍を砲擊することなく死守する敵を猛攻したので非常に苦戰をした。維新政府樹立せらるゝに及び此校に維新學院を設け更生新支那に於ける日支提携の官吏養成機關となつた。

【呉淞附近】（鐵道棧橋・倉永部隊長墓・呉淞鎭・白川橋・呉淞砲臺・松井軍司令部跡・寶山城）

上海派遣軍が八月二十三日未明敵前上陸を敢行したのは鐵道棧橋附近である。同日果敢な敵前上陸を決行したのは倉永部隊、鷹森部隊を主とするもので、之に海軍陸戰隊竹下部隊及陸軍船舶部隊櫻井部隊が協力した。江岸には敵が陣地を築き死守し、上陸部隊の猛擊にも一歩も退かず陣地內に格闘して戰死したもの數知れず敵乍ら天晴れな抵抗を爲した。（上陸地點附近に敵前陸上の碑及び納骨塔竝に上陸戰闘の際に於ける戰死者の碑がある）

上陸軍は次第に地歩を擴め縱深約千米、幅約二千米の地區を確保したが敵兵約十萬十重二十重に我を圍み我が軍寡兵之を如何ともすること能はず攻守所を變ふる有様で、倉永少將、矢住部隊長以下多數の犧牲者を出すに至つた。（倉永少將の碑は軍工路西側に近くあり、此附近が倉永部隊本部のあつた所で同地で戰死した勇士の墓が竝んで居る）

當時呉淞鎭永安紡績には優勢なる敵が迫擊砲、機銃を配置し我が軍を惱ますこと甚しかつたので局面打開の必要上八月三十一日未明鷹森部隊主力を抽出して呉淞鎭北側江岸に敵前上陸を決行し、同時に棚橋部隊を以て鐵道橋から呉淞鎭西側に突進せしめ艦砲射擊及陸海飛行機により呉淞鎭を完膚なき迄に破壞した。

この第二次敵前上陸部隊は頑强なる敵を擊破しつゝ戰果を擴張し九月四日金田部隊は呉淞砲臺（呉淞砲臺は黃浦江口を扼する要害で阿片戰爭に於て英艦と交戰せる歷史を有し、前回の上海事變にも我軍に抗し停戰協定の結果之を毀却したものである。支那事變に於ては砲臺としての活動は出來なかつたが、迫擊砲機銃を備へ約一千の兵を配し、堅固なる野戰陣地として頑强に我に抵抗したのである）及び附近一帶を占領し、中島部隊は泗頭クリークの線に進出し金家宅に激戰を交へ九月六日金田部隊は寶山城を占領した。

同日羅店鎭方面から長驅獅子林砲臺を屠り、寶山城附近に進出した淺間部隊は呉淞砲臺棧橋に上陸した天谷部隊と寶山城外に於て歷史的握手をした。（寶山は寶山縣城で人口約二萬、此地方に於ける經濟都市であり海底電線の水陸接續點であつた。事變勃發と同時に支那正規軍此處を占據し良民を虐待した爲め殆んど全部避難して仕舞ひ窮民約五百が殘つて居た。鷹森部隊の攻擊愈々猛烈となるや支那軍は總退却に決し人民の同行を促したが人民は此上苦しめらるゝよりは日本軍の手にかゝり死んだ方が樂だと云ふので日本軍に虐殺せられるのを覺悟で踏み止まつた。併し日本軍寶山城を占領して入城するや窮民五百名に醫藥糧食を給し一指をも觸れることが無かつたので地獄で佛に逢つた如く喜び治安維持會を結成し日本軍保護の下に秋の收穫に從事した。寶山縣城には永く我が野戰病院を置いた）

江上に久しく上陸の機を待つて居た松井軍司令官は寶山城攻略と共に上陸し水產學校を司令部とし上海戰線の指揮に任じた。

當時支那側の抵抗は徹底的で一木一草鷄一羽も日本軍に渡さじと頑張り、後退に當つては民家を悉く燒却した爲め、皇軍は敵地を占領しても家屋の無いのに非常に苦勞した。荒廢の水產學校が之でも一番よい建物であつたことを見ても當時の戰況の一半を知ることが出來る。

呉淞クリークに架する白川橋は前回の上海事變の後出來たもので當時の軍司令官白川大將に因み名付けられたものである。支那事變に於て敵は之を全部燒き落して仕舞ひ、鐵道橋も呉淞鎭に近い方を破壞して日本軍の北方進出を阻止した。八月三十一日

鷹森部隊の主力吳淞鎭北方地區に敵前上陸をした時、之に策應して棚橋部隊はこの橋梁に沿ふ地區から攻擊し、其の決死隊はトロツコに乘つて鐵道橋の破壞地點迄猛進しそれからクリークの敵岸に飛び込み手榴彈戰を交えて堤防を占領した。

吳淞鎭一帶を占領後松井謙部隊は元白川橋の燒殘り橋脚を利用し軍橋を架設し、白川橋の因緣を知らなかつた爲めその部隊長の名を取り、之を松井橋と命名した。完成後間もなく松井軍司令官此の橋を渡り松井橋の名稱を見、軍司令官の姓を以て名付けたるは怪しからぬことなりと大いに不興の面持にて水產學校軍司令部に歸還するや直に副官に命じて紙と筆を持參せしめ即座に「白川橋」と自書し直ちに之を橋に貼りつけよと命ぜられた。今橋に彫りつけてある「白川橋」の字は卽ち之である。

【月浦鎭・叔里橋・獅子林砲臺】　九月四日吳淞砲臺棧橋附近に上陸した天谷部隊は同月六日淺間部隊と寶山附近に會し泗頭クリークの線に態勢を整へ、愈々九月七日よりクリークを越えて攻擊前進を開始し、安達・淺間兩部隊を以て月浦鎭を攻擊した。敵はクリーク、村落を利用して數線に堅固なる陣地を構築し頑强なる抵抗を爲し天谷支隊は死傷續出する有樣であつたが晝夜健闘六日、十二日遂に月浦鎭陣地を突破し更に戰果を擴張し軍工路（寶山―月浦鎭―羅店鎭）道に沿ひ戰鬪を交へつゝ前進、特に叔里橋に於て激戰數日の後敵を擊破し　九月下旬羅店鎭附近に進出し永津、和知部隊突出の動機を爲し戰勢に一轉機を劃するに至つた。

獅子林砲臺は月浦鎭の東北揚子江岸に位置し江岸防禦陣地の據點を爲し前回上海事變の際に彼我の戰鬪を交へた所で停戰協定により備砲を破壞した所である。

今次事變に於て敵は一部の步砲兵を配置して之を守つたが羅店鎭から南下して來た淺間部隊は八月三十一日之を占領した。

【楊行鎭・吳家宅・松井軍司令部跡】

九月四、五日の夜吳淞附近に上陸した藤田部隊後續の田上、石井部隊は鷹森部隊と交代して泗頭クリークの線に進出して警備につき九月七日から田上部隊は吳淞砲臺―楊行鎭―劉家行道に沿ふ地區から、石井部隊は其南方吳淞クリークに亙る地區から一齊に進擊を開始しクリークと村落とを點綴する世界に其類を見ざるクリーク地帶陣地突破に多大の犧牲を拂ひ悪戰苦闘一週間九月十二日遂に田上部隊は楊行鎭を、石井部隊は吳家宅を占領し、更に兩方陣地帶の攻擊を續行した、泗頭クリークから荻徑クリーク迄は約十五粁の縱深を有するクリーク陣地帶であつたのである。

楊行鎭西側楊家宅は田上部隊が陣地占領後、藤田部隊司令部が此所に位置し部隊の戰鬪を指揮した所で、田上部隊が劉家行を取り愈々大場鎭總攻擊の態勢を取るや、藤田部隊は劉家橋に進み、松井軍司令部の戰鬪司令所を此所に移した。卽ち此地は大場鎭總攻擊の最高統帥司令所で我が軍大場鎭を突破し蘇州河の線に進出するや軍司令部は周村（大場鎭南方）に轉移した。

【劉家行・顧家宅・金家灣・王丸房・荻徑クリーク】　月浦鎭、楊家行、廟村の堅陣を喪つた敵は、荻徑クリークの線殊に劉家行、顧家屯の線に本陣地を構え頑强に死守した。楊家行、廟村を奪取した田上、石井兩部隊は馬を憩ふ暇もなく連日の雨を冒しクリーク村落を點綴する縱深十粁の陣地を朝に一村、夕に一クリークと突破し隨所に激烈なる白兵戰を交へ火燒場、金家灣、楊木橋、王丸房に於ては戰鬪殊に慘烈を極め一夜にして敵は五、六回の逆襲を試みると云ふ有樣で、我が軍の損傷も甚しく石井部隊の一隊の如きは隊長傷き以下殆んど幹部は死傷し田上部隊亦金家灣奪取の爲に多數の死傷者を出した。

かくして悪戰苦闘三週間九月三十一日、

田上部隊は荻徑クリークを渡つて劉家行を占領し、石井部隊亦十月一日顧家屯の敵本陣地を突破し茲に大場鎭總攻擊の端を啓き赫々たる武勳を戰史に留めた。

荻徑クリークの兩岸には鐵條網を張り廻した堅固な陣地があつた。工兵隊と步兵隊との緊密な涙ぐましい協力により、決死の工兵が彈丸雨飛の中を躍り出て輕架橋を渡す、待ち構へた步兵は工兵に默禮して其橋を渡つて敵陣に突入する、橋が流されそうになるので工兵は水の中に飛び込んで下から橋を支へると云ふ有樣であつた。

田上部隊長は「泗頭クリークの線出發以來多數の部下を喪ひ、上陛下に對し奉り下國民に對しても申譯なし、然し赫々たる部隊歷史の面目にかけても速かに我が部隊に課せらそたる重大使命を達成せざるべからず。我が軍劉家行を占領せば眞先に軍旗を奉じて陣頭に進むべし」と覺悟を決めて居た。九月三十一日我が第一線が荻徑クリークを越へて劉家行に突入するや田上部隊長は今井少尉に軍旗を捧持せしめ、金家灣本部から劉家行に急進した。沿道にある傷者は跪坐して軍旗を拜し傷付かざるものは思はず立つて着劍捧銃をし涙潛々として下り其の情景は誠に感激の極みであつた。

【羅店鎭】（川沙口鎭・白壁の家・劉家鎭）

昭和十二年八月二十三日山室部隊は吳淞方面の敵前上陸に相應じ揚子江岸川沙口鎭に敵前上陸を敢行し若干の死傷者を出したが、直ちに進擊を開始し所在の敵を擊破した。中村部隊三十名は急進して上陸當日早くも羅店鎭に入つたが三、四千の敵の重圍に陷り奮戰格闘全滅した。和知、永津兩部隊は至る所に優勢なる敵を擊破し屢々壯烈なる白兵戰を演出して、八月二十六日遂に羅店鎭を占領し、淺間部隊は更に長驅して劉家鎭南方地區に進出した。然るに敵の兵力益々增加して我が軍の二十數倍に上り、頻りに重砲、迫擊砲を以て我が軍を苦しめ我が軍は一箇月間羅店鎭附近に於て敵の重圍に陷るに至つた。此悪戰苦闘の間和知、永津兩部隊は屢々奇計を以て敵を反擊し敵をして端倪するの暇なからしめ、淺間部隊は吳淞方面友軍の危急を救ふため南方に突出して敵中を進擊獅子林砲臺寶山方面に進出した。

和知、永津兩部隊の羅店鎭羅城間の近接戰鬪は激烈を極め彼我二、三十米の近くに對峙俗稱「白壁の家」の如きは、談話手に取る如く聞え時に女人の舞踏するものすらありしと云ふ。然して敵の防禦施設日を追ふて堅固となりしを以て、九月下旬全線突出に當りては坑道戰、戰車並工兵の突破戰により、戰鬪實に熾烈を極はめた。約一箇月の戰鬪により、敵に與へたる損害數萬に及びたるも我が軍の蒙りたる損害亦尠からず、隊長以下幹部殆んど死傷せる部隊もあつた。山室部隊司令部跡、和知部隊本部、永津部隊本部及白壁の家等何れも當時の戰況を語り繼ぐべき遺跡である。

【大場鎭附近】（唐橋）大場鎭は上海防衞の要衝で江灣、南翔を連ねる線には事變勃發と共に堅固なる陣地帶を構築し本式のトーチカ迄造り斷乎とし日本軍を此線に拒止し上海を防衞しようとした。

石井、田上兩部隊が劉家行顧家屯を占領したのを契機として軍は百八十度の大旋回を爲し、一部を以て羅店鎭西方地區から廣福附近に亙る敵を牽制攻擊すると共に、南翔から大場鎭、江灣にかけ深さは藴藻濱クリークから、京滬線附近に亙る一大陣地帶に對する所謂大場鎭總攻擊の態勢を整ふるに至つた。卽ち南翔方面には主として山室部隊、藤田部隊、南翔から大場鎭にかけて吉住部隊、大場鎭以西には伊東部隊之に當り江灣は東正面から谷川部隊が攻擊することゝなつた。之等諸部隊の攻擊準備は連日の雨天と頑强なる敵の抵抗とにより極めて困難を極め、加納少將以下多數の犧牲を拂

ひ十月中旬遂に全線に亙る總攻擊を開始し、吉住部隊は激戰の後仙師廟附近の敵堅陣を突破して京滬線に迫り、藤田部隊は馬橋宅、走馬塘クリーク南北地區に於て激戰、十月二十四日大島部隊は大場鎭の一角を占領、伊東部隊また奮鬪激戰、福井部隊、飯塚部隊（加納部隊）相前後して十月二十六日大場鎭を完全に占領、津田部隊は二十五日廟行鎭を占領し大場鎭東側地に進出、谷川部隊は二十六日江灣の敵を擊破し各部隊全線に亙り總追擊に移り二十七日蘇州河の線に進出し數萬の敵を大場鎭及其南方地區に擊滅し赫々たる武勳を上海戰史に留めた。

【蘊藻濱クリーク・加納少將戰死跡】
蘊藻濱クリークは大場鎭總攻擊の態勢を整へた線でこのクリーク渡河には我軍は多大の犧牲を拂つた。クリークの南岸に敵は數線の陣地を設け頑强に死守した。友田恭助伍長は渡河部隊として彈丸雨飛の中で敵前渡河の眞最中に斃れたのであり加納部隊長、吉川部隊長以下多數の勇士は渡河後、小宅、曹宅附近に壯烈悲壯の最期を遂げた。

又張沿宅附近は津田部隊、田灣附近は福井部隊、本道上の唐橋附近は石井部隊の激戰渡河した所であり、西方陸家橋、頓悟、陳家行は伊佐、脇坂部隊等極めて激烈な戰鬪を交へた所である。

蘊藻濱クリーク南岸の敵陣地の跡は上海街道上該クリーク附近に殘つて居るし、大場鎭とクリークとの中間にある馬橋宅等は相當な部落であつたのに全村廢墟となり竹藪は悉く銃彈の爲切斷せられ物凄い激戰の跡を殘して居る。加納部隊長の戰死の地は上述橋梁の下流約五粁の小宅で廟行鎭の北方約二粁にある。

【大場鎭表忠塔及大場鎭飛行場】 この附近が大場鎭戰線中戰の最も激しかつた所であり江南戰線最大の激戰地であるので、小丘を利用し表忠塔が上海派遣軍將兵一同によつて建てられた。其の題字及び碑側の漢詩は當時の軍司令官松井大將の揮毫になるものである。境内にあるトーチカは敵軍の工事半ばにして放棄したものである。

大場鎭飛行場は占領後軍により構築せられたもので其規模極めて廣大で爾後の諸戰鬪に於ける我軍の活躍に偉大なる寄與を爲したものである。此附近は主として福井部隊、飯塚部隊が大場鎭攻擊の爲奮戰した所である飛行場並に表忠塔は後世天下に上海派遣軍の偉績を傳ふる好箇の記念物である。

【廟行鎭・林少將碑・空閑少佐碑】 廟行鎭は前回上海事變の際爆彈三勇士の奮戰により人口に膾炙してゐる。三勇士の碑は上海事變後有志者により此地に鄭重なる墓碑を建てたのであるが、支那事變前抗日支那人により、いつの間にか毀却され其の附近に仰々しい大規模の支那軍戰捷記念碑が建てられた。支那事變大場鎭占領の時我が爆擊により支那軍戰捷記念碑を破壞し、三勇士の英靈眠る廟行鎭には三勇士の原隊の勇士により嚴肅壯嚴なる三勇士の碑が建てられた。同じく上海事變により雷名を轟かせた林少將戰死の地には立派な碑が立てられ、又悲壯を極めた空閑少佐自決の地にも日本武士道を傳ふべく碑が立てられ皇軍の精華を永く語る事となつた。何れも廟行鎭東南方本道近くにある。

【蘇州河畔及び虹橋飛行場・龍華】 十月二十六日大場鎭附近の敵陣地を突破した我が軍は一擧蘇州河の線に急迫したのであるが、敵は豫て其南岸に堅固なる陣地數線を構へ、加ふるに外國權益の建築物を巧みに利用、配備せる爲、蘇州河の要害と相俟ち我軍の力攻空しく再び此線に對陣の止むなきに至つた。此間鷹森部隊、田上部隊の一部決死隊は豐田紡績工場附近に於て果敢なる敵前渡河を敢行したが豐田紡績及其附近の敵は設備したる銃火を以て之れに應じ、寡兵遂に敵陣地を貫くことが出來ず殆んど全滅の悲運に立至つた。其後吉住部隊は江橋鎭南方地區、藤田部隊は新北涇、金家宅附近に於て渡河準備を整へ、十月三日遂に果敢なる敵前渡河を敢行し前岸に地歩を獲得したが、敵の抵抗尚頑强にして、其後の戰況は依然遲々として進まなかつた折も折、十月五日突如「日軍百萬上陸杭州灣北岸」のアドバルン蘇州河畔に揭げられ我軍の士氣百倍せるに對し敵軍の士氣は阻喪し、遂に蘇州南岸の敵陣崩壞の端緒となつた。爾後我軍の猛擊に依り敵は逐次南方に後退し、七日には我が脇坂部隊が虹橋飛行場を占領し、川並、鷹森兩部隊は龍華飛行場及龍華鎭一帶を占領し、茲に我軍は完全に上海全市を掌握するに至つた。

【南　市】（日暉港クリーク・黃浦江岸トーチカ陣地・黃浦江閉塞跡）佛租界に南接する縣城及附近一帶の支那人街で往昔の上海とは當地を指し、開市と共に租界地區が發達したのである。

今次事變勃發するや敵は盛に南市に防衛施設を施し、江岸及市内重要地點には堅固なる本格的トーチカを構築し、日清汽船數隻を黃浦江に爆沈して閉塞し楊虎警備司令部を龍華に置き上海北部戰線、浦東に對する一大策源地を爲すに至つた。

十一月七日龍華一帶を占領した川並、鷹森部隊は更に頑敵を掃蕩して八日日暉港クリークの線に進出した。敵は該線クリークの對岸に堅固なる永久的陣地を設け悉く橋梁を破壞して我軍の進擊を阻止した。

我軍は無辜の民衆を傷くるに忍びず九日飛行機により支那軍の撤退降伏を要求するの傳單を撒いたが、敵は應ふるに銃砲を以てしたので遂に同日正午を期して總攻擊を開始し陸海飛行機爆擊と相俟ち愛甲、松本等の部隊は本道に沿ふ地區から敵前に渡橋を架し敵陣に決死突入し、江岸に沿ふ地區を鷹森部隊の一部突入し造兵廠其他重要建物を逐次占領し、激烈なる市街戰を展開し十二日に至り全市を完全に掃蕩し盡した。

【浦　東】 黃浦江右岸一帶を總稱した支那街で日清、郵船其他日本側の棧橋、倉庫工場等がある。

事變勃發するや張發奎麾下の約二箇師が浦東に居て我が軍の背後を惱した。十月十一日我が南市攻擊と相前後して我が津田安田の陸海兩部隊は同時に浦東に上陸したが敵は閘北、南市の如く頑强な抵抗をすることなく撤退したので大なる市街戰を交へることなく十二日一帶の掃蕩を完了した。

浦東は民家の破壞が尠かつたので掃蕩戰終了するや、支那民衆は早くも復歸し十二月には蘇錫文を中心とする大道市政府（維新政府に合流し現在の上海市政府となる） 樹立せられ、事變前よりも寧ろ殷盛を極むるに至つた。

南　京

【光華門】 〇〇部隊は、十一月二十日蘇州出發、途中、無錫、常州、金壇、天王寺方面の頑敵に遭遇しつゝ之を擊破、夜を日についで追擊し、十二月五日午前六時湯化鎭に到着、直に其の前面の大理山及び青龍山の各西南高地の敵に對し攻擊を開始した、翌六日朝には其の第一線陣地を占領、更に八日午後には第二線陣地を突破し、脇坂部隊は其の先頭を以て九日午前五時十五分光華門前方約二百米の丁字路に到着した。

光華門前面に我が部隊が到着するや沿道にある電柱の街燈は一點に點火され、城壁の上からは敵は熾に照明彈を落下し、數十の機關銃は火蓋を切つて雨霰の猛射を我が軍に浴せて來た。先頭にあつた伊東部隊は直に堤防の線に展開し、光華門に對する攻擊の準備に移り、他の部隊は防空學校西北端附近に集結し通濟門に對する攻擊を準備し、更に他の部隊は豫備隊として防空學校給水塔附近に集結した。

斯くて未明に及び脇坂部隊長は、防空學校の東端に〇砲二門を置き、光華門の破壞射擊を命じた。射擊を開始するも纔に門扉

を破壊したる程度に過ぎない。門内は土嚢や木材が一杯積まれてゐるので突撃路は開き得ない。配屬の工兵と歩兵の破壊班が協力して之に當つたが、藥量少く滿足な成果を擧げ得なかつた。

光華門の東南方約千米、七甕橋附近には敵が充滿して、○○部隊本部と脇坂部隊との連絡が絶たれてゐたので、十日朝○○副官が輕裝甲車に乘り、○砲彈藥を滿載して決死の連絡に當り、部隊長はこの彈藥を以て午後三時城門に對して破壊射撃の續行を命じ、同時に堤防附近に待機せる伊藤部隊長は午後三時五十分を期して光華門に突入すべき命令を與へた。熾なる○砲の射撃にさしもの門扉も四散し、土嚢はくづれ、遂に通路は開かれたが、敵は我に對し、間斷なき迫撃砲の射撃を浴せ、防空學校東北端附近に位置した部隊本部に數十發落下し、戰闘指揮は一時中絶の止むなきに至つた程であつたが、伊藤部隊長は斷乎任務に向ひ、前進の決心をなし、先づ其の一部に對し光華門に突入を命じ、同隊は午後五時門内に突入して日章旗を樹てた。續いて他の一隊は更に次の一隊と各隊を矢繼早に突入せしめ。先進部隊の戰果擴張に努めしめたが、これまで數十回の戰闘に於て兵力を減少し、各隊を合して纔に七十名に過ぎなかつた。敵は我の城門突入を知るや、城壁上より盛に手榴彈を投下する、門内近くの家屋に機關銃を備へて猛射を浴せる、城門内北側の道路上には對戰車砲に備へて城門を縱射するので、我が軍の死傷は續出した。

この時○○部隊長は脇坂部隊が光華門に日章旗を樹てた事は天聽に達したる趣を隊長に通報したので、隊長は直に伊藤部隊長へ其の旨を傳へ且「部隊は全滅を期して光華門を確保せよ」と電話を以て命じた。部隊長は速かに「誓つて城門を確保す」と答へ、豫備隊たる一隊を率ゐて門内に突入した。

門内に突入するや部下に對し「お前達の忠勇は天聽に達した。部隊は全滅を期して光華門を確保す」と叫び自身は敵彈の一番屆き易い危險な扉の附近に位置し、副官や兵に對して「お前達は若い前途有爲の者であるが、俺はもう老先短い。お前達は安全な箇所に下つて居れ」と部下を庇護し、最も危險な場所に坐して動かず、傳令林上等兵外一名が安全な場所に下さうとした時手榴彈が飛來り伊藤部隊長の右前額部と右足に命中、一は兵の腹部を抉り、林上等兵の左眼をつぶした。林上等兵は鮮血に染まりながらも馳けよつて部隊長を介抱しようとすると「いや俺はもう介抱をするに及ばぬ」と云ひ、佩用の軍刀と前上海事變において拜領した恩賜の義眼をはづして林上等兵に托し、重傷を負へる一人の兵を抱へ「御苦勞だつた。俺もあとから行くぞ」と慰めてゐたが、午前九時敵彈再び部隊長の前額部に命中、遂に絶命するに至つたのである。

爾後門内に突入せる兵は死傷續出したが部隊長の遺訓をよく守り、飽く迄城門を確保し續け、明けて十一日敵は門内に催涙瓦斯を放ち、木材に石油を注ぎ火をつけて投下し、戰車の襲撃前後三回に及んだが、部隊は三段の散兵をつくり、城門を確保して一歩も敵に讓らない。

同日午前九時三十分頃我が軍の飛行機が城壁に爆彈を投じたので此の機會を捉へ、城壁上に梯子を掛け、輕機關銃二、重機關銃一を上げ城壁を占領したが、忽ち反覆する敵の逆襲に逢ひ、見る見る内に彈藥缺乏し、其の大半は死傷して門内に撤退するの止むなきに至つた。

この夕刻城外飛行場に○○砲二門到着し射撃を開始し、城内の東側に破壊射撃を實施し、翌十二日隊長は○○部隊長に○○部隊を合せ指揮せしめ、十三日拂曉を期して突撃を實施すべく命令を下した。十三日未明○○部隊は城門東側の突撃路より、○○部隊は城門より夫々突撃を開始し、午前四

時遂に城門及び其の附近一帶を占領した。

防空學校東北部にあつた○○部隊長は軍旗を捧じ光華門上に前進した。時正に午前五時、城壁上にて皇居遙拜をなし、茲に首都南京攻略の一番乘りは見事に達せられたのである。

【中華門】 十一月五日杭州灣上陸、同月十五日崐山を占領、續いて蘇州方面に向ひ追撃の態勢にあつた谷部隊は南京方面に轉進を命ぜられ、十八日崑山を出發した。

連日の降雨のため道路は惡化し、加へて敵のために橋梁は破壊せられ、前進甚だ困難なる狀況であつたが、我が軍の勇猛はよくこれ等の艱苦を忍び、缺乏を克服して難戰を重ねながらも遂に十二月八日正午頃牛首山東南地區に到着した。

翌拂曉より竹下部隊を右に、岡本(安)部隊を左に展開し、將軍山及び牛首山附近の敵陣地に對して攻撃を開始し全山岩石を以て覆はれ、天塹の嶮を恃んだこの要害を奪取するには相當の苦闘を重ねたが、勇猛果敢な夜襲の決行により遂に九日午後之を占領するに至つた。牛首山の占領によりこの方面の敵の防禦線の一角は崩壊し、動搖の兆が現れたゝめ我が軍は一齊に追撃に移つた。然るに牛首山以北の高地帶は埋設地雷或は障碍物を設け、其の上數線の陣地を構築されてゐたが、夜間であつた事と敵に追尾して進んだので比較的迅速に攻撃が進捗したのである。

これより先、岡本(鎭)部隊と猪木部隊は逐次新陣地を奪取しつゝ、九日夕刻には、主力の左翼方面に進出し、十日に至つて主力追及中の長谷川部隊が到着したので、谷部隊長は一番右にあつた竹下部隊を最左翼に轉進せしめた。其處で各部隊は最右翼岡本、安部隊、其の左が長谷川部隊、其の左は岡本(鎭)部隊、最左翼は竹下部隊及び猪木部隊といふ態勢で攻撃を續行した。

長谷川部隊方面に於ては夜間攻撃を續行し、午後十一時頃雨花臺西南方高地の最高峯を其の一隊が占領した。敵は十數回の夜襲を反覆し、ために隊長等も傷つき、八十餘名の死傷者を出したるも、克く其の高地を確保し、南京城に對する谷部隊攻撃の重要なる據點を我が手に收め得たのである。

斯くして各部隊は十一日夜南京城壁南方の雨花臺東西高地の線に、更に十二日午前十一時頃には各部隊一齊に城壁南側のクリークの線に進出し、城壁に對する攻撃目標を最右翼の岡本(安)部隊は中華門、長谷川部隊は城壁の中間、其の左岡本(鎭)部隊は城壁西南端、最左翼竹下部隊は水西門方面に選定した。竹下部隊及び猪木部隊は十日午後水西門方面に向ひ攻撃前進せんとした所進路が無いため更に左方に迂回し、揚子江の右岸に沿ひて北上し、其の途中、十三日水西門より退却する約一萬の部隊に遭遇して敵約二千を殲滅、軍旗二流を奪取し、午後敵の退路を遮斷するため下關方面に前進、十四日同地に進出した。

城壁攻撃のための我が砲兵隊の主力は、雨花臺西南方安德門附近に進出し、中華門附近に一箇所、城壁西南に一箇所、其の中に一箇所、合計三箇所の突撃路を開設する計畫であつたが、都合により全力を西南角に向け突撃路の閉設を實施した。

十二日午前十一時頃、クリークの線に到着した長谷川部隊は、砲兵の破壊攻撃も效力がないため城壁を登る事を計畫し、當時偶々クリークを流れて來た一艘の小舟を捉へ、安藤伍長、中津伍長等の七名が斥候として出る事になつた。この斥候は敵の斜射、側射を受けながらクリークを渡り、豫め準備の梯子を登つたが、梯子が城壁上に屆かないので城壁の煉瓦の間から生えて居た小さな枝を頼りに登攀して、午前零時二十分初めて城壁上に日章旗を飜した。更にこの小舟により次々と梯子を登つて午後二時三十分には十數名の者が城壁の上に登り、これを確保したのである。此の時敵は中華

門と城壁西南角の城内から我に對し數回の逆襲を繰返して來たが、勇敢なる我が將士はよく應戰して、城壁上にあつた煉瓦を少し宛崩して掩體をつくり漸く戰果を兩側に擴張することが出來た。かくて午後四時頃になつて歩兵の一隊と、機關銃隊を城壁の上に昇らせ、兩方面に戰果を擴張して遂に占領したのであつた。

一方城壁西南角に向つた岡本（鎭）部隊は午後四時過敵の十字火を冒してクリークを渡河し、砲兵の掩護射擊の下に一部隊は先づ城壁に突入して午後四時四十分之を占領した。

中華門に向つた岡本（安）部隊は十三日午前一時に至り之を占領することが出來た。

この頃城内の敵は頑强に抵抗しながらも退却の兆があつたので午前九時乃至十時頃各部隊より追擊隊を出し、逐次城内を掃蕩しながら清凉山に向つて前進し、午後三時には同山一帶を占領した。續いて下關方面に敵を掃蕩し、一部は夕刻下關に進出して、東方より進攻した中島部隊の一部と確實に連絡をることが出來た。

この戰鬪における谷部隊の損害は甚しかつたが抗戰した敵は第八十七師、第八十八師及び敎導總隊所謂中央軍の最精鋭と稱せられたもので、敵の損害は遺棄屍體のみにて一萬五千餘に達した。

【南京攻略戰果】 南京攻略戰において敵約十萬に與へたる損害は約八萬、我が損害は死傷者約四千である。

一、敵の遺棄屍體　五三、八七四

一、鹵獲品　重砲一〇八門△野山砲一九△迫擊砲七九門△高射砲三七門△曲射砲一九門△機關銃四一一門△輕機關銃九五六門△自動小銃一三六挺△小銃九、三三四挺△拳銃一一五挺△戰車一〇輛△飛行機六機△自動車三六輛△手榴彈七七、八五〇發△重砲彈八、二一六發△野山砲彈一、〇二六發△迫擊砲彈六二、五七二發

海杭沿線

【金山衞城】 松江驛より三十粁餘、杭州灣の中樞に位し、昭和十二年秋日軍百萬上陸で抗日軍の膽を奪ひ、上海攻略作戰上の大ホームランを戞つ飛ばした歴史的敵前上陸の行はれた所で、皇軍は此所より直ちに北進し、松江市破壞後一は東進して上海の背後を突き、一は西折して嘉善方面の敵を破り、大いに戰果を擧げた戰史發祥の地である。

【寛橋】 上海より一七九粁、中國空軍空の犠牲者の靈を祀る共同墓地に隣接して、近代的防空壕があり、此附近一帶は支那事變當初即ち昭和十二年八月戰史に輝く我渡洋編隊が、暴風雨を衝いての第一回爆擊を敢行した所で、强靱を誇る近代的建築物も皇軍荒鷲群の猛擊に一たまりもなく壞滅し去つて、今は鬼氣迫る廢墟が皇軍の正確、壯絶な爆擊を物語つてゐる。

【杭州】 昭和十二年十一月五日、我陸軍部隊は杭州灣金山附近に敵前上陸を敢行し、破竹の勢を以て驚異的進擊を續行、十一月十日には上海を包圍占領し、續いて十二月十五日南京を攻略するや踵を返して杭州に迫り十二月二十四日夜攻擊にうつり、翌二十五日に堂々入城するに至つたもので戰禍は比較的僅少であつた。

視察注意

一、幾萬生靈の鎭まれる聖地を旅行するの態度を失はざること。
二、半面皮相の觀察を爲さゞること。
三、大國民たるの態度を持し一般支那人に對し誤りたる優越感を以て臨まざること。
四、現地の軍隊に迷惑をかけ又不快の念を與ふるが如き言動を嚴に愼むこと。
五、惡疫の警戒を周到にし日本國内に病源を輸入せざること。
六、見聞せる軍の秘密を放言せざること。
七、通行證必要の場合は憲兵隊から交付を受くること但し寫眞二葉を要す。
八、許可されてゐる以外の場所で寫眞を撮影せざること。
九、好奇心にかられ危險な場所へ出入せざること。

避暑地と水郷



關東州

星ヶ浦（大連市内西南部）

大連富士を背に渤海の蒼海原に面する東洋有數の海濱遊園地、滿鐵經營の公園があり脫衣所、洗體所、兒童運動具、貸舟等の海水浴の設備が完備してゐる。

避暑滯在設備としては星ヶ浦ヤマトホテル、同分館、同貸別莊、家族會館、大連觀光協會設備ビーチハウス等がある。

○星ヶ浦ヤマトホテル分館
▲一人室三圓乃至四圓▲二人室一人四圓乃至五圓、二人五圓五十錢乃至七圓　▲疊敷一室三圓乃至五圓
▲日本間四圓乃至六圓
○星ヶ浦貸別莊
自六月一日至九月三十日、　四百三十圓乃至六百六十圓
○星ヶ浦家族會館
▲一般休憩大人十錢、小人五錢（六歳未滿無料）
▲專用休憩室に餘裕ある場合宿泊又は貸切の需めに應じてゐる。
○大連觀光協會ビーチハウス
自七月五日至九月五日、甲乙兩種あり料金は▲一日二圓三十錢、二圓八十錢▲一週間十四圓五十錢、十八圓▲全期間百圓、百二十五圓

老虎灘（大連市内南部）

老虎灘の名の由來する猛虎踞まるに似た懸崖をはじめ奇岩奇景に富み水淸く魚多く汐干狩にも適する。

街村の前の海は靜ヶ浦と共に海水浴場であるが、靜ヶ浦には脫衣所、貸ボート等の設けがあり、近くには水產試驗所がある。料亭一方亭、千勝館、月の家、嘯月等がある。

傅家庄（大連市西南部）

大連桃源臺よりバスの便があり（三十分）白砂にして水淸き佳景の海水浴場、釣魚にも適する。

海上一哩先に浮ぶ無人島も絶好の淸遊地である。

夏家河子（大連驛より汽車約三〇分）

滿洲の湘南と稱せられる程有名な海水浴場で夏期には大連より海水浴客のため毎日臨時列車が往復して居る。渤海に面し白砂遠淺で婦女子の遊泳に適し、滿鐵經營の下に諸種海水浴場設備が完備し、貸間宿泊所としては水明館、碧漣館彩雲閣などがある。

（開館期間自七月初旬至九月初旬）

○個人宿泊料
一日　一人一圓二十錢より二圓五十錢程度
▲一日　三食一圓見當
▲寢具使用料　宿泊所備附のものを使用する場合は一日一組（敷蒲團、毛布又は掛蒲團各一枚枕一個）二十錢
▲自炊設備使用料　一日十錢燃料を含まず（但し食器類は各自携行のこと）
○團體宿泊料
一日一人學生十五錢、一般三十錢　▲食費　學生一日三食六十五錢、一般團體其他は個人食費に同じ
▲收容人員五十名、百名、百五十名の三箇所
○天　幕　一日使用料三十錢
○海濱浴場　一回券大人五錢、小人三錢　▲十一回券大人五十錢、小人三十錢
○貸別莊　自六月十日至九月十日　一期間は一六〇圓—二二〇圓、一月は三十五圓—九十圓
ＡＢＣＤＥ型の五種あり料金一月三十五圓より九十圓まで
○有料脫衣所　一日大人四十錢、小人三十錢

黃金臺（旅順）

東洋のニースと呼ばれて居る事だけでもその風光が想像出來る。黃金山南麓の美しい山肌に抱かれた海濱、露治時代より夙に別莊地、避暑地として有名である。現在ではヤマトホテル別館及び貸別莊十九棟がある

○ヤマトホテル黃金臺別館宿泊料
▲洋室十四、和室五、　共に浴室あり一人四圓—七圓、二人六圓—一〇圓五十錢、十一月一日より四月末日迄冬期三割引

▲和洋一品料理及和洋定食の準備あり
○黄金臺貸別荘
自六月一日至九月三十日、　二百四十圓乃至五百四十圓　▲海岸簡易別荘使用料一日一圓五十錢、一月三十圓

杏樹屯（大連より約二時間餘）

金城線中間驛「杏樹屯」海岸は一方に斷崖か聳え、崖の下は五十餘町の白砂、斷崖から沖へ向つて幅十數町の暗礁が突出し、沖合遙かに點々と浮ぶ島嶼、傳説の駱駝岩は悠久の影を清澄な水に浮べ、海水浴に釣魚に又林間生活に好適と云ふ總てに惠まれた浴場である。

明媚なる風光清澄なる海水を持つ絶好の新海水浴場として近來浴客の絶讃を浴びその將來性をはつさりと裏書きされた。脱衣場、シヤワー、遊歩場、遊園地、相撲場、サンドスキー場等の設備も整ひ又公衆電話も新設され一段と便利を加へた。

滿洲

松樹（大連より約二時間半）

驛より南方五百米清流あり釣によく靜寂な雰圍氣は夏のキヤンプに好適である。驛には貸天幕もある

沙崗（大連奉天間の路中間）

驛から西方約六粁佃家屯の附近の海濱は蜿蜒數里の遠淺で近年海水浴場として認められるに至つたところで設備も出來て居る樹間はハイキング、キヤンピングにも好適である。ビーチテント、ビーチパランルも設けてある。

連山關（奉天より三時間半）

〔林間キヤンピング、魚釣、水遊び〕

分水嶺に近く海拔三百三十米、翠巒に圍まれ夏涼しく清流細河は釣に水遊びに良く一名「滿洲の輕井澤」とも稱され、滿洲第一の山間避暑地とされて居る。

鬼つゝぢ、福壽草、野生芍藥、梨、杏が多く高山植物の採集地として良い。驛西方十二粁にして日清日露役の激戰場摩天嶺があり、その途中に仙境石家沿の觀音堂がある。

東亞旅行社のサンマーハウス（バンガロー四棟）がある。

下馬塘（奉天より約三時間半）

〔細河の川遊びと魚釣、キヤンピング、ロツククライミング、鑛植物採集〕

祁家堡分水嶺に源を發して橋頭の南で太子河に合流する細河の溪谷美は此附近でその極に達し、翠巒斷崖を配して風光まことに美しい。

清流に沿ふ楊柳の疎林散見する水車小屋の添景、素朴な村里の物柔かな風景である。流は驛前に來て川幅やゝ廣く、このあたり一帶釣魚地として定評あるところ、白沙の河原のキヤンピング、或は水泳に、附近の山へのハイキング、徒岩寧頭の懸崖にロツククライミングを試みるなど、この地ならでは味はへぬものである。

温泉寺（奉天より四時間半 安東より五時間半）

太子河上流の山間にあり、安奉線宮の原驛から溪緘線に乗り換へて太子河に沿ふて走ること約二時間、温泉と勝景に惠まれた幽邃郷である。温泉は無色透明で温度も入浴に適し、避暑と一日の行遊には最適の地である。滿鐵、東亞旅行社の貸天幕もあり、例年九月螢が出るので滿洲に居て內地の初夏の夜の氣分を味ふことが出來る。

本溪湖（奉天より約二時間四五分）

〔太子河下りと鑛物採集〕

本溪湖畔より二粁、徒歩約三十分にして太子河畔に至る。こゝより溪緘線により太子河の左岸に沿つて、車窓に沿線の風光を愛でつゝゆけば、その昔さる仙人が、三日三夜その風景に見とれたと云ふ三日浦へは五十分、崔家浦には二十分で達し、こゝより遊覽船で河を下る。

途中船をとゞめて釣魚の快を味ひつゝ、船上卽席料理に舌鼓をうつも亦更に興趣を添へるであらう。

遊覽船は豫め本溪湖驛に準備方依頼し置く必要がある。尚三日浦、崔家浦よりの河下りは、日曜日に限られてゐるが、鐵橋附近の船遊は平日でも出來る。

遊覽船コース
牛心台―三日浦―中ノ島―崔家浦―玉泉亭
（所要時間四時間）

十二人乘	二十人乘	三十人乘
十圓	二十圓	二十三圓

本溪湖驛より鐵橋まで

馬車（三人乘）	三〇錢
人力車	二〇錢
辨當	五十錢以上

南坟（奉天より約三時間半）

〔細河の川遊びと魚釣キヤンピング、植物採集〕

河水豐かに澱み、巖に沿うて流れるところ必ず水車かゝり、細河峽谷の風光まことに美しく楊柳の村の、物柔らかに素朴な風景をもつ詩境南坟は都塵を拂ひ、一日の清遊を試みるに好適の地である。靜かな細河の清流に糸を垂れ、或は水泳に、キヤンピイングに、または數人寄つて水車干しに興ずる等、樂しい一日を過すことが出來る。

こゝはまた有名な南坟南瓜の產地でありトマト、西瓜など美味なものを多量に產して、遊客を喜ばせてゐる。

橋頭（奉天より約三時間半）

〔細河の川遊びと魚釣キヤンピング植物採集〕

この地に遊ぶものまづ驛前を左折し山紫水明の水郷橋頭の全貌を展望し、降つて朝陽寺に詣で、山裾をめぐつて細河河畔に出で水車を見て水泳場に行く順序を薦めたい。山と河を繫ぐ恰好のベビーハイキングコースである。

清流にボートを浮べ、或は水泳に、釣魚に又は白砂の河原に渡つて遊び、鶯谷の幽邃境に山鶯の聲を聞くなど夏日も尚短きを嘆ずるに至るであらう。

貸ボート	三十分	二十錢
休憩所	一人一日	三十錢
使用料	貸切一日	五圓
清樂莊	一人一室	一圓五〇―三、〇〇 夜具料、三〇

湯山城（安東より約五十分）

湯山城河は源を遠く草河縣の深谷に發し、安奉線を南下右曲左折して此の邊りを過ぎ靉河に注ぐ。沿道の景勝靉河に次ぎ、大鳳凰山を始め高麗山、佛爺山の連峯の山麓の袂を縫ふ無數の溪流一入に棄て難く、殊に驛を離る西約一粁の地獄谷の幽明は、亘獄屈折全山老樹に覆はれて鶯谷を作り、一歩下れば絶壁の奇巖に紅葉の懸崖は鏡ヶ淵に絶景を映じてゐる。

河畔一圓は銀砂を敷きつめ、アカシアの木蔭に覆はれた休憩所が在る。

又鮎、ハヤ、砂モグリ、鯉、メバル等河魚も豐富で魚釣りにも一家團欒の淸遊にも好適である。

吉林（新京より急行約二時間）

市街上流約三邦里附近は斷崖の絶勝、山峽の湖景等眞に「滿洲ライン」の名に相應しく、此の松花江上に船を浮べたものでなければ山水の吉林を語る資格なしと云はれる。松花江の鵜飼は滿洲色の豐かなもので燦々たる陽光を浴びた純白色の鵜が時には二尺に餘る鮒，鯉，鯰などを啣へてしぶきと共に踊り上る壯觀は內地の鵜飼とは全然趣きを異にした大陸的なものであり、五月から十月中旬まで行はれる。希望者は東亞旅行社か觀光協會へ申込めばよい。

上流二十四粁大豐滿には世界屈指の水力發電所が建設されつゝあり堰堤完成の上は上流一帶に亘つて琵琶湖の約八割の湖水が

出現するわけであるが、この湖を中心とした國立公園が出來れば水郷吉林の價値を一段と加重せしめるであらう。

哈爾濱

キタイスカヤの人波を縫うて色とりどりの行人の顔を見較べながら松花江に出づれば涼風が快く頭髪を撫で、江岸に立つて四顧すれば下流遠く江面を壓する松花江の大鐵橋を望む。江上に浮ぶ無數のボートや林立する帆船や、江防艦隊等が遺憾なく大江の風貌を發揮し、對岸から太陽島にかけて人漁の群れ遊ぶ樣、正にエキゾチックな裸體健康美の競進會だ。自らボートを操つて中流に放歌するもよし、水浴に平日の行樂を費すのもよければ、魚釣に俗塵を避けて冷たいクワスに渇を醫するのも亦よい。哈爾濱をそこはかとなく柔かい情緒に包むものは夏の綠樹とこの大松花江の流である。

哈爾濱ザトン

哈爾濱松花江對岸の楡と泥柳の森に圍まれた一帶の地をザトンと稱されて居り、一流銀行會社の保健館、露人別莊が樹間に並び建ち、哈爾濱人士のオアシスとして親しまれてゐる。

▲宿泊施設
（イ） 市營保健館四棟
（はしどいの家、にれの家、さんざしの家、しらかばの家）
室數　二四　料金　一日一室　三圓
（ロ） 露人貸別莊
一シーズン（夏季三ヶ月）　三百五十圓程度

玉泉（哈爾濱より約三時間）

玉川は山の行樂地である。

春の鈴蘭、蕨狩、秋草の花亂れ咲く秋の山遊びなど、都會人にとつては殊の外興味深く、又狩獵地としても既に名高く、鑛泉は胃病によい。

夏季には滿鐵の保健聚落場も開設される（自六月至九月）

▲保健宿泊所　一泊二圓　小學生半額
食堂、浴室、自炊場の設備あり。
▲貸別莊　料金、一室一ヶ月十圓、十五圓、二五圓（ベランダ付）及四十圓（ベランダ付）五十圓（ベランダ付）の各種
炊事場、冷藏庫、シヤワー　兒童遊園地の設備あり無料にて利用し得。

一面坡（牡丹江より約六時間）

螞蜒河上流の狹長な山峽にあり、人口三萬餘を有し、西の札蘭屯に對する東の避暑地として有名であり愛河、阿城等と共に將來を期待されてゐる。市街は線路を挾んで南を商店街・北を鐵道街に分け、商店街は滿人街と露人街とに分れ日本商店は滿人街の間に散在してゐる。螞蜒の清流に臨んだ鐵道街及び其の附近は欝蒼と木立に圍まれ自ら公園の趣をなし河は釣魚、水浴、舟遊等に好適である。

哈爾濱、牡丹江より割引家族遊覽券發賣してゐる（單獨三割、五人以上五割引）

呼蘭（哈爾濱より約一時間餘）

一日の清遊には最も好くしかも勝れた行樂地である。こんもりとした白楊の林、芝生の丘、花圃には季節の花開き、清楚、閑雅な西崗公園がある。

石人城の傳說で有名な石人像はこの園內に祀られてある。

石公祠のある小丘に立てば、呼蘭河眼下を流れ河の彼方に綠一色の平原は伸びて一望千里その中を蜿蜒蛇行する呼蘭河は、白く水面を光らせつゝ野に消える。近くは巧緻遠くは雄大、まさに絶景である。石公祠はその昔善政一世に高かつた鎭守使石將軍を祀るところ。

橫道河子（哈爾濱より約八時間半、牡丹江より約二時間）

綠の山々に包まれた中に牡丹江支流橫道河が流れる山紫水明の別莊地。樹間の逍遙、水上の舟遊は夏を忘れさす事が出來る。牡丹江鐵道局の宿泊設備がある。

自七月三日至八月三十一日　▲室料洋式ベッド一臺一夜四十錢、寢具一夜三十錢　▲休憩自八時至二十時五錢所持品保管の便あり　▲食費朝二十錢、晝三十錢、夕四十錢

鏡泊湖（東京城驛よりバス一時間三十分）

地形上便宜、上、南、中、北の四湖に區分されて居り、上湖は夏深き綠の中を流れて詩情橫溢せる風景を呈し、釣魚に打網に或は又狩獵場としても絶好の場所である。

南湖の東岸は彼の鏡泊學園の跡や石頭河漁村の所在する所、中湖上には道士山を始め幾多の島嶼點在して頗る絶景、北湖は北湖島より直角にカーブして東南より西北に延び、張家水郷に至つて初めて流れを現はし吊水樓に落下する迄延長十二粁四季通に到る。

浪の樣に緩い丘を越えて約五〇米の高さから眼下に見下す鏡泊湖は鏡の樣に清澄で、對岸に迫る老黑山の峻峯を倒影し、春夏秋冬趣を異にする風光は四季を通じて將に一幅の墨繪である。四季通望湖台は自動車道路の終點となり、之より一粁半瀑布へ又は張家水郷へ或は鏡泊ラインへの徒步旅行コースが設けられてある。

湖の最北端、湖水が再び牡丹江に落下するところ卽ち天下第一の名瀑と銘された吊水樓瀑布があり、水量極めて豐富にして嚴多素雪の間にも凍結せずと云ふ。

又吊水樓より四季通迄の間約四粁の急流を鏡泊ラインと稱し、兩岸には熔岩累積して懸崖を爲すところ或は水流に巨岩蟠居して水煙上り、ラインの終端には龍岩島あり又河は水浴に、釣魚に、キャンプに手頃な清遊地である。

滿鐵龍泉莊東亞旅行社休憩所、電業、國際等のバンガローも散在する。

▲コース　牡丹江—東京城—（バス）—南大廟—太平溝開拓團—鏡泊湖發電所—鏡泊湖（四季通）、鏡泊流潭、ラバの草原、吊水樓瀑布、張家水郷
●牡丹江から日歸り若は一泊（一般、家族連れ、團體向）
▲費用　汽車賃（往復）（急行料共）　三等　四圓三十錢
自動車賃（往復）　三圓五十錢
モーターボート　一人　一圓
龍泉莊（休憩料　一人二十錢（團體十錢））（宿泊料　寢台二圓　和室三圓）
▲團體　貸切バス（二十五人乘）平日七十三圓五十錢
（收容人員約四十名）
日曜祝祭日八十四圓

富拉爾基（哈爾濱より約八時間昂々溪の次驛）

沖、橫川兩烈士の爆破湖して成らず、無念の魂をハルピン露兵刑場に殘し護國の鬼と化したことは、この地に遊ぶ者又嫩江の大鐵橋を通過する者の常に想起合掌するところである。

鐵橋の右下より北方に續く河原及び水邊は水浴場にして釣魚、キャンプ、舟遊の人人によつて一面避暑風景が描き出されてゐる。避暑場の敷地は大規模に區劃され、青絨毯の平地に數箇のバンガローが楡樹に圍まれて見え北方遙かに續く草原には名產富拉爾基の馬が大群となつて疾走し止つては悠々と草を喰んでゐる。

人も知る馬乳酸（クミス）の產地にして施療病院のクミス療法は全滿一の定評があり結核の多い滿洲に於ては理想的な療養所であらう。

新京、哈市、齊々哈爾より割引家族遊覽券を發賣してゐる（單獨三割、五人以上五割引）

扎蘭屯（哈爾濱より約十一時間）

海拔八百米の中腰扎蘭屯盆地の中間を流るゝ雅魯河の紆餘曲折は網の目の如く此盆地に根を張り、楡樹繁茂して風光に一段の光彩を添へる。避暑場開設中の扎蘭屯驛は遊覽客の夥しい雜沓によつて殷賑を極め、ホームの客を物珍しく出迎へる露西亞娘の美しいポーズは先づ第一にエキゾチックな感覺を與へ且つ絢爛たる花壇の色彩に幻惑され陶然とする。

水浴場附近にはビーチコートの女、海水着の女等美しい半裸の姿が惜しげもなく歩き廻り、燦々たる陽を浴びて赤い海水着が楡樹の綠を縫つてゐる。老楡樹に圍まれた水浴場は滿々と淸水を湛へ幾多の貸ボートが遊覽客によつて樂しまれてゐる。

此の附近一帶は遊歩地逍遙地帶で遊歩道路、ベンチ、泉水、噴水、橋梁、水浴場等の設備が出來てゐる。

遊歩地帶の盡きる所、扎蘭屯の東南端雅魯の支流小川の邊りに滾々として湧出する淸水は極寒時に於ても尙結氷せず、最近に至つて全滿唯一のラヂューム含有鑛泉として溫泉場設定の運びに至らうとは誰しも夢だに考へないことであつた。

扎蘭屯は一體に氣溫良好であり、植物園竝に溫室等大規模に計畫され、熱帶植物がすく〳〵と成長してゐる。

新京、哈市、齊々哈爾より家族遊覽券を發賣す（單獨三割引、五人以上五割引）

巴　林（昂々溪より約五時間）

丘陵性の興安嶺の山峽を靜かに流れるヤール河に沿ふ扎蘭屯と巴林は、共に滿洲の上高地とも言ふべき屈指の避暑地であると同時に、冬暖かく自然に惠まれた避寒地でもある。

ヤール河ではタイメン、フアレルの珍魚及び紅鱒が釣れ避暑滯在に一入興味を深くする。

共に滿鐵設備のバンガローを有し、又巴林には列車ホテルが設けられる。尙夏期間中は齊齊哈爾・扎蘭屯間に臨時列車、扎蘭屯・巴林間には臨時バスが運行される。

新京、哈爾濱、齊齊哈爾より家族遊覽券を發賣してゐる（單獨三割引、五人以上五割引）

阿　爾　山（白城子より約十二時間）

別名を興安溫泉と呼ばれ蒙古語ではハロンアルシヤンと言ひ、ハルハ河支流アルシヤンの海拔凡そ千五百米に在り、雄大な興安嶺の山懷に抱かれた溫泉鄕で四十の溫冷泉が湧出して居る。

滿鐵經營阿爾山ホテルがあるが附近の露人住宅に於ても夏期の部屋貸に應してゐる。

〔阿爾山ホテル〕
室料　五圓—六圓
食費　朝食一圓、晝食一圓五十錢、夕食二圓

興　城（錦縣より急行約一時間十分）

「海と溫泉の興城」は街の東南四粁にあり、驛と溫泉の間に定期バスが運行されて居る。北に首山、南に海を控へた平和鄕で古來靈泉としての名高く史實に富んで居る。

海水浴場は溫泉の南方四粁、驛からバスの便があり、遠淺で婦人子供に向く。

鐵道總局竝に東亞旅行社のサンマーハウスがあつて宿泊の便に供し、溫泉ホテルは驛と海岸の略中間に在る。

中　國

山　海　關（奉天より急行約五時間）

前面に渤海を控へ、背後に高嶺を負ひ蜿蜒たる長城が海に沒する此所の海水浴場は綠の樹間にはバンガローが點在し眞夏ともなれば濱邊には色とり〴〵のビーチパラソルが華やかな水着と共に姸を競ひ、南海由比ヶ濱の附近では釣も出來る滿洲國側、支那側とも岩礁附近がよい。尙石河の鮎釣も有名である。

山海關市街から約三粁、寛かな丘の茂みに英佛伊駐屯軍の兵舍や、赤い屋根青い屋根の外人住宅が點在するあたり、實に泰西名畫そのまゝである。

海は遠淺で空氣は飽迄透明であり、オゾンと紫外線吸收に好適の避暑地である。

九時—十九時の間北支交バス一時間毎に運轉、片道二十五錢、洋車及驢馬七、八十錢

秦　皇　島（山海關より約二十分）

渤海に突出した一小半島にあり次掲北戴

河と共に北支の避暑地として有名である。

南に坦々たる大道が海岸を駛つて居り兩側に夏を目當の料理店雜貨店が多く、街から稍離れて東海岸の海水浴場にはバンガローが散在して居る。やはり日佛米駐屯軍の兵營があり、外人客の多い處である。

北　戴　河（山海關より約四十分）

渝河の渤海に注ぐところ俗に戴河と言ひ、所謂北戴河海岸へは驛から海濱支線が通じ二十分にして達する。北支隨一の避暑地にして三方海を繞らし西山東山をバックに風光絕佳、三伏の炎暑の候と雖も華氏八十度を超える事がない。旅館はバイン・ヴイラ、ヴイラ・クライン、同福飯店、ゴルドーホテル、海濱旅館、バークホテル、クラホテル等あり、北京、天津の一流旅館に比して遜色なく何れも長期宿泊に應ずる。又東亞旅行社の休憩所、華北交通の簡易ホテル其他貸別莊等もある。

〔海濱簡易ホテル〕
期間　六月二十日—八月二十日　▲室料　和室一人一日一圓、一人增す毎に二十錢、最高一圓六十錢、洋室毎一人一日一圓、一人增す毎に三十錢、最高一圓九十錢　▲食費朝晝三十錢、夕四十錢、▲天幕アンペラ莚蓙附一日三十錢

香　山（北京西北約二〇粁）

淸朝離宮の跡、老樹天を蔽ひ涼風梢を鳴らす風光絕佳の地、北京八景の一にして西山晴雪の碑もある。北京より一日數回バスの便がある。

昆　明　湖（北京西北約十二粁頤園內）

萬壽山の景觀美は昆明湖に負ふ處が大きい。夏期はボートを浮べ遊泳の設備あり、冬期はスケートリンクとなる。

晉　祠　鎭（太原よりバス約一時間）

山西の山々を背に風光明媚を誇る保健地で、水のよいこと、古蹟、名勝に富み、夏は紅白の花咲き亂れて美事である。

太原からは一日の淸遊に都塵を忘れる恰好の水鄕、家族連れ、子供連れの一日ピクニックに最適と云へやう。

▲毎日太原より定期バスあり、料金往復二圓五十錢、所要約一時間（三十粁）

青　島（北京より直通列車二十時間餘飛行機約二時間）

青島の海岸一帶は海水浴場である。夏は涼しく、冬は北支としては珍らしく結氷を見ること少く、二月の始めに約一週間位結氷をみる程度である。近年までは忠の海海水浴場、湛山海水浴場は外人客で占められていたが、最近歐洲大戰の餘波を受けて外人の避暑客も僅かにして、日本人竝最近海水浴を知つた中國人によつて厚生海水浴場と變つて來た。青島市街其ものが起伏多く、綠の木立の中の赤甍の洋館は實に東洋のナポリとして、又夢の國の樣に背後の旭山の綠と共に光つている。白砂の忠の海にはバンガローも三百餘竝び北支一の別天地である。

忠の海に近くに華北交通直營の東海飯店（夏季ビューローあり）、海岸にはヨツトクラブもある。

青島のメインストリート山東路よりバス（一號線）にて約七分料金十五錢、他にタクシー、（二圓五十錢）、洋車（四十錢）の便あり。

大　明　湖（濟南驛東二粁）

濟南城內北隅にあり周圍約四哩、景致幽邃にして湖畔や湖中の島には歷下亭（唐時代の李白や杜甫の遺蹟あり、亭內の茶亭は日支諸名士の利用者多し）李公祠（李鴻章を祀る）北極廟（北極七星を祀る）滙泉寺張公祠（淸朝山東巡撫張曜を祀る）鐵公祠（明朝兵部大臣鐵鉉を祀る）などの古蹟勝地に富み、古來この地に遊べる文人墨客の詩句や題詠が碑記に遺されて史情を湧かしまた湖中蓮多く夏は紅白の花咲き亂れて美事である。

鵲華橋又は司馬碼頭より畫舫を雇つて湖

上葭蓮の間を逍遙し、或は湖畔の古寺を訪ねて古人の書畫、石刷等の珍品を賞し、又は友人連れ、家族連れの一團が船中持參の辨當に團欒を味はふもよし、一日の淸遊に都塵を忘れる恰好の水鄕地である。

▲濟南驛よりタクシーにて三圓、人力車にて三十五錢乃至四十錢、舟賃は大船十餘人乘四圓、小船五、六人乘二圓

北公園（濟南驛より北約三粁）

郊外の遊園地として濟南新名所の一つに數へられる、丘陵あり、原野あり、樹木と岩石の配置宜しく、自然のまゝを公園化したもの、頂上の展望台に至る自動車道路の設備もあつて家族連れの遊歩に適してゐる

展望台からは黃河大鐵橋を遙かに望み、平原の果に四圍の山々が霞んで見える。

小淸河上流の水が公園下を滿々として流れ、夏季は岸邊に蓮の花が咲き、多季は鷗が泛ぶ、附近部落より舟を雇つて舟遊びすれば一入の興趣を添える。この河は天然氷の採集地として知られてゐる。

（ハイキングコース）所要時間一時間、タクシーにて（二〇分料金六圓）

小淸河（膠濟線黃台驛より東二百米）

大明湖鐵公祠後方に於て東の歷水、西の濼水が合して小淸河に注流し遠く羊角溝に至り渤海に入る濟南の重要水路にして、昭和十四年秋に水運が開かれてから一ヶ年、漸次民船の往來頻繁を加へ、產業開發に重要な役割を果しつゝあるが、また黃台橋埠頭を中心に、その下流二三百米に亙る河畔一帶は近時遊步地としても知られ遊覽する者が多い。

舟遊、魚釣りに適し、下流に至れば名山「華山」に遊ぶことも出來る。附近には中央農事試驗場濟南支場の植物園があり、「餘北園」の野菜市、「花園莊」の三、八の日の牛馬市は昔から賑はつてゐる。

▲濟南驛から列車にて約一五分、料金一〇錢

嘉興（海杭線、上海より二時間餘）

蘇嘉線の分岐點で、上海より汽車で約二時間半、蔣政權華かなりし頃は上海近郊の遊樂地として知られてゐたが、事變後市內南湖の煙雨樓は華中鐵道會社の直營として設備萬端面目を一新し、上海方面より日歸りの好適地となつた。

貸ボート、其他娛樂設備完備、子供連の一日ピクニックに適す

太湖（無錫驛より約十粁）

無錫驛より約十粁太湖北岸五里湖沿岸附近は湖水と山岳の美を併せて杭州西湖にも比適するものと云へやう。現在は治安の關係上少人數での觀光は安全とは云ひ難いが、梅園、錦園等も此の湖畔に在つて將來有望な觀光地とならう。

莫千山（杭州西北二十粁）

江南の輕井澤と稱せられ、特に氣候凉爽空氣鮮潔、山花佳趣、泉水甘冽、瀑布雄偉展望壯麗にて名高い。

夏季最高氣溫八十七度、外人の避暑別莊約八十に及び旅館十を數ふ。

鷄公山（京漢線）

漢口大智山驛から京漢線にて約五時間、山麓の新店驛より駕又は徒步で東へ十四支里の登山で山頂に達す。

治安の關係上現在避暑地として公開されて居らぬが、湖北省北境七段山の最高峰で漢口在住者の避暑地として別莊多くホテルもある。

ビューローのサンマーハウス

東亞旅行社（ツーリストビューロー）では簡易快適な避暑法として綠蔭に、水邊に、バンガローとキャンプ生活を奬め、大自然の懷に抱かれて健康と心の糧を培ふやう、七、八、九月に亙つて興城、連山關、橋頭溫泉寺、沙崗、吉林、鏡泊湖の各地へサンマーハウスを設け、一般の使用に供してゐ

るが要項は次の如くである。

尙昭和十六年秋より鏡泊湖畔四季通に休憩所（望湖亭）を開設し一般來鏡者の便を計つてゐる。

○興　城　バンガロー（六疊）四棟、同（四疊半）三棟、ビーチスタンド二人用五箇、炊事道具七組
○溫泉寺　天幕十張、炊事道具十組
○連山關　バンガロー（六疊）二棟、同（四疊半）二棟、炊事道具四組
○橋　頭　ビーチテント四張、ビーチパラソル二本
○吉　林　天幕四張、炊事道具四組
○鏡泊湖　天幕五張、炊事道具五組
○羅　津　天幕三張、ビーチスタンド四、炊事道具三

バンガローには疊表、籐製テーブル一脚、椅子二脚、電燈（二〇ワット）、寢具用毛布二枚その他を備附け、天幕にはグランドシーツ、折疊式ランプ、寢具用毛布二枚を備附けてある。

（貸附料金）

	半日		一日
バンガロー（小）	八〇錢		一圓三〇錢
同　（大）	一圓		一圓五〇錢
天幕	四〇錢		五〇錢
ビーチスタンド（二人用）		一回	三〇錢
同　（一人用）		同	二〇錢
ビーチテント		同	二〇錢
ビーチパラソル		同	一〇錢
毛布（備附品外一枚）		同	二〇錢
炊事道具		同	二〇錢

滿支人の祭典



滿支に行はれてゐる諸宗敎の中で民衆の信仰の中心をなしてゐるのは道敎である。

しかし現今の信仰狀態を見るに道敎、儒敎佛敎を初め其の他ものが混淆されてしまつてゐて、それが民衆の現實的、實利的、迷信的な特性によつて彩られ、何れの場合にも祈願の中心となるものは利殖、豐饒、繁榮、求子、安產、疾病惡疫その他の災厄或は天災などの救濟といつたやうなものである。供物などに對する觀念など至つて幼稚で、神の靈驗はその供物の多寡に比例するといふやうに神の意思欲望を自分等の水準に於いて忖度するといつた有樣である。

寺廟聖地など道儒佛の三敎ともそれぞれこれを有してゐるが、何れの宗敎をも超越して祖先崇拜の觀念は日本と同樣である。

死者が偉大なる者であればその家族を越えて一般の信仰の對象となり得るわけで關羽が關帝に祀られ今尙は厚く崇信されてゐるなど其の一例である。

道敎のうち滿洲に最も勢力のあるのは龍門派と稱せられるもので盛んに偶像を設け福祿壽を說き冠婚葬祭をも行つてゐる。寺院は通常「觀」「廟」或は「宮」とも呼ばれる。

彌陀や觀音を本尊として祀るところに佛敎との著しい混淆がうかがへる。主神は王皇と天后、關帝と娘々がその主なものである。然し王皇には天后を配する外、天官、地官、水官の三神をも併祀し關帝には娘々を配する外、佛爺、龍王、火神、馬王、牛王、財神、藥王、神農、狐仙などをも併祀するといふ風で道敎の廟觀中には宛然偶像の百貨店といつた感じのものがある。

娘々は古來大衆受けのする神樣で、道敎の代表神ともいふべき有樣でこれを祀つた廟祠は滿洲到るところにある。中にも大石橋の娘々廟は最も古くて有名である。娘々廟と天后宮とは通常別々に祀られてゐるが祭神は同じものと解されてゐる。關帝は關羽を祀りその廟は又老爺廟とも稱し娘々廟と同樣各地にある。武神で護國の神であると共に財神とされて大に人氣をもつてをり滿洲國ではその大祭を國家的に行ふことに規定されてゐる。

各省城、各縣城に孔子の廟（文廟）があり祭典も行はれてゐるが論語の精神など地に墮ちてゐる今日、道敎の影響を受けて宗敎

混淆にまきこまれ純粹の儒教は非常に影が薄い。然し國家によつて孔子精神の宣揚に重心が置かれ祭典も國家的に行はれることに規定されて儒教に光明が大に立ちかけてゐる。

滿洲の佛教は昔日の勢力は全くなく臨濟禪宗が多い。寺院は「寺」又は「庵」などの稱號で呼ばれ又「廟」とも稱せられる。

喇嘛教は盛に偶像を崇拜しその種類も多種多樣である。釋迦、阿彌陀、金剛菩薩、寶生佛、文殊、觀音、彌勒、大黑神、摩醯首羅、宗喀巴、龍樹、四天王などの像が普通のものであるが、其外に所謂祕佛なるところの非常に珍らしい像がある。奉天小西邊門外にある黃寺は滿洲の總本山格である。寺院は建立の事情によつて稱を異にし活佛の住持するものを佛爺廟、札薩克（旗長）の菩提寺を王爺廟と稱し、一旗の廟を旗廟、普通の丹を站廟と言つてゐる。この宗教で行ふ年二回の大祭には跳鬼又は打鬼といつて各種の假面を被り、鬼神や天王母の跳舞が催され、或は競馬や角力が行はれて盛況は大したものである。

◇滿洲祭典地（陰暦による）

・祭名	・場所	・例祭月日
天后宮祭	海洋島會灣東屯	自一・一 至一・九
喇嘛廟會	承德獅子溝街大佛寺前	一・一三
跳祭	奉天小西邊門外喇嘛廟	自一・一五 至一・一五
三官廟祭	大長山島會三官廟屯	一・一六
高足會	草河口	自一・一六 至一・一六
火神會	安東元寶山	一・二九
祀岳武繆會	佳木斯關帝廟	二・二 八・六
關帝廟會	佳木斯關帝廟	二・二 八・六
祀孔會	佳木斯南門裡	二・一 八・五
孔子廟會	承德西大街	二・七
眞武廟祭	撫順市歡樂園內（驛より二粁）	自二・一〇 至二・二〇
關武聖人祭禮	洮南縣城內祐民西街	二・一七
孔子廟會	吉林文廟町	二・一七 八・一七
金銀庫祭	遼陽縣城內金銀庫	二・一九
老邊觀音老母廟祭	大石橋驛より一・五粁	自二・一八 至二・二一
觀音大士誕祭	大譚家屯會朝陽庵廟	二・一九
南海大祭	安東元寶山	二・一九
釋迦牟尼及觀音菩薩祭禮	洮南縣城內裕民西街	二・一九
跳塔	奉天小西邊門外喇嘛廟	二月中
黃塵大會（跳鬼）	錦州省吐默特左旗瑞應寺（最寄驛東阜新驛）	二・三〇
跳塔	同	自三・一 至三・一五
三三廟會	崔家屯會三三廟屯望洋臺山玉皇廟	三・三
釋迦牟尼及觀音菩薩禮祭	洮南縣城內裕民街	三・三
三才寺廟會	錦古線上齊台	三・三
東嶽廟祭	老爺廟附近	自三・一五 至三・二〇
賛子河會	賛子河會子河屯潮海寺	（毎月一と十五の日）
文廟祭	新京南關	三・二一 九・一七
天后聖母降誕祭	大連市惠比須町天后宮	三・二三
娘娘廟祭	貔子窩會西街	三・二三
天后宮會	奉天大北關	三・二三
海神娘娘祭	安東元寶山	三・二三
天齊廟會	奉天小東關邊門	自三・二五 至三・二九
天齊廟會	遼陽城內天齊廟	三・二八
天齊廟會	齊齊哈爾天齊街	三・二八
興盛廟祭	鞍山（驛より二粁）	自四・六 至四・一〇
湧泉寺祭	楊樹房會千和尚廟屯	自四・六 至四・一〇
娘娘廟會	呼蘭	自四・一六 至四・二〇
同	綏化	自四・一六 至四・二〇
同	海倫	自四・一六 至四・二〇
同	拉林	自四・一六 至四・二〇
同	安達	自四・一六 至四・二〇
同	阿城	自四・一六 至四・二〇
佛誕廟會	佳木斯關帝廟	四・八
極樂寺浴佛節	哈爾濱大直街	四・八
天仙宮娘娘廟	牡丹江驛より三粁（牡丹江南岸）	自四・一七 至四・一九
娘娘廟會	承德南營子大街娘々廟溝	四・一八
藥王廟會	佳木斯關帝廟	四・二八
娘々廟會	同	四・一八
藥王廟會	同	四・二八
佛爺廟祭	石河佛爺廟	四・八
楞嚴寺會	營口市通惠街	四・八
天后宮	同	四・二八
夾河廟會	夾河廟會龍母廟屯	自三・一 至三・一五
小白山望祭	吉林市外小白山	春分秋分日
永興寺祭禮	營城子	自四・一三 至四・一七
老君廟祭	撫順市葛布街北山（驛より六粁）	自四・一八 至四・二〇
娘娘廟祭	奉天大南關什字街	自四・一五 至四・一八
娘娘廟祭	吉林北山	四・一八
娘娘祭	湯崗子	自四・一六 至四・一八
娘娘廟祭	大石橋迷鎭山	自四・一六 至四・一八
同	旅順水子營	同
三霄娘娘聖母祭	洮南縣城內裕民西街關帝廟內	自四・一七 至四・一九
娘娘廟祭	鐵嶺西門內	自四・一七 至四・一九
天仙娘娘祭	遼陽城內天齊廟	四・一八
安寧寺佛祭	奉天省奉集塔山	四・一八
三仙娘娘廟祭	安東元寶山	四・一八
娘娘廟會	齊々哈爾公園南街	四・一八
娘娘廟祭	大屯阜豐山	自四・一八 至四・二〇
娘娘廟祭	通遼堡驛北方約三粁	四・一八
娘娘廟祭	四平西方泉溝	四・一八
娘娘廟祭	梨樹縣買賣街	四・一八
娘娘祭	鄭家屯老爺廟內	四・一八
關帝廟祭	黑河東門街	四・一八
茂林廟祭	通濱（驛より三〇粁）	四・一八 七・一五
岳帝廟會	通化玉皇山	四・一八
關帝廟會	同	四・一八
孔子廟祭	同	四・一八
玉皇廟祭	同	四・一八
娘娘廟會	同	四・二八
娘娘廟祭	綏化	四・一八前後五日間
娘娘廟祭	呼蘭	四・一八前後五日間
藥王廟會	錦州市西關	四・二三
藥王廟會	奉天大南關大街南	自四・二五 至四・三〇
天后宮祭	營口學林街	四・二八
藥王廟會	柳條溝屯藥王廟	四・二八
藥王祭	遼陽城內藥王廟	四・二八
火神廟祭	陳相屯（驛より約三粁）	四・二八
藥王祭	安東元寶山	四・二八
劉家河娘娘祭	劉家河驛東南約一哩香雲寺	自四・一八 至四・二八
城子疃會	城子疃（驛より三町）	四・二八
藥王廟會	鐵嶺北關	四・二八
藥王廟會	吉林北山	自四・二六 至四・三〇
小白山望祭	吉林市外小白山	春分秋分日
鳳凰山廟會	鳳凰山（驛より四粁）	自四・二六 至四・三〇
蒙古人水浴祈禱會	錦州省西海口	自五・五 至五・一五
端陽祭	安東元寶山	五・五
喇嘛廟祭禮	葛根廟及王爺廟	五・五
五日祭	哈爾濱	五・五
老爺廟祭	鐵嶺西關老爺廟	五・五
關帝廟會	錦州市西關	五・一三
關帝廟單刀會	吉林北山	春秋上戊日
關公祭	安東元寶山	五・一三
關帝廟祭	開原新市街	五・一三
關武聖人の祭禮	洮南縣城內關帝廟	五・一三
關帝廟會	吉林北山	五・一三
娘々廟祭	京圖線銅佛寺	自五・一二 至五・一四
關帝廟祭	遼陽驛より約十五町	自五・一二 至五・一四
鄂博祭	鄭家屯鄂博山	五・一九
關帝廟會	齊々哈爾公園南街	五・二三 六・二四
護國般若寺會	新京吉林大街	五・二六
天仙宮娘々祭	牡丹江驛西南約六粁	五月
龍王廟祭禮	洮南縣城大北門外洮兒河南岸	六・二三
喇嘛廟祭禮	葛根廟及王爺廟	六・一五
阿拉街廟祭	王府驛東六粁	六・一五・一六
喇嘛廟會	臥虎屯驛西方一二粁	自六・一六 至六・一四
關武聖人祭禮	洮南縣城內裕民西街	自六・二三 至六・二四
關帝廟祭	梨樹縣買賣街	自六・二三 至六・二四
關帝廟祭	松樹附近地內第七區	六・二四
關帝廟會	熊岳城新市街	六・二四
關帝廟會	新京南關	自六・二九 至六・二八
盂蘭盆會	大連惠比須町天后宮	七・一七
喇嘛廟祭	大板上	七・一より一箇月
中元節	奉天各處墳墓	七・一五
靈祭	安東元寶山	七・一五
盂蘭盆祭	鐵嶺柴河河岸（北門外）	七・一五
中元節	吉林	七・一五

財神廟祭	貔子窩會財神廟	七・二五
孔子祭	吉林	八・一七
甘珠爾廟祭	海拉爾南一七・六粁	八・六より一五日間
千山祈禱會	千山	自八・二二 至八・二四
龍首尋秋	鐵嶺龍首山	九・九
觀音廟會	吉林北山及巴虎門内	九・一三
財神廟祭	梨樹縣買賣街	九・一七
東北廟祭	奉天	一〇・一
孔誕祭	哈爾濱孔子廟	一〇・一二

（以上は一例であつて未だに各地多くの祭事が催される）

◇支那祭典地（陰暦に依る）

北京

・祭名	・場所	・祭例月日
火神廟開廟	延壽寺街南柳巷	一・一―一五
白雲觀開廟	西便門外	一・一―一九
大鐘寺開廟	西直門外	一・一―一五
東嶽廟開廟	朝陽門外	毎月一日・一五日
財神廟開廟	廣安門外	一・二
城隍廟火判	後門外	一・一三
黒寺開廟	德勝門外	一・二三
雍和宮演鬼	雍和宮大街	一・三〇 二・二
太陽宮開廟	大安門内	二・一―二
祭文昌廟	地安門大街帽子胡同	二・三
觀音廟會	正陽門外	二・一九
蟠桃宮廟會	東便門内	三・一―五
潭柘寺門廟	石景山西	三・一―一五
東嶽廟會	朝陽門外	三・一五―二八
天台山香火廟	西郊歷石口	三・一―一八
戒台寺開廟	蘆溝橋西十二粁	四・一―一五
萬壽寺開廟	西直門外六支里	同
碧雲寺開廟	西山	同
妙峯山開廟	城外西北百三十支里	同
天寧寺開廟	廣安門外	四・八
藥王廟會	西直門外	四・二三
都城隍廟會	西單成方街路北	五・一
臥佛寺開廟	崇文門外	五・一―一〇
關帝廟開廟	永定門外	五・一―一五
中頂開廟	右安門外草橋	六・一
江南在隍廟會	宣武門外南横街	七・一五
竈君廟會	崇文門外花見市	八・一
白雲觀九星會	西便門外	九・一―九
財神廟會	廣安門外	九・一五―一九
江南城隍廟開廟	南横街	一〇・一
白塔寺開廟	西四單牌樓西	一〇・二五

天津

娘々祭	城内娘々宮	自一・一 至一・一五
日王典禮	華街東門内孔廟	二月・第一丁日 八月・第一丁日
皇會	同	自三・一五 至三・二五
蟠桃會	小稍直口福壽宮	五・五
城皇會	西馬路城皇廟	四・八
藥王會	市南五十里峰山廟	四・二八
孟蘭會	河東倫野坂地	七・一五

山海關

姜女廟祭	山海關驛東方八粁	四・一八

唐山

孔子廟會	山海關西街	三・一七 八・一七
三清觀會	山海關西關	四・一八
興國寺廟會	唐山興國寺	一・一五 五・五
鐵菩薩廟會	雙鳳山	三・一八 五・五
竈神廟會	大成山頂	五・五

濟南

文廟（孔子祀）	城内花牆子街	春秋分日
孟蘭會	城内大明湖	七・一五
呂祖廟	城内趵突泉内	毎月一日十五日

太原

文廟	上官巷	春秋上丁日
武廟	廟前街	春秋中戊日
孔子聖誕	省文廟	八・二七

青島

釋迦牟尼佛聖誕祭	湛山芝泉路一號湛山寺	四・八
孟蘭盆會	同	七・一五
天第聖誕會	太平路十九號天后宮	三・二三
天后聖母祭日	同	九・二三
大帝聖誕大會	台東鎭道口路十五號玉皇廟	一・九
香火大會	四方鎭海雲街一號	一・一五

保定

孔子廟祭	孫學街	三・一五 九・一一
關帝廟祭	南門東馬道	一〇・一二

石門

孔子祭	西花園古佛寺	春秋丁吉日

徐州

城皇廟會	公安街	一・一五
黃樓廟會	前倉巷	一・一五
大佛寺會	雲龍山	二・一九
泰山廟會	泰山上	四・一五
張良廟	子房山	五・一九

開封

楊大仙聖誕	東門外邊村	一・九―一〇
玉皇聖誕	龍亭	一・九
城隍聖誕	城隍廟内	一・二七―三〇
火神廟誕	南門外八里乾河沿	一・八―一一

大同

祀關岳	關五府	六・二四
祀孔子	文廟	春秋分日
上華嚴寺會	大同站西南四粁城内西南隅上寺巷	四・八
玉帝廟會	大同站西南二粁	五・一一

厚和

娘々廟祭	厚和站東南二粁孫靠村	自四・一七 至四・一九
娘々廟祭	舊城三官廟街	自三・一七 至三・一九
觀音廟祭	舊城觀音廟街	自二・一八 至二・二〇

上海

紅廟祭	南京路	一・一 二・一 三・一 四・一

南京

靜安寺祭	靜安寺路	四・八
城隍廟祭	南市	一・一、二、三
彼岸詣	淸涼寺	春秋彼岸

州

娘々廟祭	北寺塔	八・一五
神仙廟祭	閶門下塘街	四・一四
孔子廟祭	孔子廟	三・二七 八・二七

無錫

玉皇祭	城外惠山上	一・九
張泐祭	南門外	二・八
王其勤祭	同	三・七
東嶽聖帝祭（迎神香會）	城外惠山上	三・二八
紀信祭	北門外	四・一五
城隍司祭	城内三皇街	五・一六
西水仙祭	西門外	六・一一
旻天大帝祭	城外惠山上	七・一五
延壽星君祭	東門外	五・一七

杭州

彼岸回	三天竺	自二・一五 至四・一五
觀音回	同	六・一九
彼岸回	雲林寺 昭應寺 淨慈寺	自二・一五 至四・一五
城隍祭	城隍山	六・一九
觀音詣	東嶽廟	自七・一 至七・三〇
朱天會	各町内	四・二二―二四

武漢

上九節	一・九
觀音節	三・一九
城隍節	三・二八
關皇節	五・一三
鵲橋會	七・七
中元節	七・一五

（寺院）歸元寺――漢陽
寶通寺――武昌（洪山）
長春觀――武昌（大東門外）

廣東

觀音誕	三・一九
華陀誕	三・四
呂祖誕	四・一三
玄壇誕	五・一六
關帝誕	六・二四
孔聖誕	八・一七

神社



神社は日本國民總ての敬神崇祖の對象として國威發揚の先驅として來滿せる人々によつて夫々其地に奉祀され、凡そ日本人の相當數集團あるところその奉祀を見ない處なく、都市は勿論遠隔なる開拓地にも氏神

樣を分祀し日本精神訓育の道場として國民活動の源をなして居り、從つて滿洲に於ては治外法權撤廢後と雖も未だ關東局に於て所管されてゐる。

現在滿洲における神社は百八十餘社支那方面に於て三十餘社を數へ祭神に總攬神たる天祖天照皇大神を奉齋する社が主で、開拓殖産の神として大國主神、明治天皇、事代主神、應神天皇、靖國神が合祀されてゐる。

二滿支鎭座の神社二

◇關東州内

・神社名	・祭神	・造營年月	・氏子數
旅順金刀比羅神社	崇德天皇、大物主命	昭九・七	五三〇
大連神社	天照大神、明治天皇、大國主命、靖國神	明四二・一〇	一、八〇〇
大連金刀比羅神社	崇德天皇、大物主命	大六・八	一、〇〇〇
沙河口神社	天照大神、大國主命	大四・一〇	一、六三〇
關水神社	崇德天皇、事代主命	明四一・一〇	一〇〇
小野田神社	天照大神、明治天皇、猿田彥神	大一〇・一〇	二五〇
周水神社	天照大神、明治天皇、大國主命	大二・九	一〇〇
金州神社	天照大神	昭八・六	四五〇
柳樹屯稻荷神社	宇賀魂神	大七・四	四〇〇
普蘭店神社	天照大神	大一五・七	二五〇
貔子窩神社	天照大神	大一四・六	三〇〇

◇新京特別市

・神社名	・祭神	・創立年月	・氏子數
新京神社	天照大神、大國主命、明治天皇	大四・一〇	
新京稻荷神社	宇賀之御魂神	大元・二	
力行神社	天照大神、神武天皇、明治天皇	昭一五・一〇	

◇奉天省

・神社名	・祭神	・創立年月	・氏子數
奉天神社	天照大神、明治天皇	大四・一〇	二四、九三三
蘇家屯神社	天照大神、明治天皇	大一三・六	一、六九七
撫順神社	天照大神、大國主命、金山比古命、金山比賣命	明四二・二	三、九九三
本溪湖神社	天照大神、明治天皇、大國主命	大二・三	三、一二三
同惠比須神社	事代主命	大八・六	
同稻荷神社	宇賀之御魂神、佐太彥神、天宇豆賣神	昭六・六	
橋頭神社	天照大神	大四・四	二五〇
連山關神社	天照大神、明治天皇	大九・八	九七
鐵嶺神社	天照大神、大國主命、明治天皇、靖國神	大四・二	八五〇
新臺子神社	天照大神	大二・九	八八
鐵嶺稻荷神社	保食神、稻倉魂神	明四三・六	
新民神社	天照大神、明治天皇	昭八・七	二〇五
大石橋神社	天照大神、大國主命	大二・一〇	一、三二二
海城神社	明治天皇	大三・七	三九九
瓦房店神社	天照大神、大國主命	大一・九	一、〇〇五
熊岳城神社	天照大神、大國主命、明治天皇	大四・八	三一九
蓋平神社	天照大神	昭一〇・八	二〇四
營口神社	明治天皇、昭憲皇太后	大八・九	一、六五五
鞍山神社	天照大神、明治天皇	大一三・六	二、〇三六
千山神社	天照大神、大國主命	明四一・五	四五
遼陽神社	天照大神、豐受大神、神武天皇、應神天皇	明四三・六	一、四〇四
煙臺神社	天照大神、大國主命	大六・五	一〇〇
新屯神社	神武天皇	昭一三・六	三〇
草河口神社	天照大神	大三・八	七五
興京神社	天照大神、神武天皇、明治天皇	昭一四・四	七一
清原神社	天照大神、明治天皇	昭一四・三	五〇六

◇吉林省

・神社名	・祭神	・創立年月	・氏子數
吉林神社	天照大神、明治天皇、大國主命	昭九・一〇	一六、四九三
敦化神社	天照大神	昭七・九	六六二
新站神社	天照大神	昭九・一〇	七四四
奶子山神社	天照大神	昭一三・三	一九一
德惠神社	天照大神	昭一二・一二	五三四
公主嶺神社	天照大神	明四三・五	五、〇〇〇
范家屯神社	天照大神	大四・一〇	一八〇
磐石神社	天照大神	昭一三・八	五八二
豐滿神社	天照大神、明治天皇	昭一三・一〇	五〇三
山路神社	天照大神、大國主命	昭一五・一二	七二
拉法神社	天照大神、明治天皇	昭一五・九	一〇〇
蛟河神社	天照大神	昭九・一〇	三〇〇
八道河子神社	天照大神、明治天皇、大國主命	昭一五・六	
大日向神社	天照大神、明治天皇	昭一五・六	二三五
九臺神社	天照大神	昭一五・七	一〇三
福島神社	天照大神、明治天皇、大國主命	昭一六・三	三〇

◇四平省

・神社名	・祭神	・創立年月	・氏子數
開原神社	天照大神、明治天皇、大國主命	大四・八	七七
昌圖神社	天照大神	大四・一	一二三
四平神社	天照大神、明治天皇、大國主命	大七・七	三、八〇〇
郭家店神社	天照大神	大九・五	七〇
鄭家屯神社	天照大神	昭一二・九	四〇六
泉頭神社	天照大神、明治天皇	昭一五・六	三四四
朝陽鎭神社	天照大神、明治天皇	昭一三・七	六二
西安神社	天照大神	昭一〇・一〇	一、一二〇
山城鎭神社	天照大神、明治天皇	昭一三・一〇	九〇
梅河口神社	天照大神、神武天皇、明治天皇	昭一四・八	五六五
西豐神社	天照大神、明治天皇、大國主命	昭一四・七	五七六

◇安東省

・神社名	・祭神	・創立年月	・氏子數
安東神社	天照大神	明三八・一二	四、五〇〇
鳳凰城神社	天照大神	大八・一〇	三〇七
雞冠山神社	天照大神	大四・一二	三三〇
劉家神社	天照大神	大五・一二	五六
通遠堡神社	天照大神	大八・三	二四
五龍背神社	天照大神	昭一四・二	

◇錦州省

・神社名	・祭神	・創立年月	・氏子數
錦州神社	天照大神	昭一〇・六	三、七三八
大虎山神社	天照大神、明治天皇	昭一五・九	三四〇
北票神社	天照大神	昭一三・六	六五〇
阜新神社	天照大神、明治天皇、神武天皇、大國主命、大山祇神	昭一四・三	三、七〇〇
北鎭神社	天照大神、神武天皇	昭一五・一二	
彰武神社	天照大神	昭一六・一	三〇七

◇熱河省

・神社名	・祭神	・創立年月	・氏子數
赤峯神社	天照大神、明治天皇	昭一〇・三	一、六二六
葉柏樹神社	天照大神、明治天皇	昭一二・四	八〇〇
承德神社	天照大神、明治天皇	昭九・一二	四、九四六
凌源神社	天照大神、明治天皇	昭八・一二	三〇三
平泉神社	天照大神	昭一〇・九	七三八
興隆神社	天照大神	昭一二・一二	一六七
灤平神社	天照大神	昭一〇・九	
圍場神社	天照大神、明治天皇	昭一〇・一二	

◇濱江省

・神社名	・祭神	・創立年月	・氏子數
哈爾濱神社	天照大神、明治天皇、大國主命	昭一〇・三	
五常神社	天照大神、明治天皇	昭一一・三	

神社名	祭神	創立年月	氏子數
雙城神社	天照大神、明治天皇、大國主命	昭一三・六	
安達神社	天照大神	昭一三・七	
九州神社	天照大神、明治天皇	昭一四・五	
呼蘭神社	天照大神、神武天皇、明治天皇	昭一五・九	
太平川神社	天照大神、明治天皇	昭一五・一〇	
太平神社	天照大神、明治天皇	昭一六・五	六〇〇

◇龍江省

神社名	祭神	創立年月	氏子數
齊々哈爾神社	天照大神、明治天皇	昭九・九	三、四〇〇
寧年神社	天照大神	昭一三・三	
訥河神社	天照大神	昭一三・五	
昂々溪神社	天照大神	昭一三・九	
白城子神社	天照大神、明治天皇	昭一〇・二	九三三
洮南神社	天照大神、明治天皇	昭一一・二	
朝陽山神社	天照大神、明治天皇	昭一五・七	
青森神社	天照大神、明治天皇	昭一五・八	
泰來神社	天照大神、明治天皇	昭一五・二	
開通神社	天照大神	昭一五・三	
江橋神社	天照大神	昭一六・一	三九
土門子神社	天照大神	昭一四・四	六〇
山湯神社	天照大神	昭一四・八	三五

神社名	祭神	創立年月	氏子數
新秋田神社	天照大神、明治天皇、大國主命、大山祇神	昭一四・三	四九

◇間島省

神社名	祭神	創立年月	氏子數
間島神社	天照大神	大一四・一〇	四三三
朝陽川神社	大國主命	昭九・九	三七五
明月溝神社	天照大神	昭八・六	一二四
頭道溝神社	天照大神	昭八・二	三三
開山屯神社	天照大神	昭一三・九	六二
延吉神社	天照大神	昭一〇・九	七八五
榮溝神社	天照大神	昭九・三	一四
百草溝神社	天照大神	昭四・九	三〇
圖們神社	天照大神	昭八・三	八〇〇
琿春神社	天照大神	昭一三・八	三七五

◇牡丹江省

神社名	祭神	創立年月	氏子數
牡丹江神社	天照大神、明治天皇、神武天皇、大國主命	昭一三・九	四、〇〇〇
横道河子神社	天照大神	昭一三・九	
蘭崗神社	天照大神、明治天皇	昭一五・七	七〇〇
東寧神社	天照大神、明治天皇、大國主命	昭一五・八	七六八
仙洞神社	天照大神、應神天皇	昭一五・七	六六五

神社名	祭神	創立年月	氏子數
綏陽神社	天照大神、神武天皇、明治天皇	昭一五・一九	
鹿道神社	天照大神	昭一一・一〇	

◇三江省

神社名	祭神	創立年月	氏子數
佳木斯神社	天照大神	昭一一・九	六四〇
富錦神社	天照大神	昭一〇・五	
千振神社	天照大神	昭一一・九	二、〇六五
勃利神社	天照大神	昭一一・三	
興山神社	天照大神	昭一四・八	三七五
彌榮神社	天照大神	昭八・一〇	六〇
杏樹神社	天照大神、明治天皇、大國主命	昭一四・三	
靜岡神社	天照大神、明治天皇、伊波比主命、木花咲耶姫命	昭一四・三	三五
熊本神社	天照大神、明治天皇、應神天皇、大國主命	昭一四・三	二〇三
湯原茨城神社	天照大神、明治天皇、武甕槌命	昭一四・三	一五〇
同江神社	天照大神	昭一五・四	
木蘭神社	天照大神、明治天皇、月讀命、大國主命	昭一五・四	四六〇
八州神社	天照大神、明治天皇	昭一五・七	三三
饒河神社	天照大神、明治天皇	昭一五・七	

神社名	祭神	創立年月	氏子數
光蓮神社	天照大神	昭一六・七	一四七
依蘭神社	天照大神	昭一六・	一、〇〇〇
佛嶺神社	天照大神	昭一六・五	三二五
彌榮神社	天照大神、明治天皇	昭一六・三	三三三
湯原神社	天照大神	昭一六・七	一六〇

◇北安省

神社名	祭神	創立年月	氏子數
北安神社	天照大神、明治天皇	昭一〇・九	九二五
龍鎭神社	明治天皇	昭八・一〇	六一
克山神社	天照大神、明治天皇	昭一三・九	三二五
嫩江神社	天照大神、明治天皇	昭一三・六	三三一
海倫神社	天照大神、明治天皇、大國主命	昭一一・八	二五〇
綏化神社	天照大神、明治天皇、大國主命	昭一一・一	七二〇
四國神社	天照大神、明治天皇、大國主命	昭一四・五	二〇〇
綏稜神社	天照大神	昭一三・七	二四〇
白家神社	天照大神、明治天皇	昭一三・六	三〇
拉林神社	天照大神、明治天皇、大國主命	昭一五・一一	一三三
鐵驪神社	天照大神、神武天皇、明治天皇	昭一五・九	五六八

◇東安省

神社名	祭神	創立年月	氏子數
密山神社	天照大神、明治天皇、應神天皇	昭一四・八	
永安神社	天照大神、豐受大神、明治天皇	昭一三・三	
朝陽神社	天照大神、豐受大神、明治天皇	昭一三・三	
龍爪神社	天照大神、明治天皇、大國主命	昭一三・二	
廣島神社	天照大神、明治天皇、大國主命、速谷神	昭一四・八	
國礎神社	天照大神、明治天皇	昭一五・五	
寶清神社	天照大神	昭一五・八	
虎林神社	天照大神、明治天皇	昭一五・一〇	
湖北神社	天照大神	昭一五・一	
林口神社	天照大神	昭一一・五	
滿洲諏訪神社	建御名方富命、八坂刀賣命	昭一四・五	
清和神社	天照大神、明治天皇	昭一六・五	六二〇

◇通化省

神社名	祭神	創立年月	氏子數
通化神社	天照大神	昭一三・一〇	一、九八〇
輯安神社	天照大神	昭一四・三	一〇八
煙筒溝神社	天照大神、明治天皇	昭一五・二	六八
道溝神社	天照大神、明治天皇	昭一五・一〇	六〇五
撫松神社	天照大神、明治天皇	昭一五・九	一三三
大栗子溝神社	天照大神、明治天皇	昭一六・二	三八〇
鐵廠子神社	天照大神、明治天皇	昭一六・六	八二〇

◇黒河省

神社名	祭神	創立年月	氏子數
黒河神社	天照大神、明治天皇	昭一一・五	一、七三六
孫吳神社	天照大神、明治天皇、昭憲皇太后	昭一四・八	一、〇〇〇

◇興安東省

神社名	祭神	創立年月	氏子數
扎蘭屯神社	天照大神、明治天皇	昭一一・五	四四二
博克圖神社	天照大神	昭一三・八	
索倫神社	天照大神、明治天皇	昭一三・九	

◇興安北省

神社名	祭神	創立年月	氏子數
海拉爾神社	天照大神、明治天皇	昭一一・九	一、二〇〇
滿洲里神社	天照大神、明治天皇	昭一三・二	三八二

◇興安西省

神社名	祭神	創立年月	氏子數
林西神社	天照大神	昭一五・二	一六四

◇興安南省

神社名	祭神	創立年月	氏子數
通遼神社	天照大神、明治天皇	昭一〇・五	三〇〇
王爺廟神社	天照大神、明治天皇	昭一一・一〇	四三三

◇北鮮

神社名	祭神	所在地
羅津神社	天照大神	羅津
住吉神社	表筒男命、中筒男命、底筒男命	羅

◇支那（昭和十五年八月一日現在）

神社名	祭神	設立	所在地	氏子戸數又ハ居留民戸數
北京神社	天照大神、明治天皇、國魂大神	昭一五・六	北京特別市貢院東大街	一六、六二七
保定神社	天照大神、豐受大神、神武天皇、明治天皇、國魂大神	昭一三・一一	保定城外李花村	六二六
南苑護國神社	天照大神、神武天皇、明治天皇	（計畫中）	南苑市西方高地	九一
長新神社	天照大神、明治天皇、國魂大神	昭一五・三	長辛店萬壽山	三七〇
香河神社	計畫中		香河	五〇
日本神社	天照大神、北白川宮、英靈		張家口	
蒙疆神社	造營中		張家口	五、〇〇六
厚和神社	天照大神、國魂神	昭一五・一〇ノ豫定	厚和特別市大馬路	一、四三五
集寧神社	計畫中		集寧	三二八
包頭神社			包頭市富三元巷	八四六
大同神社	天照大神、國魂大神		大同	
太原神社	天照大神、明治天皇	昭一四・四	太原	三、八九五
天津神社	天照大神、明治天皇	大四・一一	天津福島街六	九、五四一
天津稻荷神社	倉稻魂神、佐田彥神、大宮能賣神、田中大神	大一五・四	天津伏見街五	六五七
塘沽神社	計畫中		塘沽	四五三
山海關神社	天照大神	昭一五・一	山海關	五六〇
唐山神社	天照大神、明治天皇、國魂大神	昭一五・三	唐山市王謝莊	九四六
石門神社	天照大神、明治天皇	昭一三・一〇	石門新民路	二、四七〇
彰德神社			彰德	六九四
新鄉神社			新鄉	五〇一
龍口神社	天照大神、大國主命、大物主命	昭五・一〇	龍口會館街三一	一〇一
濟南神社	造營中		濟南	四、一一五
張店神社	天照大神、明治天皇、大國魂神	大八・一一	張店博愛街	四四三
淄川神社	天照大神、礦山神（七柱）	昭一五・二	淄川炭礦	一四〇
台東鎭神社	大國主命	大四・三	青島台東一路	七、七三三
坊子神社	天照大神	大七・七	坊子三馬路三五	三八四
徐州神社	天照大神、明治天皇、熱田大神	昭一五・二	徐州豐財鎭	一、四四六
開封神社	計畫中		開封	一、四五九
海州神社	天照大神、明治天皇	昭一五・二	海州新浦鎭	五七〇
青島神社	天照大神、明治天皇、大國魂神	大八・一一	青島	
金比羅神社	大物主神、少彥名神	昭一三・一〇	青島	
青島稻荷神社	倉稻魂神、大宮賣神、猿田彥神	昭六・一一	青島	
鶴卷水天宮	高龗神、罔象女神、闇龗神	昭八・一一	青島	
蚌埠神社	天照大神、明治天皇、國魂神	昭一五・一一	蚌埠	
厦門神社	天照大神、明治天皇、昭憲皇太后、大國魂神、大己貴命、小彥名命、能久親王	昭一五・一一	厦門美花溪山頂	
上海神社	天照大神、神武天皇、明治天皇		上海	
南京神社	天照大神、明治天皇、大國魂神	昭一六・一〇・一七鎭祭地	南京五台山	
蘇州神社	天照大神、神武天皇		蘇州城內公園路特務機關內	
杭州神社	天照大神		杭州西湖畔	
漢口神社	天照大神、神武天皇、明治天皇		漢口日本租界	

忠靈塔



【建國忠靈廟】滿洲國都南嶺に造營の建國忠靈廟は、宮廷內に御造營の建國神廟の攝廟として、日本に於ける靖國神社の如く、建國の功勞者の英靈を安置、國民の尊崇の的となるべき性質のものである。廟の御造營は康德四年四月着工康德七年末完成、淸淨な丘陵の上に瑠璃瓦も美しい廟殿が建ち並び神苑は南嶺廣場を正面入口として十四萬坪に亘り、南湖や黃龍公園を外苑として控へ、參道、昭忠橋も完備してゐる。

この二萬四千百四十一柱の殉國の英靈神鎭まる建國忠靈廟は、康德七年九月十七日新殿淨祓の儀をはじめ、十八日鎭祭の儀十九日には畏くも親拜の御儀を擧げさせられ、二十日朝の謝神の儀を以つて四日間に亘る神儀を了へたが、爾後每年五月三十一日と九月十九日には莊嚴なる大祭が執り行はれることゝなつてゐる。

建國忠靈廟の外在滿支各地の忠靈塔及び忠魂碑の主なるものは左の通りである。

◇滿支の忠靈塔（主なる忠碑魂を含む）

塔名	柱數	建立年月	場所
旅順忠靈塔	二二、四一六柱	明治四十年五月	旅順白玉山
大連忠靈塔	六、〇六四柱	明治四十一年八月	大連中央公園
奉天忠靈塔	三六、一一七柱	明治三十九年七月	奉天千代田通
新京忠靈塔	二、六〇九柱	昭和九年十一月	新京北安路
哈爾濱忠靈塔	七、五三三柱	昭和十一年九月	哈爾濱馬家溝王兆屯
齊々哈爾忠靈塔	一、一二六柱	昭和十一年九月	齊々哈爾商埠路
承德忠靈塔	一、九二三柱	昭和十三年五月	承德南營子大街
遼陽忠靈塔	一四、八四三柱	明治四十年十月	遼陽驛南方
鞍山忠魂碑	一一〇柱	昭和七年十月	鞍山朝日ヶ丘
安東表忠塔	三、三三一柱	明治四十三年六月	安東鎭江山
撫順表忠碑		大正十三年	撫・順譽ヶ丘
本溪湖忠魂碑	八六〇柱	昭和八年六月	本溪湖神社山
滿洲義軍碑	二柱	昭和十三年六月	通化玉皇山公園
四平忠魂碑		昭和六年十月	四平中央公園內
吉林忠魂碑			吉林三緯路
延吉縣四縣殉職者招魂碑	一八五柱	昭和九年九月	延吉河南
牡丹江忠魂碑	一二柱	昭和十年四月	牡丹江太平路
佳木斯忠魂碑		昭和八年十一月	佳木斯東南崗東山
黑河忠靈廟	九柱	昭和十五年九月	黑河神社內
營口忠魂碑	九柱	明治三十九年五月	營口大和區旭街
北京招魂社		明治三十九年	日本大使館陸軍武官室
唐山忠魂碑		昭和十三年六月	唐山在支國民學校內
山海關忠魂碑	二一柱	昭和九年十一月	山海關在支國民學校內
保定忠魂碑	一七一柱	昭和十六年八月	保定車站街西本願寺境內
濟南忠魂碑	一五七柱	昭和十年二月	濟南經六路緯六路
青島忠魂碑	一、〇一四柱	大正五年四月	青島公園內公園路八號
徐州忠魂碑	一柱	昭和十五年十月	徐州驛東
張家口忠魂碑			張家口日本多ヶ丘
大同忠靈塔		昭和十三年十一月	大同城外北關々角
大場鎭表忠塔		昭和十三年十月	上海大場鎭
上海事變日本海軍戰死者忠魂碑	一六四柱	昭和十三年	上海閘北
常州忠魂碑	十數柱	昭和十五年十一月	常州大和公園

賽馬場



・賽馬場	・經營	・創立	・用地	・開催期間	・場所	・乘物	・觀覽人員
奉天國立	治安部	昭和八・八	十六萬五千四百坪	自四月至十月四十八日間	北陵西	バス自小西邊門十五錢、馬車同二圓、人力車同一圓五十錢	
新京國立	同	昭和一三・三	四十九萬平方米	自四月至六月廿日間自七月至十月二十四日間計四十四日間	興安大路賽馬街	タクシー自驛一圓十錢（十五分）バス二十錢（二十分）馬車八十錢、（五十分）洋車八十錢（五十分）	十六萬五千人
哈爾濱國立	同	昭和八・八	四十五萬六千平方米	自四月至十月春秋三次（毎土日祭日）四十八日間	王兆屯（自驛五粁）	自驛馬車二圓五十錢自馬家溝バス三十錢	
鞍山	鞍山賽馬俱樂部	昭和一一・一二	十六萬坪	自四月至十一月三十九日間	自驛二粁	自驛馬車四十五錢（四十分）、同バス十五錢（十分）	四萬五千
撫順	撫順賽馬俱樂部	昭和八・三	十一萬坪	春秋四回四十日間	東岡（自驛二粁）	自驛馬車五十錢（二十五分）バス十錢（十分）、洋車二十五錢（三十分）タクシー一圓	
營口	營口賽馬俱樂部	昭和一一・一二	七萬六千七百九十坪	春秋五回四十八日間	同治區（自驛六粁）	自驛バス二十錢タクシー三圓	三萬五千人
吉林	吉林賽馬俱樂部	昭和一六・六	四萬坪	春秋二期	吉林江南公園	自驛バス十五錢渡船十錢タクシー一圓人力車七十錢	
安東	安東賽馬俱樂部	昭和一二・一二	十七萬坪	自四月至十月四十八日間	自驛三粁	自驛タクシー二圓五十錢（七分）、バス十錢（十分）、馬車五十錢（二十五分）、洋車三十錢（三十分）	一萬二千人
錦州	錦州賽馬俱樂部	昭和一四・三	十五萬坪	春秋五回四十日間	金家屯	自驛馬車一圓、人力車六十錢	五萬人
牡丹江	牡丹江賽馬俱樂部	昭和一五・九	約五十七萬一千平方米	春秋五回四十日間	西區第三分區朱家屯	自驛バス二十分五十錢、馬車、人力車二圓五十錢程度	
大連	關東州競馬會	昭和一三・六	六萬八千五百坪	自四月下旬至十一月中旬年四回、一回八日	常盤橋起點約五粁五	電車六錢（二十二分）、バス十錢（十分）、タクシー一圓三十五錢（十分）	
旅順	同	同	八萬坪	自四月上旬至十月中旬月三回、一回六日間	驛起點約三粁二	馬車一圓（十分）、タクシー一圓五十錢・（十五分）バス十錢二十分（大連より往復）片道約一時間半二圓二十錢。	
金州	同	同	十萬坪	自四月上旬至十月中旬年三回、一回六日間	驛起點約四粁	馬車十五錢（二十分）、タクシー六十錢（八分）、バス自大連往復片道七十錢（五十分）	

天津	天津市公署	昭和一六・三	二十萬坪	春秋二期五十日間	天津市外	日本租界よりバスにて約三十分七十錢	
天津英國	英國	不詳	十五萬坪	目下休止中	英國租界	自天津驛タクシー三圓五十錢	
北京西紳	西紳クラブ	明治初年	周圍三里	春秋二期	西便門外距城約五里餘	自城內洋車約二圓	
北京	北京市公署賽馬會	民國三〇・五	六百畝	春秋二回六十日	永定門外大紅門	自前門站バス七十五錢	七萬人
唐山	唐山賽馬委員會	昭和一五・一〇	五萬五千坪	春秋二回	東柵欄門外	自驛人力車二十五分四十錢	
石門	市公署	昭和一四・九	一周一、〇〇〇米	春秋二期三十日間	自休門鎭驛二粁	自驛洋車三十分二十五錢バス十五分二十錢	
保定	縣公署	昭和一六・三	周圍一、五〇〇米	春秋二期	劉各莊	自驛人力車三十分三十錢	
青島雁泉	青島競馬俱樂部	昭和一五・一〇	―	春秋三月より十一月まで土、日曜日	忠の海海水浴場裏（第一公園）	自山東路バス一號線タクシー三圓洋車二十分六十錢、馬車十五分一圓六十錢	
徐海	徐州專員公署	昭和一五・六	百二十三畝	四、六、一〇、一一日	徐州西關外雲龍山西	自徐州站バス十五分二十錢、洋車五十錢	五千人
河南省立	河南省公署	昭和一五・一〇	十三萬坪	四月十月春秋二期	開封龍亭裏	自開封站バス十錢、鼓樓より洋車二十錢	
上海大馬路	上海賽馬俱樂部	一八九六	一哩四分一馬場	五月及十一月	靜安寺路	バス、電車	
上海江灣	上海恒產會社	昭和一四	一哩二分一馬場	未開	江灣鎭東部	タクシー九圓	
漢口	英會社	―	―	―	日租界附近		
豐鎭	豐鎭賽馬會	―	―	春秋二回	和村豐鎭站西南一粁		
太原	山西省公署 太原賽馬會	昭和一五・六	三萬五千平方米	春秋二回四月、九月	小東門外	自太原站バス十分二十錢人力車三十分五十錢、期間中バス運行す	
厚和	巴彦塔拉盟畜產科	―	―	四月より十月まで毎月實施	厚和站南方二粁	バス十五錢、タクシー三圓、洋車三十錢	
大同	大同賽馬會	昭和一五・九	五萬二千平方米	春秋四十日間	西門外	バスの便あり	

附【賽犬場】

賽犬場名	經營	創立	所在地	開催期間	乘物
安東	滿洲軍用犬協會安東支部	昭和一六・六	安東市六道溝北二條通	自五月至十一月約五十日間	自驛タクシー十分二圓五十錢、往タク二圓三十錢バス十分十五錢馬車十五分七十錢人力車二十分四十五錢

ゴルフ場



ゴルフ倶樂部・リンク	事務所	ホール	順路	料金
星ケ浦	大連市星ケ浦	大連市星ケ浦	十八ホールス、六千百五十四碼、パー七十二	自大連驛自動車二十分（一圓五十錢）バス（十錢）	ビジター日、祭日（四圓）、土（三圓）平（二圓五十錢）、キャデー（三十八錢）、（三十錢）、（二十五錢）（一ラウンド）レッスン（一圓五十錢）（一時間）
旅順	旅順市新市街	大連市關東州廳外事課內	六ホールス、一千一百七十二碼	自旅順驛自動車四分、馬車十分 自大連市バス一時間（一圓）	ビジター無料、キャデー（十八錢）、（十五錢）、（十二錢）（一ラウンド）
鞍山	鞍山睦ケ丘	鞍山睦ケ丘	十八ホールス、六千五百碼、パー七十二	自鞍山驛自動車十分（一圓二十錢） 自湯崗子驛自動車二十分	ビジター日、祭、（三圓）平（一圓）キャデーA十二錢、B十錢、C八錢、レッスン半時間十錢
奉天國際	奉天市東陵	奉天市東陵區東陵	東陵一八ホールス、六千八百四十碼、パー七十四	東陵自奉天驛自動車三十分（片道凡五圓）奉吉線自東陵驛徒歩十分	ビジター日、祭（十圓）、平（三圓）キャデー（一ラウンド五十錢）
本溪湖	本溪湖市太子河南岸	煤鐵公司事務所內		自驛馬車三十錢	
撫順	撫順新市街撫順炭礦區內	撫順炭礦經理課內	十八ホールス、六千四百碼、パー七十二	自撫順驛タクシー五分（六十錢）馬車三十錢、洋車二十錢	ビジター日、祭（二圓）、平（一圓）キャデーA（二十四錢）B（二十錢）C（十六錢）一ラウンド
新京	新京特別市興安大路鐵道西	新京特別市興安大路鐵道西	十八ホールス、一番－九番（二千四百五十碼）十番－十八番（三千二百五十碼）パー六八	自新京驛自動車十五分（一圓十錢）バス二十分（十錢）馬車一時間（七十錢）洋車一時間（七十錢）	ビジター日、祭（五圓）、平（二圓）キャデーA、（六十錢）B、（五十錢）一ラウンドレッスン（三圓、一時間）
哈爾濱	哈爾濱馬家溝文治街	哈爾濱馬家溝	九ホールス、二千七百九十一碼、ボギー（三十七）	自哈爾濱驛タクシー（五圓）馬家溝馬車約三十分（一圓）	ビジター日、祭（三圓）、平（二圓五十錢）キャデーA（三十錢）B（二十五錢）C（二十錢）（九ホールス）
安東	安東市㵎頭區銅鑛屯	安東市㵎頭區銅鑛屯	十八ホールス、六千七百六十四碼、パー七十二	自安東驛ダクシー二十五分四圓	ビジター日、祭（二圓）、平（一圓）キャデーA（二十錢）B（十六錢）C（十三錢）

齊々哈爾	嫩江河畔	鐵道ホテル	九ホール三、一五〇碼、パー三六	自驛自動車三圓（三十分）	ビジター、キャデー、レッスン二十錢
錦州	高砂街開場	奉砂街錦州ゴルフ同好會	九ホール三、一六〇碼、パー三六	自驛自動車一圓、バス十錢（十五分）	ビジター日、祭二圓、平日一圓、キャデー一ラウンド（九ホールス）二十錢レッスン一時間一圓
四平	道東水源地	同上	九ホールス三、一〇〇碼	自驛一粁半自動車二圓（五分）馬車二十錢（十分）	ビジター一日一圓キャデー一回六錢
營口	新市街裏	營口大汽ビル內	十八ホールス六千八十八碼、パー七三	自營口驛自動車十分二圓人力車二十分五十錢	ビジター日、祭平日（一圓）キャデー（二十錢）
北京	八寶山	東交民巷六國飯店內北京ゴルフ倶樂部 同上	十八ホールス	自北京站タクシー五十分凡二十圓（半日）	入會金五十圓ビジター一日二圓キャデー六十錢（一ラーウンド）
青島	礁山	青島ゴルフ倶樂部 山東路、國際クラブ內	十八ホールス、六、二九〇碼パー七二	自山東路タクシー（二十分）三圓五十錢	ビジター土、日、祭三圓平日二圓、キャデー四五錢（一ラウード）
天津	市外佛國兵營前	英租界ビクトリア公園前開灤礦務局內	十八ホールス	自天津驛自動車三圓（十五分）	—
上海虹橋考而夫場	上海西部虹橋路	虹橋考而夫總會	八ホールス	タクシーに依る	會費A百弗終身、B二〇弗一箇年半、C〇・五弗一回
上海楊樹浦	上海楊樹浦軍工路口	滬江考而夫協會	十ホールス	同右	入會金二百弗
上海惠霖頓夜	上海愚園路底	上海惠霖頓夜總會	九ホールス	同右	一回〇・五弗
上海維也納跳舞場	上海才登路維也納跳舞場內	維也納跳舞場	十ホールス	同右	一回〇・五弗
上海江灣	上海江灣競馬場內	上海江灣ゴルフ協會	九ホールス	同右	入會費六百弗
漢口	漢口怡和村	漢口レースクラブ內	十八ホールス	自驛洋車三十分五十錢	入會金四百弗、會費月十八弗
南京	中山陵園東外	南京日本大使館氣付	九ホールス	自南京站タクシー三十分十圓	月會費十圓

運動施設



關東州體育協會

大正十一年八月二十二日發會（全滿洲競技聯合）、大正十三年五月十六日改組（滿洲體育協會）、昭和十三年一月一日改組（關東州體育協會）、日本體育運動團體の一構成組織として關東州内日本側運動團體（陸上競技、水上競技、氷上競技、硬式庭球、軟式庭球、籃球、排球、蹴球、ラグビー、體操）を統轄し代表選手の推薦權を有する。

關東州體育團體

關東州體育協會		大連市白菊町八〇大連運動場
大日本武德會滿洲支部	（體協加盟）	關東州廳警察部警務課
滿洲劍友會	（同）	大連市東公園町滿鐵道場
關東州柔道有段者會	（同）	滿鐵總裁室庶務課福祉係
關東州弓道有段者會	（同）	大連市東公園町滿鐵弓道場
關東州角道會	（同）	大連市役所
滿洲漕艇協會	（同）	大連市山縣通二二三大阪商船内吉村事務所
滿洲ラグビー蹴球協會	（同）	滿鐵大連埠頭局總務課事故係
關東州水泳協會	（同）	大連市白菊町八〇大連運動場
關東州陸上競技協會	（同）	大連市白菊町八〇大連運動場
關東州蹴球協會	（同）	滿鐵總裁室庶務課經理係
關東州體操聯盟	（同）	大連市白菊町八〇大連運動場
關東州籠球協會	（同）	大連彌生高等女學校
關東州排球協會	（同）	滿鐵總裁室人事課給與係
關東州軟式庭球協會	（同）	大連市吉野町二五野中醫院
關東州卓球協會	（同）	大連日日新聞社事業部
關東州氷上競技聯盟	（同）	大連市薩摩町八大連醫院病理科
關東州自轉車協會	（同）	大連市白菊町八〇大連運動場
大連市民體育會	（同）	大連市役所學務課
旅順市民體育會	（同）	旅順市役所
關東州中等學校體育奉公聯盟	（同）	關東州廳内務部學務課
在滿日本教育會南部會	（同）	關東州廳内務部學務課
滿鐵運動會大連支部		滿鐵總裁室庶務課福祉係
貔子窩體育聯盟		貔子窩民政署

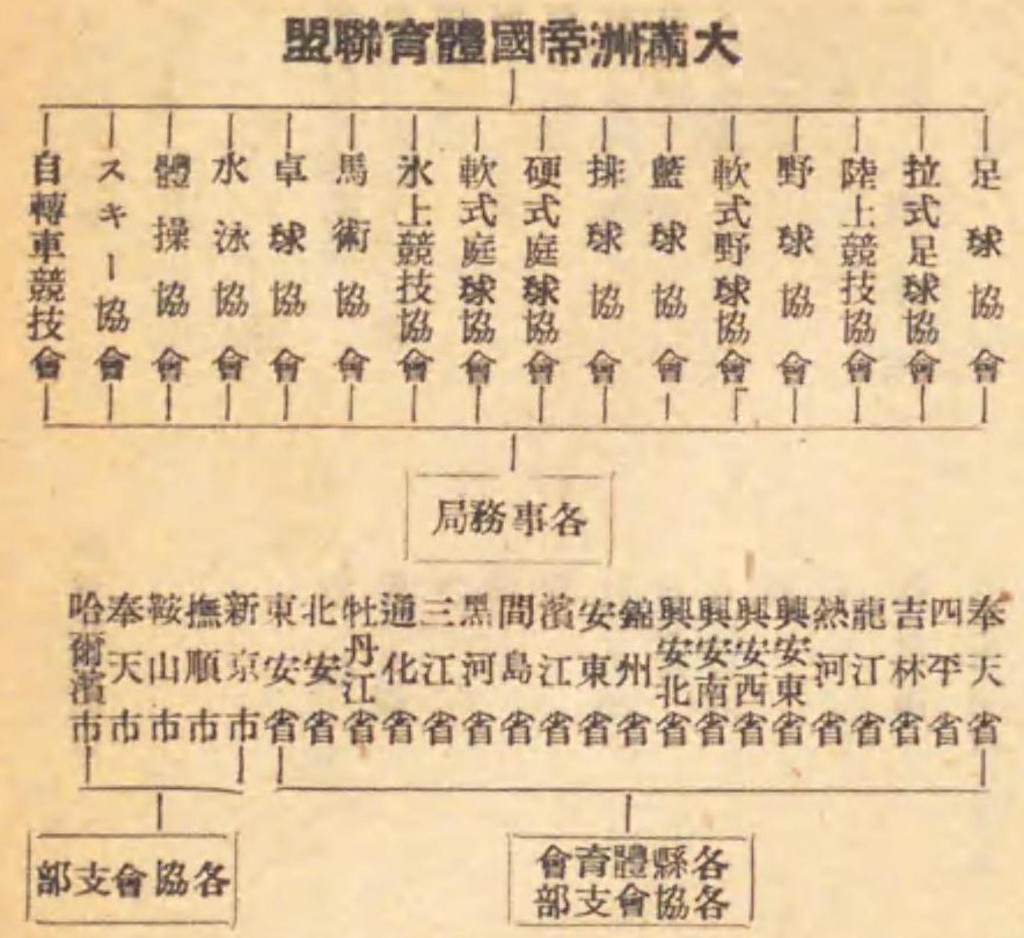
大滿洲帝國體育聯盟

大同元年四月アジアの黎明を祝福して民族協和の大理想の下に開催せる建國記念第一回大運動會と共に本聯盟の母體滿洲國體育協會を創設し爾來國内治安工作の進展に伴ひ漸次地方的に體育運動の普及を見るに至り陸上競技、足球、藍球、排球に堂々著しき發達を見、大同元年より短日月に整備しつゝある我國運動とスポーツの進捗が將に正比例せるを立證するに充分なものがある。

康德元年七月、新年度活動方針の樹立に際し體協の組織機能と國立運動競技團體の現況に鑑み、組織を改變擴大して各種運動競技別協會に依る有機的聯盟組織とし地方事務局との圓滑なる聯絡に依つて全國運動競技團體の合理的統制機關とし逐次修正を加へ現在に及んでゐる。

越えて一昨々年十二月の治外法權撤廢を機に、體育運動團體に於てもその國策の根本趣旨に基き、兩國間に於ける運動競技者統制に關する協定を結び、從來滿洲に於ける二元的統制を渾然一體とし滿洲國内に居住する日本人競技者も名實共に民族協和の本質に從ひ合體、而して一德一心不可分の關係にある兩國體育運動を一層密接にすると共に、兩國の並行的向上を期し國民の資質向上に努めてゐる。

體育聯盟機構左の如し



【滿洲體育保健協會】滿洲體育保健協會は社會體育の中心機關として精神的訓練を中軸とし國民の體力の向上と健康增進に資し併せて民族協和の實を擧ぐるを目的とし政府並滿鐵會社よりの醵金に依り財團法人を設立し此の基金を以て先づ新京、奉天、撫順、牡丹江、哈爾濱、齊齊哈爾、大連の七大都市に綜合體育館を建設のため設計準備を進め一部建築工事に着手せんとしつゝある。

【滿洲帝國武道會】滿洲帝國武道會は皇帝陛下御登極の大典記念をトし滿洲國の立場より日本古來の武道を廣く且健全に滿洲國内に普及發達せしめ、滿洲國に於ける指導的立場に在る日本人の心身鍛錬と兼ねて他民族の身心鍛錬並に日本人理解の一助たらしめんことを目的として結成せられた。

康德五年度には治外法權撤廢並に附屬地行政權の移讓を契機として、全滿各主要都市二十五箇所に支部を設置し、全滿武道關係團體の一元的統制を計り武道精神の宣揚並に武術の普及發達を圖り、以て民族協和の實を擧げ國民體力の向上精神鍛錬國力の充實體育保健の思想を扶植する上に於て極めて重要なる貢獻を爲しつゝある。

尚全滿相撲團體を打つて一丸とする滿洲角道會は、滿洲事變記念日を期し康德五年九月十八日創立せられたが康德七年中、本滿洲帝國武道會に合體し角道部として發足することゝなつた。

運動施設

◇關東州

大連運動場（綜合）	大連市白菊町八〇
旅順運動場（綜合）	旅順市大迫町
滿鐵大連道場	大連市東公園町三二
滿鐵沙河口道場	大連市霞町三二
大日本武德會滿洲支部弓道場	大連中央公園内
滿鐵弓道場	大連市東公園町三〇
滿鐵乃木町弓道場	大連市乃木町二
滿鐵沙口弓道場	大連市霞町三二
市設中央公園相撲場	大連、中央公園内
滿鐵相撲場	大連市東公園町三二
大連市綠山射擊場	大連、綠山
大連市西山射擊場	大連、西山屯
市設中央公園庭球場	大連、中央公園内
滿鐵庭球場	大連、北公園内
滿鐵庭球場（硬式）	大連、中央公園内
大連實業園野球場	大連、中央公園内
大連滿倶野球場	大連、中央公園内
漕艇場	大連、濱町岸
市設水泳場	大連、中央公園内
滿鐵黑石礁水泳場	大連市黑石礁屯二九四
市設市民海水浴場	大連、星ヶ浦
夏家河子海水浴場	旅順線夏家河子
關東州競馬會附屬乗馬部馬場	大連、中央公園内

普蘭店運動場	關東州普蘭店

◇滿洲

新京

南嶺綜合運動場	南嶺
兒玉公園陸上競技場	兒玉公園
同野球場	同
同スケート場	同
同籃球場	同
牡丹公園庭球場	牡丹公園
白菊町水泳場	白菊町
大同公園水泳場	大同公園
同庭球場	同
同相撲場	同
神武殿（柔、劍、弓銃、角道場）	牡丹公園
市營野球場	大同廣場市公署裏

奉天

市民體育場（庭球、蹴球）	小河沿
市民野球場	市公署裏
國際運動場（陸上競技兼スケート場）	萩町
同庭球場（硬軟式）	同
同相撲場	同
滿鐵野球場	同
滿鐵蹴球、ラグビー場	同
滿鐵庭球場（軟式）	同
千代田公園プール	千代田公園
滿鐵プール	高千穗通
民衆體育場（大山グラウンド）	萩町
市民體育館（室內體育館）	大山グラウンド裏

撫順

永安陸上競技場	南大街
撫順野球場	同
撫順水泳場	西公園町
中央廣場氷滑場	南、北台町
室內體育館	（保健協會施設）
同	（炭礦體育會施設）

營口

旭街運動場	大和區旭街
營口公共運動場	綏定區清和街
營口氷滑場	花園在滿國民學校內
同	大康區新仁街厚生在滿國民學校內
庭球場	旭街及花園街
營口市營プール	大和區旭街

本溪湖

神社山グラウンド	神社山麓

安東

陸上競技場	六道溝宮島町
相撲場	鎭江山公園
野球場	七道溝
同	六道溝
水泳場	鎭江山公園
大弓場	同
同	堀割通五丁目
柔劍道場	山下町滿鐵厚生會館
同	市場通警察廳
ゴルフ場	鎭江山裏山
氷滑場	六道溝鐵道用地內
兒童遊園場	鎭江山公園
グライダー場	三道浪頭
陸上競技場	東坎子

莊河

陸上競技場	莊河街
籃球場	莊河縣

鞍山

相撲場	大宮通北四條町
弓道場	北大宮通
野球場	南大宮通
同	同
同	同
同	同
陸上競技場	同
籃球場	同
同	睦ヶ池公園
同	台町兒童遊園地
氷滑場	南大宮通
同	睦ヶ池
同	鐵西
同	曙町
同	末廣町
同	南十三縣
排球場	南大宮通
同	同
同	同
庭球場	台町
同	南十條町
同	北一條町
同	南四條町

庭球場	富士公園
足球場	ゴルフ場下
水泳場	北一條町
ゴルフリンク	東方山麓

鐵嶺

鐵嶺市民運動場	鐵嶺市

四平

四平運動場	北十三條通
プール、庭球場、弓道場	中央公園

遼陽

公衆體育場	遼陽市

吉林

吉林市體育場	城內太馬路
吉林市野球場	同南太馬路
吉林市民體育場	同河南街

延吉

市民綜合運動場	西公園延吉神社外苑

通化

龍泉野球場	龍泉區

圖們

市民運動場	銀河街—仲秋街

牡丹江

牡丹江市綜合運動場	北星山麓清水公園
太平グラウンド	驛前通
牡鐵グラウンド	第二新市街西聖林街

佳木斯

佳木斯運動場	鳳陽街三段地
佳木斯市民グラウンド	飛行場通

哈爾濱

宣德體育館	八區公園
八區競技場	同
八區野球場	同
八區庭球場	同
道裡體育場	道裡藥舖街八八號
馬家溝運動場	馬家溝海城街
日新運動場	商務街
哈鐵運動場	大直街
工大運動場	南崗西市場
學院運動場	通道街
濱江公園運動場	道外二十道外
YMAC體育場	松花江
YMAC體育館	南崗花園街
ヨットクラブ	松花江
水泳場	同
道裡公園遊戲場	道裡新城大街
八區氷滑場	八區公園
道裡滑氷場	道裡藥舖街八八號
ボッブレース場	松花江
哈鐵氷滑場	大直街
ハルピン庭球氷滑場	大直街一二三號
日新運動場	商務街

呼蘭

西崗公園體育場	呼蘭縣西崗公園內
呼蘭運動場	呼蘭縣本城西端

賓縣

賓縣公共運動場	賓縣公署西隣

阿城

阿城公立運動場	東門外
天錫運動場	南門裏
綏靖運動場	西北門裏
縣公署運動場	縣公署內

肇州

協和運動場	肇州街

肇東

滿溝公共運動場	滿溝七道街
昌五公共運動場	昌五東北隅

安達

哈鐵運動場	西門外廣場
鐵路俱樂部運動場	鐵路俱樂部

東興

公共體育場	東興街福安區

巴彥

建國記念運動場	向陽街
宣詔記念運動場	縣署街

木蘭

公共體育場	城內向陽區

延壽

公共體育場	縣城南門裏
第二運動場	忠靈塔前

臺　河

公共體育場　縣城北門外

黑　河

氷滑場　里河街
同　同
綜合運動場　黑河東門街

齊齊哈爾

市民運動場　商會街
庭球場　龍沙公園
齊鐵運動場　民宅街

滿洲里

協和運動場　頭道街

錦　州

市公署運動場　三保街
木村土地グラウンド　吉野街
市綜合運動場　榛名街
野球場　同
滿鐵運動場　同
滿倶野球場　同

承　德

忠靈塔前運動場　南營子大街
離宮前プール　小南門外
承德滑氷場　離宮内

◇北　鮮

羅　津

滿鐵野球場　富士見町

◇中國・蒙疆

山海關

民會グラウンド　鐵道南

天　津

民團グラウンド　日界宮島街
（市外南開に新グラウンド建設中）
リクレーショングラウンド　英界廣東路
民團プール　日界宮島街
北寧グラウンド　河北寧園外
北寧プール　河北寧園外

保　定

新民體育場　三皇廟街

石　門

興亞グラウンド　石門市

濟　南

高野山運動場　高野山姚山寺
忠魂碑運動場　緯六路緯七路
黑虎泉プール　城内
省立民衆體育場　千佛山麓
昭和園プール　緯七路緯四路
濟鐵グラウンド　濟南站前

青　島

匯泉體育場　第一公園
青島體協體育場　第一國民學校内
匯泉スケートリンク　第一公園内
城陽河スケートリンク　膠濟線城陽
青島體協庭球場　德平路三號・萊陽路
大康水泳場　旅順路・四方蒙古路二八

徐　州

徐州公共體育場　雲龍山麓

開　封

華北運動場　龍亭裏

太　原

太原神社外苑運動場　南華門
新民公園氷滑場　新民公園
新民公園庭球場　同

張家口

公共體育場　花巷子大街
公大グラウンド　宣化大街

大　同

綜合グラウンド　東北關大有倉街

厚　和

公共運動場　賽馬場
厚和野球場　臥龍岡
厚和氷滑場　大馬路

南　京

國際體育場　中山陵園外

杭　州

省體育場　體育場路
市立公衆運動場　湖濱路
玉泉水泳場　玉泉寺前
杭高水泳場　貢院前
之江大學水泳場　閘口

漢　口

中山公園運動場　中山公園内
居留民運動場　日本租界

狩　獵



本項は獵場並禁獵鳥獸の概略を示したに過ぎない、詳細は東亞旅行社發行、金田詮造氏著「滿洲の狩獵」に依られたい。尚地方の獵場現況の詳細については各地獵友會（觀光事業機關の項參照）に尋ねられたい。

獵場案内

獵物・獵場・季節

旅順線

△龍　頭（大連四八粁）
山鶉、山鴫　附近の山野　九月中旬—四月下旬
兎　八月十五日—五月三十日
鴨、雁、山鳩　三澗堡附近　十月—三月

△旅　順
鶉、鴫　大孤山、老鐵山　九月—十月
雁、鴨　雙頭山附近　十月下旬—十二月中旬
山七面鳥　一月—二月

連京線

△大　連
田鴫　欒家屯方面　九月—十月
山鴫　傅家庄　九月—十月
鴨　臨海浴場、甘井子　十一月—三月

△二十里臺（大連四六粁）
雁、鴨、鶉　愛川村方面　十、十一、三、四月
兎　驛西北八粁の大連堡小連堡附近

△普蘭店（大連七七粁）
兎　附近一帶の野畑　九月—四月

△瓦房店（大連一〇五粁）
兎、雉子、鴨　驛東方約四粁の炸子窩附近

△王　家（大連一一二粁）
雉子、兎　驛より約八粁の劉家溝瓦房窩溝附近　苦力賃一圓五十錢見當　十月—三月

△得利寺（大連一二四粁）
雉子、兎　驛の附近一帶　苦力賃一圓見當　十月—三月

△松　樹（大連一三〇粁）
雉子、山鶉
兎　驛附近の廣野　苦力賃一圓五十錢見當　九月中旬—四月

△萬家嶺（大連一四六粁）
雉子　驛の西方約六粁の聞河店地方
兎　西方二四粁を隔る紅土嶺附近

△許家屯（大連一六〇粁）
雉子、山鶉
兎　李劉溝年甸子　熔家溝拉子山附近　苦力賃一圓見當　十一月—三月

△九　寨（大連一六八粁）
雉子、鴨　相紅旗水營子の海岸一帶　三月—四月
白鳥　九月—十月

△熊岳城（大連一七八粁）
雉子、兎　驛より八粁熊岳城河口附近

△蘆家屯（大連一八八粁　奉天二〇八粁）
雉　子　驛の東方約一六粁の山野　十月—三月

△分　水（大連二四七粁　奉天一四九粁）
雉子、鴨　驛北方約一六粁滾水泡附近　苦力賃一圓五十錢見當　三、四、九、十月

△湯崗子（大連二九二粁　奉天一〇三粁）
雉子、山鳩　驛西北約四粁中所屯附近
鴨　西方八粁騰鼇堡附近
兎　東方約四粁千山河附近　苦力賃一圓五十錢見當　十月—三月

△立　山（奉天八四粁）
雉子、山鶉　驛より八粁櫻桃園附近　九月—四月

兎　驛より一粁半水源池附近
雉子、鴨　驛より二四粁太子河附近　三月―五月

△遼陽（奉天六四粁）
山七面鳥　驛舍西方の耕地　十二月中旬―一月下旬
雉子、鴨　驛西南三粁廠房八粁新立屯附近　三月中旬―四月中旬
鴫　附近の沼地　四月中旬―五月上旬　八月中旬―下旬
雉子　糯米子、丁莊子小屯子驛より六粁附近　十月―四月

△奉天
雁、鴨　渾河畔、沼地　三月下旬―四月上旬
鴫　驛西北方大灣、鎭相屯附近　九月上旬―下旬
雉子、兎　東陵附近　十月中旬―三月

△新臺子（奉天四四粁）
鴨、雁、鴫　驛北方八里庄附近
雉子、山鳥　驛東方八粁　十二月―二月

△亂石山（奉天五二粁）
雉子、山鶉　驛東方一帶　十月―四月
兎　西方の荒地　十一月―三月
鴨、鴫　西南方四粁の沼地

△得勝臺（奉天六一粁）
雉子、山鶉　驛より四粁乃至二〇粁一帶の山野附近　九月―四月
田鴫、雁、鴨　附近の沼澤　四月―五月

△鐵嶺（奉天七一粁）
雉子、兎　驛より約二〇粁柴河上流一帶　十月―十二月
雁、鴨　柴河下流

△平頂堡（奉天八二粁）
雉子、兎　山麓の附近　十一月―三月
鴨、雁　苦力賃一圓五十錢見當　三月下旬―十月中旬

△開原（奉天一〇四粁）
雉子、山鶉　驛東方一二粁馬家溝驛東北方一二粁王大樹附近（馬車の便あり）　九月―四月

△金溝子（奉天一一五粁）
山七面鳥　驛附近の原野　三月―四月
兎

△馬仲河（奉天一二五粁）
兎、雉子、山七面鳥、山鶉　驛北方一二粁十八家子附近

△昌圖（奉天一三六粁 新京一六八粁）
雉　鶉、兎
山　子　驛東方約四粁石山橋山方面東北約八粁哈什廟溝孤楡樹附近　十月―三月

△滿井（奉天一四三粁 新京一六一粁）
雉子、山七面鳥、兎　驛東方約八粁張家外子驛東方二〇粁我勾附近　十一月―二月

△泉頭（奉天一五〇粁）
雉子、兎　驛より約八粁を隔る雜木山　十一月―二月

△雙廟子（奉天一六一粁 新京一四三粁）
雉　驛の東方三二粁蓮花街附近 苦力賃一圓五十錢見當　十一月―三月

△虻牛哨（奉天一七六粁 新京一二八粁）
雉子、兎　驛東方約八粁の丘陵地一帶　十月―四月

△四平（奉天一八九粁 新京一一五粁）
雉子、山鶉　驛より二二粁拉山澄子溝、下山臺方面（馬車自動車の便あり）　十一月―一月

△楊木林（奉天一九五粁 新京一〇九粁）
雉子、兎　驛の東方約二〇粁邊裏山附近 苦力賃一圓見當　九月下旬―三月

△大楡樹（奉天二三四粁 新京六九粁）
雉子、兎　驛南方約四粁東遼河の鐵橋附近　十月―二月
驛前面の水田東遼河の流域　三、四月

△大屯（新京一九粁）
兎　大山の南西側　十、十一月

△新京
鴨、雉子　驛西方約八粁の小池附近　三、四月
雉子、兎　京圖線の土門嶺九站間一帶

營口線

△營口（奉天一七九粁四）

雁、鴨、鴫　驛より大官屯、鴨島　三月中旬―四月中旬
白鳥　西砲臺、大高坎田庄臺　九月中旬―十月中旬

撫順線

△楡樹臺（奉天一二粁）
鴨、雁　驛より約二粁全家灣附近　十一月初旬―十二月初旬
山七面鳥、兎　農場　二月―四月

△孤家子（奉天一九粁）
雁、鴨、山七面鳥　渾家の畔　十月下旬―二月下旬
兎　附近の耕地

△深井子（奉天三三粁）
雁、山七面鳥　李石寨、牛相屯附近
兎　東陵方面

安奉線

△火連寨（奉天七一粁）
雉子　舊大嶺附近　十二月―二月

△本溪湖（奉天七七粁）
雉子　福金方面は驛より二粁以南沿線一帶火連寨方面は驛より二粁以北牛心臺方面約一二粁以東の山地一帶　十二月―二月

△橋頭（奉天九三粁）
鴨、鳩　驛より四粁乃至八粁遼陽街道楡樹林子忠魂碑附近　三月―四月
雉子、兎　釣魚臺寮馬票街道一帶　十月―四月

△南坟（奉天一〇八粁）
雉子、兎　驛の東方約二粁東溝北方四粁金杭　十月―四月
野猪　驛の南北約二粁舊南坟西方約四粁臥龍溝附近

△下馬塘（奉天一一八粁）
雉子　驛附近一帶 苦力賃一圓五十錢見當　十月初旬―三月

△祁家堡（奉天一三六粁）
雉子、鳩、山鶉、兎　附近の山地一帶　十月―三月

△草河口（奉天一四七粁）
雉子　附近の山地一帶　十一月―三月

△劉家河（奉天一七五粁）
雉子　附近の山地、草河沿岸　十一月―二月
鴨　四月―五月

△秋木莊（奉天一八一粁 安東九四粁）
雉子　驛より四粁黑坑瓦房屯附近　十一月―三月
兎　大葦溝方面

△鷄冠山（安東八〇粁）
雉子　驛西南四粁遠家溝老虎嶺、羊草溝、沙子溝　十一月

△四臺子（安東六九粁）
雉子、兎　附近の山地

△五龍背（安東二四粁）
兎、狼、狐、雉子、雁、鴨　丁義山麓一帶驛附近の水田 苦力賃一圓見當　十月―五月

◎凡例　鳥獸の棲息數は多數を（特）以下（A）（B）（C）の順とする。

奉山線　錦古線

△巨流河　南方水地　水鳥（A）
北方深く　山鶉、雉（B）

△新民　附近一帶水地　水鳥（A）

△錦縣　北方一帶水地　水鳥（B）

△興城　南東方深く　鶉（A）

△山海關　南方水地　水鳥（B）
北方山野　山鶉（B）　雉子（C）

△承德　熱河一帶　熱河山鶉（C）

奉吉線

△南口前―梅河口 鐵道西北方一帶淺く
雉子（A）

△英額門 驛南東方山地
雷鳥（C）

平齊線 大鄭線

△三江口 北方水地
水鳥（A）

△三江口―大平川 鐵道沿線兩側一帶廣く
△通遼 雉子、山鶉（A）

京白線 白阿線

△白城子―安廣 安廣を中心とする附近一帶
山鶉、雉子、鶉、猫足（グラウス）黃羊、獐（特）

△阿爾山 興安嶺一帶
山鶉（特）雉子（A）猫足（グラウス）（A）黃羊（特）山七面鳥（特）

京濱線

△陶賴昭 西方水地

△哈爾濱 哈爾濱を中心とする水地河川
水鳥（A）
水鳥（B）
同じく原野
雉子（A）

京圖線 粒濱線

△飮馬河 北方水地
水鳥（A）

△吉林、拉法 京圖線、拉濱線にて圍む山地（長白山脈）
雉子（特）
雷鳥、山鶉、猪、獐（B）

濱綏線

△鐵道沿線 北方山地全般（長白山脈）
雉子（特）
山鶉、雷鳥、猪、滿洲赤鹿（B）

濱洲線

△巴林 大興安嶺
黑雷鳥、大雷鳥、エゾ雷鳥、雉子、山七面鳥（特）
山鶉、猫足（グラウス）滿洲赤鹿、猪、獐、黃羊（A）

齊北線 北黑線

△寧年 附近平野
山七面鳥、雁、鴨、山鶉
鶉（特）

△北安 北黑線沿線一帶（小興安嶺）
黑雷鳥、エゾ雷鳥、鶉（A）
雉子、山鶉、黃羊、獐（特）

平梅線一帶

雉子（A）

獲物別獵場（最寄驛名）

雉子 瓦房店、王家、得利寺、松樹、萬家嶺、許家屯、熊岳城、蘆家屯、湯崗子、立山、遼陽、奉天、新臺子、亂石山、得勝臺、鐵嶺、平頂堡、開原、馬仲河、昌圖、滿井、泉頭、雙廟子、虻牛哨、楊木林、大楡樹、大屯、新京、火連寨、本溪湖、橋頭、南坎、下馬塘、郝家堡、草河口、劉家河、秋木莊、鷄冠山、四臺子、五龍背、安東

雁 龍頭、旅順、二十里臺、普蘭店、九寨、分水、立山、遼陽、蘇家屯、新臺子、得勝臺、鐵嶺、平頂堡、開原、營口、楡樹臺、孤家子、深井子、五龍背、安東

鴨 大連、旅順、二十里臺、瓦房店、分水、立山、遼陽、新臺子、亂石山、得勝臺、鐵嶺、平頂堡、開原、大楡樹、大屯、營口、楡樹臺、孤家子、橋頭、劉家河、五龍背、安東

鴫類 大連、龍頭、旅順、九寨、湯崗子、立山、遼陽、新臺子、亂石山、得勝臺、平頂堡、營口、

鶉類 大連、龍頭、旅順、二十里臺、普蘭店、松樹、許家屯、湯崗子、立山、亂石山、得勝臺、平頂堡、開原、馬仲山、昌圖、郝家堡

山七面鳥 龍頭、旅順、遼陽、亂石山、開原、金溝子、馬仲河、滿井、楡樹臺、孤家子、深井子、李石寨

白鳥 金州、九寨、營口

鸛 平頂堡、營口、安東

鷲 營口

兎 龍頭、二十里臺、普蘭店、王家、得利寺、松樹、萬家嶺、許家屯、熊岳城、湯崗子、千山、蘇家屯、渾河、亂石山、鐵嶺、平頂堡、金溝子、馬仲河、昌圖、滿井、泉頭、虻牛哨、楊木林、大楡臺、孤家子、深井子、橋頭、南坎、郝家堡、秋木莊、四臺子、五龍背、瓦房店、立山

猪鹿 南坎、安東

禁獵地域

定められたる禁獵區竝に公道、公園、廟宇、社寺境內、墓地、市街その他人家稠密なる場所や建物、人畜、汽車、電車若くは艦船に銃丸の達する處ある所での狩獵は禁ぜられてゐる。

尙日出前及び日沒後は銃獵を爲すことを得ず。

狩獵鳥獸

滿洲國の鳥獸保護法施行規則に依り定められたる狩獵鳥獸の種類は次の通り

鶉、五位鷺、蒼鷺、鷺、鷹、隼、鶚（ミサゴ）、雉子、沙鷄、半翅（ヤマウヅラ）、鶉、鷓鴣、雷鳥、野鴨、鴇（ハクテウ）、雁、秧鷄（クヒナ）、鷸、鴴（チドリ）、鷺（鳴）、鴇、（ノガン）、山七面鳥）、鳩鴿（ハト）、魚狗（カハセミ）、鶫（ツグミ）、烏鴉（カラス）、松鴉（カケス）、鵲、老西兒（シメ）、蠟嘴雀（イカル）、交嘴（イスカ）花鷄（アトリ）、金翅雀（ヒワ）、金翅兒（カハラヒワ）、雀、花眉子（カシラダカ）、黃道眉（ホホジロ）、紫背兒（ノジコ）の鳥類

獸類（獺、黑貂、牝鹿を除く）及び各種鳥類の狩獵期は滿洲國では九月一日より五月三十一日まで、關東州では八月十五日より四月三十日まで、但し鷺（鳴）に限り何れも五月三十一までとなつてゐる。

獸類は十一月一日より三月三十一日まで狩獵することが出來る。

旱獺（タルバカン）は八月一日より九月十日に至る間、牝鹿は四月一日より六月三十日までの間に限り狩獵を許されてゐる。

牝鹿は一切捕獲を禁止せられてゐる。

雀、烏鴉、野猪、狼、鼠、兎、獐の鳥獸は一年を通じて捕獲することが出來る。

スキー場



スキー公德十戒

一、名譽ある護國の傷痍軍人には進んで席を讓りませう。

二、列車の乘降は順序よく、座席先守の橫着は愼みませう。

三、車內でのスキー取扱は他人の迷惑にならぬ樣心掛け、特に搬入には除雪を完全にしませう。

四、心なき高聲、大笑を愼み、車內の空氣を亂さぬやう心掛けませう。

五、宿舍は共同の住居です。お互に自己本位な振舞で他人に迷惑を掛けぬやう注意しませう。

六、宿舍の就寢時間は嚴守しませう。

七、宿舍の丹前を着込んでのスキー手入は

止めませう。

八、無人の山小屋の利用には舍內の整理は勿論、火氣の後始末に充分氣を付けませう。

九、指導標は共同の道しるべです。落書、毀損はスキー道德に悖る最大なものです。

一〇、スキー場、ツーアコースは銀界鍛錬の道場です。その淸淨を汚さぬやう互に自戒しませう。

スキー裝備

休泊の施設や旅舍の近い滿洲に於けるゲレンデ・スキーでは體の無理なこなし方で怪我せぬ樣心掛ける外、別段注意すべきこともないのであるが以下スキー裝備について初心者參考のため要點を列記する。

【スキー服】 スキー服は特に造られたものに限らず、水はきのよい、丈夫な冬服であれば充分間に合ふ。着がへのシャツは一、二枚用意しておけばよい。

【スキー靴】 スキー靴は毛の靴下を二、三枚履いて丁度よい程度のものがよい。

【スキー手袋】 普通手製の五本指のものが良いが、防水製のスキー手袋を用意して置けば申分ない。

【鏡眼】 紫外線を除けるもの

【スキー帽】 帽子は絕對にスキー帽がよい。

【其他】 急激なる天候、氣溫の變化に對しては、防寒具としてアノラック（ウインドヤッケ）は是非用意する必要がある。その外着換の毛織シャツ一、二枚。

【携帶品】 スキー・ツーア又はスキー登山は滿洲では餘り行はれてはゐないが、この場合の携帶品は地圖、磁石、時計、マッチ、簡單なる應急藥品類竝にアザラシ皮等は必携のこと。食料品は嗜好に應じて異るが、出來るだけ輕量にして嵩ばらないものを選ぶこと。この意味で罐詰類より干物類の方が優つてゐる。米はよく洗つて乾燥したものを選び、主食の外にパン類の適量は是非携行すべきである。

スキー場

撫順老虎臺スキー場（奉天より撫順線一時間十分）

撫順驛前から電車の便がある、スキー場は老虎臺停車場の直ぐ前にあり、スロープは五百米位から種々あるが相當降雪量の時でないとスキー不可能。

◇設備　休憩所はあるが食事等携行を要す

遼海山スキー場（奉天より連京線北行鐵嶺まで急行約一時間）

遼海山は鐵嶺驛からバスで約二十分、相當降雪量の時はスキー可能。

◇設備　休憩所があり簡單な食事が出來る

◇貸スキー備付

◇宿泊　鐵嶺市內の旅館を利用

土們嶺スキー場（新京より京圖線約一時間四十分）

土們嶺驛前の小山を中心とし周圍に展開し到るところ緩急樣々のコースがありスキー場としては絕好である。土們嶺驛の東方三粁餘の大媽虎頭山では山スキーも出來る。

◇設備　ヒュッテあり、驛前で簡單な食事（支那料理）は出來る。

山城鎭スキー場（奉天より奉吉線約五時間）

山城鎭驛の南方の城子山（四九一米）の山頂を基點として東西五〇〇米に展開するスロープは練習スキー場に適してゐるこゝから約一粁の陡嶺と稱する峠の北面一帶のスロープには緩急、長短樣々のものがある。

◇設備　驛から一粁餘の城子山麓にヒュッテがある

◇驛前に旅館があり、スキー客には割引す

南雜木スキー場（奉天より奉吉線約二時間二十分）

南雜木驛の驛舍屋反對側の山麓より元帥林驛方面に掛けて長きは八〇〇米程度の廣大なるスロープが隨所に開けてゐる

格別の施設はないが驛から極近い爲驛構內よりスキーを穿つて出ることが出來る。

◇貸スキーが驛にある

◇宿泊　驛前には小さい日本旅館竝に滿人飮食店がある

吉林スキー場（新京より京圖線約三時間）

（北山スキー場）

1 北山スロープ

驛より山麓まで五粁、バス（二十分）馬車（三十分）の便がある。

ヒュッテへは更に徒步で七分（三百米）にて達する。緩急樣々のスロープを有し大衆的スキー場として家族連れにも適し吉林スキー場の中心をなすものである。

2 歡喜嶺、觀音澤、柏澤の各スロープ

北山スキー場に包含さるゝも地形的には自ら一ブロックを形成して居る。北山スロープから尾根傳ひ或はスロープ傳ひに約五粁の所にある。

歡喜嶺スロープは雄大複雜、熟達者のテクニックを樂しむに好適である。

觀音澤スロープは歡喜嶺スロープを背後にし廣大な低山スロープをなして居る。

柏澤は觀音澤に連なり初心者に好適なスロープである。

3 砲臺山スロープ

驛より四粁五、馬車で二十五分位にて山麓に達す、玄天嶺と呼ばれる砲臺山の山腹に開けたスロープは變化に乏しいが廣大で練習に良い。

◇設備　北山スロープにヒュッテがある。山頂には茶屋があり湯茶の接待をなす外休日には食事の用意もある。

◇貸スキー　北山の鐵道局ヒュッテにある。

〔江南スキー場〕

松花江の對岸、滑降一粁餘のスロープが大歲子部落を挾んで南北に相對し、雄大なること吉林スキー場中第一とされ、熟練者に向いてゐる。驛から馬車にて二十五分更に徒步にて三十分。

〔龍潭山スキー場〕

吉林の次の驛龍潭山驛から徒步で約五分（吉林驛から馬車にて一時間）山スキーの快味を滿喫するに絕好の山で風光又佳、スロープは概ね雄大で深林の間を縫ふてテクニックを樂しむ事が出來る。山頂の龍鳳寺で湯茶の接待をする。

◇宿泊　スキー場は何れも吉林郊外であるから市內の旅館を利用すればよい、旅館は吉林驛、東亞旅行社で特に斡旋して居る。

◇貸スキー　吉林驛備付

玉泉スキー場（哈爾濱より濱綏線約一時間半）

驛の東方七〇〇米、乙女峠が緩い斜面を密峰山に連亙する所、その肩ずれから急角度に落込むスロープが大きくうねりを描いてゐる丘上は展望美しく、快適なるスキー場である。

◇設備　哈爾濱鐵道局經營のヒュッテがある、休憩室、乾燥室、食堂、浴場、サンルーム婦人室、宿泊設備（三十名收容）等完備し全滿第一と謂はれてゐる。

◇貸スキー　貸スキー竝ホップスレー（二人乘）の備付がある。

◇宿泊　旅館なし、ヒュッテに宿泊。

帽兒山スキー場（哈爾濱より濱綏線約三時間）

驛の周りの丘陵には長短、緩急樣ゝのスロープがあり好適なスキー場を成してゐる。

◇設備　特別の施設はないが驛構內食堂を利用して仕度の上、驛前からスキーを穿ち赴くことが出來る。

◇宿泊　露人經營の小さいホテルが一軒あるので其他一般に宿泊設備はない。

通化スキー場（自通化驛約五粁）

〔鷲山スキー場〕

市街より約千五百米、通化神社の裏で、第一ゲレンデは全長約二五〇米、斜度十五度位の緩かなスロープで初心者に適し、第二ゲレンデは一五〇米位、斜度二十八度位で中流者に適し、第一、第二共ブッシュ及

び凹凸が少なく、變化もなく練習に適してゐる。

〔銀鑛嶺スキー場〕

鶯山スキー場の谷一つ向ひ側にあり、市街より約一千二百粁、通化富士の裏側に面したスロープである。

通化屈指の高山で、このスロープは全長八〇〇米位、幅約五〇〇米、斜度二〇度位でブッシュ凹凸は全然なく、初心者並に熟練者のゲレンデとして申分ない、通化市街並に峨々として連なる東邊道の屋根を展望し、思はず快哉を叫ぶ、正にスキーに非れば味い得ざる一種の優越感を充分に滿喫することが出來る。

〔花甸子スキー場〕

銀鑛嶺スキー場を南下し、連峯を踏走すること三十分にして達する。このスキー場は至る處スロープで、長さ三〇〇米位より一〇〇米位まで、斜度も四五度もあらうと思はれる物凄い急斜面もあり、一帶は峯より谷へ一大スキー場をなしてゐる。積雪量も多い時は六〇糎もあり、スロープによつてブッシユの多い箇所もあるが、熟練者にとつては忘れ難い魅力を持つてゐる。この峯の頂上より市街に向つて各峯の斜面を斜滑降で下る一、三〇〇米位の大スロープが開けてゐる。このスロープは三月下旬まで解雪しないので滿洲に於ける最長期間のスキー場である。

〔南山スキー場〕

花甸子スキー場を降ると直ぐ南山スキー場に出る。第一、第二、第三と三本のスロープに分れて居り、斜度も大體二十度位長さも三〇〇米位、市街より約一、三〇〇米位で達する。

〔龍泉スキー場〕（自通化驛六・五粁）

通化市街の西入口にあり、龍泉ホテル及び龍泉區代用官舍の裏側にある。通化スキー場の王者とも稱すべきもので、大小二つのスロープからなつてゐる。大は頂上より北に走るもので一、三〇〇米以上、斜度三十五度位で熟練者は好適、小は一、二〇〇米―六〇米、斜度十四、五度で初心者に向く。

〔ツーアコース〕

鶯山スキー場通化富士八合目―銀鑛嶺スキー場―花甸子スキー場―南山スキー場―市街（所要二時間三十分位）このコースは多く關門があり、變化が多いので初心者向きではないが、熟練者には通化の全スキー場を踏破することが出來、その妙味を充分に味ふことが出來る。

溫　泉



滿洲の溫泉

滿洲の溫泉は大約三十餘箇所を算してゐるが交通不便であつたり、溫泉場の設備が整はない爲め、大部分のものはその地方の滿蒙人に利用せられてゐるのみで、日本人に知られ利用せられてゐるものは甚だ僅少である。所謂名溫泉として一般に膾炙されてゐるのは滿鐵沿線の湯崗子、熊岳城、五龍背、興城等であり、之等は滿洲では設備最も完備し利用者も甚だ多い。興安嶺下の阿爾山（ハロンアルシヤン）は特異な溫泉場として關心を向けられてゐる。興城、阿爾山の兩地には鐵道總局直營のホテルを設置してあり、また京圖線沿線の九臺溫泉は冷泉を加溫したもので、昭和十二年夏以來設備を整へつゝある。

安奉線本溪湖驛の東北方に當る狗兒湯（溫泉寺）溫泉は滿鐵に於て附近の山野が買收され溫泉鄕としての設備を施すの計畫を樹てられて居り、溪城線による交通の便が開けてゐるからやがて賑盛に向ふものと思はれる。滿鐵經營の宿泊所は收容人員四十名程度。

△溫泉名

名稱	位置
五龍背	安奉線五龍背驛附近
湯崗子	連京線湯崗子驛附近
熊岳城	連京線熊岳城驛の東南二粁半
興城	奉山線興城驛の東南四粁
阿爾山（興安溫泉）	白阿線阿爾山驛附近
安北湯	連京線松樹驛の東二〇粁
剪子湯	同上溫泉の東北八粁
龍門湯	連京線許家屯驛の東南東六粁
思括堡	連京線瓦家屯驛の東南七粁
倪家臺	連京線鞍山驛の東一五粁
湯河沿	連京線遼陽驛の東南二五粁
千山	連京線鞍山驛―廟臺間バス途中七嶺子村
狗兒湯	安奉線本溪湖の東北方、溪城線溫泉寺驛附近
湯池溝	安奉線草河口驛の東北二八粁
湯池子（鳳城縣）	安奉線鳳凰城驛の北東九粁半
廟嶺溝	安奉線鷄冠山驛の西南二五粁
東湯	安奉線湯山城驛の東北一〇粁半
湯池子（安東縣）	安奉線五龍背驛の東二〇粁
勾湯	安東省巖縣縣城の西北一六粁
白頭火山溫泉	白頭山中
（イ）硫黃泉	火山の頂上から西南八粁の中腹
（ロ）湯水長溫泉	火口湖天池から北方側の中腹
（ハ）白溫泉	火口湖天池から北へ四粁の中腹
（ニ）天池及三池淵	白頭山火口湖の一部分
三隊	大栗子線花山驛より五粁西方
大營	撫松南方四十粁
九台	京圖線下九台驛の東南一粁
烏雲和爾多吉火山藥泉	北黑線龍鎭驛の西一〇粁
湯山	興安西省林西と經棚との間、林西の西南二七粁
金英河上流熱水塘	熱河省赤峯の西一〇〇粁
綏中溫泉寺	興城縣永和屯村溫泉寺、綏中驛北方二五粁
牛圈子	承德驛南方一五粁
毛金壩山熱水塘	熱河省承德の北東五三粁
湯上（頭溝村）	熱河省承德の東北六五粁
默泌	熱河省平泉の北西四五粁
凌源熱水塘	熱河省凌源（建昌）北北東一五粁
建平熱水塘	熱河省建平の東北方二五粁
瓜地	熱河省豐寧縣城の北西五三粁
熱水溝	同上溫泉の南一粁
湯山	奉山線綏中縣驛の北西一四粁

右の外撫順市內譽ケ丘に人造溫泉として琥珀泉あり、グリーンセール（綠色頁岩）投入により神經痛婦人病、皮膚病、リウマチス等に效く。

【溫度】 滿洲の溫泉は一般に溫度が低く、攝氏六十五度以上のものは稀であつて普通六十度から四十度或はそれ以下の溫度のものが大多數を占めてゐる。

湯崗子	攝氏七十五度
熊岳城	攝氏五十度內外
五龍背	攝氏六十九度
興城	攝氏六十度內外
阿爾山	攝氏四十五度以下各種
溫泉寺	攝氏四十七度內外

【泉質】 滿洲の溫泉は何れもアルカリ性で酸性のものは殆ど無い。溫泉中の鑛物含有量は極めて少く一リツトル中に二グラム以下の固形物を混入するに過ぎない。

・湯崗子　無色透明のアルカリ性に多少のラヂウムを含有
・熊岳城　無色透明で微かに硫化水素の臭氣と弱アルカリ性の反應がある。
・五龍背　無色透明で微かな硫化水素の臭氣を帶び弱アルカリ性の反應があり、

手觸りは滑かである。
・興　城　無色透明で少量の浮游物があり反應は弱アルカリ性。
・阿爾山　無色透明であるが僅に褐色の沈渣を生ずることがある。微かに硫化水素の臭氣があり反應は弱アルカリ性。
・九　合　炭酸含有土類の炭酸鑛泉であつて硝酸鹽、クロール鹽、重炭酸亜鹽化マンガン、燐酸鹽、メタ硫酸等を含んでゐる。
・溫泉寺　無色透明アルカリ性。

【特　效】　滿洲の溫泉は概して日本內地の溫泉に比しその含有成分の濃厚なるもの少く、その溫度も一般に低いが、利用價値は日本の溫泉に比して決して劣つてはいない。主なる溫泉の適應症は
・湯崗子　胃腸病、リウマチス、濕疹、腺病、婦人病、脊髓病
・熊岳城　胃腸病・リウマチス、濕疹、神經衰弱、婦人病、腺病、痔疾によく、砂湯は痔疾に特效がある。
・五龍背　胃腸病、皮膚病、神經痛、リウマチス、婦人病。
・興　城　胃腸病、神經痛、リウマチス、神經衰弱、貧血症、婦人病、創傷、濕疹、痔疾、腺病、喘息。
・阿爾山　野天に在る四十有餘の湧出口には一泉毎に浴槽の傍に蒙古語、西藏語滿洲語で記した效能書の古い石柱や木柱を立てゝあるが西紀一九二四年の夏に露西亜語の效能書と攝氏の溫度とを追補され、また近年日本語で追記されてゐるところもある。それによれば頭の病を治す浴槽、目にきく溫泉、耳、鼻、口、腹、膀胱、脚氣等々と一つ一つ別々に效能書を注意して入浴することになつてゐる。
　要するに胃腸病、リウマチス、皮膚病、痔疾、婦人病等に特效がある。
・九　合　內用＝胃酸過多、各種貧血、消化不良、萎黃病、佝僂病。浴用＝胃腸病、管能性神經疾患、神經性心臟病、婦人病、男子生殖器諸病、皮膚病等。
・溫泉寺　（內服）肥胖症、常習便秘症、月經閉止、障害、痔、下腹部臟器充血、血管便化症。（浴用）慢性リウマチス、神經痛、管能性神經疾患、皮膚病、中風。

【宿　泊　料】

	室數	收容數	一泊室料
（湯崗子）			
對翠閣	三二	一五五	四・〇〇—六〇・〇〇
玉泉館	三二	一〇八	二・〇〇—五・〇〇
淸林館	九	二三	五・〇〇—六〇・〇〇
鴻泉別莊	二八	六五	一・五〇—五・〇〇
（五龍背）			
玉龍閣	一九	七八	七・〇〇—一三・〇〇
榮養館	九	四二	六・〇〇—七・〇〇
（九合）			
滿鳳館	一三	三〇	五・五〇—八・〇〇
翠岡莊	一五	三五	二・〇〇—四・〇〇
（阿爾山）			
阿爾山ホテル	九	一〇	四・〇〇—七・〇〇
（興城）			
興城溫泉ホテル	三〇	六六	八・〇〇
（溫泉寺）			
簡易宿泊所	一	四〇	一・五〇—二・〇〇
（食事）	朝〇・五〇	晝〇・六〇	夕〇・八〇

北鮮の溫泉

淸津の西方約四十八粁、朱乙川の溪流に沿ふて朱乙、かねたの溫泉鄕があり、甫老川畔には城町溫泉がある。何れも景勝優れ朱乙、かねたには旅館の設備も整つてゐるが城町溫泉には旅館其他の施設なく、甫上洞の露天溫泉も水害のため埋沒してゐる。

かねた溫泉　朱乙驛より三粁、バスの便がある。
朱乙溫泉　朱乙驛より一一粁、バスの便がある。淸津より　かねた、朱乙溫泉行バスも出てゐる。
城町溫泉　朱乙驛より約二〇粁。
富居溫泉　富居咸北自動車停留所より約二里、津・淸津間バス線の中間に位する。

【泉質並に溫度】　アルカリ性鹽類、ラヂウム含有溫度五十五度より四十度位。
【特　效】　胃腸病、神經衰弱、リウマチス、外傷、性病等。
各溫泉とも泉質は大體に同樣である。

支那の溫泉

【溫泉寺溫泉】　京山線秦皇島站の北方一六粁、長城線に近き山岳地帶の麓、自動車にて約五十分の距離にある。冀東地區唯一の溫泉場として知られ、支那事變前迄は避暑地の觀を呈し外人の之を利用する程であつたが、事變後入湯者の數は激減した。浴場は廟の東側にあり、長城線に連る峨々たる靑山綠樹の麓で、眼下に湯川の淸流を望む。溫度は攝氏三八度二、湧出量一日五十石と稱され、無色透明のアルカリ性にして飮浴兩樣に適す。
飮用－胃腸病、咽喉、氣管支カタル、血管硬化症、糖尿病、貧血症等
浴用－外傷諸障害、濕疹、關節炎、リウマチス、神經衰弱症、婦人病等

【湯山溫泉】　北京の北方約三十粁、明の十三陵に行く途中、小湯山の東麓に湧出してゐる溫泉、淸朝の離宮もあり、林泉としても支那式庭園の代表であり、立派な人工的溫泉である。西洋風な杵廊のある病棟がつゞいて居り、外國人の利用するものも少くない。溫度は東池が攝氏三十九度、西池が五十度。泉質は兩池稍異るが弱食鹽性にして出血性諸病、滲出性諸病、榮養障碍、慢性皮膚疾患、神經興奮症等によし。

【密雲の溫泉】　北京の遙か東北方に當る密雲方面の山中には數箇の溫泉があるが、交通不便のためあまり一般には知られてゐないやうである。

【孤石塔溫泉】　京山線北戴河驛の北方三十三粁餘、角山中の塔石塔に湧出する溫泉。
飮用すれば胃腸その他の疾病を能く癒し沐浴すれば纎疽患者に特によく、皮膚病その他の疾病にも效果がある。

【鵞毛口溫泉】　同蒲線懷仁驛西北六粁にある硫黃泉にして、攝氏十五度程度、皮膚病、婦人病、に特效ありと謂はれる。宿泊設備は目下建築中にして、昭和十六年末迄には完成の見込、大同よりバスの便あり。

【凉城溫泉】　京包線豐鎭站北方約八〇粁凉城縣第一區大海、香火地の間にあり、風光明媚の地、目下縣公署に於てボーリング計畫あり、最寄驛は豐鎭、卓資山兩站にして、豐鎭、凉城間にはバスの便あり、其他不明。

【湯上溫泉】（山東）　王哥庄から約二十粁に當る湯上村にある。靑島から靑島交通バス毎日一回往復運行す。（二時間半）、高溫度の溫泉にて、胃腸病、神經痛、リウマチスに效能ある。目下軍關係以外は許可なく立入りを禁ぜられてゐる。

【嶗山溫泉】　靑島市外約四粁餘にあり、風光美しき北九水に在り附近に外人のホテル在り、事變後は日本人の溫泉行は軍の許可を要す。

【天齊淵溫泉】　膠濟線淄河店驛の西北約十粁、淄河の右岸、牛山の麓に天齊淵の溫泉は湧出してゐる。

【湯水鎭溫泉】（南京）　南京の麒麟門から二十八粁餘、華中都市バスにて五十分、杭州に通ずる街道に沿ふ江寧縣湯水鎭近く溫泉がある。泉量はあまり多くはないが無色透明のアルカリ性溫泉にして多少の硫黃とラヂウムを含んで居り、溫度八五度、胃腸病、皮膚病に特效ありと云はれ南京附近唯一の溫泉として知られてゐる。
宿泊設備　湯山閣ホテルあり收容人員三十名內外　一泊六圓－十二圓程度

【從化溫泉】　廣東の西北方約八十粁に溫泉地「從化」がある。淸らかな溪流の河原のところ〴〵から熱湯が湧き出てゐる。景色が良く、最近開發せられて日本式の旅館も出來てゐる。

ハイキング



徒歩旅行十則

一 自然を愛せよ、一木一草といへども濫に傷附けないこと。
二 火の用心及び辨當がら、空罐、空瓶の始末をすること。
三 危險な場所へは好んで近寄らぬやう。
四 行く先を必ず家人に知らせて置くこと
五 食事以外の休憩は五分か十分がよい。
六 歩き出しはゆるやかに無暗に走つたりしないこと。
七 流れに足を浸してゐると後に脚が重くなる。
八 道に迷つたら高所に出て落着いて地圖をしらべること。
九 後日のための資料に記錄を取つておくこと。
十 喧燥に亘らず朗かに。

ハイキングの服裝と携帶品

〔服裝〕 帽子、上衣、ズボン等はいくら汚れてもかまはない着古したもので結構、ズボンはニッカースか半ズボンが輕くて歩きよい。ワイシャツは襟附のもので蓋附、釦止のポケットを左右に取附たものが便利 婦人は短かいスカートかニッカースがよい。手袋は軍手で結構。靴下は穴が開いてゐたりつぎの當つてゐないのならよい。

〔靴〕 靴は穿き慣した編上かズックの運動靴がよいハイヒールの婦人靴は良くない

〔携帶品〕 杖一本でもよいが水呑コップ、水筒、それに食糧の一、二食分位は携行すべきであらう。ナイフ、マッチ、磁石、地圖位のものは缺かされない。一寸した藥品の携行も是非心がくべきで時に雨衣の用意も必要である。リユックサックは防水のしてある小型のもので結構、要するになるべく輕裝がよい。

携帶品の値段

	圓
帽子(PKババリ)	二・五〇——三・五〇
リユックサック	二〇・〇〇——三〇・〇〇
靴	三〇・〇〇——五〇・〇〇
ピツケル	一五・〇〇——二〇・〇〇
水筒	三・五〇—— 六・〇〇
飯盒	四・〇〇—— 六・〇〇
コツプ	・三五—— ・六〇
コツヘル	一七・〇〇——二〇・〇〇

旅大地方

平塔山戰跡行 (一般向・日歸り)

〔營城子驛〕—三粁(歩行四十分)對面溝……四粁(歩行一時間半、歸路三十分)平塔山

攻城山・水師營 (一般向・日歸り)

〔龍頭驛〕—四粁(歩行一時間半)攻城山……六粁(歩行一時間半)水師營……二・五粁(歩行四十分)水師營簡易驛

◇旅順戰跡巡り (日歸り)

白玉山・棧橋・燈臺 (家族連行樂)

(一)〔旅順驛〕 一粁(歩行三十分)白玉山……一粁(歩行三十分)嚴島町棧橋……一粁(舟行三十分)老虎尾半島棧橋……一粁(歩行三十分)閉塞隊記念碑及燈台……一粁(歩行三十分)棧橋……一粁(舟行三十分)嚴島町棧橋……一粁(歩行三十分)—「旅順驛」若くは半粁「乃木町大連行バス停留所」

動物園・行樂園 (家族づれ行樂)

(二)〔旅順驛〕—三百米突(歩行五分)白玉山南麓第三回閉塞隊忠魂碑……二粁(歩行三十分)動物園、博物館及行樂園……二粁(歩行三十分)—「旅順驛」

白玉山・黃金臺 (家族連行樂)

(三)〔旅順驛〕—一粁(歩行三十分)白玉山……二粁(歩行四十分)戰利品記念館……三粁(歩行一時間)黃金台……四粁(歩行一時間三十分)「旅順驛」

二〇三高地・椅子山 (一般向)

(四)〔旅順驛〕六粁(歩行一時間半)二〇三高地……四粁(歩行一時間)椅子山堡壘……一、五粁(歩行二十五分)大案子山堡壘……二粁(歩行三十分)後樂園……一粁(歩行十五分)「旅順驛」

露軍墓地・松樹山 (一般向)

(五)〔旅順驛〕三粁(歩行四十分)露軍戰死者の墓地……三粁(歩行四十分)水師營南方高地……二粁(歩行三十分)松樹山堡壘……一粁(歩行二十分)松樹山補備砲台……三粁(歩行五十分)白玉山……一粁(歩行十五分)「旅順驛」

松樹山・東鷄冠山 (健脚向)

(六)〔旅順驛〕……一粁(歩行十五分)白玉山……四粁(歩行一時間)松樹山……一、五粁(歩行二十五分)二龍山堡壘……一、五粁(歩行二十五分)盤龍山東堡壘……一粁(歩行十五分)望臺……一粁(十五分)東鷄冠山北堡壘……四粁(歩行一時間)市内バス(料金一〇錢)驛

魚雷營・柏嵐子海岸 (健脚向)

(七)〔旅順驛〕……〇、五粁)老虎尾渡船場……三、五粁(歩行五十分)露國兵舍跡(魚雷營)……四粁(歩行一時間)柏嵐子海岸……十粁(歩行二時間半)……驛

柏嵐子・南山裡 (健脚向)

(八)〔旅順驛〕……(盛家屯露軍兵營跡)……八粁(歩行二時間、馬車の便あり)柏嵐子……四粁(歩行二時間登坂路)老、鐵山……四粁(歩行一時間)燈台……四粁(歩行一時間)南山裡……六粁(歩行一時間半)鴉嘴屯……六粁(歩行一時間半)……驛

劍山・凹子形山 (健脚向)

(九)〔旅大南道黃泥川〕……六粁(歩行二時間登路)劍山……四粁(歩行一時間)岔溝西屯……三粁(歩行一時間登路)凹子形山……八粁(歩行二時間)營城子驛

攻城山・水師營 (一般向・日歸り)

(十)〔龍頭驛〕……四粁(歩行一時間半)攻城山……二粁(歩行三十分)長春庵廟……四粁(歩行一時間半)火石嶺子海軍陸戰重砲陣地……二粁(歩行三十分)龍眼北方堡壘……二粁(歩行三十分)水師營……二粁(歩行三十分)水師營簡易驛

◇大連郊外

・**龍ケ丘コース** (家族向) 大正廣場……淨源地……二粁(二十分)龍ヶ丘貯水場……三粁(三十分)—星ヶ浦……歸着

・**王家屯水源地コース** 磊山屯……二粁(二十分)高橋農園……四粁(四十分)王家屯水源地……七粁(一時間半)大西山水源地……五粁(一時間)……大正通

・**星ケ浦コース** 大連運動場……四粁(四十分)臨海浴場……一粁(十分)星ヶ浦……一粁(十分)黑石礁……黑石礁電車路終點

・**棒棰島—老虎灘—石槽屯コース** 大連神社—南山—呂家屯—譚家屯—老虎灘(歩行十二粁)

・**綠山—傅家庄コース** 忠靈塔—綠山—石道街—傅家庄(歩行六粁、傅家庄—桃源臺間バス一〇錢)

・**綠山—大嶺山コース** 綠山—大嶺山—文化臺(歩行三粁)

・**小平島コース** 常盤橋—(バス)—小平島—半島散策(歩行四粁、常盤橋、小平島間バス三〇錢)

・**凌水寺コース** 黑石礁—欒家屯—李家屯

—凌水寺、往復（歩行一〇粁）

・**龍ケ岡淨水池コース** 大正廣場—龍ケ岡淨水池—星ケ浦（歩行四粁）大正廣場—龍ケ岡（バス一〇錢）

・**大西山—王家店水源地コース** 大正廣場—西山屯—大西山水源地—韓家屯水源地往復（歩行一六粁、常盤橋—磊山屯バス四〇錢）

・**老龍頭コース** 常盤橋—（バス）—甘井子—海貓屯—老龍頭往復（歩行一〇粁、常盤橋—甘井子、バス三〇錢）

・**柳樹屯コース** 露西亞町波止場—（小蒸汽）—柳樹屯—大房身（歩行五粁、小蒸汽片道三五錢、大房身大連間汽車賃三等片道五一錢）

・**營城子—牧城子コース** 大連驛—（列車）—營城子—永興寺—牧城墳水源地—大東溝—（バス）—常盤橋（歩行一〇粁、大連—營城子汽車賃三等片道五八錢、大東溝—常盤橋バス六五錢）

・**凌水寺・歪頭山登攀コース** 黑石礁—凌水橋—欒家屯—凌水寺—歪頭山往復（歩行一四粁）

・**龍王塘・劍山登攀コース** 龍王塘—大王家屯—横山寺—劍山—胡家屯—黃泥川—（歩行一二粁、大連—龍王墳及黃泥川—大連間共バス七〇錢）

泉水屯、舊砲臺（一般向・日歸り）

〔南關嶺驛〕—三・五粁（歩行三十五分）泉水屯……四粁（歩行四十分）大鹽島……一・五粁（歩行二十分）老龍頭砲臺（李鴻章砲臺）……二・五粁（歩行三十分）模擬砲臺……二粁（歩行二十分）甘井子……船（二十錢）又はバス（三十錢）大連

三崎山（家族向・日歸り）

〔金州驛〕—二・五粁（歩行三十分）金州城内……〇・五粁（歩行十分）天齊廟……一・二粁（歩行十五分）三崎山……二粁（歩行二十五分）龍王廟……三・五粁（歩行五十分）城内……二・五粁—金州驛

三崎山・南山（一般向・日歸り）

〔金州驛〕三崎山コースの龍王廟より城西を通つて南山に至る、南山・金州新市街間約二粁

大和尚山（健脚向・日歸り）

〔金州驛〕—二・五粁（歩行三十分）八里庄……〇・一粁、乃木中尉碑……五・五粁（歩行一時間）石鼓寺……一粁（歩行四十分）山頂……五・七粁（歩行一時間）觀音閣……四・五粁（歩行五十分）響水寺……一粁（歩行二十分）朝陽寺……三・七粁（歩行五十分）八里庄……二・五粁、金州驛

平山（一般向・日歸り）

〔金州驛〕—二・五粁（歩行三十分）金州城内……一、七粁（歩行二十五分）三崎山……四・五粁（歩行一時間十分）平山山麓……〇・五粁（歩行三十分）山頂……三・五粁（歩行五十分）龍王廟……三・五粁（歩行五十分）城内……金州驛

化石採取行（家族向・日歸り）

〔三十里堡〕—一・二粁（歩行二十分）東山後屯……〇・八粁（歩行十分）化石採取地

小黑山（健脚向・日歸り）

（一）〔石河驛〕—一・五粁（歩行二十五分）臺子山……〇・一粁（歩行十五分）臺子山屯〇・五粁（歩行十分）椿樹屯……一・五粁（歩行二十分）西滆家溝……〇・五粁（歩行二十分）東滆家溝……二粁（歩行一時間）小黑山

（二）〔普蘭店驛〕—一三粁（バス二十五分三十錢）土城子……二粁（歩行三十分）十門子……三粁（歩行一時間）小黑山……以下（一）の逆コース

大石橋地方

抱龍院（一般・向日歸り）

〔瓦房店驛〕—舊市街……三粁（歩行三十分）老皮堡……一粁（歩行十分）拘龍院……二・五粁（歩行三十分）老粉屯……、一・八粁（歩行十五分）城内

老虎山（家族向・日歸り）

〔王家驛〕—一・五粁（歩行二十分）温家屯……一・五粁（歩行二十分）消家店……一・七粁（歩行二十分）甘泉寺……一粁（歩行二十五分）老虎山……歸路逆コース

龍潭山（一般向・日歸り）

〔得利寺驛〕—三粁（歩行五十分）龍潭山四・二粁（歩行一時間）得利寺……三粁（歩行五十分）梁家塋……一・八粁（歩行二十五分）驛

石棚子溝（一般向・日歸り）

〔萬家嶺驛〕—關子信號所……三粁（歩行五十分）侯家屯……二・五粁（歩行三十五分）石棚子溝

龍門湯（一般向・日歸り又は夜行利用）

〔許家屯驛〕—一粁（歩行十分）陳家屯……三・五粁（歩行四十五分）北山根底……三・二粁（歩行三十五分）龍門湯

梨山（家族向・日歸り）

〔熊岳城驛〕—梨山簡易驛（汽車賃十錢）……一粁（歩行十五分）梨山驛一・八粁（歩行二十分）西達子營……二・二粁（歩行三十分）古家屯……二粁（歩行三十分）正白旗…〇・三粁（歩行五分）熊岳城温泉

望小山（家族向・日歸り）

〔熊岳城驛〕—二・二粁（歩行四十分）望小山……二・三粁（歩行三十五分）正白旗…〇・三粁（歩行五分）温泉

青龍山（健脚向・日歸り）

〔熊岳城驛〕—温泉…〇・三粁（歩行五分）正白旗……三粁（歩行四十五分）消家屯……二粁（歩行三十分）太平溝……三粁（歩行一時間）望海寺

黃旗堡温泉（夜行利用日歸り）

〔鷹家屯驛〕—〇・七粁（歩行十分）四臺子……一粁（歩行十五分）官家屯……四粁（歩行四十五分）黃旗堡温泉

石棚山（一般向・日歸り又は夜行利用）

（九寨驛）—一・五粁（歩行二十分）小石棚……二粁（歩行二十五分）大石棚……二・五粁（歩行三十分）石棚山

鹿山（健脚組・夜行利用日歸り）

〔蓋平驛〕—三・五粁（歩行四十分バス十錢）蓋平城……六粁（歩行一時間半）鹿山山嘴子……二・五粁（歩行四十五分）鐵塔……四粁（歩行一時間）城内

營口郊外

・**一般向** 〔營口驛〕—滿洲マグネシウム工場—加藤農場—水產學校—「營口驛」以上歩行約二時間

・**健脚向** 〔營口驛〕—滿洲マグネシウム工場—康德パルプ—加藤農場—滿鐵石炭棧橋—水產學校—「營口驛」以上歩行約五時間

奉天地方

橋山戰跡（一般向・日歸り）

〔首山驛〕—二・五粁（歩行四〇分）首山堡……〇・五粁（歩行十分）清風寺……二粁（歩行三十分）橋山……一・八粁（歩行二十分）向陽寺……〇・五粁（歩行十五分）北大山……六粁（歩行一時間半）首山驛

土城趾（一般向・日歸り）

〔鞍山驛〕—五粁（歩行一時間二十分）千山

神社……一・五粁（歩行二十分）鞍山河……○・五粁（歩行五分）土城趾……五粁（歩行一時間二十分）湯崗子溫泉……湯崗子驛

千　山（一般向）其の一

〔鞍山驛〕―廟台經由……二六粁（バス一時間二十分）無量觀下院……三粁（歩行五十分）無量觀……一粁（歩行十分）祖越寺……二粁（歩行四十分）龍泉寺……三粁（歩行四十分）洞天一品……三粁（歩行四十分）―乙女峠…三・五粁（歩行四十分）上石橋子……二五粁（バス一時間十分）〔湯崗子溫泉〕

千　山（一般向）其の二

〔鞍山驛〕―廟台經由……二六粁（バス一時間二十分）無量觀下院……三粁（歩行五十分）無量觀……一粁（歩行十分）祖越寺……二粁（歩行四十分）―龍泉寺……三粁（歩行四十分）洞天一品……三粁（歩行四十分）乙女峠……三・五粁（歩行四十分）上石橋子……一八・六粁（バス一時間十分）―鞍山驛

裏千山廻り（健脚向）

〔鞍山驛〕…三〇粁（廟台經由バス一時間三十分）…大安寺入口……三粁（歩行四十分）大安寺……○・五粁（歩行十分）羅漢洞……二粁（歩行三十分）仙人台……三粁（歩行四十分）鳳朝寺……二粁（歩行二十分）中會寺……二粁（歩行二十分）下香塔……三粁（歩行四十分）香巖寺入口…二粁（歩行二十分）香巖寺……二粁（歩行二十分）同登山口……二五粁（堂家房經由バス一時間十分）……湯崗子溫泉

龍　首　山（家族向・日歸り）

〔鐵嶺驛〕―一・七粁（歩行三十分）撫順街道……○・七粁（歩行十五分）龍尾山……○・七粁（歩行十五分）鎌倉山……○・七粁（歩行十五分）龍首山……一粁（歩行二十五分）圓通寺……一粁（歩行二十五分）…鐵嶺驛

彼薩寺山（一般向・日歸り）

〔歪頭山驛〕―○・三粁（歩行六分）記念碑……一粁（歩行二十五分）彼薩寺跡……二粁（歩行五十分）山頂……三・六粁（歩行五十分）―驛

駱駝山・太子河（一般向・日歸り）

〔本溪湖驛〕―一粁（歩行十五分）神社山……三粁（歩行一時間）見晴台―（駱駝山）……二・五粁（歩行三十分）催家浦……四粁（舟行一時間）玉泉亭……一・五粁（歩行二十分）―本溪湖驛

本田山ワラビ狩（一般向・日歸り）

〔本溪湖驛〕……一粁（歩行十五分）神社山……本田山……神社山麓……本溪湖驛

以上歩行約二時間半

平　頂　山（一般向・日歸り）

〔宮ノ原驛〕―四粁（歩行一時間半）斗姥閣……二粁（歩行五十分）鶴眼池……○・三粁（歩行五分）李武寺……一粁（歩行十五分）山頂……四粁（歩行五十分）……宮ノ原驛

太子河下り（一般向・日歸り）

〔牛心台驛〕……一粁（歩行二十分）太子河岸（船二十分）……三日浦（船四十分）……中ノ嶋（船四十分）……崔家浦（船四十分）……太子河岸（玉泉亭）……一・三粁（歩行二十五分）……本溪湖驛

（船賃）牛心台―玉泉亭

三五人乘	二五人乘	一二人乘
二八圓	二三圓	一二圓

渠　槃　嶽（健脚向）

〔溫泉寺驛〕―○・五粁、溫泉……三・五粁善同塔……渠槃嶽……善同塔……溫泉……溫泉寺驛

鐵刹山（健脚向）

鐵刹山は南甸驛の南方にあり驛より二時間にて登攀出來る山上には道廟があり大洞窟が幾つか存在し又岩壁に刻まれた大文字など見るべきもの多し

松山・細河（家族向・日歸り）

〔橋頭驛〕―○・四粁（歩行七分）神社……一・五粁（歩行二十分）見晴台……○・六粁（歩行十分）朝陽寺……一粁（歩行十五分）河水浴場……○・六粁（歩行十五分）―橋頭驛

後山・細河（一般向・日歸り）

〔南攻驛〕―○・五粁（歩行五分）細河……○・七粁（歩行六分）鐵橋……四粁（歩行一時間二十分）後山……二粁（歩行四十分）―南攻驛

老黃山・細河（一般向・日歸り）

〔下馬塘驛〕―○・八粁（歩行十分）細河……五粁（歩行二時間）山頂……三粁（歩行一時間）三閣廟……二粁ロツキーコース（歩行四十分）細河……○・八粁（歩行十分）―下馬塘驛

東　陵（家族向・日歸り）

〔東陵驛〕―約三粁（一時間）東陵……約二粁（歩行五十分）ゴルフ場……一粁（歩行十五分）―東陵驛

薩爾滸・碑亭（一般向）

〔營盤驛〕―一・五粁（運河渡し無賃）下沙滸……三・五粁（歩行一時間）牛拉台乾隆碑亭……二・五粁（歩行五十分）東薩爾滸城（部落）……一・五粁（約三十分）薩爾滸城趾……一・五粁（歩行三十分）運河河畔……（運河渡し）……一・五粁（歩行二十五分）―營盤驛

元　帥　林（家族向）

〔元帥林驛〕―三粁（歩行一時間）元帥林……三粁（歩行一時間）―元帥林驛

奉　天　郊　外

運河鐵橋コース（一般向）

南十條……運河鐵橋……柳林……長沼……南八條……（五粁約二時間）

小河沿コース（一般向）

南十條……砂山……長沼……南塔……小河沿……バス乘場……（八粁約二時間）

北陵コース（家族向）

小西邊門……北陵……飛行場……小西邊門……（五粁約一時間二十分）

撫　順　新　屯

〔撫順驛〕―撫順神社……（十二分）永安台停留所（十五分）萬達屋停留所……（十一分）牧場前（十分）行樂峠……（二十分）新屯公園……（十分）停留所……（二十分）永安台……（二十分）―撫順驛

徒　歩　約八粁　・所要時間　約一時間三十分

乘物料金　自永安台至萬達屋　電車・二〇
自新屯至永安台　同・二〇

＝安東地方＝

安東近郊

一、盤　道　嶺（健脚向・日歸り）

〔安東驛〕――三粁（歩行五十分）清水鑛山（元寶山）……三粁（歩行五十分）盤頭嶺……七粁（歩行二時間）ゴルフ場……二粁（歩行三十分）―安東驛

二、ゴルフ場（婦女子向・日歸り）

〔安東驛〕―三粁（歩行五十分）競馬場……一粁（歩行二十分）清水鑛山……一粁（歩行二十分）苗圃……一粁（歩行二十分）ゴルフ場……二粁（歩行三十分）―安東驛

三、銅　鑛　山（健脚向・日歸り）

〔安東驛〕―四粁（歩行一時間）輕金屬會社……一粁（歩行二十分）新ゴルフ場…一・五粁（歩行三十分）銅鑛山…五・五粁（歩

行二時間）—安東驛

四、九連城戰跡巡り（健脚向・日歸り）

〔安東驛〕—一二粁（バス三十分）九連城……三粁（歩行及一部船一時間三十分）統軍亭……三粁（歩行一時間）九連城戰跡記念碑……〇・五粁（歩行十分）露西亞墓地……〇・五粁（歩行十分）九連城……十二粁（バス三十分）—安東驛

五、九連城・哈蟆塘戰跡巡り（日歸り）

〔安東驛〕—一二粁（バス三十分）……九連城……〇・五粁（歩行十分）露西亞墓地……〇・五粁（歩行十分）……九連城戰跡記念碑……一粁（歩行二十分）九連城……一〇粁（歩行三時間）哈蟆塘驛……九・六粁（汽車一五分）—安東驛

五龍山（健脚向・日歸り）

〔老古溝驛〕—三・一粁、露峯溪……〇・五粁、洗耳臺……〇・二粁、雙龍瀧……〇・二五粁、聚仙峽……〇・四粁、不動坂……〇・二粁、佛爺廟……〇・五粁權現坂……〇・三粁、龍泉洞……〇・一粁、見晴峠七・二粁、五龍背驛（所要六時間）

佛爺山（健脚向・日歸り）

〔湯山城驛〕—〇・五粁（歩行十分）磨三城趾……二粁（歩行三十分）將軍峠……三粁（歩行一時間）佛爺山……七粁（歩行三時間）—湯山城驛

湯山城・靉河（健脚向・日歸り）

〔湯山城驛〕—二・五粁（歩行四十分）將軍塚……六粁（一時間三十分）靉河……八粁（歩行二時間）—湯山城驛

高麗山（健脚向・日歸り）

〔高麗門驛〕—二粁（歩行三十分）城趾南門……二・五粁（歩行三十分）城址北門……三粁（歩行一時間）摩雲嶺……二粁（歩行一時四十分）金麗水……三・二粁（歩行一時間）南門……二粁（歩行二十分）—高麗門驛

高麗城址・鳳凰山（健臘向・日歸り）

〔高麗門驛〕—二粁（歩行二十分）城址南門……二・五粁（歩行三十分）城址北門……三粁（歩行二時間）鳳凰山…三官廟……六粁（歩行二時間）—鳳凰城驛

鳳凰山

〔鳳凰城驛〕—六粁（歩行二時間）鳳凰山……三官廟……六粁—鳳凰城驛

新京地方

金錢堡釣魚（一般向・日歸り）

〔新京驛〕—寛城子……一粁（歩行十五分）無電臺……四粁 歩行一時間）伊通河橋……二粁（歩行三十分）金錢湖……〇・三粁（歩行五分）金錢堡

淨月潭（家族向・日歸り）

〔新京驛〕—淨月潭終點……〇・五粁（歩行十分）腰站……〇・五粁（歩行十分）淨月潭

石碑嶺・淨月潭（健脚向・日歸り）

〔新京驛〕—皇帝御展望記念碑……二粁（歩行四十分）祠廟……三粁（歩行四十五分）兩牛屯……一粁（歩行二十分）大觀山……四粁（歩行一時間半）淨月潭終點……驛

九臺温泉（家族向・日歸り）

〔下九臺驛〕—約一粁（馬の便あり）小南山……九臺

土們嶺（家族向・日歸り）

〔土們嶺驛〕—西山……大馬虎頭……驛

半拉山門（健脚向）

〔四平街驛〕—（汽車十四分）平東驛……六粁……（歩行二時間）……半拉山門

海豐屯梨園（健脚向）

〔四平街驛〕—〇・五粁（歩行十分）南丘公園……海豐屯梨園……四平街驛（以上七粁歩行三時間）

觀光地（ハイキング）

公主嶺（家族向・日歸り）

〔公主嶺驛〕—四百米（歩行七分）……農事試驗場……一・五粁（歩行二十分）……畜産場……二粁（歩行三十分）……公主嶺驛

吉林地方

江南・園子山麓（一般向・日歸り）

〔吉林驛〕—三粁（バス十五錢）城内省公署……〇・四粁（歩行五分）渡船場……對岸江南公園……一・六粁（歩行十八分）東萊門對岸渡船場……一・六粁（歩行十八分）江南公園……六粁（歩行一時間）聖母ケ丘……一・七粁（歩行三十分）鐵橋……二・三粁（歩行三十分）—吉林驛

歡喜嶺（健脚向・日歸り）

〔吉林驛〕—五・三粁（バス十五錢）臨江門……一・五粁（歩行十八分寨吉線路進行）……三・三粁（歩行三十三分）歡喜嶺……〇・七粁（歩行十分）松の森……二・七粁（歩行三十五分）佛塔……一・七粁（歩行二十五分）北山麓……五・三粁（バス）驛

龍潭山（一般向・日歸り）

〔龍潭山驛〕—二粁（歩行三十分）龍鳳寺……一・五粁（歩行二十分）—龍潭山驛

小白山（一般向・日歸り）

〔吉林驛〕—五・三粁（バス十五錢）臨江門……二・二粁（歩行二十五分）自來水……二・九粁（歩行四十五分）小白山……二・九粁東華門……二・七粁（馬車三十錢）—吉林驛

豐滿ハイク

〔吉林驛〕—（バス二四粁）豐滿……二・五粁（歩行三十分）千山中腹……二・五粁（歩行二十分）豐滿（バス八十錢）—吉林驛

通化地方

銀廠嶺・通化神社

〔通化ビューロー〕……〇・五粁……渾江渡河……〇・五粁……省立南江沿苗圃……二粁……銀廠嶺……二粁……通化神社……二粁……通化橋……一粁……通化ビューロー（所要四時間半）

大項子山・觀象台

〔通化ビューロー〕—一粁……玉皇山……〇・五粁……龍泉洞……一粁……大頂子山……一粁……葡萄園……二粁……觀象台……〇・五粁……通化ビューロー（所要三時間半）

哈爾濱地方

呼蘭（家族向・日歸り）

〔呼蘭驛〕—二・五粁（歩行五十分）城内……〇・六粁（歩行十分）天主堂……二料（歩行二十分）關帝廟・娘々廟・西崗公園……一粁（歩行十二分）呼蘭河・イスラム教會……二粁（歩行三十五分）石公祠・孔子廟……三粁（歩行四十分）苗圃……一・五粁（二十分）—呼蘭驛

阿城（家族向・日歸り）

〔阿城驛〕—一粁（歩行十分）倶樂部・芝生阿什河畔……〇・七粁（歩行十分）製糖會社……二・五粁（歩行三十分）城内……一・五粁（歩行二十分）娘々廟……三粁（歩行四十分）……阿城驛……五粁（歩行一時間）白城址……八粁（歩行一時間四十分）—阿城驛（但健脚向）

玉泉（家族向）

コースを定めず、玉泉驛を中心に四粁許りの範圍を自由に歩く

王崗（一般向・日歸り）

〔王崗驛〕—〇・三粁（歩行五分）農事試驗場……四粁（歩行一時間）緬羊改良場……

二粁（歩行三十分）農事試驗場分場……一・七粁（歩行二十五分）小三姓……二粁（歩行二十五分）王家店……二粁（歩行三十分）農民道場……一粁（歩行十五分）—王崗驛

顧　鄕　屯（一般向・日歸り）

〔顧鄕屯〕—二粁（歩行二十五分）護路軍碑……一・五粁（歩行二十分）若松聯隊記念碑……三粁（歩行四十分）市立苗圃……三粁（歩行四十分）王兆屯（忠靈塔・志士之碑、二烈士之碑）…二・五粁（歩行三十分）通道街（バス又ハ電車）……市內

極　樂　村（清風鄕）

〔哈爾濱驛〕—（電車三十分）中央大街江岸（ボート三十分）ミニアチュール……一・五粁（歩行三十分）極樂村……一・五粁（歩行三十分）ミニアチュール……（ボート三十分）キタイスカヤ江岸（電車三十分）……哈爾濱驛

・電車賃〇・一四・ボート〇・三〇

老　山　頭（江上ハイキング）

〔哈爾濱驛〕—（電車四十分）傅家甸埠頭……（汽船三時間半）老山頭江岸（歩行三十分）頂上（歩行二十五分）老山頭江岸（汽船四時間）傅家甸埠頭（電車四十分）—哈爾濱驛

・註　老山頭行臨時船は春秋期毎日曜日に運行さる・電車〇・一四・汽船　大人一・八〇　小人〇・九〇

牡丹江地方

鏡　泊　湖

〔東京城驛〕—四粁（バス二十分）東京城宮殿地……四粁……阿堡水鄕……一〇粁……第九次和歌山開拓團……一二粁……四季通……二・五粁……鏡泊ライン……五粁……吊水樓（バス一・七五）—東京城驛

横　道　河　子

〔横道河子驛〕……ロシヤ墓地……スキー場…近藤林業……鈴蘭台……横道河子驛

ロマーフカ村

〔道林驛〕……四粁（歩行一時間半）ロマノフカ村……四粁—道林驛

佳木斯地方

凉　台

〔佳木斯驛〕—（汽車）……凉台……湯旺河……凉台（汽車）—佳木斯驛

追　分

〔佳木斯驛〕……（汽車）……追分……追分峠……追分驛—（汽車）—佳木斯驛

齊齊哈爾地方

富拉爾基（家族向・日歸り）

〔齊齊哈爾驛〕—（汽車約一時間半）富拉爾基驛—徒步……避暑場……舟遊……水泳場……農業修練所……種畜場

土　爾　池　哈（一般向・日歸り）

〔土爾池哈驛〕—五粁（歩行一時間）……白土山

扎　蘭　屯（家族向・日歸り）

遊覽コース

（ア）驛—天拜山……スキー場……釣橋……溫泉浴場……遊歩地……ボート乘場……溫室……避暑食堂……驛

（イ）驛—釣橋……溫泉浴場……遊歩地……ボート乘場……避暑食堂……驛

（ウ）驛—觀蘭山……天拜山……スキー場……避暑食堂……溫室……驛

臥　牛　河（一般向・一泊）

扎蘭屯北方約六粁の地點で二日休み等には扎蘭屯より一寸足を伸ばして行けるハイキングの好適地である。

巴　林（一般向・一泊）

〔巴林驛〕—徒步……避暑ホテル……河水浴場

雅魯河下り（男性向）

〔巴林驛〕—雅魯河畔……河舟……哈拉蘇間

江　橋

平齊線江橋は齊齊哈爾から汽車で二時間當地は蒙古地帶缔に見る景勝の地で杏花並にスッポンと瑪瑙で有名である。

葛　根　廟（白阿線）

〔葛根廟驛〕—三粁（歩行五十分）—寺廟

二　郎　廟（平齊線）

〔開通驛〕—馬車　五十分（往復一圓…寺廟

黑河地方

（一）黑河—**ウドホール**（徒步往復約十粁）對岸蘇聯を展望しつゝ江岸に沿ひ步行す釣魚、摘花に好適鄕

（二）黑河—璦琿（江運汽船往復六時間半　徒步約二時間）

璦琿條約締結の地を訪れ往時を偲ぶ。釣魚、摘花にも好適鄕

錦州地方

閭　山　大　閣（健脚向・日歸り）

（溝帮子驛）—三〇粁（遼西交通バス）北鎭縣公署……八粁（馬車の便あり）大閣……山中コース約六粁……三粁、北鎭廟……五粁、北鎭縣公署……驛

閭山・雙泉寺・萬紫山（健脚向・日歸り）

〔溝帮子驛〕……三〇粁（遼西交通バス）北鎭縣城內……二粁（バス五分）萬紫山……七粁（歩行三十分）二道溝…一粁（歩行十五分……雙泉寺……三七粁（バス一時間三十分）……驛

二　郎　洞　山（一般向・日歸り）

〔錦縣驛〕……八粁（歩行二時間）二郎洞山……驛

觀　音　洞（一般向・日歸り）

〔錦縣驛〕—一〇粁（歩行二時間半）觀音洞……驛

女　兒　河（家族向・日歸り）

〔女兒河驛〕—〇・五粁（歩行十分）苗圃……一粁（歩行二十分）自警村……一粁（歩行二十分）汲家果樹園……二粁（歩行三十分）種畜場……〇・五粁（歩行五分）…驛

陸軍病院慰問（一般向・日歸り）

〔興城驛〕—一・五粁（歩行二十五分）祖氏石坊……二粁（歩行三十分）國立園藝試驗場……〇・五粁（歩行五分）溫泉……〇・五粁（歩行五分）陸軍病院…四・五粁（歩行一時間十分）驛

馬車賃（驛より）祖氏石坊十五錢、園藝試驗場四十錢、溫泉四十錢、海岸八十錢

十　三　山

〔石山驛〕—八粁（歩行二時間三十分）山頂の古刹（明代の建築）…張作霖の墓……驛

臥　佛　寺

〔錦縣驛〕……二三粁（バス一時間片道一・二〇錢）臥佛寺……驛

西　海　口

〔錦縣驛〕……三八粁（バス一時間三十分片道一・五五錢）西海口……驛

壺蘆島岬巡り

〔壺蘆島埠頭驛〕……壺蘆島ホテル……若草山…千草山……秋草山……燈台……獅子岩……驛

壺蘆島南海岸

〔壺蘆島埠頭驛〕……馬鞍山……鍋頂山……望海寺海岸……驛　・全行程三粁（歩行一時間三十分）

義縣萬佛洞

〔義縣驛〕……三粁（徒歩四十分）城内大佛寺……十粁（馬車）萬佛洞……驛

＝北　鮮＝

承良・龍堂山（一般向・日歸り）

〔羅津驛〕……（汽車一時間）承良驛……龍堂山……承良驛（以上徒歩五粁二時間）

雄　尙（一般向）

〔羅津驛〕……（徒歩約五十分）雄尙海岸……羅津驛

富　居（一般向）

〔羅津驛〕……（バス一時間半）富居停留所……二粁……富居溫泉……羅津驛
（バス　羅津より片道二圓二十八錢）

明　湖　洞（一般向）

〔羅津驛〕……七粁（徒歩二時間）……明湖洞……驛
（バス羅津より三十一錢）

＝北　支＝

角　山　寺（一般向・日歸り）

〔山海關站〕—一・五粁（ロバ二十分歩行三十分）天下第一關……一・二粁（歩行二五分）北門……四・五粁（歩行五十分）角山寺……七・五粁（歩行一時間五十分）…驛

石河・南海

〔山海關站〕—〇・七粁（歩行十五分）山海關神社……一・七粁（歩行三十分）石河…二粁（歩行四十分）南河（石河河口）…二粁（歩行五十分）南海第一砲下老龍頭……〇・八粁（歩行二十分）南海由北ヶ濱海水浴場（濱洲國側）……四粁（歩行五十分）東水門……〇・九粁（歩行三十分）……驛

玉泉山・香山（一般向）

〔北京站〕—五粁（電車又はバス三十分）西直門……一二粁（バス四十分）萬壽山……四粁（バス二十分）玉泉山……六粁（バス三十分）香山……北京站
（料金）電車、バス一・〇〇（片道）
　　　　バス一・〇〇（同　）

一文字山（一般向）

〔北京站〕—四粁（歩行一時間）廣安門……一〇粁（歩行二時間半）一文字山…北京站

沙　河　鎭（一般向）

〔北京站〕—三七粁（汽車一時間二十分）沙河鎭站……二粁（歩行二十分）沙河……沙河鎭站……北京站
（汽車賃　北京より一圓五十錢（往復）

通　州（一般向）

〔北京站〕—二三粁（汽車四十九分）通州站……半粁（歩行十分）南門……四分の一粁（歩行三分）慰靈塔……三分の二粁（歩行七分）特務機關跡…半粁（歩行十分）外務省警官殉職碑……三粁（歩行二十分）打鎗場……半粁（歩行十分）細木大佐遭難の跡……四分の一粁（歩行三分）冀東政府跡……三分の一粁（歩行五分）近水樓……二粁（歩行二十分）通州站……北京站
（汽車賃）北京より九十錢（往復）

坨　里（健脚向）

〔北京站〕—五六粁（汽車四時間）坨里站……三粁（歩行五十分）萬佛堂……一粁（歩行十五分）鐘乳洞……二粁（歩行三十分）莊王の陵……五粁（歩行一時間）坨里站……北京站
（汽車賃）北京より二圓二十錢（往復）

觀光地(ハイキング)

青　龍　橋（一般向）

〔北京站〕—七四粁（汽車三時間）青龍橋站……二粁（歩行一時間）八達嶺……四粁强（歩行三十分）青龍站橋……北京站
（汽車賃）北京より三圓（往復）

雙鳳山・興國寺

〔唐山站〕……開欒……雙鳳山……興國寺（姜將軍墓附近に在り）啓新セメント……唐山站（以上所要時間約三時間半、人力車約二圓）

エルジアンアベニュー・李家花園（一般向）

天津日本租界—エルジアンアベニュー……李家花園（徒歩約二時間）

八　里　臺（一般向）

天津日本租界—八里臺（徒歩約四十分）

八里臺水郷（一般向）

〔天津日本租界〕……エルジアンアベニュー……馬廠道……（舟）……八里臺……日本租界（半日）
・船賃一時間約三圓

四方公園（一般向）

青島市街から東北一里、四方工場地帶に在る公園にて運池築山等あり（徒歩凡五十分）

浮　山（健脚向）

青島東沂郷の峻峰で一、二六〇呎、徒歩約三里二時間五十分、一日のハイキングに好く高嶺に立てば展望よく山麓に多くの名勝あり。

九　水（健脚向）

青島から東北約三里半、李村河畔にある部落で、是から實に三里嶗山々麓の溪谷一水より九水までの名勝あり。

旭　山（一般向）

このコースは青島市公署林務局にてハイキングコースを指定なし全コース九十八あり、完成せる五十米興亜路に沿ひ毎日一コースづゝ歩いて三ヶ月かゝる。
東亜旅行社奉天路出張所より徒歩一時間

大平公園・湛山等（一般向）

青島第一公園より約四粁にある海岸のコースで海岸線變化に富む道路を行く。

獲　鹿（健脚向）

〔石門站〕……（汽車）獲鹿站……城内……太平河……牛坡山……抱犢山……白鹿泉……土門鎭……獲鹿站……（汽車）石門站（歩行約三十粁）

千　佛　山（一般向）

〔濟南站〕……山麓（歩行四・七粁一時間）……千佛寺（登山一粁三十分）……歸路同コース

小　淸　河（一般向）

〔濟南站〕—黃台橋、小淸河）（城内通過歩行六・七粁二時間半）……中央農事試驗場濟南交場（歩行一粁二十分）……歸路同コース

北　公　園（一般向）

〔濟南站〕……皇天廟（歩行三粁一時間二十分）—黃河鐵橋（歩行二、三粁四十分）北公園（歩行二・七粁五十分）……濟南站
（歩行三・四粁一時間半）

張　夏（健脚及一般向）

〔濟南站〕……（汽車四十八分）張夏站……登山……張夏站（下山する迄　所要時間三時間）—河原にてシジミ貝採り（歩行三百米二十分）……張夏驛……（汽車四十八分）……濟南站

泰　山（健脚及一般向）

〔濟南站〕……（汽車二時間五十分）泰安站（一泊）……（泰山頂上登山所要時間六

時間）……泰安站（下山所要時間三時間）
……濟南站（汽車二時間五十分）

蘭村（一般向・日歸り）

〔太原站〕……三〇粁（バス一時間）……蘭村（近傍散策）……站
（バス料金・太原より大人往復三圓）

晉祠鎭（一般向・日歸り）

〔太原站〕……三〇粁（バス一時間）……晉祠鎭（近傍散策）……站
（バス太原より大人往復三圓）

王昭君の墓（健脚向）

〔厚和站〕—新城……王昭君の墓（以上徒歩約五時間）

大青山（健脚向）

〔厚和站〕……大青山（以上徒歩約五時間）

華嚴寺・九龍壁（一般向）

一、〔大同站〕……三粁（徒歩一時間）上華嚴寺……下華嚴寺
二、〔大同站〕……九龍壁……東門外……曹福寺……大同站（七粁歩行三時間）

張家口附近

一、**森林公園**（水母宮）一般向　張家口站より歩行一時間半
二、**賜兒山**　同　同四十分
三、**本多ケ丘**　同　同一時間半
四、**大境門**　同　同四十分

＝中支＝

上海附近

（一）戰跡巡拜コース（健脚向）
各戰跡巡拜（歩行一二粁四時間）

（二）新龍華（健脚向）
外白渡橋—城內—半淞園—新龍華—徐家滙（歩行十二粁四時間）

（三）高橋海水浴（一般向）
外灘……（汽船一時間）……高橋鎭……海水浴場（以上歩行三粁四十分）

（四）吳淞（一般向）
上海驛……（ガソリンカー）砲台灣……吳淞……（以上歩行四粁四十分）

無錫附近

（一）無錫コース
〔錫站山〕—三粁（歩行一時間）錫山……三粁（歩行一時間）—站

（二）惠山コース
〔無錫站〕—三粁（歩行一時間）錫山……三粁（歩行一時間半）惠山西峰……五・五粁（歩行二時間）—站

（三）梅園・錦園コース
〔無錫站〕—一一粁（バス二十分・四十錢）梅園……二粁（歩行三十分）錦園……二粁（バス二十分・四十錢）—站
（以上治安上小數人員にては不可）

蘇州附近

〔蘇州站〕—四粁（歩行二時間）虎邱山…驛

鎭江附近

焦山島（一般向）
〔鎭江站〕—四・六粁（バス）中山塔……一・五粁甘露寺……四・五粁（歩行一時間）焦山島（以上歩行二時間）
・驛—甘露寺　バス　一〇錢
・焦山島行船賃　五〇錢

杭州附近

一　**寶石山・葛嶺コース**（一般向）
歩行四粁約二時間

二　**臨平コース**（一般向）
臨平站より五粁歩行約二時間

釣魚地



＝滿洲・北鮮＝

●**連京線**

場所	最寄驛	距離	魚の種類	期節	最盛期の餌
老虎灘	大連	四粁	めばる、あぶらめ、ちぬ、鰈	自五月至十二月	小烏賊、鰌共餌ごかい類
小平島	同	八粁	大口鰈、めばる、あいなめ、ちぬ	自五月至十月	同
傅家庄	同	四粁	めばる、あぶらめ	自六月至十月	同
露西亜町海岸	同	一粁	太刀魚、めばる、あぶらめ	同	同
黒石礁	同	四粁	太刀魚	自七月至十一月	ごかい
龍王島	沙河口	二七粁	ちぬ	自九月至十月	えび
香爐礁	同	一・五粁	はぜ	同	ごかい
丁宮寨南岸	大房身	一粁	ちぬ、めばる、あいなめ、かれひ	自八月至九月	
西海岸	金州	六粁		自八月至十月	ちぬ
愛川村 千島子	二十里臺	一〇粁 一二粁	ちぬ、めばる、あいなめ	自八月至十一月	
長島子屯	三十里堡	一四粁	ちぬ、[illegible]、鱸	同	

場所	最寄驛	距離	魚の種類	期節	最盛期の餌
三道灣	同	一二粁	同	同	
石河海岸	石河	二粁	ちぬ、鰆、鱸、蟹	自八月至十月	
鹽田附近	普蘭店	同	沙魚	自七月至十月	
回頭河及復州河一帶	王家	五〇米—一〇粁	はや、鮒、鯰、すつぽん	自四月至十月	
復州河	松樹	一〇〇米	はや、鮒	自七月至十一月	
石頭河	萬家嶺	二粁	鮎	自八月至九月	
自頭道溝至八道溝間	熊岳城	七粁—一二粁	はや、鰻、鱖、鮎、鮒、鯉	自五月至十月	
馬圈子	蘆家屯	四粁弱	鮒	自四月至十一月	蚯蚓
鯱魚圈	同	八粁	にべ、赤ぐち	同	たこ
監敞	同	一〇粁	ほら	自八月下旬至十一月	
小河沿	同	四粁	鮒、鰻	自四月至十一月	蚯蚓、鰌
海水浴場附近	沙崗	六粁	赤ぐち、海老	自三月至六月	
鹽田附近	蓋平	一〇粁	はぜ、すゞき、鮒、鯰	自八月至十月	
海城河	海城	四〇〇米	鮒、鯉、はや、鯰	夏秋	
公園內	湯崗子	三〇〇米	鯉、鯰、鮒、はや	自四月至九月	練餌
鞍山河	千山	一粁	はや	自四月至九月	

安庄子沼	首山	一四粁	鯰、鮒	自五月至十月	
太子河	遼陽	五粁	はす、鯉、川鱒、鮒	自五月至九月	
房身	張臺子	北六粁	鮒	自六月至九月	
大房身鐵橋附近池	煙臺	南四粁	同	六、七、八月	
十里河鐵橋附近	十里河	東北一粁	鮒、鯰、はや、鰡	自五月至九月	
避瀋橋下沼	渾河	北六〇〇米	鯉、鮒、鯰、鰌、はや	自六月至十月	
古城子の池	虎石臺	東北四粁	鮒、鯰	同	
宮公臺の池	同	北三粁	同	同	
小橋子河	虎石臺	南四粁	鮒、鯰	至十月	
沙河子河	平頂堡	東北三粁	鯉、鮒、鯰、鮎、河鰡、はや	自六月至十一月	
中固河	中固	上下四粁以內	はや、鯰、鮒	自六月至九月	
開原河	開原	一粁	鮒、鯉、鯰	自六月至十月	
城內蓮池	同	八粁	鮒、鯰	同	
蓮池泡	桓勾子	西北八粁	鮒、鯰、すつぽん	自六月至七月	練餌
三道河	虻牛哨	三粁	鮒、鯰	自四月至十月	蚯蚓
紅山咀沼	同	同	同	同	
廟存溝河支流	同	一粁—四粁	同	同	
大泉眼	同	二粁五	同	同	
馬泉口河	楊木林	三粁	鮒、狐鯉、はや	自六月至十月	
同	十家堡	西一粁五	鮒、鯰	自五月至十月	
同	蔡家	四粁	鯉、鮒、はや、鯰	同	

老搗溝沼	大楡樹	西北六粁	鯉、鮒、鯰	自五月至九月
大連泡沼	同	南四粁	同	同
東遼河	同	西南四粁	同	同
四馬架子沼	同	南三粁	同	同
大楡樹河	同	東北〇・五粁	同	同
朝鮮ダム	公主嶺	六粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ	同
ロヤン湖	同	一二粁	鯉、鮒	同
二十家子	同	四粁	あぶらはや、鮒、砂もぐり、うぐひ	同

●安奉線

太子河鐵橋附近	本溪湖	二粁	はや、雨鯉、狐鯉、鮒	同
崔家浦附近	同	六粁	雨鯉、はす、はや	自五月至七月
三日浦附近	同	一四粁	雨鯉、はす、はや、狐鯉、砂もぐり、いだ	自五月至九月
水浴場附近	橋頭	一・五粁より	鮒、狐鯉、砂もぐり、鯰、ぎゞゆう、はす、うぐひ、はや	自四月至九月
釣魚臺附近	同	六粁	同	同
細河古松子	南坎	四粁	はや、はす、鯰、砂もぐり、ぎゞゆう、狐鯉、うぐひ	自五月至十月
長嶺子	同	三粁	同	同
五本松	同	二粁	同	同
驛前一帶	同	二〇〇米	同	同
驛南北地帶	下馬塘	南北二粁	狐鯉、砂もぐり、はや、はす、ぎゞゆう、鯰、かじか、うぐひ	自五月至九月

驛附近一帶の清流	連山關	上下流二粁	狐鯉、うぐひ、はや、鯰、はす、すつぽん、砂もぐり	自五月至十月	
同	通遠堡	北四粁より一〇〇米	はや	同	
同	林家臺	一一粁	はや、はす、砂もぐり	同	
草河	劉家河	東南より北一粁半	はや、砂もぐり、鰻、鯰、はす、めばる	同	
小城場沼	同	西二粁	鯰、鮒	同	
劉家河沼	同	東南一粁半	鯉、鮒、たなご	同	
同	秋木莊	東一粁	はす、はや、めばる、狐鯉、鰻、すつぽん	同	
同	四臺子	二粁以內	はや、はす、鰻、鯰、砂もぐり	同	
草河	鳳凰城	西南四粁 東南二粁 東南二〇粁	はす、はや、めばる、鰻、鯰、砂もぐり	同	
湯山城河	湯山城	二三二米	はや、砂もぐり、めばる、鰻、鮎、鯉	春夏秋	
靉河	同	四粁	同	同	
附近沼澤	五龍背	二粁	鮒、鰻	自六月至九月	
第二蛤蟆塘河	蛤蟆塘	一粁	鮒、はや	同	
沼	同	北一二粁	鮒	同	
鴨綠江鐵橋附近	安東	一粁	鮒、狐鯉、鯰、鱸、砂もぐり、はや	自五月至十月	
三道浪頭	同	一二粁	同	同	
九連城(靉河)	同	八粁	同	同	

●旅順線

海岸線一帶	夏家河子	四〇〇米	はぜ	自七月至十一月	ごかい
海岸冲合	同	二粁—二粁半	かに、きす	自七月至九月	肉、魚類、ごかい
二つ山	同	西四粁	ちぬ	自七月至十一月	ごかい
二つ目	同	東一粁	同	同	同
三つ目	同	東二・五粁	同	同	同
五つ目	同	東三粁	同	同	同
七つ目	同	東三・五粁	同	同	同
九つ目	同	東四粁	同	同	同
猴兒石	營城子	三粁	ちぬ、めばる	自八月至十一月	
嘴旱砣子	同	二粁	同	同	
大黑石海岸	長嶺子	三粁	ちぬ	同	
大潮口海岸	同	一〇粁	同	自十月至十一月	
北海	同	一五粁	同	同	
同	龍頭	一〇粁	ちぬ、かれひ、太刀魚	自八月至十一月	
同	同	四粁以內	はえ(川魚)	自四月至十一月	
港內	旅順	〇・五粁			
老虎尾	同	一・五粁	めばる、あいなめ	三、四、五月	
鎮頭子	同	一一粁			
柏嵐子	同	一二粁	めばる、あいなめ、すゞき、かれひ、かに	六、七、八月	
老鐵山	同	一六粁			
羊頭灣	同	一二・五粁	ほしかれひ、めばる、ちぬ、すずき	九、十、十一月	
雙頭灣	同	一三粁			
北海	同	一五粁			
合圍溝	同	一六粁			

●營口線

遼河沿岸	營口	半粁	鯰、鰻、すゞき	自五月至十月	
西砲台一帶	同	四粁	はぜ、ぼら、すずき	自八月至十月	えび
四道溝	同	八粁	はぜ、ぼら	自八月至十月	同

●撫順線

沙寶屯	李石寨	東北三粁	はや、はす、鮒、鯰	自五月至十月	
李石寨河ト流	同	北三粁	同	同	
臺塔灣	撫順	東二粁	鯉、鮒、はや、鯰、鱧	自五月至十月	
新塔灣	同	東四粁	同	同	
渾河	同	北一粁	鮒、はや、砂もぐり	同	
蓮池	同	東一粁	鮒、はや	同	

●奉吉線

口前河	口前	二粁	鯉、鮒、鯰、すつぽん	自六月上旬至十月中旬	鯉、鯰＝蚯蚓 鮒＝玉蜀黍の練餌 はや＝化鈎 すつぽん＝獣魚肉
飲馬河	烟筒山	五〇〇米	鯉、鮒、鯰、はや、すつぽん	自六月上旬至十月中旬	同
柳河	梅河口	二粁	鯉、鮒、鯰、すつぽ！	同	同
蓮花泡	同	二粁	同	同	同
蝲渾木河	同	五・五粁	鯉、鮒	自五月至十月中旬	同
牛喇碣子河	營盤	二・〇粁	はや	同	同
碑樓子河	同	四・五粁	同	同	同
江南河	同	二・五粁	同	同	同

●梅輯・平梅線

渾江	通化	六粁五	鯉、鮒、鯰、砂もぐり、のんこう	自五月至十月	練餌
牛拉山門	平東	六粁	鰌、鮒	自五月至十月	蚯蚓

●京圖線

飲馬河	飲馬河	三粁	鯉、鮒、鯰、すつぽん、哈牙子（ぎゞゆう）	自六月上旬至十月中旬	同 哈牙子＝蚯蚓
天崗	天崗	三粁	同 鮎	同	同
蓮花泡	同	三粁	同	同	同
轉心湖水泡	樺皮廠	一粁	鯉、鮒、鯰、はや	同	同
大水角泡	同	一粁半	同	同	同
松花江	哈達灣	一〇〇米	鯉、鮒、鯰、白魚、鱟花魚、すつぽん、哈牙子	同	白魚、鱟花魚＝蚯蚓 玉蜀黍の練餌
六道河	六道河	二粁	鯉、鮒、鯰、すつぽん、鮎、哈牙子	同	同
同	同		山女、川鱒	同	全部蚯蚓
拉法泡子	拉法	二〇〇米	鯉、鮒、鯰	同	同
拉法河	同	二粁	鮒、鯰、鮎、鯉、すつぽん、哈牙子	同	同
豐滿	大豐滿	二粁	鮒、鯰、哈牙子	自六月至十月	
松花江	吉林	三粁	同	同	
嘎呀河	蛟河	八〇〇米	鮎	同	同
大八家子沼	同	四粁	鮒、鯰、鱧	同	鱧鱧＝鮭鱒

大石頭北方沼地及小川	大石頭	五粁	鯉、鮒、鯰	自四月至十月	練餌
蛟河	蛟河	二粁	鯉、鮒、鯰、すつぽん、鮎、哈牙子	自六月上旬至十月中旬	蚯蚓、練餌、獣魚肉
神仙洞濕	明月溝	三粁	川鱒、鮒、はぜ	自五月至九月	鱧＝鮭鱒
站附近	南溝	南三〇〇米—二粁	砂もぐり、川鱒、はや、岩魚	自六月至九月	同
布爾哈圖河畔	葦子溝	北東一粁	鰻、砂もぐり、やり	自五月至九月	同
玉芝ヶ池	茶條溝	四粁	鮒	自五月至十月	同

●朝開線

圖們江	開山屯	二〇〇米	八つ目鰻、鮒、はや	自六月至九月	蚯蚓

●京濱線

西蓮花泡	陶賴昭	約一粁	鯉、鮒、鯰、鱧	自五月至九月	蚯蚓、鮭鱒
蓮花泡	同	同	同	同	同
東蓮花泡	同	同	同	同	同
花江江（河沿岸及龍泉窩棚附近）	同	四—六粁	鯉、鮒、よろし、白魚、草根魚、鱧	自五月至十月	同
松花江	松花江	北五〇〇米	同	同	同
伊通河	一間堡	西南一粁	同	同	蚯蚓
水溝	同	驛前三〇米	同	自六月至十月	同
松花江	哈爾濱	道裡埠頭まで電車にて一五分	鮒、鯰、鯉、よろし、白魚	自五月下旬至十月下旬	蚯蚓、さなぎ

●濱北線

松花江	三棵樹	北四粁	鯉、鯰、鮒	自五月下旬至十月下旬	蚯蚓
驛前	新松浦	附近	鯉、鯰、鮒、白魚、草根魚	同	蚯蚓、さなぎ
太平屯	同	東一粁	同	同	同
呂家窩棚	同	東一粁	同	同	同
呼蘭河	徐家	西北一粁	鯉、鮒、白魚、黑魚	自五月下旬至十月下旬	同
漠盤泡	同	南半粁	同	同	同
小池	同	二粁	同	同	同
松浦沼地	新松浦	松浦舊驛の東一粁西南一粁	鮒、鯉、胖頭魚、草根魚	同	蚯蚓
呼蘭河	呼蘭	西南三粁	鯉、鮒、白魚、鯰、はや	自六月上旬至十月上旬	蚯蚓、黃米面
釣魚臺	同	城内南門側	同	同	同
第二呼蘭河	寨家	南一粁	鯉、鯰、鮒、はや	自五月下旬至十月中旬	蚯蚓

●北黑線

ウドホール河	黑河	西方五粁	鱒、鯉、イト、ハヤ、山女魚	自六月上旬至九月中旬	蚯蚓、さなぎ、毛針
小黑河	同	東南五粁	同	同	同
鎮清河	清溪	徒歩五分—十五分	同	同	同

●濱綏線

阿什河	阿城	南及東北一粁—二粁	鮒、鯉、鯰、はや、すつぽん	自五月初旬至十月初旬	蚯蚓
沼	同	東北一粁—二粁	鮒、鯰	同	同
小海溝	同	東六粁	鮒、鯰、鯉	同	同
黃泥河	帽兒山	半粁—三粁	細鱗魚、鮒	同	蚯蚓、かばり

●平齊線

八面城	八面城	一粁	鮒、狐鯉、はや	自五月至十月	

平安堡	八面城	三粁	鮒	自五月至十月	蚯蚓
梨樹城	同上バス停留場	近傍	鮒	同	同
招財河	曲家店	西二粁徒歩	鯉、鮒、鯰、白魚	自五月至九月	
東遼河	三江口	北一粁七月最盛	鯉、鮒、はや、黄昂魚（黄骨子）	自六月至九月	
西遼河鐵橋附近	鄭家屯	北五粁	鯉、鮒、鯰、砂もぐり	同	
洮兒河	洮南	南四粁	鯉、鮒、鯰、白魚	自八月至十月	
綽爾河	泰來	東北一〇粁	鯉、鮒、鯰、鱷白魚	自六月至九月	
同	五廟子	南五粁	同	自六月至九月中旬	
嫩江	江橋	北二粁五徒歩約三〇分	鯉、鮒、鯰、鱷、扁花魚、はや、ぎゞゆう、すつぽん	自六月至九月	
嫩江支流	同	西方七粁	鯉、鮒、鯰、鱷、扁花魚、はや、ぎゞゆう、すつぽん	同	
同	同	東南四〇〇米の間	同	同	
江橋、大興間鐵道線路兩側に散在する沼地	同	鐵橋通過の際は所在官憲の許可を要す	鮒、鯰、鱷、ぎぎゅう	同	
嫩江支流及大興江橋間線路西側沼地	大興	西二粁	鯉、鮒、鯰、鱷、扁花魚、はや、穀綠魚、黄昂魚	同	
舊第三橋池	同	南六粁	同	同	
舊第四橋池	同	南五粁	同	同	
舊第五橋池	同	南三粁	同	同	
孤店沼	楡樹屯	北三粁	鯉、鯰、鱒	自七月至九月	
嫩江支流	齊齊哈爾	西南四粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ、はや	自六月至九月	

王屯	同	北五粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ	同
●齊北線				
泊渡河	塔哈	北三粁	鯉、鮒、鯰、白魚	自六月至九月
大沼	寧年	西二粁	鰻、鯰、鮒、鱷、すつぽん	自五月下旬至九月中旬
烏裕爾河	克山	南二粁	鯉、鰟頭魚、白鳥、鮒、うぐひ	自七月至九月
同	寧安	東南二粁五	鮒、鯰	自六月至九月
同	郭家	東南三粁	鰻、鮒、鯰、鯉	自五月下旬至九月
●寧墨線				
嫩江	拉哈	西五〇〇米	鮒、鯉、鰲花魚、鰟頭魚、扁花魚、鯰、白魚、すつぽん	自五月中旬至十月中旬
訥謨爾河	新安	北六粁	鯉、鮒、鯰、鱷、うぐひ	自六月至八月
訥謨爾河舊河床四箇所	訥河	南四粁	鮒、はや、鯰、川鱒（小）	自六月至九月
同地池三箇所	同	東五粁	同	同
同	同	南六粁	同	同
布西附近嫩江本流	同	南二五粁	鯉、鮒、はや、鯰、うぐひ、川鱒（小）	同
老萊河	老萊	北六粁	鮒、鯰	同
同	伊哈哈	北五粁	同	同
嫩江	墨爾根	南北四粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ、はや	自七月至十月中旬
●濱洲線				
黑泡	廟臺子	西北半粁	鮒、鯰、鯉、白魚	自五月至十月

頭道口子沼	昂昂溪	西一粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ	同
二道口子沼	同	西三粁	鯉、鮒、鱷、鯰	自五月至九月
王麻泡子沼	同	北二粁	鮒、鯰	同
嫩江	富拉爾基	東二粁	鮒、鰲花、砂もぐり、鯉	同
雅魯河	碾子山	西四粁	鯉、鮒、鯰、はや、うぐひ、砂もぐり	自六月至九月
同	成吉思汗	西三粁	鯉、鮒、鯰、白魚	同
雅魯河支流ペラーヤ河	巴林	西北一五粁	川鱒、たいめん	同
雅魯河	扎蘭屯	南北二粁	鯉、鮒、鯰、白魚、はや	自五月至九月
同	哈拉蘇	南北一粁	細鱗魚、狗魚、川鱒	自五月至八月
同	雅魯	南二粁	細鱗魚	自六月至九月
雅魯河上流	博克圖	東南八粁	たいめん、川鱒	自八月中旬至十月中旬
烏奴耳河	烏奴耳	西〇粁	細鱗魚、たいめん	自六月至九月
免渡河	免渡河	東南〇粁	同	自七月至九月
阿爾渾河	烏固諾爾	北〇粁	鯉、鮒、鯰	自五月至八月
同	完工	北〇粁	鮒	自六月至九月
海拉爾河	赫爾洪得	東〇粁	鯉、鮒	自七月至九月
阿爾渾河	嵯崗	西北〇粁	鯉、鮒、鯰、白魚	自七月至八月
ムーツナヤ河	扎來諾爾	西〇粁	鯉、鮒、鯰、はや	自五月至九月
アルグン河	同	六粁	同	同

北煤湖	同	北〇粁	鮒	自六月至九月
阿爾渾河	同	東北〇粁	鯉、鮒、鯰	自五月至九月
●京白線				
伊通河	小合隆	東二粁	鯉、鮒	自五月至九月
新開河	華家	南一粁	鯉、鮒、鯰、砂もぐり、草根魚	自六月至九月
伊通河	農安	東南三粁	鯉、鮒、鯰	同
松花江	七家子	東北二粁	鯉、鮒、鯰、白魚	同
川頭漢河	新廟	西南一二粁	鯉、鮒、鯰	自七月至九月
松花江	前郭旗	北四粁	鯉、鮒、鯰、すつぽん	自五月下旬至十月初旬
嫩江	大賚城	北五粁	鯉、鮒、扁花魚、紅尾魚、鱷、鯰、白魚	自五月至十月末
●白阿線				
洮兒河	索格營	西北七粁	鯉、鮒	自六月至九月
同	葛根廟	西北三粁	同	自六月至九月
王好心歸流河	王爺廟	北八粁	鮒、鯰、白魚、はや	自五月下旬至九月上旬
包拉根營子洮兒河	同	北五粁	白魚、鮒	同
入公府洮兒河	同	北一二粁	鱷、川鱒	同
歸流河	歸流河	西北二粁	白魚、鮒、すつぽん	自六月至九月
歸流河支流	大石寨	西南四粁	鮒、鯰、草根魚	同

洮兒河	德伯斯	德伯斯	鰔條魚、たいめん	四月、五月氷結時は鰔條魚、五月以降たいめん	
德伯斯—索倫 洮兒河	同	東五粁	川鱒、はや、たいめん	自五月至十月	
同	索倫	東一〇粁	同	同	
白海	同	西一八粁	同	同	
西口	西口	北一粁	同	同	
洮兒河	牛汾臺	西南〇粁	川鱒、はや、たいめん	同	
同	白狼	東南〇粁	同	同	
哈拉哈河	阿爾山	西北〇粁	同	同	
●圖佳線					
嘎呀河畔	石峴	南西一粁	鮒、砂もぐり	自六月至九月	蚯蚓
同	三道溝	西北五粁	いゝみんす、鯿、やり	自六月至十月	
大汪清河畔	汪清	一粁乃至五、六粁	柳根魚、やり、いゝみんす、砂もぐり	自五月至十月	毛針、河虫、蚯蚓
嘎呀河畔	廟嶺	東一粁 西北方一粁半	赤腹いゝみんす、やり、砂もぐり	自五月中旬至九月下旬	蚯蚓、さなぎ、河蝦、毛針
嘎呀河鐵橋附近	三岔口	一粁半乃至三粁	いゝみんす、鮒	自六月至九月	蚯蚓
阿布達河畔	同	二粁	いゝみんす、柳下	同	同
駱駝河畔	駱駝山	東西一粁	めばる、鮒、川鱒、うぐひ、砂もぐり	同	蚯蚓

嘎呀河上流	春陽	西南一粁より	山女、岩魚、川鱒、砂もぐり、かじか	同	同
春陽站西方	同	西方一粁より一四粁の間	同	【同	同
鹿道河畔及支流	鹿道	一粁より八粁	いゝみんす	解氷期より結氷期まで	蚯蚓、川虫
斗溝子附近	斗子	南北西方約二粁	鱒、黄魚	自六月至九月	蚯蚓
馬蘭河畔	馬蓮河	東南及東北約二粁	鮒、鯰	自七月至十月	同
千家屯濕地	東京城	南約二粁	鯉、鮒、鯰、川めばる	自六月至九月	同
下馬蓮河濕地	同	東北約六粁	同	同	同
下馬蓮	同	西約一二粁	同	同	同
牡丹江河畔 阿保附近	同	西南約十二粁	同	自八月至九月	同
鏡泊湖	同	三五粁	鮒、鯉、鯰、はや、川鱒、白魚、黄魚	自五月至十月	蚯蚓、練餌
牡丹江河畔	石頭	南約一粁	鮒、鯰、鯉、鰤、鱈	自六月至九月	さなぎ（毛鈎も可）
同	溫春	南約一粁	鯉、鮒、鯰、ぎぎゅう	同	蚯蚓
新溫春鐵道附近沼地	同	南約一粁	鮒最も多し	同	同
海浪沼	同	西南約六粁	鮒、鯉	同	同
牡丹江河畔	樺林	北約二粁	鯉、鯰、すつぽん	自六月至九月	蚯蚓、すつぽん、鱈
同	柴河	西北約一粁	鯉、鮒、鯰、砂もぐり	自五、一五至九、一五	蚯蚓
五虎林河畔	五河林	北約二粁	鯉、鮒、鯰	自七月至十月	同
牡丹江支流	仙洞	站附近又は北西三粁	鮒、鯰、砂もぐり	自六月至九月	同

二道河子河 河灣子舊水中	龍爪	北若くは西東北約一粁	鯰、鮒	自八月至九月	同
舊炭坑附近（烏斯渾河畔）	林口	東北約三粁	鮒、鯰	自六月中旬至九月中旬	同
西林口池	同	西方一粁半	鮒	五、六月頃	同
烏斯渾河畔	古城鎮	西約一粁	鮒、鯰、うぐひ	自六月至九月	同
倭肯河畔	勃利	倭肯站東北約一粁半	鯉、鮒、鯰	自五月中旬至十月下旬	同
同	倭肯	北方二粁	鮒、鯰	自六月至九月	同
鈴鐺麥河	長發屯	東五〇〇米	鮒、鯰	自五月至九月	
●綏佳線					
蓮江口	蓮江口	一粁	鮒、鯉、はや、川はぜ	自六月至八月	
[illegible]隆	福隆	二百米	鮒、鯉	同	
湯旺河	涼台	百米	鮒、はや、川はぜ	同	
●虎林線					
小穆稜河畔に散在する沼地	麻山	站前四〇〇米西方四粁八青龍站前一〇〇米	鮒、鯰、はや	自六月至九月	同
穆稜河畔	滴道	四粁	鮒、鯰	自六月至十月	同
同	平陽	東約〇粁	鮒、鯰、鱖花魚、鯉	自五月至八月	蚯蚓、さなぎ、包米面、魚食
同	東海	西約〇粁	鯉、鯰、鮒	自四月至九月	蚯蚓、豆粕
穆稜河及その支流	永安	東南	本流「鱈、鱒、鯉、すつぽん 支流—はや、鮒、鯰	自六月至九月	蚯蚓

舊河跡沼	同	東約〇粁	鯉、鮒、鯰	自五月至九月	同
二道溝河	東安	東約〇粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ、鱈	自六月至九月	蚯蚓、さなぎ
穆稜河畔	同	東約〇粁	同	同	同
●濱綏線					
蜿蜒河	一面坡	五〇〇粁より一粁	鯉、鮒、鯰	自六月至九月	鯰は川虫、ほら等け他は蚯蚓
蟻馬河畔	亞布洛尼	北約一五粁	鯉、鮒、鯰	同	蚯蚓、さなぎ
橫道河畔	橫道河子	驛前の清流一帶	山女、岩魚、川鱒、泥はや	自四月至十月	蚯蚓、毛針
同	同	東二〇粁	山女、岩魚、河鱒、泥鰌	同	同
青林子河畔	山市	沿線西行一〇粁	鮒、鯰、川鱒	自八月至九月	蚯蚓
海浪河	海林	一・二粁	鮒、鯰、川鱒	自四月至十月	同
阿多工區附近河畔沼池	同	約六粁	鮒、鯰、川鱒	同	同
牡丹江河畔	愛河	東約三粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ	自六月至九月	蚯蚓、さなぎ
愛河河畔	同	南約〇粁	鮒、鯰	同	蚯蚓
穆稜河畔	穆稜	南北〇粁	鯉、鮒、鯰、鱈、山女、沙もぐり	同	同
伊林河畔	伊林	北	鯉、鮒、鯰、うぐひ、赤目、砂もぐり、泥はや	自六月至八月	蚯蚓、さなぎ
三道河子 穆稜線	下城子	三道河子驛より約〇粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ、鱈、はや、はぜ、鰐	自六月至九月	蚯蚓
馬橋河畔	馬橋河	西南約一粁	細鱗魚、鮒	自五月至九月	蚯蚓、肉蝦

寒蔥河	綏芬河	南魚粁	岩魚、河はぜ、泥はや	自五月至十月	蚯蚓
平房	同	南〇粁	同	同	同
南天明	同	南〇粁	同	同	同
八道河子	同	西南〇粁	鯰、河はぜ、泥はや	同	同
●奉山線					
沼池	唐家	驛西方二粁	鯉、鮒、鯰	自五月至十月	
巨流河	巨流河	驛西方二〇〇米	鯉、鮒、鯰、鱧、砂もぐり	同	
沼池	大虎山	驛西方五〇〇米	鯉、鮒、鯰、鱧、はや	同	
同	大凌河	驛西方二粁	鯉、鮒、鯰、鱧、すつぽん、はや	同	
河川	女兒河	驛西方一粁	鮒、鯰、うぐひ、鰻、はや	同	
沼池	陳家屯	驛東方二粁	鮒、はす	同	
海中	興城	驛東方八粁	せいご、めばる、ちぬ、ぐち	自六月至十月	
河川	同	驛東方四粁	せいご、鮎、鮒、はや、すつぽん	自五月至十月	
海中	壺蘆島	驛東方一粁	めばる、すゞき、せいご、ちぬ、ぐち	同	
小凌河	錦縣	西二粁	はや、うぐひ、せいご	自五月至十月	蚯蚓、小蜷
綏中	同	二股河	はや、あゆ、せいご	同	同
天橋廠	同	（バス一圓五五錢）鹽田	はぜ、せいご、このしろ	同	ごかい、蚯蚓
●錦古線					
沼池	薛家	驛北方一粁	鮒	自五月至十月	

灤河	下板城	東北四粁	鱒、鯉、鮒、鯰	自五月至十月	
同	上板城	東北一粁	同	同	
●河北線					
沼池	盤山	驛北方一粁半	鯉、鮒、鯰、鱧	同	
西砲台一帶	營口	西四粁	はぜ、ぼら、すずき	九、十月頃	
遼河沿岸	營口	一粁	鯰、鰻	自五月至十月	
●北鮮線					
清津附近海上	清津	三乃至五粁	かれひ、あぶらめ、めばる、ほうぼう	常時	海虫、鰮、鯖
			たらのこ	八月	同
			太刀魚	八、九月	鰮、友餌
			うなぎ	九、十、十一月	海虫、鰮、鯖
雄尙	雄尙	東三粁	めばる	自五月至十月	
松洞	輸城	四乃至八粁	やまめ	同	鮭卵
南汐洞	同	六乃至一〇粁	同	同	同
三巨里	石幕	二乃至一〇粁	同	同	同
輸城川	章興	一粁	同	同	同
虚通洞	同	七粁	同	同	同
富寧川	富寧	三乃至四粁	同	同	同
富寧八潭	同	二―六粁	同	同	同
虚通洞	同	六―七粁	同	同	同
嚴賢洞	同	四―八粁	同	同	同
白沙洞	同	八―一〇粁	同	同	同

廣岩洞	富寧	八―二〇粁	やまめ	同	同
楡坪川	古茂山	八―一〇粁	同	同	同
舞袖谷	同	同	同	同	同
茂山洞	全巨里	驛附近	同	同	同
新明洞	同	二―三粁	同	同	同
同	同	同	岩魚	自五月至十一月	同
葛麻同	同	同	同	同	同
同	同	同	山女	同	同
圖們江岸	金生	三粁	鮒	自六月至十月	蚯蚓
同	高嶺鎭	同	同	同	同
驛西南方楡林	同	二粁	同	同	同
圖們江岸	水口浦	一粁	同	同	同
馬牌（圖們江岸）	同	三粁	同	同	同
圖們江岸	黃坡	〇・五―一粁	黃魚	自九月十一月中旬	鮭卵
峰雲川下流	農圃	一・五粁	やり	自六月至十月	蚯蚓
圖們江岸	新乾	一粁	黃魚、いゝみんす、やり	自五月至十月	鮭卵、蚯蚓、こほろぎ
將臺地	新阿山	三粁	鮒	自五月至十月	蚯蚓
圖們江岸	同	二―三粁	鮒、やり	自六月至十月	蚯蚓、やりの肉、毛針も可
赤池	四會	同	同	同	蚯蚓
靑鶴川	靑鶴	四―五粁	山女	自五月至十月	鮭卵
雄尙川	雄尙	二―四粁	同	同	同
雄尙	雄尙	二粁	めばる、かれい、あぶらめ	自六月至九月	えび、ごかい
富居	富居	停留所より四粁	やまめ	自四月至十月	練餌
寬谷洞	寬谷	二―五粁	同	同	同
龍岩洞	同	六―八粁	同	同	同

＝北・中支＝

場所	最寄驛	距離	魚の種類	期節	最盛期の餌
●山海關					
石河	山海關	一粁―二粁	鮎、鱸、鯰、鰡、鯔子	自六月至十月	泥鰌、ごかい
南海	同	三粁	黑鯛、鰈、鱸	自七月至十一月	蝦、泥鰌
城外沼地	同	一粁	鮒、鯉	自四月至十月	ごかい
●唐山					
陡河	唐山	約二粁	鯉、鮒、鱧	自五月至十月	蚯蚓
河頭	胥各莊	約一粁	鯰、鯉、鮒、鱧	同	同
灤河	灤縣	約三粁	すつぽん、鯉、鮒、はや、鯰	同	同
金山嘴	海濱	約四粁	ちぬ、ひらめ、はぜ、すゞき、かに	自五月至十月	ごかい、えび
大江口	同	約二粁	はぜ、すゞき、かに	同	ごかい、蚯蚓
秦皇島海岸	秦皇島	約二粁	ちぬ、めばる、すゞき、はぜ、うちぎ	自五月至十一月	ごかい、えび
●天津					
八里台	日界	徒歩四十分	鯉、鮒、其他	自四月至十月	

● 北京

北海	市内三粁	鮒、鯉、鯰、白魚、鱊	自四月至十月	練餌、蚯蚓
中南海	同一粁半	同	同	同
農事試驗場	城外一〇粁	同	同	同
萬壽山南湖	城外三〇粁	同	同	同
中央公園	市内一粁	同	同	同

● 保定

蓮花池	保定東二粁	鯉、鮒、鯰	自五月至十月	
新民公園	同東南二粁	同	同	
鐵橋下	同北半粁	同	同	
電爐廠前	同東北二粁半	同	同	

● 青島

太平公園海岸	陸	小ちぬ、めばる、あぶらめ、小さば	七、八月	さより、流れ、死海老
會泉岬	同	小ちぬ、めばる、すゞき	六、七、八月	さより、流れ、ごかい
台西鎮	同	はぜ、かれひ、小ちぬ	九、十月	ごかい
陰島	舟	大ちぬ	四月	死海老
大港沖	同	ちぬ、すゞき	八、九月	死海老、鰆
會泉岬沖	同	ひらめ、こち、こぎさはら	四、五、六月	鰆
嶗山沖	同	すゞき、ひらめ、めばる、さはら、赤だひ、しこたひ	六、七月	鰯
嶗山	陸	ちぬ	六、七月	死海老
膠州灣内	舟	ちぬ、こさば、こうたい	八、九、十月	生海老
同	同	はぜ、小ちぬ	十一月	同

● 太原

晋祠鎮	晋祠鎮約百米	はや	自四月至十月	練餌

● 連雲

海岸一帯、東連島及西連島沿岸	海上三粁乃至五粁	すゞき、にべ、ぐち、ちぬ、石鯛、あなご	同	生海老

● 濟南

大明湖	濟南東二粁	鯉、鮒、鯽、鯰、鰕	至五月至十月	
小清河	黄台東三百米	同	同	
濼河	濼口南二百米	同	同	

● 石門

栗村	石門一粁	鯉、鮒	自四月至十一月	蝦
正定	正定一粁	鯉、鮒、鱊	同	同

● 厚和

大黒河	厚和西南十六粁	鯉、白魚	自四月至十月
公主府河	同西北一粁	鯉、白魚	同

● 上海

呉淞附近クリーク	呉淞砲台附近一帯 灣クリーク	鮒、はや、鰻	自五月至十一月

市政府附近クリーク	江灣東三丁	鯉、鮒、はや、鰻	同	

● 無錫

太湖及太湖沿岸養魚地	無錫十粁	白魚、(みごひ)鯉、鯤魚、青魚、蝦等	年中	

● 鎮江

金山寺附近	鎮江一・五粁	鰻、鮒、鯰	年中	蚯蚓、蝦、麥粉

● 杭州

西湖	杭州四粁	鮒、草魚	自四月至十一月	蚯蚓

● 漢口

元同文書院	日界より洋車四十分	鮒、白魚
戴家山	黄陂縣行バス四十分	鮒、すつぽん
漢陽製鐵廠	民族路より漢水渡河三十分	鯉、白魚、はや
中山公園	江漢路より洋車三十分	鮒、はや
萬國競馬場池	日界より洋車三十分	鮒
武昌東湖	漢口碼頭より三時間	鯉、鮒、はや

(揚子江、漢水は中支の魚場なれ共一般人の釣には適さず)

滿洲の川魚名

(一) **テウザメ**(滿洲名鰉魚(ファンユイ)、ロシア名アムールオセトール)

(二) **鮭鱒族の魚**

(1) **サケ**(滿洲名大嗎哈魚(ターマーハーユイ)、ロシア名ケタ)

(2) **アムールイト**(滿洲名哲羅魚(チェーローユイ)、ロシア名タイメン)

(3) **コクチマス**(滿洲名細鱗魚(シーリンユイ)、ロシア名レノーク)

(4) **ウオノハナ**(滿洲名班鱒魚(パンツンユイ)、ロシア名ハリウス)

(5) **ウスリーシロサケ**(滿洲名搗子魚(タオツーユイ)、ロシア名シーグ)

(三) **鯉科の魚**

(1) **コヒ**(滿洲名鯉魚(リーユイ)、ロシア名サザン)

(2) **フナ**滿洲名鯽魚(チーユイ)、ロシア名カラシ)

(3) **クサクヒウオ**(滿洲名草根魚(ツァオケンユイ)、ロシア名アムール)

(4) **シタメ**(滿洲名胖頭魚(パントウユイ)、ロシア名トロストロビーク)

(5) **ボウウオ**(滿洲名杆條魚(カンチャオユイ)、ロシア名ネリマ)

(6) **カハヒラ**(滿洲名白魚(パイユイ)、ロシア名ウエルホーグリヤート)

(四) **カモグチ**(滿洲名狗魚(コウユイ)、ロシア名シチウカ)

(五) **カムルチ**(滿洲名黑魚(ヘイユイ)、ロシア名ジユメゴロフ)

(六) **ケツギヨ**(滿洲名鰲花魚(アウファユイ)、ロシア名エルシ)

(七) **ナマズ**(滿洲名鮎魚(ネンユイ)、ロシア名ソム)

開拓地

開拓・現勢

昭和十六年度（康德八年）は滿洲開拓政策第一期五箇年計畫最終年度として、入植計畫其他各種事業の發展は頗る注目されてゐるが、內鮮開拓民入植數において十六年五月既に五萬七百餘戸十七萬六千餘人を數へ、此の外青年義勇隊約五萬人、勤勞奉仕隊三萬餘人を記錄した。斯くの如く滿洲開拓も着々進捗し、第一期開拓五ケ年計畫はあらゆる惡條件を克服して豫期以上の實績を收めつゝある。卽ち開拓政策實施以來の詳細な入植實績を見れば左の通りである。

一、集團開拓民

（康德八年五月一日現在）

	團數	入植戸數	入植人員
第一次（大同一）	一	三〇一	一、三六六
第二次（大同二）	一	四八〇	一、四一六
第三次（康德一）	一	二〇九	九三三
第四次（康德二）	二	四三〇	一、四一六
第五次　康德三）	四	一、〇四〇	三、四四四
第六次（康德四）	一八	三、九一四	一三、一三七
第七次　康德五）	三二	四、二一五	一三、九三三
第八次（康德六）	四〇	五、七八三	一五、三六四
第九次（康德七	六二	三、六〇一	八、五〇五
第十次（康德八）	二九	一、一二七	一、三七〇
第十次特設（同）	五	一五八	一七八
合計	一九五	二一、三二八	六〇、〇七〇



二、集合開拓團

（康德八年五月一日現在）

康德四年度	二	一九七	四九六
康德五年度	一	一四八	一五四
康德六年度	六	三三二	九〇四
康德七年度	四〇	一、二九〇	三、三一一
康德八年度	一三	二〇一	二五九
合計	六二	二、〇六八	五、一二四

三、鐵道自警村（集合開拓民）

康德二年度	六	六八	二四八
康德三年度	七	一二六	四〇三
康德四年度	一〇	二四六	七九七
合計	二三	四四〇	一、四四八

四、分散開拓團

（康德八年五月一日現在）

大同一	一	六七	三四一
二	一	五四	一七五
康德二	二	九二	二八七
三	六	四〇一	一、八四四
四	四	九三	三二三
五	一八	七四二	二、三四〇
六	二二	八〇八	二、五二四
七	一二	三〇三	八三三
計	六六	二、五六〇	八、六六七

五、朝鮮人開拓民

（康德七年十二月末）

		戸數	人員
康德四	集合	二、四七八	三、九五一
康德五	集合	二、八五四	一四、四二七
	分散	四、四五五	一三、〇二一
	計	七、三〇九	二七、四三八
康德六	集合	四、九八一	二六、八六一
	分散	三、一八一	一〇、三八〇
	計	八、一六二	三七、二四一
康德七	集團	二、八〇七	九、三三一
	集合	一、一八五	六、二七〇
	分散	二、四一〇	七、五九三
	計	六、四〇三	二三、一九四
合計		二四、三七一	一〇〇、七〇四

六、青年義勇隊

康德五年度	一八、八七一人
康德六年度	一〇、五九二人



康德七年度　七、七四二人
合　計　三七、二〇五人

七、勤勞奉仕隊

康德六年度　一〇、三九六人
康德七年度　一一、三九八人
合　計　二一、七九四人

開拓政策

基本方針

滿洲開拓は悠久にして光輝ある過去と、雄大にして光明ある未來とを有する。過去とは悠久二千六百年の昔盟邦日本の建國と二千六百年間の日本の發展であり、未來とは東亞新秩序の建設更に道義世界の創建である。

當初滿洲開拓の叫ばれた要因としては（一）國防的見地よりの必要（二）日滿を通ずる食糧、飼料の增産（三）日本農村の過剩人口の合理的分散の三つが擧げられ、而も右のうち（三）が最も大きな理由として取り上げられてゐたが、支那事變發生後の東亞新事態は急速に開拓政策の擴充を要請するに至つたのみならず、之が基本方針に再檢討が行はれるに至つた。

即ち昭和十四年日滿兩國閣議に上程公布された要綱に示めされたものは、開拓政策によつて支那事變を契機とする東亞新秩序建設の理想實現のため道義的新大陸政策の據點を培養確立するを目途とし、特に日本内地人開拓民を中核として各種開拓民及び原住民との調和を計るところに最重點を置き、日滿不可分關係の强化、民族協和の達成、國防力の充實と產業の振興を計り、併せて日滿兩國の農村發展に寄與せんとするものである。

之によつて開拓政策は從來のものと因果關係が逆轉して日本内地の過剩人口の消化、或は日滿農村の更生を目指してのみ行はれるものではなくなり、この開拓政策の一大轉換によつて、日本の發展と滿洲の建國、續いて東亞新秩序の建設、東亞共榮圏の確立から更に、世界新秩序の建設へと進む道義日本八紘一宇の理想は、開拓協和の實踐を通じて日本開拓民が逞しく進めることになつたのである。

入植計畫

【日本内地人農業開拓民】大同元年（昭和七年）より康德二年（昭和十年）迄に入植した約千八百戸の先驅開拓民の實績に鑑み、康德三年（昭和十一年）八月、日滿兩國政府は日滿兩國を貫く一體的主要國策として二十ヶ年間百萬戸の大量開拓民入植計畫を樹て、康德四年（昭和十二年）より其の實施に着手した。

【朝鮮人農業開拓民】國内既住鮮農の定着安定を企圖するを主とする外、康德四年度より每年概ね一萬戸を限度として入植せしめ、統制ある指導援助を行ふことゝなつてゐる。

【內國開拓民】水力電氣建設、土地改良事業等に伴ふ水沒地內原住民及開拓用地より移轉を要する原住民に對しては、物心兩方面より生活の安定を圖るため、內國開拓民助成事業特別會計を設け、康德六年より實施してゐる。

【滿洲開拓靑年義勇隊】十六歲より十九歲に至る純眞な內地の靑少年を在滿各訓練所に收容し、滿洲現地の事情に通ぜしむると同時に民族協和、日滿不可分の理想を實踐把握せしめ、且つ心身を練磨し、農業技術を修得せしめ以て將來農業開拓民として定着せしむることは、滿洲開拓事業の本義達成上極めて有效適切なる方法として康德五年度（昭和十三年）より每年三萬人宛を送出することゝなつてゐる。

二十箇年間百萬戸入植計畫表

期別	期間 昭和	期間 康德	戸數	內譯 集團開拓民	內譯 集合開拓民
第一期	自一二至一六	自四至八	100,000	70,000	30,000
第二期	自一七至二一	自九至一三	200,000	120,000	80,000
第三期	自二二至二六	自一四至一八	300,000	140,000	160,000
第四期	自二七至三一	自一九至二三	400,000	170,000	230,000
計			1,000,000	500,000	500,000

沿革

滿洲開拓運動の沿革については遠く明治三十八九年の昔に遡つて記るすべきであるが、紙面の都合上滿洲事變後の開拓民運動より述ぶることゝする。

【集團開拓團】集團開拓團は開拓農民の基幹をなすものである。拓務省が軍部及び滿洲國の協力を得て、始めて五百名足らずの第一次集團開拓民を北滿に送つたのは昭和七年であるか、昭和十六年度に於て既に第十次を數ふるに到つてゐる。

第一次開拓團は匪賊跳梁のため、たゞちに入植地永豐鎭（現彌榮村）に入ることが出來ず、約半歲の間佳木斯の警備に當つて居り、又第二次開拓團は、既に苦闘七ヶ月に亘つて築き上げた七虎力の地を匪賊のために捨てゝ、現在の千振街（湖南營）に移るの止むなきに至つたと云ふ血みどろな所謂「試驗移民」となり、兩團を通じ戰死者も三十餘名を數へた。

然し皇軍の絕へざる討匪行と五箇年に亘る三十餘回の交戰に於て團員が示した果敢な戰闘振りは、漸く匪賊に「開拓團恐るべし」の信念を植へ付け、地域内には殆ど近づかなくなつた。斯くて昭和九年の第三次以來は治安が非常に良くなり、開拓地內では餘り戰死者を出してゐない。

それと同時に豐穰な黑土と、淸澄な流は、滿目の田畑に黃金の波を漂はせ、米、味噌、醬油や野菜類等の生活必需品は勿論、酒から菓子類に至るまで、孰れも自給自足の域を超へ、附近の軍隊や滿人街に賣り出してゐるところもある。

治安と生活の安定は花嫁の招致となり、健康と若さと新婚の三拍子は出產能率百パーセントを擧げ、戰傷や市黴病の荒療治に忙しかつた醫師は一轉して產科と小兒科に轉向、村から村へ馬を走らせてゐる。

而も二十年間百萬戸五百萬人の移住計畫は、日本に於ける分村の運動と滿洲開拓靑年義勇隊の新編成により、十年間にも短縮されようとしてゐる。大和民族が二千六百年の島國民より一轉して大陸國民となる可き轉機を意味するものであり、正に民族移動の大行進である。

滿鐵も鐵道自警村及滿鐵訓練所の經營はもとより、此の一大國策に順應し、五百萬人輸送に對し最高度の奉仕を開始してゐる。

斯くて全滿四百餘箇所の曠野に日章旗飜り、集團、集合の各開拓團員に靑年義勇隊員を倂せて十萬餘人が、每朝東天を拜して「君が代」と「愛國行進曲」を合唱してゐる。

【集合・分散開拓團】集合開拓民竝分散開拓民は以前自由移民と稱され、滿拓公社の前身たる滿洲拓植株式會社の設立以前に於ては僅かに鏡泊學園、天照村（現一棵樹開拓組合）天理村の外各地鐵道自警村を數へるに過ぎなかつたが、國策開拓民事業の實施以來俄かに多きを加ふるに至つた。

現在に於ては集合開拓團、分散開拓團、鐵道自警村等合計百四十餘團、團員も一萬

五千名を超ゆるに至つた。

二　關係機關

滿洲開拓事業は日滿共同國策として着々其效果を收めつゝあり、之に關しては兩國に於ける色々な機關が、日滿兩國民の總意を擔つて緊密な聯絡の下に有機的な活動を行つて居る。

滿洲側に於ては開拓總局を中心とし、滿拓、土地開發、滿鮮拓等の民間機關を有し、更に日滿共同國策たるの特質に鑑みて設立せられた滿洲拓植委員會が事務局を新京に置いてゐる。日本側に於ては拓務省、農林省を中心に、民間機關としては滿洲移住協會がその中心となり之に當つてゐる。在滿關係諸機關を主とし左に其概要を述べることゝする。

【滿洲拓植委員會】 所謂「二十箇年間百萬戸計畫」の決定に基き、之が完遂を期するため滿洲拓植公社を創設することゝなり、日滿兩國政府は「滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定」を締結したのであるが、其の協定第十四條に基いて、滿洲拓植公社の業務監督竝に滿洲開拓政策に關する一切の事項につき、日滿兩國政府に建議する目的を以て昭和十二年九月一日設立せられたものである。そして之が機關として新京に事務局を設置したが、委員會は日滿兩國より各七名計十四名の委員と隨員より構成されてゐる。（所在地、新京市大同大街康德會館內）

【開拓總局】 滿洲國內の未開地域に於ける未利用地の開發と、開拓民事業との一元的綜合運營を期する爲開廳されたもので、其所管事項は未開發地に於ける未利用地の取得、開發竝に開拓民に關する事項であつて、新機構開設の主眼とするところは、國內約一、ア〇〇萬陌以上と推測される可耕未利用地を取得開發し、農地造成、森林牧野の決定等、專ら國土開拓利用を圖り、產業の開發を促進せんとするにある。

而して之等の國土開拓地域に於ては、開發農地の分配を最も合理的ならしめ、滿洲原住農民、日本內地人開拓民、移住鮮農等の農地利用を調和し、以て日本內地人開拓民の促進を圖ると共に、國內的には耕地過少農家の國內移住、移住鮮農の定着等をも圖り、常に民族協和の理念を基調とする道義國家の建設を促進せんとするものである。

開拓總局は以上の如く、滿洲開拓政策に關する政府の主務官廳として昭和十四年一月一日設立され、同年十二月、日滿閣議決定に依る開拓政策基本要綱に從ひ、十五年二月一日その官制を改正して更に擴充整備されるに至つた。この外地方行政機關としては十省に開拓廳があり、二十五縣に開拓科、七十六縣に開拓股が設置されてゐる。（所在地、新京市至聖大路）

【滿洲拓植公社】 滿洲國政府は昭和十年十二月、資本金二千萬圓を以て日滿兩國朝野支援の下に滿洲國法人たる滿洲拓植株式會社を設立したが、大量入植計畫樹立による開拓政策の進運に伴ひ、昭和十二年八月日滿兩國間に締結された「滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定」に基いて資本金五千萬圓を以て新に創設された日滿兩國に籍を有する特殊法人である。資金の調達を容易ならしむるため、拂込資本金の十倍迄社債發行を認められてあるのみならず、社債元利支拂につき、日滿兩國政府に於て保證をなすことゝなつてゐる。

其の業務は、移住者に必要な施設及其經營、移住者に對し資金の貸付、移住用土地の取得竝に管理と分讓、移住者に必要な事業の經營を目的とする會社又は組合に對する出資及び金融、滿洲開拓青年義勇隊訓練所の經營等で、滿洲國內に入植する日本內地人開拓民の總てに對して、實際的な保護、助成、指導の一切に當る目的を有するもの

で、十五年四月一日機構の改正を行ひ、總裁室、開拓部、土地部、需品部、需品事務所、工務部、監察、地方事務所、出張所、東京及京城支社に分れた。

尙在滿既住一百萬を算する朝鮮人農民を統括撫育し、其生活安定、新規開拓民の入植斡旋竝助成を目的として、昭和十一年九月資本金一千五百萬圓の特殊會社として設立せられた滿鮮拓植株式會社は、昭和十六年六月一日を期し滿洲拓植公社に統合された。（所在地、新京市大同大街康德會館內）

【滿洲土地開發株式會社】 昭和十四年六月、資本金二千萬圓（政府全額出資）を以て設立せられ、政府、公共團體、滿拓、鮮拓の取得せる未利用地の開發工事請負を其主要目的としてゐる。（所在地、新京市新發路二〇七號）

【南滿洲鐵道株式會社】 鐵道總局附業局拓植課に於て、所管鐵道自警村竝に青年義勇隊滿鐵訓練所を經營してゐる外、昭和十四年四月牡丹江省橫道河子に開拓科學研究所を新設し、開拓民の勞働、生活方法に對する科學的なメスを加へつゝある。又日滿兩國政府に協力して滿拓、鮮拓等に出資し、奉天醫科大學及び沿線各地の鐵道病院をして、開拓民の保健、診療に協力してゐる。

尙集團開拓民及び其家族と青年義勇隊の內地より移住に對し、乘車賃竝引越荷物を無賃扱となし、其他開拓民の移動及開拓民用貨物等に對しては概ね運賃五割引の取扱を爲す等五百萬人輸送に對して最高度の便宜を與へてゐる。（所在地、本社大連市東公園町、鐵道總局奉天市春日町）

【訓練本部】 日滿兩國政府及び協和會、滿拓、滿鐵等關係機關の合作になるもので、從來滿拓及び一部滿鐵で行つてゐた青年義勇隊の訓練に就て、其指導竝に經營に關する方策と管理運營の主體とを確立し、又一貫的指導を與へるものとして、其設立は劃期的意義を有するものである。本訓練本部は、昭和十四年決定をみた滿洲開拓政策基本要綱に基き、翌十五年三月、勅令第四七號を以て法令が公布され、四月一日開設、超えて翌八年八月主要九省に支部を新設した。目下事務所を興農部內に置いてゐる。（所在地、新京市至聖大路）

【滿洲帝國協和會】 協和會は獨自の立場から青年義勇隊及開拓團に對して、精神的、文化的指導援助をなし、更に開拓政策の遂行に伴ふ原住民の輔導に萬全を期し、民族協和の主旨を徹底せしめ、日滿兩國々策としての開拓政策の目的遂行に遺憾なからしむるを以て目的としてゐる。

實行機關としては中央本部實踐部に開拓科を、省本部の指導科に開拓係を特に設けてある。（所在地、新京市大同大街）

【拓務省】 滿洲開拓事業の一般的行政監督指導は、日本側に於ては拓務省が當つてゐる。滿洲開拓事業が開始された當時は、同省管理局が其衝に當つてゐたに過ぎなかつたが、昭和十年四月拓務局が新設され、一切の滿洲開拓行政事務が此處に移つた。そして更に「東亞新秩序建設の爲道義的新大陸政策の據點培養の確立」をその主內容とする開拓政策基本要綱の決定と相俟つて、同事業の飛躍的大發展に即應すべく、昭和十五年末拓務局は解消されて、新に拓北局と拓南局の新設をみることゝなり、滿洲開拓關係は一切現拓北局の管理、開拓、青年、輔導の四課が取扱ふことゝなつた。（所在地、東京市麴町區西日比谷）

【滿洲移住協會】 滿洲開拓事業の統一ある發展を助成し併せて滿洲產業開發に資する目的の下に、開拓事業の促進竝に後援、開拓事業に關する調査宣傳及び紹介、移住者の斡旋、移住者の訓練、宿泊所の設立及經營其他開拓事業達成に必要な一切の事業を內容とする拓務省の外廓機關である。

茨城縣内原に拓務省から委任された「滿蒙開拓青少年義勇隊訓練所」を始め「滿蒙開拓幹部訓練所」を經營し、又新潟に「開拓民渡航宿泊所」をも經營してゐる。（所在地、東京市麹町區内幸町二ノ一、大阪ビル内）

【其他】 大體以上が日滿の主なる助成機關であるが、此の外にも次の樣な助成、調査、研究、弘報、宣傳機關があつて、夫々擔當部門から日滿を貫く重要國策の遂行に力を注いでゐる。

移民事務處理委員會、開拓委員會、林野局、關東軍、在滿教務部、興農部農務司、興農部畜產司、治安部警務司、治安部馬政司、交通部道路司、交通部水路司、交通部郵政總局、民生部社會司、民生部保健司、日滿農政研究會、大陸科學院、開拓研究所（以上新京）開拓科學研究所（横道河子）國立農事試驗場、國立緬羊試驗場、（以上、在滿八箇所）農林省、文部省、陸軍省、商工省、厚生省、外務省、對滿事務局、大日本青少年團、農村更生協會、帝國農會、產業組合中央會、海外婦人協會、日本學術振興會、日本放送協會、大陸開拓文藝懇話會、滿洲開拓協力協議會、滿洲開拓館（以上東京）各道府縣廳、鮮滿拓植株式會社、朝鮮移住協會（以上京城）等。

開拓民の構成

集團開拓民

日本人農業者が個々散々に、又は十戸二十戸の小數で、現在のやうな北滿奧地に入植しても、到底生活の出來ないことは明かである。

又假に生活して行けるとしても、日本人としての生活に最少限必要缺く可からざる社會施設即ち衞生、教育、通信等の諸施設を行ふことは到底出來ないのであるから、勢ひ二百戸乃至三百戸の集團をなし、據點を形成して入植する必要があるのである。

又經營方面に就ても同樣であつて、假りに多くの人々の抱く杞憂のやうに、先住農民との間に經濟的競爭を避け得ない場合がありとしても、集團開拓民ならば個々の經濟力を結合せる協同組合の活動によつて、個々散々の先住農民層に打ち勝つことは容易である。殊に先住農民が總ての經濟活動に於て、搾取の對象となつてゐるに反し、集團開拓民は協同組合の經濟的活動によつて、搾取なき自作農のみの理想農村を創設する事が出來るのである。この集團開拓民の渡航費、個人施設等に對しては個別補助として日本國政府より、團本部建設費、共同產業施設費、醫療施設費、地區内道路及電話費等に對しては日滿兩國政府より、地區外道路費、地區外警備電話架設費其他滿洲國内に於ける施設に對しては滿洲國政府より夫々全部又は一部の補助がある。之等の助成金額は一戸當り合計三百戸集團にあつては約一、七九二圓、二百戸集團にあつては、約二、〇六八圓で、右の外團入植後五箇年間を限り各團六名乃至七名の指導員を附し、其の俸給及旅費等は日滿兩國政府折半負擔となつてゐる。又入植當初の經營資金は一戸當約一、九〇〇圓を限度として滿拓より貸付けられる。

開拓地の經營は先遣隊の入植に始まり、團共同經營及部落共同經營の過程を經、數年にして個人經營に至るを常としてゐる。個人に分割される土地は毎戸概ね可耕地十陌（内水田一陌）の外總有の放牧採草地及び薪炭備林地若干がある。作物は大豆、小麥を大宗とし、玉蜀黍、燕麥、大麥等の外、水稻及び一般蔬菜類竝に特用作物も作付けてゐる。

開拓地の農業經營は自給自足、自作自營を目標とするも、入植日尚淺い現狀に於ては未だ其理想に達せず、純自家勞力に依る

耕作地と認むべきは五陌未滿の面積にして他は多く滿人勞働者又は小作人の勞力に依存してゐる現狀である。然し之についてはあらゆる助成、調査、研究機關が目下農法の研究改良に努めつゝあるので、近い將來に於ては右の理想も必ず實現を見るであらう。

尚集團開拓民は入植と共に神社、教育施設及び衞生施設を各團に設置する外、共同產業施設としては生產物の加工調製、農具の共同利用及び信用業務等集團經濟の合理化を圖るため、入植地の事情に應じて色々の施設がある。

集合開拓團

康德七年度以降從來の自由開拓民の移住形態を集合と分散とに分ち、政府に於ては集團開拓民同樣に積極的に募集入植を計ることゝなつた、本開拓團は集合部落の結成を目的とし、三十戸乃至百戸程度を以て構成し、概ね集團開拓民に準ずる。交通產業上重要地點に一地區五十戸を標準戸數として入植せしめ、纏り易い形態であるため、分村分鄕計畫樹立上、大量送出困難な場合に於ては、この集合形態によると容易に一團を結成して送出し得る。營農の形態は適地即應によることは勿論であるが、多種多樣の立地條件により特殊な農業形態を採る場合が、集團開拓民よりも比較的に多い。各種の共同施設は小規模で足り、比較的短期間に建設し得るとか、既設のものを利用する等建設に長期間を要することなく、共同經營より組又は個人經營に移行する期間が短く、從つて營農の進度も速かな傾向にある。

此開拓民に對する助成は、醫療施設に對する補助を缺く外、概ね集團開拓民に準じて五十戸集合に於て一戸當約一、六三二圓となつてゐる。指導員は大概五十戸に付一人を附してあり、滿拓の資金融通も亦集團の場合と同じである。

分散開拓民

分散開拓移住形態は、開拓農民の自立を目途とする三十戸以下を以て入植するのであり、日本人農家として醫療及び子弟の教育に支障を來さぬやう、既設の社會施設たる醫院、學校等を利用し得る地域に入植することが前提となる。集團、集合開拓民は、開拓の據點を建設することゝなるが、本開拓民は之等の據點の近傍に入植するのである、既設開拓地區又は其隣接地に緣故開拓民として入植するもの及び、衞生に支障なき都市近郊又は街村内に入植する小戸數を以て構成する開拓民も分村開拓民として取扱はれる。

分散開拓民は拓務省に於て募集を行つてゐないが、入植希望者は豫め入植せんとする地區につき、土地の取得が出來るかどうか、現地の縣と連絡の上見透しをつけ、經營可能と認めたならば、自由移民取扱規則に基き入植認可申請書を提出するのである。

經營に要する資金は緣故開拓民は滿拓より、其他は興農合作社又は滿拓より融資を受け得る外、拓務省より入植後一戸當り平均二百圓の渡航補助と四百圓の個人施設補助とが交附される。

滿洲建設勤勞奉仕隊

滿洲建設勤勞奉仕隊は、昭和十四年度より實施されてゐる事業で、其主眼とする處は、滿洲建設の重要性に鑑み、且つは日滿共同防衞の見地から、日滿を通ずる食糧及び飼料の增產、竝びに國防建設に寄與するため、主に日本内地の學生生徒、男女青年團員等を動員し、土木、農耕、牧畜及び開

築等の作業又は、教學、醫療、測量、建築、家事等の特務に從事せしめるものである。そして之等の實踐を通じて滿洲建國の理想を把握し、興亞の大精神を體得し以て開拓事業の推進に資する處あらんとするものである。

勤勞奉仕隊の運營は、日本にあつては官民各機關の協力一致による滿洲建設勤勞奉仕隊編成本部が設置されて之に當り、文部省、拓務省、農林省等が分掌してゐる。又滿洲側にあつては、開拓總局を中心として、滿洲國政府機關、協和會、滿拓、滿鐵其他關係機關の合作に依る滿洲建設勤勞奉仕隊實踐本部が之に當つてゐる。

奉仕期間は一農年中概ね一ヶ月乃至三ヶ月で、毎年約一萬五千人程度が編成され、經費は日滿兩國に於て負擔することゝなつてゐる。

開拓地の視察

總論

どんな視察旅行でも先づ出發に先立つて周到な準備と計畫が必要であるが、殊に開拓地の視察は開拓事業そのものが重要なる國策であり、開拓農民、青年義勇隊は、東亞新秩序建設の第一線を守る鍬の戰士として自覺と信念に燃へて生活して居るのであるから、一般的な旅行や觀光地視察等の場合と違つた特別の心構へと豫備智識と計畫が必要である。開拓地の視察はその目的に依つて場所、期間、要點などを異にするから、全くの無準備では種々の困難や障害があり、殊に現地の人々を始め、關係者に大きな迷惑を及ぼす。また開拓地は北滿を中心に全滿に分布して居り、各々經營形態にも特徴を持つて居るから杜撰な視察プランでは有意義な視察も順調に行かない虞がある。視察の目的を充分に果す爲には、どうしても參考資料、其の他に依つて十二分に開拓地の狀況を研究して遺漏ない準備と計畫を立案しなければならない。

左の各項は開拓地視察者の心得として絶對に必要であり之は開拓地よりの聲でもある。

一、豫備智識を豐富にすること
二、自己の主眼點を決めること
三、視察の動機、目的、希望を到着と同時に明示すること
四、日程中開拓地滯在日數は充分考慮に入れて立案すること
五、日程立案の際都市觀光は第二義的とすること
六、視察者は困苦缺乏に耐ふるの覺悟訓練を必要とする
七、團體編成の場合引率者（責任者）に絶對權を與ふること
八、日程變更は嚴禁すること
九、現地で不用意な言動は愼むべきこと、感想、批判、意見は必ず責任者に申述べること
十、視察は通り一邊でなく根本を摑むこと

視察の手續

視察地と人員が決定したらば事前に鮮滿支案内所（滿鐵經營―東京、大阪、名古屋、新潟、小樽、敦賀、門司、下關、長崎）に連絡すると便宜を與へて吳れる。連絡には團體名簿に、視察地、視察日程（特別地帶立入の際は其證明書を添附）を添へて申込まれたい。尚左の關係機關の何れか一箇所宛へも視察日程に名簿を添へて依賴して置く必要がある。

滿拓東京支社　東京市麴町區內幸町大阪ビル

滿洲拓植委員會事務局　新京大同大街康德會館內

開拓總局總務處　新京至聖大路

滿洲拓植公社總務部　新京大同大街康德會館內

この事前連絡は一ヶ月以前にされると現地との打合せも順調に行はれ、視察する方も又される方も、雙方共に手違ひもなく非常に便利である。以上のやうな連絡を取らず勝手に開拓地を訪れる人達があるが、之は開拓團、訓練所に非常に迷惑を及ぼすから、是非注意して欲しい。

視察の時期

開拓地は一年中を通じて多忙であるから暇な時期がないと云つても過言ではない。强ひて云ふと、四月から十月中旬迄最も忙がしく猫の手も借りたい時期である。視察者は各々の目的に依つて適當な時期に行くより他に致方ない。北滿を中心とした季節の特徴を一瞥すると大體次のやうなものである。

【春】四月中旬より同月下旬までは永い半歳の多から解放されて愈々整地、施肥、播種が始められる時である。鈴蘭、菖蒲、姬百合など、內地の花の種類よりも四百種も多いと云はれてゐる色とりどりの美しい花が咲き續くのも此の頃である。六月にもなると新綠に包まれ、開拓地は除草期に入る。

【夏】七月下旬から八月下旬までは所謂雨季であるが、氣候が大陸的で內地の梅雨期のやうな事はなく、比較的雨が多いと云ふ程度で、朝夕は凉しく極めて凌ぎよい。作付狀況を見る爲には一番この時期が良い。

但し北滿は濕潤地が多く、道路も惡いので、長靴、雨具等の用意を必要とする。

北滿、東滿地方は日照時間が長く午後九時、十時頃迄明るく、最高溫度は東京と大差はない。

【秋】九月に入るとすつかり凉しくなり、毎日上天氣が續き、視察にも最もよい季節である。開拓地は刈入れに大多忙で、視察の時期としては適當であるが、現地の人達の仕事の邪魔にならぬ樣に注意しなければならない。

早い所では中旬に初霜を見、遲い所でも九月末までには降霜期に入る。

【冬】十一月から翌年の三月頃は所謂酷寒期であるが、三寒四溫といつて三日寒さが續くと四日暖い日が續くといふやうに循環氣候で自然に緩和されてゐる。最低氣溫は所によつては零下四十度と云ふのもあるが、日中は二十度乃至二十五度程度で、防寒具（防寒帽、防寒靴、厚手のオーバー、毛絲の手袋、靴下等）を準備して居れば心配は要らない。十一月、十二月は未だ大して寒くなく、收穫物の脫穀、調整、輸送とその出廻りが盛んで、一月に入れば森林伐採なども行はれ交通も活潑になる。冬は一番活氣のある時期で、滿洲の冬の生活を見るのは開拓地生活の基礎を視察する事であつて、開拓民の眞相とその勞苦を知るには是非この季節を求められたい。

視察地の選定

第十次迄に於ける開拓團は總數三四六に上り、これは更に集團一九五集合六二分散六六等に分れ、青年義勇隊も大本部、中本部、小本部、小及び特別訓練所等合計九一に及んで居つて、此等全部を視察することは到底不可能である。それで視察者は自己の目的、期間、地域の關係を考慮し、現地の事情を充分に研究して、適當に視察地を選定しなければならない。

從來の視察者は第一次彌榮、第二次千振の二個所が大部分を占めて居つたが、是等は集團開拓團として最も古く、從つて施設も整ひ、家族生活の歷史も他に比して長く落付きもあり、更に交通の便も比較的良い

からである。然し此の二個所をのみ視察して、全開拓地、開拓民を推測することは大きな誤りであり、彌榮、千振は各々その土地の特殊環境、特殊の發展過程、特殊の色調を持つてゐるのであつて、地域を異にする團にあつては必ずしも同樣ではない。むしろ各々其特色を持ち悉く異つてゐると云つてもよい。故に事情の許す限り、集團、集合、訓練所の三種を新舊都合よく取り合せて視察する事が理想的であり、滿洲開拓の概念を摑む要諦である。

日程の編成

日程の編成に當つては各自、各視察團の事情、視察目的によつて短かきは十數日長きは數箇月と云つたやうに各種各樣であるとは止むを得ないが、一番大切な事は視察地を慾張らぬことである。視察箇所が多過ぎて一箇所を數時間又は夜着いて早朝出發するやうでは本當の目的を達することは出來ない。地形や家屋の外觀を見たゞけで開拓地や開拓民を語り、更に開拓政策の成功、不成功を論ずるのは實に危險である。一開拓團は何れも一萬町歩前後から、四、五萬町歩にも及ぶ廣大な土地を占め、東西二里、南北二里、といつた地域であり、戸數も二百、三百で、第六次以前の開拓團になると、戸數が更に五乃至七箇所にも分散して遠い部落は本部から三里以上も離れてゐるのもあり、經營形態も色々な特色を持つてゐるから、是等を二時間や三時間で視察する事は到底不可能な事である。ゆつくりと團長、幹部、團員達から話を聞いて漸くその概貌が判るのであつて、現地の正しい認識を得ようとすれば團員達と寢食を共にするだけの日程が必要である。視察者の來團は迷惑ではあるが、一面懷かしい鄕土或は内地のニュース、變つた話等を聞く事を非常に樂しみにしてゐるから視察團の心構へ一つでは慰問團の役割を果すことにもなり、さうなると視察の意義も決して小さいものではないと思ふ。以上の點からしても開拓地視察には、一團に少くも二、三日の日程が必要であらう。

視察態度

【開拓團の場合】 鄕に入つたら鄕に從への諺通り開拓地に到着したなら、肩書はすつかり脫ぎ捨て、裸の人間にならなければいけない。徒らに名刺の肩書を振り廻すと開拓民には迷惑である。頭を低くし、手足をマメに働かして氣易く彼等の中に飛込んで行かうとする心構へこそ最も大切なことである。

以上の樣な心構へで附屬事業其他の現況を精細に視察すると共に、團員と膝を交へてその手柄話や苦心談や不滿を聞き、更に彼等の希望の中から本當の開拓地と開拓民の姿を見出すべきである。又團員の話は素朴で純粹で僞りはないが一面的であるから、幹部の意見やその他の狀況を綜合して嚴正に考察する必要がある。内地の生々しい事實や無責任な好景氣の話は、百害あつて一利なしであり、一つとして開拓民を慰め勵ます性質のものではないから、不用意に話すべきではない。その及ぼす影響は重大であり結果をも充分想像しなければいけない。

【訓練所の場合】 訓練所は學校教育と軍隊教育とを混淆して總てを一定の嚴格な規律の下に訓練してゐるから、外來者はこれ等の訓練生に惡い影響を與へる樣な言動は愼まなければならない。だらしのない服裝、規律のない行動、勝手氣儘な出入等は特に注意しなければならない。少くとも軍隊視察と同樣な心構へが必要である。何分義勇隊運動が始まつてから漸く三年を經たばかりであり、訓練所によつては、建築、施設が漸く緒に就いたばかりの所もある。設備

にしても、訓練方法にしても一日々々と改良、工夫が加へられてゐる。從つてかう云ふ事柄を考慮に入れて視察しなければ、その批評も視察も蓋し適正ではない。訓練生に接する場合は、肉親の情をもつて云ふことを聞いてやり、眞心から激勵してやることを忘れてはならない。

服裝と携帶品

【服裝】 服裝は簡易輕裝がよく國民服、靑年團服は最も適當である。婦人も洋服の方がいゝと思ふ。ニッカーの樣な都會的臭味のある服裝は、困苦の中に建設に邁進してゐる團の人々の緊張した心に緩みを與へる處があらう。些細た事であるが注意をして質實で簡單な服を着けられたい。

【携帶品】 開拓地視察は徒歩連絡個所もあるから、トランク、スーツケースよりもリュックサックが便利である。靴は編上靴、軍隊靴が良くゲートルも必要である。十月から四月迄は冬服で五月、六月、九月、は合着、酷暑期でも朝夕は相當に冷えるから腹卷やセーター類、シャツの着更え二三枚位は用意し、洋傘よりもレインコートの方が携帶に便利である。極寒期には防寒帽、厚手の外套、毛糸の手袋、靴下二枚程度で大丈夫と思ふ。

その他四季を通じて、食當り、水當り防止藥としてクレオソート錠を用意し、地圖、時間表、便覽等の參考資料、水筒、マスク等も持參されたら良い。各自の嗜好によつて異なるが菓子類、茶、罐詰、ノート、封筒、便箋等は部落宿泊中に必要であり不要の時は小さな慰問品としても役立つ。視察の目的に從つて夫々適當慰問品（特に子供の喜ぶもの）の用意をして成るべく持參したなら開拓地の人々も大變喜ぶだらう。

旅館と乘物

開拓地に於ける宿泊連絡は滿拓公社に依賴し、都會地に於ける宿泊、乘物等は東亞旅行社と打合せをして置いたら宜しい。

此の場合、開拓地にしても、又都會地の宿屋にしても止むを得ない事情の爲豫定の變更を生じた時は、直に關係方面に連絡しなければいけない。電報等も内地と違ひ一日や二日前では間に合はぬ場合も多いから、決定次第早速連絡しなければならない。

滿拓から視察者の來團通知を受取つた團本部では、早速係（團に宿泊設備の無い處は各部落長）に其旨通報し係は其用意の爲に自分の作業を中止して宿舍の割當や食事の準備をして歩くし、部落長や村長の指令を受けた各團では、不便の中から色々と頭を使つて夜具や食事の用意をして待つて居る。又都會地の宿屋では多くの客を斷つて用意してゐるのであるから、勝手に豫定を變更され、その上何も連絡ないとなると、精神的にも物質的にもその影響は可なり大きいものと考へねばならない。從來視察團或は視察者の中に、雨が降つたから、道が惡いから等の理由で、簡單に豫定を變更したり、手近の所へ勝手に宿泊する者が多かつたやうだが心しなければならない點である。

乘物依賴も同じで、驛から開拓地への交通は主にトラックによるが、手配を依賴してあつても之にのみ賴つてはならない。都合よく驛へ貨物等を受取りに來る便があればよいがさうでない場合、特に視察團の爲に用意するのは非常な犧牲である。然し聞くところに依ると、乘物依賴をしてある場合乘れるのが當然で、乘れない場合は不誠意だと考へてゐる人が多く、又淳朴な團の人達が遠慮してゐるのをよい事にして便乘料を支拂はない視察者が多いと云ふ事である。勿論相手は交通會社ではないのだか

ら、一人幾らと云つて支拂ふ必要はないが、相當の謝禮は團の會計か、或は世話役を通じてガソリン實費として支拂ふのが當然の事と思ふ。開拓團にとつては最も精銳である武器がトラックである事を忘れてはならない。

尙鐵道沿線旅館は大體茶代廢止が實行されて居り、女中其他への心附も宿泊支拂額の一割でよい。

注意事項

【撮影模寫禁止地帶】左記の場所は要塞地であるから司令官の許可がなくては寫眞の撮影、又は模寫（スケッチ、要塞地形を想像せしめ得る文章の記述）等は絕對に出來ない。

下關、門司附近の下關要塞地帶
釜山附近の鎭海要塞地帶
鴨綠江鐵橋附近一帶
大連及其附近、旅順及其附近
淸津、雄基、羅津の一帶
圖們鐵橋附近

尙新潟、敦賀、神戶港は要塞地帶ではないが、軍機保護法に依り被寫體より俯瞰二〇米水陸形狀又は施設物の狀況を撮影する事を禁止されて居る。

滿洲國內は滿洲國勅令軍機保護法に基き、治安部令に依る特別地域は左の通りである。

間　島　省―琿春縣
牡丹江省―東寧、綏陽、穆稜縣
三　江　省―撫遠、同江、綏濱、蘿北、富錦、鶴立縣（梧桐河以南を除く）
北　安　省―北安縣（訥謨爾河以南を除く）
東安省全部
黑河省全部
興安北省全部
興安東省―布特哈旗火燎溝附近、喜扎嘎爾旗綽爾河上流地方

【滿洲國特殊地帶と旅行手續】滿洲國の前記特殊地帶を視察する場合は特殊地帶旅行許可書を要する。內地視察團は豫め居住地所轄警察署で身分證明書一通を貰ひ、ブローニー半截版の寫眞二葉（六ヶ月以內撮影のもの）を添附し（若し身分證明書の無い時は滿洲在住者の身元引受證を以て之に代ふ）旅行許可願と共に最初の入滿地警察署に提出して旅行許可書の交付を受ける。團體の時は引卒者が代表して前記の書類の外に團員名簿添附の上許可を受ければ宜い。尙急を要する場合は現地滿拓出張所に問ひ合すれば便宜を與へて呉れる。

視察日程の實例

【第一案】視察日數二十一日

視察箇所：集團開拓團　五、集合開拓團　一、義勇隊訓練所　二、計　八

	（發著地）	（發著時間）	（視察地）	（宿泊）
一日	東京發	後一一、〇〇		車中
二日	下關著	後九、二五		
	下關發	後一〇、三〇		船中
三日	釜山著	前六、〇〇		
	釜山發	前八、〇〇		車中
四日	新京著	一三、五〇	開拓關係機關訪問	新京
五日	滯在		同	同
六日	新京發	八、〇五		
	哈爾濱著	一三、三四	市中見物	哈爾濱
七日	滯在		哈爾濱訓練所	哈爾濱訓練所

八日	哈爾濱發	一一、二五	第七次大日向村	
	舒蘭著	一七、四〇		大日向村
九日	舒蘭發	一七、四〇		
	拉法著	二一、〇二		拉法
一〇日	拉法發	一五、四〇	拉法開拓組合	
	哈爾濱著	二二、四九		哈爾濱
一一日	哈爾濱發	八、一〇		
	牡丹江著	二〇、〇二		牡丹江
一二日	牡丹江發	八、四〇		
	彌榮著	一七、二四		彌榮村
一三日	彌榮發	一七、二四	第一次彌榮村 大林子訓練所	
	佳木斯著	一八、五〇		佳木斯
一四日	佳木斯發	九、二五		
	鶴立著	一一、一四	第六次 靜岡村、茨城村	靜岡村
一五日	滯在		同	同
一六日	鶴立發	一〇、〇七		
	佳木斯著	一一、四五		
	佳木斯發	二〇、二五		
一七日	林口著	四、〇二		
	林口發	七、五五		
	永安著	一二、二八	第五次永安開拓團	
一八日	永安發	一〇、二一		車中
	林口著	一五、一〇		
	林口發	一八、二七		
一九日	羅津著	前一一、二五		羅津
	羅津發	――		船中
二〇日	航海			同
二一日	新潟著	――		
	新潟發	前九、三〇		
	上野著	後六、〇六		

【第二案】視察日數十七日

經費概算（二十名團體として一名當）一八五、〇〇

視察箇所：集團開拓團　三、義勇隊訓練所　三、計　六

	（發著地）	（發著時間）	（視察地）	（宿泊）
一日	東京發	前一〇、三〇		車中
二日	下關著	前六、五〇		
	下關發	前一〇、三〇		
	釜山著	後六、〇〇		
	釜山發	後六、五〇		車中
三日	新京著	後二一、一六		新京
四日	滯在		開拓關係機關訪問	
五日	新京發	二三、五〇		車中
六日	哈爾濱著	七、五〇	哈爾濱訓練所	
	哈爾濱發	二三、〇〇		
七日	綏化著	三、〇一		
	綏化發	六、一〇		
	鐵山包著	一〇、〇七	鐵驪訓練所	同上訓練所
八日	滯在		同	同
九日	滯在		北斗訓練所	同上訓練所
一〇日	鐵山包發	一〇、〇七		
	蓮江口著	二一、五六		
	蓮江口發	二三、一二		
	佳木斯著	二三、五〇		佳木斯
十一日	佳木斯發	一〇、四〇		
	彌榮著	一二、二六	第一次彌榮村	彌榮村
十二日	彌榮發	一二、二六		

	千振著	一三、〇六		千振街
十三日	千振發	二三、五二	第二次千振開拓團	車中
十四日	龍爪著	四、二四	第六次龍爪開拓團	
	龍爪發	一八、四一		車中
	牡丹江著	二一、三三		
	牡丹江發	二三、〇〇		
十五日	羅津著	前一一、二五		
	羅津發	—		船中
十六日	航海			同
十七日	新潟著	—		
	新潟發	前九、三〇		
	上野著	後六、〇六		

經微算費（二十名團體として一名當）一二五、〇〇

滿拓現地機關

滿拓は本社を新京、支社を東京に置くの外、下記各地に地方事務所又は出張所を設けて各般の施業に當つてゐるが、視察團についても何かと便宜を與へて吳れるから、連絡すると都合よく行く。

佳木斯地方事務所	三江省佳木斯市協和大街二
牡丹江地方事務所	牡丹江省牡丹江市太平路二
齊々哈爾地方事務所	龍江省齊々哈爾市龍華路八
哈爾濱地方事務所	哈爾濱市道裡地段街エビル内
吉林地方事務所	吉林省吉林市五緯路一六三
奉天地方事務所	奉天市千代田通四〇奉天貿易會館内
東安地方事務所	東安省密山縣新密山福民大街一〇
北安地方事務所	北安省北安街
延吉地方事務所、扎蘭屯地方事務所	
大連出張所	大連市敷島町四九、五品ビル内
寶淸出張所	三江省寶淸縣城東大街
勃利出張所	三江省勃利縣城福順街
林口出張所	東安省林口縣林口街西大成路
通河出張所	三江省通河縣城永安街
鶴立出張所	三江省鶴立縣鶴立街
慶城出張所	濱江省慶城縣城西大街
五常出張所	濱江省五常縣城内
磐石出張所	吉林省磐石縣城内
敦化出張所	吉林省敦化縣大同路八七
舒蘭出張所	吉林省舒蘭縣舒蘭街
淸津出張所	北鮮淸津府北星町二二
羅津出張所	北鮮羅津府富士見町三丁目四〇
富錦出張所	三江省富錦縣城内
樺甸出張所	吉林省樺甸縣城内
黑河出張所	黑河省黑河街中原街

尙出張所は十六年度中四十箇所に擴充される。

◇代表開拓地水稻反當收量（單位石）

年次	第二次千振鄕	第四次二ヶ村平均	第五次四ヶ村平均
康德三年	一・一九	一・一二	—
同四年	一・二〇	一・五六	一・二六
同五年	一・四二	一・八二	一・二四
同六年	二・〇〇	二・六六	二・二四
同七年	三・〇〇	二・七三	二・九六

◇反當收量の內地と開拓地比較表（單位石）

種別		康德三	康德四	康德五
水稻	開拓地	一・一二	一・五六	一・八二
	內地	二・一〇	二・〇七	二・〇四
小麥	開拓地	〇・七九	〇・六九	〇・八六
	內地	一・三〇	一・三八	一・二八
大豆	開拓地	一・〇四	一・一三	一・一二
	內地	〇・七九	〇・八五	〇・八二

開拓地簡易宿泊所

所在地	名稱	經營
佳木斯市大禪寺内	佳木斯宿泊所	
彌榮開拓團内	彌榮宿泊所	開拓團
千振開拓團内（千振莊）	千振宿泊所	同
哈達河開拓團内	哈達河宿泊所	同
東安驛前（晴明莊）	東安宿泊所	開拓團協同
牡丹江金鈴街一七西本願寺内	西本願寺宿泊所	
牡丹江市平安街禪宗寺内	禪宗寺宿泊所	
哈爾濱市大谷會館内	哈爾濱宿泊所	
瑞穗開拓團内	瑞穗宿泊所	開拓團
龍爪開拓團内	龍爪宿泊所	同
新京市通化路借拔拓内	新京宿泊所	滿拓
湯原靜岡村開拓團内	鶴立鎭宿泊所	開拓團
吉林省舒蘭縣第七次四家房開拓團内	四家房宿泊所	同
濱江省葦河縣第七次周家營開拓團内	周家營宿泊所	同
北安省通化縣通北驛前（老基街開拓團辦事所）	通北宿泊所	同
牡丹江七星街五ノ二三牡丹江開拓館内	牡丹江宿泊所	滿拓
吉林省蛟河縣拉法村開拓組合（拉哈驛前）	拉哈宿泊所	開拓團
三江省鶴立縣第六次熊本開拓團内	熊本宿泊所	同

（宿泊料は二圓—二、五〇圓程度）

滿拓經營開拓館

所在地	名稱
羅津府富士見町三丁目四〇	羅津開拓館
牡丹江市七星街五番地二三	牡丹江開拓館
東安驛前	晴明莊
佳木斯市	佳木斯開拓館
哈爾濱工廠街	哈爾濱開拓館
慶城縣城	慶城開拓館
綏稜縣城	綏稜開拓館

（宿泊料は一圓—二、五〇圓程度）

日本內地人集團開拓民入植現況表

（康德八年五月一日現在）

（第一次—五次）

○印ハ街村ニ移行セルモノ

入植時期	團又ハ村名	入植地 省	入植地 縣	入植地 地區	出身府縣	計畫戸數	現在戸數	現在人口	交通關係 最寄驛又ハ港	交通關係 粁數
大同元、一〇	○彌榮	三江	樺川	永豐鎭	東北(六)關東(三)中部(三)	五〇〇	三〇一	一、三六八	圖佳線彌榮驛	〇、五

入植時期	團又ハ村名	入植地 省	縣	地區	出身府縣	計畫戸數	現在戸數	現在人口	最寄驛又ハ港	粁數
大同二、七	○千振	三江	樺川	湖南營	東北(六)關東(五)中部(六)九州(三)	五〇〇	四八〇	一、四三六	圖佳線千振驛	五
康德一、一〇	瑞穗	北安	綏稜		東北(三)中部(四)中國(四)四國(一)	四〇〇	二〇九	九三三	濱北線克音河	三六
同 三、六	城子河	東安	密山	鷄西	全國(三四)	四〇〇	二五〇	七八〇	虎林線鷄西	六
同	○哈達河	同	同	哈達河	全國(二五)	二〇〇	一八〇	六四六	同 東海	一
同 四、七	○永安村	同	同	永安屯	東北(六)關東(二)中部(六)	四〇〇	二六二	九六七	同 永安	四
同	○朝陽村	同	同	朝陽屯	中國、四國、九州	四〇〇	二四〇	七八七	同 庄內	〇、六
同	○黑台村	同	同	黑台	近畿(五)關東(五)宮城、長野	二〇〇	一六六	六三六	同 黑台	〇、五
同	○信濃村	同	同	黑台信濃	長野	四〇〇	三三三	一、〇五四	同 連珠山	四
計	九					二、九〇〇	二、四六〇	八、五八四		

（第六次）

入植時期	團又ハ村名	入植地 省	縣	地區	出身府縣	計畫戸數	現在戸數	現在人口	最寄驛又ハ港	粁數
康德五、七、	熊本村	三江	鶴立		熊本	三〇〇	二九四	九九五	綏佳線望江	一
同	宮城村	同	同		宮城	二〇〇	一九九	八七〇	同 連江口	二
同	福島村	同	同		福島	二〇〇	一八〇	七三一	同	三
同	茨城村	同	同		茨城	二〇〇	一八一	五四〇	鶴崗鐵道鶴立	四
同	靜岡村	同	同		靜岡、東京、千葉	二〇〇	二〇五	五三五	同	一
同	東北村	同	同		秋田、青森、岩手	三〇〇	二八五	九四五	同	四
同	東海村	同	同		關東(四)中部(一)三重	三〇〇	二五二	七九五	同	四
同 四、六	黑馬劉	北安	綏稜		四國	三〇〇	三〇六	六八二	濱北線克音河	六
同	海倫	同	海倫		群馬	三〇〇	三一七	六八一	同 海倫	三三
同	五福堂	同	通北		新潟	二〇〇	一九七	六五六	同 通北	二
同	老街基	同	同		埼玉	二〇〇	一四一	四三四	同	一六
同	南五道崗	東安	密山	南五道崗	長野	三〇〇	二八二	九四九	虎林線東安	三〇
同	北五道崗	同	同	北五道崗	山形	三〇〇	二七七	八二五	同 斐德	一六
同	六人班	同	同	六人班	廣島	二〇〇	一六〇	四五〇	同 揚崗	二
同	東二道崗	同	同	東二道崗	北九州(三)	二〇〇	一七三	四九三	同 湖北	五
同	西二道崗	同	同	西二道岡	宮崎、鹿兒島、佐賀、東京	二〇〇	一八五	五〇五	同	三
同	黑咀子	同	虎林	黑咀子	北陸(三)東京	三〇〇	二六五	一、〇四四	同 虎林	一〇
同	龍爪	同	林口	龍爪	近畿(五)中國(四)山形	二〇〇	二九〇	九五五	同 龍爪	〇、五
計	一八（二〇〇團 九、三〇〇團 九）					四、五〇〇	三、九八四	一三、一五七		

（第七次）

入植時期	團又ハ村名	入植地 省	縣	地區	出身府縣	計畫戸數	現在戸數	現在人口	最寄驛又ハ港	粁數
康德五、二	七虎力	三江	樺川	七虎力	中國(四)	二〇〇	一八六	五九九	圖佳線閻家驛	五
同	四合屯	同	鶴立	四合屯	熊本	二〇〇	一六八	五四八	鶴崗鐵道鶴立	二四
同	十三戸(王榮廟)	北安	綏稜	十三戸	香川	三〇〇	一三九	三九九	濱北線克音河	五五
同	東黑馬劉	同	同	四海店	高知、德島、愛媛	二〇〇	二一九	四一六	同（海倫）	五〇(六〇)
同	安拜	同	鐵驪		宮城	二〇〇	一七四	四八四	綏佳線田昇	六
同	拉林	同	慶城		同	三〇〇	二五四	七六八	同 高老	一三
同	清和	東安	虎林	清和	新潟	二〇〇	一九七	五六六	虎林線清和	一
同	北學田	龍江	訥河	北學田	福島	二〇〇	一八七	五七八	寧墨線訥河	二四
同	黑石屯	吉林	蛟河	黑石屯	近畿(六)	二〇〇	一四七	四〇一	京圖線秋梨溝	一六
同	四家房	同	舒蘭	舒蘭街	長野(大日向村)	二〇〇	一九六	六六二	拉濱線四家房	四
同	八道河子	同	樺甸	八道河子	關東(四)	三〇〇	二六四	七三三	奉吉線磐石	一〇八
同	牛心頂子（煙筒山）	同	磐石	北牛心頂子	群馬	二〇〇	二〇五	六六二	同 煙筒山	一六
同	元寶鎮	濱江	延壽	元寶鎮	大分	二〇〇	一三四	五〇一	濱綏線珠河 同 一面坡	三三 三五
同	朝陽川	同	五常	朝陽川	中部(七)	三〇〇	二三四	七二〇	拉濱線山河屯	一五
同	大平川	同	同	大平川	青森、岩手	二〇〇	一四一	五一五	同 五常	五四
同	小山子	同	同	小山子	九州(五)	二〇〇	一四九	四六四	同	四五
同	三個頂	同	同	三個頂	廣島	二〇〇	二一三	五三〇	拉濱線山河屯	九
同	中和鎮	同	延壽	中和鎮	長野	二〇〇	二四三	八一四	濱綏線亞布洛尼	三〇
同	三股流	同	珠河	三股流	山形(庄內鄉)	二〇〇	二一七	六八四	同 烏吉密	三〇
同	六道河	同	同	六道河	山形	三〇〇	二八五	一、〇五五	同 一面坡 同 珠河	三八 四〇
同	大青川	同	同	大青川	茨城	二〇〇	一四四	四五四	同 一面坡	一四
同	周家營	同	葦河	周家營	埼玉	二〇〇	一三一	三八九	同 葦河	四
計	二二（二〇〇戸 一六、三〇〇戸 六）					五、〇〇〇	四、二二五	一三、九七三		

（第八次）

入植時期	團又ハ村名	入植地 省	入植地 縣	入植地 地區	出身府縣	計畫戸數	現在戸數	現在人口	交通關係 最寄驛又ハ港	交通關係 粁數
康德六、二	三道溜	三江	湯原	三道溜	石川（虎西郷）	二〇〇	一三五	二八〇	綏佳線 香蘭	一四
同	窪丹崗	同	同	窪丹崗	長野（千代村）	三〇〇	二四五	五九〇	同 同	一二
同	舒樂鎮	同	同	舒樂鎮	岡山、兵庫	三〇〇	一七三	二五三	同 同 / 松花江 舒樂鎮	四〇 / 〇、五
同	大古洞	同	通河	大古洞	長野（下伊那郷）	三〇〇	一九五	六三五	松花江 清河鎮	五
同	小古洞	同	同	小古洞	同（蓼科郷）	三〇〇	一五七	五九一	同 依蘭港	一五
同	上久堅村	同	同	新立屯	同（上久堅村）	三〇〇	一七〇	四四六	同 通河港	三五
同	張家屯	同	同	張家屯	長野	三〇〇	二七四	五九八	同 木蘭港	一五
同	大平山	同	同	大平山	山形	二〇〇	一一七	三七九	同 通河港	四六
同	柞木台	同	樺川	柞木台	四國	二〇〇	一四一	四三三	圖佳線 千振	二四
同	公心集（讀書村）	同	同	公心集	長野（讀書村）	二〇〇	三一七	七三五	同 閻家	一〇
同	大八浪	同	同	大八浪	同（泰阜村）	二〇〇	二六九	九三六	同 同	一三
同	中川村	同	同	小八浪	埼玉（中川村）	二〇〇	九二	三一六	同 同	一〇
同	馬大屯	同	依蘭	馬大屯	山形（庄内郷）	二〇〇	一四五	四〇八	松花江 依蘭	一〇
同	北靠山屯	同	同	北靠山屯	同（東村山郷）	三〇〇	一八二	六三九	同 同	六
同	大羅勒密	同	方正	大羅勒密	九州	三〇〇	一五九	三九一	同 方正港	四
同	華陽	北安	慶城	閻包	靜岡、愛知、岐阜	三〇〇	一七六	四二九	綏佳線 高老	一六
同	依吉密	同	同		鳥取、島根、山口	二〇〇	二一八	三五三	同 同	三
同	富榮	同	鐵驪	東安拜	宮城	三〇〇	七六	一九一	同 王陽	五
同	韓家	同	同		同	三〇〇	一〇六	三五八	同 鐵山包	一〇
同	横泰	同	同		同	三〇〇	八五	一九八	同 田昇	三
同	光永府	北安	鐵驪		岩手	二〇〇	六七	一六三	綏佳線 鐵山包	一七
同	樺林	牡丹江	寧安	北甸子	香川（栗熊村）	三〇〇	一〇七	三〇六	圖佳線 樺林	一〇
同	楡林	同	同	東三家子	埼玉	二〇〇	八七	一八九	同 蘭崗	六
同	密占河	同	同	荒地屯	秋田	二〇〇	八四	三七八	濱綏線 山市	一六
同	蘆屯	同	同	蘆家屯	香川	二〇〇	八五	一九〇	圖佳線 石頭	一六
同	靠崗	同	同	二道溝	茨城、栃木、千葉、群馬、神奈川	三〇〇	一六四	三一六	同 蘭崗	一二
同	上學田	龍江	訥河	上學田	青森	一〇〇	八一	三五三	寧墨線 訥河	一四
同	下學田	同	同	下學田	福島	三〇〇	七八	一八八	同	二〇
同	朝陽山	同	甘南	甘南村	新潟	二〇〇	一三四	三六八	齊北線 チチハル	一三三
同	阿倫河	同	同	興隆泉村（阿倫河）	同	三〇〇	一一四	二八二	同	七七
同	亞州	同	富裕	富裕	石川（白山郷）	二〇〇	一五七	一九四	同 寧年	五五
同	斑代	同	同	富店村	同（町野郷）	二〇〇	一三一	二四七	同	七〇
同	青溝子	吉林	蛟河		近畿	三〇〇	一八六	三〇六	京圖線 秋梨溝	四六
同	興隆川	同	磐石	興隆川	東京	二〇〇	二〇四	四九四	奉吉線 取柴河	一二
同	帽兒山	濱江	珠河	帽兒山	山梨	三〇〇	一三三	三〇三	濱綏線 平山	一三
同	熊本	同	五常	東小山子	熊本	二〇〇	一五〇	四五四	拉濱線 五常	四六
同	龍王廟	同	同	龍王廟	秋田	三〇〇	二一九	八〇一	同	六〇
同	老石房	同	木蘭	老石房	長野	二〇〇	一三九	三五三	松花江 木蘭	二五
同	王家屯	同	同	王家屯	同（富士見郷）	三〇〇	一〇三	三八二	同	三六
同	大泉子	同	賓	大泉子	富山、福井	二〇〇	一三六	四一〇	京濱線 哈爾濱	一五五
計	四〇戸團	二〇〇戸團	三〇〇戸團	二〇戸團 二〇戸團		一〇、〇〇〇	五、七八三	一五、三六四		

（第九次）

入植時期	團又ハ村名	入植地 省	入植地 縣	入植地 地區	出身府縣	計畫戸數	現在戸數	現在人口	交通關係 最寄驛又ハ港	交通關係 粁數
康德七、二	羅圈河	東安	勃利		長野	二〇〇	五五	一五五	圖佳線 勃利	三六
同	西五道溝	同	密山	西五道溝	同	二〇〇	一四	三四	虎林線 東安	五五
同	尖山	同	寶淸	大索倫	同（更級郷）	三〇〇	六七	一三一	同 興凱	一一〇
同	萬金山	同	同	萬金山	同（高社郷）	三〇〇	六八	一六三	同	一〇〇
同	索倫河	同	同	索倫	同（下水内郷）	三〇〇	一〇四	二八七	同	一一〇
同	小城子	同	同	大梨樹溝	山形（南村山郷）	二〇〇	三八	九五	同	八〇
同	柳樹河	三江	樺川	柳樹河	岡山	三〇〇	一二四	二七七	圖佳線 佳木斯 / 松花江 悅來鎮	四〇 / 三五
同	板子房	同	同	板子房	山形（置賜郷）	二〇〇	一三五	一五一	圖佳線 佳木斯 / 松花江 悅來鎮	七〇 / 三〇
同	大通河	同	通河	大通河	長崎（南高來郷）	二〇〇	八〇	一九八	同 通河港	一五
同	濃河	同	同	濃河	佐賀（西松浦郷）	二〇〇	四八	一二三	同 通河港 / 通河鎮	四八 / 六

康德	寶山	三江	富錦	寶山	山形(東西村山郷)	200	60	113	圖佳線 佳木斯 / 松花江 新城鎮港 佳木斯	40 / 68
同	韮架山	同	同	韮架山	福島	300	44	107	同 佳木斯	80
同	伊漢通	同	方正	伊漢通	鹿兒島(沖繩大島)	300	81	185	同 方正港	50
同	德命	北安	德都		岐阜	200	74	213	濱北線 北安	34
同	德安	同	同		福井	200	73	239	同 同	36
同	鳳凰	同	同		岐阜(中原竹原郷)	300	38	155	同 同	24
同	二龍山	同	北安		新潟	300	47	56	北黒線 二龍山	4
同	張文封	同	克東		栃木(上都賀郷)	300	30	156	濱北線 通北	3
同	花園	同	同		同(那須郷)	300	68	184	同 通北 / 克東	41 / 5
同	劉大櫃	同	克山		長野(五常郷)	300	27	91	齊北線 克山	13
同	冷家店	同	依安		茨城(大子町)	300	36	123	同 泰安鎮	14
同	東火犁	同	通北		新潟(刈羽郷)	300	56	82	濱北線 通北	3
同	西火犁	同	同		新潟(魚沼吉志郷)	300	69	98	同	20
同	天乙	同	同	天乙公司	千葉	200	58	100	同 通康	44
同	九道溝	同	同		群馬(甘樂郷)	300	49	173	同	31
同	趙木匠	同	同		埼玉(日野澤村)	200	47	106	同	24
同	雙泉鎮	同	綏稜		德島(阿波郷)	200	33	74	同 海倫	40
同	馬家店	同	同		岩手(東磐井郷)	300	21	43	同 克音河 / 海倫	65 / 50
同	諸敏河	同	同		愛媛(喜多郷)	200	75	238	同 海倫	60
同	趙家店	同	慶城		宮城	300	35	64	媛佳線 高老 / 慶城	20 / 6
同	歐根	同	同		高知久(禮郷)	200	41	96	同 慶城	55
同	下歐根	北安	慶城		高知(領北郷)	300	78	182	綏佳線 慶城	40
同	衛羊	同	同		宮城	300	59	214	同	28
同	四合成	同	同		島根	300	78	216	同	45
同	上歐伊	同	同	依吉密	鳥取(明治村)	200	33	33	同 高老	3
同	七星	牡丹江	寧安	土豆甸子	岐阜(坂下村)	200	85	147	圖佳線 七星	8
同	馬蓮河	同	同	大荒地屯	同(久田見村)	200	47	153	同 馬蓮河	6
同	哈達灣	同	同	哈達灣屯	秋田(雄勝郷)	300	51	61	濱綏線 山市	28
同	五河林	同	同	馬西屯	香川(三豐郷)	200	85	175	圖佳線 五河林	16

同	大平溝	牡丹江	寧安	大平溝屯	和歌山	200	59	90	同 東京城	17
同	三合	龍江	甘南	大平山村	愛知(東三河郷)	300	74	123	寧墨線 拉哈	51
同	義合	同	同	同	茨城	300	46	127	同	47
同	協和	同	同	同	山形(北村山郷)	300	90	186	同	44
同	大和	同	同	同	同庄(內郷)	300	51	59	同	41
同	新發	同	同	同	山口(玖河郷)	200	37	89	同	27
同	東陽	同	同	同	熊本	300	40	69	同	33
同	興陸	同	同	平陽村	福岡(糸島郷)	300	40	98	同	34
同	興亞	同	同	同	福井(三方郷)	300	45	70	同	34
同	吳山	龍江	甘南	平陽村	福島(石川郷)	300	34	47	寧墨線 拉哈	38
同	太平	同	同	同	同(伊達郷)	300	53	142	同	41
同	沖河	濱江	五常	沖河	富山(礪波郷)	300	107	180	拉濱線 五常	85
同	南朝陽川	同	同	南朝陽川	廣島(新庄村)	200	70	333	同 山河屯	13
同	北二屯	同	東興	北二屯	兵庫(養父郷)	200	59	154	濱北線 興隆鎮	81
同	大營	同	同	大營	山梨(東八代郷)	300	80	275	同	85
同	太陽	同	巴彥	太陽	石川(西海村)	300	86	162	同	40
同	雙龍(第一神路郷)	同	同	雙龍	三重(第一神路郷)	300	85	169	同	28
同	裕德	同	同	裕德	三重(第二神路郷)	300	107	333	同	25
同	四道河	同	阿城	四道河	山梨(豐村)	200	33	74	同	20
同	驛馬	吉林	磐石	驛馬	群馬	200	76	136	奉吉線 烟筒山	31
同	報馬	同	同	江南	同(相馬郷)	200	48	191	同 磐石	63
同	上金馬川	同	舒蘭	金馬村	廣島(世羅郷)	200	100	278	拉濱線 平安	26
同	下金馬川	同	同	同	山口(桑根村)	200	47	148	同	20
計	六二戸團			二〇〇戸集團 三〇〇戸集團	三六戸團 二六戸團	1,600	3,601	8,505		

(第十次)

入植時期	國又ハ村名	入植地 省	縣	地區	出身府縣	計畫戸數	現在戸數	現在人口	交通關係 最寄驛又ハ港	粁數
康德八、三	巴蘭甲地	三江	湯原	巴蘭河	青森(甲地村)	200	57	57	松花江 依蘭港	40
同	浩良大島	同	同	渾瀧	岡山(大島村)	100	33	33	綏佳線 浩良河	16

入植時期	團名	省	縣	地區	出身府縣	豫定戸數	現在戸數	現在人口	最寄驛又ハ港	粁數
康德八、二	楊榮庄內	東安	寶清	楊營園子	山形(庄內鄉)	二〇〇	二〇	三〇	虎林線興凱	一四七
同	東索倫埴科	同	同	東索倫河	長野(埴科鄉)	三〇〇	二六	二六	同	一一〇
同	大主上房	同	同	大主	岡山(上房鄉)	二〇〇	一三	一三	同	四五
同	半截香川	牡丹江	寧安	半截溝	香川	二〇〇	二七	二七	圖佳線東京城	七〇
同	長嶺八丈	同	同	長嶺子	東京(八丈鄉)	三〇〇	四一	四一	同	三五
同	營城由利	同	同	營城子	秋田(由利鄉)	二〇〇	二八	二八	同	三五
同	搭拉高野	吉林	蛟河	搭拉站	和歌山(高野村)	三〇〇	五〇	五〇	京圖線敦化	七五
同 八、三	歡喜佐久	濱江	木蘭	歡喜嶺	長野(佐久鄉)	三〇〇	六八	六八	松花江木蘭港	四〇
同 八、四	季花小縣	同	延壽	季花屯	同(小縣鄉)	二〇〇	二〇	二〇	同 驛馬河	四〇
同 八、二	孫船八ッ岳	北安	北安	孫船	同(八ッ岳鄉)	三〇〇	三三	四三	北黑線二龍山	一三
同	龍鎮金木	同	同	南六馬	青森(金木町)	二〇〇	一九	二二	同 龍鎮	一六
同	藥泉黑姬	同	德都	藥泉山	長野(黑姬鄉)	三〇〇	三五	三九	濱北線北安	六五
同 八、三	南陽伊那富	同	同	南陽	同(伊那富村)	三〇〇	一四	一五	同	四〇
同	龍門東京	同	同	龍門	東京	三〇〇	四四	四六	同	五六
同 八、五	雙龍木曾	同	同	雙龍泉	長野(木曾鄉)	二〇〇	一八	一八	同	五八
同 八、三	安古鎮群馬	同	綏稜	安古鎮	群馬	三〇〇	一九	二一	同 海倫	五七
同 八、四	鷄走山縣	同	通北	鷄走河	岐阜(山縣鄉)	二〇〇	二四	二五	同 通北	五〇
同	柳毛惠那	同	同	柳毛河	同(惠那鄉)	三〇〇	二三	二四	同	五八
同 八、三	三頭南會津	龍江	訥河	三頭山	福島(南會津鄉)	二〇〇	一〇	一〇	寧墨線老萊	五〇
同	六間房宮城	同	龍江	六間房	宮城	三〇〇	三二	三二	齊北線齊々哈爾	五六
同 八、二	龍山福田	同	鎮東	套堡	靜岡(福田町)	三〇〇	四三	四三	平齊線套堡	〇
同	東寶佐渡	同	甘南	東寶山	新潟(佐渡鄉)	三〇〇	二九	二九	齊北鄉寧年	六〇
同	西寶中蒲原	同	同	西寶山	同(中蒲原鄉)	三〇〇	一九	一九	同	六〇
同	好心平鹿	同	泰來	好心	秋田(平鹿鄉)	三〇〇	一七	一九	平齊線泰來	二〇
同	滲泌十津川	興安東	布同哈	滲沁河	奈良(十津川村)	三〇〇	二九	二七	濱洲線扎蘭屯	一六
同 八、六	麒麟茨城	同	同	麒麟河	茨城(茨城鄉)	二〇〇	三一	三二	同 成吉思汗	二四
同	大北溝美馬	同	同	大北溝	德島(美馬鄉)	二〇〇	二〇	二〇	同	一八
同	那吉高北	同	阿榮	那吉屯(北那吉)	高知(高北鄉)	二〇〇	一八	一八	同 扎蘭屯	八〇
同	那吉天草	同	同	同(靠山屯)	熊本(天草鄉)	三〇〇	一五	一五	同	〇
同	那吉宮崎	同	同	同(大有莊)	宮崎(宮崎鄉)	二〇〇	四三	四三	同	〇

入植時期	團名	省	縣	地區	出身府縣	豫定戸數	現在戸數	現在人口	最寄驛又ハ港	粁數
同	郭吉杵島	同	同	同(山河屯)	佐賀(杵島鄉)	二〇〇	一五	一五	同	〇
同 八、二	郭家佐伯	奉天	昌圖	郭家	大分(佐伯鄉)	三〇〇	四四	一〇四	連京線昌圖	五〇
同	蒼家山口	同	同	蒼家	山口(山口村)	二〇〇	三八	七〇	同	四三
同	劉美最上	同	同	劉美	山形(最上鄉)	三〇〇	三三	一三三	同	四六
同	灣甸富士	同	興京	灣甸子	靜岡(富士鄉)	二〇〇	一五	一五	奉吉線淸原	六〇
同	十騎大野	間島	安圖	十騎街	福井(大野鄉)	二〇〇	二七	二九	京圖線明月溝	五〇
同	大甸新川	同	同	大甸子	富山(新川鄉)	三〇〇	五一	五一	同	七三
計	三九 (二〇〇戸集團一九戸團、三〇〇戸團二〇戸團)					九、八〇〇	一、一三七	一、二四〇		

第十次特設開拓團

（康德八年六月末現在）

入植時期	團又ハ村名	入植地 省	縣	地區	出身府縣	豫定戸數	現在戸數	現在人口	交通關係 最寄驛又ハ港	粁數
康德八、四	二昭山梨	龍江	洮南	二昭	山梨	三〇〇	四三	四三	洮南	二〇
同 八、六	沙里佛立	興安東	布特哈	沙里溝子	大阪(本門佛立講)	三〇〇	三五	三五	濱洲線扎蘭屯	一五
同	上興發大阪	同	阿榮	上興發屯	大阪	二〇〇	二〇	二〇	同	三五
同 八、七	東河泥河	吉林	敦化	大荒溝	兵庫	二〇〇	四〇	四〇	京圖線敦化	二七
同	三台子	奉天	康平	三台子	長野	二〇〇	一〇	二〇	連京線鐵嶺	八〇
同	九江	濱江	葦河	九江泡	神奈川	五〇			濱綏線一面坡(九江泡信號台附近)	一〇

備考 1、團名ハ正式ノモノニアラズ開拓團法ニ基キ追テ正式決定ス
2、東横泥河三台子ハ七月中旬入植ノ豫定ナリ

日本內地人集團開拓團省別入植現況

省名	團數	計畫戸數	現在戸數	現在人口	備考
三江省	三五	八、九〇〇	五、九二五	一八、一三六	
北安省	四八	一三、一〇〇	三、七〇三	九、八〇九	
東安省	三三	五、八〇〇	三、四〇九	一一、六六七	
龍江省	二四	六、六〇〇	一、五〇四	三、一六三	特設開拓團(二昭)ヲ含ム
吉林省	一三	二、七〇〇	一、三六二	四、一一一	同(東黃泥河)ヲ含ム
濱江省	二六	六、四〇〇	三、五三五	一〇、四九四	

牡丹江省	一三	三、一〇〇	九四八	一、九九〇	特設開拓團（三台子）ヲ含ム
奉天省	五	一、二〇〇	一五九	四四二	特設開拓團（沙里、上興發）ヲ含ム
興安東省	九	二、一〇〇	三四五	三八八	
間島省	二	五〇〇	七八	八〇	
計	一九五	四九、四〇〇	三一、三三八	六〇、〇七〇	

備考
一、本調査ハ康德八年五月一日現在ノ調査ニヨル但シ特設開拓團ハ七月現在ナリ
二、本調査ハ一般集團開拓團第一次ヨリ第十次迄一九〇戸團ノ外第十次特設開拓團（大陸歸農開拓民）五戸集團ヲ含ム

二 日本內地人集合開拓民入植現況表 二

（康德八年五月一日現在）

省名	縣名	地區名	團名	入植年月及次別（康德年月）	（次別）	地區收容力戸數	計畫戸數	現在戸數	現在人口	團長名	出身府縣	通信先	交通關係 最寄驛又ハ港	交通關係 方向及距離
新京特別市		北河東	出雲村	康德七、四	一	五〇	五〇	一三	一九	吉田軍藏	島根	新京特別市北安路市營住宅一四號河野元有氣付	新京驛	東 三
同		淨月	淨月村	同	一	五〇	五〇	一二	三一	後藤清治	各府縣	新京中央郵政局私書函第五七號	同	南 一四
同		南河東	芙蓉村	同	一	五〇	五〇	一五	三五	藪崎鷹次	靜岡	新京市南嶺同仁鄉久保田三郎氣付	同	同
同		崔家營子（四間房）	岐阜石津	同八、四	二	五〇	五〇	四	四	野村宇吉	岐阜	新京中央郵政局私書函第九十六號	同	
小計			四			三〇〇	三〇〇	四四	八九					
濱江	阿城		阿城大谷	同六、三	一	三〇〇	一五〇	八九	三五五	白田岩夫	山形	阿城驛前阿城旅館氣付	阿城驛	六
同	同	海溝	北阿城高柴	同七、四	一	二〇〇	二〇〇	四一	一四四	加藤榮吾	同	同	同	同
同	五常	杜家	杜家岐阜	同	一	五〇	五〇	三一	六〇	山崎源十郎	岐阜	杜家驛前郵政辦事處氣付	杜家驛	二
同	珠河	南元寶鎮	中武藏	同七、五	一	一五〇	一五〇	三四	六七	清原哲大	大分	珠河縣南元寶鎮第七次元寶鎮開拓團郵政辦事處氣付	濱綏線珠河驛	一〇
同	葦河	大連泡	大連泡高知	同七、九	一	一〇〇	五〇	一四	四五	島崎直猪	高知	葦河縣公署開拓科氣付	葦河驛	一一
同	哈爾濱	郊外	馬太村	同八、二	一	五〇	五〇	一四	三三	堀井順治	兵庫	哈爾濱長嶺子地區杜家屯郵政辦事處氣付	哈爾濱驛	南西 一〇
同	珠河	北帽兒山	新潟	同八、	二	三〇	三〇	八	八	八木彌平太	新潟			三
小計			七			七八〇	六八〇	二三一	五〇一					
吉林	舒蘭	水曲柳村	水曲柳	康德四、三	一	四〇〇	四〇〇	一七四	四四六	今村清長	長野	拉濱線水曲柳驛前	水曲柳驛	北東 五
同	磐石	明城	隼人	同	一	五〇	八〇	三四	五〇	田畑盛之助	鹿兒島	奉吉線明城驛氣付	明城驛	驛前 〇、七

省名	縣名	地區名	團名	入植年月及次別（康德年月）	（次別）	地區收容力戸數	計畫戸數	現在戸數	現在人口	團長名	出身府縣	通信先	交通關係 最寄驛又ハ港	交通關係 方向及距離
同	懷德	劉房子	公主嶺山路	同五、六	一	二〇〇	二〇〇	四八	一五四	矢木道良	岐阜	公主嶺菊地町山路開拓團辦事處氣付	公主嶺驛	東西 四
同	舒蘭	平安村	平安高知	同六、二	一	四〇〇	四〇〇	七二	一三八	岡崎奉治	高知	拉濱線平安驛氣付	平安驛	驛前
同	同	小城村	郡上	同六、三	一	三〇〇	三〇〇	七一	二四一	山下勘治	岐阜	拉濱線小城警察署氣付	小城驛	東北 一
同	同	景陽村	白河	同七、五	一	五〇	五〇	三六	一二二	佐藤鉞一	福島	四家房郵政局氣付	四家房驛	西南 六
同	磐石	德勝	德勝鳥取	同七、四	一	一五〇	一五〇	四七	一〇五	齊尾徹	鳥取	磐石縣德勝溝鳥取開拓團	磐石驛	西北 一三
同	同	成德	成德大鶴	同	一	六〇	六〇	三三	七四	石松從忠	大分	磐石縣煙筒山成德大鶴開拓團	煙筒山驛	西南 九
同	同	板橙河	板橙河	同	一	二〇〇	一五〇	二九	一三一	高野尙雄	山形	磐石縣吉昌鎭郵政辦事處氣付	磐石驛	西北 四〇
同	懷德	大楡樹	大楡樹神奈川	同	一	一〇〇	一〇〇	三六	八一	佐藤光太郎	神奈川	公主嶺郵政局私書函第九號	大楡樹驛	東 四
同	同	陶家村	青森日ノ出	同	一	五〇	五〇	三三	七〇	小笠原堅藏	青森	懷德縣范家屯郵政局私書函第六號	范家屯驛	南 六
同	扶餘	陶賴昭	黑川	同八、五	二	七五	七五	二二	三一	藤井武	岐阜	京圖線陶賴昭驛前	陶賴昭驛	驛前
同	敦化	頭道梁子	宮城吉田	同八、	二	二〇〇	二〇〇	四〇	一五五	櫻井連治	宮城	京圖線大橋驛前大橋郵政辦事處氣付	大橋驛	二、五
同	同	西黃泥河	鳥取法勝寺	同八、四	二	二〇〇	一五〇	三六	三一	伴藤節夫	鳥取	敦化縣滿拓出張所氣付	敦化驛	六
小計			一四			二、一五五	二、〇六五	六四七	一、六七九					
安東	桓仁	普樂堡	桓仁船川	同七、四	一	五〇	五〇	九	一三	夏井永吉	秋田	桓仁縣公署氣付	通化驛ヨリバス	西 一三〇
同	莊河	莊河	莊河伊方	同七、五	一	六〇	六〇	二九	二九	佐々木五九雄	愛媛	莊河縣公署氣付	安東驛ヨリバス	西 二七
小計			二			一一〇	一一〇	三八	四二					
奉天	鐵嶺	新台子	紀州	同六、二	一	六〇	六〇	三六	一六八	古田喜七郎	和歌山	連京線新台子郵政局氣付	新台子驛	北 六
同	康平	中和村	康平長野	同七、二	一	一〇〇	五〇	四二	一三〇	內城本美	長野	康平縣三台子郵政局氣付	鐵嶺驛	北 一〇〇
同	同	溥仁村	康平岩木	同	一	一〇〇	一〇〇	四三	一四三	長谷川末太郎	青森	康平縣溥仁村岩木開拓團	鐵嶺驛	東 一一六
同	瀋陽	渾河	渾河農友	同七、四	一	六〇	六〇	三三	一〇四	岩下隆弘	熊本	連京線蘇家屯郵政局私書函第一號	蘇家屯驛	西北 三
小計			四			三二〇	二七〇	一五三	六一五					
錦州	興城	小英保屯	興城亘理	同七、三	一	五〇	五〇	二三	八三	品堀榮吉	宮城	興城縣公署開拓科氣付	興城驛	南方 八
同	磐山	任家屯第二	大野鄕	同八、二	二	一八〇	一八〇	一五	二四	梶家豊治	岐阜	磐山縣公署開拓科氣付	磐山驛	一五
同	綏中	萬寶山	綏中漁農	同八、四	二	五〇	五〇	一三	三三	石見三次郎	新潟	綏中縣公署開拓科氣付	綏中驛	三
同	錦	大河口	大河口廣島	同	二	五〇	八〇	一八	一八	今田榮次	廣島	錦縣公署開拓科氣付	高橋驛	
小計			四			三三〇	三六〇	六九	一四七					

牡丹江	寧安	石頭河 鏡泊湖秋田	康德六、一〇	一	五〇	五〇	一〇	二九	柴田雄蔵	秋田	寧安縣東京城郵政辦事處氣付	圖佳線東京城驛	西南	五五
同	穆稜	福祿村 亮子河協和	同 六、一二	一	二〇〇	一〇〇	五〇	七四	寺島貞査	東京	穆稜縣福祿村亮子河	梨樹線八面通驛	東	一六
同	寧安	小牡丹 小牡丹神奈川	同 七、四	一	六〇	五〇	二〇	三六	高橋守三郎	神奈川	圖佳線蘭崗郵政辦事處氣付	圖佳線蘭崗驛	西北	一〇
同	穆稜	馬橋河村 下城子源	同 七、五	一	六〇	六〇	三三	六一	小池毅	新潟	濱綏線馬橋河驛氣付	濱綏線馬橋河驛	南	二
同	綏陽	寒葱河 綏陽秋田	同 七、一〇	一	五〇	五〇	一四	三一	志賀哲蔵	秋田	綏陽縣國境警察隊寒葱河警察隊氣付	濱綏線綏芬河驛	西南	二〇
同	穆稜	梨樹鎮鳳山區 鳳山田舍館	同 八、	一	五〇	五〇	九	三〇	阿保重雄	青森	穆稜縣梨樹鎮街鳳山田舍館開拓團	梨樹驛	東南	六
同	同	城岳南	同 八、四	二	八〇	七〇	七	七	鈴木儀作	靜岡	穆稜縣梨樹鎮街岳南開拓團	同		四
同	同	扣河 濤山城村	同 八、	二	五〇	五〇	三六	三六	谷庄太郎	京都	穆稜縣梨樹鎮街興源村山城開拓團	梨樹驛	西	一、五
	小計	八			六〇〇	四八〇	一六三	二七四						
東安	密山	南連珠山 密山信濃	同 七、四	一	二〇〇	二〇〇	八二	一八〇	菊池實	長野	密山縣黑台信濃村	黑台驛	南	七
同	同	白泡子 興凱湖島根	同	一	五〇	五〇	一八	一八	門脇良男	島根	密山縣興凱鎮	東安驛	東南	八〇
同	勃利	長興 長興鹿島台（一天村）	同 七、五	一	一五〇	一五〇	五〇	三〇	遠藤市記	宮城	勃利縣公署開拓科氣付	勃利驛	東方	四〇
同	同	同 長興耕野	同	一	一五〇	一五〇	三三	四〇	谷津冬蔵	宮城	同	同	同	
	小計	四			五五〇	五五〇	一六一	二六八						
龍江	龍江	臥牛吐村 扎布哈恩納	同 七、五	一	一五〇	一〇〇	四九	七六	伊渡得成	沖繩	齊々哈爾滿拓地方事務所氣付	チチハル驛	北	五〇
同	同	今歸仁	同	一	七〇	五〇	四一	七三	西平守蔵	同	同	同	同	
同	同	南風原	同	一	八〇	五〇	三五	五九	野原廣知	同	同	同	同	
	小計	三			三三〇	二〇〇	一二五	一八七						
黑河	璦琿	上二公別 獅々吼	同 七、五	一	一〇〇	一〇〇	三八	四三	林正雄	千葉	璦琿縣黑河郵政局氣付	黑河驛	東南	八
同	遜河	双河鎮 黑河青森	同	一	二〇〇	二〇〇	三八	一〇〇	伊世重之助	青森	遜河縣公署氣付	遜河驛	北東	七〇
同	璦琿	法別拉 防人	同 八、三	二	五〇	五〇	一〇	二二	垣見義夫	各府縣		黑河驛		二六
	小計	三			三五〇	三五〇	八六	一六四						
興安東	布特哈	務大哈氣 大道	同 七、五	一	一〇〇	五〇	四三	九三	竹下勇	熊本	龍江省訥河縣公署氣付	寧墨線新安驛	西	四
	小計	一			一〇〇	五〇	四三	九三						

通化	輝南	大坐堡村 輝南佐賀	同 七、四	一	一〇〇	一〇〇	四三	二一一	鷲崎亮一	佐賀	輝南縣樓街警察署氣付	朝陽鎮驛	西	三
	小計	一			一〇〇	一〇〇	四三	二一一						
間島	琿春	純義村 琿春高鷲	同 七、五	一	二〇〇	二〇〇	六五	一七〇	野村孝太郎	岐阜	琿春縣純義村	琿春驛	東南	九
同	同	同 琿春朝日	同	一	二〇〇	二〇〇	三六	一四〇	鈴木孝	同	同	同	東	一七
同	同	寶禮村 琿春飯詰	同	一	一〇〇	一〇〇	九一	四二九	中谷彌八郎	青森	琿春縣寶禮村	同	東北	四
同	汪清	火燒舖 汪清礁水	同	一	一六〇	一六〇	三三	六四	安藤信次	群馬	汪清縣北荒嶺警察署氣付	北荒嶺驛	西	五
同	延吉	亮兵台 延吉八幡（亮兵台石城）	同	一	九〇	八〇	一六	五三	小野吉次郎	福島	延吉縣亮兵台驛氣付	亮兵台驛	北	一
	小計	五			七五〇	七四〇	二四一	八五六						
三江	依蘭	蘇木河 依蘭岩手	同 七、四	一	二〇〇	一〇〇	三二	九五	小森茂穗	岩手	依蘭縣大平警察署氣付	佳木斯驛	南方	四〇
同	同	長嶺子 依蘭天田	同 七、五	一	五〇	五〇	一五	一五	和田昌純	京都其ノ他	依蘭縣道台橋警察署氣付	三姓港	東南	三
	小計	二			二五〇	一五〇	四七	一一〇						
	合計	六三			六、八七五	六、三〇五	二、〇六八	五、一二四						

日本內地人集合開拓團省別入植現況

省名	團數	地區收容力	計畫戶數	現在戶數	現在人口	備考
新京特別市	四	二〇〇	二〇〇	四三	九八	本調査ハ康德八年五月一日現在調査ニ依ル
濱江	七	七八〇	六八〇	二三一	五〇一	
吉林	一四	二、一三五	二、〇六五	六四七	一、六七九	
安東	五	一一〇	一一〇	三八	四三	
奉天	四	三三〇	二七〇	一五四	六一五	
錦州	四	三四〇	三六〇	六九	一四七	
牡丹江	八	六〇〇	四八〇	一六三	二七四	
東安	四	五五〇	五五〇	一六一	二六八	
龍江	三	三三〇	二〇〇	一二五	一八七	
黑河	三	三五〇	三五〇	八六	一五四	
興安東	一	一〇〇	五〇	四三	九三	
通化	一	一〇〇	一〇〇	四三	二一一	
間島	五	七四〇	七四〇	二四一	八五六	
三江	二	二五〇	一五〇	四七	一一〇	
計	六三	六、八七五	六、三〇五	二、〇六八	五、一二四	

鐵道自警村入植現況一覽表

入植時期（昭和）	團體名	入植地 省	入植地 縣		營農代表者	現在戶數	交通關係 最寄驛		粁數
十年四月	女兒河	錦州	錦	自警村	佐藤養信	一〇	女兒河	南驛前	
同	黑山頭	奉天	海龍	同	中村日出夫	一九	黑山頭	東驛前	
同	口前	吉林	永吉	同	河合鑒	一〇	口前	同	
同	綏化	北安	綏化	同	上條四三吉	九	綏化	東	一・五
同	泰安	同	克山	同	眞壁馨	一〇	泰安	西北	一・五
同	白城子	龍江	洮南	同	津田大二	一〇	白城子	北	四・五
十一年四月	蛟河	吉林	蛟河	同	玉利清一	四〇	蛟河	北	二・五
同	小城	同	舒蘭	同	大木武雄	四〇	小城	同	一・五
同	山市	牡丹江	寧安	同	高橋民治	三〇	山市	東	三・〇
同	双城堡	濱江	双城堡	同	石田倭男	一〇	双城堡	西	一・〇
同	安達	同	安達	同	氣田松太郎	一〇	安達	南	五・〇
同	龍鎭	同	龍鎭	同	宮崎大作	一五	龍鎭	西	〇・三
同	柴崗	北安	農安	同	齋藤登	二一	柴崗	南	〇・五
十二年四月	高山子	錦州	黑山	同	黛重雄	三三	高山子	東	三・〇
同	靠山屯	吉林	磐石	同	吉野與三郎	四〇	靠山屯	南	一・〇
同	明城	同	同	同	前田吉次	四〇	明城	西驛前	
同	四家房	同	舒蘭	同	金寅雄	一九	四家房	南	一・五
同	寧安	牡丹江	寧安	同	森大四郎	三〇	蘭崗	北	五・〇
同	東京城	同	同	同	芹澤福男	二五	馬蓮河	北	四・〇
同	阿城	濱江	阿城	同	齋藤幸作	三〇	阿城	東	二・〇
同	五家	同	双城堡	同	清水秀五郎	三〇	五家	同	一・五
同	白家	北安	龍鎭	同	奥山國三郎	三〇	白家	同	一・五
同	訥河	龍江	訥河	同	井上市平	四〇	訥河	西	〇・二

日本內地人分散開拓民入植現況一覽表

（康德八年五月一日現在）

省名	縣名	地區名	團名	入植年月及種別（康德年月）	地區收容力戶數	計畫戶數	現在戶數	現在人口	團長名	出府縣	通信先	交通關係 最寄驛又ハ港	方向	距離
新京特別市		淨月	力行村	康德五、四	三〇	三〇	二八	一四四	平川政喜	熊本 長崎 岡山	新京市淨月區拉々屯郵政辦事處氣付	新京驛	東南	一五
同	同	双德	淸明村	同六、六	五〇	五〇	四五	五一	小室寧	各府縣	新京市建國大學農場氣付	同	西南	二〇
小計			二		八〇	八〇	七三	一九五						
濱江	阿城		天理村	大同元、二	一〇〇	一〇〇	六七	三四一	魁生哲二	各府縣	哈爾濱遼陽街第九號	三棵樹驛		一五
同	肇東		肇東瑞光	康德五、三	一〇	一〇	六	一四	濱村伊惣治	山形	肇東縣宋站郵政辦事處氣付	濱洲線宋驛		八
同	葦河		四順堂福井	同五、六	三〇	三〇	二五	一二六	南出架三	福井	濱綏線青雲驛氣付	青雲驛		四
同	同		松蔭	同	二二〇	二二〇	三六	四七	岡田勇治	山口	葦河縣亞布洛尼松蔭村分遣所	濱綏線亞布洛尼驛		三
同	阿城		八紘村	同六、二	一五〇	一五〇	七〇	三四二	大友春三	北海道	河城縣阿城驛前八紘村事務所氣付	濱綏線亞溝驛		一〇
同	五常		杜家新潟	同	三〇	三〇	二八	八六	高野末吉	新潟	五常縣杜家驛前郵政辦事處氣付	杜家驛		二
同	同		耕綠園	同	三〇	三〇	三〇	八三	瀨下才治	新潟 佐賀	同	同		一
同	珠河		蒲原	同	一〇〇	一〇〇	三五	一四六	木村吉藏	新潟	濱綏線密峰驛警護隊分所氣付	密峰驛		六
同	葦河		牙不力	同六、四	三五	三五	二〇	九七	島善作	福井	濱綏線亞布洛尼驛氣付	亞布洛尼驛		三
同	珠河		六道河綠故	同七、五	三〇	三〇	一六	四六	前田武二	山形	第七次六道河開拓團郵政辦事處氣付	一面坡驛		二八
小計			一〇		六二五	六二五	三三五	一、三二七						
同	東安東	湯山城	湯山城煙草	同五、四	三〇	三〇	九	四五	森八三	佐賀	安奉線湯山城	湯山城驛	驛前	
同	同	安奉線	安奉沿線煙草	同六、三	七五	七〇	五一	一八二	森八三	山梨 香川	同	同	同	
同	莊河	大孤山	大孤山煙草	同	三〇	三〇	八	三一	增形芳藏	栃木 香川	莊河縣大孤山警察署氣付	安東驛	北	八
同	岫岩	東土城子	東土城子	同七、三	五〇	五〇	九	四〇	河村幸喜	山口	岫岩縣公署拓政股氣付	同	西	一四〇
小計			四		一七五	一七〇	七七	二九八						
同	天東寶	鎭安村	東寶靑森	同五、四	一〇〇	一〇〇	八七	三三三	千葉貞義	青森	東寶縣鎭安村	奉吉線蓮河驛	北	四
同	瀋陽	九站	願學農莊	同六、三	三〇	三〇	一八	四〇	北田三郎	各府縣	奉吉線滴台驛氣付	滴台驛	西	一
同	海龍	野猪河村 牛心頂村	高千穗	同	五七	五〇	四七	一九八	黑木淳	宮崎	海龍縣朝陽鎭郵政局氣付	朝陽鎭驛	北	六
同	双遼	頭八石村 楊樹河村	敷島	同	六〇	六〇	三六	二五九	池上茂	熊本	海龍縣山城村鎭郵政局止メ	山城鎭驛	南	六
同	同	双合村	双遼熊本	同七、三	一五〇	一五〇	九	一七	兩角一夫	同	双遼縣公署双山辦事處氣付	鄭家屯驛	南	六

	小計		五		三九七	三五〇	二二七	八四七					
錦州	錦		雙山子	康德六、二	二〇	二〇	一九	六三	大野孝治	栃木	錦縣署拓政股氣付	錦縣驛南	六
	小計		一		二〇	二〇	一九	六三					
	蛟河	蛟河	新潟	同 二、一	一〇〇	六〇	六七	二四五	岡田藤太郎	新潟	京圖線蛟河郵政局私書函第十三號	蛟河驛東	八
同	舒蘭	大黒山	大黒山	同 五、三	五〇	二五	二〇	九九	原尾京一	大分	奉吉線煙筒山驛氣付	煙筒山驛西南	一三
同	永吉	雙河鎮	雙河鎮	同 四、三	五〇	五〇	一九	一〇四	木下元	長野	奉吉線双河鎮驛前	双河鎮驛驛前	
同	同	白山子	白山子	同	五〇	五〇	三三	七五	宮崎千博	同	吉林市白山子郵政辦事處氣付	奉吉線黄旗屯驛西	五
同	同	江密峰	江密峰	同	五〇	五〇	一六	六〇	坂牧加助	同	京圖線江密峰驛前	江密峰驛驛前	
同	舒蘭	舒蘭街	舒蘭福島	同 五、二	五〇	五〇	四〇	一一〇	國分龜雄	福島	拉濱線四家房驛氣付	四家房驛南西	二
同	同	小城村	四合屯高知	同 五、四	一五〇	一五〇	三三	一〇六	村上孚太郎	高知	拉濱線小城驛鐵道警護隊分所氣付	小城驛西南	七
同	同	景陽村	十勝	同	五〇	五〇	二七	一四八	横地査一	北海道	拉濱線四家房滿拓舒蘭出張所氣付	四家房驛東	七
同	磐石	南牛心頂子	常磐	同 五、五	五〇	五〇	一七	九九	坂本虎之助	岡山廣島	磐石縣城東門外	磐石驛西南	三
同	蛟河	拉法	拉法	同 五、四	一〇〇	一〇〇	九四	三二七	野中彌太延	佐賀岩手	京圖線拉法驛前	拉法驛驛前	
同	教化	大石頭	藝州	同 五、九	一五〇	一五〇	一七	一四六	下杉正義	廣島	京圖線大石頭驛前	大石頭驛東	八
同	磐石	常山屯	秋田	同 六、四	五〇	五〇	一八	九九	飯塚敏藏	秋田福島	磐石縣常山屯郵政辦事處氣付	常山屯驛東	四
同	樺甸	集廠子	阿菊	同 六、五	五〇	五〇	一六	一六	後藤勉	熊本	樺甸縣城二道街永吉胡同阿菊開拓團辦事處	磐石驛東	六〇
	小計		一四		八一〇	七八五	四一四	一、四〇五					
三江	樺川	八虎力	八富里	同 五、四	一五〇	一五〇	一〇九	三五〇	(代理)宗光彥	各府縣	樺川縣千振街郵政局氣付	千振驛西	一五
同	同	同	西彌榮	同 五、五	一五〇	一五〇	九四	二〇〇	栗田實	同	樺川縣八虎力郵政辦事處氣付	彌榮驛西方驛前	
同	同	千振街	大八州(日高見)	同 六、五	三〇〇	三〇〇	一二二	三九八	佐藤孝治	同	樺川縣千振街郵政辦事處氣付	千振驛西	六
同	依蘭	南常山屯	南常山	同	五〇	五〇	五〇	三五一	近藤重吉	樺太	依蘭縣三姓街南常山開拓團	三姓港南	四〇
同	同	同	依蘭北見	同 七、三	五〇	五〇	三八	九九	片岡忠重	北海道其ノ他	同	同	同
同	同	宏克利	依蘭樺太	同 七、五	五〇	五〇	一五	四三	中居市三郎	樺太其ノ他	依蘭縣公署開拓科氣付	同北東	一四

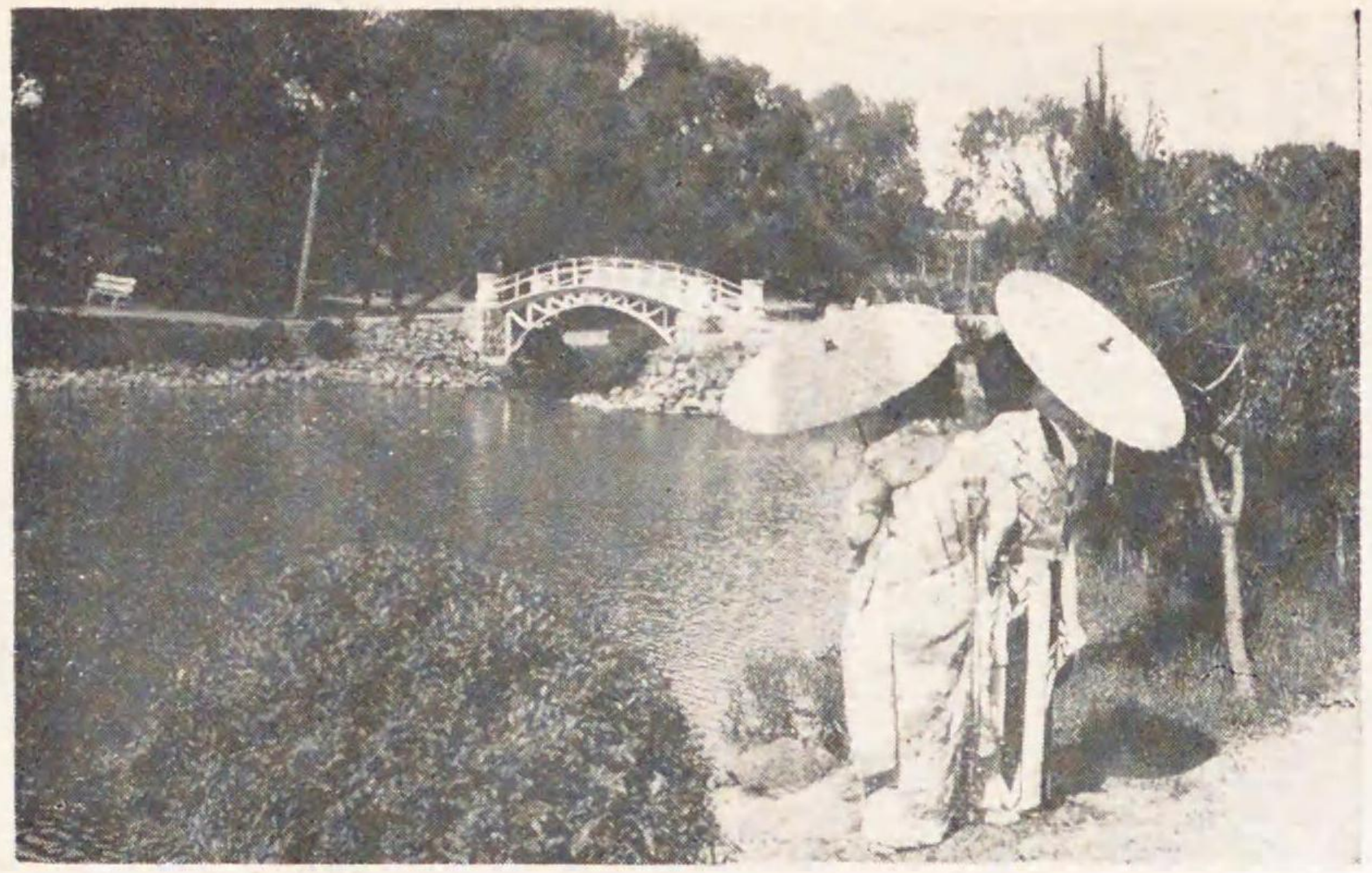
同	湯原	晨明	晨明	同 同	六〇	六〇	三八	三八	山田與四郎	各府縣	湯原縣晨明驛氣付	晨明驛西	二
同	同	牛拉必拉	榮	同 七、七	三〇	三〇	一三	一五	渡邊彌榮	熊本北海道	湯原縣樺陽	樺陽驛西驛前	
	小計		八		二一一	八四〇	五一八	一、一五一					
北安	鐵驪		鐵驪岩手	同 五、二	五〇	五〇	三九	一三六	伊藤彌右衛門	岩手	鐵驪縣城内岩手連絡所氣付	石長驛南	〇、八
同	同		桃山	同 五、五	七〇	七〇	五七	二三五	鎌田直次	北海道樺太	鐵驪縣城内桃山辦事處氣付	鐵山包驛南	四
同	同		杜稜	同 六、五	五〇	五〇	七	二〇	平濤治	岩手	鐵驪縣城内杜稜連絡所氣付	岩手驛南	二
同	同		鐵驪畜産	同 六、七	三〇	三〇	三〇	一〇二	石坂博	北海道樺太	鐵驪縣城内郵政局氣付	鐵山包驛南	〇、八
	小計		四		二〇〇	二〇〇	一三三	四八三					
牡丹江	寧安	松乙溝	鏡泊學園	同 二、一二	五〇	五〇	二五	四二	鈴木五郎	各府縣	寧安縣東京城郵政局氣付	圖佳線東京城驛西南	六一
同	同	仙洞	仙洞	同 五、九	一五〇	一五〇	一三六	六六五	白倉秋也	秋田青森	圖佳線仙洞驛氣付	仙洞驛東	二
同	同	金坑屯	金坑屯旭川	同 六、三	一〇〇	一〇〇	二六	八三	大森勝由	北海道	寧安縣馬蓮河金坑屯	馬蓮河驛西南	六
同	同	光古屯	寧安喜多見	同 七、四	六〇	六〇	三三	一一〇	眞野憲一	同	寧安街東京城郵政局氣付	圖佳線東京城驛東南	五
同	穆稜	磨刀石	磨刀石拓辰	同 七、七	一〇〇	一〇〇	一三	三三	池田保太郎	同	穆稜縣磨刀石村四道峰信號所氣付	磨刀石驛西南	六
	小計		五		四六〇	四六〇	三三三	九二一					
興安南	通遼	一棵樹	一棵樹	大同二、三	五五	五五	五四	一七五	畑野喜一郎	各府縣	大鄭線錢家店郵政局氣付	錢家店驛東	八
	小計		一		五五	五五	五四	一七五					
興安北	東額	三河	三河共同農村	康德五、三	一〇〇	一〇〇	一七	二六	岡部勇雄	福岡	興安北省三河上庫力警察署氣付	海拉爾驛北	一六〇
同	索倫	免渡河	呼倫貝爾	同 四、三	五〇	五〇	二六	八六	古賀新作	各府縣	濱州線免渡河驛氣付	免渡河驛驛前	
同	東額	三河	三河西郷農村	同 五、四	一〇〇	一〇〇	五	九	藤田季弘	福岡	興安北省三河上庫力警察署氣付	海拉爾驛北	一六〇
	小計		三		二五〇	二五〇	四八	一二一					
間島	和龍	二道口	新秋田	同 五、九	八〇	八〇	四〇	一〇一	高順力	秋田	間島省龍井營林署氣付	龍井驛東	三六
同	汪清	三岔口	秋榮	同	八〇	八〇	四四	二六一	武藤等	同	汪清縣三岔口	天橋嶺驛西北	四
	小計		二		一三〇	一六〇	八四	四六二					
東安	林口	古城鎮	古城鎮	同 五、九	一五〇	一五〇	一四四	六三三	高村邦太郎	青森秋田	林口縣古城村	古城鎮驛北	一

東安	饒河	饒河街	大和村北進鄉	康德五、二	二〇	二〇	一三	一三三	梅宮良吉	各府縣	饒河縣大和村	虎頭驛船便 八
同	林口	青山	青山熊本	同六、三	五〇	五〇	一二	三一	有田彌	熊本	林口縣青山驛氣付	青山驛北 八
同	同	同	青山共榮	同	五〇	五〇	三二	六八	石井松五郎	北海道 樺太	同	同北 九
同	密山	滴道村	蘭嶺	同六、四	三〇	三〇	二〇	四〇	遠藤三百一	岡山	密山縣滴道村蘭嶺屯	蘭嶺驛南 一
同	同	滴道村	密山(東陽)釧路	同七、三	六〇	六〇	二四	九七	今野善吉	北海道	密山縣滴道村柳毛河	滴道驛南 三
同	同	哈達河村	東哈達河	同七、四	一五〇	一五〇	七六	一四九	貝沼洋二	各府縣	密山縣哈達河開拓團氣付	東海驛南 三
同	林口	湖水別	湖水別	同	五〇	五〇	三七	一〇〇	荻野忠行	高知 熊本	林口縣古城村	古城鎮驛西 三
小計				八	五六〇	五六〇	三五五	一、二一九				
合計				七八	四、九七五	四、五九五	二、九六〇	八、六六七				

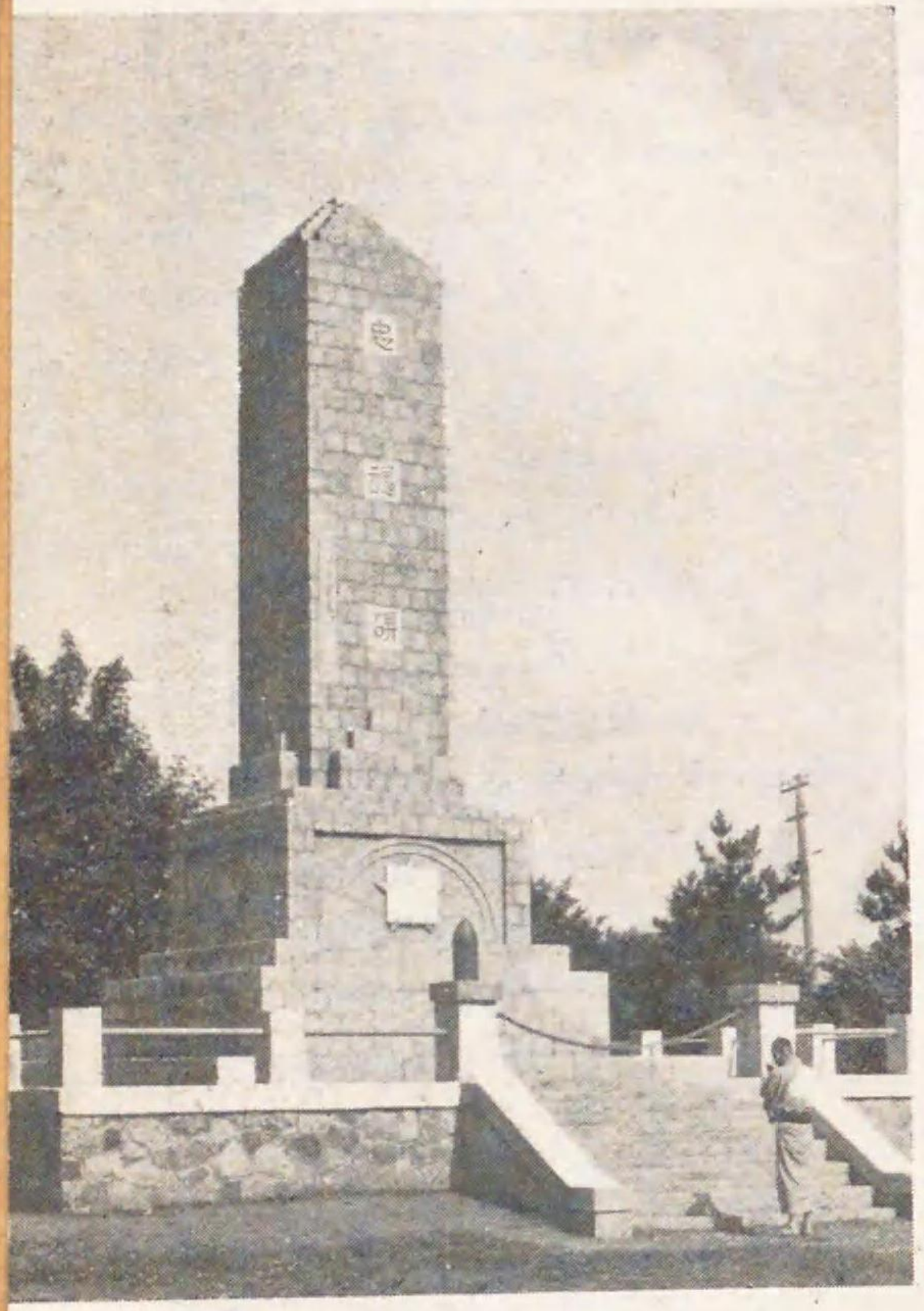
日本內地人分散開拓團省別入植現況

省名	團數	地區收容力	計畫戸數	現在戸數	現在人口	備考
新京特別市	二	八〇	八〇	七四	一九五	本調査ハ康德八年五月一日現在調査ニヨル
濱江	一〇	六四五	六三五	三二五	一、三一七	
安東	四	一七五	一七〇	七七	二九八	
奉天	五	三九七	三九〇	一二七	八四七	
錦州	一	二〇	二〇	一九	六三	
吉林	一三	八一〇	七八五	四一四	一、四〇五	
三江	八	一、一一〇	八四〇	五一八	一、一五一	
北安	四	二〇〇	二〇〇	一三三	四八三	
牡丹江	五	五六〇	四六〇	二三三	九二一	
興安南	一	五五	五五	五四	一七五	
興安北	一五	二五〇	二五〇	五八	二三一	
間島	二	一三三	一六〇	八四	四六二	
東安	八	五六〇	五六〇	三五五	一、二一九	
計	七八	四、九七五	四、五九五	二、九六〇	八、六六七	

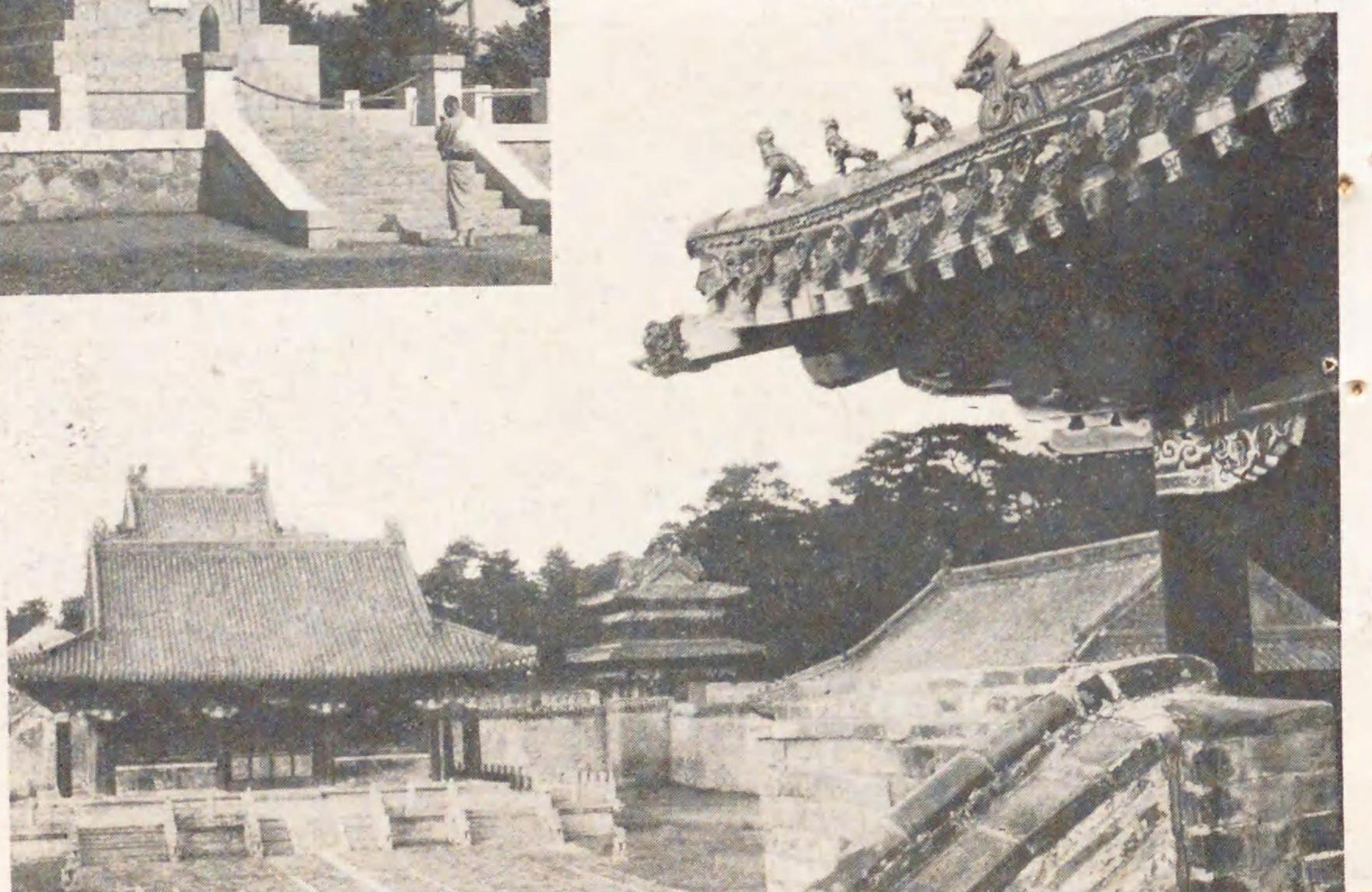
景勝



新京兒玉公園



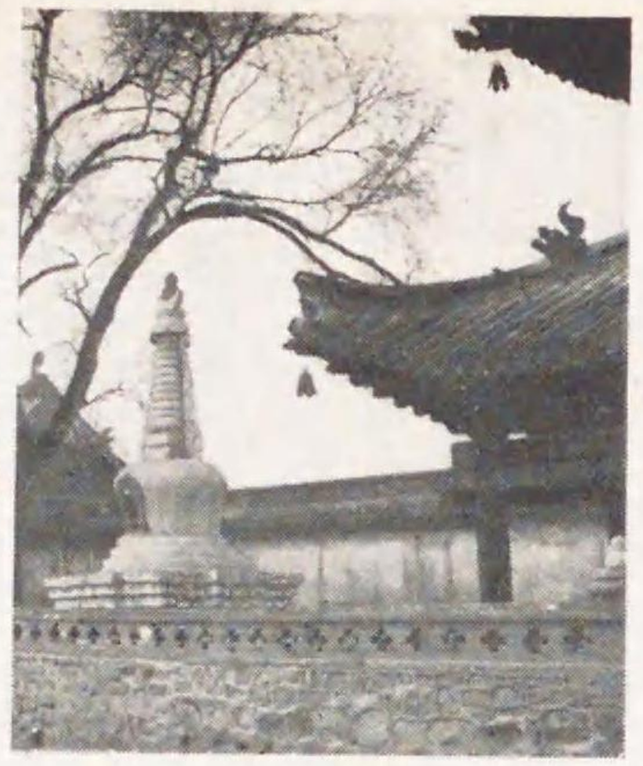
四平忠魂碑



東陵（奉天）



石佛（大同）



ラマ塔（朝陽）



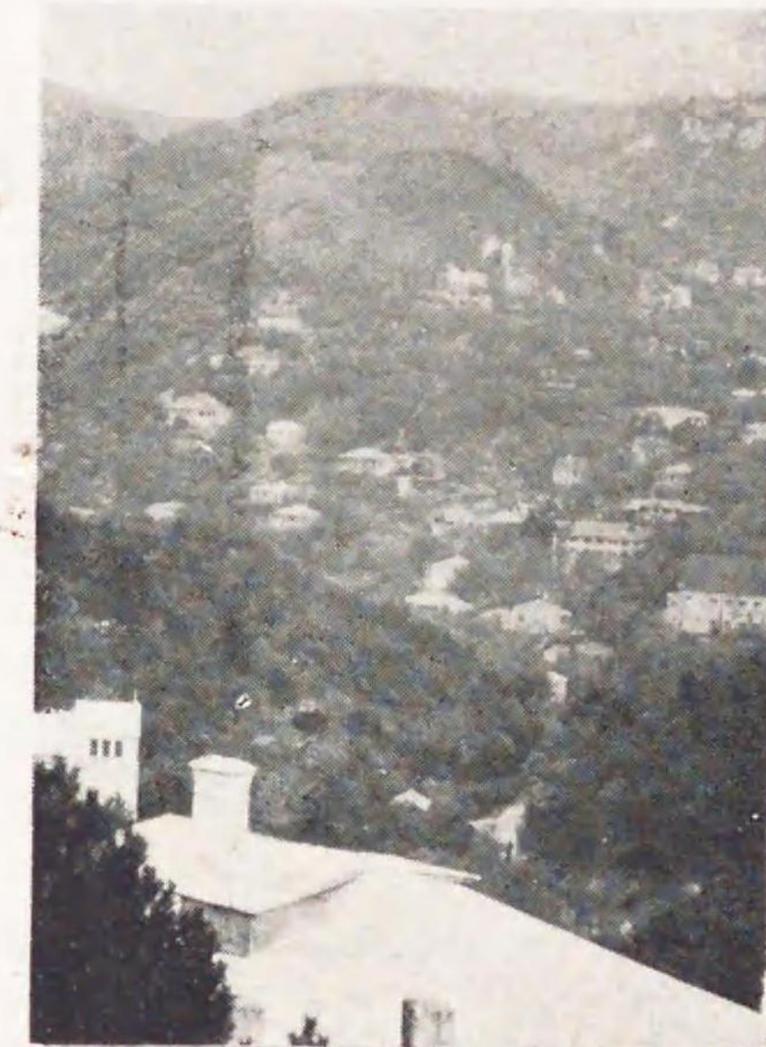


高麗山

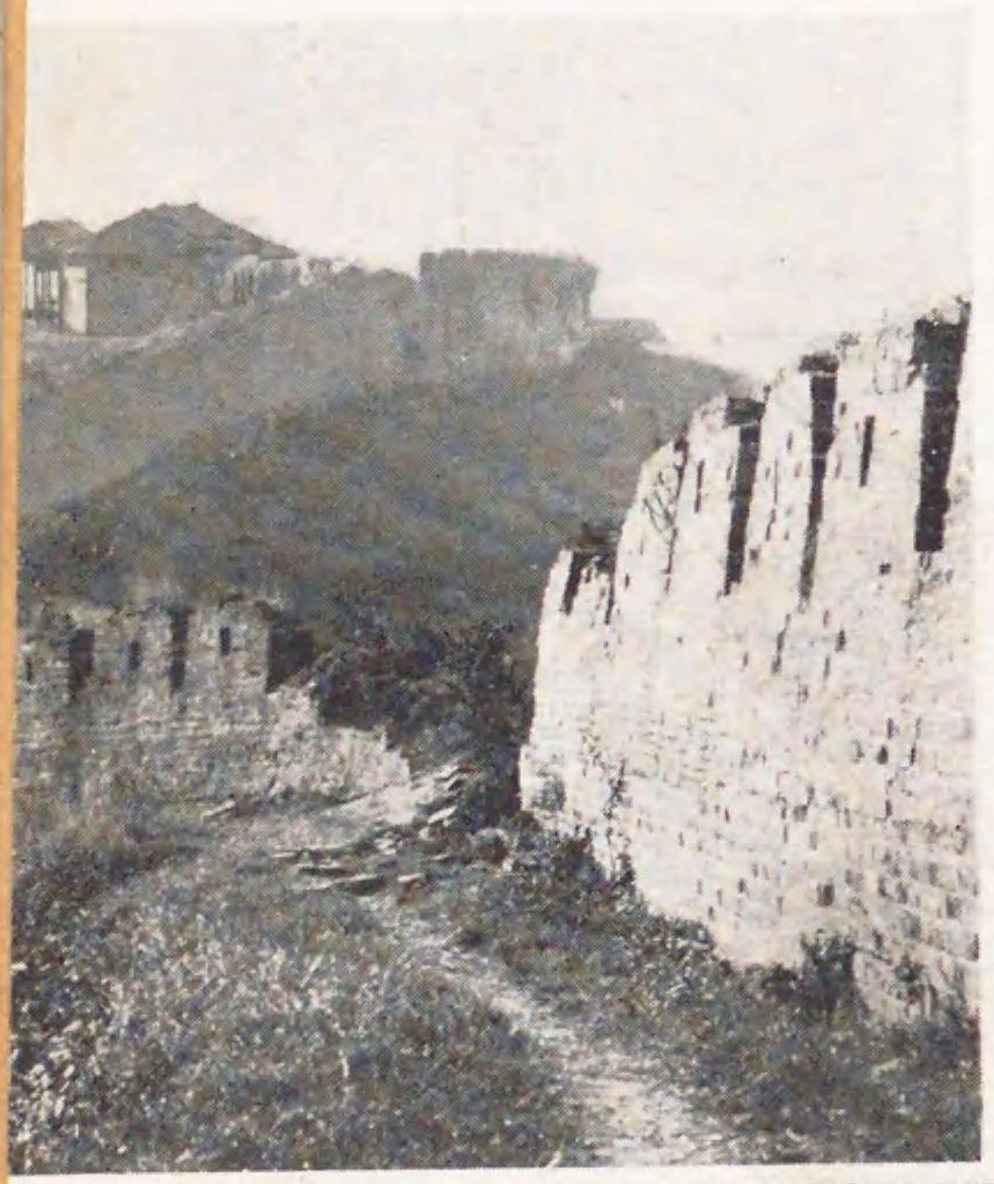


木材の税捐局（吉林）

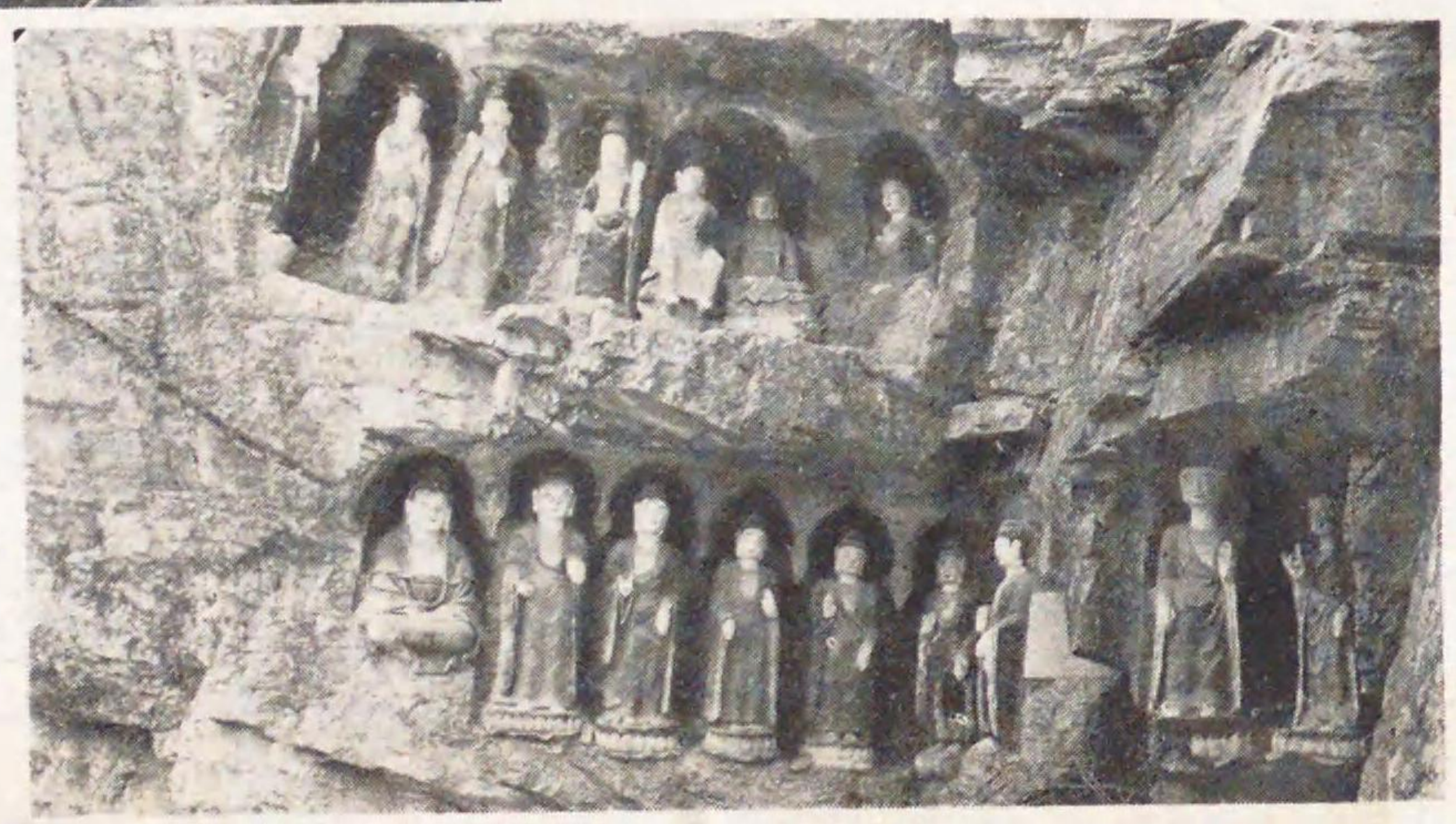




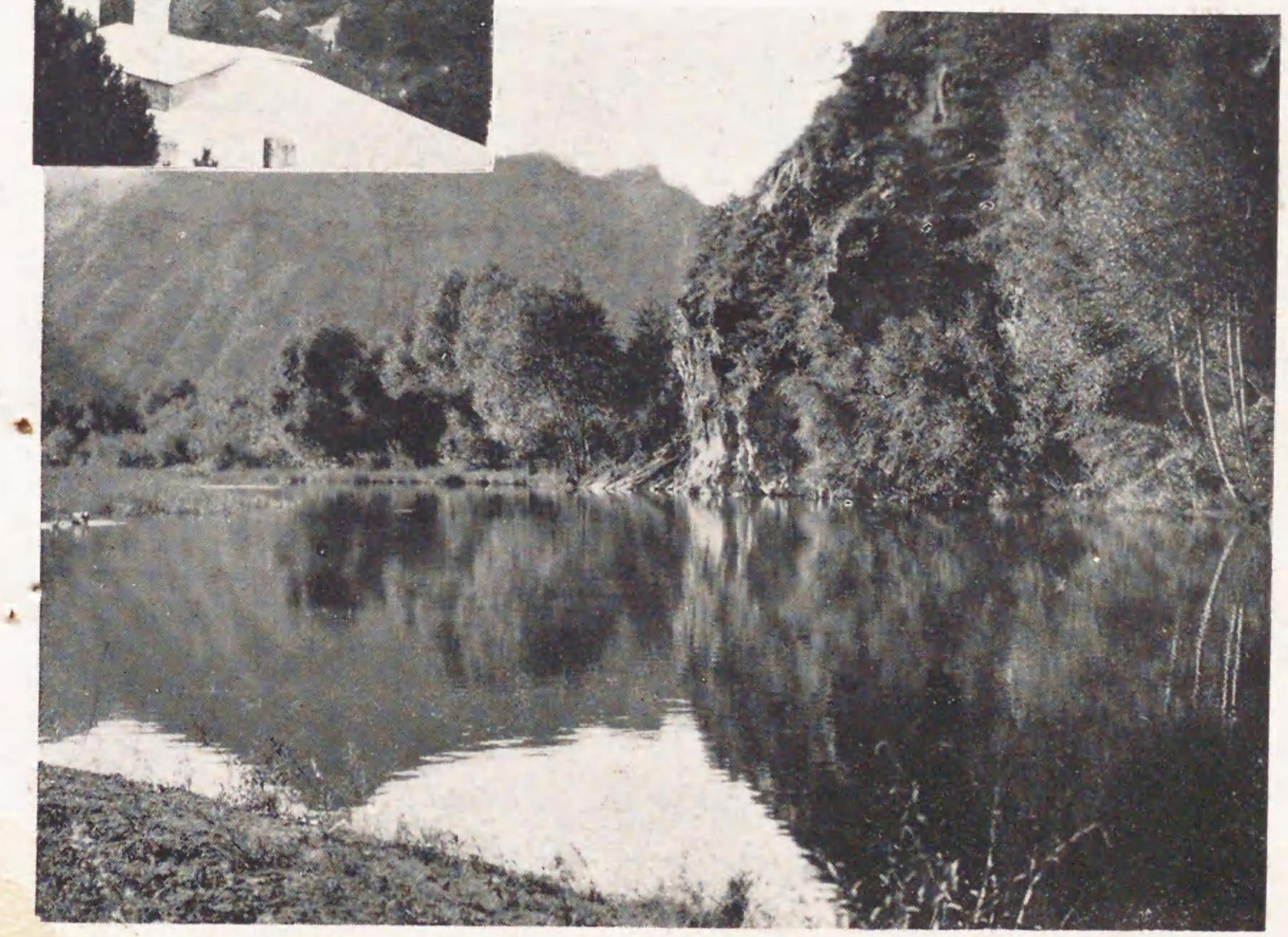
廬山（中支）



漢陽城趾



岩石佛（濟南）



連山關

青年義勇隊

青年義勇隊の沿革

康徳元年より康徳二年春にかけ、十七、八歳の日本青少年三十名が故東宮大佐及び加藤完治氏等の計畫に依り、東部國境烏蘇里江沿岸の饒河に入植し、饒河大和村を建設したのが濫觴である。其の後支那事變を契機として昭和十二年七月滿洲に於て青年農民訓練所創設要綱案の決定を見、更に日本に於ては之と相呼應し滿蒙開拓青少年義勇隊編成に關する建白書の提出あり、康徳五年（昭和十三年度）より青少年訓練生送出の決定を見た。依つて康徳四年（昭和十二年）十一月北安省伊拉哈訓練所に先遣隊二九三名を送出し、翌年同所外四箇所に約一萬五千の大量入所の實現を見るに至つた。

【義勇隊開拓團の建設】 昭和十二、三年度に渡滿した六十二ヶ中隊約一萬七千名の訓練生は、略三ヶ年の訓練過程を終了して、康徳八年三月下旬迄に先遣隊五十名乃至七十名を入植開拓地に派遣し、着々準備を進めつゝあり、同十月一日を以て本隊が移行し、一般開拓團の例に倣ひ、理想農村の建設に力強く邁進しやうとしてゐる。



青年義勇隊の使命

滿洲開拓青年義勇隊は日本肇國の理想たる八紘一宇の大精神に基き、開拓協和の實踐を通じて滿洲建國の聖業を完遂せんとするのが其使命である。訓練生が日夜唱和してゐる義勇隊綱領はこの使命を最もよく表現してゐる。

一、我等ハ天祖ノ宏謨ヲ奉シ心ヲ一ニシテ追進シ身ヲ滿洲建國ノ聖業ニ捧ケ神明ニ誓ツテ天皇陛下ノ大御心ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス

一、我等ハ身ヲ以テ一徳一心民族協和ノ理想ヲ實踐シ道義世界建設ノ礎石タランコトヲ期ス

青年義勇隊の訓練生は始め、「滿蒙開拓青少年義勇軍」として日本内地青少年のうちから選拔され、茨城縣内原に在る滿蒙開拓青少年義勇軍内原訓練所で約二ヶ月間の内地訓練を終つて渡滿すると同時に、「滿洲開拓青年義勇隊」を編成し現地訓練所に入所する。

訓練本部

義勇隊運動の進展に伴ひ、その一貫的指導統轄の必要が痛感されるに至り、昭和十四年（康徳六年）決定を見た滿洲開拓政策基本要綱に基き、滿洲開拓青年義勇隊訓練本部は創設されることゝなつた。翌十五年三月二十九日勅令第四十七號を以て訓練本部に關する法令が公布され、四月一日開設された。

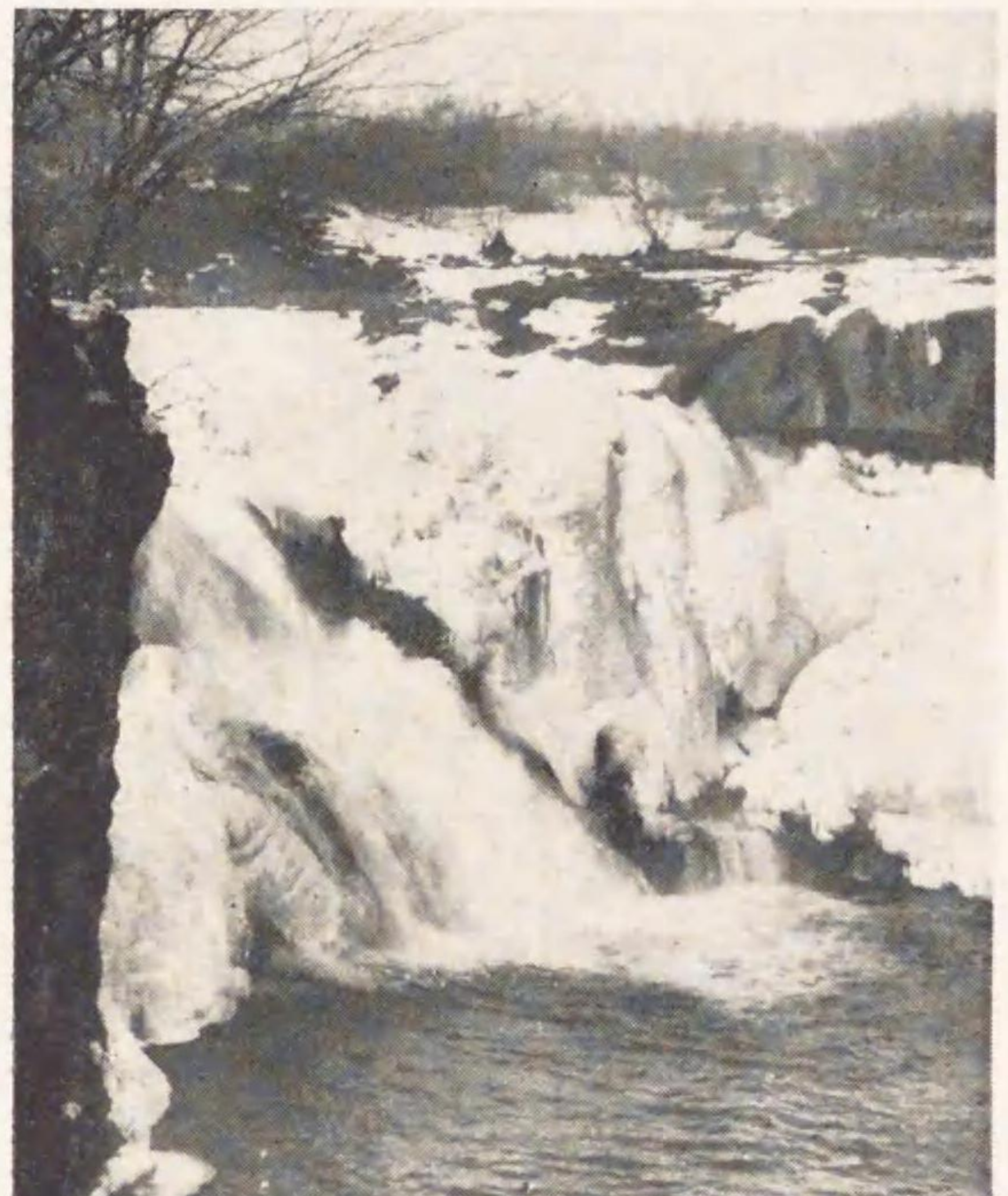
訓練本部は日滿兩國政府及び協和會、滿拓、滿鐵等關係機關の協力合作になるものであり、從來、滿拓及一部滿鐵に於て行つてゐた青年義勇隊の訓練に就て、その指導並に經營に關する方策と、管理運營の主體を確立し、また一貫的指導を與へるものとしてその設立は劃期的な意義を有するものである。

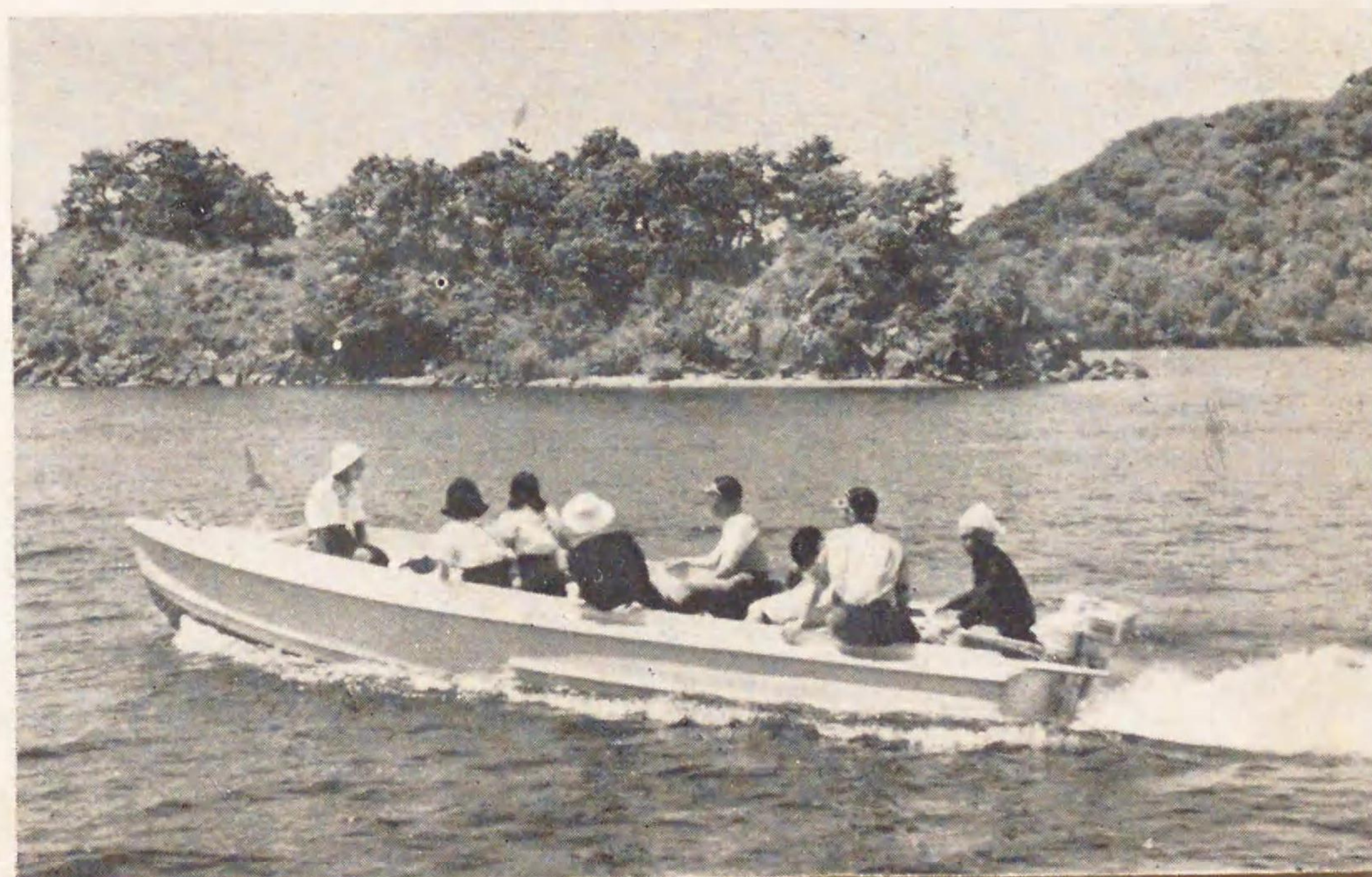
本部は新京特別市至聖大路に設置され、日滿兩國政府の協議決定せる訓練本部長の

水清き鏡泊湖の美觀







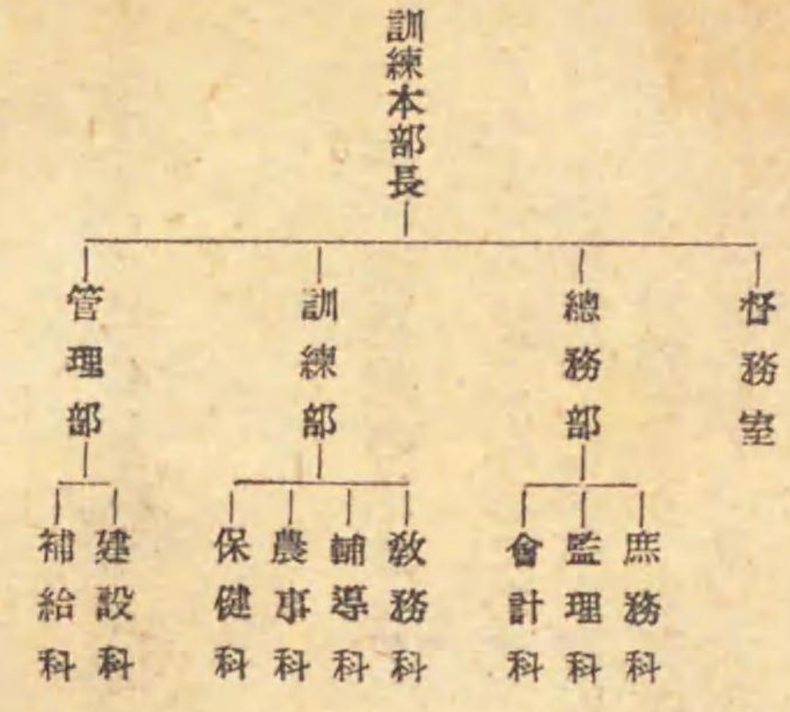


下に、一室三部制を執つて義勇隊訓練の一貫的指導統轄と各訓練所の經營に當つてゐる。

【訓練本部省支部の設立】 現下の情勢に鑑み、義勇隊事業の進展を圖り、訓練所運營の萬全を期するため、地方開拓機關の積極的協力による訓練本部省支部を康德八年八月一日、左記關係主要九ヶ省に新設した。

黑河、北安、龍江、興安北、濱江、牡丹江、三江、東安、吉林

【訓練本部の機構】 訓練本部は本部長の下に、督務室、總務部、訓練部、管理部の一室三部制を執り、各部は更に九科に分れてゐる。



訓練所の現況

【訓練所の種別】 從來の基本、實務訓練所の種別は康德八年四月より前記の通り改變され、現地訓練は一ヶ年の基本訓練と二ヶ年の實務訓練とに分れ、之が實施機關として大本部、中本部、小中部、小の各種訓練所及び特別訓練所が設けられてゐる。

【訓練の大要】

訓練は左記に依り實施されてゐる。

一、基本訓練

渡滿後一ヶ年を基本訓練に當て、主として開拓民としての基礎的訓練、人格的陶冶に努めると共に、滿洲の氣候、風土、衣食等に親しましめ、滿洲國の一般事情に通ぜしめ、且つ訓練生の適性、特質を査覈し、實務訓練への準備を爲す。

二、實務訓練

基本訓練を終了せる訓練生に對し、更に二ヶ年間開拓民としての實際的訓練を徹底させることを目的として、農事、軍事教學、生活、特技等の訓練を實施してゐる。

三、特別訓練

訓練生の適性特質に應じて、開拓農民以外の者として、特殊の訓練を施すことを目的とし、之に二種ある。即ち一は將來義勇隊、開拓團の指導員、醫師、教員その他となる者に對して基礎教育を施し、上級專門教育を受ける基礎を作るものであり、他は專門的技術訓練を行つて重要鑛工部門等に於ける基幹技術員を養成するものである。前者は訓練本部直營の嚮導訓練所であり、後者は吉林人造石油會社經營の吉林鑛工實務訓練所と、滿鐵經營の奉天鐵道實務訓練所の二ヶ所である。

【訓練所の經營主體】

訓練所の經營には、訓練本部の外、滿拓公社、滿鐵が當り、其の經營主體別訓練所數は左記の通りである。(康德八年八月現在)

記

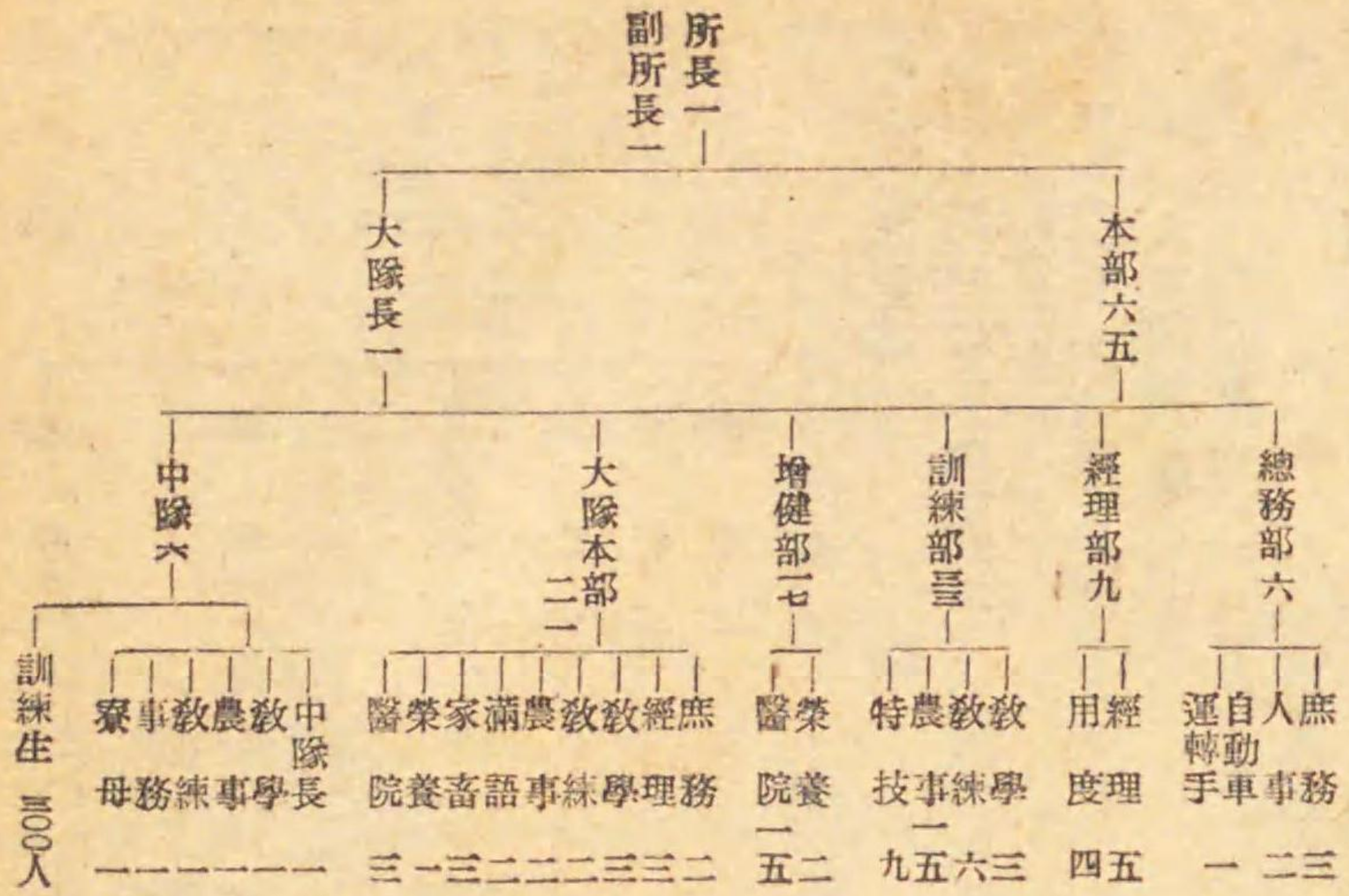
經營主體	訓練所數
訓練本部	三八
滿拓公社	二二
滿鐵	三一

(附記)

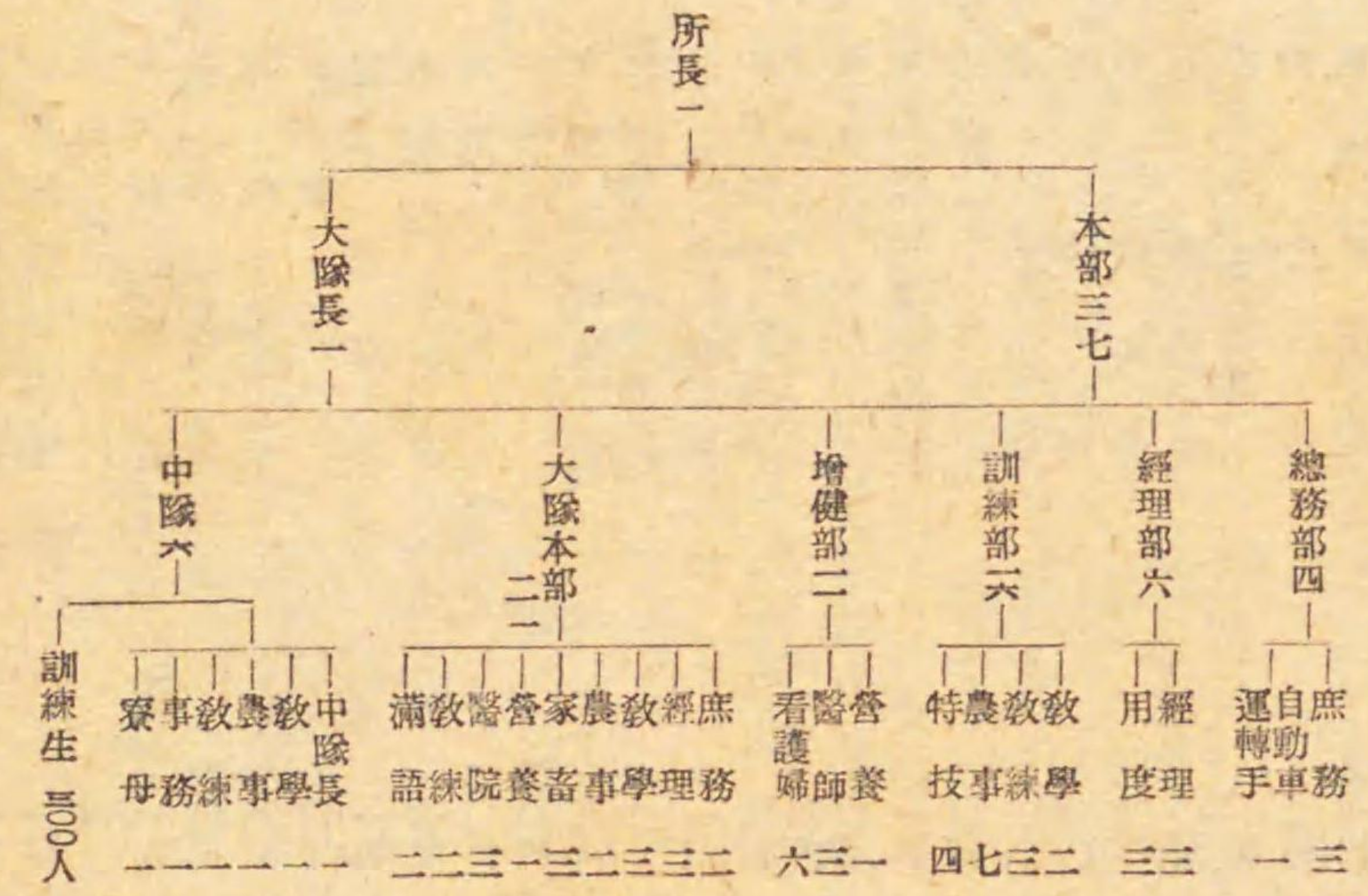
滿拓經營の二十二ヶ所は康德八年九月末日を以て開拓團へ移行するにつき、爾後滿拓の經營は廢止されることゝなる。

二、訓練所組織表

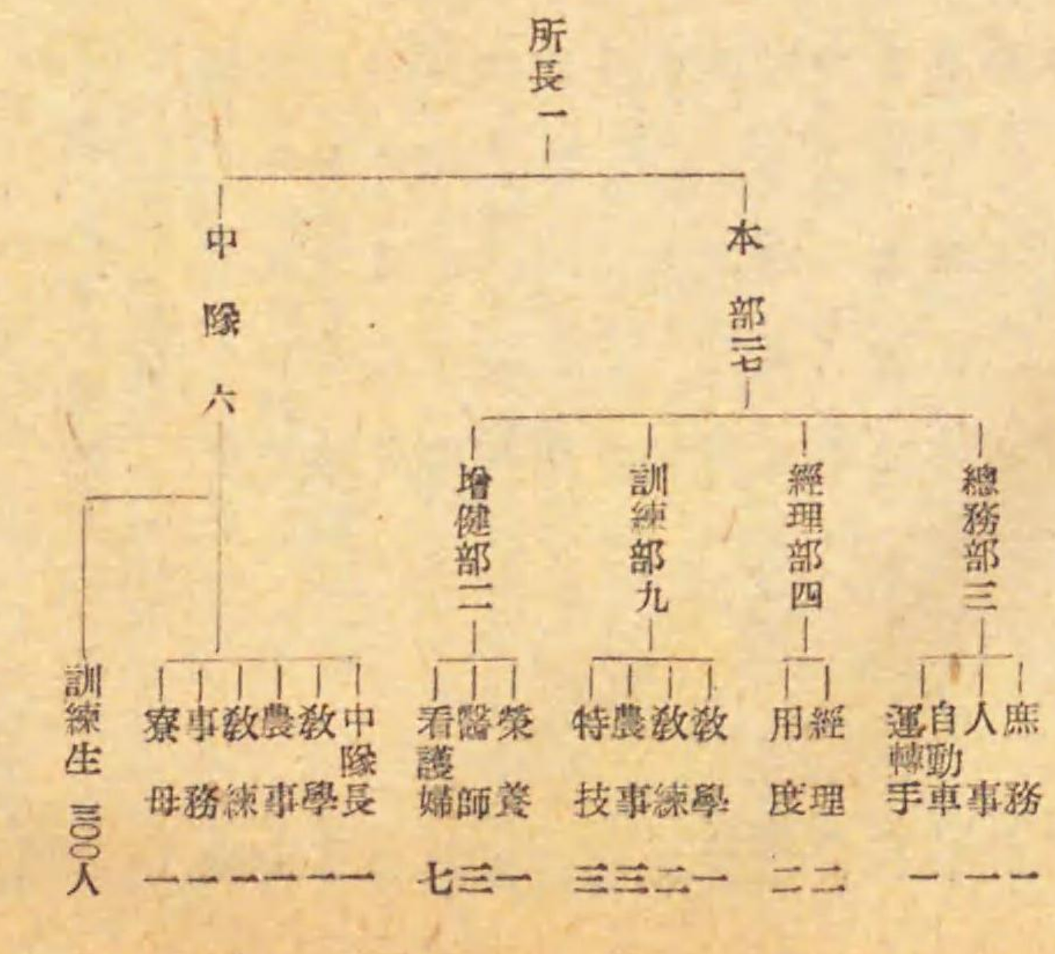
1 大本部訓練所



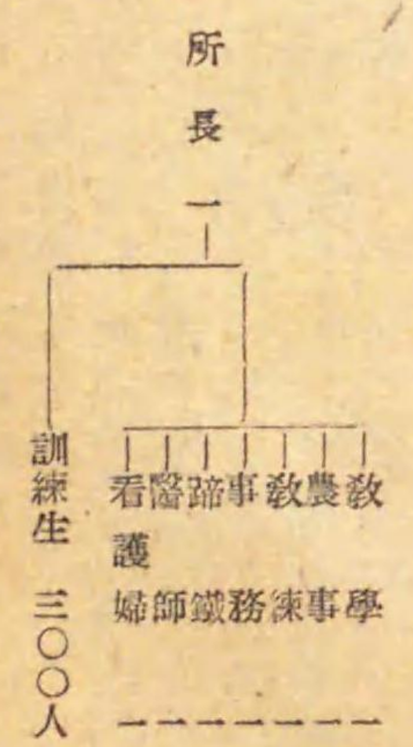
2 中本部訓練所



3 小本部訓練所



4 小訓練所



5 嚮導訓練所

- 所長一
- 副所長一
  - 教學一八
    - 文化科學
    - 自然科學
  - 農事一一
    - 耕種
    - 畜種
    - 林産
    - 園藝
    - 農産・畜産加工
  - 武道教練五
    - 軍事
    - 柔道
    - 劍道
  - 教務三
  - 經理三
  - 醫務三
  - 訓練生七〇〇人

【施設の概況】

訓練所の施設は其の創設時代に比較すれば相當良好になつた。左に建物施設の標準表を擧げよう。

一、大本部訓練所（訓練生六、〇〇〇人）

神社	一棟
招魂社	一同
本部事務所	一同
大隊同	四同
中隊同	二〇同
會議兼食堂	一同
講堂	一同
中隊講堂兼食堂	二〇棟
道場	一同
通信物整理室・交換室	一同
本部圖書標本室	一同
大隊同	四同
所長宿舍	一同
中隊豚舍	四〇同
本部羊舍	一同
大隊同	四同
本部鷄兎舍	一同
本部妻帯宿舍	一七同
大隊同	二〇同
中隊同	四〇同
本部獨身宿舍	八同
大隊同	一二同
外來者宿舍	一同
本部訓練生宿舍	八同
大隊同	四同
中隊同	一二〇同
本部炊事場付浴室	一同
中隊同	二〇同
倉庫類	七三同
診療所	七同
中隊鷄兎舍	二〇同
同作業場	二〇同
本部トラクター	一同
鍛工場	二同
野菜貯藏庫	二一同
漬物タンク	二五同
本部加工倉庫	一同
同大農具舍	三同
同小農具舍	六同
中隊農具舍	二〇棟
本部農産加工場	三同
大隊農産加工場	四同
本部牛舍	一同
同厩舍	一同
大隊同	四同
中隊同	二〇同
本部豚舍	四二同
木工場	三同
雜設備	二五同
計	六五六同

二、小本部訓練所（訓練生一、五〇〇人）

神社	一棟
講堂兼食堂付事務所	五同
圖書標本室	五同
妻帯者宿舍	一一同
訓練生宿舍	三〇同
炊事場付浴室	五同
便所	二一同
井戸上家	六同
倉庫類	二三同
診療所	六同
野菜貯藏庫	五同
蹄鐵工場	五同
農産加工場	五同
作業場	五同
農具庫	五同
牛舍	五同
厩舍	一五同
豚舍	一〇同

羊舍	二棟
鷄兎舍	五同
衞兵所	五同
招魂社	一同
道場	一同
獨身宿舍	四同
計	一八六同

三、小訓練所（訓練生三〇〇人）

神社	一棟
講堂兼食堂付事務所	一同
圖書標本室	一同
妻帯者宿舍	三同
訓練生宿舍	一二同
炊事場付浴室	一同
便所	四同
井戸上家	二同
倉庫類	九同
診療所	一同
野菜貯藏庫	一同
蹄鐵工場	一同
農産加工場	二同
作業場	一同
農具庫	二同
精穀場	一同
牛舍	一同
厩舍	二同
豚舍	一同
羊舍	一同
鷄兎舍	一同
衞兵所	一同
招魂社	一同
道場	一同
計	五二同

また各種農具、武道、體育、教練等の施設や、各種教學資料、娯樂修養施設として圖書、新聞、雜誌、運動具、蓄音機、ラヂオ等を配給し、その整備充實に努力してゐる。

保健衞生施設としては、訓練所内に訓練所の種別により病院、醫務室、休養室、診療所等の施設がある外、哈爾濱に近代的設備を誇る各科綜合病院たる義勇隊中央醫院（病床數、本院三百有餘、分院百五十）と奉天省蓋平縣に增健訓練所があり、尙近く日本内地の風光明媚な健康地を選び、主として結核患者を收容するところの療養所が設立されることゝなつてゐる。

【指導員竝訓練生數】

指導員竝訓練生の在籍數は左記の通りである。

記

指導員　一、六四〇名（康德八年四月一日現在）

訓練生　三七、六六五名（康德八年三月三十一日現在）

視察について

大小數十の訓練所を一々視察するわけにゆかないが、大本部、中本部、小中部、小特別の各訓練所を一通り視ることによつて大體の樣子は摑むことができる。然しこれ等の訓練所も開所草創の際ではあり、交通機關は概して不便であり、未だ設備の整はぬ處も多々あらう。

誰にも容易に訪ねられる訓練所は哈爾濱郊外の哈爾濱特別訓練所である。此處は一般の視察には打つて付けの場所と思ふから左に簡單な注意事項を揭げる。尙視察關係には特に國立開拓指導員訓練所への連絡も必要かと思はれる。（開拓地視察の項參照）

哈爾濱特別訓練所

哈爾濱訓練所の前身は哈爾濱日本國民高等學校で哈爾濱郊外王兆屯で一次から五次までの先遣隊は、殆んど此處で訓練を受けた人々である。昭和十一年の秋百萬戸開拓民案が採擇されるに當り、前記國民高等學校は滿洲移住協會の管理に移りて名稱を滿蒙開拓哈爾濱訓練所と改め義勇隊制度成るに及んで特別訓練所を設くるに到つた。

同訓練所の視察は團體視察なら滿洲拓植公社哈爾濱地方事務所に交涉し訓練所のトラックを出してもらつてもよい。

個人視察の場合は透籠街登喜和百貨店前より 哈爾濱時間約四十分料金片道一人一圓。

交通バスに乘れば約四十五分で訓練所に達する。

發着時間は

透籠街發　七時、九時、十一時、十四時、十六時、十八時

訓練所發　八時、十時、十二時、十五時、十七時、十九時

料金片道　三十錢

その◎印のバスにて香坊終點まで　十錢

それより訓練所まで馬車　料金不定

自動車　三十分—四十分

料金片道　七圓

宿泊　一般視察者一泊(三食附)一圓

收容人員は合宿式なら百名位まで收容出來る。但し寢具の用意はない。突然の視察者でも二、三人なら宿泊の準備はある。但し所內視察時間は三時間で充分だから、哈爾濱の市街に歸つて普通の旅館に泊つた方が何かと便利である。

尙佳木斯より綏化に出る神蓮線の開通によりこの線を選べば開拓團を初め、鐵驪訓練所の見學や北滿の視察を充分に遂げる事が出來る。

◇滿洲開拓青年義勇隊訓練所現況表

訓練所名	省	縣(旗)	最寄驛	粁程
鐵驪	北安	鐵驪	綏佳線鐵山包	四
勃利	三江	勃利	圖佳線勃利	四〇
對店	北安	海倫	濱北線海北	三一
嫩江	同	嫩江	寧墨線八洲	四
一面坡	濱江	珠河	濱綏線一面坡	一三
哈爾濱	同	哈爾濱市	哈爾濱香坊	一三
昌圖	奉天	昌圖	連京線・昌圖	一七
樺川縣大林	三江	樺川	圖佳線千振	一四
寶清縣龍頭	東安	寶清	虎林線興凱	六〇
頭道	同	同	同	六〇
葦河縣平陽	濱江	葦河	濱綏線亞布洛尼ヨリ森林鐵道乘換慶陽屯	二
鐵驪縣北斗	北安	鐵驪	綏佳線鐵山包	九
安達縣薩爾圖	濱江	安達	濱洲線薩爾圖	六
海倫縣三井	北安	海倫	濱北線海北	二四
寧安縣南山市	牡丹江	寧安	濱綏線山市	一二
鎭東縣大嵐	龍江	鎭東	平齊線鎭東	二八
嫩江縣柏根	北安	嫩江	寧墨線柏根里	〇、五
同　高根	同	同	同　八洲	一〇
同　伊拉哈	同	同	同　伊拉哈	〇、五
寧安縣鏡泊學園	牡丹江	寧安	圖佳線東京城	五〇
密山縣楊謨	東安	密山	虎林線東安	—
同　小興凱	同	同	同	—
寶清縣寶石	同	寶清	同　興凱	八〇

訓練所名	省	縣(旗)	最寄驛	粁程
寧安縣海濵	牡丹江	寧安	圖佳線寧安	三〇
同　拉哈密	同	同	同　東京城	六五
葦河縣長崗	濱江	葦河	濱綏線亞希洛尼ヨリ森林鐵道亮床河連絡	三〇
樺川縣腰林	三江	樺川	圖佳線佳木斯	五三
海倫縣葉家	北安	海倫	濱北線海倫	四二
同　萬順	同	同	濱北線海倫	五二
慶城縣不二	同	慶城	綏佳線慶城	五二
同　志貨	同	同	同	四五
鐵驪縣五花	同	鐵驪	同　鐵山包	二一
嫩江縣南柏根	同	嫩江	寧墨線嫩江	三六
同　四十里河	同	同	同	三〇
同　大椅山	同	同	同	七五
同　大南山	同	同	同	七三
同　圈泡	同	同	同　圈泡	五
訥河縣聚和	龍江	訥河	同　拉哈	七二
牙克石	興安北	索倫	濱洲線牙克石	一二
嫩江縣八洲	北安	嫩江	寧墨線八洲	三〇
鐵驪縣圖南	同	鐵驪	綏佳線鐵山包	二〇
寧安	牡丹江	寧安	圖佳線東京城	一六
大石頭	吉林	敦化	京圖線大石頭	三
孫吳	黑河	孫吳	北黑線孫吳	二〇
璦琿縣大額	同	璦琿	同　黑河	—
饒河北進寮	東安	饒河	虎林線虎頭	九〇
東寧縣東寧	牡丹江	東寧	濱綏線綏芬河	—
琿春縣黑頂	間島	琿春	北鮮線阿吾地	—
興安	興安北	額爾克納左翼	濱洲線海拉爾	—
虎林縣烏蘇里	東安	虎林	虎林線虎林	—
綏陽縣老茱嗇	牡丹江	綏陽	濱綏線綏陽	—
嫩江縣泥秋	北安	嫩江	寧墨線泥秋	一〇
北安縣尾山	同	同	北黑線尾山信號所	二
奇克縣勝武	黑河	奇克	北黑線孫吳	—
璦琿縣托力木	同	璦琿	同　璦琿	—
同　朝水	同	同	同　朝水	—
遜河縣大公河	同	遜河	同　孫吳	—
饒河晨明	東安	饒河	虎林線虎頭	—
同　大城	同	同	同	—
馮家	錦州	彰武	大鄭線馮家	一、五

取柴河	吉林	磐石	奉吉線取柴河	〇、一
河灣子	同	永吉	京圖線河灣子	六
小姑家	同	額穆	同　小姑家	〇、四
楊木	三江	勃利	虎林線、楊木	一
青山	同	同	圖佳線青山	二
追分	同	樺川	同　追分	一、五
李家	北安	通北	濱北線李家	〇、八
龍鎭	同	北安	北黑線龍鎭	〇、一
寧年	龍江	富裕	寧墨線寧年	二、五
柳樹河	吉林	額穆	京圖線柳樹河	五
吉山	牡丹江	寧安	濱綏線山市	八
太嶺	同	穆稜	同　大嶺	三
紫陽	同	東寧	同　紫陽	一、五
虎山	三江	勃利	圖佳線虎山	〇、二
二井	北安	北安	北黑線二井	二
璦琿	黑河	璦琿	同　璦琿	二
哈川	龍江	富裕	寧墨線寧年	四
成吉思汗	興安東	布特哈	濱洲線成吉思汗	｜
大和	同	喜札嘎爾	白阿線大和	一二
通北	北安	通北	濱北線通北	驛ニ接ス
烏奴耳	興安北	索倫	濱洲線烏奴耳	六
豐榮	龍江	甘南	濱洲線碾子山	一四、六
小東子	錦州	黑山	小三家子	｜
綏芬河	牡丹江	綏陽	濱綏線平房	｜
四台子	安東	鳳城	安奉線四台子	｜
綏中	錦州	綏中	奉山線綏中	三
耿家屯	奉天	遼陽	遼溪線耿家屯	驛ニ接ス
黃金子	黑河	璦琿	北黑線黃金子	同
尙家	濱江	肇東	濱洲線尙家	同
歸流河	興安南	科爾沁右翼前	白阿線歸流河	二、五
吉林鑛工	吉林	吉林	京圖線哈達灣	三
哈爾濱嚮導	濱江	哈爾濱	京濱線哈爾濱	
奉天鐵道	奉天	奉天	連京線奉天	

◇義勇隊開拓團入植現況表（三百戸集團四三、二〇〇戸集團二〇、五〇戸集合八）

入植時期（先遣隊）	省名	縣又ハ旗名	地區名	訓練所名	所長名	訓練所種別	集團集合別	最寄驛又ハ港
十六年二月	三江	富錦	梨樹	青山	泊淸忠	滿鐵		佳木斯新城鎭港
同	同	湯原	南叉	大額	武井國弘	同		綏佳線南叉
同	同	同	晨明	饒河	山田與四郎	同	（集合）	綏佳線晨明
同	樺川	同	追分	追分	石脇重男	同		圖佳線追分
同	同	同	日高見	勃利	伊藤繁藏	基本	（集合）	同　千振
同	同	同	大林	大林	矢上政則	甲		同　同
同	東安	勃利	萬龍	揚木	荻野惣治	滿鐵		同　勃利
同	同	同	大隅	東寧	佐藤精作	乙		同
同	同	寶淸	頭道	頭道	白戸勝男	甲		虎林線興凱
同	同	同	龍頭	龍頭	上原一	同		同
同	同	同	寶石	寶石	樋口庄三郞	同		同
同	牡丹江	寧安	爾站	吉山	錦戸理平	滿鐵		圖佳線東京城
同	同	同	南山市	南山市	赤石淸	甲		濱綏線山市
同	同	同	鏡泊學園	鏡泊學園	西津袈裟實	同		圖佳線東京城
同	同	同	海浪	海浪	伴金竹臣	同		同　寧安
同	同	同	拉哈密	拉哈密	古川健藏	同		同　東京城
同	濱江	珠河	元寶鎭	李家	大分班	滿鐵	（集合）	濱綏線一面坡
同	同	五常	小淸河上流	黑頂	水城伊三二	乙		拉濱線五常
同	同	木蘭	三合店	黃金子	渡邊美江	滿鐵		松花江木蘭
同	同	葦河	長崗	長崗	崎上福一	甲		濱綏線亞布洛尼
同	同	同	平陽	平陽	堀口宅藏	同		同
同	同	安達	薩爾圖	薩爾圖	森圓吉	同		濱洲線薩爾圖
同	同	肇東	尙家	尙家	酒井源一	滿鐵		同　尙家
同	同	肇州	臨安	哈川	村崎義隆	同		同　安達
同	吉林	蛟河	二道溝	大石頭	小島守次	乙		京圖線敦化
同	同	同	燒鍋	綏中	研谷靜	滿鐵		同
同	同	同	小姑家	小姑家	池田博	同		同　小姑家
同	同	敦化	沙河橋	柳樹河	安藤薫	同		同　敦化
同	同	同	秋梨溝	河灣子	福岡淸	同		同　秋梨溝
同	同	同	南黃泥河	大石頭	高橋和一	乙		同　敦化
同	同	同	大蒲柴	同	油田規矩治	同		同

十六年二月	吉林	樺甸	横道子	大石頭	赤松弘	乙		京圖線蛟河
同	北安	慶城	依吉密	依吉密	倉見榮一	同		綏佳線高老
同	同	綏稜	王榮廟	柴陽	畠山松治	滿鐵		濱北線克音河
同	同	同	長英屯	取柴河	遠藤金作	同		同 海倫
同	同	鐵驪	横泰	李家	岡山班	同	（集合）	綏佳線田昇
同	同	同	北斗	北斗	佐伯貞雄	甲		同 鐵山包
同	同	拜泉	誠實	李家	熊本班	滿鐵		濱北線李家
同	同	同	干家	饒河	月館信良	乙		同 通康
同	同	同	寶泉	成吉思汗	南部孝	滿鐵		齊北線克山
同	同	克山	東劉大櫃	龍鎮	寺田忠二郎	同		同
同	同	嫩江	揚家	瑷琿	平塚毅一	同		寧墨線墨爾根
同	同	同	老虎溝	孫吳	畑中浩	乙		同
同	同	同	哈拉巴	大額	關場德治	同		同
同	同	同	東青山	孫吳	石橋太郎	同		同 八洲
同	同	同	伊拉哈	伊拉哈	筒井光義	甲		同 伊拉哈
同	同	同	高根	高根	小島武	同		同 八洲
同	同	同	八洲	八洲	折山松市	同		同
同	同	同	柏根	柏根	杉浦新司	同		同 柏根里
同	同	同	南柏根	南柏根	平塚景貴	同		同 墨爾根
同	同	同	圖泡	圖泡	窪倫夫	同		同 圖泡
同	同	通北	十道溝	大石頭	中井敦範	乙		濱北線海北
同	同	德都	格拉珠山	大額	丸山新治	同		同 北安
同	同	海倫	三井	三井	中島利雄	甲		同 海北
同	同	同	萬鄉	萬順	中山喜一	同		同 海倫
同	龍江	訥河	錫英	大嶺	長谷年美	滿鐵		寧墨線訥河
同	同	同	連桂	大額	國師嘉藏	乙		同
同	同	同	龍河	孫家吳	大江晉	同		同
同	同	同	大雅	聯屯	松岡清	滿鐵		同
同	同	同	寛溝	小東	吉川美岳	同		寧墨線老萊
同	同	同	南學田	二井	和氣要作	同		寧墨線訥河
同	同	同	聚和	聚和	阿部高吾	甲		同
同	同	洮南	七道嶺	大和	遠藤威文	滿鐵		白阿線索格營
同	同	富裕	寧年	寧年	岸初哉	同		齊北線寧年
同	同	同	五樑樹	虎山	津村庄三郎	同		同
同	同	鎮東	幸昭	馮家	近內與八	同		平齊線東屏
同	同	同	大崗	大崗	佐藤省三	甲		同 鎮東
同	同	甘南	興亞	柴陽	福井莊	滿鐵		濱洲線海拉爾

旅行常識

滿洲旅行

經路（日本より）

【海路大連經由】

（一）大阪商船經由

每月二十五、六回神戶出帆、門司、大連に往復してゐる。

（二）日本郵船經由

主として南九州地方の旅客のための航路で、月三回、鹿兒島、長崎と大連間を往復運航してゐる。

【朝鮮經由】

（一）釜山經由

每日朝夕二回下關と釜山間に鐵道省直營の連絡船があり、釜山及び下關では急行列車に夫々接續する。

（二）北鮮經由

日本海航路

新潟、羅津、淸津間　月十四、五回
敦賀、淸津、羅津間　月十四、五回
何れも兩地間を往復運行してゐる。



【航空路】

東京、大連間を發着してゐる。途中着陸地は名古屋、大阪、福岡、大邱、京城、平壤、新義州であるが、別に大連—京城—福岡—東京と、新京—奉天—京城—福岡—東京の急行便竝に新京—東京直行便がある。

（滿洲北支間は「北支、蒙疆」の項參照）

旅行季節

春；四月中旬の杏の花の季節から、下旬の櫻の頃を過ぎて、アカシヤ薫る五月、新綠の六月頃までが滿洲旅行に一番良い時期である。

夏；七月中旬から八月上旬にかけて所謂滿洲の雨期に入るが、內地の梅雨の樣に每日降り續くと云ふことは珍しく、それに朝夕は急に涼しくなつて北滿なら給が欲しいやうなこともあり、內地の夏より遙かに凌ぎ易い。

秋；滿洲の秋は短いが、南滿地方なら十月、北滿地方なら九月一杯は母國の秋と同樣、紅葉の季節で、春にも優る旅行のシーズンである。

冬；滿洲の冬は三寒四溫と云つて、寒さが三日續けば、次に暖い日が四日續くと云ふやうに、自然に氣候が緩和されてゐる。此の時期は滿洲として一番活氣のある時で、世界的な農業特產物の出廻りが特に活潑になり又スケート、スキー等のウインタースポーツが大陸の大自然を背景として行はれる。尙狩獵家の活躍期に入るのも此の頃で「狩獵滿洲」の名は遠く歐米にまで響いてゐる。

服裝と携帶品

鐵道を離れてずつと奧地へ入る人は別に雨具、食糧の携行と濕地地帶旅行の用意が必要であるが、鐵道沿線の主要都市を視察する旅行ならば、內地の旅行とさして選ぶところなく、取立てゝ特別に携行を要するやうなものはない、なるべく輕快な服裝—洋服の方が萬事に便利である。氣候が大陸的で酷暑期でも夜間は冷氣を覺えるから、

腹巻とセーター類の用意が望ましい。雨は滅多に降らないから、洋傘よりスプリングか、レインコートを携行した方が、上記の理由からばかりでなく、埃除けとしても便利である。冬は厚手の外套を用意すればよい。

又内地から携帶される寫眞機、望遠鏡等の高價品は歸路輸入品と見做され課税される虞れがあるから、入國に際し左記の税關箇所で携帶證明を受けて置く必要がある。

一　海路大連上陸の場合は神戸又は門司税關で
一　釜山上陸朝鮮經由の場合は安東驛構内新義州税關出張所で
一　清津、羅津、雄基上陸の場合は上三峰驛又は圖們驛内税關出張所で

通貨と兩替

通貨の種類は日本貨幣、朝鮮銀行紙幣、滿洲貨幣の三種である。之等は等價に使用出來るから旅行中兩替の必要はないが、滿洲貨幣は歸路日本貨幣に兩替をする必要がある。

滿洲貨幣は奉天、新京、圖們、上三峰驛構内賣店、安東驛ホーム構内賣店竝大連埠頭、釜山棧橋朝鮮銀行出張所で等價無料兩替をしてゐるからこれを利用すればよい。

又朝鮮銀行紙幣も大連埠頭、釜山棧橋の同銀行出張所で旅客のため兩替の便を計つてゐる。

尚旅行者は現金二百圓以上を國外に携帶する場合は管理當局の許可を要す。

旅館

滿洲國内鐵道沿線主要地各驛旅館は大體茶代廢止が實行され（社線沿線各旅館は茶代絶對廢止）旅行者間に好評を博してゐる

女中その他への心附は宿料支拂額の一割乃至二割をやれば結構である。

尚食事の取り樣如何によつて洋式ホテルが安價の場合もあり和式旅館の方が比較的小額の費用で濟む場合もあり蓋し一樣でない。

○單獨宿泊料

・洋式ホテル——鐵道總局直營ヤマトホテル及びその他の洋式ホテルには何れも歐、米兩式があり、宿泊は一人室一日凡そ金四圓以上、食事料は凡そ朝一圓五十錢、晝二圓、晩二圓五十錢である。

・和式旅館——所により一定してないが大體一泊二食附凡そ一等八圓以上、二等六圓、三等四圓である。

○團體宿泊料

滿洲國内鐵道沿線各旅館は大抵「滿洲旅館協會」に加入してゐて、左記の協定團體宿泊料及び食事料金に從つてゐる。

◇滿洲旅館協會協定團體宿泊料及食事料金表（昭和十五年二月二十日改正）

區別	料金地域	宿泊料 一泊三食	缺食宿泊料 朝食缺	缺食宿泊料 晝食缺	缺食宿泊料 夕食缺	食事料 朝食	食事料 晝食	食事料 夕食	辨當代	席料 不食宿泊ノ場合	席料 休憩ノミノ場合	心付
小學校	州内	一・三五	一・一五	一・一五	一・〇五	三五	四五	六〇	三〇	基本料金ノ三分ノ一	當該食事料金ノ半額	宿泊食事料金ノ七分
	州外	一・五五	一・三五	一・三五	一・二五	四五	五五	七〇	三五			
	特殊	一・七〇	一・五〇	一・五〇	一・四〇	五〇	六五	八〇	四〇			
中等學校	州内	二・一〇	一・八〇	一・八〇	一・七〇	六〇	七〇	一・〇〇	四〇	同右	同右	同右
	州外	二・五〇	二・〇〇	二・〇〇	一・九〇	七〇	八〇	一・二〇	四五			
	特殊	二・五〇	二・二〇	二・二〇	二・一〇	八〇	九〇	一・三〇	五〇			
專門學校以上	州内	二・六〇	二・三〇	二・三〇	二・二〇	七〇	九〇	一・一五	四五	同右	同右	同右
	州外	二・八〇	二・五〇	二・五〇	二・四〇	八〇	一・〇〇	一・三〇	五〇			
	特殊	三・一〇	二・七〇	二・七〇	二・六〇	九〇	一・一〇	一・四五	五五			
青年團 教員團 軍人團	州内	（一泊二食）三・一〇	二・六〇		二・三〇	九五	一・二〇	一・七〇	五〇	基本料金ノ二分ノ一	同右	同一割
	州外	三・四〇	二・九〇		二・六〇	一・一〇	一・三五	二・〇〇	六〇			
	特殊	三・八〇	三・三〇		三・〇〇	一・二五	一・五〇	二・二・	七〇			
普通團體	州内	自三・八〇 至六・〇〇	自三・二〇 至五・四〇		自二・八〇 至五・〇〇	自一・一〇 至一・七〇	自一・六〇 至二・五〇	自二・一五 至三・四〇	七〇	同右	同右	同右
	州外	自四・二〇 至六・五〇	自三・六〇 至五・九〇		自三・二〇 至五・五〇	自一・二〇 至一・八五	自一・七五 至二・七〇	自二・四〇 至三・七〇	八〇			
	特殊	自四・五〇 至七・五〇	自三・九〇 至六・九〇		自三・五〇 至六・五〇	自一・三〇 至二・一五	自一・九〇 至三・一五	自二・六五 至四・四〇	一〇〇			

備考
一、普通團體にして本料金以上のもの希望の場合は其の都度團體側と協定のこととす
一、特殊とは牡丹江、哈爾濱、齊々哈爾、承德の各地を謂ふ
一、本協定にて團體とは十人以上の場合を又教員團體とは初等學校の教員團、軍人團とは下士官以下軍人團を謂ふ
一、宿泊料は學生團體に對しては一泊三食付其の他の團體に對しては一泊二食付
一、缺食宿泊料適用に就ては缺食すべき食事の少くとも一食前に其の旨申出あるを要し其の後の申出に對しては當該食事料の實費を申受けること
一、夕食料金は夜十二時迄に旅館を出發することゝし之に對する室料を含みたるものにして之を超える時は朝食缺の室料を申受くること

◇朝鮮旅館協會協定團體宿泊料及食事料金表（昭和十五年一月一日改正）

種別	宿泊料金 一泊三食付	缺食宿泊料金 晝食缺食ノ時	缺食宿泊料金 夕食缺食ノ朝	食事料金 朝食	食事料金 夕食	食事料金 辨當	備考
小學校兒童	一・五五	一・四〇	一・二〇	〇・六〇	〇・七〇	〇・三〇	
中學校生徒	二・一〇	一・九〇	一・六五	〇・七五	〇・九〇	〇・四〇	並折
專門學校以上	二・八〇	二・六〇	二・二〇	〇・八〇	一・三〇	〇・四〇	

青年團軍人下士官以下	四・〇〇	二・四〇	〇・六〇	一・二〇	〇・五〇	上折
普通團體	一泊二食付 自四・〇〇以上 至五・〇〇				六〇	二重折
紳士團體	自五・五〇錢以上 至六・五〇				八〇	同

本表による一泊と稱するは前日正午より翌日正午を以て計算す
○青年團軍人以下の團體にして夜出發夕食不用の際は夕食料金の半額を室料として申受く
○紳士團體並に普通團體にて朝投宿(食事付)宿料の二分の一夜出發(食事付)宿料の二分の一を申受く
○十名以上を團體とす

◇內地鮮滿間往復又は廻遊團體割引 (昭和十六年十月一日現在)

團體種別	人員	割引率 省線	朝鮮局線・滿鐵所管線・華北交通線・朝鮮鐵道線	華中鐵道線	各航路
學校教職員及學生	一五人以上	五割	五割	二・五割	二割
	二〇人以上	五割	五割	二・五割	二割五
	三〇人以上	五割	五割	三割	二割五
	五〇人以上	五割	五割五	三割五	三割
	一〇〇人以上	五割	六割	四割	三割
普通	一五人以上	三割	三割	二割	一割
	二〇人以上	三割	三割	二割	一割五
	三〇人以上	三割	三割	二割	一割五
	五〇人以上	四割	四割	三割	二割
	一〇〇人以上	五割	五割	三割	二割

汽車賃

線別	一粁に付 一等	二等	三等
滿鐵線・北鮮線・國有線	六錢	四錢	二錢一厘

(五錢未滿の端數は五錢に切り上ぐ)

急行料金

一〔普通急行料金〕

等級＼粁程	三百粁迄	五百粁迄	八百粁迄	八百一粁以上
一等	二・五〇圓	三・〇〇圓	四・〇〇圓	五・〇〇圓
二等	一・五〇	二・〇〇	二・五〇	三・〇〇
三等	〇・七五	一・〇〇	一・二五	一・五〇

二〔特別急行料金〕(あじあ)

等級＼粁程	五百粁迄	八百粁迄	八百一粁以上
一等	六・〇〇圓	八・〇〇圓	一〇・〇〇圓
二等	四・〇〇	五・〇〇	六・〇〇
三等	二・〇〇	二・五〇	三・〇〇

(右の外税一割を要す)

手荷物

手荷物は旅客一人に付次の重量までは無料で運送する。

一等六〇瓩　二等四〇瓩　三等三〇瓩

小兒は各等この半量。

無賃運送重量を超える手荷物を託送したときは、其の超過重量に對してのみ、次の通常小荷物運賃と同額の運賃を拂ふこと。

通常小荷物運賃

重量＼粁程	百粁迄	二百粁迄	四百粁迄	六百粁迄	八百粁迄	千粁迄	千粁以上四百粁迄を増す毎に
五瓩迄	四〇圓	六〇圓	八〇圓	一・〇〇圓	一・二〇圓	(イ) 一・四〇圓	(ロ) 二〇圓
以上五瓩迄を増す毎に	二〇	三〇	四〇	五〇	六〇	(ハ) 七〇	(ニ) 一〇

寢臺料金

	上段	中段	下段
三等	一・〇〇圓	一・五〇圓	一・八〇圓
二等	四・〇〇	—	四・五〇
一等	五・〇〇	—	七・〇〇

(右の外税一割を要す)

食堂車食事料

		朝	晝	夕
洋食	あじあ	—圓	二・〇〇圓	二・〇〇圓
	その他	七〇	一・五〇	一・五〇
和食	あじあ	—	二・〇〇	二・〇〇
	その他	六〇	一・四〇	一・三〇
滿食		—	一・〇〇	一・〇〇

構內食堂

洋食 一品料理 (二〇錢以上)
丼・ランチ・幕の內(四五錢以上)
(右の外税一割を要す)

鐵道總局直營 大連、奉天、開原、四平、新京、錦縣、安東、承德、吉林、圖們、哈爾濱、齊々哈爾、滿洲里、牡丹江、綏芬河、佳木斯、東寧

其他 大石橋、遼陽、蘇家屯、鐵嶺、昌圖、公主嶺、大虎山、皎河、敦化、德惠、雙城堡、溝幫、安達、香坊、阿城、帽兒山、濱江、鄭家屯、白城子、昂々溪、免渡河、海拉爾、一面坡、亞布洛尼、亮子嶺、橫道河子、穆稜、下城子、羅津、扎蘭屯、博克圖

定食 (朝)洋一・二〇 和〇・八〇 (晝)洋二・〇〇 和一・五〇
(夕)洋二・〇〇 和一・五〇

辨當發賣驛

鐵道總局直營 大連、奉天、四平、新京、安東、承德、哈爾濱、牡丹江、吉林、圖們

其他 金州、瓦房店、熊岳城、大石橋、遼陽、蘇家屯、鐵嶺、開原、昌圖、公主嶺、橋頭、鷄冠山、通遼、大虎山、彰武、義縣、朝陽、葉柏壽、平泉、古北口、鄭家屯、白城子、龍鎮、王爺廟、錦縣、山海關、德惠、陶賴昭、雙城堡、安達、齊々哈爾、昂々溪、海拉爾、滿洲里、濱江、阿城、一面坡、橫道河子、下城子、綏芬河、五常、新站、敦化、上三峯、南陽、訓戎、阿吾地、羅津、輸城、古茂山、會寧、淸津、春陽、鹿道、林口、勃利、佳木斯、鷄西、東安、虎林、鐵驪、通化、梅河口、西安、石嶺、呼蘭、綏化、海倫、北安、孫呉

辨當 五〇錢、壽司 三〇—四〇錢、茶 一〇錢

主要地車馬賃

大連、奉天、新京、哈爾濱等の大都市には「觀光バス」、他の主要都市にも「バス」があり、極めて安價に主要箇所の觀光視察が出來る。(觀光地)—「都市」參照)左表は昭和十五年調のものであり本年は概ね五割高とみられる。

乘物及時間	一時間 洋車	馬車	自動車	半日(三時間)▲附しあるは五時間當とす 洋車	馬車	自動車	一日(七時間)▲附しあるは十時間當とす 洋車	馬車	自動車	備考
大連	・四〇	・六〇	—	一・二〇	一・八〇	—	二・五〇	四・〇〇	—	
旅順	市內・三五 市外里程による	・四〇	二・五〇	▲一・二〇	▲二・〇〇	▲一〇・〇〇	▲二・二〇	▲市內三・七五 戰跡四・二〇	▲一八・〇〇	

鞍山	・四八	・七〇	三・〇〇	▲一・八〇	▲三・〇〇	▲一三・〇〇	▲三・二〇	▲六・〇〇	▲二五・〇〇	
奉天	・四〇	・八〇	五・〇〇	一・二〇	二・四〇	一〇・五〇	二・八〇	五・六〇	二四・五〇	
四平	・三〇	・六〇	—	・六〇	一・五〇	—	一・五〇	三・〇〇	—	
新京	・五〇	・四〇	—	一・五〇	二・一〇	—	三・五〇	四・九〇	—	
安東	・五〇	・六〇	(普)四・〇〇 (豆)三・〇〇	一・〇〇	一・九〇	(普)一六・〇〇 (豆)一二・〇〇	一・八〇	▲三・八〇	▲(普)四〇・〇〇 ▲(豆)三〇・〇〇	半日を四時間とす
營口	—	—	—	—	一・五〇	九・〇〇	—	三・五〇	二一・〇〇	
撫順	・二五	・四〇	三・〇〇	・七〇	一・二〇	一二・〇〇	一・六〇	三・五〇	二〇・〇〇	いづれも市內料金炭鑛方面を含まず
吉林	・三〇	・五〇	三・五〇	・九〇	一・五〇	▲一七・〇〇	▲二・五〇	▲四・〇〇	▲三三・〇〇	
延吉	・六〇	一・〇〇	五・〇〇	一・八〇	五・〇〇	一五・〇〇	四・二〇	一二・〇九	二五・〇〇	
牡丹江	・三〇	・七〇	五・〇〇	一・八〇	三・五〇	二五・〇〇	三・六〇	七・〇〇	四五・〇〇	
通化	・八〇	一・〇〇	四・五〇	一・五〇	二・〇〇	一三・五〇	三・〇〇	四・〇〇	三一・五〇	
佳木斯	・六〇	・七〇	六・〇〇	二・〇〇	三・五〇	一八・〇〇	六・〇〇	七・〇〇	—	
哈爾濱	・五〇	・五〇	五・〇〇	一・五〇	一・八〇	—	四・〇〇	四・〇〇	—	
齊々哈爾	・五〇	・五〇	三・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	九・〇〇	二・〇〇	二・〇〇	二一・〇〇	
滿洲里	—	一・〇〇	—	—	三・五〇	—	—	七・〇〇	—	
錦縣	・一〇	・六〇	四・〇〇	一・〇〇	一・八〇	一二・〇〇	一・八〇	三・五〇	二六・〇〇	
承德	・五〇	一・〇〇	市內三・〇〇	一・〇〇	二・〇〇	市內九・〇〇	二・〇〇	四・〇〇	市內一九・〇〇	
山海關	・七〇	一・〇〇	—	二・五〇	三・〇〇	—	三・五〇	四・〇〇	—	馬車は車台なく馬のみ
(淸津)	—	—	四・〇〇	—	—	一二・〇〇	—	—	二五・〇〇	
(羅津)	—	—	四・〇〇	—	—	一二・〇〇	—	—	二六・〇〇	

撮影、模寫禁止について

左の場所は要塞地帶であるから、寫眞の撮影及び模寫は要塞司令官の許可を得なければならない。

大連及び其附近、旅順及び其附近、鴨綠江鐵橋及び其附近、北鮮羅津附近、圖們鐵橋及び其附近、但し此の外にも鐵橋、桓舍は一般に禁止されてゐる。

尙軍事機密特別地域(間島省琿春縣、牡丹江省東寧縣、綏陽縣、穆稜縣、三江省蘿北縣、綏濱縣、同江縣、撫遠縣、富錦縣、鶴立縣の一部、東安省虎林縣、密山縣、饒河縣、寶淸縣大和村、北安省北安縣の一部、黑河省全部、興安北省全部、興安東省布特哈旗火燎溝及び綽爾河上流附近、喜扎嘎爾旗)及び航空機上よりの測量、撮影、模寫錄取等は一切禁止されてゐるから注意を要する。

各主要都市觀光地に於ける撮影については別項寫眞撮影要覽(旅行と防諜)に掲げた。

郵便料金

▽通常郵便料金

種別重量	國內	日本	中華蒙疆	外國
第一種 書狀 二〇瓦毎に	四錢	四錢	五錢	二〇錢
第二種 通常葉書	二錢	二錢	二錢五厘	一〇錢
往復葉書	四錢	四錢	—	二〇錢
封緘葉書	四錢	四錢	—	—
第三種 定期刊行物 六〇瓦毎に	五厘	五厘	五厘	四錢(五〇瓦迄)(第三種・第四種に通ず)
第四種 書籍印刷物寫眞、書畫 一二〇瓦毎に	二錢	二錢	二錢	
第五種 農產物種子 一二〇瓦毎に	一錢	一錢	(日本宛100瓦毎)	
商品見本博物標本 一二〇瓦毎に	二錢	二錢	二錢	八錢

▽特殊郵便料金

書留料 日本宛	一箇に付	八錢
外國宛	同	一六錢
小包料 內國	一瓩迄	二〇錢
	其の端數毎に	一〇錢
日本	一瓩迄	四五錢 (一瓩を增す毎に一五錢)
關東州	同	二〇錢 (一瓩を增す毎に一〇錢)
中華民國	同	四〇錢 (一瓩を增す毎に二〇錢)

▽航空郵便料

		日本宛	中國宛
書狀	二〇瓦又は其の端數毎に	三五錢	二〇錢
通常葉書		一八錢	一〇錢
其他	六〇瓦毎に	七五錢	四〇錢

▽電報料金 私報

同一市街內發著	一語に付	三錢
滿洲內及滿鮮間に發著	同	六錢
日本內地、臺灣、樺太と滿洲に發著	同	八錢
北支及蒙疆方面	一語に付	一二錢

至急電報 通常電報料の二倍 但北支宛は當分の間三倍

一通の語數が五語に滿たない場合でも最低料金として五語分の料金を支拂はなければならない。

一語とは本文及指定略號の字數を通算し五字を云ひ宛名は二語に計算す。

旅行記念スタンプ

(括弧內は接續驛で他線にも重複掲出してゐる)

連京線；大連埠頭、甘井子埠頭、大連、(周水子)金州、松樹、熊岳城、沙崗、(大石橋)湯崗子、鞍山、首山、遼陽、(奉天)、鐵嶺、開原、(四平)、公主嶺、(新京)、「あじあ」列車中

安奉線；歪頭山、本溪湖、宮原、橋頭、下馬塘、連山關、鷄冠山、鳳凰城、高麗門、五龍背、安東

旅順線…(周水子)、夏家河子、旅順

撫順線…撫順

營口線…(大石橋)、營口

京圖線…(新京)、下九臺、土們嶺、吉林、(拉法)、蛟河、敦化、明月溝、(朝陽川)、延吉、(圖們)

朝開線…(朝陽川)、龍井、開山屯、(上三峯)

奉吉線…(奉天)、北奉天、瀋陽、東陵、撫順城、營盤、淸原、山城鎭、(梅河口)、海龍、朝陽鎭、盤石、(吉林)

平梅線…(四平)、石嶺、西安、東豐、(梅河口)

梅輯線…通化

奉山線…(奉天)、新民、(大虎山)、(溝帮子)、(錦縣)、興城、興城海水浴場、綏中、山海關

葫蘆島線…葫蘆島

大鄭線…(大虎山)、通遼、(鄭家屯)

河北線…(溝帮子)、河北

錦古線…(錦縣)、(義縣)、金嶺寺、朝陽、葉柏壽、凌源、平泉、承德、古北口

北票線…北票

葉峰線…(葉柏壽)、赤峰

平齊線…(四平)、(鄭家屯)、洮南、(白城子)、泰來江橋、(齊々哈爾)

京白線…(新京)、農安、前郭旗、大賚城、(白城子)

白阿線…(白城子)、王爺廟、索倫、阿爾山

齊北線…(齊齊哈爾)、泰安、克山、(北安)

寧墨線…拉哈、訥河

濱北線…(哈爾濱)、(濱江)、呼蘭、萬家屯、綏化、海倫、(北安)

拉濱線…(哈爾濱)、(濱江)、(三棵樹)、拉林、五常、新站、(拉法)

北黑線…(北安)、龍鎭、孫吳、黑河

京濱線…(新京)、德惠、松花江、陶賴昭、三岔河、雙城堡、(哈爾濱)
濱洲線…(哈爾濱)、肇東、安達、昂昂溪、富拉爾基、同避暑場、扎蘭屯、同避暑場、巴林、同避暑場、博克圖、海拉爾、滿洲里
濱綏線…(哈爾濱)、香坊、阿城、玉泉、帽兒山、一面坡、横道河子、(牡丹江)、穆稜、下城子、綏芬河
圖佳線…(圖們)、東京城、寧安、林口、(牡丹江)
新義縣…(義縣)
北滿江運…哈爾濱、依蘭、佳木斯、富錦、黑河
北鮮線…清津、會寧、(上三峰)、南陽、慶源、雄基、羅津
京釜線…釜山、釜山鎭、大邱、秋風嶺、大田、天安、成歡、水原、南京城、龍山、京城
京義線…(京城)、開城、黃海、黃州、平壤、新安州、定州、宣州、新義州

▽東亞旅行社案內所

大連、鞍山、奉天、四平、新京、安東、營口、撫順、吉林、圖們、延吉、通化、牡丹江、佳木斯、清津、羅津、哈爾濱、齊齊哈爾、黑河、滿洲里、錦縣、承德、山海關

【注意】郵便葉書に旅行記念スタンプを押捺する場合は裏面通信文記載面に押さないと第一種郵便物(書狀)の取扱ひを受け、受取人が不足稅を取られるから注意を要する。

ストックナーゲル

旅の思ひ出として讚へらるゝストックナーゲルはステッキにトランクに机上のアルバムに永久消ゆることなき好箇の思ひ出として多くの旅行家に愛好されてゐる。

(一箇 一〇錢)

▽發賣箇所

大連・鞍山・奉天・新京・安東・營口・撫順・吉林・圖們・牡丹江・佳木斯・羅津・哈爾濱・齊齊哈爾・滿洲里・錦縣・承德・山海關・北京・天津・張家口・石門・青島・東亞旅行社各案內所

北支・蒙疆旅行

經路

滿洲、日本より北支への旅行經路には左の四コースがある。

【奉天―山海關經由】 奉天北京間には直通列車がある。奉天から天津へ約十三時間、北京へ十五時間を要する。沿線の都市竝觀光行樂地の主なるものに錦縣、壺蘆島、興城、山海關、秦皇島、北戴河、唐山等がある。

國境驛山海關では稅關檢査、北支旅行身分證明書の檢査を受けねばならない。託送手荷物は驛ホームの稅關檢査所で、手廻品の檢査竝身分證明書の檢査は停車中車內で行はれる。

【奉天―錦縣―承德經由】 奉天承德間直通列車は約二十時間、承德北京間約十二時間を要し山海關經由に比し實に二倍餘の時間を要する。

然し北京觀光には清朝三百年の歷史を探る上に於て清朝が蒙邊懷柔政策の根據地として塞外の秘境熱河承德に離宮をはじめ大寺廟の大建築群を造營し、蒙古民族懷柔により清朝の基礎を固めんとした歷史的事實を無視することは出來ない。かうした意味から云つても、北京を見る前に是非承德を見て置くことが必要であり、また北京の美と、偉大さを知る上に於て承德觀光を先に行ふことがどれ程效果的であるかは分明だ。又萬里の長城を見るにも絕好の地である。古北口驛では稅關檢査、身分證明書の檢査がある。

【大連―天津航路經由】 大連天津間には大連汽船、阿波國共同汽船の各船が就航してゐる。

稅關檢査は上陸後碼頭にある稅關檢査所で、身分證明書は上陸前船中で行はれる。

因に塘沽に上陸する場合は塘沽棧橋で行はれる。

【神戸―門司―青島經由】 以上は日本より滿洲を經て北支へ入る場合又は滿洲より直接北支へ入るコースであるが、日本より直接北支へ渡るコースの代表的なものとして東亞海運會社の神戸―門司―青島航路

があり、毎月八回往復して居り、東洋の避暑地、海水浴場として名高い青島に上陸、膠濟、津浦兩線を經て天津、北京に向ふものである。

旅行注意

【通貨】 舊法幣の使用は禁止となり、同時に外國爲替の集中も實施され、北支に於ける通貨は中國聯合準備銀行發行の紙幣に統一せられたので他の紙幣は左記箇所で聯銀券に交換しなければならない。

一、塘沽、青島、天津は埠頭にある無料交換所
二、汽車、船舶中にある無料交換所
三、山海關、古北口驛構內聯銀出張所
四、蒙疆地方の通貨は蒙疆銀行券に限られ南口驛構內に於て他の紙幣と兩替を要する。

これ等の相場關係は何れも金銀等價である。

【身分證明書の携行】 在北支帝國領事館の渡支事由證明書竝に居住地所轄警察署發行身分證明書を携行しなければ、北支入國を拒否せられるから旅行に先立つて必ず入手して置く必要がある。此の證明書は國境通過の際及び船車乘降の際取締官憲に依つて檢閱を受ける。又旅行中隨時提示を命ぜられる場合もあるから常に携帶してゐなければならない。

身分證明書下附手續については「旅行と防諜」を參照されたい。

【寫眞撮影に就て】 北支旅行に寫眞機の携行は差支へないが撮影に當つては特に愼重を期することを心懸けねばならない。何と云うても未だ戰後間もないのであるから軍事上其他の關係上撮影禁止となつてゐる地帶もあるので、列車からの撮影はもとより、視察觀光地に於ける撮影など、取締官憲又は案內人等につき豫めその指示を受け萬全を期することが必要である。尙詳細は同じく「旅行と防諜」を參照されたい。

【觀光地での注意】 名所、古蹟、戰跡等觀光地に於ける一般視察上の注意事項は現地に於ける制札その他で告知されるが、それ以外に何等の明示を受けずに或種の拘束又は注意を受くべき箇所も多い。これ等に就ては現地の取締官憲又は案內人の指示に從ふことは云ふまでもないがこの他、隨所に必要に應じて歩哨線が敷かれてゐる場所があるからこの歩哨線通過に際しては、歩哨の誰何を受けなくとも、進んで挨拶をなし歸途に於ても一應の挨拶をなすは儀禮上必要であらう。又觀光視察箇所に歩哨又は警備員が配置されて居る處は許可を必要とすること勿論で、寫眞撮影模寫等に關しては箇々に就てその指示に從ふことが是非必要である。

【戰利品、圖書、新聞等の携出に就て】 旅行中各地で種々土產物等購入されることであらうが、土產物その他買物の包紙に古新聞等を利用したものも多いが、古新聞等の中には、反滿抗日的な舊政權時代の新聞もあるから、一應注意して置く必要がある。

また圖書等も支那、外國で發行されたものには風紀公安上相當注意を要するものもあるので、これ等を滿洲國又は日本へ携出する事は嚴禁されてゐるから、購入に際して特に注意しなくてはならない。その他戰利品と目されるもの(青龍刀、銃彈の藥莢、寺廟、古蹟で入手したるが如き佛像古瓦の類等)は官憲の許可したるものを除き全部沒收されるから豫め注意を要する。

【軍隊慰問に就て】 軍隊慰問を目的とする團體旅行で特に注意すべきは、軍主腦部を訪問し北支の諸問題について說明を求めることである。軍主腦部は最高機關としての計畫運營に就て、それぞれ多忙な仕事に一分一秒を惜しまれてゐる狀態であるから、一々その人々を煩すことは遠慮すべき

であらう。それより奥地前線の將兵慰問をしてこそ、慰問旅行の本義があるのであるから、事情に依り全部が行動を共にすることが出來なければ、一人でも二人でも一同を代表して奥地に慰問することは豫め計畫して置くべきで、慰問品の携行は自由意志とは云へ、是非實行して欲しいものである。個人旅行者でも例へば八達嶺の萬里長城見物に赴くにしても、同地を警備する將兵諸士の慰問品を多少なり携行する位のことは心懸けてよからう。

【稅　關】山海關、古北口の兩國境驛及び青島、天津碼頭（又は塘沽棧橋）で稅關檢査がある。入國の際は比較的簡單であるが出國の際は相當嚴重に行はれる。然し往路と雖も時局柄檢査は相當嚴重であるから餘計な手廻品は一切持たないことである。

【携帶品申告書】天津、青島、上海より大連へ上陸する場合は物品稅令に基き携帶品の申告書を大連稅務署宛提出し檢査を受くるを要す。

【外國爲替管理】日本より天津、青島、上海向旅行者の貨幣無許可携帶限度及携帶品制限額は左の通り

旅費　現　金　二〇〇圓以下（但滿洲國内居住者は五〇圓以内とす。但し經濟部の許可を得るを要す）
別に爲替送金　三〇〇圓以下
商品　一〇〇圓相當額以下

【青島途中下船】

（イ）途中下船又は次船に乘繼ぐ場合
乘船前又は船中にて申出ある證明書完備の旅客に對しては本船に於て上陸券を發行交付す。

（ロ）本船碇泊中上陸する場合
青島埠頭憲兵隊に出願し埠頭通行許可書の交付を受くるを要す。

旅裝と携帶品

【北　支】春…三月頃から春らしくなり六月には暑くなる。

滿洲同樣春には「蒙古風」が吹き街路の惡い所では塵除眼鏡、マスク等が必要であるが服裝は內地と同樣で差支へない。

夏…暑さは特に甚しく、傳染病も各地に發生する爲、此の時期の旅行者は必ず「コレラ豫防注射」「種痘」を忘れてはならない。

秋…北支を旅行するなら秋である。暖かく小春日和が續き、豐饒北支はパールバックの「大地」を感じさせる。

初秋は夏服、晩秋は合服に薄外套があれば充分である。

冬…寒さは嚴しくなく、滅多に氷が張らない。服裝は冬着に薄外套で間に合ひ、傳染病の危險が少いため多を好む旅行者も多い。

【蒙　疆】溫度は大體中部滿洲程度、沙漠的傾向が著しく春には特に風がひどい。

水も北支以上に惡く、埃除眼鏡、マスク、水筒、藥等が必要なことは勿論である。併し旅行シーズンは先づ秋であらう。

尙、蒙疆地區の住民には回々教徒多く、住民の殆んど全部は日本人に對する認識皆無であるから新に進出する邦人は蒙疆人の感情を害さない樣細心の注意が肝要である。

〔註〕北支、蒙疆旅行の際特に注意を要する點は、水の惡い事であつて、旅行者は必ず水筒と征露丸（クレオソート丸）の携帶が必要である。尙出來れば其の他藥品、繃帶等もほしい。

旅　館

各都市には到る處日本旅館が出來、未だ設備不完全のものも見受けられるが、日本人の旅行に少しも差支へない程度に接遇して呉れる。宿泊料は二食付一泊二十圓台から最低五圓位、支那旅館は食事なしですつと廉く一泊一圓程度の所もある。

◇北支旅館團體宿泊料及食事料金表（北京・天津は二割增）

團體種別	宿泊料 基本料金	宿泊料 朝食缺	宿泊料 晝食缺	宿泊料 夕食缺	食事料 朝	食事料 晝	食事料 夕	食事料 辨當	席料 宿泊休憩
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	
小學校（一泊三食附）	二・〇〇	一・六〇	一・六〇	一・五〇	〇・五〇	〇・六〇	〇・八〇	〇・五〇	基本料金の三分の一
中等學校（同右）	三・〇〇	二・六〇	二・六〇	二・二〇	〇・八〇	一・〇〇	一・二〇	〇・六〇	基本料金の三分の一
專門學校以上（同右）	三・八〇	三・二〇	三・一〇	二・九〇	一・〇〇	一・二〇	一・五〇	〇・八〇	基本料金の三分の一
青年團（一泊二食附）	四・〇〇	三・五〇	—	三・〇〇	一・〇〇	一・五〇	一・八〇	〇・九〇	基本料金の半額
普通團體（同右）	五・〇〇以上	四・五〇以上	—	四・〇〇以上	一・五〇以上	二・〇〇以上	二・五〇以上	一・二〇以上	基本料金の半額

席料（食事休憩）　當該食事料金の半額

●缺食宿泊料の通用に就ては缺食すべき食事の少くも一食前に其の旨申出あるを要し其の後の申出に對しては當該食事の實費を申受くること

●夕食料金は大體夜十二時迄に旅館を出發することとし之に對する宿泊料を含むものにて夜十二時を超ゆるときは朝食缺宿泊料を申受くること

汽車賃

大人三等普通旅客運賃は一人一粁に付二錢六厘、二等二倍一等三倍とし、運賃の算出は賃率に三等百分の五、一、二等百分の十の通行稅を加算したるものを一粁の賃率とし、之に粁程を乘じ五錢未滿の端數は五錢に、五錢を超す十錢未滿の端數は十錢に切上げたる額とす。

急行料金

普通急行料金

粁程＼等級	一等	二等	三等
	圓	圓	圓
三〇〇粁迄	二・二五	一・五〇	〇・七五
五〇〇粁迄	三・〇〇	二・〇〇	一・〇〇
八〇〇粁迄	四・五〇	三・〇〇	一・五〇
一三〇〇粁迄	六・〇〇	四・〇〇	二・〇〇
一八〇〇粁迄	七・五〇	五・〇〇	二・五〇
一八〇一粁以上	九・〇〇	六・〇〇	三・〇〇

（右の外通行稅一割を徵す）

滿鮮支連絡急行料金

粁程＼等級	一等	二等	三等
	圓	圓	圓
五〇〇粁迄	二・五〇	一・五〇	〇・七五
八〇〇粁迄	三・〇〇	二・〇〇	一・〇〇
一三〇〇粁迄	三・七五	二・五〇	一・二五
一八〇〇粁迄	四・五〇	三・〇〇	一・五〇
一八〇一粁以上	五・二五	三・五〇	一・七五

寢臺料金

京山線

種別＼等級	一等	二等	三等
	圓	圓	圓
上段	八・〇〇	五・〇〇	一・五〇
中段	—	—	二・〇〇
下段	一〇・〇〇	七・〇〇	二・五〇

旅行記念スタンプ

京山線…北京、豐臺、天津、天津北站、塘沽碼頭、唐山、古冶、灤縣、昌黎、北戴河、幹線列車內
海濱線…海濱、（北戴河）
京包線…（北京）、西直門、南口、青龍橋、宣化、張家口、大同、豐鎭、平地泉、厚和、包頭
京漢線…西直門、蘆溝橋、長辛店、涿縣、高碑店、保定、正定、石門、順德、邯鄲、彰德、新鄕、京漢線列車內
西陵線…易縣
津浦縣…（天津）、天津北站、馬廠、青縣、滄縣、泊頭、德縣、禹城、濟南、寬州、臨城、徐州
濟寧線…濟寧
博山線…博山
膠濟線…青島、高密、坊子、濰縣、益都、張店、（博山）、周村

道淸線…淸化

坨里線…良鄕

井陘炭坑線…井陘炭坑

石太線…娘子關、陽泉、楡次、石太幹線列車内

博山線…張店、博山

隴海線…開封、商邱

◇東亞旅行社案内所…北京、天津、唐山、張家口、大同、厚和、太原、青島、濟南、芝罘、塘沽、石門、保定、唐山、徐州、連雲、上海、南京、杭州、蘇州、鎭江、漢口、廣東

郵便料金

△**普通郵便料**（含蒙疆）

名宛先地	重量	料金
A 通常葉書（明信片）		
日本、滿洲、中國（市内二錢）		四錢
右以外の國		三〇錢
B 書狀（封信）		
日本、滿洲、支那（市内四錢）	二〇瓦又は其の端數毎に	八錢
右以外の國	二〇瓦迄	五〇錢
	其の端數毎に	三〇錢
C 新聞紙		
日本、滿洲、支那	五〇瓦毎に	五厘
市内	一〇〇瓦毎に	五厘
外國	五〇瓦毎に	一〇錢
D 書籍、印刷物業務用書類等		
日本、滿洲、支那	一〇〇瓦迄	二錢
市内	一〇〇瓦迄	一錢
外國	五〇瓦毎に	一〇錢
E 商品見本類		
日本、滿洲、支那	一〇〇瓦迄	五錢
市内	一〇〇瓦迄	二錢
外國	一〇〇瓦迄	二〇錢
	五〇瓦を超ゆる毎に	一〇錢

△**特殊郵便料**（含蒙疆）

A 速達料（普通金の外）		
イ 普通（平快）		八錢
ロ 書留（快遞）		一三錢
B 小包		
日本	一瓩迄	四五錢
滿洲	一瓩迄	四〇錢
	其の端數毎に	二〇錢

注意 支那に於て小包を受領するときは小包到着通知表發行後十日目より一箇に付一日五錢の保管料を要す

C 航空郵便料		
日本宛 書狀／葉書	二〇瓦毎に	三五錢／一八錢
關東州宛 書狀／葉書	二〇瓦毎に	二〇錢／一〇錢
日本宛 其他	六〇瓦毎に	七五錢
滿東州宛 〃	〃	四〇錢

滿洲宛 現在關東州宛同額料金を以て便宜取扱ふも大連以遠は列車便に依る

中支旅行

沿線情況

【治安】武漢占領以來皇軍の威は中國の邊境にまでも及び、上海より南京、杭州に至る鐵道沿線治安は殆ど確立せられ、列車妨害等殆ど皆無とも稱すべき狀態となり、發着は正確を保ちつゝある。

【沿線各都市の發展】上海南京間に介在する各都市は邦人の產業開發及治安恢復に從ひ一段の進展をなし、日支合辦の諸事業日に興り、舊に倍する繁榮を示すに至つた都市もある。

【觀光地の回復】觀光地の首位を占むる杭州は支那事變には何等の被害を受けず、單に手入れ不完全により幾分荒廢したが今は殆ど回復をみた。蘇州も多少被害はあつたが之亦自治委員會の手によつて回復がなされ、殆ど舊態に歸りつゝあり、其他各地の觀光地も漸次復舊されつゝある。

經路

一、日本内地より

（一）空路

大日本航空會社定期旅客機が東京から大阪、福岡を經由して上海まで運航してゐる。

運賃及所要時間

東京―上海間	百五十圓	九時間（途中着陸時間を含む）
大阪―上海間	百十五圓	八時間（同）
福岡―上海間	八十五圓	三時間五〇分

使用機は何れもダグラス十八人乘（内地相互間はロックヒード機）の新鋭機で機上では明朗なエアーガールが行屆いたサービスをしてゐる。

（二）海路

（イ）長崎―上海間

東亞海運株式會社の汽船三隻が大體隔日に運航してゐる。各船共二二節の優秀な旅客船で長崎から約一晝夜で上海黃浦碼頭に到着する。

・運賃は

一等六十圓、二等四十五圓、三等二十圓―十八圓である。

（ロ）神戶―上海間

東亞海運會社船が就航して居り、約二週間目毎に發着となつてゐる。所要時間五十四時間で、運賃は

特等三百圓、一等百圓、二等六十圓、三等三五圓―二三圓

其他日本郵船の北米航路、歐洲航路（目下休航）の巨船も上海に寄港するが故に、それ等の船舶を利用することも出來る譯である。

二、朝鮮滿洲方面より

列車又は旅客機を利用し北支經由の途もあるが一般には海路を利用されてゐるやうである。これは大連汽船會社の汽船によるもので大連、上海間を概ね隔日に運航してゐる。所要時間約五十一時間である。

・運賃

一等七十五圓、二等五十圓、三等十八圓

三、北支より

（一）鐵道

天津から津浦線を經由、南京で海南線に乘り繼ぎ、上海に至るもので、津浦線には北京、浦口間直通列車が一日一往復運轉され海南線には急行（一、二、三各等食堂車付）が二往復運轉してゐる。

所要時間 天津―上海間 三十四時間 三等運賃二十六圓五十五錢

（二）航路

上海大連間の大連汽船會社の各船とも青島に寄航してゐるので青島を隔日に發着してゐるわけである。

青島―上海間の所要時間は約二十七時間、運賃は一等五十五圓、二等三十六圓、三等十二圓

（三）空路

北京―上海間に中華航空會社の定期旅客機が毎日運航してゐる。全線の所要時間（途中の着陸時間を含む）は六時間、運賃は二三五圓であるが各發着地相互間の運賃及所要時間は次の通りである。

北京―天津間	三十五分	二〇圓
天津―濟南間	一時間	五〇圓
濟南―徐州間	一時間	五五圓
徐州―南京間	一時間十分	六〇圓
南京―上海間	一時間	五〇圓

旅行季節

春…暖かいが濕氣多く好い旅行シーズンではない。服裝は合着。

夏…暑く傳染病頻發し旅行中は特に注意を要する。上海市内の人々は半ズボンにシヤツ一枚の扮裝であるが尙暑いと云ふ。傳染病の豫防注射は是非せねばならない。

秋…暖かく雨もをさまり旅行に良い。服は夏服でもよく、合服でもよい。

冬…九州程度の寒さで薄手の冬服に、オーバーは有つても無くとも可い。

旅行者心得

最近中支方面に視察、慰問旅行する者が增加したので中支軍司令部より次の通り旅行者心得が公布せられた。

一、幾萬の生靈の鎭まれる聖地を旅行するの態度を失はざること。

二、半面的皮相の觀察をなさゞること。

三、大國民たるの態度を失ひ一般支那人に對し誤りたる優越觀を以て臨まざること。

四、現地の軍隊に迷惑をかけ、又不快の念を與ふるが如き慰問視察をなさゞること。

五、說明書記載以外の行爲をなさゞること。

六、慰問視察に名を藉り營業的行爲をなさざること。

七、宿泊、乘物の不自由を忍ぶこと。

八、油斷して不慮の危禍に陷らざること。

九、病疫に警戒すること。

一〇、見聞せる軍の秘密を放言せざること。

一一、記載事項を發行者の許可なく訂正せざること。

旅行手續

(イ) 身分證明書

先づ渡支事由證明書を提示して自分の土地の警察から身分證明書を貰はねばならぬ。用紙は警察か代書人の所に印刷したものがあるからこれに半身脫帽の寫眞を貼附したものを二通、警察に出せばその一通に證明して渡される。

(ロ) 傳染病豫防注射濟證明書

最寄の醫師から種痘或はコレラ等の豫防注射をして貰ひ、その證明書を受取ること。然しどんな病氣の豫防注射が必要かは渡航の時期や傳染病の流行狀況等によつて違ふから實際渡航する際は最寄の警察署か船會社に照會されるのが確かな方法である。

(ハ) 調査濟の檢印

以上の證明書と傳染病豫防注射濟の證明書が揃つたら之を長崎水上警察署に本人が持參して調査濟の檢印を受けるのであるが、之は出帆の前日又は當日受けられるけれども萬一書類や身元に不備の點があれば乘船出來ないことになるから前以つて書類其の他手落のない樣十分注意すること、之等の證明書類は官憲の檢査を受けるから旅行中は常に携帶しなければならない。

(ニ) 乘船豫約申込と切符の購入

以上の手續が濟んだら直接船會社、東亞旅行社等に依賴して乘船申込をし切符を購入する譯であるが前以つて豫約申込をして承諾を得て置く方がよい。

乘船の手續

(イ) 携帶金の軍票引換

出港の前日又は當日携帶してゐるお金は全部軍票と引換へて置かねばならない。日本銀行代理店、長崎港では十八銀行本店又は岸壁の同出張所で軍票引換請求書を貰ひ、必要事項を記入し乘船券を添へ現金を差出せばこれに相當した軍票と軍用手票交付書に引換濟の認印を押したものを渡して呉れる。日本より旅費として携帶し得る金額は一人當り五〇〇圓(但現金は二〇〇圓迄)である。若しそれ以上旅費或は事業資金として携帶の必要ある場合は日本銀行本店を通じて大藏大臣に送金許可を受けなければならない。

(ロ) 手荷物の檢査

出帆の際も手荷物は全部檢査を受けねばならない。

A **荷造り** 檢査を受ける關係上あまり嚴重でない方が良い。

B **商品等の輸出手續** 商品其の他輸出手續を要する品物は、その手續を前以つて濟まして置かぬと出帆當日では混雜して間に合はぬ場合が多い。

C **荷物の明細書と證明書** 引越荷物の樣な品物は包裝毎に番號をつけ明細書二通を用意して受檢の際係官吏に之を差出すと雙方共都合がよい。しかし

明細書は必ず間違ひのない正直なものでなければ無意味である。又慰問品の如きも多量の品は當該官憲の證明書を附して輸出の手續をしなければならぬ。

D **高價品の旅客携帶品積出許可證**

旅行用具中寫眞機、雙眼鏡等の高價品は出發の際現品を稅關に提示して、旅客携帶品積出許可證を貰つて置く必要がある。萬一この許可證がなければ歸國の際、稅關の方で果して內地から持出した品であるか又は外國で購入したものであるか判定に困る爲已むを得ず稅をとるといふこともある。但し國產の品で國產のレンズをとりつけたものはこの手續は不要である。尙外國品でも內地の寫眞屋で購入する場合、機番、レンズ番號等詳細に記入した領收書をとつて置くと、この積出證の代用として認められる場合があるから都合がよい。

(ハ) 身分證明書の調査

連絡船出帆の日に限り岸壁又は本船甲板上に、水上警察署から臨時に出向いて檢査されるが、前以て調査濟の檢印を受けてゐる人はこゝで受ける要はない。

(ニ) 金製品の携帶許可申請

金製品を持つてゐる人は金製品たる手廻品、身邊裝飾携帶許可申請書を稅關に出さねばならぬ。用紙は臨時岸壁派出の稅官吏の處に用意してあるからそれに必要事項を記入して差出すとよい。但し萬年筆、赤銅製品、金張物、金箔金物、象嵌等少量の金を用ひたものは申請の必要はない。尙指輪、帶止、鎖、金側時計等金を主とするものは大體持出を許可されないから之等の物品は豫め出發前適當に處分すべきである。

(ホ) 携帶金の申告

切符購入の際船會社から「命令第三條の二の規程に依る外國旅行者旅費携帶高報告書」といふ用紙を渡されるからそれに携帶金全部を記入して稅關(出港の際に限り臨時岸壁に派出)に差出すこと、この場合先に軍票と交換の際銀行から貰つた軍用手票交付書を一緒にし、船に差出す住所屆(アドレス・ペーパー)に携帶金申告濟の印を押して貰ふこと。

(ヘ) 手荷物の運搬

手提程度の品物は自身でまたは問屋、旅館に賴んで船室に積込んでよいが、大きな荷物は稅關の旅具檢査場の入口で日本旅行社に依賴して引換券を貰つて置くこと、船內運賃の入用の分は出帆後本船に乘込んでゐる日本旅行社員が集金に來る。それで上海に上陸の際引換券と引換に荷物を受取る順序となるのである。日本旅行社は稅關長の許可を受けて稅關內の荷物の運搬をやつてゐるので運賃等も一定し支拂の際は必ず受取りを貰つて置く方がよい。尙旅行社のポーターは帽子に本人の番號があるので記憶して置く必要がある。

通信

上海からの郵便物は總て國民政府のものに限られて居り封書二〇グラム迄八仙、端書四仙、開封二仙である。船便の都合もあるが東京迄大體一週間位で到着する。

通貨

舊維新政府の發券銀行「華興商業銀行」が昭和十四年五月十日より業務を開始したが日本人の居住竝旅行區域に於ては軍票が流通されてゐる。

內地からの渡航者は出發の際日本銀行本支店、神戶、長崎埠頭、福岡飛行場に於いて乘船券或は航空券を提示して日銀券を軍票と交換せねばならない、携帶の金額は特別の場合の外一人或は一家族に對し五百圓以下と制限されてゐる。滿洲、朝鮮、臺灣

北支からの渡航者も軍票と交換しなければならない。

上海方面—虹口方面の通貨は大體軍票で、鮮銀券、滿洲國幣等全然流通せず、殊に滿洲國幣は交換の術なし。鮮銀券は日本銀行券と兩替する場合、一割位安いことがあるから注意を要する。

尙蘇州河以南共同租界及佛租界方面では、依然法幣が流通されてゐるから軍票は法幣に兩替を要する。

漢口方面 漢口方面の通貨は軍票であるが、支那人、外人關係には法幣も通用し、日本金所持者に對しては船內にて軍票の交換を命ぜられる。

津浦線南下旅客—軍通行許可證の發給を受けざるものは徐州驛に於てのみ所持する聯銀券を軍票に交換可能にして、浦口までの旅行者に對しては二百圓迄、蚌阜迄の旅行者に對しては百圓の限度內に於て交換を許可せられあり、通行許可證所持者に對しては南下、北上共に夫々現金にては二百圓の限度內に於て交換に應ずる。送金爲替の取組は一口三〇〇圓以下計五〇〇圓迄とす。徐州以南に於ては聯銀券を交換する公の機關無きにつき旅行者はなるべく銀行送金の方法を採られたい。

航空便はその日の午後八時頃投函すれば翌日には東京へ到着し、速達便を以って配達される。料金は封書二〇グラム迄五十八仙、端書二十九仙である。

電報は一音信十五字迄一圓、以下五字を增す毎に二十錢、また電話は上海東京間一通話九圓、上海大阪間も同じく九圓で通話も至つて明瞭に聞きとることが出來る。

【其 他】—其他乘船、下船時に於ける携帶品檢査、撮影竝模寫、戰利品、圖書、新聞の携出、軍隊慰問等北支旅行の場合と大體同じに心得られたい。

左の物品は輸入禁制品となつてゐるから特に注意を要する

1、公安又は風俗を害すべき書籍、圖書、彫刻物、その他の物品
2、支那方面からの生菓類
3、クルミ
4、阿片及阿片吸煙具
5、古 綿
6、豚 毛
7、僞造、變造又は模造の貨幣、紙幣、銀行券及有價證券
8、特許權、實用新案權、意匠權、商標權及著作權を侵害する物品

汽 車 賃

【旅客運賃】 大人一人一粁當り

四等	三等	二等	一等
一錢五厘	二錢六厘	五錢二厘	八錢

【急行料金】

一、普通急行料金

粁程／等級	一等	二等	三等
二〇〇粁迄	四・〇〇	二・〇〇	一・〇〇
二〇一粁以上	八・〇〇	四・〇〇	二・〇〇

二、特別急行料金

粁程／等級	一等	二等	三等
二〇〇粁迄	六・〇〇	三・五〇	一・七五
二〇〇粁以上	九・〇〇	五・〇〇	二・五〇

三、華北華中相互間連絡急行料金

華北線華中線相互間の連絡急行料金は各運輸機關別に計算したる粁程に對しローカル急行料金を算出し之を合算したものとす

（右の外通行稅一割を要す）

旅 館

一食付普通一泊四圓—二十圓位で主要地の主なる日本旅館は大體左の通りである。

上海…萬歲館、豐陽ホテル、辰巳屋旅館、日ノ丸旅館、新亞細亞ホテル、林館、常盤館、東和ホテル、東洋館、中央ホテル、海星館、八千代館、大和ホテル、山崎ホテル、扶桑館、江星館、東館、アスターハウス、新生館、靑林館、新上海等

南京…亞細亞ホテル、南京ホテル、寶萊館、國華ホテル、福田館、富貴館、興亞館、日進館、大和旅館、揚子江ホテル、野田屋、首都ホテル等

杭州…西冷飯店、新々旅館、常岡ホテル、九州旅館、旭ホテル等

武漢…揚子江ホテル、富貴館、中央ホテル、福昌ホテル、武漢ホテル、壽旅館等

特殊切符

【船車連絡切符】 日本內地へ行くのに門司や神戸までの乘船券だけを求めるのは不便であり損だ。それには行先地までの船車連絡切符を選ぶがよい。荷物等は自身で積替へる手數はなく、赤帽賃も省ける。

通用期間は 片道一箇月 往復二箇月

【東亞旅行券】 日本、滿洲、支那と亙つて旅行さるゝ方には東亞旅行券の一綴を薦めたい。費用と手數を省くことは勿論のこと經路の選擇は自由である。鐵道二割引、汽船一割引、通用期間三箇月となつてゐる。

本券は東亞旅行社のみで發賣してゐる。

【連絡廻遊乘車券】 昭和十五年十月一日より從前の內鮮滿周遊券は廢止となり新に廻遊乘車券が制定され主要驛、汽船會社、東亞旅行社で發賣してゐる。本券は下記各運輸機關間の片道乘車船券を各所定率に依り割引合計したものであり、經路は非常に自由である。

滿鐵線、省線、局線、華北線、華中線、大阪商船、大連汽船、日本郵船、日本海汽船、東亞海運。

△特 典

一 鐵道（省及華中航路を含む）二割引 汽船一割引

二 通用期間 滿鐵華北兩線間滿鐵局線間及華北華中線間一ヶ月、其他のもの二ヶ月

三 分岐線往復割引の取扱 本券を提示すれば本券と同一の割引率で券面途中の任意の驛港より同機關所屬の任意の驛港まで往復割引乘車船券を購求することが出來る。

四 運輸機關毎又は航路毎に等級の選擇自由。

五 途中下車船隨意。

△割引條件

一 各機關所定の主要驛港を出發し發驛港又は發驛港所在地の驛港に歸着すること。

二 二運輸機關以上に亙り旅行すること

但し・滿鐵局線兩線間のものは往復割引取扱區間以上を旅行するか又は往路と復路の接續驛を異にすること。

・滿鐵華北兩線間、華北華中兩線間のものは往路と復路の接續驛を異にすること。

三 航路を通るものは大汽臺灣航路、商船郵船の基隆航路、及び東亞海運の靑島及上海航路を復乘しないこと。

四 連絡片道乘車券發賣可能區間の二區間以上五區間以內を旅行すること。

【日滿支往復券】 陸路朝鮮經由或は海路大阪商船（神戸又は門司）大連航路又は日本海航路（敦賀—淸津—新潟—羅津）、日本郵船鹿兒島大連航路經由再び同一經路を引返へし始發驛に戻る切符で極めて格安である。

汽車の區間（關釜間航路を含む）二割引

船の區間｛大連—門司又は神戸／淸津—羅津—（敦賀又は新潟）／大連—（長崎又は鹿兒島）｝一割引

通用期間……………二箇月

途中下車……………隨 意

▽**團體の場合** 前記の廻遊或は往復の場合と同樣經路を、二等又は三等旅客が十五人以上一團となつて旅行するときは單獨の場合よりも更に高率な左記割引がある。

【船車券】 東亞旅行社で契約した主要運輸機關（私鐵、軌道、汽船、自動車、電車等）を利用する者に對し東亞旅行社各案內所で發賣するもので現地で買ふより割引されて居る。

【旅行小切手】 二十圓券、五十圓券、百圓券の三種で東亞旅行社各案內所で發賣す

る。現金への引換は旅行先の第百銀行支店及び取引銀行又は東亞旅行社で取扱ふ。

【旅行券】 三圓券、五圓券、十圓券の三種がある。贈り物として新らしい趣向だ。この券で滿鐵及滿鐵線發連絡の乘車券、急行券、寢臺券、は勿論、直營の旅館、構內食堂、食堂車等の支拂ひに使つて便利である。

【旅館券】 この券に指定されてゐる日本內地、滿洲、朝鮮、臺灣等に於ける旅館、溫泉は信用あるものを選んでゐる。料金は均一に定められてをり、內地でも茶代は要らないから不要の心遣ひが省け、經濟至便である。

【家族遊覽券】 左記各地への觀光客の便益を計る爲同一家族の大人二人、(大人一人と小兒二人)に對する基本運賃を以て家族遊覽券を發賣してをる。但し二、三等往復のみとし通用期間は發賣の日共二日間。

超過料金とは大人一人を增す每に要する料金で小兒の超過料は半額

種別	行先	發賣驛	基本運賃 二等	基本運賃 三等	超過運賃 二等	超過運賃 三等
			圓	圓	圓	圓
第一種	旅順	大連・沙河口	六・七五	三・六五	三・四〇	一・八五
第二種	金州	同	三・八〇	二・〇〇	一・九〇	一・〇〇
第三種	鐵嶺	奉天	八・一五	四・三五	四・一〇	二・三〇
第四種	撫順	奉天	六・三〇	三・四〇	三・一五	一・七〇
第五種	吉林	新京	一四・四五	七・七〇	七・二五	三・八〇
第六種	壺蘆島	錦縣	七・一五	三・七〇	三・六〇	一・九〇
第七種	玉泉	哈爾濱	七・三〇	三・九五	三・六五	二・〇〇
第八種	呼蘭	哈爾濱・濱江	三・二五	一・七〇	一・六五	〇・八五
第九種	横道河子	牡丹江	九・四〇	四・九〇	四・七〇	二・四五
第一〇種	下九台	新京	六・〇五	三・二五	三・〇五	一・六五
同	同	吉林	八・五五	四・五〇	四・三〇	二・二五
第一一種	阿城	哈爾濱	五・九〇	三・一〇	二・九五	一・五〇

(夏家河子行割引券) 夏家河子行遊覽及海水浴客の便を計り左の割引券が發賣されてゐる。

一、割引往復乘車券

發賣驛	等級	運賃
自大連・沙河口	二等	一・一〇
	三等	〇・六〇
自周水子	二等	〇・七〇
	三等	〇・四〇
自金州・旅順	二等	一・九五
	三等	一・〇五

二、割引回數乘車券

(イ) 十回券

發賣驛	等級	運賃
自大連・沙河口	三等	六・〇〇
自周水子	三等	四・〇〇
自金州・旅順	三等	一〇・五〇

(ロ) 五回券

發賣驛	等級	運賃
自大連・沙河口	三等	三・〇〇
自周水子	三等	二・〇〇
自金州・旅順	三等	五・〇五

(ハ) 小兒用五回券

發賣驛	等級	運賃
自大連・沙河口	三等	一・五〇
自周水子	三等	一・〇〇
自金州・旅順	三等	二・五五

【社寺券】 社寺參拜に必要な拜觀、奉納、宿泊又は食事等の費用を纒めて出發の際に購入するもので、料金も割引されて居り東亞旅行社で發賣してゐる。通用期間二箇月

【旅行傷害保險】 旅行中不時の災害に備へる爲めの旅行傷害保險の契約は各東亞旅行社案內所で簡單に取扱つて居る。

土産

滿洲、支那の土產物は土地で作られたものと、外來品とに區別される。滿洲、支那での製品は何れも同一の色調や巧緻を表はしてゐて、その地方色を彷彿せしめ滿、支の土產として全く相應はしいものである。

然しながらこゝに全然滿、支の色彩のない外來品が土產物として登場してゐるのはその感觸よりも價格が安い點から來たものであるが昨今の如く輸入減少の狀態にあつては、舶來品は昔日の如く容易に、而かも安く手に入れるといふわけには行かない。

手に入れて日本へ持ち歸つても、輸入税を課せられ折角の土產も一層高い土產となる場合もあるのは注意すべきことである。

さて滿洲、支那の製品にしろ、舶來品にしろ、苟くも滿洲、支那で買求めて日本たり、朝鮮なりへ土產物として持つて歸る時には總て輸入品として、稅關の檢査を受けることに つて居り、そして一般に輸入品は殆ど課稅されることになつてゐる。但し旅行者自身の携帶用品及び少量の土產品は稅關吏の裁量に依つて、免稅通關されるが、元來が絕對的なものではなくて、慣例的の便法に過ぎないから旅行者は前例を强調することは出來ない。また旅行者の身分、職業などに依つて所持品の品質、數量等を認定し免稅を加減する場合もある。

左記價格欄は各地値段を記載したもので從つて時期や場合に依つて變動もあり、相違が生ずることもある。又免稅標準數量は滿洲製品にしろ支那製品にしろ何れも大連經由を主としたものであるが、たゞ大凡の目標をつける爲の便宜に供した次第である。

尙安東—圖們—上三峰の朝鮮稅關經由で朝鮮若くは日本へ赴く旅客又は支那方面より直接日本へ歸る旅客にあつては其免稅標準量が必ずしも同一でないことを承知して居なければならない。

現在價格は左表より多少高値である。

一般土產品

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量(大連經由)
花瓶	一個	〇・五〇—一〇〇・〇〇	大連	價格三圓程度
コーヒーセット	半打	五・〇〇—一〇・〇〇	同	同
水差	一個	一・〇〇—一〇・〇〇	同	同
コップ杯	一打	一・五〇—二〇・〇〇	同	同
菓子鉢	一個	二・五〇—五〇・〇〇	同	同
インクスタンド	同	〇・八〇—一五・〇〇	同	同
青龍刀型ペーパーナイフ	一本	〇・五〇—一・二五	同	三本
面型スプーン	同	〇・八〇—二・五〇	同	價格三圓程度
糸硝子製品	一箱	一・〇〇—一〇・〇〇	博山	同
高粱稈細工品	一個	〇・一〇以上	旅順	同
北陵土產	同	〇・一〇以上	奉天	同
行列人形、土俗人形	同		同	同
新京布老虎	一個	〇・一〇—一・五〇	新京	價格三圓程度
木材扇子	一本	一・〇〇以上	安東	同
銀製アイスヨット	一個	五・〇〇以上	營口	一
石炭細工	同	〇・一〇—二〇・〇〇	撫順	價格五圓程度
泥人形	同	〇・一〇—〇・四〇	吉林	價格三圓程度
樂燒	同	〇・三〇—二・〇〇	同	同
搬不倒	同	〇・二〇—〇・五〇	同	同
老虎枕頭	同	〇・〇五—一・〇〇	同	同
太刀猿	同	〇・一五	同	同
雅趣陶器類	同	〇・一五—三・〇〇	同	價格五圓程度
會寧燒	同	四・〇〇	清津	同
白樺細工品			哈爾濱・齊々哈爾	
ステッキ	一本	〇・五〇—一〇・〇〇	滿洲里・哈爾濱	二本
同(ノロ)(ノロの足及皮にて作る)	同	一・八〇—三・五〇	海拉爾・滿洲里	同
化石	一個	〇・五〇—三・〇〇	錦縣	價格三圓程度
七寶燒花瓶	同	三・〇〇—一五・〇〇	北京	同
燈籠	同	一・八〇—一〇・〇〇	同	同
天津人形	同	一・五〇—三・五〇	天津	同
街行燈	同	一・五〇—五・〇〇	同	同
風俗人形	同	一・五〇—二・〇〇	同	同
蒙古刀	同	三・五〇—五・〇〇	海拉爾・張家口	二本
紫檀細工		一・〇〇—二〇〇・〇〇	上海	課稅
鋏(剪刀)	一挺	一・〇〇—一五・〇〇	杭州	價格三圓程度

錫製酒器	一個	七・〇〇—一五・〇〇	義縣	一個
名所鳳景タオル手拭	一枚	〇・九〇	滿支各地	價格三圓程度
名所入ハンカチーフ	同	〇・一〇—〇・五〇	同	同
刺繡品	同	〇・五〇以上	同	同
トランプ	一組	〇・八〇—七・〇〇	外國	二組
麻雀	同	八・〇〇—一五〇・〇〇	滿支各地	課税
支那隈取圖	一個	〇・一〇—一・二〇	支那	價格三圓程度
同　團扇	一本	草絹張製〇・一〇—〇・六五 本絹張製〇・三五—五・〇〇	同	同
同　扇子	同	絹及紙張〇・一〇—二・五〇 羽毛扇子〇・三〇—五・〇〇	同	同
同　茶碗(九官燒)(未泥燒)	一個 茶器一組	〇・五〇以上 一・二〇—五・〇〇	同	同
同　盆		福州製〇・七〇—三・五〇 漢口製三・五〇—四・五〇		同
支那盆	二枚	福州龍眼木製 二・〇〇—四・〇〇	支那	二枚
拂子	一本	〇・五〇—三・〇〇	同	二本
名所繪はがき	一部	〇・一五—〇・六〇	滿支各地	三、四〇部
各種寫眞帖	同	〇・二〇—三・〇〇	同	二部
滿、支、蒙風景寫眞	一枚	〇・〇五—〇・三〇	同	三、四〇枚

＝食料品＝

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
鶉粕漬	一函	一・二〇—二・〇〇	旅順	二—三函
金州漬物	一樽	〇・五〇—一・〇〇	金州	一樽
高粱しるこ	一函	一・一〇—一・四〇	大連、旅順	五函
精肉味噌漬	同	三・四〇	大連	一函
長壽味噌(大蒜味噌)	一瓶	〇・五〇	同	五本
黃瓜麵醬漬	一斤	〇・〇八—〇・六五	同	五斤
大蒜入葡萄酒	一本	一・五〇	同	二本
林檎	一貫	一・五〇	同	植物檢査を要す
蓮の實羊羹	一個	〇・五〇—一・五〇	同	一・五〇のもの五個程度
高粱餅	一函	〇・三〇—一・五〇	奉天	五函
山楂飴	同	一・〇〇	同	同
すつぽん飴	同	一・〇〇	同	同
支那素麵	一包	〇・三〇	新京	十包程度
芝蔴糖	一個	〇・三〇—〇・五〇	同	價格三圓程度
白魚筏干	一函	一・〇〇—二・三〇	安東	同
蛤佃煮	同	〇・五〇—一・〇〇	營口	五圓位迄
娘々豆	同	〇・五〇—五・〇〇	同	同
銀飴	一個	〇・一〇	同	同
同	一罐	一・五〇—五・〇〇	同	同
琥珀飴	同	〇・五〇—二・五〇	撫順	二罐
老山浸糖	一合	〇・七〇	吉林	五合
鹽ウニ		〇・六〇—一・二〇	淸津	
貝柱味淋干		一・五〇—二・八〇	同	
鰯トマトサージン	一封度	〇・三五	同	
ロシア漬	一函	〇・五〇	哈爾濱	三函
河魚燻製	一疋	〇・一五	同	五疋
メドック(蜂蜜酒)	一本	〇・八〇	同	二本
チーズ	一ポンド	〇・六〇	同	一ポンド
バター	同	〇・八〇	同	同
ソーセイヂ	一封度	〇・四〇—一・〇〇	同 奉天	同
鯉の拳漬		一・〇〇—二・〇〇	齊々哈爾 哈爾濱	
史國公酒(瓶詰四合入) (同　二合入)		一・七三 〇・三八	同	
白蘑(茸)	一斤	一・〇〇—五・〇〇	海拉爾	五斤
蝦油小瓜(蝦油にて小形胡瓜を鹽漬にせるものを更に漬けたもの)	一個	一・〇〇—二・〇〇	錦縣	四個
蜂蜜	一罐	〇・八〇—一・五〇	濱綏線沿線 四平街 錦州	五本
燻鷄	一羽	〇・三〇—〇・五〇	錦縣	
梨	百斤	一〇・〇〇	同	植物檢査を要す
蟹うるか漬	一瓶	〇・七〇—一・〇〇	山海關	五瓶
蝦うるか漬	同	〇・八〇—一・二〇	同	
干鮑		一・〇〇—二・〇〇	同	
甘栗	一斤	二・〇〇	北京、天津、奉天	一貫匁
醬菜(黃茄、茄子等のモロミ漬)	一	〇・五〇—二・〇〇	北京	
醋鴨蛋(家鴨の卵の醋漬)	一個	〇・二〇	同	
ドライビーフ	一罐	〇・八〇—一・〇〇	青島	三罐
パデントビーフ	同	〇・八〇—一・九〇	同	同
牛肉粕漬	同	大三・七〇 中二・六〇 小一・五〇	同	
文化豆	同	大一・〇〇 小〇・五〇	同	
鹽ピー	同	大一・六〇 小〇・七〇	同	
スキ燒ビーフ(營養煮)	同	一・三〇	濟南	
肉の華	同	一・五〇	同	
ジンギスカン・カレービーフ	同	一・五〇	青島 濟南	
チョコ・ビーフ	同	一・四〇	同	
ロシア飴	一罐	〇・三五—一・五〇	滿支各地	五罐
ロシヤキャンデー	一函	〇・七〇—一・八〇	同	五函
ウイスキーチョコレート	同	〇・五〇—三・五〇	同	五罐
豆素麵	一把	〇・一〇—〇・二〇	同	二貫匁
支那製果實砂糖漬	一函	〇・五〇—五・〇〇	同	五函
チョコレート製品	同 板モノ	二・一〇—五・〇〇 〇・〇五—二・〇〇	同	同
高粱飴	一函	一・二〇—二・二〇	滿洲各地	同
角砂糖	同	〇・一九	臺灣	十函
ココア	一罐	〇・三五—二・〇〇	外國	一封度
紅茶	同		同	同
コーヒー	同		同	同
乾葡萄	一函	〇・一五—〇・四〇	同	十函
パインアップル	一罐		臺灣	
支那茶	一斤	〇・三〇—一五・〇〇	支那	一封度
糟鴨蛋	一個	〇・二〇—〇・四〇		

＝裝身具＝

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
蛤細工(カフス釦、帶止)	一個	一・二〇 一・二〇	營口	價格三圓程度
琥珀細工(カフス釦、帶止)(珠數、指輪)	同	〇・五〇—五〇・〇〇	撫順	同
支那七寶とんぼ玉	同	〇・二〇—一・〇〇	北京	同
珠數(菩提樹)	一連	一・〇〇—一五・〇〇	同	同
翡翠	一個	五・〇〇—五〇・〇〇以上	支那	課税
黑ダイヤ	一カラット	〇・一〇—〇・二〇	滿洲	同
アレキサンダー	同	〇・七〇—〇・八〇	外國	同
砂金石	一個	〇・五〇—一・五〇	同	同
ルビー	一カラット	〇・六〇—〇・七〇	同	同
オパール	一カラット	一・〇〇—二・〇〇	外國	同
アクマリン・エメラルド	同	〇・六五	同	同
ウラルダイヤ	同	一・〇〇—一・一〇	同	同
石入ネクタイピン、帶止、カフス釦	一個	〇・五〇以上	同	同
サファイア	一カラット	〇・八〇—一・〇〇	滿支各地	同

支那古錢帶止	一個	一・〇〇—二・〇〇	滿支各地	課税
瑪瑙細工(カフス釦、パイプ、帶止)	同	〇・六〇—三〇・〇〇	同	同
ガーネット(ザクロ石)	同	一・〇〇—二・〇〇	外國	同

織物

品目	單位	價格	產地	免税標準數量
ホームスパン	一着分	二四・〇〇—一〇〇・〇〇	四平街	課税
羽蒲團	一枚	三〇・〇〇—六〇〇・〇〇	哈爾濱	同
ロシヤ毛布	同	一〇・〇〇—五〇・〇〇	同	同
麻製刺繍入ハンドバック	一個	一・八〇—三・〇〇	北京	一個
麻製刺繍入ハンカチーフ	一枚	〇・二五	同	一打
糸織風景	同	〇・八五—八・〇〇	同	二枚
人絹織刺繍入ハンドバック	一個	一・六〇—二・〇〇	同	一個
麻製刺繍入テーブル掛	一枚	二・六〇—四・〇〇	同	一枚
支那刺繍入テーブルセンター	同	二・〇〇—八・〇〇	同	同
支那刺繍入ハンドバック	一個	五・〇〇—一七・〇〇	同	一個
支那刺繍入小間物	同	一・〇〇—一五・〇〇	同	同
繿繻錦	同	一・五〇—八〇・〇〇	同	同
絨氈	一尺平方	一・八〇—三・五〇	北京天津	課税
古刺繍加工品(清朝時代の古刺繍の裏を改造せるもの)	一枚	一・〇〇—六・〇〇	北京	價格五圓程度
絹織物(緞子、 子)	一疋	一八・〇〇—三五・〇〇	杭州	同
絹紬風呂敷	一枚	〇・五〇—一・三〇	滿洲	二枚
絹紬	一疋	七・五〇—一〇・五〇	滿洲	價格三圓程度
白絹紬	同	五・五〇—一〇・〇〇	同	同
佛國製テーブル掛	一枚	一四・〇〇—三五・〇〇	佛國	一枚
ゴブラン織	同	一・九〇—三〇・〇〇	同	同
レーステーブル掛	同	一・五〇—五・〇〇	同	同
アンゴラ織テーブル掛	同	—二〇・〇〇	同	同

文房具

品目	單位	價格	產地	免税標準數量
滿洲風物入便箋	一册	〇・一五—〇・三〇	大連	二册
翠雲石加工品	一個	〇・五〇—一八・〇〇	橋頭	三個
壽山石の印材	同	三・〇〇—一〇・〇〇	吉林	價格五圓程度
硯石	同	一五・〇〇以上	同	同
虎眼石(印材、カフス釦)	同	一・〇〇—一・五〇	延吉	同
鐘城硯	同	五・〇〇	清津	同
支那墨	同	〇・一〇—一五・〇〇	北京	二個
支那筆	一本	〇・五〇—一〇・〇〇	同	五本
支那硯	一個	〇・五〇—五〇〇・〇〇	同	
支那封筒	一函	〇・四〇—〇・五五	同	一函
記念文鎭	一個	〇・五〇—二・〇〇	同	二、三個
高粱ペン軸	二本入一函	〇・一五	同	五箱
石刷(碑文)	一枚	〇・六〇	支那	十枚

煙草器具

品目	單位	價格	產地	免税標準數量
灰皿	一個	〇・五五—六・〇〇	大連	價格三圓程度
琥珀パイプ	同	〇・五〇—五〇・〇〇	撫順	二個
銅製セット	一組	二・五〇—一五・〇〇	北京	
滿洲名所入各種灰皿	一個	〇・六五—二・〇〇	滿洲各地	四個
白樺製莨ケース	同	三・三〇—四・五〇	ソ聯	二個
金屬製卷莨入	同	〇・九〇—三〇・〇〇	滿、支各地	同
支那煙管	一本	〇・二五—〇・六〇	滿、支各地	三本
水煙管	一個	一・五〇—五・〇〇	同	
高粱パイプ	二本一函	〇・一〇	同	一函
象牙パイプ	一個	一・〇〇—一〇・〇〇	同	五函

毛皮類

品目	單位	價格	產地	免税標準數量
銀狐	一枚	四〇〇・〇〇—一、一〇〇・〇〇		十割課税但し身分旅程遠近期節等を考慮し自家用別に限り免税さることあり
狐	同	一五・〇〇—三〇〇・〇〇		
虎	同	一〇〇・〇〇—一、一〇〇・〇〇		
豹	同	一五・〇〇—一〇〇・〇〇		
海獺	同	一五〇・〇〇—一、〇〇〇・〇〇		
川獺	同	一〇・〇〇—一五〇・〇〇		
熊(シベリヤ產)	同	七〇・〇〇—八〇〇・〇〇		
狼	同	一〇・〇〇—三〇・〇〇		
羊	同	五・〇〇—二〇・〇〇		

酒類

品目	單位	價格	產地
ウヰスキー	一本	二・八〇—七・七〇	英國
ブラック、ホワイト	同	二二・〇〇	同
オールドバー	同	一八・〇〇	同
ジョニウオーカー(赤)	同	一五・〇〇	同
同(黒)	同	三三・〇〇	同
キング・オブ・キング	同	一六・〇〇	同
レッド・ハックル	同	一〇・〇〇	同
葡萄酒メドック	同	三・二〇	同
同ボルドー	同	二・五〇—三・五〇	同
佛國キユラソー	同	六・八〇	同
伊國ベルモツト	同	四・〇〇	伊國
三星ブランデー	同	一三・〇〇	佛國 英國
各種葡萄酒	同	二・二〇—二〇・〇〇	伊太利 佛國
ウオツカ	一本	〇・三五—二・八〇	滿洲各地
ナストイカ	同	〇・四五—〇・九〇	滿洲
杏酒	同		同
高粱酒	同		同
紹興酒	同		同
老酒	同		同
葡萄酒(原料山葡萄)	同		哈爾濱

外國煙草

品目	單位	價格	產地	免税標準數量
外國煙草	一〇本	〇・一〇—一・〇〇	外國	五〇本
外國葉卷	一本	〇・五〇—五・〇〇	同	二五本
刻				一五匁
支那煙草	一〇本	〇・〇三—〇・一五	滿洲支那	五〇本

煙草は土產物として持ち歸へることは出來ない。たゞ旅行者の自用として紙卷のみならば五十本葉卷のみならば二十五本、刻のみならば十五匁だけ携帶を認められてゐる。然しながら右を二種以上混合する時は各半分宛の數量しか携帶を認められない。

時計、寫眞機、ラヂオ

(自家用以外は五割、十割課税)

品目	單位	價格	產地	免税標準數量
時計	一箇			課税
寫眞機	同			同
雙眼鏡	同			同
ラヂオ	同			同

藥種類

品目	單位	價格	產地	免税標準數量
蔘糖(人蔘精糖)	一樽	一・〇〇—二・〇〇	吉林	價格五圓程度
蛤蟆油	一函	二・五〇以上	同	同
田鷄油(蛙の肉)	二合瓶	四・〇〇—五・〇〇	同	同
藥用人蔘	一斤	四・〇〇以上	同	同
松ノ實(五葉の松の實不老、强壯劑)	同	〇・八〇	圖們	同
六神丸	一函(一、〇〇〇粒入)	一・五〇	北京	同

特別賣錢稅

九月一日より左の通り特別賣錢稅が徵せられることゝなつた。

一、藝妓の花代—百分の五十

二、藝妓以外の者の花代、舞踏料金又は料理屋、舞踏場若くは特殊飲食店に於ける飲食其他の料金—百分の二十五

三、飲食店又は旅館に於ける飲食、宿泊料其他の料金—百分の十

四、入場料、遊技料其他の料金—百分の十五

—・奉天の旅館・—

旅行と防諜

非常時局に際し、高度國防の聲澎湃として起り、防諜についても、近頃官民の間に漸く喧傳せられ、これと關聯深き寫眞の撮影又は其複寫、複製、公示、それから出版物、會話、旅行區域等に關しては、法令の取締は勿論、法令の範圍外にまで、國家總力戰態勢に即應せる、綿密な指導を其筋より受くるに至つた。

本項は防諜上旅行に關係のある諸法令其他のものを拉し來たり、執務上の經驗も加へ、各種の資料を編合蒐錄して見た。

尙直接防諜に關係はないが、大陸旅行上必要な手續に亙る事項は一通り蒐錄し大方の參考に供した次第である。

關東州防禦營造物地帶令（拔萃）

明治四十一年三月七日勅令第三十六號
昭和八年第一六九號（改正）

第一條 防禦營造物地帶令ハ陸地ト水面トヲ問ハス防禦營造物ヲ基點トシ其ノ外方地域ヲ左記標準ニ依リ三區ニ分ツ



第一區　基點ヲ去ルコト　五百間以內
第二區　基點ヲ去ルコト　二千五百間以內
第三區　基點ヲ去ルコト　五千間以內

前項ノ規定ハ防禦營造物ヲ設クルコトニ豫定シタル箇所ニ付亦之ヲ適用ス

第二條 防禦營造物地帶ハ陸軍大臣其區域ヲ定メ之ヲ告示ス其變更ノ場合亦同シ

第三條 防禦營造物ニ出入セントスルモノハ其所屬ニ從ヒ要塞司令官又ハ旅順要港司令官ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 何人ト雖モ要塞司令官ノ許可ヲ受クルニ非レバ防禦營造物地帶內水陸ノ形狀若ハ防禦營造物ヲ測量、撮影、模寫、模造、錄取シ又ハ防禦營造物地帶內ヲ航空スルコトヲ得ス

航空ノ許可ニ關シテハ要塞司令官ハ陸軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 防禦營造物地帶第一區及第二區ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ受クルニ非レバ左記各號ノ行爲ヲナスコトヲ得ス

一、地表ノ高低ヲ永久ニ變更スル工事
二、溝渠、鹽田、水道、道路、橋梁、繫泊場ノ新設又ハ其變更
三、鐵道、軌道、隧道ノ新設又ハ其變更
四、採鑛其他地盤ノ掘鑿
五、運河、永久棧橋ノ新設、水面ノ埋立、河海岸ノ掘鑿又ハ其變更

前項ニ關スル處分ニ付テハ要塞司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 防禦營造物地帶第一區ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ受クルニ非レバ左記各號ノ行爲ヲナスコトヲ得ス

一、工作物ノ新設、變更又ハ移轉
二、埋葬地、牧場、公園、竹木林ノ新設又ハ其變更
三、山林原野ニ於ケル焚火
四、火器爆發物ノ發射、發火
五、爆發物其他燃燒シ易キ危險物ノ製造又ハ貯藏
六、漁業、採藻又ハ船舶ノ繫泊

第七條 要塞司令官ハ防禦營造物地帶ニ於テ兵備ノ狀況其ノ他地形等ノ視察ヲナスト認メタルトキハ之ヲ地帶外ニ退去セシムルコトヲ得

第八條 要塞司令官ハ防禦營造物地帶ニ於ケル水陸ノ形狀又ハ防禦營造物ニ關スル文書、圖畫、模型ノ類ニシテ軍事上有害ナリト認ムルモノヲ發見シタルトキハ之ヲ沒收スルコトヲ得

第十一條 防禦營造物地帶ニシテ專ラ海軍ニ關スルモノニ付キ本令ニ定メタル要塞司令官ノ職權ハ旅順要港司令官之ヲ行ヒ陸軍大臣ノ職權ハ海軍大臣之ヲ行フ

防禦營造物地帶ニシテ海軍ニ關係アルモノニ付テハ第七條及第八條ニ定メタル要塞司令官ノ職權ハ旅順要港部司令官ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第十五條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役若ハ十一日以上ノ拘留又ハ二百圓以下ノ罰金若ハ二圓以上ノ科料ニ處ス

一、防禦營造物地帶ニ關スル標木、標石又ハ標札ノ類ヲ移轉シ又ハ毀損シタル者

二、許可ヲ受ケスシテ防禦營造物ニ出入シタル者
三、第四條乃至第六條ニ違反シタル者
四、第七條ニヨリ退去ヲ命セラレ之ニ從ハサル者

第十六條 本令ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ陸軍大臣、海軍大臣ハ協議シテ之ヲ定ム

要塞地帶法（拔萃）

第一章 總則

第一條 要塞地帶トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ謂フ

第二條 要塞地帶ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距離以內ニ於テ之ヲ定ム

第三條 要塞地帶ハ陸地ト海面トヲ問ハス之ヲ三區ニ分チ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ竝之ヲ告示ス其ノ他之ヲ變更スル場合亦同シ但シ陸軍營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スルカ或ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合竝陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示ヲナスコトヲ要ス

第一區 基線ヨリ測リ二百五十間以內及基線ト防禦營造物間ノ區域
第二區 基線ヨリ測リ七百五十間以內
第三區 基線ヨリ測リ二千二百五十間以內

第四條 要塞司令官、鎭守府司令長官、要港部司令官及築城本部長ハ要塞地帶ヲ劃スル爲、其他必要ト認ムル場合ニ於テハ部下官僚ヲシテ要塞地帶內及第七條第二項ノ區域內何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸海軍用地ニ出入セシメントスルトキハ互ニ當該官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第二章 禁止及制限

第七條 何人ト雖モ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帶內水陸ノ形狀ヲ測量撮影、模寫錄取シ又ハ要塞地帶內ヲ航空スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ要塞地帶外ト雖モ第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以內ノ區域ニ於テ之ヲ適用ス

航空ノ許否ニ關シテハ要塞司令官ト陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 要塞司令官ハ要塞地帶內ニ入リ兵備ノ狀況其他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帶外ニ退去セシムルコトヲ得

第九條 要塞地帶ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漁獲、採藻及艦船ノ繫泊土砂ノ掘鑿ヲナスコトヲ得ス

第十六條 各區內ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ新設若クハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、隧道、永久棧橋

第三章 罰則

第二十二條 第七條及第九條ノ禁ヲ犯シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ十一日以上ノ拘留又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ二圓以上ノ科料ニ處ス

第八條ニ依リ要塞司令官ニ退去ヲ命セラレ其ノ命ニ從ハサルモノ亦同シ

第二十三條 第七條及第九條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二十四條 第十條乃至第十三條第十五條及第十六條ニ違反シタル者ハ四十圓以下ノ罰金又ハ二圓以上ノ科料ニ處ス

第二十五條 第十四條ニ違犯シタル者ハ二圓以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 要塞地帶各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル爲設ケタル標石、標木、標札ノ類ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞シタル者ハ二月以下ノ懲役若クハ十一日以上ノ拘留ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ過失ニ出テタル者ハ二圓以下ノ科料ニ處ス

（備考）

日本に於ける要塞地帶は二十五區に分れ、その境界線も劃然と規定されてゐる。そして一歩右區域內に入れば直ちに要塞地帶法が適用せられる。滿洲及朝鮮方面に於ける要塞地帶は左の通りである。

第二十三區（旅順及大連）大連灣及び旅順灣を中心とする一圓。

第二十四區（鎭海灣）釜山及鎭海を中心とする一圓京釜本線龜浦以南は要塞地帶である。

第二十五區（永興灣）元山を中心とする永興灣及沿岸一帶の地域。

軍機保護法施行規則（拔萃）

治安部令第八號
康德五年二月二十三日
（康德七年七月十日改正公布治安部令第三五號）

軍機保護法施行規則

第一條 省略

第二條 軍機保護法第八條ノ規定ニ依リ左ニ掲グルモノヲ軍事機密物件又ハ軍事機密地域トス

一、機密兵器、軍用廳舍、軍用艦船、軍用航空機、軍用列車其ノ他ノ軍事上機密ニ屬スル物件及軍事ノ用ニ供スル鐵道ニ關スル施設

二、堡壘、砲台、防備衞所其ノ他ノ國防ノ爲建設シタル防禦營造物

三、軍用港灣、軍用驛、軍用飛行場、軍需資源產出地、電氣通信所、軍需品工場、軍需品貯藏所其ノ他ノ軍事施設ニシテ現場ニ適宜標識又ハ標杭ヲ設ケ標示シタルモノ

四、前各號ノ物件、防禦營造物、軍事施設ニシテ其ノ試製、實驗、計畫又ハ築設中若クハ建設豫定地域ニ屬スルモノ

五、前三號ニ掲グルモノノ周圍又ハ軍事上特ニ秘密ヲ要スル地域

第三條 前條第五號ノ地域ハ之ヲ左ノ三種ニ分ツ

第一種地域 防禦營造物又ハ軍事施設ノ外周ヲ基線トシ之ヲ去ルコト二粁以內ノ地域

第二種地域 第一種地域ノ外側四粁以內及國境接壤地帶ニシテ現場ニ標識又ハ標杭ヲ設ケテ標示シタル地域

第三種地域 其他ノ地域

前項ノ第三種地域ハ更ニ之ヲ左ノ如ク區分ス

甲號地域 左ニ掲グル地域中第一種地域及第二種地域ヲ除キタル部分

間島省 琿春縣
牡丹江省 東寧縣、穆稜縣、綏陽縣
三江省 蘿北縣、綏濱縣、同江縣、撫遠縣
富錦縣、鶴立縣（但シ鶴立沙河以南ヲ除ク）
東安省 饒河縣、虎林縣、密山縣、寶淸縣大和村
北安省 北安縣（但シ訥漠爾河以南ヲ除ク）
黑河省 全部
興安北省 全部
興安東省 市特哈旗火燎溝及綽爾河上流附近、喜扎嘎爾旗

乙號地區 附圖第二ニ示ス乙地域中第一種地域及第二種地域ヲ除キタル部分

丙號地區 鞍山、撫順、本溪湖各驛ヲ中心トシ其ノ周圍半徑六粁以內ノ地域

第一種地域、第二種地域及第三種地域甲號地區竝ニ乙號地區ヲ軍機保護法第十二條第五項ノ地域ト指定ス

第四條ヨリ第十條迄省略

第十一條 自己ノ領有シタル圖書物件ガ軍機上ノ機密ニ屬スルコトヲ知リタル者ハ軍機保護法第十一條ノ規定ニ依リ遲滯ナク最寄憲兵部隊又ハ警察官署ニ出頭シ當該圖書物件ヲ提示スベシ

第十二條 軍機保護法第十七條ノ規定ニ依ル沒收處分ハ治安部大臣ノ認可ヲ受ケ憲兵部隊長又ハ警察官署長之ヲ行フ

前項ノ沒收處分ハ憲兵部隊長又ハ警察官署長命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スベシ

第十三條 第一種地域、第二種地域及第三種地域甲號地區（以下單ニ特別地區ト稱ス）內ニ居住スル者（以下單ニ居住者ト稱ス）ハ別紙第二號樣式ニ依リ所轄警察官署長ニ屆出デ居住證明書ノ發給ヲ受クベシ

居住證明書ノ有效期間ハ發給ノ日ヨリ二年トス

第十四條 居住者旅行又ハ移動スル場合ハ居住證明書ヲ携帶スベシ

居住者特別地區內ニ於ケル他ノ縣又ハ旗ヘ旅行スル場合ハ前項ニ依ルノ外其ノ旨豫メ所轄警察官署長ニ屆出デ證認ヲ受クベシ

第十五條 特別地區外居住者ニシテ特別地區內ヲ旅行セントスルトキハ別紙第三號樣式ノ旅行許可願二通ニ寫眞（六箇月以內ニ撮影シタル名刺型無帽半身）二葉ヲ添附シ所轄警察官署（已ムヲ得ザルトキハ最寄警察官署）長ニ願出デ旅行許可書ノ發給ヲ受クベシ

但シ寫眞ヲ添附シ能ハザル事由アルトキハ其ノ旨所轄警察官署長ニ願出デ指紋ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

汽車又ハ航空機ニ據リ特別地區內ヲ通過スル者ハ前項ノ許可書ヲ要セズ但シ旅行許可書ヲ有セザル者ハ其ノ地ノ警察官署長ノ許可ナクシテ停車場構外又ハ飛行場外ニ出ヅルコトヲ得ズ

第十六條 工事其他ノ事由ニ因リ多數ノ集團ヲ引率シテ特別地區內ヲ旅行セントスル者ハ前條第一項ニ依ル本人ノ願書ニ別紙第四號樣式ノ團體名簿二通ヲ添附シ所轄警察官署（已ムヲ得ザルトキハ最寄警察官署）長ニ願出ヅベシ

前項ノ願出アリタルトキハ所轄警察官署長ハ被引率者ニ對シ前條第一項ノ手續ヲ免除シ引率者ニ對シ集團旅行許可書ヲ發給スルコトヲ得

引率者ハ被引率者監督ノ責ヲ負フモノトス

第十七條 第十五條第一項又ハ前條第二項ノ旅行許可ヲ受ケタル者ニシテ已ムヲ得ザル事由ニ因リ旅行ノ徑路、行先地又ハ期間ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ最寄警察官署長ニ屆出デ認證ヲ受クベシ

第十八條 第十六條第二項ノ集團旅行許可ヲ受ケタル引率者死亡病氣其他已ムヲ得ザル事由ニ因リ旅行不能トナリタルトキハ被引率者ハ第十五條第一項ニ依リ新ニ旅行許可書ノ發給ヲ受ケ又ハ新ニ引率者ヲ定メ第十六條第一項ニ依リ最寄警察官署長ニ願出デ許可ヲ受クベシ

引率者ハ被引率者中前項ノ事由ニ因リ旅行不能トナリタル者アルトキハ遲滯ナク其ノ旨最寄警察官署長ニ屆出デ認可ヲ受クベシ

第十九條 業務其他ノ事由ニ因リ當時特別地區內ニ出入スル者ハ所轄警察官署長ニ願出デ定期旅行許可書ノ發給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ許可出願ニ關シテハ第十五條第一項ノ規定ヲ

準用ス

定期旅行許可書ノ有效期間ハ發給ノ日ヨリ一年トス

第二十條　第二十五條第一項、第十六條第二項又ハ前條ニ依ル旅行許可書ノ發給ヲ受ケタル者特別地區內ノ旅行ヲ終ヘタルトキハ遲滯ナク最寄警察官署長ニ旅行許可書ヲ返納スベシ

第二十一條　特別地區外居住者ニシテ特別地區內ヘ移住セントスル者又ハ第一種地域及第二種地域中國境接壤地帶以外ノ特別地區內居住者ニシテ第一種地域及第二種地域中國境接壤地帶內ヘ移住セントスル者ハ別紙第五號樣式ノ移住許可願二通ニ寫眞（六箇月以內ニ撮影シタル名刺型無帽半身）二葉ヲ添附シ所轄警察官署長ヲ經テ治安部大臣ニ願出デ移住許可書ノ發給ヲ受クベシ

前項ノ出願者家族又ハ同伴者アルトキハ各人每ニ寫眞二葉ヲ添附スベシ

第二十二條　前條ノ許可ヲ受ケタル者已ムヲ得ザル事由ニ因リ移住期間ノ延期ヲ必要トスルトキハ其ノ事由ヲ具シ最寄警察官署長ニ屆出デ認證ヲ受クベシ

第二十三條　居住者特別地區內ニ於テ移住セントスルトキハ所轄警察官署長ニ其ノ旨屆出ヅルト共ニ移住後二十日以內ニ其ノ地所轄警察官署長ニ屆出デ居住證明書ノ書換ヲ受クベシ但シ第一種地域及第二種地域中國境接壤地帶內ニ於テ移住セントスル者ハ改メテ第二十一條ノ手續ヲ爲シ許可ヲ受クベシ

第二十四條　居住者特別地區外ヘ移住セントスルトキハ所轄警察官署長ニ其ノ旨屆出ヅルト共ニ出境後遲滯ナク最寄警察官署長ニ居住證明書ヲ返納スベシ

第二十五條　第二十一條第一項又ハ第二十三條但書ノ許可ヲ受ケ移住シタル者ハ二十日以內ニ所轄警察官署長ニ屆出デ移住許可書ヲ返納スルト共ニ第十三條第一項ニ依リ居住證明書ノ發給ヲ受クベシ

第二十六條　本令ニ依ル許可書及證明書ハ之ヲ貸與、讓渡又ハ不正ニ使用スルコトヲ得ズ

第二十七條　居住證明書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ十日以內ニ其ノ旨所轄警察官署長ニ屆出デ再發給ヲ受クベシ

居住證明書ヲ旅行又ハ移動先ニ於テ亡失シタルトキハ最寄警察官署長ニ屆出デ證明書ノ發給ヲ受ケ歸著後前項ニ依リ再發給ヲ受クベシ亡失シタル居住證明書ヲ發見シタルトキハ直ニ其ノ旨最寄警察官署長ニ屆出ヅベシ

第二十八條　旅行許可書又ハ移住許可書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨最寄警察官署長ニ屆出デ證明書ノ發給ヲ受クベシ

前項ノ亡失屆ニハ旅行又ハ移住許可書ノ記載事項ヲ記入スベシ

第一項ノ證明書ハ之ヲ旅行又ハ移住許可書ト看做ス

第二十九條　居住證明書ノ有效期間滿了シタルトキ又ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ一月以內ニ所轄警察官署長ニ屆出デ書換ヲ受クベシ

第三十條　當該官憲ハ特別地區內居住者、旅行者又ハ移住者ニ對シ何時ニテモ居住證明書、旅行許可書又ハ移住許可書ヲ査閱スルコトヲ得

第三十一條　居住又ハ旅行ニ關スル他ノ法令ニ依リ發給ヲ受ケタル證明書若ハ許可書又ハ法令ニ依リ認メラレタル證明書ハ別ニ定ムル所ニ依リ之ヲ本令ニ依ル居住證明書又ハ旅行許可書ト看做ス

第三十二條　治安部大臣ハ特別地區內居住者又ハ旅行者ニ對シ國防上必要アリ又ハ治安上害アリト認ムルトキハ其ノ居住又ハ旅行ヲ禁止又ハ制限スルコトアルベシ

第三十三條　第十三條乃至第三十一條ノ規定ハ軍人軍屬其他官公吏ニシテ正規ノ服裝ヲ著用シ又ハ所屬長發給證明書ヲ携帶スル者及十四歲未滿ノ者ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第三十四條　以下ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一、第八條、第九條、第十四條、第十七條、第十八條第二項、第二十條、第二十二條乃至第二十九條ノ規定ニ違反シタル者

二、故ナク第十三條第一項ノ規定ニ依ル居住屆ヲ爲サザル者

三、第十六條第三項ノ引率者ニシテ被引率者ヲ逃亡セシメタル者

四、第三十條ノ規定ニ依ル取締官憲ノ査閱ヲ拒否シタル者

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特別地域取締令ハ之ヲ廢止ス

特別地域取締令ニ依リ發給ヲ受ケタル居住證明書、旅行許可書及移住許可書ハ本令ニ依リ發給ヲ受ケタルモノト看做ス

（別紙第三號樣式）

旅行（定期旅行）許可願

（寫眞又ハ指紋）　契

氏名及別號
年齡
性別

一、本籍又ハ出生地
一、現住所
一、戶主トノ續柄
一、職業
一、旅行ノ目的
一、旅行徑路及行先地
一、旅行期間

右ニ依リ旅行（定期旅行）許可相成度寫眞添附此段願出候也

年　月　日

右　氏　名㊞

警察官署長　殿

（別紙第四號樣式）

團體名簿

番號	本籍又ハ出生地	現住所	被募地	職業	氏名	年齡	摘要

備考　一、本籍又ハ出生地ハ詳細ニ記入スベシ
二、被募集欄ハ勞働者ニ限リ之ヲ記入スルモノトス

（別紙第五號樣式）

移住許可願

一、氏名及別號
一、性別
一、生年月日及年齡
一、本籍又ハ出生地
一、現住所
一、戶主トノ續柄
一、民族
一、職業
一、宗教
一、移住ノ目的
一、移住地
一、出發豫定年月日
一、家族其ノ他同伴者ノ氏名年齡職業及關係

右ニ依リ移住許可相成度寫眞添附此段願出候也

年　月　日

右　氏　名㊞

治安部大臣　殿

注意　上記軍機保護法施行規則に依れば第一種地域、第二種地域及第三種地域中の甲號地區旅行の際にのみ旅行許可書を必要とすることになつて居るが、最近乙號地區內各地に於て時期的或は地域的に甲號地區同樣旅行許可書の携行を必要とする地域が多くなつた爲許可書を携行する方が便利である。近き將來には乙號地區に旅行許可制度が實施せられるやも量られない狀態にある故、旅行者は乙號地區內旅行の際に於ても旅行許可書を携行する樣特に勸告する。これに伴ひ各地警察官署に於ては既に乙號地區旅行者に對して右許可書發給の取扱を開始してゐる。尙、日本よりの旅行者は大連、安東、圖們、奉天、新京、哈爾濱其の他特別地域外の警察官署に願出る事が出來る。此の場合には勿論身分證明書と寫眞が必要である。

滿洲帝國內空中寫眞及航空の制限に關する現程（拔萃）

第一條　本規程ハ軍機保護上ノ要求ヲ充足スル爲滿洲帝國內ニ於ケル軍用航空機ニ非サル航空機（以下民間機ト稱ス）ヲ以テ撮影スル空中寫眞及民間機ノ航空制限ニ關シ現定スルモノトス

第二條　民間機ニ搭乘シ空中寫眞ヲ撮影セムトスル者ハ豫メ第一號書式ニ依ル空中寫眞撮影許可願ヲ關東軍司令官ニ提出シ其ノ許可ヲ受クルモノトス但關東軍ニ於テ指示セシモノハ此ノ限リニ非ス

第三條　滿洲航空株式會社（以下單ニ會社ト稱ス）ハ寫眞機ヲ携帶シテ其ノ所屬航空ニ搭乘スルモノアルトキハ航空中當該航空機ノ乘務員ヲシテ其寫眞機ヲ領置セシムルモノトス

搭乘者中前項ノ要求ニ應セサル者アルトキハ會社ハ其ノ搭乘ヲ拒否スルモノトス

第四條　空中寫眞ニシテ祕密ノ取扱ヲ要スルモノハ關東軍司令官ニ於テ第二條ノ規程ニヨル許可ヲナスニ方リ出願者ニ其旨通告スルモノトス

但シ業務上特ニ保管ヲ必要トシ第二號書式ニ依リ空中寫眞保管許可願ヲ關東軍司令官ニ提出シ其許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限リニ非ス

第六條　前條但書ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタルモノハ當該空中寫眞ノ保管及祕密保持ニ付其ノ責ニ任シ且關東軍ノ要求アリタルトキハ直チニ之ヲ提出スルモノトス

第七條　會社ニ於テ實施スル空中寫眞及寫眞測量圖ノ保管取扱ニ關シテハ別ニ規定スル所ニ依ル

第八條　民間機ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル地域ノ上空ニ於テ運航スルコトヲ得ス但シ第三號書式ニ依ル禁止地域飛行許可願ヲ關東軍司令官ニ提出シ其ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限リニ非ス

一、附圖ニ示ス區劃外ノ地域

二、鞍山、撫順、本溪湖各停車場ヲ中心トシ其周圍半徑六粁以內ノ地域

第九條　前條但書ニ依ル許可ヲ受ケ禁止地域ノ上空ニ於テ運航スル會社機ノ運航ニ關シテハ別ニ規程スル所ニ依ル

第十條　會社ハ齊々哈爾滿洲里間、齊々哈爾黑河及哈爾濱黑河間ニ於テ會社機ニ搭乘スル旅客ニ付キ其出發前左ノ各號ノ事項ヲ當該旅客ノ搭乘地ニ在ル特務機關ニ通報スルノモトス

一、氏　名
二、國籍及職業
三、現住所
四、搭乘區間
五、其他參考トナルヘキ事項

（第一號書式）

空中寫眞撮影許可願

左記ニ依リ空中寫眞ヲ撮影致シ度ニ付許可相成度

左記

一、撮影ノ目的
一、撮影ノ場所（地域）
一、撮影ノ日時
一、空中寫眞ノ種類
一、其他參考トナルヘキ事項

本籍
現住所
職　氏　名㊞

年　月　日

關東軍司令官　殿

（第二號書式）

空中寫眞保管許可願

左記ニ依リ空中寫眞ヲ保管致シ度ニ付許可相成度

左記

一、目　的
一、寫眞ノ種類、名稱、部數
一、保管ノ場所
一、保管ノ責任者
一、其他參考トナルヘキ事項

本籍
現住所
職　氏　名㊞

年　月　日

關東軍司令官　殿

（第三號書式）

禁止地域飛行許可願

左記ニ依リ滿洲帝國內飛行禁止地域上空ヲ飛行致度ニ付許可相成度

左記

一、飛行ノ目的
一、飛行ノ經路
一、使用飛行機ノ名稱、所屬、種類竝性能ノ概要
一、飛行機搭乘者ノ職氏名
一、飛行ノ日時
一、其他參考トナルヘキ事項

本籍地
現住所
職　氏　名㊞

年　月　日

關東軍司令官　殿

滿洲國人の渡日取扱規則

一、官公吏個人ノ場合
本人所屬官公衙發給ノ第一號稱求身分證明書ヲ携帶スルコト
二、留學生ノ場合
民政部大臣發給ノ留學認可書又ハ駐日大使館發給ノ留日學生證明書ヲ携帶セシムルコト
右ノ證明書ヲ携帶セサル者ハ一般民衆個トシテ取扱ヲ爲ス
三、一般民衆個人ノ場合
本人居住所轄警察署長發給ノ第二號ノ樣式ノ赴日身分證明書ヲ携帶スルコト
但シ渡日ノ目的カ勞働又ハ留學ニ非サル者ニ限ル
四、團體ノ場合
團體ヲ構成スル各人ハ官公吏タルト否トヲ問ハス夫々當該證明書ヲ携帶スルコト
イ　官公署主催ニ係ル團體ニ在リテハ所屬官公署ヨリ一件書類添附ノ上總務長官ヘ旅行許可ヲ申請シ許可アリタル團體ニ對シテハ外務省ヨリ駐日大使館ヲ通シ日本外務省ニ便宜供與方ヲ依賴ス
ロ　協和會主催ニ係ル團體ニ在リテハ協和會中央本部長ヲ經由シ一件書類ヲ外務局ニ提出シ駐日大使館ヲ通シ日本外務省ニ便宜供與方ヲ依賴ス
ハ　一般民衆團體ニシテ日本旅行ニ就キ便宜供與方ヲ受ケントスル場合ハ省長又ハ新京特別市長ヲ通シ一件書類ヲ外務局ニ提出シ外務局ト駐日大使館ヲ通シテ日本外務省ニ便宜供與方ヲ依賴ス
五、前記(三)ノ警察署長發給ノ赴日身分證明書ノ有效期間ハ六ケ月以內トス
六、本取扱ハ康德八年三月一日ヨリ之ヲ實施ス

（身分證明書々式）

第一〇號　赴日身分證明書
康德九年一月一日
住所　吉林省永吉縣第五區何何屯何何堡何何甲門牌一號
職業　農業（保長）
氏名　王振武　年齡　二十八年

契……印……
何何警
察署印

第一〇號
赴日身分證明書

本籍又ハ出生地　吉林省永吉縣第五區何何屯　山東省掖縣何何村
住所　吉林省永吉縣第五區何何屯何何堡何何甲門牌一號
職業　農業（保長）
氏名　王振武　年齡　二十八年
赴日目的　視察
旅行期間　自康德九年一月一日至康德九年一月三十一日
行先地　下關、廣島、大阪、京都、東京、栃木

右保證明王振武赴日身分
康德九年一月一日
吉林省永吉縣
何何警察署長㊞

六箇月以內ニ撮影セル半身脫帽寫眞貼附（手札型）
㊞
取扱㊞

支那人の渡日に就て

最近日本內地に入國せんとする支那人の取扱は次の條件を具備せざる者は入國を禁止せられることになつた。尙滿洲國人（在滿永住支那人を含む）に對する取扱は從來通りである。

渡日條件

一、新政府所屬官公吏の場合は所屬官公署發給の身分證明書及在支日本帝國官憲の證明書又は紹介狀所持のこと。

（第一號樣式參照）

二、日本帝國官憲の特殊任務を帶びたる者の場合は該要務を帶びたることを判別し得る日本帝國官憲の紹介狀所持のこと。

三、關東州內永住者及び內地在泊船に乘組みのため渡航する船員の場合は在關東州警察署發給渡航證明書及び見せ金一名一〇〇圓宛所持のこと。

四、その他は新政府及び在支日本帝國公館長の證明書及び見せ金一名一〇〇圓所持のこと。

（第二號樣式參照）

五、次の者は上記の證明書なくとも上陸を許可せられる。

（イ）昭和十四年五月一日以降日本內地學校發行在學又は留學證明書所持の再渡航學生。

（ロ）昭和十四年五月一日以降の日本內地居住地所轄警察署發給外國人登錄簿抄本所持の再渡航者。

（ハ）昭和十四年五月二十日以後一時歸國せんとする日本在住支那人にして再入國差支へなしと認められる者には居住地所轄警察署に於て一時歸國證明書を發給してゐたが、これは再入國許否判定の資料とされるものでなく、今後は內地上陸には必ず中國新政府及在日本帝國公館長の證明書の所持を要することゝなつた。

（第一號樣式）

身分證明書

官職　氏　名
年　齡

寫眞

一、渡日用務

右證明ス
年　月　日
所屬官公署長㊞

右證明ス
年　月　日
在支日本帝國公館長氏名㊞

（第二號樣式）

渡日證明書

本籍
現住所
職業　氏　名
年　齡

寫眞

一、渡日目的
一、行先地名又ハ旅行地域

右證明ス
年　月　日
（政府當局者）官職氏名㊞

右證明ス
年　月　日
在支日本帝國公館長氏名㊞

北支行滿支人に要する證明書

十二歲以上六十歲未滿ノ滿洲國人又ハ中國人ニシテ昭和十六年二月十日以降北支地區ヲ旅行スル者ニ對シテハ左ノ場合ヲ除キ所定身分證明書又ハ旅行證明書ノ携行ヲ要スルコトトナリタリ。

一、昭和十六年二月十日ヨリ同年七月一日迄ノ期間ニ於テ從來各地方每ニ發給セル良民證竝之ニ準ズル證明書ヲ所持スル者

二、滿洲國、中南支及其他北支蒙彊外地域ヨリノ旅行者ニシテ其ノ出發地ニ於ケル權威アル諸機關ノ發給スル旅行證明書ヲ所持スル者

追而證明書ハ左記機關ニ於テ發給ス

一、在北支機關

華北政務委員會館內ノ官公署、特務機關、憲兵隊、日本官廳、華北交通會社警務段等ノ外渡滿工人ニ對シ滿洲國通商代表部

一、在滿洲國機關

一般滿人旅客ニ對シテハ警察官署(含鐵道警護隊)工人ニ對シテハ勞工協會其他滿鐵、電々、電業、滿洲航空、滿映等特殊會社竝協和會ニ於テハ各所屬長ニ於テ

一、關東州發滿人旅客ノ取扱方ニ關シテハ別途指示アル筈

外國人入國滯在取締規則制定

滿洲國政府ハ從來外國人ノ入國滯留ニ關スル各種取締規則ノ連環性ト規則補正統一ヲ圖リ八月一日附左記法令ヲ以テ之ガ新規則ヲ公布セリ

治安部令第二十二號

茲ニ外國人入國滯在取締規則ヲ左ノ通制定ス

康德八年八月一日　治安部大臣　于　琛　澂

外國人入國滯在取締規則

第一章　外國人ノ入國及通過

第一條　本邦ニ入國又ハ本邦ヲ通過セントスル外國人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ省長(新京特別市ニ在リテハ警察總監以下之ニ同ジ)ニ於テ其ノ入國又ハ通過ヲ禁止スベシ

一、旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ヲ所持セザル者

二、本邦ノ利益ヲ害シ又ハ敵國ヲ利スル行爲ヲ爲ス處アル者

三、公安ヲ害シ又ハ風紀ヲ紊ス虞アル者

四、公衆衛生上危險ナル疾患アル者

五、公私ノ救助ヲ要スベキ虞アル者

條約又ハ慣行ニ依リ入國ニ付旅客若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ヲ必要トセザル國ノ國民ニ在リテハ前項第一號ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得第一項第一號ノ旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ハ本人ノ寫眞ヲ貼附シタルモノニシテ所屬國官憲又ハ國際慣例ニ依ル特定國官憲ノ發給ニ係リ且本邦入境前一年以內ニ帝國駐外官署又ハ駐大連外務局辦事處ノ查證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第二條　外國人本邦ニ入國又ハ本邦ヲ通過セントスルトキハ入境地(最初ニ著陸スル飛行場ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ於テ警察官ノ查閱ヲ經タル後ニ非ザレバ入國又ハ通過スルコトヲ得ズ

前項ノ查閱ニ際シ外國人ハ別表第一號樣式ニ依ル申告書ニ事實ヲ記入署名スベシ

第一項ノ查閱ニ際シ外國人ハ當該警察官ノ請求ニ應ジ旅券其ノ他ノ證明書ヲ提示シ必要ナル事項ニ付質問アリタルトキハ眞實ナル陳述ヲ爲スベシ

第三條　有效ナル旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ヲ所持セザル外國人ニシテ之ヲ所持セザルコトニ付相當ノ事由アリト認ムルトキハ省長ハ其ノ入國又ハ通過ヲ許可スルコトヲ得第一條第一項第五號ニ該當スル外國人ニシテ確實ナル監護人又ハ身元引受人ノ保證アリ入國又ハ通過セシムルモ支障ナシト認ムルトキ亦同ジ

本邦ヲ通過スル外國人ニシテ已ムヲ得ザル事由ニ依リ二十日以上滯在セントスル者ハ入國ノ場合ニ準ジ省長ニ願出デ其ノ許可ヲ受クベシ

第四條　外國人船員ハ搭乘船舶ノ本邦港灣碇泊中第一條第一項第一號ノ規定ニ拘ラズ一時上陸スルコトヲ得但シ當該港ノ所屬スル市街村域外ニ旅行スルコトヲ得ズ

第二章　外國人ノ滯在及居留

第五條　本邦ヲ通過スル外國人ハ二十日以上本邦ニ滯在スルコトヲ得ズ本邦ニ入國スル外國人ニシテ二十日以上六十日未滿本邦ニ滯在セントスル者ハ入境ノ日ヨリ十日以內ニ別表第二號樣式ニ依リ入境地又ハ滯在地所轄警察官署長ニ願出デ滯在ノ許可ヲ受クベシ

第六條　六十日以上本邦ニ居留セントスル滿十四歲以上ノ外國人ハ入境ノ日ヨリ二十日以內ニ別表第二號樣式ニ依リ居留地所轄警察官署長ニ願出デ居留ノ許可ヲ受クベシ但外國政府ノ公務ヲ帶ビ本邦ニ駐在スル外國人ニシテ外務局ニ於テ發給シタル身分證明書ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ居留許可ノ期間ハ二年以內トス

居留期間滿了後引續キ居留セントスル者ハ期間滿了十日前迄ニ別表第二號樣式ニ依リ居留地所轄警察署長ニ願出デ居留延期ノ許可ヲ受クベシ

第一項及第三號ノ願出ニ際シテハ最近六月以內ニ撮影シタル寫眞(正面、脫帽、半身、名刺型)二葉ヲ願書ニ添附スベシ

第七條　居留ノ許可ヲ受ケタル外國人其ノ許可ヲ受ケタル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以內ニ居留地所轄警察官署長ニ屆出デ改訂ヲ受クベシ但シ國籍ノ變更ヲ生ジタルトキハ改メテ第六條ニ依リ居留ノ許可ヲ受クベシ

第八條　滯在又ハ居留ノ許可ヲ受ケタル外國人其ノ許可書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ五日以內ニ其ノ事由ヲ具シ滯在地又ハ居留地所轄警察官署長ニ屆出デ再發給ヲ受クベシ

第九條　本邦ニ滯在シ又ハ居留スル外國人ハ其ノ滯在又ハ居留ノ許可書ヲ他人ニ貸與シ若ハ讓渡シ又ハ不正ニ使用スルコトヲ得ズ

第十條　外國人ヲ宿泊セシムル者ハ本人到著ノ時ヨリ十二時間以內ニ左ノ事項ヲ滯在地又ハ居留地所轄警察官署長ニ屆出ヅベシ

一　國籍
二　滯在地又ハ居留
三　氏名
四　年齡
五　民族、宗教
六　職業
七　入境地及其ノ年月日
八　前宿泊地
九　旅行ノ目的
十　到著年月日時
十一　行先地
十二　同伴家族ノ氏名及年齡

外國人其ノ宿泊所ヲ去リタルトキハ其ノ出發日時及行先地ヲ十二時間以內ニ滯在地又ハ居留地所轄警察官署長ニ屆出ヅベシ

前二項ノ屆出ハ所轄ノ警察官分駐所又ハ派出所ニ之ヲ爲スコトヲ得

外國人ヲ宿泊セシムル者又ハ之ニ代ルベキ者ノ請求アリタルトキハ外國人ハ第一項ニ揭ゲタル事項ヲ告ゲ又ハ用紙ニ記載スベシ

第十一條　外國人ト貸家又ハ貸間ヲ契約シタル者ハ前條ノ規定ニ準ジ契約ノ日ヨリ五日以內ニ滯在地又ハ居留地所轄警察官署長ニ屆出ヅベシ

外國人ヲ同居セシムル者亦同ジ

第十二條　第二條第三項ノ規定ハ外國人ノ滯在及居留ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章　外國人ノ旅行

第十三條　本邦ニ滯在又ハ居留スル外國人ニシテ國內ヲ旅行セントスル者ハ常ニ滯在又ハ居留ノ許可書ヲ携行スベシ

鐵道沿線都邑以外ノ地域ヘ旅行セントスルトキハ滯在地又ハ居留地所轄警察官署長ニ屆出デ滯在又ハ居留ノ許可書ニ旅行ノ認證ヲ受クベシ

第十四條　外國人ノ旅行ハ取締上必要アリト認ムルトキハ之ヲ制限シ又ハ省長ヲシテ制限セシム

第十五條　本邦ニ滯在又ハ居留スル外國人國外旅行ヲ爲サントスルトキハ滯在地又ハ居留地所轄警察官署長ニ屆出デ滯在又ハ居留ノ許可書ニ旅行ノ認證ヲ受ケ之ヲ携行スベシ

警察官署長ハ前項ノ認證ヲ與フルニ際シ六月以內ニ於テ旅行期間ヲ指定スルコトヲ得但シ滯在又ハ居留許可ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ズ

第一項ノ規定ニ違反シ又ハ前項ノ規定ニ依リ指定シタル旅行期間內ニ本邦ニ歸來セザル者ニ對シテハ省長其ノ出國又ハ入國ヲ禁止スルコトヲ得

第十六條　本邦ニ滯在又ハ居留スル外國人ニシテ旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證書ヲ取得シ得ザル者ハ日本又ハ中華民國ニ旅行スル場合ニ限リ別表第三號樣式ニ依リ滯在地又ハ居留地所轄警察署長ニ願出デ旅行證明書ノ下附ヲ受クベシ

旅行證明書ハ發給ノ日ヨリ六月間有效トス

旅行證明書ヲ所持スル外國人ニシテ日本又ハ中華民國ニ駐在スル帝國駐外官署又ハ駐大連外務局辦事處ノ查證ヲ受ケ旅行證明書ノ有效期間內ニ本邦ニ歸來スル者ニ對シテハ第一條第一項第一號ノ規定ヲ適用セズ

第十七條　本邦ヲ通過セントスル外國人ニシテ通過經路外ニ旅行シ又ハ通過地ヲ變更セントスルトキハ入境地又ハ滯在地所轄警察官署長ニ願出デ其ノ許可ヲ受クベシ

第十八條　第二條第三項ノ規定ハ外國人ノ旅行ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四章　外國人ノ退去

第十九條　居留ノ許可ヲ受ケタル者本邦ヲ退去セントスルトキハ豫メ居留地所轄警察官署長ニ屆出デ居留ノ許可書ニ認證ヲ受ケ出境ノ際之ヲ出境地所轄警察官署長ニ返納スベシ

省長ハ前項ノ規定ニ違反シタル者ノ出國ヲ禁止スルコトヲ得

第二十條　省長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ本邦外ニ退去ヲ命ズルコトヲ得

一　第一條第一項各號ノ一ニ該當スル者
二　他人ノ氏名ヲ記載シタル旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ヲ行使シタル者
三　虛僞ノ方法ニ依リ旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ノ查證ヲ受ケタル者
四　第二條第一項又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者
五　第五條、第六條又ハ第七條但書ノ許可ヲ受ケズ

シテ滯在又ハ居留スル者

六　第十三條但書ノ認證ヲ受ケズシテ旅行シタル者

第二十一條　第二條第三項ノ規定ハ外國人ノ退去ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五章　手數料

第二十二條　第三條ニ依リ入國ノ許可ヲ受ケタル者ハ二十圓、通過ノ許可ヲ受ケタル者ハ十圓ノ手數料ヲ納付スベシ但シ外國政府ノ公務ヲ帶ブル者及之ニ準ズル者竝ニ治安部大臣ノ指定シタル國ノ國民ニ對シテハ之ヲ免除スルコトヲ得

第二十三條　第六條又ハ第八條ニ依リ居留ノ許可書ノ發給、書換、再發給ヲ受ケタル者ハ手數料トシテ二圓ヲ納付スベシ但シ外國政府ノ公務ヲ帶ブル者及之ニ準ズル者竝ニ徵收ノ必要ナシト認メラルル者ニ對シテハ居留地所轄警察官署長ニ於テ之ヲ免除スルコトヲ得

第二十四條　第十六條ノ旅行證明書ノ下附ヲ受ケタル者ハ手數料トシテ二十圓ヲ納付スベシ但シ治安部大臣ノ指定シタル者ニ對シテハ之ヲ免除ス

第二十五條　手數料ハ總テ收入印紙ヲ以テ納付スベシ

第六章　罰　則

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一、第四條但書ノ規定ニ違反シテ市街村ノ地域外ヘ旅行シ第十三條第一項ノ規定ニ違反シテ許可書ヲ携行セズシテ旅行シ又ハ第十五條第一項ノ規定ニ違反シテ認證ヲ受ケタル許可書ヲ携行セズ旅行シ又ハ第十七條ノ許可ヲ受ケズシテ通過經路外ニ旅行シ若ハ通過地ヲ變更シタル者

二、第七條、第八條又ハ第十條第一項、第二項ノ屆出ヲ怠リタル者

三、第二條第三項、第十二條、第十八條又ハ第二十一條ノ規定ニ違反シテ警察官ノ請求ニ對シ旅券其ノ他ノ證明書ヲ提示セズ又ハ質問ニ對シ陳述セズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ徒刑若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一、省長ノ退去命令ニ違反シタル者

二、他人ノ氏名ヲ記載シタル旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ヲ行使シタル者

三、虚僞ノ方法ニ依リ旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ノ查證ヲ受ケタル者

四、第二條第一項ノ規定ニ違反シ查閲ヲ受ケズシテ入國又ハ通過シタル者

五、第五條第一項ノ規定ニ違反シテ滯在シ又ハ第五條第二項、第六條第一項、第三項若ハ第七條但書ノ許可ヲ受ケズシテ滯在シ又ハ居留シタル者

六、第九條ノ規定ニ違反シテ貸與若ハ讓渡シ又ハ不正ニ使用シタル者

七、第十三條第二項ノ認證ヲ受ケズシテ旅行シタル者

八、第十四條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ニ掲グル命令ハ之ヲ廢止ス

一、大同二年民政部令第七號外國人入國取締規則

二、大同二年民政部令第八號外國人入國檢査官署指定ノ件

三、康德元年民政部令第八號暫行外國人滯留登錄規則

四、康德五年治安部令第七號外國人居留證明書發給規則

康德五年治安部令第七號外國人居留證明書發給規則ニ依リ發給シタル居留證明書ハ之ヲ本令ニ依リ發給シタルモノト看做ス

別表第一號樣式

申　告　書

氏　名		性	
生年月日		年　齡	
國　籍		出生地	
民　族		宗　敎	
職　業		兵役兵科 階級	
出發地 (出港地)		入境地	
入國又ハ 通過ノ目的			
行先地			

旅券	番號	發給年月日	有效期間	查證場所	查證年月日

同伴者	國籍	氏名	生年月日

上記ノ通相違無之候也

署　名

(注意)　康德八年八月一日治安部令第二十二號(外國人入國滯在取締規則)ニ依リ本邦ニ入國又ハ本邦ヲ通過スル外國人ハ上記相當欄ニ記入入境地警察官ニ提出スベシ

別表第二號樣式

居留(滯在、居留期間延長)許可願

氏　名			性		
生年月日			年　齡		
國　籍			出生地		
本國ニ於ケル住所			既(未)婚		
民　族			宗　敎		
居留(滯在)ノ目的 (居留期間延長理由)			職　業		
居留(滯在)豫定期間			入國年月日		
旅券	番號		發給場所		
	發給年月日		有效期間		
	查證年月日		查證場所		

同伴家族	本人トノ續柄	國籍	氏名	年齡	兵役	性

居留證明書	種類		番號	
	有效期間		手數料	
備　考				

私儀上記ノ通居留(滯在・居留期間延長)致度候間許可被下度此度及願候也

康德　年　月　日

願出人住所

署　名

警察官署長　殿

別表第三號樣式

No　日本 中華民國 旅行證明書下附願

1	氏　名	性
2	生年月日	年齡
3	國　名	
4	出生地	
5	民　族	
6	宗　敎	
7	職　業	
8	現住所	
9	旅行用務	
10	旅行目的地及經由地	
11	旅行期間	自康德　年　月　日 至康德　年　月　日
12	同伴家族ノ國籍氏名及年齡	

私儀上記ノ通旅行致度候間旅行證明書下附相成度此段及願候也

康德　年　月　日

願出人署名

警察官署長　殿

滿洲國「外國旅券」規則

(院令第三十一號)

第一條　外國旅券ハ國內ニ在リテハ外務局長官國外ニ在リテハ本邦大公使總領事又ハ領事之ヲ發給ス

第二條　旅券ノ下附ヲ申請セントスル者ハ左記書類ヲ國內ニ在リテハ居住地省長(首都警察廳管轄區域ニ在リテハ警察總監)國外ニ在リテハ前條所定ノ在外公館長宛提出スベシ

一、旅券下附願(別紙第一號書式)

二、身許申告書(別紙第二號書式)

三、外國在留者ヨリノ呼寄ニ關スル書信ヲ有スル者ハ該書信

四、其他參考トナルベキ書類アルトキハ該書類

五、寫眞三葉(最近六月以內撮影ノ手札形、無帽半身、無臺紙)

當該官署長ハ其ノ認定ニ依リ前項第二號書類ノ提出ヲ省略セシムルコトヲ得

第三條　公用ノ爲外國ニ旅行セントスル者及其ノ同伴セントスル家族又ハ從者ニ關シテハ本人ノ所屬長官ヨリ各寫眞二葉且從者ニ付テハ本人ノ身分保證書(別紙第三號書式)ヲ添附シテ外務局長官ニ公用旅券ノ下附ヲ請求スベシ(別紙第四號書式)

第四條　旅券ノ下附ヲ受ケタル後該旅券面記載ノ事項ニ變更ヲ生ジタルトキ其ノ他旅券ノ書替ヲ必要トスルトキハ事由ヲ具シ第二條所定ノ官署長ニ其ノ書替ヲ申請スベシ

公用ノ爲外國ニ在ル者其ノ家族又ハ從者ヲ呼寄セントスルトキハ前項ニ準ズ(別紙第五號書式)

第五條　旅券ノ下附ヲ受ケタル者旅券發給ノ日附ヨリ六月以內ニ出發セザルトキハ該旅券ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條　旅券ノ下附ヲ受ケタル者歸國シタルトキハ該旅券ハ其ノ效力ヲ失フ

第七條　用務ノ爲本邦ト特定ノ地トノ間ヲ數次往復スル必要アリト認ムル者ニ對シテハ願出ニ依リ數次往復旅券ヲ下附スルコトヲ得

前項ニ於ケル特定ノ地トハ當分ノ間ソ聯邦極東領域各地ニ限ルモノトス

本旅券ハ發給ノ日附ヨリ三年ヲ經過シタル後始メテ歸國シタルトキ其ノ效力ヲ失フ

第八條　無效又ハ失效ノ旅券ハ遲滯ナク旅券發給ノ權限アル官署長ニ返納スベシ有效ナル旅券ト雖モ旅券發給ノ權限アル官署長ヨリノ命令アルトキ亦同ジ

第九條　旅券ヲ紛失シ又ハ滅失シタルトキハ直ニ其ノ旨旅券發給ノ權限アル官署長ニ屆出ヅベシ紛失シタル旅券ヲ發見シタルトキ亦同ジ

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ徒刑又ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ旅券ヲ沒收ス

一、事實ニ相違スル記載又ハ申立ヲ爲シ其ノ他詐欺ノ行爲ヲ以テ旅券ノ下附ヲ受ケタル者及之ヲ幇助シタル者

二、他人名義ノ旅券ヲ使用シ又ハ之ヲ使用セシメ其他不正ノ目的ヲ以テ旅券ヲ授受シタル者及之ヲ幇助シタル者

三、本令ニ依リ旅券ヲ返納スベキトキニ之ヲ返納セズシテ使用シ又ハ事實ヲ僞リテ旅券ヲ紛失シ若ハ滅失シタル旨ヲ屆出デタル者

第十一條　旅券發給及書替ニ關シテハ左ノ手數料ヲ徵收ス

一、普通旅券　一葉每ニ　國幣五圓

一、數次往復旅券　同　國幣十圓

一、旅券書替　同　國幣三圓

前項諸手數料ハ外務局長官又ハ在外公館長ニ於テ必要ト認メタルトキハ之ヲ免除スルコトヲ得

第十二條　前條ノ手數料ハ收入印紙ヲ以テ納入スベシ在外公館ニ於テハ別ニ定ムル換算率ニ從ヒ當該駐在國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

第十三條　本令ハ本邦內ニ生活ノ本據ヲ有スル無國籍人ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ康德五年一月一日之ヲ施行ス

大同二年外交部令第一號外國旅券及外國人入國旅券查證規則竝ニ同部令第二號外國旅券及外國人入國旅券查證施行細則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

別紙第一號書式

外國旅券下附願

一　氏　　名
一　出 生 地（詳細記載スルコト）
一　所 在 地（同上）
一　身　　分（戶主ト家族トノ別、本人家族ナルトキハ戶主ノ氏名職業及戶主トノ續柄）
一　年　　齡（何年何月何日生）
一　職　　業（何種營業、關係事業、役名等詳細記載スルコト）
一　旅行目的地及經由地名（例ヘバ莫斯科經由佛國、新嘉坡經由獨逸等ト記載スルガ如シ）
一　旅 行 目 的（例ヘバ視察、留學、商用等ト記載スルガ如シ）
一　身　　量
一　特　　徵（外部ヨリ見ルコトヲ得ル身體ノ特徵一箇所、特徵ナキ者ハ「ナシ」ト記載スルコト）
一　出 境 地 點（例ヘバ綏芬河、山海關等ト記載スルガ如シ）
一　出發豫定期日（何年何月何日）
一　歸國豫定期日（何年何月）

右ニ依リ外國旅券御下附相成度別紙何々書（第二條第一項第一號乃至第四號ニ該當スル書類）及寫眞三葉相添ヘ此段相願候也

年　月　日

住所

氏　　名㊞

省長（警察總監）宛

備　考

一　本邦大公使、總領事ニ提出スル旅券下附願ノ樣式ハ右ニ準ズルコト

二　夫ガ妻ヲ又ハ親ガ子ヲ同伴スル場合ハ其ノ氏名、年齡、身量及特徵ヲ夫々各人別ニ記載ノ上同一願書ニ依リ出願スルコトヲ得但シ右ノ場合ニ於テ妻ヲ夫ノ旅券ニ又ハ子ヲ親ノ旅券ニ併記方（數次往復旅券ノ場合ヲ除ク）希望ノ者ハ「某ヲ某ノ旅券ニ併記」ト氏名ノ項ノ下方ニ記載シ且全員合同撮影ノ寫眞三葉ヲ添附スルコト

別紙第二號書式

身許申告書

住所

氏　　名

年　月　日生

一　學　業

一　何年何月何日何學校卒業又ハ何年何月ヨリ何年何月迄何所ニ於テ何何修業若クハ研究等

一　職　業

一　何年何月何會社事務員トシテ何所詰又ハ何年何月以來何業ニ從事等

一　旅　行

一　何年何月何日何官署ヨリ旅券ノ下附ヲ受ケ何何ノ爲何國ニ旅行何年何月ニ歸國等

一　賞　罰

賞罰表彰等ノ事實

一　資　產

一　自己所有分

（イ）地所家屋價格　圓
（ロ）商品價格　圓
（ハ）貸金　圓預金　圓債券　圓現金　圓
（ニ）其他動產價格　圓

合　計　圓

一　戶主所有分（本人ガ戶主ナル場合ハ不要）（記載方前ト同ジ）

右ノ通相違無之候也

年　月　日

右　何　某㊞

省長（警察總監）宛

備　考　本邦大公使、總領事又ハ領事ニ提出スル身許申告書ノ樣式ハ右ニ準ズルコト

別紙第三號樣式

身許保證書

住所

氏　　名

年　月　日生

右者拙者ノ使用スル從者ニシテ今般何國ヘ同伴又呼寄スル者ニ相違無之同人ノ身上ニ關シテハ一切當方ニ於テ責任ヲ以テ引受可致保證候也

年　月　日

官　職

氏　　名㊞

外務局長官宛

別紙第四號樣式

年　月　日

何部大臣（本人所屬長官）氏　名㊞

外務局長官宛

公用旅券請求ノ件

住所　官　職　氏　名　年　月　日生
住所　同伴スル妻　氏　名　年　月　日生
住所　同伴スル子　氏　名　年　月　日生
住所　同伴スル從者　氏　名　年　月　日生

右者官命ニ依リ左記ノ通外國ニ出張可致候ニ付公用旅券發給相成度寫眞二葉及身許保證書相添ヘ此段及請求候也

記

一、旅行目的
一　旅行目的地及經由地名
一　身量（各人別ニ記載スルコト）
一　特徵（各人別ニ外部ヨリ見ルコトヲ得ル特徵一箇所、特徵ナキ者ハ「ナシ」ト記載スルコト）
一　性別（各人別ニ記載スルコト）

備　考

一、官職名ノ英佛譯文一定セルモノハ該譯文ヲ官職名ノ傍ニ附記スルコト

二、一葉ノ旅券ニ數名ノ併記方申請セントスルトキハ其ノ旨ヲ追書トシ置クコト

三、身許保證書ハ從者ヲ同伴セントスルトキニノミ添附スルコト

別紙第五號書式

年　月　日

何部大臣（本人所屬長官）氏　名㊞

外務局長官宛

公用旅券請求ノ件

住所　何官職何某ノ妻　氏　名　年　月　日生
住所　何官職何某ノ子　氏　名　年　月　日生
住所　何官職何某ノ從者　氏　名　年　月　日生

右者公用ノ爲何國ニ滯在スル何官職何某ノ呼寄ニ依リ左記ノ通外國ニ旅行可致候ニ付公用旅券發給相成度寫眞二葉（及身許保證書）相添ヘ此段及請求候也

記

一、旅行目的地及經由地名
一　身量（各人別ニ記載スルコト）
一　特徵（各人別ニ外部ヨリ見ルコトヲ得ル特徵一箇所、特徵ナキ者ハ「ナシ」ト記載スルコト）

備　考

一、官職名ノ英佛譯文一定セルモノハ該譯文ヲ官職名ノ傍ニ附記スルコト

二、子ヲ母ノ旅券ニ併記方希望スルトキハ其ノ旨ヲ追書シ置クコト

三、身許保證書ハ從者ガ呼寄セラルルトキニ限リ添附スルコト

滿洲國「外國人旅券查證」規則

（康德五年九月二十日院令第二十六號）

第一條　本邦ニ入國セントスル外國人ハ條約又ハ慣行ニ依リ旅券查證ヲ必要トセザル者ヲ除キ豫メ旅券

(又ハ國籍證明書)ニ本邦駐外官署又ハ駐大連外務局辦事處ノ入國査證ヲ受クルコトヲ要ス但シ已ヲ得ザル事由ニ因リ右官署ノ査證ヲ受クルコト能ハザル者ハ別ニ指定スル地點ノ一ニ於テ外務局ノ入國査證ヲ受クルコトヲ得

第二條　本邦人ニ對シ出國査證ヲ要求スル國ノ國民ニシテ本邦ヨリ出國セントスル者ハ豫メ別ニ指定スル地點ノ一ニ於テ外務局ノ出國査證ヲ受クルコトヲ要ス但シ第四條ノ定期査證ヲ以テ本邦ヲ常時出入國スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　本邦ヲ通過セントスル外國人ハ入國及出國ノ査證ニ代ヘ通過査證ヲ受クルコトヲ得

第四條　本邦ヲ常時出入國セントスル外國人ハ定期査證ヲ受クルコトヲ得

第五條　本令ニ依リ査證ヲ受ケントスル者ハ所定ノ手數料ヲ納付スベシ

第六條　本令ニ於テ駐外官署トハ大使館、公使館、總領事館、領事館、通商代表部、代表部、通商代表部辦事處及代表部辦事處ヲ謂フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

康德四年院令第三十二號外國人入國旅券査證規則ハ之ヲ廢止ス

滿洲國及關東州内定住外國人に對する旅券査證辦法

(國務院訓令第一號)

一、本邦内ニ生活ノ本據ヲ有シ且所轄警察官署發給ノ現ニ有效ナル居留證明書ヲ有スル者ニ對スル査證ハ無料トス

一、關東州内ニ生活ノ本據ヲ有シ且所轄警察官署發給ノ現ニ有效ナル居留證明書ヲ有スル者ニ對スル査證料ハ入國及通過共國幣二圓トス

一、關東州内ニ生活ノ本據ヲ有スル者ニ對スル多次有效入國査證竝ニ有效期限ハ下記ノ通之ヲ定ム

多次有效入國査證　料金毎件國幣十圓査證ノ日附ヨリ六月間有效

北支經由外人旅客の滿洲國入國査證に就て

日本國人及中華民國人以外の外國人にして滿洲國に入國するときは、必ず旅券査證を受くべきものにして無査證の儘山海關に至り入滿を拒否せられたる事例多きにつき注意を要する。北支に於ける旅券査證機關は左の通りである。

一、滿洲帝國通商代表部　北京南海公園

二、滿洲帝國通商代表部天津辦事處　天津宮島街三四

三、滿洲帝國通商代表部濟南辦事處　濟南商埠地二路六六

蒙疆地域外人居住旅行規定

第一條　本規定ノ外人トハ日本、滿洲及新支那ニ國籍ヲ有スルモノ以外ヲ謂フ

第二條　本規定ハ蒙疆地方ノ特殊事情ニ基キ日本人ノ利益ヲ害セザル如ク外人ノ居住及旅行ニ關シ其生命財産ヲ保護スルヲ主張トシテ規定ス

第三條　蒙疆地域ニ於テ外人ノ居住及旅行(入蒙ヲ除ク)ニ對スル業務ハ左記機關ニ於テ之ヲ司ル

一、居住ニ關シテハ張家口、大同及厚和ニ在ル各自治政府(現政廳)トス

二、旅行ニ關シテハ張家口、大同、厚和及包頭ニアル各特務機關トス

前項以外ノ地ニ在リテハ其他若クハ最寄日本軍隊トス

第四條　外人居住ノ手續ニ關シテハ各政府ノ定ムルトコロニ依ル

第五條　外人ニシテ蒙疆地域内ヨリ京津地方ヘ旅行セントスルモノハ第三條第二項ニ掲グル機關ノ發行スル旅行證明書ヲ所持スルヲ要ス前項旅行證明書ノ發給ヲ受ケントスルモノハ居留證明書(パスポート)及本人ノ寫眞ヲ添ヘ、旅行ノ目的、行先、經路、期間等ヲ述ベテ願出ルモノトス

旅行途中既ニ發給セラレタル旅行證明書ノ期間、行先、經路等ヲ變更スルノ已ムナキニ至リタル時ノ手續ハ前項ニ準ズ

第六條　外人ニシテ旅行中其地ニ於テ憲兵、警官ハ勿論日本軍將校ヨリ居留證明書及旅行證明書ノ提示ヲ求メラレタル時ハ之ニ應ズルヲ要ス

第七條　凡テ證明書ハ其有效期間滿了後速ニ發行機關ニ返納スルヲ要ス

但シ止ムヲ得ザル事情ニヨリ發行機關ニ至ルコトヲ得ザルモノハ最寄日本軍機關ニ返納ヲ依託スルコトヲ得

入蒙者取締規則

昭和十三年七月一日より蒙古地帶旅行者の身邊保護の目的から次の通り入蒙者取締暫行規則を制定實施されてゐる。爾後蒙古方面旅行者は豫め在張家口兵團本部關東軍司令部又は特務機關の許可を受ける樣注意を要する。

入蒙者取締暫行規則

一、本規則ニテ入蒙者トハ「滿洲蒙古」及京包線沿線以外ノ蒙古地域ヲ旅行スルモノヲ云フ

二、日本陸軍以外ノ要務ヲ以テ察南晋北其他京包線沿線或ハ滿洲國ヨリ入蒙セントスル者ハ身邊ノ保護其他ノ必要上當分努メテ之ヲ制限スルヲ方針トシ之ニ關スル取締ハ次記各項ニ依リ實施スルモノトス

三、入蒙ヲ希望スル者ハ豫メ在張家口兵團本部若クハ關東軍司令部ノ許可ヲ得ルヲ要ス

然シ已ムヲ得ザル事情アル者ニ對シテハ次記諸官署ニ於テ身元、入蒙ノ目的(但シ一切營利ヲ目的トセザル公用又ハ學術上ノ研究、調査等ニ限ル)其ノ他所要事項ヲ調査シ、差支ヘナシト認メ本人ガ入蒙後ノ心得實行ヲ承認シタル場合ニ於テ入蒙ヲ許可スルコトヲ得

四、入蒙希望者ハ身邊ノ保護其他ノ必要上次記諸件ノ實行ヲ承諾スルヲ要ス

(イ)入蒙者ハ直チニ現地最寄ノ特務機關若クハ警務機關ニ屆出デ、其ノ指示ニ從フヲ要ス

(ロ)入蒙者ハ蒙古人ニ損害ヲ與ヘ又ハ誤解、惡感ヲ招クガ如キ一切ノ行動ヲ禁ズルヲ要ス

(ハ)入蒙者ニ當分ノ間蒙古内ニ於テ營利ヲ目的トスル事業ノ經營ヲ許サザルモノトス

(ニ)入蒙者ハ其ノ用務ヲ終ヘタル後ハ速カニ蒙古ヨリ立退キ入蒙許可ヲ受ケタル機關ニ對シ必要ナル報告ヲナスモノトス

支那方面旅行竝移住者旅行手續

滿洲國及關東州竝に日本より支那方面に旅行移住せんとする日本人は、行先地帝國總領事館警察署の「渡支事由證明書」の下附を受け、右を添へて所轄警察署長發行に係る「身分證明書」を所持するを絕對必要とし、之等手續を履行せざれば國境に於て日本官憲より入國を拒否せられることになつてゐるから注意を要する。

北支在留邦人にても隴海線旅行の際は在留地所在領事館警察署發行の旅行證明書の携行を要す(海路連雲港着及鐵路による徐州、開封着の場合を含む)

尙軍關係者は所轄憲兵隊長發給の「身分證明書」所持によりて入國を許可せらるることとなつてゐる。

(1)關係當局取扱要領

(一)管内居住ノ内鮮人中次ニ掲グル以外ノモノニシテ北支ニ旅行、移住セントスルモノニ對シテハ別紙樣式ノ身分證明願ヲ提出セシメ、所要ノ證査ヲナシタル上身分證明書ヲ發給ス。

左ノ者ノ旅行、移住ニ對シテハ身分證明書ヲ要セズ。

制服着用ノ日本軍人、軍屬、關東局、大使館、警察官竝日系滿洲國軍官及警察官

(二)大連水上、營口、安東警察署ニ於テハ前項身分證明書ノ提示ヲ求メ、之ヲ所持セザル者ニ對シテハ上陸不可能ナルベキ旨ヲ說示シテ乘船ヲ阻止ス。

(三)内地、朝鮮ニ對シテモ關東軍ヨリ聯絡セル趣ニテ管外居住ノ内鮮人ニ對シテハ原則トシテ關係各廳所轄署ニ於テ證明書發給ノ筈ナルモ、若シ願出アリタル場合ハ昭和十二年二月十三日附關機高第一〇九二號「一時滯在者ニ對スル特殊地帶旅行移住證明書發給方ニ關スル件」ノ要領ニ準ジ便宜扱ヲナスコト

(2)證明標準

(一)現ニ戶口調査簿ニ登錄セラレ身元確實ナル者

(二)業務上又ハ家庭上其他眞ニ必要ト認ムル者

(三)禁制品取扱ノ虞ナキ者

(四)國防又ハ治安ノ害無シト認メタル者

(3)證明手數料

徵收セズ

(4)報告

毎月ノ證明書發給竝拒否ヲ日、鮮別ニ計上シ職業、目的、徑路、行先地ノ概略其他特記事項等翌月五日迄ニ報告ノコト

(5)願出樣式

(第一號樣式)

北支旅行身分證明書

一　本籍

二　現住所

三　職業、氏名、年齡

四・旅行ノ目的又ハ理由

五　旅行期間　昭和　年　月　日自
年　月　日至

六　旅行徑路及行先地

右ニ依リ旅行致度此段及願出候也

年　月　日

右　氏　名㊞

所轄警察署長殿

(第二號樣式)

北支移住身分證明願

一　本籍

二　現住所

三　職業、氏名、年齡

四　移住目的

五　移住地

六　家族其他同伴者氏名、年齡、職業及本人トノ關係

右ニ依リ移住致度此段及願出候也

年　月　日

右　氏　名㊞

所轄警察署長殿

支那行定期旅行者身分證明書

（關東州）

從來の北支（或は青島、上海方面）旅行身分證明書は一回限り有效で再度使用を禁ぜられてゐたが、再三渡航するものの便を計つて所轄警察署に於て定期旅行身分證明書を發給されてゐる。證明願様式は次の通り

> 手札型上半身寫眞
>
> 北支／上海方面 定期旅行者身分證明願
>
> 一 本籍
> 二 現住所
> 三 職業、氏名、年齡
> 四 旅行ノ目的又ハ理由
> 五 有效期間昭和十六年 自 月 日 至 月 日
> 六 旅行徑路及行先地（旅行地域）
>
> 右ニ依リ旅行致度保證人連署此段及願出候也
>
> 右願出人 氏 名㊞
>
> 保證人 本籍 現住所 職業 氏 名㊞

上海發旅客の所要證明書類竝携帶通貨の取扱に就て

一、旅行證明書

（Ⅰ） 上海↓大連

（A） 日本人

イ、赴連ノ場合ハ不要

ロ、再歸還者ハ總領事發給ノ身分證明書、旅行證明書又ハ居留證明書ノ内一通必要

ハ、大連經由天津方面旅行者ハ身分證明書、旅行證明書又ハ軍特務機關發行旅行證明書等ノ内一通必要

ニ、鮮、台人ハ原籍地官憲ノ旅行證明書又ハ（ロ）ニ記載證明書ノ内一通ニ上海領事館第二課ノ證明ヲ要ス

（B） 滿洲國人

イ、總領事館、陸軍特務機關、滿洲官憲發給ノ居住又ハ旅行證明書ヲ要ス

ロ、勞働者ニ屬スル者ハ大連直航不能（青島上陸、滿洲勞工協會ノ身分證明書受給ノ上赴連ノコト）

ハ、入滿者ハ前記證明書ニ上海駐在、在滿洲國通商代表部ノ査證ヲ必要トスル（無料ニテ發給）

（C） 支那人

イ、上海特務機關本部、奧地特務機關（南京、杭州、漢口、九江、安慶、南通、蘇州、蚌埠）上海總領事、關東州内警察署長ノ居住又ハ旅行證明書ノ内一通必要

ロ、（B）ノ（ロ）適用

ハ、大連經由入滿者ハ更ニ右ニ對スル上海駐在滿洲國通商代表部ノ査證入要（有料、保證人ヲ要ス）

（D） 外國人

イ、パスポートニ關東州入國査證受有ヲ要ス イタリー及オランダ人ハ不要

露人ハ離滬月日登錄ノコト

無國籍人ハ上海特別市警察局護照ニ入國又ハ通過査證必要

ロ、入滿者ハ關東州滯在七日以内ノ場合ハ通過査證ヲ七日以上ニ亘ル場合ハ入國査證受有ノコト

ハ、大連經由天津方面旅行者ハ通過査證ニ更ニ總領事竝海軍武官府認證ノ「北支上陸許可證」入要

香港總領事旅行證明書ハ武官府ノ認證不要トス

（Ⅱ） 上海↓青島

（A） 日本人

イ、赴青ノミノ場合ハ不要

ロ、再歸還者ハ總領事身分證明書、同旅行證明書ノ内一通必要

ハ、奧地旅行者ハ陸軍特務機關旅行證明書、總領事發給ノ證明書ノ内一通必要

ニ、鮮、台人ハ原籍地官憲旅行證明書、又ハ（Ⅰ）ロ項記載ノ内一通ニ上海領事館第二課ノ認證ヲ要ス

（B） 滿人及支那人

イ、海軍武官府竝總領事認證ノ北支上陸許可證又ハ青島往復旅行證明書必要

ロ、青島ヨリ奧地旅行者ハ更ニ青島特務機關ニ許可申請ヲ要ス

（C） 外國人

イ、海軍武官府竝總領事認證ノ北支上陸許可證又ハ青島往復旅行證明書必要

ロ、青島ヨリ奧地旅行者ハ更ニ青島特務機關ニ許可申請ノコト

ハ、猶太系外人ノ赴青ハ制限傾向ニアルモ具體的方針未定、許可證受有者ニノミ切符發賣

（Ⅲ） 上海↓南支

（A） 日本人

イ、海軍武官府竝總領事認證ノ南支旅行證明書必要

ロ、香港行ハ英國領事ノ入國査證入要（電信承認ニ非ザレバ月餘ヲ要ス

（B） 滿人、支那人、外國人

イ、海軍武官府竝總領事認證ノ南支旅行證明書必要

（Ⅳ） 上海↓中支奧地

（A） 日本人

イ、上海在留者ハ領事館警察ノ在留證明書、其ノ他ノ身分證明書必要

ロ、鮮、台人ハ在留證明書又ハ身分證明書ニ領事館第二課ノ乘船證明ヲ要ス

（B） 滿人、外人

イ、上海特務機關ノ認證必要

（C） 支那人

イ、上海特別市政府發行ノ市民證又ハ縣政府發行ノ縣民證必要

ロ、乘船ノ場合ハ之ニ更ニ軍特務機關ノ證明必要

（Ⅴ） 上海↓日本

（A） 日本人

イ、赴日ノミノ場合ハ不要

ロ、再歸還者ハ總領事身分證明書又ハ旅行證明書必要

（B） 滿洲國人

滿洲國官憲旅行證明書必要

（C） 支那人

南京政府渡日證明書ニ總領事ノ認證ヲ要ス

（D） 外國人

滯日十五日以内ハ通過査證ヲ、十五日以上ハ入國査證受有ノコト、通過ハ一回、入國ハ一ケ年有效トス

二、防疫關係證明書

（Ⅰ） 上海↓各地

イ、コレラ（有效期間三ケ月）

ロ、種痘（〃 ）

（Ⅱ） 上海↓漢口

イ、コレラ（有效期間一ケ月）漢口以外ノ長江沿岸向ハ二ケ月有效

ロ、種痘（二ケ月）

時期ニヨリコレラ檢便施行ノコトアリ

三、携帶通貨

（Ⅰ） 上海↓大連　二〇〇圓迄

（Ⅱ） 上海↓青島　二〇〇圓迄

（Ⅲ） 上海↓日本　二〇〇圓迄

（Ⅲ） 中支間　三〇〇圓

〇軍票ハ當地邦人銀行ニ於テ乘船券提出ノ上日銀券ト交換

携帶金額高別手荷物携帶別等出入ニ際シ二週間ヲ要ス

香港向旅行者の旅券及査證に就て

一、旅券

廣東在留ノ者ニ對シテハ渡船ノ目的判然セルモノデアル限リ許可サレル。

卽チ在廣東帝國總領事宛旅券下附願及保證書ニ最近撮影ニ係ル脫帽寫眞二葉ヲ添附、手數料金九圓（收入印紙）ト共ニ提出スレバ二日間ニテ下附サレル。

廣東在留者以外ハ實際關係者ナラザル限リ絕對ニ下附サレナイ。

二、査證

香港ハ一昨年九月對獨宣戰布告以後査證ヲ要スルコトトナリ之ガ取扱ハ「沙面」英國領事館ニテ爲サレル。

査證料ハ毎月爲替相場ヲ考慮シ變更ヲ見ル爲一定セズ。

通過査證　香港弗　一・六〇弗

普通査證　香港弗　一・五一〇弗

査證料ガ香港幣デアル爲、香港幣ノ入手出來ザル者ハ現在ノ市中闇相場金軍票ニ五八二六五圓香港幣一〇〇弗ノ法外ナ相場デ兩換セザルヲ得ナイ狀態ニアル。

査證交付ニ就テハ嚴重ヲ極メ香港當局ヲ通ジ行先ニ照會スル費用（電報料）等ハ總テ申請者ノ負擔トナル。

海南島渡航注意

一、諸官省官吏を除く普通渡航客に限り海軍省軍務局第二課又は臺灣總督府海軍武官室よりの渡航證明書交附が必要なり。

二、海南島上陸は次に依るべき旨同島關係當局より指示及告示があつた。

（イ） 碇泊場司令指示

一、日本人船客ノ上陸ハ在泊中ノ陸上視察ニ限リ情況ニ依リ許可スル事アリ

一、上陸スル者ハ所要各種豫防注射ヲナシ居ル事ヲ要ス

一、陸上ノ買物ハ軍票ニ限ルモノトス

一、其他軍側ノ取締ヲ嚴守スルモノトス

（ロ） 海口領事館告示

本島ニ於テ左記ノ事項ヲ禁ズ、之ニ違反シタル者ハ相當處分ス但シ軍部及當館ノ許可又ハ諒解アル者ハ此ノ限リニ非ズ

一、軍人軍屬ニ紛ハシキ服裝

一、戰鬪帽ヲ使用スル事

一、銃器及刀劍ヲ携帶スル事

（ハ） 尙所要各種豫防注射とは次の通りである

一、種痘證明書

一、コレラ豫防注射完了證明書
一、ペスト豫防注射完了證明書

北支行旅客に對する通貨交換に就て

一、交換場所

北支旅行客ニ對シテハ山海關、古北口驛ホーム竝塘沽碼頭及青島經由ニ在リテハ船内

北支發旅客ニ對シテ北京驛待合所、山海關、古北口驛ホーム及塘沽碼頭竝北支所在正金銀行、朝鮮銀行、蒙疆銀行、天津銀行、濟南銀行、及滿洲中央銀行ノ各本支店

二、交換方法

旅客ハ前號ノ交換場所ニ於テ所持金額交換ノ際乘車券ヲ呈示シ其ノ裏面ニ交換濟ノ證明印(兌)ノ押捺ヲ受クルコト

尙日本(朝鮮ヲ含ム)發旅客ハ入滿ノ際國境驛港所在稅關ニ於テ乘車券裏面ニ關東州又ハ滿洲國通過ノ證明印(通)ノ押捺ヲ受クルコト

三、交換額

イ　北支著ノモノ

關東州又ハ滿洲國發ノモノ

乘車券(大人、小兒共)一枚一回ニ限リ十圓迄但滿洲國經濟部又ハ關東州廳ノ許可證所持ノモノハ五十圓程度可能

同　二百圓迄

日本(朝鮮ヲ含ム)發ノモノ

註　日本發旅客ハ本號交換額ノ外別ニ三百圓迄ハ到著地向爲替送金ヲ爲スコトヲ得日本政府發給ノ輸出許可證アルモノニ付テモ右ニ準ズ

ロ　北支發ノモノ

乘車券(大人、小兒共)一枚一回ニ限リ　二百圓迄

但シ團體及貸切乘車券所持旅客ニ對シテハ券面記載總人員ニ對スル前記金額ノ合算額

四、鐵道無賃乘車證所持者ニ對スル取扱

乘車證ヲ呈示セシメ前號所定金額ノ交換ヲ爲ス但シ國境驛港所在交換所以外ノ場所ニ於テハ之ガ取扱ヲ爲サズ

五、制限携帶金額ヲ超ユル場合

イ　北支著ノモノ

北京及天津行ノ旅客ハ該地ヨリ出發地宛返送ノ爲替ヲ組ムニ必要ナル依賴狀ヲ受取ルコト北京及天津以外ノ各地行旅客ハ出發地宛爲替送金ニ依リ返送スルコト

ロ　北支發ノモノ

聯銀券所持旅客出發地宛爲替送金ニ依リ返送スルコト滿洲國國幣、日本銀行券、朝鮮銀行券及臺灣銀行券所持旅客ニ對シテハ之ヲ最寄滿洲中央銀行又ハ朝鮮銀行ニ保護預リセシム

外國爲替管理法改正規定

(日本)

一、大藏省では上海方面に於ける圓貨對策として又本邦外貨資金の節約乃至確保をはかる目的を以て外國爲替管理に關する大藏省令を改正し昭和十四年七月一日より實施した。(昭和十六年四月廿日改正)右のうち外國旅行者旅費携帶限度に關する事項は左の通りである。

記

一、法令施行期日　四月二十日

二、大藏大臣の許可なくして本邦通貨又は送金爲替若は信用狀(含旅行小切手)を携帶し得る金額

(イ)　關東州又は滿洲國向—五〇〇圓以下(規則第二十五條)

(ロ)　中華民國向—五〇〇圓以下但し携帶し得る本邦通貨は二〇〇圓以下(規則第二十六條)

(ハ)　第三國向—二〇〇圓以下(規則第二十七條)

(ハ)項の場合右範圍内にて外國通貨の買入を必要とする者は其買入を爲すに大藏大臣の許可を要せず

三、前號の金額は(イ)(ロ)(ハ)各項の異れる三地域に亙り旅行する場合は最終旅行地域に對する許可額を適用するものにして各地域別の合算額とはならず

四、官廳より支給を受けたる旅費其他の給與を携帶又は送付する爲信用狀(旅行信用狀、旅行小切手等を含む)を取得するに付大藏大臣の許可を要せず官廳より支給を受けたる者は各省により多少の相違はあるも、大體各省支出官の證明書を所持するに付認定の資料とすること尙本證明書は近く統一さるる豫定なり。(規則第二十八條)

五、外國に旅行せんとする者本邦通貨、外國通貨、送金爲替又は信用狀を外國に携帶するときは大藏大臣に所定の報告を爲すを要す(規則第二十九條)

本報告は乘船の際稅關に二通を提出するものにして各汽船會社に於て共用紙を備付け且今般の改正に依り五十錢紙幣も報告を要することとなり只補助鑄貨のみは報告を要せず

六、關東州、滿洲國又は中華民國より本邦への旅行者が許可なくして携帶輸入し得る本邦通貨の金額は二〇〇圓以下(規則第三十條)

第三國よりの本邦通貨携帶輸入は總て許可を要する

七、前各號に依り許可なくして携帶輸出又は輸入し得る本邦通貨中には券面金額百圓以上の銀行券を含むことを得ず(規則第三十一條)

八、左に四月十二日附大藏省令第十號に依る外國爲替

管理法施行規則第三章「旅費ニ關スル規定」を拔萃す

大藏省令第十號外國爲替管理法施行規則

第三章　旅費ニ關スル規定

第二十五條　關東州又ハ滿洲國ニ旅行セントスル者ハ第十一條、第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ拘ラズ其ノ旅費ニ充ツル爲金額通ジテ五百圓以下ノ本邦通貨又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル送金爲替若ハ信用狀ヲ携帶又ハ取得スルニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

第二十六條　中華民國ニ旅行セントスル者ハ第十一條、第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ拘ラズ其ノ旅費ニ充ツル爲金額通ジテ五百圓以下ノ本邦通貨又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル送金爲替若ハ信用狀ヲ携帶又ハ取得スルニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ但シ許可ヲ受クルコトヲ要セズシテ携帶シ得ル本邦通貨ハ二百圓以下トス

第二十七條　第三國ニ旅行セントスル者ハ第十七條ノ規定ニ拘ラズ其ノ旅費ニ充ツル爲二百圓相當額以下ノ本邦通貨又ハ外國通貨ヲ携帶スルニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ要セズシテ外國ニ携帶シ得ル外國通貨ノ買入ヲ必要トスル者ハ第十五條ノ規定ニ拘ラズ其ノ買入ヲ爲スニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

第二十八條　官廳ヨリ支給ヲ受ケタル旅費其ノ他ノ給與ヲ携帶又ハ送付スル爲必要ナル場合ニハ第十四條ノ規定ニ拘ラズ信用狀ヲ取得スルニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

第二十九條　外國ニ旅行セントスル者、本邦通貨、外國通貨、送金爲替又ハ信用狀ヲ外國ニ携帶スルトキハ本令附屬報告書式第十八號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第三十條　關東州、滿洲國又ハ中華民國ヨリ本令施行地內ヘノ旅行者ハ第十八條ノ現定ニ拘ラズ金額二百圓以下ノ本邦通貨ヲ携帶輸入スルニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

第三十一條　第二十五條乃至第二十七條又ハ前條ノ規定ニ依リ許可ヲ要セズシテ携帶輸出又ハ輸入シ得ル本邦通貨ニハ券面金額百圓以上ノ銀行券ヲ含マズ

旅客の携帶通貨に關する滿洲北支間の實際取扱調整打合せ事項

(八、一、十八山海關現地會議)

第一　滿洲ヨリ北支向旅客ノ携帶通貨ニ關スル件

(A)　陸路ニヨル場合

三、一般旅行者ニシテ出發前許可申請ヲナスモノニ付テハ五十圓ヲ限度トシ滿洲中央銀行ニ於テ許可スルモノトス

四、一般旅行者ニシテ出發前許可申請手續ヲナス事能ハズ通過國境稅關吏ニ許可申請ヲナス者ニ付テハ已ムヲ得ザル場合ハ十圓ヲ限度トシ國境稅關ニ於テ口頭ヲ以テ許可スルコトヲ得ルモノトス

五、滿洲國竝ニ關東廳官吏、滿鐵、滿洲電々、滿洲航空、協和會、滿洲勞工協會、關東州勞務協會ノ職員公用ノ爲旅行スル者ニシテ豫メ許可ヲ得ルコト能ハザリシト認メラレルモノニ付テハ國境稅關ニ於テ五十圓ヲ限度トシ許可シ得ルモノトス

六、北支ヨリ滿洲國ヘノ回遊切符又ハ往復切符ニヨリ明カニ往復旅客ト認メラルル場合ハ二百圓ヲ限度トシ國境稅關ニ於テ許可シ得ルモノトス

七、日本ヨリ關東州又ハ滿洲國經由ノ通過旅客ニ付テハ通シ切符又ハ旅行證明書ノ提示者ニ對シテハ二百圓ヲ限度トシ國境稅關ニ於テ許可シ得ルモノトス

八、列車乘務員ノ所持金ニ付テハ北京行ノ場合ハ專務車掌二十圓、日人乘務員十圓、滿人乘務員七圓、山海關止リノ場合ハ日人乘務員五圓、滿人乘務員三圓、茶水販賣人五圓ノ限度ニ於テ國境稅關之ヲ許可シ得ルモノトス

九、鐵道公用金、食堂車賣上金、車內賣上金及茶水賣上金ニ付テハ國境稅關ニ於テ許可スルモノトス

十、軍人、軍屬及外國元首ノ携帶金ニ付テハ口頭ヲ以テ申請ヲナシ口頭ヲ以テ許可シ得ルモノトス

十一、軍公用金

日本國及滿洲國陸海軍部隊ノ公用金ニ付テハ軍發給證明書ノ呈示ヲ求メ一括交換スル如ク措置スルモノトス

十二、以上ノ不要許可限度並ニ許可限度超過額ニ付テハ兌換所ニ於テ滿洲中央銀行奉天分行宛定額送金小切手ヲ取組マシムルモノトス

(B)　海路營口ヨリノ場合

一、許可申請手續及許可限度ニ付テハ陸路ノ場合ニ準ズルモノトス

二、不要許可限度及許可額ノ超過分ニ付テハ陸路ノ場合ニ準ジ措置スルモノトス

三、船用金及船舶乘組員ノ携帶金ニ付テハ出發地營口ニ於テ措置スルモノトス

(C)　空路ノ場合

一、許可限度ニ付テハ陸路ノ場合ニ準ズルモノトシ許可ハ滿洲中央銀行分支行又ハ錦州飛行場派

出税關吏ニ於テ爲スモノトス

二、北支當局發給ノ旅行證明書ニヨリ北支向歸還スルモノナル事ヲ確認セルモノニ付テハ二百圓ヲ限度トシ許可スルコトヲ得ルモノトス

三、日本當局發給ノ旅行證明書ニヨリ通過旅客ナルコトヲ確認セラルルモノニ付テハ二百圓ヲ限度トシ許可スルコトヲ得ルモノトス

第二 關東州ヨリ北支向旅客ノ携帶通貨ニ關スル件

（A） 陸路ノ場合（滿洲國經由）

許可申請手續及許可限度ニ付テハ滿洲ヨリ北支向旅客ノ場合ニ準ズルモノトス

（B） 海路ノ場合

一、關東州爲替管理法令ニ基ク通貨携帶不要許可限度五十圓迄ノ日本國通貨ヲ携帶セシムルモノトシ滿洲國幣ノ携帶禁止ノ措置ヲ講ズルモノトス

三、北支ヨリノ往復旅客及日本ヨリノ通過旅客ニ付テハ二百圓ヲ限度トシ現地取締機關ニ於テ許可シ得ルモノトシ此ノ場合通貨ハ日本國通貨ニ依ルモノトス

（C） 空路ノ場合

關東州ヨリ北支向旅客ノ携帶通貨ハ日本國通貨ニヨルモノトス許可限度ハ二百圓トス

第三 北支ヨリ滿洲及關東州向旅客ノ携帶通貨ニ關スル件

一、北支ヨリノ旅客ノ携帶通貨ニ付テハ關東州及滿洲國ニ於テ二百圓限度トシ現地税關ニ於テ口頭ヲ以テ許可ヲナシ得ルモノトス

第四 兌換所ニ關スル件

一、兌換ニ際シテハ不要許可限度又ハ許可書表記相談ニ付兌要スルモノトシ切符表面ニ兌換濟ヲ證スベキ印ヲ押捺スルモノトス

二、兌換ハ（乘車券、乘船券、飛行機座席券等）一枚ヲ單位トスルモノトシ之ガ取扱ハ左ノ通リトス

（イ） 半額券及割引券ヲモ一枚トシ取扱フコトトシ四半人券ハ之ヲ認メザルモノトス

（ロ） 團體乘車券（若ハ團體乘船券）又ハ貸切乘車券ニ付テハ記載人員ニ切符一枚當リ前記不要許可限度又ハ交換限度金額ヲ乘ジタル額ヲ以テ限度トス

三、携帶通貨ノ兌換ハ原則トシテ左ノ場所ニ於テ爲スモノトス

（イ） 陸路 國境ニ於ケル兌換所

（ロ） 海路 滿洲—北支間 往復共營口兌換所
關東州—北支間 往復共青島、天津龍口、芝罘、威海衞兌換所

（ハ） 空路 滿洲—北支間 滿洲國內最終飛行場兌換所（錦縣）
北支—滿洲間 北支所在各飛行場兌換所（北京、天津、青島）
關東州—北支間 往復共北支所在各飛行場兌換所（北京、天津、青島）

附記

一、實施期日ハ二月一日トシ双方ニ於テ準備ヲ進ムルモノトス

一、右打合セ事項ノ決定ニ付テハ更メテ連絡スルモノトス

營口港に於ける北支行携帶金の許可並交換手續に就て

滿洲國爲替管理法ノ强化ニ伴ヒ國外旅行者（日本、關東州間ヲ除ク）ノ携帶金ハ勞働者證ヲ所持スル者ガ六十圓未滿ノ金額ヲ携帶スル場合ヲ除キ一律ニ許可制トナリタルガ營口港經由海路北支向旅行者ニ對スル許可竝交換手續等ハ左記ノ通リデアル

一、一般旅行者ハ出發前中銀營口支行ニ於テ外國通貨買入許可證（申請書中央銀行備付）ヲ取得シ交換所ニ於テ滿洲國幣ヲ聯銀券ニ交換ス但携帶金額十圓未滿ノトキハ便宜交換所內ノ税關ニ於テ許可證（申請書税關備付）ノ發給ヲ受クルコトヲ得

二、勞務興國會ノ發行セル勞働票、入滿身分證明書及職能手帳ノ孰レカヲ所持スルモノハ出發前滿洲勞務興國會營口市出張所ヨリ普通勞働者證又ハ技術勞働者票ノ發給ヲ受ケ携帶金額六十圓未滿ノトキハ右勞働者證ヲ交換所ニ提示ノ上國幣ヲ聯銀券ニ兌換スルコト六十圓以上ノ金額ヲ携帶スル普通勞働者ハ勞務興國會發行ノ普通勞働者證ヲ提示シテ所持金額ニ就テ中銀營口支行ノ許可ヲ取得スベシ六十圓以上百二十圓以下ノ金額ヲ携帶スル技術勞働者ハ勞務興國會發行ノ技術勞働者證ヲ提示シ所持金額ニ就テ中銀營口支行ノ許可ヲ取得スベシ

三、勞務興國會ノ發行セル勞働票、入滿身分證明書及職能手帳ノ孰レカヲ所持スル勞働者ニシテ家族同伴スル者ハ勞務興國會營口市出張所ヨリ勞働者證ノ發給ヲ受ケ之ニ携帶金額ト家族數ヲ記入シテ營口税關ノ許可ヲ取得スベシ

四、交換所ハ鑑興碼頭、永源碼頭內ニ在リ

旅行必携證明書一覽（滿洲發）

行先地	防疫證明書	身分證明書
北滿（軍機保護法ニヨル特別地域）	不要	必要
釜山經由內地	種痘	滿支露人要
北鮮經由內地	同	同
北支蒙疆一帶	種痘、コレラ	必要
中支一帶	同	同
南支方面	種痘、コレラ、チブス	同
海南島	ペスト、コレラ、チブス	同
芝罘	種痘、コレラ	同
龍口	種痘	同
威海衞	種痘、コレラ	同
台灣	種痘	滿支露人要
滿洲里經由出滿	種痘	旅券

○青島港ニ於テハ上海方面ヨリノ來航者ニ對シコレラ檢便實施

○大連港ニ於テハ天津、上海（含青島）ヨリノ來航者ニ對シ「コレラ」檢便實施

支那發赴日及入滿必要證明書

團體及個人の赴日及入滿に必要な證明書は次の通りである。

人種	日本人	蒙疆人	滿洲人 支那人	外國人
必要證明書の種類	身分證明書	渡日證明書 入滿證明書	同上	渡日證明書 旅行證明書
發給箇所	日本大使館	居住地管轄政府にて査證の上日本領事館、又は大使館、通商代表部、蒙疆代表部	同上	日本大使館、滿洲國通商代表部、蒙疆通商代表部
被發給手續（所要日數） 被發給資格	被發給者に對し嫌疑なき時は用務の如何により直に發給す	同上	同上	自國大使館發行の身分證明書居住證明書を日本大使館及所管日本領事館に提示し渡日證明書を受け通商代表部にて査證す
査證箇處又は檢査箇所	赴日—天津、山海關、大連、安東 入滿—山海關、古北口	同上	同上	同上
其の他必要事項		通商代表部入滿手數料は要せず	同上	通商代表部査證手數料として入滿の場合一〇圓 通過の場合二圓を受く
上記以外の必要證明書	身分證明書、居住證明書は携帶する方無難である	同上	同上	同上

◇中支發各地行旅行證明書並ニ其ノ手續

1、青島行（海路）

イ、外　　人　自國領事館發給ノ身分證明書ニ日本領事館ノ査證ヲ受ケ、更ニ日本海軍武官府發給ノ青島上陸許可書ヲ要ス

但シ交戰國人ハヂンラレーションノ提出ヲ要ス

ロ、無國籍外人　中國所管警察署發給ノ甲種身分證明書ニ日本領事館ノ査證ヲ受ケ、更ニ日本海軍武官府發給ノ青島上陸許可書ヲ要ス

ハ、中 國 人　日本領事館ヲ通ジ日本海軍武官府ヨリ青島上陸許可書ノ發給ヲ受クルコト

但シ中國人ニ限リ大汽上海支店ニテ之ヲ代辨スル此ノ場合寫眞二葉、保證人（氏名、住所）手數料二〇錢ヲ要ス

ニ、滿洲國人　滿洲國所管警察署發給ノ身分證明書ニ在上海滿洲國通商代表部ノ査證ヲ要ス

ホ、邦　　人　所管領事館發給ノ居留民證ヲ要ス

ヘ、朝鮮籍邦人　所管領事館發給ノ身分證明書ヲ在上海領事館警察ニ提出シ出帆月日及船名、係員ノ

捺印ヲ要ス

ト、台灣籍邦人　台灣總督府發給ノパスポートヲ在上海領事館警察ニ提出シ査證ヲ要ス

以上證明書竝ニ査證ハ何レモ一回限リ有效、重用ヲ許サス

尚青島上陸後ノ奥地行證明書ハ青島軍特務部ニテ取扱フ

2、北支行（陸路）（含經由滿洲行）

イ、外　人　自國領事館發給ノ身分證明書竝ニ日本陸軍特務機關涉外部發給ノ旅行證明書ヲ要ス

ロ、無國籍外人　中國所管警察署發給ノ甲種身分證明書竝ニ日本陸軍特務機關涉外部發給ノ旅行證明書ヲ要ス

ハ、中　國　人　日本陸軍特務機關發給ノ旅行證明書ヲ要ス（本取扱ハ上海狄思威路天同路發給所ニ於テ之ヲ爲ス）

ニ、滿洲國人　滿洲國所管警察署發給ノ身分證明書ニ滿洲國通商代表部ノ査證ヲ要ス

ホ、邦　人　日本陸軍特務機關本部發給ノ北支旅行證明書ヲ要ス

但シ北支經由滿洲旅行後再歸還者ハ外ニ領事館警察發給ノ身分證明書必要ニ付特ニ注意ヲ要ス

ヘ、朝鮮籍邦人　前項ニ同ジ

ト、台灣籍邦人　台灣總督府發給ノパスポート竝ニ日本陸軍特務機關本部發給ノ北支旅行證明書ヲ要ス

以上陸路證明書ニヨリ海路旅行ハ嚴禁サル

尚空路ニ依ル外支人ハ旅行證明書ニ航空機ニ依ルト但書ヲ要ス

邦人ハ陸路ト同ジ

3、滿洲行（大連經由）

イ、外　人　パスポートニ日本領事館ノ査證ヲ要ス（關東州居住ヲ含ム）

ロ、無國籍外人　中國所管警察署發給ノ甲種身分證明書ニ日本領事館ノ査證ヲ要ス（前項ニ同ジ）

ハ、中　國　人　中國所管警察署發給ノ乙種出國證明書ニ外交部及日本領事館ノ査證ヲ要ス（前項ニ同ジ）

ニ、邦　人　所管領事館警察發給ノ身分證明書ヲ要ス

ホ、朝鮮籍邦人　所管領事館警察發給ノ身分證明書ヲ在上海領事館警察ニ提出シ出帆月日、船名係員ノ捺印ヲ要ス

ヘ、台灣籍邦人　台灣總督府發給ノパスポートヲ在上海領事館警察ニ提出シ査證ヲ要ス

各證明書發給所	所在地
在上海大日本帝國總領事館警察署	上海文路密勒路角
同パスポート係	上海黄浦路一號アスターハウス内
日本大使館海軍武官府武官室	上海北海寧路
特務機關本部	上海松井通五條ケ辻
上海特務機關涉外部	上海狄思威路其美路一號
同　中國人取扱所	上海狄思威路天同路
滿洲國通商代表部	上海閔行路西華德路角
國民政府外交部駐滬辦事處	上海北四川路黄羅路六號

北支鐵道寫眞撮影取締

告　示

爾今北支諸鐵道ニ於ケル左記寫眞撮影ヲ禁止ス、該箇所ヲ撮影セントスルモノハ日本軍司令部ノ許可ヲ受ク可シ。

記

一、鐵道ノ橋梁（全景竝部分機構）

一、鐵道工場（全景竝工場内各部分）

一、トンネル（出入口附近）

一、機　關　庫（機關庫附近鐵路配置、機關庫全景、給水給炭設備）

一、停車場構内（全景、全般配線、信號設備）

一、給　水　場（給水場附近風景、給水槽）

一、防護設備（防護框舎各種術工物建物ノ防護施設等）

一、裝甲列車及裝甲軌道車

昭和十三年五月十七日　　日本軍司令官

蒙疆地區寫眞撮影取締

蒙疆地區に於ける次の事物の撮影は禁止せられてゐる。

（イ）　裝甲列車

（ロ）　裝甲軌道車

（ハ）　南口驛青龍橋驛間の風物

（ニ）　驛を背景とせるもの

（ホ）　主要都市の全景

（ヘ）　鐵道線路を中心とした風物

（ト）　軍隊、軍事行動鐵道諸施設物

（チ）　其他各種施設物（橋梁、トンネル、機關庫、工場、防護施設）

尚特に撮影せんとする者は兵團本部の證明書を要す。

中支寫眞撮影製作取締

昭和十三年十二月二十四日付中支派遣軍司令官に於て軍人、軍屬寫眞撮影製作取締規則が制定せられたが

本規定中撮影禁止に關する事項は一般地方人にも適用せらるるものである。

一、軍ノ機密ニ關スルモノ一切

イ　機秘密兵器資材ニ指定セラレタルモノ

ロ　軍ノ陣地ニ判然タルモノ

ハ　彈藥其他軍需品ノ集積狀況

ニ　其他警備司令官（又ハ之ニ準ズル部隊長）ノ禁止セル地區

ホ　其他軍ノ機密ヲ漏洩スル虞レアルモノ

二、逆宣傳ニ利用セラルル虞アルモノ

イ　殘虐性ヲ感ゼラルル寫眞

ロ　不軍規ナル情況ヲ感ゼラルル寫眞若シクハ日本軍ノ戰意ヲ失ヒタルガ如キ感ヲ抱カシムルモノ

ハ　國際法違反ト感ゼラルルモノ（外國權益地内ニ於ケル行動等）

ニ　公共施設ヲ破壞セルモノ（病院、敎會、佛寺、學校等ノ公共施設一般）

ホ　戰死傷ノ寫眞ニシテ悲慘ナル感情ヲ惹起セシムルモノ

ヘ　支那軍ノ宣傳用傳單若クハ文章等ヲ撮影セルモノ

三、第一項（ニ）ノ規定ニ基キ南京警備司令部ヨリ發セラレタル撮影禁止區域左ノ如シ

イ、下關一帶

ロ、浦口一帶

ハ、蕪湖ニ至ル鐵道線路以東ノ城内飛行場及城外飛行場一帶

但シ光華門ノ戰跡ハ撮影スルモ差支ヘナシ

ニ、右ノ外現地ノ衞兵、歩哨等ニ於テ禁止ヲ告知スル場合

大連港に於ける寫眞機携帶取締に就て

今般關係當局ニ於テ大連港ヲ中心トスル關東州防禦營造物地帶令ニ依ル要塞地帶内寫眞撮影取締ノ徹底的强化ヲ圖ルコトトナリ、五月五日ヨリ左記ニヨリ之ガ取締方實施セラレタリ

—寫眞撮影取締强化案—

一、目　的

防諜上ノ見地ヨリ大連港ヲ中心トスル關東州防禦營造物地帶令ニ依ル要塞地帶内ニ於ケル寫眞撮影取締ノ徹底的强化ヲ圖ルニ在リ

二、要　領

所定ノ寫眞撮影禁止區域内ニ於ケル航行船舶乘船客又ハ乘組員ノ携帶寫眞機ヲ右區域内航行中一時取揚ゲ所定ノ者ヲシテ保管セシメ以テ所定ノ區域内ニ於ケル寫眞撮影禁止ヲ嚴ニ取締ラントス

三、取締實施方法

1、實施區域

2、實施スベキ船舶　大連港出入ノ客船又ハ貨客船全部トス但純貨物船ハ別途方法ニ依リ水上署ニ於テ取締ヲ爲スモノトス

3、寫眞機取締方法

（一）　出港船ノ場合

（イ）　門司航路

A　乘船客ハ乘船ニ際シ埠頭待合所内ニ設置サレタル「携帶寫眞機一時預所」ニ預クルモノトス

B　取締警察官乘船客ヨリ右寫眞機ヲ預リタル場合ハ該寫眞機ト引換ヘニ別項樣式ニ依ル「一時預證」ヲ交付シ寫眞機ハ之ヲ取纏メ「一時預證」控ト共ニ船舶出發直前迄ニ船中事務長ニ保管方引繼ヲ爲スモノトス

C　事務長ハ所定ノ區域内ニ於テ受領寫眞機ヲ嚴重保管シ船舶ガ右區域外ニ出デタル後「一時預證」ト引換ニ其ノ保管寫眞機ヲ所有主ニ還付スルモノトス

D　事務長ハ寫眞機ト引換ニ受領シタル「一時預證」及其ノ控ヲ次航來連ノ際大連水上警察署高等係ヘ提出スルモノトス

E　乘組船員ノ携帶スル寫眞機ハ豫メ其ノ所持者氏名寫眞機ノ種別、箇數ヲ大連水上警察署ニ申告シオキ船舶ノ大連港出入ニ際シテハ所定ノ區域内航行中事務長ニ保管セシムルモノトス

（ロ）　長崎航路及其他ノ内地航路竝ニ台灣、北日本朝鮮各航路門司航路ノ場合ニ同ジ　但シ一、門司航路ノ場合ニ於テ事務長ノ取扱フ事務ハ當該船舶警乘警察官之ヲ行フ

二、「携帶寫眞機一時預所」ハ警乘員室又ハ其ノ他船内適當ナル場所ニ定ムルモノトス

（二）　入港船ノ場合

（イ）　各航路共船舶ノ大連港入港ニ際シテハ該船舶ガ別ニ定ムル所定ノ區域内ニ入ルニ先立チ出港船ノ場合ニ準ジ事務長又ハ警乘警察官（大連水上署員）ハ乘船客ヨリ其ノ携帶寫眞機ヲ一時取揚ケ船舶ノ岸壁着埠迄假保管シ置クモノトス、此ノ場合本船ニ於テハ出港ノ場合ニ於ケル例ニ倣ヒ「一時預證」ヲ發行交付スルモノトス

（ロ）　事務長又ハ警乘警察官ハ船舶ノ岸壁着埠ト同時ニ出港船ノ場合ニ準ジ前項ノ保管寫眞機ヲ上陸前「一時預證」引換ニ各々其ノ所有主

ニ還付スルモノトス回收セル「一時預證」及其ノ控ハ大連水上署高等係ニ提出スルモノトス

（ハ）警乘警察官乘船シ居ラザル船舶ニ在リテハ事務長ハ船舶ノ大連港外到著ノ際臨檢警察官ニ右寫眞機ノ保管狀況ヲ詳細連絡スルト共ニ關係書類ノ引繼ヲ爲スモノトス

（No.69）

寫眞機一時預之證

寫眞機ノ種類

製作國竝會社名

右正ニ一時預リ候也

昭和　年　月　日

大連水上警察署（丸事務長）

取扱者　印

切　取　線

（No.69）

寫眞機一時預之證控

本　籍

住　所

職　業

氏　名

年　齡

寫眞機ノ種類

製作國竝會社名

出入港船舶名

昭和　年　月　日

取扱者氏名　印

◇スパイの活動狀況

祕密戰（スパイ）

- 諜報
  - 祕密の探知收集（軍機、軍用資源祕密、國家機密、總動員機密）
  - 其他情報蒐集（産業、交通、地理、國民思想の動行等國力判定資料）
  - 作戰資料又は謀略、宣傳等諸策動の資料を獲得す
- 宣傳（各種有害宣傳）帝國を不利に陷れんとす
- 謀略
  - 政治謀略
  - 經濟謀略
  - 思想謀略
  - 其他
  - 此等武力に依らざる有害行爲に依り國力を傷めんとす

◇祕密戰の手段

祕密戰

- 非合法手段
  - 諜報（例）
    - 隱密行動に依る內偵、見聞、買收
    - 祕密圖書物件の竊取又は盜寫
    - 無電傍受、電話盜聽
    - 祕密通信連絡
  - 宣傳（例）
    - 流言蜚語の揑造流布
    - 不穩文書の頒布
  - 謀略（例）
    - 顯官要人の暗殺（失脚）
    - 重要施設又は資源破壞（爆破、放火）
    - 人的資源の損傷（細菌流布）
    - 經濟界攪亂、生產配給阻害
    - 反戰反國家思想の煽動（思想惑亂）
- 合法手段
  - 諜報（例）
    - 文書諜報（公刊新聞紙出版物の利用）
    - 社交戰術
    - 取引戰術
    - 照會、見學、視察
  - 宣傳（例）
    - 自國宣傳等
    - 文化宣傳
  - 謀略（例）
    - 合法的經濟、金融界攪亂
    - 輸出禁止

═滿支旅行者寫眞撮影要覽═

	觀光個所	旅行者撮影ノ可否ト限度	市中特ニ撮影禁止サレ居ル個所	職業寫眞屋出張ノ有無	旅行記念スタンプ備付有無及料金
大連	滿洲資源館	大連市內及其近郊ハ要塞地帶ナル關係上寫眞機携帶者ニシテ撮影許可證ヲ所持セザル者ハ撮影不能許可證所持者ト雖モ撮影ニ際シテハ軍機保護法ニ抵觸セザル樣撮影スルハ勿論撮影ノ後ハ必ズ旅順要塞司令部（但港灣關係ヲ含ム撮影物ハ旅順要港部竝旅順要塞司令部）檢閲ヲ要スルニ付旅行者ノ寫眞機携帶及撮影ハ禁ジラレテ居ル、滿洲資源館、工業博物館、中央試驗所內ハ事務所ノ許可ヲ要ス		無	有
	工業博物館			同	同
	大連埠頭			同	同
	油房			同	同
	碧山莊			同	同
	滿鐵本社			同	同
	大廣場			同	同
	大連醫院			同	無
	大連神社			同	同
	忠靈塔			同	有
	中央試驗場			同	同
	露天市場			同	無
	星ケ浦			同	有
	老虎灘			同	無
旅順	白玉山	全般	全般	有	有、無料
	東鷄冠山北堡壘	要塞地帶內ニ在ル關係上寫眞機携帶者ニシテ撮影許可證ナキ者ハ撮影ヲ許サズ		同	同
	爾靈山	許可證所持者ト雖モ撮影後必ズ憲兵隊ニ檢査ヲ受ク可キニ付		同	同
	水師營	視察旅行者ノ寫眞機携帶ハ禁ジテヰル		同	同
安東	鴨綠江鐵橋	不可（橋竝上、下三〇米以內ヲ禁ズルモ是以下ノ江岸ハ差支ナシ）		無（但シ市中ヨリ直グ呼ブコトヲ得）	無
	鴨綠江合同製材第一工場	可		同	有、無料
	燐寸工場	同		無	無
	鴨綠江製紙會社	同		同	同
	鎮江山	同		無（花見時ノミアリ）	無

	安東神社	同		同	無（但シ朱印有リ五錢）
	柞蠶工場	同		同	無
	元寶山	同		同	同
奉天	奉天神社	可		無	有
	忠靈塔	同		同	同
	國立博物館	（內部不可外部自由ナルモ希望者ハ館長證明書ヲ要ス）		同	同
	同善堂	可		同	同
	北陵	同（但シ營利ヲ目的トセズ小型カメラノ場合）		旅行季節ノミアリ	同
	北大營	同	造兵所、飛行場、驛第四ホーム附近其他軍關係營造物	無	無
營口	營口神社	可		無	無
	東亞煙草	同		同	同
	營口防衛記念碑	同		同	同
	河南埠頭附近	同		同	同
	楞嚴寺	同		同	同
	西砲臺	同		同	同
鞍山	昭和製鋼所	不可（但極ク局部的ニハ可）		無	有
	鞍山神社	可		同	同
	忠魂碑	同		同	無
	東方連山遊覽道路	同		同	同
撫順	炭坑事務所	可（制限アリ）	各主要工場發電所軍關係造營物市街展望及鐵道狀況	無	無
	古城子露天堀	不可		同	同
	撫順神社	可		有	
	警ケ丘表忠塔	同		同	
	大山坑	不可		無	
	大同廣場	可	無電局飛行場（格納庫ヲ含ム）	無	無
	宮內府	不可		同	有、無料
	南嶺	可（軍關係機物ハ許可ヲ要ス）		有	同

新京	關東軍司令部	不可	其他軍關係造營物ハ絕對不可	無	有、無料
	新京神社	可		同	同
	忠靈塔	同		有	同
	寬城子	同		同	同
	國務院	同		同	無
	南關	同		同	同
四平	海豐屯	可	驛 滿洲油化工業株式會社 其他軍關係造營物	無	無
	半拉山門	同		同	同
	日露協和條約最終協定記念館	同		同	同
	滿洲緬羊組合四平羊毛加工場	同		同	同
	中央公園	同		同	同
	南公園	同		同	同
吉林	松花江園子山附近	不可	吉林驛		有、無料
	北山	可（但市街展望撮影否）		滿系早撮アリ	
	小豐滿工事場	不可			有、無料（水電局ビューロー）
通化	通化橋	特ニ禁止サレ居ル箇所無キモ東邊道開發ノ樞要地區ニ付キ撮影ニ當ツテハ最寄軍官憲ノ諒解ヲ得ルコト萬全ナリ。		無	無
	玉皇山公園			同	同
	城內			同	同
	通化神社				
滿洲里	滿洲里記念塔	軍事機密特別地域ナルニ付入境者ハ必ズ當局ヨリ寫眞機ノ封印ヲ受ケネバナラナイ、隨ツテ撮影ハ不可能ナリ、但シ當局ヨリ特別ノ許可ヲ得タルモノハ此限ニ非ズ		無	無
	日本義勇軍記念塔			同	同
	日本墓地忠魂碑			同	同
	滿洲里神社			同	同
	エノケンチヤ寺院			同	同
	セラフイマ寺院			同	同
佳木斯	新市街	可	軍關係造營物一切、驛舍建築	無	
	舊市街	同		同	
	忠靈塔	不可（憲兵隊許可ヲ得タル時ハ此限ニ非ズ）		同	
	新舊埠頭	同		同	

	其他松花江岸	不可	飛行場（官用民用共）	同	
	東宮公園	可		同	
	康楽公園	同	松花江岸鐵橋ハ絕對不可		
齊々哈爾	齊々哈爾	驛舍ニ向ツテ東方竝ニ全景不可		無	
	天齊廟	可		同	
	齊々哈爾城	同	飛行場其他軍關係建築ハ嚴禁	同	
	龍沙公園	同		滿系簡易寫眞屋アリ	
	關帝廟	同		同	
	忠靈塔	同		同	
	齊々哈爾神社	同		同	
牡丹江	牡丹江池	可		無	無
	北山	不可	愛河、沙河兵營、飛行場	同	同
	忠魂碑	同		同	同
	牡丹江神社	可		同	同
	銀座街	同		同	同
	大東路	同		同	同
	牡丹江河畔	同		同	同
	掖河	不可		同	同
	牡丹江掖河間鐵橋	同		同	同
				同	牡丹江驛ニアリ無料
哈爾濱	哈爾濱驛	可		無	
	哈爾濱神社	同		同	
	中央寺院	同		同	
	博物館	（外部撮影ハ可ナルモ內部撮影ハ館長ノ承認ヲ得ル必要アリ）		同	
	忠靈塔	可		（春秋觀光客多キ時ノミアリ）	
	志士ノ碑	同		無	
	飛行場	不可（特ニ關係當局ノ許可ヲ得レバ此限ニ非ズ）		同	
	文廟	可		同	
	極楽寺	同		同	
	露人墓地	同		同	

	傅家甸埠頭	不可		無	
	三棵樹鐵橋	同		同	
	松花江	可 但シ濱洲線鐵橋ニ向ツテノ撮影ハ不可		シーズン中ノミ出張スルコトアリ	
	ヨット倶樂部	同		無	
	觀光亭	同		同	
承德	忠靈塔	可		無	有、無料
	避暑山莊	不可（現在不可ナルモ將來特殊建築物ヲ除キ許可アル筈）	飛行場 承德驛構內其他軍關係造營物	同	同
	普寧寺	可		同	同
	須彌福壽廟	同		同	無
	佈達拉廟	同		同	有、無料
	殊像寺	同		同	無
	守遠寺	同		同	同
	普樂寺	同		同	同
	元廟	同		同	同
錦州	錦州塔	可		有	
	大廣濟寺	同	鐵道（局部的ニハ可）及軍關係造營物	同	
	地藏寺	同		無	
	古塔寺	同		同	
	舊交通大學	不可	高所ヨリ市街ノ展望寫眞ハ不可	同	
羅津			要塞地帶ナルヲ以テ附近一帶絕對不可		
唐山	特ニ列擧ス可キモノナシ	必ズ憲兵隊ノ檢閲ヲ要ス	驛及其附屬物其他軍關係造營物	無	
塘沽	北砲臺	白河ヲ除キ可但シ憲兵隊ノ檢閲ヲ要ス	白河軍關係造營及鐵道狀況	無	無
	北清事變上陸記念碑	可		同	同
	鹽田	可		同	同
	青島神社		青島神社埠頭、信號山、飛行場	有	有、心付
	青島特別市公署			無	同、無料
		軍駐在個所竝ニ海岸線一帶ハ撮影不可		同	同 同

青島	青島棧橋		青島驛（驛ハ各驛トモ禁止）ハ禁止外市内一圓撮影ニ制限ナシ	同	同（TRS案内所）
	山本產業館			同	同 同
	忠ノ海			同	同（TRS案内所）無料
	會姓岬砲臺			同	同（TRS案内所）無料
	大平公園			無	無
	第一公園			同	同
	忠魂碑			同	同
天津	天津站	不可（構外ハ可）		無	有、無料
	萬國橋	同	驛構内碼頭一帶 飛行場 其他各所軍事施設物高所ヨリノ鳥瞰撮影	同	無
	伊太利公園	可		同	同
	ハイアライ	同		同	同
	日本橋	不可（嚴禁）		同	同
	大和公園	可		有	同
	天津神社	同		同	有、無料
	南開大學	個人撮影ハ不可團體客ノ記念撮影ハ軍ノ許可ヲ得レバ可		無	無
	李公詩	可		同	同
	北寧公園	同（但シ軍事施設ヲ含ムヲ得ズ）		有	同
	大連碼頭	不可		無	同
	フランス公園	可		同	同
	共同墓地	同	白河 軍事造營物	同	同
	ヴィクトリヤ公園	同		同	同
	北清事變				
	戰鬪上陸地	可（但シ白河ヲ含ムヲ得ズ）		同	同
	北砲臺	同（但シ白河ヲ含ムヲ得ズ）		同	同
山海關	天下第一關	同		有	
	角山寺	同	驛舍、機關庫、市內外兵舍、飛行場其他軍ノ施設物	無	
	二郎廟	同		同	
	南海	同 滿洲側 不可 支那側英佛伊租界內		有（夏期ノミ）	

北京	北京站	禁	無	
	交民巷	可	同	
	各街路	同	同	
	皇城	同	同	
	中央公園	同	有	
	北海公園	同	同	無
	中南海公園	同	無	同
	景山公園	同	同	同
	各門	同	同	同
	天壇	同	同	同
	雍和宮	同	同	同
	國家陳列館	同	同	同
	古物陳列所	同	同	同
	觀象臺	外部可、內部禁	同	同
	天橋	可	同	同
	日壇	同	同	同
	北京神社	外部可、內部禁	同	同
	萬壽山	可	有	同
	玉泉山	同	無	同
	西郊飛行場	禁	同	同
	明十三陵	可	同	同
	湯山	同	同	同
	石景山製鐵所	同	同	同
	南苑飛行場	禁	同	同
	通州	共同墓地等禁	同	同
	蘆溝橋	可	同	同
	清華大學	禁	同	同
	八達嶺	同	同	同
	居庸關	同	同	同
	五塔山	可	同	同

	大廟	同	軍關係造營物禁止	同	同
	孔子廟	同		同	同
	三見子花園	同		同	同
	月壇	同		同	同
	一文字山	同		同	同
濟南	濟南站	不可	鐵道狀況、軍關係、造營物絶對不可	無	有、無料
	日本總領事館	可		同	無
	同仁會病院	同		同	同
	忠魂碑	同		同	同
	趵突泉	同		同	同
	舊省政府	同		同	同
	千佛山	同（但シ現地守備隊ノ許可ヲ要ス）		同	同
	廣智院	同		同	同
	黒虎泉	同		同	同
	大明湖	同		同	同
	省公署	同		同	同
	小清河	同		同	同
	黄河鐵橋	不可		同	同
石門	石門大石橋	可		無	無
	石門興亞公園	同		同	同
	石門神社	同		同	同
	支那事變戰歿者御靈奉安所	同		同	同
	石門市觀善街	同		同	同
	西花園街	同		同	同
	高野山桃源寺	同		同	同
		（撮影後一應憲兵隊ノ檢閲ヲ受ケルコトニナツテ居ル）			
		可	停車場 東西南北各城門軍機ニ關スルモノ一切	希望ニヨリ出張	
	上華嚴寺	同		同	無（朱印アリ）
	下華嚴寺	同		同	同（同）

大同	南善化寺	可		希望ニヨリ出張	無
	九龍壁	同		同	同
	雲崗石佛	現地ニ於テ許可ヲ要ス		有	同（朱印アリ）
	曹福廟			無	同
	大同炭礦	同		同	同
太原	軍管理工場	許可ヲ要ス	鐵道驛 軍管理各工場		無
	新民公園				同
	博物館	許可ヲ要ス			同
	晉祠鎭	（現在治安充分ナラズ）			同
	五台山	同			同
	臨汾堯帝廟	同			同
	運城鹽地	同			同
	娘子關緋澄瀧	同			同
厚和	大召無量寺	可（制限アリ）	綏遠城 軍關係造營物軍檢問所附近驛構內及線路 市街全部ヲ見渡シ得ル箇所ヨリ撮影	無	
	小召崇福寺	同（同）		同	
	五塔召王照君墓	同（同）		同	
張家口	大境門	可（但局部的撮影ニ限ル）		無	無
	水母宮	同（同）		同	有（心付ヲ要ス）
	賜兒山	同（同）		同	同（同）
	清眞寺	同（同）		同	同（同）
	本多ケ丘	不能		同	無
	蒙古包（模型）	可		同	同
		市内全景又ハ山ノ全景ハ禁止サレテ居リ寫眞機持參者ハ豫メ官憲ノ許可ヲ要ス			
保定	新民公園	可	鐵道竝附隨建造物	無	
	蓮花池公園	同		同	
	陸戰隊本部	不可	上海驛構內 陸戰隊本部	同	無
	上海神社	可		同	同
	ゼスフィルドパーク	同（外人ハ不可）		同	同

上海	市政府	不可	近影	同	同
	江灣競馬場	同		同	同
	復旦大學跡	可 戰跡ノ場合ハ一應歩哨ニ通告シタル上撮影スル方萬全ノ策ナリ		同	同
	大馬路競馬場	同		同	同
	八字橋	同		無	無
	同文書院	同		同	同
	大場鎮戰跡	同		有（時期及天候ニヨル）	同
	吳淞砲台跡	同		無	無
		戰跡ノ場合ハ一應歩哨ニ通告シタル上撮影スル方萬全ノ策ナリ		同	同
	吳淞鐵道棧橋	不可		同	同
	廟行鎮	可		同	同
	自然科學研究所	不可		同	同
	閘北戰跡	可		同	同
南京	玄武廟	可		無	無
	鷄鳴寺	同	軍ノ機密ニ關スルモノ一切	同	同
	明孝陵	同		同	同
	鼓樓	同	下關、浦口一帶	同	同
	中山陵	同	蕪湖ニ至ル鐵道線路以東城内飛行場一帶	同	同
	革命記念塔	同		同	同
	光華門	同 樓門上ヨリ城内外飛行場及遠景撮影不可		同	同
	表忠碑	同		同	同
	莫愁湖	同	領事館裏	同	同
杭州	中山公園	可	保淑塔中腹部分	有	無
	湖濱公園	同	雲寶山一帶、湖畔	同	同
			大章飯店及其附近		
			杭州驛構内施設、（停車場司令部ノ許可ヲ要ス）		

蘇州	寒山寺	可	軍駐在箇所以外ハ市内外一圓撮影ニ制限ナシ	無	無（但朱印十錢）
	西園	同		同	同（同）
	虎山	同		有	同（同）
	北寺塔	同		無	同（同）
	獅子林	同		同	同（同）
	玄妙觀	同		同	同（同）
漢口	中山公園	可		無	無
	天一閣	同	漢口背面市街ハ軍使用ニツキ不可	同	同
	古德寺	同		同	同
	各租界	同			
	特別區				
	市内破壞ノ跡道路				
	上トーチカ				
	バンド	同	難民區ハ立入禁止	無	無
武昌	黃鶴樓	可		同	同
	武漢大學	同	東湖一帶ヲ俯瞰セルモノハ不可	同	同
	蛇山	不可（立入禁止ニツキ）			
漢陽	漢冶萍製鐵所	不可		無	無
	龜山（別名大別山）	同（立入禁止ニツキ）		同	同
	晴川閣	可		同	同
	歸元寺	同		同	同
	石榴花塔	同		同	同
	月湖	同		同	同
	古琴台	同		同	同
				（驛建物ハ滿支ヲ通ジ不可）	

株式會社
新京
國都ホテル



三階增築(二月一日竣工)

部屋數＝百餘室

滿洲國新京中央通三十五號

電話 代表番號③四四一五
グリル専用③二一八一

新京に御來臨の節は
是非御投宿を!!

新京の家庭的旅館
帝國ホテル

新京市特別市
西四馬路八〇號
電話(2)一七四四番

親切丁寧主義
室料一夕朝食付六圓より
ポーター驛に參つて居ります

クーポン指定旅館

新京
滿蒙ホテル

(定食)
朝 1.20
晝 2.00
夕 2.50

(室料)
和洋室
¥ 3.00 ヨリ
¥ 17.00 マデ

中央通り郵便局前(驛ヨリ三丁)

電話 代表 3—3511
3—3512
事務所用 3—5180

SENPO HOTEL, HSINKING,

滿洲國都…

新京驛附近で最も便利なホテル



新京驛前徒歩で三分間
室料制＝四圓—十二圓迄
グリル＝御好の和洋料理

扇芳ホテル

新京日本橋通一五
電話③六〇一六番

茶代拜辭

旅客運賃

鐵道の部



◇朝鮮主要驛間・三等

主要驛	自釜山	自大邱	自大田	自京城	自平壤	自安東
安東	一四・七五	一三・七九	一〇・三四	七・七五	三・七一	—
咸興	一三・三三	一〇・四一	七・九四	五・四五	九・四九	一三・二〇
元山	一〇・四一	八・四八	六・〇二	三・五二	七・五七	一一・二七
木浦	八・四四	六・五〇	四・〇五	六・六四	一〇・六八	一四・三七
群山	六・一三	四・一九	一・七四	四・三三	八・三七	一三・〇八
麗水港	八・八六	六・九二	四・四七	七・〇六	一一・一〇	一四・七九
鎭南浦	一二・八九	九・九六	七・五一	四・九〇	〇・八七	四・五六
平壤	一一・〇五	九・一〇	六・六四	四・〇五	—	三・七一
上仁川	七・二九	五・三三	二・八九	・五八	四・六一	八・三三
京城	七・〇〇	五・〇六	二・六一	—	四・〇五	七・七五
大田	四・四〇	二・四七	—	二・六一	六・六四	一〇・三四
大邱	一・九五	—	二・四七	五・〇六	九・一〇	一三・七九

◇内鮮滿支連絡（關釜連絡）

（三等・不含通行稅）

	大連	奉天	新京	哈爾濱
下關	三一・八〇	二四・一〇	三〇・五五	三五・六〇
神戸	三七・四〇	二九・七〇	三六・一五	四一・二〇
京都	三七・九五	三〇・二五	三六・七〇	四一・七五
名古屋	三九・〇〇	三一・三〇	三七・七五	四二・八〇
東京	四一・三五	三三・六五	四〇・一〇	四五・一五
門司	三一・九〇	二四・二〇	三〇・六五	三五・七〇
博多	三三・〇八	二五・三八	三一・八三	三六・八八
長崎	三五・〇五	二七・三五	三三・八〇	三八・八五
鹿兒島	三六・四五	二八・七五	三五・二〇	四〇・二五
山海關	一七・三〇	八・八五	一五・二五	二〇・二五
天津	二四・六〇	一六・二五	二二・六五	二七・七五
北京	二八・三〇	一九・八五	二六・二五	三一・三五
濟南	三三・八五	二五・五〇	三一・九〇	三七・〇〇
青島	四四・一〇	三五・七五	四二・一五	四七・二五
張家口	二九・六〇	二一・二五	二七・六五	三二・七五

◇日滿連絡（大阪商船門司大連經由）

（三等・不含通行稅）

	大連	奉天	新京	哈爾濱
下關	一七・一〇	二五・四五	三一・八五	三六・九五
神戸	二二・七〇	三一・〇五	三七・四五	四二・五五
大阪	二二・九五	三一・三〇	三七・七〇	四二・八〇
京都	二三・二五	三一・六〇	三八・〇〇	四三・一〇
名古屋	二四・三〇	三二・六五	三九・〇五	四四・一五
東京	二六・六五	三五・〇〇	四一・四〇	四六・五〇
博多	一八・一八	二六・五三	三二・九三	三八・〇三
長崎	二〇・一五	二八・五〇	三四・九〇	四〇・〇〇
鹿兒島	二一・五五	二九・九〇	三六・三〇	四一・四〇

◇日滿連絡（新潟北鮮經由）

（三等・不含通行稅）本表中高料金は白山丸に依る

	大連	奉天	新京	哈爾濱
青森	五〇・六五 / 四九・六五	四三・三五 / 四二・三五	三五・九五 / 三四・九五	三七・五〇 / 三六・五〇
仙台	四八・八五 / 四七・八五	四〇・五五 / 三九・五五	三四・一五 / 三三・一五	三五・七〇 / 三四・七〇
新潟	四五・三〇 / 四四・三〇	三七・〇〇 / 三六・〇〇	三〇・六〇 / 二九・六〇	三二・一五 / 三一・一五
東京	四九・四五 / 四八・四五	四一・一五 / 四〇・一五	三四・七五 / 三三・七五	三六・三〇 / 三五・三〇
名古屋	五〇・五五 / 四九・五五	四二・二五 / 四一・二五	三五・八五 / 三四・八五	三七・四〇 / 三六・四〇
京都	五一・四〇 / 五〇・四〇	四三・一〇 / 四二・一〇	三六・七〇 / 三五・七〇	三八・二五 / 三七・二五
金澤	四九・三〇 / 四八・三〇	四一・〇〇 / 四〇・〇〇	三四・六〇 / 三三・六〇	三六・一五 / 三五・一五

◇日滿連絡（敦賀北鮮經由）

（三等・不含通行稅）本表中高料金は熱田丸に依る

	大連	奉天	新京	哈爾濱
東京	五〇・二五 / 四九・二五	四一・九五 / 四〇・九五	三五・五五 / 三四・五五	三七・一五 / 三六・一五
名古屋	四六・七〇 / 四五・七〇	三八・四〇 / 三七・四〇	三二・〇〇 / 三一・〇〇	三三・六〇 / 三二・六〇

金澤	四六・八〇	三八・五〇	三三・一〇	三三・七〇
	四五・八〇	三七・五〇	三二・一〇	三二・七〇
大阪	四七・〇五	三八・七五	三三・三五	三三・九五
	四六・〇五	三七・七五	三二・三五	三二・九五
京都	四六・五〇	三八・二〇	三二・八〇	三三・四〇
	四五・五〇	三七・二〇	三一・八〇	三二・四〇
神戸	四七・四〇	三九・一〇	三二・七〇	三四・三〇
	四六・四〇	三八・一〇	三一・七〇	三三・三〇

◇滿洲主要驛間（三等・不含通行稅）

	大連	奉天	新京	哈爾濱
大連	—	八・三五	一四・七五	一九・八五
營口	五・五五	三・八〇	一〇・三〇	一五・三〇
鞍山	六・五〇	一・九〇	八・三〇	一三・四〇
奉天	八・三五	—	六・四五	一一・五〇
安東	一三・五〇	五・八〇	一二・三五	一七・三〇
撫順	九・二〇	一・二〇	七・六五	一二・七〇
四平	一三・三五	四・〇〇	二・四五	七・五五
新京	一四・七五	六・四五	—	五・一〇
哈爾濱	一九・八五	一一・五〇	五・一〇	—
吉林	一七・四五	九・一〇	二・七〇	七・八〇
通化	一五・九〇	七・五五	八・四五	一三・五五
滿浦	一八・五五	一〇・二〇	一一・一〇	一六・二〇
延吉	二四・七五	一六・四五	一〇・三五	一一・三〇
圖們	二五・八五	一七・五〇	一一・一〇	一三・七〇
上三峯	二五・八〇	一七・五〇	一一・一〇	一三・五五
羅津	二九・三〇	二一・〇〇	一四・六〇	一六・一五
牡丹江	二七・三〇	一八・九五	一三・五五	七・五〇
佳木斯	三〇・五五	二三・三〇	一五・八〇	一〇・七〇
齊々哈爾	二四・二五	一六・〇〇	一一・四〇	六・三〇
滿洲里	三九・五〇	三一・一五	二四・七五	一九・六五
錦縣	一三・三〇	五・〇〇	一一・四〇	一六・四五
承德	二二・四五	一四・一五	二〇・五五	二五・六〇
山海關	一七・二〇	八・八五	一五・三五	二〇・三五
古北口	二四・七〇	一六・四〇	二二・七五	二七・八五

本表中哈爾濱、佳木斯間は綏佳線經由、新京と牡丹江、佳木斯間は哈爾濱經由、吉林、哈爾濱間は新京經由、錦縣四平間は奉天經由、吉林と牡丹江、佳木斯間は圖們經由、圖們、上三峰、羅津と哈爾濱、齊々哈爾、滿洲里相互間は牡丹江經由、齊々哈爾、四平以遠間平齊線經由、奉天、吉林以遠間新京經由、哈爾濱、延吉間拉濱線經由、滿洲里と新京、四平、奉天間は哈爾濱經由の運賃を示してある。

奉吉線、營口線、撫順線、錦古線、大鄭線、楡樹線、梅輯線、平齊線、平梅線 拉濱線、綏佳線、朝開線は一等車を連結してないから表中上記線を含む一等運賃は異級連絡運賃を表示してある。

◇北支主要驛間（三等・不含通行稅）

主要驛	自北京	自濟南	自青島	自太原	自開封	自張家口
北京	—	一三・七〇	二三・九〇	一三・八五	一八・九〇	五・三〇
天津	三・六五	九・四〇	一九・五〇	一六・五〇	二二・三五	九・七五
山海關	一一・〇〇	一六・六五	二六・七〇	二三・八〇	二六・九〇	一六・一〇
保定	四・〇五	一一・二〇	二一・四〇	九・八五	一四・九〇	八・一五
石門	七・四五	七・八〇	一八・〇〇	六・四〇	一一・四五	一三・五五
順德	一〇・三五	一〇・七〇	二〇・九〇	七・三〇	八・五五	一五・六五
彰德	一三・四五	一三・八〇	二四・〇〇	一三・四〇	五・四五	一八・七五
新鄉	一六・四〇	一八・五〇	二六・八〇	一五・二〇	二・七〇	二一・三〇
德縣	九・六五	三・〇〇	一三・三〇	一一・一五	一六・一五	一四・七五
濟南	一三・七〇	—	一〇・二五	一四・一五	一五・五〇	一七・八〇
兗州	一六・七〇	四・〇五	一四・三〇	一八・二〇	一一・五〇	二一・八五
徐州	二〇・九五	八・三〇	一八・五〇	二二・四五	七・二五	二六・〇五
蚌埠	二五・二〇	一二・六〇	二二・八〇	二六・七五	一一・五〇	三〇・三五
張家口	五・三〇	一七・八〇	二八・〇五	一四・〇五	二四・〇〇	—
大同	一一・〇〇	二三・五〇	三三・七五	九・三〇	二七・一五	四・七五
厚和	一七・四〇	二九・九五	四〇・一五	二〇・七〇	三四・五五	一三・二〇
包頭	二一・二五	三三・七五	四四・〇〇	二〇・五五	三八・四〇	一六・〇〇
古北口	三・八五	一六・二五	二六・五五	一七・五〇	二三・五五	九・九五
通州	・六五	一三・二〇	二三・四〇	一四・二五	一九・四〇	五・八〇
張店	一五・六〇	二・九〇	七・四〇	一七・〇五	一八・四〇	二〇・七〇
青島	二三・九〇	一〇・二五	—	二四・四〇	二五・七〇	二八・〇五
太原	一三・八五	一四・一五	二四・四〇	—	一七・八五	一四・〇五
楡次	一四・五〇	一三・五〇	二三・七五	・六五	一七・二〇	一四・七〇
蒲州	二六・三〇	二五・三〇	三五・五五	一三・四五	二九・〇〇	二六・五〇
開封	一八・九〇	一五・五〇	二五・七〇	一七・八五	—	二四・〇〇
連雲碼頭	二六・八〇	一四・一五	二四・三五	二八・三〇	一三・〇五	三一・九〇

◇中支主要驛間（三等）

	蕪湖	南京	鎮江	常州	無錫	蘇州
南京	二・一五					
鎮江	三・五〇	一・四〇				
常州	五・〇〇	二・九〇	一・五〇			
無錫	五・八〇	三・六〇	二・三〇	・八〇		
蘇州	六・六五	四・五〇	三・一五	一・六五	・九〇	
上海	八・三五	六・二五	四・八五	三・三五	二・六〇	一・七五

	杭州	長安	嘉興	松江
長安	・八〇			
嘉興	一・八五	一・〇五		
松江	二・九〇	二・一五	一・一〇	
上海	三・八〇	三・〇五	二・〇〇	・九〇

航路の部

・東亞關係分
・目下休航中の分も含む

◇日本郵船會社線

神戸—臺灣

	一等	二等	三等
神戸—門司	一九	甲 一三 乙 七	五
基隆—門司	五五	甲 三七 乙 二五	一八
神戸—基隆	六五	甲 四五 乙 二八	二〇

大連—鹿兒島

	一等	特三	三等
大連—長崎	二六	一四	一三
大連—鹿兒島	三三	一七	一五
長崎—鹿兒島	七	四	三・五

横濱—上海—香港—マニラ

	一等	二等	三等 E	三等 A
横濱—神戸	二九	一八	八	六
横濱—上海	一三五	八五	五〇	四〇
神戸—上海	一〇〇	六五	三五	二六
横濱—香港	二〇五	一三五	五六	四五
神戸—香港	一八〇	一一〇	五〇	三七
横濱—マニラ	二七五	一七〇	八六	六六
神戸—マニラ	二五〇	一五五	八〇	六二

◇大阪商船會社線

大連—門司—神戸

	一等	二等	三等
大連—門司	五五	三七	一七
大連—神戸	六五	四五	一九
神戸—門司	一九	一二	五

大連—鹿兒島—那覇

	一等	二等	三等
大連—三角	—	二九	一三
大連—鹿兒島	—	三五	一五
大連—那覇	—	四八	二〇

神戸—基隆

	一等	二等	三等
神戸—門司	一九	洋 一七 和 八	五
神戸—基隆	六五	洋 四五 和 三	二〇
門司—基隆	五五	洋 三七 和 二六	一六

神戸—下關—北鮮（羅津 碇泊）

	一等	二等	三等
雄基—清津	—	五	二
雄基—關門	—	四〇	一八
雄基—神戸	—	四五	一八
清津—關門	—	三七	一八

◇大連汽船會社線

大連—青島—上海

	一等	二等	三等
大連—青島	三六	二四	八
大連—上海	七五	五〇	一八
青島—上海	五五	三六	一三

大連—天津

	一等	二等	三等
大連—天津	二七	—	八

大連—臺灣

	一等	二等	三等
大連—基隆	五〇	—	二二
大連—高雄	五〇	—	二五

◇東亞海運會社線

神戸—上海

	特等	一等	二等	三等
神戸—上海	300	100	60	35・36・33

長崎—上海

	特別室 A	特別室 B	一等 A	一等 B	三等 洋	三等 和
上海—長崎	130 176	160 150	60 50	55 45	25 20	20 16

青島—連雲港

	一等	二等	三等	四等
青島—連雲港	20	13	8	3

神戸—門司—青島

	一等	二等	三等
神戸—門司	15	10	5
神戸—青島	69	48	20
青島—門司	57	38	16

神戸—門司—天津

	一等 A	一等 B	二等 洋	二等 和	三等
天津—門司	70	60	48	44	19
天津—神戸	80	70	58	48	22

大連—青島

	一等	二等	三等
大連—芝罘	8	6・5	5
大連—威海衛	12	9	5
大連—青島	16	13	7

大連—芝罘

	一等	二等	三等
大連—芝罘	8	6・5	5

上海—漢口

	特一	特二	官艙	統艙
上海—蕪湖	13	13	2	3
南京—蕪湖	12	8	3・5	1・2
蕪湖—安慶	18	13	4・5	1・2
蕪湖—九江	13	10	7・5	2
蕪湖—漢口	40	28	13・5	5

高尾—上海

	一等	二等	三等
高尾—上海	57	—	19

基隆—厦門

	一等	二等	三等
基隆—厦門	16	12	6

◇日本海汽船會社線

新潟—羅津—清津

	一等	二等	三等
清津—新潟	48	33	16
羅津—新潟	45	30	15
羅津—清津	6	4	2

伏木—北鮮

	一等	二等	三等
伏木—七尾	4・5	3	1・5
伏木—清津	45	30	15
伏木—羅津	48	33	16

羅津—清津—敦賀

	一等	二等	三等
敦賀—清津	45	30	15
敦賀—羅津	48	33	16
清津—羅津	5	4	2

敦賀—北鮮—浦鹽

	一等	二等	三等
敦賀—清津	45	30	15
敦賀—羅津	48	33	16
羅津—浦鹽	15	10	5
敦賀—浦鹽	60	40	20
清津—浦鹽	22	14	7

◇北滿江運線

松花江航路

	自哈爾濱	自木蘭	自三姓	自佳木斯	自同江
哈爾濱	—	2・40	2・40	5・40	7・30
巴彦	1・30	1・45	1・25	4・65	6・80
木蘭	2・40	—	2・40	3・65	6・05
通河	3・10	1・15	1・60	2・90	5・45
三姓	4・30	2・40	—	1・70	4・40
湯原	5・00	3・15	1・10	85	3・70
佳木斯	5・40	3・65	1・70	—	3・30
樺川	5・80	4・10	2・20	80	2・75
富錦	6・90	5・45	3・65	2・45	1・15
同江	7・30	6・05	4・40	3・30	—

黒龍江航路

	自漠河	自黒河	自同江
漠河	—	8・10	9・70
金嶺	6・30	7・80	9・15
黒河	8・10	—	7・55
瑷琿	8・35	27	7・30
佛山	9・40	4・85	4・25
蘿北	9・60	6・90	1・60
同江	9・70	7・55	—

烏蘇里航路

	自撫遠	自龍王廟
撫遠	—	7・10
國富鎮	2・25	5・85
饒河	3・25	5・05
虎頭	4・75	3・55
穆稜河	4・95	2・40
高麗屯	6・70	1・05
龍王廟	7・10	—

嫩江航路

	自哈爾濱	自齊々哈爾
哈爾濱	—	6・95
三站	1・65	6・10
肇源	2・65	5・40
三岔口	3・10	4・90
大賚	3・75	4・40
江橋	5・95	1・90
齊々哈爾	6・95	—

第二松花江航路

	自三岔口	自小豐滿
三岔口	—	4・85
扶餘	85	4・40
松花江	2・60	2・85
四家子	4・15	1・10
九站	4・40	80
吉林	4・65	50
小豐滿	4・85	—

空路の部

・目下休航中の分も含む

◇日滿支連絡

	東京	大阪	京城	臺北	漢口	南京
自東京	—	35	105	175	250	200
自京城	105	70	—	150	325	175
自上海	150	115	125	135	200	50
自青島	150	115	115	255	230	170
自北京	215	180	130	280	235	185
自大連	150	115	45	195	290	220
自新京	175	140	70	220	429	257
自滿洲里	295	258	188	338	557	375

	上海	徐州	青島	濟南	北京	天津	張家口	承德	大連	奉天	新京	哈爾濱	滿洲里
自東京	150	240	150	210	225	215	238	192	150	149	175	199	295
自京城	135	205	115	160	140	110	133	87	45	44	70	93	188
自上海	—	110	140	165	235	225	215	301	190	233	239	261	357
自青島	110	115	—	60	65	110	160	176	70	92	119	141	237
自北京	235	125	65	70	—	30	100	96	85	86	111	134	240
自大連	190	160	70	115	85	65	125	80	—	23	56	80	176
自新京	239	179	119	141	111	92	110	74	56	26	—	33	118
自滿洲里	357	315	337	360	240	210	238	192	176	214	118	96	—

◇大日本航空會社線

東京—新京（直行）	200
福岡—上海	85
福岡—南京	135
東京—大連	150
東京—新京	170
京城—福岡	40
大阪—米子	20
福岡—大阪	30
東京—青島	150
東京—北京	225
臺北—廣東	210
福岡—臺北	110
臺北—馬公	27
臺北—臺東	27
京城—清津	36
廣東—ハノイ	155
廣東—盤谷	525

横濱ーパラオ	三七五

◇滿洲航空會社線

新京ー奉天	三二
新京ー京城	六五
奉天ー安東	三三
奉天ー大連	八六
大連ー佳木斯	九八
大連ー新京	五八
大連ー哈爾濱	八〇
奉天ー天津	六六
奉天ー北京	八六
奉天ー承德	四八
承德ー張家口	三六
承德ー大同	六四
承德ー厚和	九八
承德ー包頭	一三
新京ー承德	一二四
新京ー通化	三三
通化ー中江鎮	一〇
新京ー圖們	四三
圖們ー琿春	四九
牡丹江ー東寧	二五
新京ー滿洲里	一一九
哈爾濱ー齊齊哈爾	一一〇
新京ー牡丹江	五四
牡丹江ー哈爾濱	八〇
牡丹江ー富錦	一〇一
佳木斯ー牡丹江	二八
牡丹江ー圖們	一八
哈爾濱ー富錦	六八
佳木斯ー黑河	一〇〇
佳木斯ー譲河	一三四
佳木斯ー富錦	一三三
佳木斯ー撫遠	七〇

◇中華航空會社線

北京ー青島	一三〇
青島ー大連	七〇
北京ー大連	八五
北京ー南京	一八五
北京ー上海	三二五
北京ー張家口	三〇
張家口ー太原	七八
張家口ー厚和	六〇
張家口ー包頭	八五
上海ー杭州	二五
上海ー臺北	一三五
臺北ー廣東	一六五
北京ー運城	一七〇
北京ー開封	一三三
上海ー漢口	二〇〇
南京ー漢口	一五〇
廣東ー海口	一三〇
廣東ー汕頭	八〇

市內乘物

(大連)(括弧內は埠頭迄闕よりの料金)

自大連驛	タクシー	バス	馬車	人力車
西廣場	六〇(七五)	五	一四	七
北大山通	六〇(六〇)	五	一四	七
朝日廣場	七五(四〇)	―	二八	一四
日ノ出町倶樂部	一・〇五(五〇)	一〇	二八	一四
千代田町	一・〇五(四〇)	―	二八	一四
櫻町廣場	七五(五〇)	五	二八	一四
春日町	六〇(一・〇五)	五	二八	一四
桃源台	一・二〇(一・六五)	一〇	―	―
老虎灘	一・九五(二・二五)	一五	―	―
療病院	一・八〇(二・一〇)	五	二八	一四
連鎖街	六〇(九〇)	―	一四	七
中央試驗所	六〇(一・二〇)	五	二八	一四
關東州廳	七五(一・二五)	五	二八	一四
小崗子警察署	六〇(一・二〇)	―	二八	一四
聖德街三丁目	一・〇五(一・六五)	一〇	五〇	三五
大正廣場	一・二〇(一・八〇)	一〇	五〇	三五
大連機械	一・三五(一・九五)	一〇	―	―
沙河口驛	一・三五(一・九五)	一五	―	―
西山屯病院	一・八〇(二・四〇)	―	―	―
競馬場	一・五〇(一・九五)	一〇	―	―
月見ケ浦	一・六五(二・二五)	一〇	―	―
星ケ浦	一・九五(二・五五)	一五	―	―
小平島	四・六五(五・二五)	三〇	―	―
飛行場	三・一五(三・七五)	二五	―	―
滿洲石油	四・九五(五・五五)	三五	―	―
金州	一〇・五〇(一一・二五)	五〇	―	―
旅順	一四・二五(一五・〇〇)	一・〇〇	―	―

摘要

一、タクシーメーター料金(イ)市内二〇〇〇米迄四〇錢、以上七二〇米突を増す毎に一〇錢とし此の基礎金額の五割増を收受す(ロ)待時間五分に付一〇錢(ハ)周水子、甘井子、小平島、傅家庄、王家店、龍ケ岡方面への市内よりの片道運行はメーター表示額の二割増(ニ)旅順、金州、普蘭店、貔子窩方面への市内よりの片道運行はメーター表示額の五割増

二、バス(イ)十錢均一(ロ)電車乘換無料

三、電車(イ)全區間六錢均一

四、(イ)人力車一區七錢二區一四錢三區二〇錢四區以上一區増す毎に五錢増(ロ)一區間は直線一〇丁以内

五、馬車(イ)一區一四錢二區二八錢三區四〇錢四區以上一區増す毎に一〇錢増(ロ)一區間は直線一〇丁以内

六、(イ)人力車、馬車特別料金重物携帶は倍額、暴風雨深夜は三割増(ロ)貸切一日(一〇時間以內)人力車一圓四〇錢、馬車二圓八〇錢半日(五時間以內)人力車七〇錢、馬車一圓四〇錢(ハ)客待人力車三〇分毎に七錢馬車三〇分毎に一四錢

(鞍山)

自鞍山驛	タクシー	バス	馬車	人力車
土建協會	六〇	一〇	三	七
消費組合	六〇	一〇	一五	一〇
井々寮	六〇	一〇	一五	一〇
八掛溝入口	八五	一〇	二五	一五
中台町	八五	一〇	二五	一八
市公署	六〇	一〇	一五	一〇
滿鐵病院	六〇	一〇	三	三
女學校寄宿舍	八五	一〇	一五	一五
稻荷神社	八五	一〇	一〇	一〇
鞍山神社	八五	一〇	二五	一〇
柳町	八五	一〇	二五	一六
新火葬場	五・〇〇	一〇	二五	一八
西廣場	八五	一〇	一八	二〇
平康里	八五	一〇	三〇	一三
昭和製鋼所	八五	一〇	三〇	三
小野田セメント	二・三〇	一〇	六〇	四〇
曙小學校	一・三〇	一〇	三〇	二〇
滿洲ロール	二・三〇	一〇	七八	五五
競馬場	一・二〇	一〇	四五	三〇
八家子	一・一〇	一〇	三五	二三
北辰寮	一・三〇	一〇	三八	三〇

摘要

バスは市内一〇錢均一

タクシー市内廻り一時間三圓六〇錢、半日(五時間以內)一六圓、一日(一〇時間以內)二八圓、待賃金一〇分に付き三五錢

往復の場合の復路は五割引(但し端數は切上げ)

尚本賃金に對し目下五割値上方當局へ申請中にて近日中許可の見込

主要箇所中バス運行せざる箇所あり

(營口)

自營口驛	タクシー	バス	馬車	洋車	快車
新市街	八〇	一〇	二〇	一〇	一〇
電業	八〇	一〇	二〇	一五	一五
商工公會	一・五〇	一〇	二五	二五	二五
市公署	一・五〇	一〇	三五	二五	二五
警察廳	一・五〇	一〇	四〇	二五	二五
榮華街	二・〇〇	一〇	四四	三一	三一
牛家屯	二・〇〇	―	二八	三〇	三〇
隆昌街	二・〇〇	一〇	五九	四一	四一
老爺閣	二・〇〇	一〇	五九	四一	四一
西砲台	六・〇〇	―	一・二五	八八	八八

摘要

タクシー貸切 半時間二圓〇〇錢 一時間四圓〇〇錢

洋車・快車貸切 半日一圓七〇錢 一日三圓〇〇錢

馬車貸切 半日三圓五〇錢 一日六圓〇〇錢

バス貸切 半時間一一圓〇〇〇〇錢 一時間一四圓〇〇〇〇錢 一時間一六圓〇〇〇〇錢 二時間一八圓〇〇〇〇錢 半日四〇圓〇〇〇〇錢 一日八〇圓〇〇〇〇錢

(撫順)

自撫順驛	タクシー	バス	馬車	人力車
炭礦事務所	六〇	五	一〇	一〇
撫順神社	六〇	五	一五	一〇
北台町、南台町一圓	六〇	五	二〇	一〇
琥珀泉、表忠碑	六〇	五	二〇	一〇
新楊町	六〇	五	一〇	一〇
新撫順	一・一〇	五	三〇	二〇
撫順城	一・九〇	一五	六〇	三〇
競馬場	一・〇〇	一〇	五〇	二五
露天堀	二・九〇	―	一・二〇	七

摘要

バス一區五錢、二區一〇錢三區一五錢

炭礦電車西方面(露天堀)一區特等二〇錢並等一〇錢

東方面(龍鳳方面行)特等一區二〇錢並等一〇錢二區以上一〇錢増

タクシー待車三〇分毎一〇錢タクシーメーター制度なし

人力車一時間貸七五錢

馬車一時間貸九〇錢

（奉天）

自奉天驛	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
大廣場	四八	一〇	一五	一〇	電車一區五錢二區一〇錢均一 バス一區一〇錢 タクシー一、五〇〇米迄一圓五十錢 四〇〇米を增す每に二十錢 待車三分每二十錢
奉ビル	四八	一〇	一五	一〇	
忠靈塔	四八	一〇	一五	一〇	
敷島町	九六	一〇	三〇	二〇	
北市場	九六	一〇	三〇	二〇	
馬路灣	六三	一〇	三〇	二〇	

（安東）

自安東驛	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
安東警務處	一・〇〇（豆）八〇	—	一五	一〇	渡船一〇
郵政局	一・〇〇（豆）八〇	一〇	一五	一〇	プロペラ船上り圓三六〇錢 下り圓三〇〇錢
鐵橋北岸	一・〇〇（豆）八〇	一〇	一五	一〇	
鎭江山入口	一・〇〇（豆）八〇	—	三〇	二〇	
桃源派出所	一・〇〇（豆）八〇	—	六〇	四〇	
沙河鎭驛	一・七〇（豆）一・五〇	一〇	六〇	四〇	
省公署	一・七〇（豆）一・五〇	—	六〇	四〇	
滿鐵醫院	一・〇〇（豆）八〇	—	三〇	二〇	
安東稅關	一・〇〇（豆）八〇	—	三〇	二〇	
下六道溝派出所	二・五〇（豆）二・三〇	一五	七〇	四五	
鴨綠江製材	一・〇〇（豆）八〇	一五	三〇	二〇	
鴨綠江製紙	一・三〇（豆）一・一〇	一五	六〇	四〇	
大東港	三〇・〇〇（豆）二五・〇〇	二・三〇	—	—	
新義州	—（豆）一・〇〇	—	—	五〇	
水豐ダム	—	—	—	—	
五龍背	一五・〇〇（豆）一三・〇〇	—	—	—	
九連城	八・〇〇（豆）六・〇〇	四五	二・五〇	—	

（通化）

自通化驛	バス（總局經營）	タクシー	馬車	人力車	摘要
龍泉區	三〇	二・〇〇	一・〇〇	・七〇	タクシー街內七〇錢 人力車待合時間一時間三〇錢 馬車一時間四〇錢
什字街	三〇	二・〇〇	一・〇〇	・七〇	
自動車區	三〇	二・〇〇	一・〇〇	・七〇	
明星角	—	二・〇〇	一・〇〇	・七五	

（四平）

自四平驛	馬車	人力車
消費組合、南丘公園	一〇	〇七
電業會社、黎明寮	一五	一〇
專賣署、北站、大正街	二〇	一五
師道學校、北溝火葬場	二五	二〇
鐵東三馬路、北一緯路	三〇	二五
萬壽街、油化會社南門	三五	三〇
市立病院、水源地	四〇	三〇
海豐屯	五〇	—

（新京）

自新京驛	タクシー	バス（特殊一回券二〇錢均一）	馬車	人力車	摘要
吉野町	四〇		一〇	一〇	タクシーメーター制にて始
新京神社	四〇		一〇	一〇	發から一・二〇〇米迄四〇錢以後四〇〇米又は端數每に一〇錢 待時間三〇分每に一〇錢 郊外料金往復はメーター表示料金片道は表示料金五割增 バス五〇錢券四枚綴一圓券八枚綴三圓券二五枚綴一特殊一回券二〇錢 馬車最初五百米迄一〇錢人力車同五錢とし爾後各車共五百米を增す每に五錢 電車十一月中開通の豫定
兒玉公園	四〇		一五	一五	
大使館	五〇		一五	一五	
忠靈塔	六〇		二五	二五	
三中井百貨店	六〇		二五	二五	
大同廣場	七〇		三〇	三〇	
大同公園	八〇		三五	三五	
宮廷府	八〇		三五	三五	
國務院	一・〇〇		七〇	七〇	
南湖	一・五〇		一・〇〇	一・〇〇	
飛行場營業所	六〇		二・〇〇	二・〇〇	
賽馬場	一・〇〇		八〇	八〇	
寬城子戰跡	七〇		四〇	四〇	
南嶺戰跡	二・五〇		七〇	七〇	
綜合運動場	一・七〇		六〇	六〇	
寶山百貨店	六〇		二五	二五	

（吉林）

自吉林驛	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
東亞旅行社	六〇	五	一〇	一〇	（イ）タクシー區間制 （ロ）豆タクメーター制 （ハ）バス一區五錢三區迄七〇錢 （ニ）馬車一時間七〇錢一日七圓 （ホ）人力車一時間五〇錢一日四圓 貸切バス一時間二五圓（局バス）八圓（會社バス）
神社	六〇	五	二〇	一五	
文廟	七〇	五	二五	二〇	
市公署	六〇	五	一五	一五	
河南街	八〇	一〇	二五	二五	
北山	一・一〇	一五	四〇	四〇	
臨江門	一・一〇	一五	四〇	四〇	
市民館	一・四〇	一五	一・〇〇	一・〇〇	
小白山	三〇・〇〇	—	二・〇〇	二・〇〇	
ダム	三五・〇〇	四九	汽車		
龍潭山	—	九	同		
新吉林	—	三四	同		
哈達灣	—	二・〇〇	二・〇〇	二	
師高等校	二・五〇	一・〇〇	一・〇〇	一五	

（延吉）

自延吉驛	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
市內一圓	二・〇〇	—	—	—	目下運轉休止中
バス市內營業所	—	二〇	—	—	他區間運行せず
省公署	—	—	二五	一五	
房產住宅	—	—	四〇	二〇	
延吉神社	—	—	五〇	四〇	
日本女學校	—	—	四五	三五	
東亞旅行社	—	—	四五	三五	
東拓	—	—	五〇	四〇	
警察署	—	—	五〇	四〇	
北山國民學校	—	—	五〇	四〇	
縣公署	—	—	五〇	四〇	
公設市場	—	—	五〇	四〇	
專賣所	—	—	四五	三五	
中央銀行	—	—	四五	三五	
新滿劇場	—	—	四五	三五	
國立病院	—	—	四〇	三〇	
國際運輸	—	—	四〇	三〇	

（圖們）

自圖們驛	タクシー	馬車	人力車	摘要
東亞旅行社	一・〇〇	三〇	二〇	馬車二人以上乘車の場合は五割增 人力車荒天及夜間五割增
稅關	一・〇〇	一〇	一〇	
警察署	一・〇〇	一〇	一〇	
鐵橋	一・〇〇	四〇	五〇	

（羅津）

	タクシー	バス	摘要

	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
	一・三〇均一	〇・一〇均一			人力車、馬車なし貸切バス市内二一圓

(牡丹江)

自牡丹江驛	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
市公署	一・五〇	一五	二五	一五	自動車貸切料金一日四五圓、半日二五圓、一時間五圓、待時間一〇分に付五〇錢 バス一區一五錢均一
省公署	一・五〇	一五	四五	二〇	
鐵道局	一・五〇	一五	二〇	一五	
滿航飛行場	一・五〇	—	—	—	
清水公園	一・五〇	一五	四五	三〇	
神社	一・五〇	一五	四五	三〇	
銀座街	一・五〇	—	二五	二〇	
忠靈塔	一・五〇	一五	二五	二〇	
舊市街	一・五〇	一五	三五	三〇	
掖河	四・〇〇	三〇	—	—	

(佳木斯)

自佳木斯驛	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
埠頭	二・五〇	二〇	五〇	四〇	滿人街入口
省公署	一・五〇	二〇	三五	二〇	
東門外	二・〇〇	二〇	四〇	三〇	
中央大街公利源	二・五〇	二〇	五〇	四〇	

(哈爾濱)

自哈爾濱驛	タクシー	馬車	人力車	摘要
秋林(南崗)	八〇	二〇	一〇	(昭和十六年八月現在) ○バス市內一〇錢均一 ○電車市內七錢均一 ○洋車 (イ)貸切一時間五〇錢 (ロ)半日二圓二〇錢 (ハ)一日四圓〇〇錢 (ニ)待時間一〇分五錢
鐵道局	一・〇〇	四〇	二〇	
市立病院	一・〇〇	四〇	二〇	
中學校	三・一〇	一・二〇	六〇	
石頭道街	一・一〇	五〇	二五	
警察街	一・七〇	七〇	三五	
大同廣場	一・一〇	五〇	二五	
東亞旅行社	一・五〇	八〇	四〇	(ホ)惡天候又は夜間の際は五割增 ○馬車ハ洋車料金の二倍額 ○タクシー (イ)往復の場合は五割增 (ロ)待時間一〇分に付二五錢 (ハ)貸切一時間五圓 半日(五時間)二三圓 一日(十時間)四五圓 (ニ)市內見物(二時間)一二圓
ヨットクラブ	二・〇〇	一・二〇	六〇	
南馬路	一・三〇	六〇	三〇	
頭道街(傅家甸)	一・三〇	七〇	三五	
傅家甸埠頭	二・三〇	一・六〇	八〇	
十六道街	二・五〇	二・〇〇	一・〇〇	
濱江公園	二・八〇	二・二〇	一・二〇	
濱江驛	一・八〇	一・〇〇	五〇	
馬家溝教堂街	一・三〇	八〇	四〇	
哈爾濱學院	二・三〇	一・六〇	八〇	
代用官舍	二・〇〇	一・四〇	七〇	
新安埠	二・〇〇	一・二〇	二・六〇	
モスクワ兵營	二・三〇	一・六〇	八〇	
忠靈塔	三・一〇	三・〇〇	—	
香坊	四・〇〇	—	—	
三棵樹	五・〇〇	—	—	
火葬場	六・八〇	—	—	
種馬場	六・八〇	—	—	
滿拓訓練所	九・二〇	—	—	
太平橋	三・二〇	—	—	
顧鄉屯	四・六〇	—	—	

○松花江渡舟料金(水上營業者同業組合協定料金)

自中央大街	觀光艇	ボート	支那ジャンク	摘要
天滿	—	一〇	一〇	ボート (イ)定員四名 (ロ)夜間倍額 (ハ)船艮附貸切一時間平日五〇錢祭日六〇錢 (ニ)貸ボート一日平日一圓五〇錢祭日一圓
水泳場	—	一〇	一〇	
松花署	—	一〇	一〇	
ミニアチユール	一五	一五	一〇	
極樂村	二〇	二〇	—	
傅家甸埠頭	—	二〇	—	
同 十六道溝	—	二五	—	

(齊齊哈爾)

自齊々哈爾驛	タクシー	バス	馬車	人力車
東亞旅行社	二・〇〇	二〇	三〇	三〇
永安大街	二・〇〇	二〇	三〇	三〇
城內	二・五〇	二〇	四〇	四〇
龍沙公園	三・五〇	二〇	四〇	四〇
忠靈塔	三・五〇	—	四〇	四〇

(黑河)

自黑河驛	タクジー	バス	馬車	摘要
縣公署(城門)	—	二〇	三五	總局バス市內二〇錢均一 馬車市內二五錢均一
省公署、東亞旅行社(中原街)	—	二〇	三五	
埠頭	—	—	五〇	

(錦縣)

自錦縣驛	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
錦州神社、忠魂碑	一・〇〇	一〇	二〇	一〇	一、バス一區一〇錢 二、人力車五時間(半日)一圓四〇錢一〇時間(一日)二圓八〇錢 三、三輪車(人力)五時間(半日)二圓一〇時間(一日)四圓 四、馬車五時間(半日)二圓五〇錢一〇時間(一日)五圓 五、深夜(午前零時より午前五時)又は雨雪泥濘甚しき場合は右料金の二割增とす 六、時間待は一車に付十分を超過すと毎に五錢とす
鐵道局	一・〇〇	一〇	二〇	一〇	
市公署	一・〇〇	一〇	二〇	一五	
省公署	一・〇〇	一〇	三〇	一五	
警察廳	一・〇〇	一〇	三〇	二〇	
東門	一・〇〇	一〇	四〇	二五	
賽馬場	三・〇〇	—	一・〇〇	六〇	
合成燃料工場	三・〇〇	—	八〇	四〇	
東部工場地帶	三・〇〇	—	八〇	四〇	

(承德)

自驛	タクシー 片	タクシー 往	バス 片	バス 往	馬車 片	馬車 往	洋車 片	洋車 往	摘要
飛行場	一・五〇	二・二五	—	—	三〇	五〇	一五	二五	往復待時間 馬車、洋車三〇分 タクシー一五分
市內	一・〇〇	二・〇〇	二〇	四〇	五〇	八〇	三〇	四五	待時間 一時間 三〇分
陸軍病院	二・五〇	四・二五	—	—	七〇	一・一〇	四〇	六〇	タクシー一圓 二圓
獅子溝	三・〇〇	五・五〇	—	—	八〇	一・二〇	五〇	八〇	馬車四〇錢 八〇錢
大佛寺	三・五〇	六・〇〇	—	—	九〇	一・三〇	五五	八五	洋車二〇錢 四〇錢
羅漢堂	四・〇〇	七・〇〇	—	—	一・〇〇	一・五〇	六〇	一・〇〇	時間貸一時間 馬車 九〇錢 洋車 五〇錢

記 タクシーにて喇嘛廟見物二時間迄五圓以下二時間以內は一時間三圓三時間以上一時間二圓五〇錢 タクシー時間貸二時間以內一時間三圓三時間以上一時間二圓五〇錢タクシー料金は最近改正の豫定

(山海關)

自山海關驛	人力車	驢馬	摘要
南門	一〇	一〇	人力車 一時間 一圓
南門外一圓	一〇	一〇	半日 二圓
城內鼓樓西門	二〇	三〇	一日 三圓
天下第一關	三〇	三〇	驢馬
角山寺	一・〇〇	一・五〇	一時間 一圓五〇錢
二郎廟	一・五〇	二・〇〇	半日 二圓五〇錢
南海	一・〇〇	一・二〇	一日 三圓五〇錢
石河	八〇	一・〇〇	

自夏期南海海水浴行バス 山海關日本居留會前	料金	時間
南海	片道〇・三〇 往復〇・五〇	平日四往復 祭日六往復

(唐山)

自唐山驛	人力車	摘要
領事館	二〇	人力車以外なし
市公署	一五	人力車一時間貸切五拾錢

	人力車
道公署	一五
新立街(唐山の銀座)	一〇
啓新セメント	三〇
華新紡織	二五
開灤(廣東街)	一五

（天津）

自天津驛	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
中原公司(日界)	二・五〇	一〇	—	三〇	電車一區三錢 バス一區一〇錢
フランス公園(佛界)	二・五〇	二〇	—	三〇	
ビクトリア公園(英界)	二・五〇	三〇	—	四〇	
大連碼頭(特一區)	三・〇〇	四〇	—	六〇	
伊租界	三・〇〇	一〇	—	二〇	
特二區	二・五〇	一〇	—	三〇	
東馬路	三・五〇	二〇	—	四〇	
市公署	四・〇〇	三〇	—	六〇	

（北京）

自北京驛	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
市内(城内) 一迄一迎	三・〇〇	—	—	—	
市内(貸切) 一時間	四・五〇	—	—	—	
市内(貸切) 一日(十時間)	四〇・〇〇	—	—	—	
萬壽山 往復約二時間	八・〇〇	〇・九五	—	二・五〇	
蘆溝橋 往復約二時間	九・〇〇	—	—	—	
通州 往復約二時間	九・〇〇	—	—	—	
豐台 往復約二時間	九・〇〇	—	—	—	
南苑 往復約二時間	九・〇〇	—	—	—	
清華大學 往復約二時間	九・〇〇	—	—	—	
萬壽山玉泉山 往復約三時間	一三・〇〇	—	—	—	
石景山 往復約三時間	一三・〇〇	—	—	—	
萬壽山 玉泉山 西山メグリ 往復約四時間	一八・〇〇	—	—	—	
湯山 往復約四時間	一八・〇〇	—	—	—	
門頭溝 往復約五時間	二一・〇〇	—	—	—	
中央公園	—	一〇	七〇	二〇	
北海公園	—	三〇	一・七五	五〇	
天壇	—	一〇	一・四〇	四〇	
東安市場	—	一〇	一・〇五	三〇	
天橋	—	一〇	七〇	二〇	
東單牌樓	—	一〇	九〇	二五	
西單牌樓	—	二〇	一・〇五	三〇	
王府井	—	一〇	七〇	二〇	
西四牌樓	—	二〇	一・四〇	四〇	
東四牌樓	—	二〇	一・四〇	四〇	
東交民巷	—	一〇	三五	一〇	
崇文門	—	一〇	九〇	二五	
宣武門	—	三〇	九〇	二五	
永定門	—	一〇	一・七五	五〇	
廣安門	—	二〇	一・七五	五〇	
阜成門	—	二〇	二・〇〇	五五	
朝陽門	—	二〇	二・〇〇	五五	
西直門	—	四五	二・四五	七〇	

（保定）

自保定驛	人力車	摘要
農學院	一〇	一輌に付一〇錢 一時間貸切の場合は三〇錢とす降雨降雪等の時は定額の増額を認められて居る
醫學院	一〇	
西門	一〇	
南門	二〇	
北門	二〇	
東門	二〇	

	人力車
保定中學	三〇
天華市場	二〇
普育市場	二〇
法院街	二〇
乾草林	二〇
孚康里	二五
光園街	二五
大慈閣前	二〇
清苑公署	二〇
普濟醫院	三〇
軍官學校	五〇
飛行場	五五
新闢街	三〇

（石門）

市内一圓　人力車一〇錢均一

（太原）

自太原驛	タクシー	人力車	摘要
東亞旅行社		一〇	人力車一區五錢人力車一時間八〇錢
新民公園		一〇	現在バス無し有れば一區五錢
鐵路局		一五	市内片道 三圓
山西交易場		二〇	同 往復 四圓五〇錢
同仁會太原病院		二〇	同一時間 六圓
太原神社	—	二〇	郊外一キロ 一圓五〇錢
郵政局	—	二五	飛行場片道 八圓
領事館	—	三〇	
省公署	—	三〇	
中華航空	—	三〇	
放送局	—	三〇	

（濟南）

自濟南驛	タクシー	バス	人力車	摘要
經二路緯一路	三・〇〇	—	一〇	タクシー三〇分以内三圓一時間市内五圓郊外六圓
經三路緯八路	三・〇〇	—	二〇	バス大人一〇錢小人五錢軍屬五錢
大觀園	三・〇〇	—	一五	馬車小數あるも料金一定せず一時間貸切八〇—一圓
忠魂碑	三・〇〇	—	二〇	
同仁會濟南醫院	三・〇〇	—	二〇	
普利門	三・〇〇	—	二〇	
大西門	三・〇〇	一〇	二〇	
乾健門	三・〇〇	—	二五	
院前門	三・〇〇	—	三〇	
突泉	三・〇〇	—	三〇	
經七路緯二路	三・〇〇	一〇	三〇	
大明湖	三・〇〇	—	三五	
齊魯大學	三・〇〇	—	三五	
大東門	三・〇〇	一〇	四〇	
黑虎泉	三・〇〇	一〇	四五	
千佛山	三・〇〇	一〇	五〇	
昭和園	三・〇〇	—	三〇	

（青島）

自青島驛	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
第一公園	三・〇〇	三五	一・五〇	六〇	青島交通會社バス營業時間午前七時より午後七時迄大型タクシー一時間八圓五〇錢
忠ノ海	三・〇〇	三五	一・五〇	五〇	
台西鎭	三・〇〇	一五	一・〇〇	三〇	
台東鎭	三・〇〇	二五	二・〇〇	六〇	
ビール會社前	三・〇〇	—	一・五〇	五〇	
會泉岬	四・〇〇	—	二・〇〇	一・〇〇	
湛山長生園	四・五〇	四五	二・五〇	二・〇〇	
青島神社	三・〇〇	三五	二・〇〇	六〇	

（徐州）

自徐州驛	バス	人力車	摘要

聖德街	—	一〇	外に馬車あり、一時間二圓の割にて運行す
順河街	—	一〇	
公安街	—	一五	
迎春橋	一〇	一五	
徐州北站	—	二〇	
大馬路	—	二〇	
公明街	—	二〇	
廣告塔前	一〇	二〇	
統一街	—	二〇	
正太街	—	二五	
雲龍街	—	三五	
福國街	—	三五	
文亭街	—	二五	
西木洋行前	一〇	二五	
徐州神社	—	二〇	
飛行場	—	四〇	
忠魂碑	—	二〇	
西楚故宮	—	三五	
放送局	—	三五	
領事館	—	二〇	
憲兵隊	—	二〇	
市公署	—	三〇	
縣公署	—	三〇	

（開封）

自開封驛	タクシー	バス	人力車	摘要
鼓樓	六・〇〇	一〇	二五	タクシー一時間貸切一四圓 バス市内一〇錢區間制なし 馬車冠婚葬祭の場合のみ使用一日間三圓 洋車一時間貸三〇錢一日間二圓
省公署	六・〇〇	一〇	二〇	
馬道街	六・〇〇	一〇	二五	
相國寺後街	六・〇〇	一〇	三	
飛行場	四・〇〇	—	三〇	
鐵塔寺	一〇・〇〇	—	四〇	
市公署	六・〇〇	—	三〇	

（張家口）

自張家口驛	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
領事館	一・五〇	一〇	三〇	二〇	人力は待時間一時間一〇錢 バスは市内一圓一〇錢 馬車は一區三〇錢一時間二圓 タクシーは一時間四圓五〇錢 備考 バスは張家口站—大境門間五分置運轉 大境門—領事館間一〇分置運轉
國民學校	一・五〇	一〇	四〇	一〇	
大境門	一・五〇	一〇	一・二〇	三五	
水母宮	七・〇〇	三五	—	一・〇〇（往復に限る）	
蒙疆銀行	一・五〇	—	三〇	二〇	
蒙古政府	一・五〇	—	三〇	二〇	
城内	一・五〇	一〇	三〇乃至	一〇 二〇	
飛行場	七・〇〇	—	—	—	
賜兒山	四・〇〇	—	一・〇〇（往復）	—	

（大同）

自大同驛	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
城内	二・二五	一〇	八〇	二五	バス一區間一〇錢均一 タクシー一時間五圓八五錢一日五三圓
石佛寺	一七・〇〇（往復料金）	二・〇〇（遊覽バス）	—	—	
口泉（炭礦）	二五・〇〇（往復料金）	—	—	—	

（厚和）

自厚和驛	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
新城	三・〇〇	一五	一・二〇	五〇	バス市内一五錢均一 タクシー三圓均一、貸切一時間一〇圓 人力車貸切一時間一圓—一圓五〇錢 馬車新城内の場合は三〇錢均一 舊城内の場合は七〇錢均一 バスは（新城—舊城）（舊城—車站）間に運行し居るに付各會社機關商店街に行くには兩起點より洋車行のこと尚新城—車站はなし
舊城	三・〇〇	一五	一・二〇	五〇	
領事館	三・〇〇	一五	七五	三〇	
居留民會	三・〇〇	一五	一・二〇	五〇	
盟公署	三・〇〇	一五	一・六〇	六〇	
市公署	三・〇〇	一五	一・六〇	六〇	

（上海）

自上海驛	タクシー	バス	人力車	摘要
上海神社	二・五〇	一五	—	邦人自動車業者虹口舊英租界相互間二〇分毎に二圓五〇錢市内一時間六圓五〇錢市外一時間八圓五〇錢バス華中都市自動車一區五錢外人經營バス一區一〇仙電車虹口サイドなし外人經營電車一區五仙人力車五丁以内一五錢五丁以上三〇錢一日賃貸料金二圓
新公園	同	一五	三〇	
狄思威路	同	一五	三〇	
北四川路	同	一五	二〇	
施高塔路	同	一五	一〇	
老靶子路	同	一〇	二五	
吳淞路	同	二〇	二〇	
文路	同	一五	三〇	
百老匯路	同	二〇	三〇	
四川路橋	同	二〇	三〇	
ガーデンブリッヂ	同	二〇	三〇	
西華德路	同	二〇	三〇	
楊樹浦路	五・〇〇	三〇	四〇	

（南京）

自南京驛	タクシー	バス	人力車	馬車	摘要
中山棧橋	三・〇〇	五	一五	五	馬車人力車料金は軍票相場により四季一定せず
首都飯店	四・五〇	二〇	三〇	二〇	
市政府	五・〇〇	二五	三五	三五	
大使館	六・〇〇	三〇	三五	二五	
新街口	六・〇〇	四〇	五〇	三〇	
中華門	七・〇〇	—	七〇	五五	
中山門	七・〇〇	—	七〇	五五	
中山陵	七・〇〇	—	一・一〇	七〇	
玄武湖	四・五〇	—	五〇	二五	

（蘇州）

自蘇州驛	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
寒山寺	四・八〇	—	四・〇〇	二・五〇	馬車一日につき九圓—一二圓人力車一日につき八圓タクシー一時間に付六圓の割觀光に使用のバス一時間につき二圓二五人乘
金門	二・四〇	一五	七〇	三〇	
觀前寺	二・四〇	二〇	一・〇〇	六〇	
日本租界	四・八〇	—	三・五〇	一・五〇	

（杭州）

自杭州驛	タクシー	バス	人力車	摘要
湖濱公園	四・〇〇	二〇	三〇	タクシー一時間市内八圓市外九圓 人力車一時間六〇錢一日三圓 西湖遊艇（四人乘）一時間八〇錢
領事館	四・〇〇	三〇	四〇	
中山公園	五・〇〇	三〇	六〇	
岳王廟	六・〇〇	三五	七〇	
雲林寺	一〇・〇〇	四〇	一・〇〇	
淨慈寺	六・〇〇	—	七〇	
湖墅	一〇・〇〇	—	—	
市内各地	四・〇〇	—	—	

（無錫）

自三里橋	區數	バス	摘要
煤棧寺	一	五	料金は法幣協定
控江門	二	一〇	
公園後門	三	一五	
公園南口	四	二〇	
斜橋	五	二五	
再經橋	六	三〇	
南門	七	三五	
賀街口	八	四〇	

自無錫驛	人力車	摘要
光復門	一五	人力車は公定料金に非ず
控江門（北）	二〇	
公園	三〇	

	人力車
崇安寺	三〇
學前街	四〇
西成門（西）	四〇
望湖門（南）	五〇
錫山	七〇
梅園	二・〇〇
惠山	八〇

（鎮江）

自鎮江驛	バス	人力車	摘要
日華ホテル	五	一五	タクシー馬車なしバス一區五錢全區一〇錢 人力車一時間四〇錢
東亞海運	五	二〇	
領事館	一〇	二〇	
居留民會	一〇	三〇	
中山塔	一〇	三〇	
鎮江縣政府	一〇	三〇	
鎮江旅館	一〇	三〇	
中山路邦人街	一〇	三〇	

（漢口）

自日界碼頭	バス	馬車	人力車	摘要
漢口神社	五	一〇	六	タクシー 小型 市内一時間 五圓 市外 同 六圓 大型 市内 一〇圓 市外 同 一二圓 洋車一時間 五〇錢 碼頭待合所には洋車のみにてタクシー待合所なし
一元路（特一區）	二〇	四〇	一二	
佛租界	三〇	六〇	一八	
五族路（特二區）	三〇	六〇	一八	
横濱正金銀行	三〇	六〇	一八	
江漢路（特三區）	四〇	八〇	一八	
中山路	五〇	一・〇〇	二四	
三民路	六〇	一・二〇	二四	

寢台料金

		一等	二等	三等
滿鐵 鮮鐵	上段	八・〇〇	五・〇〇	一・五〇
	中段	—	—	二・〇〇
	下段	一〇・〇〇	七・〇〇	二・五〇
省線	上段	五・〇〇	三・〇〇	一・〇〇
	中段	—	—	一・三〇
	下段	七・〇〇	四・五〇	一・五〇
華北	上段	八・〇〇	五・〇〇	一・五〇
	中段	—	—	二・〇〇
	下段	一〇・〇〇	七・〇〇	二・五〇
華中	上段	—	五・〇〇	—
	中段	—	—	—
	下段	—	七・〇〇	—
台灣	上段	—	三・〇〇	一・〇〇
	中段	—	—	一・三〇
	下段	七・〇〇	四・五〇	一・五〇

但二〇〇粁未滿の區間にて寢台を使用する場合
一、二等に限り下記料金で取扱ふ—一等四・五〇 二等上段二・〇〇
同下段三・〇〇

一・大阪の旅館・一

大阪市南區久左衛門町
（道頓堀大黒橋北詰）
T・T・B指定旅館
泉五樓
武本友太郎
電話南{〇九三一番 〇九三三番

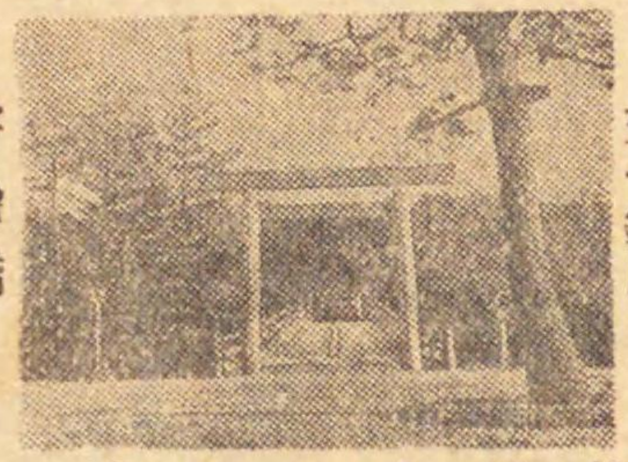
大阪市南區久左衛門町
（道頓堀戎橋北詰）
T・T・B指定旅館
淡路屋
中出琴
電話南{三三四九番 八八六六番

大阪市南區久左衛門町
（道頓堀新戎橋北詰）
T・T・B指定旅館
西大和屋
吉川勝男
電話南{〇四四九番 一九五六番

大阪市西區北堀江通二丁目
西大和屋別館
T・T・B指定旅館
富久家
玉岡秀夫
電話新町四五九八番

滿支に御活躍の皆様へ謹而感謝

（訪日御旅行大歡迎・誠意御優待）



五十鈴川—宇治橋

東亞旅行社クーポン券加盟
鐵道省・滿鐵會社 御指定
伊勢山田驛前
高千穗館
電代表一〇五番
皆様の 高千穗食堂

伊勢參宮と大大阪の御視察
（御ハガキ一枚拜受次第詳細御案内直送す）

鐵道省・滿鐵會社 御指定
東亞旅行社クーポン券加盟
大阪道頓堀エビス橋通中筋
姉妹館
㊎
浪花旅館（ナニハホテル）
電南(75)二一五八番

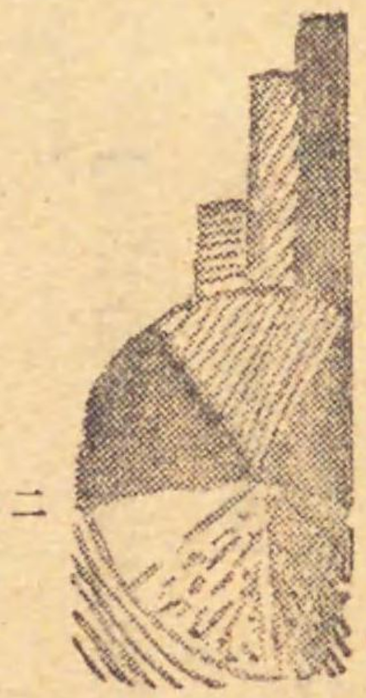
月刊
觀光東亞
・大陸文化の紹介雜誌・
現地編輯
定價四〇錢 送料・〇二錢

月刊
滿洲支那
汽車時間表
・大陸旅行の必携・
定價四〇錢 送料・〇二錢

發行所
奉天市住吉町六號地
社團法人 東亞旅行社滿洲支部
トーア・ツーリスト・ビューロー
振替口座{奉天二九六六

旅行統計

鐵道の部



鐵道總局累年鐵道旅客輸送人員

年度／等級	一等	二等	三等	合計
昭和八	—	—	—	一一、六三三、八七五
昭和九	—	—	—	二四、二三二、三四九
昭和一〇	—	—	—	三〇、一三一、〇四九
昭和一一	—	—	—	三四、六七八、〇七四
昭和一二	三七、九九二	六四八、四六〇	三七、七四二、三四一	三八、四二八、七九三
昭和一三	四八、五五五	九六三、七六八	四九、〇三八、二三〇	五〇、〇五〇、五五三
昭和一四	七三、六三五	一、八三三、四六九	七四、〇六二、一〇八	七五、九六七、二一二
昭和一五	九六、九六〇	三、〇七六、二九〇	九四、六四八、九二七	九七、八二二、一一七

・昭和八年度は國線を含まず

（鐵道總局調査局資料課調査）

鐵道總局月別鐵道旅客輸送人員 （昭和十五年度）

四月	八、三二三、八三七
五月	八、三九四、二九九
六月	七、九四八、八七九
七月	七、七七六、八〇六
八月	八、三四三、四八二
九月	八、三三三、〇四五
十月	七、六三〇、四四三
十一月	八、一九六、一一七
十二月	八、五五〇、七五二
一月	七、七三一、五[illegible]四
二月	七、四〇三、七六九
三月	九、三二二、三四九
合計	九七、八二二、一一七

（鐵道總局調査局資料課調査）

鐵道總局累年寢臺券竝食堂車利用數

年度／寢臺等級	一等	二等	三等	合計	食堂車
昭和一二	三〇、一三九	一一五、六〇二	三〇六、〇一六	四四一、七五七	—
昭和一三	二九、六七三	一八一、六三三	四七八、〇七四	六八九、三六九	—
昭和一四	四四、六三三	二三五、四三九	六二二、八四四	九〇八、九一六	—
昭和一五	五八、三三四	三三五、一一七	九三三、〇四八	一、三二六、四八九	七、〇四二、九八三

（鐵道總局調査局資料課調査）

華北交通線別鐵道旅客輸送人員 （昭和十五年度）

京山線	一三、四四五、七一五
京漢線	四、五七一、九五三
津浦線	七、四九四、八五三
京包線	四、七八〇、六四七
京古線	七三三、四五九
膠濟線	四、四三五、〇九五
石太線	七六一、六一〇
同蒲線	二、三六四、四四五
道淸線	三〇七、七八〇
隴海線	二、二二六、八四一
合計	四〇、〇〇二、三九七

・二線或は三線に跨って[illegible]輸送は重複計上す

（華北交通會社營業局調査）

鐵道總局主要驛乘降客數（昭和十五年度）

乘車人員順位	驛名	乘車人員	降車人員
一	奉天	六、六九〇、四八九	六、九二一、七五三
二	新京	二、八三五、四六〇	二、七六二、六三四
三	大連	二、〇三一、二四一	一、八九五、四八九
四	哈爾濱	二、〇一二、六八一	二、四九五、二四五
五	鞍山	一、六六一、四九五	一、五八四、一三六
六	牡丹江	一、六三三、六四三	一、五七一、一四四
七	遼陽	一、三五三、四七二	一、三三七、九四六
八	吉林	一、三三八、三三一	一、三三九、五四二
九	山海關	一、三三八、六〇一	一、六六一、八五七
一〇	錦縣	一、三一〇、六八七	一、一五九、八五八
一一	安東	一、〇七八、八三六	九三八、八八四
一二	濱江	一、〇〇九、五一三	五四一、九八八
一三	本溪湖	九二〇、五六八	八八七、三七二
一四	四平	九〇三、六二九	八九八、九八四
一五	營口	七一四、〇三一	六八〇、四四三
一六	北奉天	六八〇、七二三	三三九、七二九
一七	齊々哈爾	六六〇、八〇一	六五三、七八五
一八	海城	六五九、四七八	六六五、四〇八
一九	撫順	六五八、〇八三	七〇一、〇四八
二〇	圖們	六三三、一一四	七六三、五九六
二一	公主嶺	六一五、四七八	六〇八、一二八
二二	鐵嶺	六一二、一六一	六九〇、〇一〇
二三	大石橋	六〇二、七七四	六四三、〇八三
二四	蘇家屯	五八六、八一四	六一九、〇一三
二五	龍井	五五五、三一四	五四二、〇二八
二六	綏化	五一四、四〇〇	五〇一、三六八
二七	沙河口	五〇四、九一〇	五一四、三一六
二八	寧安	五〇〇、三九九	四八七、九六六
二九	佳木斯	四九九、七三七	四八二、五八九
三〇	開原	四八四、四三三	四七九、四八二
三一	瓦房店	四七七、一二六	四六三、三七八
三二	通化	四六一、二四五	四六六、三三三
三三	延吉	四五九、四〇九	四六四、二二八
三四	南陽	四五六、一七九	三二二、七五五
三五	宮原	四四八、三一四	四八九、一七五
三六	上三峯	四四五、六七三	四六三、九三九
三七	范家屯	四二九、一五一	四三五、一四〇
三八	蓋平	四二四、二二六	四一七、六二四
三九	煙台	四〇九、二二八	四〇三、一二五
四〇	文官屯	三九三、七六六	四一二、七三七
四一	立山	三九〇、五〇四	三九五、九三三
四二	呼蘭	三六八、三六四	三七三、八二〇
四三	白城子	三六〇、四一七	三八九、一二五
四四	普蘭店	三八〇、三三四	三九八、三四〇
四五	蛟河	三七四、七五八	三六三、三八二
四六	阿城	三六七、一三九	三九三、三八九
四七	金州	三六〇、七三四	三八三、六二九
四八	鳳凰城	三四三、八一三	三三二、八七三
四九	敦化	三四〇、七二九	三三二、八九八
五〇	北安	三三九、二三八	三五四、二七三

●無賃乘車證及途中下車客を含まず

（鐵道總局調査局資料課調査）

華北交通累年鐵道旅客輸送人員（會社創立後）

	人員	收入
昭和十四年度	三六、七四七、九三七人	五三、八八七、八一九圓
昭和十五年度	三七、七九九、一三一	七九、三八八、七三六

・年度は四月より翌年三月迄

（華北交通會社資業局調査）

華北交通月別鐵道旅客輸送人員（昭和十五年度）

月	人員
四月	三、三四八、六一三
五月	三、三一七、七三九
六月	二、九六六、八二五
七月	三、〇三八、〇一〇
八月	三、〇四八、六〇五
九月	二、九八六、一一五
一〇月	三、三三五、四八四
一一月	三、五三五、〇一八
一二月	三、三七三、一〇〇
一月	二、九九九、六九一
二月	二、七二四、三一三
三月	三、二四五、七一七
合計	三七、七九九、一三一

（華北交通會社資業局調査）

華北交通主要驛乘降客數（昭和十五年度）

驛名	乘車	降車	合計
山海關	一、一六九、三三一	一、五一一、七七〇	二、六八一、一〇一
塘沽	三六九、〇五〇	三五八、六八三	七二七、七三三
天津	三、五九〇、三九五	三、六一四、八一六	七、二〇六、二一一
北京	三、五一九、三七七	三、四五四、九九八	六、九七四、三七五
張家口	五六二、〇七二	五六五、三六八	一、一二七、四四〇
青島	七一七、三六三	七七一、六六七	一、四八九、〇三〇
濟南	一、六〇二、三〇五	一、五五一、〇三三	三、一五三、三三八

（華北交通會社資業局調査）

華中鐵道累年鐵道旅客輸送人員（會社創立後）

	人員	收入
昭和十四年	五、五三二、七三五人	一〇、九六三、四三〇圓
昭和十五年	一三、五一六、九三四	二七、八三九、五二一

・但昭和十四年度は五月より翌年三月迄とす

華中鐵道月別竝線別鐵道旅客輸送人員

月別＼線別	海南	海杭	蘇嘉	南寧	津浦	淮南	計
昭和十五年四月	五八九、七二八	一二三、三四三	一六、七八一	五二、七二四	六七、七八七	五八、七〇八	八九八、〇六九
五月	五六四、九六八	一一〇、六四九	一四、七五一	五六、六五七	六九、〇〇八	五五、六四三	八七一、六六六
六月	五三九、三四四	一〇六、三一五	一三、七二三	七九、二六九	七三、一七六	六七、五五八	八七八、三八三
七月	五五一、五九二	九八、七六五	一四、一八六	七三、六五六	七五、八五八	七六、六〇八	八九〇、六六三
八月	五八九、五〇九	一一〇、〇九一	一七、六二八	六六、七八二	七三、二九九	八六、七七六	九四三、一四五
九月	六四四、六七〇	一三六、八三八	一九、三三九	七五、三八一	八三、一六三	九〇、四三一	一、〇三八、六一三
十月	七二八、三五五	一三四、五四五	一八、六三四	八一、〇四三	九三、〇一七	八八、〇七九	一、一四二、六六三
十一月	八三六、八五三	一五五、六〇七	一九、三九二	八四、五九一	八七、五九三	九六、一六〇	一、三〇〇、一九六
十二月	八九八、八二八	一七七、一四八	二一、七七四	一〇二、一四九	八八、六五四	一〇四、四七三	一、三九二、九九〇
昭和十六年一月	九〇四、七五六	二〇三、五一一	三二、〇一四	一〇六、四九九	八七、〇四九	一〇九、六四〇	一、四三二、四六九
二月	七七六、三三七	一八五、七二七	二〇、七三九	九三、九七三	七三、七四三	八三、〇一五	一、二三三、五三三
三月	九五三、九〇八	二一七、六六四	二七、七二八	一二〇、四一八	九七、三八七	七八、三七一	一、四九五、六四六
年計	八、五三八、九七八	一、七五八、二〇三	二三六、五六九	九九三、〇四一	九六四、七三三	九九五、四一〇	一三、五一六、九三四

（華中鐵道株式會社調査）

華中鐵道主要驛乘降客數（昭和十五年度）

驛名	乘車人員	降車人員
上海	二、七〇八、八六三	三、〇一六、九九六
崑山	一六三、一九六	一六三、四六七
蘇州	八六〇、七四三	八三七、九三六
無錫	五七〇、九一八	五七八、七八四
常州	三三一、七四六	三〇四、九五七
丹陽	一一七、六九三	一一一、六一五
鎮江	四四二、六六五	四一三、四七七
南京	九一一、一七八	九三一、八三五
松江	二五六、一三三	二五〇、八六七
嘉興	二八四、一〇〇	二七四、六一七
杭州	二六〇、二五〇	三一九、六五五
中華門	二五一、六〇三	二四九、六五九
蕪湖	三九〇、七〇六	三七三、六六四
浦口	二三五、〇九六	二一五、〇三三
蚌埠	二一〇、五九六（華北線分を不含）	一八五、六三〇
裕溪口	二三、四九六	二〇五、三四八

（華中鐵道株式會社調査）

航空の部

中華航空定期旅客輸送人員

月別 \ 定期別	北京—上海線	北京—大連線	北京—包頭線	北京—開封線	北京—大連線（青島廻）	北京—太原線	青島—開封線	上海—青島線	上海—漢口線	南京—漢口線	上海—廣東線	上海—杭州線	合計
昭和十五年四月	六六六	三九二	一六七	—	—	—	—	七七	一、一九五	六五五	一八八	—	三、三四〇
五月	八二〇	五一五	三三三	—	—	—	—	二一一	一、二〇〇	五八六	一五八	—	三、七一三
六月	六〇七	三八三	三〇四	八一	—	—	—	三一八	八〇八	四九三	一三七	一四八	三、二六七
七月	六七三	三三三	三三三	二一〇	—	—	—	三二一	一、〇八五	五七八	一七二	一七三	三、七六八
八月	六〇〇	二八九	二五六	一三〇	—	—	—	五三〇	七七六	四〇一	八九	九一	二、九六三
九月	五五七	三九二	四八二	二一四	一六三	三三五	—	三三三	六五九	三七三	一〇八	—	三、六一六
十月	六六七	四五〇	三六五	二〇八	二八八	一九三	六七	二三三	八三〇	四〇四	一九〇	—	三、九一四
十一月	五五〇	三一八	三五六	一六四	二三九	一三四	九六	三二一	一、一六三	五一三	二〇四	—	三、九一四
十二月	六三三	三三一	三一〇	一四〇	二一六	一一三	八一	二三三	一、一九六	五〇二	二一二	—	三、九五四
昭和十六年一月	五八二	二七三	三一八	一四三	二〇九	一一一	六四	一九五	一、〇九四	三八七	二六四	—	三、六四〇
二月	四〇三	三五八	二六一	九三	一七八	一〇三	五四	一四九	七三三	三三三	一三三	—	二、五七五
三月	七〇三	三七〇	二八四	一二七	三三七	九六	一四四	二二六	一、〇一三	四一三	二三九	—	三、八二〇
合計	七、四四九	四、四〇四	三、五七九	一、五〇九	一、五三〇	一、〇八一	五〇八	二、八〇九	一一、七一三	五、五三七	二、〇七三	四一二	四三、四八三

（中華航空株式會社調査）

航路の部

全滿埠頭累年上陸乗船人員

【上陸客】

年別	大連	營口	安東
昭和三年	五三〇、八六五	一四九、七三三	六九、六八五
昭和四年	五三七、三〇九	一四八、三三六	五三、八八八
同五年	三六四、八六一	一一六、九八八	四九、一一三
同六年	二九二、一六五	九二、一八九	四五、四八一
同七年	三九三、三三六	八九、八九二	四一、〇七五
同八年	五〇一、一一四	三〇〇、〇七二	五六、七九〇
同九年	四九五、二三四	一三九、八三七	六一、一七〇
同十年	四一四、八四七	一一三、〇一二	三一、三九〇
同十一年	三六七、四六四	一三七、四七九	三四、四五七
同十二年	三〇六、七一七	六七、五一〇	二九、三二三
同十三年	五四四、四八七	七五、七五三	二六、八九五
同十四年	八二一、一八九	一三一、九八〇	三一、四四六
同十五年	九〇二、六八〇	四六、五三〇	三三、三八一

年別	雄基	羅津	清津
昭和十一年	三、三七五	八、〇四五	二三、〇六六
同十二年	一、二八〇	九、一二五	二五、三〇〇
同十三年	一、二三七	一五、六八〇	七三、三九一
同十四年	一、〇八九	三四、七四八	八八、八二一
同十五年	七八六	八〇、六九五	一七、四三五

但清津四、五、六、三ヶ月分

【乗船客】

年別	大連	營口	安東
昭和三年	三五七、三七七	九九、九三八	四二、六一〇
同四年	二九五、七六六	八〇、九九九	三四、一九九
同五年	二六〇、八七一	一〇五、七四七	三五、三一〇
同六年	二八一、四三三	一〇五、八〇五	四〇、五四七
同七年	三三九、三三四	一〇四、四一七	三八、二五三
同八年	二九一、一四四	一〇二、九〇七	四五、三七九
同九年	三三五、一四〇	一一〇、四五八	三四、三一九
同十年	四〇三、七一三	九三、二九三	四六、四一七
同十一年	三二五、七八五	七六、四七九	二九、八一八
同十二年	二五二、一七五	三二、〇五三	三三、二六三
同十三年	三四三、二四一	三二、二三四	一六、六一〇
同十四年	四三三、七八三	八、四三一	二四、一三九
同十五年	六九二、九五八	三〇、一三四	二四、〇六七

年別	雄基	羅津	清津
昭和十二年	二、九八二	一一、〇二八	二八、六三五
同十三年	三、一四八	一〇、〇四八	三七、八一〇
同十四年	一、三七三	一五、三二七	三九、六一〇
同十五年	四八七	六一、九三三	一三、九〇三

但清津ハ四、五、六、三ヶ月分

（鐵道總局調査局資料課調査）

全滿各港月別上陸人員（昭和十五年度）

	計	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
大連	七〇二、六六〇	一一六、三六四	八六、七一七	六〇、四八八	六五、二〇六	五六、五五七	五四、三七〇	五〇、二七八	六八、一七六	五九、五〇七	四七、三四二	九〇、三二七	一四七、三四八
旅順	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
營口	四六、五三〇	二八、四三一	八、〇七九	二、三一三	二、七七六	一、四五二	一、五三六	一、〇四七	八六三	—	—	—	二三五
安東	三三、三八一	五、四五〇	一〇、二四九	三、八一七	五、〇〇八	三、六九四	四、四二七	七三六	—	—	—	—	—
壺蘆島	六〇九	七六	一一〇	九四	五三	九三	三七	三一	四二	三三	—	—	三一
羅津	八〇、六九五	八、八二〇	四、八五一	九、〇七五	八、一四七	七、七二七	六、三四三	七、六六五	五、八二九	四、六六七	三、九一五	六、〇五一	七、六〇五
清津	一七、四三五	六、三九八	七、二二五	三、八一〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
雄基	七八六	一二八	一八	一一	五一	三六	一三三	二	一一六	—	七	一	二八五

全滿各港月別乗船人員（昭和十五年度）

	計	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
大連	六九二、九五八	四四、〇六五	五〇、三八〇	四六、四二〇	五〇、九二六	五六、三二〇	八一、八八六	五〇、〇一六	五六、三五一	七七、五五八	六七、三一二	四〇、〇七一	七一、八七四

旅順	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
營口	二〇、一四四	一、五八四	二、三八三	二、三五四	二、三〇三	二、五九一	四、五七七	一、〇九三	三、二三五	—	—	—	二五
安東	二六、〇六六	二、五六八	五、九九六	三、四五九	三、三七〇	五、一八五	三、三八〇	二、一〇八	—	—	—	—	—
壺蘆島	五六一	二三	八一	八五	一五〇	五五	二七	六四	九	二九	—	—	三八
羅津	六一、九二三	三、九五一	一〇、一〇六	三、四二二	四、三四四	六、七五三	五、四三〇	五、一六一	四、三六九	五、五七〇	四、二四三	三、三二四	五、二五〇
清津	一二、九〇三	四、一〇三	四、六一四	四、一八六	—	—	—	—	—	—	—	—	—
雄基	四八七	二九	八〇	五三	六九	五	四三	五四	二	二四	六六	二七	三五

（鐵道總局調査局資料課調査）

北滿江運主要埠頭乘下船人員（昭和十五年度）

	乘船	下船
計	七三六、六八三	七三六、六八三
哈爾濱	一三二、四三八	八九、〇三三
通河	四六、三七八	三九、一一三
三姓	四四、三六三	四三、一四八
蓮江口	六五、五七〇	六九、四九一
佳木斯	一二〇、七〇一	一一五、六三六
樺川	一三、四〇八	一三、八七九
富錦	三六、三三六	三一、三三八
黑河	三五、四八四	一三、四七四
漠河	四、三三五	六、四九六
其他	二四八、八〇一	三一六、一八六

北支主要港乘船上陸人員（昭和十五年度）

港名	乘船	上陸
天津	八七、五〇八	一〇八、〇七一
青島	三〇六、五四五	二〇一、五八六
龍口	八七、三九六	八三、四四三
威海衛	四〇、七八五	二九、八八七
連雲	二、五四六	二、六七五
合計	五二四、七八〇	四二五、六六五

（華北交通株式會社資業局調査）

中支主要港累年乘船並下船人員

	南京浦口間 下便	南京浦口間 上便	蕪湖裕溪口間 下便	蕪湖裕溪口間 上便
昭和十四年度	八八、八四一	九二、八二九	—	—
昭和十五年度	六〇九、〇二九	五九六、四二四	一六七、一四九	一六四、四二六

南京浦口間航路は昭和十四年十二月二十四日より輪送開始

蕪湖裕溪口間航路は昭和十五年四月一日より輪送開始

（華中鐵道株式會社調査）

中支主要港乘船並下船人員（昭和十五年度月別）

	南京浦口間 下便	南京浦口間 上便	蕪湖裕溪口間 下便	蕪湖裕溪口間 上便
昭和十五年四月	四〇、五三六	四四、三九四	七、七二八	六、一七六
同　五月	四三、六五一	四三、四六八	八、四三六	六、五六四
同　六月	四一、〇六三	四一、一六五	九、七八四	七、七五六
同　七月	四三、五九三	四四、九五四	九、三九七	八、九一六
同　八月	三九、五一六	四三、〇三三	一〇、六三九	八、六一四
同　九月	四二、六四三	四六、〇五三	一三、〇〇八	九、七三五
同　十月	六〇、九〇一	五七、五八八	一四、九三八	一三、五〇三
同　十一月	六〇、五四〇	五五、〇八三	一七、三一六	一九、三七四
同　十二月	六〇、一三三	五五、九四四	二〇、一八三	二〇、三四四
同　十六年一月	六三、八九六	五七、二二五	二四、六三九	一九、八五六
同　二月	四九、四三四	四六、八八三	一三、六四三	二三、四四八
同　三月	六六、〇四五	六四、六五七	一八、四四八	二一、二四〇
計	六〇九、〇二九	五九八、四二四	一六七、一四九	一六四、四二六

（華中鐵道株式會社調査）

自動車・電車の部

鐵道總局自動車旅客累年輸送人員

昭和八年度	九三、九三四
同　九年度	三五七、九三〇
同　十年度	五一一、五七三
同　十一年度	七七三、一三三
同　十二年度	一、一三〇、八三三
同　十三年度	四、三八五、三三七
昭和十四年度	一四、五八〇、四九八
同　十五年度	二一、六五三、一三三

（鐵道總局調査局資料課調査）

鐵道總局自動車旅客月別輸送人員（昭和十五年度）

四月	一、九三一、二〇〇
五月	一、九三七、三一九
六月	一、六五七、八二九
七月	一、六八九、九八九
八月	一、七〇一、五五六
九月	一、七四八、六七一
十月	一、七四五、八四五
十一月	一、七二四、二八三
十二月	一、九八六、三三三
一月	一、八一五、〇〇九
二月	一、八二三、四〇二
三月	一、八六六、九〇六
合計	二一、六五三、一三三

（鐵道總局調査局資料課調査）

滿洲國民營自動車會社乘車人員（康德七年度）

會社名　區別	乘車人員
新京交通株式會社	二四、四七六、九七一
安東交通株式會社	三、六七八、五〇二
奉天交通株式會社	四六、七三一、〇九九
奉南交通株式會社	四、一七四、二七一
奉北交通株式會社	二、一〇〇、〇四四
滿洲交通株式會社	三五三、三八五
哈爾濱交通株式會社	二七、九七三、七一三
哈郭長途汽車公司	六八、二六五
東亞運輸商會	一〇三、九〇三
吉奉交通株式會社	一七〇、三九四
遼西交通株式會社	一五四、八七九
北支滿蒙運輸商會	七、四三九
東滿洲鐵道株式會社	四一、七七五
牡丹江交通株式會社	二、四五九、七二三
哈賓自動車交通合資會社	一三一、四〇八
合計	一二三、六一五、七四九

（交通部調）

新京交通累年乘客人員

	乘合自動車	觀光バス
昭和十年	二、四三二、七五五	—
十一	七、五〇二、五八九	九〇五
十二	八、八八五、八五〇	三、四三九
十三	一二、八六四、五九四	一五、一八七
十四	一八、七二〇、四〇二	三八、七四一
十五	二四、四七六、九七一	四四、七八八

新京交通月別乘車人員（昭和十五年度）

市内バス　月別	人員
一月	一、六三一、〇四八人
二月	一、五〇六、二六九
三月	一、六七七、六五六
四月	一、九六九、〇五七
五月	二、〇四五、九七一
六月	二、〇二六、三七二
七月	一、九六四、五〇一
八月	二、四四七、四七三
九月	二、五八九、五四八
十月	二、〇七六、九五九
十一月	二、六七一、六二三
十二月	一、八九〇、四九四
計	二四、四七六、九七一

觀光バス　月別	日語	滿語	計
一月	九七七	—	九七七
二月	一、二一七	—	一、二一七
三月	三、五〇五	—	三、五〇五
四月	四、六四一	—	四、六四一
五月	四、一四七	二二	四、一六九
六月	二、二〇七	八〇	二、二八七
七月	五、四七七	一九	五、四九六
八月	九、五六三	二〇三	九、七六六
九月	七、六六二	二七五	七、九三七
十月	二、六九五	二一七	二、九一二
十一月	—	—	—
十二月	一、四七三	二五四	一、七二七
計	四三、六一八	一、〇七〇	四四、六八八

奉天市内バス累年乘客人員

（奉天交通）

昭和十年	三一、五八五、九七三
同　十一年	三一、八九三、四六三
同　十二年	三一、一三四、四六七
同　十三年	三四、八二八、九五三
同　十四年	四六、六四〇、四四三
同　十五年	四一、七八二、三二七

昭和十六年（六月末迄）	三三、五九二、三七九

奉天電車累年乗客人員（奉天交通）

昭和九年	六、一二七、七八四
同十年	七、七八八、八九六
同十一年	八、三三三、七五七
同十二年	一〇、四五七、一八五
同十三年	一六、四八六、六八三
同十四年	二九、八七三、三一九
同十五年	二九、六四五、八九一
同十六年（六月末迄）	一三、九七四、八八七

奉天市内バス月別乗客人員（奉天交通）

月別	自動車	電車	計
一月	三、一八〇、一二四	二、一三九、三九六	五、三一九、五二〇
二月	三、〇二九、二九五	二、二五一、八六五	五、二八一、一六〇
三月	三、四九四、五九七	二、六七六、七八〇	六、一七一、三七七
四月	三、五一六、一一九	二、六八八、七二七	六、二〇四、八四六
五月	三、五六〇、九九四	二、六六三、八五九	六、二二四、八五三
六月	三、五五三、三一八	二、五六二、一九八	六、一一五、五一六
七月	三、六三八、五五四	二、七八三、九七三	六、四二二、五二七
八月	三、七三九、五二〇	二、六五六、〇七七	六、三九五、五九七
九月	三、六九五、七四六	二、五五七、三七九	六、二五三、一二五
十月	三、五九二、四八九	二、四六五、五六〇	六、〇五八、〇四九
十一月	三、三七〇、四三一	二、一五七、一二一	五、五二七、五五二
十二月	三、四一二、一四一	二、〇四三、九五六	五、四五六、〇九七
計	四一、七八二、三三七	二九、六四五、八九一	七一、四二八、二二八

奉天観光バス累年乗客人員（奉天交通）

昭和九年（康徳元年）	一、四二五
同十年（同二年）	二、〇八三
同十一年（同三年）	三、七七九
同十二年（同四年）	四、六八五
同十三年（同五年）	一四、一四六
同十四年（同六年）	三五、一三〇
同十五年（同七年）	六二、五三五
同十六年（同八年）（六月末迄）	三七、三五八

奉天観光バス康徳七年度乗客人員（奉天交通）（昭和十五年度）

三月	四、〇七九
四月	四、〇九五
五月	五、九八六
六月	六、二六七
七月	六、九一九
八月	八、九一八
九月	九、六五三
十月	八、六六二
十一月	五、〇四四
十二月	二、九一三
計	六二、五三五

撫順市内バス月別乗客人員（奉天交通）（昭和十五年度）

一月	三三三、六三五
二月	一九五、一七六
三月	三七二、一二〇
四月	三六五、五五一
五月	三四〇、九二一
六月	三五四、一七八
七月	三三三、五四三
八月	三〇八、八二三
九月	三〇二、七〇八
十月	三二四、九六七
十一月	三三八、五六七
十二月	三五一、三六三
計	三、六〇八、五一九

撫順観光バス月別乗客人員（奉天交通）（昭和十五年度）

三月	一、八六一
四月	二、九二五
五月	三、〇四四
六月	二、四七二
七月	二、〇七六
八月	三、六七四
九月	三、五三六
十月	三、六七六
十一月	一、六六二
十二月	四三一
計	二五、三五七

撫順市内タクシー月別乗車人員（奉天交通）（昭和十五年度）

一月	三〇、六一〇
二月	二四、五三九
三月	二四、〇二八
四月	三一、八六三
五月	三〇、九三三
六月	二六、一八六
七月	二〇、六二四
八月	二三、〇六六
九月	一九、二〇六
十月	一九、〇五二
十一月	二一、〇一〇
十二月	二一、〇九〇
計	二九三、一八五

郊外バス月別乗客人員（奉天交通）（昭和十五年度）

一月	一六、一一六
二月	一〇、九三五
三月	九、五七九
四月	七、三三九
五月	六、七七一
六月	七、七三一
七月	一一、〇五六
八月	六、三三六
九月	一四、二七二
十月	一三、一三九
十一月	九、九八一
十二月	一九、一一三
計	一三三、三六七

鐵嶺バス月別乗客人員（奉天交通）（昭和十五年度）

一月	一三、六七一
二月	九、六三七
三月	一〇、五四九
四月	九、三六八
五月	八、五四四
六月	八、〇二六
七月	八、九六〇
八月	八、五五六
九月	一一、九三五
十月	一二、六一九
十一月	一三、八七五
十二月	一八、三三五
計	一三三、〇四五

興京バス月別乗客人員（奉天交通）（昭和十五年度）

一月	九、一九九
二月	七、九二〇
三月	九、四四八
四月	八、八六九
五月	一〇、五九九
六月	八、四二三
七月	九、二三五
八月	八、〇〇二
九月	一〇、三五四
十月	九、五四四
十一月	一三、五七一
十二月	一八、三〇〇
計	一三三、四六二

哈爾濱交通累年乗客人員

	電車	自動車	観光バス
昭和十年	一六、三五四、二七九	一三、三七四、五八八	—
同十一年	一六、八三八、四三八	一三、六五一、三七七	二、五五七
同十二年	一六、五三七、六四四	一五、七五六、九八四	二、九〇八
同十三年	二〇、八八〇、八一三	一六、〇九五、九七〇	五、八九七
同十四年	三〇、七二四、四九四	一八、五八四、〇二七	二一、六七四
同十五年	三六、二九二、一二五	二三、四四三、三七五	四九、九七四

哈爾濱交通月別乗客人員（昭和十五年度）

	電車	自動車	観光バス	合計
一月	二、四五三、二七七	一、一五一、六八三	—	三、六〇四、九六〇
二月	二、五〇七、七四三	一、三三九、三四〇	—	三、八四七、〇八三
三月	二、八四〇、七〇一	一、六四七、六五九	二、〇八九	四、四九〇、四四九
四月	三、二四八、四二七	一、八九三、〇三三	三、八三八	五、一四五、二九八
五月	三、五四九、二六二	二、三五三、九九一	四、六三三	五、九〇七、八八六
六月	三、三二二、五五二	二、二五〇、五〇四	五、一三一	五、五七八、一八七
七月	三、五七九、五九三	二、五一二、二〇五	五、〇五一	六、〇九六、八四九
八月	三、四三一、二〇四	二、七八一、二三四	九、九〇〇	六、二二二、三三八
九月	三、二六〇、三二七	二、六〇八、五八五	九、一四一	五、八七八、〇五三
十月	三、三三四、六六九	一、九六一、六一七	六、二三四	五、三〇二、五二〇
十一月	二、六〇七、七六六	一、四九九、四七四	二、六八四	四、一〇九、九二四
十二月	二、一八七、六〇五	一、四三四、〇六〇	一、二七三	三、六二二、九三八
合計	三六、二九二、一二五	二三、四四三、三七五	四九、九七四	五九、七八五、四七四

東吉林交通累年乗客人員

昭和十二年	一、四九三、六四一
同十三年	一、六九五、八〇九
同十四年	二、一六六、六〇三
同十五年	二、九四八、三五八

東吉林交通月別乗車人員（昭和十五年度）

一月	一九三、〇九九

月	人員
二月	二一八、三五九
三月	二九八、九八四
四月	二六四、九一八
五月	二一〇、三五六
六月	二三五、七三三
七月	二〇二、四九四
八月	二一五、二三四
九月	二六三、八七五
十月	二七六、九三五
十一月	二八四、五七九
十二月	三一三、八〇二
合計	二、九四八、三五八

吉奉交通月別乗車人員

（昭和十五年度）

月	人員
一月	一八、九二二
二月	一六、一三六
三月	一七、七二六
四月	一三、二三六
五月	一三、三七九
六月	一〇、八二〇
七月	一〇、七三九
八月	一一、八三一
九月	一四、〇九二
十月	一三、三五五
十一月	一三、八一五
十二月	一六、九九六
合計	一七〇、一六〇

滿洲交通月別乗客人員

（昭和十五年度）

月	人員
一月	四一、四三九
二月	四一、〇八九
三月	三三、三五四
四月	三三、三九〇
五月	二九、七〇六
六月	一八、九四二
七月	二六、六〇四
八月	三三、六九六
九月	二八、六九六
十月	三〇、八八六
十一月	三二、五七三
十二月	四二、四八四
合計	三七九、八五八

奉北交通月別乗客人員

（昭和十五年度）

月	人員
一月	一八一、一七三
二月	一四五、四九八
三月	一七六、二〇九
四月	一六七、九八六
五月	一五八、五六六
六月	一六五、七七二
七月	一六六、六四四
八月	一五一、七三六
九月	一六六、九〇九
十月	一七三、六八六
十一月	一九七、三五七
十二月	二三八、五三一
合計	二、〇八九、〇六六

奉南交通月別乗客人員

（昭和十五年度）

月	人員
一月	三三九、一三五
二月	三六六、〇四七
三月	三五四、一六四
四月	三九〇、九五三
五月	四五八、五三九
六月	五〇三、六〇〇
七月	四二三、七九二
八月	三六〇、六四一
九月	四〇〇、六九〇
十月	三八二、三八四
十一月	三八三、二一七
十二月	三九〇、六九〇
合計	七五三、六五二

遼西交通月別乗客人員

（昭和十五年度）

月	人員
一月	一三、三三六
二月	一〇、〇七三
三月	一三、六九八
四月	一四、一三三
五月	一三、六六八
六月	一四、七一〇
七月	九、五三三
八月	七、七八三
九月	一四、四四三
十月	一四、八〇六
十一月	一四、七〇五
十二月	二〇、九七六
合計	一六〇、七五三

大連都市交通累年乗客數

年	自動車	電車
昭和十年	八、一〇二、〇八九	三九、六九九、三三六
同十一年	一〇、三六〇、五五七	三九、七七八、〇六四
同十二年	一一、一六五、七一八	四二、二〇九、二六〇
同十三年	一三、三六〇、二六九	四八、五二一、九六六
同十四年	一七、〇一六、三五八	五七、四二三、八六二
同十五年	一九、九六六、八五五	七一、四三四、八一九

大連都市交通觀光バス累年乗客數

年	旅順戰跡	大連市内觀光（昭和十二年創始）
昭和十年	八、五三四	—
同十一年	一六、五〇四	—
同十二年	二〇、〇四七	二、三三三
同十三年	三二、一三一	四、五〇一
同十四年	五四、七六八	八、四〇一
同十五年	六八、八〇八	六、九四一

大連都市交通月別乗車人員

（昭和十五年度）

年月	電車	郊外線	市内線	戰蹟	市内觀光	總計
昭和十五年四月	五、九三二、四六九	五一三、五三三	一、一九八、〇二四	九、三三一	一、四〇七	一、七五三、四五五
同五月	六、二六九、二四三	五〇六、九七二	一、二五七、七二六	八、五六〇	一、四六〇	一、八一八、四七八
同六月	五、九九九、五四二	四四六、二八九	一、三二八、六二三	六、六三五	一、一三九	一、八二五、六七三
同七月	六、五八五、一七六	四八五、九三三	一、四八三、五三九	五、五八三	一、〇一一	二、〇三五、四七八
同八月	五、八六二、一一三	五一六、八二一	一、四五一、一九九	九、二四三	一、九一〇	二、〇〇九、七七四
同九月	六、二七八、六四六	四七九、九八三	一、三〇〇、二一七	七、五四九	一四	一、八〇三、一九三
同十月	六、〇六二、六九六	五〇四、一五〇	一、二〇七、五四〇	七、七一九	—	一、七三三、三一一
同十一月	五、一八一、八三三	五一三、〇〇四	一、〇七二、九〇五	三、七八九	—	一、六四七、九四五
同十二月	五、七八五、六九二	五六〇、四五七	一、〇五一、〇五二	二、五四七	—	一、六六六、六四一
同十六年一月	五、八一七、五一〇	五三三、六四八	八六四、一一九	二、〇四九	—	一、四八一、三六八
同二月	五、二九〇、三三四	五一〇、七六四	七三一、六五三	一、七九二	—	一、三四四、八二九
同三月	六、三六九、五六五	六三七、二七七	八一一、四三〇	四、〇二一	—	一、五六八、三三六
合計	七一、四三四、八一九	六、二〇八、八三〇	一三、七五八、〇二五	六八、八〇八	六、九四一	二〇、六六七、二八九

華北交通自動車旅客月別輸送人員

（昭和十五年度）

月	人員
四月	七八一、八七八
五月	七八三、〇三三
六月	六八三、六三九
七月	五〇〇、三三六
八月	四四四、六〇七
九月	六六八、一一五
十月	八五一、六六八
十一月	八四九、三二二
十二月	八三〇、四五一
一月	八一五、六六六
二月	八一二、七五五
三月	九八七、〇六六
合計	九、二九五、六二七人
（收入）	四、二三三、六四九圓
（昭和十四年度）	六、六八八、七三八人
（收入）	九、二三九、五九三圓

・會社創立後の分・

（華北交通株式會社資業局調査）

蒙疆汽車公司月別乗客數

（昭和十五年度）

年月	乗合自動車	觀光バス
昭和十五年一月	三五七、九三六	八三六
同二月	一八八、四七三	五七三
同三月	三五九、〇五七	七七六
同四月	三三四、一四一	七七〇

昭和十五年五月	四三六、四一〇	八三六
同　六月	三八〇、六二九	八三三
同　七月	三五三、九一九	八六三
同　八月	三九八、三五九	八〇六
同　九月	四一四、三七三	九九〇
同　十月	四一五、七三三	九五九
同　十一月	四三三、一三五	六七二
同　十二月	四三三、四九四	五九九
合計	四、三六六、六二九	九、五一三
昭和十六年一月	四一三、六六〇	五五六
同　二月	三八二、四四三	五七三
同　三月	四三三、〇五五	七五四
同　四月	四六四、〇六四	八七〇
同　五月	四九〇、八〇一	九五九
同　六月	四三三、一五一	八三四

北京特別市公用管理局累年乗車人員

	公共汽車	觀光バス
民國二十七年	二、五二一、三三一	三、〇四五
同　二十八年	六、三九一、八〇二	七、〇七五
同　二十九年	一一、二六九、六一七	一三、七六七
同　三十年六月末	五、七〇四、三六二	五、一六七

（觀光バスは二十七年五月十日開始）

北京特別市公用管理總局月別乗車人員

（民國二十九年度 昭和十五年度）

一月	五五四、四五〇
二月	六五九、九〇一
三月	八三二、八九一
四月	九九一、五九二
五月	九九三、三六三
六月	一、一七四、七一四
七月	一、一九七、四九八
八月	一、二六三、三〇一
九月	一、一三一、一八〇
十月	八八六、八六三
十一月	八一三、三八三
十二月	八〇〇、五〇八
合計	一一、二六九、六一七

天津交通累年乗客人員

民國二十七年（昭和十三）	五、三三三、九三三
同　二十八年（同　十四）	九、九三〇、一一九
同　二十九年（同　十五）	一三、五九八、七八一

天津交通月別乗客人員

（昭和十五年度）

一月	八九〇、八七三
二月	九三三、六四三
三月	九一七、八三三
四月	九一〇、一七六
五月	九六七、一五三
六月	九三六、八七六
七月	一、〇五三、一六五
八月	一、一三七、九二九
九月	一、一九〇、一四一
十月	一、二三九、四三七
十一月	一、二〇〇、五七四
十二月	一、三五一、九八三
合計	一三、五九八、七八一

華中鐵道自動車旅客月別輸送人員

（昭和十五年度）

昭和十五年四月	一〇七、五三〇
同　五月	一一四、四〇三
同　六月	一三六、三七三
同　七月	一三一、七六三
同　八月	一九〇、五六九
同　九月	一七八、二六九
同　十月	一七一、八五一
同　十一月	二一三、八五七
同　十二月	二四〇、八八四
昭和十六年一月	二六四、三五五
同　二日	二三三、八六〇
同　三月	三一三、三一六
（合計）	二、二八八、〇六〇
（昭和十四年度合計）	四五五、〇一六（但五月より翌三月迄）

華中都市自動車月別乗車人員

（昭和十五年度）

	普通乗車	觀光バス
昭和十五年四月	二、八七八、七五五	六九〇
同　五月	二、六六七、二九三	五三六
同　六月	二、六八四、九九二	四七三
同　七月	二、六四四、一三一	一八六
同　八月	二、四八六、七八九	四九八
同　九月	二、七八七、六一三	四三四
同　十月	二、九四三、四一五	六六四

同　十一月	三、〇四三、六四五	四三三
同　十二月	三、〇一九、六三四	二八〇
同　一月	三、一二三、七六九	三六八
同　二月	三、〇〇一、七四五	三三一
同　三月	三、一九三、四六一	三六〇
合計	三四、四五三、二三三	五、一八〇
（昭和十四年度計）	一八、〇三五、〇九七	—

市内乗物利用者調

（昭和十五年度・推定）

都市／乗物	バス	電車	タクシー	馬車	人力車	其他
大連	一九、九六六、八五五	七一、四三四、八一九	・未調査	・未調査	・未調査	（觀光バス）七五、七四九
鞍山	三一五、五〇〇	—	二七一、一八〇	四、六〇〇、〇〇〇	三、四一五、〇〇〇	—
奉天	四一、七八二、三三七	二九、六四五、八九一	二、九六七、一一三	二六、七六五、八八〇	七三、三〇〇、五一〇	（觀光バス）六三、五三五
撫順	三、六〇八、五一九	・未調査	二九三、一八五	—	—	（觀光バス）二五、三四七
安東	二一九、五〇〇	—	一〇〇、五〇〇	四、三三〇、〇〇〇	一〇、三五〇、〇〇〇	—
通化	—	—	一〇八、〇〇〇	一、三三三、〇〇〇	八八五、六〇〇	—
四平	五九九、八二五	—	・未調査	・未調査	・未調査	—
新京	二四、四七六、九七一	—	・未調査	・未調査	・未調希	（觀光バス）四四、六八八
吉林	一、九四三、〇〇〇	—	三三一、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	五、三〇〇、〇〇〇	（觀光バス）一、三〇〇
延吉	三二八、五〇〇	—	一八、三五〇	九一、三五〇	一八二、五〇〇	—
圖們	—	—	七、八〇〇	九一、二五〇	七三、〇〇〇	—
羅津	・未調査	—	六一、二〇〇	—	—	—
牡丹江	三、四二八、二〇〇	—	四四六、四〇〇	四、五〇八、七〇〇	四、六〇七、八二〇	—
佳木斯	一、一六八、〇〇〇	—	一〇六、〇〇〇	一、二〇一、〇〇〇	一、八四六、〇〇〇	—
哈爾濱	三三、四四三、三七五	三六、三九二、一二五	一、五四一、七六〇	二、五八六、四二三	一〇、四〇一、〇四〇	（ボート）七五、三六〇 （觀光バス）四九、九七四
齊々哈爾	六五一、〇〇〇	—	二九、〇〇〇	九三三、〇〇〇	五六〇、〇〇〇	—
黒河	六四、八〇〇	—	—	五七六、〇〇〇	—	—
滿洲里	—	—	・未調査	・未調査	・未調査	—
錦州	七一四、七一三	—	二八、三三〇	六三三、五四五	六〇一、五二〇	—
營口	二、九三五、六〇八	—	一四、九〇〇	四二、〇〇〇	五、一八八、〇〇〇	—
承德	一六三、四〇〇	—	八、九〇〇	二八、四〇〇	七一三、六〇〇	（觀光バス）三、四〇〇
山海關	—	—	—	—	五五三、〇〇〇	（驢馬）一〇、八〇〇

・東亞旅行社各地案内所調査

唐山	—	•未調査	—	—	五,四七五,〇〇〇	—
天津	一三,五九八,七八一	•未調査	•未調査	—	•未調査	—
北京	二,三八九,六一七	•未調査	四六八,〇〇〇	一九,九四〇	二,〇一六,〇〇〇	（豆タク） 三六,〇〇〇
保定	—	—	—	—	六,三一〇,一三三	—
石門	—	—	—	—	六〇三,五〇〇	—
太原	—	—	四,八〇〇	—	一,七一〇,〇四〇	—
張家口	二,五〇〇,〇〇〇	—	•未調査	•未調査	•未調査	—
大同	五四九,六〇〇	—	一〇,八〇〇	一一,五三〇	一,四四〇,〇〇〇	—
厚和	一,一〇〇,〇〇〇	—	五〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二,〇〇八,〇〇〇	—
済南	二,〇六六,二〇〇	—	五一,七〇〇	二,五〇〇	一五,三六三,四〇〇	—
青島	四,三八〇,〇〇〇	—	•未調査	六五五,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇	—
徐州	七五,〇〇〇	—	—	四五〇,〇〇〇	一,一三八,五〇〇	—
開封	六一〇,〇〇〇	—	—	一四,六〇〇	一八,三五〇,〇〇〇	—
上海	一八,三六三,八五三	一,八三六,五一六	•未調査	—	一〇,八二四,五〇〇	—
南京	七,三五一,七三三	—	六九三,五〇〇	二,七三七,九〇〇	三,三八五,〇〇〇	—
蘇州	三五〇,〇〇〇	—	三六,〇〇〇	八〇,〇〇〇	九,八〇〇,〇〇〇	—
杭州	八一四,〇〇〇	—	三一,五〇〇	—	七,八〇〇,〇〇〇	（遊艇） 一一,〇〇〇
鎮江	—	—	—	—	三,八一六,九〇〇	—
無錫	五四八,四〇〇	—	—	—	七,五五三,〇〇〇	—
漢口	三,七六五,〇〇〇	—	四八,三二七	三一,六〇〇	七,六五八,〇〇〇	—

宿泊の部

滿鐵經營旅館累年宿泊人員

年度	客室數	人員	延人員
昭和七年	三二六	三一,八六五	七五,五〇三
同八年	三二三	三〇,六五六	九九,九二六
同九年	三五八	三七,五〇四	一〇九,五七五
同十年	三五九	四〇,五八〇	一〇六,八六五
同十一年	四三三	四三,一一三	一〇四,四二八
同十二年	四三六	四三,三一四	一〇九,三七五
同十三年	—	四八,〇四一	一三三,二九九
同十四年	—	五八,三〇七	—
同十五年	—	七一,九七一	—

（鐵道總局調査局資料課調）

滿鐵經營旅館別宿泊人員

（昭和十五年度）

大連	一三,八二一
旅順	一,〇三三
星ケ浦	三,一八二
星ケ浦分館	三一五
奉天	八,四六六
新京	五,二六五
壺蘆島	九四五
齊々哈爾	三,五五五
哈爾濱	七,六〇九
牡丹江	七,八五〇
羅津	五,五九〇
五龍背	六,〇一三
興城	四,〇一九
阿爾山	四,三三〇
合計	七一,九七一

（鐵道總局調査局資料課調）

滿鐵經營旅館月別宿泊人員

（昭和十五年度）

四月	五,七五七
五月	六,三三九
六月	六,〇九三
七月	六,三四九
八月	六,七四八
九月	六,一五三
十月	六,四五一
十一月	五,四九六
十二月	五,七〇七
一月	五,一六二
二月	五,一九二
三月	六,五三四
合計	七一,九七一

（鐵道總局調査局資料課調）

主要地日本旅館累年宿泊人員（推定）

本表は延人員を調査したるものなるも、各地算出者に於て徹底き缺を大都市に比し過少なる數字を示したるは實宿泊人員なり。

尚本表は各鐵道會社直營の旅館を除外せり。

都市＼年度	昭和十	昭和十一	昭和十二	昭和十三	昭和十四	昭和十五
大連	七〇,三三九	六九,三三七	七一,九〇三	八六,二六九	一一六,一三五	—
鞍山	二三,四〇〇	二八,七〇〇	三三,四五〇	四七,八九〇	五三,八九〇	六五,〇〇〇
奉天	一四二,〇四七	二一六,八五七	二五四,五七三	四九九,六一六	五五九,二五〇	六三一,八五六
撫順	二三,四〇〇	二六,八〇〇	二八,六〇〇	三一,三〇〇	三四,九〇〇	二七,四三〇
營口	六,四一五	八,一二〇	九,五五七	一九,〇七〇	二〇,一七三	三一,七三〇
安東	二六,七九五	二七,〇六一	三一,五七〇	四六,一四六	六五,五〇〇	五八,三五八
通化	—	—	—	三三,三五〇	五六,三〇〇	八三,九五〇
四平	四,〇一八	四,六〇三	五,二七七	九,七七一	一〇,九〇三	—
新京	九五,六六三	一〇七,七五一	一六三,九八〇	一七三,一六〇	一八二,五三〇	—
吉林	—	—	四六,三一八	四七,〇九六	五四,三一六	五三,〇二四
延吉	一七,五〇〇	二一,〇〇〇	二四,〇〇〇	二六,五〇〇	三一,〇〇〇	三三,二〇〇
圖們	二七,五〇〇	三〇,二五〇	三三,二七五	三六,六〇三	三六,〇〇〇	四六,四〇九
羅津	九,五〇〇	九,七〇〇	一〇,五〇〇	一一,〇〇〇	一三,五〇〇	一四,三二八
清津	一九,四三三	二五,五〇一	三三,四一六	五四,四九九	—	—
牡丹江	八六,四〇〇	九九,三六〇	一三〇,九六〇	一三六,二四〇	一四二,一二八	一五一,六三三
佳木斯	—	—	二一,七〇〇	八九,〇〇〇	一一三,〇〇〇	一四三,〇〇〇
哈爾濱	二三,八五六	一三,〇八七	一五,二五三	二四五,三六〇	一,〇六三,二三〇	一,〇五九,一六七
齊々哈爾	四三,〇〇〇	五五,一〇〇	六一,三〇〇	七六,七〇〇	八三,六〇〇	八四,一〇〇
黒河	二一,九〇〇	二七,〇〇〇	二九,六〇〇	三一,八〇〇	三一,九〇〇	三四,一〇〇
滿洲里	一,六五八	二,一六〇	一,九四七	一,八五〇	—	—
錦州	一七,二五〇	二〇,二三七	三一,三〇五	四一,七六二	五四,三八八	七二,四九五
承德	二〇,〇〇〇	四三,二〇〇	四六,八〇〇	五四,〇〇〇	五六,九〇〇	五七,四〇〇
山海關	一三,五八二	一一,九三三	九,一六四	一一,六〇四	一六,三七一	二三,七九六
唐山	—	—	—	四,三三三	八,〇九九	一一,六三三
天津	一七,〇四〇	—	二四,三七五	一六九,五〇〇	二三七,七三四	三四七,八二九
北京	六,六三一	—	一六,〇一三	五八,九八六	—	二三七,四四一
保定	—	—	—	—	三〇,六六〇	三六,四〇〇
石門	—	—	—	七〇,四〇〇	四三,二〇〇	—
太原	—	—	—	—	三〇,六八四	四四,五三一
張家口	—	—	—	—	六五,四九五	八〇,一二五
大同	—	—	一,三三四	二〇,一七四	二八,六三四	二四,九〇一
厚和	—	—	一,〇〇〇	五,〇〇〇	二五,〇〇〇	二六,三〇〇
濟南	—	三七,〇〇〇	—	七五,〇〇〇	八〇,五〇〇	一五六,七四三
徐州	—	—	—	—	—	五二,五三七
開封	—	—	—	—	一〇,八〇〇	二七,九〇〇
上海	—	—	—	—	二〇一,六〇〇	二三五,〇〇〇
南京	—	—	—	—	一四六,〇〇〇	一四九,五〇〇
蘇州	—	—	—	六,〇〇〇	七,五〇〇	一〇,〇〇〇
鎮江	—	—	—	—	—	二,四〇〇
無錫	—	—	—	—	四,〇〇〇	四,八二一
杭州	—	—	—	四,八六〇	八,九三〇	—
漢口	—	—	—	—	—	四三,二〇〇

主要地旅館月別宿泊人員

（昭和十五年度・推定）

◇鞍山

月別	日本旅館	滿人旅館
四月	六,六〇〇	三〇,三〇〇
五月	五,八〇〇	一九,〇〇〇
六月	四,一〇〇	一六,五〇〇
七月	五,五〇〇	一一,五〇〇
八月	五,五〇〇	一三,〇〇〇
九月	四,八〇〇	一一,〇〇〇
十月	四,一〇〇	一三,〇〇〇
十一月	五,八〇〇	七,五〇〇
十二月	七,三〇〇	六,五〇〇
一月	六,八〇〇	五,〇〇〇
二月	四,六〇〇	九,〇〇〇
三月	四,二〇〇	二七,三〇〇
合計	六五,〇〇〇	一六七,五〇〇

◇奉天

月別	日本旅館	朝鮮旅館	滿人旅館
四月	五三,九七三	一七,九〇五	四〇一,三三九
五月	五七,五六二	一八,七三五	四〇二,九八五
六月	五八,七八一	一九,九一七	三八〇,四六二
七月	五四,四〇八	一八,九七八	三七一,四一三
八月	五六,九一七	一六,三一八	三三〇,三二四
九月	五五,〇四八	一七,〇六二	三五一,六三四
十月	五六,七〇三	一四,三三八	三九八,七九〇
十一月	五一,三〇三	一六,五一七	四〇一,二〇〇
十二月	五〇,三二一	一六,三八一	三六〇,三〇九
一月	四三,三三八	一四,七三八	三五一,三〇四
二月	四四,〇八七	一五,八九一	三五〇,〇三〇
三月	五一,五三七	一七,七八二	三六〇,三五三
合計	六三三,八五六	二〇四,四三三	四,四六九,八五二

（註）日系旅館は組合加入のみ（滿人は下宿業全部含む）

◇營口

月別	日本旅館	朝鮮旅館	滿人旅館
四月	一,九五〇	九四〇	二,五三五
五月	二,〇五〇	一,〇七〇	二,四七〇
六月	一,九二五	九六〇	二,四五〇
七月	一,八六〇	八三〇	二,三三〇
八月	一,七三〇	七六〇	二,三五〇
九月	一,九〇〇	七三〇	二,三七〇
十月	二,一〇〇	八七〇	二,七三〇
十一月	二,〇七五	九四〇	二,〇三〇
十二月	一,九八〇	八五〇	二,二六五
一月	一,四六〇	九〇〇	二,五五〇
二月	一,六五〇	九六〇	二,四五〇
三月	二,〇五〇	九五〇	二,七五〇
合計	二二,七三〇	一〇,七六〇	二九,二七〇

◇安東

月別	日本旅館	朝鮮旅館	滿人旅館
一月	三,六四〇	一,一七八	七,八五〇
二月	四,二八九	一,三六六	八,〇八〇
三月	五,〇七三	一,五四五	七,九六〇
四月	五,五二一	一,五四五	七,八七〇
五月	五,四七七	一,四三六	八,三一五
六月	四,六七七	一,二九五	八,〇二七
七月	四,五二九	一,一二四	八,二一八
八月	四,六五〇	一,二六六	七,九七〇
九月	四,九七九	一,三五六	八,一三〇
十月	五,三九九	一,三九八	七,七五八
十一月	五,四二四	一,四三三	八,二三〇
十二月	四,七一〇	一,三一一	七,二五〇
合計	五八,三五八	一六,二七二	九五,四四八

◇通化

月別	日本旅館	朝鮮旅館	滿人旅館
四月	七,二九〇	四,二五〇	二,九六〇
五月	六,四五〇	三,九八〇	二,八二〇
六月	六,八一〇	四,〇六〇	二,二五〇
七月	五,九七〇	三,三三〇	二,七八〇
八月	六,二三〇	三,六八〇	三,一五〇
九月	七,五四〇	四,二三〇	二,四三〇
十月	八,三三〇	五,一三〇	三,二三〇
十一月	八,六九〇	五,二六〇	二,七六〇
十二月	九,〇二〇	五,三八〇	一,一六〇
一月	六,〇五〇	四,一六〇	二,二五〇
二月	五,二八〇	四,六七〇	一,九八〇
三月	六,三〇〇	五,一七〇	一,七五〇
合計	八三,九五〇	五三,二八〇	二九,五〇〇

◇吉林

月別	日本旅館	朝鮮旅館	滿人旅館
四月	三,七五〇	二,四一〇	四,八七〇
五月	三,九四二	一,九七八	四,四〇〇
六月	四,八九〇	三,〇〇〇	四,七八〇
七月	四,五七二	二,四八七	五,五〇〇
八月	四,四〇〇	二,七八〇	五,〇〇〇
九月	四,三〇〇	二,九〇〇	五,一〇〇
十月	四,八五三	一,九九〇	四,三〇〇
十一月	四,八三〇	二,〇一〇	四,九八〇
十二月	四,九三〇	二,一一四	四,五七〇
一月	四,二〇〇	二,〇〇一	四,二九〇
二月	四,三九〇	二,二一四	四,四七〇
三月	三,九七八	二,四三〇	四,三六〇
合計	五三,〇三四	二八,三一四	五八,六四〇

◇延吉

月別	日本旅館	朝鮮旅館	滿人旅館
四月	三,〇〇〇	五,八〇〇	六,一〇〇
五月	三,三〇〇	六,五〇〇	六,八〇〇
六月	三,四〇〇	七,一〇〇	七,四〇〇
七月	三,三〇〇	六,七〇〇	七,一〇〇
八月	三,一〇〇	六,五〇〇	七,三〇〇
九月	二,九〇〇	六,三〇〇	七,七〇〇
十月	三,一〇〇	六,六〇〇	七,四〇〇
十一月	二,八〇〇	五,九〇〇	六,五〇〇
十二月	二,四〇〇	五,三〇〇	六,三〇〇
一月	二,〇〇〇	五,〇〇〇	六,四〇〇
二月	一,七〇〇	四,八〇〇	四,八〇〇
三月	二,四〇〇	五,七〇〇	五,三〇〇
合計	三三,二〇〇	七二,〇〇〇	七九,〇〇〇

◇圖們

月別	日本旅館	朝鮮旅館	滿人旅館
四月	三,七五〇	二,六七〇	五,三五〇
五月	四,五〇〇	二,八八四	五,七五七
六月	四,〇五〇	三,一一四	五,六〇五
七月	四,〇〇〇	三,〇五〇	五,三〇〇
八月	三,四〇〇	二,九八九	五,〇〇〇
九月	三,六七二	二,九三九	五,三二七
十月	三,四八五	二,八七〇	五,〇三〇
十一月	四,〇〇七	二,八一二	四,七〇五
十二月	四,六〇八	三,一四九	五,一〇三
一月	三,六七五	三,五三六	五,八〇五
二月	三,五六二	二,六二〇	四,六〇〇
三月	三,七〇〇	二,二五六	四,八〇〇
合計	四六,四〇九	三四,八六九	六三,三一四

◇羅津

月別	日本旅館	朝鮮旅館
四月	一,一九七	四八五
五月	一,一三七	四二四
六月	一,一三六	四六八
七月	一,一六七	三九八
八月	一,一八九	四一六
九月	一,四〇八	三七八
十月	一,三五四	六三三
十一月	一,二八三	三四六
十二月	一,三五八	六二三
一月	九六九	五二九
二月	八九八	三六三
三月	一,〇九三	四八八
合計	一四,三二八	五,五七〇

◇牡丹江

月別	日本旅館	朝鮮旅館	滿人旅館
四月	一三,一二七	五,六八三	七〇,五三四
五月	一三,三〇七	四,九五六	七三,三一七
六月	一四,三七六	四,三六五	五六,七〇三
七月	一四,八二七	三,九六四	六〇,一八〇
八月	一四,〇八一	三,九三二	四八,九三二
九月	一三,七二〇	四,二〇二	四九,一八四
十月	一三,〇〇二	四,八八六	四一,四八五
十一月	一三,三二七	五,〇七五	四九,八一五
十二月	一一,五三五	四,七二三	五四,四三三
一月	一一,七八〇	三,二四二	六八,八六九
二月	一一,八〇〇	三,四四〇	七一,一七三
三月	一一,〇八一	四,〇八四	九〇,三五八
合計	一五三,八五三	五一,五五三	七三三,八八〇

◇哈爾濱

月別	日本旅館
一月	七四,七五四
二月	七三,三四八
三月	八二,一一三
四月	九五,一一五
五月	一〇四,〇四七
六月	九八,七二八
七月	八四,九九三
八月	八八,六八六
九月	八九,三三八
十月	八七,三七六
十一月	八〇,七〇九
十二月	八一,一〇三
合計	一,〇三九,一六七

◇齊齊哈爾

月別	日本旅館	朝鮮旅館	滿人旅館
四月	六,一〇〇	一〇一	一五,五〇〇
五月	七,三〇〇	一五〇	一八,四〇〇
六月	七,四五〇	一六三	二三,七〇〇
七月	八,〇五〇	一七五	二三,五〇〇
八月	八,一三〇	一七八	二六,一〇〇

月別			
九月	八、二五[illegible]	一七[illegible]	二七、三〇〇
十月	七、九四〇	一三〇	一九、一〇〇
十一月	六、八三〇	一〇四	一一、五〇〇
十二月	六、三〇〇	一〇一	五、六〇〇
一月	六、一二〇	八八	四、九〇〇
二月	五、八〇〇	七四	六、七〇〇
三月	五、八三〇	七九	一一、七〇〇
合計	八四、一〇〇	一、五〇三	一九三、〇〇〇

◇黒河

月別	日本旅館	朝鮮旅館	満人旅館
四月	二、八〇〇	一、一〇〇	一〇、六〇〇
五月	三、三〇〇	一、三〇〇	一三、五〇〇
六月	三、七〇〇	一、七〇〇	一六、八〇〇
七月	三、八〇〇	一、八〇〇	一七、〇〇〇
八月	三、九〇〇	二、六〇〇	一九、〇〇〇
九月	三、五〇〇	一、〇〇〇	一六、〇〇〇
十月	四、一〇〇	一、一〇〇	一八、〇〇〇
十一月	二、三〇〇	九〇〇	一〇、五〇〇
十二月	一、九〇〇	八〇〇	一一、〇〇〇
一月	一、七〇〇	七〇〇	一三、三〇〇
二月	一、六〇〇	四〇〇	八、六〇〇
三月	一、五〇〇	六〇〇	八、〇〇〇
合計	三四、一〇〇	一四、〇〇〇	一六三、三〇〇

◇錦州

月別	日本旅館	朝鮮旅館
一月	三、八一三	二九八
二月	四、五六六	二六三
三月	五、四七八	三〇九
四月	五、五〇一	二八七
五月	六、三二六	四〇六
六月	六、九六四	四〇六
七月	六、四八八	三三一
八月	六、八六六	三七五
九月	六、三六五	三〇三
十月	六、八四四	三四七
十一月	六、六七九	三三七
十二月	六、六六六	三一〇
合計	七二、四九五	三、八五一

◇承徳

月別	日本旅館	朝鮮旅館	満人旅館
四月	四、九六〇	一五四	六、五三三
五月	五、三三五	一六三	六、九九八
六月	五、三三三	一八一	七、四三一
七月	五、五〇七	一九〇	七、三三九
八月	五、二三〇	一七九	七、〇三四
九月	五、六三四	二〇三	七、一三五
十月	五、五四〇	一九四	七、二四〇
十一月	五、〇一五	一四一	六、九九〇
十二月	四、一〇四	一一三	六、三三六
一月	三、八二一	一九五	七、三三七
二月	三、一五九	八三	七、二一〇
三月	三、八七三	一〇六	六、三六八
合計	五七、四〇〇	一、九〇〇	八三、九〇〇

◇山海關

月別	日本旅館	朝鮮旅館	満人旅館	外人旅館
一月	一、二二六	七三	九、四一八	二四
二月	一、四五六	六七三	一八、八三四	三六
三月	二、六五四	六九四	四七、三〇三	二八
四月	二、九四六	八六七	二五、〇五九	四六
五月	一、三九三	八〇三	一四、四一〇	三三
六月	一、五六五	七四三	一〇、〇五九	三九
七月	二、一六五	六四六	一〇、三七二	四三
八月	二、〇四五	六四六	九、四三九	三九
九月	一、四九八	八二一	一〇、五三二	四三
十月	二、三六四	七二四	一五、二五八	五一
十一月	一、九一四	六八三	二四、一四四	三五
十二月	二、五六一	七三八	一六、八二三	四三
合計	二三、七九六	八、七〇七	二一一、六五〇	四五八

◇唐山

月別	日本旅館	朝鮮旅館	華人旅館
四月	九三四	四三三	一九、〇一三
五月	九七八	四〇〇	一八、五三二
六月	九四四	三六三	一八、八〇一
七月	九五五	三三五	一七、二九三
八月	九六七	二八五	一七、九〇二
九月	一、二三一	三六四	一六、八八四
十月	一、〇〇〇	三六九	一六、五一六
十一月	一、〇〇二	三六一	一九、七二六
十二月	九三七	三六三	二一、八三三
一月	八三九	三二四	一七、二七〇
二月	八八九	三四八	一七、三四四
三月	九六七	四二八	二三、二四六
合計	一一、六三三	四、三七一	二三四、三五九

◇天津

月別	日本旅館	朝鮮旅館	外人旅館
一月	二四、〇六一	五、五〇一	一、二五〇
二月	二八、一二四	六、六七九	一、二〇〇
三月	三三、八四三	六、〇五一	一、二四〇
四月	三三、八八七	五、五〇七	一、〇五〇
五月	三五、五四四	六、三六九	一、二八〇
六月	二七、五二七	五、〇四二	九五〇
七月	二七、〇一七	三、一八二	一、〇四〇
八月	二五、五七一	三、二八二	一、〇五〇
九月	二四、四一八	三、一一一	九八〇
十月	三〇、三〇五	五、二六九	一、二六〇
十一月	二七、五九六	三、八六七	一、一一〇
十二月	二九、九三七	六、八六八	一、二三〇
合計	三四七、八二九	六〇、四二八	一三、七五〇

◇北京

月別	日本旅館	朝鮮旅館
四月	一三、六九四	一三、九五九
五月	一三、六〇七	一三、八五六
六月	一〇、三六九	一三、七八七
七月	九、一五七	一三、三二八
八月	九、六三二	一三、五五一
九月	一〇、七四〇	一三、五〇二
十月	一一、五〇六	一三、九九八
十一月	九、八〇一	一三、五〇九
十二月	一〇、〇一九	一三、六九一
一月	八、七二三	一一、七七四
二月	九、七九六	一三、六六八
三月	一三、三九一	一三、五七三
合計	一三七、四四一	一五三、一九二

◇保定

月別	日本旅館	朝鮮旅館	華人旅館
四月	一、三九五	三六〇	一四、三五〇
五月	三、三六〇	三四〇	一八、四〇〇
六月	二、五四五	四三五	一三、七〇〇
七月	一、六一〇	三七五	一〇、〇五〇
八月	三、七七〇	三〇〇	一三、三八〇
九月	四、三五〇	五八五	二〇、〇〇〇
十月	五、四三五	五四〇	一九、七四〇
十一月	二、六六五	四四〇	二三、一〇五
十二月	二、三一〇	五一〇	一八、五七〇
一月	二、五六〇	五六〇	一〇、九九五
二月	三、〇三五	四九五	一四、三三〇
三月	三、三六五	五三五	一〇、七三〇
合計	三六、四〇〇	五、四七五	一八七、三三〇

◇太原

月別	日本旅館	朝鮮旅館	華人旅館
四月	四、五三三	一、二六七	四、〇二三
五月	四、七五五	一、三二三	四、〇九八
六月	四、三三五	一、三九五	三、九三七
七月	四、〇九三	一、二二四	三、九九二
八月	三、二五七	一、〇三三	三、八二七
九月	三、〇八五	一、〇二五	三、九七六
十月	三、三九七	一、〇九七	三、二一二
十一月	三、二三五	九三五	三、五一三
十二月	三、三六六	八九五	三、三六五
一月	二、九五七	七二九	三、二九五
二月	三、二九三	八四三	三、六三五
三月	四、二二六	八九九	三、九三三
合計	四四、五三二	三、六八四	四四、七九五

◇大同

月別	日本旅館	朝鮮旅館
四月	二、一〇五	一二四
五月	二、二二五	一四二
六月	二、二〇三	一四七
七月	二、一一七	一七七
八月	二、一六四	一八〇
九月	二、五三三	一九六
十月	一、九一六	一四五
十一月	一、七三六	一三〇
十二月	一、九二七	一一一
一月	一、一九二	一〇三
二月	一、〇八七	九三
三月	一、二八七	七〇
合計	三、五四三	一、六二七

◇厚和

月別	日本旅館	朝鮮旅館	華人旅館
四月	二、〇〇〇	五四〇	九〇〇
五月	二、三〇〇	五六〇	八〇〇
六月	三、一〇〇	五九〇	一、一〇〇
七月	三、八〇〇	六一〇	一、三〇〇
八月	三、〇〇〇	六二〇	一、一〇〇
九月	二、八〇〇	五八〇	一、〇〇〇
十月	二、三〇〇	五三〇	五〇〇
十一月	一、六〇〇	四九〇	四〇〇
十二月	一、三〇〇	四七〇	八〇〇
一月	一、〇〇〇	四四〇	八〇〇
二月	一、三〇〇	四六〇	五〇〇
三月	一、七〇〇	五一〇	六〇〇
合計	二六、三〇〇	六、四〇〇	一〇、〇〇〇

◇濟南

月別	日本旅館	朝鮮旅館	華人旅館	外人旅館
四月	一四、三八四	四一〇	一四六、五〇〇	二一三
五月	一五〇〇六	五一八	一二四、八〇〇	二七八
六月	一一、九六三	五五八	九八、五〇〇	三〇四
七月	一一、三二四	七六三	七六、五〇〇	二九六
八月	一一、二九七	五七七	三六、二〇〇	三〇七

九月	一一、六二四	三六八	五四、〇〇〇	三三六
十月	一七、七五一	三七〇	七三、五〇〇	三〇八
十一月	一三、一七三	三〇四	六八、二〇〇	二三四
十二月	一三、〇一六	四六一	九七、四〇〇	二六〇
一月	一〇、三七三	四〇九	八五、六〇〇	二八九
二月	一一、八六五	三八三	一〇八、五〇〇	二七〇
三月	一六、〇八七	四九七	一三八、九〇〇	三三三
合計	一三六、七四三	五、六八八	一、〇八八、六〇〇	三、二二八

◇徐州

月別	日本旅館	朝鮮旅館
四月	四、三九六	一、八八四
五月	四、八二三	二、〇六六
六月	五、〇一三	二、一四八
七月	三、七一三	一、五九九
八月	三、九三三	一、六八四
九月	四、一六一	一、七八三
十月	四、一二六	一、七六八
十一月	三、一三九	一、三四六
十二月	三、六一三	一、五四七
一月	五、六四八	二、四三〇
二月	五、三三九	二、二四一
三月	四、七六〇	二、〇三九
合計	五三、五七三	二二、五三五

◇開封

月別	日本旅館	朝鮮旅館	華人旅館
四月	三、七〇〇	二〇〇	二、八〇〇
五月	一、九〇〇	一〇〇	一、四〇〇
六月	一、七〇〇	一三〇	一、二〇〇
七月	一、三〇〇	一六〇	一、三〇〇
八月	一、九〇〇	一八〇	一三、五一〇
九月	五、二〇〇	四七〇	一五、〇〇〇
十月	五、五〇〇	五〇〇	四、七九〇
十一月	二、五〇〇	二七〇	一、五〇〇
十二月	一、五〇〇	一二〇	
一月	八〇〇	八〇	一、二〇〇
二月	一、二〇〇	一四〇	五、〇〇〇
三月	一、七〇〇	二九〇	四、六〇〇
合計	二七、九〇〇	二、六五〇	五四、〇〇〇

◇杭州

月別	日本旅館	華人旅館
四月	七五九	一五、〇〇〇
五月	八二一	一七、〇〇〇
六月	七四五	三〇、〇〇〇
七月	四三〇	一七、〇〇〇
八月	四六六	一六、〇〇〇
九月	六一八	一六、〇〇〇
十月	六七三	一七、〇〇〇
十一月	六八四	一七、〇〇〇
十二月	五六二	一五、〇〇〇
一月	六一〇	一四、〇〇〇
二月	五三一	一三、〇〇〇
三月	六二一	一三、〇〇〇
合計	七、五三〇	一八九、〇〇〇

◇無錫

月別	日本旅館	朝鮮旅館	華人旅館
四月	五一四	—	四〇、二九六
五月	三七四	—	三〇、四八五
六月	三四〇	—	二七、六八二
七月	三〇三	—	二五、二二九
八月	三四〇	—	二七、六八二
九月	四一八	—	三三、六五六
十月	四四三	—	三五、〇四〇
十一月	三九八	—	三三、二二七
十二月	三六五	—	二九、〇八三
一月	四一八	—	三七、八四三
二月	三九四	—	四〇、二六五
三月	五二四	—	三一、一八六
合計	四、八二一	—	三五〇、四〇三

◇鎮江

月別	日本旅館	朝鮮旅館	華人旅館
四月	三三八	二七四	三七六
五月	三六一	三〇九	四一八
六月	三九九	二六八	三五一
七月	三八五	三二五	三二八
八月	三五六	二五一	四七三
九月	三一六	三三〇	五三五
十月	三〇九	三七四	七八五
十一月	一九三	三三六	一、〇六六
十二月	九一	二一八	四三四
一月	二五六	九六	二七三
二月	八四	一三九	三二八
三月	一一三	一七六	六四四
合計	二、四〇〇	二、八六六	九、三九三

◇漢口

月別	日本旅館	朝鮮旅館	華人旅館	外人旅館
四月	五、〇〇〇	二、五〇〇	三三、〇〇〇	一、〇〇〇
五月	五、〇〇〇	二、〇〇〇	三一、〇〇〇	八〇〇
六月	四、〇〇〇	二、〇〇〇	三六、〇〇〇	八〇〇
七月	二、五〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四〇〇
八月	二、五〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四〇〇
九月	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一三、〇〇〇	六〇〇
十月	四、五〇〇	三、〇〇〇	一五、〇〇〇	八〇〇
十一月	三、九〇〇	三、四〇〇	二六、〇〇〇	九〇〇
十二月	三、九〇〇	二、八〇〇	三三、〇〇〇	一、〇〇〇
一月	二、八〇〇	二、五〇〇	二三、〇〇〇	一、二〇〇
二月	三、一〇〇	三、二〇〇	二四、〇〇〇	一、〇〇〇
三月	四、〇〇〇	三、六〇〇	二四、〇〇〇	一、一〇〇
合計	四三、二〇〇	二八、〇〇〇	二八五、〇〇〇	一〇、〇〇〇

旅行消費の部

旅館に於ける宿泊人消費額（昭和十五年度・推定・單位圓）

名稱	日本旅館	朝鮮旅館	滿華人旅館	合計
鞍山	三四四、三〇〇	—	一二三、五〇〇	四六七、八〇〇
奉天	二、一七四、八五六	二〇四、四四三	二、四四〇、八〇三	四、八二〇、一〇〇
撫順	三一〇、五四三	一一三、四三〇	一九〇、一六四	六一三、一三七
營口	一四七、七四五	一九、三六八	三二〇、七六〇	三八七、八七三
安東	三七九、三二七	四八、八一六	二五五、一一七	六八三、二六〇
通化	一、〇二一、〇〇〇	三三八、〇〇〇	一一七、五〇〇	一、三六六、五〇〇
吉林	五〇三、二〇〇	一六四、〇〇〇	二八二、〇〇〇	一、一四九、二〇〇
延吉	一九九、二〇〇	二一六、〇〇〇	六三、二〇〇	四七八、二〇〇
圖們	三三四、八六三	一〇四、六〇〇	一五五、五三五	五八四、九九八
羅津	六五、五〇七	一九、二六七	—	八四、七七四
牡丹江	一、三三三、八二四	一一三、〇八九	三三三、七七六	一、六四八、六八九
佳木斯	九六一、四〇〇	三八、七〇〇	四八一、〇〇〇	一、四八一、一〇〇
哈爾濱	五、七一五、四一八	未調査	未調査	五、七一五、四一八
齊々哈爾	八四、一〇〇	一、五三〇	一九三、〇〇〇	二七八、六三〇
黑河	三三三、九五〇	四三、〇〇〇	四八六、九〇〇	八六三、八五〇
錦州	五三九、二一三	一四、六四五	三一〇、一三七	八六三、九九六
承德	四九九、四〇〇	一一、三八〇	一〇三、四三〇	六一四、二〇〇
山海關	一六六、〇七三	三九、一八一	八四、九三〇	二九九、三三三
			（外人旅館）九、一六〇	
唐山	一一六、七〇〇	三一、六〇〇	一、一三一、五〇〇	一、二五九、八〇〇
			未調査（外人旅館）	
天津	二、六五三、七〇〇	一五七、二〇〇	三四三、七〇〇	三、一五四、六〇〇
北京	二、二七六、一九三	四五〇、三九三	未調査	二、七二六、五八四
保定	二九一、二〇〇	二一、四二五	六五五、六二〇	九六八、二四五
太原	四五八、五三〇	九三、八七〇	二、八六三、二六〇	三、四一五、六五〇
張家口	六四一、〇〇〇	二、一〇〇	一二九、六〇〇	七七二、七〇〇
大同	二三三、六三〇	九、一四一	三三、四〇〇	二六四、一七一
厚和	五三〇、〇〇〇	六五、〇〇〇	三五、〇〇〇	六三〇、〇〇〇
濟南	一、〇六五、八五三	一四、二三〇	一、六三一、九〇〇	二、七一八、〇八三
徐州	五六八、〇〇四	六七、五七五	未調査	四三五、五七九
開封	三三四、八〇〇	一五、五〇〇	二七〇、〇〇〇	六一〇、〇〇〇
上海	二、九三〇、〇〇〇	未調査	未調査	二、九三〇、〇〇〇
南京	一、七五三、〇〇〇	八、一九〇	七、二六〇、八〇〇	九、〇二〇、九九〇
無錫	三三三、六〇〇	—	八七六、〇〇〇	九〇九、六〇〇
杭州	一一五、〇〇〇	—	五一〇、〇〇〇	六二五、〇〇〇
鎮江	五、八四〇	七、三八六	一四、四四四（銀）	—
漢口	三六八、八〇〇	一四〇、〇〇〇	一、四三五、〇〇〇	二、〇五三、八〇〇
			一〇〇、〇〇〇（外國）	

滿洲國民營自動車乘客收入（昭和十五年度）（・交通部調査）

	圓
新京交通	二、六六三、三九一・〇三
安東交通	五八七、六四一・一三
奉天交通	三、九五六、三五二・一八
奉南交通	八五九、八八八・九〇
奉北交通	一、一三五、三三六・八八
滿洲交通	三〇八、〇一三・一〇
哈爾濱交通	一、七〇四、七三三・〇〇
哈鄭長途	一九六、四三八・二一

	合計
東亞運輸	二三三、一七一・二九
吉奉交通	二二四、四八二・四四
遼西交通	一四五、六六三・六六
北支滿蒙	三〇、一一九・九〇
東滿訓鐵道	一八、五〇一・六〇
牡丹江交通	二六四、四五六・九一
哈爾濱自動車	三二八、一四三・〇四
合計	一三、四四六、三〇一・二五

滿洲國外來者消費額（康德五年度）（單位千圓）

種別＼國別	日本	支那	其他	合計
旅行者消費	三、九六一	一六、八四四	五五	二〇、八六〇
移住者及出稼人持參金	七、一四四	一〇、六六五	—	一七、八〇八
滿洲外艦船乘組員消費	九三三	八一	一〇八	一、一二二
滿洲外より留學生消費	四五四	三四	—	四八八
布教費	三〇	—	四五〇	四八〇
合計	一二、五二二	二七、六二四	六一三	四〇、七五九

滿洲在住者國外消費額（康德五年度）（單位千圓）

種別＼國別	日本	支那	其他	合計
國外旅行消費額	四一、一九七	一二、二六五	四九〇	五三、九五二
船艦乘組員國外消費額	三三六	一五	八	三五九
留學生消費額	二、七八四	三五	三三三	三、一五二
布教本山献納金	二〇	—	二一七	二三七
在外公館費其他	一、五〇三	七三六	一、二一七	三、四五六

合計　四六、七三〇　三、一六三　二、三六五　六二、一三六

入出國外人數調

昭和十五年度日本入國外人數調（其の一）（內務省調）

國籍別＼港別人員	橫濱	神戸	下關	門司	長崎	敦賀	其他	計
亞米利加	二、一二五	二、二九一	七六一	五八	三二一	九四	三三三	五、九八三
加奈陀	一〇七	一三九	八七	六	四四	七	五	三八五
英吉利	五五六	九八四	一九一	四六	八一四	一一七	九六	二、八〇四
獨逸	一、〇九七	一、〇五〇	二、二八〇	四六	五三七	二九七	一三六	五、四四三
佛蘭西	三七	三三九	四五	七	一一四	—	八	五五〇
蘇聯邦	八九	五〇	二八	一	二二	一九三	六二	四四四
和蘭	六三	二一九	一六	一三	三三	四	三三	三八六
印度	一一〇	五六二	一六	一三	一〇三	—	二二	八二四
泰國	四六	一八三	—	五	一一	—	九	二五四
比律賓	一一四	二一三	一三	三	二九	—	一八	三八九
中華民國	六三九	四、四〇一	二、六二六	四〇三	一、三四一	四	五六四	九、九六八
滿洲國	一七	一、四七〇	五、八〇五	六一八	二	一六	一、五九〇	九、五一八
濠洲	四	一〇	七	—	一	—	三	二四
新西蘭	—	—	一	—	—	—	—	一
其他	七八〇	二、三五三	九五七	一一一	一、三三五	六三〇	三一七	六、四八三
計	五、七七三	一四、〇四三	一三、八三三	一、三三八	四、七〇四	一、三六二	三、三九三	四三、四三五
前年度計	五、六八〇	一三、一六九	一一、二六一	一、〇〇一	三、九三五	二一一	二、九八七	三七、二二四
增減	九三	一、八七四	一、五七二	三三七	七六九	一、一五一	四〇六	六、一九一
增減率	二	一五	一四	三三	二〇	五四五	一四	一七

昭和十五年度日本入國外人數調（其の二）（內務省調）

國籍別＼種目別	入國又は通過 十五日未滿	三十日未滿	二ヶ月未滿	二ヶ月以上	目的別人員（除一時上陸者） 觀光	公務	商用	布教・留學	其他	計	前年度計	增減	增減率	入國者中本邦船による者	艦船乘組員	一時上陸	出國者
亞米利加	三、四八一	六二五	三三四	一、五四三	一、二三三	一〇一	三五四	三七〇	三、九二六	五、九八三	六、七二一	(一)七三八	(一)一一	四、三一四	三〇、三六三	一四、五一八	五、六二四
加奈陀	二〇四	三四	一五	一一三	三三	一一	二〇	三四	二八七	三八五	三九六	(一)一一	(一)三	三一一	二八六	九一一	四二六
英吉利	一、二六七	五四一	三二八	六六八	四四九	六五	一一五	五三	二、一二二	二、八〇四	三、六一六	(一)八一二	(一)二二	二、二三三	二五、〇八五	六、九〇三	三、三〇五
獨逸	三、四三三	九〇一	二〇六	九〇三	四四六	一七六	三九九	三三	四、三八九	五、四四三	二、五八五	二、八五七	一一一	五、一一三	三三七	一、九九四	四、九八〇
佛蘭西	一三七	八九	一五三	一七一	九九	二八	二二五	一三	一八五	五五〇	五三三	一七	三	四九一	二、五七七	二五六	四九五
蘇聯邦	一九三	九九	一一	一四一	六	一八九	一四	—	二三五	四四四	一五七	二八七	一八三	三五七	一、〇九七	四五	二七一
和蘭	一八六	五四	一六	一〇八	八〇	四	三九	六	二五七	三八六	四五五	(一)六九	(一)一五	二六〇	六、五六八	三九八	三一三
印度	二三七	五八	二三	五〇六	五六	三	二七四	五	四八六	八二四	一、〇一六	(一)一九二	(一)一九	七一六	二、二四七	一、〇一一	八六一
泰國	八七	三三	三三	一三三	二五	四〇	一三	七五	一〇一	二五四	一七六	七八	四四	二三五	—	一七三	二一三
比律賓	二三六	七一	四八	四四	一四三	三	一五	一一	二一七	三八九	五六八	(一)一七九	(一)三一	二八九	八三三	一、一九四	三四六
中華民國	一、三五三	二、九九六	四二七	五、一九二	三、〇七九	二七五	九二四	一、三七七	四、三一三	九、九六八	七、三三五	二、六三三	三六	九、〇四九	八七、〇五〇	六、三九〇	七、四七二
滿洲國	一、四一〇	四、五三七	二七八	三、二九三	四、九六四	二三〇	五八一	二、三五二	一、四〇一	九、五一八	九、四八〇	三八	—	九、二九二	一一、〇五六	三、五六九	七、一三八
濠洲	一五	—	—	七	七	三	—	—	一四	二四	四一	(一)一七	(一)四一	一五	五	三三	九
新西蘭	—	一	—	—	—	—	一	—	—	一	二	(一)一	(一)五〇	一	五	一	—
其他	二、三八五	一、五三四	八一四	一、七六〇	一、一三一	一九九	九二一	七八	四、一六四	六、四八三	四、一八四	二、二九九	五五	五、六一三	三四、八三八	八、四九一	五、一四三
計	一四、六一四	一一、五六四	三、六六九	一四、五八八	一一、七〇八	一、三〇八	三、七九五	四、四〇七	二二、一七七	四三、四三五	三七、二二四	六、一九一	一七	三八、三二六	二〇三、二四七	四五、八八七	三六、四九六
前年度計	一四、一五一	九、一三八	一、八八六	一三、〇六九	一三、二五三	七七二	四、〇〇九	三、六一〇	一五、六〇〇	三七、二二四				二六、八一〇	三三〇、五七四	五七、九二〇	二九、七九三
前年度 增減	四六三	二、四二六	七八三	二、五一九	(一)一、五〇五	五三六	(一)二一四	七九七	六、五七七	六、一九一				一一、五〇六	一二八、三二七	一三、〇三三	六、七〇三
前年度 增減率%	三	二七	四二	一九	(一)一一	六九	(一)五	二二	四二	一七				四三	三九	二二	二三

（備考）（一）入國者——入國査證を經又は入國特許を受け上陸する者
（二）通過者——通過査證を經又は通過特許を受け上陸する者（但し次號の一時上陸者を除く）
（三）一時上陸者——一港に上陸し再び同一船に乘船同港を退去する者
（四）世界一週觀光船に依る觀光客渡來の際は備考欄に記入す
（五）同一人にして二つ以上の渡來目的を兼ね有する者は其の主たる目的と認めらるゝものに從ひ當該欄に掲記す
（六）渡來外國人には朝鮮、臺灣、關東州、樺太等より渡來する者を含む

映畫觀覽人員

◇滿支常設館入場者調（德康七年度・推定）

都市	日系常設館 調査館數	日系常設館 觀覽人員	滿(華)系常設館 調査館數	滿(華)系常設館 觀覽人員	合計 調査館數	合計 觀覽人員
大連	九	三、〇四五、六〇〇	二	一、〇〇九、五〇〇	一一	四、〇五五、一〇〇
鞍山	三	一、九三六、〇〇〇	三	六八〇、〇〇〇	六	二、六一六、〇〇〇
奉天	八	三、九七九、七〇四	一二	五、二七五、二〇〇	二〇	九、二五四、九〇四
撫順	二	未調査	三	未調査	五	―
營口	二	一〇〇、〇〇〇	一	三〇〇、〇〇〇	三	四〇〇、〇〇〇
安東	三	四五七、六八四	一	一〇六、九二八	四	五六四、六一二
通化	一	八三、九五〇	―	―	一	八三、九五〇
四平	一	八五、九三〇	一	一六二、六二四	二	二四八、五五四
新京	五	二、九八九、三三四	五	二、二五八、一八二	一〇	五、二四七、五一六
吉林	二	三一六、〇〇〇	四	二六〇、〇〇〇	六	五七六、〇〇〇
延吉	一	一一〇、五〇〇	―	―	一	一一〇、五〇〇
圖們	一	五六、五〇〇	―	―	一	五六、五〇〇
羅津	一	一一八、三九七	―	―	一	一一八、三九七
牡丹江	二	八一九、〇五四	二	一八八、二五一	四	一、〇〇七、三〇五
佳木斯	一	二八〇、〇〇〇	三	五七〇、〇〇〇	四	八五〇、〇〇〇
哈爾濱	五	一、九八〇、二八八	九	四、七五九、一六二	―	―
同（外國）	一	一九八、二一〇	―	―	一五	六、九三七、六六〇
齊々哈爾	二	四五〇、〇〇〇	三	五二五、〇〇〇	五	九七五、〇〇〇
黒河	一	―	一	一七一、〇〇〇	二	一七一、〇〇〇
錦州	二	二八九、四三六	一	一〇〇、一〇〇	三	三八九、五三六
承德	一	一二五、二〇〇	一	二四〇、〇〇〇	二	三六五、二〇〇
山海關	一	一四〇、四〇〇	―	―	一	一四〇、四〇〇
唐山	―	」	二	八二、一七〇	一	八二、一七〇
天津	五	九五〇、〇〇〇	九	未調査	―	―
（外國）			七	八〇〇、〇〇〇	一二	一、七五〇、〇〇〇
北京	三	未調査	八	未調査	―	」
（外國）			三	未調査	一四	―
保定	一	一四、九〇六	―	―	一	一四、九〇六
石門	一	三五六、〇〇〇	一	二〇二、〇〇〇	二	五五八、〇〇〇
太原	二	六八四、〇〇〇	一	三二四、〇〇〇	三	一、〇〇八、〇〇〇
濟南	二	三七八、二〇〇	三	三九二、一〇〇	五	七七〇、三〇〇
（外國）			一	一六五、四九〇	六	九三五、七九〇
青島	四	四三三、〇〇〇	四	二八〇、〇〇〇	―	―
（外國）			四	三八二、〇〇〇	一二	一、〇九四、〇〇〇
徐州	一	九〇、六〇〇	一	一〇、〇〇〇	二	一〇〇、六〇〇
開封	一	五一、一〇〇	一	五四、七五〇	二	一〇五、八五〇
張家口	一	三六〇、〇〇〇	一	七五、〇〇〇	二	四三五、〇〇〇
大同	一	一四四、〇〇〇	一	十六年度開設	一	一四四、〇〇〇
厚和	一	七六、八〇〇	―	一四、四〇〇 併設	―	」
（現地系）				三〇〇、〇〇〇 併設	一	三九一、二〇〇
上海	四	二、二三三、〇〇〇	八	未調査	一二	二、二三三、〇〇〇
南京	二	二八二、〇〇〇	二	五七四、五〇〇	四	八五六、五〇〇
蘇州	一	昭和十六年開設	二	五〇〇、〇〇〇	三	五〇〇、〇〇〇
杭州	二	一〇二、〇〇〇	二	三八五、〇〇〇	四	四八七、〇〇〇
無錫	一	二二〇、〇〇〇	一	一六〇、〇〇〇	二	三八〇、〇〇〇
鎭江	一	一三七、二〇〇（外國）	四	八一七、三〇〇	五	九五四、五〇〇
漢口	二	昭和十六年度開設	三	八六四、〇〇〇	―	―
（外國）		三六〇、〇〇〇	二	―	七	一、二二四、〇〇〇

◇滿系常設館觀覽者調（康德七年度・滿映調査）

【滿洲國】

月別	入場人員	入場收入
一月	一、二三二、七〇六	四〇六、一五三、四五
二月	一、七二三、八一六	六四七、四二一、二六
三月	一、五二一、九〇八	四八五、八七七、三六
四月	一、五四八、〇一〇	五五七、〇〇五、九四
五月	一、三八九、五三四	四九九、七六四、八二
六月	一、三〇五、三二七	五二五、四八九、二五
七月	一、〇四八、五六五	三七七、五三三、六二
八月	一、三一九、七八七	四三四、〇六四、六五
九月	一、三三八、五四七	五二三、〇九九、〇九
十月	一、二三六、一六八	四五六、九五三、〇一
十一月	一、三八五、六七三	五五六、三一四、二九
十二月	一、三六七、五八九	五三〇、五八一、八四
小計	一六、四一七、六三〇	六、〇二七、二四七、五八

【關東州】大連三館のみ

月別	入場人員	入場收入
一月	七六、五五〇	三二、七八〇、九八
二月	八四、九七二	三三、三三六、八〇
三月	七一、三六三	二四、五三三、五〇
四月	六四、一二九	二三、五一三、六〇
五月	四三、九二三	一七、五〇六、〇〇
六月	四七、八〇四	一九、三八二、〇五
七月	四五、二〇六	二〇、九九八、七〇
八月	四七、一二四	二四、八九九、一五
九月	四三、〇七九	二五、三八六、六〇
十月	五二、二四五	二五、三三一、三〇
十一月	五五、二六七	二四、一九五、七〇
十二月	六二、四九五	三〇、八二六、〇〇
小計	六九四、一五七	二九七、六五八、三八
累計	一七、一一一、七八七	六、三二四、九〇五、九六

◇日系常設館觀覽者調（康德七年度・滿映調査）

【滿洲國】

月別	入場人員	入場收入
一月	一、一二八、五二二	九八〇、九二三、七九
二月	一、〇四九、四九三	七四五、九三三、一六
三月	一、〇九七、二九六	七九四、九七六、五九
四月	一、一五五、九〇六	八五九、四二三、二〇
五月	一、〇九一、二六六	八三三、二八四、六二
六月	一、〇一一、四六一	七七四、七〇〇、一三
七月	九七二、四八〇	七五一、三三〇、〇八
八月	一、一九三、二三三	八五八、九六七、〇〇
九月	一、一二四、三五七	九五五、三九八、二八
十月	九九四、二七二	七四五、二七〇、一九
十一月	一、一五九、一九一	八七六、一〇八、八三
十二月	八六九、七三五	六四九、二八七、五六
合計	一三、〇三七、二二一	九、七八六、五七一、四三

【關東州】

月別	入場人員	入場收入
一月	三三三、九九八	三三〇、四五一、一七
二月	二七五、九九五	一五四、六四七、三八
三月	二九四、八三〇	一六八、六八四、八七
四月	二九一、一八九	一七八、一六五、三一
五月	二八八、五七一	一七〇、五四二、一六
六月	二七五、五九五	一八二、六五〇、三三
七月	二六二、七二八	一五二、八七一、五〇
八月	三〇四、三七八	一七六、九〇一、三二
九月	二七九、三九四	一八八、五七六、五三
十月	二六二、八七三	一五七、一一三、八〇
十一月	二六〇、五五二	一六六、九三四、五一
十二月	二三九、二五三	一五三、五二二、二〇
小計	三、三六八、三五六	二、〇七一、〇五一、〇七
累計	一六、四〇五、五七七	一一、八五七、六二二、五〇

東亞旅行社斡旋外客數

	本部及直屬案內所	滿洲支部	合計
大正一	四〇〇		四〇〇
二	三、六三三		三、六三三
三	六、二〇七		六、二〇七
同	一、七一五(大正博覽會場內特設案內所分)		一、七一五
四	七、七二六		七、七二六
同	七〇、〇六八(桑港博覽會場內特設案內所分)		七〇、〇六八
五	八、五二六		八、五二六
六	一三、五五八		一三、五五八
七	一七、四一九		一七、四一九
八	二〇、七三一		二〇、七三一
九	三三、九五一		三三、九五一
一〇	一八、三四四		一八、三四四
一一	一八、三九三		一八、三九三
一二	一八、七〇三		一八、七〇三
一三	一九、〇五五		一九、〇五五
一四	二三、六四〇		二三、六四〇
昭和一	二七、八一〇	四、三一〇	三二、一二〇
同	二五四、〇〇〇(臺府博覽會場內特設案內所分)		二五四、〇〇〇
二	四一、八九四	六、〇二二	四七、九一六
三	四二、五〇一	八、六七四	五一、一七五
四	五五、三三四	一〇、九九八	六六、三三二
五	五七、〇七〇	一九、〇三一	七六、一〇一
六	五九、一五九	一九、九三九	七九、〇九八
七	五四、五一〇	三一、三三三	八五、八四三
八	五九、三三一	五四、六二七	一一三、九五八
九	七五、一七二	八七、〇九四	一六二、二六六
一〇	九六、九六五	九八、〇九四	一九五、一五五
一一	一四一、四九三	一四六、三九五	二八七、八八八
一二	一五四、〇八六	九五、一七五	二四九、四八六
一三	一一三、三〇四	八二、一八二	二九四、四八六
一四	一〇七、二三七	一一一、二三四	二一八、四七一
一五	一四七、八八七	二〇三、八四七	三五一、七三四
合計	一、六四八、八八六	一、〇三三、五三三	二、六七二、一一〇

鮮・滿・支視察團

【東京鮮滿支案內所取扱】・昭和十五年度・

件數 一二五　人員七、四七三

月別	團體名	人員
一月	獨逸船員歸國團　第一班	七六
	同　第二班	七六
	同　第三班	七六
	同　獨逸船員グロス團	一九
	同　リンデン團	四〇
	同　スタインブリング團	一二
二月	義勇軍補充幹部渡滿團	一五
	獨逸船員フリートリヒゼン團第一班	一八
	同　第二班	一八
	獨逸船員ブラウンワルト團　第一班	一八
	同　第二班	一八
	青森縣黑河視察團	二四
	富士興行俳優朝鮮興業團	四〇
三月	獨逸船員歸國グロス團　第二班	一〇
	大東文化學院鮮滿學術視察團	一七
	アルゼンチン經濟視察團	一五
	滿洲國建國大學入學者渡滿團	九三
	明治大學學生健兒團	一二
	滿洲糧穀會社々員新京赴任團	七〇
	濱松師範大陸科鮮滿見學旅行團	三九
	滿洲鑛工業關係技術員實習生渡滿團　第一班	一五〇
	同　第二班	一五〇
	義勇軍女子指導員渡滿團	二四
	蒙疆政府新採用者赴任團　第一班	九五
四月	陸軍省派遣皇軍藝術慰問團	一一
	蒙疆政府新採用者赴任團　第二班	八八
	滿洲國經濟部新採用者赴任團第一班	四二
	同　第二班	三七
	滿洲國協和會新採用者赴任團	六二
	滿洲國大同學院第一部十二期生赴任團	二〇二
	滿洲飛行機製造會社採用者赴任團　第一班	七三
	同　第二班	一〇八
	滿洲新聞社主催新興滿洲商工視察團　第一班	二一
	神奈川縣師範學校鮮滿旅行團	三二
	獨逸船員歸國團レオ團	一九
	東京文理科大學教育科修學旅行團	一〇
	栃木縣師範學校鮮滿旅行團	四四
	滿拓新入社員新京赴任團　第一班	七一
	同　第二班	六九
	青少年技術生第二次渡滿團　第一隊	二四八
	同　第二隊	九七
	同　第三隊	一〇一
	同　第四隊	九七
	同　第五隊	三七四
	茨城縣主催大陸經濟調査團	一四
	滿洲國中央師道訓練所生渡滿團	一一四
五月	東京府立第二高女朝鮮旅行團	七六
	滿洲新聞社主催新興滿洲商工視察團	三〇
	義勇軍補充指導員渡滿團	二六

月別	團體名	人員
	東京府立女師一部生朝鮮旅行團	三六
	機械化國防協會大陸視察團	二〇
	青少年技術生第三次渡滿團　第一班	六〇三
	同　第二班	六一五
	滿洲國農畜產基幹員渡滿團	二六六
	埼玉縣々陽教育會滿洲開拓地視察團	二五
	日劇ダンシングチーム朝鮮旅行團	八〇
	警察講習所大陸視察團　第一班	八一
	同　第二班	七九
六月	八大カメラ雜誌社滿洲撮影隊	一〇
	青山師範二部生朝鮮修學旅行團	一二八
	皇國農民團滿洲開拓地視察團	二三
	青山師範一部生朝鮮修學旅行團	六〇
	東京府聯合女子青年團興亞報國隊	二八
	袋井商業學校鮮滿修學旅行團	八〇
	滿洲帝國協和會開拓科職員赴任團	八五
	躍進滿洲經濟視察團　第一班	二三
	同　第二班	二六
七月	第六次留日滿洲國司法官歸國團	二九
	東京高師鮮滿修學旅行團	三一
	日本野球聯盟渡滿團	二〇三
	日米學生會議出席米國學生旅行團　第一班	四二
	同　第二班	三一
	栃木縣聯合青年團滿洲開拓地慰問團	一三
	第二世柔道見學團渡滿團	三〇
八月	東京府派遣鮮滿教育視察團	一四
	懸賞論文當選學生滿洲調査團	一一
	埼玉縣教育會主催鮮滿視察團	二五
	茨城縣鮮滿教育視察團	一六
	全國小學校聯合女教員滿洲視察團	一三
	日米學院滿洲修學旅行團	一三
	在米第二世母國訪問修業團	三〇
	日本主要都市職員訪滿視察團	一〇
	埼玉縣入間郡滿洲開拓地視察團	一〇
	滿洲開拓事業指導者視察團　第一班	三七
	同　第三班	二九
	イタリー外交團歸國者團	二〇
	神奈川縣派遣鮮滿教育視察團	二六
	埼玉縣々陽教育會第二次滿洲視察團	二四
	群馬縣滿洲開拓地視察團	一一
	滿洲開拓事業指導者視察團　第二班	二九
	全國女子青年團指導者滿洲開拓地視察團	四〇
九月	神奈川縣滿洲開拓地視察團	一一
	東京市聯合青年團興亞大陸視察團	二五
	東京市小學校長鮮滿教育視察團	一二
	埼玉縣々陽教育會第三次滿洲開拓地視察團	二七
	青年團幹部大陸現地訓練隊團	六七
	中央融和事業協會滿洲開拓地視察團	二七
	東京市小學校長鮮滿教育視察團	一六
	滿洲林業實習生渡滿團	二七
	いばらぎ大陸視察慰問團	一〇
	栃木縣教育會鮮滿教育視察團	一二
	茨城縣滿洲開拓地視察團	二一
	第二次青少年義勇軍第三回渡滿團	一七八
	埼玉縣經濟部滿洲開拓地視察團	一二
	宮城縣滿洲開拓地視察團	一二
	東京市派遣鮮滿教育視察團　第一班	一七
	同　第二班	一六
	拓務省主催地方女子指導者滿洲視察團	四七
	アメリカ二世二六〇〇年祝典拜觀渡滿團	二〇
	山梨縣分村滿洲開拓地視察團	三二
十月	栃木縣分村計劃滿洲視察團	一五
	山梨縣教員滿洲開拓地視察團	二六
	中央融和事業協會滿洲開拓地視察團	二五
	拓務省主催地方女子指導者滿洲開拓地視察團	五〇
	第二次青少年義勇軍朝鮮部隊渡滿團	六七
	警察講習所大陸視察團　第一班	八四
	同　第二班	八三
	福島縣教育會滿洲開拓地視察團	二〇
十一月	華北中國記者團	三三
	海外同胞東京大會出席者滿支旅行團	二九
	全國米穀商業組合滿洲視察團第一班	二〇
	同　第二班	一五
十二月	滿洲建國大學學生歸國團	四〇
	滿洲開拓青少年義勇軍女子指導員渡滿團	一三一
	青少年技術生第五次渡滿團	一四〇

【大阪鮮滿支案內所取扱】

◇滿洲視察團體

件數 九九　人員 三、三三一

昭和十五年(學生團體)

月	團體名	人員
四月	滋賀縣師範學校	七〇
	日本旅行會鮮滿視察團　第二班	三〇
	(普通團體)	
	和歌山縣大島村分村移住農民團　第一班	一五
	同　第二班	一五
	和歌山縣筏夫團體　第二班	七七
	同　第三班	二三

四月　帝國神政會鮮滿視察團　二〇
　　　三重縣經濟視察團　二〇
五月　(學生團體)
　　　桃山中學校　一二六
　　　大阪商業學校　九三
　　　德島縣師範學校　六五
　　　岡山縣師範學校　一〇〇
　　　大阪明淨高等女學校　九一
　　　(普通團體)
　　　日本觀光旅行會主催鮮滿視察團　一〇
　　　大阪市旭區靑年團長鮮滿視察團　一〇
　　　鐵道案內社鮮滿視察團　二五
　　　熱田鐵工業視察團　二三
　　　福德產業視察團　二二
六月　(學生團體)
　　　香川縣師範學校大陸科　四〇
　　　京都府須知農林學校　四二
　　　京阪商業學校　五八
　　　京都市立第一商業學校　第一班　六六
　　　同　第二班　六五
　　　(普通團體)
　　　大阪鐵道旅行協會鮮滿視察團　二〇
　　　大阪市主催鮮滿工業視察團　第一班　一四
　　　岐阜縣開拓分村計畫視察團　一二
　　　福井縣小濱土木請負揮春派遣團　二四
七月　(學生團體)
　　　神宮皇學館鮮滿視察團　一一
　　　(普通團體)
　　　大阪市主催鮮滿工業視察團　第二班　一四
　　　住友生命社員滿洲視察團　二四
　　　第二回和歌山縣開拓地視察團　八
　　　神戶市敎育會主催皇軍慰問竝學事研究視察團　五
　　　岡崎產業視察團　一一
八月　(學生團體)
　　　香川縣女子師範學校　二九
　　　大阪貿易學校　四四
　　　奈良縣女子高等師範學校　五七
　　　石川縣松任農學校　六〇
　　　(普通團體)
　　　大阪富民協會主催第十一回農業夏季大學講習會　一〇二
　　　滋賀縣敎育會滿洲開拓靑年義勇隊慰問團　一〇
　　　滿洲農業開拓民五河林三豐開拓團應援作業班　二五
　　　敎學奉仕隊奈良縣部隊　A班　一一
　　　同　B班　二〇
　　　同　C班　九
　　　大阪府北進協會主催滿洲開拓士慰問激勵隊　一一
　　　京都府社會敎育課主催滿洲國現地訓練視察團　一一
　　　大阪市敎育會滿洲開拓靑少年義勇軍慰問激勵隊　第一班　一一
　　　同　第二班　一四
　　　同　第三班　一一
　　　同　第四班　一三
　　　香川縣敎育振興會鮮滿視察團　一六
　　　高知縣經濟部滿洲開拓地視察團　二〇
　　　香川縣第七次王爺廟開拓團應援作業班　三五
　　　金城商工視察團　二五
　　　三重縣敎育會主催滿洲開拓地視察團　一七
　　　福井縣第三國移民地視察團　一二
　　　富山縣移民地視察團　一二
九月　(學生團體)
　　　岡山縣高松農學校　三四
　　　大阪府女子專門學校　七七
　　　奈良縣女子師範學校　五六
　　　(普通團體)
　　　岡山縣分村計畫中心人物滿洲視察團　一四
　　　香川縣滿洲開拓地視察團　第一班　二四
　　　大阪行樂社鮮滿經濟視察團　二〇
　　　大阪市聯合靑年團大陸現地訓練隊　五一
　　　岡山縣開拓地視察團　二四
　　　鳥取縣分村計畫滿洲視察團　一六
　　　兵庫縣滿洲開拓地視察團　一二
　　　京都市小學校長開拓地視察團　一〇
　　　京都府農政課主催滿洲開拓地視察團　九
　　　京都市小學校敎員開拓地視察團　一一
　　　兵庫縣分村計畫滿洲開拓視察團　一三
　　　京都府女子靑年團大陸現地訓練視察團　六
　　　關東軍派遣演藝慰問團　五〇
　　　大阪文樂座人形鮮滿興演團　第一班　二〇
　　　同　第二班　二一
　　　京都市敎育會滿洲開拓地視察團　一〇
　　　奈良縣滿洲開拓地視察團　一八
　　　名鐵產業視察團　二五
　　　三重縣聯合靑年團　二〇
　　　滿洲東三河村開拓視察團　一二
　　　愛知縣第三回學校敎員滿洲開拓地視察團　一二
　　　愛知縣海外協會第五回滿洲開拓地視察團　一二
　　　尾西織物業組合團　一一
　　　福井縣移民地視察團　一二

　　　石川縣敎育會全滿洲視察團　一二
　　　石川縣分村計畫滿洲視察團　一三
十月　(學生團體)
　　　ナシ
　　　(普通團體)
　　　岡山縣敎育會主催鮮滿視察團　一六
　　　大阪荷造包裝協會鮮滿視察團　九
　　　神戶市敎育視察團　第二班　一一
　　　大阪府工藝協會鮮滿視察團　一〇
　　　高知縣敎育會皇軍慰問視察團　九
　　　愛知縣聯合女子靑年團滿洲開拓地視察團　一五
　　　東亞新聞社團　二〇
　　　愛知縣農會滿洲開拓地視察團　二〇
十一月　(學生團體)
　　　福井縣師範學校北鮮視察團　三八
　　　(普通團體)
　　　ナシ
十六年一月　學生、普通團體共ナシ
三月　(學生團體)
　　　ナシ
　　　(普通團體)
　　　和歌山縣滿洲開拓地視察團　第一班　一三
　　　滿洲國警察官吏赴任團　第一班　一六六
　　　同　第二班　一六〇
　　　同　第三班　八二
　　　富山縣出町筏夫北滿派遣團　第一班　六五
　　　同　第二班　八〇

◇滿支視察團體

件名　一二　人員　一七三

十五年四月　(學生團體)ナシ
　　　(普通團體)
　　　行樂社北支滿蒙視察團　第一班　一〇
　　　大阪市會北中支產業視察團　八
　　　愛知經濟視察團　一一
五月　(普通團體)
　　　行樂社主催北支滿蒙視察團　第二班　一〇
　　　大阪府泉北郡織物工業組合聯合會鮮滿支慰問竝經濟視察團　一二
　　　天津行陸軍兵器修理班　二五
　　　德島縣敎育會鮮滿視察團　二六
　　　堺市小學校長大陸視察團　一〇
　　　大阪府皇軍慰問團中支班　二〇
六月　學生、普通共ナシ
七月　(學生團體)
　　　ナシ
　　　(普通團體)
　　　豐橋產業視察團　一一
八月　學生、普通共ナシ
九月　(普通團體)
　　　師範學校長大陸視察團　八
十月
十一月
十二月
十六年一月
二月　學生、普通共ナシ
三月　(學生團體)
　　　ナシ
　　　(普通團體)
　　　福井縣鮮滿實支業視察團　二二

件數　二九　人員五六三

【新潟鮮滿支案內所取扱】

月別	團體名	人員	經路
四月	新潟縣農政協會鮮滿支視察團	一一	長崎
	新潟鐵道旅行協會主催滿支視察團	二〇	神戶
五月	秋田日滿技術工養成所第一期生滿洲研究旅行團	六一	北鮮
	山形縣移民竝皇軍慰問團	八	同
六月	新潟鐵道旅行協會鮮滿視察團	一四	朝鮮
七月	長野縣滿洲移住地視察團	二三	北鮮
八月	山形縣庄內鄉建設協會滿洲移住地視察團	二〇	同
	長野縣北佐久郡敎育會滿洲視察團	二六	同
	長野縣信濃敎育會滿洲視察團	一六	同
	新潟縣農會滿洲開拓地視察團	二三	同
	山形縣立靑年學校敎員養成所(女子部)勤勞奉仕團	一一	同
九月	長野縣派遣鮮滿敎育視察團　船鐵	七	同
	長野縣滿洲開拓地視察團	二三	同
	新潟北鮮滿地方物資市場狀況及開拓事業視察團	五	同
	長野縣町村開拓民事務主任者滿洲視察團	二一	同
	秋田縣滿洲開拓地視察團	一六	同
	長野縣波田村義勇軍父兄會滿洲視察團	二九	同
	山形縣東北觀光獎勵會滿鮮視察團	七	同
	長野縣滿洲更級村視察團	二一	同
	長野縣滿洲移住地視察團	三一	同
	新潟縣分村計畫滿洲視察團	二一	同

月別	團體名	人員	經由
九月	新潟縣三島郡青年團滿洲視察團	一二	北鮮
	山形縣分村計畫指定町村幹部滿洲開拓地視察團	二三	同
	新潟縣農機具商工業組合滿鮮視察團	二〇	同
十月	新潟縣町村長會、新潟縣大陸開拓協會滿洲開拓地視察團 船鐵	二六	同
	長野縣廳職業課主催長野青年團滿洲視察團	二一	同
十一月	山形縣最上郷建設奉仕隊	二一	同
	山形縣庄內郷第十次開拓地勤勞奉仕隊	二〇	同
三月	新潟市役所主催朝鮮視察團	七	同

【小樽鮮滿支案內所取扱】

件數 六 人員 七三

月別	團體名	人員	經由
四月	道會議員產業視察團	五	下關
	小樽市會議員團	六	新潟
五月	旭川新東興經濟視察團	二〇	同
六月	道廳主催皇軍慰問團	一〇	神戶
九月	小樽市會議員團	七	新潟
一月	札幌建友會鮮滿視察團	二五	神戶

【門司鮮滿支案內所取扱】

◇滿洲

件數 九八 人員四、六八一

月別	團體名		人員
一月	中學修猷館	第一班	一〇〇
	同	第二班	一〇〇
	福岡中學校	第一班	一一〇
	同	第二班	一一〇
	延岡中學校		七三
	長崎高等女學校	第一班	九九
	同	第二班	九九
二月	津和野中學校		二九
	糟屋農學校		五七
	朝倉中學校	第一班	八八
	同	第二班	五五
	鹿兒島師範學校旅行團		六八
	玉名中學校		六六
	尾道商業學校		一一〇
	門司中學校		一〇〇
	大分師範學校		七二
	久留米商業學校		一〇〇
	福岡女子專門學校		六〇
	興風中學校		四二
	若松中學校	第一班	六七
	同	第二班	六七
	豐浦中學校	第一班	六二
	同	第二班	七〇
	廣島高等師範學校英語科		一三
	福岡縣青年學校教員養成所		二五
	滿洲必需品株式會社赴任團	第一班	八〇
	同	第二班	八〇
	同	第三班	八〇
	長崎中學校	第一班	七〇
	同	第二班	七〇
	黒河省行人夫團		三〇
	小倉商業學校		八三
	廣島高等師範學校地歷科		一五
三月	大牟田商業學校		八〇
	熊本師範學校	第一班	五五
	同	第二班	五五
	直方南高等女學校	第一班	六七
	同	第二班	六八
	直方高等女學校	第一班	九五
	同	第二班	九五
	佐世保商業學校	第一班	七〇
	同	第二班	七〇
	山口高等女學校		三五
四月	有田工業學校		三九
	臺灣支部主催鮮滿視察團		二〇
	若松商工會議所鮮滿視察團		八
五月	松山商業學校		八一
	愛媛縣青年學校教員養成所		四〇
	德山商業學校		一〇八
	宮崎農學校		八〇
	長崎商業學校		一二〇
	山口商業學校		七六
六月	大阪朝日新聞販賣店視察團	第一班	二三
	同	第二班	二三
	同	第三班	二三
	愛媛縣中等教育研究會教育視察團		一六
	山口縣滿洲農業開拓地視察團		二四
七月	長崎高等商業學校大陸經濟研究團		一五
	小倉九州軌道鮮滿視察團		六
	滿洲國四合成開拓應援作業團		二六
	山口縣青年教育指導者大陸視察團		一三
	山口高等商業東亞經濟研究科		五二
	佐賀縣中等教育會鮮滿視察團		二三
	佐賀商業學校團		七〇
	東亞旅行案內所鮮滿視察團		一〇
	九州電氣軌道會社鮮滿視察團		八
	九軌鮮滿視察團		一〇
八月	宮崎縣青年學校教員養成女子部		一七
	熊本縣菊池郡農會滿洲開拓地視察團		二一
	長崎縣滿洲開拓地視察團		一四

月別	團體名		人員
	佐賀農學校		四五
七月	廣島縣滿洲開拓地視察團		二〇
	九州電氣軌道株式會社視察團		七
	伊萬里商業學校		六〇
	都城商業學校鮮滿視察團		七七
	臺灣旅行協會主催鮮滿視察團		三〇
	愛媛縣滿洲開拓地視察團		一一
八月	愛媛縣新居郡滿洲開拓地視察團		一一
	熊本教育會滿洲開拓地視察團		一九
	西日本新聞社大陸視察團		二二
	廣島縣教育會開拓地視察團		四六
	大分縣滿洲開拓地視察團		二〇
	山口縣教育會鮮滿視察團	第一班	一一
	佐賀縣開拓地視察團		一二
九月	宮崎縣滿洲開拓地視察團		一三
	宮崎縣教育會鮮滿視察團		一七
	昭和製鋼所赴任團		一〇〇
	山口縣教育視察團	第二班	一五
	沖繩縣學校長鮮滿視察團		五
	島根縣滿洲開拓地視察團		一三
	臺中專賣鮮滿視察團		一五
	臺北專賣小賣人組合視察團		一五
	沖繩縣滿洲開拓地視察團		一四
	山口鐵工視察團		一六
	佐賀縣教育會鮮滿視察團		一四
	若松市鮮滿產業視察團		八
	唐津商業學校產業經濟調查隊		二三
十月	福岡縣教育會鮮滿視察團		二〇

◇朝鮮

件數 二〇 人員八二〇

月別	團體名		人員
二月	福岡縣西南女學校		一〇〇
	濟美高等女學校		一一五
四月	嵐吉三郎一座俳優團		四六
五月	濱口興業會社職工團	第一班	四三
	同	第二班	四一
六月	帝人朝鮮視察團		二〇
八月	清水興業社一行俳優團		二四
	大分新聞社朝鮮視察團		二〇
	八幡高工同窓會朝鮮旅行團		三〇
十月	清水興業部朝鮮巡業團		二三
	朝鮮鑿泉赴任團	第一班	五〇
	同	第二班	四〇
	同	第三班	六〇
	同	第四班	三〇
	清水興業團		三〇
十一月	清水朝鮮興業團	一班	四〇
	同	二班	三〇
十二月	同	三班	二五
	同	四班	二三
	同	五班	三〇

◇支那

件數 九 人員 二〇九

月別	團體名	人員
二月	鹿兒島師範學校大陸科生	二四
	宮崎中學校	四八
三月	臺灣斗南信用組合視察團	二四
	長崎市商工會議所滿洲北支視察團	五
四月	東亞旅行案內所主催支那視察團	二二
	國鐵時報社支那經濟視察團	二七
	興日滿支協會大陸視察團	一〇
	長崎縣教育會派遣鮮滿支教育視察團	一二
五月	愛媛縣教育會視察團	三七

訪日視察團

◇東亞旅行社主催 （滿洲北支發）

團體名		人員
奉天省赴日商工視察團		二三
奉天市赴日商工視察團		二一
滿洲國人訪日視察團	一班	二五
同	二班	同
同	三班	同
同	四班	二三
黒河省訪日商工視察團		二八
哈爾濱市台灣經濟視察團		一九
双城堡訪日視察團	一班	二〇
同	二班	同
德惠訪日視察團		同
北安商公會訪日視察團		同
黒河訪日商工視察團		二六
東安省訪日商工視察團		二〇
同		同
牡丹江省訪日商工視察團		二一
牡丹江訪日商工視察團		二〇
東寧縣訪日視察團		二〇
通遼日本商工視察團		一〇

合計一九團

◇東亞旅行社斡旋 （滿洲北支發）

月日	團體名	種別	人員
四月	滿日主催全滿販賣店代表者日本視察團	日	一一
	奉天鐵道局愛路課主催日本視察團	同	三四

四月	奉天師道學校訪日修學旅行團	滿	六二
	同　第二班	同	六二
	同　第三班	同	六二
	奉天省立奉天第一女子國民高等學校團	同	九五
	滿洲醫科大學滿中人學生日本見學團	同	五五
	奉天南滿中學堂日本修學旅行團	同	八六
	奉天鐵路學院訪日修學旅行團	同	六四
	鐵道總局滿人社員日本視察團	同	一二
	新京法政大學訪日修學旅行團	同	五七
	滿洲國中央師道訓練所練成科訪日團	同	一一八
	興安西省喇嘛日本宗教視察團	同	九
	東亞武道大會滿洲武術派遣團	同	二八
	吉林省九台縣街村長訪日團	同	一四
	滿洲電業滿人社員橿原神宮參拜團	同	一七
	吉林省農安縣訪日視察團	同	二三
	吉林省伊通縣街村長訪日視察團	同	二九
	吉林省双陽縣公署訪日團	同	一四
	開拓總局有畜農業技術講習者團	日	三四
	新京特別市日本教育視察團	滿	一一
	日滿實業協會關東州支部主催視察團	日	一三
	鳳城師道學校內地修學旅行團	滿	八五
	鳳城地方師道訓練所內地旅行團	同	九一
	安東市訪日視察團	日	三五
	安東訪日實業視察團	滿	二三
	吉林省立第二國民高等學校訪日旅行團	同	六五
	吉林省教育界訪日教育視察團	同	一二
	龍井恩眞中學校訪日旅行團	同	四三
	同　第二班	同	四六
	延吉女子國民高等學校訪日團	同	二八
	間島省立琿春國民高等學校訪日團	同	三二
	佳木斯師道學校日本修學旅行團	同	三七
	双城堡國民高等學校訪日團	同	六二
	哈爾濱第三國民高等學校日本修學旅行團	同	六〇
	同　第二班	同	三九
	濱江省賓縣公署訪日視察團	同	二二
	哈爾濱鐵道局露人從事員訪日視察團	露	八
	鏡城公立農業學校內地修學旅行團	滿	九一
	東羅南公立高等女學校內地修學旅行團	同	五二
	會寧公立商業學校內地修學旅行團	同	四六
	鏡城中學校修學旅行團	同	八六
	淸津公立商業學校內地修學旅行團	同	五六
	會寧公立高等女學校內地修學旅行團	同	五二
	錦州高等女學校內地修學旅行團	同	四六
	中國記者訪日旅行團	中	三二
	北京特別市教育視察團	同	一二
	華北交通厚生課主催訪日教育視察團	同	一五一
	北京覺生女子中學校修學旅行團	同	三五
	河南省民衆代表訪日見學團	同	二四
	同　第二班	同	二六
	河北省公署主催訪日團	同	二三
	晉北滅共青年隊中央本部訓練所生團	同	三五
	德縣訪日視察團	支	三三
五月	奉天中央農事訓練所奉天分所日本旅行團	滿	五二
	新東亞教育大會參加滿洲國教育團	同	七〇
	興業合作社滿系職員訓練所旅行團	同	五三
	滿洲帝國教育會訪日視察團	同	五
	旅順高等公學校師範部訪日團	同	八二
	吉林省地方職員訓練所日本內地見學團	同	七〇
	承德師道學校訪日修學旅行團	同	四四
	扎蘭屯師道學校訪日修學旅行團	同	二五
	齊々哈爾師道學校訪日團　第一班	同	六五
	同　第二班	同	六〇
	同　第三班	同	五〇
	齊々哈爾日本靈地參拜團	同	二三
	保定河北省田種警察教練所主催訪日團	中	一五
	東亞武道大道中國々術代表團	同	二〇
	晉北政廳訪日視察團	同	三〇
六月	第三回奉天省社會事業講習會團	滿	五〇
	哈爾濱陸軍特務機關第一回哈爾濱市內白系露人學生訪日團	露	二四
	同　第二團	同	四五
	哈爾濱基督教青年會學校訪日團	外	二五
	慶祝紀元二千六百年滿洲國學童使節團	滿	五七

六月	產業部中央農事訓練所訪日團	同	八八
	大連第二中學內地旅行團	日	八〇
	大連白系露人日本教育視察團	露	九
	東亞競技大會參加布哇選手團	同	二六
	大連市民體育會主催奉祝二千六百年富士山登山隊團	日	四〇
	通化省立通化第一國民高等學校團	滿	四八
	通化省警察官別府療養團	同	一三四
	鏡城公立農業學校內地修學旅行團	同	八八
	咸鏡北道教員日本視察團	同	二一
	同　第二班	同	二一
	奉祝紀元二六〇〇年開拓義勇青年隊喇叭隊團	日	二〇〇
	鐵道省國際觀光局招請蒙疆人士訪日團	中	六
	東亞教育大會訪日旅行團	同	二四
	天津吉野日本小學校母國修學旅行團	日	三七
七月	奉天農業大學北海道內地修學旅行團	日滿	九五
	奉天勸農模範訓練生訪日修學旅行團	滿	八二
	東豐師道學校訪日修學旅行團	同	六〇
	同　第二班	同	六〇
	奉天鐵路學院訪日修學旅行團	同	六四
	同　第二班	同	七四
	同　第三班	同	六四
	中央農事訓練所林科訪日團	同	五五
	同　第二班	同	五〇
	吉林省樺樹縣訪日教育視察團	同	二三
	長春縣訪日行政視察團	同	三一
	滿洲綿業聯合日本綿業視察團	同	二一
	滿洲宗教會主催富士登山參拜團	日	四〇
	延吉師道學校訪日旅行團	滿	三四
	海城師道學校生徒訪日修學旅行團	同	二五
	淸津府教員內地視察團	同	三〇
	錦縣省訪日商工視察團	同	二四
	錦州省立女子國民高等學校旅行團	同	五二
	蒙古學院日滿見學團	中	二二
	天津淡路日本小學校母國旅行團	日	一二一
八月	哈爾濱師道學校第一班日本修學旅行團	滿	六五
	哈爾濱師道學校　第二班	同	六七
	濱江省立哈爾濱女子國民高等學校訪日團	同	八五
	滿洲國中央警察學校第二期滿系訪日團	同	七一
	滿洲國地方官吏訪日行政視察團	同	二三
	民政部主催中等學校滿系教師訪日團	同	二三
	永吉縣青年訓練所第二部生訪日團	同	三〇
	吉林高等女學校母國修學旅行團	同	六七
	延吉師道訓練所訪日團	同	二八
	龍井光明中學校訪日旅行團	同	五二
	佳木斯師道學校日本見學旅行團	同	二八
	牡丹江師道學校修學旅行團	同	三四
	通化省教育會訪日團	同	一一
	錦州師道學校訪日旅行團	同	七九
	同　第二班	同	七二
	大日本青年團大陸現地訓練隊團	同	七〇
	華北農事試驗場農業技術生團	中	六五
	同　第二班	同	六五
	陸軍々官學校第二期生日本見學團	同	八〇〇
	第一班—第十一班		
	天津日本商業學校母國修學旅行團	日	九七
九月	奉天女子商業學校內地修學旅行團	同	四〇
	新京錦ケ丘高等女學校母國修學旅行團	同	二五
	滿洲弘報協會日本新聞通信事實視察團	滿	七
	滿洲電信電話會社新京社員養成所訪日團	同	一〇九
	財務職員訓練所第一部第四期生訪日團	同	八二
	同　第二班	同	八一
	中央郵政職員訓練所訪日視察團	同	一五
	大同學院第二部第一期生日本研究團	同	六五
	關東州棉業聯合會主催棉業視察團	同	二
	安東省立女子國民高等學校訪日團	同	三五
	間島省延吉街海星國民優級學校團	同	八三
	牡丹江省訪日教育視察團	同	二四
	河北省農業學校及小學校長訪日團	中	一六
	天津大和日本尋常高等小學校訪日團	日	三〇
	天津第一日本小學校母國修學旅行團	同	二〇

月	團體名	種別	人員
九月	天津三笠日本小學校母國修學旅行團	日	七五
	蒙疆實業團訪日視察團	中	一二
十月	金州農業學堂訪日團	滿	四〇
	佳木斯協和會義勇隊	同	三一
	間島省龍井光明女子國民學校	同	四九
	奉天東豐師道學校　一班	同	六〇
	同　二班	同	六〇
	鐵道愛護團協和少年團選拔團	同	三九
	滿洲國建國大學訓練旅行團　一班	同	七一
	同　二班	同	五〇
十一月	奉天省地方職員訓練所	同	三四
十六年一月	滿洲帝國留日學生渡日團	同	三〇〇
二月	昭和製鋼所滿洲人社員日本內地視察團	同	二二
	延吉女子國民高等學校	同	四一
	新京醫科大學第三回訪日團	同	五五
三月	第一期中央刑務官訓練生訪日團	同	五一
	開拓農業長期傳習生訪日團	同	五〇
	滿洲國留日派遣敎官渡日團	同	五二
	華北警察長官日滿視察團	同	一七
	北京東郊少年日本派遣團	同	三二
	北京陸軍特務機關日滿實業視察團	同	一〇
	國立新民學院第五期特科乙班訪日團	同	六〇
	華北交通愛護村長訪日團	同	二三
	實業銀行協會日滿金融視察團	同	二〇
	合計一六七團		

◇東亞旅行社斡旋（中支發）

月日	團體名	人員
十五年九月	國民政府敎育部日本留學生團	三八
十月	國民政府警政部	二七
	大民會興亞建國運動訪日視察團	一五
十一月	日本商業學校母國訪問見學團	八〇
	二千六百年奉祝大會參加中支青年團代表團	四六
	國民政府派遣二千六百年祝典參列者團	五五
	武漢青年協會二千六百年奉祝訪日團	一五
	南京市長一行奉祝訪日團	四
	華中鐵道鐵路愛護團	一六
	廣東市立小學校長日本視察見學團	三五
	廣東大學校長一行日本敎育視察團	二四
十六年三月	江蘇省訪日敎育視察團	九
計	一二團體	三六四

＝滿支發連絡視察團＝

◇東亞旅行社斡旋

月日	團體名	種別	人員
十五年四月	蘇家屯小學校京城方面旅行團	日	七九
	奉天平安小學校京城方面旅行團	同	一九二
	奉天平安小學校京城方面旅行團第二班	同	九七
	奉天高千穗小學校京城方面旅行團第一班	同	九二
	奉天高千穗小學校京城方面旅行團第二班	同	九二
	奉天春日小學校京城方面旅行團第一班	同	九六
	奉天春日小學校京城方面旅行團第二班	同	九八
	奉天千代田小學校京城方面旅行團	同	八八
	奉天彌生小學校京城方面旅行團	同	九五
	奉天彌生小學校京城方面旅行團第二班	同	九九
	奉天加茂小學校京城方面旅行團第一班	同	九〇
五月	清津蹴球團京城遠征團	同	二〇
	滿洲國中央郵政職員訓練所朝鮮視察團	滿	五四
	奉天葵小學校京城方面旅行團第一班	日	七九
	奉天葵小學校京城方面旅行團第二班	同	九九
	吉林朝日小學校北鮮地方修學旅行團	同	六五
	吉林市外豐滿小學校北鮮旅行團	同	二〇
	間島省勸農模範訓練所旅行團	滿	二〇
八月	安東大正小學校朝鮮修學旅行團	日	一五五
九月	奉天工業學院京城旅行團	滿	三五
	奉天地方師道學校訓練所朝鮮旅行團	同	二六
	奉天西塔小學校京城方面旅行團第一班	日	三六
	奉天西塔小學校京城方面旅行團第二班	同	一〇〇
	公立姜家窩堡國民優級學校團	滿	四〇
	新京敷島高等女學校鮮滿旅行團	日	三〇
	寧安公立城西國民優級學校團	滿	四二
	海林公立啓明國民優級學校團	同	六〇

月	團體名	種別	人員
	牡丹江省寧安縣新安村金剛山探勝團	同	二〇
	東京城公立渤海國民優級學校旅行團	同	六〇
	安東昭和尋常高等小學校旅行團	日	一四四
	三江省依蘭縣江麗村公立新豐國民優級學校旅行團	滿	一七
	吉林省社會事業視察團	同	一〇
十月	寧安縣新安鎭公立眞城國民優級學校旅行團	同	八〇
	寧安縣青林公立啓林國民學校旅行團	同	二五
	橫道河子尋常高等小學校修學旅行團	日	二五
	奉天市敎育會朝鮮視察團	同	九
	大連大同女子技藝學校鮮滿修學旅行團	同	五〇
	依蘭縣江麗村公立大陽國民優級學校旅行團	滿	一九
	依蘭縣江麗村公立國民優級學校旅行團	同	二二
	永吉縣學校敎員南滿鮮旅行團	日	一五
十一月	奉天遼陽縣敎育會主催朝鮮敎育視察團	同	二四
	哈爾濱高等女學校鮮滿修學旅行團	同	一〇〇
	吉林高等女學校滿鮮旅行團	同	六五
	華北中國實業家朝鮮訪問團	同	六
十二月	奉天地方郵政職員訓練所生朝鮮方面旅行團	滿	六一
三月	鞍山實踐女學校生徒修學旅行團	日	一九
計	四七團體		二、八六〇

◇東亞旅行社本部斡旋客（昭和十五年度）

	合計	前年度
獨	二七、四六三	八、六六五
佛	二、三八五	二、七〇三
蘇	六、八六〇	一、七三一
米	三三、四九三	三六、四五三
英	八、一九〇	一三、三九四
滿支	四六〇、六〇三	三一、四四九
其他	三五、一五三	三二、九四三
計	五六三、六一五	一〇七、三三七
日本	四、八三一、〇八九	三、五六三、一〇〇

◇東亞旅行社發行印刷物

本年度	本部	滿洲支部	種類	合計
大正一	五、〇〇〇	—	一	五、〇〇〇
二	六五、〇〇〇	—	一二	六五、〇〇〇
三	一七九、三〇〇	—	二六	一七九、〇〇〇
四	一一〇、四〇〇	—	一三	一一〇、四〇〇
五	一一一、四〇〇	—	一七	一一一、四〇〇
六	一四四、〇〇〇	—	一三	一四四、〇〇〇
七	九一、〇五〇	—	一四	九一、〇五〇
八	六〇、八〇〇	—	一〇	六〇、八〇〇
九	五六、二〇〇	—	一〇	五六、二〇〇
一〇	四三、〇五〇	—	一六	四三、〇五〇
一一	一三三、七二〇	—	九	一三三、七二〇
一二	一六、〇〇〇	—	八	一六、〇〇〇
一三	四四、〇〇〇	—	八	四四、〇〇〇
一四	二九、一〇〇	—	六	二九、一〇〇
昭和一	二九、六〇〇	一一、八〇〇	一一	四一、四〇〇
二	八七、七五〇	一七、六〇〇	一三	一〇五、三五〇
三	二五八、五〇〇	三三、八〇〇	二六	二九一、三〇〇
四	三一三、〇〇〇	三五、二〇〇	三三	三四八、二〇〇
五	三五四、四〇〇	四七、二〇〇	四四	四〇一、六〇〇
六	六二五、一一〇	七五、五〇〇	六三	七〇〇、六一〇
七	七九〇、一一〇	八三、二〇〇	四七	八七三、三一〇
八	一、〇五一、五三〇	一五三、七〇〇	六四	一、二〇五、二三〇
九	一、一二五、二〇〇	一八一、三〇〇	九一	一、三〇六、五〇〇
一〇	一、二四九、四〇〇	七九、五五五	七〇	一、三二八、九五五
一一	一、八四五、〇〇〇	二一八、〇〇〇	八六	二、〇六三、〇〇〇
一二	六九六、二〇〇	二八五、〇〇〇	七六	九八一、二〇〇
一三	七七〇、五〇〇	一一〇、〇〇〇	八二	八八〇、五五〇
一四	七八八、七三三	七五六、八〇〇	六八	一、五四五、五三三
一五	九七六、八〇〇	七九八、三〇〇	六三	一、七七五、一〇〇

交通機關

旅行機關一覽

・本表は滿支旅客關係分のみを記載し、鐵道各驛、代理店等を除いた。



名稱	所在地
【鐵道】	
▽南滿洲鐵道株式會社	大連市東公園町三〇
鐵道總局	奉天市春日町二九
奉天鐵道局	奉天市
錦州鐵道局	錦州市
吉林鐵道局	吉林市
牡丹江鐵道局	牡丹江市
哈爾濱鐵道局	哈爾濱市
齊齊哈爾鐵道局	齊齊哈爾市
羅津鐵道局	羅津
北滿江運局	哈爾濱市
大連埠頭局	大連市
▽開豐鐵路股份有限公司	開原街
▽東滿洲鐵道株式會社	間島省琿春縣琿春街
▽哈爾濱產業鐵道株式會社	濱江省阿城縣第三天理村大字生琉里
▽華北交通株式會社	北京市東長安街
北京鐵路局	北京市
張家口鐵路局	張家口市
天津鐵道局	天津市
濟南鐵路局	濟南市
太原鐵路局	太原市
開封鐵路局	開封市
▽華中鐵道株式會社	上海北四川路
南京支社	
淮南事務所	
漢口事務所	
東京事務所	
▽朝鮮總督府鐵道局	京城府漢江道一五
奉天出張員事務所	奉天市加茂町二
▽鐵道省	東京市麴町區丸ノ內一丁目
奉天事務所	奉天市加茂町二
北京公館	北京市東長安街二號
國際觀光局北京辦事處	北京市一區新開路三八號
上海辦事處	上海市黃浦灘橫濱正金銀行內
【飛行機】	
▽滿洲航空株式會社	新京特別市長春大街裕昌源ビル
東京支店	東京麴町區內幸町大阪ビル
航空處	奉天大和區義光街二段十五
奉天飛行場事務所	奉天省瀋陽縣靖安村（北陵東側）
奉天空の旅案內所	奉天大廣場 三井ビル一階
大連飛行場事務所	關東州周水屯一〇六八
大連營業所	大連市伊勢町五四
安東飛行場事務所	安東市外三道浪頭
安東營業所	安東市市場通り
錦州飛行場事務所	錦州省錦縣北大營
承德營業所	熱河省承德縣承德火神廟街
赤峰營業所	熱河省赤峰縣赤峰三道街
林西營業所	興安西省林西縣三道街
通化營業所	安東省通化縣城內關大什字街
桓仁營業所	安東省桓仁縣桓仁城內東關
輯安營業所	安東省輯安縣城內
寬甸營業所	安東省寬甸縣城內
新京飛行場事務所	新京市外西北
新京營業所	新京清明街二〇二
吉林營業所	吉林省永吉縣吉林商埠地大馬路
延吉營業所	間島省延吉縣延吉興隆大街
琿春營業所	間島省琿春西門外
清津飛行場事務所	朝鮮咸鏡北道龍城面松坪洞
林東飛行場事務所	林東
通遼營業所	興安南省通遼縣永福大街二七
開魯營業所	興安西省開魯縣城內北大街
哈爾濱飛行場事務所	哈爾濱馬家溝土肥原街
哈爾濱營業所	哈爾濱南崗建築街二

齊齊哈爾飛行場事務所　龍江省龍江縣齊齊哈爾南大營
齊齊哈爾空の旅案内所　龍江省龍江縣齊々哈爾新馬路五
海拉爾營業所　興安北省海拉爾滑防街二
滿洲里營業所　興安北省滿洲里街二道街三〇七、七三六(暫停)
嫩江營業所　龍江省嫩江縣嫩江街南大街
北安鎭營業所　龍江省龍鎭縣北安街南二道街
大黑河營業所　黑河省璦琿縣大黑河南大街八一
依蘭營業所　三江省依蘭縣三姓東大街
富錦營業所　三江省富錦縣富錦城内東興街
佳木斯營業所　三江省樺川縣佳木斯東門外南北路
寶淸營業所　三江省寶淸縣城内
通河營業所　濱江省通河縣城内
湯原營業所　湯原縣城外
牡丹江飛行場事務所　濱江省寧安縣牡丹江市外
牡丹江營業所　濱江省牡丹江大平路九
穆稜營業所　濱江省穆稜縣穆稜田屋部隊官舍
東寧營業所　濱江省東寧縣東寧中大街
八面通營業所　濱江省穆稜縣八面通正陽街
半截河營業所　濱江省密山縣半截河飯島部隊
密山營業所　濱江省密山縣密山興凱大街
虎林營業所　濱江省虎林縣川崎部隊本部
饒河營業所　三江省饒河縣城和平街
鼬巖飛行場事務所　鼬巖縣鼬巖城外
孫呉飛行場事務所　孫呉縣孫呉

▽大日本航空株式會社　東京市麴町區有樂町一ノ一

營業所及出張所
橫濱　中區辨天通二ノ二二
札幌　北一條西四丁目札幌グランドホテル
青森　新町陸奧館本店
仙臺　仙臺驛前針久旅館
東京　本社内
長野
新潟　古町ニイガタ・エキスプレス
富山　舊城前富山館
名古屋　西區笹島町舊驛前シナ忠旅館
大阪　西區靭南通一ノ一〇
鳥取　驛前土產館
松江　灘町二三三八
德島　堺浦町阿波ホテル
高知　播磨屋町野村自動車會社
福岡　上呉服町片倉ビル内
大邱　驛前米力商店
京城　黃金町一朝鮮ビル内
平壤　壽町一三三　三根旅館
新義州　眞砂町中津旅館　安東驛前安東ホテル
咸興　中央町松月旅館
北鮮　羅南本町際屋旅館　新岩洞國際ホテル
パラオ　パラオ島コロール町
サイパン　カラパン街商興クラブ内
大連　常磐町二ノ一〇
奉天　加茂町二　三井ビル内空の旅案内所
新京　朱家窩棚
上海　西華德路七一號
南京　中山東路八四號
廣東　太平南路四七

青島　山東路一〇三號
天津　日本租界芙蓉街三航空案内所
北京　崇文門大街二五七號中華航空會社内
那覇　西新町寶來館及び西本町丸三商會内
臺北　本町三丁目
臺中　大正町二丁目ラヂオ相談所
臺南　大正町三丁目東屋旅館
馬公　馬公街二八八商船組内
屛東　驛前臺灣運輸株式會社
臺東　寶町新港自動車商會
花蓮港　黑金通二一株式會社朝日組
宜蘭　坤門塗師尾旅館

駐在員
新京、青島、北京、南京、海口、三灶島、漢口、八日市、西貢、磐谷、河内、テヘラン、鹿屋(出張員)
デリー・ツーラン

支所
東京　蒲田區羽田江戸見町一五九二
橫濱　磯子區富岡町二六六九
パラオ　パラオ島コロール町四
大阪　兵庫縣川邊郡神津村小阪田
福岡　福岡縣糟屋郡和白村奈多字雁ノ巣
京城　汝矣町二〇〇
大連　連鎖街常盤町二ノ一〇
台北　項東勢
上海　大場鎭

▽中華航空株式會社　北京市内二區國會街五〇號
北京支社　本社内
華北管理局　本社内
北京支所　北京西郊飛行場内
北京營業所　北京市内一區崇文門内大街二五七號

天津支所　天津市外張貴莊飛行場内
天津營業所　天津日本租界芙蓉街三號
青島支所　青島飛行場内
青島營業所　青島市山東路一〇三號
濟南出張所　濟南三太馬路緯六路一一三號
徐州出張所　徐州大同街二號
石門出張所　石門協和街一一號
彰德出張所　彰德飛行場内
新鄕出張所　新鄕新民路二〇號
臨汾出張所　臨汾城内東大街一四八號
開封出張所　開封市鼓樓街九一號
太原出張所　太原新民南正街五號
運城出張所　山西省運城縣城禪謝屋巷六號
山海關出張所　臨楡縣山海關南門外
海州出張所　新浦鎭前河街
歸德出張所　歸德驛前
大連營業所　大連市連鎖街
蒙疆管理局　張家口上爾溝街
張家口支所　張家口姚家莊新飛行場
大同出張所　大同城内東南隅石人街四號
厚和出張所　厚和新城西大街二六號
包頭出張所　包頭大文明巷三號
上海支社　上海施高塔路二九〇號
華中管理局　江蘇省寶山縣大場鎭飛行場内
上海支所　華中管理局内
上海營業所　上海西華德路
南京支所　南京復興路二號
南京營業所　南京支所内
漢口支所　漢口第三區江漢路二八五號

漢口營業所　漢口支所内
安慶出張所　安慶城内吳越街二號
九江出張所　九江一馬路一四七號
南昌出張所　南昌王陽明路
杭州出張所　杭州吳山路迎柴路角
宜昌出張所　飛行場内
荊門出張所　飛行場内
寧波出張所　寧波外馬路二二號
廣東管理局　廣東廣衛路四號
廣東支所　廣東管理局内
廣東營業所　廣東漢民北路二三一號
汕頭出張所　汕頭市外馬路一〇八號
海口出張所　海口市振興街五二號

【船舶】

▽日本郵船株式會社　東京市麴町區丸ノ内二丁目二〇
東京支店　東京市日本橋區箱崎町四ノ二〇
橫濱支店　橫濱市中區海岸通三丁目九
名古屋支店　名古屋市西區御幸本町九丁目九
大阪支店　大阪市西區川口町二六
大阪船客切符發賣所　大阪市東區備後町二丁目五八
神戸支店　神戸市神戸區海岸通一丁目一〇
門司支店　門司市機橋通一
上海支店　上海共同租界黃浦灘第三號
大連支店　大連市山縣通一八一
香港支店　8 Connaught Road, Hongkong.
函館支店　函館市船場町一九
小樽支店　小樽市手宮町三丁目一九

基隆支店　基隆市明治町一丁目八
天津支店　天津市日界宮島街二
若松出張所　若松市南海岸通一丁目
營口出張所　營口市大和區南本街四丁目五
北京事務所　北京市東長安街二一號北京飯店
青島事務所　青島市館陶路第四五號
南京事務所　南京市下關寶善町二號揚子ホテル
蕪湖事務所　蕪湖市小港口
漢口事務所　漢口市第三特別區華昌街三
大冶事務所　湖北省大冶縣石灰窰
廣東事務所　廣東市長堤六馬路三八二
西貢事務所　% Denis Freres d' Indochine, 4 Rue Catinat, Saigon Cochin-China.

▽大阪商船株式會社　大阪市北區宗是町大阪ビル
天保山船客係　大阪市港區北海岸
大阪ビル船客案内所　大阪市北區宗是町大阪ビル
日本橋船客案内所　大阪市南區日本橋北詰
梅田案内所　大阪驛構内
東京支店　東京市麴町區内幸町大阪ビル
橫濱支店　橫濱市中區木町住友ビル
名古屋船客案内所　名古屋市中區南大津町千代田ビル
京都船客案内所　京都市四條通富小路東
神戸支店　神戸市海岸通
神戸旅行案内所　神戸市海岸通三丁目
廣島代理店　廣島市宇品町海岸通
關門船客案内所　下關驛前
門司支店　門司市湊町

別府支店　別府市海岸通
博多船客案內所　博多驛前九軌デパート
長崎代理店　長崎市千馬町
鹿兒島支店　鹿兒島市生産町
佐賀切符發賣所　佐賀驛前佐運本店
久留米切符發賣所　久留米市京町
熊本切符發賣所　熊本市春日町
京城支店　京城府南大門通
大連支店　大連市山縣通
奉天事務所　奉天浪速通
新京事務所　新京中央通
哈爾濱事務所　哈爾濱埠頭區地段街
天津支店　天津佛租界佛蘭西碼頭
塘沽代理店　塘沽中新街
芝罘代理店　芝罘岩城商會
青島代理店　青島新疆路岩城商會
上海支店　上海廣東路第二號
基隆出張所　基隆驛前
臺北支店　臺北驛前
臺北船客案內所　臺北市榮町
高雄支店　高雄市新濱町
那覇支店　那覇市
清津支店　清津府
香港支店　香港市

▽大連汽船株式會社　大連市山縣通一九五
上海支店　上海四川路一一〇號
天津支店　天津特別第一區ウヰルソン街六五
青島支店　青島館陶路三七號
神戸支店　神戸市神戸區明石町三二
營口支店　營口市南本町一丁目
東京事務所　東京市麴町區丸ノ內二丁目二
奉天事務所　奉天浪速通二八都ビル內
新京事務所　新京市大同大街三〇二號海上ビル
安東出張所　安東市堀割北通五丁目一
羅津駐在員　羅津府昭和通一丁目三五四國際ビル二〇五
北京駐在員　北京西長安街背蔭胡同甲一號
臺北出張所　臺北市表町二丁目一四
高雄駐在員　高雄市堀江町二ノ五〇
廣東出張所　廣東市新堤大馬路一九六號三樓
香港出張所　Top floor King's Bldg, Connaught Road. Central Hongkong.

▽朝鮮郵船株式會社　京城府南大門通五丁目一
釜山支店　釜山府大橋通二丁目一
元山支店　元山府海岸通二丁目九
仁川出張所　仁川府港町六丁目一六
大阪出張所　大阪市北區宗是町一大阪ビル二階
東京出張所　東京市麴町區丸ノ內郵船ビル三階三三四號
北鮮出張員　清津府北星町二二國際運輸支店內
青島出張所　青島

▽阿波國共同汽船株式會社　德島市塀裏町六五
大連支店　大連市山縣通二〇〇
芝罘出張所　山東省芝罘順泰街
京城出張所　京城府蓬萊町一

▽北日本汽船株式會社　東京市麴町區內幸町大阪ビル內
大泊支店　樺太大泊町榮町濱通二一
新京在勤員事務所　新京八島通四二福昌ビル
大阪在勤員事務所　大阪市北區宗是町大阪ビル內
敦賀在勤員事務所　敦賀市大和田回漕部內
宇品在勤員事務所　廣島市宇品町廣島商船組合
伏木在勤員事務所　富山縣伏木港三輪回漕店內
泊居在勤員事務所　樺太泊居港泊居回漕店內
函館在勤員事務所　函館市仲濱町共同回漕店內
清津在勤員事務所　清津府北星町國際運輸支店內
浦鹽斯德在勤員事務所　蘇國浦鹽斯德市
青森出張所　青森市新安町八三
稚內出張所　北海道稚內町北濱通四丁目
眞岡出張所　樺太眞岡港本町一丁目四六
新潟出張所　新潟市沼垂町龍ケ島新潟運送鮮會社內
富山出張所　富山市

▽嶋谷汽船株式會社　神戸市神戸區明石町一八
小樽支店　小樽市南濱町五丁目三
大連支店　大連市山縣通一五三
伏木出張所　富山縣伏木町湊町九
京城出張所　京城府苑西町一〇八
清津出張所　清津府

▽鴨綠江輪船公司　新義州常盤町三丁目二

▽松浦汽船株式會社　大連市加賀町三〇

▽康和海運株式會社　大連市山縣通一八

▽東亞海運株式會社　東京市麴町區丸ノ內海上ビル二階
東京支店　日本橋區小網町二ノ三
橫濱支店　中區海岸通五ノ二六
大阪支店　西區本田町一ノ四九

神戸支店　神戸區浪速町五七
門司支店　東港町一
長崎支店　常盤町四
臺北支店　表町二ノ一五及一六
上海支店　共同租界黃浦灘路五
厦門支店　海後路一一
廣東支店　長堤太馬路三八二
南京支店　下關江邊路
蕪湖支店　臨港路一號
漢口支店　第三特別區
天津支店　日界松島街八
青島支店　新疆路一八
大連支店　山縣通二〇〇

▽日本海汽船株式會社　東京市麴町區內幸町大阪ビル
新潟支店　新潟市沼垂中央埠頭
伏木支店　富山縣射水郡伏木町港町二七
敦賀支店　敦賀市泉區第十二號
清津支店　清津府北星町一八
羅津支店　羅津府昭和通一丁目七
新京在勤員事務所　新京市八島通四二福昌ビル
大阪在勤員事務所　大阪市北區宗是町大阪ビル
名古屋船客案內所　名古屋市中區南大津通千代田ビル
京都船客案內所　京都市中京區四條通富小路

▽東和汽船株式會社　大連市山縣通一四四

▽龍運汽船株式會社　大連市加茂町三〇

▽龍王汽船株式會社　大連市山縣通二〇〇

▽日東洋行　大連市山縣通一九三

▽國際運輸株式會社　大連市山縣通二二一

▽滿洲海運株式會社　大連市山縣通一四四

▽中川汽船株式會社　大連市西公園町三七

▽春和汽船株式會社　大連市敷島町六

▽大連海運株式會社　大連市北大山通四

▽關東運輸株式會社　大連市明治町八

▽營口肇興汽船株式會社　營口市東雙橋子街

▽營口大通汽船株式會社　營口西北門外門牌一五三號

▽大安汽船株式會社　安東興隆街三

▽松黑運輸株式會社　哈爾濱市道外北頭道街

▽滿洲鴨綠江航運株式會社　安東後東後街一三二

▽上海內河輪船公司　上海市北蘇州路四三四號

【自動車】

▽大連都市交通株式會社　大連市常盤橋
旅順・金州・普蘭店各營業所

▽新京交通株式會社　新京特別市豐樂胡同一〇一

▽滿洲交通株式會社　新京特別市西五馬路十二號

▽吉奉交通株式會社　吉林省懷德縣公主嶺河南西大街門牌二五號

▽東吉林交通株式會社　吉林市輻綏街三七

▽牡丹江交通株式會社　牡丹江市

▽丙通長途汽車公司　洮南縣城內四緯路一一三號

▽哈爾濱交通株式會社　哈爾濱市南崗義州街三三
電車驛前詰所　哈爾濱驛前
電車十六道街詰所　哈爾濱市東傳家甸區正陽十六道街
自動車課營業係　哈爾濱市道外西傳家甸區第六段六六號
其他警察街、秋林、石頭道街、桃花巷詰所等

▽哈爾濱自動車交通合資會社　哈爾濱市道外太古六道街一九九

▽東亞運輸商會　哈爾濱市八站中馬路六號

▽哈郭長途汽車公司　同右

▽合資會社信義洋行　間島省龍井村桁頭街

▽東滿洲鐵道株式會社　間島省琿春縣琿春街

▽安東交通株式會社　安東市公安街二四號
本溪湖營業所　本溪湖市
寬甸營業所　寬甸城內
桓仁營業所　桓仁城內
鳳城營業所　鳳凰城驛前
草河口營業所　草河口驛前

▽奉天交通株式會社　奉天市大和區宮島町二
奉天郊外バス營業所　同　大和區大西街五段八四
鐵嶺營業所　鐵嶺市廣祐區德潤大街第七三號ノ十二
興京營業所　興京縣興京河北街
撫順營業所　撫順市西一條通一番地

▽奉南交通株式會社　鞍山市北八番町一
鞍山營業所　同右
遼陽營業所　遼陽市武聖區熊家街
海城營業所　海城縣海城街玉皇區金絲街
營口支店　營口市綏定區宣德街六
蓋平出張所　蓋平縣蓋平街西關一區
瓦房店支店　復縣瓦房店街集市街一

▽奉北交通株式會社 四平市花園區昭平橋通七五號
▽昭和自動車公司 臺安縣城內萬福寺東胡八號
▽遼西交通株式會社 錦州省北鎭縣城內西大街門牌一號
（北鎭營業所 同右
黒山營業所 錦州省黒山縣城內中央大街門牌三七號
溝幇子營業所 溝幇子驛構內
閭陽驛營業所 錦州省北鎭縣閭陽驛林東街門牌十七號
▽北支滿蒙運輸商會 熱河省承德街草市街一八〇
▽咸北自動車株式會社 北鮮清津府港町一二
▽華中都市自動車株式會社 上海市東體育會支路七〇號
北部營業所 同右
東部營業所 上海東百老匯路
南京營業所 南京中山路
蘇州營業所 蘇州大馬路
杭州營業所 杭州西大街
鎭江營業所 鎭江中正路
無錫營業所 無錫通運路
南市營業所 上海南市斜橋路
▽蒙疆汽車公司 張家口市明德南大街二二七號
張家口營業所 張家口市橋西大街五一
大同營業所 大同北關大街五五
平地泉營業所 平地泉驛西側
厚和營業所 厚和西門裡四
包頭營業所 包頭東大街三一
宣化營業支所 宣化南關橋西路北門牌一

【鮮滿支案內所】

▽東京鮮滿支案內所 東京市京橋區銀座二丁目一
同 分室 東京市虎ノ門滿鐵ビル
▽大阪鮮滿支案內所 大阪市堺筋安土町
同名古屋出張所 名古屋市中區榮町一丁目十
同敦賀駐在員事務所 敦賀驛前大通り
▽新潟鮮滿支案內所 新潟市古町通六
▽小樽鮮滿支案內所 小樽市稻穂町東六丁目二七
▽門司鮮滿支案內所 門司稅關前
同長崎駐在員事務所 長崎市萬屋町七九
▽下關鮮滿支案內所 下關驛前

【東亞旅行社】

東京市麴町區丸之內一ノ一
（分室） 神田區鍛冶町二丁目二四（神田驛前）
滿洲支部 奉天市住吉町六
華北出張所 北京內一區煤渣胡同四號
華中支部 上海北四川路一三二四
朝鮮支部 京城府朝鮮總督府鐵道局內
關東支部 東京市東京驛內（降車口）
中部支部 名古屋市名古屋鐵道局內
關西支部 大阪市東區安土町堺筋二ノ六三
西部支部 廣島市廣島鐵道局內
九州支部 門司市門司鐵道局內
羽越信支部 新潟市新潟鐵道局內
東北支部 仙臺市仙臺鐵道局內
北海道支部 札幌市札幌鐵道局內
臺灣支部 臺北市臺灣總督府交通局鐵道部內

【案內所】

・關東州・滿洲

大連 伊勢町五四・播磨町ヤマトホテル內・大連驛內・連鎖街榮町三三・監部通三四
旅順 驛內（夏期）
鞍山 北二條町一六
奉天 驛前・浪速通ヤマトホテル內・住吉町奉天ビル內・瀋陽區一德街一段一三二
四平 北一條通二・二驛前
新京 驛前・大同大街三中井百貨店內・城內西四馬路口七四號泰發號內・ヤマトホテル內
安東 大和橋通二丁目（驛前通）
營口 南本街一・永世街一〇
撫順 中央大街一一（驛前通）
吉林 大馬路一三九・城內通天街二號豐滿村二二・一
延吉 康平區進學路一四ノ七
通化 南關三九
圖們 春風街三四ノ一
牡丹江 太平路一二
哈爾濱 中央大街七八・地段街丸商百貨店內・傅家甸正陽大街・昇平二道街・新市街ヤマトホテル內
佳木斯 向陽大街三段地・中央區安民街一段
黒河 中原街
齊齊哈爾 正陽大街三九八
滿洲里 三道街ニキチンホテル內
錦州 正陽區中央大街三
承德 南營子大街狹西營門牌五

・中國・蒙疆

山海關 南關中街七四號ノ二
北京 崇文門大街三九・王府井大街二・車站內・西單北大街一九五・前門大街五〇

唐山 唐山站前
天津 日本租界旭街一二・站前・東馬路南大門一三六
保定 車站大街一五號
北戴河 海濱西經路（夏期中）
張家口 橋東五四
大同 大東街一一二號
厚和 北門街六七號
太原 首義門街四九
石門 阜寧路
青島 堂邑路二八號・奉天路二九〇號・會泉路一五號東海飯店內（夏季中）
濟南 大馬路五〇七・城內普利門街二大馬路・站內
徐州 月波鎭月波街四八號
開封 相國寺後街三六
連雲 碼頭內
上海 北四川路一三二四號・四川路一一〇號
南京 中山路一ノ三・建康路
杭州 新民路二區三二五
蘇州 北局蘇州百貨公司內
鎭江 甦生路二五
漢口 江漢路一五七號
廣東 太平路新華ホテル內

・朝鮮

釜山 驛構內
大邱 大橋通二丁目三中井百貨店內
元町一丁目三中井百貨店內
太田 三中井百貨店內
京城 本町一丁目三越內
三中井內
朝鮮ホテル內
驛構內
平壤 鐘路三丁目和信內
本町七三三中井百貨店內
咸興 本町四六三中井百貨店內
新義州 本町五朝鮮運輸會社內
元山 三中井百貨店內
清津 埠頭前
羅津 驛前國際ビル內
埠頭內

・內地

東京 東京驛降車口
東京驛乘車口
東京鐵道運輸部旅客案內所內
神田區鍛冶町二ノ二四（驛前）
麴町區內幸町帝國ホテル內
麴町區丸ビル鮮滿支案內所內
丸ビル一階
京橋區銀座三丁目松屋內
下谷區廣小路一丁目松坂屋內
日本橋區室町三越內
日本橋區通一丁目白木屋內
日本橋區通二丁目高島屋內
淀橋區角筈一丁目三越內
四谷區新宿三丁目伊勢丹內
澁谷區玉電ビル內
横濱 中區海岸通一横濱貿易協會內
中區伊勢佐木町野澤屋內
輕井澤 驛內（夏期中）
箱根 箱根宮ノ下富士屋ホテル內
日光 金谷ホテル內
松本 驛前（夏期中）
名古屋 驛內
榮町三星內
中區廣小路通二丁目（朝日ビル）
中區南大津町松坂屋內
岐阜 柳ケ瀬町四丁目丸物支店內
福井 佐佳枝上町だるまや內
敦賀 驛前大通
金澤 片町宮市大丸內
富山 西町七宮市大丸支店內
新潟 古町通七
京都 驛內
驛前市設觀光案內所內
下京區四條通大丸內
東山區粟田口華頂町都ホテル內
中京區河原町通京都ホテル內
大阪 東區安土町堺筋角
新大阪ホテル內
朝鮮鐵道案內所內
東區安土町堺筋鮮滿支案內所內
東區高麗橋三越內
東區心齋橋筋大丸內
南區心齋橋筋十合呉服店內
南區日本橋筋三丁目松坂屋內
北區中ノ島三丁目新大阪ホテル內
大阪驛內
高島屋內
神戸 三ノ宮驛內
裏町四〇大丸內
明石町大丸內
新港神戸市觀光案內所內
呉 中通七丁目呉專門大店內
岡山 下之町七七天滿屋內
松江 白潟本町二四尾原呉服店內
廣島 八丁堀福屋內

下關　驛前・豐前田町朝鮮鐵道案内所内
門司　西海岸通鮮滿支案内所内
高松　内町五三ノ三越内
別府　北町下八一八
八幡　尾倉九州百貨店内
小倉　寶町井筒屋内
博多　東中洲町玉屋内
久留米　橋口町四六松屋内
大牟田　日吉町旭屋内
唐津　本町松屋内
佐世保　(夏期中)
雲仙　榮町玉屋内
長崎　(夏期中)
熊本　驛前・萬町鮮滿支案内所内
鹿兒島　安已橋通千德内
仙臺　金生町三九山形屋内
福島　東一番町三越内
盛岡　大町中合支店内
青森　志家第六地割字肴町川德呉服店内
秋田　新町八一松木屋内
函館　上長町木内雜貨店内
札幌　末廣町七三今井商店内
小樽　南一條西二丁目今井商店内
　　　稻穗町東八丁目今井商店内
　　　鮮滿支案内所内
旭川　一條通今井商店内
・臺灣
臺北　榮町商品陳列館内
　　　驛内
臺中　寶町貴田商店内
嘉義　元町商工館内
臺南　末廣町一丁目林百貨店内
花蓮港　港街黒金通一六
高雄　堀江町六丁目吉井百貨店内
・海外
ニユーヨーク、ロスアンゼルス、香港、マニラ、河内、ヴエノスアイレス、ベルリン

鐵道

南滿洲鐵道株式會社

ポーツマス條約により露國より得た南滿洲鐵道及び其接壤地域の經營を中心に大陸政策遂行に當らしむべく政府の命令に依り明治三十九年十一月二十六日設立された日本政府の特殊會社である。鐵道運輸事業を經營すると共に、その便益のため附帶事業として倉庫業、車輛工場、炭礦及びこれに附隨する各種化學工業、海運業、港灣を經營し、滿洲國有鐵道の委託經營、同新線建設の受託、會社附屬地内土地建物の經營、土木、敎育、衞生及び産業に關する各種の施設をなし(治廢により移讓)廣く東亞の各地に亙つて調査事業を遂行する傍ら製鐵、瓦斯、電氣、窯業、旅館、船渠、石炭業、輸入組合、炭山採木事業、運送業、土木業、倉庫業等を育成、又は助成してこれが發展に資する等單なる鐵道事業に止まらず、關係會社も七十九社に及んで居り、更に昭和十四年には北支經濟開發の原動力たる華北交通會社を誕生せしめ又北滿航運業を接收した。

會社設立當時に於ける資本金は二億圓であつたが、大正九年四月資本金を四億四千萬圓に、昭和八年三月八億圓に、更に昭和十五年初め十四億圓に增資したが、半額政府、半額民間の方針を執つてゐる。

創業の際の從業員數は職員二千餘名傭員四千餘名に過ぎなかつたが、現在社員外從事員を加ふれば約二十萬人に及んでゐる。

滿鐵鐵道總局

滿洲國は舊東北政權管下の鐵道その他を經營するに當り昭和八年二月九日交通部佈告及び訓令を以て「大同二年二月九日に於て國有鐵道、松花江官營水運事業及び各項附屬事業を南滿洲鐵道株式會社に委託して經營せしむ」と發令し同年三月一日滿鐵は奉天に鐵路總局を設置し之が經營に當らしめた。總局は昭和九年(康德元年)四月一日管下九鐵路局を四鐵路局に廢合整理し一部路線の合倂改稱と同時に運送規定の改正統一を行ひ、一方滿洲鐵道建設局が滿洲國

の意を體して新設せる路線は完成と同時に總局に於て之を經營することゝなり、更に昭和十年(康德二年)三月二十三日滿蘇共同經營の北滿鐵路の讓渡と同時に之を總局の管下に移したゝめ、總局の業務は著しく擴大したのである。

越えて昭和十一年(康德三年)十月一日滿鐵社線、北鮮線(北鮮鐵道管理局線)及び國線(總局所管の國有鐵道)を統合して經營の一元化となり、職制改正を行ひ茲に鐵道總局と改名し各鐵道を擧げて管轄せしむることゝなつた。

即ち滿洲國建國後國有鐵道二千八百餘粁の經營を受託して滿鐵の所管線は俄に四千餘粁に激增、殊に國線は年々絶えず建設せる新線と昭和十年に接收した舊北鐵を加へると實に受託當時の三倍—八千八百餘粁を算し、更に北鮮の受託鐵道二一六粁と社線一千二百三十一粁を合せて蜿蜒一萬七百七十九粁七(昭和十五年一月現在假營業四六九粁五合算)に達し、今や全線滿鐵の傘下に整然たる一元的統制をもつて合理的運營を續け大陸鐵道政策遂行に邁進してゐる。

國線經營後八箇年、國防に産業開發に其使命の重大性をよく認識せる滿鐵社員は一方滿洲開發の先驅者となつてあらゆる艱難を克服し、糧食の缺乏にも耐へながら特有の精神力と技術能力とを以て奮闘を續け、四千餘粁の鐵道を建設したことは世界鐵道建設史上に誇示するに足るものである。

△滿鐵社線

連京線……(大連・新京間)
安奉線……(安東・蘇家屯間)
埠頭線……(大連・大連埠頭間)
撫順線……(蘇家屯・撫順間)
旅順線……(周水子・旅順間)
營口線……(大石橋・營口間)
煙臺炭坑線……(煙臺・煙臺炭坑間)
甘井子線……(南關嶺・甘井子間)
渾楡線……(渾河・楡樹臺間)
吾妻線……(大連・吾妻間)
入船線……(沙河口・入船間)
金城線……(金州・城子疃間)
計　一、二三一・五粁

△國線

奉吉線……(瀋陽・奉天間)
壺蘆島線……(錦西・壺蘆島間)
奉裕線……(奉天・裕國間)
奉山線……(裕國・山海關間)
河北線……(溝幇子・河北間)
北票線……(金嶺寺・北票間)
葉峰線……(葉柏壽・赤峰間)
錦古線……(錦縣・古北口間)
新義線……(新立屯・義縣間)
平梅線……(四平・蓮河間)
梅輯線……(梅河口・滿浦間)
大鄭線……(大虎山・鄭家屯間)
平齊線……(四平・齊齊哈爾間)
楡樹線……(齊齊哈爾・昂昂溪間)
京白線……(新京・白城子間)
白阿線……(白城子・阿爾山間)
寧霍線……(寧年・霍龍門間)
北黒線……(北安・黒河間)
黒河埠頭線……(黒河・黒河埠頭間)
虎林線……(林口・虎頭間)
齊北線……(齊齊哈爾・北安間)
濱北線……(哈爾濱・北安間)
三棵樹埠頭線…(三棵樹・三棵樹埠頭間)
東門連絡線……(東門・東香坊間)
八區線……(哈爾濱・八區間)
道裡線……(哈爾濱・道裡間)
綏佳線……(綏化・佳木斯間)
拉濱線……(三棵樹・新站間)
京濱線……(新京・哈爾濱間)
濱洲線……(哈爾濱・滿洲里間)
汪北線……(汪清・北荒嶺間)
龍豐線……(龍潭山・大豐滿間)
濱綏線……(哈爾濱・綏芬河間)
朝開線……(朝陽川・上三峯間)
京圖線……(東新京・圖們間)
小新連絡線……(小姑家・新站間)
圖佳線……(圖們・佳木斯間)
佳木斯埠頭線…(佳木斯・佳木斯埠頭間)
梨樹線……(下城子・梨樹鎭間)
綏寧線……(西綏・東寧間)
興寧線……(新興・城子溝間)
汪淸連絡線……(汪淸・小汪淸間)
鴨大線……(鴨園・大粒子間)

青道線……（龍井・青道間）
溪城線……（宮原・田師付間）
計……九、六〇〇・八粁
北鮮線……二一六・二粁
假營業線……一〇七・八粁
總計……一一、一四七・六粁

鐵道總局職制

- 企畫委員會
  - 庶務課
  - 文書課
  - 業務課
  - 弘報課
- 人事局
  - 人事課
  - 養成課
  - 調査課
  - 厚生課
  - 保健課
- 經理局
  - 第一經理課
  - 第二經理課
  - 會計課
- 調査局
  - 調査課
  - 資料課
- 用度局
  - 管理課
  - 資材課
  - 計畫課
  - 購買課
- 營業局
  - 旅客課
  - 旅行課
  - 貨物課
  - 小運送課
- 輸送局
  - 配車課
  - 運轉課
  - 車輛課
- 水運局
  - 水運課
  - 築港課
- 自動車局
  - 營業課
  - 技術課
  - 計畫課
- 工作局
  - 工作課
  - 工場課
  - 機械課

南滿洲鐵道株式會社

鐵道總局

- 工務局
  - 保線課
  - 改良課
  - 工事課
  - 建築課
  - 電氣課
  - 水道課
- 建設局
  - 計畫課
  - 工事課
  - 設計課
- 附業局
  - 產業課
  - 土地課
  - 愛路課
  - 拓植課
- 輸送委員會
- 參督
- 監察
- 鐵道局（奉天、錦州、吉林、牡丹江、哈爾濱、齊齊哈爾、羅津）
  - 總務課
  - 人事課
  - 經理課
  - 營業課
  - 輸送課
  - 自動車課
  - 工務課
  - 電氣課
  - 附業課
  - 鐵道監理所
  - 驛
  - 埠頭
  - 列車區
  - 機關區
  - 檢車區
  - 工務區
  - 電氣區
  - 自動車區
  - 電氣修繕場
  - 電信所
  - 滿洲開拓青年義勇隊滿鐵訓練所
  - 鐵道局教習所
  - 醫院
  - 富哈爾基保養院
  - 工事事務所
- 北滿航運局
  - 總務課
  - 運輸課
  - 船舶課
- 大連埠頭局
  - 總務課
  - 人事課
  - 經理課
  - 營業課
  - 作業課
  - 工務課
  - 岸壁監督
  - 埠頭局
  - 教習所
  - 工事々務所
- 鐵道學院
- 鐵道技術研究所
- 北滿鐵路殘務整理事務所
- 鐵道技術員養成所
- 保養院
- 撫順醫院
- 林業事務所
- 圖書館
- 鐵道工場
- 建設事務所
- 大東港築港事務所
- 大連改良事務所

【滿鐵重役】

▲總裁 大村卓一
▲副總裁 佐々木謙一郎、佐藤應次郎
▲理事 久保孚、伊澤道雄、平島敏夫、平山復二郎、猪子一到、大垣研、岡田卓雄、御影池辰雄
▲監事 大橋新太郎、小倉正恒、原邦造、森廣藏、安宅彌吉

【滿鐵顧問】 田中清次郎、木原清、丸澤常哉、小日山直登、川原宏

朝鮮總督府鐵道局

建設は明治三十二年九月京仁鐵道合資會社に依る仁川・永登浦間三十二粁餘を以て嚆矢とし、翌三十三年七月之を西大門に延

長し京城・仁川間を通ぜしめ、同三十四年京釜鐵道株式會社成立するや、直に京城釜山間の工事に着手し同三十八年一月京釜線の開通を見た。

更に同三十七年臨時軍用鐵道統監部は日露戰役中軍用線として京義線及馬山線の急設に着手し、馬山線は同三十八年十月、京義線は同三十九年四月兼二浦に至る支線と共に開通し、茲に半島を縱走する主要幹線を竣成せしめた。

次で同三十九年七月帝國政府は京釜及京仁線を買收して國有と爲し、同時に統監府鐵道管理局を設け陸軍の所管に關する京義・馬山の兩線を其の管理に移し、以て朝鮮に於ける鐵道の統一經營をなし其後同四十二年十二月鐵道院の所管に移りたるが、同四十三年十月朝鮮總督府の設置と共に其の管理に復歸した。

而して大正六年七月に至り政府は朝鮮交通貿易上の見地より其の經營を南滿洲鐵道株式會社に委託したるも、其の後時勢の推移は直接經營の必要を認むるに至つたので四十四年三月末日限り之を解除した。

此の間既成線の改良に努むると共に一面地方開發に資せんかため港灣に通ずる新線の建設を計畫し、目下主要港灣には全部鐵道を連絡せしめてゐる。

爾來平南・湖南・慶源・咸鏡・平元・圖們・惠山・滿浦・東海・慶全等の諸線建設竝に其の間に介在する私設鐵道買收等に關する計畫を樹立し爾來着々實施中である。

而して昭和八年に至り圖佳線竝に京圖線の完成に伴ひ、北鮮及び滿洲とを連絡し、更に裏日本一帶との新なる交通路を展開するに至りたるを以て、同八年十月一日以降輸城以北の鐵道三百二十八粁五を滿鐵に經營せしめたが同十五年七月一日以降上三峯以南を再び復歸せしめた。

現在營業粁は約四千粁に及んでゐる。

【職制及幹部】

鐵道局（局長・山田新十郎）

- 庶務課（大島資治）
- 調査課（田邊多聞）
- 監督課（西崎鶴司）
- 營業課（大和田福德）
- 運轉課（前原肇）
- 建設課（江崎義人）
- 保線課（畠謙次郎）
- 改良課（清水幸次）
- 工作課（崎山參一郎）
- 電氣課（永井幷三）
- 經理課（小松利一）
- 鐵道事務所（京城、太田、釜山、平壤、順天、元山、城津、江界）
- 建設事務所（平壤、江陵、京城、安東）
- 改良事務所（釜山、京城、平壤）
- 工場（釜山、京城、清津）
- 鐵道從事員養成所
- 京城鐵道病院
- ・（ ）內課長氏名・

華北交通株式會社

支那事變の最も輝かしい戰果の一つとして、日華蒙協力の下に創設された特殊會社であり華北、蒙疆に於ける交通の總元締である。

經營の前途は頗る多難を豫想されたが稠密な人口と天與の資源に立脚する以上、前途は洋々たるものがあらう。又人的には大多數の中國從業員を包擁し、交通網を媒體として民族の融合提携に身を以て實踐しつゝある。まことに華北交通會社はわが大陸政策の先驅として、東に滿洲朝鮮を結び、南は中南支に連り、西は中央アジアにも及ぶべき大陸交通の中樞に位置し、眞にアジアの大動脈であり、世界の公器である。その動向には常に國民的關心が寄せられねばならない。全從業員はその使命を體して勇奮力行しつゝあり、事變發生以來皇軍と形影相伴ひ、寸鐵を帶びぬ身を挺して聖戰の華と散つた社員は既に七百名に垂んとしてゐる。

【創　立】 昭和十四年（民國二十八年）四月十七日

【社　員】 十一萬人、このうち日本人は約三萬、他の約八萬は華人。日人社員は滿鐵會社、鐵道省その他の出身者、華人社員の大部分は舊北支鐵道從事員た

り し者で、一部滿鐵並鐵道省出身者も加つてゐる。日人社員制としては職員、雇員、傭員の三段階あり、職員中の高級者には參事、副參事の待遇名が與へられる。

【重役】 總裁一人、副總裁二人、理事五人以上、監事三人。總裁、副總裁は株主總會で選任し政府の認可を要する、任期五年。理事、監事は株主總會で選任任期理事四年、監事三年。

【會計】 資本金 三億圓

出資內譯	北支那開發株式會社	一億五千萬圓
	南滿洲鐵道株式會社	一億二千萬圓
	華北政務委員會	三千萬圓

總株數—六百萬株　一株—五十圓
社債募集限度—拂込株金額の三倍まで
營業年度—十月一日から九月末日
定時株主總會—每年十二月

華北交通會社は國有鐵道の運營に任ずるのであるが、經營上の損失は政府の保證に據らず、全部會社の負擔となる。また北支鐵道が有する巨億の借款整理に資するため、政府に相當額の上納金を納付すべき義務を負はされて居り、華北交通株式會社法に定むるところによる華北に於ける鐵道、自動車、水運並に之に附帶する諸事業の經營に當つてゐる。

又蒙疆政府の委託により蒙疆に於ける鐵道並にその附帶事業の經營にも當る。

鐵道は會社業務の根幹にして北支、蒙疆鐵道の總延長六千二百三十餘キロの九六%は既にその經營下に入つた。戰局の進展に伴ふ占領線の伸長、軍鐵一致の健鬪による復舊補强作業の進捗につれて、特殊輸送に遺憾なからしむると共に、一般營業路線も東潞、德石線等の新設はもとより、其他急速に伸展しつゝあり、殘るは隴海線開封以西のみとなつたが十六年九月鄭州陷落以後は更に西へ進めらるゝ筈である。

尙時代の變轉に伴ふ現實の事態處理に適應せしむべく、昭和十五年十一月一日を期して、他の國策會社に率先して企畫統制の完璧を期するため機構を單一化し、倂せて適材を適所に配置左記の如く改められた。

然し乍ら時局の前途猶豫測を許さず、沿線の治安未だ全たからざる今日、新東亞の曙光を前にして、同會社の健全なる發達を祈願し、洋々たる前途に期待を掛くるものである。

【所管鐵道】

京山線……(北京—山海關)
京古線……(北京—古北口)
京漢線……(前門—新鄉)
新開線……(新鄉—開封)
津浦線……(天津—蚌埠)
膠濟線……(青島—濟南)
京包線……(北京—包頭)
同蒲線……(大同—風陵渡口)
石太線……(石門—太原)
隴海線……(連雲—開封)
臨趙線……(臨城—趙墩)
大台線……(西直門—大台)
博山線……(張店—博山)
甲子灣線……(忻縣—河邊)
東潞線……(東觀—潞安)
道淸線……(淸化—遊家墳)
德石線……(石門—德縣)
其他　二五九粁
合計　五、六〇九粁

【職制】

- 總裁
  - 副總裁
  - 理事
  - 監事
  - 顧問
  - 業務審議委員會
  - 輸送委員會
  - 監察室
  - 總務局
  - 主計局
  - 資材局
  - 資業局
  - 運輸局
  - 自動車局
  - 水運局
  - 工作局
  - 工務局
  - 電氣局
  - 建設局
  - 警務局
  - 參與
  - 工作監
  - 東京支社
    - 總務課
    - 主計課
    - 資材課
    - 業務課
    - 技術課
    - 調査役
  - 鐵路局(北京、天津、張家口、濟南、太原、開封)
    - 總務處
    - 保健處
    - 經理處
    - 營業處
    - 輸送處
    - 自動車處
    - 水運處
    - 工作處
    - 工務處
    - 電氣處
    - 警務處
    - (外略)
  - 中央鐵路學院
  - 鐵路警務學院

【重役】

▲總裁 宇佐美寛爾
▲副總裁 殷同、後藤悌次
▲理事 杉廣三郎、周培炳、山口十助、新井堯爾、太田久作、孫瑞林、佐原憲次、陶尙銘
▲監事 張萬鎰、吉田浩、伊澤道雄
▲顧問 平井喜久松

【其他】

▲主席監察 大甲甚三郎
▲局長 平田驥一郎(總務)、福川篤四郎(主計)、高橋定一(資材)、加藤新吉(資業)、小池文雄(運輸)、菅健次郎(自動車)、貫井輝四郎(水運)、加藤仲二(工作)、那新一郎(工務、電氣)、佐藤忠三郎(建設)、山口三郎(警務)
▲東京支社長 島一郎、同次長永田久次郎
▲鐵路局長 周贊滿、副、芳賀十代太、律夢符(天津)柳ヶ瀨正哉、副、王煥文、江口胤秀(北京)、伊藤太郎、副、武井外一、劉汝璽(張家口)、下津春五郎、副、鄧致襛、石田二郎(濟南)、遠藤貞次郎、副、那嶽夫、本庄進(太原)、山中良樹、副、都勝次、朱華(開封)
▲中央鐵路學院長 小林準、同副、候景飛、佐藤欣二
▲鐵路警務學院長 小林準、同副、三原敏男
▲外略

華中鐵道株式會社

中支に於ける支那事變占領鐵道の運營は軍の管理下に於て軍鐵道局により行はれたが、軍特務部に於ては昭和十二年末既に中支鐵道會社設立の計畫を樹て、之が準備に當りつゝあつた處、中支に於ける日本權益の設立を急ぐ一般的狀勢と、鐵道運營機構の强化を目指す氣運濃化と相俟つて昭和十二年末以來急速に會社設立準備業務の進行を見、遂に中支振興株式會社の子會社として昭和十四年四月三十日華中鐵道會社の創立總會を開催、五月一日より營業を開始するに至つた。

一、法人　中國政府の法令に基く支那特殊法人
二、資本　二千萬圓(四分の一拂込)
三、組織　社長、副社長の外取締役監察役あり、社員は參事、副參事、參事補、社員、雇員、傭員制に分つ。

從つて從來軍に於て運營してゐた江南三角地帶の鐵道は本會社に移管され、更に主管路線に於ける自動車運輸及び之に附帶する滊灣並ホテル事業等の經營に當ることゝなつた。

其後同年十月一日揚子江以北の津浦線の一部と淮南線とが軍より委任せられることになり、總延長一千百二粁餘となつたのである。

自動車も二十七路線で千二百七十三粁を運營してゐる。

業務機關は上海に本社を置き、南京に支社、東京、巢縣、大通に事務所を設けてゐる。

所管線 (鐵道の部)

海南……(上海・南京及其支線)
海杭……(上海・杭州間及其支線)
吳淞……(上海・砲臺間及其支線)
蘇嘉……(蘇州・嘉興間)
南寧……(南京・灣沚間)
津浦……(浦口・蚌埠間)
淮南……(裕溪口・盧州間)
淮北……(田家菴・九龍崗)
計　一、一四八粁

【組織】

- 總裁—副總裁
  - 理事
  - 監事
  - 總務部
    - 總務課
    - 厚生課
    - 經理課
    - 調査課
    - 愛路課
    - 厚生科學研究所
  - 業務部
    - 營業課
    - 輸送課
    - 自動車課
  - 技術部
    - 工務課
    - 建築第一課
    - 建築第二課
    - 工作課
    - 電氣課
    - 計畫課
    - 警護團
  - 支社
  - 南京事務所
  - 東京事務所
  - 漢口事務所
  - 淮南事務所
  - 吳淞工場
  - 常州工場
  - 浦鎭工場
  - 九龍崗工場
  - 長崎案內所

華中に於ける旅客輸送界の動向

昭和十四年四月三十日維新政府特殊法人として華中鐵道股份有限公司創立され、翌五月一日より同社に於て江南線七百餘粁の鐵道の運營に當り十月一日より津浦線浦口―蚌埠間一七五粁及淮南線裕溪口―盧州間一一七粁をも併せて經營することゝなつたので現在の總營業粁數は一千百粁餘に達してゐる。

この間沿線に於ける治安の恢復と經濟の復興と相俟つて一般旅客輸送は漸次增加の一途を辿つて居るが、中支は未だ戰鬪の地域にあり水運の便も亦舊態に復して居らぬ爲目下のところ事變後の變態的輸送の域を脫しないと見られる點もあるが創業以來の旅客輸送成績を一瞥すれば、如何に同社に於ける旅客輸送が躍進を續けて居るか判然するであらう。

今之が大略を述ぶれば創業の昭和十四年度に於ける旅客乘車人員は五百五十三萬餘なるに昭和十五年度は一躍一千三百五十一萬餘人に激增の活況を呈し創業時に比較し著しい躍進振りを示してゐる。津浦線、淮南線は江南各線に比し人口密度竝に文化の程度低く治安の關係上、一般旅行者の交通は抑制され勝の爲、江南各線の如き好成績は望めぬけれども、漸次增加してゐる。

尙旅客待遇改善の實施に就いて之を見るに、創業後間もなく海南線の急行列車に一等車を連結し、中國情緒豐かな姑娘をサービスガールとして乘務せしめ次いで食堂車を走らせ又上海、南京、杭州市内に於て東亞旅行社に乘車劵の委託販賣實施や、新亞細亞ホテル内案内所、四川路案内所の開設をし、昨年六月には上海―南京間に特別急行列車（天馬號）を運轉し、上海―南京間に於けるスピードアップと快適な旅行の便を圖る等中支陸上交通の大半を擔ふ華中鐵道の躍進振りを雄辯に物語るものである。

【會社幹部】

▲總　裁（未　定）
▲副總裁　田　誠
▲理　事　上林市太郎、何志杭、堀尾豐熊、國澤新兵衛、陳伯藩
▲監　事　園田三郎、王建民
▲總務部　部　長　上林市太郎
（總務課長）牛島辰彌、（厚生課長）北村繁一（經理課長）田中不破三、（管財課長）胡一處（調査課長・兼）上林市太郎、（愛路課長・兼）吉岡重慶
▲業務部　部　長　何　志　杭
副部長　井　上　剛
（營業課長）平野玄雄、（輸送課長）津田滿壽次、（自動車課長）隙傚遣
▲技術部　部　長　堀　尾　豐　熊
（工務課長）吉岡重慶、（建築第一課長）酒見佐市、（建築第二課長）岡崎泰光、（工作課長）平山榮、（電氣課長）周防里海、（計畫課長）田中勤

南京支社長（未定・副長　太田金盛）
東京事務所長　北　原　信　男
長崎案内所長（囑託）臼　杵　九　十　九
淮南事務所長　渡　邊　市　太　郎
漢口事務所長　江　頭　兼　吉
呉淞工場長　山　田　平　一
常州工場長　檜　山　圭　一
浦鎭工場長　武　藤　猪　作
九龍崗工場長　二　見　周　一　郎

船舶

日本郵船株式會社

日本郵船株式會社は明治十八年十月、郵便汽船三菱會社と共同運輸會社との合同により資本金一千一百萬圓、航洋汽船五十八隻、帆船十一隻總噸數七萬餘噸を以つて創立せられたものである。

當時會社の經營航路は日本内地諸港間竝に支那、朝鮮を含む十數線に過ぎなかつたが現在では資本金一億六百二十五萬圓、創立當時に比して其所有船舶の數も多大の增加を來し總噸數に於ては十數倍と云ふ單一汽船會社としては所有噸數世界第一の大汽船會社となり幾多の航路網を以つて五大陸の主要港を完全に聯絡してゐる。

明治二十六年十一月、多大の困難を克服して本邦最初の遠洋定期線孟買航路を創設したが、現在の主要遠洋航路の内の歐洲線、シアトル線、濠洲線は孰れも明治二十九年日清戰役直後に開設されたものである。

次で日露戰役後の明治四十四年には甲谷陀線を開きたる外東洋各方面向け數多の航路を擴張した。大正三年歐洲大戰の勃發するや其整備せる船隊を驅使して益々躍進を續け、大正十一年には經營航路大小併せて實に三十五航路に及び就航船舶百七隻、總噸數五十七萬餘噸に達するに至つた。

次いで大正十二年には資本金一千萬圓を以つて近海郵船株式會社を分設し、多數の船舶を現物出資すると共に近海航路の大部分を其經營に移した。其の後大正十五年二月、東洋汽船會社の創設經營せる太平洋横斷の二航路桑港線竝に南米西岸線の營業權及其使用船を繼承し、翌三月資本金を一億六百二十五萬圓に增加し名實共に世界有數の船會社となつた。

爾來銳意此等各航路の充實進展に努め又使用船舶の刷新改善を計り巨費を投じて淺間丸、龍田丸、鎌倉丸以下優秀船九隻を建造し夫々各線に配置就航せしめ、愈々國際航路に於ける其地盤を鞏固にした。

昭和十四年七月支那事變勃發するや時局に即應するため八月近海郵船會社を合併し再び近海諸航路を其經營下に收めたが次いで十月東亞海運會社の設立と共に日華聯絡線、阪神・横濱・上海線、靑島線、天津線等を同社に移讓し又多額の出資をなしてその大株主となり以て今日に及んでゐる。尙最近日本造船科學の粹を集めて建造した國產豪華船數隻は日本海運界が世界に誇示し得るもので、斯界の發展に多大な貢獻を爲しつゝある。

【職制及幹部】

▲社　長　大谷　登
▲副社長　寺井久信
▲常務取締役　中瀬精一、永島義治、大矢新治、金綾一榮、莊田雅雄
▲部　長　和田二郎（庶務）、淺尾新甫（企畫）、柳瀨省吾（貨物）、生駒實（船客）、後藤忠治（海務）、鈴木恒太郎（工務）、松本光三（經理）、鈴木恭藏、（調度）、濱慶房（勞務）、林友作（近海貨物）、渡邊知道（近海船舶）
▲支店長　小原又作（東京）、丸山傳（函館）、松尾豐實（小樽）、藤野千萬樹（横濱）、蘆野正（名古屋）、河原愼男（大阪）、高橋一雄（神戸）、片岡種美（門司）、中村三雄（基隆）、伊藤格（大連）、竹井毅（天津）、矢島安造（上海）、小野六郎（香港）、山田朝彥（新嘉坡）、原田憲次郎（孟買）、河島利助（甲谷陀）、渡邊康策（紐育）、田岡彌平（桑港）、長谷川友賢（シアトル）
▲出張所長　木村憲次（ホノルヽ）、神田禎次郎（若松）森永幸平（營口）
▲在勤員　市川正治（青島）、野田一誠（漢口）、長谷川武吉（廣東）、坂本德次（マニラ）、東久世昌枝（羅府）、雨宮謙治（里馬）、阿部晃（サンチアゴ）

大阪商船株式會社

明治初年、大阪を中心とする海上運送業は折からの文明開化の風潮に乘つて群小船會社の濫立をみたが西南役後大會社の機運に達し明治十七年大阪商船株式會社の結成創立を見るに至つた。當時會社の資本金は僅かに百二十萬圓、使用汽船も一萬七千噸航路浬數も四千九百八十六浬で、僅々瀨戸内海を營業範圍とするに過ぎなかつた。

其の後日清、日露の二大戰役を契機として航路範圍は朝鮮から臺灣、支那沿岸に伸展し日露戰役後には香港を起點としてマニラ及び日本諸港を經由、北米ピユーゼットサウンドに至る北米航路の開設を見、此處に大阪商船は世界海運界デビユーの第一歩を踏み出した。大正三年七月歐洲に大戰亂の勃發するや海運界空前の黃金時代を現出し、大阪商船も亦その風雲に乘じて經營の

一大發展をなし世界海運屈指の大船會社に迄躍進したのである。

爾來南米航路世界一周線スエズ經由歐洲航路(現在休航)の開拓、アフリカ市場への新航路開設、其他濠洲、新西蘭、ペルシヤ、タイ國、佛印への貿易路擴充はもとよりパナマ經由歐洲航路、紐育急行航路に新造優秀船を配する等常に新航路開拓に力を注いで來た。

然し大阪商船が持つ特異性は其の充實した東洋航路網を有することで、朝鮮、滿洲、北支、南支、臺灣、比律賓等東洋の港にして大阪商船の「赤大字マーク」社旗の翻らざる所なく、就中日滿連絡航路の如き六千噸乃至一萬噸の優秀船十隻が毎月二十五回定期を踏んで航進する壯觀は世界海運界にその比を見ないところである。

而して昭和十四年新東亞建設達成のために對支航權の統制强化を企圖して東亞海運會社の創設せらるゝや天津航路、青島航路以下十指に近き對支航路を擧げて之に移讓した。

昭和九年には創立五十周年を迎へ今や資本金一億圓、經營航路は全世界に五十餘線其の航路延長三十五萬浬に及んでゐる。

【職制及幹部】

▲取締役社長　岡田永太郎
▲同　副社長　神田外茂夫
▲專務取締役　香春敏夫、田島正雄、加藤進
▲取締役　阿部彥太郎、安宅彌吉、和辻春樹、古田俊之助
▲監査役　中橋武一、廣海二三郎、堀新
▲相談役　堀啓次郎
▲課長　伊藤武雄(文書)、奈良秀治(會計)、平井好一(遠洋)、村井弘光(東洋)、小石昌範(船客)、森田壽二郎(海務)、和辻春樹(工務)、蓑原巖(調度)
▲支店長　神野亮二(東京)、勝沼敏行(横濱)、小山忠秋(大阪)、中村富强(神戸)、山下正樹(門司)、安達威太郎(別府)、坂井照(鹿兒島)、家長寬(那覇)、廣瀨辰之助(台北高雄)、前川藤吉郎(京城)、乘杉壽慶(大連)、吉植庄司(天津)、細矢五郎(上海)、枝吉正保(香港)、齋藤保次(シンガポール)、木對良雄(甲谷陀)、齋田蕃一(孟買)、井上正朋(紐育)、須賀川太郎(ヴエノスアイレス)
▲出張所長　落合利致(淸津)、宮崎進(青島)、佐野甚三郎(海南島)、瀨戸屋熊治郎(盤谷)、今道潤三(海防)
▲在勤員　長尾義弘(マニラ)、野村愛民(シドニー)津山重美(ベルリン)、味岡馨(ケープタウン)、欠田豊次郎(サントス)、武山茂雄(奉天)、町野一(新京)、谷川謙三(ハルビン)、小林利一郎(河内)、岡崎義一(西貢)、菅原案山子(サンパウロ)、佐藤健夫(リオデジヤネイロ)、蘆谷幸一(モンテビデオ)、土金孝太郎(羅府)

大連汽船株式會社

明治四十四年六月設立された北淸輪船公司は大正二年一月其の組織を變更し大連汽船合名會社と改稱し、次で大正四年一月滿鐵は將來に於ける全滿貿易の掌握及び我が帝國權益の滿蒙に於ける發展强化と云ふ遠大な理想並に運賃政策、輸送圓滑と云ふ點から撫順炭其他の輸送を海陸一貫したる方策に置くと云ふ意味から別働隊として資本金五十萬圓を以て現在の大連汽船株式會社を設立して大連汽船合名會社の業務一切を繼承同年二月海運業及び倉庫業を開始した。同社創業當時關東州及び北支那沿岸に於ける日本人海運業は漸く發展の機運を示したが尙上海、青島、廣東、香港等を根據とする外國船は盛に活躍し其勢力牢として拔くべからざるものあり、此の間に立ち爾來二十數年間銳意經營の充實と航權の伸長を計り以て渤海及び支那沿岸航路に覇を稱へるに至りたるのみならず日滿間、南洋を始め東洋一帶は勿論、遠くは歐洲方面に迄航跡を印するに至つた。昭和六年滿洲事變勃發し同八年滿洲國の建國となるや、滿鐵は滿洲國交通運輸部門の主軸的動脈たるの任務を有するに至り、當然同社も滿鐵の海上延長機關たるの性質を通して滿洲國全貿易發展に協力する海上部門擔當者たるの性質を具有するに至つた。

【職制及幹部】

▲社長　安田柾
▲專務　川村龍雄
▲常務取締役　吉富金一、高木盤雄、島田信吉
▲取締役　横田直藏、佐藤信二、西村實造、古川達四郎
▲監査役　渡邊正太郎、折田有信
▲部長　高木磐雄(營業)、島田信吉(總務)、横田直藏(船舶)
▲課長　水地慶治(庶務)、高崎太平(會計)、中村稅(貨物)、小竹次雄(受渡)、高山謹一(船客)、中村太次馬(海務)、高橋小太郎(船員)、多賀隆信(調度)
▲船舶監督　須鼻粲平、岸名淸次、山岸庫太(神戸在勤)
▲支店長　鶴野政三(上海)、佐藤信二(神戸)、久保三郎(天津)、竹本安吉(營口)、高山富三(青島)、中西家太郎(東京事務所長)

東亞海運株式會社

東亞におけるわが海運の確立は興亞聖業の重要なる一環をなすものであり政府並に民間海運業者は夙にこれが對策につき協議を重ね、東亞を一體とする海運會社の設立を企圖してゐたが昭和十四年八月東京に於て東亞海運會社創立總會を開催資本金七千三百萬圓を以つて同年十月一日より營業を開始するに到つた。

本社の設立は日支提携互助連繫の確立の立場からも重要なる一側面をなすものでわが國海運の綜合力を發揮するものだけに今後日支間及び支那における海上交通路は急速なる整備をみると共に今後は從來の面目を一新するであらう。

經營航路は北支線、中支線、西支線、支那沿岸線等に大別し、二十餘線を有してゐる。

【職制及幹部】

▲取締役社長　淸水安治
▲取締役副社長　內田茂
▲專務取締役　長岡信捷(總務部長)、中川幹太(上海駐在)、山本武夫(北京駐在)、近藤復(船舶部長)
▲取締役　澤井謙吉(營業部長)、山中喜一(上海駐在)、堀新、太谷登、岡田永太郎、古川虎三郎
▲監査役　安田繁三郎、鑄谷正輔、岡崎忠雄

日本海汽船株式會社

滿洲國建國以來同國の開發進展並に開拓國策の遂行に伴ひ、東亞共榮圈培養基地としての日滿兩國の連携は、兩國交通の擴大强化を要請するところとなつたが、之が對策として、昭和十三年十一月日本閣議に於て、日本海汽船會社創立の決定を見、翌年十二月北日本汽船、大連汽船、朝鮮郵船の三會社出資の下に設立せられた。

本社は從來北日本汽船會社經營中の日本海橫斷航路の一切を繼承し、日滿連絡の最短幹線航路としての日本海航路の刷新强化を擔任し、昭和十五年二月、卽ち紀元二千六百年の紀元の佳節を卜して營業を開始した。

爾來日本の國策的立場から銳意優秀船の新造並に購入に依り、日本海航路の擴大强化を計り、現在の隔日運行を實施すると共に、更に日本海湖水化時代の出現を目ざして躍進途上にあるため、今後更に日滿連絡の一大幹線として大革新が期待されてゐる。

現在資本金三千萬圓、所有船舶一〇隻、總噸數〇萬五千餘噸。

△經營航路

新潟北鮮線、敦賀北鮮線、敦賀北鮮浦鹽線、伏木北鮮線、伏木朝鮮東岸線

【職制及幹部】

▲社長　野村治一良
▲專務取締役　築島信司
▲常務取締役　松浦暢
▲取締役　田島正雄、西村實造、櫻木幹雄
▲監査役　森信次郎、生駒高常
▲總務部長　高木陸
▲課長　荒川浩(庶務)、長澤金之祐(經理)
▲營業部長　飯田利信

▲課　　長　近藤善衞（貨物）、廣顆以誠（船客）、野間新吉（連運）
▲船舶部長兼工務兼海務課長　松原文夫
▲支　店　長　土屋尾十吉（新潟）、大井精一（伏木）、和田眞一（敦賀）、大矢末雄（淸津）、靑木淳（羅津）
▲支　所　長　竹本信夫（新京）、高橋藤一郎（大阪）

朝鮮郵船株式會社

朝鮮郵船株式會社は明治四十五年四月朝鮮產業開發上極めて重大性を持つ半島海運の開拓と云ふ特殊使命を擔ひ、朝鮮總督府命令の下に京城に設立されたもので、爾來茲に三十年、航路の開設は元より、之が整備擴充を圖り、開拓者としての使命遂行に不斷の努力を續けて來たのであるが、近年半島が兵站基地としての重要性を加ふると共に、產業界の飛躍的伸展に對應增資し、優秀新船の建造に努め、戰時下海運報告の使命達成に邁進しつゝある。

【職制及幹部】

▲社　　長　樅木幹雄
▲專　　務　廣瀨博
▲庶務課長　黑澤寬、營業課長（遠山淸）、船舶課長（劍持武）、會計課長（今井金之助）
▲支　店　長　厩原不二男（東京）、山口三郎（大阪）、今田進（釜山）、鈴木淸（元山）
▲出張所長　瀧口駒生（淸津）、小賀野忠男（仁川）、津守愼一（上海）、石垣久治（靑島）、山本登（天津）

阿波國共同汽船株式會社

阿波國共同汽船會社は明治二十年の創立にかゝり日淸戰役後夙に北淸航路に着目し明治三十二年第三共同丸（總噸數約二百噸）を廻航し芝罘―旅順間に就航したのが始めである。

明治三十七年日露戰爭勃發するや第六共同丸、第七共同丸は御用船となり其後北淸航路開拓に邁進し邦船としてその嚆矢を爲したものである。次いで三十九年仁川、鎭南浦、龍岩浦、安東縣、大連、旅順、芝罘間の航路を開始し、同年更に芝罘、大連、安東航路を開拓、歐洲戰爭により靑島が我日本の管理となるや直に大連、芝罘、靑島航路を、昭和三年六月より大連、鎭南浦、天津航路を、また支那事變を契機とし朝鮮物產の北支進出促進の爲西鮮天津線を開拓し十五年四月西鮮天津線を仁川天津線、鎭南浦天津線の二航路に區分し、夫々朝鮮總督府の命令航路となつた。次いで東亞海運會社設立さるゝや同社も之に參加し、大連芝罘靑島線、大連芝罘線の二航路を昭和十四年八月十二日限り同社に讓渡せり。

【職制及幹部】

▲社　　長　新居圭藏
▲常務取締役　西野省三郎、天羽壽郎
▲支　配　人　富永國太郎
▲部　　長　新村喜源司（營業）、井杉榮（總務）
▲支　店　長　上崎龍次郎（大連）藪本甚三郎（小松島）

嶋谷汽船株式會社

前社長嶋谷德三郎氏が明治二十三年より經營せる個人營業を大正六年五月之を繼承し資本金五十萬圓を以て組織せる株式會社に變更し其の創立を見た。爾來順調の發展を遂げ逐年隆昌に赴き大正七年二月には資本金を倍額に增資し、同年八月には二百萬圓に大正十五年六月には三百萬圓に昭和八年七月には更に五百萬圓に增資し、昭和九年十一月には昭和三年十二月來分離し居りたる嶋谷商船株式會社（本社小樽資本金一百萬圓）を合併せるため六百萬圓に增資し、更に昭和十二年六月に八百萬圓に增資（全額拂込濟）し今日に及んで居る。

創立當時の所有汽船は六隻總噸數六千五百七十二噸であつたが現在に於ては二十一隻重量噸數〇萬六千五百十噸に激增せる外更に造船中のもの六隻約〇萬二千噸がある

定期航路―朝鮮北海道大連線、北鮮北海道線、伏木根室線、北海道北支線

【職制及幹部】

▲取締役會長　嶋谷武次
▲取締役社長　嶋谷勇
▲專務取締役　嶋谷俊郎
▲取　締　役　米谷淸重、若林純雄
▲監　査　役　重田英一、西大路隆和
▲支　店　長　小樽、嶋谷俊郎、能口惣一
▲出　張　員　山崎常一（伏木）、原榮一郎（京城）岩淵綱五郎（淸津）仁井浩（東京）

北日本汽船株式會社

南樺太と北海道を連絡する諸航路が南樺太領有當時より區々の船主により受命經營せられ統一が缺けてゐたのと主要貨物たる同島の海產物漁獲年々消長あり各船主の經營容易ならぬと見て樺太廳は關係各船主を慫慂、合同して新會社を組織、北日本汽船株式會社を設立せしめ、昭和三年には吉會線全通を期待し敦賀淸津直航線を開始し昭和四年には大阪商船會社より敦賀浦鹽斯德線を繼承し次で日本海横斷日鮮滿連絡航路の基礎を創設し又昭和十年四月日本海汽船株式會社を創立して新潟起點とする日鮮滿連絡航路を經營することゝなり、昭和十三年十月には北陸汽船株式會社を併合して伏木北鮮航路の强化を計り、更に又昭和十四年二月には前記日本海汽船會社を合併し、斯くして日本海湖水化の先驅者として日滿交通上國策の線に沿うて益々航路の改善擴充に努めつゝあつたが、十五年二月新に日本海汽船會社創立さるゝに及び朝鮮郵船、大連汽船等と合同出資し、北鮮航路を擧げて同社に移讓した。

【職制及幹部】

▲社　　長　野村治一良
▲常務取締役　森信次郎、森田初三郎
▲取　締　役　嶋谷武次、村田省三、山本厚三
▲監　査　役　堀新、栗林德一、田邊貞造
▲東京本社支配人　飯田利信
▲小樽營業所各課長　江崎勝郎（庶務）坂爪善造（營業）森信次郎（船舶）江崎勝朗（海員）野崎美太郎（經理）

北滿江運局（滿鐵）

松花江に支那の船舶が航行し始めたるのは一六五八年戎克にて吉林より松花江を下り黑龍江に入りて璦琿に至る間を警備したのに始まりたると傳へらる。然し本格的に汽船の運航をみたのは一九〇二年露西亞が東支鐵道の建設材料運搬船を敷設完了後、尙商船隊として殘留せしめ哈爾濱、ハバロフスク間の貨客輸送を行ひつゝ漸次江上勢力の增大を計り爲一九〇七年時の東三省總督徐世昌が彼等を驅逐する目的にて九隻の商船を浮べたに始まる。帝政露西亞の沒落と同時に彼等の持つ民有船の過半が支那官民に買收され初めて支那の一大航運勢力が築かれるに至つた。其の後支那官憲は極力航權の回收に努め一九二六年東支鐵道の埠頭と所屬船を接收したるを最後として完全に蘇聯の勢力を松花江から驅逐し之を新興滿洲國が引繼ぎ今日に及んだのである。

而して北滿水運は昭和八年三月に滿鐵が國有鐵道と同時に港灣河川の委託營業を受け官有船舶を引受けたのを契機として、四月に官民全航運業者を一團としたシンヂケート哈爾濱航業聯合會を設立して北滿航運業の一大統制を斷行するに至つたが、昭和十四年航路五千餘粁を包括する事業の一切は滿鐵に引繼がれ同社北滿江運局によつて運營せられてゐる。

華北交通水運局

昭和十四年六月天津の英佛租界封鎖に關聯し、天津特三區埠頭の營業開始によつて水運經營に着手した華北交通會社は、逐次經營路線を開拓して翌十五年初には八百粁に伸長、次いで同年四月には中國內河航運公會の業務を繼承して河川行政事務を代行することになり、更に同五月からは從來の汽機船の統制指導に乘り出した、一般民船の外に民船による貨物運送を開始、民船千

五百隻を動員し、數十隻からなる大船團を編成して定期的に運行してゐる。

運營路線も急速に伸張して同六月には三千二百粁となつた。主なる經營河川は次の通りである。

大淸河（天津―保定）	二一六粁
子牙河（天津―邯鄲）	七五五粁
南運河（天津―新鄉）	一、〇六九粁
小淸河（北關―羊角溝）	二七六粁
大運河（安居鎮―淮安）	五六五粁
北運河（天津―通縣）	一四三粁
東北河（天津―胥各莊）	一三九粁

鴨綠江輪船公司

由來鴨綠江上流地帶は陸路の交通不便を極めて居ると共に鴨綠江の水路も亦水深淺く難灘岩礁各所に列在し水流又急であるため機械船運航等は全く不可能とせられ、纔かに舟筏通ずるに過ぎない狀態であるので飛行機エンヂンを應用し空中推進裝置による淺吃水船により大正十一年楚山中江鎭間同十三年中江鎭新嘉坡鎭間、總延長三二七浬の運航に成功するに至つたもので、之が現在の鴨綠江上流行唯一の交通機關であるプロペラー船の起源である。以來朝鮮總督府命令航路として現在七隻就航してゐる。尙天候如何により一定せざるも每年十一月中旬より翌年四月上旬迄は結氷のため休航してゐる。

上海內河汽船株式會社

昭和十三年三月陸海軍及外務三省竝に興亞院の指導、維新政府當局の監督の下に、舊日淸汽船株式會社及上海運輸株式會社を主體として、江浙輪船公司が設立され、內河航運業の開始をみたるも、其後周圍の狀況により、日支合辦の維新政府普通法人として、昭和十三年七月株式組織上海內河輪船股份有限公司に改組され、前記江浙輪船公司の業務一切を繼承し、同年八月六日營業を開始す。

而して其使命は中支の主要なる內河航運を統制し、之を合理的に經營運用し、以て中支那に於ける水陸交通連絡の調整竝に日支海運の健全なる發展に資し、產業の振興民衆の福利增進に寄與するにある。

【職制及幹部】

▲常務取締役　杉本久太郎

▲取締役　周友常、山中喜一、山本德一

▲監査役　阿部勇、王叔賢

▲支配人　原信種

▲課長　李錫激（庶務）形岡關藏（營業）小林賀一（會計）今泉荒一（船舶）

△支店及出張所

支店……蘇州、無錫、杭州、南京、蕪湖、揚州

出張所……蚌埠、崑山、常熟、常州、丹陽、鎭江、松江、平湖、嘉興、浦口、裕溪口、安慶、九江、高郵、淮陰、鹽城、東台、泰縣、南通、其他三十餘箇所

航空

大日本航空株式會社

當社の前身たる日本航空輸送株式會社の創立は昭和三年十月に遡り、以來最初の資本金一千萬圓は屢增資を受け、其の營業は逐年盛大となり日本國內主要都市竝に臺灣朝鮮を結ぶ空路を經營して來たが、興亞大業遂行の先驅たる高速度交通機關の充實完備が要望されるに及んで、先に昭和十二年資本金五百萬圓を以て設立された國際航空株式會社と合併の上、昭和十三年末强力な政府の支援下に現在の大日本航空株式會社が誕生した。翌年更に大日本航空株式會社法の制定を見、舊資本は新に一億圓に增加（中政府出資三千七百二十五萬圓）され茲に名實共一大國策會社の威容が整つたのである。

此に依つて我國の國內及國際兩航空輸送事業は本會社の獨占的經營に委ねられることになつた。而してこれは空輸業の畫期的振興を圖るには眞に時宜を得たものであつた。

由來新會社は既成空路の充實はもとより支那各地及び南洋向空路の開拓に努力して來た。尙昭和十五年六月には列强專門家をして此の成否を疑はしめた東京―バンコック間佛印汗回長距離海洋コースを悠々翔破して吾國航空技術の眞價を斯界に宣揚した。

其の後當社は時局の要請に應じ專ら空路重點主義を以て臨み、國內線は主要幹線のみに止め主として國外線の伸張强化を圖つた結果前記の日泰定期便（行程三日）を根幹とする南方線は著しく增强された。昨年末よりはサイゴンを經由する河內―バンコック線も開通したが、此の他大型飛行艇による橫濱―パラオ線は南洋島內線の開通と相俟つて其の機能を益々增大し得るに至つたる。

本年に於ては兼て計畫中であつた米子經由日滿直通便の營業も開始された結果、東京―新京間の旅程は五時間に短縮されたのであるが、時局柄其の意義は益々重且つ大である。

此の會社將來の發展を示唆する事項として昨年末來實施されて來た新航空路開拓試驗飛行を列記すれば、

一、橫濱―パラオ―デリー（葡領チモール島）間の試驗飛行近く定期航空開始と決る。

一、パラオ―淡水―橫濱各コースの試驗飛行等がある。又同樣大飛行艇による淡水―サイゴン線の開通も實現の可能性を認められて居る。此の他會社は多數の國產優秀輸送機を整備し輸送能力の增大を圖つて益々空輸報國に邁進しつゝある。

△就航飛行機名

ハインケル一一六型機

川西式四發飛行艇

中島式P一型機

中島フオッカースーパーユニバーサル型機

エアースピードエンボイ型E機

中島AT機

ロックヒード14WG―三型機

ダグラスDC―二型機

ダグラスDC―三型機

三菱二一型輸送機

三菱式双發輸送機

三菱式MC二〇型機

一四式水上機

【職制及幹部】

▲總裁　中川健藏

▲副總裁　齋藤武夫

▲總務理事　片岡直道

▲常務理事　有地十五郎、永淵三郎

▲常任理事　松永壽雄、齋藤外男

▲常任監事　長谷川孝治

▲總裁室秘書　小笠原隆（調度課長兼務）

▲人事課長　永田利夫

▲庶務部長　可兒滿壽夫（庶務課長）鈴木一郎（監査課長）吉田宰平

▲企畫部長　樋口正治（企畫課長）長谷川昌夫（調査課長・企畫部長兼國際課長）細野軍治

▲營業部長　齋藤外男（業務課長）安永德隆（乘客課長）蘆原友信（郵便貨物課長）古賀槇

▲經理部長　立川繁（會計課長）上垣內新一（調度課長）小笠原隆（營繕課長）畠中卓

▲運航庶務課長　井上正鑑

▲運航通信課長　丸山茂富

▲乘員監督　小川寬爾

▲東洋部長　下山俊作（國內課長）（東洋部長兼滿支課長）（同）

▲歐亞部長　森蒂樹（歐亞課長）（歐亞部長兼）

▲海洋部長　松永壽雄（南洋課長）淺香良一

▲技術部長　向坂六郎（補給課長）小池武夫（整備課長）前田柳一（檢査課長）藤木源藏

▲航測所（所長兼）技術顧問　木本氏房

支所長

東京支所長福士剛、東京營業所長影山桓虎、橫濱支所長下山二郎、パラオ支所長鵜野政策、大阪支所長本田敬之、福岡支所長坂本眞彥、京城支所長石田辱雄、大連支所長武田萬兵衞、臺北支所長大西洋三郎上海支所長大坪文治、廣東支所長三宅耕一

駐在員

靑島駐在員三原勝、北京駐在員鈴木濤男、新京駐在員保田雅夫、盤谷駐在員兒島義人、河內駐在員川原鐵治郎

滿洲航空株式會社

大同元年（昭和七年）滿洲國建國に伴ひ、九月日滿合辦資本金國幣三百八十五萬圓を以て設立せられ、旅客、貨物、郵便の航空機に依る輸送、航空機の製造、及び修理を主要業務として、同年十一月營業を開始して以來、軍事經濟、產業上貢獻する所大なるものあり。

康德五年六月、滿洲飛行機製造株式會社の設立と共に製作部門を切離し、專ら輸送業務に集中し、新線の開設、優秀機の就航により政治、經濟の重要都市は悉く航空網の下にあり、康德八年七月に於ては、定期航空總延長粁程一五、〇〇〇餘粁に達す。

現在資本金は六千萬圓にして、康德八年三月現地軍需主義による機構改革により、益々國策使命の遂行を期しつゝあり。

△就航飛行機名

ユンカー八六型機	一〇人乘
プスモス機	二人乘
隼機	五人乘
スーパー機	六人乘
國光式一型機	八人乘
タイフン機	三人乘
MC二〇型機	一一人乘

【職制及幹部】

▲社　長　牧野正迪
▲副社長　王玆棟
▲常務取締役　中富貫之
◎本　社
▲社長室（秘書）和泉隼雄（人事課長）原田三郎（企畫課長）茂木弘
▲庶務部長　淸水行兵衞（庶務課長）淸水行兵衞、（文書課長）田邊輝彥
▲運航部長　河井田義匡（運航課長）塚本淸太郎、（營業課長）國友宣光（通信課長）田原豐（補給課長）隈政太
▲財務部長　鹽谷俊次（經理課長）我妻一郎（會計課長）風間森吾（用度課長）吉川義博（營繕課長）松坂英夫
▲技術處長　佐川績、（次）黑川淸（庶務課長）黑川淸（技術課長）國技實（檢查課長）高橋正（倉庫課長）重松喜六
▲整備工場長　柴入春吉（庶務課長）馬屋原勝（工程課長）武市勝巳（第一工作課長）柴入春吉（第二同）大場榮治（第三同）中島長治郎
◎管　區
（奉天管區長）美濃勇一（新京同）都築德三郎（哈爾濱同）中島光治（齊々哈爾同）青山繁光（牡丹江同）片桐保一郎
◎東京支店長　生方四郎（庶務課長）木島馨（調查課長）平野良雄
◎駕眞處長　柴田秀雄、（次）末松米一（庶務課長）新井七郎（營業課長）川村秀文（技術課長）片岡健次郎（作業課長）同上
◎乘員訓練所長　河井田義匡（庶務課長）淸水淸一（操縱課長）中畑憲夫（機關課長）川端淸一

中華航空株式會社

昭和十一年十月十七日冀察政務委員會と日本との間に航空協定が成立し、日支雙方より新航空會社設立委員を擧げ該協定書に基き中日合辦組織の航空會社の設立準備に着手、十一月七日に惠通航空股份有限公司なる名稱の下に成立十月七日より營業を開始した。

今次支那事變の戰果擴大と共に全支を一丸とする航空會社の設立が要望され、中華民國臨時政府、中華民國維新政府、蒙疆聯合委員會の三政權によつて航空會社設立に關する協定が結ばれこれが共同命令に基き昭和十三年十二月十七日惠通航空股份有限公司を統合し中國法人として「全支航空一元化」を目標とする中華航空株式會社が北京に設立され、翌十八日より營業が開始された。當初の資本金は六百萬圓にすぎなかつたが昭和十五年九月五千萬圓に增資同年十二月十日臨時、維新、蒙疆三政府より中華航空株式會社法例公布せられ、特殊法人格を附與せられ、昭和十五年十二月全面的職制改革をなし現在に至る。

△就航飛行機名

ダグラスDC三型機	二十一人乘	旅客機
ダグラスDC二型機	十四人乘	同
ロッキード十四型機	十一人乘	旅客機
三菱MC二〇型機	十一人乘	同
中島式AT型機	八人乘	同
スーパーユニバーサル機	六人乘	同
ビーチクラフト機	三人乘	同
プスモス機	二人乘	同
小型患者輸送機	二人乘	同

【職制及幹部】

▲總　裁　兒玉常雄
▲副總裁　辻邦助、相馡泰
▲常務理事　安邊浩、寺田幸吉
▲理　事　齊藤武夫、于景陶、新井三郎、張爾康謝文達、秋澤穗、杜運宇、吉田忠郎、中山頼道、秦堺、周錚、陶秦基
▲常任監事　祝島男
▲監　事　森村勇、伊藤祐、祝伊才、吳仲賢
▲總裁室（秘書、企畫、監查）
▲總務部長　赤羽右（庶務課長）石光敬臣（文書課長）江口靖（人事課長）空閑均
▲資源部長　吉田忠郎（資金課長）大西淸吾（物動課長）橋本義雄、出張所
▲財務部長　秋澤穗、（次）市川亥三雄（經理課長）近藤裕（用度課長）森島龜二（營繕課長）中山信造、出張所
▲運營部長　于景陶、（次）石川祥一（運航課長）石川祥一（營業課長）高木正壽（器材課長）石川祥一（保安課長）海江田信夫
▲審議會
▲北京支社長　寺田幸吉（總務、財務、運營各課）（華北管理局長）德留淸（蒙疆管理局長）成宮汎愛（北京工場長）早川知之
▲上海支社長　安邊浩（總務、財務、運營、整備、調查各課）（華中管理局長）中山頼道（廣東管理局長）佐倉光一（上海工場長）岡田理平
▲東京支店長　新井三郎、（副）西川嵩吉（總務、會計補給、倉庫、物動各課）（以上昭和一六年八月現在）

中國奧地航空網

戰前に於ける支那民間航空は上海に本社を置く米支合辦中國航空公司、獨支合辦歐亞航空公司に二分され、地方的には北支に日支合辦惠通航空公司、南支に官民合辦西南航空公司が存在した。

事變勃發と共に、中國歐亞兩公司は蔣政權の手によつて軍用化され・戰果の擴大と共に航空網を縮少して奧地に移つた。

目下中國航空公司は重慶に、歐亞航空公司は昆明にそれぞ〵本社を置き共に奧地に於ける連絡飛行を行ひ、他方援蔣諸國の航空路香港、河內に於て連絡しつゝあるが器材の不足と英佛の今次歐洲大戰による敗退によつて、其海外ルートも危殆に瀕しつつあり、現在は僅かに米國のパン・アメリカン・エアウエイズの太平洋橫斷線と香港に於て連絡するのみである。

兩公司の現行空路は、重慶―香港線、重慶―哈密線、重慶―成都線及び重慶を中心とする嘉定、桂林、貴陽、昆明等を結ぶ不定期線であるが、蔣政權の運命と同樣兩公司とも崩壞の危機にある。

西南航空公司は事變勃發による乘務員の召集と器材の不足によつて休業したが、一方昭和十四年蘇支合辦により西北航空公司が創立され、蘭州を中心とする西北支那の航空を實施し・同時に重慶―モスコー線を擔當してゐる。支那事變を機として侵入した蘇聯系の航空會社で、蘇聯の動向と共に將來注目されてゐる。現行航空路は哈密―蘭州―アラムータ線、蘭州―寧夏線、蘭州―西寧線、蘭州―凉州線等である。

自動車・電車

鐵道總局自動車局

滿洲建國後國道の新設に伴ひ自動車運輸業は急速な進步を示してゐるが世界文明國の現狀に比ぶれば各種の事情に阻まれてまだ劣勢である。然しながら自動車は陸に於て鐵道に亞ぐ交通機關であり又產業開發、治安の維持、國防線確保等に重大な關係を有するを以つて滿洲國は左の如き自動車路線を國營として國有鐵道に兼營せしめてゐ

る。

（イ）戰道と競爭立場に立つ路線
（ロ）鐵道の代用たるべき路線
（ハ）治安維持竝に產業開發に必要なる路線

尙右以外の一般路線は民間の經營に委ね大體に於て一路一線主義の下に統制することゝした。斯くして滿洲に於ては各國鐵道が苦杯を喫した自動車交通との競爭もみられず鐵道自動車の經營は永久的な共存共榮策が確立し相携へて產業開發、國防治安の維持に貢獻することゝなつてゐる。

現在鐵道總局經營の路線は三百餘線、此內には道路不良等の關係で季節に依り運行を休止する區間もある。

交通量未だ多からず、一日一往復の運行を以て足る程度の處もあり、車輛の壽命は道路及び氣候不良により甚だ短く、收支の均衡を得ること困難であるが、今後治安が確保され地方產業開發の進展に伴ひ其成績は次第に向上するものと見られ昭和十五年度中の旅客輸送數は二一、六五三、一三二人年度末營業粁程二〇、九八〇で逐年增加の傾向にある。

華北交通會社自動車局

華北は支那事變前には略系統的な路線網を形成し、通車可能道路は約二萬四千粁に達し、約二千輛の自動車で凡そ一萬粁を運行してゐた。事變と共に之等の自動車は悉く支那軍に徵發或は燒却せられ、道路も破壞されたもの多く、支那側の自動車運行は殆ど停止してゐたのである。

鐵道網の密度が極めて低い北支や蒙疆に於ては、鐵道の補助或は代行機關として自動車の役割は特に大きい。華北交通創立當時四千粁の路線は昭和十五年十月一萬一千粁に達した。而も最近において每月一千粁近くの伸張振りを示し、鐵道との綜合經營の效果を發揮してゐる。尙別に蒙疆政府は蒙疆汽車公司を設立して路線四千餘粁を經營せしめて居り、道路建設の進捗につれて自動車路線は急速に伸張される豫定であり昭和十七年末迄に全延長二萬粁に達するであらう。昭和十四年度は未曾有の水害のため一時全路線運行不能に陷つたが尙旅客約六百七十萬人を輸送し前年に三倍する成績を收め、更に昭和十五年度は九百三十餘萬人を輸送した。自動車の開通によつて事變以來萎縮してゐた奧地物資の出廻りを促進し、聯銀券の流通範圍を擴大せしめてゐること、更に之に伴ふ民心の安定、防共治安上の效果など直接又は間接の好い影響は測り難いものがあらう。

華中鐵道會社自動車課

本社設立により約一千粁の營業路を有し尙引續き自動車新路線の選定と運輸諸施設充實に邁進しつゝあり、江蘇、浙江、安徽三省の長途バスも經營に移され昭和十四年度に於ては約四十五萬人十五年には一躍三百三十餘萬人の旅客を輸送した。

大連都市交通株式會社

大正十五年六月滿鐵が附帶事業として經營せし電氣事業を分離獨立せしめ南滿洲電氣株式會社を創立せしに始まり、滿洲國の誕生と共に滿洲國電氣事業の統制に伴ひ所有電氣供給事業を滿洲電業株式會社に讓渡して交通事業のみとなり社名を大連都市交通株式會社と改めたり。當社經營の電鐵事業は明治四十二年九月當時滿鐵運輸部電氣作業所の附帶事業として大連市內に開通せしに始まり、又乘合自動車事業は昭和二年六月旅大自動車會社を買收經營すると共に市內竝郊外にと年々膨脹を續け今日に至つたのである。

實に滿洲自動車事業統制要綱を基とし、滿洲國內民營自動車事業の統制に任じ、現に哈爾濱、牡丹江、吉林、新京、鞍山、四

平、奉天、安東等主要都市及び其近郊に於けるバス、電車事業を傘下に收め、之等傍系會社に資本的人的に充分なる指導援助をなし、統制の萬全を期しつゝあり。

【職制及幹部】

▲社　長　田邊利男
▲常務取締役　九里正藏、神崎登
▲社長室課長　松元廣盛、（庶務）奧村政五郎、（人事）森實餘造（經理）
▲企畫部長　堤積章、課長、河野定治（業務）古莊濟（資材）
▲運輸部長　野間口正人、課長、山本貞一、（電車）小林貞一、（自動車）池端武男、（養成）
▲參　與　室　井上芳雄、安東猷二、（以上參與）
▲奉天支社長　九里正藏、課長、山本義男（計劃）
▲新京事務所長　天方宗昭

奉天交通株式會社

當會社は康德四年三月二十日滿洲國に於ける交通國策の一段階として交通部の指示に從ひ、奉天市公署と大連都市交通株式會社の協同出資に依つて奉天交通股份有限公司を資本金二百五十萬圓にて設立したるものなり。從來奉天及撫順市內乘合自動車を營業せる滿洲自動車運輸株式會社（通稱黃バス）竝に奉天市內電車を營業せる奉天市電車廠と奉天電車株式會社の三社は一切の業務を弊社に繼承して奉天市內の交通機關は茲に統一されたのである其の後康德五年六月一日には撫順の山口タクシー商會を買收して撫順市內の自動車交通は、遊覽バスタクシーと共に完全に一元化され續いて同年六月十五日には奉天郊外交通株式會社、十月には鐵法長途汽車公司を十一月には遼海長途汽車公司を買收倂合したり

明けて康德六年一月に興隆長途汽車公司を三月に協榮公司を引繼ぎたる弊社は國策に沿ひ事業强化を計り康德六年七月資本金を四百萬圓に增資し今後の發展に備へた。康德六年十月十一日大連都市交通株式會社の出資に依り奉南交通株式會社の設立を見遼海長途公司竝に海城利通公司を讓渡した爾來弊社は事業の擴充と內容の整備に全力を傾注し康德七年十月には資本金六百萬圓に增資した。

現在の營業は奉天市內バス、同觀光バス同電車、撫順市內バス、同觀光バス、同タクシーを運行し尙郊外線としては郊外バス撫順、鐵嶺、興京の各營業所に於て奉天省各都市の相互間の運行を營み現在に至る

【職制及幹部】

▲專務取締役　賀來之憲
▲常務取締役　肥田耕三
▲取　締　役　九里正藏、大津勇、溝江五月、上田銑
▲監　查　役　税所壯吉、倉橋泰彥
▲調　查　室
▲庶務課長　高須祐三（企畫課長）中村實（經理課長）小野政男（自動車課長）遠間武夫（電車課長）小岩勤
▲營　業　所（撫順、郊外、鐵嶺、興京）

新京交通株式會社

滿電バスと官吏通勤を專とせる特別市營バスとが夫々銳意其の使命に向つて努力し來りしも特殊的、部分的にて到底建國以來目醒しき都市の躍進に對應すること困難なる情況にありて、必然的に統一經營が要求せらるゝ情勢となるに及び康德二年五月一日交通部竝關東局より新京特別市及南滿洲電氣株式會社に對し夫々統制會社設立に關する訓令あり、爾來兩者に於て各般の準備進められ遂に康德二年七月八日公司の設立を見るに至り、同年七月二十日より營業を開始せり。

康德四年三月吉奉公司を買收し康德六年二月從來の資本金壹百萬圓を國幣參百五拾萬圓に增資し、同七年五月一日竝六月廿日の再度に亙り、料金及路線の改正を行ひ一系統拾錢均一とし新京の發展に備へた。現在の營業路線は市內バス、同觀光バス、郊外線として新京伊通双陽、双城堡伏龍、萬寶

林業









山小八家子等にして、投資會社吉奉交通會社をして懷德伊通兩縣に於ける郊外バスを經營せしめてゐる。

【職制及幹部】

▲專務取締役　橋口勇九郎
▲取　締　役　賀來之憲、片桐愼八、九里正藏、大原萬千吉、王莉山
▲監　査　役　稅所壯吉、岡崖悌藏
▲支　配　人　中島重宗
▲課　　　長　松本忠勝（經務）、稗田貫一（企畫）、仙波忠一（運輸）
▲營業所長　橋口實（大經路）、橋尾源二（南新京）

哈爾濱交通株式會社

哈爾濱市内電車は民國十六年十月十日哈爾濱電業局が二百八十六萬餘圓の事業資金を以て創業經營せしが、康德元年十二月百六十萬圓の評價を以て特別市が接收し交通局を設けて經營に當り優良車の增備其他施設の改善に努めたるも更に交通局を會社組織に改め、同五年七月一日公稱資本金五百萬圓の交通會社を設立し設備經營の充實を計りつゝある。

又乘合自動車に在りては康德二年一月廿日大汽車公司より特別市が二十三萬八千九百餘圓　車輛買收費七萬三千八百餘圓を含む）を以て買收之に新車購入車庫建築等設備費を加算して四十二萬三千五百餘圓の事業資金を以つて經營、運轉系統を擴充して名實共に市營バスとしての機能を發揮するに至つた。當時大汽車公司に於て漠然と決定せられたる料金制は市營接收に當り一時に急激なる變革を避くるため其儘踏襲したのであるが、市營買收前は自動車と電車は各異つた形態のもとに經營されてゐた關係上、兩者の間は必然に競爭的立場に置かれてゐたが、康德五年七月交通會社設立により兩者同一經營に大衆交通機關として一段の飛躍をなし、眞に市民の足として其任務を遂行しつゝある。

【職制及幹部】

▲社　　　長　高恩濤
▲專　　　務　剛崎虎雄
▲支　配　人　市川孝八
▲庶務課長　平井雄、經理同（中田篤美）
▲企　　　畫　同　今福猪太郎
▲電　　　車　同　陳鐘、寺本喜次郎
▲自　動　車　同　市川孝八、工作同（橋口虎太郎）

安東交通株式會社

滿洲國交通統制政策に基く安東產業自動車會社は新交通會社に其事業を繼承され昭和十三年十二月三十日を以て營業を開始した。最近東邊道の開拓、水豐滿ダム工事の進捗、鴨綠江河口港（大東港）の着工等に依り飛躍的發展を期待される安東に於ける同社の使命は重大なるものあり、市民待望久しかりし市内バスの實現をみた點に於て先づ多大の好評を博してゐる。

一　資本金二百萬圓
二　營業線（郊外線）安東を中心とする近郊都市内、（市内バス）法院―六合造紙、〇安東神社―實業銀行―南三條通―安東神社

【職制及幹部】

▲專務取締役　稅所壯吉
▲總務課長　川口守一
▲運　　　輸　同　西田格武

奉北交通株式會社

滿洲國第一次產業五ケ年計畫に卽應し、國内に於ける民營自動車運輸事業の統制及擴充を計る目的を以て康德五年十二月二十日開原に創立され、四平街交通公司、開原交通會社、開豐鐵道會社を買收し各社の財產並營業の一切を讓り受けた。

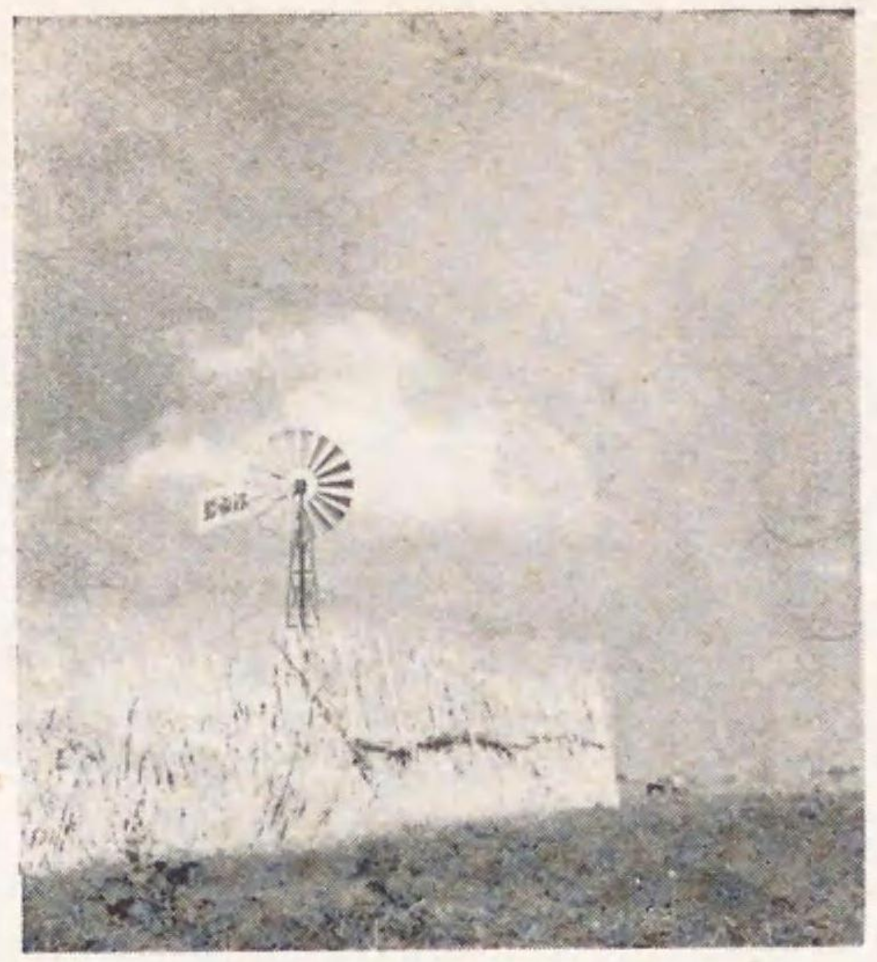
爾來奉天省北部地域に於ける該事業の統制を企圖しつゝあり、業務擴充と相俟ち康德六年十二月本社を四平市に移轉、實に翌七年一月四平、開原營業所、十一月西安營業所を開設し、夫々職制を變更せり。

現在の營業範圍は四平、梨樹、昌圖、開

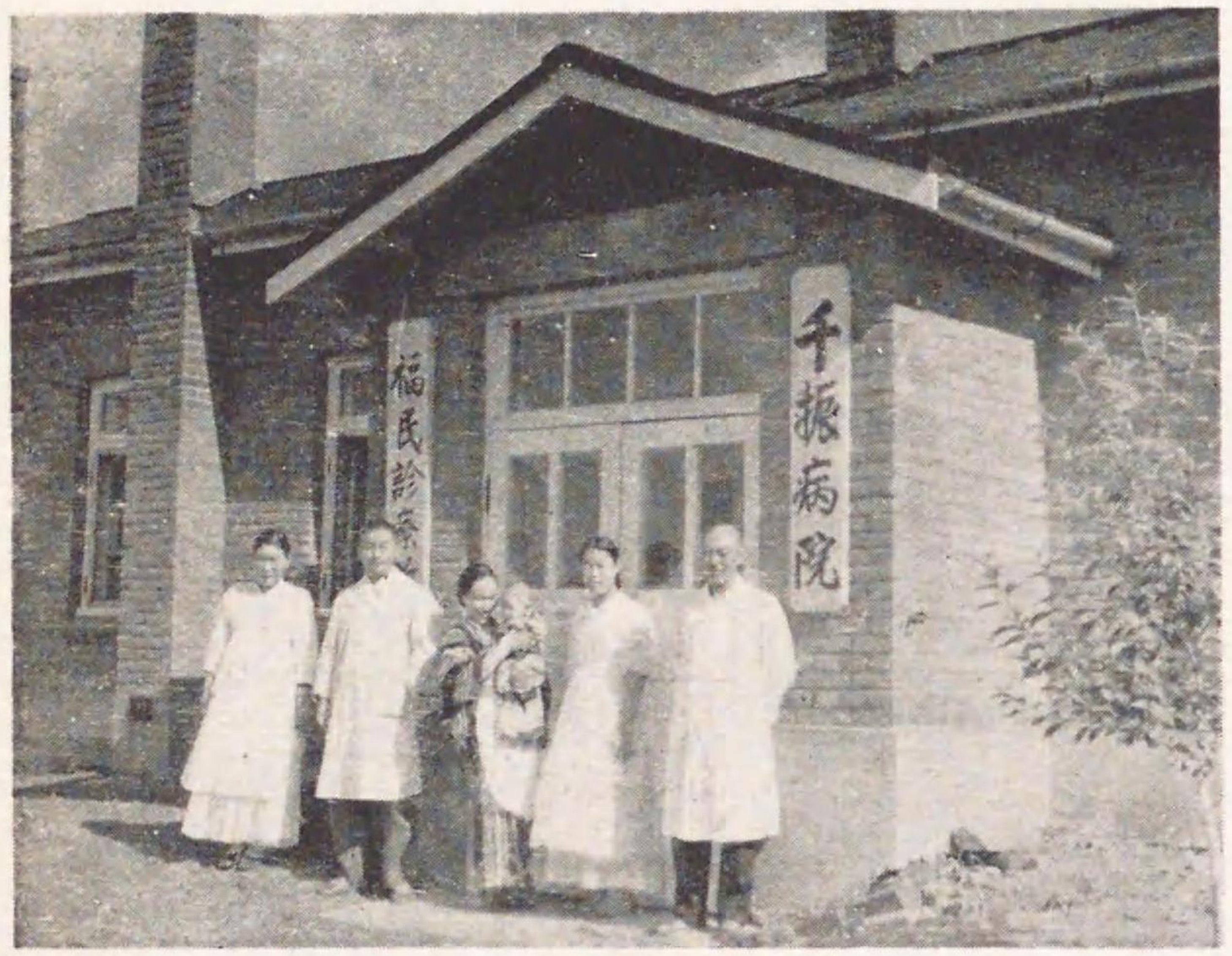
開拓





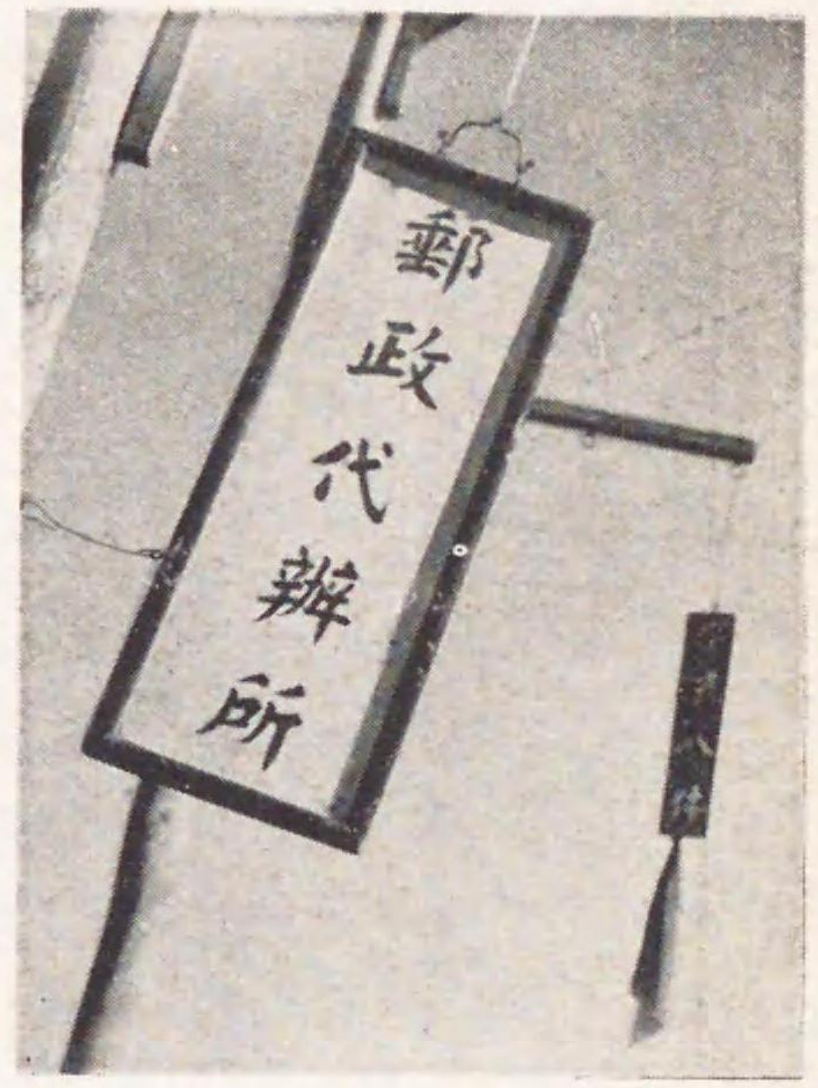


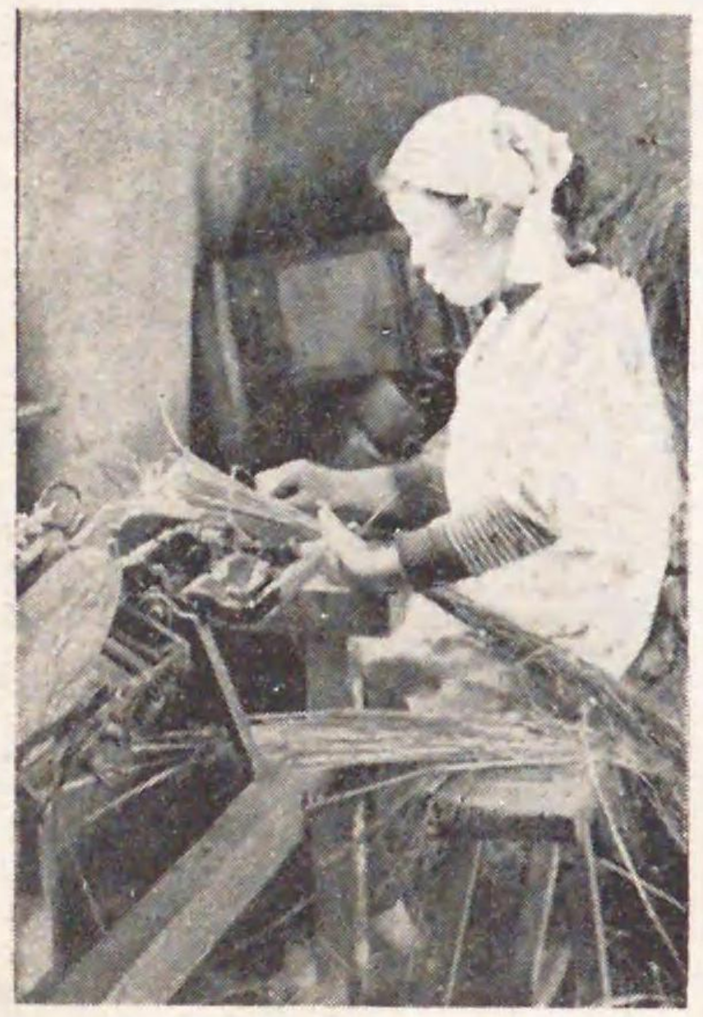


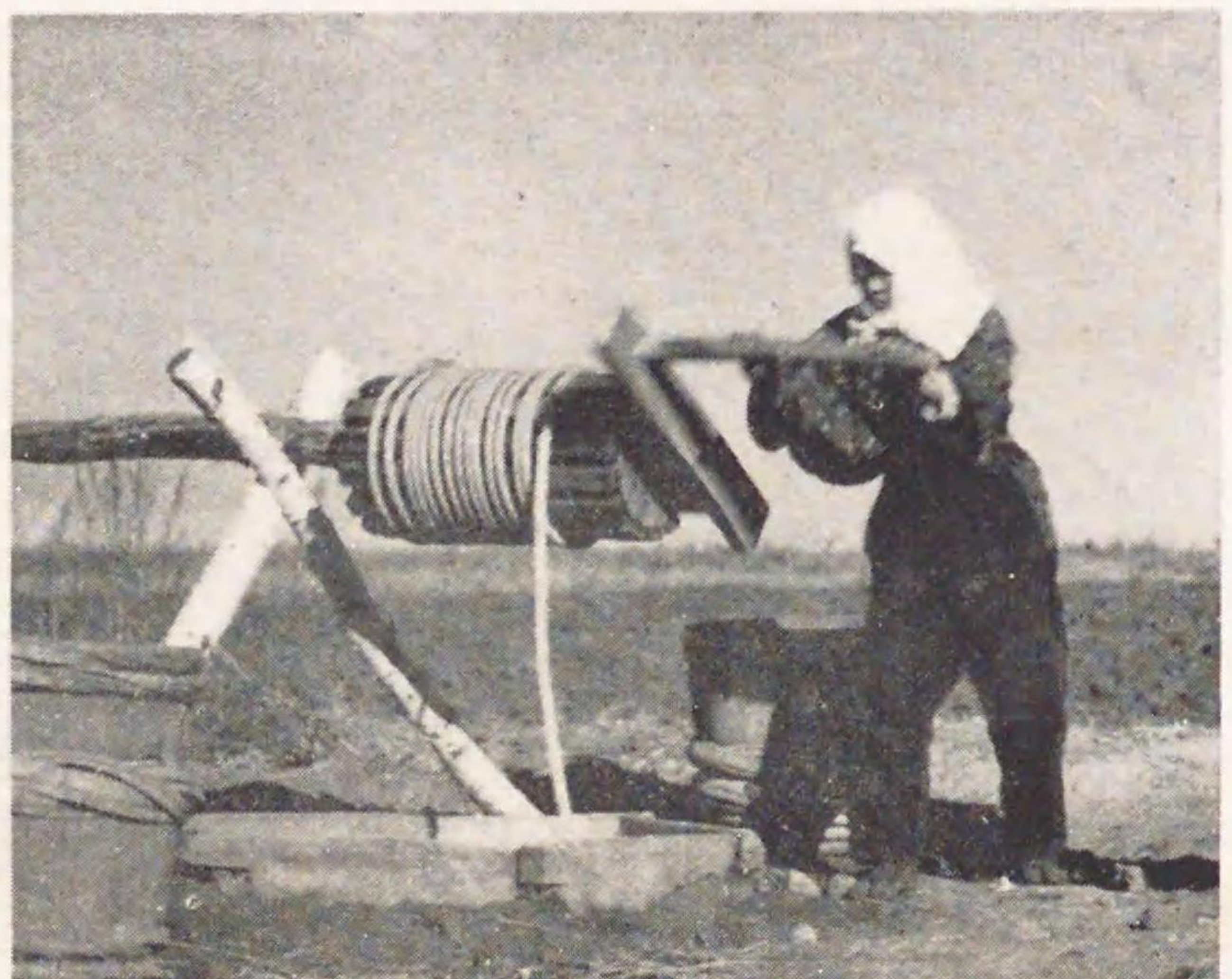


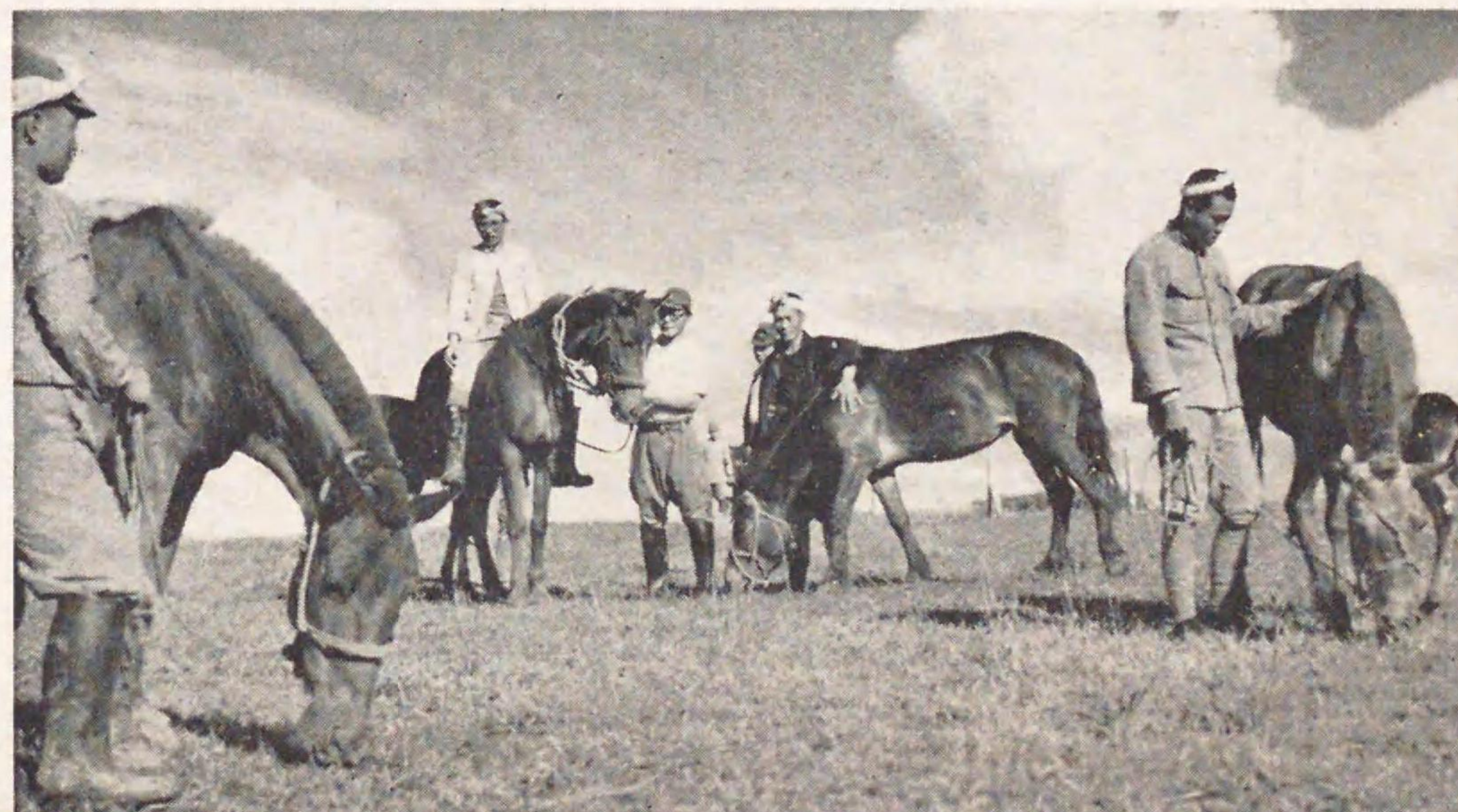












原、西豐、西安、東豐、海龍、双遼、清原盤石の各縣に跨り、住民の交通便益、福祉增進、文化開發の任務を遂行しつゝある。
因みに康德七年度輸送數は乘客二百餘萬貨物六千餘噸に上つてゐる。

【職制及幹部】

▲專務取締役 野村富喜
▲取締役 賀來之憲、九里正藏、稅所壯吉、野間口正人、堤禎章
▲監査役 安東猷二、小岩勳
▲課長 岡野保(總務)玉木二郎(營業)
▲支店長 馬場良太(開原)
▲營業所長 玉木二郎(四平)山口政太郎(西安)

奉南交通株式會社

滿洲國交通事業統制國策方針に基き、遼陽以南州境に至る奉天省南部地域の民營自動車運輸事業統合のため、奉天交通會社遼陽、鞍山、海城に於ける營業及び營口水道交通會社に於ける自動車事業、復縣交通會社事業の一切を買收繼承し、康德六年十一月十日鞍山に設立をみたるものにして爾來逐次其內容の改善擴充に努めつゝあり。

【職制及幹部】

▲專務取締役 高野氣次郎
▲取締役 島崎庸一、九里正藏、野間口正人、
▲取締役支配人 濱野重雄
▲監査役 窪津俊一、堤禎章
▲係長 則武貞雄(庶務、經理)中嶌丹滿(車輛計畫)林初人(營業)
▲支店長 片寄閑(營口)伊牟田勳(瓦房店)

東吉林交通株式會社

大連都市交通株式會社は、政府の交通事業統制擴充方針に基き、康德八年二月二十五日、吉林交通株式會社を買收し、東吉林交通株式會社を設立し、舊吉林交通の經營せる自動車運輸事業特許權の讓渡を受け、同年三月一日より發足現在に至る。
本社は吉林省東部に於ける民營自動車の運營を統轄するものである。

【職制及幹部】

▲專務取締役 橋口勇九郎
▲取締役支配人 永井麗造
▲取締役 稅所壯吉、九里正藏、堤禎章
▲監査役 安東猷二、河野定治

吉奉交通株式會社

吉林、四平兩省に跨り八路線の經營に當り、資本金五萬圓、本社を公主嶺に置く、昭和十五年度乘客輸送數は約十七萬人であつた。

【職制及幹部】

▲專務取締役 橋口勇九郎
▲取締役 松本忠勝、中島重忠(兼支配人)稗田貫一
▲監査役 永井麗造、川瀬仁策
▲庶務係 經理係、營業係

遼西交通株式會社

錦州省北鎭―溝幇子―閭陽・北鎭―黑山等の運營を擔當し、資本十萬五千圓、本社を北鎭縣に置く。昭和十五年度中の乘客數は十六萬餘であつた。

【職制】

▲社長(李守業) ▲常務取締役―取締役 庶務、業務、
▲監察役 車務、經理各課

哈郭長途汽車公司

呼蘭縣を中心とし一帶の運輸事業を擔當し資本金四萬圓、年約十萬人の乘客を取扱ひ居る。本社哈爾濱。

【幹部】

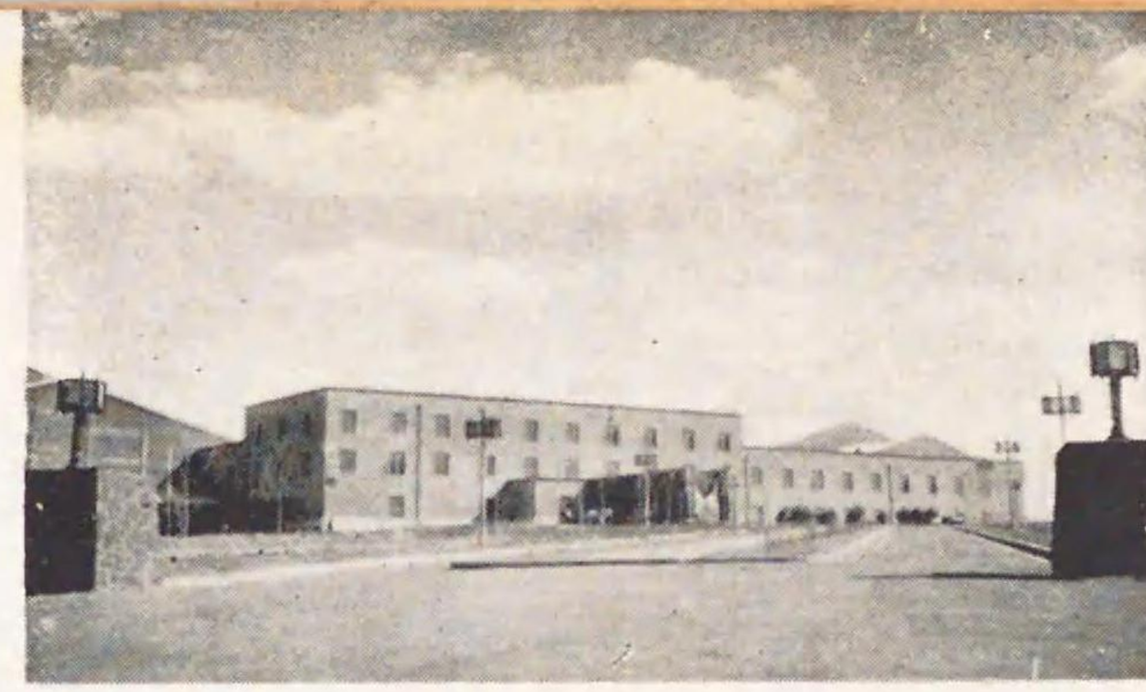
▲社長 友國久吉
▲副社長 方貽琛
▲支配人 工藤三郎

東亞運輸商會

綏化縣中心に一帶の運輸事業に携り、資

映畫

滿洲映畫協會







本金三萬五千圓、本社をハルピンに置き、昭和十五年度は約十萬人の乘客を輸送した

【幹部】

▲社長 友國久吉
▲副社長 方脂琛
▲支配人 工藤三郎

滿洲交通株式會社

大同二年十二月設立、資本金二十五萬圓本社を新京に置き、四平省懷德、昌圖方面十系統の營業に當つてゐる。

昭和十五年度に於ては約三十八萬人の乘客を取扱つた。

【幹部】

▲常務取締役 近藤長造
▲庶務兼營業主任 彥坂邦雄
▲昌圖營業所長 片山良策

咸北自動車株式會社

本社を朝鮮淸津府に置き市內バスは勿論朱乙溫泉、朱乙、羅南 羅津、雄基、淸津慶源、會寧、茂山、新站等を長途連絡營業し、北鮮に於ける自動車交通の重要機關である。年約四百萬人の旅客を輸送してゐる。

蒙疆汽車公司

昭和十月七月滿鐵副總裁は關東軍參謀長の命により北支、內蒙に於ける自動車交通に關する指令を發し、同十一年四月一日華北汽車公司を設立せしめて軍指令にかゝる路線の經營を行はしめたると共に、同年七月一日張家口に張多汽車公司を設立して張家口多倫間の營業を開始した。

爾來綏東事變竝支那事變勃發するに及び克く軍行動の一助となり、國策遂行の重要機關として活躍を續けて來たが、蒙疆の兵火收まり、蒙疆政權の組織せらるゝに當蒙疆汽車公司と改稱せられ、蒙疆地區內に於ける華北汽車公司の別働機關として重要なる交通運輸事業を經營し、多方面に亘り甚大なる貢獻をなしてゐる。尙昭和十四年五月二十日舊蒙疆聯合委員會令を以て改組せられ、資本金六百萬圓の特殊法人蒙疆汽車股份有限公司と稱し今日に至る。

本公司は單なる交通施設の提供を以て能事とせず、原住民族の習性に基き特に物資交易の範圍にまで業務を延長し、地方開發の基幹として之に參與すべき方針を決し、爾來此處に實力を養成し、來るべき邊疆交通の開設に備へつゝあり。

事業の目的は蒙疆地域內に於ける（イ）自動車運輸事業の經營（ロ）水運事業の經營（ハ）前各號附帶事業の經營にして、蒙疆地域に於ける產業の開發、治安の恢復、鐵道の代行、防共國防の確保等がその使命として擧げられてゐる。現在營業路線四、一〇八粁。

【職制及幹部】

- 理事長（田中洌）
  - 常務理事（藤田豐）
    - 經理課長（勝谷史郎）
    - 運輸課長（杉本正根）
    - 技術課長（久保 淳）
- 理事（池永顯）
- 監事（鈴木茂雄）（堀田虎之助）（恩和阿木爾）

華中都市交通株式會社

昭和十二年上海事變勃發直後、一時上海時局委員會によつて運營せられた上海虹口郵船碼頭間及び上海神社外白渡橋間の路線は居留民團に引き繼がれ、更に軍の指令に依つて興中公司が翌年早々市政府、大場鎭、玉濱、龍華鎭相互間及び虹口との連絡運營を開始した。

更に興中公司の運營せる上海、南京、杭州のバスを中心として、杭州市政府の運營せる路線及び大通公司の蘇州市內、江南汽車業の上海に於ける江南汽船所々員の輸送せるを現物出資せしめ、中支に於ける主要七

都市（上海、南京、杭州、蘇州、無錫、鎭江、常州）及近郊のバス運營を目的とし、民國二十七年十一月華中都市自動車株式會社創立總會を開催して直ちに業務を開始した。

而して本社の資本金は三百萬圓にして內百萬圓は中支振興株式會社持、五十萬圓を支那側、他を日本側民間に割當て、大日本電力株式會社が拂込金の一時立替を以てした。

現行營業路線は「自動車路線表」參照

【職制及幹部】

▲取締役社長 楊效曾
▲常務取締役 但島祐治
▲取締役 董明、婁鳴玉、道明義太郎
▲監査役 莊士彝、野村義男
▲總務課長 伊藤儀（庶務、經理、人事各係）
▲營業課長 三宅勝重（營業、調査、工務各係）
▲秘書 廣瀨文治

自動車路線表

華北、蒙疆未報

鐵道總局線

（昭和十六年三月末現在）

自動車區	線名	區間
奉天	立遼	立山驛、遼陽驛
	遼歪	遼陽驛、歪頭山驛
	歪撫	歪頭山驛、南花園
	溪明	本溪湖驛、明山驛
	奉撫	奉天驛、撫順驛
	奉鐵	小西邊門、鐵路
	撫城	撫順驛、城廠
	鐵撫	鐵嶺驛、撫順驛
	開石	開原驛、石嶺驛
	奉庫	奉天驛、法庫
	新法	新臺子驛、十間房
		新臺子驛、鐵路
	開法	通江口、法庫
		小溝、康平
	法平	法庫、康平
	康遼	康平、遼陽堡
	章法	章古台驛、法庫
海城	海營	海城驛、營口驛
	蓋營	蓋平驛、營口驛
	海岫	海城驛、岫巖
		李家房、八岔溝
	石岫	大石橋驛、岫巖
	蓋萬	蓋平驛、萬福庄
	海立	海城驛、立山驛
	鞍連	立山驛、廟台
安東	安城	安東驛、西城子疃
	五龍背	安東驛、五龍背
	紅旗街	安東驛、紅旗街
	河龍	河深溝、龍王廟
	東龍	大東溝、馬家堡
	鳳大	鳳凰城驛、小黃旗
	大岫	遂子英、岫巖
	莊岫	莊河、岫巖
	莊萬	莊河、萬福庄
貔子窩	普貔	普蘭店驛、貔子窩驛
	普杏	長山寺、杏樹屯驛
	同	粉皮墻、林家屯
	貔城	貔子窩、城子疃驛
	城家	城子疃、八家子
	貔巴東	貔子窩、巴家屯
	貔巴西	貔子窩、巴家屯
	普朝東	普蘭店驛、朝陽寺
	普朝西	普蘭店驛、朝陽寺
錦州	錦老	錦縣驛、老邊
	錦建	江家屯、建昌
	錦壺	錦縣驛、西海口
		杏山、壺蘆島埠頭
	西楊	錦西、楊家杖子
	興城海岸	興城、海岸
	興臺	興城、新臺門
	興梨	興城、梨樹溝
	綏建	綏中驛、建昌
	綏明	綏中、明水塘
	錦州局地	錦州市內
海州	吐默特	阜新城、東吐默特
	阜北	阜新城、八道壕驛
		白土廠、北票
	黑山	黑山、大虎山驛
	虎遼	大虎山驛、遼中
	民彰	新民驛、彰武驛
	阜套	阜新城、哈拉套
	阜新局地	阜新市內
通遼	通開	通遼驛、開魯
	開萬	開魯、萬發永
	開奈	開魯、奈曼旗
	通候	通遼驛、候沁蘇旗
	開北	開魯、魯北

地區	起	迄	區間
赤峰	開	東	開魯、林東
	峰	瓦	赤峰、上瓦房
	朝	建	朝陽驛、建平
	葉	惠	葉柏壽驛、下店子
	葉	老	扎蘭營、老虎山
	朝	惠	老虎山、新惠
	朝	北	朝陽、北票驛
	北	奈	北票驛、奈曼旗
	峰	鳥	赤峰驛、烏丹城
	大	廟	三巴火、大廟
	峰	多	赤峰、多倫
	赤峰局	地	赤峰、市內
林西	林	鳥	林西、烏丹城
	東	經	林東、經棚
承德	泉	喜	平泉驛、喜峰口
	泉	青	下店、青龍
	凌	冷	凌源、冷口
	建	青	喇嘛洞、青龍
	凌	建	凌源驛、建昌
			平泉、西橋
	泉	峰	西橋、赤峰
			西橋、乃林
	承	闆	承德驛、闆場
	承	古	鞍匠屯、古北口驛
	承	豐	鞍匠驛、豐寧
			三盆口、營房
	豐	閣	豐寧、大閣鎮
	承德局	地	北街、凌源驛
	凌源局	地	承德、市內
朝陽鎮	朝	五	北平安、五道溝驛
	柳	孤	柳河驛、孤山子
	山	柳	山城鎮驛、柳河驛
	柳	鳳	柳河、五鳳樓
	朝	撫	朝陽鎮驛前、撫松
			小北岔、金川
	朝	樺	朝陽鎮、樺甸
通化	通	桓	通化驛、桓仁
	通	輯	通化、小鷄子
			小鷄子、輯安
	通	甸	小鷄子、花甸子
	輯	外	輯安、外岔溝
	羊魚	頭	輯安、羊魚頭
	通	臨	通化驛、臨江
	臨	撫	臨江、撫松
	通化局	地	通化、通化驛
敦化	敦	甸	東門、大甸子
	明	安	明月溝驛、安圖
	敦額	東	敦化驛前、額穆
	敦額	西	敦化驛前、額穆
	奶子	山	蛟河、奶子山
	蛟	八	蛟河驛前、八家子
	敦化局	地	敦化、市內
延吉	天寶	山	老頭溝驛、天寶山
	延	龍	延吉驛、龍井
	龍	南	龍井、和龍
	龍	道	龍井、八道河驛
	延	草	延吉、百草溝
	延	平	延吉、大平金山
	延吉局	地	延吉街、延吉驛
吉林	京	吉	新京驛、吉林驛前
	岔	雙	岔路河、雙陽
	煙	伊	煙筒山驛、伊通
	磐	伊	磐石驛、東營子
	石	伊	石嶺驛、伊通
	小豐	滿	吉林驛前、小豐滿
	京	九	南關、下九台驛
	九	河	下九台、上河灣
	九	白	共塔木、白旗屯
	九	布	下九台、布海驛
	九	青	下九台、大青子
牡丹江	牡	海	牡丹江驛、海林驛
	東	山	東京城驛、山市驛
	牡	寧	牡丹江驛、寧安驛
	寧	新	寧安驛、新安鎮
	寧	沙	寧安驛、胡家橋
	東	水	東京城街、吊水樓
	大	羅	大興溝驛、羅子溝
	興	草	大興溝、牡丹川
	草	肚	百草溝、大肚川
	牡	穆	牡丹江驛、穆稜驛
	大肚川局	地	大肚川街、汪清驛
琿春	琿	慶	琿春、慶興橋
	琿	東	琿春、東興鎮
	圖	琿	圖們驛、密口
			密口、琿春
	琿春局	地	琿春、市內
東寧	寧	東	東寧、東興鎮
	綏	寧	綏芬河驛、東寧
	綏	陽	綏陽驛、八道橋
	綏	西	綏芬河驛、綏西
	寧	穆	萬鹿溝、穆稜驛
	東寧局	地	東寧、石門子
東安	梨	密	梨樹鎮、密山
	密	當	腰營、當壁鎮
	南	山	南山、永安驛
	平陽	驛	平陽、平陽驛

地區	起	迄	區間
	橫	城	橫泥河、城子河
	梨	麻	梨樹鎮、麻山驛
	東安	驛	密山、東安驛
	西東	安	東安驛、西東安
	東	寶	東安驛、寶清
	虎	寶	虎林驛、寶東驛
勃利	勃	桃	勃利驛、桃山
	千	石	千振街、小石頭
	千	依	千振街、依蘭
	倭	雙	倭肯驛、濃河村
	勃	依	勃利驛、依蘭
	勃	通	大四站、三道通
	千振局	地	千振街、千振驛
佳木斯	佳依	北	佳木斯驛、依蘭
	佳依	南	東門外、依蘭
	佳	太	佳木斯驛、太平鎮
	佳	富	佳木斯驛、富錦
	佳	寶	沙崗、寶清
	富	寶	富錦、寶清
	佳	樺	佳木斯驛、樺川
			樺川、富錦
	富	同	富錦、同江
	富	鶴	富錦、鶴岡驛
	湯	鶴	長發屯、鶴岡驛
	佳木斯局	地	佳木斯、市內
	蓮江口局	地	蓮江口驛、五連街
	鶴岡局	地	鶴岡、市內
哈爾濱	濱	房	哈爾濱、平房驛
	濱阿	南	哈爾濱驛、阿城驛
	濱阿	北	香房驛、阿城
	阿	周	阿城、周家驛
	阿	林	阿城、拉林驛
	阿	蜚	阿城驛、蜚克圖
	濱	巴	哈爾濱、巴彥
	巴	依	巴彥、依蘭
	通	依	通河、依蘭
	珠	方	珠河、方正
	珠	山	珠河、小山子
	通	鳳	通河、鳳山
	木	東	木蘭、東興
	巴彥	港	巴彥、巴彥港
	巴	東	巴彥、東興
	沈	巴	沈家驛、元寶
	呼	西	呼蘭、蘭西
	濱	樂	松浦、樂安鎮
	興	東	興隆鎮驛、新街基
	克綏	南	克音河驛、瑞穗村
	克綏	北	興農鎮、大曲
	阿城局	地	阿城、兵營前
	呼蘭局	地	呼蘭驛、呼蘭
	綏化局	地	綏化驛、警察署前
	海倫局	地	海倫驛、十字街
三岔河	德	城	四青子、城子街
	德	岔	德惠驛、岔路口
	德	農	德惠驛、郭家屯
			郭家屯、農安驛
	德	靠	德惠驛、靠山屯
	三楡	南	三岔河驛、楡樹
			後狼窩、陶賴昭驛
	楡	白	楡樹、白旗屯
	蘭	楡	舒蘭驛、興隆店
	河	楡	山河屯、馬河屯
	常	楡	五常驛、楡樹
	常	冲	五常驛、冲家
			石廟子、小山子
	林	楡	拉林、楡樹
	三楡	北	三岔河驛、楡樹
			弓棚子、大八號
	三	扶	三岔河驛、扶餘
	小	扶	小弓棚、扶餘
	五家	站	蕭家、五家站
	陶	扶	陶賴昭驛、蔣家
孫吳	北	德	北安驛、德都
	孫	奇	孫吳驛、奇克
	孫	霍	吳家、霍爾莫津
	孫吳局	地	孫吳、兵營前
黑河	黑	汗	黑河、汗達氣
	黑	奇	黑河、奇克
	黑	金	黑河、金山鎮
	黑河局	地	黑河、市內
肇東	肇	扶	肇東驛、扶餘
	肇	青	肇東驛、青崗
	青	明	青崗、明水
	青	排	青崗、七排八井
齊齊哈爾	齊	景	梅里斯、景星
	泰	景	泰來驛、景星
			塔子城、扎賚特
	泰	杜	泰來驛、杜爾伯特
	昂昂	溪	齊齊哈爾驛、昂昂溪
	齊	杜	昂昂溪、杜爾伯特
	康	同	泰康驛、大同鎮
	齊	甸	齊齊哈爾驛、林甸
	康	依	泰康驛、依安
	齊	寧	齊齊哈爾驛、富裕
	寧	依	寧年驛、依安
	齊	甘	永安街、甘南

洮南	甘扎	甘南、扎蘭屯驛
	拉通	拉哈、通南鎭
	訥布	訥河驛、布西
	訥龍	訥河驛、龍河鎭
	墨站	墨爾根驛、四站
	齊齊哈爾局地	齊齊哈爾市內
	訥河局地	訥河市內
	嫩江局地	嫩江市內
	面家	八面城、八家子
	鄭博	鄭家屯驛、博王府
	農靠	農安驛、靠山屯
	農伏南	農安驛、伏龍泉
	農伏北	農安驛、伏龍泉
	茂長	茂林驛、長嶺
	長楊	長嶺、楊家城
	長雙	夏家舖、雙城堡
	開平	開通驛、太平川驛
	開乾	開通驛、乾安
	前乾	前郭旗驛、乾安
	洮廣	洮南驛、平安鎭
		平安鎭、安廣驛
	洮王	三家子、王爺廟驛
		五間房、那金河
	王西	王爺廟驛、西科後旗
	王醴	王爺廟驛、醴泉
	洮醴	洮南驛、醴泉
	洮南局地	洮南市內
	前郭旗局地	前郭旗驛、扶餘
拜泉	安拜	安達驛、拜泉
	安州	安達驛、肇州
	安靑	正亞、靑崗
	海拜	海倫驛、拜泉
	東拜	克東驛、拜泉
	克拜	克山驛、拜泉
	克北	克山、北興鎭
	泰拜	泰安驛、拜泉
	泰西	泰安城、西城鎭
	泰訥	泰安城、訥河驛
	泰依	劉國忠、依安
	拜依	孫家、依安
	克山局地	克山市內
	泰安局地	泰安市內
海拉爾	海珠	海拉爾驛、甘珠爾廟
	海阿	海拉爾驛、阿爾山
	海三	海拉爾驛、三河
	三吉	三河、吉拉林
	滿扎	滿洲里驛、扎來諾爾驛
	海拉爾局地	海拉爾市內
羅津	羅津局地	羅津市內

滿洲民營自動車線

（昭和十六年八月末現在）

△新京交通株式會社

運行區間	粁當運賃	運行回數
新京—市內	回數券一二錢五厘 一回券二〇錢	
新京市內遊覽		
新京—伊通	三、八	三往復
新京—双陽	三、八	三
新京—双城堡	四、〇	一
新京—伏龍泉	四、五	一
寬城子—萬寶山	四、九	二
小合隆—小八家子	四、八	二
吳家屯—双陽	四、〇	一

△奉天交通株式會社

運行區間	粁當運賃	運行回數
奉天市內	一區五	
奉天市內遊覽		
撫順市內	五	
撫順市內遊覽		
奉天—遼中	三、五	一
遼中—小北河	四、〇	二
奉天—冷子堡	三	二
奉天—沈且堡	三	二
鐵嶺—法庫	三、五	二
鐵嶺—大甸子	三	一
大甸子—白旗寨	三	一
南雜木—通化	四	一
東昌台—桓仁	五	一
永陵街—桓仁	四、五	一
撫順—化尖子	四、三	一
新民—法庫	四、五	一
彰武—法庫	四、五	一
彰武—哈爾套街	四、五	一
鎭西堡—夏家樓	二、三	二
養馬堡—街門	三、五	一
孤家子—大青堆子	三、五	二

△哈爾濱交通株式會社

運行區間	粁當運賃	運行回數
哈爾濱市內	一區一〇	
哈爾濱市內遊覽		
桃花巷—松浦	五	二

△安東交通株式會社

運行區間	粁當運賃	運行回數
安東市內		
安東驛—三道浪頭	二、五	八
安東—寬甸	四、五	三
寬甸—長甸河口	四、六	五
大平村—九連城	二、五	九
寬甸—桓仁	五	一
横道川—沙尖子	五	一
桓仁—横道川	五	一
鳳凰城—石頭城	四、五	二
鳳凰城驛前舊市街	五	一〇
寬甸—草河口	四、五	一
長甸城—拉古哨	五	二
草河口—舳嚴	五	一
寬甸—沙尖子	五	一

△奉北交通株式會社

運行區間	粁當運賃	運行回數
開原—八棵樹	三、七	一
八棵樹—梨家台	三、七	一
梨家台—孤家子	三、七	一
孤家子—草市	三、七	一
開原—下肥地	三、六	一
下肥地—孤家子	四、〇	一
貂皮屯—涼水泉子	四、〇	三
貂皮屯—西豐	四、〇	三
草市—山城鎭	四、〇	一
涼水泉子—興隆台	四、〇	一
孟家寨—下肥地	四、〇	一
孟家寨—馬家寨	四、〇	二
靠山屯—黄旗寨	四、〇	一
山城鎭—南山城子	三、五	一
山城鎭—四平	三、〇	一
四平—楡樹台	四、九	一
四平市內		
西豐—西安	三、〇	二
石家台—西豐	三、三	二
西豐—東豐	三、五	二
西豐—興隆街	四、〇	一
西安—二道河子	三、六	二
西安—遼河源	三、六	五
西豐—西安(南道)	三、六	五
東豐縣城—大陽岔子	三、六	一
東豐縣城—那丹伯	三、六	二
仙城村—那丹伯	三、六	一
遼河源—沙河鎭	三、六	一
大陽岔子—山城鎭	三、六	一
開原驛—開原城	四	八
開原驛—通江口	四	三
二寨子—中固驛	四	一
開原—馬仲河	四	五

△奉南交通株式會社

運行區間	粁當運賃	運行回數
遼陽市內	一區五	三〇分間
鞍山—劉二堡	三、一	六
鞍山—騰鰲堡	三、二	六
鞍山—唐馬寨	三、三	四
海城—騰鰲堡	三、五	三
營口—田庄台	三、八	
營口市內	一、八	
鞍山市內	一區五分	車輛三分
蓋平驛—蓋平城	三、五	一八
蓋平—榜式堡	三、四	三
瓦房店—復州城	三、五	一
瓦房店—復東鎭	三、〇	一
李店—復州灣	三、六	一
蕭家燈—謝家屯	三、八	一
復州城—娘々宮	三、七	一
松樹—復東鎭	三、五	一
甲爐—朱家屯	四、一	二
松樹—永寧鎭	三、八	一
娘々宮西崖—蛟子咀	四、〇	一
遼陽—小北河	三、四	四
遼陽—劉二堡	三、五	五
遼陽—河欄溝	三、三	二
遼陽—長灘屯	三、一	二
海城市內		
海城—大臧王寨	二、五	二
海城—馬風屯	二、六	四
湯崗子—新台子	三、〇	三

△滿洲交通株式會社

運行區間	粁當運賃	運行回數
新京—燒鍋店—懷德	四、〇	一
昌圖—通江口	五分	二
八家子—范家屯	四分	一
八家子—楊家城子	四	
八面城—大窪—双廟子	四	五
昌圖城—鶯鶯樹	四	五
大窪—寶力屯—昌圖城	四	二
昌圖縣城—馬仲河	四	二

△吉林交通株式會社

運行區間	粁當運賃	運行回數
吉林市內	一區五分	
吉林—四家房	四、五	二
吉林—朝陽堡—樺甸	四、五	一
吉林(松花江道)—樺甸	四、五	一
樺甸—呼蘭鎭—磐石	四、五	四

△牡丹江交通株式會社

運行區間	粁當運賃	運行回數
牡丹江市內	一〇	十分間隔
拔河銀座通—樺林		

△遼西交通株式會社

北鎭—溝幇子	五、三	二
溝幇子—閭陽驛	五、三	二
北鎭—黒山	五、三	一

△哈賓自動車交通合資會社

哈爾濱—賓縣	五	一
賓縣—新甸	五	一
枷板店—高麗帽子	五	一

△吉奉交通株式會社

公主嶺—楊大城鎭	五分	一
八家子—奉家屯	五分	一
奉家屯—八屋	五	一
范家屯—伊通	五	一
八屋—双山	五	一
公主嶺—八家子	五	二
公主嶺—赫爾蘇	五	一
公主嶺—伊通	五	二

△哈郭長途汽車公司

對青山—樂安鎭	四	一
樂安鎭—肇源	四	一

△東亜運輸商會

綏化縣城—望奎縣城	四	二
綏化縣城—慶城縣城	四	二

△北支滿蒙運輸商會

承德—黃崖關	五	一

△東滿洲鐵道株式會社

琿春—沙坨子	四	五

大連都市交通線

（郊外線）

路線名	料金	摘要
旅大南線	一、一〇	
旅大北線	一、一〇	
旅大區間線	九〇	
甘大線	四〇	
小野田線	三五	
金大線	七〇	
金普線	八〇	
金曲線	七〇	
金孤線	三五	
亮普線	六五	
登普線	七〇	
灣普線	五〇	
金愛線	五〇	

（市內線）

路線名	料金	摘要
中央線	一〇	内三七休止
南部線	一〇	内二〇休止
北部線	一〇	
西部線	一〇	
星浦線	一〇	内三〇〇休止
老虎灘線	一〇	全休止
傅家庄線	一〇	
石道街線	一〇	
欒家屯線	一〇	
旅順市內線	一〇	
水師營線	一〇	
香爐礁—大辛寨	二〇	
會順戰蹟線	二、〇〇	
大連市內觀光線	二、〇〇	全休止
黄金台線	—	同
拉樹房線	三〇	同

華中鐵道自動車線

（昭和十六年七月一日現在）

上錫線　閔行線　余山線　平湖線　錫常線　丹陽線
南蕪線　横蕪線　餘杭線　揚天線　蚌陽線　明定線
劉河線　南松線　蘇熟線　嘉平線　宜興線　八新線
溧水線　浦揚線　杭富線　揚江線　滁和線　嘉定線
閔嘉線　蘇興線　嘉長線　常州線　靖黃線　白容線
浦裕線　蕭山線　揚秦線　滁來線　寶山線　上松線
光福線　江陰線　逍里線　京常線　當溧線　臨塘線
六圩線　泰岸線　滁六線　崑山線　松泗線　同里線
蘇錫線　常孟線　淳化線　澝沚線　京杭線　楊澝線
蚌壽線　明津線

計　五十六線

華中都市自動車會社線

都市	系統番號	起終點名
上海	一	上海神社—飯田棧橋
	五	同　—江灣鎭
	六	外日渡橋—楊樹浦東端
	七	四川路橋—東華紡績
	八	上海神社—外日渡橋（吳淞路經由）
	九	上海神社—外日渡橋（北四川路經由）
	十	上海驛—四川路橋
	十一	虹口市場—鐘ケ淵紡績
	十三	上海神社—閘北水電
	十四	上海神社—吳淞鎭
	十五	中日アパート—五條ケ辻
		南市循環線

	二十一	老西門—小南門
	二十二	老西門—大碼頭
	二十三	老西門—小東門
	二十四	老西門—龍華鎭
		青浦線
		四川路橋—青浦
南京	一	南京驛—新街口
	二	南京驛—中華門驛
	三	新街口—新街口（循環線）
杭州		巡覽車
	一	拱宸橋—迎紫路
	二	靈隱寺—迎紫路
	三	迎紫路—南星橋
	四	杭州驛—特務機關
蘇州	一	火車站—觀前街
	二	石路—觀前街
無錫	一	車站—南門
	二	三里橋—南門
	三	車站—三里橋
鎭江	一	南鎭江—西鎭江
	二	北門—西鎭江
	郊外線	鎭江—壆城鎭

鐵道愛護

△滿洲

愛路運動の意義

愛路運動の主旨

鐵道愛護運動（以下愛路運動と略稱す）とは滿洲國內の鐵道（以下凡て建設線を含む）沿線に居住する民衆にして適切なる各般の啓蒙、指導訓練を實施し、それに依つて民衆自體を自發的且積極的に鐵道の防衛愛護に乘出さしめることである。

國家の生命線たる鐵道を安全に確保する爲には皇軍や又鐵道警護總隊が凡ゆる努力を拂つて居るが、國內一萬餘粁を保護監視するのは中々の難事である。故に沿線の住民に協力せしめ運行の萬全を期さうと謂ふのが愛路運動の主旨である。

滿洲國の鐵道は現下の情勢よりすれば全く國防國策鐵道であつて、然も其の國防國策は鐵道を通じて初めて完遂されて居る。謂ひ換へるならば國家安危の基本的役割も凡て鐵道が擔つて居ると謂つても過言ではないのである。然し愛路運動の重要性は單に戰時下に於てのみ意義を持つものではなく、例へば國家にとつて特殊な位置にある鐵道沿線の農村—即ち鐵道愛護團を王道建國精神作興の道場たらしむこと、民族協和日滿融合の搖籃たらしむこと、文化の先驅たらしむこと、農村甦生の苗床たらしめること、産業開發の基地たらしめること等、滿洲國建設の聖業に一大推進力を與へるものとして重大な使命を併せ有して居るのである。

即ち愛路運動は此の鐵道の機能を百%に發揮させ、然も鐵道と民衆とを一體ならしめて其の實績の發揚を期す重要な役割を持つて居るのである。

愛路運動の機構

一　鐵道愛護團の組織

愛路運動の實務體として鐵道愛護團を設定して居る。鐵道愛護團は鐵道兩側各概ね五粁以內の地域にある村を單位として設け、更に行政上の區劃（例へば屯）に應じ、其の中に分團を設けて居る。又市街には原則として鐵道愛護團を設定しない建前である、鐵道愛護團長の職は當該村長に委屬し村民は自發的加入の形式に依て全員鐵道愛護團員として團長の指導下に入るのである。

二　愛路指導機構

指導機關としては從來鐵道總局が專ら當つて來たが、昭和十三年擔任箇所たる鐵道總局鐵道警務局が滿洲國一般行政に移管されるに伴ひ、工作を滿洲國一般行政と一層緊密且合理的に融合せしめる爲其の性質に從つて次の樣に分擔するに至つた。

イ　滿洲國行政機關愛護團員の教育、社會施設、一般行政

ロ　鐵道警護總隊＝鐵道警護に關する警

備訓練其の他の警備工作
ハ　鐵道總局＝愛路思想の普及宣傳、宣撫工作、鐵道保守の技術的訓練、愛路工作として必要なる産業上の福利增進

分野は以上の樣に協定されたが、各機關が緊密な協調連絡を取り使命の完璧を期すのが本旨である。尚自動車路、水路も從來鐵道總局が愛路工作を實施して來たが、右と同時に原則として行政機關が擔當することになり、必要に應じ鐵道側が協力することゝなつた。然し重要路線で特に治安不良な地方に在つては鐵道側も積極的に愛路工作の徹底を圖つて居る。

三　青少年組織

昭和十年愛路運動の中堅的分子として愛路少年隊が結成され、規律ある軍隊的訓練を受け鐵道警備を體得すると共に公民教育、日語講習、農畜産知識の教育、試作圃經營指導等を受けた。これ滿洲國青少年運動の先驅である。愛路少年隊は年を經る每に躍進しつゝあつたが昭和十四年協和青少年團の全國一元的結成に依り其の傘下に合流し鐵道愛護團協和青少年團として改編統合した。然るに昭和十六年四月滿洲帝國協和青少年團中央統監部の設置を見たので大乘的見地から「鐵道愛護團」の冠稱を廢し一元的組織下に入つたが、其の特殊使命に鑑み訓練指導には從前通鐵道側が當つて居る。

此の外昭和十四年時局に即應する國民動員組織として鐵道愛護團區域內に在る自衞團の特殊隊として愛路義勇隊が編成され、專ら二十歲より三十五歲迄の壯年者から選拔し警護訓練及鐵道保守の技術的訓練を實施して居り、又市街地には協和義勇奉公隊の特殊隊として愛路隊が結成され所要の訓練を受けて居る。

愛路運動の沿革

滿洲建國直後は匪賊が各地に跳梁して治安を攪亂するばかりでなく、一般民衆も亦王道國家に對する認識極めて薄く、人心は全く不安混亂の狀態に在つた。爲に滿洲國國有鐵道の委託經營を引受けた鐵道總局（當時の鐵路總局）に於ては、秩序ある運行を確立して國防竝治安の完璧を計らむとして、軍、滿洲國當局と協議し、昭和八年六月滿洲國內鐵道全線に亘つて愛路運動を創始することになつた。即ち鐵道、自動車路、水路、沿線村落を鐵道（又は自動車路、水路）愛護村とし其の村民をして鐵道保全に協力せしむるのみならず、進んで其の産業發展と經濟的開發を促進し、國利民福、國防充實の根源を培養し以て王道樂土の建設に協力せしめむとした。

昭和九年六月には國線主要幹線三千七百粁に亘り創設村數一千二百七十個村、包容村民三百五十萬を算ふるに至り、十年には愛路少年隊の結成模範鐵道愛護村の設置を見た。

昭和十一年には種々の産業助成、福祉工作の外冬期愛護村塾を開設し新生活運動の先驅たらしめむとした。警備訓練としては一家一人動員演習を以て有事に處する備へを固めた。

昭和十二年には恰も支那事變勃發に際會し、愛路運動は全面的に交通路の確保、治安の維持、人心の安定、資源の培養等銃後國防に最善の努力を傾注したが、愛路精神は遺憾なく發揮され、鐵路は盤石の安泰に置かれた。

昭和十三年には治外法權が撤廢されそれに關聯して鐵道警察が滿洲國に移管された爲、之を契機として愛路運動の機構にも變革を見、愛護村の名稱は愛護團と改稱された。十四年には愛路少年隊は鐵道愛護團協和青少年團として改編され、愛路義勇隊の新結成を見た。

昭和十五年は更に緊迫せる周圍の情勢に鑑み、特に現地工作の即地效果の浸透徹底を圖るべく、工作機構の整備强化を圖ること、愛路指導の技能向上、熱意昂揚を目指して指導者の練成に意を注ぐこと、專ら現實的な宣傳方法を以て工作の即效を期すこと等に重點を指向した、七月には全滿に魁けて市街地に於ける協和義勇奉公隊の特殊隊としての愛路隊が國都新京に結成を見た。

昭和十六年三月、四月には奉天、吉林に於て兒童愛路祭を、六月には大連に於て愛路展覽會を開催時局の進展に伴ひ對外宣傳を活潑にした尚四月には滿洲帝國協和青少年團中央統監部の設置に依り鐵道愛護團協和青少年團は全面的に統合したが愛路地域內の青少年團としての特殊任務は鐵道防衞行動隊として一層强化されることゝなつた。

六月には朝鮮鐵道局、華北交通、華中鐵道、滿鐵等大陸鐵道關係機關を動員して滿鐵主催の下に第一回大陸鐵道愛護連絡懇談會が開催され相互連絡、協調に依て愛路運動の躍進的發展が圖られることゝなつた。

愛路運動の諸工作

愛路運動に於ける工作は大別して警備に關するものと、思想强化に關するものとに分たれる。

組織竝指導工作

愛路運動の骨組を作り運用發展せしめる部門である。（イ）愛護團の設定、警備强化（ロ）愛路指導組織の强化（ハ）愛路連絡會議（ニ）愛護團員の組織化である。

宣傳宣撫工作

凡ゆる工作に附隨して實施されるもので其の手段も簡單な口述から、映畫、演藝、ラヂオ放送、紙芝居、幻燈、唱歌、レコード、パンフレット、新聞、雜誌、ビラ、ポスター、其の他が考究され、特に各民族に對する特殊性を考慮して適切なる方法に依て居る。

イ　對內的には愛護團員の啓蒙教化宣傳に依て王道國民たる自覺を促し、時局認識に目覺しめて鐵道防護の重大性を悟らし以て自發的且積極的な愛路奉仕精神を涵養せしむ。

ロ　對外的には愛路工作の完遂は日滿朝野の理解支援に俟つところ大なるに鑑み此處に紹介宣傳の必要を生じて來る。

警備訓練竝警備工作

特に青少年層、壯年者層に働きかけ各種警備能力の附與向上に力を盡して居るが、時局柄匪賊情報網の强化、防諜、警備施設の充實も重要な工作となつて居り、鐵道保守の技術的教育とゝもに愛路指導の重點を爲して居る。

厚生工作

イ　文化指導として愛路運動會、衞生思想の普及、生活改善、陋習打破、社會教育、日語及識字教育

ロ　福祉竝産業助成として愛路功勞者の表彰、殉職者の弔慰、視察團の內外派遣、職業斡旋、日用品廉賣、厚生列車の運行、施療施藥、天災其の他の救恤、優良種苗種畜、農機具の貸與、造林、自給肥料の增産、養雞蜂、花卉、藥草其の他の副業、果樹栽培等の奬勵、産業技術指導、農畜林産品評會、産業講習會の開催、興農會の助長、農地改良開拓、共同放牧場の設置等を擧げることが出來る。

愛路運動の實績

軍警に協力

日滿軍警に協力して匪徒の討伐其の他に道案內をし、或は銃を携へて協力又は匪賊逮捕、歸順に盡力する等のことで之等は年年數千件に上りつゝあるが、特に昭和十四年度に於ては支那事變、ノモンハン事件に因る活躍を如實に示して居る。

愛路奉仕

天災乃至人爲に因る交通路の妨害、破壞等の事故發生に對して、之が妨止復舊の爲に積極的に勞力奉仕をすることであるが、其の實績も著しく大なるものがあり、延人

員數十萬人に達してゐる。

連絡

愛護團員は自村竝周圍の狀況を細大洩らさず最寄り鐵道側其の他關係機關に通報して居るが、之には匪賊情報、一般情報、鐵道通信事故、其の他通報の別がある。此の中匪賊情報は年々減少し昭和十三年度は三、六六〇件、十四年度は三、二二一件、十五年度は一、八五四件と謂ふ風に減少して居る。之に對して一般情報件數の著しい增加は愛路思想普及の事實を裏書して居ると謂へる

其の他

以上の外愛護團が產業、思想、文化の發展基地として滿洲國進展に與へた有形無形の貢獻は計り知れぬものがある。勿論農產業方面の實績は年月を閱して表面化される性質のものであるが、文盲の村民が自ら文字を書き日本語を語る時代の來るのも遠くはない。間島省に於て滿、鮮人が愛路少年團を通して美事な融和を示した事實が物語る樣に、王道建國精神が愛路運動を通じて肇國日尙淺きにも拘らず著々具現されつゝある。尙華北交通會社及華中鐵道會社に於て北支及中支建設の大きな役割を愛路工作に擔當せしめ既に滿洲と呼應して工作を開始して居るが、朝鮮鐵道局に於ても其の實績に著眼し近く全線に實施すべく計畫が進められて居る。

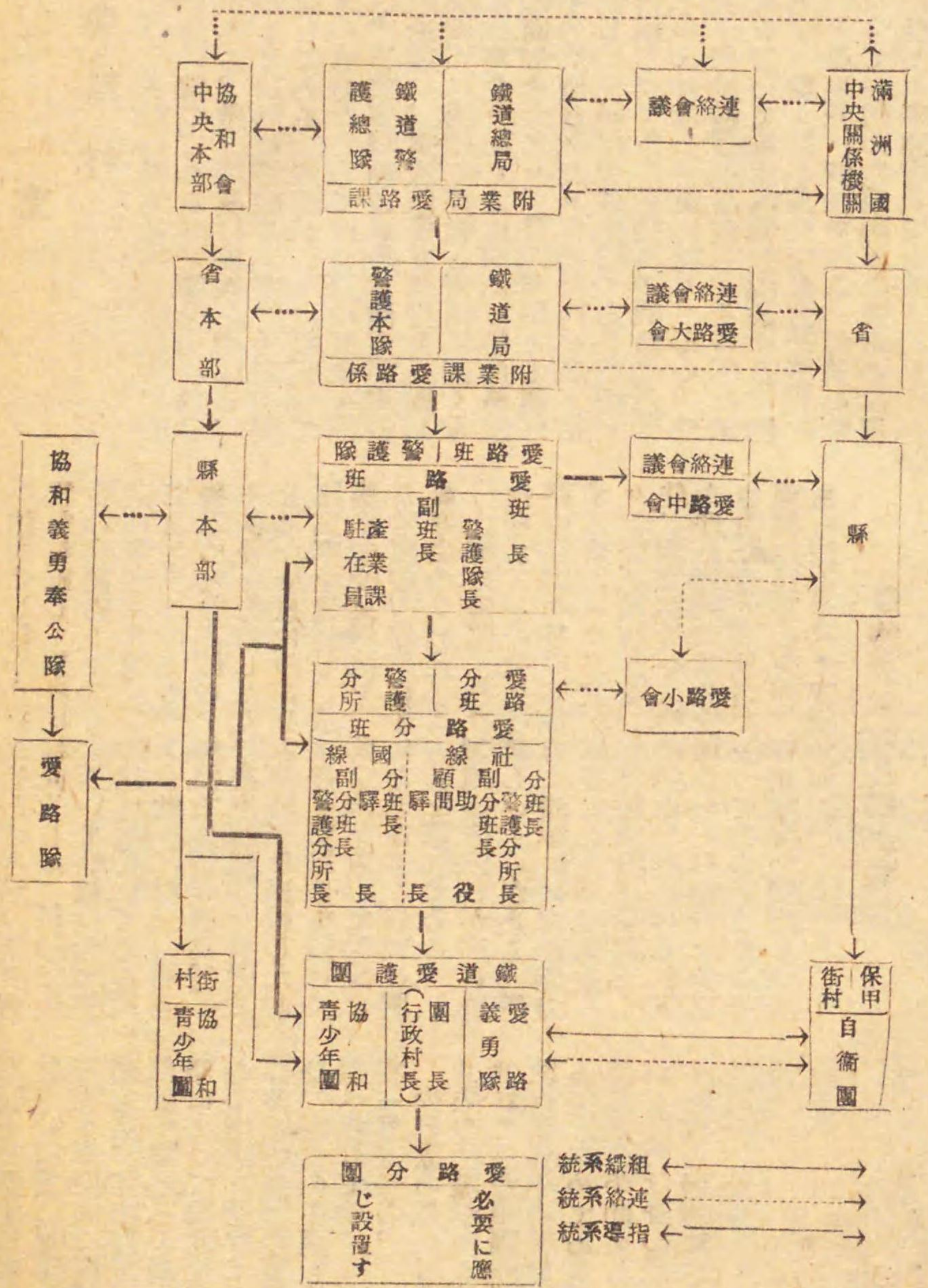
鐵道愛護團現況一覽表　（昭和十六年六月末現在）

區分／局別	愛護團數	愛護分團數	愛護團戶數	愛護團員數
奉天	一六三	一、六一〇	三三二、〇〇〇	一、九六八、〇〇〇
錦州	二〇二	一、七二四	三六二、〇〇〇	二、一一三、〇〇〇
吉林	一七一	四〇四	二四三、〇〇〇	一、五〇八、〇〇〇
牡丹江	一〇五	三六三	八七、〇〇〇	四七一、〇〇〇
哈爾濱	一五四	八四一	一三五、〇〇〇	九六七、〇〇〇
齊齊哈爾	四〇六	三四一	一三一、〇〇〇	七〇六、〇〇〇
合計	一、二〇一	五、二八三	一、三五九、〇〇〇	七、七三三、〇〇〇

鐵道愛護地域協和靑少年團竝愛路隊、愛路義勇隊現況表　（昭和十六年六月末現在）

區分／局別	愛路隊 隊數	愛路隊 隊員數	義勇隊 隊數	義勇隊 隊員數	靑年團 團數	靑年團 團員數	少年團 團數	少年團 團員數
奉天	三	二、六四五	八七	七、七三九	一〇五	九、四二八	一〇八	一三、七三〇
錦州	六	七九六	一三三	一一、三八九	一六三	一九、九六五	一六三	三一、一〇四
吉林	一七	一、〇三三	一一一	七、三三一	一五八	九、〇二八	一四〇	一六、九六五
牡丹江	七	七六三	一三五	六、六六八	七六	三、三八〇	八四	五、一八三
哈爾濱	一五	二、〇一〇	一三九	一一、九九三	一二八	三一、一三一	一二八	二七、三三九
齊齊哈爾	三二	六一三	一二〇	六、六五八	一〇八	四、七八六	一〇七	五、九八〇
合計	八〇	七、八四九	七〇四	五一、七五七	七三七	六七、五九八	七三〇	一〇一、一九〇

鐵道愛護指導組織系統表



△北支

愛路村

華北交通は多數の警務從事員を以て、交通路の保全に當つてゐるが、警備力には自ら限度がある。敵は巧みに民衆を獲得し、之を使嗾して執拗に路線の妨害、治安の攪亂を企圖してゐる。鐵道がいかに頑張つても、民衆の協力なくしては交通の萬全を期し得ない。日支事變勃發直後、滿鐵が占領地の鐵道沿線に、逐次鐵道愛護村を組織したのは、滿洲に於ける經驗と實績に基くものである。華北交通も之に學んで鐵道路線ではその兩側各十キロ、自動車路と水運路線とはその兩側各五キロの地帶内に在る村落を網羅して愛路村を設定してゐる。而して現在指導しつゝある愛路村の總數は八千箇村、その人口は三十萬に達してゐる。各村の村長は行政村長に委任し、その下に班長や戸長を置いて細胞組織を構成する。驛を中心とする數ヶ村が集つて地方愛路區を結成し、その區長は驛長である。村長の輔佐役となつて一切の指導訓練に當るのは華北交通社員たる警務段員である。

「以民護路」或は「一民愛路 萬民享福」等の標語を掲げて行はれる愛路工作は、直接には民衆自體の手によつて交通路を防衛せしむるのを目的とするが、併せて民生の利福向上を計り、延いて沿線の産業開發に資すべき遠大な理想に根ざしてゐるのである。このため交通會社は、村民の思想善導に努むる傍ら、無償で多量の優良種子や樹苗を配布したり、施療施藥班を巡回せしめたり或は廉賣品と演藝班を滿載した愛路列車を運轉し、或は農業實驗區を設けて農事の改良指導を、問事處を置いて村民の日常萬般の相談相手になるなど、村民の福祉厚生のため凡ゆる方法を盡してゐる。

之等の愛路工作は實施後未だ日が淺いに拘らず、その效果は著しいものがある。線路の巡察や警備警戒等に積極的に奉仕協力する者は一ヶ月實に八萬人に上り、過去一ヶ年間に彼等が齎した匪賊情報は一萬五千件、鐵道事故を未然に防止したもの七百五十件を算へ、華北交通からその篤行を表彰された者二千餘名に上つてゐる。これこそ現實に民路の合作、日華提携を實踐しつゝある注目すべき實績である。

愛路少年隊と婦女隊

愛路村民の先頭に立つて勇敢に活躍するのは少年隊である。十一歳から十七歳までの少年がカーキ色の制服と隊杖に身を固め颯爽と行進する様は微笑ましく頼もしい。彼等は現實に兇器を持つ敵に對抗するので訓練も軍隊式に嚴格である。匪賊情報の通報連絡、防衛作業、線路の巡察さらに手旗信號や電話器の操作などすべて用語は日本語によつて華北交通の若い警務段員から熱心な指導を受けてゐる。また餘暇には共同作業團で農業の實習を勵み、日本語を習ひ、明日の中國を擔ふべき優良な國民にと鍛へられてゆくのである。この少年隊は現在一萬五千名。

少年隊の外に村の中堅として青年隊と婦女隊の組織がある。華北交通は、因襲に促はれてゐた中國の若い女性達に、日本語を敎へ手藝や料理など女性の嗜みを深めしむるやう努めてゐるが、彼女達は進んで施療施藥班の手助をしたり施米の世話をするほか、時には身の危險をも省みず線路の巡回や敵情の通報にさへ協力する者も多い



—・錦縣の旅館・—

錦州浪速街

錦州ホテル

電話代表三三一七番

和洋室（御室料 三圓―十二圓迄
御食事 一圓以上四圓迄）

錦縣驛前

中央大街

灘屋ホテル

電話（二四五二
二八八四）

和室＝設備完全

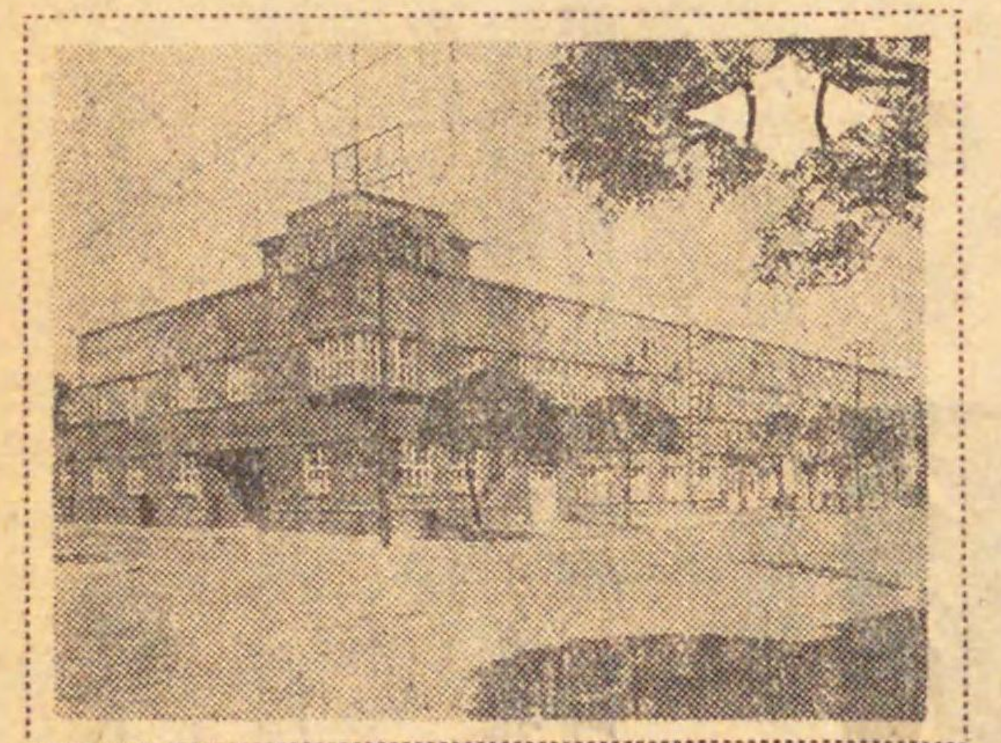
—・著名旅館・—

滿洲國撫順驛前通

御旅館

筑紫館支店

電話（二〇六四
五九二四番）



位置
驛より二丁
徒歩で五分
繁華街近く
市の中心
市中竝に炭
礦方面御用
達に御便利
御宿泊料
五圓より

ビューロー・クーポン券五圓

和室
宿泊料（五圓以上
十圓迄）

安東

富久壽美ホテル

市場通四

電話（二〇四七
二六八九）

GRAND-HOTEL, HARBIN.

ハルピン

グランド・ホテル

ホテル内にレストランあり
御食事に御利用を！

スンガリー街八

電話（二二二五・二二二六
三〇二二・三四八五）

驛名索引

（イ）この驛名索引は滿洲、北鮮、北支、中支の鐵道驛名竝電報略號を網羅したものである。

（ロ）滿洲、北鮮は日本語讀み、北支、中支は支那語讀みになつてゐる。

（ハ）讀み方は滿鐵及華北交通制定のものである。

（ニ）△印は簡易驛、○印は信號場、(△)は信號場兼簡易驛、×は信號所を示す。

滿鐵社線　マンテツ

連京線（大連—新京間）レケセ

驛名	讀み方	電略
大連	ダイレン	レン
沙河口	サカコウ	アコ
周水子	シュウスイシ	シス
南關嶺	ナンカンレイ	ナン
△鹽島	エントオ	エタ
大房身	ダイボウシン	タホ
金州	キンシュウ	キン
十三里台	ジュウサンリダイ	トミ
二十里台	ニジュウリダイ	ニリ
三十里堡	サンジュウリホ	サホ
石河	セッカ	イカ
普蘭店	フランテン	フラ
梁家	リョウカ	リカ
田家	デンカ	テカ
鄭家	テイカ	テチ
瓦房店	ガボウテン	カホ
王家	オウカ	ヲウ
得利寺	トクリジ	トク
松樹	ショウジュ	シヨ
關子	カンシ	クワ
萬家嶺	バンカレイ	マン
李劉溝	リリュウコウ	ユコ
許家屯	キョカトン	キヨ
九寨	キュウサイ	クサ
梨山	ナシヤマ	ナヤ
熊岳城	ユウガクジョウ	ユウ
蘆家屯	ロカトン	ロト
沙崗	サコウ	サコ
蓋平	ガイヘイ	カヘ
白旗	ハッキ	ハク
太平山	タイヘイザン	ヘサ
迷鎮山	メイチンザン	メチ
大石橋	ダイセキキョウ	セキ
分水	ブンスイ	フン
他山	タザン	タサ
唐王山	トウオウザン	オサ
海城	カイジョウ	カセ
南台	ナンダイ	ナタ
△甘泉舗	カンセンポ	セポ
湯崗子	トウコウシ	トコ
千山	センザン	セサ
鞍山	アンザン	アン
立山	リツザン	リツ
大樂屯	ダイラクトン	ラク
靈山	レイザン	レヤ
首山	シュザン	シユ
遼陽	リョウヨウ	レウ
太子河	タイシガ	タガ
張台子	チョウダイシ	テウ
煙台	エンダイ	エン
十里河	ジュウリカ	チリ
沙河	サカ	サカ
蘇家屯	ソカトン	ソカ
渾河	コンガ	コン
奉天	ホウテン	ホテ
文官屯	ブンカントン	フカ
虎石台	コセキダイ	
△唐三家	トウサンカ	タケ
新城子	シンジョウシ	シシ
新台子	シンダイシ	シタ
亂石山	ランセキザン	ラン
得勝台	トクショウダイ	トセ
鐵嶺	テツレイ	テツ
平頂堡	ヘイチョウホウ	ヘテ
△山頭堡	サントウホウ	トホ
中固	チュウコ	チコ
開原	カイゲン	カケ
金溝子	キンコウシ	キン
馬仲河	バチュウガ	マカ
昌圖	ショウト	セト
滿井	マンセイ	マセ
泉頭	セントウ	トウ
雙廟子	ソウビョウシ	ソヒ
楨勾子	カンコウシ	カコ
虻牛哨	ボウギュウショウ	ホウ
四平	シヘイ	シヘ
楊木林	ヨウボクリン	ヨウ
十家堡	ジッカホウ	シカ
郭家店	カクカテン	カツ
蔡家	サイカ	サイ
大楡樹	ダイユジュ	タユ
公主嶺	コウシュレイ	コウ
劉房子	リュウボウシ	リホ
陶家屯	トウカトン	トト
范家屯	ハンカトン	ハン
大屯	ダイトン	トン
孟家屯	モウカトン	モカ
南新京	ミナミシンキョウ	

新京 シンキヨウ ケウ

安奉線 (安東—蘇家屯間)アトセ

安東 アントウ アト
沙河鎭 サカチン サチ
蛤蟆塘 ハマタン ハモ
老古溝 ロウココウ ロウ
◬五龍背 ゴリユウハイ リハ
湯山城 トウサンジヨウ トサ
○高力 コウリキ カヲ
高麗門 コウライモン コラ
◬張家堡 チヨウカホウ チホ
鳳凰城 ホウオウジヨウ ホオ
四台子 ヨンダイシ ヨタ
○南干 ナンカン ナカ
鷄冠山 ケイカンザン ケカ
○小家涯 シヨウカガイ ガイ
○雞黑 ケイコク ケロ
秋木莊 シユウボクソウ アキ
劉家河 リユウカカ リユ
林家台 リンカダイ リタ
通遠堡 ツウエンポ ツエ
李家堡 リカホウ リヤ
草河口 ソウカコウ サウ
○白哈子 ハクハシ シラ
祁家堡 シカホウ シホ
○棒槌嶺 ボウツイレイ ホツ
連山關 レンザンカン レサ
○道札子 ドウサツシ ドサ
下馬塘 ゲバトウ ケハ
○金家 キンカ キカ
南坟 ナンフン ナフ
○金坑 キンコウ キナ
○孫家堡 ソンカボウ ソプ
橋頭 キヨウトウ キト
○福金 フクキン フク
宮原 ミヤノハラ ミハ
本溪湖 ホンケイコ ケコ
火連寨 カレンサイ カレ
○高家峪 コウカサイ コイ
石橋子 セツキヨウシ イシ
歪頭山 ワイトウザン ワト
姚千戸屯 チヨウセンコトン チセ
○田水 デンスイ デス
陳相屯 チンソウトン チト
吳家屯 ゴカトン クレ
蘇家屯 ソカトン ソカ

旅順線 (大連—旅順間)リシセ

大連
沙河口 サカコウ アコ
周水子 シユウスイシ シス
革鎭堡 カクチンポ クチ
夏家河子 カカカシ カカ
牧城子 ボクジヨウシ マキ
營城子 エイジヨウシ エシ
長嶺子 チヨウレイシ チレ
龍頭 リユウトウ リト
△水師營 スイシエイ スシ
旅順 リヨジユン リシ

撫順線 (渾河—撫順間)フシセ

渾河 コンガ コン
楡樹台 ユジユダイ ユタ
孤家子 コカシ カシ
△牛相屯 ギユウソウトン ウシ
深井子 シンセイシ シイ
李石寨 リセキサイ リセ
大官屯 ダイカントン タト
撫順 ブジユン フシ

營口線 (大石橋—營口間)エコセ

大石橋 ダイセツキヨウ セキ
老邊 ロウヘン ロヘ
營口 エイコウ エコ

入船線 イフセ

大連埠頭 ダイレンフトウ インフト
入船埠頭 イリフネフトウ インフト
吾妻 アヅマ アツ

甘井子線 セイセ

小崗子 シヨウコウシ セコ
南關嶺 ナンカンレイ ナレ
甘井子 カンセイシ カン
埠頭 フトウ フト

運輸連絡線 コユセ

渾河 コンガ コン
楡樹台 ユジユダイ ユタ

柳樹屯線 リウセ

大房身 ダイボウシン タホ
柳樹屯 リユウジユトン リウ

靈山線 レヤセ

首山 シユザン シユ
○靈山 レイザン レヤ

煙臺炭礦線 エンタコセ

煙台 エンダイ エン
煙台炭礦 エンダイタンコウ エンタコ

金城線 (金州—城子疃間)キンセ

金州 キンシユウ キン
金州東門 キンシユウトウモン トモ
△牛角山 ギユウカクザン ニサ
廣寧寺 コウネイジ コネ
蠶廠屯 サンシヨウトン サヨ
亮甲店 リヨウコウテン リコ
泉水屯 センスイトン セス
登沙河 トサカ トア
△棋杆底 キカンテイ キイ
杏樹屯 キヨウジユトン ケト
△宮ノ宿 ミヤノシユク ミヤ
△大劉家 ダイリユウカ タイ
淸水河 セイスイカ セイ

李家屯 リカトン リイ
貔子窩 ヒシカ ヒカ
夾心子 キヨウシンシ ケス
城子疃 ジヨウシドウ シロ

滿洲國線

奉山線 (奉天—山海關間)ホサセ

奉天 ホウテン ホテ
皇姑屯 コウコトン コト
裕國 ユウコク ユコ
馬三家 バサンカ コサ
×門台 モンダイ モウ
三台 サンダイ サダ
×前邱 ゼンキユウ マヲ
○長山子 チヨウザンシ チリ
興隆店 コウリユウテン コリ
巨流河 キヨリユウガ キリ
○高台山 コウダイサン
新民 シンミン ミン
○大黃旗 ダイオウキ オキ
柳河溝 リユウカコウ ヤナ
○石獅 セキシ ワシ
○白旗堡 ハツキホウ キホ
○方家 ハウカ ハカ
繞陽河 ジヨウヨウガ ヨカ
○袁家 エンカ サヘ
勵家 レイカ レカ
○廣隆 コウリユウ ヒセ
唐家 トウカ トオ
○西劉 セイリユウ セリ
大虎山 タイコザン タク
高山子 コウザンシ コサ
○八家 ハツカ ヤツ
青堆子 セイタイシ セタ
趙家屯 チヨウカトン テヤ
溝帮子 コウパンズ コハ
○道口 ドウコウ ドコ
羊圈子 ヨウケンシ ヨケ
石山 セキザン サテ
△闞家 カンカ カヂ
大凌河 ダイリヨウガ タリ
○桑園 ソウエン ソエ
雙羊店 ソウヨウテン ソヨ
○百股 ヒヤツコ モモ
錦縣 キンケン キケ
○桃園 トウエン モソ
女兒河 ジヨジカ ニヨ
陳家屯 チンカトン カト
高橋 コウキヨウ コキ
○甜水 テンスイ テス
塔山 トウザン トサ
○三義廟 サンギビヨウ サヒ
錦西 キンセイ キセ
○老和 ロウワ ロワ
韓家溝 カンカコウ カヤ
興城 コウジヨウ コオ
○大甸 ダイテン イテ
白廟子 ハクビヨウシ ハヒ
沙後所 サゴシヨ コシ
○望海 ボウカイ ボカ
東辛莊 トウシンソウ トソ
○小塞 シヨウサイ ヨサ
綏中 スイチユウ スチ
○江家 コウカ コカ
荒地 コウチ コチ
○網戸 アミト アミ
前衛 ゼンエイ セン
○韓黃 カンコウ カオ
高嶺 コウレイ コレ
前所 ゼンシヨ セシ
萬家屯 マンカトン マト
山海關 サンカイカン カン

大鄭線 (大虎山—鄭家屯間)タテセ

大虎山 タイコザン タク
黑山縣 コクザンケン コヤ
秦家屯 シンカトン シト
八道壕 ハチドウゴウ ヤド
芳山鎭 ホウザンチン ホチ
○青石嶺 セキセキレイ アレ
新立屯 シンリツトン シリ
十家子 ジツカシ チカ
泡子 ホウシ ホス
五峰 ゴホウ ウホ
彰武 シヨウブ フケ
馮家 ヒヨウカ ヒカ
章古台 シヨウコダイ ヒコ
阿爾郷 アジキヨウ アシ
甘旗卡 カンキカ カハ
伊胡塔 イコトウ イコ
巴胡塔 パコトウ ハコ
衙門營 ガモンエイ エモ
木里圖 モクリト モク
通遼 ツウリヨウ ツレ
錢家店 センカテン ヤテ
大林 ダイリン ダイ
大罕 タイカン タカ
門達 モンタツ モン
歐里 オウリ オリ
白市 ハクシ シロ
鄭家屯 テイカトン テト

新義線 (新立屯—義縣間)シギセ

新立屯 シンリツトン シリ
○滿有 マユ
蒼土 ソウド ツチ
大巴 タイハ イハ
沙拉 サラ サラ
○桃花 ウカ
新邱 シンキユウ シキ
東阜新 ヒガシフシン ヒフ
阜新 フシン フウ
西阜新 ニシフシン ニフ

東梁　トウリヨウ　トレ
伊瑪圖　イマト　イト
淸河門　セイカモン　セモ
李金　リキン　リキ
九道嶺　キユウドウレイ　クト
義縣　ギケン　ケン

河北線
（溝幇子—河北間）カホセ

溝幇子　コウパンズ　コハ
胡家　コカ　コヘ
盤山　バンザン　ハサ
大窪　ダイア　タワ
田莊台　デンシヨウダイ　ソタ
河北　カホク　カキ

葉峰線
（葉柏壽—赤峯間）ヨホセ

葉柏壽　ヨウハクジユ　ヨハ
沙海　サカイ　サハ
天義　テンギ　アマ
△二龍　ニリユウ　ニリ
汐子　セキシ　シジ
乃林　ナイリン　ノリ
古山　コザン　フル
熱水　ネッスイ　ネス
玉皇　ギヨクコウ　タマ
紅廟子　コウベウシ　コビ
赤峰　セキホウ　ミネ

壺蘆島線
コロセ

錦西　キンセイ　キセ
壺蘆島　コロトウ　コロ
壺蘆島埠頭　コロトウフトウ　フト

錦古線
（錦縣—古北口間）キコセ

錦縣　キンケン　キケ
薛家　セツカ　セヘ
上齊台　ジヨウサイダイ　シサ
七里河　シテリガ　リカ
泥河子　デイカシ　デイ
義縣　ギケン　ケン
周家屯　シユウカトン　シカ
上園　ジヨウエン　ソノ
南嶺　ナンレイ　ナン
金嶺寺　キンレイジ　レイ
能家　ノウガ　ノウ
金溝　キンゴウ　キヨ
朝陽　チヨウヨウ　チヨ
大營子　ダイエイシ　タエ
大平房　タイヘイボウ　ヘホ
東大道　トウダイドウ　トタ
波羅赤　ポロチ　ハラ
公營子　コウエイシ　コエ
小平房　シヨウヘイボウ　シポ
葉柏壽　ヨウハクジユ　ヨハ
紅石　コウセキ　ホン
河湯溝　カトウコウ　カエ
凌源　リヨウゲン　レケ
宋杖子　ソウジヨウシ　ソウ
水泉　スイセン　スセ
三十家　サンジツカ　ミト
老鍋　ロウカ　ロオ
楊樹嶺　ヨウジユレイ　ヨレ
平泉　ヘイセン　ヒラ
小寺溝　シヨウジコウ　シテ
上谷　ジヨウコク　ウタ
永和　エイワ　エワ
下板城　カバンジヨウ　イタ
上板城　ジヨウバン　バン
承德　シヨウトク　ネカ
△雙頭山　ソウトウザン　トザ
灤平　ランペイ　ラヒ
藍旗　ランキ　ラキ
窰溝門　ヨウコウモン　ヤモ
鞍匠　アンシヨウ　アヨ
拉海嶺　ラカイレイ　ラカ
拉海溝　ラカイコウ　ラミ
火斗山　カトザン　ヒサ
古北口　コホクコウ　ホコ

北票線
ヘヨセ

北票　ペイピヨウ　ヘヨ
駱駝營　ラクダエイ　ラタ
金嶺寺　キンレイジ　レイ

高新線
コシセ

高台山　コウダイサン　コマ
小梁山　シヨウリヨウサン　セヨ
姚堡　テヨウホウ　テホ
小東　シヨウトウ　セヒ
新立屯　シンリツトン　シリ

安南線
アナセ

安東　アントウ　アト
宮島　ミヤジマ　シマ
南安東　ミナミアントウ　ミア

奉吉線
（奉天—吉林間）ホキセ

奉天
北奉天　キタホウテン　キテ
瀋陽　シンヨウ　ヤン
東陵　トウリヨウ　トリ
舊站　キユウタン　キフ
滴台　テキダイ　テキ
撫順城　ブジユンジヨウ　フセ
前甸　ゼンデン　セテ
章黨　シヨウトウ　チト
營盤　エイバン　エハ
△元帥林　ゲンスイリン　エレ
南雜木　ナンザツボク　ナサ
蒼石　ソウセキ　サシ
南口前　ナンコウゼン　ナセ
北三家　キタサンカ　サカ
闘虎屯　トウコトン　タン
淸原　セイゲン　セケ
英額門　エイガクモン　モン
○水簾洞　スイレンドウ　スト
草市　ソウシ　ソシ
山城鎭　サンジヨウチン　サン

黒山頭　コクザントウ　クヤ
梅河口　バイカコウ　ウメ
蓮河　レンカ　レホ
海龍　カイリユウ　ウタ
朝陽鎭　チヨウヨウチン　アサ
靠山屯　コクザントン　サト
磐石　バンセキ　イワ
永寧　エイネイ　エネ
明城　メイジヨウ　メセ
烟筒山　エントウザン　エト
取柴河　シユサイカ　トシ
雙河鎭　ソウカチン　リチ
西陽　セイヨウ　ニシ
口前　コウゼン　コセ
黃旗屯　コウキトン　ウキ
北山　ペイザン　ホサ
吉林　キチリン　リン

梅輯線
（梅河口—滿浦間）バシセ

梅河口　バイカコウ　ウメ
謝家　シヤカ　ヤヤ
柳家　リユウガ　ユカ
駱腰嶺　ダヨウレイ　タヨ
五道溝　ゴドウコウ　ウト
三源浦　サンゲンポ　ミケ
通溝　ツウコウ　ツコ
干溝　カンコウ　ミソ
二密河　ニミツカ　ニカ
通化　ツウカ　ツカ
東通化　ヒガシツウカ　ヒツ
水洞　スイドウ　スト
鴨園　オウエン　アエ
鐵廠　テツシヨウ　テチ
果松　カシヨウ　カマ
石湖　セツコ　シコ
老嶺　ロウレイ　ロリ
黃柏　コウハク　キイ
陽岔　ヨウタ　ヨフ
輯安　シユウアン　ユア
滿浦　マンポ　マホ

大栗子線
（鴨園—大栗子間）タリセ

鴨園　オウエン　アエ
菰園　コエン　クエ
道淸　ドウセイ　トセ
老營　ロウエイ　ラエ
老灤　ロウカン　ロカ
渾江　コンコウ　コエ
石人　セキジン　イヒ
林子頭　リンシトウ　リス
遙林　ヨウリン　ヨリ
珍珠門　チンジユモン　チモ
○三隊　サンタイ　サヌ
花山　カザン　カザ
臨江縣　リンコウケン　リケ
望江樓　ボウコウロウ　ボコ
大栗子　ターリーヅ　タズ

平梅線
（四平—蓮河間）ヘバセ

四平　シヘイ　シヘ
平東　ヘイトウ　ヘト
哈福　ハフク　ハフ
石嶺　セキレイ　セレ
平崗　ヘイコウ　ヘコ
白泉　ハクセン　クセ
西安　セイアン　セア
渭津　イシン　ラツ
大興鎭　ダイコウチン　タチ
東豐　トウホウ　トホ
蓮河　レンカ　レホ

京圖線
（新京—圖們間）ケトセ

新京
東新京
興隆山　コウリユウサン　コリ
卡倫　カロン　カロ
龍家堡　リユウカホウ　リカ
飲馬河　インバガ　イマ
下九台　シモキユウダイ　シモ
營城　エイジヨウ　エセ
○上家　ジヨウカ　ウエ
土們嶺　トモンレイ　トモ
○左家　サカ　サエ
河灣子　カワンシ　カワ
樺皮廠　カピシヨウ　カヒ
孤店子　コテンシ　コテ
九站　キユウジヤン　キウ
哈達灣　ハアタワン　ハタ
吉林　キチリン　リン
龍潭山　リユウタンザン　リタ
○唐房　トウボウ　タヲ
江密峰　コウミツホウ　コミ
○馬尾山　バビサン　マヤ
天崗　テンコウ　カウ
○荒山　コウザン　アヤ
六道河　ロクドウガ　ロク
老爺嶺　ロウヤレイ　ロヤ
小姑家　シヨウクウジヤ　セタ
拉法　ラホウ　ラホ
○共榮　キヨウエイ　キエ
蛟河　コウガ　シカ
◬漪塘　イトウ　キト
柳樹河　リユウジユカ　リシ
◬張連　チヨウレン　テレ
二道河　ニドウカ　ニト
黃松甸　オウシヨウデン　コス
○前河　ゼンカ　ゼカ
威虎嶺　イコレイ　イコ
○大川　ダイセン　オカ
黃泥河　オウデイガ　アニ
○夾子　キヨウシ　ケズ
秋梨溝　シユウリコウ　シリ
太平嶺　タイヘイレイ　タヘ
敦化　トンクワ　トカ
○老城　ロウジヨウ　オヒ
大橋　ダイキヨウ　タキ

大石頭　ダイセキトウ　タセ
古山子　コザンシ　フス
哈爾巴嶺　ハルバレイ　ハレ
涼泉　リヨウセン　レセ
南溝　ナンコウ　ナコ
尭兵台　リヨウヘイダイ　リヘ
龍岩　リユウガン　リガ
明月溝　メイゲツコウ　メケ
樂園　ラクエン　ラソ
茶條溝　チヤヂヨウコウ　チヤ
楡樹川　ユジユセン　ユセ
老頭溝　ロウトウコウ　ロヲ
銅佛寺　ドウブツジ　トフ
朝陽川　チヨウヨウセン　テヨ
延吉　エンキチ　エキ
○湪洞　ケイドウ　ケド
磨盤山　マバンザン　マハ
○河南　カナン　ミナ
葦子溝　イシコウ　イツ
◬水禮　スイレイ　スレ
圖們　トモン　トメ

龍豐線　リホセ

龍潭山　リユウタンザン　リタ
○大長屯　ダイチヨウトン　タト
○孟家　モウカ　モカ
大豐滿　ダイホウマン　ホマ

朝開線

（朝陽川—上三峰間）テカセ

朝陽川　チヨウヨウセン　テヨ
○三峰洞　サンポウドウ　ミミ
龍井　リユウセイ　リウ
東盛湧　トウセイユウ　トユ
八道河　ハチドウカ　ハチ
懷慶街　カイケイガイ　イケ
開山屯　カイザントン　カサ
上三峰　カミサンポウ

青道線

（龍井—青道間）セドセ

龍井　リユウセイ　リウ
半在　ハンザイ　ハン
龍水坪　リユウズイヒヨウ　タス
八家子　ハツカシ　ハヤ
宮地　クワンチ　クチ
青道　セイドウ　セイ

小新連絡線　シンレラセ

小姑家　シヨウクワウジヤ　セコ
新站　シンジヤン　シン

京濱線

（新京—哈爾濱間）ケヒセ

新京
一間堡　イツケンポ　イホ
○隆泉　リユウセン　リイ
○老家　ロウカ　ラヲ
○拉屯　ラトン　ラム
米沙子　ベイサシ　ヘシ
○秀楊　シユウヨウ　ヒア
○沃皮　ヨウヒ　ヨヒ
哈拉哈　ハラハ　ハハ
○雙龍　ソウリユウ　ソリ
布海　フカイ　ホク
○虎市　コシ　トイ
○邢家　ケイカ　ケイ
德惠　トクケイ　クイ
○興莊　コウソウ　コソ
○中德　チユウトク　チウ
達家溝　タツカコウ　タチ
○廟北　ビヨウホク　メホ
老少溝　ロウシヨウコウ　ロオ
松花江　シヨウカコウ　セコ
○陳山　チンザン　チン
陶賴昭　トウライシヨウ　トラ
○老公屯　ロウコウトン　ロコ
○團山　ダンザン　タン
三岔河　サンダガ　ササ
○邱家　キユウカ　キユ
○愛里　アイリ　アリ
蔡家溝　サイカコウ　サミ
○車家　シヤカ　ヤカ
蘭稜　ランリヨウ　ラヨ
拉崗　ラコウ　ラウ
○西家　セイカ　シイ
○王富　ワウフウ　ワフ
雙城堡　ソウジヨウホ　ソホ
○安西　アンセイ　アセ
○寶城　ホウジヨウ　ホジ
五家　ゴカ　コヤ
○雙井　ソウセイ　ソセ
○望哈　ボウハ　ホハ
○照陽　シヨウヨウ　セヤ
○隆溝　リユウコウ　リミ
王崗　オウコウ　ワコ
○永發　エイハツ　エハ
顧鄉屯　コキヨウトン　コケ
哈爾濱　ハルピン　ハシ

拉濱線

（三棵樹—新站間）ラヒセ

三棵樹　サンカジユ　ミカ
○東門　トウモン　ヒメ
孫家　ソンカ　ソヤ
平房　ヘイボウ　ヘホ
周家　シユウカ　シユ
牛家　ギユウカ　ウヤ
拉林　ラリン　ラリ
背蔭河　ハイインガ　ハイ
安河　アンカ　アカ
五常　ゴジヨウ　ツネ
杜家　トカ　トヤ
山河屯　サンカトン　ヤマ
平安　ヘイアン　ヘイ
水曲柳　スイキヨクリユウ　スキ
舒蘭　ジヨラン
群嶺　グンレイ　クン
小城　シヨウジヨウ　シシ
上營　ジヨウエイ　ウエ

馬鞍山　マアンザン　マア
六家子　ロツカシ　ロシ
新站　シンジヤン　シン

濱洲線

（哈爾濱—滿洲里間）ヒシセ

哈爾濱
廟台子　ビヨウダイシ　メタ
對青山　タイセイザン　タセ
姜家　キヨウカ　ヨオ
肇東　チヨウトウ　テウ
尙家　シヨウカ　セカ
宋　ソウ　ソウ
○羊草　ヨウソウ　ヤソ
安達　アンダ　アタ
薩爾圖　サルト　サル
喇嘛甸　ラマデン　ラマ
泰康　タイコウ　ヤス
煙筒屯　エントウトン　エツ
昂々溪　コウコウケイ　ココ
富拉爾基　フラルジ　フエ
虎爾虎拉　フルフラ　フル
土爾池哈　トルチハ　ツル
碾子山　テンシザン　ニヤ
成吉思汗　ジンギスカン　チス
扎蘭屯　ジヤラントン　サツ
哈拉蘇　ハラソ　ハス
巴林　パリン　ハリ
雅魯　ヤアル　ヤル
博克圖　ブヘト　ブハ
新南關　シンナンカン　アミ
興安　コウアン　コア
伊列克得　イレクテ　クチ
烏奴耳　ウヌウル　ウヌ
免渡河　メントガ　ミヘ
牙克石　ヤケシ　ヤシ
扎羅木得　ジヤムテ　チラ
哈克　ハコク　ハコ
海拉爾　ハイラル　ハラ
烏固諾爾　ウグノール　ウノ
完工　カンコウ　ワン
赫爾洪得　ホルホンテ　ホル
嵯岡　サガン　ツア
扎來諾爾　ジヤライノール　ノル
滿洲里　マンチユウリ　マリ

濱綏線

（哈爾濱—綏芬河間）ヒスセ

哈爾濱
香坊　コウボウ　コハ
○東香芳　ヒガシコウボウ　ヒコ
成高子　セイコウシ　セイ
舍利屯　シヤリトン　エリ
阿城　アジヨウ　アシ
亞溝　アコウ　アコ
玉泉　ギヨクセン　ヨク
○白帽子　ハクボウシ　ハボ
小嶺　シヨウレイ　シリ
○小平山　シヨウヘイザン　ヘザ
平山　ヘイザン　ヒヤ
帽兒山　ボウルサン　マオ
密峰　ミツポウ　ミフ
○鈴蘭　スヾラン　スラ
小九　シヨウキユウ　シチ
烏吉密　ウジミ　ウミ
珠河　シユカ　ユホ
○馬延　バエン　ウヘ
一面波　イイメンパ　イメ
○九江泡　キユウコウホウ　クコ
○萬山　マンザン　マン
葦河　イカ　ウイ
青雲　セイウン　クモ
亞布洛泥　ヤブロニ　ヤブ
亮子嶺　リヨウシレイ　リレ
土塔河子　ドトウガシ　ツテ
冷山　レイザン　レイ
○洗馬　センバ　セバ
高嶺子　コウレイシ　コレ
○杉山　シヨウザン　スサ
○治山　ジザン　チサ
○綠水　リヨクスイ　ロス
橫道河子　オウドウカシ　ヨコ
道林　ドウリン　トリ
○柳樹　リユウジユ　リス
長嶺子　チヨウレイシ　テリ
山市　サンシ　サス
海林　カイリン　カリ
拉古　ラコ　ラル
牡丹江　ボタンコウ　ホタ
愛河　アイカ　アイ
○里土尼　リトニ　シニ
四道嶺　シドウレイ　ドレ
磨刀石　マトウセキ　マタ
○山底　サンテイ　サテ
○大觀嶺　ダイカンレイ　クワ
○山洞　サイドウ　サト
代馬溝　ダイマコウ　ヨマ
穆稜　ムウリン　ムリ
伊林　イリン　イン
下城子　カジヨウシ　シゼ
馬橋河　マキヨウガ　マホ
○青溝子　セイコウシ　セミ
○江房子　コウボウシ　コボ
○拉面河　ラメンカ　ラメ
太嶺　タイレイ　タヒ
○細嶺　サイレイ　サレ
○柞樹　サクジユ　サキ
細鱗河　サイリンカ　サリ
西綏　セイスイ　スセ
河西　カセイ　カセ
綏陽　スイヨウ　スヤ
○紅花嶺　コウカレイ　ハナ
○寬溝　カンコウ　ヒロ
綏芬河　スイフンガ　スカ

濱北線

（哈爾濱—北安間）ヒホセ

哈爾濱
濱江　ヒンコウ　ヒン

驛名	讀方	略號
三棵樹		
新松浦	シンショウホ	セホ
徐家	ジョカ	シウ
呼蘭	コラン	ホラ
馬家	マカ	ウマ
沈家	チンカ	チカ
康金井	コウキンセイ	コキ
石人城	セキジンジョウ	セニ
白奎堡	ハクケイホウ	ハチ
興隆鎭	コウリュウチン	コチ
萬發屯	マンハットン	ワハ
泥河	デイカ	ニホ
綏化	スイカ	スイ
秦家	シンカ	タヤ
四方台	シホウダイ	スハ
張維屯	チョウイトン	チイ
綏稜	スイリョウ	スレ
東邊井	トウヘンセイ	トヘ
海倫	ハイロン	ハロ
趙家	チョウカ	テヤ
海北	カイホク	ハヘ
通興	ツウコウ	ツコ
楊家	ヨウカ	ヨカ
李家	リカ	リカ
腰孫	ヨウソン	ヨソ
通北	ツウホク	ツホ
○四間房	シケンボウ	シケ
白家	ハクカ	ハク
北安	ペイアン	ホア

綏佳線 (綏化—蓮江口間)スカセ

驛名	讀方	略號
綏化	スイカ	スイ
興福	コウフク	
東津	トウシン	トツ
石尹	セキイン	イン
龍船	リュウセン	ロセ
慶城	ケイジョウ	ケセ
高老	コウロウ	カオ
田昇	デンショウ	テン
王揚	オウヨウ	オウ
鐵山包	テツザンポウ	テマ
岩手	イワテ	ワテ
石長	セキチョウ	キチ
神樹	シンジュ	ミキ
聖浪	セイロウ	セラ
○鷄嶺	ケイレイ	ケレ
○沙房	サボウ	スホ
小白	ショウハク	セハ
朗鄕	ロウキョウ	ロキ
帶嶺	タイレイ	タレ
南叉	ナンサ	ナサ
樺陽	カクヨウ	ヨウ
晨明	シンメイ	シメ
涼台	リョウダイ	リタ
浩良河	コウリョウガ	リヨ
香蘭	コウラン	ラン
老蓮	ロウレン	ハス
湯原	タウゲン	タケ
福隆	フクリュウ	フリ
望江	バウコウ	ホウ
蓮江口	レンジャンコウ	レコ

北黑線 (北安—黑河間)ホコセ

驛名	讀方	略號
北安		
二井	ニセイ	ニセ
二龍山	ニリュウザン	ニサ
訥謨爾	ノモウル	ノモ
○劉家屯	リュウカトン	リト
龍鎭	リュウチン	リチ
△尾山	ビザン	ヒサ
○三道林	サンドウリン	サド
龍門	リュウモン	リモ
向小山	コウショウザン	コサ
小興安	ショウコウアン	コオ
○阿爾泌	アルヒ	ルヒ
△腰嶺	ヨウレイ	ヨレ
淸溪	セイケイ	チケ
○堯屯	ギョウトン	ケト
孫吳	ソンゴ	ソゴ
北孫吳	キタソンゴ	タソ
額雨	ガクウ	カウ
朝水	チョウスイ	テス
璦琿	アイグン	アク
黃金子	オウゴンシ	オゴ
神武屯	ジンムトン	シム
黑河	コクカ	コカ

三棵樹埠頭線 ミカフトセ

驛名	讀方	略號
三棵樹		ミカ
三棵樹埠頭		ミカフト

香坊連絡線 キハレラセ

驛名	讀方	略號
香坊		コハ
○東門		ヒメ

東門連絡線 ヒメレラセ

驛名	讀方	略號
○東門		ヒメ
○東香坊		ヒコ

濱江線 ヒンセ

驛名	讀方	略號
哈爾濱		ハシ
濱江		ヒン
三棵樹		ミカ

哈爾濱埠頭線 ハシフトセ

驛名	讀方	略號
哈爾濱埠頭		ハシフト

道裡線 ドリセ

驛名	讀方	略號
哈爾濱		ハシ
道裡		ドリ

黑河埠頭線 ゴカフトセ

驛名	讀方	略號
黑河		コカ
黑河埠頭		ゴカフト

圖佳線 (圖們—佳木斯間)トムセ

驛名	讀方	略號
圖們	トモン	トメ
○合水	ゴウスイ	ゴス
石峴	セツケン	ケン
○河地	カチ	ワチ
三道溝	サンドウコウ	サオ
新興	シンコウ	シオ
○砂金溝	シャキンコウ	スナ
汪淸	オウセイ	オセ

驛名	讀方	略號
大興溝	ダイコウコウ	タオ
○半城子	ハンジョウシ	ハゼ
廟嶺	ビョウレイ	メウ
天橋嶺	テンキョウレイ	テハ
○天山	テンザン	テサ
○駱駝山	ラクダサン	ラタ
○石城	セキジョウ	セゼ
春陽	シュンヨウ	ハヨ
○小城溝	ショウジョウコウ	ゼコ
老廟	ロウビョウ	ラオ
○金通溝	キンツウコウ	キツ
老松嶺	ロウショウレイ	ロウ
○四道	シドウ	ヨシ
鹿道	ガドウ	カミ
○五道	ゴドウ	ゴト
斗溝子	トコウシ	トラ
馬蓮河	バレンガ	マレ
東京城	トンキンジョウ	トケ
○下馬蓮	ゲバレン	ケレ
石頭	セキトウ	セオ
蘭崗	ランコウ	ラコ
寧安	ネイアン	ネア
溫春	オンシュン	オシ
○三房	サンボウ	ミホ
海浪	カイロウ	カラ
牡丹江	ボタンコウ	ホタ
樺林	カリン	カバ
柴河	サイガ	シバ
○五度林	ゴドリン	イト
五河林	ゴカリン	ウリ
仙洞	センドウ	セド
七星	シチセイ	ナホ
寶林	ホウリン	ホリ
○綠山	リョクザン	ロザ
楚山	ソザン	ソザ
向陽	コウヨウ	コヨ
龍爪	リュウソウ	リソ
林口	リンコウ	リク
古城鎭	コジョウチン	セチ
亞河	アカ	ヤホ
青山	セイザン	アオ
虎山	コザン	ラヤ
△佛嶺	フツレイ	フレ
△通天	ツウテン	ツテ
勃利	ボツリ	ツリ
○大西		オニ
杏樹	キョウジュ	キユ
倭肯	ワイコウ	ワウ
閻家	エンカ	エカ
千振	チブリ	チフ
八虎力	ハチコリキ	ハホ
彌榮	イヤサカ	ヤサ
追分	オイワケ	オワ
長發屯	チョウハットン	チツ
佳木斯	ジャムス	ムス

興寧線 (新興—東寧間)コネセ

驛名	讀方	略號
新興	シンコウ	シオ
小汪淸	ショウオウセイ	オイ
西大坡	セイタイハ	セハ
十里坪	ジュウリヒョウ	リヒ
△廟溝	ビョウコウ	ミウ
蒼林	ソウリン	ソリ
△荒溝	コウコウ	アレ
北荒嶺	ホクコウレイ	ホレ
金蒼	キンソウ	ソオ
△豐燒	ホウショウ	トヨ
△狼溪	ロウケイ	ロケ
△黑營	コクエイ	ロイ
老黑山	ロウコクザン	ロサ
△羅圈	ラケン	ラケ
肚西	トセイ	トセ
△神洞	シンドウ	シド
城子溝	ジョウシコウ	シコ
東寧	トウネイ	トネ

虎林線 (林口—虎頭間)コリセ

驛名	讀方	略號
林口	リンコウ	リク
楊木	ヨウボク	ヨモ
奎山	ケイザン	ケヤ
麻山	マザン	マサ
△青龍	セイリュウ	セロ
△蘭嶺	ランレイ	ラレ
滴道	テキドウ	テミ
鷄西	ケイセイ	ケセ
平陽	ヘイヨウ	ヘヤ
東海	トウカイ	トミ
永安	エイアン	エア
△庄內	ショウナイ	シナ
黑台	コクダイ	クロ
連珠山	レンジュウザン	レユ
西東安	ニシトウアン	ニア
東安	トウアン	トア
斐德	ヒトク	ヒト
△興凱	コウガイ	コカ
楊崗	ヨウコウ	ヤコ
△湖北	コホク	キタ
△[illegible]溢	キサイ	テル
寶東	ホウトウ	ホト
虎林	コリン	コリ
△香鶴	コウカク	ツル
△淸和	セイカ	セワ
水克	スイコク	スコ
△月牙	ゲツガ	ツキ
虎頭	コトウ	ラト

鶴岡線 (蓮江口—鶴岡間)カコセ

驛名	讀方	略號
蓮江口		
○半截河	ハンセツ	ハキ
鶴立	カクリツ	ツト
○新華	シンクワ	シツ
峻德	シュントク	チド
○富力		フキ
鶴岡	ツルオカ	ツオ

恒山線 ゴサセ

驛名	讀方	略號
鷄西	ケイセイ	ケニ
⊕六甲	ロクコウ	コツ
恒山	コウザン	コウ

梨樹線 （下城子—梨樹鎮間）ユチセ

城子 カジョウシ シゼ
◎第二下城子 ダイニカジョウシ ニシ
△舊三道河 キュウサンドウガ サシ
八面通 ハチメンツウ ハツ
△亮子河 リョウシガ レヨ
梨樹鎮 リジュチン ユチ

梨鶏線 リケセ

梨樹鎮
石廠 セキショウ セヨ
柳毛 リュウモウ リモ
道東 ドウトウ トヒ
西鶏西 ニシケイセイ ニケ
鶏西 ケイセイ ケセ

綏寧線 （河西—東寧間）スネセ

河西 カセイ カセ
河東 カトウ カト
紫陽 シヨウ シヤ
沙洞 サドウ ドウ
道河 ドウカ ドカ
洞庭 ドウテイ ドテ
城子溝 ゼウシコウ シコ
東寧

佳木斯埠頭線 ムスフトセ

佳木斯 ムス
佳木斯埠頭 ムスフト

汪清連絡線 オセレラセ

汪清 オセ
小汪清 オイ

蓮江口埠頭線 レコフトセ

蓮江口 レコ
蓮江口埠頭 レコフトセ

齊北線 （齊々哈爾—北安間）サホセ

齊々哈爾 チ、ハル チハ
○馮屯 ヒヨウトン ヘウ
塔哈 トウハ タハ
○中和 チユウワ チワ
寧年 ネイネン ネイ
○樹林 ジユリン シリ
富海 フウカイ カイ
○新屯 シントン アラ
泰安 タイアン タア
古城 コジョウ コシ
克山 コクザン クマ
郭家 カクカ クカ
克東 コクトウ コヒ
北安 ペイアン ホア

寧霍線 （寧年—霍龍門間）ネカセ

寧年 ネイネン ネイ
江灣 コウワン コワ
拉哈 ラフオン ラハ
新安 シンアン シア
訥河 ノウホ ノホ
老萊 ロウライ ロラ
伊拉哈 イラハ イラ
八洲 ヤシマ ヤツ
鶴山 カクザン ツヤ
嫩江 フンヂヤン ノン
華峰 カホウ クワ
柏根里 パイコンリ クコ
圖泡 ケンポウ ケホ
泥秋 デイシュウ テシ
霍龍門 カクリュウモン メン

平齊線 （四平—齊々哈爾間）ヘサセ

四平
泉溝 センコウ セン
○平安堡 ヘイアンポ ヘア
八面城 ハチメンジョウ ハメ
曲家店 キョクカテン キツ
傅家屯 フカトン フチ
三江口 サンジヤンコウ ミコ
金寶屯 キンポウトン キホ
鄭家屯 テイカトン テト
○大土屯 ダイトザン タタ
臥虎屯 ガコトン ヲコ
玻離山 ハリサン ハサ
○堡石圖 ホセキト ホセ
茂林 モリン モリ
三林 サンリン サリ
保康 ホコウ ホカ
金山 キンサン キサ
豐庫 ホウコ ホコ
太平川 タイヘイセン タヒ
○干海屯 ウカイトン ウハ
邊昭 ヘンショウ ヘセ
○[illegible]家店 トウカテン トチ
開通 カイツウ イツ
○胡家店 コカテン コヤ
鴻興 コウコウ ホシ
雙崗 ソウコウ ソウ
黒水 コクスイ クミ
洮南 トウナン トナ
○穆家店 ボクカテン ムテ
白城子 ハクジョウシ ハセ
○李家店 リカテン リカ
○龍山 リュウザン リサ
鎮東 チントウ チト
○英華 エイカ エカ
東屏 トウヘイ トヘ
坦途 タント タン
街基 ガイキ カチ
泰來 タイライ タラ
五廟子 ゴビョウシ ウミ
○豆海 トウカイ トハ
江橋 コウキョウ チヤ
大興 タイコウ タシ
○湯池 トウチ タチ
三間房 サンゲンボウ サケ
楡樹屯 ユジュトン ユト

○衙門屯 ガモントン ヤト
齊々哈爾

京白線 （新京—白城子間）ケハセ

新京
小合隆 シヨウゴウリユウ シホ
萬寶山 マンポウザン マホ
華家 カカ カヤ
農安 ノウアン ノア
△柴崗 サイコウ サヲ
哈拉海 ハラハイ ハミ
王府 オウフ オフ
七家子 シチカシ シチ
前郭旗 ゼンカツキ マエ
△木頭 モクトウ ムト
新廟 シンビョウ ミヨ
△八狼 ハチロウ チロ
大賚城 タイライジョウ ライ
△兩家 リョウカ レカ
安廣 アンコウ ヒコ
來福 ライフク ラフ
舍力 シャリキ ヤリ
△到保 トウホ トウ
白城子

白阿線 白城子—阿爾山間）ハルセ

白城子
平臺 ヘイダイ ヘイ
平安鎮 ヘイアンチン アチ
索格營 サツカクエイ サク
葛根廟 カツコンビヨウ カネ
王爺廟 オウヤビヨウ ワヤ
△洮南 コナン コナ
歸流河 キリユウガ キル
△哈拉黒 ハラヘイ ラヘ
大石寨 ダイセキサ ダセ
徳伯新 トポス トス
索倫 ソロン サロ
西口 セイコウ セク
△五叉溝 ウサコウ ウサ
牛汾台 ギユウフンダイ ギフ
白狼 ハクロウ ハロ
×南興安東 ミナミコウアンヒガシ ミヒ
×南興安西 ミナミコウアンニシ ミニ
阿爾山 アルシヤン アル

溪城線 （宮原—田師付間）ケカセ

宮原
明山 メイザン メイ
△崔家 サイカ ツイ
牛心臺 ギユウシンダイ ギタ
偏嶺 ヘンレイ ヘレ
温泉寺 オンセンジ セジ
小市 シヨウシ コイ
泉水 センスイ セス
北甸 ホクデン ホク
南甸 ナンデン ナミ
田師付 デンシフ テフ

楡樹線 ユトセ

楡樹屯 ユジユトン ユト
昂々溪 コウコウケイ ココ

神山線 （神武屯—山神府間）シサセ

神武屯 ジンムトン シム
緑神 リヨクシン ロン
老水 ロウスイ ロヒ
山神府 サンシンプ サフ

阿杜線 アルセ

阿爾山
伊爾施 イル
鼠丘 ソキ
杜魯爾 トロ

渾三線 コサセ

渾江 コエ
八寶 ハホ
三岔子 サタ

北鮮線

北鮮西部線 ホセセブセ

上三峰
鐘城 ショウジョウ シヨ
嘯岩 セウガン
潼關 ドングワン トカ
水口浦 スイコウホ スホ
江陽 コウヨウ コヨ

雄羅線 ユラセ

寛谷 クワンコク
羅津 ラシン ラシ
羅津埠頭 ラシンフトウ

南羅津線 ミラセ

羅津
南羅津 ミナミラシン ミラ

北鮮東部線 ホセトブセ

南陽 ナンヤウ ナヨ
豐利 ホウリ ホリ
世仙 ゼセン セセ
穩城 オンジョウ オン
豐仁 ホウジン ホニ
黄坡 クワウハ コハ
訓戎 クンジュウ クシ
△下面 カメン カメ
慶源 ケイゲン ケケ
△農圃 ノウホ ノホ
承良 ショウラ セラ
新乾 シンカン ニイ
新阿山 シンアサン ニヒ
△松鶴 ショウカク マツ
阿吾地 アゴチ アチ
青鶴 セイカク アヲ
四會 シクワイ ヨツ
洪儀 コウギ コキ

驛名	讀方	電略
九龍坪	キユウリヨウビヨウ	クヘ
雄尙	ユウシヨウ	ユウ
雄基	ユウキ	ユキ
寬谷		
羅津		
津羅埠頭		

其他—私設鐵道

開豐鐵道（開原—西豐間）

驛名	讀方
開原	カイゲン
石家台	セツカダイ
南關	ナンカン
趙家台	チヨウカダイ
馬市堡	マシホ
威遠堡	イエンポ
龍潭	リユウタン
松樹村	シヨウジユソン
神樹	シンジユ
郜家店	コクカテン
甘溝子	カンコウシ
大慶場	タイケイジヨウ
西豐	セイホウ

開豐鐵道

驛名	讀方	電略
石家台		
南關	ナンカン	
東關	トウカン	
哈達門	ハタツモン	ハタ
馬圈子	マケンシ	バケ
大平	タイヘイ	タヘ
東廟嶺	トウビヨウレイ	ペウ

吉林鐵道線

驛名	讀方
龍潭山	リユウタンザン
新龍潭	シンリユウタン
新吉林	シンキチリン
北吉林	キタキチリン
金珠	キンシユ
烏拉街	ウルグイ

天理村鐵道

驛名	讀方
三棵樹	
阿什河	アジユウガ
大和店	ダイワテン
偏臉子	
西天理村	ニシテンリムラ
天理村	テンリムラ

東滿洲會社線

驛名	讀方	電略
訓戎	クンカイ	クシ
水灣	スイワン	スワ
英安	エイアン	ユア
琿春	コンシユン	コン
駱駝河子	ラクダガシ	ラク

錦西鐵道

驛名	讀方
錦西	キンセイ
北錦西	キタキンセイ
老邊	ロウヘン
楊家杖子	ヨウカジヨウシ

華北交通線 ホクコウ

京山幹線（北京—山海關間）ケサカセ

驛名	中國讀	電略
北京	ベイジン	ヘキ
東便門	ドンベンメン	トヘ
永定門	ユンデインメン	エモ
豐台	フオンタイ	トヨ
黃土坡	ホワントウボウ	ツチ
黃村	ホワンツン	コソ
魏善莊	ウエイシヤンチユワン	キセ
安定	アンデイ	アテ
○武家		ムケ
萬莊	ワンジユワン	マソ
○故縣		ユケ
廊坊	ランフアン	ロホ
○棗林莊		ソリ
落垡	ラオフア	ラタ
豆張莊	ドウヂヤンヂユワン	ハリ
○東州	ドンヂヨウ	ヒジ
楊村	ヤンツン	ヨソ
○漢溝鎭	ハンゴワンヂエン	カコ
北倉	ベイツアン	クラ
天津北站	テンヂンペイヂヤン	テホ
張貴莊	ヂヤングイヂユワン	キソ
中河	ヂユンホー	ウカ
軍糧城	ヂユンリヤンチヨン	クン
中心莊	ヂユンシンヂユワン	チウ
新河	シンホウ	シホ
塘沽碼頭	タングーマートウ	トク
○海灘	ハイタン	ウナ
北塘	ベイタン	ホト
○金溪河		キホ
○北河	ベイホー	ヘキ
茶淀	チヤデン	チヤ
○小莊	シヤオヂヤオ	
漢沽	ハングー	ハン
蘆台	ルータイ	ロタ
○製莊		ヒソ
田莊	デンヂユワン	テリ
○傳家		フカ
唐坊	タンフアン	トウ
胥各莊	シユイゴーヂユワン	シク
○李家		リケ
唐山	タンシヤン	ヤマ
開平	カイピン	カイ
窪里	ワーリー	アリ
古冶	グーイエ	フル
碑家店	ペイジヤデン	ヒテ
雷莊	レイヂユワン	ライ
坨子頭	トオヅトウ	ダン
灤縣	ランシエン	ラケ
朱各莊	ジユーゴーヂユワン	シソ
石龍	シールウン	セリ
安山	アンシヤン	アヤ
後封台	ホウフオンタイ	コフ
昌黎	チヤンリー	セレ
張家莊	ヂヤンヂヤヂユワン	チソ

驛名	中國讀	電略
留守營	リウシヨウイン	ルス
北戴河	ペイタイホー	ホタ
南大寺	ナンダースー	ナシ
秦皇島	チンホワンダオ	シー
龍家營	ルンヂヤイン	タツ
山海關	シヤンハイゴワン	カン

海濱線 カヒセ

驛名	中國讀	電略
北戴河		
海濱	ハイビン	カヒ

小汪莊線 シオセ

驛名	中國讀	電略
天津北站	テンジンペイジヤン	テホ
小汪莊		シオ

京古幹線（北京—古北口間）ケコカセ

驛名	中國讀	電略
東便門	ドンベンメン	トヘ
雙橋	シユワンチヤオ	ソハ
新通州	シントンヂヨウ	シツ
張辛	チヤンシン	ハル
順義	シユンイー	ジキ
懷柔	ホワイロウ	カユ
密雲	ミーユン	ミツ
小營	シヤオイン	シエ
石匣	シーシヤ	セキ
下會	シヤーホイ	ホキ
古北口	グーペイコウ	ホコ

通州線

驛名	中國讀	電略
雙橋	シユワンチヤオ	ソハ
通州	トンヂヨウ	ツウ
通州東站	トンヂヨウトンジヤン	ツト

京漢幹線（前門—新鄉間）ケカカセ

驛名	中國讀	電略
前門	チエンメン	ヘメ
西便門	シーペンメン	セヘ
跑馬場		ホマ
蘆溝橋	ルーゴウチヤオ	ロコ
長辛店	チヤンシンデン	チシ
南崗窪	ナンガンワー	ナア
良鄉	リヤンシヤン	リヨ
竇店	ドウデン	ウリ
琉璃河	リウリーホー	ルリ
永樂	ユンロー	エラ
涿縣	ヂユオシエン	タク
松林店	スンリンデン	マツ
高碑店	ガオペイテエン	コヒ
定興	デインシン	テコ
北河店	ペイホーデン	キタ
固城鎭	グーチヨンヂエン	コゼ
徐水	シユーシユイ	ジヨ
漕河	ツアオホー	ソカ
保定	パオデイン	タモ
于家莊	ユイヂヤヂユワン	ウソ
方順橋	フアンミンチヤオ	ホキ
望都	ワンドウ	ボウ
淸風店	チンフオンデン	セフ
定縣	デインシエン	テケ
寨西店	ジヤイシーデン	サセ
新樂	シンロー	シラ
東長壽	ドンチヤンシヨウ	トチ
新安	シンアン	アラ
正定	チヨンデイン	セテ
柳辛莊	リユウミンヂユワン	リソ
石門	シーメン	セモ
高遷	ガオチエン	タカ
竇嫗	ドウユイ	トユ
元氏	ユワンシー	ケシ
大陳莊	ダーチエンヂユワン	ダチ
高邑	ガオイー	コユ
鴨鴿營	ヤーゴーイン	オエ
鎭內	ヂエンネイ	チナ
馮村	フオンツン	ヒム
內邱	ネイチウ	ナキ
官莊	ゴワンヂユワン	カウ
順德	シユンドー	シト
沙河縣	シヤーホーシエン	サケ
搭褳	ダーリエン	トレ
臨洺關	リンミンゴワン	リメ
王化堡	ワンホアプー	オホ
邯鄲	ハンダン	カタ
馬頭	マートウ	マト
光祿	ゴワンルー	コロ
磁縣	ツーシエン	ジケ
雙廟	シユワンミヤオ	ソメ
豐樂	フオンロー	ホラ
彰德	ヂヤンドー	セウ
寶連寺	バオリエンスー	ホレ
湯陰	タンイン	トイ
宜溝	イーゴウ	イコ
濬縣	シユンシエン	チエ
高村橋	ガオツンチヤオ	コキ
淇縣	チーシエン	チケ
塔崗	ターガン	タウ
衛輝	ウエイホイ	エキ
潞王墳	ルーワンフエン	ロカ
新鄉	シンシヤン	シン

坨里線 タリセ

驛名	中國讀	電略
良鄉	リヤンシヤン	リヨ
坨里	トーリー	タリ

周口店線 ウコセ

驛名	中國讀	電略
琉璃河	リウリーホー	ルリ
濟陽	ヂーヤン	ヤウ
周口店	ヂヨウコウデン	ウコ

西陵線 セリコ

驛名	中國讀	電略
高碑店	ガオペイデン	コヒ
淶水	ライシユイ	ラス
易縣	イーシエン	エケ

保定南站線 ホナセ

驛名	中國讀	電略
保定	パオデイン	タモ
保定南站	パオデインナンヂヤン	ホナ

六河溝線 ロクセ

驛名	中國讀	電略
豐樂	フオンロー	ホラ

六河溝　リュウホーゴウ　ロク

西廣連絡線　セコレラセ

西便門　シーベンメン　セヘ
廣安門　ゴアンアンメン　コア

新開線　（新鄉—開封間）シカセ

新鄉　シンシャン　シン
小冀　シャオヂー　シキ
呂庄　リューヂュワン　ロセ
陽武　ヤンウー　ヨフ
太平　ダーピン　タヒ
齊亦集　チーイーヂー　セシ
荊隆宮　ヂンルングン　ケミ
大馬庄　ダーマーヂュワン　タマ
開封　カイフォン　カフ

豐長連絡線　ホチレラセ

豐台　フォンタイ　トヨ
長辛店　チャンシンデン　チシ

津浦幹線　（天津—蚌埠間）シホカセ

天津北站　テンジンペイジャン　テホ
天津西站　テンジンシージャン　テセ
楊柳青　ヤンリュウチン　ヤセ
良王莊　リャンワンヂュワン　レオ
獨流　ドウリウ　トリ
靜海　ヂンハイ　シズ
陳官屯　チェンゴワントン　チト
唐官屯　タンゴワントン　タン
馬廠　マーチャン　ウマ
青縣　チンシエン　アオ
興濟　シンヂー　シエ
姚官屯　ヤオゴワントン　トウ
滄縣　ツァンシエン　サウ
磚河　ヂュワンホー　セン
馮家口　フォンヂャコウ　ヒヨ
泊頭　ボオトウ　ハク
南霞口　ナンシャコウ　ミナ
東光　ドンゴワン　トコ
連鎭　リエンヂエン　レチ
安陵　アンリン　アレ
桑園　サンユワン　リエ
德縣　ドーシエン　トケ
黃河涯　ホワンホーヤー　コカ
平源　ピンユワン　ヘケ
張莊　ヂャンヂュワン　テウ
禹城　ユイチョン　ウシ
晏城　イエンチョン　アセ
桑梓店　サンヅーデン　サテ
濼口　ローコウ　ラク
濟南　ヂナン　サナ
白馬山　バイマーシャン　ハマ
黨家莊　ダンヂャヂュワン　トカ
崮山　グーシャン　コヤ
張夏　ヂャンシャ　ナツ
萬德　ワンドー　マン
界首　ジエショウ　カシ
泰安　タイアン　タア
東北堡　ドンペイプ　トホ
大汶口　ダーウエンコウ　ダコ
東大平　ドンダーピン　ヒタ
南村　ナンツン　ミム
吳村　ウーツン　クレ
曲阜　チュイフー　キフ
兗州　イエンヂョウ　エシ
○程家莊　テカ
鄒縣　ゾウシエン　スカ
兩下店　リャンシャデン　レカ
界河　ジーエーホー　カカ
滕縣　トンシエン　タイ
南沙河　ナンジャホー　ナサ
官橋　ゴワンチャオ　カキ
臨城　リンチョン　リセ
沙溝　シャゴウ　サコ
韓莊　ハンヂュワン　ハソ
利國　リーゴー　リコ
柳泉　リユウチユワン　リウ
茅村　マオツン　ホソ
徐州　シュイジョウ　シユ
三舖　サンプー　サホ
曹村　ツアオツン　ソウ
夾溝　チャゴウ　キコ
李家莊　リーヂャヂュワン　リキ
符離集　フーリーヂー　フリ
宿縣　シュシエン　ヤケ
西寺坡　シースーボー　セジ
任橋　レンチャオ　ニキ
固鎭　グーヂエン　コチ
新馬橋　シンマーチャオ　シマ
曹老集　ツアオラオヂー　ソロ
蚌埠　パンフー

赤柴線　アシセ

東大平　ドンダーピン　ヒタ
華豐　ホアフォン　ハホ
樓德　ロウドー　ロト
赤柴　チーチャイ　アシ

濟寧線　サネセ

兗州
孫氏店　スンシーデン　マゴ
濟寧　ヂーニン　サネ

臨趙線　（臨城—趙墩間）リテセ

臨城　リンチョン　リセ
山家林　シャンジャリン　ヤハ
鄒塢　ゾウウ　スウ
齊村　チーツン　サム
棗莊　ザオヂュワン　ソソ
嶧縣　イーシエン　イセ
泥溝　ニーゴウ　ドロ
台兒莊　タイアルヂュワン　タシ
台兒莊南站　タイアルヂュワンナンジャン　タナ
車輻山　チョオフーシャン　フヤ
宿羊山　スウヤンシャン　ヤヤ

趙墩　チャオドン　テト

膠濟幹線　（青島—濟南間）コサタセ

青島　チンダオ　セト
大港　ダーガン　オミ
青島埠頭　チンダオフートウ　チフ
○沙嶺莊　シャソンヂュワン　レソ
滄口　ツァンコウ　ソコ
女姑口　ニューグーコウ　ニコ
城陽　チョンヤン　ゼヨ
南泉　ナンチュワン　ナセ
藍村　ランソン　ラン
李哥莊　リーゴーヂュワン　リカ
膠東　ヂャオドン　ヌト
膠縣　ヂャオシエン　コケ
芝蘭莊　ヂーランヂュワン　シバ
姚哥莊　ヤオゴーヂュワン　トソ
高密　ガオミー　コミ
康家莊　カンヂャヂュワン　ヤカ
蔡家塔　ツアイヂャター　サカ
塔耳堡　ターアルプ　トア
丈嶺　チャンリン　ジレ
山　ゾオシャン　サク
黃旗堡　ホワンチープー　キキ
南流　ナンリュウ　ナリ
蝦蟆屯　シャーマートン　カト
坊子　ファンヅ　ホシ
二十里堡　アルシーリープ　ニリ
濰縣　ウエイシエン　イケ
大圩河　ダーユイホー　タユ
朱劉店　ヂュリウデン　リユ
昌樂　チャンロー　セラ
堯溝　ヤオゴウ　ヤコ
譚家坊　タンヂャファ　タハ
楊家莊　ヤンヂャヂュワン　ヨカ
益都　イードウ　エト
普通　プートン　フツ
淄河店　ヅーホーデン　ツテ
辛店　シンデン　シミ
金嶺　チンリン　キレ
湖田　ホーテン　コテ
張店　ヂャンデン　チテ
馬尙　マーシャン　パシ
周村　ジョウツン　ムラ
大臨池　ダーリンチ　リン
王村　ワンツン　オソ
普集　プーヂー　フシ
明水　ミンスウヰ　メス
棗園寺　ザオユワンスー　ソテ
龍山　ルンシャン　リサ
郭店　ゴーデン　カミ
歷城　リーチョン　レキ
黃台　ホワンタイ　コタ
北關　ペイゴワン　ヘカ
濟南

坊子炭坑線　ホシタコセ

坊子　ホシ
坊子炭礦　ホシタコ

鐵山線　テサセ

金嶺　ヂンリン　キレ
鐵山　テーシャン　テサ

博山線　（張店—博山間）ハサセ

張店　ヂャンデン　チテ
南定　ナンディン　ナテ
淄川　ヅーヂュワン　ツセ
大崑崙　ダークンルン　タロ
博山　ボーシャン　ハサ

黌山線　ホヤセ

淄川　ヅーヂュワン　ツセ
黌山　ホワンシャン　ホヤ

黃臺橋線　コハセ

黃台　ホワンタイ　コタ
黃台橋　ホワンタイチャオ　コハ

京包幹線　（豐臺—包頭間）ケホカセ

豐台　フォンタイ　トヨ
廣安門　ゴアンアンメン　コア
西直門　シーヂーメン　セチ
清華園　チンホアユワン　セイ
清河　チンホー　カワ
沙河鎭　シャーホーヂエン　サチ
昌平　チャンピン　セヒ
南口　ナンコウ　ナコ
○東園　ドンユワン　トノ
居庸關　ヂュイユンゴワン　イヨ
○三堡　サンプー　ミホ
靑龍橋　チンルンチャオ　セハ
西發子　シーポーヅ　ハツ
康莊　カンヂュワン　ヤス
懷來　ホワイライ　カラ
土木　トームー　トム
沙城　シャーチョン　サジ
新保安　シンパオアン　シア
下花園　シャホアユワン　シタ
辛莊子　シンヂュワンヅ　ソシ
宣化　シュワンホア　セク
沙嶺子　シャーリンヅ　サレ
寧遠　ニンユワン　ネエ
張家口　ヂャンジャコウ　チカ
孔家莊　クンヂャヂュワン　オカ
郭磊莊　ゴーレイヂュワン　ラソ
柴溝堡　チャイゴウプー　サオ
萬安　ワンアン　マア
西灣堡　シーワンプ　シワ
永嘉堡　ユンヂャプ　エホ
天鎭　テンヂエン　テチ
羅文皂　ロウエンザオ　ロフ
陽高　ヤンガオ　ヨオ
王官屯　ワンゴワントン　オト
聚樂堡　ジュイロープ　ユラ

驛名	讀方	略號
周士莊	ヂヨウシーヂユワン	シウ
大同	ダートン	タト
孤山	グーシヤン	コサ
保子灣	プーヅワン	ホワ
豐鎮	フオンヂエン	ホチ
新安莊	シンアンヂユワン	アア
永王莊	ユンワンヂユワン	エオ
紅砂壩	ホンシヤーバー	コウ
官村	ゴワンツン	カソ
蘇集	スーヂー	スチ
平地泉	ピンデイチユワン	ヘチ
三岔口	サンチヤコウ	サフ
八蘇木	バースーム	ヤソ
十八台	シバータイ	トヤ
馬蓋圖	マーガイト	マカ
卓資山	ヂユオヅシヤン	タサ
義豐村	イーフオンツン	ギホ
福生莊	フーシヨウヂユワン	フク
三道營	サンダオイン	サエ
旗下營	チーシヤーイン	ハタ
陶卜齊	タオブーチー	トサ
白塔	バイター	ハト
厚和	ホウホー	コワ

驛名	讀方	略號
臺閣牧	タイゴームー	ダイ
畢克齊	ピーコーチー	キヨ
察素齊	チヤースーチー	サス
陶思浩	タオスーハオ	トオ
麥達召	マイダーヂヤオ	マタ
薩拉齊	サーラーチー	サラ
公積坂	クンチーパン	コセ
鄧口	ドンコウ	トン
包頭	パオトウ	ホオ

環城線 リテセ

驛名	讀方	略號
東便門	ドンペンメン	トヘ
朝陽門	チヤオヤンメン	チメ
東直門	トンヂイメン	トメ
安定門	アンデインメン	アメ
德勝門	ドーシヨンメン	トモ
西直門	シーヂーメン	セチ

大臺線（西直門—大臺間）ダタセ

驛名	讀方	略號
西直門	シーヂーメン	セチ
西黃村	シーホワンツン	ニソ
石景山	シーヂンジヤン	イヤ
三家店	サンジヤデン	サヤ
門頭溝	メントウゴウ	モト
色樹坟	スオシユフエン	イフ
淸水澗	チンシユイチエン	キス
大台	ダータイ	ダタ

同蒲幹線（大同—風陵渡口間）トホカセ

驛名	讀方	略號
大同	ダートン	タト
平旺	ピンワン	ヘイ
韓家嶺	ハンヂヤーリン	カレ
里八莊	リーバーヂユワン	リハ
懷仁	ホワイレン	カニ
宋家莊	スンヂヤーヂユワン	ソヤ
尙希莊	シヤンシーヂユワン	ナオ
北周莊	ペイヂヨウヂユワン	ヘシ
岱岳	タイユエ	タガ
楡林	ユイリン	ユリ
神頭	シエントウ	カア
朔縣	シユオシエン	サツ
前寨	チエンヂヤイ	マエ
梨園	リーユワン	エン

驛名	讀方	略號
陽方口	ヤンフアンコウ	ヨホ
寧武	ニンウー	ネフ
段家嶺	ドワンヂヤリン	タレ
長珍	チヤンヂエン	チケ
軒崗	シユワンガン	ケコ
沙峪	シヤユイ	シム
大牛店	ダーニウユン	タニ
原平	ユアンピン	ケヘ
忻口	シンコウ	キン
播明	ボオミン	ハメ
忻縣	シンシエン	キケ
豆羅	ドウロー	トラ
平社	ピンシオ	ヘヤ
高村	ガオツン	タム
黃寨	ホワンジヤイ	ホサ
皇后園	ホワンホウユワン	コエ
太原北站	タイユワンペイヂヤン	タヘ
太原	タイユワン	タケ
北營西站	ペイインシーヂヤン	ホニ
鳴李西站	ミンリーシーヂヤン	メセ
榆次	ユイツー	ユシ
修文	シウウエン	シフ
東陽	ドンヤン	ヨチ
北陽	ペイヤン	ホヨ

驛名	讀方	略號
太谷	タイグー	タヤ
東觀	ドンゴワン	ヒカ
祁縣	チーシエン	シカ
洪善	ホンシヤン	ホシ
平遙	ピンヤオ	ヘヨ
張蘭	ヂヤンラン	チラ
義安	イーアン	キア
介休	ヂエンシウ	キユ
義棠	イータン	ギト
兩渡	リヤンドー	レト
靈石	リンシー	レセ
許家店	シユイヂヤデン	キヤ
富家灘	フーヂヤタン	トミ
南關	ナンゴワン	ナカ
什林	シーリン	ジリ
霍縣	ホーシエン	ホケ
辛置	シンヂー	オク
趙城	ヂヤオチヨン	テシ
洪洞	ホンドン	コド
甘亭	ガンテイン	アマ
臨汾	リンフエン	リフ
張禮	ヂヤンリー	テレ
	ヂヤオチユイ	
史村	シーツン	シサ

驛名	讀方	略號
柴莊	チヤイヂユワン	サン
高顯	ガオシエン	ケン
侯馬	ホウマー	コマ
禮元	リーユワン	レケ
東鎮	ドンヂエン	ヒチ
聞喜	ウエンシー	フキ
水頭	シユイドウ	スト
牛坡	ヤンポー	ハム
安邑	アンイー	アユ
運城	ユンチヨン	ウセ
解縣	ヂエシエン	カケ
董村	ドンツン	ドソ
虞鄉	ユイシヤン	クコ
趙伊	ヂヤオイー	チイ
蒲州	プーヂヨウ	ホユ
韓陽		カヨ
風陵		フレ
風陵渡口		フコ

口泉線 クチセ

驛名	讀方	略號
平旺	ピンワン	ヘイ
口泉	コウチユワン	タチ

陽明堡線 ヨメセ

驛名	讀方	略號
原平	ユンピアン	ケヘ

驛名	讀方	略號
淳縣	シンシエン	チケ

甲子灣線（忻縣—河邊間）コシセ

驛名	讀方	略號
忻縣	シンシエン	キケ
北義井	ペイイーヂン	ホセ
定襄	デインシヤン	テゼ
蔣村	ジヤンツン	セム
河邊	ホーペン	ホヘ

白家莊線（太原—白家莊間）ハイセ

驛名	讀方	略號
太原	タイユワン	タケ
太原北站	タイユワンペイジヤン	タヘ
○大北門	タイペンメン	キモ
王門溝	ワンメンゴウ	オモ
白家莊	ハイジヤヂユワン	ハイ

西銘線 セメセ

驛名	讀方	略號
王門溝	ワンメンゴウ	オモ
西銘	シーミン	セメ

汾陽線（汾陽—平遙間）フヨセ

驛名	讀方	略號
汾陽	フエンヤン	フヨ
白石	バイシー	シイ
寧固	ニングー	ネコ
平遙	ピンヤオ	ヘヨ

東潞線（東觀—潞安間）トロセ

驛名	讀方	略號
東觀	ドンゴワン	ヒカ
子洪	ヅーホン	スコ
盤陀	パントオ	ハダ
來遠	ライユワンラ	エ
南關鎮	ナンゴワンヂエン	
×分水嶺	フエンシユイリン	
南溝村	ナンゴワンツン	
×牛寺	ニユースー	
漳源	ヂヤンユワン	
固亦	グーイー	
沁縣	シンシエン	
×新店	シンデン	
虎亭	フーテイン	
夏店	シヤーデン	
東周	ドンヂヨウ	
×常村	チヤンツン	
＼呈史	チヨンシー	
潞安	ルーアン	

石太幹線（石門—太原間）セタカセ

驛名	讀方	略號
石門	シーメン	
大郭	ダーゴー	ダカ
獲鹿	ホールー	カロ
頭泉	トウチユワン	トセ
○下安	シヤーアン	ケア
上安	シヤンアン	ウア
岩峰	イエンフオン	カホ
微水	ウエイシユイ	ヒス
南河頭	ナンホートウ	ナト
南張村	ナンジヤンツン	ナソ
井陘	ヂンシン	セケ
北峪	ベイユイ	ヘユ
南峪	ナンユイ	ナユ
娘子關	ニヤンヅーゴワン	ロシ
程家	チヨンヂヤ	テヤ
下盤石	シヤーパンシー	ハセ
岩會	イエンホイ	イワ
亂流	ランリユウ	ラリ
白羊墅	パイヤンシユー	ハヨ
陽泉	ヤンチユワン	ヨセ
賽魚	サイユイ	サユ
坡頭	ボオトウ	ハア
測石	ツオシー	ソク
芹泉	チンチユワン	チセ
壽陽	シヨウヤン	ヂユ
馬首	マーシヨウ	マシ
上湖	シヤンホーウ	ウエ
蘆家莊	ルーヂヤヂユワン	ロソ
段延	ドワンテイン	ダン
東趙	トンヂヤオ	トテ
北合流	ペイホーリウ	ホリ
榆次	ユイツー	ユシ
鳴李	ミンリー	メリ
北營	ペイイー	ホク
太原	タイユワン	タヘ

井陘炭礦線 セケタコセ

驛名	讀方	略號
微水	ウエイシユイ	ヒス
南正	ナンヂヨン	ナン
井陘炭礦	ヂンシンタンコワン	セケタコ

鳳山線 ホウセ

驛名	讀方	略號
南張村	ナンジヤンツン	ナソ
鳳山		ホウ

石德線
(石門—德縣間)

石門 シーメン
藁城 ガオチョン
晉縣 ヂンシエン
辛集 シンヂー
束鹿 シュールー
前磨頭 チエンモオトウ
衡水 ホーシュイ
龍華 ルンホア
德縣 ドーシエン

隴海幹線
(連雲—開封間)ロカカセ

連雲碼頭 リエンユンマートウ レウ
墟溝 シュイゴウ キゴ
新村 シンツン アム
鹽坨 イエントー ユタ
新浦 シンプー アホ
海州 ハイジョウ ハユ
東海 ドンハイ トハ
白塔埠 バイターフー ハフ
曹浦 ツアオプー ソホ
牛山 ニウシャン ニサ
阿湖 アイホー アコ
徐塘莊 シュイタンヂュワン ジト
新安鎭 シンアンヂエン アチ
瓦窰 ワーヤオ ワク
草橋 ツアオチャオ クハ
炮車 パオチョオ ホヲ
運河 ユンホー ウン
趙墩 ヂャオドン テド
碾莊 ニエンヂュワン ニチ
八義集 パーイーヂー ヤキ
大許家 ダーシュイヂャ タキ
大廟 ダーミヤオ タメ
大湖 ダーホー タコ
徐州 シュイジョウ シユ
徐州北站 シュイジョウベイジャン シヘ
夾河寨 ヂャホーヂャイ キサ
郝寨 ハオヂャイ カサ
楊樓 ヤンロー ヨロ
黃口 ホワンコウ コロ
李莊 リーヂュワン リチ
碭山 ダンシャン エサ
揚集 ヤンヂー ヤシ
劉堤圈 リウティイヂュワン リテ
馬牧集 マームーヂー マモ
張閣莊 ヂャンゴーヂュワン チコ
商邱 シャンチウ セヨ
小壩 シャオパー セワ
柳河 リウホー ヤナ
明縣 ミンシエン ミケ
野雞崗 イエヂーガン ノケ
內黃 ネイホワン ナホ
蘭村 ランフォン ラフ
羅王 ローワン ラワ
興隆 ミンルン シロ
開封 カイフォン カフ

大浦線
(大浦—東海間)タホセ

大浦碼頭 ダープーマートウ タホ
新浦 シンプー アホ
海州 ハイジョウ ハユ
東海 ドンハイ トハ

道淸幹線
(新鄕—淸化間)トセカセ

新鄕 シンシャンシャン シン
遊家墳 ユウジャフェン ユカ
大召營 ダーヂャオイン セエ
獲嘉 ホーヂャ ホカ
獅子營 シーヅーイン スエ
修武 シウウー シブ
待王 ダイワン タオ
李河 リーホー リオ
焦作 ヂャオヅオ セサ
李封 リーフォン リイ
常口 チャンコウ ツネ
柏山 ボーシャン ハヤ
淸化 チンホア チホ

新鄕線
シンセ

遊家墳 ユカ
新鄕 シン

華中鐵道線
カチウセ

海南線
(上海—南京間)

驛名	中國讀	電略
上海	シャンハイ	ヘイ
麥根路	マクヌル	
眞如	チエンルウ	ニヨ
南翔	ナヌシアン	ナセ
黃渡	ホアント	コト
安亭	アヌテン	アテ
天福菴	テエヌクアヌ	テフ
陸家濱	ルチアピヌ	リカ
靑陽港	チンヤンカン	セヨ
崑山	クオヌシャヌ	コン
正儀	チョンイ	セエ
唯亭	ウエイテン	イテ
外跨塘	ワイコワタン	トウ
官瀆里	クワヌトウリ	カン
蘇州	スウチョウ	ソシ
滸墅關	フシュコワヌ	コカ
望亭	ワンテン	ホテ
周涇巷	チョウチンシアン	シケ
東無錫	トンウウシ	ヒム
無錫	ウシ	ムク
石塘灣	シタンワヌ	セト
洛社	ロシヨ	ラク
橫林	ホンリヌ	オリ
戚墅堰	チシユヱヌ	ゼキ
常州	チャンチョウ	シウ
新閘	シヌチヤ	シサ
奔牛	ペヌニユウ	ホン

驛名	中國讀	電略
呂城	リヰチヨン	ロシ
陵口	リンコオウ	リコ
丹陽	タヌヤン	タヨ
新豐	シヌフオン	シホ
渣澤	チヤツオ	サタ
南鎭江	ナヌチエヌチアン	ミチ
鎭江	チエヌチアン	チコ
高資	カオツ	コシ
橋頭	チアオトウ	キト
下蜀	シヤシユ	カク
龍潭	ロンタヌ	リタ
棲霞山	チシアシヤヌ	セカ
堯化門	ヤオホアムヌ	ケモ
太平門	タイピンムヌ	タイ
和平門	ホピンムヌ	ワヘ
南京	ナヌチン	ナン

海南支線

鎭江 チエヌチアン
鎭江江邊 チエヌチアンピエヌ

海南支線

龍潭 ロンタヌ リタ
南龍潭 ナヌロンタヌ

海南支線

南京 ナヌチン ナン
南京江邊 ナヌチンチヤンピエヌ

呉淞線
(上海—砲臺灣棧橋間)

上海 シヤンハイ ハイ
天通庵 テエヌトンアヌ テン
江灣 チヤンワヌ ワン
興亞路 シンアル オア
高境廟 カオチンミヤオ コヒ
年家宅 ニヱヌチヤヂヤイ
張華濱 チヤンホアピヌ チヒ
南呉淞 ナヌウスン ミウ
蘊藻濱 ニヌツアオピヌ
北呉淞 ペイウスン キス
砲臺灣 パオタイワヌ ホウ
砲臺灣棧橋 パオタイワヌチヤヌチアオ

呉淞支線

年家宅 ニエヌチヤチヤイ
呉淞 ウスン

呉淞支線

年家宅
飯田棧橋 ファヌテエヌチヤヌチヤオ

海杭線
(上海—閘口間)

上海
西上海 シシヤンハイ ニシ
徐家滙 シユイチヤホオエ カエ
新龍華 シヌロンホワ シリ
梅隴 メイロン ハロ
莘莊 シヌチヨワン シソ
新橋 シヌチアオ シキ
明星橋 ミンシンチヤオ ミウ
松江 ソンチアン シヨ
石湖蕩 シフタン セコ
楓涇 ホンチン フケ
嘉善 チアシヤン カセ
七星橋 チシンチヤオ シチ
嘉興 チヤシン カコ
王店 ワヌテエヌ オテ
硤石 シアシ キセ
斜橋 シエチアオ シヤ
周王廟 チヨウワンミアオ シヒ
長安 チヤンアヌ チア
許村 シユイツヌ ソン
臨平 リヌピン リヘ
筧橋 チエヌチアオ ケン
艮山門 クヌシアヌムヌ コモ
杭州 ハンチヨウ コウ
南星橋 ナヌシンチアオ
閘口 チアコオウ

海杭支線

新龍華 シヌロンホワ
龍華 ロンホワ
南上海 ナヌシアンハイ

海杭支線

艮山門 クヌシアヌムヌ
拱宸橋 ホンチエヌチアオ

蘇嘉線
(蘇州—嘉興間)

蘇州 スチヨウ ソシ
相門 シアンムヌ ソモ
呉江 ウチアン ココ
八坼 パチヨ ハツ
平望 ピンワン ヘホ
盛澤 シヨンツオ セイ
王江涇 ワンチアンチン オコ
嘉興 チアシン カコ

南寧線
(南京—孫家埠間)

南京 ナヌチン ナン
三牌樓 サヌパイロオ サン
丁家橋 テンチアチアオ チカ
鼓樓 クロオ コロ
成賢街 チヨンシエヌチエ セケ
維新 ウエイシヌ イシ
白下路 パイシアルウ ハカ
武定門 ウテンムヌ フテ
中華門 チヨンホアムヌ チモ
板橋 パヌチアオ ハン
江寧 チヤンニン コネ
銅井 トンチン トセ
慈湖 ツフ シコ
馬鞍山 マアヌシヤヌ ハア
采石 サアイシ サイ
當塗 タントウ トト
大橋 タチアオ タキ
蕪湖 ウフ コフ
東蕪湖 トンウウフ ヒフ
可子口 コオツコウ カシ
竹絲港 チユスカンチ チク
繆家莊 ニユウチヤチオワン ヒカ
灣沚 ワヌチ ワシ

◇鐵道用語

△車輛
機關車、動車、客車及貨車の四種

△小車
車輛に含まず（手押ツロリー、ハンドカー、モーターツロリー等

△鐵道線路
本線とは常に列車の運轉に使用する軌道、側線とは本線でない軌道

△軌道
床枕木軌條及其部分品から成り車輛の通路を謂ふ。

△列車
停車場外の本線路を進行する目的で仕立てたる車輛又は車輛列を謂ふ

△信號所
停車場に含まない、手動の常置信號機を取扱ふため設けた場所で通常複線區間に設けてある。

△簡易驛
列車を停車せしめ便宜上旅客の乘降を取扱ふ場所で普通電車停留所の設備をなす。

△停車場
驛とは列車を停車せしめ、旅客又は荷物を取扱ふ爲設けられた場所

△機關車の種類

種類	記號	速度（粁時）
アメリカンタイプ	アメ	一一〇
テンホイラー	テホ	一一〇
パシフヰック	パシ	一一〇
ダブルエンダータンク	ダブ	七〇
コンソリデーション	ソリ	七〇
ミカド	ミカ	七〇
マウレテン	マテイ	八五
デカポット	デカ	七〇
プレリー	プレ	六〇
重油機關車	ジキ	六〇
エトホヰールスヰッチャー	エト	五〇
電氣機關車	デキ	五〇

奉天の旅館

◇感じが良くてサービス本位◇



奉天のお宿は！

滿洲ホテル

奉天驛前…徒歩で三分
各方面御用達に御
便利、
客室は和洋何れも設備
完全
電話は各室に備付て御
座います。
室料三圓半より七圓迄
宿泊料五圓半より九圓迄

奉天驛前（浪速通）
電話③二三三四番

御會食、汽車お待合
せに亦お家族お揃ひ
是非御立寄り下さい
氣持ちの好い靜かな
ホールと新鮮吟味の
和洋各種料理はキッ
トお氣に召します。

滿洲グリル

奉天て喫茶と輕い御食事は！

各方面へ御用達に便利第一の旅館
皆樣の御利用をお待ち申して居ります

撫順行日歸り…總局バス發着所

奉天
日滿ホテル

驛前大通―千代田通四〇號
代表電話三―七一一六番
（奉天驛より徒歩で十分間
馬路灣バス停留場前）

・客室；和洋室共近代的に完備
・室料；三圓以上八圓迄
・御食事；朝食一圓より夕食三圓迄
・グリル；和洋料理御注文調理

親切第一

奉天驛前（裏通）

千芳旅館（チヨシ）

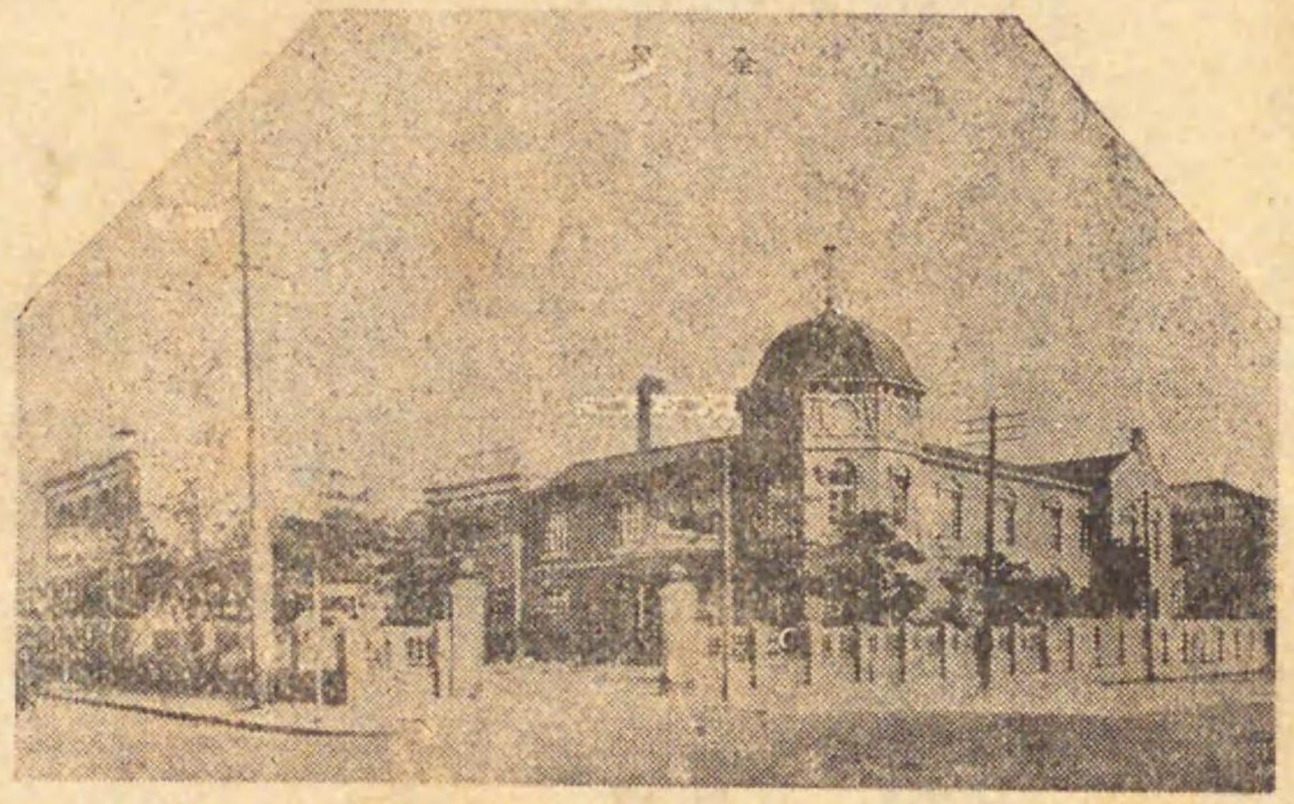
御用達、交通至便

宿料
四圓半ヨリ

電3・3781

奉天の旅館

…創業明治三十八年…



…設備最新…

位置
琴平町一二
市の中心
奉天驛より
三分（自動車）

客室は
和洋兩式

御室料
（朝食付）
六圓―二十圓迄

ツーリスト
ビューロー
指定

クーポン料金
八圓・十圓
（夕・朝食付）

奉天
瀋陽館

代表電話（三）四七一七
五回線

奉天
江の島館

室料 和室（三圓半以上
四圓半迄）

江の島町・市場通角
三中井百貨店裏門前
電話 三―三七八三

奉天驛前
常盤旅館

電話（三）二五八四番

・弊館は驛の正面
・各方面御用達便利
・宿泊料五圓より（和室）

觀光事業機關



◇滿洲觀光委員會（國務院總務廳弘報處內）

【趣旨】滿洲國及關東州に於ける觀光事業諸機關を整備統制して內外旅行者の便を圖ると共に滿洲國及四圍の情勢の宣傳等により國策の遂行を期す。

【組織】（一）在滿各機關觀光事業關係者を以て組織し事務所を國務院總務廳弘報處內に置く（二）委員長一委員若干名を以て組織（三）委員長は國務院總務廳次長を充て委員は委員長之を委囑（四）幹事長一名、幹事若干名を置き委員長之を委囑

【機能】（一）本委員會は觀光機關の整備、觀光事業の統制指導に關する事項等を審議決定す（二）本委員會は滿洲觀光聯盟を指導し、其決議事項は該聯盟をして之を實施せしむるものとす。

委員長　松木侠
幹事長　武藤富男

◇滿洲觀光聯盟（鐵道總局旅客課內）

【創立】康德四年三月

【沿革】康德四年三月滿洲觀光委員會の事業機關として誕生し漸次各地の觀光協會を加盟せしめ觀光施設、接遇、對內外宣傳、觀光觀念の普及と觀光事業に關する情報の蒐集交換、聯盟報の發行、他團體との連絡强調等に力を致し、漸次本事業の統制發達を促進して今日に至る。現在加盟團體は大連、旅順、奉天、鐵嶺、撫順、新京、吉林、哈爾濱、安東、承德、錦州、東滿、齊々哈爾、鞍山の各觀光協會である。

【役員】

顧問
東亞旅行社滿洲支部長　伊澤道雄
鐵道總局營業局長　足立長三
滿洲弘報協會理事長　森田久
滿洲醫科大學敎授　黑田源次
滿洲映畫協會常務理事　林顯藏

理事長
滿洲鐵道總局旅客課長　野間口英喜

理事兼評議員
大連市副市長　菊地璋三
旅順市長　細川瀞
奉天市官房庶務科長　渥美洋
安東商工公會會長　瀨之口藤太郎
新京商工公會會長　石崎廣治郎
吉林商工公會會長　河野喜作
哈爾濱市庶務科長　石尾英文
奉天鐵道局營業課長　後藤雅
錦州鐵道局營業課長　小谷重一
吉林鐵道局營業課長　後藤進一
齊々哈爾鐵道局營業課長　長谷川銀一
哈爾濱鐵道局營業課長　望月龍
牡丹江鐵道局營業課長　中村亨
北滿江運局運輸課長　中村博
鐵道總局旅館課長　鈴村勝利
鐵道總局弘報課長　芝田研三
鐵道總局弘報課　長島高春
滿鐵本社總裁室弘報課　山內利之
同　中山一郎

評議員
大連市長　別宮秀夫
奉天市長　鄭禹
安東市長　阿川幸壽
新京特別市長　金銘世
吉林市長　路之澄
承德街長　李葆堂
哈爾濱市長　趙震
錦州市長　袁恰篪
撫順市長　鯉沼兵士郎
鐵嶺副市長　齋藤直友

幹事
鐵道總局旅客課　佐藤眞美
鐵道總局旅客課　佐藤彥治郎
東亞旅行社滿洲支部事業課長　北條保平

【昭和十五年度事業】△國際觀光宣傳强化と外人接遇改善座談會新京に開催（一月）△産業叢書『觀鹽の話』發行（一月）△第二回非常時客荷輸送訓練旬間參加（一月）△聯盟報月刊となる（一月）△第五回滿洲觀光聯盟總會奉天に開催（三月）△寫眞帳『滿洲』刊行（三月）△伯國フレイタス・バラニョス氏に便宜供與（三月―四月）△春のハイキングコース第一回分として大連、奉天、新京、哈爾濱近郊を選定發表（三月）△南米智利の三教授招聘（三月）△作家中谷孝雄、青柳優雨氏招聘（五月）△第二回觀光週間開く（六月）△中華民國教員團十九名招聘（六月）△第三回懸賞募集「滿洲觀光寫眞」發表（八月）

◇大連觀光協會（大連市役所内 案内所連鎖街）

【創　立】昭和十年十月二十二日

【沿　革】日滿支の中心に位する大連港の重要性と風光明媚なる海濱幽邃閑雅なる山野を有し、四季を通じて觀光に惠まれた好適地大連が頻繁なる旅客に對し何等之が斡旋機關なきを以て昭和十年十月二十二日本會を設立し、會長に市長、小川順之助氏を推し同十一月市長更迭に伴ひ丸茂藤平氏就任、同十四年五月三度現市長別宮秀夫と更迭現在に及ぶ。

【役　員】▲會長 別宮秀夫、▲副會長芹藤定、貝瀨謙吾、田中稔、▲理事森川莊吉、笠原博、長永養正、山岡信夫、安田柾、伊藤格、乘杉壽慶、森岡謹一郎、芝田研三、折田有信、山下樵曹、前島純夫、米野豐實、張本政、周承武、許儒年、▲幹事高山謹一、山口義人、山内利之、吉池孝平、具足冨一、早川正雄、白石繁雄、笠岡久夫、春日兼三郎、高本吉郎、樋室健一、白川淳、野間口正人、中村常太郎、千住政次郎、氏野久夫、後藤辰雄、森岡俊介

◇旅順觀光協會（旅順市役所内）

【沿　革】昭和十年十二月創立、同十四年五月高山會長辭任、蟻川市長後任に就任十五年現會長と更迭現在に至る。

【役　員】▲會長細川清▲副會長溝田敏男▲常務理事牧島喜一郎、▲理事高山勝司、宮竹淸介、清水幸男、中井新太郎、久保田晴雄、磯田信之助、水野豐、小山光記、伴野英二、▲幹事伊比忠三郎

【昭和十五年度事業】八月戰跡寫眞懸賞募集宣傳實施、九月、日滿兒童に對し觀光觀念普及實施、旅順戰跡徒歩見學團募集實施、觀光事業功勞者表彰

◇關東州戰跡保存會（旅順民政署内）

關東州内に在る主として明治三十七八年戰役に於ける戰跡の保存、顯彰に任じてゐる。本會は此等戰跡に關する一切の相談、見學團體に對する案内說明の依賴に應じ、精確なる史實を後世に傳へ、併せて國民精神の昂揚に努めて居る。

▲會長　關東州廳長官　▲主事　伴野英二

【昭和十五年度事業】（一）水師營會見追憶會（一月五日記念日）（二）大孤山―石板溝（二八珊榴砲陣地）―東鷄冠山北堡壘ハイキング（五月）（三）聖火夜（二〇三高地に於て篝を燃し露營す、八月）（四）歷戰者現地講演（二〇三高地の殊勳者陸軍大佐堀越千秋氏を東京より招聘、十月）（五）二龍山堡壘、東鷄冠山北堡壘、盤龍山東堡壘、二〇三高地の戰跡を明瞭ならしむる諸工事（四月―十一月）

【其　他】戰跡ハイキングに便するため左記に說明板を建設せり。

（イ）二龍山堡壘、（ロ）盤龍山東堡壘、（ハ）白襷隊の夜襲せし松樹山、補備砲台、（ニ）椅子山堡壘、（ホ）攻城山、（ヘ）露軍戰歿將兵墓地、（ト）柳樹房乃木將軍駐營地、（チ）第九師團の奮戰せし凹字形山、（リ）普蘭店鐵道爆破位置。

◇鞍山觀光協會（鞍山市公署内）

【沿　革】新興滿洲國の大原動力をなす昭和製鋼所と一連の重工業ブロックを擁する鐵都鞍山市は、産業上の重要性と全滿一の稱ある靜閑幽韻の靈境千山を始めとし、千古の謎を秘めて湧出する湯崗子、七嶺子溫泉、戰跡首山堡或は心身の鍛練道場として相應しき東南方の丘陵地帶等天與の觀光資源に惠まれたる鞍山市も、未だ觀光斡旋の機關なく、市民の要望切なるものあるに

鑑み、觀光協會の設立を計畫、康德七年三月十三日、第一回發起人會を開催、同年七月十五日社團法人認可申請を民生部に提出、八月十三日附を以つて認可を得、事務所を市公署内に置き、觀光資源開發と觀光客の誘致宣傳に努めつゝあり。

【役　員】▲會長、鞍山市長島崎庸一、▲常務理事、鞍山市公署庶務科長岡崎日本雄、▲理事櫻井修（鞍山驛長）角田輝二（東亞旅行社主任）宮崎惣平、（協和會鞍山市本部事務長）隈野光世、（昭和製鋼所總務部庶務課長）高野氣次郎、（奉南交通株式會社專務）平尾康雄、（鞍山商工公會常務理事）三宅玉次郎（鞍山旅館業組合長）趙靜泉（鞍山市諮議員）▲主事 天野謙（鞍山市公署主事）

【昭和十五年度事業】（イ）驛前鞍山觀光案内板の新設、（ロ）鞍山都市美寫眞展、（ハ）繪ハガキ「鞍山」第一輯作製並賣出、（ニ）千山秋季祈禱祭湯茶接待、（ホ）土産品展及即賣會、（ヘ）戰跡ハイキング、（ト）觀光寫眞展、（チ）觀光座談會

◇奉天觀光協會（奉天市公署内・案内所 浪速通三中井百貨店内）

【沿　革】滿洲國に於て商工業並交通機關の重要性と觀光資源に惠まれたる奉天市に於て觀光斡旋機關なきが故に昭和十年五月創立され、事務所を商工公會内に置き觀光客誘致接遇斡旋に力を致して居つたが、昭和十三年奉天市公署勸業科内に事務所を移し、專ら事業の宣傳に努力した結果、驚異的な發展を示すに至り昭和十四年六月、奉天驛前浪速通角に案内所を設立した。更に昭和十六年一月事務所を市公署官房庶務科に移し、同年八月には業務擴充のため驛前案内所を三中井百貨店一階に移轉し、以來今日に至る。

【役　員】▲會長鄭禹（奉天市長）、▲副會長多田晃（同副市長）、石田武亥（奉天商工公會長）、▲常務理事遲美洋（奉天市官房庶務科長）、▲理事中村猛省、田村十一、小林德三、芝田研三、野間口英喜、衞藤利夫、周文英、後藤推、宮城調明、山田增次郎、鈴木俊久、森眞三郎、竹原博、武宮豐治、武山茂雄、丸山辰巳、平野長秀、山脇金五郎、岸田正次郎、大竹孝助、野中忠太、古森謙爾、中原守雄、石田晃、野坂謙次、岡安長太郎、洪淳文、▲監事加藤治雄、肥田耕三、▲幹事酒井昇、越智竹市、石畑一登、古賀卯右衞門、山縣實、▲主事緒方彌吉

【昭和十五年度事業】（一）觀光バス券代賣、（二）北陵、東陵參拜入門證發行、（三）旅館從業員講習會、（四）奉天日露戰跡巡拜團實施、（五）東陵撫順見學團實施、（六）植樹祭、（北陵公園に苗木五百本植樹）、（七）鐵嶺ハイキング團實施、（八）宮殿下御來奉ヤマトホテルに於て土産品を陳列台覽に供す、（九）大連旅順見學團實施、（一〇）元帥林ハイク團實施、（十一）橋頭ハイク團實施、（十二）東陵ハイク團實施、（十三）第二回大連見學團實施、（十四）奉祝紀元二千六百年鐵嶺煙火大會參加團實施、（十五）法庫觀光視察ハイク團實施、（十六）日本主要都市訪滿視察團懇談會開催、（十七）滿洲觀光聯盟美術展開催、（十八）第一回觀光週間、第一日、健康ハイク、第二日、觀光座談會及戰跡寫眞懸賞審査會、第三日、草分人奉天今昔を語る集會、第四日、滿洲事變戰跡巡り、第五日、接客從事員講習會及接客從事員功勞者表彰式、第六日、接客從事員講演會、第七日、講演と映畫の夕、（十九）海軍士官候補生視察團案内、（二〇）鐵嶺ハイクと成吉思汗料理試食會、（二一）千山ハイク團實施、（二二）鐵嶺ハイク團實施

◇撫順觀光協會（撫順市公署内・案内所―驛前中央大街二）

【沿　革】炭都として有名な撫順は大連奉天、新京、哈爾濱に次ぐ大都市にして、撫順炭礦を始め多數の重要會社あり、人口二十八萬を擁する新興滿洲屈指の重工業都市であるが、又自然美にも惠まれてゐる。即ち悠々として流れる運河に沿ひて永安、新屯の各公園其他戰跡、古跡、觀光頗る多く、觀光客も年八萬餘を數へ、逐年增加の傾向にある。依つて元撫順縣長小袋牛藏氏等大いに努力され、元增田市長外有志を計らひ、康德六年三月二十五日發會式を擧げ現在は戰時下に於ける觀光協會の使命として「觀光厚生」に一意邁進してゐる。

【役員】▲會長鯉沼兵士郎（市長）、副會長坂口遼（炭礦庶務課長）、中島右仲（商工公會副會長）、和氣幹雄（副縣長）、▲理事大野義雄（炭礦秘書主任）、窪田利平（撫順新報社長）、胡承祿（副市長）、田中善三（撫順驛長）、豐井長二（東亞旅行社主任）、森口直次郎（商店聯合會長）、濱田起世次（市公署庶務科長）、松本善二（奉天交通株式會社撫順營業所長）、森山環（商工公會常務理事）、今泉豐太郎（警務處特務科長）、▲常任幹事梅太正太郎（市公署庶務股長）、▲幹事有山時吉、蒲生濱二、佐々木一雄、隅田順吉、照井淺治郎、氏原義一、▲主事金丸信太郎、▲顧問、評議員省略、柏葉勇一（警務處長）、渡邊三三（圖書館長）、朽木忠雄（協和會市本部事務長）

【昭和十五年度事業】（一）ハイキングコース竝觀光ルート設定、（二）接客係觀光案內講習、（三）土產品座談會、（四）案內板設置、（五）ラヂオ放送、（六）カメラハイク竝撫順名所寫眞募集、（七）東陵北陵觀光團實施、（八）撫順人の撫順觀光、（九）觀光映畫公開、（十）觀光祭、（十一）飾窓競技會、（十二）大池ボートレース、（十三）キャンプ祭、（十四）海濱聚落、（十五）納涼大會、（十六）撫順史蹟巡り、（十七）老虎台スキー場觀光竝競技會、（十八）模範接客從事員表彰等。

◇本溪湖觀光協會（商工公會內）

【創立】昭和十四年五月三十一日

【沿革】太子河遊覽地を持つ會として誕生、昭和十二年四月二十八日觀光協會と改稱、事業範圍を擴大し、爾來太子河を中心とする風光、古蹟の宣傳と外客誘致に努めつゝあり。

【役員】▲會長宮崎小三郎 ▲副會長王源峯

◇安東觀光協會（安東市公署內）

【創立】康德三年十一月

【沿革】天與の山容水姿と傳統の文化習俗を保存補强し廣く內外人を誘致して民力の涵養と國富の增進に努め、國境地帶としての特殊性に全力を傾注しつゝある本會は昭和四年大連新聞社の滿洲八景公選に際して安東鎭江山が其第一位に當選せる翌五年「外客誘致委員會」を創設、康德元年之を安東景勝委員會と改稱して常に外來客の誘致と接遇に努めて來たが、治外法權の一部撤廢と共に同三年十一月安東觀光協會と改組し今日に至り、組織は全市民を會員として市公署、商工公會の補助金と事業益金を以て經費に充て臨時事業は一部寄附金を以て行ふ。

【役員】▲會長安東市長阿川幸壽 ▲副會長張文明、商工公會長瀨之口藤太郎、同副會長孔憲明 ▲主事安池田武男

【昭和十五年度事業】（一）年中行事分、（イ）鎭江山花見、（ロ）九連城河水浴場開設、（ハ）ハイキング團數回實施、（ニ）ラヂオ放送により安東紹介、（二）繼續事業、（イ）安鳳地區國立公園候補地實地踏查竝實現促進運動、（ロ）九連城聖地計畫具體案作製、（三）新規事業、（イ）日滿學童による街路樹保護運動、（ロ）滿系學童の鄕土風景風俗圖畫を日本へ贈る、（ハ）商工公會共同安東音頭を作製レコード頒布、（ニ）チ、ハルより鵜匠を招び鴨河にて試驗、（ホ）繪ハカキ作製頒布。

◇營口觀光協會（營口商工公會內）

【創立】康德五年七月

【役員】▲會長張諒 ▲副會長內田孝、坂井審則 ▲常務理事河野繁 ▲事務擔當營口商工公會

【昭和十五年度事業】（一）第三回雁鴨狩獵大會（三月十日於海城縣老櫃頭竝大高坎、參加六八名）

（二）遼河祭（八月十九日於營口稅關構內及遼河沖參加三、〇〇〇名）

（三）第一回沙魚釣大會（九月二十九日於蓋平縣四道溝及營蓋鹽田參加一八九名）

◇錦州觀光協會（富和街錦州市公署內）

【沿革】遼西產業界の中心的古都たる錦州を內外に廣く紹介せんがため、昭和十二年四月以來商工會議所竝錦鐵等相寄り數次の協議會又は設立準備委員會を經て昭和十三年二月發會式を擧ぐるに到り、役員も夫々決定して事務所を市公署內に置くこと

となつた。

【役員】▲會長錦州市長 ▲副會長曾根市商工公會副會長、錦鐵營業課長 ▲理事錦州市庶務科長（常任）、錦縣驛長、錦鐵旅客係長、商工公會常務理事滿航支所長、東亞旅行社主任、旅館組合長 ▲幹事錦州市庶務股長（常任）外六名 ▲評議員七名

◇承德觀光協會（承德街公所內）

【創立】昭和十一年九月

【沿革】康德三年五月十日承德十日會の協議事項に上程され、熱河事情研究所長高田成志氏外五名の委員を擧げ協會結成に着手、同七月十日會に於て趣意書規定案を討議し、十日會の觀光協會結成案を完成す。

同十五日官民合同に依る承德觀光協會設立座談會を開催し、李縣長を委員長とする設立委員會成立。

爾後數回に亘る委員會を經て九月十五日名譽會長に原總務廳長、會長に李縣長、副會長に岡田氏、常任理事に高田所長推薦され南營子舊承德劇場に於て結成式を擧げ、事務所を西大街承德居留民會內に置く。

康德四年十一月居留民會解散となるに及び一時ツーリストビューロー內に事務所を移せるが、役員改正に伴ひ康德六年二月舊民會跡商工公會に事務所を移し、次で康德六年八月承德街公所內に移し今日に至る。

【役員】▲會長、承德商工公會長 ▲副會長承德街公所副街長 ▲理事、承德旅館組合長、協和會熱河省本部事務長、省公署土木科長、省公署社會科長、承德縣副縣長、街長、警察廳長、稅關長、警務課長、承德商工公會常務理事、承德自動車區長、承德國際觀光局主任、滿洲航空會社承德支所長、承德縣公署街村所股長、滿洲電業公司承德支所長、熱河新報社長、國通支局長、熱河事情研究所長水野清次、安川巳代吉、日滿旅館組合長、中央銀行支行長、興業銀行支行長、承德石油販賣株式會社支配人、國際運輸株式會社承德出張所長、日滿料理店組合長、日滿飲食店組合長、承德驛長 ▲主事 島圭馬

【昭和十五年度事業】（一）地元民に觀光地承德を認識せしむ二回、（二）團體接待法打合座談會二回、（三）熱河を語る講演會三回、（四）接客座談會三回、（五）接客方法改善座談會二回、（六）接客讀本配布、（七）觀光承德を語る座談會三回、（八）駱駝遊覽の實施、（九）灤河下り、（十）喇嘛踊開催、（十一）淸音會開催、（十二）土產物を語る座談會、（十三）承德鳥瞰圖作製、（十四）寫眞繪ハカキ作製、（十五）第一回觀光週間實施等。

◇鐵嶺觀光協會（鐵嶺市公署內）

【沿革】元龍首山景勝維持會は縣公署滿鐵等の協力に依り商工會議所がその運用に當り觀光施設其他紹介宣傳に相當の效果を擧げて來たが、康德四年十二月事務運用一切を市公署に移管、翌年五月同會を解散し、單に龍首山のみならず鐵嶺縣下は勿論法庫、康平縣等背後の名勝をも紹介すべく同年六月二十二日遂に本會の設立を見るに至れり。爾來商工公會に事務所を置き專ら觀光コースの調査選定、案內書の作製、遂海山スキー場の施設、西貝河其他狩獵地の宣傳、張家樓子、日露戰跡保存紹介等に努力して來た。

【役員】▲會長齋藤直友（鐵嶺市副市長）▲副會長紀藤義也（鐵嶺商工公會長）、王者貴（鐵嶺市諮議會員）、▲常務理事高尾進（市庶務科長）、鹿野鶴治（鐵嶺驛長）、大住尙三（鐵嶺商工公會常務理事）、野口三郎（鐵嶺滿日支局長）

【昭和十五年度事業】（一）全滿競獵大會（二）張家樓子戰跡參拜、（三）スキー場登山道路築造、（四）龍首山植樹、（五）觀光座談會講演及映畫の夕、（六）煙火大會、（七）鐵嶺紹介放送。

目下龍首山上の茶屋及驛前土產品賣店を經營すべく計畫中。

◇四平景勝維持會（商工公會內）

【沿革】市の東方約二里半の行程に「半拉山門」なる風媚中央滿洲に於て稀に見る景勝地あり。而も此の地たるや、柳邊西十三門の一にして、遺跡儼存し、その山頂は能く蒙古平原を一眸に遙望す、仍ちこの

景勝を顯揚し、古跡を維持せしめんが爲に康德五年六月末會を設立せるものにして、新京奉天間に於ける有力なる觀光地たらしめんことを期す。創立康德五年六月。

【役員】▲會長伊藤新八、▲理事小川義鷹、二木桂三郎、天野東、小名木勳

【昭和十五年度事業】地域が吉林省境にあるため、施設に種々困難はあつたが、四平省の設置決定と共に、遺跡の保護、景勝の設備、觀光客の誘致に一大躍進をみるべく、市の西南五里餘にある喇嘛關教寺の祕佛紹介、雄大なる流「三江口」の紹介を加へた觀光ルートの設定等、近く觀光協會を設くべき機運を釀成しつゝある。

◇新京觀光協會(新京驛降車口前)

【沿革】康德三年六月三日、新京特別市實業懇談會に於てビューロー、驛、滿洲事情案內所、旅館組合其他代表者に依つて準備委員會を開いた結果、官民有志七十餘名の參集者を得、八月二十五日創立總會を開くに至つた。康德五年事務所を現在の處に設け漸次事務員を增加して現在に至る。

【役員】▲會長金名世(市長)、▲副市長石崎廣治郎、(商工公會副會長)、王莉山(商工公會副會長)▲常務理事樋尾信次(市公署庶務課長)、舟田清一郎(協和會首都本部事務長)、▲專務理事 細川虎太郎、▲主事田上伊平

【昭和十五年度事業】(一)滿洲觀光ホテル株式會社創立に關し全面的斡旋、大阪商船會社三百五十萬圓出資、三月二十一日兒玉公園前に地鎭祭を擧行、(二)國都のペスト禍と車輛不足にもかゝはらず觀光バス客四萬三千八百二十六名を算し昭和十四年度三萬九千六十八名に比し約五千名の增加、之に土產部其他の利用者を加へて十五萬乃至二十萬人と推定される國都觀光客の誘致宣傳、斡旋、(三)「新京の栞」一萬部印刷配布、(四)「新京觀光地圖」一萬部印刷配布、(五)「新京繪ハカキ」五千部印刷配布、(六)サービス座談會、(七)模範接客從事員表彰、(八)第三回土產品々評會、(八)第一回觀光週間、(イ)觀光寫眞展、(ロ、記念スタンプ展、(ハ)新京郊外ハイキング、(ニ)觀光標語募集、(ホ)日滿兒童綴方作品募集、(ヘ)日滿觀光映畫の夕等、觀光寫眞展、記念スタンプ展は會期六日間入場八萬二千九百六十六名を數へた。(九)旅館女中其他接客關係者の觀光バス試乘會、(十)觀光寫眞懸賞募集、(十一)カメラハイキング等々。

◇吉林觀光協會(吉林驛前)

【沿革】康德二年二月二十六日創立され、豐かなる觀光資源と國都に近き有利なる地位を把握し、全滿唯一の鵜飼事業を吉林旅館組合より繼承した。康德五年六月事務所を市公署より商工公會內に移轉し、更に現驛前協會案內所內に移したが、施設內容漸次强化せられて、今日に及んでゐる。又百六十萬人包擁の都市計畫と水電ダム完成に伴ふ大工業地設定の計畫は着々進捗しつゝあり、殊に豐滿ダム地域一帶は新觀光地として登場、大いに之が紹介宣傳に努めてゐる。

尙本年六月琵琶湖より若鮎三萬匹を天崗に放流新保健地の宣傳保育に力を致し、北山に五萬圓を投じて觀光亭を開設、松花江の守護神江神廟再建、北山ヒュッテ改築、觀光バス增車等最近各方面に多彩なる活動をしてゐる。

目下協會內土產品陳列所は資本金十萬圓を以て設立された滿洲物品振興會に賣店を直營せしめてゐる。

【役員】▲會長路市長 ▲副會長井口副市長 河野商工公會長 ▲常任理事松本市庶務課長 ▲主事安彥光藏

【昭和十五年度事業】(一、天崗の若鮎放流、(二)鵜飼、(三)北山觀光亭經營、(四)江神廟再建立、(五)水電ダム國立公園設立運動、(六)京吉電鐵實現運動、(七)驛構內電氣廣告塔建設、(八)大觀光美術展開催。

◇東邊道觀光協會(通化商工公會內)

【沿革】曾て匪賊の巢窟たりし東邊道

一帶も、建國十年の今日に於ては治安全く恢復し、王道の光普く、往年の面目を一新するに至つたが、昭和十六年七月通化省に於ては官民打つて一丸とする强力なる東邊道觀光協會の設立、躍進東邊道の實狀紹介に重要なる役割を果すことゝなつた。

無盡藏とまで稱せられる豐富な地下資源と、國立公園の有力候補地たる白頭山、老嶺、龍崗等の大小支脈、松花江、鴨綠江等の大河と之が凡白の支流を擁し、奇勝、絕景の至るところに存在する大自然美地帶の中心通化に觀光協會の設立をみたるは、誠に時宜に適したるものと云ふべきである。

【役員】▲會長、中島俊雄(通化省次長)▲副會長、郤芳齡(通化省商工公會長)、同、高田千秋(通化縣副縣長)、同、馬場彰(東邊道開發會社二道溝建設局長)、▲其他顧問十六名、理事五六名、常務理事七名、監事二名。

◇哈爾濱觀光協會(中央大街二〇號)

【沿革】觀光客の斡旋は從來當地の東亞旅行社に於て行はれて來た處であるが、康德三年末觀光事業に對する滿洲國の國策が確立し、之に響應して各都市自治機關も民間と協力して觀光事業に手を染めるに至つた。本協會も哈爾濱市公署と民間各機關の努力により康德四年三月創立を見るに至り、最初市公署內に事務所を開設したが事業の發展に鑑み翌年現在の場所に移轉するに至つた。

【役員】▲會長哈爾濱市長趙霞 ▲副會長哈爾濱副市長山口民治、商工公會副會長加藤明 ▲常務理事市公署庶務科長石尾英文、哈鐵旅客係長大越兵司、哈爾濱商工公會業務處長岡掛照治、哈爾濱驛長宮中政五郎、哈爾濱交通會社支配人市川幸八

【昭和十五年度事業】(一)點滅式電氣市內案內板建設、(二)東洋一(經三尺)記念大スタンプ作製、(三)接客業者懇談會、(四)同サービス講習會、(五)松花江煙火大會、(六)ロシア料理店觀光亭の經營、(七)パンフレット「北滿の雄都ハルピン」出版、(八)觀光バス乘車券發賣、(九)市內自働車及バス乘車券發賣、(十)ロシア式市內廣告塔經營、(十一)優良ポーター表彰、(十二)觀光寫眞製作、(十三)土產品の創案助成(露人)、(十四)外人飲食店の指導、(十五)觀光客の案內事務等。

◇東滿觀光協會(牡丹江市公署內)

【沿革】牡丹江市は滿洲事變を轉機として僅か人口三千五百の小邑より數年ならずして十數萬を數へ、行政、產業、經濟、交通と凡ゆる部門に於て東滿の重要據點となり、現在十六萬を擁する大文化都市となつた。茲に於て視察觀光客の來訪する者日と共に激增し、觀光施設接遇要望に應じ、康德五年三月牡丹江觀光協會を設立したるも建設過渡期の慌しさに實質的活動を見るに至らざりしが、康德七年五月之を改組擴充し東滿觀光協會と改稱、牡丹江市を中心に東滿一圓の觀光紹介宣傳に從事、活潑なる活動に入つた。

・支部　牡丹江省寧安縣東京城(支部長　荒川三平)
・支部　牡丹江省寧安縣橫道河子(支部長　高橋要)
・案內所　牡丹江市中區太平路高岡號百貨店內(電五三〇三)

【役員】▲會長、牡丹江市長草地一雄 ▲副會長、牡丹江副市長習齊輝、牡丹江鐵道局營業課長中村享、牡丹江商工公會長安河內隆吉、▲理事、牡丹江省庶務科長戶倉勝人、牡丹江市庶務科長八島正雄、▲幹事、東亞旅行社主任藤井清、牡鐵營業課大西弘、牡丹江市公署庶務科 荒井正治、牡丹江市旅館組合長內藤昌裕、觀光協會案內所矢野富美子、▲主事江口光夫

【昭和十五年度事業】(一)東滿土產品展、(二)鏡泊湖觀光施設の充實促進、(三)一般觀光客の斡旋案內、(四)鏡泊湖觀光客の斡旋案內、(五)來滿諸團體の斡旋案內、(六)交通道德實踐への協力、(七)接客業者の指導、(八)東滿觀光の夕開催、(九)東滿スキー大會開催、(十)其他新聞ラジオによる宣傳等。

◇齊齊哈爾觀光協會(市公署內)

【沿　革】近時內外各地よりの來齊者の激增と市發展業確立の要望に對處するため、康德十五年四月創立された協會は、本年度に至つて本格的な活動に這入つた。則ち觀光客の接遇はもとより、時局に對應して國土宣揚、厚生運動等にも努力し、益々其使命達成に邁進してゐる。

【役　員】▲會長、祁瑞黎　▲副會長、山名義親、長谷川銀一　▲監事、木金昌孝、峰村豐治　▲幹事、右田嘉一郎、野本千代壽、村野民雄、上野甚一、矢野次郎　▲主事、米村義輝

【昭和十六年度事業】(一)觀光資源紹介(イ)觀光リーフレット作製、(ロ)觀光繪ハカキ作製、(ハ)開拓團紹介リーフレット作製。

(二)觀光客誘致宣傳竝案內接遇、(イ)觀光ポスター作製、(ロ)市內地圖及案內パンフレット販賣、(ハ)嫩江祭開催、(ニ)觀光週間開催。

(三)觀光關係諸營業の助長改善、(イ)接客業者の指導講習會、(ロ)諸營業者の統制改善助長、(ハ)指定ローカル客の旅館に對する配置。

(四)土產物其他產物宣傳販賣、(イ)市內各土產物の創案改善、(ロ)同上宣傳竝販賣、(ハ)嫩江產魚各種漬の宣傳竝指定販賣。

◇青島觀光協會

【沿　革】興亞院文化班、青島文化聯盟、青島特別市公署の指導のもとに、昭和十五年十月創立せらる。第一回事業として十五年十二月ポスター展、十六年四月に陸海共同指導の下に嶗山、九水探勝を市民三百餘名參加の上バス三十餘臺にて催行した。

◇易縣觀光委員會(易縣城內西大街新民會教育館內)

【沿　革】河北省の山水の美を一に集め名所、史蹟に富む易縣地方の觀光を宣傳し荒廢せる名所、史蹟の修理保存の念を涵養し物資の集散繁榮を企圖し和平の氣運を譲成するを目的とし昭和十六年六月成立、東亞旅行社、易縣々公署、新民會、華北交通株式會社及皇軍、支那側各機關を後援とす。

觀光地　易縣古燕都、昭王墓、荊軻山、易水、西陵(淸朝六代皇帝の御陵)

奉仕施設　ヱハガキ、寫眞、碌本の出版、硯、掌球、果物等土產品の販賣

其の他　宣傳、案內、接待、說明、車馬雇傭料金の統一等

【役　員】▲會長、邱赫璽　▲副會長、趙順倫　▲顧問、伊藤顧問、橋本次長

◇上海觀光協會(黃浦灘路二四、橫濱正金銀行樓上鐵道省國際觀光局事務所內)

【創　立】昭和九年七月

【沿　革】本會は最初在上海日本側運輸機關相寄り諸般の情報を持寄り意見の交換を行ひ、會員相互に連絡提携を圖り、以つて日支間運輸交通及觀光事業の發展に寄與すべく、鐵道省、滿鐵、ツーリストビューロー、日本郵船、大阪商船、大連汽船、日淸汽船を會員として設立せられたり。其後支那事變の進展に伴ひ、日支相互間の交通促進、對支觀光、文化宣傳等の重要性一段と加はりたるに鑑み、帝國總領事館、興亞院中華連絡部、日本商工會議所、日本、中華兩航空會社等の參加を得て、本協會組織の强化、會員相互の連絡提携の緊密化を圖ること、なれり。

【會　員】帝國總領事館、興亞院華中連絡部、日本郵船、大阪商船、大連汽船、東亞海運、東亞旅行社華中支部、滿鐵上海事務所、華中鐵道、上海日本商工會議所、大日本航空、中華航空、鐵道省辦事處、鐵道省國際觀光局事務所

【昭和十五年度事業】每月一回例會を開き各種情報意見の交換、觀光地視察(杭州方面)內外人觀光事業關係者より意見の聽取等を行へり。

◇滿洲獵友聯盟(奉天住吉町六東亞旅行社內)

【沿　革】滿洲鳥獸保護法確立への協力と狩獵道德の向上身心の鍊磨、尙武の氣風涵養竝に會員相互の融和親睦を圖るを目的として各地の獵友會を以て組織されてゐる。聯盟は滿洲國成立以前から組織されて居た大連、奉天、新京、哈爾濱等の各獵友會がその主體となり之に撫順、營口、本溪湖、瓦房店等が參加し昭和十二年十二月大連に於て結成された。而して聯盟の本部は昭和十二年七月迄大連にあつたが、鐵道總局とビユーロー滿洲支部の奉天移轉に伴ひ同聯盟も翌八月より奉天に移轉した。

同聯盟は前述の目的を遂行する爲左記の事業を行つてゐる。

一、日滿各關係との連絡
二、機關誌の發行
三、射擊會、競獵會の開催

【事務所】

本　部	奉天住吉町六	東亞旅行社支部內
大連支部	吉野町二〇	日滿商會內
奉天支部	浪速通二〇	藤川洋行內
新京支部	祝町二丁目一	正直屋時計店內
哈爾濱支部	地段街一〇七	日光洋行內
撫順支部	永安臺	炭坑俱樂部內
本溪湖支部	永利街六七	共信無盡會社內
營口支部	南本街一	東亞旅行社內
瓦房店支部	朝日街九	高山信吉方
錦州支部	錦州鐵道局營業課	旅客係內
四平支部	驛前	東亞旅行社內
鞍山支部	昭和製鋼所工作部機械課	永松保方
齊齊哈爾支部	永安大街九〇	森田銃砲店內
牡丹江支部	圓明街六・一六	瀧本鑛泉所內
吉林支部	新開門街二一	中村銃砲店內
圖們支部	春風街	東亞旅行社內
延吉支部	康平區進學路	東亞旅行社內
佳木斯支部	南崗大街	盛倉洋行方
公主嶺支部	泉町二ー二〇	野島茂幸方
鐵嶺支部	松島町二	滿日支局內
遼陽支部	鞍馬町二一ノ一	土田松之助方
阜新支部	阜新縣海州阜新鑛業所鑛務課	矢津田方方
鄭家屯支部	新市街	日之出屋旅館方
開原支部	東洋街	伊藤敬一方
山海關支部	南門外新立街	鍋田工務所內
牙克石支部	濱洲線牙克石頭道街	滿鐵林業所內
西安支部	西安炭礦大成採炭所	加藤寛一郎方
大石橋支部	街公署	本田正行方
海城支部	大街一三	中原次郎方
適道支部	密山縣適道炭礦工作課	機械工場事務所內
蛟河支部	蛟河縣新站驛前	電業事務所內
扎蘭屯支部	五道街	田中關方
綏陽支部	綏陽縣綏陽街綏興路四五	藤田醫院內
五常支部	五常縣公署	開拓科內
城子河支部	密山縣雞西街城子河區	甲藤四郎方

【役　員】▲總裁平島敏夫、▲會長宇佐美喬爾、▲副會長安藤忍、金田詮造、志和俊陽、小泉三郎、山本久治、小谷重一、中島健治、松森正重、▲常任理事三原重俊、林伴九、長山聰、西納毅一、齊藤一三三、西藤慈重、遠藤淸、吉田菊次、餅打宏泰、川村渉、內田考一、大槻榮松、松隈吉郎、島田智乘、野口三郎、戒田陸夫、筒井濱十郎、松尾彌吉、森田關男、坂本道弘、中村豐吉、木下信男、瀧本寄太、藤川靜可、荒木平一、野島茂幸、鎌田生三、矢津田方、鍋田淸太郎、加藤寛一郎、山下義明、中原次郎、富樫義夫、保月義雄、石川宏　▲理事略▲顧問略▲相談役略

【昭和十五年度事業】(一)野兎毛皮及鳥類羽毛の蒐集獻納の積極的强化實行、(二)防衛義勇團の結成、(三)滿洲紙筒製作所と一體的關係により同所製造の紙ケースの配給、(四)毛皮、羽毛の獻納と鳥獸保護法の徹底、狩獵道德向に關し各地に講演座談會開催。

◇日本溫泉協會滿洲支部(奉天市住吉町六東亞旅行社內)

【創　立】昭和五年十一月

【沿　革】昭和四年十一月東京に於て「溫泉協會創立懇談會」を開催して會則を決定し、同業者の同意を得同年十二月正式に會則を議定し、役員も選出されて茲に同會の設立をみたのであるが、關東、中部、東北、北海道、關西の各支部設立に次いで滿洲支部も翌年十一月大連に於て發會式を擧ぐるに至つた。

【目的及事業】 滿洲に於ける溫泉に關する研究及其知識の普及と溫泉地の保護改善發展等に貢献するを目的とし次の事業を行つてゐる。

一、月刊雜誌「溫泉」を發行、之を役員會員に頒布する外、臨時印刷物に依り溫泉知識の普及、溫泉地の改善發展に資してゐる。

二、溫泉に關する展覽會、講演會、研究會、座談會を主催又は後援して目的達成に努めてゐる。

【昭和十五年度事業】（一）總會決議に基き滿洲溫泉保護法制定に關し民生部大臣宛請願、（二）溫泉開發功勞者調査。

【會員】 熊岳城溫泉ホテル、湯崗子溫泉株式會社、五龍背溫泉旅館、興城溫泉ホテル、九寨溫泉株式會社

【役員】 ▲支部長 鐵道總局旅客課長足立長三 ▲副支部長 鐵道總局旅客課長野間口英喜 ▲常務理事 鐵道總局保健課長千種峯藏、同厚生課長梅本正倫 東亞旅行社滿洲支部幹事宮城調明 ▲理事 滿洲國國務院總務廳弘報處長武藤富男、民生部厚生司長王鏞、民生部厚生司厚生科長中西實、鐵道總局產業課長早川四郎、同民政部保健司長張明峻、鐵道總局營業局旅客課佐藤義英、同同佐藤彦次郎、同旅館課長鈴村勝利、滿鐵總裁室調査部新帶國太郎、大陸科學院地質調査所長福田連、東亞旅行社滿洲支部事業課長北條保平 ▲幹事 鐵道總局營業局旅客課中森正雄、東亞旅行社滿洲支部事業課調査宣傳係主任藤原欽爾、同旅行係主任網敏幸、▲評議員 省略（一六、一〇現在）

◇滿洲旅館協會（奉天市千代田通二）

【沿革】 滿洲に於ける邦人旅館業者を以て組織し斯業の改善發達、旅客の誘致、會員相互の利益親睦を計る目的を以て大正九年三月創立され、當初本部を大連に置いてゐたが昭和十三年五月から奉天に移轉した。現在會員は二六九名。

▲支部事務所
大連市奧町一六
奉天市千代田通二
新京市中央通五 富士屋旅館
安東市大和橋通六丁目 日之出旅館
哈爾濱市地段街一一九 ナショナルホテル
牡丹江市光化街 周房旅館

【役員】 ▲會長 小林才治（大石橋） ▲副會長 大竹孝助（奉天）、五味武太郎（新京）▲支部長 中村常太郎（大連）、釘崎丑雄（安東）、五味武太郎（新京）小野嘉代二（哈爾濱）、內藤昌祐（牡丹江）

◇滿洲事情案內所（新京中央通六番地）

滿洲に於ける一般及び經濟事情の調査紹介を行ひ、併せて滿洲視察斡旋委員會の實際事務機關として視察者に對し斡旋の任に當ることを以て目的とし、利用者のための調査斡旋はすべて無料であり、左記各項の事業に當つてゐる。

一、來訪及び書面による諸事情の照會に對する回答
二、視察者に對し各機關との聯絡及び斡旋其他便宜供與
三、滿洲國を中心とする諸事情の調査及び資料の公開
四、前項に必要なる參考調査資料の蒐集並其の整理
五、滿洲事情紹介に必要なる印刷物の刊行及び頒布
六、以上の外滿洲事情普及のために必要なる事項

當所は昭和八年一月、關東軍特務部の指令に基き、滿洲國の經濟諸事情を正しく調査紹介することを目的として設置せられ、其目的遂行のため、調査資料の廣汎に亘る蒐集整理並に調査報告書の刊行等を遂行し、昭和十一年六月より滿洲弘報協會に包括されその機構下にあつたが、昭和十三年一月再び分離し茲に獨立せる公共機關として運營され、更に十四年十二月滿洲帝國政府全額出資の準特殊會社となり今日に及んでゐる。現所長は奧村義信氏である。

◇旅行倶樂部竝滿洲旅行倶樂部聯盟（奉天市住吉町大）

東亞旅行社滿洲支部內に事務所を置くツーリスト倶樂部は、昭和七年創業以來各地に倶樂部網を擴張したが、茲に旅行界の劃期的飛躍期に際會して、從來のツーリスト倶樂部を改組し、興亞の新情勢に順應する旅行倶樂部竝に滿洲旅行倶樂部聯盟を昭和

十四年四月一日より設定した。即ち會員相互の親睦を圖ると共に、志操、體位の向上を目指し、健全なる旅行趣味の普及、發達、旅行知識竝に旅行公德の啓發に資せんとするものである。現在會員は約八百名。

新旅行倶樂部竝聯盟規約を要約すれば大體次の通りである。

昭和十五年度以降に於ては各地に於て頻繁に體位向上の團體旅行を實施中である。

▲旅行倶樂部規約

一、本會ハ滿洲國、關東州及ビ北鮮在住ノ旅行同好者ヲ以テ組織ス
二、本會ノ事務所ハ社團法人東亞旅行社案內所內ニ置ク
但シ東亞旅行社案內所所在地外ノ旅行倶樂部ニ於テハ適宜事務所ヲ設ク
三、本會事業
一、旅行ニ關スル各種ノ會合
二、臨時會員ノ團體旅行ノ實施
三、印刷物ノ配布
四、其他必要ナル事項
四、本會ノ會員タラントスル者ハ入會金一圓ヲ納入スベキモノトス
但シ二十名以上ノ團體入會ノ場合ハ入會金一人當五十錢トス
五、會費ハ之ヲ徴收セズ
六、會員ニ對シテハ一定ノ會員徽章ヲ無料交付ス
七、聯盟所屬ノ旅行倶樂部所在地域ヘ住所ヲ變更シタル場合ハ其ノ地域ノ旅行倶樂部會員トナルモノトス

▲滿洲旅行倶樂部聯盟規約

一、本會ハ滿洲國、關東州及ビ北鮮各地ノ旅行倶樂部ヲ以テ組織ス
二、本會ハ事務所ヲ社團法人東亞旅行社滿洲支部ニ置ク
三、本會ハ所屬旅行倶樂部ヲ統制補導シ相互ノ連絡協調ヲ圖リ各關係機關ト協力シテ旅行倶樂部ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

▲旅行倶樂部事務所

大連、鞍山、奉天、四平、新京、安東、營口、撫順、吉林、延吉、通化、圖們、牡丹江、哈爾濱、佳木斯、齊々哈爾、滿洲里、黑河、錦州、承德、山海關、羅津

△旅行團體一覽

大連

名稱	組織	現在會員數	目的及事業	會長名	會費（一ケ月）
正金銀行ハイキング部	會員制度	五〇	社員保健	中島 豐	臨時徴收
森永製菓 同	同	五〇	同	藤本 信	同
大連瓦斯會社社員會徒步部	同	三〇	同	竹田 幹	百分ノ二
三井物產三友倶樂部ハイキング部	同	五〇	同	材田米太郎	百分ノ一
古河電氣ハイキング部	同	三〇	同	高橋 協	同
日滿商事商和會 同	同	一〇〇	同	木村 貞夫	百分ノ六
進和商會社員會 同	同	五〇	同	內村 信夫	百分ノ五
朝鮮銀行行友會 同	同	四〇	同	藤井謙太郎	同
大連工業社員會運動部 同	同	二〇	同	小林 可藏	百分ノ三
昭和製鋼所ハイキング部	同	五〇	同	還　勇	臨時徴收
滿鐵消費組合滿府倶樂部更生部ハイキング部	同	三〇〇	同	村上 忠雄	百分ノ一五
國際運輸社員會ハイキング部	同	一〇〇	同	本田 伯郎	百分ノ一
赤十字病院院友會 同	同	五〇	同	柏木 照雄	百分ノ二
伊藤忠商店 同	同	一〇	同	伊藤 正也	臨時徴收
出光商會 同	同	四〇	同	高浦 保雄	同
瓜谷長造商店 同	同	二〇	同	山田 敏雄	百分ノ一
關東州線業聯合會社員會運動部	同	三〇	同	和泉 正二	同
幾久屋百貨店ハイキング部	同	五〇	同	佐久間寅一	臨時徴收
滿日婦人團 同	同	一〇〇	同	土屋キヌ子	一、二〇圓

貯金管理所ハイキング部	會員制度	一三〇	社員保健	關牟田哲二	百分ノ一
羅紗商組合ハイキング部	同	五〇	同	白須信次	臨時徵收
岡組ハイキング部	同	二〇	同	野村久男	同
昌光硝子ハイキング部	同	三〇	同	富松規行	同
聖愛醫院仁友會ハイキング部	同	二〇	同	牛久昇治	百分ノ一
石炭販賣組合社員會ハイキング部	同	六〇	同	木口要一	百分ノ二
大信洋行信友會ハイキング部	同	八〇	同	森田精造	百分ノ一五
大連税關協和會ハイキング部	同	五〇	同	瀧本治三郎	百分ノ三
大連都市交通社員會ハイキング部	同	一五〇〇	同	野間口正人	百分ノ二
大連郵便局遞信倶樂部ハイキング部	同	三五〇	同	後藤健男	臨時徵收
同和自動車ハイキング部	同	五〇	同	小松猛人	百分ノ五
大阪商船親交會	同	五〇	同	植日春彥	百分ノ一
日清製油	同	三〇	同	平尾榮司	臨時徵收
原田商事	同	三〇	同	庶務係宛	同
滿洲國通信社	同	三〇	同	古賀薰一	同
新光倶樂部カメラ	同	一〇四	同	魚谷奎造	一ヶ年三圓
滿洲中央銀行親睦會	同	三〇	同	親睦會幹事	百分ノ三
滿蒙毛織	同	二〇	同	丹羽武雄	臨時徵收
福昌公司	同	四〇	同	市橋文章	同
滿洲狩獵聯盟	同	八七	同	長谷部照信	年一〇圓
大連機械ハイキング部	同	五〇	同	山田武夫	臨時徵收
滿化社員會ハイキング部	同	一五〇	同	細谷榮樂	百分ノ一
滿洲曹達親和會遠足部	同	四〇	同	並河渉	年八圓、四圓、二圓
沖電氣體育會ハイキング部	同	四〇	同	藤井民五郎	百分ノ二
滿洲興業銀行行友會ハイキング部	同	三〇	同	井上豐	百分ノ三
大連病院運動部ハイキング部	同	五〇	同	佐々木逸也	同
滿洲電々會社電々倶樂部	同	八〇〇	同	關根福造	同
大連市役所體育部	同	一五〇	同	後藤辰雄	臨時徵收
大連市役所釣魚部	同	六〇	同	龜井五郎	同
大連崇敬會旅行部	同		修養保健ノタメ	山岡光宜	
大連市體育會	同		大連市民體位向上心身鍛錬	米地武雄	臨時徵收ノ上募集催行

鞍山

三幸會	昭和製鋼所第二壓延工場社員ニヨル會員組織		社員保健	後藤學	社費
協和會市公署分會修養部ハイキング班	協和會及市公署從事員ニヨル會員組織		同	野中久米次	同
くろがね會	滿洲鑄鋼所從事員ニヨル會員組織		同	中村義雄	同
滿洲電々會社慰安部	滿洲電々株式會社從事員ニヨル會員組織		同	小林修治	同

安東

山岳會		三六		原田市松	月一〇圓
モーターサイクル倶樂部		三〇		前田克己	月〇、五〇圓

四平

電々倶樂部四平市支部	社員ヲ以テ組織（含家族）	一〇〇	社員ノ福祉ヲ目地トシ一年二回旅行ヲ行フ	毛利英三	年一、〇〇圓 〇、一〇圓

滿洲寫眞作家協會四平市支部	本會ノ主旨ニ贊同シタル者ヲ以テ組織ス	三〇	本會ハ寫眞藝術ノ研究ヲ計リ併セテ其向上發展ヲ期ス （一）月例會（第二日曜日）（二）撮影會（其都度行フ）（三）作品展覽會（五月十日）（四）講習會（臨時）	世話役 圖書館 顧問 天野東	月〇、五〇圓
四平市釣友會	市内一般人ヨリナル會員組織	一〇〇	釣魚研究ト會員ノ親睦	小鹽八十八	年一、〇〇圓

哈爾濱

哈爾濱釣魚研究會	會員組織		釣魚地ノ研究	秋山兼雲	各年寄附

錦縣

滿洲中央銀行錦州支行運動部	行員運動部員	五〇	保健小旅行ハイキング	鈴木輝立	
錦州鐵道光畫會	滿鐵社員ニヨル會員	一八〇	撮影會寫眞展		
滿洲滿鐵醫院ハイキング部	醫院親和會員	六四	保健小旅行ハイキング	小野村米吉	
愛鱗會	有志		釣魚池研究會、會報發行		
郵政局陸上部	社員運動部		保健各種體育小旅行		
國際運輸山岳部	郵政總局體育協會員ニヨル會員	八〇	保健小旅行ハイキング	大江茂	各所得ニ按分

靑島

體育協會	會員制度	五七〇	各種運動	栗本定治郎	年六圓
ワンダーフオゲル	同	一五	ハイキング遠足	山本太郎治	臨時徵集

天津

うつさう會	有志	三〇	寫眞報國會寫眞作品展覽會	野島達朗	入會費一 三、〇〇 一ヶ月一、〇〇
ゆかう會	市内邦人商店有志		解放狀態 各地視察觀光	赤山今乾治	

東亞旅行社

【設立の趣旨】外國人に國土を宣揚することは彼我國民の親交を增して國民外交の好轉を示すことゝなるばかりでなく、同時に國産品の海外紹介となり、延いては貿易の發展を來たす結果となるのであり、一方また外客がその土地にて消費する正貨は無形の輸出として國際貸借調節の上に重要な關係を齎すものである。この外客誘致事業は國民外交上からもまた國家經濟上からも極めて重要な性質を帶びてゐるが、旅客の斡旋は獨り外國人ばかりでなく日本人に對しても廣く取扱ひ一般旅行者の斡旋に盡さうといふ手段から、現實的に鐵道驛乃至汽船會社の出札口と旅行をせらるゝ人々の間に立つて凡ゆる便宜を圖らうといふのがもう一つの仕事である。

これを要約すれば東亞旅行社は旅行に關する公益の斡旋機關であつて若し鐵道會社が當所を利用すれば當所の各地案内所が一樣に皆其處の支店、出張所又は驛と同樣の働きをするし公衆から見れば夫々各鐵道、

汽船、航空乃至自動車會社の市內營業所が綜合して設けられてゐると同樣な組織となるのである。

【東亞旅行社の仕事】 內外旅客誘致、名勝、觀光地の紹介宣傳、內外主要鐵道、汽船、航空、自動車の切符發賣、寢臺券、急行券の發賣竝豫約、東亞旅行券、旅行小切手、旅館券の發行、請負旅行、旅行保險の引受、旅行圖書、地圖、案內記、雜誌、繪葉書類の發行、旅行日程及旅費概算作成等。

【設立經過】 明治二十六年蜂須賀茂韶侯、澁澤榮一子、益田孝男の諸氏が中心となつて外人の斡旋機關として喜賓會(Welcome Society)を組織し主として來遊外人の斡旋に盡力し來つたが日露國交克復後ツーリスト事業が國民外交上又國家經濟上極めて重要なることが識者の間に漸く認められるやうになつたので、先づ交通機關及其關係者によつて明治四十五年三月十二日鐵道院內に第一回の總會を開催し全員一致會則の承認を得て、玆にジャパン・ツーリスト・ビューローが創設せらるゝに至つた。

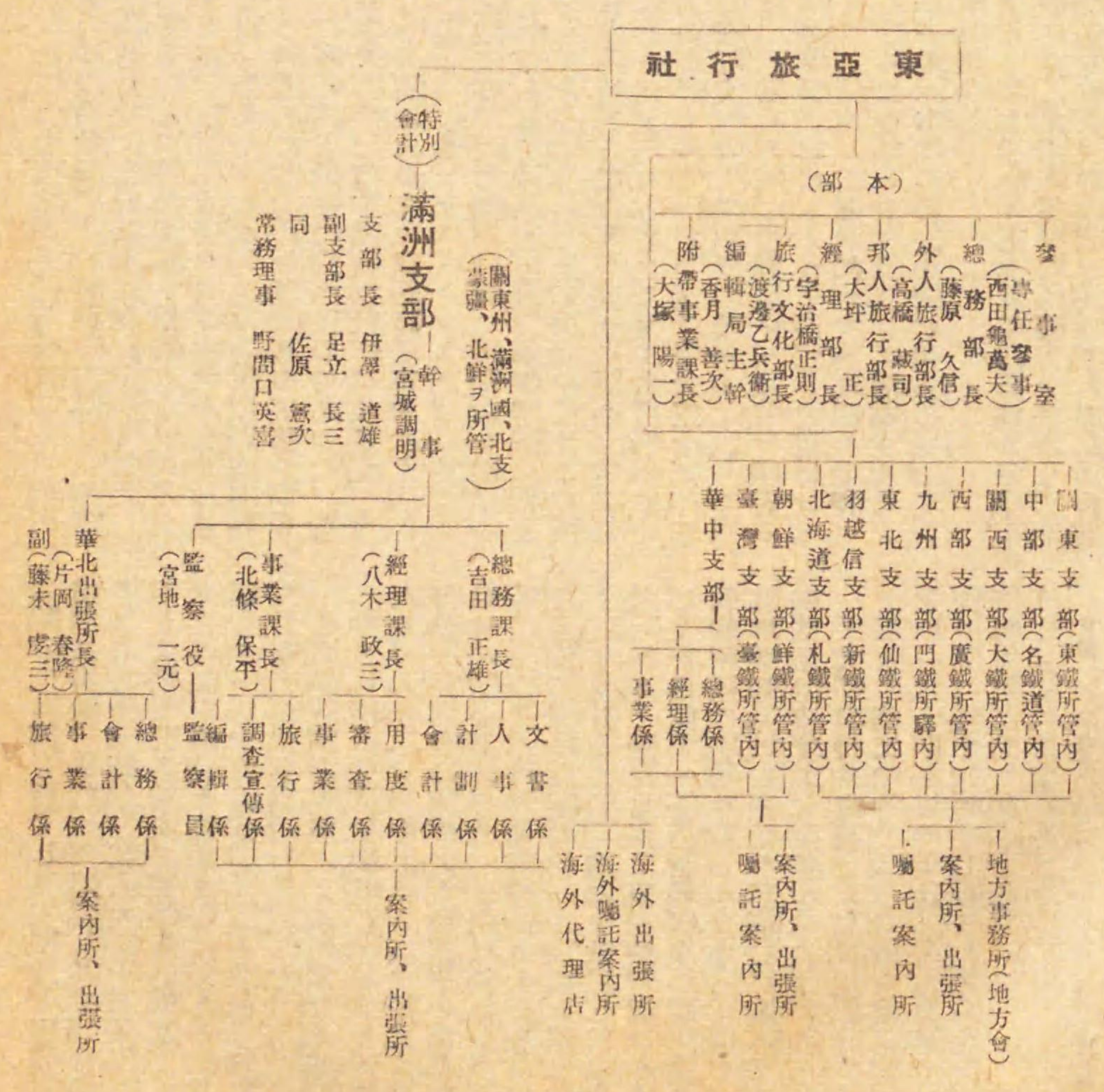
其後漸次陣容を整へ、又地方に案內所も新設せられるに及んで喜賓會は大正三年三月末日限り之を解散し、その事務はビューローに引繼がれた。

爾來ビューローは其の施設の內容に擴張改善が加へられ、昭和二年七月一日組織を社團法人として基礎を固め、昭和四年三月には官民合同して對米共同廣告委員會をビューロー內に置き、年二十數萬圓を以て主として米國民に對して呼びかけたが政府も遂にこの事業の重要性を認め、昭和四年四月二十四日鐵道省內に國際觀光局を設け續いて昭和六年十二月財團法人國際觀光協會が設立されて玆に本格的に海外宣傳が行はれるやうになつた。一方ビューローは日本旅行界の趨勢に順應するため對外人關係の外更に進んで邦人の取扱にも重きを置くこととなり昭和七年五月には百貨店內に於ける鐵道案內所の委託經營を受け、同九年十月一日には舊日本旅行協會の事業を繼承して會名を社團法人ジャパン・ツーリスト・ビューロー(日本旅行協會)と改めた。其後ビューロー事業は益々進展し、日本、滿洲、支那の東亞全般に及ぶを以て名稱も同十六年八月社團法人東亞旅行社と改稱した。昭和十年七月には內地各鐵道局所在地に支部を、各運輸事務所所在地に地方事務所(地方會)を設置して鐵道關係團體の募集及取扱をも引受けることゝなつた。卽ち東亞旅行社は旅行に關する限りは全部一手を以て斡旋をなし得る名實共に兼ね備へた本邦唯一の旅行斡旋機關となり、現在支部十案內所及出張所百八十餘海外出張所四歐米主要都市代理店三十を算ふるに至つた。

【組織】 東亞旅行社は營利を目的とする旅行會社と異りその目的とする處は國策に寄與し專ら公益を計り營利を度外視し事ら奉仕的事業をなす故に公益社團法人としてその目的達成のため種々の事業を營み大規模な組織卽ち東亞旅行社は鐵道省、滿鐵を始め諸官公私鐵道、電車、自動車、汽船、航空等の交通機關、旅館、ホテル業者、百貨店、大商店、銀行、會社並に通信社、演劇、映畫等の興行會社、市、町、商工會議所等の自治公共團體及各地の觀光協會等と二百四十有餘を以て構成されて居り實行機關としては名譽會長には鐵道大臣を推戴し會長は鐵道次官、以下理事、事務理事、參事及約二千人の從業員が日、滿、支は勿論世界各國に設置されたる約二百ヶ所の案內所、出張所、駐在員又は代理店に配備され斡旋網を敷き旅客斡旋に萬全を期して居る。

【役員】 (昭和一六、九現在)

名譽會長	鐵道大臣	村田　省藏
會長	鐵道次官	鈴木　清秀
理事	名古屋市長	縣　忍
同	名譽會員	淺野　良三
同	南滿洲鐵道株式會社鐵道總局營業局長	足立　長三
同	鐵道省運輸局旅客課長	阿部牧太郎
同	日本郵船株式會社船客課長	生駒　實
同	臺灣總督府交通局鐵道部長	石川　定俊
同	南滿洲鐵道株式會社鐵道總局文書課長	板倉　眞五
同	南滿洲鐵道株式會社理事	伊澤　道雄
同	名譽會員	種田　虎雄
同	東京市長	大久保留次郎
同	合名會社大倉組　男爵	大倉喜七郎
同	名譽會員　男爵	大藏　公望
同	日本郵船株式會社取締役社長	大谷　登
同	大阪商船株式會社取締役社長	岡田永太郎
同	京都市長	加賀谷朝藏
同	神戸市長	勝田銀次郎
同	株式會社金谷ホテル社長	金谷　眞一
同	大阪商船株式會社專務取締役東京支店長	香春　敏夫
同	名譽會員	喜安健次郎
同	株式會社三越專務取締役代表取締役	北田內藏司
同	鐵道省國際觀光局長	玉置　善雄
同	名譽會員　男爵	久保田敬一
同	華北交通株式會社運輸局長	小池　文雄
同	大阪市長	坂間　棟治
同	名譽會員	生野　團六
同	同(東亞海運株式會社社長)	清永　安治
同	華北交通株式會社東京支社長	島　一郎
同	鐵道大臣官房文書課長	鈴岡　正矣
同	朝鮮總督府鐵道局運輸課長	田邊　多聞
同	華中鐵道株式會社副總裁	田　誠
同	鐵道省國際觀光局庶務課長	富山　清憲



理事　名譽會員　中川　正左
同　鐵道省運輸局長　長崎惣之助
同　横濱市長　半井　清
同　南滿洲鐵道株式會社鐵道總局營業局旅客課長　野間口英喜
同　名譽會員　八田　嘉明
同　社團法人同盟通信社社長　古野伊之助
同　南滿洲鐵道株式會社東京支社長　古山　勝夫
同　大阪鐵道局長　山脇　秀輔
同　朝鮮總督府鐵道局長　山田新十郎
同　鐵道省國際觀光局事業課長　横田　巖
監事　南滿洲鐵道株式會社鐵道總局經理局會計課長　木村　一惠
同　鐵道省經理局主計課長　瀧　清彥
同　日本郵船株式會社常務取締役　永島　義治
同　鐵道省經理局長　平山　孝
事務理事　高久甚之助
常務理事（兼理事）　野間口英喜
同　藤原　久信
參事　宇治橋正則
同　高橋　藏司
同　宮城　調明
同　片岡　春隆
同　西田龜萬夫
同　渡邊乙兵衞
同　大坪　正

◇滿洲支部

【設立經過】　滿洲支部は最初大連支部と稱して南滿洲鐵道株式會社運輸部内に設置されたのは大正元年十一月一日であつたが當時は滿鐵社員にその業務を委囑して内外旅客誘致竝に旅行上の斡旋に當つてゐた。

其後外人の往來が漸く頻繁になつたので大正三年三月、大連ヤマトホテルを始め旅順驛、奉天ヤマトホテル、哈爾濱滿鐵事務所の四箇所に案内所を設け其の事務を委囑して專ら外人斡旋に備へにのであつた。當時奉天に於ては中國旅行社が開設され、また哈爾濱にあつては萬國寢臺車會社支店が活躍し其の他トマス・クック商會に於ても赴歐旅客のため滿鐵沿線に出張所を設ける有樣であつて滿洲内の旅行斡旋機關は殆ど外人によつて占められて居た。恰度この頃日本内地から鮮滿支方面への關心が次第に昂まりつゝあり、ビューローに旅行斡旋を求める者も尠くなかつたので大正十五年三月旅行案内竝に乘車券の發賣所として京城、大連、上海、哈爾濱の四案内所開設の議が本部理事會によつて決定され更にシベリア、滿洲、支那本部を大連支部の受持とし經濟は本部と全然獨立して活動することが一層本事業の發展を期し得らるゝとの見解に歸着した。

よつて本部は大正十五年四月二十日理事會に於て大連支部案内所設立を決議し、また滿鐵會社は右の案に基いて大連支部の設立助成を承諾し斯くして大正元年南滿洲鐵道株式會社運輸部内に胎生し其手に育成さるゝこと十五箇年、即ち大正十五年五月に至り大連支部が獨自の旅行斡旋機關として呱々の聲を擧げるに至つたのである。其後昭和十一年十月「滿洲支部」と改稱、同年十二月奉天市に事務所を移轉した。

爾來滿洲國の固成による順調なる旅行界の動きに應へ全滿主要地の斡旋網を充實したるのみならず、中北支方面に於ても皇軍行動の後を承け硝煙未だ消えやらぬ各地に業務機關の新設を見、管内に於ける案内所、出張所、駐在員事務所は七十餘を有してゐる。現在從事員約一千三百を擁し昭和十四年八月全面的に機構を改正して一段と其の組織を强化し正に東亞旅行界の王座として全員協力一路非常時國策の線に沿ひて斡旋報國の完璧を期しつゝある。而して支那事變勃發以來東亞の新情勢に應へて其事業成績は事變前に數倍するに至つた。

又支部の特殊業務としては(一)年々百數十萬人の華工斡旋、(二)日滿を貫く重要國策の一たる開拓民の斡旋、(三)日滿支相互間の眞の姿を認識せしむるための宣撫、宣傳等々特に力を注いでゐる。

滿鐵、北交選出役員

支部長、理事　伊澤　道雄

副支部長、理事　足立　長三
副支部長　佐原　憲次
理事　阪倉　眞五
同　古山　勝夫
同　島　一郎
同　小池　文雄
監事　木村　一惠
常務理事　野間口英喜
幹事　宮城　調明

▽施設年表

大正　元、一一、一　大連支部を開設、滿鐵運輸部に事務委囑
同　三、三、二七　大連ヤマトホテル、旅順、奉天ヤマトホテル、哈爾濱滿鐵公所に案内事務委囑
同　三、六、一　長春ヤマトホテルに案内事務委囑
同　一四、九、一五　上海滿鐵事務所に案内事務委囑
同　一五、五、一　歐亞連絡復活に伴ひ大連支部を擴張し、本部より獨立して旅客案内事務に應衝す大連支部職制制定
同　五、一〇　天津案内所開設
同　五、二八　大連案内所開設
同　六、一　安東駐在事務所國際運輸に委囑
同　六、八　奉天案内所開設
同　七、一　北平案内所を大連支部に移管
同　七、一三　哈爾濱案内所開設
同　八、二三　上海案内所開設
同　一〇、二一　長春案内所開設
同　一一、二〇　滿洲里案内所開設
昭和　二、五、三一　安東案内所開設
同　七、二〇　撫順案内所開設
同　一一、二八　大連支部竝大連案内所を伊勢町五四に新築移轉す
同　三、七、一八　大連ヤマトホテル内出張所開設
同　八、一　ツーリスト・ブレチンを創刊
同　一〇、一　天津日本租界加藤洋行内に出張所開設代賣開始
同　四、一、一　ハルピン傅家甸出張所開設
同　五、五　營口案内所開設
同　七、二三　營口舊市街出張所を開設
同　八、一　奉天ヤマトホテル内出張所開設
同　一一、一五　大連日本橋出張所開設
同　一一、二〇　哈爾濱埠頭區出張所開設
同　四、一二、一　汽車時間表を創刊
同　五、七、一　第二次職制を制定
同　六、二〇　青島案内所開設
同　九、一　内報創刊
同　一二、一一　長春案内所を長春驛前に新築移轉
同　一二、一七　日本溫泉協會滿洲支部設立
同　六、四、一　天津日本租界出張所を閉鎖
同　六、一　第三次職制を制定（二部四係制に改む）
同　六、五　撫順案内所代賣開始
同　七、三一　大連日本橋出張所閉鎖
同　八、八　第四次職制を制定
同　一二、二三　第五次職制制定
同　七、三、二五　大連監部通出張所開設
同　一一、一　「長春案内所」を「新京案内所」と改稱
同　一一、一　奉天城内出張所開設
同　八、一一、一八　「哈爾濱埠頭區出張所」を「哈爾濱傅家甸出張所」と改稱
同　四、一　上海虹口出張所開設
同　五、一五　滿洲里案内所代賣開始
同　六、一　營口代理店を舊市街東和公司内に開設
同　六、五　吉林案内所開設
同　一〇、一七　山海關案内所開設
同　一一、一　齊齊哈爾案内所開設
同　一二、二五　圖們站内に駐在員を置く
同　九、二、一　淸津北鮮鐵道管理局内に駐在員を置く
同　三、一〇　淸津案内所開設
同　九、七、一　雜誌「旅行滿洲」を創刊
同　一二、五　「北京案内所」を「北平案内所」と改稱
同　一〇、四、一　「ツーリスト・ブレチン」を「旅行情報」と改稱
同　八、一　錦縣案内所を開設
同　八、一〇　哈爾濱新市街出張所を車站街に開設
同　一〇、九、二六　塘沽駐在員を置く
同　一二、七　第六次職制制定
同　一二、二四　上海虹口出張所は吳淞路四二三に移轉
同　一一、七、一　鞍山驛舍内に駐在員を置く
同　七、一　羅津驛舍内に駐在員を置く
同　八、一　承德火神廟日本商工會内に駐在員を置く
同　八、一　鞍山、圖們、牡丹江各案内所開設
同　一〇、一　「大連支部」を「滿洲支部」と改稱
同　一〇、二三　新京大同大街三中井百貨店内に

出張所を開設
昭和一一、一二　滿洲支部は奉天住吉町五奉ビル內に移轉
同　一二、二、一　哈爾濱ヤマトホテル內に出張所を開設
同　六、一　大連驛內出張所開設
同　六、五　四平街に駐在員を置く
同　七、一　青島新疆路出張所開設
同　七、一　天津福島街出張所開設
同　七、五　塘沽出張所開設
同　七、五　芝罘出張所開設
同　一二、七、七　龍口出張所開設
同　八、一　青島新疆路出張所を移轉し青島鐵山路出張所となる
同　八、一〇　四平街案內所開設
同　九、八　大連連鎖街出張所を開設
同　九、九　大連三越內出張所を開設
同　九、二五　承德案內所開設
同　一〇、一三　「北平案內所」を「北京案內所」と改稱
同　一三、三、一三　「旅行滿洲」を四月號より「觀光東亞」に改題
同　三、一五　北京駐在員設置　南京駐在員設置
同　五、一五　佳木斯案內所開設
同　六、一五　張家口案內所開設
同　七、一　石家莊案內所開設
同　七、一五　濟南案內所開設
同　七、一六　大同驛內に駐在員設置
同　七、三一　牡丹江案內所建築上棟式擧行
同　九、一〇　蘇州駐在員設置
同　九、一三　厚和駐在員設置
同　一一、一　杭州、大同、南京三案內所開設
同　一一、一五　滿支旅行年鑑創刊
同　一四、二、一三　延吉駐在員設置
同　二、一三　漢口駐在員設置
同　四、一　濟南大東公司內出張所開設
同　四、一　ツーリスト俱樂部を改組し旅行俱樂部竝滿洲旅行俱樂部聯盟を結成
同　四、一〇　北京宣外出張所開設
同　四、一五　大連西崗子出張所開設
同　四、一五　大連山縣通臨時出張所開設（閉所五月十五日）
同　五、二八　太原駐在員設置
同　六、一　新京興仁大路出張所開設
同　六、一　北戴河夏期出張所開設
同　七、一　延吉案內所開設
同　七、一五　新京ヤマトホテル出張所開設
同　八、一〇　第七次職制改正制定により支部內三課及華北出張所設置
同　八、一五　通化案內所開設
同　九、一　太原案內所開設
同　九、一五　哈爾濱昌平街出張所開設
同　一〇、一五　北京西城出張所開設
同　一〇、一五　天津東馬路出張所開設
同　一一、一五　羅津案內所開設
同　一二、一　漢口案內所開設
同　一二、一　青島奉天路出張所開設
同　一二、一一　大同站前駐在員事務所開設
同　一二、一五　吉林城內出張所開設
同　一五、一、一五　北京前門出張所開設
同　一、一〇　錦縣案內所錦華區大和街一番地に移轉
同　二、一三　羅津埠頭出張所開設
同　三、一　新京泰發號內出張所開設
同　三、一　徐州駐在員設置
同　三、三一　新京興仁大路出張所閉鎖
同　六、一　上海北四川路一三二四號華中出張所を新設し、中南支に於ける業務を擔當せしむ
同　六、一　華北出張所の組織、事務分擔職制一部改正實施
同　六、一　塘沽案內所新立街一九に開設
同　六、一　青島東海飯店出張所開設
同　六、一〇　徐州案內所月波鎭月波街四八に開設
同　七、一　開封案內所相國寺後街吳に開設
同　八、一　清津案內所朝鮮支部に移管
同　九、一五　保定案內所西關大街一二〇に開設
同　九、一五　蘇州案內所蘇州百貨公司內に新設
同　一〇、一　上海新アジアホテル內出張所開設
同　一〇、一五　天津站前出張所特別第三區新緯路九號に開設
同　一二、一〇　北京站內出張所京山線北京站內に開設
同　一二、二〇　華中支部新設に伴ひ上海案內所、上海四川路出張所、蘇州案內所、南京案內所、杭州案內所、漢口案內所を同支部へ廣東駐在員を本部へ移管
同　一二、二八　滿洲支部は奉天住吉町六に移轉
同　一六、一、三〇　佳木斯安民街出張所開設

同　二、八　德縣勞工協會內出張所德縣線市街二七滿洲勞工協會內に開設
同　二、二一　濟寧勞工協會內出張所濟寧城外柳巷街三二勞工協會內に開設
同　三、一〇　濟南普利門出張所開設
同　五、一　黑河案內所新設
同　五、二八　支部案內所業務開始十五周年記念式擧行
同　五、三一　奉天奉ビル內出張所開設

【昭和十五年度事業】・旅行斡旋及弘報關係分

◇一般旅客斡旋數

	昭和十四年度	昭和十五年度
四月	三七〇、三三三	七五七、六四九
五月	三三四、五九五	六二一、七八九
六月	三〇〇、一八〇	六六八、五〇七
七月	二六七、六三一	六六七、〇二七
八月	一九八、一〇八	七一六、〇五三
九月	三二二、七六〇	六二〇、六三〇
十月	三三七、二八七	六六七、九〇六
十一月	三九九、九一六	七七八、五一三
十二月	六九四、九二三	九四八、一一三
一月	五五一、〇〇〇	七一一、三一六
二月	七〇三、一四一	八七八、〇七一
三月	九五六、五一六	一、〇四六、四四三
合計	五、五二六、四七〇	八、八二〇、三一七

◇團體旅客竝特殊旅客斡旋數

	昭和十四年 件數	昭和十四年 人員	昭和十五年 件數	昭和十五年 人員
（團體斡旋）				
邦人團體 滿鐵指定	二、六二五	一二六、三〇八	一、八〇四	六六、一五三
邦人團體 其他邦人	二、三六四	八五、五三六	二、一一三	一〇六、八四五
滿支人	二、一三九	一六八、七四九	二、七八三	一九七、五七一
其他	六四一	四二、四七	五七二	一九、五九三
（特殊斡旋）				
邦人	一、五四三	三、七六八	一、三五七	六、四五三
其他	七四	四、三三九	四六〇	一、五九四
（合計）	一〇、〇二六	四二一、七四	九、一〇九	三九八、二九九

◇催行

一　刊行物

○「開拓地繪葉書」一萬組、○「佳木斯」五千部、○「牡丹江」五千部、○「山海關」一萬二千部、○「聖地巡拜の栞」一萬部、○「滿支旅行の指針」一萬部、○「滿洲生活案內」一萬部、○「サンマーハウス」一萬部、○「滿洲點描」一萬組、○「滿洲看板往來」五千部、○「青島」一萬部、○「中支旅館案內」二千部、○「滿洲旅館調」二千部、○「北支旅館調」二千部、○「滿支旅行年鑑」一萬部、○「開拓地の基本智識と指察の心得」一萬部、○「北京觀光案內」一萬部、○獨文「滿洲へ」五千部、○英文「滿洲へ」五千部

（二）映畫會

承德、錦州、山海關、滿洲里、海拉爾、齊々哈爾、哈爾濱、牡丹江（二回）、綏芬河、梨樹鎭、黑河、横道河子、大連、撫順、安東、錦州（二回）、鐵嶺、奉天（七回）、山海關、湯崗子、鳳城、綏中、義縣、阜新、鞍山、北票、朝陽、赤峯、承德

（三）展覽會

○滿洲觀光美術展（大連、奉天、新京、哈爾濱）
○ハイキングと觀光展（大連）
○遼西觀光資源紹介展（大連、奉天、新京、哈爾濱、錦州）
○大陸都市早廻競爭（滿日共催各交通機關後援、走破行程一萬粁、實施期四月）
○大陸紹介觀光寫眞懸賞募集
○催行援助（一）第一回觀光週間（觀光聯盟）、（二）日向建國博覽會、（三）大興安嶺猛獸狩　獵友聯盟、（四）第四回雁鴨狩獵大會（營口獵友會）

（四）文化映畫作製

・題名滿支點描、・卷數四卷、一千三百呎、・製作滿洲映畫協會

（五）夏季施設

○サンマーハウス設置箇所—興城、連山關、橋頭、溫泉寺、沙口、哈爾濱、吉林、鏡泊湖、山海關、利用者一、五八三名
○浮プール設置箇所—哈爾濱、松花江、利用者四、五〇一名

（六）觀光ポスター作製

○夏の滿洲二千枚、○ハルピン・イン・サムマー三千三百枚、○月刊「觀光東亞」每月一萬部、○月刊「滿洲支那汽車時間表」每月五萬部、○月刊「旅行情報」每月五千部○「簡易汽車時間表」二十萬部、○「資料通報」、○「支部報」、○「親和」

（七）圖書寄贈

○パンフレット類九萬四千部、○繪ハガキ一千組、○觀光東亞一萬三千八百五十部、○汽車時間表一萬二千二百三十四部

—・撫順の旅館・—

滿洲國興農部御指定
滿洲國郵政局御指定
滿洲國各官衙御指定

滿洲國撫順市

近江屋旅館

西四條通一
電話二〇八三番

いつも清新
いつも親切
驛より一丁半總てに御便利



撫順

琥珀泉

譽ケ丘

宴会に
食事と



宿泊に
温泉と

代表電話二一五六

—・哈爾濱の旅館・—

國際都市
ハルピンの中心地！



一、日本人商店街に近く、商銀行、工會議所、百貨店等に近接し交通至便然かも閑静
一、客室和洋四十室は各室に卓上電話洗面付
一、宿泊料（朝食付）五圓－十二圓 夕食二圓半

哈爾濱 水道街

榮屋ホテル

電話代表三一一六番

關東軍御指定旅館

NASIONAL HOTEL, HARBIN.

トーア・ツーリスト・ビューロー・クーポン御指定
關東軍 御指定旅館

哈爾濱

ナショナル・ホテル

地段街一一九號
電話交換台 代表三五一六番 三五一七 三五一八

（位置）交通至便ナ邦人街ノ中心地、官廳、銀行、百貨店ニ近接シ商用、觀光ニ御便利。
（客室）近代的和、洋四十餘室、宴會用廣間アリ。
（室料）合理的ナ室料制度四圓以上－十二圓迄。
（食事）營養豐富ナ……各種御定食ノ外和、洋、グリルニテハ御好ミノ品料理色々調進致シマス—
（奉仕）落付イタ家族的ナ暖味ノ中ニ御客樣方ニ奉仕サセテ戴キマス。

─・新京の旅館・─

官衙・銀行・會社ニ近接シ
交通・御用達ニ便利

國都でお泊りは……

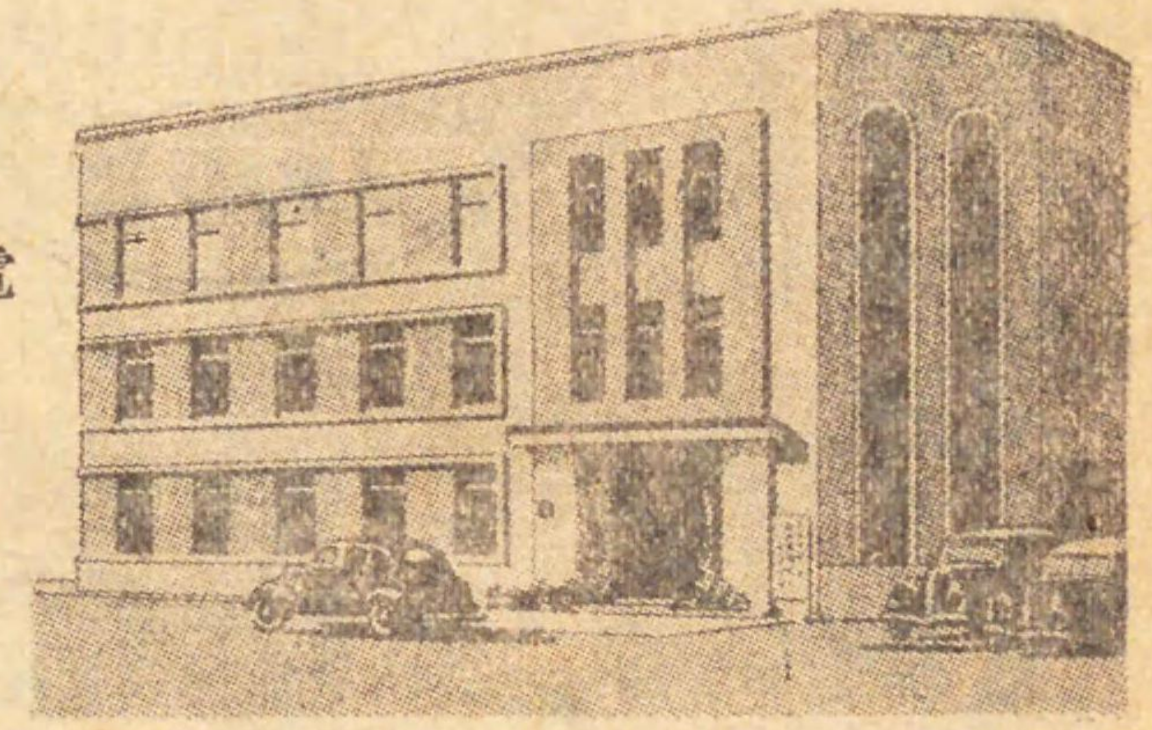
親切本位の

櫻ホテルへ

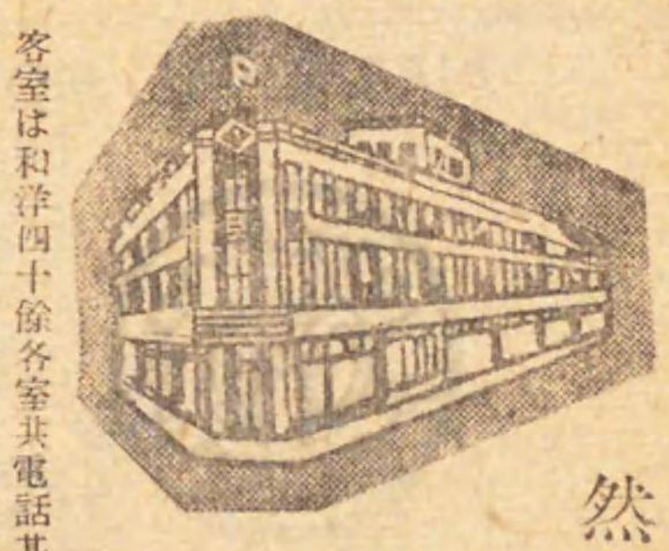
（電車通　三中井百貨店前）

本館
新京安達街五〇一
電話代表② 一八一五・一八一六

別館
新京豊樂路五〇八
電話② 一五四三・一五四四・六八八六



國都の繁華街にあり、御用達至便
然も御氣輕にお泊り願へる



客室は和洋四十餘各室共電話其の他完備
御室料三圓半より七圓半迄御隨意
新京驛にポーター御送迎致しをります

新京

太陽ホテル

永樂町一丁目
代表電話 三-四九一六・三-四九一七・三-四九一八番

新京

梅屋ホテル

八島通二十七號
電話（代表）二-二四〇三・二-八〇四八

和洋室
宿泊料七圓より

新築三階－客室完備
官衙・銀行・會社ニ近ク總テニ便利

─・塘沽の旅館・─



親切本位

北支・塘沽

富士屋ホテル

電話（長）一二七五番・一二五五番

部屋數 27
疊數 161
應接室 1
宿泊料6.00～15.00（食事付）

塘沽ホテル

河北省塘沽溝沿街
電話一二六・一二七

船車手荷物運搬

東亞海運
大連汽船 專屬

赤帽社

天津旅行案内處
（本店）天津日本租界曙街一五
電話（二）四四九
（支店）塘沽溝沿街一四號
電話一二六・一二七
北京城侯位胡同八號
電話（五）一一五五

旅館



二 主要地旅館數調

●本表は當部各案内所を通じ調査せるものなるが、滿支系旅館は現地の情況に依り相當調査困難なる箇所多く、且調査の範圍に於ても不同の點あり、實數は本表より可成り多數の營業者ある見込である。

【滿洲】

地名	日本旅館	朝鮮旅館	滿支旅館	外人旅館	備考
旅順	六	—	—	—	
大連	四六	六	六	八	
鞍山	三	—	[illegible]	—	
奉天	一二三	四八	四四	—	日・滿支系は下宿業を含む 鮮系は組合加入者のみ
撫順	四	[illegible]	[illegible]	—	
營口	[illegible]	[illegible]	一〇	—	滿支系は下級旅館省略
安東	一八	一九	一二三	—	同
本溪湖	[illegible]	—	[illegible]	—	同
通化	一〇	一〇	一[illegible]	—	
四平	七	一	[illegible]	—	
新京	四五	九	三〇	—	
吉林	一[illegible]	九	一五六	—	
圖們	九	三[illegible]	六	—	
延吉	七	二[illegible]	三	—	
哈爾濱	三六	[illegible]	一七	四	滿支系は下級旅館を省略
牡丹江	二	四二	九[illegible]	—	
佳木斯	二[illegible]	一[illegible]	一八八	—	
齊々哈爾	九	[illegible]	六四	一	
海拉爾	七	—	[illegible]	—	
滿洲里	[illegible]	—	二	二	
黑河	[illegible]	二	六三	—	
錦縣	一〇	二	一三	—	
承德	八	一	三	—	
羅津	一〇	[illegible]	—	—	（北鮮）

【中國・蒙疆】

地名	日本旅館	朝鮮旅館	滿支旅館	外人旅館	備考
山海關	七	三	五八	一	
唐山	六	一	三〇	—	
北京	五八	三	五九九	[illegible]	
天津	[illegible]	一七	六	一〇	中國旅館は日界のみの分
石門	一五	六	[illegible]	—	
保定	[illegible]	[illegible]	一三	—	
濟南	二[illegible]	七	七二	一	
青島	四六	五	六八	二	中國系は下級旅館省略
徐州	一[illegible]	八	[illegible]	—	同
連雲	[illegible]	—	—	—	
（新浦鎭）	（三）	（一）	（[illegible]）	—	
張家口	一六	一	七	—	中國系下級旅館省略
開封	七	[illegible]	四一	—	
大同	九	一	一五	—	中國系下級旅館省略
太原	一三	五	一三七	—	日系は下宿業を含む
厚和	七	一	[illegible]	—	中國系下級旅館省略
無錫	一	—	八[illegible]	—	
上海	五[illegible]	[illegible]	—	—	
南京	五[illegible]	[illegible]	七七	—	
鎭江	二	一	三[illegible]	—	
蘇州	二	—	三六	—	中國系下級旅館省略
杭州	六	—	[illegible]	—	同
漢口	六	五	一七八	[illegible]	
廣東	五	—	一二	二	中國系下級旅館を含まず他に臺灣旅館二

鮮滿支主要日本旅館調

▲滿洲

宿泊料金中
※印は食事なし室料
△印は一泊朝食附料金
其他は一泊二食(夕朝食)附料金

―大連・旅順線―

地名	旅館名	所在町	宿泊料 最高(圓)	宿泊料 最低(圓)
大連	大連ヤマトホテル(總局直營)	播磨町	(歐)※二〇・〇〇 (米)※二五・〇〇	※四・〇〇 ※九・〇〇
	星ケ浦ヤマトホテル(總局直營)	星ケ浦	(歐)※一二・〇〇 (米)※一七・〇〇	※五・〇〇 ※一〇・〇〇
	星ケ浦ヤマトホテル分館(總局直營)	同	(歐)※五・〇〇 (米)※九・五〇	三・〇〇 七・五〇
	遼東ホテル	大山通	※二五・〇〇	※三・五〇
	中央ビルホテル	西通	※一二・〇〇	※五・〇〇
	亞細亞ホテル	信濃町	※一五・〇〇	※四・〇〇
	天滿屋ホテル	西通	※一〇・〇〇	※三・〇〇
	花屋ホテル	信濃町	※八・六〇	四・〇〇
	東鄕旅館	同	※六・〇〇	四・〇〇
	東鄕別館	同	※六・〇〇	四・〇〇
	ナニワホテル	伊勢町	※六・〇〇	※二・五〇
	錦水ホテル	信濃町	※七・〇〇	五・〇〇
	南滿ホテル	東鄕町	※六・〇〇	四・〇〇
	東洋ホテル	伊勢町	※六・〇〇	四・〇〇
	磐城ホテル	監部通	※六・〇〇	四・〇〇
	鎮西旅館	信濃町	※七・〇〇	五・〇〇
	春田旅館	監部通	※六・〇〇	四・〇〇
	日本橋ホテル	大山通	六・五〇	四・五〇
	東旅館	伊勢町	七・五〇	四・五〇
	ヤマシロホテル	羽衣町	※七・〇〇	※三・〇〇
	大連ホテル	敷島町	七・〇〇	三・〇〇
	技術會館ホテル	東公園町	三・〇〇	均一
	雲水ホテル	佐渡町	五・〇〇	三・〇〇
	常盤ホテル	西公園町	五・〇〇	三・五〇
	大滿ホテル	大黒町	五・〇〇	三・〇〇
	曾我ホテル	奥町	五・〇〇	三・〇〇
	名古屋旅館	吉野町	五・〇〇	三・〇〇
	和泉ホテル	惠比壽町	五・〇〇	三・〇〇
	辰己旅館	常陸町	五・〇〇	三・五〇
	大和旅館	信濃町	五・〇〇	三・〇〇
	三杉旅館	浪速町	五・〇〇	二・〇〇
	大進旅館	惠比須町	六・〇〇	二・五〇
	日本旅館	西公園町	五・〇〇	三・〇〇
	北辰旅館	信濃町	四・〇〇	二・〇〇
	惠比壽旅館	惠比壽町	四・〇〇	二・〇〇
	北滿ホテル	大黒町	七・〇〇	四・〇〇
	鹿兒島館	常陸町	四・〇〇	二・〇〇
	港旅館	須磨町	四・〇〇	一・〇〇
	山岡旅館	吉野町	四・〇〇	二・〇〇
	大進旅館別館	信濃町	六・〇〇	三・〇〇
	大滿ホテル	惠比壽町	五・〇〇	三・〇〇
	北滿ホテル別館	大黒町	五・〇〇	三・〇〇
旅順	旅順ヤマトホテル(總局直營)	中村町	(歐)※二〇・〇〇 (米)※二五・〇〇	三・〇〇 八・〇〇
	旅順ヤマトホテル黄金臺別館	黄金山麓	(米)※一二・〇〇	九・〇〇
	旅順ホテル	青葉町	七・〇〇	四・〇〇
	防長旅館	同	七・〇〇	四・〇〇
	寶來館	乃木町	六・〇〇	三・〇〇

地名	旅館名	所在町	宿泊料 最高(圓)	宿泊料 最低(圓)
	富士屋旅館	乃木町	三・〇〇	一・五〇
	福壽館	朝日町	三・五〇	二・〇〇
	聖地會館	白玉山	四・五〇	二・五〇
奉天	奉天ヤマトホテル(總局直營)	浪速通	(歐)※二五・〇〇 (米)※二〇・〇〇	※三・五〇 八・五〇
	瀋陽館	琴平町	△二〇・〇〇	△六・〇〇
	ホービルホテル	住吉町	※一八・〇〇 ※二二・〇〇	※五・〇〇 ※四・〇〇
	大星ホテル	浪速通	※九・〇〇	※二・五〇
	大丸旅館	若松町	一二・〇〇	六・〇〇
	滿洲ホテル	浪速通	九・〇〇	五・五〇
	マルナカホテル	彌生町	※七・〇〇	四・五〇
	日滿ホテル	千代田通	※八・〇〇 ※五・五〇	※四・五〇 ※三・〇〇
	平安ホテル	平安通	七・五〇	六・〇〇
	昭和ホテル	千代田通	△六・〇〇	△二・五〇
	東亞旅館	平安通	七・〇〇	五・〇〇
	日進旅館	宮島町	七・〇〇	五・〇〇
	松島館	松島町	七・五〇	五・五〇
	九州館	浪速通	七・〇〇	五・〇〇
	一力旅館	同	八・〇〇	六・〇〇
	武藏屋旅館	宮島町	七・五〇	五・〇〇
	常盤旅館	同	七・五〇	五・五〇
	中央旅館	千代田通	八・〇〇	五・〇〇
	山陽ホテル	青葉町	※五・〇〇	※三・五〇
	浮月旅館	稻葉町	七・〇〇	五・〇〇
	オリエンタルホテル	千代田通リ	一〇・〇〇	三・〇〇
	身上旅館	住吉町	七・五〇	四・五〇
新京	新京ヤマトホテル(總局直營)	中央通	(歐)※二五・〇〇 (米)※二〇・〇〇	※三・〇〇 ※八・〇〇
	國都ホテル	同	※八・〇〇	※二・五〇
	大都ホテル	日本橋通	※一二・〇〇	※三・〇〇
	滿蒙ホテル	中央通	※一七・〇〇	※三・〇〇
	大和新館	東二條通	※七・〇〇	※三・五〇
	トキワホテル	中央通	一五・〇〇	五・〇〇
	櫻ホテル	安達街	一三・〇〇	三・〇〇
	同別館	豐樂路	一一・〇〇	七・〇〇
	三國ホテル	八島町	※八・〇〇	※三・〇〇
	太陽ホテル	永樂町	※七・五〇	※三・五〇
	新亞細亞ホテル	日本橋通	※七・五〇	※四・〇〇
	富士屋旅館	中央通	※七・〇〇	※三・〇〇
	松屋ホテル	興安大路	※七・〇〇	※三・〇〇
	天寶ホテル	天寶街	※八・〇〇	※三・〇〇
	新京ホテル	富士町	△五・〇〇	△三・五〇
	帝都ホテル	大經路	七・五〇	四・五〇
	大新ホテル	新發路	九・〇〇	六・五〇
	國際ホテル	中央通	△五・〇〇	均一
	旭ホテル	日本橋通	※五・〇〇	※三・〇〇
	大丸新館	錦町	※五・〇〇	※三・〇〇
	滿蒙旅館	大和通	七・五〇	三・五〇
	蓬萊ホテル	中央通	※五・〇〇	※三・〇〇
	國華ホテル	日本橋通	※八・〇〇	※四・〇〇
	梅屋旅館	三笠町	八・〇〇	七・〇〇
	協和旅館	日ノ出町	五・四〇	三・〇〇
	新都旅館	大和通	※四・五〇	※二・五〇
	喜久屋旅館	吉野町	※四・五〇	※二・五〇
	吉田屋新館	三笠町	五・五〇	三・〇〇
哈爾濱	哈爾濱ヤマトホテル(總局直營)	南崗車站街	(歐)※二五・〇〇 (米)※四〇・〇〇	※三・五〇 ※八・五〇
	北滿ホテル	新城大街	※一二・〇〇	※三・〇〇
	ニューハルピン	大直街	※二四・〇〇	※五・〇〇
	名古屋ホテル	石頭道街	※一三・〇〇	※六・五〇
	亞細亞ホテル	斜紋街	※一二・〇〇	※三・五〇
	ナショナルホテル	地段街	※一二・〇〇	※四・〇〇
	榮屋ホテル	水道街	一〇・〇〇	五・〇〇

	國際ホテル	斜紋一緯街	△七・五〇	△四・〇〇
	鶴屋旅館	斜紋街	六・五〇	四・七〇
	滿洲ホテル	大直街	八・〇〇	五・〇〇
	ホテル・モデルン	中央大街	※一一・〇〇	※六・五〇
	天滿ホテル	義州街	七・〇〇	五・〇〇
	滿平ホテル	斜紋五緯街	七・〇〇	五・〇〇
	東洋ホテル	地段街	八・五〇	五・〇〇
	大星ホテル	水道街	△六・五〇	△三・七〇
	都ホテル	郵政街	七・〇〇	五・〇〇
	松花ホテル	中國六道街	八・〇〇	五・〇〇
	北興ホテル	石頭道街	八・〇〇	五・〇〇
	哈爾濱ホテル	買賣街	六・〇〇	四・〇〇
	丸滿ホテル	工廠街	△八・〇〇	△四・五〇
	花屋ホテル	田地街	七・〇〇	五・〇〇
	大陸ホテル	モストワヤ街	七・〇〇	五・〇〇
金州	金州旅館	筑紫町	五・〇〇	三・〇〇
普蘭店	松山旅館	福壽街	六・〇〇	二・〇〇
瓦房店	みどり旅館	驛前	六・〇〇	三・〇〇
	榮泉旅館	常盤街	四・〇〇	二・〇〇
熊岳城	温泉ホテル	温泉街	七・〇〇	四・〇〇
	熊谷旅館	中央通	四・五〇	
蓋平	市來屋旅館	日新街	五・〇〇	三・〇〇
	松美家旅館	大堆子街	三・〇〇	
大石橋	梅廼家旅館	驛前	六・〇〇	四・〇〇
	末廣旅館	宣武街	五・〇〇	三・〇〇
	廣島屋旅館	石橋大街	五・〇〇	三・〇〇
	敷島旅館	同	四・五〇	二・〇〇
	梅月旅館	同	五・〇〇	三・〇〇
海城	大東旅館	大街	七・〇〇	三・五〇
	出雲屋旅館	同	七・〇〇	三・五〇
	海城ホテル	同	七・〇〇	三・五〇
湯崗子	對翠閣	自驛四二〇米	※一四・〇〇	※五・〇〇
	樂山荘	同	※三〇・〇〇	※一八・〇〇
	玉泉館		※四・五〇	※三・〇〇
	鶴泉別墅		※五・〇〇	※一・五〇
鞍山	近江屋ホテル	北二條通	一一・五〇	七・〇〇
	東屋旅館	元町一四	五・〇〇	三・〇〇
	昭和ホテル	北三條町	四・〇〇	三・〇〇
	太黒屋旅館	北一條町	五・五〇	四・〇〇
	日光旅館	榮町	四・〇〇	二・五〇
	久屋旅館	北一條町	四・〇〇	三・〇〇
	紅葉館	北二條町	六・〇〇	三・五〇
	鞍山旅館	驛前通	四・〇〇	二・五〇
	稲岡屋旅館	北一條町	二・五〇	
	日州旅館	南二條町	四・〇〇	二・〇〇
	島屋旅館	北三條町	六・〇〇	四・〇〇
遼陽	遼塔ホテル	昭和通	六・五〇	三・五〇
	内田旅館	同	六・〇〇	四・〇〇
	油屋旅館	幸町	六・〇〇	三・〇〇
蘇家屯	昭和旅館	昭和通	四・〇〇	三・五〇
	丸メ旅館	同	四・〇〇	三・五〇
鐵嶺	松花ホテル	中央通	七・〇〇	四・〇〇
開原	驛ホテル（總局直營）	驛舍樓上	※一二・五〇	均一
	花や旅館	東陽街	七・〇〇	四・五〇
	二葉旅館	開原大街	一〇・〇〇	五・〇〇
昌圖	天橋館	―	三・五〇	
四平	植半旅館	立一條通	八・〇〇	三・〇〇
	小松屋旅館	中央通	六・〇〇	四・五〇
公主嶺	公主嶺ホテル	堀町	七・〇〇	五・〇〇
	丸福旅館	花園町	八・〇〇	四・五〇

―營口・撫順・安奉線―

營口	清林館	旭街	一一・〇〇	四・五〇
	營口ホテル	同	八・〇〇	四・五〇
	靜の家	花園街	五・〇〇	三・〇〇
	寶滿旅館	南本街	四・〇〇	三・〇〇
撫順	炭礦倶樂部	西公園町	※一五・〇〇	※三・〇〇
	筑紫館本店	東一番町	一〇・〇〇	七・〇〇
	筑紫館支店	驛前	一〇・〇〇	四・〇〇
	近江屋旅館	西四條通	八・〇〇	五・〇〇
	壽旅館	永安大街	八・〇〇	四・〇〇
本溪湖	本溪湖ホテル	石山町	八・〇〇	四・〇〇
橋頭	富田屋旅館	驛前	六・五〇	三・〇〇
南坟	一二三屋旅館	同	四・〇〇	均一
草河口	大正旅館	草河口	五・〇〇	三・〇〇
連山關	都屋旅館	驛前	五・五〇	三・五〇
	松屋旅館	同	五・五〇	三・五〇
鷄冠山	鷄冠旅館	南町	四・〇〇	三・〇〇
鳳凰城	小林旅館	敷島町	五・〇〇	三・〇〇
	鳳凰旅館	同	四・五〇	三・〇〇
五龍背	五龍閣（總局直營）	―	※七・〇〇	※一・五〇
安東	安東ホテル	驛前	一五・〇〇	二・五〇
	滿洲旅館	五番通	八・〇〇	三・五〇
	元寶館	市場通	一〇・〇〇	四・〇〇
	富久壽美旅館	同	八・〇〇	三・五〇
	大和旅館	大和橋通	七・〇〇	四・〇〇
	日ノ出旅館	同	六・〇〇	三・〇〇
	日滿ホテル	同	※六・〇〇	※三・〇〇
	井筒屋旅館	五番通	六・〇〇	三・五〇
	ことぶき旅館	六番通	三・〇〇	均一
	紅屋旅館	三番通	六・〇〇	三・五〇
	櫻屋旅館	大和橋通	五・〇〇	三・五〇
	中央旅館、	同	五・〇〇	三・〇〇

―京濱・京圖・朝開線―

德惠	大黒旅館	中央大街	五・五〇	四・〇〇
陶頼昭	松花旅館	警察街	三・五〇	均一
三岔河	日本旅館	驛前	四・〇〇	均一
雙城堡	常盤旅館	協和街	五・〇〇	四・五〇
下九臺	清風館	九臺温泉	※八・〇〇	※四・〇〇
吉林	名古屋旅館	大馬路	※八・〇〇	※四・〇〇
	日滿ホテル	同	※一四・〇〇	※四・五〇
	三陽ホテル	南大路	※一〇・〇〇	※三・五〇
蛟河	松屋旅館	康德街	六・〇〇	四・〇〇
	大島旅館	同	六・〇〇	四・〇〇
	興亞ホテル	大馬路	六・〇〇	四・〇〇
敦化	富士屋旅館	凱旋通	七・五〇	三・五〇
	大泊旅館	驛前	七・〇〇	五・〇〇
	大正旅館	東門外	七・〇〇	四・五〇
明月溝	松屋旅館	滿洲街	一〇・〇〇	四・〇〇
朝陽川	山口旅館	驛前	五・〇〇	四・〇〇
延吉	ヤマト・ホテル	新安街	一〇・〇〇	四・五〇
	日本ホテル	新安路	一〇・〇〇	四・五〇
	カメヤ旅館	進學路	八・〇〇	四・五〇
圖們	カメヤ旅館	春風街	一五・〇〇	五・〇〇
	柳屋旅館	銀行街	七・〇〇	四・〇〇
	福屋旅館	春風街	七・〇〇	四・〇〇
	大和旅館	昭和區	七・〇〇	四・〇〇
	三重旅館	銀河區	七・〇〇	四・〇〇
龍井	間島旅館	吉大路	一三・〇〇	四・〇〇
	玉乃井旅館	廣東街	五・〇〇	四・〇〇

―圖佳・虎林線―

石峴	きくや旅館	―	二・五〇	二・〇〇
汪清	花屋旅館	大肚川旭町	六・〇〇	三・五〇
大荒溝	大黒屋旅館	昭和通	七・〇〇	三・五〇
天橋嶺	山城屋旅館	―	六・〇〇	三・五〇
	土佐屋旅館	驛前	四・五〇	三・五〇
春陽	文福屋旅館	―	六・五〇	三・五〇

鹿道	御多福	驛前	六・〇〇	四・〇〇
	大見屋	同	五・〇〇	四・〇〇
東京城	松屋旅館	城內	四・五〇	三・五〇
	明治屋旅館	驛前	五・〇〇	三・五〇
	富士屋旅館	城內	五・五〇	四・五〇
寧安	寧安旅館	城後街	八・〇〇	四・五〇
	日之本旅館	同	七・〇〇	四・五〇
	蓬萊旅館	西南門街	八・〇〇	四・〇〇
牡丹江	ヤマトホテル(總局直營)	太平路	※一〇・〇〇	※四・五〇
	富士屋ホテル	光化街	一六・〇〇	五・〇〇
	芙蓉ホテル	日昭街	八・五〇	五・〇〇
	常盤ホテル	圓明街	八・五〇	五・〇〇
	花屋ホテル	同	一〇・〇〇	五・〇〇
	福屋旅館	日昭街	一〇・〇〇	五・五・
仙洞	仙洞旅館	―	二・五〇	均一
林口	菊屋ホテル	驛前	一〇・〇〇	五・五〇
古城鎭	加賀旅館	同	四・五〇	均一
勃利	亞細亞ホテル	正直街	六・〇〇	五・〇〇
	東洋ホテル	同	六・〇〇	五・〇〇
	勃利旅館	南門街	七・〇〇	五・〇〇
千振	千振旅館	湖南營	三・〇〇	均一
	松乃家旅館	同	三・〇〇	均一
彌榮	第二共勵宿泊所	永豐鎭	三・五〇	三・〇〇
佳木斯	驛ホテル(總局直營)	驛舍樓上	※四・五〇	※三・〇〇
	伊勢屋旅館	南崗大街	一〇・〇〇	六・〇〇
	京都旅館	南崗通	八・〇〇	五・〇〇
	壽旅館	中央大街	六・〇〇	四・〇〇
	日の丸ホテル	向陽大街	一〇・〇〇	六・〇〇
	柳田旅館	南崗大街	六・〇〇	四・〇〇
	花屋ホテル	同	八・〇〇	六・〇〇
	佳木斯ホテル	同	六・〇〇	均一
	協和ホテル	中央大街	※二・五〇	※一・〇〇

	札幌旅館	驛前通	八・〇〇	五・〇〇
	太陽ホテル	南崗大街	一〇・〇〇	七・〇〇
滴道	陽明ホテル	―	一〇・〇〇	六・〇〇
	滿壽旅館	―	七・〇〇	五・五〇
鷄西	陸奥旅館	―	五・〇〇	四・五〇
平陽	麗陽館	平陽鎭	七・〇〇	五・〇〇
黑臺	陸奥旅館	―	五・〇〇	均一
東安	春州旅館	―	一〇・〇〇	六・〇〇
	末廣旅館	―	一〇・〇〇	五・〇〇
	櫻屋旅館	―	一〇・〇〇	五・〇〇
	東安ホテル	―	一〇・〇〇	六・〇〇
虎林	日の本旅館	―	六・〇〇	均一
	大和ホテル	―	六・〇〇	均一
虎頭	ウスリーホテル	―	七・〇〇	四・〇〇

―濱綏・拉濱線―

阿城	阿城旅館	通城街	四・〇〇	均一
珠河	富士屋旅館	驛前	六・〇〇	四・〇〇
	北海旅館	同	六・〇〇	四・〇〇
一面坡	一面坡ホテル	鐵道街	八・〇〇	五・〇〇
	丸越旅館	大直街	八・〇〇	五・〇〇
葦河	大和旅館	―	三・〇〇	二・〇〇
亞布洛尼	日乃本旅館	驛前	四・〇〇	均一
横道河子	ときわ旅館	水泉街	七・〇〇	四・〇〇
	別莊ホテル	同	六・〇〇	四・〇〇
愛河	拔河旅館	學堂街	三・五〇	二・五〇
	大黑屋旅館	同	五・〇〇	四・〇〇
穆稜	丸屋旅館	營寮街	六・〇〇	五・〇〇
下城子	下城子旅館	―	八・〇〇	六・〇〇
綏陽	櫻屋旅館	―	六・〇〇	五・〇〇
	東滿旅館	東街	六・〇〇	五・〇〇
綏芬河	綏芬旅館	大通街	八・〇〇	六・〇〇

	三若旅館	敎堂街	九・〇〇	五・五〇
	ボクラホテル	買賣街	九・〇〇	六・〇〇
	松尾旅館	敎堂街	五・〇〇	四・〇〇
新站	滿洲屋旅館	中央大街	四・〇〇	均一
山河屯	滿月旅館	南大街	三・〇〇	均一
五常	五常ホテル	東大街	四・五〇	三・五〇
	飯田旅館	同	三・五〇	均一
	榮屋旅館	西大街	四・〇〇	均一

―濱北・北黑・齊北・寧墨線―

呼蘭	建國ホテル	建國街	四・〇〇	三・〇〇
綏化	綏化ホテル	松木街	六・〇〇	五・〇〇
	北進ホテル	驛前	六・〇〇	五・〇〇
	協和ホテル	―	六・〇〇	五・〇〇
海倫	海倫ホテル	順天東大街	六・〇〇	五・〇〇
北安	大和ホテル	西松村街	八・〇〇	五・〇〇
	日乃丸旅館	東松村街	八・〇〇	六・〇〇
	東洋館	日滿街	八・〇〇	五・〇〇
龍鎭	北滿旅館	驛前	四・〇〇	均一
孫呉	興安ホテル	永代路	九・〇〇	六・〇〇
	孫呉ホテル	春陽街	八・五〇	五・〇〇
黑河	常盤ホテル	興隆街	一三・〇〇	六・五〇
	蔦屋旅館	興隆街	一三・〇〇	六・五〇
	丸金旅館	南大街	八・〇〇	五・五〇
	惠比壽屋旅館	近原路	七・五〇	五・五〇
克山	鶴屋旅館	城內	四・五〇	三・五〇
	かめや旅館	南大街	四・五〇	均一
泰安	彌生	北大街	七・〇〇	五・〇〇
寧年	寧年館	―	※二・〇〇	均一
訥河	富屋旅館	西大街	四・五〇	四・〇〇
	淸川旅館	河西大街	七・〇〇	五・〇〇
墨爾根	吉野屋旅館	南大街	七・〇〇	五・〇〇

―濱洲線―

滿溝	濱洲旅館	正陽街	四・五〇	三・〇〇
	日滿旅館	斜紋街	四・〇〇	均一
安達	安達旅館	南三道街	三・〇〇	均一
	佐賀旅館	北三道街	八・〇〇	六・〇〇
昂昂溪	昂榮旅館	中江街	五・五〇	均一
扎蘭屯	青木旅館	鄭政街	七・〇〇	四・五〇
	雙葉旅館	齊齊哈爾街	六・〇〇	四・〇〇
博克圖	興安旅館	一面街	五・〇〇	均一
	丸福旅館	興隆街	七・〇〇	四・五〇
海拉爾	呼倫ホテル	消防街	一〇・〇〇	六・〇〇
	蒙都ホテル	大通街	一三・〇〇	七・〇〇
	海拉爾ホテル	東二道街	一〇・〇〇	五・〇〇
滿洲里	東亞旅館	博土街	一一・〇〇	六・〇〇
	日本ホテル	二道街	一一・〇〇	六・〇〇
	玉屋旅館	同	一三・〇〇	七・〇〇

―京白・白阿・平齊線―

農安	玉屋旅館	東街	四・〇〇	均一
前郭旗	扶餘ホテル	福壽大街	四・〇〇	均一
	旭ホテル	同	四・〇〇	均一
阿爾山	阿爾山ホテル(總局直營)	阿爾山	六・五〇	五・〇〇
王爺廟	王爺廟ホテル	興德街	七・〇〇	四・〇〇
	滿蒙ホテル	興隆大街	四・〇〇	三・五〇
	アジア旅館	驛前	五・〇〇	均一
索倫	索倫旅館	索倫街	四・〇〇	均一
鄭家屯	鄭家屯ホテル	北大街	八・五〇	四・五〇
洮南	南滿旅館	康樂街	一三・〇〇	四・〇〇
白城子	富士屋ホテル	工商路	八・〇〇	六・〇〇
	八千代ホテル	成功路	七・〇〇	五・〇〇
泰來	靜屋旅館	驛前	三・〇〇	均一
	花湖屋旅館	國光街	四・〇〇	均一

齊齊哈爾	鐵道ホテル（總局直營）	驛舍	※三五・〇〇	六・〇〇
	龍沙旅館	永安大街	一二・〇〇	五・〇〇
	日の丸旅館	新馬路	一〇・〇〇	五・〇〇
	朝日旅館	永安里	一〇・〇〇	五・〇〇
	日の出旅館	龍門大街	一〇・〇〇	五・〇〇
	博來旅館	安寧街	八・〇〇	五・〇〇

——奉吉・平梅・梅輯線——

清原	初音旅館	清泉大街	三・〇〇	二・〇〇
山城鎭	多來福旅館	東門裡	四・五〇	三・五〇
梅河口	梅屋旅館	驛前	七・〇〇	四・五〇
朝陽鎭	福家旅館	西大街	五・〇〇	四・〇〇
磐石	磐石ホテル	城内	七・五〇	三・五〇
	鶴屋ホテル	驛前通り	一〇・〇〇	五・五〇
	笑福旅館	中央通	七・〇〇	四・〇〇
西安	スター旅館	長春街	六・〇〇	五・〇〇
	山田屋旅館	西寧門裡	五・〇〇	四・〇〇
	西安ホテル	永安西街	五・〇〇	三・〇〇
東豐	東豐旅館	城内	四・五〇	四・〇〇
通化	田村旅館	南關	八・〇〇	五・五〇
	多來福旅館	同	八・〇〇	五・〇〇
	水華園旅館	西南關	八・〇〇	五・〇〇
輯安	福井旅館	東盛街	五・〇〇	四・〇〇

——奉山・壺蘆島・大鄭線——

新民	新民ホテル	驛前	五・〇〇	三・五〇
	大和旅館	馬路街	五・〇〇	三・五〇
大虎山	大虎山ホテル	平安街	七・〇〇	五・〇〇
	伊豫屋旅館	大和街	六・五〇	四・五〇
	大和屋旅館	同	六・〇〇	四・〇〇
溝帮子	日乃本旅館	南新街	五四・〇〇	・〇〇
錦州	錦州ホテル	渡華街	一二・〇〇	三・〇〇
	昭和ホテル	三笠街	一二・〇〇	五・〇〇
	奉山ホテル	同	一三・〇〇	四・〇〇
	遼西ホテル	室町	六・〇〇	四・〇〇
	建國ホテル	大和街	一〇・〇〇	四・〇〇
	第一ホテル	銀座街	七・〇〇	四・〇〇
	協和旅館	三笠街	一三・〇〇	五・五〇
錦西	連山旅館	驛前	六・〇〇	四・〇〇
興城	溫泉ホテル（總局直營）	興城	※六・〇〇	※二・五〇
	滿月旅館	驛前	五・〇〇	均一
綏中	綏中旅館	大街	七・〇〇	五・〇〇
	日乃丸旅館	南門外大街	三・五〇	均一
壺蘆島	壺蘆島ホテル（總局直營）	埠頭	※四・五〇	※三・〇〇
	大和屋旅館	西山街	六・〇〇	五・〇〇
彰武	彰武旅館	縣公署前	六・〇〇	四・〇〇
	天心旅館	驛前	七・〇〇	五・〇
通遼	通遼ホテル	永福大街	九・〇〇	五・〇〇
	博多屋旅館	同	六・〇〇	五・〇〇
	白音太來旅館	同	七・〇〇	五・〇〇

——錦古・葉峰・北票・新義線——

義縣	菊水旅館	東街路北	四・〇〇	以上
朝陽	國際ホテル	北大街	八・〇〇	四・〇〇
	第一ホテル	西大街	七・〇〇	五・〇〇
葉柏壽	東洋ホテル	驛前	六・〇〇	三・五〇
	福壽ホテル	同	五・五〇	四・五〇
凌源	大和旅館	北大街	五・〇〇	三・〇〇
	龍月旅館	同	四・〇〇	三・五〇
平泉	日滿ホテル	中央大街	七・五〇	四・五〇
	平泉ホテル	同	八・〇〇	四・〇〇
	南海ホテル	五道街	八・〇〇	四・〇〇
承德	驛ホテル（總局直營）	驛舍樓上	※三・〇〇	均一
	梅屋旅館	西大街	七・〇〇	三・五〇
	承德ホテル	舊銀庫胡同	三・〇〇	五・〇〇

	春日旅館	太平橋通	七・〇〇	四・〇〇
	日光ホテル	同	七・〇〇	五・五〇
	松屋旅館	板棚街	八・〇〇	五・〇〇
古北口	古北口ホテル	驛前	一二・〇〇	六・〇〇
赤峰	都ホテル	五道街	一五・〇〇	五・〇〇
	赤峰ホテル	三道街	七・〇〇	五・〇〇
	不二ホテル	同	七・〇〇	五・〇〇
北票	大同ホテル	驛前	五・〇〇	均一
東阜新	白濱旅館	城内東大街	一三・〇〇	四・五〇
	榮ホテル	城内東新路街	六・五〇	四・〇〇
	妙法旅館	城内南大街	五・五〇	均一
	阜新旅館	城内新大街	五・五〇	三・五〇
	阜新ホテル	城内南一條街	四・〇〇	均一
西阜新	白翠ホテル	海州廟白柳街	※二〇・〇〇	四・五〇
	大和旅館	新興街	一〇・〇〇	六・〇〇

——鐵道總局自動車沿線——

園場	園場ホテル	三道街	五・五〇	均一
多倫	多倫旅館	牛市街	五・〇〇	四・五〇
開魯	興西ホテル	東大街	五・五〇	四・〇〇
烏丹城	壽ホテル	東門大街	五・〇〇	四・〇〇
	烏丹城ホテル	城内	六・〇〇	四・〇〇
林西	常盤ホテル	三道街	六・〇〇	四・〇〇
	林西ホテル	同	六・〇〇	四・〇〇
拜泉	花湘屋旅館	北二道街	四・五〇	均一

△朝鮮

平壤	鐵道ホテル	山手町	※三〇・五〇	※三・〇〇
	三根旅館	壽町	一五・〇〇	三・五〇
	朝日旅館	幸町	八・〇〇	三・五〇
	櫻旅館	旭町	七・〇〇	三・〇〇
	つはめ館	東町	四・〇〇	二・七〇
	青々館	南町	五・〇〇	三・七〇
京城	朝鮮ホテル	長谷川町	※三七・〇〇	三・〇〇
	備前屋	同	一〇・〇〇	四・〇〇
	天眞樓	南山町	九・〇〇	五・〇〇
	山本旅館	本町	七・〇〇	四・〇〇
	不知火旅館	旭町	七・五〇	三・五〇
	本町ホテル	本町	七・〇〇	三・〇〇
	京城ホテル	南山町	七・〇〇	四・〇〇
	笑福旅館	御成町	六・〇〇	三・五〇
	大塚旅館	同	九・〇〇	四・〇〇
	御成旅館	南大門通	七・五〇	三・五〇
	浦尾旅館	本町	七・〇〇	三・五〇
	三重旅館	蓬萊町	七・〇〇	三・〇〇
	二見旅館	古市町	七・〇〇	四・〇〇
	大東旅館	南大門通	六・〇〇	三・〇〇
	村上旅館	同	七・〇〇	四・〇〇
釜山	鐵道ホテル	驛舍樓上	※三〇・〇〇	※五・〇〇
	釜山ホテル	辨天町	四・〇〇	二・〇〇
	鳴戸旅館	大倉町	八・〇〇	三・五〇
	荒井旅館	榮町	七・〇〇	三・〇〇
	松島ホテル	岩南町	一〇・〇〇	三・〇〇
	花屋ホテル	大倉町	七・〇〇	三・〇〇
	松井旅館	同	五・五〇	三・〇〇
	岡本旅館	同	五・五〇	三・〇〇
朱乙	鮮仙閣	朱乙溫泉	一〇・〇〇	二・五〇
	千歳	同	一〇・〇〇	二・五〇
	萬翠	同	五・〇〇	二・五〇
	かねた溫泉館	龍郊洞	七・〇〇	二・五〇
清津	國際ホテル	新岩洞	一五・〇〇	二・〇〇
	櫻屋旅館	港町	五・〇〇	三・〇〇

	山陽館	大和町	四・〇〇	三・〇〇
	鷄林館	明治町	八・〇〇	三・〇〇
	淸進館	敷島町	四・〇〇	三・〇〇
	昌平館	稅關前	四・〇〇	三・〇〇
	浿花旅館	彌生町	八・〇〇	三・五〇
富寧	平和旅館	—	三・五〇	二・五〇
古茂山	梅旅館	富寧面柳坪洞	四・〇〇	三・〇〇
	とらや旅館	同	四・五〇	二・五〇
會寧	會寧館	四洞	七・五〇	四・〇〇
	博多屋旅館	一洞	一〇・〇〇	三・〇〇
	松屋旅館	二洞	七・〇〇	二・五〇
	丸中旅館	煮山洞	七・〇〇	三・五〇
上三峰	佐藤旅館	三峰洞	七・〇〇	三・〇〇
鐘城	福井旅館	錦山洞	七・〇〇	二・五〇
	大盛館	同	六・〇〇	三・〇〇
南陽	大田旅館	本町通	六・〇〇	三・〇〇
	九州館	同	六・〇〇	三・〇〇
	南陽館	同	六・〇〇	三・〇〇
穩城	松葉旅館	東和洞	四・〇〇	二・〇〇
訓戎	昭和旅館	豊舞洞	四・五〇	二・五〇
慶源	咸東旅館	檜洞	五・〇〇	二・〇〇
	長崎屋旅館	同	五・〇〇	二・〇〇
阿吾地	鳳屋ホテル	灰岩洞	八・〇〇	三・〇〇
	梅屋旅館	同	五・〇〇	二・〇〇
雄基	大和旅館	日の出町	一〇・〇〇	三・〇〇
	博多旅館	東本町	九・〇〇	三・〇〇
羅津	高砂旅館	大和町	七・〇〇	四・五〇
	草島旅館	同	一〇・〇〇	四・〇〇
	松屋旅館	末廣町	一〇・〇〇	四・〇〇
	寶來館	寶來町	四・〇〇	三・〇〇
	ヤマトホテル(總局直營)	元町	一八・〇〇	四・〇〇

△中國・蒙疆（一部支那旅館を含む）

—通州線—

通州	近水樓	西海子	一五・〇〇	九・〇〇
古北口	山陽館	北大街	六・〇〇	五・〇〇
	古北口ホテル	站前		五・〇〇

—奉山線—

北京	翠明莊	東安門大街	△三〇・〇〇	△七・〇〇
	扶桑館	東單牌樓	一五・〇〇	一〇・〇〇
	日華ホテル別館	東安門大街	一八・〇〇	六・五〇
	日華ホテル	洋溢胡同	一二・〇〇	六・五〇
	近水樓	景山後大街	三五・〇〇	一四・〇〇
	高島ホテル	餞量胡同	二五・〇〇	一三・〇〇
	ヤシマホテル	景山西門前	一六・〇〇	八・〇〇
	昭和ホテル	東四南大街	一五・〇〇	七・〇〇
	都ホテル	崇文門大街	一六・〇〇	四・八〇
	燕京旅館	扁擔胡同	一六・〇〇	四・八〇
	北京花壇	南河沿	一二・〇〇	五・〇〇
	松屋ホテル	東四七條胡同	一〇・〇〇	七・〇〇
	黎明館	豆腐巷	一〇・〇〇	七・〇〇
	松風旅館	蘇線胡同	一〇・〇〇	七・〇〇
	蔦屋ホテル	錫拉胡同	一〇・〇〇	六・五〇
	櫻ホテル	東四大街	一〇・〇〇	五・〇〇
	協和旅館	西裱褙胡同	一〇・〇〇	六・〇〇
	東京旅館	新開路	九・〇〇	六・〇〇
	富士屋ホテル	西總布胡同	一五・〇〇	九・〇〇
	北京飯店	東長安街	※二六・〇〇	※九・〇〇
	德國飯店	崇文門大街	※一八・〇〇	
	六國飯店	東交民巷	※三一・〇〇	※九・〇〇

天津	芙蓉ホテル新館	日界旭街	三五・〇〇	一三・〇〇
	ヤマトホテル	日界花園街	三一・〇〇	一〇・〇〇
	カメノキホテル	日界須磨街	二〇・〇〇	六・五〇
	常磐ホテル	日界壽街	四〇・〇〇	一三・〇〇
	平安ホテル	日界旭街	一五・〇〇	七・〇〇
	芙蓉ホテル別館	日界樂街	二三・〇〇	一〇・〇〇
	橘ホテル	橘街	一八・〇〇	八・〇〇
	曉ホテル	特三區一緯路	一〇・〇〇	四・五〇
	松島館	日界松島街	九・〇〇	七・〇〇
	副華ホテル	旭街	一〇・〇〇	五・〇〇
	芙蓉本館	曙街	一二・〇〇	七・五〇
	東站ホテル	特三區六經路	八・〇〇	五・〇〇
	北支ホテル	特三區一經路	一〇・〇〇	四・〇〇
	天津ホテル	同	一二・〇〇	六・〇〇
塘沽	塘沽ホテル	灘沿街	六・〇〇	四・〇〇
	富士屋旅館	新街	一七・〇〇	五・五〇
	宮島館	新豊街	八・五〇	六・〇〇
唐山	華北ホテル	西馬路	一五・〇〇	六・〇〇
	沖野屋旅館	同	八・〇〇	六・〇〇
	松屋旅館	平安東街	八・〇〇	六・〇〇
海濱	萬龍旅館	郭謝莊	八・〇〇	六・〇〇
	海濱賓館	草廠路	一〇・〇〇	六・〇〇
	同福飯店	保一路	八・〇〇	五・〇〇
山海關	西山飯店	西經路	六・〇〇	三・〇〇
	金山飯店	金山路	八・〇〇	六・〇〇
	東方賓館（東亞旅行社直營）	南門外	※九・〇〇	※五・〇〇
	東洋本館	同	一〇・〇〇	五・〇〇
	大和館	同	一〇・〇〇	五・〇〇
	日本館	同	一〇・〇〇	五・〇〇
秦皇島	日本館	站前	七・〇〇	五・〇〇
	秦皇館	西前街	八・〇〇	五・〇〇

—津浦・隴海線—

濟南	蓬萊賓館	緯二路	九・〇〇	五・〇〇
	鶴屋ホテル	二大馬路三緯路	三〇・〇〇	九・〇〇
	金水ホテル	緯二路	九・〇〇	五・〇〇
	大和ホテル	—	九・〇〇	四・〇〇
	都ホテル	—	五・五〇	三・五〇
	東亞ホテル	緯四路	一二・〇〇	四・〇〇
	箱根ホテル	四馬路緯三路	六・五〇	四・〇〇
	紅葉館	緯四路	九・〇〇	六・〇〇
	敷島ホテル	緯二路	六・〇〇	二・〇〇
泰安	泰安ホテル	財源街	六・〇〇	均一
	泰山旅館	同	六・〇〇	四・〇〇
兗州	姬路屋	站前	五・〇〇	均一
	榮旅館	同	三・五〇	二・〇〇
臨城	臨城ホテル	城內	四・五〇	
徐州	中央ホテル	公明街	一〇・〇〇	五・〇〇
	大和ホテル	大同街	一〇・〇〇	五・〇〇
	日の出ホテル	同	一二・〇〇	六・〇〇
	東旅館	順河街	一〇・〇〇	五・〇〇
	日本ホテル	津浦馬路	一〇・〇〇	五・〇〇
	鶴屋ホテル	同	一二・〇〇	六・〇〇
	千葉屋旅館	同	一〇・〇〇	五・〇〇
連雲	連雲ホテル	連雲港	一四・〇〇	七・〇〇
濟寧	大和ホテル	翰林街	八・〇〇	六・〇〇
	濟寧ホテル	文中學街	九・〇〇	五・〇〇
棗莊	玉水旅館	城內	※三〇・〇〇	※〇・八〇
商邱	歸德ホテル	中山街	八・〇〇	六・〇〇
開封	河南ホテル	相國寺後街	一五・〇〇	八・〇〇
	帝國ホテル	同前街	一五・〇〇	六・〇〇
	日東ホテル	新民大路	一二・〇〇	六・〇〇

	興亞ホテル	馬道街	10.00	6.00
	丸仲旅館	小紙坊街	10.00	6.00
	東亞ホテル	新民大路	10.00	6.00
	福岡旅館	教育廳街	8.00	6.00
	中央ホテル	新民大路	7.00	4.00
	平壤ホテル	相國寺後街	6.00	5.00

―膠濟線―

周村	宮崎旅館	站前	3.00	2.50
張店	大寶ホテル	和平街	10.00	6.00
	東寶閣	站前	10.00	6.00
黌山	淄川炭鑛ホテル	魯大公司境内	6.00	5.00
博山	信陽旅館	站前	5.00	均一
	姫路屋	同	5.50	均一
益都	青州旅館	站前	5.00	3.00
	益都ホテル	同	5.00	3.00
濰縣	濰縣ホテル	大馬路南段	7.00	4.00
	常盤ホテル	站前	3.00	1.50
坊子	坊子ホテル	三馬路	8.00	5.00
	都ホテル	一馬路	6.00	4.00
	美奈登旅館	二馬路	4.50	3.50
高密	大丸旅館	站前	6.00	5.00
膠縣	日華會館	進德街	5.00	均一
	松の屋旅館	太平街	4.00	2.00
藍村	裕長棧	站前	※1.20	均一
	中華旅社	同	※1.20	均一
青島	東海ホテル(華北交通會社直營)	湃泉路	(夏季)※70.00	※30.00
	大和ホテル	曲阜路一三	30.00	8.00
	長生園	太平角三路	15.00	8.00
	膠州灣ホテル	安徽路二二	30.00	8.00
	東洋ホテル	詔關路五〇	50.00	8.00
	觀光ホテル	湖南路七二		
	青島ホテル	廣西路一五	12.00	7.00
	中央ホテル	市場一路二七	10.00	7.00
	東山ホテル	長山路九	8.00	5.00
	松茂里旅館	中山路二二〇	15.00	6.50
	廣島ホテル	冠縣路九四	10.00	6.00
	あじやホテル	聊城路一八	8.00	5.00
	萬屋ホテル	冠縣路三〇	10.00	5.00
	ミクニホテル	觀海路二四	8.00	6.00
	常盤ホテル	高苑路一	10.00	6.00
	都ホテル	山東路八一	15.00	7.00
	銀杏ホテル	浙江路三	10.00	6.00

―京漢・正太線―

長辛店	長盛館	站前	※3.00	均一
保定	お政旅館	煤廠街	10.00	6.00
	大和旅館	西關大街	10.00	5.00
	松屋旅館	同	10.00	5.00
	筑紫旅館	城内唐家胡同	6.00	4.00
	華北ホテル	同	5.00	2.50
	玉屋旅館	西關大街	5.00	4.00
	保静館	煤廠街	6.00	4.00
正定	浪速館	城内學西門	5.50	均一
石門	日本ホテル	大同街	15.00	5.00
	北辰荘ホテル	電報局街	7.00	4.00
	松菊旅館	寺後街	8.00	5.00
	大和ホテル	親善街	7.00	5.00
	東光ホテル	共存街	5.00	4.00
	國際ホテル	新華街	5.00	均一
	玉の家ホテル	大同街	5.00	4.00
	三州旅館	中山街	5.50	4.00
	菊水ホテル	親善街	15.00	6.00

	三國ホテル	新興街	5.00	4.00
	第一ホテル	南大街	7.00	4.00
	浪速ホテル	共存街	7.00	5.00
	松屋旅館	阜康路	7.50	5.00
	北支旅館	共存街	5.00	4.00
	石家荘ホテル	親善街	8.00	5.00
順德	朝陽館	城内中山西街	10.00	4.00
	順德ホテル	城外尙的坊街	6.00	5.00
邯鄲	邯鄲ホテル	車站街	7.00	6.00
	三陽ホテル	站前	8.00	5.00
彰德	彰德ホテル	北廠街	8.00	6.00
	常盤ホテル	南廠街	5.00	4.00
	都ホテル	中山大街	6.00	5.00
	五省ホテル	城内北大街	5.00	3.50
新郷	大和旅館	保安街	10.00	6.00
	日本ホテル	新民街	10.00	6.00
	玉屋旅館	同	8.00	5.00
	新郷ホテル	新華街	7.00	5.00
陽泉	富士乃屋旅館	陽泉下站	6.00	4.00
	陽泉ホテル	同	6.00	4.00
楡次	東洋旅館	城外	3.50	2.50
太原	大和旅館	北門街	6.00	4.00
	太原旅館	萬壽街七	12.00	4.50
	大丸旅館	正太街	7.50	4.50
	晉都ホテル	小壕府一六	13.00	4.50
	迎賓館	西肖墻三六	6.50	3.50
	壽旅館	正太街	6.50	3.50
	金城旅館	首藏街六九	5.50	3.50
	櫻屋旅館	上官巷	6.50	3.50

―京包・同蒲線―

宣化	宣化ホテル	牌樓	6.00	3.00
	龍烟ホテル	城内草市街	9.00	6.00
張家口	日本旅館	東安大街	15.00	6.00
	中央飯店	中央大街	※13.00	※5.00
	都ホテル	輜重大街	12.00	9.00
	福榮旅館	鐵路斜街	15.00	6.00
	察南ホテル	宣化大街	13.00	6.00
	富士屋ホテル	東安大街	10.00	6.00
	廣島旅館	東安西街	7.00	均一
	喜久屋旅館	橋東大街	7.00	6.00
	富士屋旅館	東安街馬路三條	7.00	5.00
	大和ホテル	治安大街	13.00	6.00
	塞北館	興園巷	8.00	5.00
大同	晉北ホテル	城内大北街	15.00	8.00
	大同ホテル	城内蘭池街	10.00	6.00
	山西ホテル	城内大北街	11.00	6.00
	三鈴ホテル	城内大西街	13.00	7.00
	南海ホテル	城内司令部街	10.00	6.00
	甲州屋旅館	城内皇城廟前街	6.00	5.00
	松屋旅館	城外亥冬門外	11.00	6.00
厚和	日本ホテル	新城西大街	10.00	7.00
	神戸館	同	10.00	7.00
	厚和旅館	新城西落鳳街	10.00	7.00
	三鈴ホテル	北馬路	7.00	6.00
	大和旅館	舊城東順城街	10.00	7.00
	大青山旅館	舊城小南街	8.00	5.00
	綏遠ホテル	舊城鹽料街	7.00	5.00
包頭	包頭ホテル	塗爺師巷	10.00	6.50
	第一ホテル	富三元巷	8.00	6.00
	武藏屋旅館	小文明巷	4.00	均一
岱岳	大和ホテル	車站前街	5.00	4.00
朔縣	朔縣ホテル	城内	6.00	3.50
	うきよ旅館	同	7.00	6.00

寧武	花屋旅館	城内	八・〇〇	七・〇〇

—滬寧線—

上海	萬歲館	閔行路	三五・〇〇	一〇・〇〇
	林館	密勒路	一四・〇〇	八・〇〇
	豐陽ホテル	北海寧路	一三・〇〇	七・〇〇
	常盤館	乍浦路	一三・〇〇	七・〇〇
	東和洋行ホテル	北四川路	一八・〇〇	七・〇〇
	東洋旅館	密勒路	八・〇〇	六・〇〇
	中央ホテル	武昌路	一五・〇〇	六・〇〇
	海星館	海寧路	一五・〇〇	六・〇〇
	多摩ホテル	百老滙路	一六・〇〇	七・〇〇
	辰巳屋旅館	有恒路	一五・〇〇	八・〇〇
	八千代旅館	靶子路	一三・〇〇	六・〇〇
	大和ホテル	海能路	一三・〇〇	六・〇〇
	山崎ホテル	靶子路	八・〇〇	五・〇〇
	扶桑館	閔行路	一〇・〇〇	五・〇〇
	ブロードウエイマンション	百老滙路	シングル 一六・〇〇以上	ダブル 三五・〇〇以上
	江星旅館	文路	一〇・〇〇	六・〇〇
	江南館	閔行路	一〇・〇〇	五・〇〇
	上海帝國ホテル	西華德路	一〇・〇〇	六・〇〇
	東館	密勒路	一三・〇〇	七・〇〇
	青林館	長春路	一三・〇〇	五・〇〇
	アスターハウスホテル	黄浦路	三五・〇〇	一一・〇〇
	新生旅館	施高塔路	一四・〇〇	七・〇〇
	新亞細亞ホテル	北四川路	八・〇〇	均一
	新上海ホテル	崇明路	六・〇〇	均一
	日の丸旅館	呉淞路	一五・〇〇	七・〇〇
	揚子飯店	雲南路漢口路角	五・〇〇	均一
	一品香	西藏路	五・〇〇	均一
	大東旅社	南京路永安公司樓上	八・〇〇	均一
	東亞大旅社	南京路先施公司樓上	六・〇〇	均一
	新新旅社	南京路	六・〇〇	均一
	大中華飯店	西藏路四馬路角	五・〇〇	均一
	東方大旅社	西藏路廣東路角	五・〇〇	均一
	キャセイホテル	南京路	シングル 四五・〇〇以上	ダブル 七五・〇〇以上
	パークホテル	靜安寺路	シングル 三五・〇〇以上	ダブル 六五・〇〇以上
	パレスホテル	南京路	シングル 三五・〇〇以上	ダブル 六五・〇〇以上
	メトロポールホテル	四川路江西路	シングル 三〇・〇〇以上	ダブル 五〇・〇〇以上
	ニューロイヤルホテル	靜安寺路	シングル 三〇・〇〇以上	ダブル 四〇・〇〇以上
蘇州	繁廼家	閶門外庄濟橋	一三・〇〇	一〇・〇〇
	敷島館	平門路	八・〇〇	六・五〇
	蘇州ホテル	閶門外庄濟橋	八・〇〇	三・〇〇
	爵祿飯店	觀前街	三・〇〇	一・〇〇
	樂鄉飯店	大井巷東首	九・〇〇	二・〇〇
	江蘇飯店	金門外飯居美	三・五〇	一・〇〇
無錫	維新ホテル	城内新彩路	一〇・〇〇	六・〇〇
	京滬飯店	城外通運路	八・〇〇	二・三〇
	東方花園飯店	城外通滙路	四・八〇	一・〇〇
	中南飯店	城外通運路	五・〇〇	一・七〇
	大新飯店	城外太平巷口	三・七〇	二・〇〇
常州	大道旅館	城内東横街四一	九・〇〇	四・〇〇
	平和莊	驛前通	四・〇〇	均一
	中和新旅社	城内大廟街口	二・〇〇	〇・七〇
	大陸飯店	城内烏龍庵底	二・〇〇	〇・七〇
	大成旅館	城内仁育橋龍天家街	二・〇〇	〇・七〇
鎭江	鎭江館	中山路王通事	一〇・〇〇	六・〇〇
	日華ホテル	觀音洞	一〇・〇〇	六・〇〇
	金山飯店	伯先路	四・〇〇	二・〇〇
	鎭江飯店	中山路	三・〇〇	一・五〇
	大東飯店	寶蓋路	三・〇〇	一・〇〇
	東亞飯店	南馬路	三・〇〇	一・〇〇
揚州	柳屋旅館	揚反院大街星宮	八・〇〇	均一
南京	首都飯店（華中鐵道直營）	中山北路	三〇・〇〇	七・〇〇
	揚子ホテル	下關中山橋畔	一三・〇〇	七・〇〇
	野田屋	下關商埠街	八・〇〇	七・〇〇
	福昌ホテル	中山路	三三・〇〇	六・〇〇
	南京ホテル	太平路	三〇・〇〇	九・〇〇
	寶來館	延齡巷	三五・〇〇	八・〇〇
	國華ホテル	白下路	一五・〇〇	八・〇〇
	福田屋	中山東路	一五・〇〇	八・〇〇
	日進旅館	國府路西街	六・〇〇	均一
	大和旅館	中山東路	一〇・〇〇	六・〇〇
	泰山閣	碑亭巷	一五・〇〇	八・〇〇
	玄武莊ホテル	中山東路	八・〇〇	五・〇〇
	京ビルホテル	中山路	一三・〇〇	七・〇〇

—滬杭・蘇嘉線—

嘉興	煙雨樓（華中鐵道直營遊覽地）	南湖		
	東陽館	東門城基路	五・〇〇	均一
	東亞新旅社	明光大馬路	一三・〇〇	〇・六〇
松江	交通旅社	城外西門外街	一・六〇	〇・五〇
	大華旅館	城外西門外街	二・四〇	〇・七〇
杭州	西冷飯店（華中鐵道直營）	裏西湖	※三五・〇〇	※五・〇〇
	新新旅館	同	一三・〇〇	八・〇〇
	常岡ホテル	延齡路	一三・〇〇	六・〇〇
	聚英旅館	教仁街	※六・〇〇	※三・〇〇
	滄州旅館	湖濱路	※五・五〇	※一・二〇
	環湖旅館	同	※四・八〇	※〇・七〇
	興華公寓	延齡路	※二・七〇	※一・〇〇
	新泰旅館	同	※二・五〇	※〇・六〇

—其他地方—

蕪湖	新田旅館	中山路	一三・〇〇	五・〇〇
	東京旅館	公園路	五・〇〇	均一
	中央飯店	四明路吉祥寺	二・五〇	一・二〇
	江南旅館	公安街	三・四〇	一・〇〇
	安樂旅館	大馬路	二・四〇	〇・六〇
	滙中旅館	中山路	二・四〇	一・五〇
	中南大旅社	公園路	二・四〇	一・〇〇
	鳳宜樓大旅館	下二街	五・〇〇	一・〇〇
	大方旅館	迎江街	三・〇〇	〇・七〇
浦口	旭旅館	大馬路	二・〇〇	一・五〇
滁縣	東亞旅館	城内	一・四〇	〇・七〇
	滁陽旅館	城内	一・二〇	〇・七〇
明光	東亞新旅社	大馬路	二・〇〇	〇・八〇
蚌埠	維新旅館	二馬路	五・〇〇	四・〇〇
	名津川ホテル	大馬路	六・五〇	均一
	大和旅館	中山街	三・五〇	均一
	皖淮旅社	二馬路中興街	二・五〇	均一
	交通旅館	二馬路	四・〇〇	二・〇〇
	大和旅館	中山街	四・〇〇	二・〇〇
巢縣	大東旅社	東門外	一・〇〇	〇・六〇
盧州	松屋旅館	城内小東門街	五・〇〇	四・〇〇
九江	花園旅館	環城路	一〇・〇〇	四・〇〇
	平和ホテル	大仲路	六・〇〇	三・五〇
	增田旅館	同	八・〇〇	四・〇〇
	揚子旅館	同	四・〇〇	一・二〇
漢口	中央ホテル	阜昌街	二〇・〇〇	二・〇〇
	揚子江ホテル	江灣路	一五・〇〇	八・〇〇
	武漢ホテル	蘭陵路	一五・〇〇	一〇・〇〇
	福昌ホテル	江漢路	一〇・〇〇	八・〇〇
	富貴館	中山路	八・〇〇	六・〇〇
	壽旅館	民權路	六・〇〇	均一
廣東	新華ホテル	太平路	四〇・〇〇	一〇・〇〇
	松原ホテル	同	二〇・〇〇	一〇・〇〇
	愛群ホテル	大馬路	三〇・〇〇	八・〇〇
	玉家旅館	[illegible]東路	一五・〇〇	八・〇〇

關東軍
陸軍運輸部
陸軍關東倉庫
陸軍兵站部
御指定旅館

大連

鎮西旅館

大連市信濃町（浪速町角）
浪速町電車停留場前
電話 二一七一四六番
二三六八二番

○純和室五圓より

陸軍
滿鐵會社
大阪商船
御指定旅館

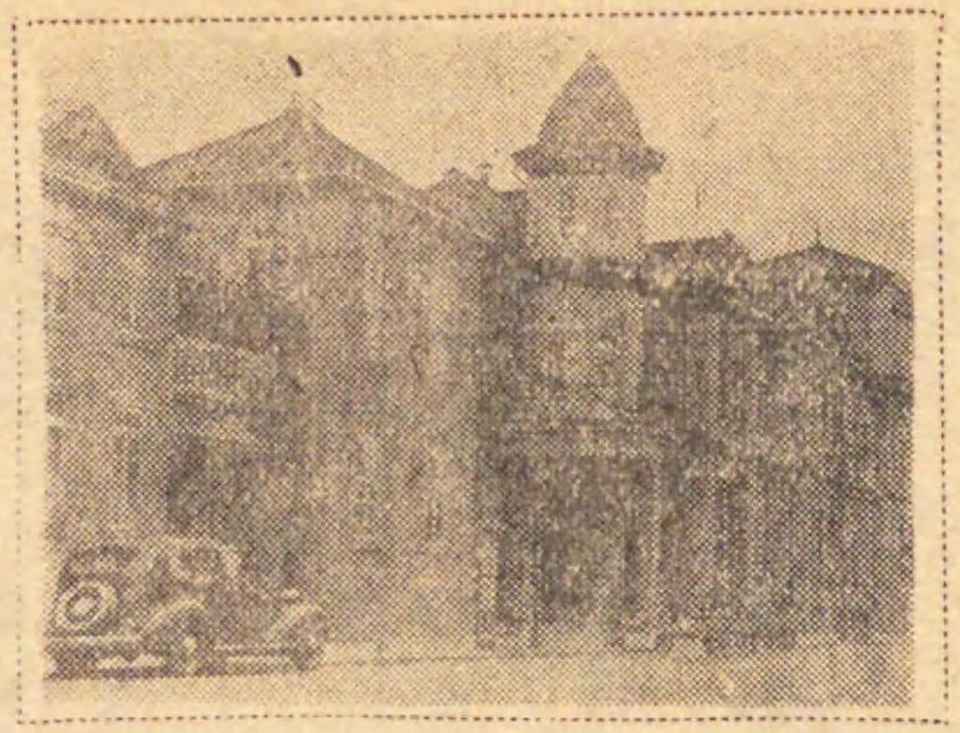
便利で閑靜・サービス第一旅館

㊞錦

錦水ホテル

大連信濃町一一八
電話 長二一七四四一
二一七一八七

御宿泊料（和室）五圓より



位置｛市の核心、連鎖街、浪速町の中心に在り
驛より三分―埠頭より十分―御用達至便

客室｛和洋兩式各室完備
特に和室の閑雅は御旅情を慰むるに充分

宿料（夕・朝二食付）
本館―五圓以上
別館―四圓以上
茶代拜辭

御指定
關東軍
旅順要塞司令部
南滿洲鐵道會社
大阪商船會社
大連汽船會社

(H)

大連信濃町三五

東郷旅館

電話
本館 二一五四八九
二一八一六六
別館 二一八一六七
二二〇〇八

新築の近代式ホテル

・大連驛前通りを徒歩で三分
・大連名所…連鎖街（商店街）三越デパート及交通會社（市内外・旅順・金州・其他行バス發着所）に近接し電車・バス・自動車等交通至便
・各方面への御用達には至つて御便利



・建物―新築五階建閑靜・エレベーター・其の他近代的ホテルとして設備完全
・客室―和室・洋室共御隨意
・御室料―金三圓より金七圓迄

大連

ヤマシロホテル

羽衣町（三越裏通）電話③1895

府縣人會

●大連

府縣名	所在地	代表者名	在住者數
秋田	連鎖街ワゴー果物店內	石田貞藏	
宮城	白菊町一一	櫻井勘四郎	
福島	伏見町五四		
茨城	山縣通八八滿昌洋行	若月太郎	
栃木	桃源台柴田醫院	柴田博陽	
神奈川	但馬町五二高木商店	中村榮吉	
靜岡	伊勢町六二滿蒙工業所	太田信三	
長野	近江町八	鳥羽實	
加越能郷友會	常盤町四三福井商工社	高柳保太郎	
和歌山	山縣通三四物產販賣斡旋所	三浦直彥	
丹後	月見ヶ岡三一七	川島成光	
岡山	但馬町一二	小野實雄	
島根	近江町八	鳥羽實	
德島	山縣通一〇〇阿波共同汽船	原正平	
香川	天神町三九	藤井正朝	
愛媛	若狹町二六	松本文三郎	
高知	羽衣町大連市場	近森正基	
福岡	櫻町四六	村井啓次郎	
佐賀	西公園町一二一	今村貫一	
長崎	楓町四〇	久保田賢一	
鹿兒島	龍田町	伊東三吉	

●旅順

山口	朝日町一丁目三九	井町正八	五六三
佐賀	嚴島町一四	山口世基	七九四
山形	乃木町三丁目五五	蟻川久太郎	一九七
長崎	中村町一一	麻生茂	一,〇七一
長野	金比羅町九石井太三郎方	田中稔	三七二
宮城	善通寺町四旅順公學堂內	小倉勉	三一〇
大分	鯖江町五一	田邊公彬	四八八
靜岡	名古屋町六	仲野嘉與作	三五三
熊本	青葉町五七	長溝學	八四六
宮崎	柳町一九ノ一	黑木重繼	三〇四

●鞍山

廣島	北三條町中本商會	福井眞
富山	北二條町能登屋內	能登屋久松
山梨	北二條町六三	小林壽
鳥取	北三條町四一	桑田幸治
鹿兒島	北三條町三六	星原實
岐阜	北三條町三二	永井精三
熊本	南三條町二七	梅原一夫
靜岡	南驛前通五〇	野毛四郎
秋田	南十一條	太田武夫
和歌山	北二條町三中井	宮本義一
大分	北六條町九	坂本太市
宮城	北三條町三八	佐藤信一
山口	南驛前通六四	叶井貫一
佐賀	南三條町九ノ二	中牟田喜一
宮崎	北二條町六五ノ二	福塚榮
長崎	北三條町一〇ノ二	神田藤兵衛

●遼陽

秋田	初音町	藤島佐助	三三
福島	昭和通	山寺壽作	八〇
栃木	同	腰高治助	五〇
埼玉	本町	山村惠伊	九五
東京	同	杉田伊太郎	七〇
長野	櫻木町	內樹德松	七〇
靜岡	昭和通	西島助太郎	六五
富山	京町	西村茂	四五
岐阜	住吉町	林禮吉	五〇
和歌山	本町	玉木憲作	五〇
廣島	初音町	幸川幸次郎	二三〇
香川	朝日通	八木弘	六〇
愛媛	本町	渡邊國次	八〇
大分	仲町	赤松純平	七〇
熊本	本町	西田爲次郎	二八〇

●奉天

宮城	千代田通二	千葉蔚	一,〇〇〇
山形	琴平町	高橋誠一	三〇〇
福島	淀町一二	染谷保藏	二〇〇
群馬	萩町四二	朝香四郎	一五〇
埼玉	宮島町二	野本	
千葉	柳町一一	和田實	二〇〇
神奈川	八幡町八	安川松五郎	二〇〇
靜岡	琴平町一五	藤曲政吉	二五〇
三州會	小北門外	手塚安彥	五,〇〇〇
愛知	萩町一七	文瀨文雄	一〇〇
岐阜	橋立町一七	大橋槇	一八〇
新潟	西塔大街	西卷豐之助	八〇
長野	淀町一〇	飯島慶藏	

富山	隅田町五	中川芳三郎	二八〇
石川	八幡町一二	飯島滿夫	三〇〇
福井	竹園町三	佐久間章	五五〇
滋賀	木曾町九	石田武亥	
奈良	稻葉町三	吉川康	一五〇
三重	十間房	出口源之助	三〇〇
和歌山	宇治町三	松井常三郎	五〇〇
大阪	吉野町七	中田卯四郎	三五〇
兵庫	浪速通二四	藤田九一郎	二〇〇
岡山	浪速通	植田梶太	四,〇〇〇
廣島	隅田町一一	山本	五〇〇
山口	萩町三三	永尾龍造	二五〇
香川	紅葉町四	山崎正助	二,〇〇〇
愛媛	江島町一三	峰節翁	二六〇
土佐會	小西關	山下永華	三五〇
福岡	平安通七	鍋山	一五〇
大分	信濃町二三	河村穎	二〇〇
佐賀	住吉町五泰ビル	野中久太	三五〇
長崎	木曾町一一	西田讓一	四〇〇
熊本	平安通三八	安藤基平	七〇〇
宮崎	琴平町	前川藤吉	六,〇〇〇

●營口

宮城	滿洲電業會社	佐藤信行	七〇
青森	第二國民高等學校	外崎敏雄	三九
山形	商工公會	安彥英藏	三八
新潟	東亞煙草工場内	青木猶吉	三三
富山、石川、(加、越能)、茨城、栃木、	千代田街	刑部茂三郎 秋山保太郎	四三
群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川七縣	花園街	新條森	四八
長野	日本生命代理店	福島正雄	三八
愛知	營口新聞社内	古川米吉	二七
靜岡	花園街 田口商店	增田隆治	四九
三重	有志的會合		
兵庫	永世街回天堂	北原紋吉	三三
鳥取	有志的會合		
岡山	營市街營口印刷所	佐々木正章	四八
廣島	營口畜產會社内	豐田良造	一〇四
山口	石炭販賣組合藤永	有福和一	一一七
德島	千代田街山内堂	阿部勘七	三一
香川	花園街 須崎吳服店	三島輝善	二七
愛媛	花園街 菊屋商店	黒川原藏	三〇
高知	有志的會合		
福岡	花園街 樋口印刷所	樋口親藏	六八
佐賀	千代田街 大瀨洋行	山本土岐彥	四一
長崎	水道會社内 丸屋	原田喜八郎	一三
熊本	入船町 松田洋行	隈部廣泰	一三〇
宮崎	南本街 壹岐製作所	壹岐均平	六一
鹿兒島	青柳街 川畑組	川畑喜次郎	一八三

●撫順

山口	東三條通四九	淺田倫治	三六〇
廣島	永安大街二	住田定一	四三〇
宮城	炭礦工事事務所	馬場彰	二七〇
熊本	南臺町一丁目四	棟久藏	三三〇
鳥取	北臺町一丁目二	南家碩次	一九〇
加越能友	東三番町五〇	寺西圭之	一四〇
佐賀	西五條通三六	伊藤熊治郎	四六〇
島根	東一番町三五	中原祥光	二四〇
大分	東一番町九	有瀨修二	二六〇
宮崎	南臺町一ノ一	後藤俊次郎	三一〇
鹿兒島	東三番町二二	川路喜平	一,七四〇
岡山	東七條二八	蜂谷文平	五四〇
長野	東四條通七〇	中島右仲	一七〇
三重	東三條通五五	竹内敬美	一三〇
福島	南臺町二ノ一〇	武田勝利	一七〇
岩手	東八條四四	古川泰藏	一〇〇
山形	東三條通九九	淺井照次郎	一三〇
茨城	南臺町一ノ四	宮本愼平	一三〇

●本溪湖

新潟	太子河	山下寛	一一五
群馬	採家屯公司社宅	石田貢	一一五

●安東

廣島	市場通一丁目	太原清逸	七〇七
德島	驛前堀割通	中川憲義	三〇八
新潟	興隆街興銀支店 野澤氏氣付	金子富江	二二五
山梨	六番通三丁目	新田忠平	一〇三
長野	大和橋通五丁目興銀支店一忠宗雄氣付	雨宮韶	二〇四
福井	江岸通二丁目 川崎製材所	川崎潔	一七五
加越能	六番通六丁目	大倉太七郎	五三九
愛知	驛前三番通	小島鈒一	五三六
三重	五番通八丁目陳天號	近藤松五郎	二二八
奈良	市場通九丁目 辻山洋行	山縣寅吉	一一三
京都	市場通五丁目	川勝正三郎	二〇一

大阪	四番通五丁目	藤原秀吉	三七四
和歌山	市場通四丁目文榮堂	弓倉悅藏	一八九
鳥取	驛前二番通一五	村山眞治	二〇八
岡山	六番通七丁目	岡本東洋男	四四一
愛媛	市場通五丁目 ダルマ商會内	高橋逵敏	五三六
香川	東山手町安東寺	井上信義	二七六
島根	堀割南通四丁目 相生寺	河谷正憲	四二九
三州	大和橋通一丁目 安東新聞社	川俣篤	五〇〇
熊本	大和橋通三丁目 日の出旅館	山下五郎	一,〇二九
福岡	大和橋通七丁目	草薙強太郎	一,〇八九
大分	市場通	武藤靜夫	七三三
岐阜	江岸通	武藤守一	一六五
山口	大和橋通八丁目 安東商事株式會社内	佐戸正人	八六九
佐賀	市場通四丁目 坂井屋商店	野田茂	六八六
茨城	八番通四丁目	飯野伯重郎	三六四
兵庫	市場通一丁目 西播洋行	大西朝二	四三〇
靜岡	七番通四丁目	八木元八	二九九
埼玉	六番通五丁目	阿部卓爾	八四
宮城	驛前六番通	水間讓之助	一六六
栃木	三番通四丁目 三省精米所	影山常三郎	三一一

●鐵嶺

鹿兒島	松島町	松田三之助	二二〇
長崎	同	尾上千萬太	二〇
福岡	花園町	平田淳	七〇
新潟	松島町	野口三郎	二〇
愛媛	中央西街	紀藤義也	四〇
青森	北五條通	下山恭次郎	一五
鳥取	同	橋本勝藏	一五

●四平

山形	南四條通	小林國治	三六
茨城	同	橋本房吉	九〇
岐阜	紅梅町二木桂三郎方	鹽谷要藏	六〇
愛知	北七條通 東本願寺方	天野東	二〇
長野	中央通	田中昂治	二〇八
加越能	中央通六	竹村石次郎	一四一
岡山	南二條通	原田親一	一,一三〇
山口	北二條通	小坂道明	六〇三
四國	南四條通 山櫻社	島村喜久馬	三三〇
佐賀	北三條通 三共洋行	光野文市	二六〇
長崎	北三條通五六	相川庄四郎	二一〇
熊本	昭平橋通一九	千代野甚五郎	四,四〇〇

●公主嶺

新潟	櫻町	本井義雄	三六
熊本	敷島町一丁目	野島茂幸	二五〇

●新京(十四年調)

青森	東朝陽路四〇三	工藤忠	七〇〇
岩手	永樂町三ノ一六	四戸友太郎	九〇〇
秋田	東二條通二五鎌田方	高橋康順	八五〇
宮城	八島通五	畠田源五郎	一,六〇〇
福島	東五條通一三 櫃田商店	穴澤喜壯次	一,六五〇
茨城	朝日通二五大陸公司	小泉三郎	一,五〇〇
栃木	入船町四ノ一酒井組		一,六五〇
群馬	吉野町一ノ一五 石川自轉車店	星野直樹	八〇〇
埼玉	曙町二ノ二二堀井方	中島比多吉	六〇〇
神奈川	敷島通二四一	佐藤精一	六五〇
新潟	崇智路三〇	本間德松	三,一〇〇
富山	永樂町二ノ一一 仲田方	仲田三郎	一,八〇〇
石川	祝町三ノ一七泰正號	兵部潤一	七〇〇
福井	日本橋通一六阿川組	宇野常吉	五五〇
長野	中央通一五	松島鑑	六〇〇
岐阜	日本橋通二〇	林金次	二,七六八
滋賀	祝町二ノ二 井上吳服店	松岡彌三郎	六五〇
德島	室町二ノ一三	沖津亘	七〇〇
香川	老松町二ノ三 天野商店	長尾吉五郎	一,三〇〇
愛媛	三笠町三ノ二	松田金太郎	七〇〇
福岡	東二條通三四 福信金融	石橋米一	四,五五〇
大分	老松町一一	得丸助太郎	三,六〇〇
佐賀	入船町四ノ二五 佐藤商店	佐藤宇治太郎	三,六〇〇
長崎	三笠町三ノ一四 盛倉農具店	荒木信光	三,六〇〇
三州會	吉野町一ノ二 隆泰公司	島石福十郎	五,六〇〇
北海道	大經路五三	八卷清泰	二,六〇〇
山梨	大經路三六 井上洋服店	岡間田斐之助	七〇〇
靜岡	興安大路四〇八	棒葉司含	七〇〇
愛知	東三條通 科野洋行	淺井庄一郎	一,五〇〇
三重	西廣場國民學校	瀨川順平	七〇〇
京都	永樂町二ノ一〇	大原萬千百	四五〇
奈良	日本橋通二三	木城德太郎	七〇〇
兵庫	祝町二ノ一八	河本大作	三,五〇〇

和歌山	東四道街一六	宇戶修太郎	七〇〇
島根	蓬萊町一ノ三 大新ホテル	影山泉造	五五〇
岡山	梅ヶ枝町三ノ二 吉備洋行	三宅享太郎	七〇〇
廣島	新發路一〇一國通	廣瀨壽助	三・〇〇〇

吉林

愛媛	大馬路北海公司	鵜田保次郎	三〇〇
島根	福綏街（北山下）	西坂盾文	二五〇
福井	河南街國立病院	永井人雄	二〇〇
山形	蓮花泡 小池牧場	小池七三郎	三〇〇
岡山	新開門外九九	林精太郎	四〇〇
福岡	大馬路 丸重洋行	岸原粂次郎	七〇〇
廣島	南大馬路滿鮮杭木內	杉岡守一	七〇〇
佐賀	大馬路 松屋旅館	多久島德松	五〇〇
長崎	新開門外松屋吳服店	江木末八	六〇〇
兵庫	五緯路 西安公司	高須元之祐	三〇〇
山口	恒昌胡同 吉林燐寸	西尾安雄	三五〇
山梨	大馬路 東洋醫院	齋藤源治郎	二五〇
愛知	大馬路名古屋ホテル	遠藤梅三郎	二〇〇
大分	新開門外大同殖產內	河野皐	三〇〇
加越能	二道碼頭滿洲林業內	木下秀敎	三〇〇
三州會	新開門外 芝元洋行	芝元正次郎	八〇〇
神奈川	大馬路 佐藤木廠	佐藤熊雄	二〇〇
鹿兒島	大馬路 三盛印刷	芝元正次郎	四〇〇

通化

青森	雲開區二一牌一四號	大阪喜之藏	五〇
長野	雲開區 二牌六號	傳田和雄	一〇二
岡山	東昌街	阿部要平	六〇
廣島	環城區一六牌一一號	佐々木俊秋	八〇
山口	縣公署副縣長	高田千秋	三〇
島根	東昌街一牌四號	海老谷繁	二〇
香川	第一國民高等學校	三好虎次郎	四〇
大分	東昌街	後藤保	一〇〇
熊本	東邊道開發警備隊長	永田富太郎	一一七
鹿兒島	東邊道開發倉庫課長	下赤靜雄	一一七
長崎	東昌街大隆號	龜屋佐登利	一八〇

圖們

德島	銀河街東本願寺	高橋保清	七〇
三州	銀河街一三ノ二	中武盛一	一五五
廣島	銀河區 東本願寺內	松尾收治	五六
鳥取 島根	春風路三六ノ七	辻丁仙太郎	五五
和歌山	中秋街二四ノ三		六三
北海道 樺太鄉土會	銀河街三一ノ三	小島喜作	八九
富山	春風街一四ノ一〇	中橋精治	三二
佐賀	銀河街二二	小口卓次郎	八一
長野	銀河路高坂實雄內	關口龜壽	七〇

佳木斯

岩手	向陽大街	佐藤全己	二八〇
福島	向陽街大善寺	岡本了我	二六〇
茨城	南崗大街	宮內嘉一郎	一四三
栃木	通江街	橋本茂	二六〇
長野	臨江街	小林武夫	一九四
新潟	新興街	吉井貞定	三〇〇
岡山	南崗大街	大橋太郎	一五六
廣島	向陽大街	稻岡善三郎	二四三
熊本	新興街	宮本登	六〇〇

佐賀	南崗大街	大曲周一	四八〇
鹿兒島	同	有川忠義	一九八

牡丹江

富山	七星街二ノ一	水野太七	一七〇
石川	同	同（兼務）	五〇
福井	圓明街二ノ六	寺尾彌太郎	一五〇
和歌山	昌德街共榮軒	松村	一〇〇
愛媛	圓明街八ノ一	藤田篤次	三〇〇
佐賀	圓明街一ノ六	井上	二〇〇
長崎	金鈴街三ノ三	取越馬七	六〇〇

延吉

福島	公園路五ノ二五	集賀芳男	三五
新潟	協和路一六ノ一七	佐田豐忠	四〇
岐阜	協和路一〇ノ三	內藤義定	二四
岡山	大和路一二ノ二四	三宅武一	一〇〇
德島	進學路一五ノ一三	植田卿助	二〇
福岡	協和路一六ノ二〇	三宅信吉	三〇
大分	進學路一二ノ一	宮崎愼吾	四〇
熊本	公園路三ノ四	篠原朝男	一五〇
長崎	延吉縣龍井街	下條幸太郎	二六

綏化

長野	綏化街松木街一九 呼海旅館內	降旗來衛	二
熊本縣鄉土親睦會	綏化街松木街醉月內	村田末吉	一六

北安

熊本	東松村街鹽田卯吉方	赤鉾林太郎	一五〇
福岡	同 山崎洋行內	山崎清	二〇〇
山口	西松村街 森本組內	森本保造	七〇

王爺廟

鳥取		荒田二郎	
佐賀		田口義	

齊齊哈爾

愛媛	新馬路五	田中通	一三六
熊本	正陽大街	濱崎清人	四四七
新潟	青雲路三	佐々木平太郎	一五〇
福岡	永安大街六九	力丸靜	三〇三
山口	財神廟街	田村長	三五〇
愛知	永安大街八〇	杉浦由郎	一六〇
滋賀	豐恒胡同二	東本願寺	七〇

海拉爾

群馬	板廠街	喜多村伊三郎	七〇
山梨	東山市場 新興工務所內	河內保一	六八
福岡	宮醫院街一四 博多屋內	東喜代松	二〇〇
大分	東四道街 河野製材所內	河野千代治	八〇
長崎	中央大街四三 池田洋行內	馬場武一	三〇
熊本	西大街	鹿井一郎	九五
鹿兒島	東三道一三 本重寫眞館內	白濱重臣	八〇

黑河

秋田	大興街	相川松雄	五五
山形	興隆街	根津和信	六四
靜岡	南大街三〇	山內和夫	六〇
愛知	中原街	加藤隼太	四五
大分	南大街（街公署）	矢野正夫	一〇〇

錦縣

廣島	驛前	廣藤德松	一,四〇〇
大分	銀座街五	自見梅治	六三〇
靜岡	三笠街七	八田健太郎	一〇〇
熊本	三保街	寺本哲	五〇〇
佐賀	銀座街	石丸基一	四七〇
鳥取	中央大街	老松憲一郎	三八〇
愛媛	浪速街	宮內長藏	五六〇
福島	吉野街	鵜川久介	五〇〇
長野	大和街	竹內藤平	一五三
長崎	吉野街	中川貞利	九五〇
鹿兒島	城內區東一街	宮內晊一	一,〇五〇
岩手	三浦街	田中信一	一二〇
宮崎	浪速街	久保田岩吉	七〇〇

山海關

青森	南外門	遠藤旨純	一七
宮城	同	菅野蓄平	二七
茨城		代表者なし	
大分	城內	岐部利生	三五
佐賀	南門外	野田喜三郎	八〇
熊本	同	甲斐篤	六三

羅津

北海道	末廣町	梅田喜十郎	一八
新潟	元町	島倉喜代治	一三
廣島	幸町	岩石賢人	三九
愛媛	楓町	渡邊貴正	二一
福岡	同	古賀亮一	一五三
佐賀	同	森永鐵二	一九〇
長崎	昭和通り	中山郁之亮	二八〇

清津

北海道	相生町八	室直治
東北六	北星町	石川紋之丈
山形	彌生町二	白砂三四郎
長野	相生町	阿部吉助
新潟	北星町一八	中村文作
富山	彌生町二	小竹松太郎
福井	北星町	松下和三郎
岐阜	本町四丁目	加納意久
滋賀	浦項洞二二六	山下坂次郎
丹後	浦項洞八五	赤松源三
和歌山	新興洞三四	潮崎長治
兵庫	浦項洞一七八ノ五	石田貞次郎
岡山	浦項洞一八	水島計次郎
廣島	寶町五	佐々木光次
島根 鳥取	常盤町一〇	藤田勘一
山口	明治町三一	田中源
熊本	日賀田町一	柿本藤吉
鹿兒島	旭町二	四元嘉平次

北京

靜岡	崇文門大街四二	鹽濟七晟	二四〇
兵庫	內三區慧照寺胡同一三	山本芳久	一三〇
廣島	西城宣內大街二三七	白井喜一	一,〇五〇
福岡	棲鳳樓七	末次政太郎	一,二〇〇
熊本	東單大村東華藥房內	林龜喜	一,四〇〇
長崎	大雅胡同一三	寺田舍作	
北海道	東城小雅寶胡同二五	和田悅郎	一〇四
三重	西海沿一二七	寺田幸夫	一四〇

府縣	住所	氏名	人數
鳥取	崇文門大街八〇	林原憲貞	七〇
佐賀	東單牌樓一七〇 藤本方	三浦七郎	一、一〇〇
長野	東四二條胡同四六	淸水孫作	八〇

●天津

府縣	住所	氏名	人數
岡山	旭街四八ノ一	橋本磯太	二〇〇
熊本	常盤街	後藤捨生	二五〇
山口	福島街四一	富成一二	三〇〇
靜岡	常盤街一四	根本鐵次	二八〇
三重	福島街六七	森利八	四〇〇
兵庫	常盤街一〇ノ一	岩崎剛	四〇〇
岩手	南門街 萬德莊	野館吉次	一〇〇
山形	福島街民團内	西野操	一五〇
宮城	春日街	和歌山今朝次	一〇〇
愛媛	福島街民團内	和田粂次	三八〇
大分	福島街東本願寺	首藤輪香	五〇〇
德島	旭街二天賀ビル	井上寬生	一五〇

●唐山

府縣	住所	氏名	人數
熊本	智愛街錦城亭	大原篁三	五
鹿兒島	新立街田村洋行	猿渡護民	七〇

●張家口

府縣	住所	氏名	人數
北海道	福壽街六四	京正堂	一七〇
岩手		甘粕部隊内	約三〇〇
秋田	北關街財神廟一	秋田土木事務所	一八〇
福島	福壽横街三八	岡田組	一六八
茨城	治安街	文明堂	二〇〇
栃木	城内棋盤街一二	石田組	一五一
千葉	東大平街	大和屋旅館	一五〇
山梨	福壽大街一九	松屋呉服店	一七七
岐阜	東安大街	東本願寺	八〇
三重	明德大街二三四	東亞製粉廠	七〇
大阪浪花會	東安大街一七	岩崎武夫	三〇〇
奈良	城内三星廟子一	森組	八〇
鳥取	濤河橋西一支沿街	原記公司	一二七
岡山	鐵路斜街	福榮旅館	五〇〇
山口	明德南大街	太平公司	二五〇
德島	長安大街七	阿波忠洋行	一七〇
香川	福壽街	中條齒科醫院	二〇〇
福岡	橋東大街一	小方洋行	六〇〇
佐賀	宣化大街	寧南ホテル	五〇〇
長崎	橋東大街四	松崎組	四五〇
大分	明德南大街	糸瀬齒科醫院	五五〇
鹿兒島	(國民學校)	坂口利雄	五〇〇

●大同

府縣	住所	氏名	人數
北海道	大北街	鈴木俊夫	三二九
靑森	同	齋藤勇倉	六五
岩手	馬營街	大里善次郎	七八
福島	大北街	飯塚新作	二〇九
栃木	同	長谷川義次	六四
山梨	同	中島次郎	一〇二
長野	同	竹内洋次郎	一九〇
新潟	同	阿部龜次	一〇七
石川	仁和美街	森山勇作	一〇七
福井	大北街	山田撰理	八八
三州	同	二階堂輝彦	五六四
廣島	大東街	朝尾朝彦	二八〇
山口	大北街	岩崎鏡	一五七
香川	大西街	原豊	一一六
愛媛	小南街	島津茂一	一〇三
高知	倉巷街	加藤秀城	一二七
福岡	大西街	小方長男	五三二
大分	北門外	松浦傳一	三五五
佐賀	大北街	中津初	三〇一
長崎	同	中川平次	三六四
熊本	同	豊岡正人	三六五

●太原

府縣	住所	氏名	人數
茨城	紅市街	野口樂器店	三二〇
愛知	太原鐵道局	間瀬勘八	二八〇
岐阜	萬壽街七	長野啓一	二〇〇
奈良	南肖墻一八	楠田稔	一五〇
岡山	上肖墻五九	江木卓	二〇〇
鳥取	橋頭街	石洲洋行	四〇
島根	新梶南街七三	森田酒店	七〇
德島	橋頭街一四	吉田省三	一四五
福岡	大北門外六八	板東榮	九八〇
大分	橋頭街	双葉山食堂	三三〇
鹿兒島	三聖巷	諏訪甚十	四三〇

●濟南

府縣	住所	氏名	人數
宮城	經一路緯二路	鈴木文之助	七五
茨城	經二路緯三路	廣瀬森次	二六〇
三州	城内電燈公司	小野原作一	九七〇
京都	經三路緯二路	林田新次郎	二七〇
岡山	經二路緯四路	安原順吾	三〇〇
廣島	經四路小緯四路	酒井紀一	二四〇
山口	經二路緯四路	藤本近三	五七〇
福岡	經二路西木洋行	柴田一美	一、一三〇
大分	普利門外	佐藤寬吾	五五〇
佐賀	經二路緯二路	貞松紋平	四三〇
愛媛	經三路緯二路	今井和次	四一〇

●石門

府縣	住所	氏名	人數
山形	新華街三七	五十嵐順士	五〇
茨城	北後街一〇五	高橋善之助	三八
靜岡	東華園街五四	加藤敏太郎	
長野	正東街三六	木下崇	八〇
三州	道岔南街	馬込豊熊	一五〇
三重		中村國次郎	一七七
和歌山	共存街	栗林定一	三五
愛媛	共存街三六	攝津盛德	一一〇
福岡	電報局街	平山德次郎	
大分	北後街三四	平野元一	二〇〇
長崎	新華街	田添好五郎	一二五

●徐州

府縣	住所	氏名	人數
北海道樺太		橋本又藏	
秋田		堀井政爾	
福島		二瓶是	
茨城		大島正	
東京		内田恒太郎	
山梨		天野正六	
靜岡		梨重德	
愛知		高橋正	
長野		新田直	
新潟		歌代順郎	
石川		水上完治	
岡山		佐藤龜	
德島		増田多良平	
高知		池川重吉	
福岡		井出得資	
大分		神田武男	
佐賀		島谷恒逸	
長崎		荒木晴榮	
熊本		荒谷光治	
鹿兒島		上西園操	

●靑島

府縣	住所	氏名	人數
三重	堂邑路	乾商店	二〇七
福岡	山東路	春日常次郎	四五〇
佐賀	奉天路	富永友太郎	三三〇
長崎	陽穀路	井出三次	二八〇
宮崎	濟南路	豊群洋行	一四五

●開封

府縣	住所	氏名	人數
新潟	北書店街三三	岡口眞太郎	八〇
長野	新興街	上條砂雄	六五
兵庫	相國寺後街九一	山中常樹	三八
島根	黄土王廟街	岡田	五〇
大分	書店街二三	佐藤慰斗作	八〇
鹿兒島	市場後街三三	平田洋三郎	三〇〇

●上海（在住數は正會員のみ）

府縣	住所	氏名	人數
鹿兒島	文路 日本倶樂部内	指宿秀彦	
熊本	海寧路 海星館内	西村天藏	二八〇
福岡	虬江路 中華興業内	林田惣七郎	三、〇〇〇
長崎	呉淞路	甘濃益三郎	
大分	狄思威路	波多博	二〇〇
愛媛	北四川路購買組合内	暢矢野信行	
大阪	九江路 隆華洋行内	金鋼鹿藏	
愛知	乍浦路 東語内	西村秋次	
和歌山	施高塔路	北野勝四郎	
福島	呉淞路	菊地豊吉	
靜岡	閔行路 萬才館内		
廣島	江西路 廣島物産内	米澤大樹	二〇〇
山梨	黄浦灘 アスターハウス内		
兵庫	北四川路 新上海ホテル別館内	赤松滝次	一六四
茨城	北四川路 日比野洋行内	二川芳	
滋賀	四川路 阿市洋行内	辻野順助	
宮城	北四川路北部校内	小山勇	
富山	密勒路	梅野友英	二〇〇
長野	閔行路	平澤要	一六〇
秋田	呉淞路	太田俊三	
朝鮮人會	靶子路	李甲寧	
臺灣人會	靶子路	林世昌	

●南京

府縣	住所	氏名	人數
北海道	太平路一八九	安岡重光	
福島	太平路二〇	山内恭雄	
新潟	太平路八二	高橋敬二	
栃木	中山路一五二	石川尊俊	
福井	中山路八七	齋藤植	
長野	太平路小松淸巷二三	大西益太郎	
岐阜	中山東路二四五	植松康了	
三重	中山東路一六二	岡田銀次郎	
奈良	太平路三六	堂島龜松	
大阪	太平路二二三	北野光祐	
廣島	中山東路五〇	甲方淸一	
愛媛	太平路六七	石村和逸郎	
高知	中山東路二〇一	武井仙藏	
福岡	中山東路一〇六	池田淸一	
長崎	碑亭巷六五	近藤調一	

府縣	住所	代表者	會員數
大分	白下路二〇三	中村英二	
宮崎	碑辛巷二〇	古藤淳	
熊本	大平路福建里	山本俊人	
鹿兒島	中山路三七三	羽月敏雄	
德島	中山東路三三〇	美馬國榮	
●鎮江			
北海道	鎮江醫院	齋藤林一	一七
三州	內河民船	貞森	二一
●杭州			
北海道	湖濱路四七	岡巖	一九
東北	惠興路二四	岩淵五郎	三五
栃木	同	横手朝	三五
神奈川	新民路三一八	西川晉次郎	三〇
愛知	英士路四九	日比行二	二〇
三州	長生路三三	大山辰二	五〇
岡山	新民路三三一	片山萬壽雄	二六
廣島	迎紫路一	三田峯登	三九
福岡	仁和路六〇	常岡政太郎	四二
台灣	新民路三六二	陳濕如	一七
●漢口			
新潟	中山路	木島猿之助	二〇〇
靜岡	黃波路八二	宮城申平	二九〇
京都	府東二路	衣川誠	二〇〇
岡山	至善路二七四	尾崎郁次郎	一五〇
廣島	清芬三路三九	二鹿覺一	二〇〇
山口	中山路	佐々木武藏	四〇〇
德島	中山路一九	多田武市	三五〇
高知	江漢路江高洋行	山崎誠一郎	五六
福岡	江漢路二四	白倉清一郎	1,000
大分	阜昌街	志村哲三	
熊本	江漢路漢口銀行	寶妻壽作	
長崎	中山路四二	白倉清一郎	1,000
鹿兒島	洞庭街	田中彥藏	五〇〇
●廣東			
神奈川(相武會)	太平南路二一	横濱東亞輸出組合廣東斡旋所	四〇
靜岡	惠愛東路	鎌田商店	一〇〇
岩手	吉祥路一	丸菱百貨店	一〇
福島	越華路七六福昌洋行	鈴木直治	二〇
石川	白雲路二五	金松又市	三三
富山	漢民北路二〇八	前田洋行	一四
愛知 岐阜	太平南路四五	名古屋市役所・經濟部廣東出張所	九〇
滋賀	惠愛中路五〇	鎌野時計店	二四
奈良	惠愛東路	井筒食堂	四五
兵庫	太平南路新華ホテル内	兵庫縣興亞貿易協會	七〇
岡山	維新路	鹽見芳四郎	四〇
廣島	漢民北路 大丸公司	石川久我生	四〇
香川	漢民北路一四五	森岳陽堂	六〇
愛媛	廣大路一七	岡田建助	一〇〇
大分	昌興街四喜坊	カフェーアジア	一四〇
熊本	維新北路三五〇	臺灣日々新聞支局	五〇
佐賀	惠愛東路三〇一	新高製菓商會	一五〇
鹿兒島	文德路 博愛會醫院	島院長	一〇〇
長崎	長堤新堤一九七	大鹽新開堂	三

以上の如く大陸各都市に於いては故郷を同じくする府縣を單位とした各府縣人會がある。遠く異郷の地にあると一層此の樣な團體が盛であるのは、日本人の美しい一つの特色であらう。北滿の一都市にも又夢疆の一都にも此の種の團體が多數出來てゐる。

此の會を通じ相互の親睦を計ると同時に大いに大陸に於ける發展にお互の便宜も多いだらう。今後各都市に於いて益々此の種團體の增加する事が考へられる。

現在各地に於いて最も多い縣人會は地理的に大陸に近い九州の各縣であり、次が、中國と東北の二三の縣である。大都市に於いては殆んど各府縣の會が出來てゐるが、小都市ではやうやくその數も少なく、且つ會員も大變少ない。

滿洲國に於ては昭和十三年治外法權撤廢前は居留民會や府縣人會が在留邦人の世話をして居つたので斯種團體も相當大きな存在であつた。撤廢後は鄉里との連絡、視察者の斡旋、會員相互の懇親等を目的として適時會合が催されてゐる。本表以外に澤山の府縣人會がある筈であるが調査が頗る困難なので本年度に於ては此の程度とし、之が完成は他日に俟ちたい。

居留民團

居留民團は帝國公法人で官の監督をうけ居留民の福祉增進機關として公共事務を處理する自治團體である。外務省令に依る居留民團法施行規則は大體內地の市町村制と軌を一にし從つて其自治行政機構も內地の市町村と殆ど同樣である。卽ち居留民團の構成は居留民有權者に依つて居留民會議員（內地の市會議員）を選擧して議決機關たる居留民會（內地の市會）を構成し、民會は民團長（內地の市長）助役及會計主任（收入役）竝民團長の諮問機關たる參事會員及會計檢査委員を選擧して玆に民團組織が完成される。

居留民團民會一覽

一〔居留民團〕

◆天津居留民團（所在―福昌街一四 設立―明治四〇・九・一 區域―日本專管居留地及其境界線より三粁以內の地域）◆上海居留民團（所在―崑山路一二八 設立―明治四〇・九・一 區域―上海特別市域）◆漢口居留民團（所在―湖南一四號 設立―明治四〇・九・一 區域―漢口・漢陽・武昌）◆青島居留民團（所在―湖北路一七 設立―大正一二・五・一 區域―舊膠州租借地の全地域）◆濟南居留民團（所在―經二路緯五路 設立―大正一二・五・一 區域―濟南）◆北京居留民團（所在―東單三條 設立―昭和一三・九・一 區域―北京特別市域）◆張家口居留民團（所在―興亞大街 設立―昭和一五・四・一 區域―張家口市域）◆石門居留民團（所在―公興存街積善里五一 設立―昭和一五・四・一 區域―石門市域）◆廣東居留民團（所在―文德路 設立―昭和一五・四・一 區域―廣東市沙面を含む）◆南京居留民團（所在―中山東路一七七 設立―昭和一五・八・一 區域―南京城內及南京城壁より四粁以內の地域 但し揚子江北岸を除く）◆太原居留民團（設立―一五・一二・一 區域―太原市域）◆大同居留民團（所在―大北街 設立―昭和一六・二・一 區域―大同縣及懷仁縣鵝毛口村）◆徐州居留民團（所在―大同街 設立―昭和一六・五・一 區域―徐州市）

二〔居留民會〕（領事館管轄區域別）

◇北京總領事館管內 保定（媒瞰街九〇）、豐台・長辛店 南口・通州・古北口・南苑・石景山
◇天津管內 滄州（文昌街二）
◇塘沽管內塘沽（新立街一八）・唐山（王謝莊平安西街二）
◇山海關管內山海關・秦皇島・昌黎・石門寨・盧台・古冶
◇濟南管內 德州・兗州・棗莊・濟寧・臨城
◇張店管內 張店（二馬路）・青州
◇博山管內博山・黌山
◇青島管內高密
◇坊子管內坊子・滄縣（大馬路）
◇芝罘管內芝罘（太馬路一三七） 龍口
◇威海衞管內 威海衞（九龍街）
◇石門管內新鄉・彰德・順德・邯鄲・成遠・淸化
◇太原管內臨汾・運城・陽泉・楡次・潞安・寧武・太谷・汾陽
◇張家口管內 宣化・張北・朔縣・下花園
◇厚和管內 厚和（舊城東順城外）・集寧・豐鎮
◇大同管內 口泉鎮・永定莊・平旺村・岱岳鎮
◇包頭管內 包頭（富三元老二八）
◇徐州管內開封（馬道街一二）・歸德
◇新浦管內 海州・連運
◇上海管內 南通
◇蘇州管轄 蘇州（景德路一九七）・無錫（西水園三〇）・常州
◇杭州管內 杭州（西浣沙路三八）・嘉興（春樹弄三〇）
◇南京管內 鎭江・（西府街）揚州・蚌埠・淮南・宿縣
◇蕪湖管內蕪湖（中山路五六）・安慶・巢縣・廬州・馬鞍山
◇九江管內九江・南昌
◇漢口管內石灰窰・大冶
◇廈門管內廈門
◇汕頭管內汕頭
◇海口管內海口・盬縣

◇北京居留民團（東單三條）

明治三十八年北京日本人會誕生、其の後居留民の增加に伴ふ教育其他福祉施設の充實の要に迫られ、明治四十五年六月に居留民會の設立を見たのである。更に大正元年外務大臣の認可を得て財團法人北京居留民會と稱す。當時の居留民は八百餘名であつたが、年々增加發展、支那事變を契機として、著しい人口の膨脹と事業の擴張に伴つて、昭和十三年九月居留民二萬四千名を擁する居留民團が設立され、民會より事務を引繼ぐと同時に、全面に亘り陣容を强化擴充し、居留民の福祉增進を計る自治體としての基礎を鞏固にしたのである。

〔役員〕 民團長村井倉松　助役横川快翁

〔在留邦人〕（七月現在）

內地人	六八、五〇六名
半島人	二〇、六四〇名
台灣人	四七〇名
合計	八九、六一八名

〔施設〕
1（教育施設）國民學校四、青年學校、女學校、商業學校、中學校
2（福祉施設）職業紹介、授産事業、團營住宅、公會堂、墓地、火葬場
3（體育施設）一般在留邦人の體育、學校に關する體育、在京各種運動團體に對する助成
4（衛生施設）蘇州病院、最山病院、隔離所

◇天津居留民團

明治三十八年三月法律として居留民團法が公布せられ、同四十年九月上海、漢口、天津に居留民團が設立された。民團地域は「日本專管居留地（租界）及其境界線より二里以內」と劃定せられ今日に至つたが、支那事變勃發前後より北支の發展に伴ひ日本租界は勿論のこと、特別各區、華街及び郊外の遠くまで、邦人の來住するもの激增、邦人著名大會社工場は從來の居留民團地區外に建設されるものもあり、行政上種々不便を生ずることが甚しいので、昭和十三年四月領事館令によつて民團地區を日本專管居留地の境界線より三里以內の地域に擴張改正された。

〔役員〕 民團長白井忠三　助役宮家壽男

〔在留邦人〕 五一、七四九名

〔施設〕
1（神社）天津神社
2（教育施設）國民學校六、青年學校三、女學校二商業學校、中學校、幼稚園、圖書館、教育博物館（設立中）
3（社會施設）公會堂、團營住宅、綜合運動場、公園、職業介紹所、金融機關
4（衛生施設）公立病院、婦人病院、保養院、實費診療所、下水道、汚物處理、屎尿處理

◇滄州居留民會（滄城縣城內文昌街一）

滄州は支那事變を契機として初めて邦人の進出あり、昭和十二年十二月邦人居住者の營業斡旋の必要から、有志による日本人會が組織された。其の發展狀態物凄く昭和十三年七月外務省令による居留民會を設立、專ら居留民自治機關として活動を開始す。

（役員） 會長山代屋松一　副會長大脇秀陽

（在留邦人） 七八五名

（施設） 國民學校、幼稚園、警防團、忠靈塔管理、生活必需品配給組合管理。

◇濟南居留民團

大正四年九月民會創立、爾來屢々兵災動亂に遭ひつゝも、逐次其の機構を整備せられ、大正十二年民團に昇格、事變後異狀なる邦人の進出により愈々民團の重要性も認められ、本年四月參事會制を廢して民團長制を執る。

〔役員〕 民團長興津良郎　助役中村猪之助
民會議長山本　弘

〔在留邦人〕

內地人	一九、〇一一名
半島人	二、七二〇名
台灣人	三一名
合計	二一、七六二名

〔施設〕
1（教育施設）、國民學校、青年學校、中學校、幼稚園
2（福祉施設）、公會堂、公園、配給統制事務、職業紹介、火葬場、墓地管理
3（體育施設）、公園、忠靈塔境內を運動場に提供し一般邦人竝學校生徒の體育普及を計る。

◇青島居留民團（湖北路一七）

大正十二年三月一日設立、當初は行政委員會制度に依り、昭和十年より參事會制となり、現在の民團長制は昭和十五年二月から實施されてゐる。

〔役員〕 民團長岡田兼一　助役森澤磊五郎

〔在留邦人〕 三七、四一七名

〔施設〕 青島神社、國民學校、青年學校、女學校、中學校、義勇隊、民營住宅及店舖、職業紹介、衛生救濟施設、金融機關の運用

◇威海衛居留民會（九華街五）

昭和十四年三月設立

〔役員〕 會長安田孝三　副會長天野　久

〔在留邦人〕 一七六名

〔施設〕 威海衛神社、國民學校

◇芝罘居留民會（大馬路一三七）

明治四十二年居留民會組織、昭和十二年七月日支事變勃發の爲居留民總引揚げ、同十三年二月復歸現在に至る。

〔役員〕 會長里阪　純　副會長千葉之也

〔在留邦人〕 一、六五〇名

〔施設〕 國民學校、幼稚園

◇徐州居留民團（大同街一一九）

徐州は昭和十三年五月十九日の皇軍入城前迄は一人の日本人も居住しなかつたが、同年七月約六百名の居住者を以て日本人會を組織、翌十四年七月民會認可、十六年四月末人口約九千名となり、五月一日民團に昇格す。

〔役員〕 參事會長 安原瀧次郎　副會長 中井俊平

〔在留邦人〕 一〇、〇三二名（七月末現在）

〔施設〕 國民學校、幼稚園、避病院

◇保定居留民會

昭和十二年十二月設立、目下民團設立請願中なり。

〔役員〕 民會長　藤井吾一

〔在留邦人〕

內地人	二、四三七名
半島人	五六七名
台灣人	九名
合計	三、〇一二名

〔施設〕 保定神社、英靈奉安殿、保定演武場、國民學校、隔離病舍

◇石門居留民團

昭和十二年十二月石家莊日本居留民會組織十五年四月一日民團組織となり、十六年一月より石門居留民團と改稱す。

〔役員〕 參事會長 坂口義稜　副會長 片倉藤太郎
民會議長 飯村憲五

〔在留邦人〕 一四、六二五名（六月末現在）

〔施設〕 國民學校、青年學校、女學校、商業學校、幼稚園、興亞會館、隔離病舍、火葬場

◇開封居留民會

昭和十三年八月設立、當時三百餘名に過ぎなかつた邦人は、新開線の開通、開封鐵道局の設置等により益々增加の一途にある。

〔役員〕 會長都　勝次　副會長水上良太郎・松田　清

〔在留邦人〕

內地人	五、一九七名
半島人	三、五七六名
台灣人	四名
合計	八、七七七名

〔施設〕 國民學校、準備學校、日本義勇隊

◇連雲居留民會（連雲港）

昭和十三年九月會員一九〇名を以て連雲日本人會組織、十五年六月領事館の認可を得て、連雲居留民會設立今日に至る。

〔役員〕 會長 二宮宗太郎　副會長 欠　員

〔在留邦人〕 一、九八〇名

〔施設〕 國民學校、幼稚園、隔離病舍、塵芥糞尿の處理、防疫班の組織、公設市場經營

◇張家口居留民團（興亞大街）

昭和十一年二月民團設立、十二年七月事變勃發の爲一時中絕、十月下旬皇軍入城と共に再組織、昭和十五年四月民團に昇格。

〔役員〕 團長 森岡正平　民會議長 寺崎英雄

〔在留邦人〕（八月一日現在）

内地人　一九、〇五五名
朝鮮人　九二七名
台灣人　九名
合計　一九、九九一名

〔施設〕國民學校、女學校、青年學校、幼稚園
火葬場、汚物燒却場

◇大同居留民團

昭和十二年九月皇軍大同入城を契機として邦人の來住者は急激に增加し、十三年三月大同日本人居留民會設立を認可せらる。更に昭和十六年二月大同縣及懷仁縣鵝毛村の在留邦人九千五百を擁する大同居留民團の設立となる。殊に大同炭礦方面の邦人增加發展に鑑み、本年四月より民團口泉駐在所を設置せり。

〔役員〕會長 小出忠志　副會長 二階堂輝彥
民會議長 瀨戸義太郎

〔在留邦人〕八、八五三名（七月末現在）

〔施設〕國民學校、青年學校
大同神社、診療所、火葬場經營、警防施設

◇厚和居留民會

蒙古政府の首都として政治、軍事、經濟産業、文化の各方面に亘り目覺しい躍進途上にある厚和は、皇軍入城當時は在留邦人も僅に數十人に過ぎなかつたが、其の後日を追つて增加し、昭和十三年三月在留邦人三百名を以て民會設立、現在に及ぶ。

〔役員〕會長 石橋秀雄　副會長 安藤 猛
顧問として駐屯部隊長、特務機關長を充つ

〔在留邦人〕四、二〇〇名

〔施設〕厚和神社、國民學校、火葬場

◇包頭居留民會

包頭は黃河に臨む水陸交通の要地に位し北支の主要都市と蒙古奧地を結ぶ中繼地に位する。邦人の進出は事變後に始まり、大半は官公署會社の從業員で、其他は商業、土木關係に携はつてゐる。

〔役員〕長會川村重郎　副會長 淸水順輔

〔在留邦人〕二四七五名

〔施設〕國民學校、火葬場、防疫施設

◇宣化居留民會

皇軍入城一周年記念日をトして昭和十三年八月二十五日居留民會設立、發展の一途をたどり、昭和十六年九月末現在居留民數二、一一四名に達した。

民會事業としては昭和十四年二月民團學校開設、忠魂碑の建設、傳染病棟、大葬場建築等で、在留邦人の精神的中心とも云ふべき神社建設も具體的に進捗してゐる。

（役員）會長 岡本一雄

◇上海居留民團

明治四十年九月一日設立、民團所屬地區は、昭和十四年迄は上海共同及佛蘭西租界を中心としてその周圍二哩以内と定められてゐたが、支那事變後の邦人の來住者は急激に膨脹し、事變直前の約三倍となり、その居留地域も江灣、吳淞、南市、南通、松江、嘉定、崇明島へと擴大され、現在は上海特別市區域を居留民團地區と定められてゐる。

〔役員〕民團長 福田千代作、助役 渡邊 任
民會議長 甘濃益三郎　副議長 山中喜一

〔在留邦人〕
内地人　七五、一九二名
半島人　五、一四四名
台灣人　二、九四一名
合計　八七、二七七名

〔施設〕國民學校七、中等學校四（中學校、女學校
商業學校、女子商業）青年學校
復興資金部、職業紹介、公園管理、保健衛生設備、民團立診療所、墓地、火葬場、軍事後援會

◇南京居留民團（中山東路一七七）

大正元年居留民會設立、支那事變の勃發により全居留民は總引揚げを斷行したるも、皇軍入城と共に漸次復歸、殊に國府還都以來其の增加著しく、昭和十五年八月民團設置現在に至る。

〔役員〕參事會長 前田市治　副會長 今井卯三郎
民會議長 佐藤貫一

〔在留邦人〕
内地人　一一、六〇〇名
半島人　五一六名
台灣人　七五二名
合計　一二、八六八名

〔施設〕國民學校、青年學校、女學校、幼稚園、日語學校、華語學校
墓地、火葬場經營、プール設備
職業紹介、銃後々援會

◇蘇州居留民會（景德路一九七）

明治二十九年領事館開設を契機として、邦人の進出目覺しく、明治四十年頃日本人協會を組織して在留邦人の斡旋にあたつてゐたが、大正十五年九月協會開散と同時に蘇州居留民會設立、現在に至る。

〔役員〕會長 柳 善三郎　副會長 井上貞三

〔在留邦人〕二、一〇〇名（八月末現在）

〔施設〕國民學校、火葬場

◇無錫居留民會

昭和十四年十一月設立認可

〔役員〕會長 關 重彥　副會長 島 佐十郎

〔在留邦人〕一、二五四名（八月末現在）

〔施設〕日本神社、國民學校

◇常州居留民會

昭十四年十一月設立

〔役員〕會長 江戸達孝　副會長 林 武備

〔在留邦人〕一、一三〇名

〔施設〕國民學校、大和公園經營

◇杭州居留民會（西浣紗路三八）

大正十二年民會設立、昭和十二年七月支那事變の爲居留邦人内地引揚、昭和十三年邦人進出の增加に伴ひ民會を再組織。

〔役員〕民會長 中澤達也　副會長 馬場金太郎

〔在留邦人〕二、六一七名（七月一日現在）

◇嘉興居留民會

昭和十四年五月嘉興日本人會を組織、十六年二月民會に昇格

〔役員〕會長 中本岩吉　副會長 相澤勝三郎

〔在留邦人〕八六四名

〔施設〕國民學校、興亞俱樂部經營

◇蕪湖居留民會

大正十四年六月設立

〔役員〕會長 原 憲太郎　副會長 林 正枝

〔在留邦人〕一、六三三名

◇松江日本人會

昭和十三年十二月駐屯部隊長、特務機關長、在留邦人協力設立す。會員一六〇名

〔役員〕會長 六見要太郎　副會長 田中茂男
内藤 介

當地の居留民を驛、保線、地方在留民と三分し各一ヶ月交替で責任分擔事務一切にあたる。

◇廈門居留民會（昇平路四〇）

古くから開港場として邦人の渡航者も多く、明治末期は邦人の大商店が軒を連らねる盛況であつたが、中華民國の革命以後支那事變に至る間は排日抗日の氣焰强く、長い間に築いた地盤も根底から覆がへされて了つた。然し事變後の治安と共に邦人の復歸者漸しく進出する者多く、現在は又往時の盛況に立還つた觀がある。

在留邦人行政に當つては民會を第一部（内地人）、第二部（台灣人）に分ち事務遂行に當つてゐる。

〔役員〕民會長 鈴木佐平
副會長 中津賢一（一部）
同 陳 鹽（二部）

〔在留邦人〕
第一部　一、九五〇名
第二部　九、五〇〇名

〔施設〕國民學校、幼稚園、（一部二部共各一）神社及火葬場、墓地の管理皇軍休憩所

◇廣東居留民團（文德路）

昭和十五年四月設立、在留邦人一五、〇〇〇人

〔役員〕參事會長岡本破太郎　副會長喜多山松之助

映画

滿洲映畫界

由來、滿洲の地は文化的に支那本土の隷屬地的觀あり、歐米映畫、支那映畫の無統制な跳梁と日本映畫業者の亂脈な配給とに委ねられ、而もその九割が米畫、支那映畫といふ狀態であつた。映畫國策問題は建國直後から各方面で論議硏究されてゐたが、政府はこれを國家的課題として取上げ、康德四年八月滿洲映畫協會法を公布、之に基き滿洲國映畫國策の遂行機關として株式會社滿洲映畫協會を設立、十一月一日映畫法を施行し茲に滿洲國映畫政策の國家的大道が確立された。

◇映畫の製作

【娛民映畫】 民度民情に卽し國民の健全なる娛樂慰安たるべく、國策を强調することを避け明朗性を主體とした映畫を製作し、民衆の偶像視する上海映畫依存の風潮を一掃せんとしてゐる。劇映畫といふ名稱も「娛民映畫」と改められた。八年度製作映畫は三十本が豫定され既に二十六本完成、更に來年度には三十數本が企畫されてゐる。



【啓民映畫】 所謂文化映畫の使命は最も有力な國家弘報手段として國民の指導啓發、靑少年敎育を助長し國家的記錄であると共に日本、中國及諸外國に滿洲國の躍進狀況を認識させるにある。從つて文化映畫の稱も「啓民映畫」と改め、その趣旨目的を判然たらしめ國民啓發映畫としての機能を高度に發揚せんとして居る。

【時事映畫】 所謂ニュース映畫は從來の週報を旬報とし、特に滿語版に重點を置き量より質を重んじて國民須知の事象を解說的に記錄することゝなつた。この外、月一本の割で「子供滿洲」を製作してゐる。

◇映畫の配給

康德四年十一月、舊來の興行制度の因襲を破つて映畫館を眞に國民の健全娛樂場であると共に國民の敎化機關とする意味から全滿及び關東州內の配給統制を斷行、六年十月には系統制配給制度の廢止と步合配給制度を實施した。現在日滿系常設館夫々六十數館あり滿映作品、日本、朝鮮、支那、歐洲映畫等民族協和國家に相應した番組が編成されて居る。この映畫配給によつて得られた收益はすべて國民のための映畫を製作しこれを上映するに必要な費用に充當されて居り、滿洲國映畫國策の總てを滿洲映畫協會に托した所以も茲に存するのである。

◇映畫の輸出入

映畫の配乘區域は、國內は勿論北支、蒙疆一帶、中南支、朝鮮、台灣、日本內地への輸出も着々行はれて居り、輸入についても日本映畫の殆んど全作品及び上海映畫の外、時局柄特に困難なる獨逸映畫の輸入を行ひ日本へも供給してゐるのである。この外、イタリー、ルーチエ、日本映畫社とのニュース映畫、文化映畫の交換等締盟國との映畫交歡もその實を擧げつゝある。

◇映畫の上映

廣大な滿洲の國土では、常設館を有する都會のみならず全國の各地各層に慰安、敎化、宣傳の普及徹底を圖らなければならない。このために早くより政府、軍、協和會その他關係機關との連繫の下に十六粍映畫による定期的或は特殊的地方巡回映寫が行

はれて居り、逐年この巡回映寫網の擴充强化を圖りつゝある。一方映畫常設館は新聞、ラヂオなどゝ共に確固たる國策的公共機關である意味に於て巡回映寫と併行して地方小都市竝に國境地帶に直營館を建設し既に十五館に及んで居り更に建國十周年記念事業として多數の直營館建設を行はんとしてゐる。

この外、世界各國に於て概ね徒弟式に育成されてゐた映畫從業員を新しく科學的な方法によつて優秀な映畫人養成を目的とする養成所機構を確立し、新映畫道を樹立せんとして居り、同時に映畫科學研究所の擴充强化を計り撮影機、映寫機、フヰルムその他機器を技術全般に亘り現地適應を考慮し、滿洲に於ける自給自足を圖つてゐる。

かくて滿映は、滿洲國文化振興策たる藝文運動の先驅者として滿洲國民大衆のための映畫完成に或は弘報宣傳と文化向上に貢獻の使命を果しつゝ、在滿各文化團體と密接なる連繫を保ち相揚へて滿洲文化ひいては大陸文化の發展に寄與せんとしてゐる。

（康德八年八月現在）

中國映畫界

支那の國產映畫の黎明期は、民國十一年の明星影片公司の誕生に始まり、民國十七年（一九二八年）までは、內亂其他による國內の政治的不安と動搖の爲に發展しなかつたのであるが、北伐成功で內亂が一應鎭定するや次第に發展して、遂に著名な國產映畫「漁光曲」（一九三五年）を製作する迄に至り、茲に發展途上の新紀元を劃したが、後幾ばくもなく支那事變の發生を見るに至つたものである。

一體に支那映畫は滿洲、上海兩事變前迄はハリウッドものゝテーマを其儘飜譯したやうな、戀愛物が大部分を占めてゐたのであつたが、この事變後は國民黨宣傳部の意圖と、支那民衆の抗日意識の高揚を狙つた映畫業者との意圖とが合一して、民族的敵愾心を煽揚し蔣政權の支持と、彼の指導する運動への參加宣傳とが計畫的に濃度に織り込まれて、藝術的なものが全然沒却された傾向にあつた。支那の映畫會社は支那事變前は五十八を數へ、上海の「明星」、「聯華」、「藝華」、「天一」、「電通」が五大會社として知られ、之等の映畫會社で製作される映畫は、全國二百五十餘の常設映畫館で上映され、外國映畫に對抗してゐたのが、事變前迄の情況であつた。

事變後は北京現華北電影公司上海に中華電影公司の創立を見、從來の歪められた方針を棄てゝ、映畫による日滿支文化の融合を目ざし積極的製作竝配給に乘り出すこととなつた。

映畫製作機關

【滿洲映畫協會】 康德四年（昭和十二年）八月二十一日國務院訓令を以て設立された株式會社滿洲映畫協會は、滿洲國映畫國策の實踐遂行者として映畫の輸出入、配給、上映の統制一元化を圖ると共に國內に於ける堅實は映畫の製作に着手するに至つた。

資本金五百萬圓（政府、滿鐵折半出資）も社業發展の一大飛躍を圖るため康德七年十二月資本金九百萬圓に增資した。同時に機構を改革し、同社の重要使命たる映畫製作部門を强化するため從來の製作部をその性格に應じ娯民映畫部（劇映畫）、啓民映畫部（文化、ニュース映畫）、作業管理所に分解し、各その製作目的を明確し、映畫の製作其他會社業務に計畫性をもたらすべく企畫委員會を强化した。又邊境地帶國民大衆の啓蒙に當つてゐる開發を上映部と改稱し、巡回映寫網の擴充と直營館の經營を積極化し、更に映畫人育成のため養成所の大規模な擴充を行ひ映畫アカデミーといふべき教育機關を設置するなど、會社機能の刷新强化を圖つてゐる（康德八年八月現在）

【株式會社滿洲映畫協會組織一覽表】

- 理事長　理事
  - 企畫委員會
    - 調査室
    - 資料室
  - 監察役
    - 諮問室
  - 理事長室
    - 文書課
      - 文書
      - 弘報
    - 人事課
      - 人事
      - 給與
      - 福祉
    - 庶務課
      - 庶務
      - 警備
    - 養成所
    - 映畫科學研究所
    - 精密機械工場
    - 大連出張所
    - 奉天出張所
    - 哈爾濱出張所
  - 娯民映畫部
    - 文藝課
    - 製作課
    - 演出室
  - 啓民映畫部
    - 啓發課
    - 時事課
    - 演出室
  - 作業管理所
    - 美術班
    - 技術班
    - 録音班
  - 配給部
    - 國映課
    - 日映課
    - 檢閲課
    - 整理課
  - 上映部
    - 巡營課
    - 直營課
  - 經理部
    - 會計課
    - 用度課
    - 管財課
    - 製作會計課
  - 東京支社
    - 業務課
    - 經理課
    - 神戸出張所

監督（娯民映畫）

日系	滿系
大谷俊夫	周曉波
荒牧芳郎	朱文順
水ケ江龍一	張天賜
山田英三	王則
	宋紹宗
	徐紹周

監督（啓民映畫）

森信	島田太一
高原富士郎	辻野力彌
高橋紀	古賀正二
新田稔	中澤遥
上砂泰蔵	

主要演員

（男子）

演員名	出生地
徐聰	（北京）
隋尹輔	（龍江省）
李顯廷	（大連）
杜撰	（錦州）
戴劍秋	（齊々哈爾）
王宇培	（河北省）
劉恩甲	（扶餘）
張書達	（吉林）
周凋	（昌圖）
浦克	（奉天）
季友梅	（哈爾濱）
崔德厚	（大連）
安琪	（奉天）
董波	（天津）

（女子）

演員名	出生地
李香蘭	（奉天）
季燕芬	（哈爾濱）
栗苔	（哈爾濱）
白玫	（北京）
張敏	（吉林省）
鄭曉君	（新京）
孟虹	（哈爾濱）
王麗君	（鐵嶺）
趙愛蘋	（奉天）
王瑛	（新京）
姚鷺	（哈爾濱）
陶滋心	（哈爾濱）
馬黛娟	（新京）
張靜	（新京）
曹佩箴	（哈爾濱）

◇製作映畫

【娯民映畫の部】 德八年七月現在

◎康德六年度作品（十二本）

題名	卷數
德月快車	一〇
知心曲	九
田園春光	一三
國法無私	一〇
富貴春夢	一一
鬼魂復仇	九
怨母淚	九
鐵血慧心	一三
眞假姉姉	一一
東遊記	一一
煙鬼	八
國境之花	六

◎康德七年度作品（十九本）

題名	卷數
黎明曙光	一〇
情海航程	一一
如花美眷	九
人馬平安	九
愛焰	一〇
王屬官	八
風潮	一〇
有朋自遠方來	七
藝苑情侶	九
流浪歌女	一〇
新生	七
誰知她的心	八
現代男兒	七
地平線上	七
大地秋光	六
劉先生回頭	八
都市的洪流	九
現代日本	一一
胖瘦鬧三更	一二

◎康德八年度作品（　本）

題名	卷數
運轉時來	一〇
患難交響樂	九
明星日記	七
幻夢曲	九
雙妹淚	九
鐵漢	九
家	九
黃金夢	

【啓民映畫の部】康德八年七月現在

◎康德五年度作品（二二本）

題名	版別	卷數
石炭と鐵工業	日	二
安欽呼圖國都訪問記	無聲	一
日滿一如	日	二
防共の契	日獨伊	二
故鄉孝青國葬典禮	日滿	二
冬の移民地	日	二
康德五年度植樹節	無聲	一
秩父宮殿下御巡視の建國大學	日文無聲	一
速達郵便	日滿	二
林業移民	無聲	三
猛火の脅威	日滿	一
保險報國	日滿	一
建國の理想	日滿	一
街頭連絡	日文無聲	三
戰ふ關東軍	日	三
大陸の曉	日	四
康德五年全聯實況	日	二
砂金境北滿	無聲	一
拓け滿蒙	日	二
合成燃料會社起工式	日文無聲	一
大谷拓相移民地視察	日	一
農業拓士の林耕收穫	日	二

◎康德六年度作品（三一本）

題名	版別	卷數
警民懇談會	無聲	一
東滿の猛獸狩	滿文無聲	一
鹽と滿洲	日	四
火柴	日	三
防共參加排英大會	滿	一
鴉片	滿	四
興安軍凱旋	滿	一
戰ふ國軍	滿	一
森林滿洲	日	五
康德六年度植樹節	日	一
地籍整理一環	日滿	一
幸福之路	滿	四
國防婦人の活躍	無聲	一
興亞國民動員大會	日	四
滿洲空の旅	日	二
黎明の寶庫東邊道	日	三
躍進電業	日	四
大地的光明	滿	五
火燒的燒法	滿	二
康德六年度全聯實況	日	二
二千萬屯目指して	日	三
ラマ跳鬼	日	一
水上洗禮祭	日	一
水上漁業	日	一
日滿華競技大會	日	一
滿洲回教徒	日	一
小八家子	日	二
勤勞奉仕隊	日	四
西部國境戰	日獨伊英	二
ホロンバイル	日	一
三河	日露	三

◎康德七年度作品（三〇本）

題名	版別	卷數
本溪湖の鐵と石炭	日文無聲	二
地籍整理一覽	滿	一
樂土新蒙古	蒙	二
我們的軍隊	滿	五
全國聯合協議會滿文スーパー	日	六
皇帝巡狩	日	五
鐵の都	日	五
冬の滿洲	日	四
綠化運動	日滿	一
建國杜道	日	二
黎明日本海	日	二
宅から宅へ	日	二
躍進吉林省	滿	二
民族の歡	蒙	三
光輝日本	滿	四
我們的全聯	滿	一
荷造り	日	二
國兵法解說	滿	四
慶祝動員大會	日	三
建國忠靈廟鎭座祭	日	一
音曲短篇集	滿	三
康德七年度全聯記錄	日	二
康德七年度宮廷御造營記錄	日文無聲	
秘嶺白頭山	日	二
聖鍬部隊	日	三
滿支點描	日	四
ボクトオーラ祭	日	二
大日本帝國軍隊與國民	滿	四
滿鮮支空の旅	日	三
萬里築堤	滿	二

◎康德八年度作品（　本）

題名	版別	卷數
滿洲棉花	日滿	一
喇嘛廟宗團結成式	蒙	一
火柴	滿	一
滿洲建國史（前篇）	日滿	五
滿洲鹽產	滿	一
本溪湖の全貌	日	六
本溪湖の全縣福祉篇	日	二
東邊道	日	二
觀光滿洲	滿	二
雪と兵隊	日	二
我們是滿洲國民	滿	一
滿洲的軍犬	日滿	二
五穀豐登	滿	四
冬の開拓地	日	二

【滿鐵映畫製作所】 滿鐵映畫製作所は滿蒙事情の紹介及社業の記錄及宣傳の目的を以て、大正十二年本社社長室に映畫班を設置したるに始まり、其の後逐次機構設備陣容の整備擴充改善を行ひ昭和十一年其の機構を獨立せしめて映畫製作所と稱す。現在映畫製作所は總裁室弘報課所管の下に所長を置き、滿鐵の事業を中心として大陸國策に立脚せる映畫の撮影及製作に關する事項を管掌して居る。

「主要製作映畫」

滿蒙破邪行（滿洲事變記錄）
嫩江越えて（　同　）
曠古の大典（滿洲國皇帝即位式記錄）
風薫る（秩父宮殿下滿洲國御訪問記錄）
滿洲國修聘特使（鄭總理日本訪問記錄）
春風萬里（滿洲國皇帝訪日記錄）
國際聯盟調査團（一行來滿調査記錄）

秘境熱河（熱河一圓の紹介）
草原バルガ（蒙古バルガ地方の紹介）
曠原兒（拓務省移民記錄）
開拓突擊隊（自警村移民記錄）
鐵路抗日（支那事變記錄）
黃河作戰（支那事變記錄）
上海戰線ルポルタージユ（　同　）
滿洲大豆（滿洲大豆の理化學的研究）
滿鐵三十年（滿洲文化史）
健設工事（鐵道建設記錄）
アジアに乘りて（國民學校國語讀本映畫化）
東滿の狩獵（鏡泊湖の紹介）
華北交通創業（同社創立記錄）
新京（國都新京の紹介）
少年拓士の日記（少年拓士の現地記錄）
娘々廟會（滿洲土俗紹介）

「完成豫定主要作品」

北京の花（北京の花紹介）
オルドス越えて（包頭寧夏踏破記錄）
機關車パシハ（機關車製作工程記錄）
滿鐵橫斷（滿鐵社業紹介）
職場通信（滿鐵職場記錄）
職能競技（滿鐵業務競技記錄）

【華北電影股份有限公司】 本協會は舊中華民國臨時政府及び新民會の政治的統一を援けるべく意圖されつゝあつた映畫事業が、此地の中心勢力の諒解を得て一つの會社として成立を見たわけである。日支兩國民の眞の提携を目的に日本の眞の姿を紹介することが現下の使命で（一）日本文化映畫の上映、（二）滿洲文化映畫の上映、（三）宣撫映畫の上映と製作等を其具體的使命としてゐる。昭和十三年二月北京に事務所を設け、爾來時局ニュース、記錄映畫、國內宣傳映畫の製作を續け、各主要都市に邦畫の上映をなし滿映作品の配給をも行つてゐる。

【中華電影股份有限公司】 昭和十四年七月資本金百萬圓を以て上海に設立され、事務所を共同租界四馬路（江西路）ハミルトンハウスに置く。映畫による日滿支文化の融合を目ざし不取敢事業の目標を戰禍を蒙れる中支民衆に慰安と娛樂を與へる事及び遠く南支滿洲國に優秀な映畫を供給することに置き漸次映畫の積極的政策、配給に乘り出す筈で中央政府に於て其重要性に鑑み必要なる監督助成のため適當の指導、補助をなすことになつてゐる。

主要業務

一、映畫の製作　二、映畫の配給竝輸入　三、映畫の上映竝興行　四、同種事業に對する投資竝融資　五、其他前各號に附帶する事業

＝映畫常設館＝

◇滿洲及關東洲

【日系映畫館】

地名	館名	定員	所在地
大連	日活館	九〇〇	盤城町二三
同	中央館	九〇一	伊勢町一一六
同	常盤座	一,〇五四	常盤町三八
同	太陽館	一,〇四四	近江町二
同	帝國館	七八五	信濃町三三
同	寶館	八三五	岩代町三九
同	朝日館	五七〇	巴町六三
旅順	映畫館	五五〇	乃木町三ノ二一
奉天	大陸劇場	二,一六六	住吉町一
同	平安座	二,〇〇〇	大和區平安通一八
同	新富座	七四〇	青葉町六
同	南座	一,二九三	青葉町四六
同	奉天館	六九七	春日町一〇
同	演藝館	六四〇	住吉町九
同	奉天劇場	一,〇〇〇	大和區十間房
同	銀映劇場	八〇〇	住吉町三
新京	帝都キネマ	一,三三五	新發路一一〇
同	豐樂劇場	一,二九一	豐樂路四一一
同	新京キネマ	九五〇	祝町二ノ二五
同	朝日座	一,〇九〇	朝日通り
新京	銀座キネマ	七〇六	吉野町一ノ一四
同	協和會館		大同大街
哈爾濱	平安座	一,一五〇	斜紋街一八
同	オリアント劇場	八〇〇	南崗義州街一〇九
同	大勝劇場	八五〇	外國四道街六
同	モデルン劇場	九三八	道裡中央大街一一三
同	アジア劇場	一,〇〇〇	南崗義州街九二

同	哈爾濱會館	一、三〇〇	水道街一〇四
牡丹江	牡丹江劇場	一、五〇〇	丹明街二
同	有樂劇場	一、三〇〇	七星街一三
同	厚生會館		西聖林街一一五
鞍山	中央劇場	一、〇〇六	北二條町五〇
同	千日座	七三三	北三條町一五
同	友樂館	七八〇	北一條町二四ノ三
佳木斯	佳木斯劇場	五七〇	銀座町二丁目
安東	安東劇場	一、二〇〇	四番通四ノ三
同	中央キネマ	六〇〇	大和橋通九ノ三
同	南地座	七七〇	三番通六ノ三
吉林	眾樂館	一、〇五〇	三維路
同	公會堂	七七〇	南大路
撫順	豐樂館	五二四	西五條通三八
同	樂天館	八五〇	東七條通二八
同	共樂館	四九〇	永安大街六七
齊齊哈爾	齊齊哈爾會館	四五〇	治安街五
錦州	錦座	六六八	正陽區春日街七
同	錦州劇場	七〇〇	錦華區錦座街三
敦化	日滿會館	四五〇	小東門外凱旋通
公主嶺	公會堂	五五〇	楠町三丁目
營口	公會堂	九〇〇	入船街二ノ一九
遼陽	遼陽座	四五〇	大和通二〇
本溪湖	公會堂	八五〇	太子河一六
四平市	四平街劇場	七〇〇	北五條通九
同	公會堂	七〇〇	四平省四平市
蘇家屯	協和會館	一、三〇〇	白馬町三五

東寧	國境館	二〇〇	大和街
圖們	圖們劇場	九三〇	銀河路
龍井	龍井劇場	八〇〇	新安區延平路
延吉	新富劇場	八〇〇	安定區
通化	通化館	三〇〇	城南關
海拉爾	プログレス	三〇〇	東頭道街四四
東安	東安劇場	四〇〇	聖朝路
承德	承德劇場	六六〇	南營子大街
北安	北安劇場	一、二〇〇	天城區九
林口	林口劇場		東安省林口
鐵嶺	公會堂		廣裕區西大街四六
開原	公會堂		東洋街四九
阜新	壽座		城內南一條街

○直營館

滿洲里	滿映館	二四〇	滿洲里二道街
東安	同	六〇〇	東安省東安
虎林	同	五三八	東安省虎林
海拉爾	同	六一〇	海拉爾市中島
黑河	同	四三〇	黑河省黑河
綏陽	同	四〇〇	牡丹江省綏陽
富錦	同	八〇〇	三江省富錦
阜新	同	五四八	錦州省阜新海州區
蛟河	同	四〇〇	吉林省蛟河
通遼	同	六四〇	興安省通遼
札賚諾爾	同	三〇〇	興安北省札賚諾爾
新京	滿映會館	三二五	新京滿映構內
北票	同		錦州省北票
本溪湖	同	六一八	本溪湖市協和區

【滿系電影院】

（右二館は滿系のみ上映）

地名	電影院名	所在地
新京	國都電影院	東二馬路
同	國泰電影院	東五馬路二一五
同	長春電影院	東三馬路
同	大安電影院	永春路六二
同	光明電影院	永春路六八
同	新京電影院	日本橋通八〇番地
哈爾濱	大光明電影院	道裡中國九道街三三號地
同	巴拉斯電影院	道裡中國七道街五三號地
同	國泰電影院	道外正陽十六道街六〇號地
同	平安電影院	道外許公路景陽街一七八號地
同	亞洲電影院	道外正陽北大六道街一九號地
同	東北電影院	道外昇平二道街二四號地
同	大同電影院	道外正陽街一二道街
同	明星電影院	傅家溝國課街一九
奉天	光陸電影院	瀋陽區一德街五段一三五
同	國際電影院	大和區東亞街一段一一
同	天樂電影院	瀋陽區灰市胡同
同	亞洲電影院	瀋陽區小西街二段二一
同	天光電影院	瀋陽區大西街二段一一二號
同	雲閣電影院	大和區康泰街四段九號
同	光明電影院	瀋陽區一心街五段一二八
同	興亞電影院	鐵西區南六路一段
同	明星電影院	瀋陽區惠工街一段一二六
同	保安電影院	大和區厚生街三段三號
同	國民電影院	瀋陽區北興街二段五〇

大連	世界電影院	西崗日新街一〇
同	宏濟電影院	奥町六〇番地
齊々哈爾	永安電影院	永安大街一〇五
同	金城電影院	朝陽街一六
同	大陸電影院	沈家胡同一
牡丹江	東安電影院	郵政路五ノ六番地
佳木斯	協和電影院	臨江街三五
同	平安電影院	通江街一四三番地
同	春華電影院	德祥街三〇三
營口	營口電影院	綏定區日新街一八號地
同	平安電影院	太康區地利街九番地
撫順	福興電影院	平康里二〇番地
同	大同電影院	福民馬路四丁目
吉林	國泰電影院	河南街一七八
同	俱樂部電影院	糧米行街新安胡同五
同	秋星電影院	二道街一四
安東	東平電影院	新安街二八
鞍山	世界館	鐵西南七番町七番地ノ一〇
遼陽	遼塔電影院	西二道街
鐵嶺	銀州電影院	龍山街南大街一二
四平街	中央電影院	北五條通一一番地
錦州	錦州電影院	錦華區朝日街
海拉爾	海拉爾劇場	西大街一〇四
克山	平安電影院	東南新關二道街六〇
泰安鎮	泰安電影院	南大街
敦化	日滿會館	凱旋通
通通	通化館	館通化街雲開區六ノ一二
勃利	東安電影院	中正街北二道街
東安	明星電影院	東安聖朝路
琿春	日滿演劇場	琿春街鎮定區公會堂內

西安	新光電影院	城內中興北街一〇一號
公主嶺	寶光電影院	敷島町二丁目一七番
寧安	寧安劇場	寧安街興隆區
白城子	白城子劇場	富興胡同
北安	北安劇場	北安街東松村區
千振	振安電影院	三江省樺川縣千振街
訥河	訥大電影院	南二道街裕國胡同二八
海倫	文化電影院	東市場內
阜新	壽座電影院	協和區大和街三八番戶
珠河	興亞電影院	珠河縣明禮區緯二路
林口	林口劇場	林口縣林口街
昌圖	國光電影院	昌圖縣城內關帝廟街
興山	協和館	鶴立縣興山街

（滿映直營電影院）

地名	電影院名	所在地
滿洲里	滿洲里滿映館	二道街
富錦	富錦滿映電影院	康平區鴻源分區
阜新	阜新滿映電影院	海州區清水街二段
北票	北票滿映電影院	岳家溝
通遼	通遼滿映電影院	永福大街
本溪湖	本溪湖滿映電影院	協和區湖春裏
黑河	黑河滿映館	黑河省黑河東大街
綏陽	綏陽滿映館	牡丹江省綏陽
虎林	虎林滿映館	東安省虎林
蛟河	蛟河電影院	吉林省蛟河驛前
札賚諾爾	滿映館	興安北東札賚諾爾旗

（停滯電影院）

地名	電影院名	通信處
奉天	審陽電影院	奉天驛前亞洲旅館滿映出張所交
大連	友樂電影院	大連山縣通滿映出張所氣付
綏化	綏化劇場	濱江省綏化縣城內戲園子胡同後藤
孫呉	大同電影院	交通路義昌盛交丁善交
呼蘭	呼蘭電影院	建國街呼蘭電影院附近馬學田
延吉	延新電影院	琿春廣順和交馬殿英
牡丹江	新安電影院	牡丹江東安電影院交英治新
臨江	臨江館	通化省通化通化館城川範之
拜泉	平安電影院	國光西二道街劉榮久
哈爾濱	慈光電影院	道外正陽北大六道街二一七號地
撫順	中和電影院	中和馬路七丁目
嫩江	興嫩電影院	協和路六條
依蘭	三姓キネマ	依蘭柴西大街
阿城	平安電影院	天賜區智勇胡同
蘇家屯	協和會館	白馬町協和會館フタムラ商事
雙城	興亞電影院	樂士街

（影片特別發送影院）

地名	電影院名	影片發往地址
撫順	中和電影院	撫順東七條通蜂谷慰安社蜂谷文壽
琿春	日滿演劇場	圖們驛三和順交
拜泉	平安電影院	克山國際運輸公司交
富錦	滿映電影院	佳木斯臨江街協和公寓六二映駐在員交
阜新	壽座	（東阜新驛經由）協和區大和街三八番戶

（滿映出張所、駐在員）

出張所或駐在員	事務所所在地

大連出張所　大連山縣通東拓ビル
哈爾濱出張所　哈爾濱道裡地段街弘報會館
奉天出張所　奉天驛前亞洲旅館內
齊齊哈爾駐在員事務所　齊齊哈爾新馬路五
佳木斯駐在員事務所　臨江街協和公寓六二
吉林駐在員事務所　吉林河南街二合號胡同七

◇中華民國

【日系映畫館】

山海關　山海關劇場　南門外興隆街
北京　光陸劇場　東城崇文門大街一九九
同　國泰劇場　西城絨線胡同一三〇
同　飛仙劇場　燈市口一三
天津　浪速館　福島界
同　天津劇場　旭町
同　天津映畫館　特三區
同　大和キネマ　大和街
同　浪花館　特一區
保定　喜樂館　保定車站大街
石院　勸業劇場　親善街
濟南　日本劇場　經二路緯三路
同　山東映畫館　同
青島　國際劇場　山東路九八號
同　青島映畫劇場　李村路一二號
同　電業館　市場三路二六號
同　東洋劇場　錦州路二八號
徐州　徐州劇場　大同街
連雲　國際劇場　觀海路
開封　開封劇場　新民大路北段
太原　東方劇場　首義門街
同　太原劇場　柳巷街
張家口　世界館　松安市場
大同　大同映畫劇場　大西街鐘樓西街
厚和　協進電影院　舊城小東街（日華共用）
上海　金城大戲院　北京路
同　新光大戲院　寧波路
同　明星大戲院　派克路
同　中央大戲院　北海路
上海　東和劇場　乍浦路
同　銀映座　北四川路
同　第二歌舞伎座　同
同　虹口キネマ　乍浦路三三八
南京　東和劇場　中山路一〇〇
同　中喜劇場　楊公井一五
同　中華大戲院　夫子廟（日華共用）
蘇州　青年會館　北局
無錫　東和劇場　城內公園內
鎭江　中華大戲院　中山路
杭州　西湖キネマ　英士街
同　中華大戲院　延嶺路
漢口　中華映畫劇場　特二區廬陵路七一
同　東和劇場　府東四路二三

【華系映畫館】

唐山　長城電影院　商場大街
同　天宮電影院　同
北京　新々電影院　西單牌樓路南
同　中央電影院　北新華街二五
同　大觀樓電影院　前門大柵欄五四
同　同樂電影院　前門大柵欄門框胡同
同　銀行電影院　後門大街路西
同　民衆電影院　西場西單商場內
同　箭樓電影院　前門箭樓內
天津　華安電影院　佛界
同　天津影院　北馬路
同　上平安電影院　南市
同　天宮電影院　佛界
同　權樂電影院　南市
石門　華北電影院　至善街
濟南　大觀園電影院　經四路大觀園內
同　大觀常設館　經三路大觀園內
同　濟南電影院　城內舊軍門巷
青島　光陸電影院　海泊路六三號
同　上手安戲院　滄口路二二號
同　光陸大戲院　福寺路六三號
同　光陸台東電院　台東二路一〇二號
徐州　金城戲院　快哉亭公園
開封　華北電影院　南土街
太原　華北電影院　南倉巷
張家口　察南民樂會電影院　橋頭北市場
大同　新民大劇場　大西街鐘樓西街
厚和　協進電影院　舊城小東街（日華共用）
上海　金城大戲院　北京路
同　新光大戲院　寧波路
同　明星大戲院　派克路
同　中央大戲院　北安路
同　下德大戲院　下德路
同　恩派亞大戲院　霞飛路
同　光華大戲院　愛多亞路
同　九星大戲院　福煦路
南京　國際劇場　中山路
同　中華大戲院　夫子廟（日華共用）
蘇州　大光明　北局
同　蘇州戲院　同
無錫　大光明大戲院　北門外大河地沿頭

無錫　金城大戲院　漢昌路長康里（休業中）
鎭江　復興大戲院　復興路
同　和平大舞台　大西路
同　大東劇場　寶蓋路（夏季休業）
同　公園劇場　甦生路（夏季のみ）
杭州　大光明戲院　延嶺路
同　杭州影戲院　站前
同　中華大戲院　延嶺路
漢口　上海大戲院　特二區兩儀街二〇
同　新市場　中山路三五二
同　明星大戲院　佛界福煦大將街
廣東　新華戲院　惠愛東路
同　長壽戲院　長壽西路
同　大德劇場　大德馬路
同　新聲劇場　惠愛西路
同　民樂劇場　惠愛東路
同　金聲劇場　十一甫路
同　新々劇場　同

【外國系映畫館】

北京　眞光電影院　東安門外
同　芮克電影院　米市大街
同　大光明電影院　前門大柵欄
天津　エムパイア　英界レイスコースロード
同　マジエスチツク　英界ウッドローウイルソンストリート
同　グランド　英界カンシルロード
同　オデオン　英界ロンドンロード
同　アストリア　佛界ルーデマレシャールフオッチ
同　スター　佛界ルーフアブイエ
同　プリンセス　佛界ルーデマレシャールフオッチ
青島　キヤピトルシネマ　湖北路二七號
同　フールトズシネマ　山東路六一號
同　スターシネマ　安徽路六號
上海　國際劇場　海寧路
同　杜美　杜美路
同　パラダイス　嘉興路
同　グランド　靜安寺路
同　カセイ　霞飛路
同　エムパシイ　同
同　パリー　同
同　メトロポール　虞洽卿路
同　ロシイ　靜安寺路
同　キヤピトル　博物院路
同　南京　愛多亞路
同　麗都　貴州路
同　リアルト　膠州路
同　ウイルス　海寧路
漢口　中央戲院　佛界福煦大將街
同　維多利戲院　佛界バンド通

〔映畫用語〕

（アトラクション）元來惹きつけてことを云ふが、映畫興業の際に映畫以外の方法で客を呼ぶ上演。
（アンサンプル）全的構成、綜合性と云ふ意味から一つの藝術集團或はその集團の藝術表現性の綜合を云ふ。
（イット）エリナー・グリン女史原作、クララ・ボウ主演の映畫題名「あれ」の原語で性的魅力を指し、而も新しい溌溂たる魅力を云ふ。
（イメージ）映像、畫面の意。
（イミテーション）眞似ること或は模倣作品。
（ウイット）機智。
（演出）映畫の撮影場面を指導し藝術的に表現すること。
（オープンセット）撮影所內の戶外撮影。
（オーバーラップ）場面が重つて表はれる場面轉換の一キヤメラ技法。
（オリジナル・シナリオ）脚本家が原作脚色を獨りで創作するもの。
（キヤスト）配役。
（サスペンス）暗示。
（シリーズ）連續映畫。
（スナップショット）瞬間のポーズを撮る寫眞。
（ソフトフオーカス）焦點を稍ぼかした手法。
（テケツ）切符賣場の通稱。
（テクニカラー）天然色映畫。
（フリーランサー）專屬でなく、各社と自由契約で出演する技術者。
（フラッシユ・バック）各シーンの長さが頗る瞬間的で目眩ましい感動を與へるカメラ技法。
（プロデユーサア）製作者、具體的には映畫のプランと製作過程の責任立案者。
（フオーカス）レンズの焦點、狙ひ。
（ミイちやんハアちやん）低級な映畫好き。
（ミニチユア）微少の模型でトリックの一種。
（メイカツプ）俳優の化粧、作りのこと。
（ユニツト作品）單一作品。
（リーレコ）再錄音。
（ロング・ラン）長期興業。
（ロング・シヨツト）全景撮影。

―・唐山の旅館・―

改裝なれる！

華北交通會社御指定

唐山（北支）

華北ホテル

部屋數十八室（茶代廢止）

唐山市西馬路

電話一九番

親切第一

陸軍
華北交通 御指定
（富國徴兵保險代理店）

松屋旅館

唐山站前

電話七一番

北支・唐山市郭謝莊大街
（驛より〇、八粁）

御用達は至便
泊り心地第一

万龍旅館

桃崎コセキ

電話一五四番

北支唐山市西馬路
（驛より〇・六粁）

家庭的で
閑靜な

沖乃尾旅館

沖野洋子

電話一〇五番

―・石門の旅館・―

御投宿は弊館へ!!

石門市共存街三七號

浪速ホテル

電話一二六番

喫茶と輕い御食事は!!

浪速グリル

市の中心地

新築四階建純和風!!

石門

日本ホテル

朝陽大街（驛前二〇〇米）

電話（代表一七一番
四六一番）

・圖書室・應接室
・特別室・各階洗面所完備
・朝夕浴室完備
宿料（二食附）七圓以上十五圓迄

演劇

【滿洲演劇行政】 演劇がその社會の文化に及ばす影響が、他の如何なる藝術ジヤンルよりも大きい事は、今更云ふ迄もないことであるが、殊に滿洲國に於ける利用演劇の面に於いては、直接民衆に及ばす影響は非常に大きいのである、それだけに又不健全な行き方をすることは最も警戒されなければならない問題である。

滿洲國に於ける演劇行政問題は早くから指頭を見てゐたが、今春弘報處では廣汎な藝術面の統制、保護、育成を目覺して藝文指導要綱を發表し、政府の藝術文化に對する指導方針と、具體的な援助方法を明らかにしたことは演劇活動の大きな推進力として建設期のこの國の演劇發展の爲に眞に喜ぶべきことである。

劇團協會

現在全滿には百餘の演劇團體があり、劇團として公認されてゐるものは南滿一五（日系六、滿系九）北滿二四（日系八、滿系一四、露系二）の三九團體であるそれ等は演劇、歌劇及び舞踊等のそれぞれの部門に於いて、既に演劇活動の實績を有するものであるが、今夏政府の藝文指導要綱に基づき、三九團を打つて一丸とする滿洲劇團協會を結成し、舞台藝術の創造發達をはかり、會員相互の切磋琢磨によつて劇團の國策への協力を徹底せしめることになつた。

主なる事業としては

1 會員の相互批判及び相互指導
2 會員相互の協助
3 會員外の組織に對する指導協助

などを擧げて、各劇團への指導者派遣、資料貸與、講習會開催などを行ひ、五族の建全娯樂を大陸の隅々まで行き渡らせる意圖である。

滿洲國劇

滿洲國を構成する民族が五指を超え、其各民族が夫々に演劇活動を行ひ、觀客は幾通りにも分たれ、更に日系には日本新劇、滿系には舊、新劇、鮮系には鮮劇、露系には歌劇があつて、「滿洲國劇」の中核を把握することは容易でない。然し新しい國家には新しき演劇が生るべきが當然である。唯それが如何なる型態のものであり、又あるべきかゞ問題となるが、畢竟それは各民族劇團の果敢な活動の上に逐次その一端が示されて行くのではあるまいか。職業的舊劇に對する脚本の選擇が行はれてゐるが、之は飽く迄支那舊劇で、滿洲國劇と云ふには程遠い感がある。

新劇團の特徴

滿洲國新劇團の特色は、藝文指導要綱に示された如く建國精神から出發する。そしてそれは國家建設の線に沿つて演劇文化確立と同時に、民族協和の理想である大衆理解に努め健全なる國民文化の育成に盡してゐるといふ事であらう。

即弘報處や治安部、協和會等が各地に於ける協和劇團の如き存在を重視し、都市公演に農村移動上演に、宣撫工作にこれを利用してゐることである。

「大同劇團」の如く全滿各地公演は云ふ迄

もなく、演劇工作隊を組織して治安不良地に決死の演劇公演を行つたり、其他二、三の劇團の地方公演がそれである。特筆さるべきは康德七年公布された「國兵法」の事務工作に全滿各地の劇團を動員し、之に當らしめたことである。單なる宣傳劇でなく、民衆啓發、民衆娛樂として高い利用價値を以て活動してゐるのである。これ等工作を中心として各地劇團の强化も計られるであらうし、新劇の結成も考へられて來るのである。

【劇團】

大同劇團（新京）　中銀戲劇研究會（新京）
滿洲戲劇研究會（新京）　新京發送話劇團（新京）
新京放送劇團（新京）　新京中央コドモ會（新京）
劇團滿洲（新京）
齊々哈爾協和劇團（齊々哈爾）
齊々哈爾放送話劇團（齊々哈爾）
三江劇團（佳木斯）　劇團牡丹江（牡丹江）
間島協和劇團（延吉）
朝鮮人分會文化部演劇班（新京）
滿洲演藝協會（新京）　奉天協和劇團（奉天）
第一劇團（奉天）　撫順演劇研究會（撫順）
弘宣劇團（撫順）　鶏林劇團（撫順）
安東協和劇團（安東）　國劇研究社（四平）
吉鐵演劇會（吉林）　吉林協和劇團（吉林）
劇團ハルピン（哈爾濱）　新星劇團（哈爾濱）
哈鐵戲劇研究會（哈爾濱）
舊露西亞藝術研究會（哈爾濱）
黒河協和劇團（黒河）　普慶茶園（一面坡）

支那劇

劇場案內

劇場の規則に新式と舊式とある。新式のうちに二通あり其第一は北京あたりで行はれてゐるもので、日本の東京の劇場と同じく坐席に番號が入れてあり、切符の前賣もする。第二の座席は一定の等級である限り番號がなく、「坐り勝ち」で、入場の際切符の檢査をする方法である。舊式のものは中に入つて席を見つけた上でボーイ（茶房）に切符を買はせればよい。滿洲では新式の第二種及び舊式のものが多い。

芝居見物に茶は附物で餘程新式の劇場（例へば天津の中國大戲院等）でない限り席に着けば必ず茶を持つて來る。これは茶を賣つて生活する商人が劇場に附隨してゐるからであつて、普通は茶を飲んでも飲まなくても茶代を拂ふ習慣になつてゐる。舊式劇場—特に滿洲—では茶及び食品類の仲賣の外、蒸タオルを提供する。これは後で料金を請求して廻る。新式劇場には之はない。坐席の分け方は大體平場（池子）の前（前排）と後（廊子）、二階の前房三面（包廂）及び其後方（後廳）と云ふことになつてゐる。包廂は日本の桝に當り、一桝四人乃至五人坐れ、一桝幾らと云ふ料金になつてゐて無論料金は一番高い。個人席で最も高いのは平場前方で此處はほんとうの芝居好きが行く。これは支那芝居が歌を主とする關係上微妙なフシ廻しを聽くためには舞台に近くないと不便だからである。平場の兩袖及び後方は大體同値でずつと安く、一番安いのは後廳である。

開演は晝間（午後）と夜に分けられるが、近頃の傾向としては日曜休日以外は晝間は開演しないことが多いし、開演しても好い俳優は出ない。時間は處に依つて異るが、大體晝（白天）は午後二時頃から六時頃迄、夜（夜戲）は八時頃から十二時頃までゞある。料金は一人當り最高二圓から二三十錢位迄、北京一流の俳優が地方巡業の場合は三圓から五圓まで取ることもある。茶代は一人十錢見當と見積れば好い。

支那劇の見方

【構成】　支那劇には非常に多くの種類があるが普通外國人が觀賞の對象とする支那劇は、二百年來北京を中心として生成、發達したところの黃皮劇（京劇）である。

支那劇は歌劇である—その形式に於いて

は歌劇、その內容に於いては日本の歌舞伎に近い、先づわが能狂言に當るといへるであらう。俳優は全戲曲を歌で唱ひ　蝉方が（セリフ）あつてこれに和する、それから歌には白がまじる。

白は韻をふんだものと、然らざるものとの二種類がある。做（仕草）は細かくかつ誇張され、舞踊化されたものである。立廻りはやゝ型にはまつた點はあるが、すこぶる猛烈であり、巧妙である。背景大道具はあまり用ひず、小道具ばかりですべての場面をこなして行く點は亦能に類してゐる。

近來或種の劇では背景を用ふることもあるがそれは變則である。背景大道具を用ひずして芝居を運んで行く爲手眞似足眞似を以て種々の動作を現はす外はない。舞台の約束として、次のやうなことを頭に入れて置く必要がある。

一、門を取外づし又はかんぬきを嵌めた所作をしたときは、門の開閉を現はす（舞台上には門を示す大道具なし）

一、門があると想像し、ちよつと右足を擧げるのは、敷居を跨ぐ形である。

一、腰をかゞめ、裾を取つて舞台を小刻みに歩くのは梯子段を上下する形。

一、椅子と高机とを並べ、その上に登るのは高所に登つた形。

一、四つの椅子と兩開きの幕で寢台をつくる。

一、二つの椅子に兩開きの幕をつけ、それを上げ、中央に机を置いて祭壇又は政廳をつくる。

一、鞭を持つてゐるときは馬に乘つてゐるものと想像すること。

一、茶褐色の旗に車輪の形を書いた二つの幕の內に俳優がはいつたときは、車に乘つてゐることを現はす。

一、小さい兩開きの幕を後からかざすのは、輿に乘つてゐることを示す。

一、櫓に布をつけた船頭が、俳優の後につき從ふのは船に乘つてゐることを現はす。

一、浪模樣の旗を持ち出したときは、水上又は水中のつもり。

一、茶色の長い鉢卷をしたときは病人。

一、頭から飾りのない赤い布を覆ひかけたときは死んだ形。但し結婚式のとき新婦は飾りのある赤い布を頭からかぶる。

一、黑い紗布を頭からかぶつた時は、此世にゐながら幽界のものと物語る形。

一、白い紙の房を兩肩から長く垂れたのは幽靈を現はす。

一、雲の繪をかいた小道具は神仙を表はす。

一、黃硝石の粉を燃やして火玉を見せるのは、幽靈その他魔性のものゝ現はれたるを示す。但し火事のときにも同樣のものを用ふ。

以上で現代支那劇の構成の大體を述べたが、言葉が分らない調子が分らない上に、舞台裝置の簡單な支那劇を了解しやうとするのは容易の事ではない。

支那劇の觀賞に先づ必要なのは劇の內容を知ることである、例へば「霸王別姬」とは何う云ふ劇であるかと云ふ概念を養ふことである。七十二回戰を交へて一度も負けたことのない項羽が、韓信の爲に計られて九里山の一戰に破れ四面楚歌の聲に驚かされて、愛妃虞美人が訣れの舞をする所であるとの豫備知識を持つて見て、初めて興味津津たるものがあるからである。一目して其藝題は何かと分るのは容易な事ではないので、それには劇本を熟讀し、舞台上の所作と相待つて、初めて觀劇の基礎的知識とでも云ふ可きものが出來上るのである。勿論二百も三百もある劇の筋合を全部知ることは容易ではないが、併し平常演ぜられる劇は大抵定つて居るので、三國誌、水滸傳、西遊記、封神榜、狸猫換太子、楊家傳　西廂記、琵琶記　紅樓夢、岳飛傳、施公案、三俠五義、紅鬃烈馬の類、其他時代々々流

行の物を研究すれば充分である。

次に支那劇特有の所作を呑み込んでおくことも、觀劇の近道である。以下最も眼につくものを幾つか擧げて見やう。

【龍套】 支那劇はうるさい程旗持や刀持が走り廻るもので、之は皇帝とか元帥とか云ふ人の從者で、其數は四人に定つて居る。至つて粗末な風をして居るが、之は下廻りの役であるからで、其中黃色い上衣を着たのは宮中の奉仕者である。總稱して「龍套」と云ふ。之にも一定の方式があつて、上場の時は最初の二人が斜に進んで左側に後の二人が右側に並ぶ而して後から皇帝が現はれて二列の間に立つと云ふことになる。下場の時も龍套は兩方から一列に中央に進み、先拂をしてから下る。

【趙馬】 馬に乘る仕種の時は必ず鞭を持つことになつて居る。長さ四尺許りの鞭で、紅白黃等の房で飾つてある。從者が鞭を捧げると本人は鞭の先の紐の輪を藥指に嵌めてから柄を握る。それから兩脚を動かして馬に乘る型をするのである。終つて鞭を水平に波を打たせて前進する。鑼鼓に合せて馬で舞台を縱横に馳け廻る仕種は、一定の法式があつて之を趙馬と云ふ。

【覇起】 之は武人の示威仕種であるが一面又鎧兜の着附を良くする動作と考へられる。先づ主役の武人が上場の時九龍口で止り、左腕を横に曲げて力を入れて水平に伸ばし、右腕を横に曲げて添へ、大鈸の音に合せて傍目も振らず斜進し、舞台の中央正面に到り、其儘後退りして舊の位置に歸り、兩腕を交る〲伸ばし次に交る〲目の前から頭の上に揚げ、右足を高く蹴り次に左足を蹴る。此處で一廻轉して今度は舞台を角に廻つて再び前の正面に達し、愈々本藝に入る。此仕種は元帥一人でやることもあれば、四人又は八人の大將が一人づゝ出て來てやることもある。

【高相】 大官が上場の時一度其處に止つて姿勢を正し文官は袖をしごいて兩手を冠の前に當て、武官は兜の前に輕く手をやり兩方とも型の如く長い鬚をしごくことがある。婦人も主役になつた者は、時に同じ樣に一度止り、長く垂れた頭髪の側毛を下にさすることがある。之は何れも威儀を整へる仕種で之を亮相と云ふ。

【鬚と袖】 鬚は威嚴を示すより寧ろ年齢を表はすものであつて、此鬚のしごき方が最も重大な表情の一になつて居る。鬚の扱ひ方と同じやうに目に附くのは袖の振り樣である。衣服は武人の用ひる一部の物の外何れもダブ〱した袖のある物で、其袖の先に又水袖と云ふ二尺許りの白い袖が附いて居る。俳優は其の水袖を投げたり、手首に巻いたりして感情を表現する。

【役柄】 支那劇を觀るに當つて最も必要なことは役柄に關する知識である。現行支那劇の大部分は、日本劇にあてはめていへば時代劇で、その芝居の主役が老生(主役)ならば老生戲といひ、花旦が主役となつてゐる劇ならば花旦戲と稱する。役柄のことを支那では脚色といひ、昔から隨分八釜しい分類がある。

一、生 男脚色の一つで、年齢であるか、唱を主とするか、立廻りを主とするか等によつて種々の區別がある。

(イ) 老生 俗に鬚生又は鬍子といふ。中年以上の正しい性格の男性は大抵この役に扮する。顔に隈取をしないで、耳から頤にかけて長い鬚をつけるのが特徵である。皇帝、忠臣烈士、名賢將等に扮する役柄で科、白、唱ともに莊重で、現行支那劇では主役になる場合が多い。日本の主役と心得て差支へない。

(ロ) 武生 立廻りを主とする生で、武勇すぐれた豪傑、俠客、劍士等に扮する。鬚をつけたものもつけないものもある。

(ハ) 文武老生 唱や白も大切なら立廻りもやるといふ比較的新しい傾向のもので、節も複雑である。

(ニ) 小生 「わかもの役」で日本の二枚目のものも、又立廻りを主とする青年英雄の役もある。「老生」が丹田から發する自然な聲で唱ふに反し、「小生」はキイ〱したつくり聲で唱ふ。又顔はきれいに化粧し鬚もつけない。

二、旦 女形である。

(イ) 正旦 別名を青衣といひ、節婦烈女等に扮する役柄で老生に次ぐ品位を有し立女形とも稱すべきものである。

(ロ) 悲旦 悲劇女形である。新劇に多く用ひられる術語。

(ハ) 花旦 色女形とも謂ふべく、正旦に屬しない女性の型は大部分はこの役柄である。浪旦といふ淫婦毒婦の役柄、玩笑旦といふフザケ役等これに屬する。花旦は第一に扮装を尚びそれから做、白で、唱はあまり重きを置かない。

(ニ) 武旦 立廻りを主とする女形で、唱や白は殆どなく房のついた槍で曲藝をやる。

(ホ) 老旦 老女形。

三、淨 一口にいへば敵將、若くはそれに近い役柄である。顔に隈取りのあるのが特徵で俗に花臉又は花面といふ。大別して正淨、副淨、武淨の三つとし、正淨は唱工に重きを置き、副淨は扮裝氣魄を重んじ、做白に重きを置き武淨は立廻りを專門とする。しかし同一人で或場合は正淨であり、或場合は副淨であり又或場合は武唱であり得る場合が多い。

四、丑 道化役で、小敵の性質を帶びてゐる。劇中の奸人を淨とし、これに似たものを丑とした例が多い。顔に滑稽な隈取りをし甲高い聲でものをいふ。

五、雜 端役で、侍女になつたり、兵卒になつたり、旗持ちになつたりする役である。

【歌調樂器】 支那劇は歌劇である。從つて支那劇に用ひられる歌曲は劇の主成分をなすもので、その種類も多く、劇の組合せに大きな役割を有するのである。樂器も曲の種類に依つて、笛を主とするもの或は胡弓を主とするもの等があるが、現行支那劇では西皮、二黃(皮黃劇)の二歌曲が多く用ひられ、何れも樂器は胡弓を主とし、月琴、笛、笙、太鼓、大鑼、小鑼等を用ひる。嚮方は舞台の右側に位置を占め、中央にあつて竹板を叩き小鼓を打つのが指揮者で、竹板を叩く調子を「板」といひ、小鼓を打つ調子を「眼」といひ、この板眼によつて音樂が整い歌が規則正しく歌はれることになる。即ち喜怒哀樂の關係から歌調の拍子を慢板、原板、搖波、平板、散板、數板、例板、快板、流水板、反板、二六板等といひ、慢板は深思長嘆の場合に、原板は大した感觸なきときに、快板は急劇又は激怒のときに、二六板は得意又は自慢の場合に用ひる。

尚役柄によつて聲の出し方が違ふことは前述した。

【衣裳】 支野劇に用ひられる衣裳を「行頭」といふ。その樣式製法は、唐宋元明四朝の衣裳を參酌してつくつたもので、どんな人がどんな衣裳をつけるかといふことについては特別の規定があり、時代、土地、季節の區別なく、すべてこの特別の規定に依る衣服を用ひる。

次に代表的なものをあげて見ると紫や緋に金で龍を刺繡した大衣を着、銀星や緋の毛房で飾つた兜を被り黑い鬚を附けて出て來るのは大抵皇帝である。唐獅子や龍の刺繡ある大衣を着、同じ樣な星兜を被つたのは元帥である。中に雉尾と云つて雉の尾を二、三本繫合せた飾りを二條、頭の

後ろに垂れるものもある。左右に黒い翼があつて、歩く時プル／＼震へる冠を被つたのは文官で、特に「三國」の魯肅や、「洪門寺」の知縣趙廉等は無地の紫衣を着る。以上何れも腰に玉帶を附ける。袖の細い鎧を着脊に靠旗と云つて三角形の小旗を四本挾んだのは、武人出陣の華々しい姿である。襟を日本式に合せた衣服を着上に同じ形のダブダブした羽織樣の物を引掛けたのは、壯士とか志士の型である。頭目は紫や藍の毛房で飾つた高い兜を附け、部下はピエル式の帽を戴く。尚ほ斯ういふ人が喧嘩にでも行く時は、袖の細い上衣に、頸から細い紐を十字に卷附ける。紫や藍地に八卦形の模樣ある大衣を着、手に鶴扇を持つたのは軍師の型で、同じく囍と云ふ字を模樣にした長衣を着るは金持の老人、上部の四角な學帽を被り、黒や藍の質素な長衣を着たのは學者である。其他一般の老人は茶色の服、頭に同色か藍色の鉢卷をする。

次に「青衣」即ち良家の妻女は、上衣は黒下衣は白で、胸に白の襞の多いスカート式の物を卷くか腰に白帶をする。髮はあつさりと結んで、白布か藍布の鉢卷をし、結び目を長く右脇に垂れる。黄の上衣を着たのは皇妃、濃艷な色合を用ひたのは麗人型、中にもキラ／＼した武裝をしたのは女傑型である。

【隈取】 支那劇の特徴であつて「淨」或は「花臉」と云つて曹操や項羽の樣な豪放な人物を表はす役と「丑」と云つて道化役をするものとの二種ある。眞白に塗つたのは仇役を表はし、黒は剛直の表示で、又五色に規則正しく染めたのは兇暴の相で所謂山寨の王を表はす。張飛の顏も三國志劇を飾る大きな存在で、生地を白とし眼と頰は太い黒線を引き、額に灰色で蝶の形を表はす。關羽の顏の眞紅なのも外に例が無い。「花臉」は性質として斯うした人物を表はすから、其歌も頗る男性的のものである。

次の「丑」と云ふのは、兩眼を白で菱形又は蝙蝠形に染め見るからに滑稽である。

其他隈取をしないものには「生」と「小生」とがある。「生」と云ふのは何れも長い鬚を垂れ、皇帝とか大臣とか云ふ、種類の人は勿論學者でも、易者でも、壯士でも、漁夫でも多く之に屬する。「小生」は若々しい人を表はすので、素顏で鬚がない。

次に女形で主要な役は「青衣」と云ふので、之は貞節なる眞面目の女性を表はし常に其劇の主役たるもので、顏を白く濃厚に塗り、眼を吊眼に畫いて眼と眉との間を赤く染め、口紅を施して耳の前に後れ毛を黒く染める。

【舞臺】 支那劇には日本のやうな幕合と云ふものが無く、且つ花道と云ふものもない。俳優は常に右側の上場口から現はれて左側の下場口に入り續いて後ろを廻つて復た右から出る。藝題が變る時でも別段時間を置かず、僅かにブー／＼といふ原始的の喇叭を合圖にどん／＼進行する。

近頃主要な場面に多少道具立をするものもあるが、大抵は背景を畫いた幕を吊る位で、場面でも纔かに俳優の所作、從者の竝び方、囃しの調子等から考へるより外ない。鞭を持つて出て來る時は、道を急ぐ所か戰陣から歸つて來た所が想像され、起覇と云つて手振り足振り勿體を附けて來る時は、自邸に居た所と想像されるのである。又四人の從者が舞台の眞中に二人づゝ竝んで、後から主人たる權威者が出て來るのは自邸に居て座敷に出て來た事が窺はれ、四人の從者が上場口の正面に二列に竝んで、後から權威者が其間を通つて出て來るのは、他所から歸つた所が窺はれる。

現代支那劇名優

【俳優】 京劇の俳優は元來男の事業であつたが近代に至つて女優も出るやうになつた。然し女優で男役になるといふのは非常に少く多

くは旦役である、旦役でも一流の名優はやはり日本の女形と同樣男でなければならない。

女優は大抵二流以下である、俳優には北京の本場ものと、上海派及び地方廻り專門とがある。北京の俳優は條件さへ調へば何處へでも行くが、上海派及び地方廻り專門の俳優は容易に北京には行けない習慣になつてゐる。

滿洲（大連を含む）及び北支各地（北京を除く）には不斷は地方廻り專門の俳優と上海派のものとが出演して居り、時に北京から本場の俳優が出かけて行くといふ狀態である。

一、二流程度の現代名優には次の如きものがある。

【老生役】 余叔岩、高慶奎、馬連良、王鳳卿、時慧寶、王喜雲、（女優）孟小冬
【武生役】 尚和玉、兪振庭、李吉瑞、瑞德寶、李萬春、周瑞安、蓋叫天
【小生役】 德君如、朱素雲　金仲仁　張寶昆、姜妙香、王又荃
【旦　役】 （男優）梅蘭芳、程硯秋、尚小雲、賈璧雲、荀慧生、黄玉麟、朱琴心、徐碧雲、小翠花、李世芳、張君秋、毛世來、陳麗芳、小楊月樓
（女優）章遏雲、吳玉容、侯玉蘭、梁秀娟
【老旦役】 龔雲甫、李多奎
【武旦役】 九陣風、朱桂芳
【淨　役】 金少山　裘桂仙、董俊峯、郝壽臣　侯喜瑞
【丑　役】 蕭長華　夏月棚、慈瑞全、馬富祿、王長林、曹二庚、王福山

寄席

滿支には寄席に當るものは餘り多くない。日本の寄席の如く一つの席で各種の演藝をやるものは非常に少く、概して云へば寄席的演藝は完全した建物內よりも露天或はそれに近い盛り場の天幕張りの中で一種目每に別々に演ることが多い。

一、雜耍

雜耍と云ふのは寄席的演藝のことで各種の雜耍を一つの席でやるのは天津、北京等の大都會に一、二箇所ある程度で、その種目は大體左の如くである。

（イ） **大鼓書** これは寄席演藝の中心的なもので、こればかり專門にやる寄席が多い、一種の語り物であつて日本の祭文に似たところがある。伴奏に合せて一定の物語を單調なフシをつけて唱ふ、名人はやはり男であるが普通は若い娘が主としてやる。

（ロ） **相聲** 一種の落語で、扇子を持ち滑稽な話を身振りを入れて語る。伴奏なく一人藝で男に限る。

（ハ） **雙簧** 一種の掛合漫才で男二人でやり伴奏はつかない。

（ニ） **說書** 講釋で軍談物が多い、田舍の盛り場や都會の場末では、これだけをやる小屋がある。

（ホ） **淸唱** 胡弓と銅鑼の簡單な伴奏で芝居の一節、義太夫のさわりの如きものを平服のまゝ唱ふ。

（ヘ） **拉戲** 芝居の一節を胡琴を彈きながら唱ふ。又胡弓の一種で肉聲に近い音を出すものを以て芝居の一節を彈くこともある。

（ト） **戲法** 支那手品で變戲法とも云ふ。

（チ） **口技** 猫八式のものまねで簡單な含み笛を使用し、鳥の鳴聲が多いので百鳥聲とも云ふ。

二、落子館（坤書館）

前掲の大鼓書許りを專門にやる寄席で出演者は女許りである。一般には「茶社」と云ふ看板をかけたのが多い。事實客は茶を飲

んで閑をつぶしながら聽くともなく聽くと云つたやうな態度である。料金はおぼしめしである。

三、影戲（インシー）

影繪芝居であるが影繪其ものは從であつて、普通の芝居の如くやはり歌・聽くのが主目的である。影繪の人形は羊又は驢馬の皮を薄く細工して透明にしたもので、それを色々な芝居人形に切り、手足に紐と竹の棒を附けて操る。この芝居には臺詞は殆ど無く、大部分が歌である。

人形には彩色がしてあつて、透明だから、幕にその色が映るので甚だ美しく、單なるシルエットとは大に趣を異にする。

人形使ひと唱ひ手と囃子方とは夫々別だから一座に少く共七八人は必要とする。

四、寄席の規則

近代的のものは入場券を賣るがこれは殆ど行はれてゐない。ぶらりと入つて席につき茶を飲んでゐるとおぼしめしを集めて歩くから十錢か二十錢を奮發すればよい。近頃は料金を定めてゐるところもある。茶代は別に拂ふが處によつては茶代だけ拂へば好いのもある。娘のやる大鼓書の場合には點曲と云つて客の好みの曲（藝題）を註文することをねだつて來る。それに應じて註文をつけた場合は所定の料金を拂はねばならない。この場合演出を指名することも出來る。露天若くは天幕張りの中でやる場合は投げ錢を集めるのが通例である。

＝支那劇場＝

奉天	共益舞臺	北市場
	中央大戲院	同
	奉天大舞臺	城內
	啓新戲院	厚生街
	大觀茶園	北市場
	商埠大舞臺	南市場
	同善戲院	小西街
	鐵西戲院	鐵西
新京	新民戲院	城內新市場
	協和茶莊	北大街
哈爾濱	華樂舞臺	道外十六道街
	新舞臺	道外正陽三道街
	中央舞臺	道外南大道街
大連	宏濟大舞臺	奥町五六
	新世界成記大戲院	日進街一〇
	福興大戲院	不老街五一
安東	永樂舞臺	四番通八丁目
	安濟舞臺	安濟街
撫順	歡樂大戲院	歡樂園
營口	昇平舞臺	通惠區昇平街
	小紅樓舞臺	大康區安樂街
	協和舞臺	泰康區永慶街
四平	大觀茶園	鐵道東二馬路二條通
吉林	新樂戲院	得勝門外
	新民戲院	福綏門外
佳木斯	佳門劇場	東南門外
黑河	福有舞臺	大平街
通化	福興茶莊	西關
齊々哈爾	龍江大戲院	隆盛胡同一四
	龍海茶園	公園臨時市場
錦縣	和樂舞臺	錦華區豐樂街
	增安大戲院	東關區大凌街
本溪湖	湖山樓	滿洲街
山海關	永樂戲院	南門外興隆街
北京	吉祥戲院	東安市場內
	廣和戲院	肉市三六
	華樂戲院	鮮魚口
	中和戲院	糧食店五
	廣德戲院	大柵欄三八
	慶樂戲院	大柵欄一二
	吉順堂遊技場	青雲閣
	華北戲院	西珠市口
	富連成社	虎坊橋八〇
	長安大戲院	西長安街五七
	新安戲院	西長安街一〇一
	哈爾飛戲院	舊刑部街一二
	開明戲院	西珠市口
	三慶戲院	大柵欄
天津	中國大戲院	佛界
	大舞台	南市
	北洋	佛界
	國民大戲院	東馬路
	燕樂大戲院	南市
	天祥市場遊戲院	佛界

	小廣寒	同
	上權仙	南市
	聚英	河北
	中華	日界
	天華景	佛界
	小梨園	同
	天寶大戲院	特二區
	上光明	南市
	新中央大戲院	佛界
	慶雲大戲院	南市
	羣英大戲院	同
	天昇戲院	特三區
	華北	北馬路
	聚華	南市
	昇平	同
	天會軒	佛界
	天桂	河北
	天觀園	佛界
唐山	天娥戲院	商場大街大世界
	天樂戲院	同
	永盛茶園	小山大街
	華樂茶園	同
濟南	中華戲院	經五路
	北洋戲院	通惠路
	東興戲院	按察司街
	天慶戲院	新市場
	富貴戲院	鐘樓司街
	民樂戲院	新市場
	新民戲院	勸業場
	大觀園內第一劇場	經四路大觀園內
	東安大戲院	城內按察司街
青島	中和戲院	山東路
	金城大戲院	南村路
	光陸大戲院	平度路二二
石門	新民戲院	共榮街
	新世界戲院	花園東街
	新々戲院	西花園南頭西横街
	日新戲院	新華市場
	興業戲院	東花園
	新華戲院	新華市場內
	東華戲院	東花園街
	安東戲院	阜康路
	新樂戲院	同
徐州	金城戲院	快哉亭公園
保定	三慶劇場	警察局街
	新民青年會	東大街
	華樂戲院	貴駙胡同
	新民舞臺	普育市場
	益和戲院	同
	日華茶樓	兩益市場
	別有天	第一樓
張家口	東亞大戲院	治安大街
	民衆娛樂場	橋頭南市場
	中和戲院	橋西至善街
大同	大同戲院	鼓樓西街
	興亞大戲院	大北街三官廟
厚和	新民大戲院	財神廟
	協進戲院	大西街
	協進大戲院	大召前
太原	新民大戲院	開化寺西夾道
	新化大戲院	開化寺東夾道
	維新大戲院	大水巷
開封	新民戲院	相國寺前街
	新華舞臺	新民大路南段
	快樂戲院	南上街
上海	大世界	虞洽路
	永安天韻樓	南京路
	先施樂園	同
	新々屋花園	同
	綠寶劇場	同
	大舞臺	九江路
	天蟾舞臺	福州路
	共舞臺	愛多亞路
	璇宮舞臺	同
	靜安戲院	愚園路
南京	南京大戲院	夫子廟
	中央大舞臺	懷海路
	麗都大戲院	夫子廟
	明星大戲院	新子巷
鎭江	復興大劇場	復興街
	和平大舞臺	大西塔
	大東劇場	寶蓋路
	公園劇場	甦生路
無錫	中東大戲院	城外東新路
	大世界大戲院	同
	南京大戲院	同
杭州	大世界	仁和路
	市東遊藝場	忠清大街
	百貨商場	羊壩頭
蘇州	東和大戲院	城外大馬路
	開明大戲院	城內觀前北局
漢口	新市場	中山路
	漢口大舞臺	佛界輔堂街
	天仙舞臺	佛界輔堂里口
	世界大戲院	特二區五族街
	大智舞臺	大智門鐵路邊
	長樂戲院	羅民區漢正街
廣東	海珠劇場	長堤大馬路
	樂善劇場	長壽東路



料理

支那料理

支那料理と日本料理

　支那料理は世界の珍と呼ばれ、美味且營養價も高く世界最上の料理として、ひろく賞味されてゐる。近年日本各都市にも大分支那料理屋が出來て日本人の支那料理に對する認識も相當深くなつて來てゐる。

　支那料理と日本料理の間には非常な差異があるが、それは材料の違ひといふより以上に調理法が異なるからで、例へば日本料理に於ける鰹節のだしの如きものは支那料理には使用されず、多くの場合油を以つてそれにあててゐる。又日本料理に於ては砂糖を比較的多く用ゐ醬油を使用することが多いが、支那料理では砂糖よりも鹽を餘計に用ひてゐる。

　日本料理は見た眼に先づ美感を持たせるといふ傾向であるが、支那料理では味つけに專ら重點を置き、體裁や色の取合せ等はあまり注意が拂はれてゐない。日本料理を花とするなら支那料理は實といつたところであらう。これは實利的な民族性を一面から實證してゐるとも見られるであらう。

　すべて支那料理は調理に當つて火加減の上に細心の注意が拂はれ、例へば野菜なら弱火、肉類なら强火と云ふ風に火加減され、油を使ふ場合も强火、弱火、中火と云ふ具合に注意が拂はれ、火加減によつて長く煮こんで、材料の隱れた本味を引き出すといふのである。而も面白いことは、複雜豐富な料理をこしらへ得るに拘らず、調理道具が至極簡單で鍋一つ有れば何でもこしらへられるといふ事である。

　次に支那料理は魚に偏せずその材料の範圍が非常に廣く、臟物、髓、骨、植物の根皮等、日本料理には先づ使ひかねるやうなものを實に巧みに使用してゐる。そして料理の傾向が大體に於いて熱いものを主とし、苦、辛、鹹、酸、甘の五味を程よく按配して味を第一とし、體裁を第二に置くのであるから、西洋料理や日本料理の趣とはよほど異なるところがある。

　次に食品中蔬菜類例へば瓜類や大根、白菜、人參、葱、蒜、韮、茄子などは盛んに生食するが、魚介類、肉類は決して生食しない。殊に乾物を上手に用ひることは、日本人などの到底及びもつかないところで燕の巢、鱶の鰭、白きくらげ等は代表的なものである。

　燕の巢といふのは、實際は南支、南洋方面に產する一種の海草らしいが、一般には南洋の海燕（アマツバメ）が魚を食べ唾液で海岸の絶壁に作つた巢だと信じられ、採取が困難だといふ點で非常に高價なものとなつてゐる、大抵は模造品が使はれてゐる。

　支那料理は量が非常に多く、大體料理を主食物として米飯、粥等は最後の口直し位に極めて少量用ひるのが例である。

　但し民衆の日常生活に於いては、下層の者は高粱、小米（粟）、小麥、包米（玉蜀黍）、大豆等を材料とした飯或は粥、若くは饅頭、

煎餅、麵の類を主食とし、副食物として多く植物性食品を用ひるので、この階級では白米を食べることは非常に稀である。中流以上の者は主食として大米(白米)、高粱、小麥などを用ゐ、副食物としては主に動物性食品を補ふ例である。

食事の回數は一般に二回と言はれてゐるが、内に點心をとるのが普通である。勞働者級のものの食事は時間も回數も不定のものが多い。大衆は生葱、大蒜などを好んで食べ路傍の店で薄粥、雜炊、餛飩、饅頭の類で簡單に食事をすます者が多い。

點心といふのは、日本でいへば團子、牡丹餅、汁粉ごときものに當る腹ごたへのある食物のことで、範圍は非常に廣い。試みに點心と目される食物をあげて見ると、

〔饅頭類〕 小麥粉を材料とした蒸パン風のもので、形や大きさはいろいろで、中に餡を包んだある。

〔薄餅〕(ホーピン) 小麥粉を薄く煎餅の樣にのばして後に蒸し、火で燒いて燒鴨子(シャオヤーツ)(家鴨の燒き肉)に味噌をつけたものと生葱を一緒に包んで食べる。

〔春餅〕(チユンピン) 小麥粉を糊狀とし鐵板の上で圓形に薄くのばして燒き、豚肉や葱のこまかく刻んだものを包んで食べる。

〔麵衣餅〕(メンイーピン) 小麥粉を糊狀にしたもの・中に葱及び豚油を混ぜ油で揚げる。

〔煎餅〕(チエンピン) 葱と豚油を混ぜ合せた小麥粉の煎餅である。

〔韮菜餅〕(フエイツアイピン) 小麥粉に韮と豚肉を入れた煎餅。

〔油酥餅〕(ユースーピン) 豚肉を小麥粉中に溶かして燒いた煎餅。

〔燒餅〕(シヤオピン) 小麥粉で厚さ五、六分の煎餅を作り、外面に胡麻を塗つて火で燒いたもの。

〔油炸膾〕(ユーチヤホエ) 小麥粉を細長くし豚肉を入れて煎つたもの。

〔八寶飯〕(パーポーフアン) 糯米を柔かに炊き、その中に砂糖、豚油を混ぜ、蓮の實や棗などの果實類を入れたもの、宴會料理の間などによく出される。

〔湯團〕(タントン) 米粉で團子を作り、その中に豚肉、豆沙、蔬菜等をつめ、これを汁に浮かしたもの。

〔粉飯〕(フエンチヤオ) 湯團を油で揚げたもの。

〔粽子〕(ツオンツー) 糯米又は糯粟で作るチマキで中に棗や豚肉、豆などを入れたものもある。

〔炒米粉〕(チヤオミイフエン) 糯米と粳の粉を等分にして糊狀とし、砂糖と胡麻を加へ團子狀にして油で煎り、熱湯中に入れたもの。

〔蓮實湯〕(レンクイタン) 蓮の實、龍眼肉、棗等を入れた汁。

〔杏仁茶〕(シンレンチヤー) 杏仁を葛湯中に入れたもので風味がよい。

〔京團〕 糯米を炊いて團子とし、中に果實、胡麻、砂糖等を混用し、外皮に豆の粉を塗つたもの。

饅頭類には小麥粉を蒸パン風にしたものと餡入りのものとがあり、後者の代表的なものは包子(パオツ)と餃子(チヤオツ)であらう。

包子には糖餡と肉餡の二種があつて、形は三角や圓形がある。肉餡のものには肉に野菜のみぢん切りを混じて用ひる。何れも蒸して食べる。

餃子は俗に豚饅頭と呼ばれ、餡は肉と野菜のみぢん切りを混じ、形は半月形で、これは一度ゆでた上で汁に入れたり又は油をひいて燒いて食べる。肉は何れも豚肉である。

支那料理の調理法

調理法は實に多種多樣であるが、その名前を見ると大體の方法の見當がつく。左に代表的なものを上げると、

〔炸〕(チヤー) 油で揚げた天麩羅式のもの。

〔炒〕(チヤオ) 油でいためたもの。

〔煎〕(チエン) 少量の油をしいて蒸燒すること

〔煮〕(チユー) 先づ水煮にして後で味をつける

〔溜〕(リユウ) あんかけ。油で揚げた後に葛を

かける。

〔燴〕(ホエ) 油でいためた後汁をたつぷりにして煮たもの。

〔烹〕(ポン) 油を少くして、火を強くし材料を入れてすぐ出す料理。

〔湯〕(タン) 汁物。

〔川〕(チヨワン) 味のついた清汁の中に入れて茹でる。

〔熬〕(アオ)〔燉〕(トン) とも云ふ湯と川の中間位の汁で長い間煮込んだもの。

〔燜〕(メン) 弱火で蓋をして長く煮たもの。

〔燒〕(シヤオ) 一度油でいためるか又は燒くか、或は炙(アブ)るかして後も一度煮る。

〔蒸〕(チヨン) 蒸物、但し一度煮たものを更に蒸す。

〔烤〕(カオ) 遠火で炙る。

〔燻〕(シユン) 煙でくすべたもの

〔蜜錢〕(ミーチエン) 砂糖、蜜類を使つて構へる料理。

〔拌〕(パン) 和へ物。

支那料理は系統の上から大體に於いて南部中部北部の三通りあつて、北部料理は北京風、中部は上海風、南部は廣東風で、北方風ほど濃厚である、西方の四川料理も亦特色あるものとされてゐる。滿洲では北京料理が最も廣く行はれてゐる。

支那料理は日本料理や西洋料理と趣が異つて、一人に一皿づゝつぎ別けて出すものでなく、一つの丼を皆でつゝき合ふのであるから衞生上からは感心出來ないが、靄々たる和氣を釀す上には他に見られぬ特色がある。

支那料理の宴會

宴卓は普通一卓八人内外が普通で、十二人位迄は差支へない。料理の運ばれる順序は處により必ずしも一樣ではないが、昔から「鹽辛いものを先にし鹽氣のないものを後にし、濃厚なるものを先にし淡白なものを後にし、汁なきものを先にし汁物を後にすべし。

客が滿腹して筋肉弛緩する懼ある時は辛きもの又は苦きものを用ゐて昂奮させ、客が酒を置いて胃に疲れを覺ゆる懼ある時は酸きもの又は甘きものを用ゐて胃に活力を與ふべし」といふ根本法則が一般に嚴格に守られてゐる。

先づ宴卓には前以つて冷菜が果物などゝ共に置いてあつて、客は席に着いてその酒を呑みながら料理に箸をつけてゐると、やがて宴卓の格式をつけるところの代表的料理が運ばれる。その場合「燕の巣」の料理が有れば燕菜席(エンツアイシイ)といつて上等であり、鱶の鰭ならば翅子席(チーツーシイ)といつて中等、もし海參ならば海參席(ハイシエンシイ)で一番安價といふわけになつてゐる。そしてこれ等の代表料理の格に應じて他の料理もそれ〴〵變るわけである。

また季節により地方により或は料理屋によつて千差萬別の料理が、先に記した根本法則によつて取り替へ引き替へ出され、その間に菓子果物の類も出されるのである。そして酒も充分に廻り料理も大體濟めば飯の菜になるやうな料理が出、これに飯や粥が出て全部終了となるわけである。

支那酒

種類はいろ〳〵あるが、最も古くから愛飲されてゐるものは凡そ次のやうな種類である。

〔高粱酒〕(カオリヤンチユー) 白乾兒酒ともいふ、原料は高粱である。無色透明で臭氣が強く、酒精分は日本の燒酎よりも強烈である。良質の酒を求め難い田舍の宴會などでは之を用ひるが多くは酒豪の飲料、下級民の飲料として用ひられる。

〔黃酒〕(ホワンチユー) 元來は山東の地酒であるが山東人が多數住居してゐる滿洲では滿洲地酒の觀がある。俗に老酒(ラオチユー)とも云ふ。淸老頭兒、混老頭兒の二種あり、前者は淡黃や

酸味を帶び、後者は焦け茶色で稍焦げ臭い。酒精分が弱くて醉心地が輕く、宴會等には一般的に用ひられる。

〔紹興酒〕（シャオシンチュー）　宴會に最も廣く用ひられる。原料は米である。黄金色で酒精分は日本酒より幾分弱く、長く貯藏されたものほど良いとされてゐる。

茶

支那人は一體に習慣的に生水を飲用しない風があつて、茶はすべての階級を通じて不斷に愛好される。

來客に茶をすゝめる事は缺くべからざる接待法で、普通の交際に於いては茶だけ、菓子を出すのは餘程特殊な場合である。

支那產の綠茶には種類が多いが、上等の茶にはさまぐな乾草花が入れてあるから香氣の强いものが多い。紅茶は中流以上の家庭では用ひられてゐる。

菓子と果物

支那では菓子のことを俗に茶食（チャーシ）とよんで、その種類は隨分いろいろあるが、普通に菓子店で賣つてゐる支那菓子には、カステラ類のものや、ビスケット類のもの、それから日本の駄菓子とよく似た駄菓子類である。

支那菓子中で最も發達したものは砂糖漬の菓子類で、各種の果實類、瓜類、球根等を應用して、頗る風趣に富んだものをこしらへてゐる、又油を上手に使ひこなし、複雜な味を持たせたものが少くない。が大體外觀上から云へば、日本の菓子の樣に藝術的な美觀には劣るようである。

果物（果物の外瓜類種子類を含む）を嗜好する程度は日本人以上で、これは常に濃厚な食物を攝つてゐる關係であらう。

瓜類では西瓜、まくわを非常に愛食する、殊にまくわはその嗜好に叶ひ且つ値段が安いので最も大衆向きである。

露西亜料理

露西亜料理の特色は、先づ量の多いことで、量の割合に安價なことであり、料理は寒地である關係上比較的油濃いものが多いが、異色ある味覺と調理に旅人の食慾は限りなく刺激される。露西亜人の習慣として朝夕食は簡單な紅茶、パン、ソーセーヂ位で濟まし、晝食（アベート）に一番金と時間をかける。

從つて一般のレストランでも晝食は特に美味しいものを安く食はせるが、夜食となると高級レストランでは、晝間と同一献立でも倍額位取られる。之れ主に贅澤な階級が多いので、安く提供する必要がないといふわけである。左に主なものゝ簡單な解說をしてみやう。

○ウオッカ（火酒）　酒精分（アルコール）の强い酒で露西亜料理の前座に缺くべからざるものである。

○ザクースカ（前菜）　高價なキャヴイア其の他牛魚肉（イクラ）、筋子と野菜を巧みに取混ぜ、それに異色ある胡瓜漬（アグレツ）を添へたもの。

○ボルシチー　肉、野菜（トマト、馬鈴薯等）の濃いスープ、日本人には之一つでも腹が一杯になる

○ビフストローガン・ポヂャルカ・クリンヌイカツレツト　何れも牛豚肉に馬鈴薯を加へて油で揚げたもの、種類が多く一々擧げることが出來ない。

○シヤシリツク　コーカサス料理の代表に擧げられる最も野趣ある料理で、羊肉を串に刺して燒き、熱いうちにレモン汁、ロシヤソースで食べる作味の逸品である。

○コンポート　デザートに入るべきもので、フルーツを煮詰めたもの。

尙哈爾濱に於ける露西亜料理の主なる食堂は次の通りである。鐵路クラブ・グランドホテル食堂・モデルンホテル食堂・アメリカンバー・ヨツトクラブ

習俗

満支人の性情

既往の國家組織とか爲政者の個人主義等から一面には甚だしく自己本位に導かれた代りに、他面では、何事も他人をあてにせぬ獨立自治の精神を培はれ、不知不識の間に個人としての生活も自治國體としても非常に鞏固にされ來つて居り、國家だの法律だの丶背景を借りずとも何處へでも喰ひ込んで行ける强さを持つてゐる。從つて一般大衆は國家なるもの丶法的觀念が比較的薄くそのため「公戰に弱く私鬪に强い」と云ふことにもなるのであるが、新生國家の善政は之等の習性を改善しつ丶ある。

この個人本位の觀念から殆ど信仰とも云ふべき程の執着を金錢の上に持ち金錢を得るためなり護るためなりには生命をも賭する。

その反面に理窟抜きの大まかな無頓着さ



陽氣さ粘り强さ氣長さが絡み合つて所謂大陸氣分を醸し出してゐる。自分に直接損得にならぬ事柄に對しては一切關心を持たず我不關焉として見過す。庶民階級の日常生活は、實に無造作で衣食住は至つて手輕でありすべて最少限度のもので間に合せてゐる。又商賣や交涉ごとにしても最後まで時間や勞力を超越して粘り續け愈々駄目と決つた場合の諦め方は實によい。沒法子（メイファツ）（仕方がない）の言葉は彼等の哲學の息吹きと見られる。窮すれば通ずの氣持が無自覺の中にも彼等の觀念の底に在り、心中などの起らない大半の理由は其の邊にあらう。

「面子（メンツ）」とは體面といふ程の意で、頗る厚顔無恥の觀あるも面子を立てる上には甚だ神經過敏である。其實生活は一面からみると面子と實利の葛藤とも云へる。金錢上の事では細かだが一體の氣分が大まかで無邪氣でユーモアに富む者多く、にこやかな顔つきをし朗かなもの丶言ひ方をして、接する相手に快感を抱かせるやう努める。又針小棒大式な宣傳を平氣でやつてのける。

大衆は思想的に低く舊例により萬事を處して行くと云ふ風であり、昔ながらの迷信に捉はれ風水緣喜を擔ぐ風習が根强く存在してゐて、日常生活一切の上に見られる傾向である。殊に田舍の方になると甚しい。

満支人の風俗・習慣

【訪　問】　支那人を訪問する時には、豫め先方の都合を尋ね時刻を定めるのが禮である。婦人を訪問する時には特にこの點に注意せねばならぬ。初めての訪問には主人は門外まで出迎へ、其他は室外に出迎へて先づ客を導き入れ然る後主人が請坐（どうぞおかけ下さい）と言ふから客は挨拶して着席する。請坐と言はれない間は着席しないのを禮とする。婦人客に淡煙草をすゝめるのが禮である。斯かる時若し主人がマッチをすつてくれた時には、其の火を受取つて自分で火を附けるのが禮である。若し吸はないならば禮を言つてことわるのである。茶を客にすゝめる時には最初主人自らすゝめることが多いから、其の時は立つてこれを受け着席してから茶托ごと手に取つてこれを飲む。點心、菓子又は食間に食す

るもの）又は食事等を馳走になつた時には歸りがけに先方の使用人に幾らかの心附（賞錢）を與へる。

又主人は必ず室外まで見送るのが習慣であるから先方から訪問を受けた場合には、當方も室外或は門外迄見送り若し自動車に乘る客ならば其の動き出す迄見送るのが宜しい。

【回　拜】人から訪問されると必ず答禮の意味で又訪問するものである。若し自身が回拜出來ない時には代理人に名刺を持たせて答禮に行かせることもある。之をしないと大變な失禮になる。

しかしこの民族の習慣としてたとへどんなに他人に世話にならうと、その當座に禮を述べて了へばそれで萬事禮を盡すことになるので、後日になつて重ねて過去の禮を述べることをしないのが普通である。

【初對面と號】初對面者に對しては一切の交渉を起す前に先づ「姓」を訊く。次いで號に入る。この例に倣つて此方も同様に鸚鵡返へしに先方に對して「姓」と號を聞くのである。

號とは副名で、人によつて一號とは限らず數號を有するものもある。滿支人に云はせると一體名といふのは親か長上から呼ばるべき性質のもので、同輩や尊長に向つて名を呼ぶことは非常に失禮なことになつてゐる。官職名のある者を呼ぶには專ら官職名又は號を姓の下につけるのである。手紙等の宛名には必ず號を用ふる。近來は大分改つて來たが住宅の門標等も姓の下に寓とか宅を書き添えてあるだけで、決して本名を書かない。

號で相手を呼ぶのは親愛の意を表はすのであるから、初對面の場合でも號を聞いた以上は、そのそばから號を以て相手を呼び捨てに出來るのである。以上は大陸民族との交際上最も心得て置くべき親善の一方法である。

【贈　物】日本では人に物を贈るには奇數を用ひるが、滿洲や支那では弔問以外の進物は總て偶數を用ひ品物の種類は異つても總計は必ず偶數を用ひる。又四の數は日本では死に通ずるとて最も忌むが、滿洲支那では偶數であつて二對と言つて便利な數であるから、之を用ひることが多い。

また年節（正月）五月節（端午）八月節（中秋節）の進物に對しては返禮が必要であるが夫れ以外の誕生、出產、結婚等或は病氣見舞、弔問等の進物には返禮をしないのが一般の風習である。

今一般に行れて居る贈物の例を擧げると

五月節　粽、果物
八月節　月餅類、果物
出產祝　銀鎖、腕輪、子供用帽子、衣類等
病氣見舞　滋養になる食料品
誕生祝　食料品（鱉は禁忌品になつて居る）
結婚祝　嫁女の裝飾品（梨は離に通ずるので忌まれて居る）
弔　問　香奠、花輪、帳子、輓聯

總て喜び事には紅紙を用ひ悲しみ事には白紙を用ひるから喜び事を紅事、悲しみ事を白事と言つて居る。

【月給や年齡を聞く事】會談の際平氣で月給や年齡を問ひ、時には相手の機嫌を伺ふ意味で着物や裝飾品の價格を尋ねることさへある。風習として心得て置かねばならない。

足を露出することが絶對にないのであるから訪問する場合や外出等の際は必ず足を露出しない樣に注意せねばならない。婦人の踵を異性に見せることは非常な冒險事とされて居る。

【結　婚】年頃の子女があれば親戚、知友が仲介の勞を取り門戶帳（男の姓名、肩書、曾祖父、祖父、父と三代の姓名出身を記す）により陰陽師に占はせ兩人の性があつたら公の見合が行はれる。先づ女の父母が男を見、次に男の父母が女を見るので當の本人同志は結婚の日迄直接見合はしないことになつてゐる。見合が終り雙方承諾の

上は男の母親より女に指輪などの贈物をして承諾の意味を通ずる、之を放定と云ふ。

婚禮の前日若くは前々日位に嫁入道具を婿の家に送る。

愈當日となれば娶親太々（男家の關係者で夫婦揃つて居る有福な老婦人）が花轎（中に魔除の爲鏡が掛けてある）を用意して新婦を迎へに行く。然し現今都會の地に於ては花轎の代りに自動車を使ふことが流行となりつゝある。

これ迄に新婦は祖先の靈に暇乞をして待つてゐる。そして娶親太々が新婦に會へば化粧品を贈り新婦の顔を赤布で被ひ新婦の服裝は夏冬共綿入を用ふ。

新婦の乘つた花轎が男家に着くと必ず一度は門の戶を締めて其の入門を拒絶し此處で數次押問答の末開門して之を門內に入れる。

新郎は禮服を着用し蓋頭して弓を三矢放ち、それがすむと新郎自ら花轎の扉を開き新婦に苹果（林檎）を食せしめ尙馬の鞍を通らせ夫婦竝んで院子（庭）又は客廳に於て天地卓に向つて天地の神を禮拜する。之は拜天地と云つて最も大切な儀式である。

更に新郎に續いて新婦は洞房とて紅綠の帳を以て飾つた部屋に入り炕（オンドル）の床上に新郎は左、新婦は右に竝んで腰を掛け其の時新婦は蓋頭を除くのである。

親戚知友は御慶びに來て此の日料理等を贈り又男の家では同じく此の日に親戚や知友を招待して馳走する。

婚禮の翌日頃嫁は生家に歸り午後には新郎を其の家に迎へ同道して歸る。回門とは里歸りの謂である。

【葬　式】人が死ぬと床を移して北又は西枕として死者の衣裳は出來るだけ厚く重ね頭は黑布を以て包み脚は麻繩で縛る。

訃聞と云つて喪主子孫の名に依り親戚知友に通知を出し、入棺式は其の日に行ふ。棺は上流の人程良質の部厚な木材を用ひ之が爲には費用を惜しまない。喪服は白衣を用ふ。

死後三日目に讀經と通夜をする。之を接三と云ふ。

紙製の車馬、童女、童男、倉庫等を門外に用意し僧侶の後について街路を行進し適當な地に持つて行つて之を燒く。之を送車と謂ふ。送車は讀經を伴つて五日目毎に行はれ、月餘の出棺なれば六、七回も行はれ、出棺前日の通夜を伴宿と謂ふ。

出棺は五日、七日目にするのが早い方で十日、十一日、十三日、十五日目遲いのになると三十七日目其れ以上になるものもある。總て陰陽師が定める日と時刻に依るのである。

【誕　生】子供の生れた三日目に開湯餅會と云つて客を招いて喜麵を食べる。一箇月目を滿月と云ひ客を招待して御馳走する誕生日を祝ふことを辦生日と云ひ老年となるに從ひ益々盛に之を行ふ。

【命　名】子供が生れて一週間以內に小名（シヤオミン）または乳名（ルーミン）といふものを、家長或は實父が附ける。これには吉祥の意を含めた文字を選ぶ。そして子供が學齡に達して入學すると、敎師が命名親となつて新に一つの名をつける。これが「學名」または「官名」となつて一生涯の通り名となるのである。それは又尊敬する長老等に依賴することもあるそして兄弟は必ず名の一字（大抵は頭字）を共通としてお互に皿を分け合つた兄弟であることを表はす。

【新　年】新年を迎へるに付ての儀式は種々あるが其の中で最も知られて居るのは年末に於ける竈祭である。

竈の神は一家の吉凶禍福を司る神で、家族の善惡行を計上し、毎年十二月二十三日を其の年の總決算日と定め、昇天して玉皇上帝に報告するものと信ぜられてゐる。即ち明年の一家の吉凶禍福は此の昇天報告の結果に依るものと信じられてゐるので「好多說不好少說」（好いことは多く語り惡いこ

とは少く話して下さい）と言つて禱るのである。

　除夜となり新に年が改まると主人は衣服を改め供物を供へ香を焚き赤蠟燭を燈して天上から降りて來ると云ふ守護神を御迎へする。之がすむと門を閉め惡魔拂ひの爆竹を徹宵打ち鳴らす。夜明け近くに開門大吉の紅紙を貼り愈正月を迎へるのである。

　元旦は貧富の程度や職業に依り多少儀式は異るが大體次の順序で行はれる。

（1）天地の神を拜す　（2）四方の神を拜す（喜神 福財の神）　（3）孔子を拜す（官吏）　財神を拜す（商人）　（4）祖先の靈を祀る　（5）竈の神を祀る　（6）門神を祀る　（7）父母を拜す

　以上の儀式が濟むと人々は回禮に出掛ける。

　正月二日間の食事は大晦日に用意せられ餃子を用ひる。

　餃子は肉を入れたもの、又は全然入れないで其の中に小錢或は銀貨、寶石等を入れて其れを食べ當てた人が其の年の幸福を得ると云つて樂しむのである。

【家庭の祭祀】▲娘々祭（東岳廟の祭）―泰山の神は生命を司る神と言はれ娘々は其の神に仕へ幼兒及婦女子と密接なる關係ある神とせられて居るから各地の民衆は東岳廟に詣でるのである。俗に之を娘々祭と云ひ非常に賑ふ。祭は四月中旬から下旬にかけて行はれて居る。滿洲では大石橋、吉林、大屯、鳳凰山などが有名である。

▲中　元（盂蘭盆會）―七月十五日祖先の靈前に供物を供へ寺院に詣で紙錢か紙製の着物を燒き河及海岸のある地方では風流な燈籠流しをして靈を送る。

▲端午節句―昔から五月を惡月と稱へ而も五月五日の正午は午月午日午時で、午が三つ重なり最も强い氣の集りで、天地に毒氣が蔓るとされて居る。故に端午を祝して毒を除くの意である。そして其の日は商人の決算期となつて居るから一年中での大切な節句である。五月一日より五日迄は大抵商工業者や勞働者は休業する。

▲仲秋節―之は三大節の一で商業上の決算期となつて居る。時は中秋の最も氣候のよい時季であり、空はよく晴れ滿月が輝く等誠に美しく一名之を月見の節句として祝ふ　昔から月の中に兎が居て其の兎は月姉と呼ばれ婦人の崇拜するところとなつて居る。故に又女の節句とも言はれて居る。

　家の壁には月や兎の靈を貼り、月餠（直徑三寸より五寸位のもの）や果物等を供物として月を祀るのである。

　其他重陽節と云つて高い所に登る風習で之を登高と云ひ身分が高くなることを祈る意味である、

　十一月一日には祖先の墳墓に參詣し之を寒衣節と稱し死者に寒衣を贈り靈を慰むる祀り等がある。

【漢人の年中行事】・舊曆・

一　月　一日は元旦　二日は財神を祭る日、三日は元旦に迎へた神々を送る日（所によつては四日）、五日は破五（ポーウー）（元旦以來守つて來た禁を解かれ自由になる）、四日―六日盤貨（商家は棚おろしをして開業の準備をする）、六日は正午頃元旦以來の供物を下す、八日は穀日、九日は玉皇上帝の誕生日、十日は穀生日、肥料の準備に着手する、十三日は燈節（トンチェ）（十三日より十七日まで）各家燈籠をかゝげ珍奇な意匠を競ふ、十五日は元宵節（天官の誕生日）、十六日は落燈夜―走百病、耗磨日―走橋摸釘の風習を存す、十八日は洗龍日―元宵節に使つた龍燈の龍を洗ひ落す　二十日は上工日―年雇使用人は主家へ歸り仕事をはじめる、二十五日は封龍日、塡倉日―農家は獨頭の蒜を戶外に縣け、子女は五彩の布を身につけ痘にかゝらぬ呪とする、塡倉添（倉）は倉庫内の穀物が增して繁昌せんことを願ふための祭事である。

二　月　二日は土地神の祭日―（龍擡頭とも云ふ昔の中和節祀孔日）―二日の上丁と八日のその日―（孔子を祀る國家的祭典）、春秋二回上戊の日祀關岳日―（關羽と岳飛を合祀せる祭日）、春分―（春期の半ばに當る日）、十九日は觀音菩薩の誕生日、二十四日前後は淸明節―（祖先を祀る）。

三　月　三日は西王母の誕生日、初旬は穀雨節―（この前後に作物の播種をする）、十四日は地藏菩薩の誕生日、十六日は城隍奶々の誕生日、二十八日は東嶽大帝祭。

四　月　八日は佛の誕生日、初旬は小滿―（第一回除草）、十五日は呂祖誕―呂洞賓の誕生日、十八日は天后―海神の誕生日、二十八日は藥王誕―（神農の誕生日）

五　月　五日は端午節、十三日は關帝歸天の祭日。

六　月　六日は土用入り―（蟲王を祭る）、十三日は龍王廟會（龍王は水を司る神）十九日は觀音の祭り、二十三日は馬王の祭り、二十四日は關帝の祭り。（中伏、大暑、末伏何れもこの月中にあり）

七　月　立秋、七日は巧日―（織女渡河の日）、十五日は中元―（俗に鬼節となつて亡靈を祀る日）。

八　月　十五日は十五夜―（團欒節又は供月と云はるゝ如く中秋月餠の山を築き一家團欒して樂しく過す）。二十日は犒勞日―（農家は休養する）。

九　月　寒露は月初めに當る、九日は重陽節―（主として文字あるものゝ喜ぶ日）、十五日は戒火日―（この日を以て野外の仕事をかたづける）。十七日は財神の誕辰、月下旬霜降。

十　月　一日は鬼節又は十月朝―（先祖を祀る、春の淸明節に相對する祭事）、初旬は立冬、（收穫物の脫穀も略濟む）、二十日前後小雪、（收穫物の賣出し輸送はじまる）。

十一月　初旬は大雪（堆肥の切り返しをする）。下旬は冬至（一陽來復の節）。

十二月　初旬は小寒―（農家と市場及商家の決算は此頃から始まる）、八日は臘八で臘八粥（黃米、白米、江米、小米、菱角、栗子、紅江豆及び皮を去つた棗を合せて作る）を食す、二十三日は竈祭―（夜竈の神を祀る）三十日は除夕―（大晦日）。

蒙古人の民情・風俗

　蒙古人は一般に朴訥剛毅であつて、その長上に對する尊敬竝に服從觀念の鞏固なことと、日常生活の尙武的なことは嘆賞に値するものがある。しかし一面又極めて保守的で風習や傳統に反する進步や改善にはすべて反對する傾向がある。

　又蒙古人は家畜を愛し、乘馬が上手である。そして生活や傳統による原始的民情は我々日本人に割合親しみ易い點がある。元來蒙古は淸朝が執つた旗制による分裂政策に原因して同族間に於てすら共同動作は困難であり、寧ろ相排斥し合つた程であるが一般的には性格頗る朗らかで、明朗な性格ではあるが、積年漢民族の壓迫に蝕んだためか、一旦は外部に對する强烈な猜疑心を抱くやうになつてゐる。しかし一度相手を信じたとなると最後迄信じ通す性格の持主であるから、先づ信ぜしめ然る後はその信頼を裏切らぬやうにせねばならない。日本人は現に多くの蒙古人から强い憧れと信頼の念を持たれてゐるのであるから、こんな點は特に注意すべきであらう。

　蒙古人の風俗習慣等は所によつて異り、就中家屋は生活樣式の變化に從つて夫々相異る。即ち純遊牧民の住む「蒙古包」は轉々と移動するために考案されたもので傘のやうな木骨を屋根とし、木製で圓形の柵を壁とし、これに毛皮又は氈子（フェルト）を覆うたもので、全量を一臺の車に積載し得るやうに出來てゐる。そして取崩しから組立までに僅か三十分といふ極めて簡便なもの

もある。半牧半農の生活をする者は右と同型で茅根及び周圍を草葺とした固定的な家屋を建て、さらに農業が主產業となつてゐる地ではだん／＼支那式家屋になつてきてゐる。

純蒙地帶では男子十六歲以上、女子十五歲以上で結婚する者多く、媒妁人が婚約を取結び、結納として家畜を贈り、吉日を選んで式を擧げるのであるが、擧式の方法は所により中々奇拔なのがある。

出產する時は姙婦を家人と別の包を作つて入れ、佛前に燈明を捧げて、姙婦は包內の沙土に蹲踞して佛を念じつゝ助產婦に腹を抱かせて分娩する。產兒は布に包んで舟のやうな形をした籠又は箱に入れて砂を温めて袋に入れたものを胸腹部に置いてやるが、虛弱な嬰兒はこの時に死亡し、强健な者のみが生存するといふのである。

葬儀は一口に云へば死體遺棄で、原野に遺棄され、死體は鳥獸の餌食となるが、もし數日後になほ死體が殘つてをればその人は善根足らぬ者として、再び喇嘛に讀經せしめて棄てる。こんな工合であるから蒙古では王公のほかには墓を設けない。

【蒙古人の年中行事】・舊曆・

▲布和樂と供佛（十二月三十日）

支那で云ふ除夕である、曆が輸入されて始めて正月と云ふものが出來たのであるから正月としては比較的新しい歷史しか持たない蒙古人は餘り獨特の儀式を持つてゐない。然し大體に於て支那の風習を學んだとしても內容にいたつてはやはり面白いものがある。

此日早朝豚や羊を殺して熱湯につけ、毛を去つたものを佛前へ供へる。菓物や饅頭も盛られる、そして一家擧つて朝飯に「布和樂」といふ食事（牛、羊、豚などの肉を大きな塊に切つてそのまゝ出す）をする。

夜には一層佛壇が綺麗に飾られ、喇嘛が來て讀經をする。そして爆竹が三發放たれると越年の儀式と佛に對する御禮が濟むわけである。又支那人の風習を眞似た壓歲錢を一同に與れる。この夜最も大切なことは火を絕てば衣食に窮すると云はれてゐる。

▲交　拜（一月一日）

元日の風習は最も漢人のものを眞似て居る形があつて格別蒙古人としての特色がないやうである。起きて四方の諸神を拜し家の佛を拜すると一家のものは皆家長の前に集まり跪いて敬意を表し家長からめでたい言葉をかけられる。

▲廻　禮（一月五日）

四日までは大概家に居て樂しみ、五日からそろ／＼親類などを廻る、新婚夫婦の如きは是非共岳家舅家には何を措いても行かねばならない。この場合先方では烏叉（羊や豚の後脚の股の肉）を御馳走する。

▲祭　星（一月八日）

一部落の共同祭禮である。星が滿天に輝く頃を見計つて喇嘛の讀經が始まる。參集した老若男女は自分の歲に相當した數の歲錢を獻じ會費を分擔する。そして線香を焚き喇嘛にきかされてゐる自分に屬する星の前に行つて拜す且つ四方の神を拜して儀式は終るのである。

▲打花錢と撤供（一月十六日）

嫂と弟、弟の嫁と兄といつた間にお互に墨と油とを交ぜた眞黑いもので塗り合ふ習慣がある。うまく塗りつけるとその年の穀物に烏朱が出來ないと云はれてゐる。夜星の出揃つた頃家々では正月以來佛前に供へたものを撤するのである。

▲出　行

正月がすぎて十五日頃までの間の吉日を選んで男子は騎馬で出行と云つて二、三支里位のところへ出かける。出發に當つて「ヒイメル」と稱する咒符を四方に散布する。

これは何の方角にも自分の運氣が散つて居るから安心してゆけると云ふ意味だそうである。

▲鄂博祭

これは蒙古語であり「堆」と云ふ意味であり石を堆んだものと土を堆んだものとの二種ある。形狀は一般に尖頂の圓形である。

蒙古人は由來天地山川谿谷原野あらゆる物を神と視て居る。何をみても有難いところから遂に鄂博なる標識が出來て仕舞つたやうである。つまり天然崇拜の對象であり急ぎの旅の外は途中わざ／＼馬を下りて拜する位である。

▲旗鄂博の祭（五月十三日）

主祭者はその旗の王爺が自ら之に當り、旗內の住民は殆ど數を盡くして參集する。

やはり喇嘛の讀經があり終つて肉粥の寄進にあづかる。尙主祭はこの時競馬のことを宣して餘興に移る。

▲村落鄂博の祭（五月十五日）

祭神は村長が當り祭禮用の品物も祭禮の模樣も旗鄂祭と大差ないが只餘興として競馬の代りに角力が多く行はれる。

▲太平經

六、七月頃各部落は喇嘛を請じて太平經を讀む。この喇嘛を招いた家には親類朋友が家畜類までつれて皆集まり家族と家畜の太平を願ふのであるがその時懷胎して居ると喇嘛は紅い布をその尾や角に結びつけ一切殺すことを許さない。これを太平紅と云ふ。

▲祭　火（十二月二十三日）

火神を祭り福祿を願ふのである。喇嘛は「福祿は來たか」と三度問ふ。主人は三度來たと答へ一切の祭品を火鉢の烈火に投じて神に酬ゆる。

▲掃　塵

十二月二十三日を過ぎると諸神が上天するのでその留守中年末の大掃除をして正月を迎へる。

▲打　鬼

惡鬼を殺して太平を祈る儀式であり觀音の化身に扮するもの八、その守護神に扮するもの四、併せて十二の神が跳舞して出で又別に十地菩薩に扮せる喇嘛十人出て之に多數の喇嘛鼓と鈸とを擊ちその調子の緩急につれて跳舞する。この時牛と鹿の面を被つた僧が刀を持つて出で地を砍つて鬼を殺す風をする。

正　月　一日から三日までは讀經しない、十四、十五の兩日供養、二十四日より向ふ八日間供養し、その終りの日打鬼の儀式がある。

二　月　二十二日釋尊涅槃會

四　月　八日　灌佛會

六　月　十日、十五日供養

七　月　十五日　盂蘭盆供養

十　月　二十五日　敎の宗　巴供養

十二月　八日　臘八、二十四日打鬼

漢人雜居地方では餘程漢人の風俗が入つて來て正月の拜賀、端午節、仲秋節、重陽節の行事をして業を休むものも多くなつて來た。

ロシヤ人の年中行事

▲クリスマス

一月七日のクリスマス・イヴから一月十九日の洗禮祭までの二週間が所謂「ヨルカ祭」とでも云ふべきもので、露人の家庭ではクリスマスを控えて、飾り物、食い物、贈り物の準備で忙しい。外國のそれと一般で特別變つた事もないが「キヤピヤ」や「イクラ」を鱈腹食つて「ウオッカ」の醉にまかせ怪氣焰をあげ唄や踊は必ず何處にも附きものである。復活祭と共に「二大祝日」の一つであるだけに巷にさへ露人の醉つぱらひを多く見受ける。

▲氷上祭

露曆の一月六日、陽曆一月二十日前後に行はれる。キリストがヨハネに洗禮を受けた日所謂洗禮祭である。ハルピンでは早朝市內各寺院へ押し掛け打ち鳴す祈りの鐘と暗い蠟燭の光で心から敬虔な祈りを捧げて後、金襴の大幟や聖像を押し立てなが

ら松花江上へ長蛇の列を作る。酷寒零下三十度の氷上に氷の大十字架が立てられ氷の切目から水の淀むのが見える。氷製の祭壇の前で儀式が行はれて後嚴かな讃美歌の齊唱裡にスンガリーの水で洗禮を受ける。

▲猫柳祭

四月の初猫柳を持つた善男善女が寺院に參詣する。イエスがエルサレムに入つた日を祝ふもので、墓地には猫柳が供へられる永い冬籠りから漸く解放された喜びを感ずるのである。

▲復活祭

猫柳祭の約一週間後に行はれる。希臘カトリックの復活祭は毎年一定しない。普通露暦三月二十一日以後の滿月に次ぐ第一日曜となつてゐる。この日各寺院から「主は甦り給へ」の聖鐘響くと共に老いも若きも誰彼の差別なしに接吻勝手次第の習慣が存してゐる。最もこれは最近祝ひ廻りの客との間に限られ傍若無人な光景は餘り見受けられなくなつた。「復活祭」には日本の「お盆」「正月」のそれにも増して一年中の稼ぎや精魂を盡して御馳走をして悔いない。

▲靑草（トローイツァ）の祭

復活祭の第一日目より數へて五十日目に行はれ本當は「三位一體祭」と稱すべきもので此日は何處の家でも家の床に靑草を撒く

この外種々な祭りが澤山あるが豐富な御馳走と「ウオツカ」と土の香豐かな民謠がいつも重大な役割を演ずるのであつて、僅かな收入と切りつめた日常の生活にありながら其生活を存分樂しむ樣に見うけられる。

彼等の「酒宴」は慶びを頒つ氣持より自分等が苛酷な自然や人生の中に太ましく生きて行ける喜びを遠慮なく發散させる氣持の方がずつと多く大晦日元旦その他は單なる名目に過ぎないと思はれる程放恣である。

慶祝日・祭日及び記念日

〔滿洲國〕

元旦（慶祝日）　陽曆一月一日
萬壽節（慶祝日）　陽曆二月六日
紀元節（慶祝日）　陽曆二月十一日
建國節（慶祝日）　陽曆三月一日
祈穀祭（祭日）　陽曆四月二十一日
天長節（慶祝日）　陽曆四月二十九日
訪日宣詔紀念日（慶祝日）　陽曆五月二日
建國忠靈廟春季例祭　陽曆五月三十一日
建國神廟創建紀念日（慶祝日）　陽曆七月十五日
建國忠靈廟秋季例祭　陽曆九月十九日
嘗新祭（祭日）　陽曆十月十七日

〔中華民國〕（國定紀念日）

中華民國成立紀念日　陽曆一月一日
總理逝世　陽曆三月十二日
革命先烈紀念日　陽曆三月二十九日
宣統三年革命黨員百餘名が廣東西廣總督府衙門を襲撃し七十二名が戰死した日
國府還都紀念日　陽曆三月三十日
革命政府成立紀念日　陽曆五月五日
民國十年廣東北京政府を否認し新革命政府を樹立した日
國民革命軍誓師紀念日　陽曆七月九日
民國十五年蔣介石が北伐軍總司令に就任し出發式を擧げた日
先師孔子誕辰紀念日　八月二十七日
和平反共建國運動諸先烈殉國紀念日　陽曆九月一日
汪主席が重慶脫出和平運動を起して以來重慶の兇刄に倒れた人々を追悼する日
國慶紀念日　陽曆十月一日
宣統三年武昌に倒滿興漢の革命の烽火の擧がつた日
總理誕辰紀念日　陽曆十一月十二日
雲南起義紀念日　陽曆十二月二十三日
民國四年雲南將軍唐繼堯が袁世凱の帝制に反對し討袁軍を起した日

〔蒙疆〕

元旦　一月一日
成吉思汗登基日　一月十三日
成吉思汗大祭日　四月十七日
政府成立記念日　九月一日

滿洲大觀

略史

【滿洲の名稱】「滿洲」と云ふ名稱は約三百年前、今の滿洲の地に興つた清（シン）の太祖の尊稱「滿住」から轉訛したもので、太祖の子太宗が清朝發祥の故地を記念するため命名したものと云はれる。

因みに「滿住」は、佛名の「文珠師利」にあたるため、西藏の達賴喇嘛（ダライラマ）の如きは、太宗に對し「曼珠師利皇帝」と云ふ册書を呈上したとも云はれる。

また滿洲國史教本には「滿洲」の名稱の由來を次の二說に歸してゐる。

（一）「滿洲」は印度語の「曼珠」又は「曼珠師利」（妙吉祥の意）と音が近い。元來愛親覺羅（アイシンギョロ）氏は佛教を信じてゐたから佛教語を採用した。

（二）「滿洲」は古肅愼（コシュクシン）の地であつて舊稱を「珠申（シュシン）」と云つた。これは肅愼の轉音であるが、後に「珠申」を「滿珠」と改稱し、滿珠は訛つて「滿洲」となつた。

【滿蒙民族】滿洲は已に三千年の昔から原住民に依つて肇國され、爾來幾度か原住民族間に興亡隆替が繰り返へされた。即ち「清」に依つて代表された滿洲族と「元」に依つて代表された蒙古族とがその二大民族である。之等滿蒙民族は滿洲の大自然に育まれて、何れも傳統的に精悍勇猛なる民族性を持ち、有史以來常に支那本部と對立せる獨立の一特殊地帶をなしてゐた。



古來滿洲を占據し建國した各民族を表示すれば

滿洲族（通古斯族）
　｛肅愼―挹婁―勿吉―靺鞨―女眞―清朝の系統
　｛穢貊―扶餘―高勾麗―室韋の系統
蒙古族
　東胡―鮮卑―契丹―蒙古の系統

で、此蒙古系統はブリヤート種及び其の他の混血種に屬するが、滿洲族は日本民族と均しく通古斯種に屬し、漢人種とは全然相異れる民族である。

從つて滿洲の地たるや遠く肅愼の時代より滿洲の土着民族によつて高勾麗・渤海・遼・金等の獨立國が建設され、元・明二代の雌伏時代を經て清朝の勃興に至るまで支那本部との關係は終始斷絕であつて、未だ嘗て一度と雖も漢民族に占據され、或は統治された事實はない。況や契丹・女眞の如きは遼・金の國號を稱して支那本部の北半を占有し、滿洲・蒙古に亙る大國家を建設した。更に清朝に至つては支那本部全土を征服して古今未曾有の大帝國を形成し中國の俗を易へて胡服辮髮せしめた。かく滿蒙民族は征服者として漢民族を慴伏せしめ、支配し來つて居る。即ちこの地に滿洲帝國が建國せられ、三千餘萬民衆に總意により溥儀氏の出廬を見たることは、歷史的及び實際的に觀て其の妥當且つ公正なることが闡明されるのである。

【肅愼】今より三千年前、宛も支那本土の周・秦時代に肇國した。肅愼と呼び穢貊と稱するは地名と云はんより寧ろ民族の名と云ふ可きで、現在の吉林・濱江・龍江諸地方の廣大な地域を占め、東に肅愼、西に穢貊が割據し約十世紀間君臨してゐた。即ちこの二者は滿洲の先祖で、其後裔民族たる挹婁は北滿洲の東北に據り、扶餘は今日の滿洲に於ける大部分を占有し、其文化は見る可きものがあつた。

【高勾麗】約二千年前滿洲に建設された强大な獨立國で、最盛時には其版圖朝鮮の北半と滿洲の大部分に及び、二十八主、七百五年の久しきに亙り覇を唱へた。

【渤海國】皇紀一三七三年より一五八六年まで二百十五年間、現在の奉天・吉林・



濱江・間島・三江・東安・牡丹江・通化等の諸省に亙る地域を中心として沿海州及び朝鮮北部に亙つた大王國で、唐の文化を吸收し隆盛を極めた。日本と修交を重ね使節を派遣する等最初の日滿國交を開いたものである。

【遼】（契丹）渤海に代りやはり東北に國を建てた。遼は唐代の契丹で東胡の後裔、即ち通古斯族である。唐末に當り軍を起し、北は室韋を降して黑龍江流域を併呑し、西は天山の東より青海地方まで征服し、南は支那本部に侵入し、契丹國（一五六七）と稱した後渤海を滅ぼした。太宗に至り支那東部深く侵入し、其領域は東は日本海から西は天山附近に及び、南は河北・山西・北は蒙古の中部に達し、朝貢するもの六十餘國、九帝二百餘年に亙り全國を壓伏し聲威を振つたが一七八四年北滿に勃興した金のために滅された。

【金】遼に次で滿洲に覇を稱へたのは女眞民族で黑龍江附近に興り、遼に叛いて兵を擧げ、僅か十年餘にして遼の天下を覆して金國（一七七五）を建てたが、其後益々振ひ、宋を江南に壓迫して其領土は黃河南北に亙り、滿洲蒙古を併せて空前の大版圖を形成した。元の太宗六年蒙古のために滅さるゝ（一八九四）まで十主百二十年の社稷を維持するに過ぎなかつたが、滿洲民族として中原占據の先驅者であつた。

【元】朔北に起り歐亞兩大陸に跨る大帝國を建設した蒙古民族は漢人の所謂東胡・鮮卑・契丹と稱した異民族である。成吉思汗を盟主となす鐵騎十萬は金を滅し南宋を討ち、中央亞細亞を略し、又波斯を破り露西亞地方に侵入、歐洲諸國をも震駭せしめ滅國四十に及んだが、この大帝國も十五代百六十三年（一八六五—二〇二八）にして明に亡ぼされた。

【明】明は二〇二八年約百餘年間歐亞を威伏した元朝を覆滅して支那本土を支配したが、支那本部より蒙古に退いた元の遺臣は滿蒙に據り、依然獨立狀態を續け、明の威令は僅かに遼河下流の小部分に限定されてゐたに過ぎず、却つて其邊境は蒙古民族のために屢々脅かされ、滿洲は事實上支那本土より獨立の形態をとつてゐた。

【淸】金の滅亡後中心人物を缺いたゝめ久しく滿蒙各地に分立割據した女眞民族は淸の太祖努兒哈赤の出現により勃然として興隆した。即ち興京附近より起り次第に舊勢力を併せ、二二七六年遂に滿蒙の地を統一して、新國家を建設し金國汗と稱した。後都を奉天に遷し、國號を大淸と改め舊稱金國の代りに滿洲なる名を用ゐた。これ我が國土を滿洲と稱した嚆矢である。

後淸の第三代世祖北京に遷都し中國に君臨するに及んで滿洲を封禁の地として永く漢人の移住を禁じてゐた。蓋し淸朝は滿洲を以て祖宗發祥の故地として尊崇し、且中原の統治に失敗した場合の根據地として保存するため、漢人種の滿洲移住を嚴禁し、柳條邊牆を作つた。然し滿洲人は八旗兵として支那各地に駐屯し、北京遷都と共に旗人は多く漢土に移住し、而も邊牆を築いて漢蒙人の移住を禁じたゝめ、滿洲は漸く荒廢を示すに至つたので同治年間に開拓令を出し、漢人の移住を奬勵し、山東・河北の移民を初め山西の商賈等移住者日を逐ふて激增、數年にして十數倍するに至つた。

露西亞は當時その傳統政策たる南下により海洋を得んとする野望を逞ふし、璦琿條約、北京條約等により滿洲に特殊の權益を把握したが、その帝國主義は東洋の平和を擾し、日本の存立を危くする事が明白となつたので、日本は敢然露西亞に對して宣戰を布告し多大の犧牲を拂つて滿洲をその毒手から救ひ、爾後滿洲の開發に努力した。

【民國時代】淸朝は治世三百年にして二五七二年（明治四五年）中華民國と代つた。滿洲に於ては二五七六年緑林出身の張作霖が奉天督軍に任ぜられ同時に奉天省長となり、更に東三省宣撫使に任ぜられ、爾來張軍閥は滿洲の事實上の主權者として勢威を

振ふに至つた。

張作霖は二五八二年及び二五八四年の二次に亙る奉直戰爭を敢行し、一度は關內に進入し、直隷軍を大破して中央政府を覆したが、二次奉直戰には郭松齡の叛亂に遇ひ爲めに一時危機に瀕した。然し新民屯附近の戰に於て辛うじて叛軍を擊破し再び東北に威を振ひ、後三度兵を關內に進め、北京に入つて大元帥と稱したが國民軍の北伐に敗れ、二五八八年六月北京を棄てゝ、奉天に歸還の途次爆死した。

作霖の死後學良は父の遺業を繼いで滿洲の支配者となつたが、傳統的保境安民の政策を棄て、國民黨及び南京政權と結んで易幟を斷行、自ら大兵を率ゐて北京に進出し陸海空軍副司令となつた。張作霖以來數回の關內進出は滿洲の政治經濟を破壞し、軍費の濫出は國民に過重な負擔となり、軍費捻出のための苛斂誅求により張政權は人民の怨府となつた。加之、極端な排日運動を激成尖鋭化せしめ遂に九・一八事件を惹起し一朝にして土崩瓦解するに至つたものである。

【滿洲國】二五九一年九月十八日滿洲事變の勃發によつて張軍閥と是を繞る民衆搾取の政商は滿洲から掃蕩され、多年張父子軍閥の壓制下に呻吟してゐた東北省民はこの機會に舊政權と絶緣して民衆を基礎とする新政府を組織し、王道政治を行ひ滿洲をして理想的樂土たらしめんとする希望が勃然として起つた。

即ち事變勃發の翌年早くも大同元年三月一日建國宣言を公布し、茲に王道國家滿洲國は王道樂土民族協和を理想として東亞の一角に成立し同年三月九日溥儀氏（宣統廢帝）を執政に推戴し國務總理鄭孝胥初め七總長二院長三省長其他政府首腦部を任命し、天の加護と人民の精進と日本の肉親的協力により建國後二箇年にして早くも國礎は益々强固に、國運愈々伸張し、治安邊境に及び治政各般に揚り民生安息して各々その業を樂しむに至つた。

これ偏へに執政の乾德によるものであるとして、三千萬民衆は天意により執政の帝位に即かれんことを請願するもの續出するに至り、英明文武の執政は天命と人民の至情により康德元年三月一日國都新京に於て滿洲帝國第一代皇帝として即位の式を擧げさせられた。

爾來國威益々揚り、諸外國の之を承認するもの相繼ぎ、支那事變後中華民國の新生と相俟つて世界防共軸の樞要國として道義國家完成に向つて邁進しつゝある。

地誌

面積 一、三〇三、四三七方粁（日本の約二倍）

周圍 九、二〇四粁（國境線八、四三八粁、海岸線八六六粁）

極界

東界	三江省撫遠縣	東經一三五度二〇分
西界	興安北省新巴爾虎左旗	東經一一五度二〇分
南界	關東州旅順管內方家屯	北緯三八度四三分
北界	黑河省漠河縣	北緯五三度五〇分

【地勢】形狀略東西南北を各々頂點とする四邊形を爲し その四邊は夫々山脈、海灣、河川を以て劃され、內部に廣大なる平原が展いて居る。即ち西部に大興安嶺、東に東部山地があり、南方は渤海及び黃海に洗はれ 北は北部山地、黑龍江を隔てゝ西伯利亞に對し、この內部に滿洲國全面積の四分の一を占める中央平原を圍んで居る。大興安嶺は西方蒙古高原に連り、東部山地は豆滿江、鴨綠江を隔てゝ朝鮮蓋馬台地に續き共に北東→南西に走る大山脈である。（この北東南西の方向は東亞地形構造上著しい特徴である）これに二條の小山脈が直交し、中央平原の中央部に於て嫩江と遼河を分つ黑遼分水嶺となり、北端に於て嫩江と黑龍江を分つ小興安嶺となつて居る。仍つて地形上左の四地區に分つ事が出來る。

一、東部山地＝完達山脈—長白山脈—本幹山脈

東部山地は長白山系と總稱される長白山脈を主軸

とする數條の並行山脈より成り、一般には二千米以下の高原で、南西より北東に廻り、鴨綠江・遼河・松花江・圖們江・ウスリー江・牡丹江等の分水嶺を爲す。

北部は緩傾斜と廣い谷の老年期の丘陵で玄武岩の噴出に富みこれが風化分解して大森林地域を爲し、又吉林・敦化・寧安・間島等の盆地河谷平野が介在する。中部は高峻で巾廣く白頭山（二七四四）最も高くこれが西に延びて黒遼分水界に續く。南部は遼東背梁となり、摩天嶺・千山の勝地を有し又溺谷を爲して旅・大の良港灣を形成して居る。

【東部山地と交通】 東部山地は滿洲國に對して豐富な林産資源を與へると同時に交通の障害として又滿鮮の政治的境界を基礎つける自然の障壁として分離的機能を果して來た反面、地形的に綏芬河・圖們・連山關等の諸ギャップを有しこれが日本海乃至朝鮮と滿洲を結ぶ自然の交通路を爲して兩者に密接な關係を保持せしめた即ち連山關ギャップは京城・安東・奉天を結ぶ歴史的な文化の通路であり、新京・北鮮諸港を結ぶ圖們ギャップ乃至哈爾濱・浦鹽を結ぶ綏芬河ギャップは古勃海時代の日滿交通路たると同時に今又日本海時代を現出せんとして居る。

長白山（Chang-pai-shan）＝長白山脈の主峯で大正峯は海拔二七七四米に及ぶ、鮮滿國境の最高峯でアスピーテ式の死火山で中腹以下は鮮滿に跨つて居るが、頂上は滿洲國に屬する。灰白色の輕石が山頂を包み遠望すれば白く見えるので白頭山の名がある。山頂の龍王潭即ち天池は曲玉形の火口湖で標高二二五七米、周圍十一粁餘面積七四七四方粁、火口壁は百米以上の斷崖を爲し灰白色の火山砂は濃綠の湖水に相映じて居る。尚松花江の源はこの池に發する。

二、西部山地＝大興安嶺及び蒙古高原東端

大興安嶺は最高二千五百米平均一千米乃至一千六百米の高峯で南西より北東に走り北するに從ひ次第に高度を減じ一千米内外の高台狀となる。東斜面は傾斜急で滿洲平原よりは大斷層を以って聳立してるが、西側は緩やかなスロープを爲して蒙古高原に連つてる。この山地は滿洲の松柏森林地域とゴビのステップ地方とを劃し、季節風を封じて西方を乾燥地帶と化せしめ、又人文上蒙古の遊牧民族と滿洲の定住民族との境界線ともなり更に東側の斷層は軍事上の牆壁となつて居る。

三、北部山地＝小興安嶺

小興安嶺及び伊勒呼里山脈の地帶で概ね北西より南東に斜走し松花江水系と黒龍江水系の分水嶺である東半は山脈狀を呈するが西半は低くて概ね平原狀を爲し五十米乃至百米程度高まつて居るに過ぎない。附近には火山が多く熔岩台地も廣く、堰塞湖たる五大蓮地もこの火山により形成されたものである。

火山と溫泉 滿洲國の火山活動は甚だ鈍く噴火の記錄は數回見られるにしか過ぎない。從つて火山も少く、火山活動の餘波である溫泉も少い、主な火山としては長白山、烏雲和爾冬吉山が有名で、溫泉としては阿爾山・湯崗子・熊岳城・五龍背・熱水塘（湯源）其他である。

烏雲和爾冬吉山 Wu-yun-hu-erh-tun-chi-shan は小興安嶺の中央に位する標高五百米の休火山である。本火山群中には十一の小火山があり、これが小興安嶺の走向と直角に北西より南西に三列に並び、この中の二個は淸の聖祖の年代即ち一七二〇年及び一七二一年に噴火して熔岩は流れて河水を堰止め五大連湖を造つた。

四、中央平原＝①北滿平原（公主嶺以北）松花江流域②南滿平原（公主嶺以南）遼河流域

上記三方の山地に圍まれて居る廣大な中央平原が滿洲平野である。北は海倫から南は營口まで南北凡そ一千粁、幅は洮南から新京に至るまで約三百粁、この面積は滿洲國全面積の約四分の一に達する。この中央部を黒遼分水界が洮南の南に始まり新京・公主嶺の中間を通り斷續的に而も海拔二五〇米を越えぬ低い丘陵として南北滿洲を分ち、南滿洲は遼河に、北滿洲は松花江及び嫩江により灌漑せられる。中央平原は大體に於て地溝盆地で平坦にして第四紀の洪積層及び沖積層から成る。北滿洲は黒色の腐植土多く豐かな窒素分を有し穀倉地帶であり、南滿洲は所謂黄土が廣く分布し、この黄土は脆く粘着力に乏しい爲め雨天には泥濘車軸を沒する泥土となり、晴天の日で風のある季節には滿洲名物の砂塵を飛散させる特有の氣象現象を生ぜしめて居る。

【滿洲平野と文化】 滿洲平野は滿洲國の經濟・文化の基底を爲すもので、豐富な糧穀をはじめ幾多の農林畜産はもとより、地

下に於ても多くの鑛物資源を包藏し、この原始生産の上に基いて數多の都市・村落を生ぜしめ人文の發達を來して居る。殊に南滿洲は滿洲國に於ける最文化地帶を爲し、北滿洲は今後の發展地としての性格を帶びて居る。

【土質】 農業上重要な平坦地に就て見ると第四紀の洪積層及び沖積層に屬し、壤土の分布が最も廣く河川に添ふ地域及び卑濕な地方には泥炭地がある。

一般に表土は風により西方の沙漠地帶より運ばれた極めて微細な土粉分子より成り重粘で雨が降れば泥濘と化し乾燥すれば凝結して地表に堅甲を形成し空氣・水の滲透を妨げ耕作に不都合を來すが、冬季の凍結により地表深くまで風化作用の及ぶことがこの欠點を補ひ地力の維持、恢復を助けて居る。

滿洲國の土壤は色によつても地帶を形成しているが北滿は黒土帶、中滿は藍色土帶、南滿は赤色乃至藍色土帶になり北に進む程有機質の多くなる事も示して居る。

土壤の化學的性質にアルカリ性が多く、北部及び東部の微弱なアルカリ性土壤は作物に對し頗る好條件を與へるが、西部の乾燥の激しい地方はアルカリ性が甚だ強く蒙古地方は不毛の土壤となつて居る。燐酸及び加里は割合に豐富であるが窒素分は一般に缺乏して居る。併し北滿は南滿に比すれば窒素分及び有機質に富み將來一大穀倉たるべき地帶である。

滿洲國の土壤の窒素含有量の少いのは多年土民が僅少な土糞を肥料として吸收力の强い高粱・粟等の限られた穀物を栽培した爲めである。これが今日まで農作を續けられたのは豆科の栽培を輪作に取入れ窒素分を補給して居るのと氣候の寒冷に依る土壤の風化促進の一種の保險的作用に依るものである。仍つて肥料と適當な作物の選擇に留意すれば農耕地としての利用價値は大いに增進するであらう。

【水系】 滿洲國の河川は鴨綠江其他の獨立水系に屬するものを除けば、大部分が黒遼分水界を境に南方に流れる遼河水系と、北方に流れる黒龍江水系（又は松花江水系）に屬する。而して滿洲平原の大部分はこの兩水系によって灌漑されて居る。（最大流域を有する松花江の流域面積五二萬餘平方粁は揚子江の二六〇萬方粁には及ばないが日本の利根川の一萬五千方粁に較べれば遙に大である。）

滿洲國河川流程流域表

水系	流路粁程	航行粁程	國內流域方粁	全版圖對比%
黒龍江	四、〇五三・五	三、〇〇〇・〇	三六三、三一〇	二七・六
嫩江	一、八〇九・〇	—	一八八、五三〇	一四・四
松花江	二、三三九・〇	一、六〇〇・〇	三三五、一八〇	二五・七
烏蘇里江	九〇〇・〇	—	五六、四九六	三・一
遼河	一、三二二・五	九〇〇・〇	二三四、六五八	一七・二
圖們江	五二〇・五	—	二二、八六一	一・七
綏芬河	四二〇・〇	—	一〇、三九六	〇・八
鴨綠河	七九〇・〇	—	二七、二三八	二・〇
大凌河	三九七・〇	—	二三、一五六	一・七
灤河	八〇四・〇	—	三〇、〇九八	二・三

これ等諸河川は自然河川の域を一歩も出ず晴天が續けば大河川の外は殆ど流水も少く川幅・水深は縮小するが、大雨となれば直ちに氾濫し又河岸の崩壞は自然に任せて居るため河岸は年々淺くなつて行く傾向である。滿洲國の雨量は日本の半分位であるが、總雨量の六七割が六・七・八月の三箇月に降り、而も土地の滲透力が鈍く且つ大部分の流程を平野地域に持つため屢々氾濫を起す。水位は十二月より一・二月に於て最も低い。

これらの諸性質のために河川治水は滿洲國に於ける重要な施政の一となつて居る。

滿洲國河川の特異性

A氣象上（1）年降雨量が少いので河水は平素は少い（2）六・七・八の三ケ月年に雨量の六・七割を降る（3）爲めに平素枯渇してる河水も雨期に急激に多漲する（4）毎年河川の氾濫を繰返してる（5）大洪水と旱魃とが四五年を周期として襲來する。

B地形上（1）河川の流域はその中流以下は殆ど平坦である。（2）ために河川は蛇行し迂餘曲折が甚だしい（3）洪水の疎通が緩漫で滯水期間が永い（4）從つて尻無川・濕地・湖沼が多い。

C地質上（1）河川の河床・沿岸共に地質が軟弱である（2）從つて河身は毎年移動する（3）河水は泥土含有量が多い（4）河床は暫次隆起する傾向にある（5）アルカリ地帶・ソーダ地帶が廣範圍に立つて居る。

D其他 （1）水源地方の林相が貧弱である、（2）諸河川は自然河川の域を一歩も出て居ない（3）從つて河川の存在は災害的な存在が多く 文化的恩澤が少い（4）從つて農業水利方面に幾多開發し得る地域が存在する。

【湖沼】 滿洲の湖沼は比較的少い。これは地盤構成の岩石が古く、從つて地質構造の變動を繰ること多かつたため、長く湖沼は形を保ち難かつたものと思はれる。そして現存湖沼は自ら特殊性を持ち、例へば平原地方、殊に東部內蒙古では雨季のみに現出する形狀不定の淺い一時的湖が少くないかゝる湖沼はやがて乾季に至れば、その水蒸發して後は時ならぬ白雪で覆はれる。これ一特產たる天然ソーダである。また永久性湖として知られるものにウラジオストック地方の興凱湖、吉林東方の鏡泊湖あり、共に低地にあつて水は黃褐色を呈し極めて淺い湖である。西部地方の湖沼は乾涸すれば湖底にソーダ或は岩鹽を產する。

▼興凱湖（新開湖） 東安省、沿海州境界淡水湖魚類多し ▼達巴庫湖（小興凱湖） 興凱湖北方 ▼鏡泊湖（必爾騰湖） 牡丹江省寧安西南方淡水湖魚類多 ▼貝爾湖 布爾池・布育里諾爾 滿洲國外蒙國境（鹹湖） ▼達賚諾爾（呼倫池） 海拉爾西方（鹹湖） ▼達里諾爾（達里泊） 熱河省內蒙國境 ▼大布蘇諾爾＝洮南南方鹹湖にして湖岸には天然鹼結晶す ▼バルバノール・バザンノール・ハラノール・ドリノール＝いづれも海拉爾北西鹹湖にして食鹽を產す ▼ベインノール 海拉爾南西鹹湖食鹽採取す ▼月亮泡 扎賚特旗淡水湖魚類豐富 ▼大魚灘 興安南省淡水湖魚族豐富

氣候

【概要】 滿洲はアジヤ大陸の東部にあるので季節風帶に屬しその上東・西・北の三方が山地、高原で圍まれた大盆地から成り僅かに南の一部が海に開いて居るのみであるため大陸性氣候を呈し

（1）夏と冬、晝と夜との氣温の較さが大きい（2）春夏、秋の期間が短かく冬季が一年の半ばを占める（3）夏は短いが高温であるため農作に適す（4）冬の寒季は烈しいが三寒四温の現象があり割合に凌ぎ易い（5）雨量は概して少い（6）六・七・八の三箇月間が雨期で一年の雨量の七八割はこの期間に降る（7）空氣は乾燥し快晴の日が多い（8）風速は海洋性氣候の地に比して小さい（9）冬季は北西、夏季は南東の季節風が吹き、又この兩季節風の交替期には蒙古風が吹く

等の諸特徴がある 而してこれらの諸特徴は生活上の凡有點に影響して居るのであるが殊に農業に於て所謂滿洲農業として特有の農法を存在さすに至つて居る。

然し其の面積並に地域的に見れば日本の約二倍に達し、南方遼東半島及渤海沿岸地方より中部の大平原、大興安嶺、東部熱河の山岳地帶、又呼倫貝爾の沙漠地方に及ぶ實に曠大たるものがあつて沿海地方の如きはむしろ海洋性氣候であるし又間島省、牡丹江省の一部東部國境の地域も可成の程度に日本海の影響を受けるであらうから、これらの地方は純粋な大陸的氣候とは云ひ難い。

之に反し滿洲西部の呼倫貝爾及び內蒙古の如きは極めて大陸性でありしかも內陸的氣候を示し夏冬晝夜氣温の差が甚しい。日本本土の如き所謂四季の區別は當らなく、即ち冬期間は一年の半に逹し冬期から夏期への推移は極めて急速である。

【氣温】 氣候が大陸的であることは氣温に於て最も顯著に認められる。南部遼東半島を除く外は年變化に於て冬夏寒暖の差極めて甚しく日變化に於ても亦晝夜の差が大きいがこの狀況は次表の通り日本各地との比較によつて明かである。

	最寒月					最暖月				
	起月	平均氣温	平均最高	平均最低	最低極	起月	平均氣温	平均最高	平均最低	最高極
新京	一月	(−)一六・一	(−)一〇・一	(−)二二・三	(−)三四・一	七月	二四・一	二九・三	一九・三	三六・〇
海拉爾	一月	(−)二九・六	(−)二三・八	(−)三四・七	(−)四六・〇	七月	二〇・四	二六・四	一五・一	三六・一
根室	二月	(−)五・五	(−)二・二	(−)九・六	(−)二三・九	八月	一七・二	二〇・九	一四・一	三三・一
神戸	一月	四・四	八・六	〇・九	(−)五・九	八月	二七・〇	三一・八	二三・五	三七・六
臺北	二月	一四・八	一九・〇	一二・七	(−)〇・二	七月	二八・三	三三・三	二四・三	三八・六

右表に依れば冬季我國の平均最高氣温は極めて低い。之は人間生活にとつて耐へ難いものではあるが、此の寒氣と雖も常に低温を持續するわけでなく冬期間には幾分緩和され殊に三寒四温の現象が顯著に現はれて周期的に比較的温暖なる日が訪れる。又この候は全國西比利亞高氣壓の圈內となる爲天氣は極めて良く一箇月の三分二以上快晴が持續し而も風は弱い。

冬季北海道樺太沿岸の如く連日暴風雪に襲はるゝに較ぶれば酷寒と雖も我國の氣候は數等惠まれたるものと謂へよう。氣温の變化が大である事は一日中の變化にも現れ、一日の最高、最低の氣温の差が二〇度に達する事も多く、其の爲夏季には日中可成りの高温となり、最高氣温が臺灣各地の最高より高くなる事も珍しくない。之は夏季に於ける滿洲各地の暑熱を思はせる如くであるが實際に於ては空氣が著しく乾燥して居る爲身體に感ずる度合は爽快で、內地の如き蒸暑さは感ぜられない。而も氣温の變化が大である爲夜に入れば急に温度が下り冷涼の感を與へるのである。日中の高温が晝間のみに限られる事は最暖月の毎日最低氣温の平均が神戸、臺北等の二四度內外なのに比して新京では一九・三度、海拉爾では一五・一度なる事に依つても知られる。

平均氣温表

都市／月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
新京	(−)一六・一	(−)一二・九	(−)二・三	七・一	一四・一	一九・七	二四・一	二三・一	一五・三	七・九	(−)五・七	(−)一四・三	四・九
哈爾濱	(−)二〇・五	(−)一六・五	(−)五・〇	六・三	一三・五	一九・五	二三・四	二一・八	一四・八	六・一	(−)六・五	(−)一七・三	三・二
齊々哈爾	(−)二二・一	(−)一六・三	(−)四・八	五・六	一三・三	一八・八	二三・四	二〇・九	一三・七	五・八	(−)九・四	(−)一五・八	二・五
黑河	(−)二五・四	(−)一七・〇	(−)八・五	二・八	一〇・八	一八・五	二一・九	一九・七	一二・七	三・三	(−)一二・二	(−)二三・〇	〇・五
富錦	(−)二一・二	(−)一五・七	(−)六・七	四・四	一二・〇	一八・四	二二・五	二一・三	一四・三	四・四	(−)七・〇	(−)一七・八	二・四
東安	(−)一九・七	(−)一四・六	(−)五・三	四・六	一一・六	一七・一	二二・六	二一・四	一三・九	五・二	(−)五・五	(−)一五・九	三・〇
牡丹江	(−)二〇・一	(−)一四・九	(−)三・九	五・七	一二・九	一八・一	二四・〇	二二・一	一四・三	六・二	(−)四・六	(−)一五・六	三・七
延吉	(−)一五・八	(−)一〇・四	(−)一・四	六・八	一三・八	一七・五	二二・五	二一・八	一五・六	七・八	(−)一・八	(−)一一・一	五・六
奉天	(−)一三・八	(−)七・四	一・一	九・八	一六・二	二一・五	二五・九	二四・三	一七・六	一〇・九	〇・五	(−)九・一	八・二
營口	(−)九・九	(−)七・〇	〇・三	九・〇	一六・〇	二一・四	二五・〇	二四・三	一八・四	一一・〇	一・二	(−)六・九	八・六
錦州	(−)一一・一	(−)五・六	一・七	一〇・五	一七・〇	二〇・八	二五・六	二五・六	一八・五	一一・二	一・六	(−)五・一	九・一
承德	(−)一一・一	(−)四・二	二・八	一二・五	一八・二	二二・二	二五・四	二三・六	一七・九	一一・四	〇・八	(−)七・三	九・四
赤峰	(−)一五・六	(−)八・三	(−)一・一	九・五	一五・五	二〇・六	二四・三	二一・七	一五・八	八・八	(−)二・六	(−)一〇・一	六・四
洮南	(−)一七・三	(−)一三・六	(−)四・一	五・八	一四・九	一九・九	二三・五	二一・五	一四・五	六・四	(−)五・四	(−)一五・六	四・四
索倫	(−)一九・〇	(−)一三・五	(−)五・五	五・一	一二・一	一七・八	二一・一	一八・九	一一・七	四・〇	(−)七・五	(−)一六・一	二・四
海拉爾	(−)二九・六	(−)二四・二	(−)一三・六	一・七	一〇・〇	一七・五	二〇・四	一七・七	一〇・一	一・〇	(−)一三・七	(−)二五・八	一・一
大連	(−)五・一	(−)三・五	一・九	九・四	一五・四	二〇・二	二三・六	二四・三	一九・九	一三・七	三・二	(−)一・九	一〇・五

降水量

新京	二・五	一・三	六・九	三〇・三	四一・五	七六・六	一三七・七	一七七・八	六五・五	三八・六	一三・〇	四・四	五九五・八
哈爾濱	四・五	二・八	九・五	二四・三	三三・三	一三三・九	一七六・六	一三三・五	六一・三	三四・五	一五・〇	四・四	六二三・五
齊々哈爾	二・二	〇・四	四・七	一四・七	三〇・七	九八・三	一四一・二	八三・一	四七・六	一五・四	八・四	三・四	四三九・〇
黒河	三・四	五・五	七・四	一六・八	五三・八	八三・五	一六三・八	八二・九	五六・七	二八・六	二一・五	六・五	五三一・四
富錦	三・三	八・九	九・三	三七・〇	四九・一	七五・八	一四六・三	八二・〇	八五・三	三三・六	一五・七	六・八	五五三・〇
東安	三・二	二・三	一一・二	三三・四	四〇・〇	八五・三	一一〇・三	一三五・七	九七・三	四八・三	三六・二	六・三	五九九・五
牡丹江	二・四	三・三	六・四	二七・八	四五・二	九九・二	八四・六	七八・九	九三・八	三六・九	二一・三	五・八	五〇四・三
延吉	三・七	一・五	一三・四	一五・五	三七・〇	八九・五	六七・八	一三八・七	七七・三	二〇・六	一〇・一	九・〇	四八四・一
奉天	四・三	四・二	一六・五	三八・三	九五・四	八三・四	一七五・六	二八三・六	八三・九	三三・九	二七・四	九・五	八五四・九
營口	六・二	五・六	一七・七	三六・二	五二・四	六二・六	一七〇・〇	一七四・八	七四・三	四七・四	二二・五	八・一	六六八・〇
錦州	一・五	〇・〇	一一・七	二・六	三四・四	五八・〇	一五三・七	一八三・二	七三・二	三九・九	六〇・九	五・三	六三三・二
承德	一・〇	一・三	八・六	一〇・五	六〇・五	七八・三	一八一・四	一〇九・五	五一・四	三〇・〇	三〇・六	三・三	五六五・三
赤峰	〇・八	一・二	七・一	八・一	二六・九	五〇・九	一三四・一	七九・一	三七・二	一五・八	一六・一	二・二	三三三・八
洮南	一・六	二・二	三・五	一三・一	二一・六	七七・五	一三九・六	一三一・五	四六・九	一四・四	三・九	一・六	四五七・二
索倫	三・一	二・四	三・五	一三・〇	二四・七	一〇三・二	一三八・八	一〇一・四	五〇・五	一四・七	九・一	五・八	四六九・五
海拉爾	三・五	四・三	三・二	二一・三	二五・一	四五・八	八九・八	七四・九	四〇・九	一三・四	六・九	三・〇	三三一・〇
大連	一〇・五	七・七	一六・一	二四・〇	四六・〇	四七・九	一六三・三	一三一・四	九一・二	三〇・五	三三・七	一三・九	五九四・二

三寒四溫　朝鮮、滿洲國、北支等に見られる冬季に於て三四日乃至一週間置き位に氣溫が昇降する現象で、冬季シベリヤ方面に高氣壓が生じ北乃至北西のモンスーンが來ると氣溫が下り、この高氣壓が衰へると、モンスーンが減退するか又は低氣壓が蒙古方面を通過して南からの風を起して氣溫が上昇するのである。

風　冬季はバイカル湖方面に高氣壓帶が生じ北又は北西風となり寒氣が烈しくなりこの高氣壓帶が衰退すると南偏りの風となつて寒氣を和げ、夏季は蒙古方面に低氣壓を生じ、南又は南東の季節風となる。この兩氣節風が滿洲の氣節を特徵づける最大の要素となつて居る。兩季節風の交代する春秋の候、殊に春は偏西風の所謂蒙古風が砂塵を吹ぎ上げて黃塵萬丈を呈する。土民はこれを霾と稱し豐年の前兆として喜ぶ。

【降水量】　滿洲の降水量は一年を通じ極めて僅少で三百粍乃至七百粍程度に止まり日本本土に於ける千五百粍乃至二千粍に比較すればその二割乃至三割餘に過ぎない。

而してその大半は滿洲の雨期と稱する六七、八の三箇月間に降雨あるのに反し多期に於ては極めて寒く特に內蒙古方面の如き五粍に充たない。從つて多期に於ける積雪の深さも山岳地の一部を除けば數糎乃至二十糎程度を示すに過ぎない。

【霜雪の季節】　次に滿洲に於ける霜及雪の初終時期を見ると初霜は遼東半島では十月の末で略々奧羽地方に相當するが內陸に入るに從つて早くなり興安嶺の北部地帶では九月の初旬既に初霜を見る。而して九月下旬には北滿一帶結霜期に入り樺太と略々同じである。終霜は遼東半島では比較的早く三月より四月初旬に終る。又中部平原地帶では四月から五月初旬に終り奧羽地方と大差ない。呼倫貝爾地方では南部より一箇月以上遲れる。

次に初雪は北滿の山岳地帶では十月上旬に降り樺太より半月以上早い。又南滿の沿海地方では十一月に入つてから漸く初雪を見、北海道の太平洋沿岸地方に相當してゐる。終雪は南滿では早く三月末に終るが北部では五月の下旬にも猶雪を見る所がある。

霜雪季節（平年）

	初霜 月日	終霜 月日	初雪 月日	終雪 月日
新京	一〇・三	四・二九	一〇・二三	四・二三
哈爾濱	九・二六	五・四	一〇・二四	四・二九
齊々哈爾	九・二九	五・一三	一〇・六	五・四
黒河	九・二四	五・一五	一〇・八	五・六
富錦	一〇・一	四・三〇	一〇・一七	四・二七
東安	一〇・五	五・一六	一〇・一六	四・三〇
牡丹江	九・三〇	五・八	一〇・一六	四・二一
延吉	一〇・五	五・五	一〇・二四	四・二九
奉天	一〇・一八	四・一	一〇・二七	四・八
營口	一〇・二四	四・一四	一一・二	三・三一
錦州	一〇・一九	四・七	一〇・一八	四・四
承德	一〇・一二	四・一	一一・一八	三・三一
赤峰	一〇・一	四・七	一一・九	四・八
洮南	一〇・四	四・一九	一〇・二〇	四・一四
索倫	九・二一	四・二一	一〇・一〇	五・二
海拉爾	九・一九	五・二〇	一〇・九	五・二
大連	一一・四	三・三一	一一・七	三・二七

生物

滿洲特有の植物

科名	種名	産地	備考
ウラボシ科	ヤマドリトラノヲ	大連・傅家庄・營城子・金州・凌水寺	葉裏が山鳥の尾羽に依る
	ダイレンシダ	魏家屯・小平島・大和尚山・金州鳳凰山	大連の地名を冠して命名す
	レウトウイタチシダ	小平島	遼東の名を冠して命名す
イネ科	ホソバノアブラススキ	大・龍頭	
カヤツリグサ科	ホクリヨウスゲ	奉天・北陵	北陵の地名を冠して命名す
	マンシウワタスゲ	中部以北	有名なウラル草のこと
ユリ科	コガネホウチヤクサウ	金州勝水寺・凌水寺	黃金色のやさしい花を開く
	マンシウホトトギス	熱河興隆堂—北營房間	紫色及び黃色の花をつける二種がある
アヤメ科	ヒメネヂアヤメ	大連老虎灘—南關嶺	
シソ科	ナガバナギナタカウジユ	大連沙河口・同臺山屯・同南山	葉が細長く花穗は鮮紫で美しい
	ネツカキセツタ	熱河省長山峪附近	熱河の地名をとれるもの
	ホソバルリカゴサウ	南關嶺・大房身・金州・平山・龍王塘・大西山・土門嶺	
ニンドウ科	アムールニワトコ	旅順老鐵山	アムールの地名をとれるもの
ヲミナヘシ科	ラウテツヲミナヘシ	大房身	老鐵山の地名をとれるもの
キキヤウ科	マツバシヤジン	大連附近	葉は松葉の如く細く花は紫藍色で美しい
キク科	レウトウタンポポ	開原・撫順・八面城	遼東の地名をとれるもの
	カイゲンタンポポ	熱河興隆附近	開原の地名を冠す
	シシヒゴタイ	熱河省霧靈山	
	アラムシヤアザミ		

滿洲に於ける特有の動物

所屬	種名	産地	要項
哺乳類食肉類	マンシウトラ	北滿森林地帶	熱帶產よりも毛密生し彩色が淡い
同　同	テウセンオホカミ	滿洲山地一帶	人畜に危害あり
同　有蹄類	ロバ(驢)	飼畜	粗食粗管理に堪へ使役に適す
同　同	ラバ(騾)	同	同、荷馬車に多く用ふ
同　同	ヒツジ	同	蒙古種はよくないがメリー種との改良種は良質の毛を產す

哺乳類食肉類	ブタ	飼育	南滿は小型種、北滿は大型種であつたが現在は改良種多し
同　同	ノロシカ	北滿山地一帶	角は三、尖二叉、其部に疣瘤が多い
同　齧齒類	タラバカン	北滿西部・蒙古	毛皮用、肺ペストの媒介をする
同　同	マメネズミ	滿洲・蒙古	リス科、農作物を害す
同	トビウサギ	北滿・蒙古	跳兎科、兎に似て遙かに小さい
同　食虫類	ハリネズミ	滿洲一帶	背面全部の毛は短かく刺となる
鳥類、猛禽類	マンシウハゲワシ	北滿・蒙古	毛皮店の看板に用ふ、矢羽、羽箒、羽團羽にする。
爬虫類、龜類	アムール・スッポン	南北滿洲・蒙古	食用、輸出する
同　蜥蜴類	ヘウモンカナヘビ	南北滿洲	豹紋形の斑點がある
同　蛇類	シベリアマムシ	同	旅順西方蛇島には三四十萬を藏す
兩棲類有尾類	マンシウサンセウウヲ	南滿	
同　無尾類	アカハラガヘル	同	腹面に鮮紅色の斑點あり美聲を有す
魚類硬骨魚類	グチ	渤海・黃海	滿洲料理又は鹽藏する
昆虫類鱗翅類	サクサン	南滿山地	絹紬、安東・蓋平・營口が集散地である
同　鞘翅類	フンコロガシ	南北滿洲	糞球は穴の中に運び入れその中に産卵する。雌は逆立して之を押し雄は直立して前に引く
蜘蛛類	キヨクトウサソリ(蠍)	同	支那では有名な藥用動物である。有毒
甲殼類	カウライエビ	渤海・黃海	五六月頃多く捕獲する。美味である

住民

種族

康德七年十月の國勢調査に依る總人口は約四千三百二十三萬三千九百五十四人(世界第九位)その密度は一平方粁日本の百九十人に對し、三十三人に當つてゐる。住民の狀況は大要左の如くである。

【滿洲族】滿洲本來の民族である滿洲人は古來女眞族と稱ばれ滿洲東部地方を中心として歷史上顯著な活動をして來たが、清朝成立に伴ひ次第に各地に分散し、現在では純粹の滿洲族と云へる者の數は非常に尠く、吉林省・龍江省・三江省あたりに僅かに殘存してゐるに過ぎず、數に於ては滿洲國總人口の一割以下にも達しない。

この民族の特性であつた精悍さも、固有の言語風俗も、漢人との雜婚により又年月の經過によつて一見漢人と判別し難いまでに同化されてしまつた部分が多い。

【漢族】漢民族は古來幾回にも亙る入滿の歷史を有して次第に勢力を扶植して來たのであるが、日露戰爭後は滿洲の治安が維持され、開發が進捗して漢人の移民に好箇の新天地となつたところから、山東・河北・山西・其他南方方面よりの渡來者が著しく殖え、現在では滿洲國總人口の九割近い數を占める樣になつて來たのである。

從來各族の間に猛烈な私鬪も行はれたがその家族制度は血緣團體、地緣團體として發達し、滿洲に於ける社會生活の原動力になつてゐる。

この民族の二大弊風であつた男子の阿片と女子の纏足は滿洲國成立以來政府の禁絕方針により餘程減少して來てゐるけれどまだ根絕によ至らない。衣食住は地勢及氣候に應じ、長年の經驗に彼等の嗜好を取入れて寒暑に適する樣式を作りなし今日に到つてゐる。

【蒙古族】蒙古人は古來剽悍無比で、嘗ては歐亞に跨がる大帝國を建設した事もあつたが、清朝の懷柔政策の奏效によつて昔の氣力は夙に喪はれ、その滿洲に住む者は農耕移民たる漢人との生存競爭に破れて、今では興安諸省、熱河省あたりの山中又は草原・沙漠地帶等を轉住してゐる者が多く、中には漢人に同化されて定住してゐる者もある。

蒙古人は古來遊牧民族で所謂蒙古包に起居し原始的な生活をしてゐて、大多數の者が喇嘛教の信徒であり滿洲內にある者はハルハ族、ブリヤート族・オレート族の三種である。

【日本人】日本人は日清・日露戰爭後渡滿し此地の文化建設に多大の努力をして來たが、諸種の事情によつて滿洲事變前までは其數二十二、三萬に過ぎなかつた。然し滿洲國建設を機として渡滿者相踵ぐ有樣となり茲數年間に九十餘萬と云ふ驚異的數字を示し、此地に於ける理想國土の建設に關し全國民の指導的立場に立つことゝなつた。

朝鮮人は間島省を主として全滿洲に約百萬の數を有し、主に農業に從事し、殊に水田開發の事業に貢獻してゐるところ甚大なるものあり、中には服裝など著しく漢人化したのもある。從來官憲、地主等の不法な迫害を堪へ忍んで來たが、滿洲國の成立によつて多幸な將來を持つことゝなつた。

【露西亞人】露西亞人は舊帝政露西亞の極東政策に伴ひシベリア地方から入滿したもので、日露戰役後は多く北滿地方に後退して、舊北鐵沿線一帶に亙り居住してゐたが、滿洲國の北鐵買收後は更に打擊を受けることゝなつた。現在の所謂白系露人は各所に分散して多くは悲慘な生活をしてゐるが、これも建國後は將來への光明示唆を與へらるゝこととなつた。

尚此地に住する露西亞人中には、スラブ系のものもあれば、猶太系のものもあり、トルコ系のものもある。

【其他】滿洲族以外のツングース族には北方ツングースに屬するオロチョン・マグネル、南方ツングースに於するシーボ・ゴルド・ピラール・ダホール・ソロン・キレ等の諸族、蒙古族に屬するブリヤート・オレート・チプケン・ハルハ・バルガ・バルガソロン・ハイラルダハール、トルコ族のヤクート人等と共に少數民族として總括される。

【山東苦力】滿洲へ出稼に來る苦力には山東出身の者が大多數を占め、海路山東からやつて來たので俗に山東苦力と呼ばれてゐる。滿洲事變前迄は渡來數が每年八十萬乃至百萬もあつて殆ど全滿に行渡り勞役に從事し、その內幾割かは家族と共に土着して移民の實を擧げつゝある。滿洲建國以後は許可制度になつたため其數は激減したが其後滿洲國內諸建設の勞務要員充足のため漸次增加し、昭和十五年度に於ては約百四十萬人の入國を見た。

聚落

【村落】滿洲の村落は大部分農村で、多くは飲料水によつて位置が決つたものである。南滿地方の村落名について云ふならば、王家・李家・蘇家などのやうに開拓者の家名に因つたものが澤山あり、これに屯・塞・舖・堡・臺・溝・庄・鎭などがそれぞれついてゐる。其他地形・樹木・河川・道路などから附けられた村落名も多い。

北滿は南滿より開拓が新しくて、村名により土地開拓の過程を知るには都合がよい。個人的に開拓された村落には、南滿と同樣に開拓者の家名が冠せられてゐるものが多く、李家・馬家・潘家といつた風のや、翟先生屯・列學德屯・宋羅先生屯と云つた種類のがある。なほ正白旗十井・正紅旗十五井・黃正旗十六井などの村名は、清朝華かなりし頃に八旗の軍隊を留めたところから出た名である。

【都市】都市中には城市として發達して來たものが多く、それらの城市は古いところでは渤海・遼の時代に起源してゐる者もあるが、清朝から榮えたものが大部分で、外に開拓によつて發達した植民都市があり、また近代に到つて外國人により經營されて發達した歐風都市もある。

城市には海城・析木城・九連城などのやうに城を附して呼ぶのもあるが、これを略したのもある。又石城子・土城子・甎城子等の名は城壁の狀態から起つて居り、新城・老城・古城などの名は新舊によつて生じたものである。植民都市は近代に於ける

漢人移民により興つた都市で土城を有するものもあり缺くのもあるが、城壁を有するものは一般に街路が碁盤目をなしてゐる。洮南・鄭家屯・通遼・開魯・林西など何れもその植民都市の例である。

以前に商埠地と稱せられるのは、條約により諸外國へ解放し居留民の商工業經營のため提供された地域で、多くは城市と舊鐵道附屬地との間に介在してゐる。

歐風都市はロシア人や日本人の進出により生じた都市で城廓を有せず、街路は大抵放射線状をなし整然としてゐる。大連・奉天・新京・哈爾濱などはそれである。

人口

滿洲の住民は滿・漢・蒙・日・鮮の五族を主體とし、このうち漢民族は八割以上を占め、滿洲國と最も因緣の深い滿洲族は約八十萬に過ぎない。蒙古族は七十七萬、朝鮮人は百十六萬、日本内地人は八十三萬(關東州を含む)、なほこの外に白系、赤系合して約七萬のロシア人がある。

省別人口表（康徳七年10月1日現在）

省別	面積(方粁)	人口 總數	男	女	密度(毎方粁)
新京特別市	四三七・六五〇	五五四、二〇三	三四五、七一〇	二〇八、四九三	一、二六六・三
吉林省	八八、九二四・九五三	五、八六五、〇二四	三、二〇四、九三一	二、六六〇、〇九三	六六・〇
龍江省	六七、四八二・一三三	二、〇八七、八一四	一、一五八、八四一	九二八、二五一	三〇・九
北安省	七六、一八三・三三五	二、三二八、〇五三	一、三二六、四七八	一、〇〇一、五七五	三〇・四
黒河省	一二八、八九八・八五一	一四九、六七九	一一四、六一三	三五、〇六六	一・二
三江省	九〇、四一七・八二七	一、四一七、八八八	八五二、三〇六	五六四、五八二	一五・七
東安省	四一、三九七・〇四三	五三三、八三三	三四六、五六九	一七六、二六五	一三・六
牡丹江省	三二、九二四・六六四	六八九、一一三	四四七、二八四	二四一、八二九	二〇・九
濱江省	六三、八五九・七八〇	四、三三六、四一〇	二、四六九、四六三	一、八六六、九四七	六六・三
間島省	四〇、一四三・六四八	八四八、八一九	四六七、七八九	三八一、〇三〇	二一・〇
通化省	三一、七〇四・九七〇	九八二、九四三	六〇三、六八八	三七九、二五四	三一・〇
安東省	二六、五〇六・〇一八	二、二三一、三八四	一、一七一、〇八一	一、〇六〇、三〇三	八四・二
奉天省	七四、八六〇・五二一	一〇、三三五、五三〇	五、六〇六、四八一	四、七二九、〇四九	一三七・九
四平省（推定）	（一九、八五六・〇〇〇）	（五、一〇七、五六七）	—	—	—
錦州省	四〇、一六三・四〇三	四、三三三、二三九	二、二四三、二七〇	二、〇八〇、九六九	一〇七・六
熱河省	一〇三、〇六一・八九八	四、五五七、六七六	二、四五〇、八六四	二、一〇六、八一二	四四・二
興安西省	七三、九三四・一二四	七六三、八〇四	四二七、七五六	三三六、〇四八	一〇・三
興安南省	七六、八六六・二六一	一、〇三六、二三五	五八〇、五八七	四四五、六四八	一三・四
興安東省	一〇九、一〇七・二五五	二〇〇、六五四	一二〇、九〇六	七九、七四八	一・八
興安北省	一五六、二三〇・五二一	一三二、四四七	九一、三四七	四一、一三〇	〇・八
總計	一、三〇三、一四三・二五三	四三、二三三、九五四	二三、九一九、九六三	一九、三一三、九九一	三三・二

主要十五都市人口（康徳七年三月末）

地方別	總數	滿人 滿漢族	蒙族	回族	其ノ他	日本人 内地人	朝鮮人	其ノ他	歐米人	無國籍
新京	四九三、九二一	三五六、〇五四	五八〇	六、〇三三	—	一二四、〇九一	一四、九六三	三四一	一三六	九三三
吉林	一四八、七三五	一三三、三六一	一三	六、九五三	—	一四、〇九〇	五、一六八	四七	二七	九八
齊々哈爾	一一八、四五〇	一〇〇、七一七	四八〇	二、四四九	—	一三、六九三	八三一	—	二九	二六九
佳木斯	一〇七、三三四	八〇、七六一	—	五五九	—	一一、九八九	六、九三一	一〇	五	七六
牡丹江	二〇〇、〇三六	一〇七、二六五	—	五三五	—	五七、四六一	三四、一四五	一四	—	五八七
哈爾濱	六一九、〇一五	五一七、九八五	二六	六、三四〇	三、六九一	五〇、〇三六	七、七五九	五	四、四〇三	二八、五三〇
安東	二九七、四三七	二四三、五五五	二	四、三三七	—	三五、八七九	一四、三三一	一〇	三三	一一
奉天	一、〇二七、三二七	八三四、六一五	三三	一三、七七六	—	一四七、七一一	二九、三一七	七四	五三四	一、〇八〇
撫順	二七四、四八九	二三九、〇九〇	四	一、一二四	—	三八、四三三	五、七一二	六五	一九	四三
遼陽	一〇〇、八五四	九一、八二九	六	一、八二六	—	六、八五六	三一〇	六	一六	五
鞍山	二〇七、七九〇	一六〇、一八〇	—	五五六	—	四四、九六七	二、〇三四	三五	一七	一
營口	一七七、〇六三	一六三、八六一	一	四、三八八	—	七、二三三	一、四八〇	二四	四五	一六
鐵嶺	五五、九〇〇	四九、六一七	—	一、五五六	—	三、五一九	一、一九四	—	七	七
四平	七〇、五五六	六〇、〇八二	—	三三三	—	九、一九三	九八五	一九	四六	一九
錦州	一三四、五七二	一一五、二八二	二	一、八四九	—	一六、五三五	八五四	一八	一〇	二四

關東州人口表（昭和一五年10月1日）

地方別	總數	男	女
大連市	六六一、三五四	四一三、五九三	二四八、七六一
旅順市	三七、五三五	二三、六四三	一四、八八二
旅順民政署	一四四、七六一	七三、五九九	七一、一六二
金州民政署	一六七、六一八	八九、四六一	七八、一五七
普蘭店民政署	一九七、四四一	一〇四、三二三	九三、一一八
貔子窩民政署	一五八、六五五	七九、九七三	七八、七六二
計	一、三六七、三三四	七八一、五九二	五八五、七四二

世帶數二三五、三〇七　國籍別人口、滿洲人一、一五八、〇八三　内地人一九六、一六八　朝鮮人六、三六四　中國人三、三三六　台灣人　五三〇　外國人　一、八五三

政治

【沿革】大同元年（一九三二年）三月一日、三千萬民衆の總意によつて國を建て、國號を滿洲國と定め年號を大同と稱した。順天安民の大義に依る王道樂土、民族協和の理想國建設を目標に大同元年三月九日溥儀氏を執政に推戴、政府組織法を制定暫行的に執政の下に一府三院八部より成る滿洲國中央政府を形成したが、康徳元年三月一日、順天安民天意具現の大旨に基き執政帝位に即かれて帝政の實施をみることゝなり、年號を改めて康徳となし、同日新に六章九十七條の政府組織法（同年十二月及康徳四年七月改正）を發布し、新に皇帝、參議府、立法院、國務院、法院、監察院よりなる統治組織の根本の確立をみた。

爾來政府は着々近代法治國家としての體制整備に努め、數次の改革を經て世界に比類なき獨特の政治組織を完成し、四千萬國民は茲に王道政治の惠澤を謳歌するに至つたのである。今や建國十年を迎へ躍進の一路を征く國家建設工程の實相を政治方面より見れば次の通りである。

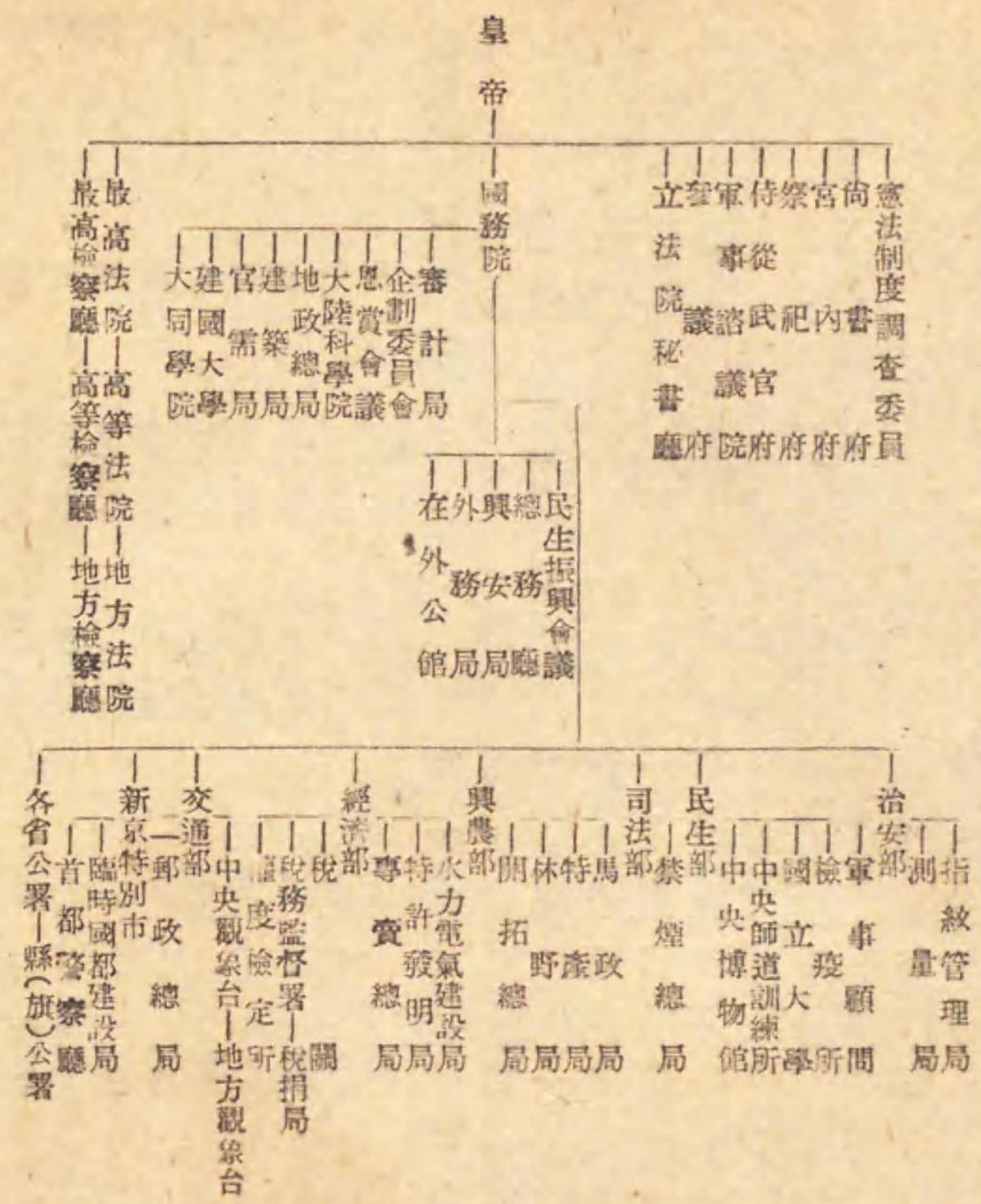
康徳元年十二月、舊政權時代の封建的政治關係が最も強く表現されてゐた地方制度即ち奉天・吉林・黒龍江・熱河と云ふ大區劃制度を廢して新たに奉天・吉林・龍江・黒河・三江・濱江・間島・安東・錦州・熱河の十省及び興安四省を設けて舊弊を一新し更に康徳四年には牡丹江・通化兩省、同六年東安北安兩省、同七年四平省を夫々新設して計十九省としたことは滿洲國が新興國家としての體制を樹てる上に劃期的な寄與をなすものであつた。

法制方面について云へば、帝政實施と共に組織法を改めて國家の根本法となすと共に、君主制に相應しい法律の制定、改正を行つたが實に對外關係において重要問題たる治外法權の撤廢は康徳三年七月及び康徳四年十一月兩期に亙り教育、兵事、神社三行政を除外して實施され、その前提として法院組織法同施行法を公布實施して法制の完備に一歩を進め、康徳七年には國兵法を施行して國防の高度化を計りつゝある。

【組織法】大同元年（一九三二）三月一日

建國と同時に政府組織法を定めて國家の基礎としたが、二箇年を經た康德元年三月帝制を實施して君主制を布くと同時に從來の組織法を廢止して新たに組織法を制定公布した。而して此の組織法は滿洲國家の組織及び作用に關する成文の基礎法であり、勿論近代的意義に於ける憲法とは云ひ得ないが現在の國家の基礎法として所謂實質的な憲法を爲すと云ふべく、また本法はその制定の手續の上から欽定憲法であり、その點日本憲法と軌を一にするものと云ひ得る。唯此の組織法と雖も暫行的のものであり憲法制定の曉には當然廢止さる可きである。

政府組織表



（建國十年略史）

大同元年（昭和七年）▼二月（十六日）滿蒙新國家建設會議は三大原則を決定獨立宣言發表・（十九日）新國家元首に宣統帝推戴決定・（廿三日）新國家國號を滿洲國と決定▼三月（一日）建國宣言書發表・（九月）執政に溥儀氏就任建國式擧行・（十日）滿洲國成立の旨列國に通告・（十五日）首都を長春に定め新京と改稱▼六月（十八日）關稅自主宣言・（廿七日）全滿海關接收を中外に宣言▼七月（廿五日）協和會發會式▼九月（十五日）日本帝國、滿洲國を承認、日滿議定書調印▼大同二年（昭和八年）▼四月（十九日）執政民心作興敎書發布▼五月（卅日）塘沽日支停戰協定成立▼八月（廿二日）人口三〇九二萬九千人と發表 ▼康德元年（昭和九年）▼一月（廿日）三月一日帝制施行の旨鄭總理發明▼二月（廿一日）新年號を康德と決定▼三月（一日）皇帝陛下卽位式（三日）サルヴアドル滿洲國承認▼六月（七日）秩父御名代宮殿下皇帝陛下に御親書勳章を捧呈遊ばさる▼七月（一日）滿洲北支連絡第一列車運轉▼康德二年（昭和十年）▼一月（十日）滿支通郵開始・（廿二日）北鐵買收交涉成立▼四月（六日）天皇陛下御訪日の皇帝陛下と初の御對面あらせらる▼五月（二日）回鑾訓民詔書御宣布・（廿一日）鄭總理辭任、張景惠氏に大命降下▼康德三年（昭和十一年）▼四月（卅日）滿獨貿易協定調印▼五月（十日）帝國治外法權一部撤廢調印 ▼八月（廿五日）廣田内閣對滿開拓國策「廿年百萬戶」決定▼十一月（五日）滿洲產業五ヶ年計畫現地案大綱決定・（廿八日）日伊國、滿洲國獨立、エ國併合の相互承認調印▼康德四年（昭和十二年）▼七月（七日）蘆溝橋事件▼十一月（五日）日滿治外法權撤廢及滿鐵附屬地行政權移讓條約調印・（六日）日獨伊防共協定調印・（廿九日）伊太利國滿洲國承認▼十二月（一日）治外法權撤廢及滿鐵附屬地行政權移讓實施・（二日）スペイン滿洲國承認▼康德五年（昭和十三年）▼五月（十二日）獨逸滿洲國承認▼六月（十二日）滿獨修好條約調印▼七月（五日）日滿伊修好通商航海條約調印・（十二日）張鼓峰事件勃發▼八月（十日）張鼓峰事件停戰協定成立▼康德六年（昭和十四年）▼一月（十日）ハンガリー滿洲國承認▼二月（廿四日）滿洲國防共協定參加調印▼四月（廿日）日滿共同防衞委員會官制公布▼五月（十一日）第一次ノモンハン事件勃發▼六月（一日）スロヴアキヤ滿洲國承認・（十七日）第二次ノモンハン事件起る▼十二月（廿一日）日滿開拓政策基本要項決定▼九月（十五日）ノモンハン停戰協定成立▼康德七年（昭和十五年）▼一月（三日）滿ソ國境委員會設立▼四月（十一日）國兵法公布▼六月（九日）ノモンハン國境確定協定日ソ間に成立・（廿二日）皇帝陛下御訪日の途につかせらる・（廿六日）皇帝陛下横濱御上陸・天皇皇后兩陛下に佳歲を御慶祝▼七月（三日）伊勢神宮御參拜（六日）大阪より御歸國の途につかせらる（十五日）建國神廟御創建の詔書渙發▼八月（廿三日）建國忠靈廟御創建・▼九月（廿七日）日獨伊同盟締結▲十月（一日）第一次國勢調査▼十一月（五日）日滿支經濟建設十ヶ年計畫要項決定・（卅日）日滿華三國共同宣言、滿華兩國相互承認▼十二月（一日）ルーマニヤ滿洲國承認・（廿五日）國勢調査人口四三、二三三、九五四人と判明▼康德八年（昭和十六年）▼四月（一日）協和會根本改組▼五月（十四日）ブルガリヤ滿洲國承認▼七月（十九日）フインランド滿洲國承認・（廿八日）滿洲國英米資產凍結▼八月（五日）タイ滿洲國承認・（十三日）丁抹滿洲國承認・（廿日）滿蒙國境確定現地作業終了▼八月（二日）第二次五ヶ年計畫要項決定

在滿日本帝國機關

【關東軍司令部・駐滿大使館】 二位一體制に基き大日本帝國の在滿國策遂行機關を關東軍司令部及び駐滿大使館の二機關制となし、關東軍司令官をして二位の機構の長官を兼任せしめることによつて在滿日本機關の最高統制を一元化したものである。即ち現行機關に基けば關東軍司令官は、大日本帝國が東亞大陸への據點としての對滿國策遂行の唯一の代表者たるの資格を以て、軍事・外交・行政の三權を行使統理するものである。

滿洲事變を契機として日本帝國政府の在滿機關は强力にして且つ合理的な機構を必要とするに至り、昭和七年八月武藤信義大將の關東軍司令官親補に際し特命全權大使並に關東長官を兼任、軍事・外交・行政の三權を統理せしめ、所謂三位一體制なる暫行的第一次機構改革の實現をみたが滿洲國の發展と日滿不可分關係の急速なる具現に伴ひその根本的改革が要求される新事態に立ち至つたので、遂に昭和九年十二月第二次の機構改革の大案が樹立され現在行はれて居る二位一體制に基く在滿日本機關の最高統制が確立された。而して第二次機構改革により對滿事務局並に關東局が設置せられ對滿事務局は（1）關東局に關する事務（2）各廳對滿行政事務統一保持に關する事務（3）涉外事項に關するものを除き滿洲に於ける拓殖事業の指導奬勵に關する事務（4）南滿洲鐵道株式會社、滿洲電信電話株式會社の業務監督を管掌してゐる。

【關東局】 在滿日本大使館内に設置され關東州廳の監督、留保治外法權の行政管理、滿鐵並に電々會社監督の權限を有してゐる。

尙第二次機構改革の結果、關東局並に在滿日本大使館の警務部長は關東憲兵司令官の兼任するところとなり、在滿日本警務機構は完全に統一されるに至つたが、治外法權の全面的撤廢により、在滿大使館管下の警察權（關東局警務部）は擧げて滿洲國に移管された。

【關東州廳】 關東州並に滿鐵附屬地の我に歸してより茲に三十年、帝國は此地に對し軍政の後を承け關東都督府を置き民政の端を開き、次で關東廳に改制し、昭和九年末更に關東局及關東州廳を設けて今日に至つた。昭和十二年五月其の位置を旅順より現在の大連に移したが、我が國策の遂行上關東州の地位は益々重要性を加ふるに至り因つて昭和十二年十二月一日官制改正を行ひ機構を擴大强化し現下の趨勢に對應することゝなつた。關東州長官は大使の指揮監督を承け州内の行政事務を管理し職權又は特別の委任に依り州廳令を發することが出來る。州廳内部の組織は官房・

温泉





五龍背





湯崗子

內務・財務・土木・警察の五部に分れてゐる。

協和會

滿洲帝國協和會は滿洲帝國の國家機關であると共に國民の機關であり、政府と表裏一體になつて建國理想の實現即ち道義世界の創建を志す國家的團體である。

協和會の發會式は大同元年七月二十五日國務院に於て擧行されたが協和會運動は滿洲事變前、張家政權の暴狀に對し滿洲三千萬民衆が奮起したその事態に發端してゐる。即ち事變前に於ける自治指導部の成立及びその建國運動がそれである。故于沖漢氏を部長とする日滿人有志の同志的集團であつた自治指導部は或は日本軍の匪賊討伐に隨伴し、或は舊軍閥暴政の社會的汚毒を肅正改革しつゝ、建國精神を思想的に敎化的に政治的に實踐具體化することを生命として建國の聖業に參與し、日本民族を中心とする鮮、滿、漢、蒙各民族の統合による王道國家完成に努力した。

大同元年三月滿洲國成立と共に自治指導部の一半は官に入つて政府の要所に就き、一半は野に在つて協和會を組織した。從つて「政府は建國精神即ち協和會精神により構成せられた機關」に外ならないのである。

創立以來早くも九年餘、今やその組織網は全國に伸び、會員數二百十餘萬、會本來の使命に向つて邁進しつゝある。

協和會の組織工作の窮極の目標は全國民を打つて一丸とし、建國精神に滿たされたる强力なる組織體を作ることにあり、官吏・軍人・商人・農民・勞働者あらゆる階級を通じて會員を募り訓練し、精鋭なる國民的組織體を完成して國家理想の實現を期するものである。

協和會機構の單位は分會であり、すべての會員は分會に所屬して會活動に從事してゐる。分會は地域制の組織を原則とするが現在は實際的な狀況に應じて便宜、職場別・職業別・民族別等に組織されてゐる。

滿洲國に於ける政治の特質は實に此の協和會政治であるといふ點にある。

協和會的政治の獨自性とは先づ複合民族國家內に於ける雜多の民族をして眞に一つの建國精神に向つて一致協力せしむべき國家建設の根本問題の處理である。その具體的政治の表現は今迄に世界中に行はれた自由主義政治・獨裁政治若くは專制政治等の凡有弊害を除去し眞に東洋の道義の上に立脚する同志的團結力を有する國家團體としての成果をあげんとする處に存する。

これが爲に全國に約三千六百個の分會を有し分會の組織を通じて直に國民大衆に繋がり此の上に縣旗市本部、省本部、中央本部といふ順序で一個の系統を形成し每年一回、新京の中央本部に於て全國聯合協議會が開催され、協和會・政府・國民は夫々の立場から眞に同志的雰圍氣の中に建國理念達成の諸問題と協議するのである。

協和會ノ根本精神

一、滿洲帝國ノ政治ノ特質

滿洲國ノ政治ハ民主主義的議會政治ノ轍ニ倣ハス、專制政治ノ弊ニ陷ラス、民族協和シ正シキ民意ヲ反映セル官民一途ノ獨創的王道政治ヲ實現ス

二、協和會設立ノ意義

協和會ハ滿洲建國ト共ニ生レ國家機構トシテ定メタル團體ニシテ建國精神ヲ無窮ニ護持シ國民ヲ訓練シ其ノ理想ヲ實現スヘキ唯一ノ思想的、敎化的、政治的實踐組織體ナリ實踐シテ偏スルナク結合シテ私スルナシ

三、滿洲國政府ト協和會トノ關係

建國精神ノ眞髓ハ協和會ノ體得スヘキ唯一絕對ノモノナリ

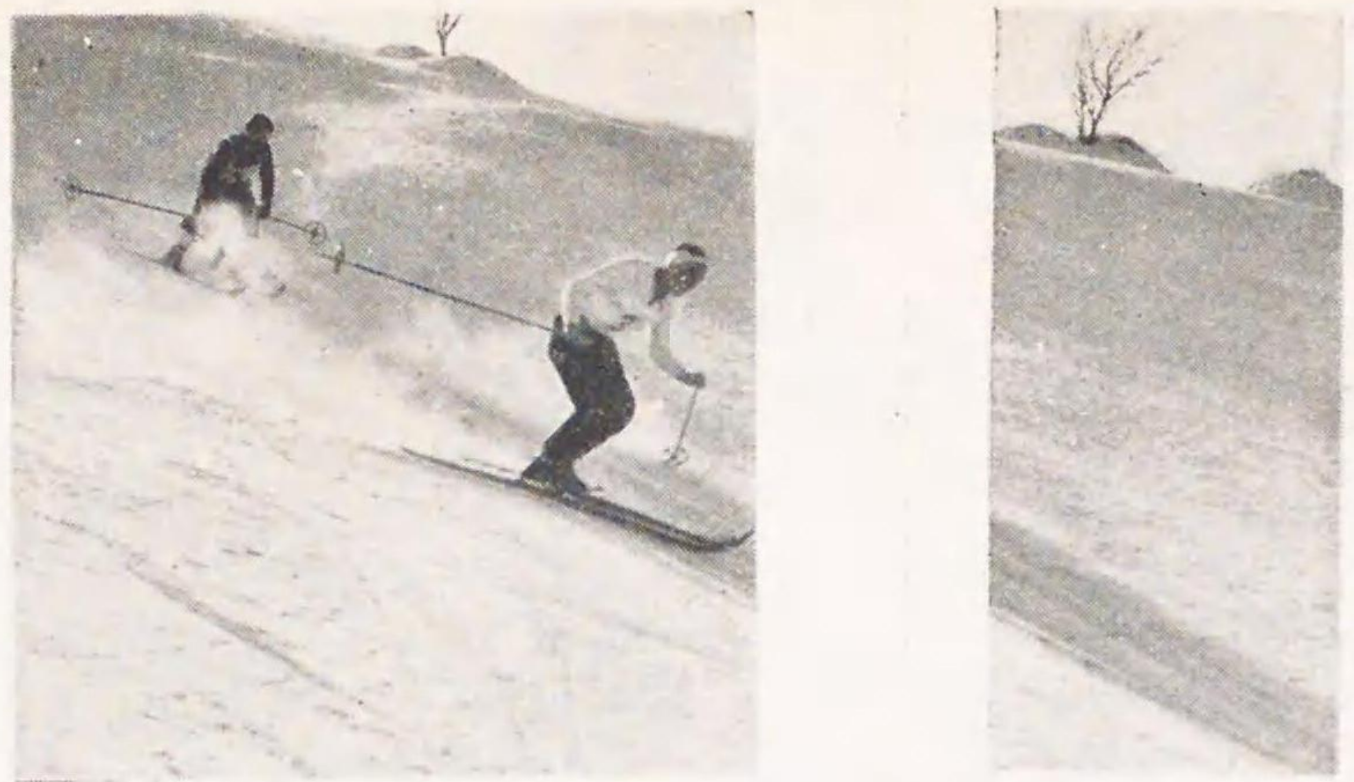
建國精神ノ政治的發動顯現ハ滿洲國政府ニ據リ其ノ思想的、敎化的、政治的實踐ハ協和會ニ據ルヘク民意ノ暢達之ニ依リテ期スヘシ

從ツテ協和會ハ政府ノ從屬機關ニ非ス、對立機關ニ非ス、政府ノ精神的母體ナリ、政府ハ建國精神即協和會精神ノ上ニ構成セラレタル機關ニシテ其ノ官吏ハ協和會精神ノ最高熱烈ナル體得者タルヘキモノナリ

眞ノ協和會員カ政府ニ入リ又ハ野ニ在リテ政治經濟ヲ指導シ思想ヲ善導シ建國精神ヲ以テ全國民ノ動員ヲ完成スル時王道政治ノ實現ハ期待セラルヘシ

昭和十一年九月十八日　關東軍司令官　植田謙吉



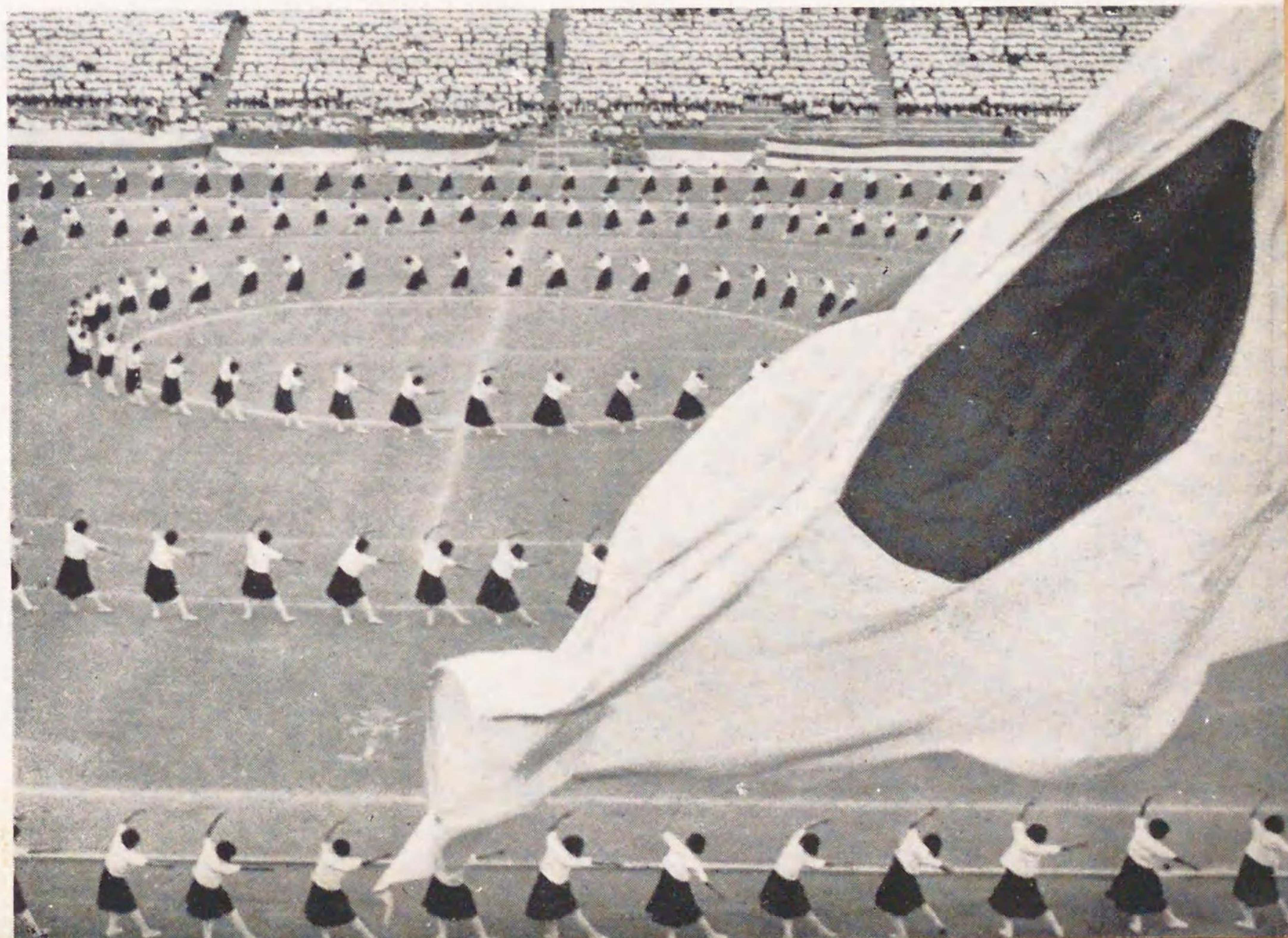


スポーツ









綱領

滿洲帝國協和會ハ唯一永久、擧國一致ノ實踐組織體トシテ政府ト表裏一體トナリ、建國精神ヲ顯揚シ、民族協和ヲ實現シ、國民政治ヲ向上シ、官德達情ヲ徹底シ、國民動員ヲ完成シ、以テ建國理想ノ實現、道義世界ノ創建ヲ期ス。

機構表

- 會長
  - 名譽顧問
  - 中央本部
    - 中央本部委員會—幹事室
    - 中央訓練所
    - 總務部
    - 指導部
    - 訓練部
    - 調査部
    - 審査役室
    - 全國聯合協議會……省(首部)聯合協議會……縣(旗市)聯合協議會
    - 首都本部
    - 省本部—縣(旗市)本部—分會

會籍現勢一覽表

（康德八年六月末現在）

省本部名	省本部數	市本部數	縣本部數	旗本部數	地區本部數	市縣旗地區本部數 合計	分會數	會員數
首都本部	一	―	―	―	―	一	一三九	九八、五七〇
奉天省	一	五	二〇	―	―	二六	一、〇九五	五九二、九三四
吉林省	一	一	一六	一	―	一九	三一九	三八一、三四八
龍江省	一	一	九	一	―	一二	一六五	六〇、〇九七
熱河省	一	―	七	五	―	一三	三五八	九五、三〇六
濱江省	一	一	一六	一	―	一九	三三六	一〇七、一六九
錦州省	一	二	九	三	―	一五	三九四	一四八、七九五
安東省	一	一	六	―	―	八	一九一	一五二、四五〇
間島省	一	―	五	―	―	六	三八	七二、五七三
三江省	一	一	一〇	―	―	一三	一二七	三五、一〇五
通化省	一	―	九	―	―	一〇	三一七	四〇、五〇六
牡丹江省	一	一	四	―	―	六	七五	一〇五、一三九
東安省	一	―	六	―	―	七	四五	四四、四二九
北安省	一	―	一三	―	―	一四	一五九	五一、九〇四
黑河省	一	―	四	―	―	五	五七	八、四四一
興安東省	一	―	―	二	二	五	五〇	八、五九八
興安南省	一	―	一	二	―	四	七	三三、〇七八
興安西省	一	―	二	六	―	九	三九	一四、二六八
興安北省	一	一	―	―	二	四	三六	五、九七七
合計	一九	一四	一三七	二一	四	一九八	六、五六五	二、〇一一、六三六

教育・宗教

教育

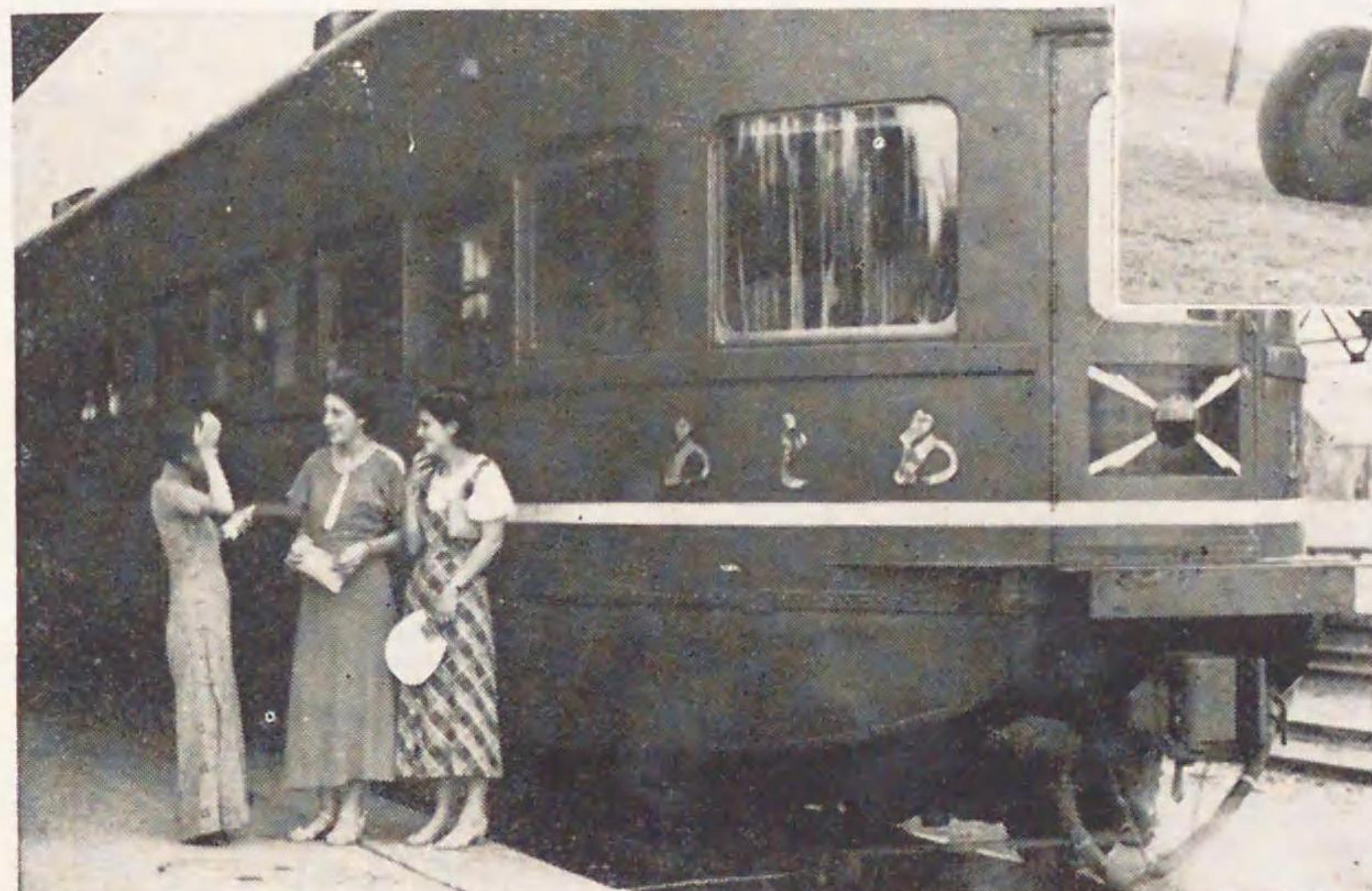
【學校教育】學制の改革に關しては建國匆々其大綱を定め、修業年限の短縮・教育内容の充實・教育の機會均等其他につき研究を進むる處あつたが、康德三年十二月の第一次改革を經て康德四年五月勅令を以て學事通則・學校令其他の公布を見、滿洲教育史上に新紀元を畫する滿洲帝國新學制の制定實施を見ることゝなつた。

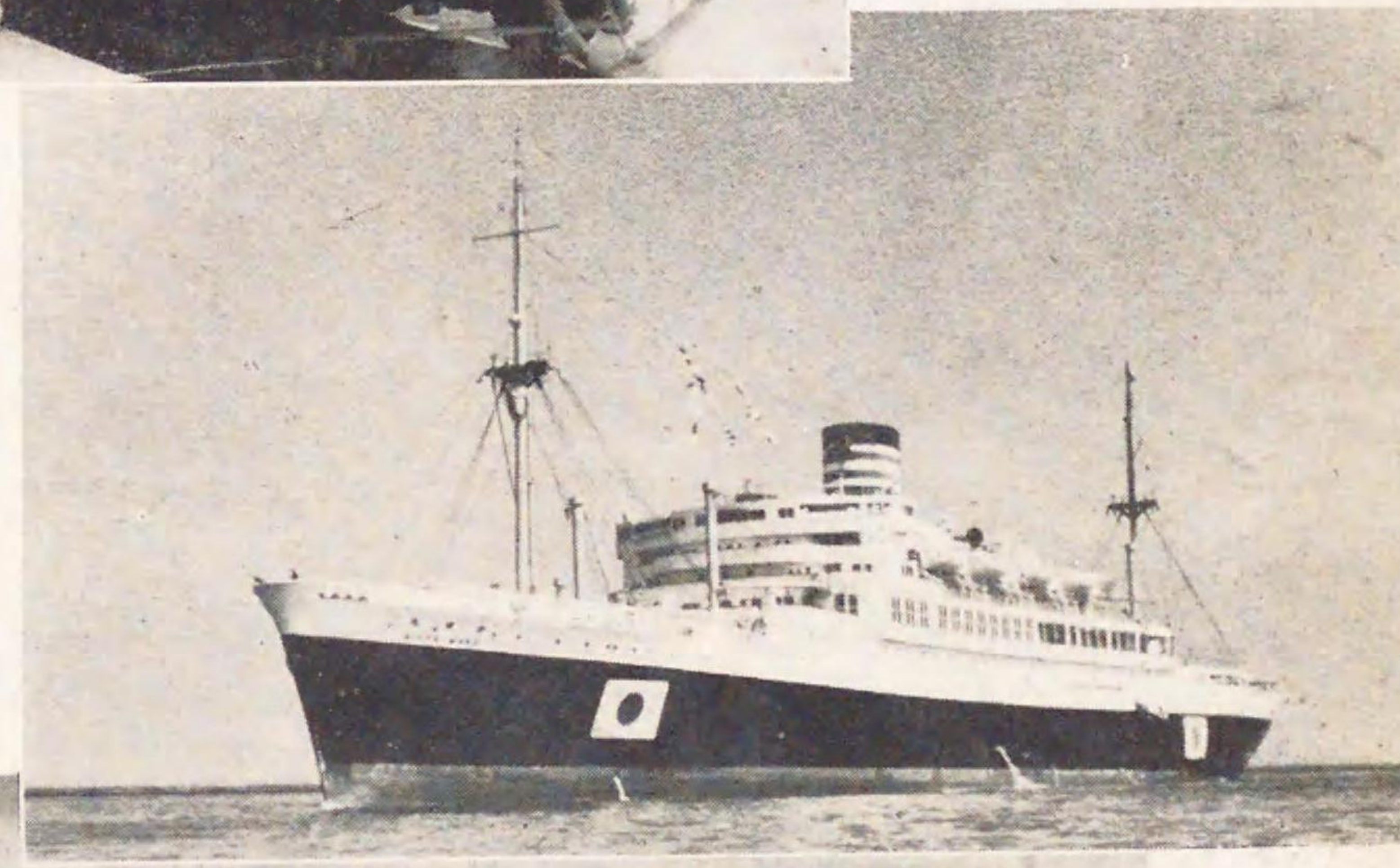
新學制に於ける學校教育は初等教育、中等教育及高等教育の三段階並に師道教育及職業教育の二部門よりなり、初等教育に於ては國民としての基礎教育又は實務教育を施し、中等教育に於ては實業又は實務を基調とする國民普通教育を實施し、以て國民の中堅たるべき者を養成し、高等教育は其教育目標を國家に須要なる高等の學術に關する理論及實際を修得せしめ、國家樞要の人材養成に置いてゐる。而して之等學校體系の全段階を通じての修業年限は十三年又は十四年とせられ、最初の就學年齡を滿七歳とすれば其終期たる大學卒業當時の年齡は滿二十歳又は二十一歳となつてゐる。

其教育方針とする處は、建國精神及回鑾

乗物



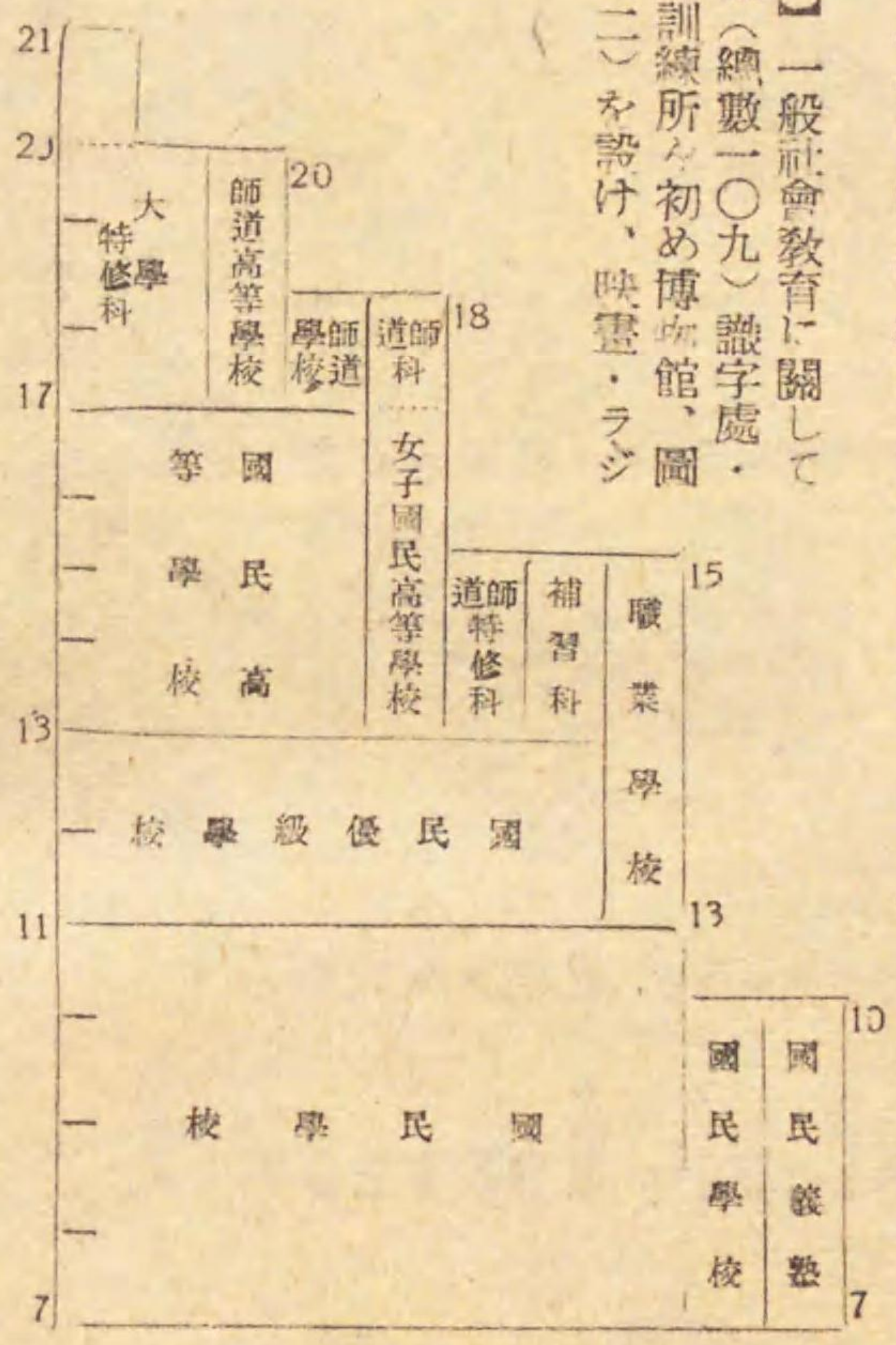






訓民詔書の趣旨に基き、日滿一德一心不可分の關係及民族協和の精神を體認せしめ東方道德特に忠孝の大義を明かにして旺盛なる國民精神を涵養し、王道樂土建設の聖業を完遂すべき忠良なる國民を養成するにある。

【社會教育】一般社會教育に關しては民衆教育館（總數一〇九）識字處・講演所・青年訓練所を初め博物館、圖書館（總數七二）を設け、映畫・ラジオ等に依る教育、修養團體結成の助成等、國情民情に即した諸施設を計畫漸次實行せしめ、今後改善又は施設の増加擴大により民衆教化を一層徹底せしむべく努めてゐる。



學校體系表
（數字は年齢）

學校統計（康德七年六月現在）

學校種別	學校數	教師數	學生數
初等學校	一五、八八七	三七、六三九	一、五七九、一六九
中等學校	一、二五四	二、九〇四	六〇、三六八
大學（官立）	一四	五九六	四、三七八
計	一六、一五五	四一、一三九	一、六四三、九一五

師道教育機關（康德七年六月現在）

師道學校	一六	四三五	六、〇六七
師道高等學校	二	五九	三六八
臨時初等教育教師養成所	一五	三六	五四八
臨時農業教師養成所	一	一一	四二
師道訓練所	一九	八九	一、五八〇
計	五三	六三〇	八、八〇四

職業學校概況（康德七年七月現在）

農科	四三	二八五	四、三六三
工科	五	五〇	七九八
商科	一〇	一一六	一、八〇九
女子職業校	三〇	二五一	三、〇六五
計	八七	七〇二	九、九三五

留日學生（康德七年八月現在）

	專門學校以上	中等校	計
男子	九三三	一四〇	一、〇七三
女子	一二二	三九	一六一
計	一、〇五五	一七九	一、二三四

【特殊機關】教育並に學術に關する特別なる機關として國務總理大臣に直屬する大陸科學院・建國大學・大同學院等がある。

大陸科學院 資源の開發利用及產業各部門の急速な伸張確立を圖り、その科學的研究の統制を期する綜合的科學研究機關で十三の研究室四試驗室一分院に別れ、外に馬疫研究所・獸疫研究所・地質研究所・衞生技術廠がある。建國大學は建國精神を體得し學問の蘊奥を極め身を以て實踐し道義世界建設の先覺的指導者を養成する滿洲國唯一の最高學府で前後期各三年を修了年限とし總長は國務總理大臣の兼任する所である。大同學院は官吏たらんとする者又は現職官吏を入學せしめ共通の建國理想と指導精神の下に陶冶訓練し實務處理能力と着實性を涵養し國士的官吏を養成するものである。

【日本側の教育】治外法權撤廢後の日本人教育施設並に教育行政は駐滿全權大使館教務部に於て管掌、關東州內では關東州廳が經營し滿洲國內にあつては各省別に學

校組合を設け半島人教育のために普通學校組合、中等學校は學校組合聯合會が夫々經營に當り、昭和十六年四月より日本の學制改革の歩調を一にし在滿國民學校制を施行した。現在如何なる僻地にも在滿國民學校（二百數十校）が設けられ中學校十三、高等女學校十九、實業學校九、其他專門學校、大學等設置され、最近邦人の増加に伴ひ在滿子弟の教育に遺憾なきを期してゐる。

宗教

滿洲に於ける宗教は支那固有のものと日本其他の外國より扶植せられたものとに二大別することが出來る。在來宗教は甚だ複雜多岐を極め、佛教・道教・儒教・回々教・喇嘛教等があり、何れも幾百年の歷史を有し民族的にも社會的にも政治的にも教育的にも頗る密接な關係を持つてゐた。これに近來日本人の信仰を主とし歐米諸國より傳來せる基督教並に最近勃興しつゝある新宗教などが入り込み益々複雜多岐となつた。このうち回教及び基督教を除いては何れも雜然として宗教的系統を缺き儒・佛・道の祭神も亦互に混合し同一人が佛教徒と道教徒とを掛け持ちしてゐることは珍しくない。

依つて政府は國內宗教の統制を計るべく根本的調査を行ふと共に、各宗教別の諸會議を開くなど種々努力してゐる。

日本人の宗教は內地と同じく神佛基督教夫々各地 寺院を建て布教に努めてゐるが治外法權撤廢後は滿洲國の監督に移された

【滿洲人側の宗教】 回教及基督教を除いては派別雜多にして僧侶・道士等は知識不充分で積極的救世及救人の如きは思ひ及ぶ處でなかつたゝめに民衆の信仰は殆ど習慣と迷信とに左右せられ邪教滔々として國を覆ふ有樣であつた。よつて政府は建國後國民信仰自由の保障をなすと共に正しき宗教進展を助成し、一面極力邪教を防ぎ淫祠邪祠を禁止する等之が改善を計つてゐる。

〔儒　教〕 建國の精神が王道であり、孔子の唱道樹立した儒教に由つてゐる關係から孔教を以って國教と爲し、九月五日の孔子祭には全國各地に亙つて莊嚴な儀式が行はれる。現在地方にある文廟（孔子廟）は八十九個所に達して居る。

〔佛　教〕 眞言・天臺・臨濟・曹洞・淨土・毘盧等を主とし三十餘派あり、禪宗系統の信者が多く、佛教の旺んなのは吉林・伊通地方でチチハル・阿什河・琿春地方等之に次ぐ。

〔道　教〕 娘々廟會は本教年中行事の一つであり道教に屬する廟は一般に「觀」又は「宮」と稱ばれ僧侶に當るものを男子は「道士」「羽士」「羽客」といひ、女子は「女冠」と云ふが、道士の多くは無智で積極的に民衆を教化する力がない。

〔回　教〕 寺院を清眞寺と稱し、唯一神を信仰し偶像は一切崇拜しない。寺院では大抵守校を附設して教徒の子弟を教育する。他信徒とは絕對に婚姻せず清潔を尊び禮拜には必ず入浴し、豚肉を食はず牛羊肉を常食とする。

〔喇嘛教〕 西藏在來のボンポ教と佛教との調和せるもので密教系に屬する。寺廟の大いなるものにあつては活佛以下千名以上の僧侶を擁し、蒙古人は凡てこの信者であると稱しても過言でない。近來日本眞言宗・眞宗各派へ留學生を送り新興醒醒運動が叫ばれてゐる。

〔基督教〕 現在十五派五萬餘人の信徒を有し、宣教師は布教の旁ら地方民に醫療を施し農業を教へ小學校を設けて一般民衆を教化してゐるが、從來宣教師は英米系の占むる所であつたが、國際狀勢の變化と共に之等は悉く退去し日本化せる基督教がその位置に換るのも近き將來であらう。

〔舊　教〕 天主教と希臘教があり前者は羅馬教皇廳より神父を特派し各教區に一名の司教を置き十五萬の教徒と五百人の宣教師がゐる。後者はハルビンを中心とする白系露人間に信仰せられてゐる。

〔薩滿教〕 この教の特徴は一種の自然崇拜で神と人とは絕對に別で、巫が其間に立つて仲介するとせられてゐる。滿洲族固有の宗教であつて、この民族が已に母語を忘れる迄に漢民族化してしまつた今日では滿洲固有の精神文化を表現するものは薩滿教のみとなつた。

〔道教と紅卍字會〕 道院の起源は民國九年山東省濱縣に於て洪解空、劉福錄の兩名が老祖（道院の祖神）の神憑に基く暗示により「太乙北極眞經」と名づける經典を結集し、道場を設け縣名によつて之を濱壇と稱したのに始まる。世界紅卍字會は道院の分院とも云ふべきもので民國十一年成立し兩者異體同心であり、近年新宗教運動として滿洲國人間に隱然たる勢力を有する。

〔猶太教〕 哈爾濱に教堂一を有するのみで、舊北鐵沿線其他各地の露西亞人の一部に信仰されてゐる。

全國教派表（康德七年十月現在）

教別	寺廟教會堂數	布教者數	信徒數
佛教	二、〇一九	四、二四七	一、七七〇、六九三
喇嘛教	五七〇	三、三五七	—
道教	一、七七九	二、八二三	三七七、三三七
回教	二〇九	五〇一	一三二、六三六
天主教	六六七	八七〇	一五三、八四四
基督教	六七五	一、〇三五	五一、三九三
計	五、九二九	三一、九二九	二、四八五、九二〇

文化

【概說】 王道樂土建設、而も滿洲國の如き複合民族國家に於ては、文化の持つ役割は偉大なるものがあり、政府に於ては夙にこの點に意を用ひ殊に弘報部門にあつては弘報協會、映畫協會等の國策機關を設置しその健全なる運營と發達を助成して來た。

一方文藝方面に於ては從來産業經濟交通等の諸部門の發展に比し跛行的傾向にあつたのを是正するため康德八年三日藝文指導要項を確立し民族文化の發達を助長せんとして居る。

このため從來各行政部に亙つて居た檢閱監督、指導等の文化行政は康德八年一月凡て國務院弘報處の下に統一され强力なる統制、指導を圖る事になつた。

【言論機關】 滿洲國の新聞事業は完全なる統制下に國策遂行の機關として活躍して居る。

建國前に於ける諸種言論機關亂立の弊をさけるため政府は、この統制に當らしむるため政府・滿鐵・電々共同出資の下に滿洲弘報協會を創立し全滿新聞の出資會社とし、言論機關統制に劃期的効果を擧げたが、康德七年十二月政府の弘報統制強化により直接弘報處がその任に當る事となり同協會は解散し、新聞通信社の連絡機關として八年一月滿洲新聞協會が設立された。

滿洲國言論統制に於て、特筆すべきは康德八年八月二十五日施行された「滿洲國通信社法」「新聞社法」「新聞記者法」で之により政府は通信、新聞事業を名實共に國策機關として特殊法人化すると共に新聞記者の國家的使命を明かにしその資格及び政府の監督方法を定め同時に記者の公的位置を認め以つて國策滲透文化向上に協力せしめる事となつた。

滿洲新聞協會加盟社（康德八年四月現在）

（括弧內使用語及附帶發行紙名）

▼新京▲滿洲國通信（日・滿・英・露文）、滿洲新聞（日文、大同報（滿文 實話報）、マンチュリア・デーリー・ニュース（英文）、滿鮮日報（鮮文）、青旗報（蒙文）▼奉天▲滿洲日日新聞（日文、同こども新聞大連日日新聞＝發行地大連）、奉天毎日新聞（日文）、盛京時報（滿文 小時報）▼哈爾濱▲哈爾濱日日新聞（日文）ハルビンスコエ・ウレミヤ（露文）大北新報（滿文、午報）濱江日報（滿文）▼齊々哈爾▼黑龍江民報（滿文、齊々哈爾新聞日文）▼牡丹江▲東滿日日新聞（日文 東滿報＝滿文）▼佳木斯▲三江報（滿文、三江日日新聞＝日文）▼延吉▲東滿新聞（日文、東滿時報＝滿文）▲吉林▲吉林新聞（日滿文）▼撫順▲撫順新報（日文、撫順民報＝滿文）▼安東▲安東新聞（日文、安東時報＝滿文）▼錦州▲錦州新報（日文、遼西晨報＝滿文）▼承德▲熱河新報（日滿文）▼遼陽▲遼安毎日新聞（日文、遼海公報＝滿文）▼鞍山▲鞍山日日新聞（日文）▼營口▲營口新報（日滿文）▼大連▲奉東日報（滿文、東亞報）大連日日新聞（發行社滿洲日日新聞社）

【放送】 放送事業は大正十四年關東通信局のＪＱＡＫに始まるが、建國後昭和八年放送事業は全部滿洲電信電話會社に當らす事となり、大連・奉天・新京・哈爾濱の既設局を同社の經營下に移すと共に、昭和九年新京の一〇〇キロに化をはじめに逐年急速なる擴充に努めた結果局數十八、聽取者四一萬を突破し八年末には五〇萬突破の見込である。

民族別加入者數（康德八年七月末）

日本人一八五、〇六二　滿洲人二二三、九七五

其他四、二〇四　合計四一三、二四一名

放送延時間數

（イ）國內向　日語三、七三八時、滿語二八七二時、鮮語九時、露語八二時、蒙古語四〇時、英語二七時

（ロ）對外國向　英語七六二時、支那語一五四時、日語九〇時、露語三三〇時、蒙古語六一時

主なる文化機關

滿洲映畫協會　康德四年八月映畫統制機關として設立された特殊會社で、映畫の製作・輸出入・配給を一元的に統制し國民教育の普及徹底・文化促進・思想宣傳工作の上に重要な役割をつとめて居る。

滿洲事情案內所　昭和八年關東軍・滿洲國・日本大使館・滿鐵の後援により設立された滿洲經濟事情案內所の後身にして、康德六年十二月政府出資の準特殊會社となり、滿洲事情の調査紹介・資料蒐集等に當つて居る。

滿日文化協會　東方文化振興を目的として大同二年時の國務總理鄭孝胥氏等により結成された團體で滿洲古文化の調査發表等擧げた功績は大きい。

滿洲文話會　滿洲國に於ける文化一般の普及發達を圖る團體にして文藝・美術・演劇・映畫・音樂の五部門を有し全滿各地に支部を有つて居る。

滿洲書籍配給會社　滿洲國內に於ける圖書の輸出入及び配給を一元的に統制する會社で、同社の業務開始（康德六年）により全滿定價賣の實施等文化普及に盡して居る。

産業

三大基本國策

【産業開發五箇年計畫】 之は大同二年（昭八）三月に發表された「滿洲國經濟建設要綱」に則り重要産業の自給自足を眼目とするものである。滿洲國の經濟建設工作の根幹を爲す右建設要綱の要點は、

一、資源開發の一部階級に壟斷される弊を除き萬民共樂ならしむ。
二、經濟部門の綜合的發達を圖る爲重要産業部門に國家的統制を加へる。
三、門戸開放、機會均等の精神で廣く世界に資本を求め、諸國の技術經驗を適切有效に利用す。
四、東西經濟の融合合理化を目標とし善隣日本との協調に重點を置く。

尚統制さるべき企業と自由企業の範圍限界に就き同年六月「國防上重要なる産業、公益的事業及一般産業の基礎たる産業には特別の措置を講ずるが其の他普通企業に就ては事業の性質に依り或程度統制を加ふべきも、大體廣く民間の進出經營を歡迎する。」

と謂ふ補足聲明が爲された。

産業開發五箇年計畫は康德四年（昭和十二年）着手され支那事變進行途上に於ける日滿一體の生産擴充方針に則り劃期的成果を收め康德八年（昭和十六年）を以つて第一次を終り引き續き康德九年度より

一、日滿支を打つてする丸一と綜合的經濟建設計畫の上に立脚して滿洲國の責任分野の完遂を期する
二、第一次五ケ年計畫の經驗を重視しその批判を基礎として計畫が進行されること

の根本原則により第二次五箇年計畫が開始せられる。

滿洲國産業開發資金導入其の他事業の運營に偉大な役割を演ずるものは創業三十有餘年の歷史を有する日本國法人の南滿洲鐵道株式會社（資本金十四億圓）と康德四年（昭和十二年）に設立を見た滿洲國法人の滿洲重工業開發會社（資本金四億五千萬圓）である。

斯くして滿洲國政府の分身とも謂ふべき特殊會社及び準特殊會社は康德七年末現在に於て六十九社公稱資本金四十三億一千六百萬圓、拂込資本三十二億九千六百萬圓に達し産業開發に邁進しつゝある。

【北邊振興計畫】 康德六年五月北邊地方の積極的開發に依る國防の完璧化と文化の確立を目的とする本計畫が樹立せられ、産業開發五ケ年計畫及び開拓政策を加へて滿洲三大國策たることを公にすると共にその遂行に一層の拍車を加ふることゝなつた。

政府はこの大事業を民間と協力敢行するため向ふ三ケ年間に二億圓の資金調達方法として北邊振興特別會計を設定した。又民間出資豫定額は滿鐵六億圓其他二億圓計八億圓で總額十億圓に達する尨大なものであり、之に依つて交通々信事業・電氣給水事業・開拓計畫・諸産業開發計畫を遂行せんとするものであり、目下産業開發五ケ年計畫と相俟つて北邊七省に於ける産業開發と國防充實を期しつゝある。

實施主要內容は次の通りである。

（一）交通通信事業—滿鐵は六億圓を投じて鐵道建設に當り、これに伴ふ自動車道路約七千粁の新設、五千八百粁の道路改修も企圖され、其他通信放送設備の擴充を期す。
（二）電氣給水事業—發電所新設、經費一億圓、水道施設九百萬圓、其他都邑計畫等も實施。
（三）開拓事業—農地造成目標二十三萬陌、土地改良費二千三百萬圓。
（四）產業開發—農畜產物の徹底的增產と中小工業の積極的發達を計る。

【開拓政策】 康德三年八月日滿兩國政府は、翌四年より向ふ二十ケ年間に百萬戶の日本內地人農業開拓民の大移住計畫を樹立した。本計畫は實施の便宜上之を四期に分ち、五ケ年を第一期とし第一期十萬戶・第二期二十萬戶・第三期三十萬戶・第四期四十萬戶計百萬戶とし、之を甲種集團開拓民と乙種集合開拓民とに分つて輔導する。

然るに玆に特筆すべきは四年七月開拓史上空前の青少年義勇隊計畫が樹立決定されたことで、第一期五ケ年間に約三十萬人の日本青少年拓士の送出を目論見られ、之と囊の成人開拓民とを合すれば、恐らく二十ケ年を俟たずして百萬戶移住を完了し得るものと期待される。

以上全開拓政策遂行上に要する總經費は六、七十億圓の巨額に上る見込であるが、斯の如き劃期的大移住計畫が樹てられた根本的意圖は、優秀なる日本農民をして勤勞生活を以つて四隣に範を示し、原住民と融和し滿洲國の中核となさしめ、以て子々孫々相繼いで民族和合、日滿不可分の實を擧げしめんとするにある。

（大東港建設） 同地方は昭和十一年滿鐵が調査を行つた結果、良質の鐵鑛、石炭及び礬土頁岩等の輕金屬鑛石が無盡藏に包藏されてゐる事を發見したので、鴨綠江の水力開發と相俟つて是等背後地域の主要資源を開發すべく安東市の西南方三十粁、鴨綠江に放出する小河川趙氏溝の上流約十二粁の江岸線に沿ふ地域に大東港並に重要工業地帶を新設することになり、康德六年六月一日附を以て大東港建設局官制公布と同時に滿洲國並に滿鐵よりの出資の下に總額約二億圓を以つて八箇年繼續事業として着工され、康德十三年度（昭和二十一年）完成の曉は滿洲國に於ける最大の吞吐港として出現するのである。

計畫概要は次の如くである。

事業計畫區域	約 一七五平方粁
計畫人口	約 一〇〇萬人
給水能力	每日 三〇萬瓲
鐵道	約 四五粁
航路及築港	—

＝農業＝

滿洲國の總面積は約百三十萬平方粁このうち三割餘が可耕地であり、國內住民の七割までが農民で、鐵道貨物もその大半が農產物或はその加工品で占められてゐる狀態である。また貿易の點から見ても輸出總額の約七割は滿洲特產物たる大豆・豆粕・豆油其他特用作物によつて占められ、而して大豆・粟・高粱は特產三品と稱せられ世界產額の六割を占め殊に大豆の輸出は滿洲國の國際收支上受取勘定の主軸をなすものである。

斯くの如く滿洲に於ける農業は國民經濟上最重要の位置を占めて居り最近に於ける重工業部門の躍進と相俟つて農業開發の諸政策が政府によつて積極的に遂行されて居る所以である

【發達過程】 土着の滿洲人及び蒙古人は耕種農業に對する技能を缺き、戰鬪と遊收が彼等の職業であつたが、淸朝の封禁破れて以來關內から農業者たる漢人が殺到して來つて始めて滿洲の耕地が拓かれた。爾後この移住漢人により滿洲は開墾され、漢人は東部內蒙古にまでも喰ひ込むに到つた。一方東部國境地方は朝鮮民族發祥の地であるため鮮人により開拓された地方多く、鴨綠江の上流及び安奉線、連京線各縣に於ける水田の耕作は皆之等移住鮮人の手によつてなされたものであるが、最近は日滿經濟

ブロックの躍進に伴ふ日本開拓民の進出は滿拓會社の新設となり、百萬戶五百萬人移住計畫の進行に伴ひ、東北滿を中心に日本人による耕地がどしどし開拓されつゝある。

滿洲の農法を一括視することは到底不可能で、その形態は遊牧時代と變りない原始的生產方法のものから進步した多角的輪作有畜農業迄の各段階に分れ、實に大器具機械の使用による大農經營方法迄多種多樣である。

各國耕地面積比較表（單位千方粁）

	耕地面積	對總面積 %	一人當耕地 陌
日本內地	六〇・〇	一五・六	〇・[illegible]
英國	五八・八	二四・五	[illegible]・七〇
佛國	二一三・九	三八・八	[illegible]・七〇
獨逸	一四〇・〇	四一・三	[illegible]・一〇
伊太利	一二七・五	四一・一	一・五〇
米國	一、四七三・四	一七・八	一四・八〇
カナダ	二五一・二	二・六	一九・六〇
ソ聯邦	二、二三九・三	一一・〇	五・一〇

農產物作付面積及收穫高（康德六年度）

	作付面積（陌）	收穫高（瓲）
大豆	四、一五六、五五七	四、九五五、九七八
其他豆類	五三一、五五四	四四四、五三九
高粱	四、九三八、六七〇	四、六一八、七〇一
粟	四、六九〇、一九六	三、五三六、四九一
玉蜀黍	二、〇〇八、八二五	二、四六三、六七四
小麥	一、一三八、一〇八	九四九、〇二一
水稻	二六五、四三八	六九五、五八五
陸稻	一〇三、七五一	九五、三九七
其他穀類	一、七〇四、九〇三	一、二三四、一〇七
小麻子	七九、一一三	五一、五二〇
蘇子	二三八、九八四	六五、四〇三
合計	一七、八八八、〇五七	一八、〇五九、四九五

省別收穫高（康德七年八月豫想高）

省別	作付面積（陌）	收穫高（瓲）
新京特別市	一六、〇三九	三〇、一四三
吉林省	一、二二七、七八一	二、八六九、五三四
龍江省	一、七七五、四三三	一、七三三、三〇一
北安省	一、七八五、四三一	二、二九七、八一八
黑河省	三九、四五一	三三、六五四
三江省	六四七、六〇六	八〇〇、六〇〇
東安省	一五九、六一九	二三八、〇四四
牡丹江省	一四五、三九六	一九〇、三八一
濱江省	二、四四一、九三四	二、三八九、六一六
間島省	二四九、九八八	三〇八、八三五
通化省	二五六、六三三	二四三、三六〇
安東省	四三六、八一六	六七五、三〇七
奉天省	二、六四七、〇〇九	四、七四四、〇五四
錦州省	一、三六二、〇八四	一、四三九、六九八
熱河省	一、四四五、一八一	一、一〇六、三八三
興安西省	四九九、三九八	四一七、三二〇
興安南省	六四四、一七五	六〇五、三六四
興安東省	一四六、八三三	一六〇、九四五
興安北省	一六、七九四	一三、五八〇
計	一八、〇三七、三八一	二一、二六六、一七三

（作物及分布） 滿洲に於ける栽培作物の種類は四十餘種あり、分布狀態は自然的制約に從つて明確な地理的區劃をなしてゐる。いま主要農作物種類及びその分布狀態を示せば次の如し

豆類　吉林、濱江、龍江、三江、奉天、安東の各省
高粱　奉天、吉林兩省を中心として產す
粟　熱河省を除き各省農耕地の殆ど全部に亘る
玉蜀黍　濱江、奉天、安東の農耕地
小麥　濱江、三江、龍江を中心に北滿小麥地帶をなす
棉花　遼中、海城、洮南を中心とする地帶
果樹　奉天以南鐵道沿線及び關東州
水稻　間島省を中心とし、牡丹江、松花江沿岸及び安奉線、渾河、遼河沿岸地方
其他大麥、燕麥、黍、稗、蕎麥、麻類、荏（蘇子）、陸稻等も（北滿を主として）栽培せられてゐる。

耕地

滿洲は平原山地が殆ど相半し、平原には遼河、松花江の二大河が貫流しその本支流流域は開墾已に久しく、松花江流域は遼河流域に比較し面積遙かに大であるが、既耕地尠く農產額も前者の程でない。然し近年山東方面よりの移住民によつて松花江流域を主體とする北滿の開拓は目覺しいものがあつた。

滿洲國の總面積は大約九一、四九九千陌でこのうち可耕地は大約三一、六九八千陌この中既耕地面積は一、三九四千陌で總面積に對する割合は十五%、可耕地面積に對しては四四%であり未耕地は可耕地面積の

五六%が殘されてゐる。（康德六年統計）

滿洲國政府及び滿拓滿鐵等ではこの未墾地の開拓に力を注ぐと同時に、日本開拓民政策の實現のために可耕適地の再調査並に濕地干拓事業確立の調査計畫に努力し、また治安恢復に伴ふ荒廢地の再耕化をも圖つて極力可耕地の增加を計つてゐる。

土壤

旣耕地の大部分は第四紀古層又は新層に屬し、冲積層と洪積層の壤土及び埴土が多くを占め砂土・礫土の分布は多くない。

土壤の理學的性質は一般にその分子が極めて纖細であつて、凝集力・附着力が强く重粘であつて孔竅（コウケウ）容量が少く隨つて空氣・雨水の透通は不充分であるが水分及び養分の吸收力は大きい。農家では土壤の色によつて紅色土・黃色土・黑色土・藍色土・白糖土等命名してゐるが、この分類から云へば南滿洲に紅色土・黃色土が多く、北滿洲に黑色土・藍色土が多い。

更に化學的性質としては

（一）土壤の反應は微鹽基性であつて殆ど酸性土壤といふのはない。

（二）可溶鹽類は概して多く春季乾燥期に於てはアルカリ斑各地に出現する。

併し純然たるアルカリ土壤は營口・白旗方面、滿洲線沿線、東部內蒙古に多く營口・白旗方面は鹽化物、湯崗子地方は硫酸鹽、內蒙古は炭酸鹽及び鹽化物より成つてゐる。

（三）有機物及び窒素含有量は槪して少い。

（四）鹽酸に不溶解の鑛物質含量が多い。

（五）石灰含量は多くないが苦土、曹達含量は多い。

（六）燐酸及び加里の含有量は豐富である。

右に依れば滿洲の土壤は理學的には良くはないが化學的には豐饒であると云へる。

滿洲土壤の缺點は有機物質及び窒素含量の少い點と、アルカリ鹽類の多いことにあるが、幸ひにして冬季寒冷なる氣候は凍結によつて土壤の風化を促進し空氣中の窒素吸集を行つてゐる。併しながら滿洲人在來の農業は多くは施肥を控目にし、作物の輪作等によつて僅かに地力の消耗を防いで居るが此の方法では到底永遠の好績は期待されない。

農業經營

滿洲人の農業經營には大體自作・小作・分益・協同・請負農の五別がある。

自作農を本地（ペンテイ）、自已兒地（ツーコルテイ）、自已兒種（ツーコルチユンツ）等と稱してゐる大農は七八十町步以上、中農は四五十町步、小農は二十町步內外、過少農は五六町步を耕作してゐる。而して北滿地方では七八十町步から百町步を耕作する者も少くないが、關東州內では二三十町步を超こる者は稀である。

小作農を租地（ツーテイ）或は租借（ツーチエ）と云ふ。小作人を租戶（ツーホ）、地主を地東（テイトソ）と稱ふ。小作人は主として過少自作農である。種類に永租（イーツー）（永小作）と租（ツー）、又は佃（テソ）（普通小作）の二種に分れ、小作料は一半或は三分の一で、金納は少く穀納（物納）が多い。分益農を分晴（フエンチン）、辦晴（パンチン）、分種（フエンチユン）、種分收（チユンフエンショウ）前と云ひ、家屋・農具・種子・肥料・日用品・衣服・食糧等一切を地主持とし、收穫後前記消費々用を含めて地主六七分、小作人三四分の比率を以て決濟するのを辦理晴（パンリチン）、辦內晴（パンネイチン）と云ひ、家屋だけを地主持とし、地主四五分、小作人五六分の割合に分配する辦外晴（パンワイチン）との二種類がある。

共同農を搿具（ツオチユイ）と稱し、小農・過少農等の間に行はれる方法であつて、役畜、農具等各々持寄つて順次耕作、收穫に當るのである。請負農を牛具（ニユウチユイ）と云ふ。畜類又は勞力を以て賃銀を得、耕作、中耕作を請負ふ方法である。

農法

農法は輪作・連作・掠奪・休閑の四法に分れる。輪作農法は一般的に行はれ高粱・大豆・玉蜀黍のうち一種又は二種を主作物とし粟・小麥等の作物と交互に三年又は四年の輪作を行ふのであるが、更に糜子（ミーツ）、陸稻、稗其他の作物を加ふる場合は四年、五年又は六年、七年の輪作とする。

連作法は南滿地方の土地狹く又は低窪地で濕潤な場合か鹽分の多い土地等で、特別の作物以外栽培されず、又掠奪農法の場合等に行はれる。

掠奪農法は最も原始的農法で主として未墾地の多い蒙古地方に行はれ、草原中の肥沃地を求めて糜子（ミーツ）を連作し、地方の消耗するに至れば他の新しい土地へ移るのである。

休閑農法は土地に餘裕のある蒙古地方に滿洲人の行ふ農法で熱河省地方にも行はれてゐる。普通全地の三分の一を殘すか、又は三分の一を耕すかであるが規則正しいのと不規則なのとがある。

耕耘は凡て牛・馬・騾等に犂を曳かせて行ふので耕地豁地耥地等と稱し耕地、豁地は全面を平坦にするだけで畦をたてない。集約的な方法で前年の休閑地か、蔬菜地等に行ふ耥地と云ふのは、畦と溝とを耕鋤しながら作畦する方法である。

耕鋤期は四、五月頃で普通播種前一回又は二回之を行ふ。肥料は主として土糞を用ひる。即ち牛・馬・豚・狗・鷄糞又は人糞と肥土を混じたものである。其他穀類の絞り粕・豚血・池・沼・溝の底土等を用ひる。

播種法は條播を普通とし點播之に次ぎ撒播は特殊法である。條播とは點葫蘆（テンフールー）を用ひ粟・稗・高粱・糜子（チンヅ）等の小粒種子を器に入れて播く法と手を使つて大豆を播き付くるのと、摔種（シユアイチユ）と云つて前方に投下しながら後退して播く方法がある。播種後は磙子（コンズ）を役畜に曳かせ必ず圃上を鎭壓する。畦幅は一尺六七寸から一尺八九寸を普通とし、丈高いものと低いものとを交作する。

【興農合作社】 產業開發五箇年計畫の具體化の完璧を期するため國家施設の下に農村の組織が要求され、政府では康德四年夏農事合作社法を制定、更に產業部令をも制定して之が實施に移つた。合作社制度の根幹となるべき縣合作社は農業の開發を促進し、農業者の福利增進を計ると共に生產品の配給を圓滑ならしめるを目的とし原則として縣の區域によつて設立され縣內農業者を以つて構成し而も之が設立に從ひ漸次從來の縣農會は解散し棉花・煙草その他の既設組合も次第に合作社の機構に統合せしむる樣改組された。

而して康德七年四月一日を期し農事合作社は金融合作社と統合し、單一組織たる興農合作社となり各地方行政機關、協和會等の積極的な協力に依つて新なる協同組合運動への發足を遂げるに至つた。本合作社の指導方針は從來の實績に鑑み監督指導は之を區分し、監督は政府（地方廳を含む）、業務指導は合作社中央會に、思想的指導は協和會が行ふことになつてゐる。

關東州の農業

關東州內の農業は滿洲全地方と等しく主として滿洲人の經營であつて、若干の日本果樹園がある。主要農產物は玉蜀黍・高粱・粟・黍・稈・大麥・小麥・大豆その他豆類水稻・陸稻・陸地棉等である。蔬菜は都市附近に於て營業的に栽培されるものとして蘿蔔・葱・茄子・白菜・甘藷・胡瓜其他がある。

管內の風土は落葉果樹に快適であつて、果實は品質優良のため盛んに滿洲・支那各地に輸出される。種類は林檎・梨・桃・葡萄・櫻桃・杏・李・山椒・棗・海棠その他の雜果である。昭和十三年度の農產物作付面積並收穫高は穀菽類二二六、一五五町步、三、一二五、九六五石、蔬菜類一〇、六六八町步、一八六、七一九、七二七斤、特用作物三、〇八二町步、二、三四七、五一九斤であつた。

管內の土地には業主權・典權・租權が認められ夫々わが內地の所有權・不動產質權・賃貸借權と同樣に扱はれてゐる。州內土着民は永代農業を本業としてゐるが滿洲各地の商工業勃興につれ農家子弟の賃銀とりに出稼ぐ者は年々增加する。農家は玉蜀黍を主食物として高粱・粟も用ひてゐ

る。稈は牛馬の飼料又は燃料とし、建築材料や容器を作る。

【蠶業】蠶業は家蠶と野蠶の二種がある。家蠶は明治四十一年頃から養蠶が試られ逐年好成績を示し、日本蠶と支那在來種の交種がこの地方に適し漸次盛になり近年三百石內外の繭を產出してゐる。野蠶は柞蠶・樗蠶・天蠶の三種類があつて、柞蠶は柞樹林によつて飼育するもので近年柞蠶飼育林が造營せられた。樗蠶は山野に自然に生ずるもので繭の利用はまだ行はれず、天蠶は日本からの移入種で適種なることが證據立てられてをり、一般滿洲人間にも家蠶の飼育が盛んになりつゝある。

【果樹】奉天以南の各地に於て行はれてゐるが、熊岳城以南が適地とされ、其三分の二乃至四分の三は關東州に於て生產されてゐる。邦人の增加に伴ひ果實の需要は最近非常な躍進を示し、關東州及舊滿鐵附屬地主要農業の一つとなつてゐる。栽培面積は林檎の五千町步最多とし桃・梨が之に次いでゐるが、林檎は美味の點で世界一と稱される。關東州に於ける果樹一ヶ年間の收量は約七、五五四、〇〇〇締、收入約二百萬圓であるが、四分の三は林檎の收入となつてゐる。

畜產業

【概要】滿洲に於ける畜產は廣大な境域と豐富な家畜飼料の生產を根據として由來家畜と其生產物を利用すること多く、家畜の飼畜に長ずる漢人・蒙古人等によつて營まれてゐる。蒙古人は元來遊牧民で衣食住の生活資料を專ら畜產物に需めることは當然であるが、漢人も亦生活上畜產物を利用すること多く、人口の割合に國內に於ける獸肉・獸乳・獸毛の需要が大である。家畜は以上の用に供される外農耕地一千八百餘萬陌の耕作に要する役畜三百四十萬頭、交通運輸並に軍事上に數十萬頭の役牛馬・軍馬を生產供給しつゝあり、また餘剩家畜並に畜產物を支那・日本其他諸外國に輸出してゐる。

滿洲で飼育せられてゐる家畜家禽は牛・馬・驢・騾・豚・緬羊・山羊・駱駝・犬・鴨・鵞・鷄等でこのうち家畜の飼育頭數は概ね次の通りである。

牛	一、六八三、二五九
緬羊	一、九六五、九九四
山羊	一、二四三、一〇五
豚	五、三二五、七二三
駱駝	一二、七三八
犬	二、二七二、八三七
家禽	八、一三七、七一八

家畜

馬—殆ど蒙古系であつて體軀矮小（體高一二〇—一四〇糎）ではあるが各部の均整は良好と言つて良い。一般に性質溫順、强健で持久力の强いことを特徵とする。種類は北方馬・口外馬・山後馬の三種に分けられる。外蒙古種は內蒙古種に比して稍大型で輕快駿敏、乘馬に適する。毛色は鹿毛、栗毛及び白馬が多く內外蒙古種共一般乘馬としては不適當ではないが騎兵用として優秀なものは尠い。

騾—哈爾濱以南に產し新京を中心として最も多く且良質のものを產する。體軀は蒙古馬より大きく（體高一三〇—一六〇糎）粗食劇役に耐へ得る役畜である。牝馬に大驢（ターリュイ）を配したるを頭排騾子（トゥパイローヅ）と云ひ牝馬に小驢（シャオリュイ）を配したものを二排騾子（アルパイローヅ）と云ふ。

驢（リュイ）—南滿地方を主產地とし特に奉天・安東・熱河・錦州諸地方に良質のものを產する。大驢（ターリュイ）と小驢（シャオリュイ）との二種があつて大驢は體高百二十—百五十糎で山東・河北地方から輸入せられ種牡として騾（ロー）の生產に使用される。一般に使用されるものは小軀であり體高八十八—百糎に過ぎない。

馬と騾の用途は農耕用・輓曳用・馱用に

軍寳がられ騾は馬より粗食で而も馬より力が强い。驢は農家の脫穀用に使役しまた家內工業の動力として用ひる。

豚（猪）—回回教徒以外の支那人の最も賞用する食用獸である。從つて各種家畜中その分布最も廣く飼養頭數も六百萬頭に上つてゐる。農家は副業として肥料と畜產收入を目的として每戶必ず數頭乃至十數頭を飼育して仔豚を生產してゐる。滿洲豚には大型種と稱する二箇年半で三十五貫位になるものと小型種と云ふ一箇年半で十八貫位になるものとその中間の中型種の三種がある。何れも頗る多產で一腹十頭乃至十五頭多きは二十頭を產む。豚の肉、脂肪及び內臟物は副食物として珍重され毛や鬃では刷毛を製し骨は細工用となり血液は防腐劑として用ひ骨の一部と糞尿は肥料となる等廢物は全くない。

牛—各地に分布する牛の種類は主として蒙古牛で東部地方は朝鮮牛、關東州は山東牛の系統を含む。蒙古牛は體軀が一般に矮小で體格は惡いが堅忍、從順で粗飼、粗管に耐へ疾病に對する抵抗力が强いから漢人は力役のために飼養してゐる。蒙古人は搾乳のために飼育して力役は從となしてゐるが一般に肉は單に副產物として利用されるにとゞまつてゐる。

羊—緬羊と山羊の二種がありともに蒙古種である。牧羊は南滿洲では山羊を本位とし蒙古では緬羊を本位とするが、ともに多少の混牧をなしてゐる。飼育の目的は肉の利用を主とするが家畜を以つて主要な生活源泉となしてゐる蒙古人にとつては、羊は食料及び衣服材料を供給する無二の財源である。緬羊の產毛能力及び品質はともに劣等であるが、最近實業部及び日滿緬羊協會の指導によつて緬羊改良事業が漸く緒についた。

駱駝—蒙古に產し交通用途に供されてゐる。體高は五、六尺で前軀に比し後軀の發育がわるく頭は小さく胸は幅狹く、耳が小さく、四肢は長く毛色は褐色なのが普通である。馱載能力は六十貫內外、一日に二三十哩を行くことが出來る。

犬—農家は番犬として必ず一、二頭の犬を飼育し蒙古人も數頭の獰猛な番犬を飼つてゐる。支那犬、蒙古犬の二種あるが支那犬は滿蒙の犬の九割を占め體軀魁偉（體高二尺、體重三十貫を超えるものもある）性獰猛で專ら番犬として飼はれてゐる。蒙古犬は體軀細長く顏面も細く尖り口角深く切れ眼は小さく耳は直立して慓悍獰猛の相を備へ輕快敏捷で六、七尺を跳躍することが出來る。狩獵に用ひられる外番犬として飼はれてゐる。また皮は滿蒙の犬皮として已に名高いところである。

◇皮革類輸出額（康德五年度）（單位 圓）

皮：牛皮	皮：馬皮、騾皮及驢皮	皮：其他	皮：計	革
一六、六四三	一、一四五、五四三	一八、六〇四	一、一八〇、七九〇	三七、三七〇

◇主要畜產品輸出額（康德五年度）（單位 圓）

毛皮：緬羊皮及山羊皮	毛皮：犬皮及狼皮	毛皮：熊皮及浣熊皮	毛皮：リンスキー皮	皮	革	獸毛
一、一五一、〇〇六	四九七、六四四	一五三、六九九	二三、九五五、五一六	一、一八〇、七九〇	三七、三七〇	七、六八四、四八七

林業

【概要】往古滿洲の地は通古斯族が「森林の海」と稱した如く鬱蒼たる森林を以て蔽はれ尙清朝發祥の地として乾隆の頃より伐木開墾を禁ぜられてゐたが、其後この地を一般に開放するの已むなきに至つた結果林地は彼等の燒燼を蒙ること大であつた。然し千古の美林は今尙北滿の到る處に存し「森林の海」なる呼稱の面影を留めてゐる。

政府は建國以來國有林の經營合理化、森林資源の保護、植林獎勵及愛林思想喚起につとめ康德三年以降國有林事業特別會計を設け特殊會社滿洲林業株式會社として計畫的開發を行ひ大養苗場を設け更に康德八年滿洲造林株式會社を設立し積極的造林を行はして居る。

○森林の分布―滿洲は五月より九月までの植物生育期間に濕度が極めて高く且つ此の期間に年降水量の大部分が降り、濕度が最も高いことが植物の生育に適してゐる。森林地帶として囑望されてゐる地域は松花江及びその支流・拉林河・圖們江・牡丹江・鴨綠江右岸並にその支流、揮河上流地域、濱北沿線の一部及び大小興安嶺圏內に屬し、呼倫貝爾西南・錦州・熱河を扼する所謂蒙古地域は森林地帶が極めて稀で、廣漠として草原と砂丘連續しところどころに集團的樹林を見るに過ぎない。

○森林面積及び立木蓄積量―全滿森林面積は二千百萬陌、立木蓄積量は約三十四億立方米と推計せられてゐる。

○主要樹種―滿洲の森林は之を森林植物帶上から見れば、溫帶北部に屬するものであるがその主要な部分は寒帶の圏內に屬するものである。樹種は已に知られてゐるものだけでも三百五十餘種に上つて居りそのうち有用樹種として針葉樹八種、闊葉樹二十一種が擧げられてゐる。

◇立木蓄積量

森林蓄積（千立方米）

經營地區名	針葉樹	闊葉樹	計
承峰	一、六七二	三、九八四	五、六五六
卓索	—	—	—
大賚	—	—	—
扎倫	一五五、六一〇	五二、五二五	二〇八、一三五
嫩西	三〇九、九七八	三〇六、七〇六	六一六、六八四
三滿	三三一、一九五	一二七、六五五	四五八、八五〇
呼模	二九三、五三八	三九七、二一二	六九〇、七五〇
黑島	七〇、一四七	一五六、三九二	二二六、五三九
湯龍	一二七、六〇九	三一一、三〇一	四三八、九一〇
勃同	六二、〇八七	一一六、六〇〇	一七八、六八七
賓東	一五〇、六四五	一二一、〇四七	二七一、六九二
吉敦	一七一、〇七七	一二三、八一〇	二九四、八八七
通安	七三、一八八	一〇六、一三六	一七九、三二四
齊藩	—	三一四	三一四
新奉	—	—	—
錦營	—	三、一二五	三、一二五
合計	一、六三六、七三六	一、七二四、六六五	三、三六一、四〇一

【木材生產狀況】建國前數年間は產出量約三百八十餘萬石であつたが建國當時は森林全部を國有とし、これが整備統一を圖る必要に迫られたゝめ甚しく生產の低減を來し二百萬石程度となつた。その後國內の制度整ひ各種事業勃興し木材需要の增進に伴ひその生產も著しく刺戟され、近年は七百五十餘萬石の生產をみるに至つた。

◇累年木材生產高

大同元	二、〇一八、二二〇石
大同二	二、二五三、三一四石
康德元	三、〇二八、四二七石
康德二	三、七四一、〇三八石
康德三	五、一四二、五一七石
康德四	五、六八二、三六二石
康德五	七、五二五、六六七石

◇主要樹種

日本名	滿洲名
針葉樹	
テウセンマツ	果松（裸松、紅松）
テウセンタウヒ	魚鱗松
ダフリカカラマツ	黄花松
タウシラベ	臭松
テウセンモミ	杉松（沙松、柏松）
エゾマツ	魚鱗松
テウセンカラマツ	黄花松
マンシウアカマツ	油松
闊葉樹	
カウライミヅナラ	柞樹
アムールシナノキ	椴樹
オニメグスリ	寧新樹
ヤチダモ	水曲柳
ハルニレ	楡樹
キハダ	黄木（黄波欏）
テウセンヤマナラシ	白楊樹
シラカンバ	樺樹
ヲノオレカンバ	檀樹
カライヌエンジユ	槐樹
モンゴリナラ	柞樹
マンシウシナノキ	椴樹
マンシウカヘデ	白牛
イタヤカヘデ	色樹
オヒヨウニレ	楡樹
マンシウクルミ	楸樹
ドロノキ	青楊樹
テウセンミネバリ	蒼樺樹
オホミノニレ	蒼楡樹
マンシウハシドイ	泡馬子（暴馬子）
ヤマナシ	梨樹

水產業

【漁業】河川は淡水魚に富み其種類數量ともに豐富である。卽ち北は黑龍江本流を境として松花江の支流、南部に遼河がある外、湖沼、濕地等にも豐富な魚類の棲息を見る。此地の淡水漁業の起源は明かでないが、凡そ今より一千年前、滿洲最古の文化國として榮えた渤海國の時代に、鏡泊湖及び其附近に漁業が行はれ、特に鯽は美味を以つて名產と稱せられ、また契丹國の時代には松花江水系において毎年冬期氷面に穴を穿つて大魚をとり、國王は群臣を集めて宴を張り之を頭漁宴と稱したことが傳へられてゐる。斯くの如く滿洲の淡水漁業は相當古くより河湖附近の住民によつて行はれたものと想像されるが、これが經濟的企業となつたのは舊東支鐵道の敷設後呼倫湖水系に於て一九〇四年頃ロシア人によつて行はれたのを始めとする。然しながら現在の北滿地方は未だ人煙稀薄で漁業の如きも極めて原始的な域を出でない。

沿海漁業をみるにその海岸線は僅かに九百粁に過ぎず、その上海底は狹小で且つ淺く氣候寒冷で冬季魚族の棲息に適せず而も沿岸は凍結するところが多く、滿洲の沿海漁業を稍不振の狀態に甘じさせてゐる。

現在の水產額は淡水約七百萬圓海水約三百六十萬圓に過ぎず需要の大部分に輸入に待ち輸入高は約二千二百萬圓に上つて居る。政府は康德六年より增產三箇年計畫により千五百萬圓にまで增加すべく努めて居る。

【鹽業】渤海及び黃海に面する沿岸は干潟地が多いので古來鹽業が著しく發達し殊に滿洲國と關東州の沿岸は降雨量が少いことゝ相俟つて鹽田面積廣く重要なる產業となつてゐる。滿洲國の鹽田はこの兩海岸に散在し、營蓋場・復縣場・莊河場・盤山場・錦縣場・興綏場の六局に分れてゐる。何れも槪して自然的條件に惠まれた好鹽場である。右の中復縣場は滿洲總生產額の五十%近く、營蓋場は三十%內外を產出して雙璧をなしてゐる。鹽場の春期製鹽期は三月より七月まで、秋期は八月より十月まで、七月より八月までの約一箇月は雨期のため休止する。五、六月は生產量最も多くその採鹽量は年產額の約五、六割を占め、この兩月中の天候、採鹽狀態の良否は其年の產鹽成績を左右する。製鹽法が天日製法（晒製法）に依る爲天候の影響を多分に受けるのである。最近の生產高は滿洲國約二十六萬瓲、關東州四十三萬瓲である。

康德三年四月日滿合辦の滿洲鹽業株式會社を設立し新鹽田を開發すると共に、既設鹽田の指導に當つてゐるが、專賣總局に於ては產業五ケ年計畫の一部門として鹽の增

産計畫を樹立し、康德四年以來實施中なるが之が生産目標は康德十二年度に於て百三十萬瓩（内國内需要六十萬瓩、對日輸出七十萬瓩）となつてゐる。

關東州の水産

東は黄海、西は渤海に面して滿支人向魚類の豊富な廣い漁場を有し、出漁獵地の利を占めてゐるので漁業は古くより相當發達してゐた。明治三十九年關東州が日本の租借地となつて以來日本人による漁業と日本人漁業に倣ふ支那人漁業者が激增した。

關東州を根據地とする漁場は北緯三十六度以北の黄海及渤海全部の公海で州内に於ける漁業根據地は大連と旅順を第一とし、その他營城子灣・雙島灣・羊頭灣・小平島・老虎灘・大孤山・廣鹿灣・獐子灣・海洋島等である。漁獲の主なるものは鯛・偏口魚・比目魚・黄花魚・金魚・鯵・ホウバウ・エソ・蝦・海蝦・鱶・鱸子魚・ヒラス・鰲子魚・鯒・鯨等である。漁法も相當に發達し機船による底曳網漁業が在來の支那人式漁業を壓倒してゐる。最近の漁獲高は年一千萬圓を超えてゐる。

鹽業は古來より發達し、渤海及び黄海に面する沿岸は干潟地が多く、降雨量の尠いことと相俟つて鹽田面積廣く、重要なる産業となつてゐる。

製鹽法は天日鹽法で、製鹽費は日本の煎熬法に比して極めて低廉である。最近の生産高は年五十萬瓩にして、尚昭和十二年に關東州鹽百萬瓩の增産計畫を樹立し爾後鹽田の開發に努めてゐる。

◇鹽田別鹽生産高（單位千瓩）

	康德三年	康德四年	康德五年	鹽田面積（町）
營蓋場	一七三・四	一三三・〇	七九・〇	六、二九〇
復縣場	三三七・四	一九三・八	一二三・七	四、三六八
莊河場	三五・九	四三・六	四三・八	二、一七四
盤山場	五・六	五・三	〇・四	七三二
錦縣場	二〇・四	一七・六	九・〇	五四五
興綏場	二〇・二	一六・五	一一・二	六四九
合計	四七二・九	四〇八・八	三六七・一	一四、六七八
關東州	四一三・一	四三三・〇	四三〇・〇	—

◇滿洲國の鹽增産計畫（單位千瓩）

年度	既設鹽田	滿洲鹽業	合計
康五	三三三・三	〇・二	三三三・五
同六	三九二・七	一四・一	四〇六・八
同七	四一六・四	八七・六	五〇四・〇
同八	四四〇・九	二三三・一	六七三・〇
同九	四七六・三	四五一・二	九二七・五
同一〇	四七六・七	六六八・〇	一、一四四・七
同一一	四七六・七	八〇八・九	一、二八五・六
同一二	四七六・七	八四七・一	一、三二三・八

鑛業

（概要）滿洲の鑛産資源は約四十種に及び主なる品目を列擧せば次の通りで之等は法定鑛物として擧げられてゐる。

金・銀・白金・銅・鉛・亞鉛・鐵・アンチモニー・アルミニウム・ニツケル・コバルト・硫化鐵・クローム鐵・マンガン・蒼鉛・重石・水鉛・水銀・砒・燐・硫黄・黒鉛・石炭・石油・土瀝青・油母頁岩・螢石・石灰石・白雲石・マグネサイト・礬石・長石・耐火粘土・重晶石・硝石・石膏・珪石・石綿及雲母

就中鐵・石炭・金は日本の資源が甚だ貧弱なるため一層重要性を有し、滿洲國の鑛業政策も目下右三者の急速なる開發に向けられてゐる。曩に産業開發五箇年計畫を樹立したがその重點は結局鐵・石炭の開發に置かれたものと云ふべく、又日本の正貨現送による金準備漸減の結果滿洲の産金增加が必然的に緊急を要することゝなり鐵・石炭の增産と共に重要性を帶ぶるに至つた。

主要鑛産量中現在判明せる推定埋藏量は次の如くであるが、昭和十四年熱河大甓鑛に約三億瓩の油母頁岩又昭和十五年に阜新に於て油田も發見せられた。

石炭	二五〇億噸	菱苦土礦	五〇億噸
鐵鑛	二七億噸	石灰石	一七億噸
油母頁岩	五九億噸	金鑛	六〇億圓
耐火粘土	二億噸		

【石炭】石炭は三大特産の一つであつて埋藏量の豊富なることゝ、採掘の容易なることで囑望されてゐる。就中滿鐵の經營になる撫順炭鑛の如きは東洋一の大露天掘を有し、産出額の約三分の一は日本に輸出してゐる外、埋藏四〇億瓩を誇る阜新炭礦或ひは鶴立・西安・北票・本溪湖・新邱等が有名である。

採掘は滿鐵並に滿洲炭礦會社が之に當り販賣は康德三年より日滿商事會社委託によつて行はれてゐる。

滿洲の石炭は二疊石炭紀・侏羅紀・第三紀に分れ、二疊石炭紀に屬するものは主として無煙炭で本溪湖・復州・煙臺等、侏羅紀に屬するものは無煙炭又は有煙炭で西安・八道濠・北票・阜新・鶴立等が知られ第三紀に屬するものは褐炭又は瀝青炭で撫順・ジヤライノール等である。

【鐵鑛】鐵鑛埋藏量は二七億瓩以上と見られ康德四年四月より東邊道鐵鑛の大々的調査が進められてゐる。その主なるものは鞍山・弓張嶺一帶、廟兒溝、安奉沿線その他鴨綠江東北部一帶沿岸等南滿を中心に廣く分布し、朝鮮北部にあるものと同様の所謂縞狀鐵鑛と稱へられる赤鐵鑛及び磁鐵鑛である。縞狀鐵鑛は含鐵品位三十四—五%の貧鑛が多く、火成岩との接觸によつて磁鐵鑛となつた廟兒溝富鑛の如く六十%内外のものは稀しい。

貧鑛と富鑛の限界を製鐵技術の上から含鐵率四十%とする時は滿洲に於ては貧鑛は富鑛の百四十倍に上り、鐵鑛資源は貧鑛を主としてゐることが分る。然しながら昭和製鋼所に於て完成した貧鑛處理法は貧鑛の經濟的價値を富鑛のそれに著しく近づけたが一九三五年ドイツで成功したクルップの直接貧鑛處理法はより經濟的であり、而も低度貧鑛にまで利用の途を與ふるに到つたので、俄然滿洲の鐵鑛資源は前途に一大光明を認めらるゝに至り昭和製鋼所は茲に一大飛躍を遂げることゝなつた。

【金鑛】滿洲の採金事業は土法稼行と云はれる原始的生産形態をとつてゐたが、之に加ふるに交通の不便・匪賊の跳梁・科學的施設方法の缺如・經營の小規模且つ拙劣等のために久しきに亙り不振の狀態にあつた。砂金及び山金共全滿に亙つて頗る多く、就中北滿の砂金は各河流域の廣い地域に亙つて豊富な採金場を有し、その他熱河省・間島省・奉天省には山金の鑛産地帶相當廣く分布し、將來開發せられゝば滿洲産金の一半を占むることにならう。

尚山金は主として滿洲鑛山會社により砂金は滿洲採金會社に依つて夫々産出せられてゐる。

〔菱苦土鑛〕大石橋海城縣東方山地一帶に分布し、轉山子・牛心臺・白虎山・官馬山・聖水寺・宋家堡子・大嶺等を主要産地とし、推定埋藏量五十億瓩と稱され、良質なものはマグネシア含有率四十五—四十七%に及んでゐる。この地帶は延長七〇千米、幅二百—二千米の廣大な露頭をなして居り、世界的なマグネサイト礦である。

鑛區は四十餘に達し、滿鐵が多數所有し他は滿人が持つて居る。用途は金屬マグネシユーム・マグネシア・煉瓦（製鐵用）、リグノイド原料その他パルプに用ひられる。

【オイルシエール】産業五ヶ年計畫の中には人造石油百萬瓩の年産を目標としてゐるが、其中にはオイルシエール乾溜による製油も含まれてゐる。撫順の大炭層上には厚さ平均一二〇米乃至一七〇米の巨大な油母頁岩が掩つて居り、標準乾溜法により粗油平均五%收得し得る。埋藏量は四四億瓩と謂はれてゐるが、企業の對象となるは差當り古城子露天掘によつて剝岩せらるゝ部分である。礦量豊富、特に採掘費として費用を要せざること、殘滓は坑内充塡料となるため之が處分費を要せざること、燃料・勞銀等營業採算上大なる强味を有することがその特徴であり、收油量・品質等總體的に見て世界各地のものに比し中以上にある。

工業

【概要】初めは農業生産品の加工に出發し漸次近代工業の進出を見るに至つた。

滿洲の工業發達過程に最大の力を投じたものは、日露戰役前に於ける露國の進出と、其後に於ける日本側の經營施設及世界大戰で、更に滿洲建國に依る日滿兩國の密接なる提携は諸種工業の劃期的勃興を醸成するに至つた。

政府は大同二年三月滿洲經濟建設要綱を發表して滿洲國の經濟活動の根源を定め、康德四年五月更にその經濟發達を助成し、既設產業の監督と新興企業の指導を目的とする重要產業統制法を公布し左記二十一產業を統制企業として指定した。

兵器、航空機、自動車、液體燃料、金屬、精鍊、炭鑛、毛織物、綿糸紡績、綿織物、麻製織、麻紡績、麥酒、製糖、煙草、曹達、肥料、パルプ、油坊、セメント、燐寸

工業地域は南は大連、北は新京迄の間を帶狀をなして發達し安東市、新興の通化及び哈爾濱を中心とする區域にも近代工業の集團がある。其他は國內全般に亙つて在來の工業、卽ち燒鍋(燒酎製造)・磨坊(製粉)・油坊等散在し、その業態別は大體十一類九十三業種に分たれてゐる。

【工業會社】百三十萬平方粁を超ゆる豐穰なる沃土と地下に埋もるゝ無限の寶庫に惠まれた滿洲國は、四千萬の勤勉なる國民と日本の協力に依り建國以來僅か九年にして、今日己に獨立せる產業國へと發展することが出來た。康德五年末に於ける會社數は三千九百、拂込資本金竝出資合計二十四億六千九百萬圓で內工業關係は次の通りである。

種別	會社數	資本金(單位千圓)
紡織染色工業	五一	四三、五四五
化學工業	一一九	一二七、七二九
機械器具工業	一一五	二一一、六九五
製材木製品工業	九一	一六、〇六二
食料品工業	二一六	四七、四三九
雜工業	一一九	九五、八五八
窯業、鑛業	一八六	六〇三、三三一
電氣、瓦斯工業	二八	一四四、一〇三

〔特殊會社〕特殊會社制度は滿洲國統制經濟運用の特異なる機構で、①特に制定された法律に基く會社②他國との條約に基く會社を言ひ、準特殊會社は右以外の①政府出資會社②設立許可の際定款命令を受けた會社③定款中に政府の干涉權が規定された會社を云ひ、康德七年末に於ける社數は六十九社公稱資本金四十三億千六百萬圓(拂込三十二億九千六百萬圓)に達し產業開發の飛躍を物語つて居る。

【水力電氣事業】從來滿洲に於ける電氣事業は殆ど火力に依つて起されてゐたが、康德元年實業部臨時產業調查局に依つて調查された結果、水力電源は第二松花江水系を始め、太子河・渾河・灤河・嫩江・牡丹江等全滿に亘り發電可能地約五十ケ所が判明した。

目下水力電氣建設局に依つて、第一期計畫として、第二松花江吉林市上流四粁の大豐滿、小豐滿に世界屈指の大發電所を建設中であり、又日滿共同出資に依る鴨綠江水電會社により水豐發電所は康德八年九月發電を開始し、更に第二期計畫も進捗し、之によつて滿洲國は從來の火力送電より急テンポに水力送電へ轉換する筈である。

商業・貿易

商業

【概要】舊滿洲の經濟界が舊軍閥と其手先たる官商の手に委ねられ、或は恣に不換紙幣を濫發して特產物の買占を敢行し、或は主要事業の經營を獨占して民衆の生活・商民の利益を無視し、延いては全般の經濟的發展を人爲的に阻害した。主要都市を除いてはこの障害によつて國內全般は殆ど其商業組織の舊態より脫し得ず、一部地方にありては尙物々交換が行はれてゐる狀態であつた。

建國後政府は經濟建設の一要綱として商業開發に關し

①、商民の特徵は益々之を助長せしめ、舊慣の改むべきは矯正して取引の合理化を期せしめ、又生活の必需品其他國民生活に重要なる關係を有する商品に就ては適切なる供給と價格の調節を行ふこと。②、特許法・意匠法・商標法等を發布して工業所有權の保護を圖り、度量衡の制を統一し其他交易所制度の改善、寄託保險等の法制を定むる等取引に關する文明的施設を行ふこと。③、關稅政策は國家の振興を旨とし國際取引の增進を期すること等の方針を明示し、一意健全なる發達に努めた結果康德七年三月末に於ける商社四七三八社資本金四三億三五三八萬圓と言ふ數字を示し同年末に於る日本の對滿投資け事變前の十七億に對し四十億圓と飛躍して居る。

尙最近物資の圓滑なる配給が企圖され、從來の滿洲輸入會社、各地市場會社の外に滿洲生活必需品會社其他各種輸入配給の組合が次々に設立された。

【商工公會】商工業の改善發達を圖るを目的とし、連絡調整・調停仲裁・通報・指導・仲介斡旋・鑑定調查其他の業務を行ふもので、その組織は法律により定められた資格該當者を洩れなく加入せしめそれ等會員によつて組織される。

會の指導運用機關は參事總會と會務職員で、參事は政府から選任せる人と、政府の委囑せる銓衡委員の選任せる人々によつて組織され、會務職員は政府の任命する會長副會長及び理事から成つてゐる。

而して右機關は康德四年(昭和十二年)十二月公布を見た商工公會法によるもので、從來の日商側商工會議所・實業會・商工會及び滿商側の公議會・商務會は何れも康德五年十月迄に新機構下に合併せられ康德六年末に於ける數は百四十四になつて居る。

右は市及街單位のものであるが此の外省商工公會は奉天・濱江・吉林・錦州・安東・龍江に設置されてあり、舊商業會議所は大連一ケ所のみとなつた。

【取引所】取引所は官營と民營に分たれ官營に屬するものに大連・新京・哈爾濱の三取引所、民營のものに大連株式商品取引所、安東取引所及び滿洲取引所(奉天)がある。前者は特產及び特產に關係あるものを扱ひ、後者は有價證券・綿糸布・麻袋・麥粉・砂糖等の取引をなしてゐる。

【市場】日本側市場は關東州中央卸賣市場、關東州水產會魚市場の二つで滿洲側としては大同二年暫定を見た水產市場法及び康德元年發布施行を見た中央卸賣市場法によるものがある。現在までに開設を見た中央卸賣市場は哈爾濱・吉林・新京・奉天・齊齊哈爾・牡丹江・大連となつて居り、全滿主要都市に開設が急がれてゐる。

【當舖】滿洲に於ける金融機關として看過し得ないのは當舖の存在である。當舖は云ふまでもなく庶民金融機關であるが、日本に於ける質屋と同列に觀念さる可きでない。特に近代的金融機關の缺如せる滿洲農村に於ては從來唯一の大衆的金融機關として活躍し寧ろ地方銀行的色彩を有してゐた。之を利用するものも銀行を利用すると同じ氣持を以て接し、また經營者も高級の業種を營むものとして誇りを持つてゐる。

日本の質屋が主として享樂貨財を取扱ひ質貸金も主として消費經濟に向けられるに反し、當舖に於ける質物は生活必需品を主とし、農村に於ては農具、荷馬車の類まで受入れる。當舖の規模も概ね日本の質屋に比すれば大きく、その質代金の總額も比較的多額に上つてゐる。卽ち康德七年末現在に於ける全滿當舖數は九百八十一店、質貸金は五千六百四十六萬五千圓に上つてゐる(內大興公司經營當舖二百三店、質貸高一四四、七四四、三一七圓)。

唯當舖の特色であると同時に大なる弱點であるのは、その金利が餘りに高率なることであつて、比較的低利である大興公司經營當舖すら月利二分五厘卽ち年利三割であるから他は推して知るべしであり、近年當舖は興農合作社の普及發達によつて大なる

脅威を受けつゝある。

【無盡會社】 滿洲に於ては之を錢會若くは講會などと稱し、庶民金融機關の整備しない地方で親戚朋友隣人が集り資金を調達する爲扶け合ふところの協同組合の一種で古くから發達したものである。

康德七年末に於ける社數十二、總公稱資本金百六十七萬圓(内拂込七十五萬五千圓)で、預り金九百六十九萬三千圓、貸付金一千三百四十二萬八千圓である。

【輸入・卸賣・小賣各聯盟】 輸入統制及配給統制に依る生活必需品配給機構として、政府指導の下に生必會社を中心に設置されたもので、輸入聯盟は對日輸入消費物質の中石鹼・琺瑯鐵器海産物乳製品・洋品雜貨・罐詰の六品目の輸入割當其他統制事務を取扱ひ卸賣聯盟を通じて小賣聯盟加盟者に配給する組織である。

【生活必需品會社】 一般消費階級に安價なる配給を圖るため康德六年二月設立されたもので各都市の中央卸賣市場はこの傘下に統合せられた。

【滿洲房産會社】 市街地に於ける家屋建築、又は買入資金融資の機關にして、康德五年二月・政府・興銀・東拓各一千萬圓出資の下に資本金三千萬圓(半額拂込)を以て特殊會社として設立され、拂込資本の十倍までを限度として社債を發行し得る。

【滿商の組織形態】 滿人商店はこれを單獨經營のもの及び共同經營のものに大別することが出來る。前者は日本のものと大差はないが、後者は財東(ツァイトン)と呼ばれる資本主と掌櫃的(ジャングイディ)といはれる營業擔當者があつて、店の營業一切がこれに委せられ、店には小掌櫃的、夥計(ホーヂー)等數名乃至數十名の店員を擁してゐる。

而して此等商店は相互に連鎖關係を作り鞏固なる團結を持ち、商業に對する利益の防護・同業者間の競爭抑制・仕入販賣の共助・紛爭の處理等を圖り顯著なる發展を遂げてゐる。

【滿人の商號】 商號として愛用される文字は漢字四萬の中約五十字で、吉祥開運に關する文字・道德的意義を有する文字・國名又は地名より取りたる文字・美的觀念に基く文字等が多い。又號尾は同一商業に共通される特質がある。その一、二の例を示せば次の通りである。

行(ハン)=問屋、仲買、棧(ツアン)=倉庫、旅館公司(コンス)=會社廠(チヤン)=製造工場　莊(チヨワン)=兩替商、呉服商

【滿洲國會社法】 滿洲國では從來民國十八年に制定された公司法を大同元年敎令第三號によつて援用してゐた。この法律は日本の現行商法中の會社編の規定を母法とするものであるが立法技術上相當缺陷があり且つ解釋上疑義が多かつたので滿洲國司法部當局では新會社法の立法審議に着手幾多の進步的改正を盛り康德四年六月二十四日公布同年十二月一日より施行。見た同法は五章四百四十八條より成り大體に於て日本商法の會社編改正案に倣つて立案されてゐる。

貿易

【概要】 一八六四年牛莊の開港を以て世界經濟と切線を描いた滿洲は舊來帝政ロシアの極東經營に拍車を加へられ、次で日本の滿蒙に對する經濟的寄與により逐年躍進をつゞけ、更に滿洲國建國に依る建設の進行とにより貿易額は逐年上昇した(單位千圓)

年度	輸出	輸入	入出超額
大同元年	六一八、一五六	三三七、六七二	出　二八〇、四八四
二年	四四八、四七七	五一五、八三一	入　六七、三五四
康德元年	四四八、四三六	五九三、五六二	入　一四五、一二六
二年	四二一、〇七七	六〇四、一四九	入　一八三、〇七二
三年	六〇二、七五八	六九一、八三〇	入　八九、〇七二
四年	六四五、二九七	八八七、四一一	入　二四二、一一四
五年	七二五、四五四	一、二七四、七四八	入　五四九、二九四
六年	八二六、一九〇	一、七八三、三六六	入　九五七、一七六
七年	五四四、六二〇	一、三九七、七〇六	入　八五三、〇八六

滿洲國の對外貿易は建國前は原料國としての出超の傾向にあつたが、建國後は建設の進展殊に康德四年以降は産業五箇年計畫及支那事變に依る日滿支綜合計畫の爲め巨大な建設資材の輸入となり康德六年に於ては九億五千萬圓の記錄的入超

となつた。

此の貿易額中でも日滿貿易が主要な地位を占め輸入に於て六四%輸出に於ては八四%(康德六年度)を占めて居る。

貿易品目は輸出に於ては大豆・豆粕等特産品を中心とする原料及原料製品が六割乃至七割を占め輸入に於ては各種衣類・絹毛織物・器械工具・車輛船舶・紙及紙製品等全製品を主に魚介海産物・米及粉・小麥粉・砂糖・果實等食料品及嗜好品等生活必需品及建設資材が大部分を占め滿洲國貿易の特徴を示して居る。

類別輸出入額 (單位千圓)

	康德三年	四年	五年	六年
輸出				
食料品	四〇、九六九	五六、六〇一	六三、一七七	九一、六八五
原料品	三三三、四〇五	三四五、六一五	三四五、二四三	三四一、五三五
原料用製品	一〇九、一三三	一三六、五五一	一〇八、六四七	一五七、五三〇
全製品	三三、三五一	二四、六九五	一八、〇三五	一三、八五六
其他	三三、六八二	二九、四三三	一三一、七一六	一六三、七三三
計	五三八、六一六	五九六、六七三	六六五、八一七	七六六、三一九
輸入				
食料品及嗜好品	二八、五四八	一〇五、三五四	一〇〇、四四四	一六七、〇一五
原料品	四一、七五五	六五、七五八	三三、七四一	六九、三三〇
原料用製品	八、六〇〇	一一七、九三六	一三八、六三八	二一〇、九三五
全製品	五五三、四〇六	四六七、六一五	五四三、九〇八	三八九、四六六
其他	九七、五二八	一五三、七五四	四三八、五四九	八二五、七八七
計	六九一、八三〇	八八七、四一一	一、〇二四、二七〇	一、五六二、四五一

康德三年八月日本の通商擁護法に呼應し貿易統制法及び此に基く輸入制限に關する勅令を公布實施したが、次で支那事變の進行に伴ふ日本の貿易統制に順應し康德四年十二月更に新法を制定し強化し同五年七月更に輸入制限品目を追加六年五月には大豆其他の輸出許可制度を採つた。然るに康德六年九月の日本の滿關支向輸出調節の實施に伴ひ同年十二月輸出七十品目、輸入五十品目に就き統制を行ひ、國内物資の圓滑な配給のため七年より主要品目の輸入業者を指定した。

財政

建國前の財政は紊亂を極め、幣制、税制の亂脈不統一は國民經濟の健全なる發達を許さず、建國當初國際聯盟調査團をして、此の地に於て財政確立の萌芽をすら見出し能はずと嘆ぜしめた程であつたが、爾來政府は財政の根本方針として、堅實なる財政制度の採用と健全通貨制度の確立により國内信用程度を發達せしめ産業開發の素地を作ることに努力を續けた。

其結果建國年度より康德三年に至る財政創政期、即ち國家體型整備時代の財政政策の遂行に成功し、次いで康德四年よりは國力增進開發時代に入り、財政方針も斷然積極主義を採用、世界列強が赤字財政に喘いでゐる時獨り新興滿洲國は安定通貨主義並に健全財政主義の徹底を期することを得た。

國家豫算に就ては建國直後國庫統一の方針を決定し、數箇月の間は月割豫算に依つたが、大同元年度より年度豫算制を採り、更に近代的の明確なる會計制度を實現し、更に康德三年度豫算よりは滿洲國經濟の實情に鑑み、曆年度に依る會計年度を確立し、決算を包括する新會計法を制定した。

尚康德六年度より共同國防費負擔金の繰入が停止された。

康德八年政府豫算額 (單位千圓)

	歳入	歳出
一般會計	六四九、一一〇	六四九、一一〇
特別會計	一、八四九、〇七七	一、七五六、一七五

金融方面にあつては大同元年中央銀行を設立して唯一の發券銀行に指定し同二年銀行法により各省銀行を併合し普通銀行の統制指導監督に當る外農村金融の爲め金融合作社を設置、更に康德四年十二月滿洲興業銀行を創立、産業開發資金の融通に當り茲に金融機構の整備を見、爾後産業進展に伴ひ擴大強化が行はれ長期産業金融、一般商業金融、庶民金融等各方面に亘る圓滑化を來した。(康德七年末に於ける普通銀行四六行公稱資本四六七四萬圓)

戰時經濟を強固ならしめる爲めの國民貯蓄に就ても康德七年度に於ては豫定計畫を超過し八億三千萬圓の實績を擧げ、康德八年度に於ては更に一一億圓を目標に邁進して居る。また政府は農村の金融に力を注ぎ興農合作社を各地に設け、春耕資金の貸附

を行つてゐる。更に石油・阿片・火薬・燐寸等の專賣を實施して國民生活の安定に資し、鹽の行政を整正して健全な成績を擧げつゝある。

【通　貨】建國前國內に多數の發券銀行がある外地方的通貨・私帖があり幣制は極めて紊亂して居たが、建國後銀本位に依る貨幣法を制定し滿洲中央銀行を發券銀行として通貨の統一に當らしめて之に成功すると共に康德二年十一月日本圓にリンクする管理通貨制度を採り現在に至つて居る。貨幣の種類は紙幣（百圓・十圓・五圓・一圓・五角）白銅貨幣（一角・五分）青銅貨幣（一分・五厘）の九種計算は一圓の十分の一を一角、百分の一を一分千分の一を一釐として居る。現在白銅及び青銅貨は日本と同樣アルミ貨を以つて代位させて居る。

貨幣發行額及準備額

	紙幣發行高	正貨準備高
康德七年六月末	六四三、三一四・一〇七圓	一二一、八〇八・三三五圓
同　十二月末	九一七、〇五〇・七八五	三六八、四八八・三三五
同八年六月末	八二一、一九五・五四三	三一八、五五六・二七三

全滿各種金融機金總額

康德七年六月末	一、七三三・九九七（千圓）
同　十二月末	二、〇五七・〇八五
同八月四月末	二、一六七・四八二

全滿銀行預金總額

康德七年六月末	一、四三三・八二六千圓
同　十二月末	一、六八一・六〇四
同八年六月末	一、八七七・二二六

【租稅體系】

- 內國稅
  - 收益稅
    - 地租
    - 營業稅
    - 所得稅
    - 出產糧石稅
    - 鑛業稅
    - 取引稅
    - 禁煙特稅
  - 消費稅
    - 菸稅
    - 遊興飲食稅
    - 統稅
  - 交通稅
    - 契稅
    - 印花稅
    - 登記稅
    - 登錄稅
- 關稅
  - 關稅
    - 輸入稅
    - 輸出稅
  - 噸稅

衛　生

國土の廣大、氣候の特異性に加へて、國民中最多數を占める土着民族はいづれも敎育程度が低く、從つて非衛生的習慣を有し保健施設の如きも整はず、且つ阿片吸引の惡風がはびこつて居たので、政府は建國以來國民保健の向上を期し、醫療衞生機關の普及充實、傳染病の豫防、吸煙其他惡風の禁絕に努め、大同二年より公醫制度と福民診療所を醫療機關に惠まれざる地方に全國的に設置するを手始めに醫師法其他の法律を施行、又阿片禁斷のため各地に戒煙所及び康生院を設立、康德七年には民生部外局禁煙總局を設置し禁煙政策を强化しつゝある。

在滿日本人の衞生狀態はその死亡率から見ると內地の人口一千に付一九・四八に對し一五・二〇で低くはなつて居るが、老人が少なく、又結核等の病人が內地に歸つて死ぬ等の關係から結局在滿邦人の健康狀態は良好とは言へない。主なる疾病は呼吸器消化器・結核及び傳染病であるが、これらはいづれも不可抗力と言へず、適確なる豫防と保健療養方法をとれば確實に防ぎ得る狀態にあり、日本人の建康狀態が良好でないのは大部分其の生活態度に起因する場合が多く、其の一例として夏季に於ける消化器系統の傳染病もコレラの如きものを除くチブス等に日本人罹病が滿人よりも多いと言ふ狀態にあり、日本人の生活態度の適地性が要望されて居る。

中國大觀



略史

三皇五帝、堯舜二帝の傳說時代を經て禹が舜の禪りを承けて天子の位に卽き國を夏と號し、其子啓が立つに及んで天子世襲の風を生じたと云はれてゐるが、爾後四千有餘年の間、漢滿蒙等を中心に各民族が起つては亡び、滅びては興り、此の間或ひは儒家の理想たる聖賢政治の理想的君主が現はれ、或は暴虐無道極りなき帝王も現はれて、今日中の華民國に至るまで其の歴史は常に中原の爭覇に終始してゐた。然し支那文化の推進力は常に漢民族に握られ、邊境より興つた民族は悉く漢族に同化されるに至つたことは一貫して變らないところである。

今有史以來興亡國家の存續年數を一瞥すれば左表の通りである。

時代	皇紀	存續年數
夏	前一五四〇年頃	約四百年間
殷	前一一〇〇年頃	約六百年間
周	前四六〇年頃	約八百年間
春秋・戰國	前一一〇年頃	約五百年間
秦	四四〇年	約十五年間
兩漢	四五九年	約四百六年間
三國	八八〇年	約六十年間
晉	九四〇年	約百六十年間
南北朝	一〇九九年	百五十年間
隋	一二四九年	三十年間
唐	一二七八年	二百九十年間
五代	一五七六年	四十四年間
宋	一六二〇年	三百十七年間
元	一九四一年	百六十三年間
明	二〇二八年	二百七十年間
清	二三〇五年	二百六十八年間
中華民國	二五七二年	

地誌

【境域】大體に於て支那の面積は一千萬方粁前後と考へることが出來、また其人口は四億餘とみられ、日本の十五倍もある廣大な地域で、ヨーロッパ州全面積に匹敵する。

【位置】東は東經百二十三度内外にて太平洋に、西は東經七十四度弱に亘つて天山山系の一點中央アジアに連る所を以て限りとし、南限は海南島の南端北緯十八度四十分、北は外蒙の一角サヤン山脈のシベリアに界するところ北緯五十三度四十分位に終る。

【北支の地勢】支那西部の山西、陝西、蒙疆地帶が高地で、黃河流域にある山東、河南と白河水系の流域にある河北の三省は平野である。山の多いのは山西、陝西と京漢線以西、蒙疆南部と山東の一部である。蒙疆地域の中部以北は高原地帶をなし察哈爾、錫林郭爾盟地域は南に分水嶺を持ち北方に傾斜してゐる。隨つて北支は東南の四分の一が平野で他は高原と山地だと云へる。

三海岸線中渤海沿岸は灣曲に乏しく、その全部が黃河、白河の沖積低地より成り、海岸は泥砂の關關で平砂劃一の狀を呈してゐる。又山東海岸は海岸山脈が海に直面して屈折に富み、膠州灣の如きはその代表的なるもので嶮崖相集る狀態にあり、江蘇海岸は灣の曲折は乏しいが海底遠淺で所々に大砂洲を有してゐる。

北支の水系は大部分黃河の流域に屬し揚

子江と共に支那の二大水系をなしてゐる。

黃河は崑崙山脈に發源し、甘肅省に入りて洮河及び大通河の二大支流を合せ寧夏を經て一旦蒙古地方に入り、綏遠省內を東流し、包頭の邊に至りて急にその方向を變じて南流し、長城外邊の秦家口に至りて山西、陝西の省界をなしつゝ南に直流すること六十キロ、その間峽谷をなし潼關に至りて渭水を合せ、それと同時に急にその方向を轉回すること五十度以上に及び、東流三百キロにして京漢鐵道の黃河大橋に至り、始めて中原平野に出づるのである。

中原平野に出た後の黃河は古來屢々河道を變じ、山東山地を中にして或時は北の方渤海灣に注ぎ、或る時は南の方江蘇の沿岸にその出口を求め、平原內を濫流して放縱の限りを盡したことは、支那三千年の歷史がこれを證し、またその氾濫によつて中國人が如何に惱まされたかは、支那に「中國に一大憂あり、官吏、道路、黃河」と云ふ古諺があるによつても知ることが出來る。

往昔黃河の支流であつた白河は天津附近に於て運河(永定河)・溢水・滹沱河・漳河等の水を集めて渤海に注ぎ、更にその北には滿洲國內に發源する北塘河と灤河とが同じく渤海に注いでゐる。

また南方には淮河が河南安徽の諸水を集めて東海に注いでゐる。山東山地には特に記すべき程の河川がない。その主なるものは中央山地に發源する汶水・泗水・沂水等であるけれども、これ等は寧ろ黃河流域に入るべきもので、大運河によつて互に相通じ、黃河南流の際には事實上その支流であつたのである。

【中支の地勢】　中支と北支を區別する北嶺は崑崙山系から分脈せる岷山々脈を初め、秦嶺・大巴山・伏牛山・淮山等が屬し、之等諸山は必ずしも一體系をなすものではないが大體中北支を區分してゐる。

高さは秦嶺が海拔二千米乃至二千五百米、大巴山が一千米から二千米である。又南支との區分をなす南嶺は割合低く、閩浙山地の仙霞嶺山脈が海拔一千五百米乃至二千米で、この山系に屬するものゝ中最も高いものである。

北嶺と南嶺に挾まれた諸地方が所謂中支那であるが、その中間には平野と山地が交交存在してその間を河川が縫ひ、湖沼が存在してゐる。

支那事變で有名になつた盧山山系或は大別山系等も又南北嶺の中間に突起した山岳である。平野は山岳と河川とを中心に横はり中でも吳の平野(蘇州平野)は肥沃なることを以て有名である。又印度支那山系に屬する大雪山脈は四川の西に聳え海拔六千米の峯もあり四時雪を頂いてゐる。

更に地形上から考察した中支那について誰しも考ふるは揚子江であり揚子江を敍述することに依つて中支の大部分を敍述することが出來るとも云へる。

全長三千二百哩西藏高原の北側に發源し大雪山脈を横斷して三峽を經、宜昌・漢口・九江・南京を經て上海の北にて海に注ぐもこの間多くの支流を併せ又峽谷・湖沼を作つてゐる。

有名な大運河は鎭江に於て揚子江と交叉し、北水道より起る江蘇運河は淮河・黃河を横斷して天津に通じ、南水道より起る江南運河は太湖、錢塘江を横斷して杭州に至つてゐる。

【南支の地勢】　南支を地形的にみた場合そこを全體的に貫流してゐるやうな揚子江とか黃河のやうな大河のないことが北・中支と異る點である。

北部には閩江と浙江(錢塘江)とが流れて地勢的に一區域を形成し、南部に於ては所謂粵江流域を形成してゐる。粵江流域とは西・東・北の三江の總稱であり西江を最大とするので西江流域の稱もある。雲貴の一部と兩廣がその流域に包括され南支に於ける代表的な河川である。

故にこの地方の氣候を嶺南地帶として特殊に扱ふのであるが、その意味は粵江が所謂嶺南山系に屬する水系にあるから香港の位置は丁度その中央となつてゐる。

山　系

山系名	關係省名
パミール	新疆、印度國境
天山山系	新　疆
ヒマラヤ山系	支那、印度國境
崑崙山系	青海、西藏省境

喀喇崑崙山系	新疆
阿勒騰塔山系	新疆
阿爾泰山系	外蒙・甘肅・新疆
陰山山脈	綏遠
岷山山脈	四川・西康・青海・甘肅
嵩山山脈	河南
苗嶺山脈	貴州
五臺山山脈	山西
泰山山脈	山東
南山山脈	陝西
大行山山脈	河北北部
伏牛山山脈	河南
北嶺山山脈	陝西
巴山山脈	四川
中條山山脈	山西南部
連技山山脈	山西
恒山山脈	山西
浙西山山脈	浙江
黃山山脈	浙江・安徽・江西
天目山山脈	浙江・安徽
淮陽山山脈	安徽
衡山山脈	湖南南部
雪峯山山脈	湖南
武陵山山脈	雲南
大婁山山脈	貴州
楓嶺山山脈	浙江・福建
大別山山脈	湖北・河南・安徽
雲峯山山脈	江南・廣東
仙霞嶺山脈	江南・福建
大庾嶺山脈	江西南部
梁山山脈	同
大英嶺山脈	廣東・湖南・江西

河　川

【北支部】

黃河(全長四一〇〇粁、流域九八萬方粁)支流＝洮河・大通河・汾水・渭水・洛水・沁水

白河(全長五二〇粁、流域一四、五萬方粁)支流＝御河・子牙河・滹沱河・滏陽河・大淸河・永定河

北塘河・北載河・灤河

【中支部】

揚子江(五二〇〇粁、流域一七七萬方粁)支流＝黃浦江・蘇州河・沅江・湘江・漢江・岷江・沱江・嘉陵江・黔江

淮河(全長一一〇〇粁)支流＝洪河・潁河・渦河・淝河・西淝河・北淝河・澮河・睢河

錢塘江(全長四六〇粁、流域五・四萬方粁)甌江

【南支部】

珠江(流域三九萬方粁)支流＝九龍江・北盤江・巴盤江・柳江・鬱江・桂江・容江

北江・東江・閩江・潭江・韓江

湖　沼

【北支部】

河北＝寧晉泊・白洋淀・大陸澤・三角江・七里海

山東＝南陽湖・微山湖・麻大泊・百脈湖

山西＝陸村鹽池

甘肅＝花馬池・哈拉諾爾(ハラール)

內古蒙＝烏珠穆沁(ウチユムチン)・巴彥泊(パインパ)

青海＝西海

【中支部】

江蘇・浙江＝太湖・馬家蕩・高郵・寶應・界首・都泊・大縱・駱馬・瀲山・長蕩・西湖・西湖・白湖・白兎・破崗・感湖・　湖・茶湖

江蘇・安徽＝洪澤・石臼・固城・南漪・巢湖・東湖・西湖・白湖・白兎・破崗・感湖・　湖・茶湖

武昌・竹杖

湖北・江西・湖南＝洞陽・洞庭・大白・大松・戀湖・三臺・沈湖・黃連・十湖・官湖・大同・芭蕉・赤城・魯湖・南湖・武湖・張渡・黃安・後湖・長海龍家・鴨兒・梁子・保安・華家・澤元・海口・網湖

灣　口

渤海灣、嶗山灣、膠州灣、杭州灣、三門灣、三都澳、興化浦、浮頭灣、企石灣、紅梅灣、白耶士灣、廣東灣、廣州灣、東京灣

氣　象

【中　支】　一帶に乾燥して氣溫は大陸的に激變し、湖北の列風時に砂塵を捲いて天日ために暗しの言を生み、所謂黃塵萬丈の光景を呈すること稀しくない。然し西部高原地帶と中原平野では氣候上相當の差違あり、概して三寒四溫の大陸風であるから寒暑何れの場合も比較的凌ぎ易い。

冬の季節は割合に長く、八九月頃から翌年の四五

◇各地各月平均氣温表（攝氏）

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
青島	(-)〇・四	(-)〇・四	四・七	一〇・四	一六・一	二〇・〇	二三・三	二三・九	二一・二	一六・〇	八・二	一・四	一二・九
威海衛	(-)〇・四	二・一	七・七	一四・九	二一・六	二七・一	二五・八	—	二〇・七	一三・八	四・一	(-)二・二	一三・七
天津	(-)四・一	(-)一・八	四・七	一三・七	一九・五	二三・七	二六・一	二五・九	二〇・八	一四・二	四・五	(-)二・四	一二・〇
北京	(-)四・三	(-)〇・二	六・八	一四・九	二〇・三	二五・六	二七・六	二五・四	一九・六	一三・六	五・四	(-)一・九	一一・七
太原	(-)八・四	三・一	三・八	一二・二	一八・三六	二三・三	二五・〇八	二二・七九	一八・一三	九・八八	二・三	(-)三・四五	九・九
張家口	(-)一七・八	(-)七・六	(-)七・〇	一一・二	二〇・〇	二三・六	二三・一	二三・六	一八・二	八・七	(-)二・〇	(-)七・二	七・七
臨汾	(-)二・二	一・八	一〇・三	一六・六	二四・三	二三・六	三一・七	二七・一	二四・一五	一三・六七	七・〇〇	(-)一・一〇	一七・七
南京	二・二	三・七	八・六	一四・五	二〇・三	二四・四	二七・七	二七・五	二二・七	一七・〇	一〇・六	四・七	一五・三
東臺	一・〇	一・九	七・五	一二・八	一九・〇	二三・〇	二六・三	二六・四	二二・一	一七・〇	一〇・六	五・二	一五・一
徐州	(-)一・一	一・五	八・〇	一三・五	一九・六	二四・八	二六・三	二六・九	二三・〇	一五・四	八・二	二・一	一四・一
鎮海	四・四	五・二	九・二	一四・六	一九・四	二三・五	二七・八	二七・八	二三・八	一六・六	一三・一	八・一	一六・三
溫州	七・二	八・一	一一・八	一七・六	二一・五	二五・四	二九・一	二九・五	二五・七	二〇・六	一五・五	一二・四	一八・六
安慶	一・六	六・三	一〇・一	一五・〇	二五・二	二六・一	三一・八	三一・五	二五・一	一五・八	一三・六	八・三	一七・五
蕪湖	一・六	四・一	九・八	一五・四	二〇・九	二四・八	二八・七	二八・六	二三・四	一七・四	一一・五	五・五	一六・〇
九江	二・七	五・三	一一・〇	一五・五	二三・三	二五・九	二九・五	二九・二	二四・二	一八・一	一三・一	六・二	一六・九
南昌	一・八	三・二	八・一	一三・五	一九・二	二三・三	二七・八	二八・〇	二二・六	一七・三	一一・四	五・九	一五・二
漢口	二・九	五・七	一一・九	一七・四	二三・〇	二六・五	二九・八	二九・六	二四・五	一八・六	一三・八	六・〇	一七・四
宜昌	三・九	七・〇	一三・四	一七・八	二三・六	二六・八	二九・一	二八・九	二三・八	一八・〇	一三・三	六・九	一七・四
岳州	二・五	五・三	一一・二	一六・八	二三・〇	二五・四	二八・八	二八・一	二二・四	一七・五	一二・〇	五・七	一六・五
長沙	四・一	六・五	一三・〇	一八・一	二三・五	二七・〇	三〇・一	二九・六	二五・〇	一八・〇	一三・三	六・八	一七・九
衡州	二・六	七・二	一一・二	一六・五	二四・一	二六・二	三〇・三	三〇・一	二六・四	一七・八	一三・〇	九・〇	一七・九
重慶	七・三	九・八	一四・八	一九・五	二三・六	二五・二	二八・九	二九・六	二三・七	一八・七	一四・二	一〇・三	一八・七
成都	三・七	八・七	一三・〇	一五・六	二三・八	二三・八	二六・一	二五・三	二二・五	一五・九	一〇・一	八・八	一六・三

月頃までは乾期に屬し、六七月は雨期である。この季節には黃河が大氾濫することあり、この雨季以外は一二月頃よく雨が降る。

突風は蒙古方面から四五月頃よく襲來し時には人畜を害し交通を杜絶する時もある。一年を通じて旅行に最も便利明朗な時はまづ九十月であらう。

【中　支】やはり地域尨大で一概に云ふは困難であるが、大部分が所謂揚子江型と云つて多雨帶に屬してゐる。支那文明が黃河に發して揚子江に至つてゐることを思ふ時、揚子江によつて代表される中支那の氣候が他の諸地方に比して溫和なることが證明出來る。揚子江を上・中・下流の三つに分けて述べれば大體次の如くである。

（上流）大體四川省が中心で此地方は土地高く且つ奥地の關係で大陸性の氣候に支配されてゐる。中心は重慶で最寒が一月、最暑が八月、五月から八月にかけて雨が多いが、雨量は下流に及ばない。溫度は八月の最高百十度、最低は一月で平均四十七度と云ふから大して低下しないのである。

（中流）湖北・湖南・江西地方で漢口が中心である。この地方も大陸的氣候の影響を受け、寒暑の差は相當に多い。一二月の候には所謂蒙古風の影響を受け、雨期は五・六・七の三箇月で、九月に入ると晴天が續い秋期に入りその期間は極めて長い。

（下流）安徽・江蘇・浙江三省で中心は大體上海である。海岸線に接してゐるため海洋的氣候に支配されてゐる。南部は多少亞熱帶的なところもあるが概して良好である。雨期は六月、中流に比して雨の尠いこの地方は又夏季節風の影響を受ける。

【南　支】香港は沿海北部と嶺南地帶の中間にあり亞熱帶的な南支氣候を代表するものと云へる。然し廣大な地域であるから南支全體から見た場合その地方々々によつて非常な相違がある。例へば西南の山岳地方は山脈によつて氣候が調節されるので、雲南省の低地は炎熱燬くが如きでありながら、省城昆明は氣候極めて良好で四時春の如しと云つた狀態である。

下つて廣東、廣西に至ると冬期は五十度から降ること稀で天氣晴朗であるが夏期に至れば急騰する。それでゐて廣西の北部山岳地帶は冬期凜烈なる寒氣が襲つて時には降雪をみる。かうした南支の氣候を決定するのは緯度の關係は勿論であるが大體季節風の影響であり殊に南西季節風の影響する度が大きい。

◇月降水量と年降水量との比

	北支	中支	南支
十二月	〇・四%	一・六%	二・二%
一月	〇・四	三・九	三・二
二月	〇・九	四・五	三・五
（十二月―二月 計）	一・七	一〇・〇	八・九
三月	一・一	六・八	七・五
四月	三・〇	一一・一	九・三
五月	六・四	一二・七	一四・六
六月	一四・一	一六・四	一七・三
七月	三三・	一三・五	一三・〇
八月	二四・三	九・九	一三・五
（六月―八月 計）	一七・四	四二・九	四四・九
九月	一一・〇	七・五	一〇・一
十月	三・三	七・八	四・三
十一月	二・〇	四・〇	一・五

◇各都市の年降水量

東京	一、五五八粍
京城	一、二六〇粍
廣東	一、六四一粍
漢口	一、一六七粍
上海	一、一三八粍
北京	五六〇粍
青島	六六二粍
張家口	三四四粍
ニューヨーク	一、〇四三粍
ロンドン	六一一粍
ベルリン	六二三粍
ローマ	八八〇粍
レニングラード	五三九粍
新京	六五〇粍

生　物

▼北支▲【動　物】北支は動物地理學上中支と共にウオレス A.R.Wallace. の分類に從へば舊北區に屬してゐる。舊北區は北米の新地區に對するものでヨーロッパ全土、北回歸線以北のアフリカ及びアラビヤ、アジア大陸（印度、ビルマ、シャム東南支那を除く）日本（琉球、臺灣を除く）を含む廣大な地域で

此の地帶に分布する動物のうち特に北支那の長城に沿ふ各省及び蒙疆地方では羊・牛・山羊・馬・騾・驢を產し、山林廣野には虎・豹・熊・野猪・獺・狼・鹿類棲息し、甘肅・陝西地方には羚羊・貂・獐狍・山狸・灰鼠・黃鼠等がゐる。

鳥類は極めて豊富で鶴・鵰（鷲の類）・隼・鶻（鷹の類）・松鴉・沙鷄・長尾鵲・白鷺・黃鷺・主乾哥・山七面鳥・黃鳥・山老鴰・鐵雀等がゐる。

尙畜產として多く產するものは水牛・黃

牛・馬・驢馬・騾馬・山羊・緬羊・豚・鷄鴨等である。

魚族は河北省沿岸では關東州や山東沿岸と大差がない。

海產動物は鯛・鰳魚・比目魚・太刀魚・海老・蟹・茅渟・鯖・鱸・鯒・鰶・鰡・鱶・鰈・鱈・鱧・揚卷・鱆・烏賊・生子・淺蜊等である。

淡水動物は鯉・鮒・鯰・鼈・海老・蟹等が湖沼河川に多少棲息する。

【植物】北支の植物は中支と共にエングラー（Adolt Engler）の分類に依れば東亞植物區に屬する。この區系は南部は大體揚子江の南より北部は滿洲、ウスリーに及び日本では南九州より北海道千島の南部、樺太に及ぶ廣大な區域でその種類も多種に及ぶが、先づ北支に關係あるものを擧ぐれば大體次の如くである。

山東省――馬尾松・黑松・楡・楸・柞・椿・楊・檜・黃櫱・泡桐・胡桃・黃蓮木・槐・白松・梓

河北省――桐・馬尾松・黑松・檜・槐・楡・椿・楊・柳・麻櫟・穿天楡・栗・白松・樺・皀莢

山西省――馬尾松・黑松・槐・楡・楊・柳・栗・雲杉・胡桃・白楊・靑柳・椷・麻櫟・黃櫱・白松

次に農產としては小麥・大麥・高粱・棉花・玉蜀黍・煙草・大豆・甘藷・落花生・粟・黍・胡麻・菜種等であり果樹及び蔬菜としては梨・桃・杏・柿・柘榴・栗・苹果・花紅・葡萄・棗・櫻桃・白菜・蘿蔔・葱・菠・菠菜・蒜・辣椒・茄・蓮根・芹・菜・芋等である。

▼中支▲【動物】此の動物區は山羊・鹿・牛・狼・狸・栗鼠・野猪・雉・鵠・雷鳥等を特產物とし猩々・ギボン・印度象・孔雀・麝香猫等を代表種とする東洋區に南接する。

南支那及び日本の琉球、臺灣は東洋區に屬してゐる。從つて日本內地と特に異りたる動物を產しない。左に主なる棲息動物を列記する。

野生動物（哺乳類）―虎・豹・獺・狸・栗鼠・狐・野猪・兎・鼬・熊・鹿・猿・蝙蝠・蜻・豺

鳥類　野鷄・燕・啄木鳥・山雀・郭公・鷹・隼・麻雀・斑鳩・鴿・鴟・鳶・雉・鵲・鶺鴒・烏・鴨・雁・鷺・鵠・鷲

飼養動物（家畜）―牛・馬・驢・騾・羊・山羊・豚・犬・猫・水牛

家禽　鷄・家鴨・鵞鳥

水棲動物（淡水動物）　鯉・鰱・鱒・白魚・鯿・鰻・魴・鮎・草魚・鬪魚・烏魚・銀魚・雄黃・鰍・鯇・鱔・靑魚・泥鰍・蝦・蟹

海產動物　沙魚・帶魚・黃魚・銅盆魚・飯魚・七色魚・紅姑魚・大頭魚・老虎魚・墨魚・海豚・[illegible]・鯔魚・鱸・海蜇・鞋底魚・鰍・海蝦・鱛・白鰣・鯫・鰺

【植物】此の地方の植物は極めて饒多で幾多特種の固有屬の外にインド、ヒマラヤとの關係ある多くの分子を含み、又洪積期までは地續きの地方であつた日本西南部とも大なる關係あり、殊に重要なことは北米東海岸の分子をなす幾多の屬が此地方に存在することで、植物學上將來研究を要する問題と云はれてゐる。

支那中部地方は中井博士の說によれば、東南部地方に比し植物調査進み殊に四川・湖北は然りである。四川は面積廣く又山岳地帶のため植物の種類多く、湖北省は位置より云ふ植物地帶の中心地であるだけ支那特產の要素も甚しく多い。此等の植物は此省を中心として八方に擴散し行けるものと考へられる。

支那中部植物が最も盛んに分化發達を遂げた原因の一つは洪積期に於ける。氷河の影響が些少であつた事實である。氷河時代に南方より入つた各種の植物が獨自の發達をなし、現在見る如きフローラーの出現を見たのであつて、此の地方は支那固有の植物要素の發祥地として重大なる意義があると云ふのである。

便宜上通俗的に分布植物を列擧すれば次の通りである。

林野植物　松・柏・杉・櫟・朴・槲・槐・白楊・樺・漆・柳・梓・楓・黃楊・樟・黃櫨・側柏・扁柏・麻櫟・泡桐・公孫樹・椿・胡桃・樅・山毛櫸・竹類・皀莢・檜・黃檀・白蠟

農藝植物―稻・麥類・豆類・煙草・茶・桐・棉・麻類・薯・葡萄・枇杷・櫻・柿・桑・林檎・杏・柑橘・胡麻・楊梅・甘蔗・甜菜・瓜類・玉蜀黍・栗・高粱・黍・蔬菜類・牡丹・芭蕉・木犀・芍藥・海棠・梔子・薔薇・柘榴・山茶花・菌類・躑躅・木蓮・藤・梨・李・葵・落花生

▼南支▲【動物】琉球、台灣等と共に東洋區に屬し、海洋では印度太平洋區に屬してゐる。

此區域は熱帶及亞熱帶にありて所謂熱帶動物棲息し、卽ち哺乳類ではオランウータン・ギボン・擬猿類に屬するローリス・タルシウス・印度象・印度犀・印度貘・シエプロテン・虎・麝香猫・穿山甲等を產する。

本區はエチオピア區と動物相類似し、又嶺南及び雲貴高原の動物は同區內の印度、印度支那、馬來群島等と多少異るので、南支那區を設定さるべきものと考へられてゐる。本區には

孔雀・野鷄・白鷴・連角・九宮鳥・アルグス雉・大宮鳥・蕃鵲　等の鳥類

ヘビトカゲ・メクラヘビ・ニシキヘビ・コブラ・アヲハブ・アマガサヘビ・インドトカゲ　等の爬虫類、其他トゲ井モリの如き兩棲類

セビレナガナマズ・ウワコメギギ・アナバス・アムバシス　等の魚類を產し宛然熱帶色を現はしてゐる家畜、家禽類は中支と略同じである。

【植物】中井博士區分による東亞植物區系によれば雲南・貴州兩省は支那西南部地方へ、福建・廣東・廣西・香港・海南島・は中支那、江西・湖南兩省と共に支那東南部地方に屬してゐる。

西南部は卽ち雲貴高原であり、一二〇〇米以上の高地なるため緯度低き割に氣候温和であつて稀に見る植物の種類豊富な地方である。特に興味あることは東南部よりも寧ろ台灣の植物群に類似多きことは植物學上問題視されてゐる。

又此地帶には松柏類に多數の屬あるもウラジロマキ屬は唯一種で西南部支那と台灣に限られ、蘇鐵はその分布の西限を示して居り、クスノキ科も種類が多い。日本にあるボケ類は此地方の原產である。又ヒマラヤ山系の西藏方面と同じくシヤクナゲ類が世界で最高の分化をなし、常綠種が多く、春から夏にかけ美しく咲き亂れてゐる。モクセイも本地方の特產と稱せられ、リンダウ屬・サクラサウ屬等も著しく發達してゐる。

支那東南部は福建、兩廣及び中支の江西湖南を含む廣大な地域であるが、福建省は江西・湖南と共に中支の植物群と交渉深く兩廣地方は熱帶性植物に富み西南部地方との關係を保ちつゝ、佛印・タイ國・馬來台灣、ヒリッピンと連絡を存し、海南島は純熱帶性の植物を主としてゐる。

松・金錢松・水松・福建柏は西南部に少く、水松は此地方の特產屬である。柳は中支より減少し、ツツジ科も減少してゐる。ラウバイ科・キヤウチクトウ科は美しい花を開き、ツゲ科・ウルシ科・モチノキ類は種類が多い。單子葉植物ではシユロ科多く又タコノキ類も數種知られ、タケ科は南方系の種類を含み大形のもの多く、草本ではユリ科・ラン科に珍奇なるもの多く、イネ科は豊富で七〇屬にも達してゐる。

住民

【人口】支那の人口統計は國土の尨大なだけに區々不統一にして實數は詳らかにし得ないが一九三八年版中華年鑑所載に依る各省別面積人口は大體下表の如く略々該當せるものと見られる。

何れにしても世界總人口の約五分の一を占めて居り、その大部分は揚子江・黃河・珠江の中下流地方から海岸附近に多く四川盆地、渭水の盆地等にも稠密である。故に人口密度の過大な地方では盛んに國內・國外に出稼ぎまたは移民を試みる。北支の住民、特に山東の住民が苦力として滿洲に移住するのを始めとし、中南支の人々が華僑として印度支那・タイ國・南洋方面に出て行く數は夥しいものがある。

これ等支那の住民を形成してゐる種族は大別して漢族・滿洲族・蒙古族・トルコ族・西藏族であつて、この外に先住民族たる苗族がある。

省別面積及人口（中華年鑑一九三八年版）

省名	縣數	面積（方粁）	人口	密度（一方粁當）
江蘇	六一	一〇八、三三九	三六、四六九、三二一	三三六・六〇
浙江	七五	一〇三、〇五八	二一、二三〇、七四九	二〇六・〇一
安徽	六二	一三四、四二六	二三、二六五、三六八	一七三・〇七
江西	八三	二〇〇、二〇九	一五、八二〇、四〇三	七九・〇〇
湖南	七五	二三七、二三一	二八、二九三、七三三	一一九・三〇
湖北	六九	二〇七、六九二	二五、五四一、六三六	一二三・九七
四川	一四八	四三二、三〇九	五二、九六三、二六九	一二二・七九
雲南	一〇八	三三〇、〇五一	一一、九九四、五四九	三四・四七
貴州	八四	一七九、四七八	九、〇四三、二〇七	五〇・三八
廣西	九四	二一七、五七八	一三、三八五、二一五	六一・五三
廣東	九四	二一七、四〇四	三二、三八五、二一五	一四八・五〇
福建	六三	一五八、七〇二	一一、七五五、六二五	七四・一三
河北	一三〇	一五三、六八二	二八、六四四、七三七	一八六・三八
河南	一一一	一七三、七三八	三四、二八九、八四八	一九八・五一
山東	一〇八	一七九、二六九	三八、〇二九、二九四	二一二・一三
山西	一〇五	一五五、九三五	一一、六〇一、〇二六	七四・四〇
陝西	九五	一八七、三九四	七、七一七、八八一	四一・二〇
甘肅	六六	三七八、〇五九	六、七〇五、四四六	一七・七三
察哈爾	一六	二七八、九五七	二、〇三五、九五七	七・三〇
綏遠	一六	二九一、四三三	二、〇八三、六九三	六・八〇
寧夏	一〇	二七四、九一〇	一、〇二三、一四三	三・七三
西康	三一	三七一、五九九	九六七、一八七	二・六〇
新疆	五九	一、八二八、四一八	四、三六〇、〇二〇	二・三八
青海	一五	六九七、一九四	一、二九六、〇五四	一・七〇
合計	一、七七五	七、四八五、〇六三	四三〇、八〇三、五七八	五六・二三
西藏		一、二一五、七八八	三、七二二、〇一一	三・〇六
蒙古		一、六二一、二〇一	二、〇七七、六六九	一・二八
總計	一、七七五	一〇、三三二、〇五一	四三六、六〇三、二五八	四一・三三

アジヤ人種
- 崑崙（支那屬）
  - 漢族
  - 西藏族
  - 苗族
- ウラル・アルタイ族（シベリヤ屬）
  - 滿洲族
  - 蒙古族
  - トルコ族

○漢族

吾人が支那人と稱するものは實にこの種族であつて全人口中の九割以上を占めてゐる。その起源は明かに追求すること困難であるが、已に五千年以前に於て支那の西北方から黄河の沿岸に移住して漸次繁殖し、その先住民族たる苗族を南方に壓迫して初めは自ら「夏」と稱したが、發展するに從つて苗族始め各種の未開族を或は驅逐し或は同化して今日の大をなした。東洋史に散見する萊夷・除戎・百越・氐羌・群狄・群貊等はこれ等蠻族であり、多くは漢種族に同化された。支那人が自らを中國と稱し四方を夷狄（東夷・北狄・南蠻・西戎）とするのもこの民族史に基くものである。

【漢族の同化力】 漢民族の最も著しい特色は、他の民族から時に政治的に武力的に征服せらるゝことがあつても、文化的社會的には却つて之等征服民族を同化し抱擁して永い歴史を通して自己固有の文化を失はなかつたことである。

抑も漢民族の住地たる支那本土の邊疆殊に北邊は彼の廣漠たる滿洲・蒙古・新疆及び中央アジアの大草原である。この地方に住んで遊牧をこととしてゐた所謂遊牧民族が、氣候寒冷、地勢高燥、天惠頗る薄く、其生活上の必然性から慓悍にして一度鞭を擧げて南下すれば向ふところ敵なく萬里の長城も一朝にして奪取せられ黄河流域の豐沃な平原は忽ちにしてこれ等闖入者に占據せられ、酋長はこゝに國を建て、或は「元」と號し或は「淸」と號する。その從者は周圍の綠野千里の間に耕耘する漢人農業者の安定な生活を羨み、水草を追うて移住した過去の不安定な生活を脫してこゝに農業生活者と化する。彼等は慓悍であつたが何等の文化を持たない。一度漢族の文化に接し農耕の法を授けられるに及んでは、勇敢なる征服者は忽ちにして漢文明の心醉者となり二代、三代と年次を經るに從つて風俗、習慣血統等悉く漢民族に同化して闖入者たることも忘れ、祖先傳來の漢民族を以て自ら許すに至るのである。

最近の例を以てすれば滿洲族は數百萬の人數を以て三億餘の漢民族を殆ど三百年間も統御したけれども、漢民族は靜かに、絕えず、營々として山東・河北方面から滿洲に入り、淸朝の倒れた時には既に滿洲は明かに漢人種のものとなつてゐる。即ち當時の滿洲の住民一千六百餘萬人中、滿洲族はその一二割を數へられるに過ぎない狀態であつた。

それ故他の蒙古にせよ、新疆にせよ、彼等にとつてよりよき生活を營まれ得る處で交通の便のある處なれば、何處にでも往けないところはなかつたのである。

【漢族の發展力】 何故に彼等は斯くも發展力が强いか、その原因は種々あらうが、その第一は身體が强健で寒暑何れの氣候にもよく適應することである。

その第二は廣漠たる其天地から養はれたことゝ考へられるが彼等には國家とか、國境とかの觀念が海に圍まれてゐる日本人などに比較して甚だ薄弱である。涯しも知れぬ大平原に住む彼等は己れの住む所を以て中華と考へて居り、到る處が何れもその鄕土であると考へてゐるやうである。それ故に山東や東支那のやうに人口の密度が高く生活が困難になれば、相率ゐて滿洲や蒙古や諸外國に移民を企てる。而も海外に於ける政治的、社會的壓迫に堪へる力が强いので到るところに移民として成功してゐる。

然し一方から云へば衞生思想の發達しないこと、勞銀が廉くその生活程度が低いこと、移民先の風習に同化されないこと等の理由から嘗て盛んに移民した濠洲、南北兩米、南阿等では移民を拒絕されてゐるが、熱帶地方で白人の移住に適しないやうな處では盛んに活躍し、その海外にあるものは千數百萬人と稱へられてゐる。

殊に南支那の福州・厦門・汕頭・廣東等から年々出る華僑は盛んに印度支那半島・馬來諸島・比島等に移民しタイ國・交趾支那等の米作地においては懶惰な土人に代つて農耕に從ひ、マレー聯邦に於てはゴムの栽培に、錫鑛山に最も能率を擧げて勞働してゐる。

彼等は又頗る商利に長じてゐるのでシンガポールを始め、サイゴン米の集散地ショロン、さては砂糖生產の豐かなジャバアに於て頗る優越な地步を占め、その經濟的勢力は各方面に亘つて拔く可らざるものがある。

【漢族の特性】 自立獨行性＝極めて利己的であり、團結心に乏しく國家觀念が稀薄であることに支那人の特性として第一に擧げられる。これは支那人の社會的殊に政治的遠境が極度に惡いことに重大なる原因を持つ。即ち永い歷史を通じて政府は民衆の保護者ではなく搾取者であつた爲め彼等は自己以外に自己の生活を護るものを期待出來なかつた爲めに外ならぬ。この自立獨行性あるが故に日本人が國家の保護なくしては海外へ一步も足を踏み出し得ないで居るに對し彼等は國權の保護なくして自由に海外に發展するのである。併しこの特性は同時に支那の統一を妨げる結果にもなつて居る。

拜金主義　支那人はその社會的遠境の故に依り當然に、自己を護るものは金錢のみであると確信しこの故にこそ、その拜金主義的な勤勉努力の生活が營

まれ凡てを經濟化し轉んでも只は起きないと云ふ打算的な性質を持つて居る。國家的には弱い支那人が經濟的に極めて根強い力を持つて居るのはこの爲めである。

無感動性＝實際的に怜悧な支那人は感情的には極めて無感動である。從つてつまらぬ感情の浪費がない彼等はその生活力は一層強固である許りではなく、所謂島國根性の反對の大陸的な悠々迫らざる風貌を持つて居る。その反面この無感動性は外來文化に對する感受性の缺乏として現はれ、十六世紀以來西歐文化に接觸したにも不拘、日本が明治維新後半世紀の間に受けた影響の何分の一をも受けなかつた。この悠々迫らざる無感動性の中にこそ支那の國土の尨大性やその單調にして空漠たる風物の本質が表現されて居るのである。

事大主義＝以上の特性から支那人は自然と事大主義となり上部からの壓迫には「沒法子」（仕方がない）と言つて直ぐにあきらめる一面つまらぬ事にも所謂「面子」を尊重して相讓らぬと言つた矛盾した性格を構成するのである。

○滿洲族

一名ツングース族とも稱し二百萬乃至五百萬の人口を有する。古の金即ち女眞の同族であり三百年前淸朝を興したのも亦この民族である。

明代には吉林・黑龍江（舊）の兩省、遼寧省（奉天安東・通化）の東北部に住したが淸の勃興と共に多く支那本部に入り漢族と同化して殆ど自已の言語すら忘失するに至つた。

滿洲八旗と云ふのは淸朝の時滿洲族に男子が生れると八旗の兵籍に入れられ。丁年に及んで兵役に服し八旗兵となつたもので北京その他の主要都會に配置され守備に當つた。現在では殆ど漢民族に同化せられ、その純粹なものは滿洲の東北部に至つて僅かに見ることが出來るのみである。

○蒙古族

往時は黑龍江の上流地方に住み、遼や金を服屬して居つたが成吉思汗の起るに及んで遂に世界に名を轟かすに至つた。その住地は現時内外蒙古は、勿論廣く他地にも及んで人口大約二百萬と推せられるが昔時は比較的狹小な地域に限られ成吉思汗勃興以前には寧ろトルコ族の住地であつたのである。

大別して東蒙古人と西蒙古人とに分ち前者は東部蒙古に住んで通常蒙古人と稱せられ、カルカ人とも稱し成吉思汗も亦この族中から出た。今尚遊牧の民が多く移動住宅包に住む。東部內蒙古附近の蒙古人に漢民族化して半農半牧の生活を營んでゐる。

後者は衛拉特・瓦剌等の名を以て東洋史に散見するものでカルマク人とも稱せられる。西蒙古から新疆省の北部に住し一部靑海にも及んでゐる。生活狀態は前者と異らぬが言語が異つてゐる。

別に烏梁海族と云ふものあり蒙古の西北部唐努烏梁海地方に住み最近ソヴエートの勢力範圍である。他にブリヤト族があるがこれは滿洲東北部に住んでゐる。

○苗族

支那の先住民族であつて漢民族に迫はれて西南の山中に遁れ現在は主として貴州省を本據とし雲南にも尠くない。大和民族に迫はれたアイヌと類似した關係にある。多く農業を營み土地に依つては牧畜をも行つてゐる。嘗ては盛んに漢民族に抵抗したが今は從順である。

○西藏族

この種族は現今では多く農牧業に從ひ文化の程度は甚だ低い。農業者は土または石をもつて平屋根の家を造り大麥の煎餅を常食としてゐる。牧畜業者はヤク・羊等を飼養しヤクの毛で織つた黑色の天幕に住み四季によつて山地を上下して遊牧してゐる。

彼等の風俗中特記すべきは貧民階級における多夫一妻の奇風であり、富者はこれに反して一夫多妻のものが尠くない。

支那の西南部に住む西藏族は約二百萬と推定せられ古代の氐羌、唐代の吐蕃、宋代の西夏等史上に重要な位置を占めたものゝ後裔であつて、一般に熱心に喇嘛教を信ずる。

○トルコ族

東洋史上に匈奴・羯・柔然・突厥・回紇・結骨など種々の名稱を以て現れた諸族は大體に於てトルコ族であつたらうと云はれてゐる。

古人の「紫髯綠眼胡人」も亦この種族を指すものである。支那本部に住するもの尠なくこれ等は殆ど漢族化してゐる。纏頭回と稱するのはカシガル人であつて、頭部に布を捲きつけた回人の義である。天山南路（新疆）に最も多く職業の範圍も廣く回敎を奉じ純然のトルコ語を用ひ支那に於けるトルコ族の最も開化したのもである

キルギス族はまた歷史上著名なものであり、天山地方に住む。漢回と稱するのは甘肅・陝西等支那本部に住するもので漢族化してゐる。その他ロブール湖附近に住するものもあるが人口は極めて少ない。

【省別混血狀態】 支那の人口は複雜な體型の分布をみてゐるのであるが、主として比較的純粹であつた古代支那人に北方、西北方及び南方異民族の混血のためである。古代支那人は稍南方に住し後に北方にまで分布した。そして紀元初年頃から後代まで長く引續いて北方の萬里の長城に沿つてシュンヌ、ツングース、チアン等の諸種族と混血し紀元四、五世紀頃には可なりの變化を來した。又南方に於ても同様四、五世紀までに已にシャン、モンクメール、チベトビルマ人と混血が行はれてゐた。尙蒙古人との混血は遠く揚子江の南方にまで及んでゐる。

現代支那人は古代支那人に如何なる種族の血が混じたかを各省別に推定すると凡そ次の如くであるとなしてゐる。

河北省	朝鮮人、シュンヌ、ツングース、蒙古人、モンクメール
山東省	ツングース、蒙古人
陝西省	チアン、シュンヌ、ツングース、蒙古人、モンクメール
甘肅省	チアン、シュンス、ツングース、蒙古人、
河南省	ツングース、蒙古人、モンクメール
江蘇省・浙江省・福建省	シャン、モンクメール
湖北省	シャン、モンクメール、ツングース、蒙古人
湖南省	モンクメール、蒙古人
貴州省	モンクメール、チベトビルマ人、蒙古人
江西省・廣東省・廣西省	シャン、モンクメール、蒙古人
四川省	シャン、モンクメール、チベトビルマ人、蒙古人
雲南省	シャン、モンクメール、チベトビルマ人、蒙古人、ネグリト（矮小種族）

以上を要約するに現代支那人は廣頭狹鼻の古代支那人・狹頭狹鼻のツングース・稍狹き廣頭狹鼻のシャン・狹頭廣鼻のモンクメール及びチベトビルマ人等の混血によつて複雜な體型を形成し、それ等の各々の中心地は古代支那人は東部支那・ツングースは北部、シャンは西南部、モンクメールは南部、チベトビルマ人は西部、それに北部のシュンヌ、全部に亘る蒙古人等の血が混り合つて今日の支那人の人種的構成が出來上つてゐるものと云へやう。

政治

【概要】 五千年の歷史を通じて「統治はあつたが政治はなかつた」と言ふのが支那の文化史であり民族史である。夏殷以來天下を號する者十二、夫れ小邦に至つては百を以つても數へ得ざる程に、朝に夕に革命易姓を繰返し爲めに統治者は己の社稷の永久を願ふこと以外に何等の策なく、民衆は政治と游離して存在して來たのである。茲に支那民族の特性なる自立自衞の形が築かれ生活力が養はれ拜金主義が育まれた反面國家觀念は失はれ統一を妨げて來たのである。而して斯うした環境の故にこそ孔孟の所謂「先王の道」の敎も起つて來たのである。

中華民國の歷史は西暦一九一二年淸朝の滅亡の時に始まるが民國十七年（昭和三年）國民革命軍の北伐成り南京に國民政府を組織し國民黨に依る統一なるまでは奉天派・安徽派・直隷派等の北洋軍閥、或ひは廣東派廣西派等の群雄割據し國內戰に終始して居た。

民國十七年國民黨に依る統一は成つたが事實は孫文の遺訓たる三民主義は行はれず國民黨の專制であり、蔣一派の獨裁であつた。而して蔣は國內統一の名目として、反日思想を煽り抗日へと國民を指導する反面、その經濟を擧げて英米に依存するの擧に出でたゝめ遂に支那事變を勃發せしめ東洋史初まつて以來の大戰火が支那全土を蔽つた。

昭和十二年十二月北支に民國臨時政府、昭和十三年三月中支に民國維新政府が夫々樹立され、共に民主國家を恢復し、一黨專制を芟除して共產主義を排擊し、東亞の道義を發揚してその結實を圖る決心を表明し昭和十五年三月三十日汪精衞を主班とする南京中央政府樹立に至るまでの政務を行つて來たのである。

支那新中央政府の樹立を決定する歷史的中央政治會議は昭和十五年三月二十日南京に於て開催され、主席代理汪精衞以下「中央政治會議委員」として國民黨十名、臨時政府五名、維新政府五名、國家社會黨二名、中國青年黨二名、蒙古聯合自治政府二名、無黨無派四名計三十名が招聘され、三日間に亘り新政治體制の審議を進め、多大なる成果を收めて三月三十日新政府還都の成立を見るに至つたものである。

そして此の晴の日、國民政府改組還都の重大宣言と共に、新國民政府の政綱は發表され、新しき東亞建設への巨歩が踏み出された。

新國民政府の機構は法統繼承の原則に基き五院制を執り、別に各院と同列の「軍事委員會」を創設し、行政院の各部は從來の訓政期に於ける九部制を廢し、憲政實施に備へて十四部制とし、別に行政院に四委員會を設置せるものである。

要するに國民政府の改組は、各黨各派を基礎として「中央政治委員會」を設け、蔣介石時代の一黨專制の弊を根本的に排除したこと、從來政府と併立又は政治以上の權力を持つてゐた「軍事委員會」を政府の五院と同列に置き、戰時體制を抛棄し平常體制に還元した點などに重點があるものと見れる。

又新政府と既成政權との關係も決定されたが、これに依れば、臨時政府は「華北政務委員會」に改組され、維新政府は解消して中央政府に合體された。

かくて北支の臨時政府は、三月二十九日解散宣言を發し、國民政府成立還都の日、三十日に「華北政務委員會」として生れ變り、臨時政府の公務員はこの委員會に全員任用された。また維新政府では三月二十八日成立二周年紀念式典を擧げた後、翌二十九日を期して、臨時政府と呼應して解散の宣言をなし、公務員は中央政府に引繼がれた。新政府機構は最初五院一委員會五制をとつたが民國三〇年五月十一日治安工作の積極的進行を圖る淸鄕委員會を設置次で同八月十六日行政院の十四部五委員會制を行政力の結集を圖るため十部六委員會制に改めた。

【政府組織】

- 中央政治委員會
  - 國民政府
    - 立法院
    - 行政院
      - 內政・外交・財政／教育・軍政・海軍／司法行政・交通／宣傳・實業の十部
      - 振務・邊疆・僑務・水利／社會運動・經濟の六委員會
    - 司法院
      - 最高法院
    - 考試院
      - 銓叙部
      - 考選委員會
    - 監査院
      - 審計部
    - 軍事委員會
      - 參謀本部
      - 軍事參議院
      - 軍事訓練部
      - 政治訓練部
      - 調査統計部
    - 淸鄕委員會
      - 第一處（總務）
      - 第二處（政務）
      - 第三處（軍務）
  - 法制・內政・外交・軍事
  - 財政・經濟・教育各委員會

【十大政綱】

一、善隣友好ノ方針ニ基ヅキ和平建國ヲモツテ中國ノ主權、行政ノ獨立完璧ヲ求メ以ツテ東亞永久ノ和平及ビ新秩序ノ責任ヲ分擔ス

二、友邦各國ノ正當ナル權益ヲ尊重シ並ニソノ關係ヲ調整シ以ツテ友誼ヲ增進ス

三、友邦各國ト連結シ共ニ國際共產主義ノ陰謀及ビ其ノ他總テ平和擾亂ノ汚動ヲ防遏ス

四、和平建國ヲ擁護スル軍隊及ビ各地遊擊隊ニ對シテハソレゾレコレヲ收容安定セシメ且ツ國防軍ヲ建設シ軍政軍令兩大權ヲ明瞭ニ區分シ以ツテ軍事獨裁制ヲ打破ス

五、各級民意機關ヲ設立シ各界ノ人材ヲ網羅シテ全國ノ公意ヲ集中セシメ以ツテ民主政治ヲ助成ス

六、國民大會ヲ招集シ憲法ヲ定メ憲政ヲ實施ス

七、友邦各國ノ資本及ビ技術的合作ヲ歡迎シ以ツテ戰後經濟ノ回復ト產業ノ發展ヲ圖ル

八、對外貿易ヲ振興シ國際收支均衡ヲ圖リ並ニ中央銀行ヲ再建シ幣制ヲ統一セシメ以ツテ社會金融ヲ確立ス

九、稅制ヲ整理シ人民ノ負擔ヲ輕減シ農村ヲ復興シ難民ヲ救濟シ各ソノ生業ヲ安ンゼシム

十、反共和平建國ヲ以ツテ教育ノ方針トナシ且ツ科學教育向上ヲ圖リ浮華安動ノ惡風ヲ一掃ス

【華北政務委員會】 北支の有する防共・經濟上の特殊性に鑑み、河北・河南・山東・山西三省及び北京・天津・靑島三特別市管內に於ける防共治安・經濟その他國民政府より委任された政務を處理し、且つ管下省市政府を監督せしむるために設置されたもので、その中央政府に於ける地位は五院並に軍事委員會と同列の中央政府直轄の地方行政機關ではあるが、その使命に鑑み相當廣範圍な權限が與へられてある。機構は內政・財政・治安・教育・實業・建設の六總署と政務・秘書の二處があり、治安總署の外に中央機構として乃至軍事機構として治安軍として華北綏靖總司令部が北京に置かれ、總司令の下に治安軍剿共第一・第二・第三の各路軍・警防隊・縣警備隊・警察隊　陸軍軍官學校等の軍事勢力がある。

【蒙古聯合自治政府】 昭和十二年十一月二十日成立した蒙疆聯合委員會に出發し昭和十四年九月一日蒙疆中央政權として樹立された蒙古聯合自治政府は主權的には國民政府の傘下に入つたが、蒙疆の特殊事情に鑑み高度の自治が許容されて居る。

【日滿華共同宣言】 東亞新秩序の政治的發足とも言ふべき日滿支の新國交關係は昭和十五年十一月三十日南京に於て阿部大使、汪首席、臧滿洲國代表との間に日滿華共同宣言として調印され又日華間基本條約も成立した。

日滿華共同宣言

大日本帝國政府、滿洲帝國政府及中華民國政府ハ三國相互ニ其ノ本然ノ特質ヲ尊重シ東亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序ヲ建設スルノ共同ノ理想ノ下ニ善隣トシテ緊密ニ相提携シ依テ東亞ニ於ケル恒久的平和ノ樞軸ヲ形成シ之ヲ核心トシテ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ希望シ左ノ通宣言ス。

（一）日本國　滿洲國及中華民國ハ相互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重ス

（二）日本國　滿洲國及中華民國ハ互惠ヲ基調トスル三國間ノ一般提携、就中善隣友好・共同防共・經濟提携ノ實ヲ擧クヘク之カ爲各般ニ亘リ必要ナル一切ノ手段ヲ講ス

（三）日本國　滿洲國及中華民國ハ本宣言ノ趣旨ニ基キ速ニ約定ヲ締結ス

昭和十五年十一月三十日、卽ち康德七年十一月三十日、中華民國二十九年十一月三十日南京ニ於テ

尚十六年八月末日迄に於ける承認國名及承認日は次の如くである

國名	承認日
日本	一五、一一、三〇
滿洲國	一五、一一、三〇
ドイツ	一六、七、一
イタリヤ	一六、七、一
スペイン	一六、七、一
ハンガリヤ	一六、七、一
ブルガリヤ	一六、七、一
ルーマニヤ	一六、七、一
スロバキヤ	一六、七、一
クロアチヤ	一六、七、一
デンマルク	一六、八、一八

政治及文化團體

【中國國民黨】 中國國民黨は一九〇五年孫文等が東京に於て結成した中國革命同盟會に胚胎するもので一九一一年武昌に於ける革命の成功により民國となり國會が設けられ、茲に公黨たる國民黨が結成され、爾來幾多の變遷を經て、廣東地方に地方政權としての國民政府を建て、共產黨との合作下に一九二六年北伐に成功し、共產黨との合作を離し南京

に統一政權たる國民政府を樹立、國民黨の一黨專制を確立したのであるが、蔣介石の軍事獨裁と西安事件後の共產黨の工作に毒せられ、孫文の唱導せる大亞細亞主義を忘れ、黨是たる民族革命の理想たる三民主義をも曲解するに至り、日支事變の不幸を惹起したのである。

仍つて重慶を離脫せる汪精衞は一四年八月二十八日上海に第六次國民黨全國代表大會（六全大會）を開き汪を中央執行委員會主席に推戴し、重慶國民黨に解散を命ずると共に黨綱領を修正し和平反共の大方針を宣明し、更に從來の一黨專制を廢し各黨各派と協力するの態度に出で純正國民黨と各黨して再出發したのである。良かれ惡しかれ國民黨三十年の歷史は支那民衆の中間に根强い地盤を占めて居り、今後の新中國建設にも同黨の指導力が强く發揮されるものと見られるから今後の動向が注目される。

組織表

中央黨務委員會—省黨部—縣黨部
—特別市黨部—普通市黨部—各區黨部

【新民會】新民會は舊臨時政府の政治スローガンたる大學の「明德を明かにし民を新にする」の倫理的方針の宣布機關として設置された思想乃至文化團體で、事變後の北支の治安文化の基礎工作に多大の足跡を殘したが更に二次的建設工作のために昭和十五年三月一日を以て軍宣撫班と統合、茲に大新民會として誕生し、更に十六年五月大改革を行ひ其組織機構を一新し華北政務委員會と表裏一體の關係に於て王道の實踐・新組織體の結成・民衆の把握・新民思想運動の徹底等を目的として再建中國の一元的工作への態勢を整へて再發足をなすに至つた。而して本會の綱領は左の如くである。

一、新民精神を發揚し王道を顯現す
二、反共を實行し、文化を復興し平和を確立す
三、產業を振興し人民生活を改善す
四、善隣締盟以つて東亞新秩序を建設す

會務執行機關として中央に中央總會、地方に省總會五、道辦事處二三、特別市總會三、市總會七、縣總會三六三、特殊地區總會特殊總會三、駐日辦事處一（昭和十六年六月現在）にして主なる工作內容は次の如し。

一、防共新民主義の徹底敎化啓蒙　二、分會を基礎とする會組織の擴充と活動　三、聯合協議會に依る政治の援助並强化　四、思想再建と自衞能力增加の爲青少年の訓練所開設　五、選拔青訓生の日本留學生派遣　六、模範農村の設置、建設　七、合作社の組織輔導　八、農村道場の開設に依る農業經營方法改善指導　九、農村醫療所の設置と巡回醫療班の派遣　十、新民茶館の開設　十一、勞工協會の設置により勞働力斡旋、統制　十二、體制運動に依る體育の向上と指導方針の確立　十三、婦女會組織　十四、自衞團、保甲制度の組織强化　十五、職業の斡旋指導　十六、日華語學校檢定試驗制度實施

組織現況左の如し。

會長には民國二十八年十二月に至り王克敏の就任を見、超へて二十九年三月王揖唐と交替したが、爾後華北政務委員會委員長が歷代就任するものと見られてゐる。

分會數　農村分會二三〇四、商業分會五八六、職工業分會五八、敎育分會二九六、官吏分會五六、宗敎分會五六、計三五四八、

會員數　正會員一四八三五二、協贊會員五二五七〇五　計六七四〇五七人
青年團員二〇〇二八三、少年團員一三六八五〇、少女團員三〇六三五、婦女會員五三七〇〇　自衞團員一八六三五八八

會務職員　計四八七三（日系一九七六、華系二八九七）
內譯中央總會三五〇（日系一五四、華系一九六）地方總會四五七三

新民會組織表

- 會長
- 副會長
- 顧問
- 專門委員
- 參議
  - 全體聯合協議會
  - 中央委員會＞事務局
  - 庶務室
  - 事務總部
    - 人事局
    - 主計局
    - 組織部
      - 組織科
      - 經濟科
      - 宣化科
      - 厚生科
    - 連絡局
  - 研究資料室
  - 弘報室
  - 監察部
    - 監察室
    - 調査室
    - 審計室
  - 中央訓練處

產業

支那は產業から見れば完全な農業國である。尤も西部高地の半乾燥地方には牧畜を主たる業としてゐる住民もあるが、近代國家の特徵とも云ふべき工業殊に重工業の發達は、未だ甚だ幼稚な段階にとゞまつて居り、全體としてみる支那の產業發達は近代國家の水準に達してゐない。

【產業不振の原因】由來支那の資源に對しては世界各國共異常な關心を以てこれに

注目し、支那自身も亦地大物博を以て任じて居り、西洋諸國の對支通商要望は遂に更刻なる利權獲得競爭にまで發展したのである。然るに近年支那に於ける多數民衆が極端なる貧窮狀況に陷り而も近き將來に於てこれが恢復の期待を持ち得ざる有樣であつたのが事變前までの狀態であつた。

即ち全人口の約八割を占むる農民の徹底的疲弊を始めとし、商工業も著しい不振に陷り土地の尠からぬ面積がソビエト區域に變じ國內には無數の貧民が充溢するに至つた。而も貿易上に於て農業國でありながら食糧品の輸入が毎年莫大な額に上り、また工業品の輸入も依然多く一方輸出方面に於ても連年輸出市場の梗塞に惱まさるゝに至つてゐたのである。

凡そ支那は古來極端なる農本主義を採用し農を以て立國の礎となし來つた國で、今日でも支那經濟社會全般の基底的要素をなしてゐるのである。而も人口は多いとは云へ未だその面積に比し必ずしも過剩の域に達しないにも拘らず、國民の主要食糧品たる米及び麥を始めとし砂糖その他食糧品の供給を外國に仰いでゐるのみならず棉花、石炭及び石油その他の原料天產品をも外國より輸入してゐる狀態である。

豐富なる資源を有する支那の產業が今日まで發達しなかつた原因は幾多存するであらうが、今これを概括すれば

第一に舊國家の施政宜しきを得ず未だ中央集權的體制を採り得ず政治的に紊亂してゐたこと。

第二に交通發達せざるため各地の經濟的發達が阻害されてゐた許りでなく、地方の發達はその程度を異にして孤立性を維持してゐたこと。

第三に經濟組織上に缺陷の多いこと

等がその主なる原因をなしてゐたものと云ふことが出來る。

【今後の問題】支那の如き農業國では大體農業を盛にし農民大衆の生計を向上させるのは勿論必要のことだが、漸次資本の蓄積吸收を計つて支那土着工業の勃興を助成するの必要がある。これによつて又農業にも國內市場を確保する指導的立場が生れてくる結果となり蒞いては日本が、外國から搾取されない土着工業の興るを援助して、從來ソ聯の赤化工作や或は英國の搾取的植民的政策の立場から行はれて來た段階とは全く違つた新しい民族產業勃興の指導的立場が生れてくるのである。

一口に支那と云つても北支と中支とは經濟工作上の見地からは一應別々に考へねばならないが、北支は天然資源の關係から云へば割合に鑛業資源が豐富であり、中支は農業資源が多い。

北支はその上地理的關係もあつて日本と提携してブロック的經濟建設を助成して發展せしめて行く可能性が多く、重工業や化學工業を中心とした大產業部門が盛になるものと思はれる。

中支は貿易の中心地でもあり紡績とか、蠶絲業、製粉、雜貨業とか云ふ輕工業方面が盛になることが豫想される。然し中支にも鐵鑛石が相當豐富で又軍需的な輕金屬類もかなり多量に埋藏されて居り、その上揚子江岸にあつて船便の都合よく、かうした鑛工產業も勃興する可能性も亦充分にある。

然しさう云ふ產業開發の前に復興の第一着手として通貨と金融部門に於てこれまでのやうに、英米の資本に依存しない新しい親日的な獨立の幣制と金融機構を代表する機關として既に北京に中國聯合準備銀行あり、上海には華興銀行の設立を見、又南京に中央儲備銀行が創設され急速度に通貨、金融の統一工作は進みつゝある。

產業開發に對しても金融的援助機關が必要とされるのであるが、今北支と中支とに夫々產業開發及び振興の兩國策會社が登場して、幾多の子會社も動員し具體的な事業にとりかゝつた。又民間の支那銀行も日本及び外國の銀行も次第に新情勢に順應して夫々積極的に機能を發揮しつゝある。

【北支產業開發三年計畫】北支最高當局では修正日滿產業五ヶ年計畫に合致せしむべく昭和十四年六月を第一年度とする北支生產力擴充產業開發三ヶ年計畫を樹立しこれが實行に邁進することゝなつた。本計畫の大綱は資金十四億圓、鐵道に戰前三千七百キロを五千キロに、港灣戰前七百二十七萬トン吞吐能力を二千五百萬トン吞吐能

力に、曠戰前百十萬トンを二千五百萬トンに、棉花五百萬ピクルに其他鐵・石炭・石炭液化等に劃期的開發を爲し生産の擴充をはかるもので、これが實現は日滿を含む新東亞建設の産業的基礎と實力を築くものとして各方面から多大の期待をもつて注目されてゐる。

【北支開發株式會社】【中支振興株式會社】 兩社共に支那に於ける産業開發經濟振興の投資及統制に當るため昭和十三年十一月七日夫々法律によつて創立された國策會社で資本金は北支開發三億五千萬圓、中支振興一億圓北支開發は北支に於ける鐵道・港灣・道路・內國水路等の交通・有線・無線電信電話・放送等の通信主要發送電・鐵・石炭・液化・石油等・鑛産及鹽工業を統制事業とし中支振興も中支一帶の交通・通信・電氣・瓦斯・水道鑛業・水産の諸事業を統制事業として居る。

昭和十五年末現在北支開發は關係會社二十一社投資總額二億三千九百萬圓、中支振興は關係會社十三投資額合計五千四百四十二萬圓である。

農　業

【耕地・農家】 全人口の八〇%が農民で人口極めて稠密であるために、農法は極度に集約的となり、吞農が大部分である。併し土地の利用は甚だ進み、例の階段耕作や灌漑耕作が比較的發達してゐる。

大體支那の統計は不完全であるが、支那本部だけの耕地は七千萬陌乃至九千萬陌と稱され日本の約十一倍に當る。全面積に對する耕地も一八%乃至二五%位になつて居り日本內地よりも大きいのである。そして最大の耕地は北支那平野・揚子江三角洲・湖廣低地・四川盆地・珠江三角洲等にある。

又支那本部の農家戶數は約五千六百萬と見られ、日本內地の十倍に當る。一戶當りの耕地は一、一六陌で日本內地の一、〇六陌よりは少し多いが日本と同じやうに小農で勞力を集約的に用ひる所謂園農が行はれる。

【農業不振の原因】 農業不振、農村疲弊の原因として次の如きものがあげられる。

一、外來的原因　近年支那の農村も自給自足を漸次脫して農産物を商品化した。然るに最近の國際貿易が萎縮したゝめに支那農産物の國際市場も縮少した而も外國食糧品のダンピング等もあり之等の事情が農村破壞を招來した。

二、內在的原因　主要なるものとして次の如きものがある。

1 土地の缺乏　人口過剩にして而も地主が土地を壟斷してゐる。
2 生産の減退　農具・農法の幼稚と失敗や土地の分散・天災・人禍等がこの原因である
3 金融の枯渴　支那の資本は大都市に集中し、田舍はその便が少く且極めて高利である。
4 封建勢力の壓迫　田賦の激增・地價の低落・土地の兼併・農産物價格の人爲的操縱等が之である。
5 交通設備の貧弱　有無相通じないので一方で供給過剩、價格低下が起つてゐるが、他方では飢饉が生ずること多い。

【支那の農業地域】 ウイツトフオーゲルに從へば支那本部は次の如き農業地域となる。

一、西部及北部の國境地域　雨量が不充分で荒蕪地、草原となつてゐる所では灌漑によつて小麥、黍作が可能となる。

二、本來の北支那　之は次の二つとなる

1 西部　溫帶で雨量は少い。山岳の黃土地は大部分灌漑され得ない。西北部の谷間には沖積土や薄い黃土がある。
2 東部　大平野があり灌漑が行はれ小麥、黍が栽培される。

三、中支那　大平野は沖積土又は黃土で、補足的灌漑が行はれ、米を主産物とする。

四、南支那　米の二期作が行はれる。

五、西南支那の蠻民諸省　氣候區々としてゐるが主に溫帶的、亞熱帶的である。灌漑を伴つて米作が行はれるが農業には殆ど重要ではない。

農　産　物

氣候の關係で農産にも地方的な相違がある。北支那には高粱・粟・小麥・玉蜀黍・豆類・煙草・棉花等が多く栽培され、中央支那では米を第一として棉花・茶・麻・煙草

の栽培が行はれ、南支那では茶・甘蔗・柑橘類・バナナ・パイナツプル等を産し、養蠶は中南支共に行はれてゐる。

【米】 中南支の氣候は年平均一五度乃至二〇度で、大體一・〇〇〇粍乃至二・〇〇〇粍に及ぶ雨量の季節的分配も比較的平均し、而も中支以南の土壤は河川によつて作られた沖積土壤である爲、四川・湖南・江蘇・湖北・安徽・浙江・廣西の七省には水田が多く、米は支那農産物の首位を占めてゐる。

米は住民の主食物となつてゐるが、人口の極めて多いこと、從來の政治的不安定、栽培技術の拙劣等のために供給は常に需要を充すに足らず、防穀令を以て輸出を禁じてゐた許りでなくビルマ、佛領印度支那等から年々輸入を仰いでゐる狀態である。米産額の確實な數字を知ることは出來ないが大約六千萬噸と云はれてゐる。

【茶】 製法によつて綠茶・紅茶・磚茶の別あり、輸出は綠茶が最も多く、蘇聯・英佛米等に向けられてゐた。

茶は支那輸出品中重要なるもの、一つをなし、又自國內で消費される額も莫大で、上下の階級を問はず喫茶の習慣あることはその程度日本の比ではない。斯くして到る處の都市には大小の茶館・茶亭が設けられ、茶は支那人生活と離すべからざるものとなつてゐる。

産地は溫暖な南東部の丘陵地、殊に浙江・湖南・湖北・福建・江西・安徽・廣東等の諸省に多く、産額は大凡二十五萬噸と推定され世界の首位にありうち約三萬七千噸を輸出してゐた。

【棉　花】 東經一一〇度から以東北緯二〇度以東に栽培され、江蘇・河北の兩省が生産地で、産額約六十八萬噸乃至八十五萬噸に及び米國・英領印度に次いで世界第三位を占めてゐる。纖維が短くて良質ではないが、國內に於て多く需要され、日本にも相當額輸出されてゐる。

【粟】 河北・河南・山西等北支諸省に多く産し地方民の主食糧品の一つである。

【玉蜀黍】 河北省を第一とし河南・山東・山西陝西地方に多く四川省にも作られてゐる。

【高　粱】 山東河北等の北支平野に多く産し天津に於て集散されてゐるが、近年滿洲からの輸入額が次第に多くなつてゐる。

【小　麥】 夏小麥、冬小麥の二種あり、前者は主に綏遠・察哈爾・河北省北部等に、後者は山東、河北省南部等より産し、天津に於て取引されるためそこに北支最大の穀物取引市場を作つてゐる。

【大　豆】 山東省を第一にして河南・河北の北支平野に多く栽培され、中支の江蘇・安徽の兩省からも少からず産する。滿洲國と共に世界最大産出國の一つであるが輸出能力はない。

【落花生】 廣く各地に栽培されてゐるが殊に山東、河南、廣東及び河北の諸省に多く、食糧用、製油用として國外に輸出される額も尠くない。

【煙　草】 全國に亘つて栽培されてゐるが、北支では甘肅・河南・山東・中支では安徽・浙江・江西・湖南・湖北・四川・南支では福建・廣東・廣西の諸省が主産地である。

【麻　類】 苧麻(ラミー)・大麻・亞麻等があり苧麻が最も多く、揚子江の流域を主産地として九江漢口は共にその輸出港である

【繭】 日本に次いで世界第二位を占め、中でも浙江省最も旺んにして廣東・四川・江蘇の諸省之に次ぎ、浙江・江蘇の繭産額は全支の四割を占めてゐる。殊に兩省境太湖の周圍一帶に行はれ南京・鎭江・無錫・蘇州・杭州・上海等の製絲・絹織物工業の都市を生ぜしめてゐる。かくて生絲と絹製品は支那の主要輸出品となつてゐる。

尙山東省は支那全土中で最も多額の柞蠶絲とこれによる繭紬とを出してゐる。

【果　實】 山東の棗、河北の梨、山西の葡萄、福建の柑橘等が代表的のものである。

【其　他】 棉實・亞麻仁・菜種・胡麻・蘇子・草麻・甘蔗等を多額に産する。

◇全國及西南各省合作社數

省別		民國二五年	同二六年	同二七年
全國		三五、二二六	二八、四四九	四八、九四〇
西南四省	四川	六一、四三三	二、三七四	六、六〇九
	貴州	二五	一、四八七	—
	雲南	四	一二九	—
	廣西	六	二〇	—

甘肅	一九	六一	三〇	寧夏	一八	六八	一四
青海	一九	五一	四〇	陝西	一八	六二	三二

◇農産物の收量と百分比

一九三六・一九三八（單位千圓）

	戰前の收量（三六年）	戰後の收量（三八年）	戰後と戰前の百分比
米穀	一、〇三三、〇三	八二一、二三三	八一%
大麥	四六三、三五三	二〇六、四八[illegible]	四五%
小麥	一四八、二四二	九五、一〇二	五八%
粟	一三五、四八七	二六、四四一	二〇%
大豆	一一九、七三一	四一、三六二	三四%
高粱	一五三、八〇九	二六、一七〇	一三%
甘藷	三五四、四三五	二六六、七五八	七六%
棉花	二〇、七二六	五、五〇六	二九%
落花生	五五、三三三	二三、二九一	四二%
煙草	一三、〇一〇	八、八七一	六八%

◇各省自小作農の分布（民國二十六年度）

省別	小作農（%）	自作農（%）	半自作農（%）
四川	五三	二四	二四
廣東	四七	二一	三二
浙江	四五	二五	三〇
貴州	四四	三二	二四
湖南	四四	二七	二九
雲南	四三	三二	二六
福建	四三	二六	三一
江西	二八	二七	二五
湖北	三六	三九	二五
廣西	四四	四一	二五
河南	三〇	四八	二二

◇農産物作付面積（單位千畝、但全土總計のみ下田氏による）

	小麥	米	大豆	高粱	粟	大麥	玉蜀黍
河北	三一、三三六	六〇一	九、八〇五	二一、六五九	二四、三三〇	三、九四三	一五、五〇三
山東	四九、六八八	一九六	二九、九一六	三三、三三九	一一、一五六	三、六七〇	五、九八三
河南	五九、五三八	四、〇二九	一四、三五二	一五、四三九	一九、二三〇	一〇、三七三	八、六三六
山西	一六、五三〇	二九九	三、二四八	九、八一四	一八、四二九	二、一三九	四、〇六五
陝西	一四、八二九	二、九一三	二、二〇四	一、九八三	四、九四一	三、一七六	三、七七二
甘肅	八、六五九	四四九	一、二九四	一、五三一	三、五五四	二、五一三	一、三八七
江蘇	四二、一二七	三一、六四一	一九、三三二	六、七三六	一、五七五	三、二一〇	三、九三六
安徽	二一、二九五	二三、三三一	八、八四三	五、〇五三	四二九	七、一四〇	五〇七
浙江	八、九九六	二七、九八二	二、九三〇	一三一	五九五	四、五六六	一、一〇五
江西	四、三八九	三三、一九〇	四、六一八	一四二	七六〇	二、三二五	六〇
湖北	一八、七四八	二四、四五二	五、二六〇	三、六五九	二、二七〇	一〇、三三四	六、五三八
湖南	三、四四四	二六、四九〇	二、九六三	一、四六五	八一三	一、九八四	一、七九〇
四川	一八、四三[illegible]	四五、七四七	七、五九九	五、五四四	九八四	八、三三六	三、七五一
福建	四、〇二七	一三、六五五	一、六三九	一九	一、〇五九	六九八	—
廣東	一、一九九	五三、三七一	一、五六二	一七八	七九五	三四〇	一四二
廣西	—	—	—	—	—	—	—
雲南	四、四四三	一三、六五五	二、六七一	七一八	六四三	二、〇四七	三、八八八
貴州	二、六四五	一一、九三四	二、三〇八	六六〇	六九一	一、九三二	三、一七六
支那本部計	三〇一、三〇〇	三〇一、八一五	一三〇、五四六	九六、九七三	一〇三、三二四	八七、四〇五	七三、一三八
察哈爾	一、六四〇	一五八	一、〇二五	一、六五三	三、三五〇	六六四	四一八
綏遠	二、六七六	—	—	一、九九七	四、一〇九	九七四	五一
寧夏	五〇三	三四八	七八	一〇九	二三六	七八	一七
新疆	四、七一〇	一、六七六	一四九	七四七	三三四	六三六	二、六三八
合計	一九、六五〇	一九、二九三	七、四八二	六、二三五	六、七七四	五、五二四	四、六八六

◇農耕地と農家（下田氏に依る）

	一九一八年耕地 千畝	總面積に對する%	張氏調査耕地 千畝	總面積に對する%	農家戸數 千戸	總人口に對する%	一戸當り耕地 陌
河北	五、八二三	三九・六	六、三五四	四五・四	四、二三三	八六・五	一・四〇
山東	六、八五三	四四・六	六、七九九	四四・一	五、九一八	八八・九	一・一六
河南	八、六〇二	五〇・六	六、九四〇	四〇・八	五、〇六一	八四・〇	一・三五
山西	三、〇六一	一九・〇	三、七二〇	二三・〇	一、八七四	八二・八	一・九六
陝西	三、二二五	一六・五	二、〇五七	一〇・五	一、三八四	七三・〇	一・四七
甘肅	一、六四〇	四・三	一、四四四	三・八	七九三	七三・七	一・八四
江蘇	四、五四六	四三・〇	五、六三二	五三・三	五、〇三六	七八・五	一・一〇
安徽	六、二六〇	四三・七	三、二八七	三二・九	二、六八二	八〇・八	一・一三
浙江	三、〇七二	三〇・四	二、五三二	二五・〇	三、一六四	六九・四	〇・七九
江西	五、九五三	三五・四	二、五五七	一五・二	三、二九二	六六・六	〇・七九
湖北	九、四九二	五一・六	三、七四八	二〇・三	三、九五九	六九・六	〇・九二
湖南	八、三三一	三八・七	二、八〇三	一三・一	三、八九九	七〇・四	〇・七三
四川	九、三八一	三三・二	五、九一六	一四・六	四、九七五	六八・五	一・一六
福建	一、九八四	一六・四	一、四三〇	一一・八	一、六〇五	七一・一	〇・八六
廣東	五、七〇七	二五・五	二、六〇八	二一・六	三、四七九	六三・七	〇・七三
廣西	四、八六六	二一・九	五、二二四	二一・九	二、二二六	—	二・三三
雲南	一、五九七	四・〇	一、六六〇	四・一	一、三八三	七一・一	一・二三
貴州	五〇九	二・八	五八四	三・三	一、一九三	六七・五	一・一六
支那本部合計	九〇、八五八	二四・八	六五、二〇九	一七・八	五三、九六八	七四・三	一・一六
察哈爾	七一九	四・〇	一、〇三四	四・〇	三〇九	七八・四	三・三二
綏遠	三一三	三・八	一、一四五	三・七	二四九	六八・〇	四・六〇
寧夏	—	〇・四	一三三	〇・四	五四	七一・三	二・二七
新疆	六五七	〇・五	八四一	〇・五	三四四	六二・二	二・四五
合計							

三　林　業

西南部の人口稀薄な山地には大森林があるが、人口稠密な地方では森林は極めて少い。殊に北支や蒙古、新疆等には森林をみることは稀であり總じて林業は不振である。

支那の山野も決して昔から樹木が無かつたわけでなく秦・漢の時代以前には森林制度が整備してゐたと云はれる。併し元來支那人には森林經營の考へが無かつた上に、永年惡政の影響で政府の施設殆ど行はれず、自然のまゝに放置されて居り、其間に濫伐山火事が續いたので森林は全く荒廢してしまつたのである。

斯くて今日では中南支の一部を除いては木材の產が少く、所要材は殆ど外材に仰いでゐる。

一般樹木の外支那林產中の特產加工品として次のものが擧げられ藥用、塗染料などに供されてゐる。

桐油・五倍子・甘草・大黃・木耳・漆・木蠟・茶油・八角油

◇各省森林地面積表（單位千畝）

省名	森林地	宮林地	省總面積に對する割合
甘肅	三四、二二七	一三一、三九七	三三・〇
寧夏	一八、一四七	一一七、九五五	二六・〇
陝西	四六、八一八	七〇、三二七	二四・〇
山西	一四、五六五	八二、五三九	一四・〇
河南	一、五四九	七五、九二〇	一九・四
山東	一、六一三	六七、五五五	二九・三
河北	一、八九七	六一、三三九	二九・一
四川	二〇五、八五三	九〇、八一七	一五・〇
舊察哈爾	二、三三九	二一〇、二五五	二八・四
舊綏遠	三、六四八	一三九、一七七	二九・三
江蘇	四、一一八	二七、五六五	一七・四
安徽	一〇、七〇一	五三、五〇八	三五・〇
浙江	二二、一二七	三一、八三四	二一・〇

湖南	六二、四〇五	一〇〇、一八八	五一・〇
江西	四〇、三六三	六八、一三六	二七・〇
湖北	三五、五二一	七四、七五五	二七・〇
南支五省	二四四、〇八四	五四三、四一四	一

二 牧畜業 二

北部及び西部の高原地方には、風土に惠まれないから農業が出來ず、專ら羊・馬・騾・驢・駱駝・犂牛等の遊牧が行はれてゐる處である。支那本部に於ては山西・陝西・甘肅の諸省の大部分は牧畜地帶をなし羊・山羊・牛・馬・驢・騾・豚・駱駝の飼育が盛んに行はれて、羊毛・駱駝毛・皮革等を出し、これ等は天津に運ばれて輸出され、その額は少くない。東部低地一帶は殊に豚と鷄との飼育が盛んで、其他牛・馬・羊・等の飼育も行はれる。

尚一九三五年の推定頭數は大體左記の通りである。

豚	六千三百萬頭
馬	〇〇百萬頭
牛	二千三百萬頭
水牛	一千二百萬頭
緬羊	二千二百萬頭
山羊	二千萬頭

【豚】 各農家で之を飼養しないものはない程で肉は漢人の最も好むところ、豚毛は支那重要輸出品の一をなし、漢口・天津がその輸出港である。

【牛】 漢人は之を食用とせず主に農耕・運搬に供される。蒙古人は乳を用ひ、回教徒は肉・乳を食用とする。牛皮・水牛皮も亦重要輸出品で、上海天津から日本・米國に向けられ、生牛の輸出は日本に來る山東牛で有名である。

【羊】 大約四千萬頭の羊・山羊のうち内外蒙古の一千三百萬頭新疆の四百六十萬頭、青海の七十萬頭を差引くと支那本土だけで二千萬頭内外となる。支那の羊は所謂在來種で採毛量が少く、濠洲羊一頭平均採毛量八・六封度に對し二封度—三封度に過ぎない。

一九三四年には五萬一千噸の産額があつたと云はれてゐるが之は濠洲の四十五萬噸に比し略九分の一に當る。

二 水産業 二

【漁業】 支那の漁場は渤海より黃海、黃海より東支那海、東支那海より南支那海に亙る三區と內陸の淡水漁區であるが、國土の大に比して海岸線短く且つ漁政の不備と往年海賊の横行によつて斯業の發達を阻害されてゐた。國民政府となつてから漁業法規の制定・漁區の設置・一般水産業の保護獎勵計畫等により幾分進歩の跡はあるが、著しき實績は擧つてゐない。殊に北支は中南支に比し海岸の屈曲少く、島嶼にも乏しく且つ河川湖沼の分布も極めて尠きため成績甚だ擧がらざる狀態である。

又中支は黃海より東支那海に亙り海に瀕し、海岸線は揚子江口以北を除きては屈曲甚しく海灣島嶼に富み好箇の漁場をなし、內陸は揚子江・錢塘江等の大河及び洞庭・鄱陽・洪澤・太湖等の湖沼多く淡水魚の棲息亦尠からざるも之又他の産業に比して盛大ならざるは漁法の幼稚、大陸の面積に比し海岸線の短きこと、鮮魚の輸送圈の狹小なること等其の原因をなし大多數の人々は獸肉及び鹽乾魚の輸入品を副食地となす狀態である。

◇沿海各地方漁獲量

	漁獲量（擔）	價格（元）
山東省	一、五九二、四五〇	一四、三九〇、三五〇
河北省	四四八、八八〇	五、二五〇、〇〇〇
青島市	七一、五七五	六五一、〇八六
計	二、一一二、八二四	二〇、二九一、四三六
江蘇省	二、九五六、七〇九	三九、八四八、二〇〇
上海市	一、四六六、三七七	一六、五九一、一七三
浙江省	四、八八四、一〇一	五八、八九〇、〇〇八
計	九、三〇七、一八七	一一五、三二九、三八一
福建省	五、七九三、六二四	一七、九三三、〇八六
廣西省	一、〇八六、六〇〇	二一、七五八、〇〇〇
計	六、八七九、二二四	三九、六九一、〇八六
鹽業	一八、二九八、三三五	一七五、三一一、九〇三

【鹽業】 支那に於ける鹽資源は極めて豐富で井鹽・石鹽・池鹽・海鹽の四種類に亙つて産出する。井鹽は鹽分が地下水に溶解せるものを汲上げて精製し、四川省の白流井或は雲南等に産する。石鹽は鹽分が岩石中に散浸してゐるのを水を以て流出し之を乾燥して製し湖南・湖北に多産す。又池鹽と稱するは別に湖鹽とも云ひ山西・甘肅・青海・蒙古地方に産し鹹湖及び乾涸せる鹽湖より採取せるもの、海鹽は河北・山東・江蘇・浙江等が主産地である。

一九三三年に於ける全支の産鹽量は四千三百三十六萬五千擔であるが一九二八—一九三二年の五箇年間の平均年産鹽量は次の通りである。

◇各地平均産鹽額 （單位千擔）

産地	數量
長蘆	三、八二六
河東（山西）	一、七一八
口北（察哈爾地方）	二一五
晉北（山西）	二一〇
山東	四、九九〇
淮北（江蘇）	六、七九〇
楊州	七一一
松江	二六二
兩浙（江蘇、浙江）	三、八三〇
福建	一、八三〇
廣東	三、六三二
雲南	四九三
川南	四、七八七
川北	一、四七五
甘肅・青海・新疆・寧夏	一六二
計	三四、九三一

二 鑛業 二

【鑛業概觀】 國土の老大性と複雜な地形の構成とによつて數多の鑛産を豐かに埋藏してゐるが、交通不便・資本缺乏・工業不振のためその開發は殆ど行はれず、大規模な鑛業の經營は多くは外國の資本と技術とによつて行はれ全體としての生産は餘り多くない。

◇主要鑛物生産高 （事變前）

石炭	二〇、八九七、三四一噸
河北省	七、七四九、四四六
山東省	三、五〇三、九四八
山西省	七、七〇〇、五四四
石油	二、六一三バーレル
陝西延長	二二八
鐵	一、三五九、五八二噸
湖北省漢冶萍鑛	三八二、〇〇〇
安徽省桃沖	二八〇、〇〇〇
同福利民公司	一二〇、〇〇〇
マンガン鑛	一、九二九噸
廣西省武宜桂平	一、〇〇〇
湖南省湘潭等	六一八
廣東省欽縣防城	五〇
タングステン鑛	六、三〇五噸
江西省	四、四八〇
廣東省	一、三二〇
湖南省	四五五
金	八六、九二六兩
四川省西康	三〇、〇〇〇
甘肅・青海	一五、〇〇〇
新疆・外蒙	二八、〇〇〇
銀	一二一、五〇四兩
銅	四一七噸
雲南省東川	四三一
亞鉛鑛	一三、二九九噸
湖南省常寧水口山	一二、八四六
鉛鑛	六、六七〇噸
湖南省常寧水口山	六、四六〇
錫	八、〇〇四噸
雲南省箇舊	六、九四一
江西省大庾	六〇〇
アンチモニー	一三五、六一五噸
湖南省	一三、六〇五
食鹽	三七、四八六千擔
淮北	七、六五〇
山東	八、〇〇〇
長蘆	四、四〇〇

硫黃	三、六四六瓲
山東省淄川・博山	一、五〇〇
山西省陽曲・盧縣汾西	六〇〇
石綿	二九〇瓲
河北省淶源	一五〇
螢石	五、〇五〇
浙江省	五、〇〇〇

【鐵】埋藏量約三億二千萬瓲と云はれ、主として揚子江右岸の大冶・象鼻山・桃冲・銅官山・大凹山・馬鞍山等に多く產する。目下採掘されつゝある著名な鐵山は大冶を第一とし、安徽省の桃冲之につぎ、山東省の金嶺鎭も知られて居る。年產約百三十六萬瓲でその四割五分は大冶が占めてゐる。蓋し大冶の鐵鑛は含鐵分六五%內外の富鑛なるがためである。支那產鐵鑛の大部分は日本に送られ支那では餘り利用されてゐない。右の外北支の龍烟鐵鑛も有名である。

◇鐵鑛埋藏量（單位千瓲）

省	地名	埋藏量
察哈爾	宣化龍關	九一、六四五
河北	灤縣	三一、四三四
山東	金嶺鎭	一三、七〇〇
河南	江山	七四〇
江蘇	利國驛	三、〇〇〇
河北	易縣	一、五〇〇
河南	信陽	二、〇〇〇
河北	井陘	七、七五五
山東	萊蕪縣	六四〇
河北	開灤鑛區	一五〇
綏遠	固陽公義明	七〇〇
河北	撫寧臨楡間鷄冠山	三五〇
綏遠	白雲、鄂博及豫陝甘等	二〇、〇〇〇
安徽	銅官山	四、九三一
同	鷄冠山	四、〇〇〇
湖北	大冶、漢冶萍公司	一〇、五〇〇
同	大冶象鼻山	八、八〇〇
安徽	當塗	六、二九八
同	長龍山	四、六四五
江蘇	鳳凰山	四、四三七
江西	城門山	六、三〇〇
湖北	靈鄉	六、三四〇
同	鄂城	一〇、〇〇〇
浙江	長興	五、一三〇
江西	蓮花	六、二九九
同	萍鄕	二、〇〇〇
湖南	元陵	一、〇五〇
同	安化	二、一六〇
同	錫鑛山	三、六〇〇
同	茶陵	三、九〇〇
同	寧鄕	一、八四〇
江西	瑞昌銅登山	五八〇
湖北	宣都	四、〇〇〇
河南	攸縣	四、〇〇〇
四川	綦江	一、〇〇〇
廣東	香港馬鞍山	九一〇
福建	華安漳平	一三、一六〇
同	安溪潘田	七、八〇〇
同	安溪珍池	一、四六三
廣東	雲浮	六、〇一六
同	紫金	一、一四〇
浙江	建德淳安	二、〇三四
廣東	廉江鄕塘及其他	四、〇〇〇
合計		三三三、九八六

【石炭】推定埋藏量は二千三百九十億瓲と云はれ、主要炭田は北支に多く、山西臺地では主として古生代の砂岩・頁岩・石灰岩等の水平層の間には無煙炭または半無煙炭の良質炭層あり、その埋藏量は殆ど無盡藏と云はれる。また北支那平野は陷沒して三角洲平野に推積されてゐるが、恐らくその下部には大炭田があると信ぜられてゐる。河北省の開灤炭田は年產五百萬瓲內外で全支の三〇%內外を占め、其他群小炭田を合せて年產二千萬瓲位であり未だ國內需要を充すに足りない。

◇石炭埋藏量竝生產高

（埋藏量單位百萬瓲、生產高單位千瓲、一九三四年）

省名	埋藏量	生產高
察哈爾(舊)	五〇四	三〇三
山西(舊)	一二七、一二七	二、七〇〇
綏遠(舊)	四七八	五八
河北	三、〇一七	七、七三九
山東	一、六三九	三、五〇四
河南	七、七六四	二、一三〇
陝西	七一、九五〇	二〇四
湖北	四四〇	四五八
安徽	三六〇	六三四
江西	九九三	四三三
浙江	一〇〇	二五〇
江蘇	二一七	三六七
湖南	一、七六三	八八九
四川	九、八七四	六三八
雲南	一、六二七	二一五
貴州	一、五四九	七三
廣東	四一二	三四八
寧夏	四八八	一五
甘肅	一、五〇〇	一〇〇
新疆	六、〇〇〇	五二〇（新疆・青海・廣西・福建）
青海	五〇〇	
廣西	三〇〇	
福建	三九八	
合計	二三九、〇五九	二〇、八九七

【石油】新疆・甘肅・陝西・四川の各省には豐かな埋藏があると云はれてゐるが、未だ開發が行はれず、僅かに陝西省の延長油田が著名となつてゐるのみである。延長縣の油田は米國技師の報告によれば全世界に三百年間供給してなほ餘りあると云はれてゐる。

工業

大工業の行はれてゐるのは僅かに數個の都市にして、而も輕工業に限られ重工業は全く未發達である許りでなく之すらも多く外國資本によつて營まれてゐる狀態である。即ち

一、農業國の常として國民が保守的であること

二、政治的不統一と政情不安なること

三、國內資本缺如によること

四、外資の壓迫あること

等の諸事情によるものである

【支那工業の特色】（一）工業が都市に集中してゐること。

一九三三—一九三四年の統計に從へば、工場法標準に依據する工場二、四三五のうち一、二〇〇は上海に集中し、其他は殆ど天津・杭州・青島・無錫・常州・廣東の諸市に集つてゐる。特に上海は工業資本の四〇%、勞働者の四三%、生產額の五〇%を占めてゐる。

（二）紡績工業が偏重的に發達してゐること。

上海の紡績工場は全上海勞働者の五五%生產者の三分の一、使用動力の六六%、資本の四〇%を占めてゐる。

（三）中小工業が多いこと。

紡績・製粉・造船・製燐・セメント等を除いては大體に小規模で全上海平均で一工場當りの職工は、一九三人、馬力一二三、生產額五八三、七二六弗、資本一五〇、三四八弗である。

（四）工場の閉廢が頻繁なこと。

好況等には工場が叢立されるが、不況になると續續倒潰する。

【支那の工業地域】（一）上海附近　上海・南京・杭州の三角線間は輕工業の重要な地域であり支那紡績業の三分の二はこゝに集中し、食糧品・化學・煙草工業等の外造船・機械の如き重工業も興つてゐる。

（二）天津附近　河北省東北部で、開灤炭坑が供給する石炭により、附近にセメント・硝子・紡織・食糧品等の諸工業が興つてゐる。

（三）青島附近　紡績製油等の輕工業を主とするがドイツの青島經營以來發達し以後日本によつて培はれたものである。

（四）漢口附近　紡績其他輕工業の他金屬製鍊等の重工業があり、武漢・萍鄕・長沙の三角形間に行はれる。

（五）香港廣東附近輕工業が各地に行はれてゐる

【支那工業の將來性】有利な條件として次の如きものが擧げられてゐる。

一　豐かな工業原料及動力資源を持つこと

二　安價な勞働力が豐富なること

三　製品の市場たるべき人口が大なること

國民の工業的な訓練と政治の改善と資本の注入と交通の發達を條件として、支那將來の工業は確かに發展の素地を持つてゐるものと結論される。

【在來工業】在來工業は小規模な家內工業として行はれて居り、近年次第に衰亡しつゝある。陶器・筆墨・紙・漆器・象牙細工・木細工・石材彫刻・麥稈眞田等の美術的家內工業が之に屬し、尚絹織物・生絲・絹織物業等も古くから行はれてゐるが、之も近年機械的生產方法に移りつゝある。

之等は何れも中南支那に多く行はれてゐる。

【近代工業】 一八六〇年代に始まつたもので、殊に最近三十年足らずの間に發達した綿絲紡績を第一とし、金屬加工及び機械製造・煙草・製糖・製粉・製油・化學等の諸工業で、之等は多く外資によつて興り何れも上海・天津・青島・漢口等の海岸又は揚子江岸の大都市に行はれてゐる。

就中紡績業は上海を第一とし、天津、漢口、青島に行はれ、事變前は支那資本によるもの二百九十萬錘、日本資本に依るもの二百十一萬錘、英資本に依るもの十九萬錘計五百二十萬錘で錘數は世界第九位、棉花の消費量は二百三十萬俵で世界第五位を占めて居り、消費對象たる人口の稠密なることによつてその將來は頗る有望である。

商業金融

【國内商業】 個人主義で貨殖の念に富む支那人は商業に甚だ長じてゐる。商業上支那商人がよく信用を重んずるのは、同業等の關係で作られた會館とか公所等いふ一種の組合を持つてゐて違反者に對しては嚴罰を加へることにして鞏固な組合を作つてゐるからである、政治的不安定な境遇にあつた支那人は、經濟的にはかゝる統制のとれた鞏固な組織を作つてこれに順應してゐる。

「地大物博」で各種各様の資源と產物を有し、國内商業は古くから行はれてゐるが、政治組織不の完全と交通不便とは之に對する二大障碍となつてゐる。又各地軍閥は勝手に地方的な通貨を流通させ、度量衡も各地甚だ異つてゐて、この貨幣と度量衡の不統一が更に國内商業に對する障碍となつてゐた。

支那特有の商業機關として左の様なものがある。

買辦 外國商人に傭はれる支那商人で外商の店舖内に事務所を有し、外商と支那商との間の取引周旋仲介業をなし、又雇主のために注文事項を完成し一切の商行爲を自己の計算でする請負人のやうな業務に從ふもの。

牙行 行棧とも云はれ一種の仲買商で、客商のために賣買を周旋し、その委託販賣に應じたり客商を宿泊しその委託販賣に應じたり客商を宿泊せしめたりする。其他倉庫業・廻漕業・鑑金代辦・代金取立、市場代理業等にも從ふ。

客商 一種の行商で郷土產の財貨を携へて他郷に之を賣却し、更に郷土の需要品を仕入れてくるものである。

帮制度 帮とは同郷者・同業者が團結し、相互の利益を增進するための組合で之に會館と公所とがあり、會館は同郷者、公所は同業者を以て組織されてゐる。

【金融及金融機關】 支那は從來世界中で最も通貨の複雜な國で、これがため產業の開發・商業の發達・國家の統一が阻害されること少くなかつた。よつて一九二八年以來銀元(圓又弗)が本位貨幣と定められ一九三三年以降商取引には元(弗)を單位とする事となつた。併し舊の兩や弗貨は相當に流通して居り、兩にはた海兩・天津兩その他百種以上もあり、なほ海關兩も使用されてゐた。弗も孫逸仙弗その他數十種を數へてゐた。

支那は世界唯一の銀本位國であり從つて支那の經濟界は銀相場によつて支配されてゐたのであるが、銀相場は近年下落する一方で、特に一九二八年以後は激しかつた。然るに一九三四年米國が銀國有法を發表して以來の銀相場は奔騰し、これがため、最近では支那は銀の國外流出に惱まされ、一九三五年四月以來支那の通貨は銀の國外流出によつて殆ど危機に瀕するに至つた。

そこで一九三五年國民政府は幣制の大改革を行ひ、硬貨制度を廢して紙幣本位とした。卽ち中央・中國・交通其他計六銀行の發行する銀行券を法貨卽ち國幣とし銀貨の使用を禁じた。而してその對外價値は一元を英貨一志二片とし、上記三銀行は無制限に外國爲替の賣買に應ずることゝした。この幣制改革は英貨の後援によつて成功したもので、これを契機に英國は金融的に支配するに至つたのである。

然るに今次事變によつて北支・蒙疆・中支の各地區に於て、中國聯合準備銀行・蒙疆銀行、及び中央儲備銀行の新設をみ、夫夫新兌換券を發行し可及的速かに舊法幣の回收に努め英米を後盾とする舊法幣との間に通貨戰を開き、日本の後援の下に經濟的地盤を擴大しつゝある。

中國聯合準備銀行 昭和十三年春北京に開業せる特殊銀行であり同行は北支の中央銀行で唯一の發行券である。之によつて日滿北支を含む廣大な地域が圓ブロックとして一元化され、日本の指導の下に遂行される北支那經濟建設の基礎が確立されたものである。

蒙疆銀行 蒙疆地區の中央銀行として昭和十二年末成立し、資本金一千二百萬圓、張家口に本店を設け僅か一年足らずにして地域内の舊紙幣を同收した。中國聯合、蒙疆銀行共に發行されてゐる新紙幣は圓と等價である。

華興商業銀行 昭和十四年五月資本金五千萬圓全額拂込、本店を上海に置く華興商業銀行の誕生をみた。最初銀行券を發行して居たが中央儲備銀行設立されると共に舊發券は停止された。

中央儲備銀行 昭和十六年一月創立された國民政府の中央銀行で新法幣を發行し中支一帶の通貨金融の統制に當つて居る。九日末現在に於ける兌換券及補助幣發行高は一億三千圓で順調な發達を示して居る。

貿易

支那の對外貿易は、滿洲國の獨立以後支那事變前までは輸出入を併せて、約十五億元から二十億元間を上下し、昭和十一年の貿易額は輸出入合計十六億四千七百萬元を示し、十二年には一月から七月迄に既に輸入七億三千萬元、輸出一億七千八百萬元の增加を見たが、事變勃發後の八月以降は急減十二月迄の五ケ月間に僅かに輸入二億二千三百萬元、輸出二億六千六百萬元、合計四億八千九百萬元に激減した。之を以つて事變の支那對外貿易に及ぼした影響の甚大なるを推察し得るのである。

一九三九年の輸出入總額は十億四千二百七十餘萬圓であり、外國貿易の少い第一の理由は大國の故外國との貿易よりも國内取引の方が寧ろ重要であり、國内取引額は外國貿易額の數倍もあると云はれてゐる。第二に生活程度の低い支那人には外國貿易を十分に行ふだけの購買力を持つてゐないからである。人口割にすると支那の貿易額は日本の約十分の一に過ぎない狀態である。

最近支那の經濟界は銀の國外流出のため殆ど恐慌の狀態に陷つたと云ふやうな事情で貿易は著しい減退を示したが、近頃稍增加してゐる。別表の通り支那貿易が年々入超を示してゐることは、要するに輸出を增大さるべき國內產業が振はないことを物語るものに他ならない。

輸出品の主なるものは 動物及其產品・紡織纖維・油脂及蠟・鑛物・金屬其製品・皮革及毛皮・種子・茶・綿絲・組物・編物類・織物等。

で重なる輸入品は 金屬及鑛物・脂油・臘・ゴム・書籍・紙・パルプ類・機械及工具・穀物穀粉・化學產品及製藥・車輛及船艇・雜金屬製品等である。

◇支那輸出入貿易額 （一九三九年は再輸出入を含まず、海關統計）

年次	輸入（千元）	輸出（千元）	合計（千元）	入超（千元）
一九三一	二、二三六、三七五	一、四一六、九六二	三、六五三、三三七	八一九、四一三
一九三二	一、六五五、三五七	七六六、〇七六	二、四二一、四三三	八八九、二八一
一九三三	一、三五八、九七八	六一二、二九二	一、九七一、二七〇	七四六、六八六
一九三四	一、〇三八、七九八	五三五、七三三	一、五七四、五三一	五〇三、〇六五
一九三五	九二四、六九四	五七六、二九八	一、五〇〇、九九二	三四八、三九六
一九三六	九四四、五二三	七〇六、七九一	一、六五一、三一四	二三七、七三二
一九三七	九五六、二三四	八三八、七七〇	一、七九五、〇〇四	一一七、四六四
一九三八	八九三、五〇〇	七六三、七三一	一、六五七、二三一	一二九、七六九
一九三九	一、五六八、九〇六	四七四、八三五	二、〇四三、七四一	一、〇九四、〇七一

中國大觀

—・太原の旅館・—

蒙疆大觀



略史

蒙古聯合自治政府は成吉思汗紀元七百三十六年（昭和十六年）の九月一日輝しい成立二週年記念日を迎へた。往年成吉思汗が大汗（元の太祖）の位に即き、世界統一の誓を立てたのは今から七百三十六年前の一月十三日である。爾後拔都・忽必烈・旭烈兀等の遠征により、其版圖はアジア大陸を横斷して東は日本海から西はヨーロッパの東北部に達する空前絶後の大帝國を建設し、アジア民族のために史上不滅の光彩を放つたのであつた。

然しながら小數の蒙古民族を以て廣汎な領域を統治するところに無理があり、後明朝の興るや忽ち北に追はれ、淸朝の擡頭に會つてこれに歸順した。支那事變直前に於て蒙古民族は露、滿、支三箇國の支配下に分割され滿洲國の治下に入つた者を除いては混沌たる政治、經濟、社會的諸情勢に彷徨しつゝあつたのである。

然るに昭和十二年支那事變の勃發により獨立した三自治政府首腦者が張家口に相會し、茲に蒙疆聯合委員會の結成となり更に昭和十四年九月蒙古聯合自治政府の成立を見、政治・產業・交通・金融等に亙り實に驚異的な回復と躍進を示し支那地域に於ける一特殊境域をなすと共に滿洲國と相携へる東亞防共樞軸の第一線となるに至つた。

地誌

【境域】蒙疆地域とは東は滿洲國、西は寧夏省、南は長城線を隔てゝ陝西、山西、河北の各省に接し、北は遠く戈壁に限られた舊察哈爾省、綏遠省及山西省の北部を加へた所謂內蒙古の大部分を占めて廣袤六十萬平方粁の地域を指し、人口約六百萬に及ばんとしてゐる。

地勢

【地勢】蒙疆一帶は略々一千米以上の高原を形成し、地勢は割合に變化が少いが今南部京包線一帶の地勢に限りて述ぶれば大體次の如きものである。

鐵道沿線の地勢は大體大同から平地泉の間を最高線として東と西へ漸次に高度を減ずる。この地帶は陰山山脈の支脈に屬する部分であつて、平地泉の西約四十粁の十八臺驛は海拔千五百七十九米で本線に於ける最高の地點となつてゐる。

大同以東は陰山、大行兩山脈の接合地帶で、桑乾河が此間を貫流しその限界を劃してゐる。路線はその支流たる洋河及び南洋河の河谷に沿ふて下り、東端に近く大行山脈の餘勢、七百五十五米の八達嶺を越え急降下して河北の平野に達する。

西は十八臺の稜線を越えると路線の北側に沿ひ、陰山の幹脈が屛風の如く聳立し內蒙古の地域を南北に二分しつゝ遠く西へ伸び、その南側は黄河の支流たる黑水河がその流域を擴めつゝ黄河を越えて遙かに鄂爾多斯の平原に續いてゐる。

氣象

河北の平野から大行山脈を西に越えれば

氣象は急に大陸的な特性を强め、晝夜の氣溫の變化、寒暑の差は次第に著しくなつて來るが大行、陰山の兩山脈の間に挾まれた鐵道沿線の地域ではその度合があまり目立たないものとなつてゐる。

氣溫に就いて見れば、北京附近では最低溫期間の一月の平均氣溫が攝氏零下四・五度、盛夏七月の月平均氣溫は二六・四度で張家口では一月の平均氣溫零下一五・三度、七月は一九・三度であるが、遙かに西に移つた厚和に於いても一月の平均零下一五・九度、七月の平均は二二・八度で、その差は極めて小さく、又降水量に就いて見ても北京附近では年に五百六十粍內外で、張家口、厚和は共に四百粍內外であるから空氣の乾燥度も、河北平野を劃する大行山脈を一線として相當な變化を見せてゐる。風は夏季に東南の季節風が吹く關係上降水量もこの期間に多く、冬季は寒冷な西北風が吹き渡り降雪の量は極めて少い。

京包沿線一帶の氣候は概して地圖の上で像想されてゐる程に熱烈なものではなく、寒さに於ては滿洲の奉天以南位に相當し、暑さも日夕の差こそ激しいと云はれるが平均氣溫は遙に低くなつてゐるから夏季も凌ぎよい。このやうに降雨降雪が少いので空氣の乾燥甚しく、冬は風多く所謂朔風胡砂を捲くの風景を展開するが夏季滿目の綠野紅白の草花の點綴する風景は蒙古高原ならでは見られぬ絶景である。

住　民

【概　要】察南、晉北地域では住民は殆ど漢人で、內蒙五盟に屬する鐵道沿線は漢蒙雜居地帶となつてゐる。而し此の雜居地域も漢人移民の澎湃たる波に年々侵蝕され現在この地方に生業を營む蒙古人の影は寥々たるもので、それも殆ど漢人化し、定住して農業に從事してをり、かの游牧と包の生活は既に沿線では見られないものとなつた。

內蒙古五盟全域の蒙古人は約三十萬人と推定されてゐるが、その大多數は黃河以南の伊克昭盟や陰山山脈の北側地域に退き昔ながらの游牧生活を續けてをり、舊綏遠省二百萬といはれる漢人が主としてこの沿線に入つてゐるのだから雜居地域とは言ふものゝ、事實上漢人の居住地域と言つて差支ないだらう。

而して漢蒙回族の間は如上の關係上融和雨せず對峙し來つて居り政府の民族政策も民族協和に重點が置かれて居る。

尚、少數ながら沿線の西端に近い地方は白韃靼と稱ばれる回敎民族たるトルコタタール人が居住してゐる。

京包沿線地方は白耳義系カトリック敎の布敎區で寺院はカトリックのものが多いが察南地域には別派に屬するものもある。

後者は土地を持たぬがカトリック寺院は何れも廣大な土地を所有してゐる。

朔北の空に聳える尖塔は西歐資本主義の內蒙古へ侵入して來た道標の如くも見られるが、又その社會的文化的な影響を思ふと、喇嘛敎と對照して極めて興味深いものがある。

【人　口】民族別人口は十五年七月の政府發表に依れば次の如くであるが、純蒙地帶たる錫林郭勒、烏蘭察布、伊克昭及び察哈爾盟の一部は正確な調査は出來て居ない。

	戸數	人口
日本內地人	一四、四七四	三六、四三〇
半島人	一、四三三	四、一三三
漢人	九五六、五五七	四、八六四、九五八
蒙古人	六、三五四	二九、八七九
回敎人	八、三九五	三七、一五五
滿人	一、七九七	五、八五三
外國人	三三六	四六三
無國籍	四	八
計	一、〇〇六、四五三	五、一二四、四八七
未調査推定分		五四〇、四三八
合計		五、六六四、九二五

【言　語】京包沿線一帶は支那語が通用語となつてゐる。蒙古人も沿線地帶居住のものは已に蒙古語を忘れてゐるといはれるが、嘗つて外蒙古方面と交易が盛んだつた頃には蒙古語はもつと廣く用ひられてゐたものらしく、今も商店の看板などに殘つてゐる蒙古文字はその當時の名殘でもあらう。蒙疆政權の確立後、蒙古語は公用語として認められて來てゐるが、これは蒙古民族の興隆に伴ふ自然の勢であらう。

會話用語は山西方面からの流入者が多い關係上自然山西の土語に近いと云はれる。

【宗　敎】漢人の多いこの地方では矢張り佛敎徒が一番多く、住民の七十%が佛敎であり回敎徒が之に次いでゐる。

京包沿線一帶に於ける回敎徒の數は大體一萬五千內外と見られ事變後、新政權下に聯日防共を標榜して蹶起した回敎徒の動きは次第に西北に向つて擴大の兆を見せてゐるが支那西北へ通ずる京包鐵道沿線に於いては、回敎徒の問題は政治的にも亦重要な意義を有つものと云はなければならない。

尚、復興民族蒙古人の喇嘛敎と西歐資本主義侵入の先驅をなすところの基督敎とはその社會的、政治的意義が大きいだけにこの地方に於ける宗敎としては見逃し得ないものであらう。宗敎區分は次の通りである。

①天主敎　布敎師數＝外人一五〇名・支那人一一九名・敎堂數九九・信徒數二二五、六九二名
②喇嘛敎　廟數六〇〇・喇嘛數三九、六九三名・信徒數二五〇、〇〇〇名
③回　敎　寺廟數一七三・信徒數九四、〇〇〇名
④佛　敎　寺廟數一、六〇〇・僧侶數一八三〇名・信徒數一六二、〇〇〇名
⑤道　敎　寺廟數二七〇・僧侶數八〇〇名・信徒數三一、〇〇〇名
⑥靑帮（民生會）　帮員は素質極めて良好にして都市に於ける指導者は大部分社會的に優位に在り職業別に見るも官公吏が最も多い。帮員數六三、〇〇〇名
⑦耶蘇敎　外人布敎數一四〇名・信徒數一八、〇〇〇名・敎會數五〇
⑧紅卍字敎　敎主會を張家口・分會を主要都市に置き民國十二年北京總會より分立以來各種慈善事業社會事業に積極的に活躍しつゝある。
⑨儒　敎　殆んど一般生活に同化せられ其の判別困難なれども、各地文敎擔當者一般智識階級を中心として漸次復興の趨勢にある。

【喇嘛敎】游牧民の社會的、經濟的生活に、そこに以前から存在してゐた薩滿敎（シャーマン）を適應させ且つ單純化せられた北部佛敎の一宗派が即ち喇嘛敎である。喇嘛敎が蒙古に普及したのは十六世紀後葉からと云はれるが、最も盛大を極めたのは淸朝が蒙古懷柔策としてこの宗敎を政策的に利用し出してからである。

そのかみ、元朝滅亡の一因が漢朝廷にあつた喇嘛の權勢とその浪費的な佛事供養の弊にあつたと云はれる樣に喇嘛が蒙古民族の搾取と弱化に演じて來た役割は極めて大きい。これまで敎徒達が北に南に遠く去つて敗殘の生活を送つてゐる時、沿線の隨處に見られる莊嚴な廟宇は本沿線風景中の一の驚異である。

此の頽廢の喇嘛敎と對照されるのは基督敎、殊にカトリック敎の勢力である。

【基督敎】基督敎がこの地方に入つたのは古く、十三世紀の中葉と云はれるがはつきりしてゐるのは一八二七年張家口北東にカトリック宣敎師が入つてからである。その後熱心な布敎と宣敎師達の苦心經營とによつて次第にその勢力を擴大し、本沿線を中心とし敎區は東は熱河から西は寧夏に及んでゐる。本沿線地區だけでも敎會數は百に近く信徒十萬を擁するといはれる。

これ等の敎會は布敎のみでなく學校や、孤兒院等の社會、文化施設を經營すると共に一方に廣大な土地を所有して、之を信徒に耕作せしめ經濟的にも確固たる基礎を築いてゐる。

政　治

【概　要】北支戰局の進展に伴ひ戰後の各地には治安維持會の成立を見たが、永い間、軍閥の秕政に苦められた地方の民衆は期せずして自治の要求へと進んで行つた、それに先鞭をつけたのが察哈爾省二百萬民衆の總意によつて組織された察南自治政府で、その成立の日は我が察哈爾作戰軍が張

家口に入城して間も無い昭和十二年九月四日であつた。ついで十月十五日には大同を中心として晋北自治政府の宣言が發せられ更に同月二十八日には綏遠に於いて蒙漢兩民族三百萬の熱烈な要望によつて蒙古聯盟自治政府が結成された。蒙古聯盟の成立は忘れ得ない成吉思汗への思慕をいだき永い苦闘を經て來た蒙古民族にとつては殊に感慨一入なものがあつたであらう。

この三自治政府は成立の當初それぐ\獨自の立場をとつて來たが、東洋和平の理想を目指す三政府の指導精神が、防共、民族協和並民生の向上であり、この共同の目的を一層有效に實現する爲には互に協力することが有利であつたので、十一月二十二日三政府代表が張家口に會し相諮り蒙疆聯合委員會を組織した。

然るに緊迫せる内外の情勢に即して蒙疆政權の更に鞏固なる戰時體制を確保、以て防共特殊地域たる蒙疆を防共鐵壁の陣となすべく、新統一政府樹立の要望は澎湃として起つた。

則ち昭和十四年九月一日成吉思汗紀元七三四年を期し德王を主席とし夏恭、于品卿を副主席とする蒙古聯合自治政府の誕生を見、一切の行政組織が中央集權下に置かれ昭和十五年一月の青島會談並に三月の中央政治會議には夫々代表を派遣して新國民政府への積極的協力を確約、また特殊防共地域としての高度自治體制を中外に宣明、名實共に東亞共榮圏に重要なる位置を古めるに至つた。

【政府機構】 政府機構は昭和十六年四月決定した蒙疆新體制確立指導要項

一、我等は太祖（成吉思汗）の遺業を偲び大いに傳統精神を昂揚し以つて民族の興隆を期す

一、我等は團結を鞏固にし友邦と提携以て防共戰線の强化を期す

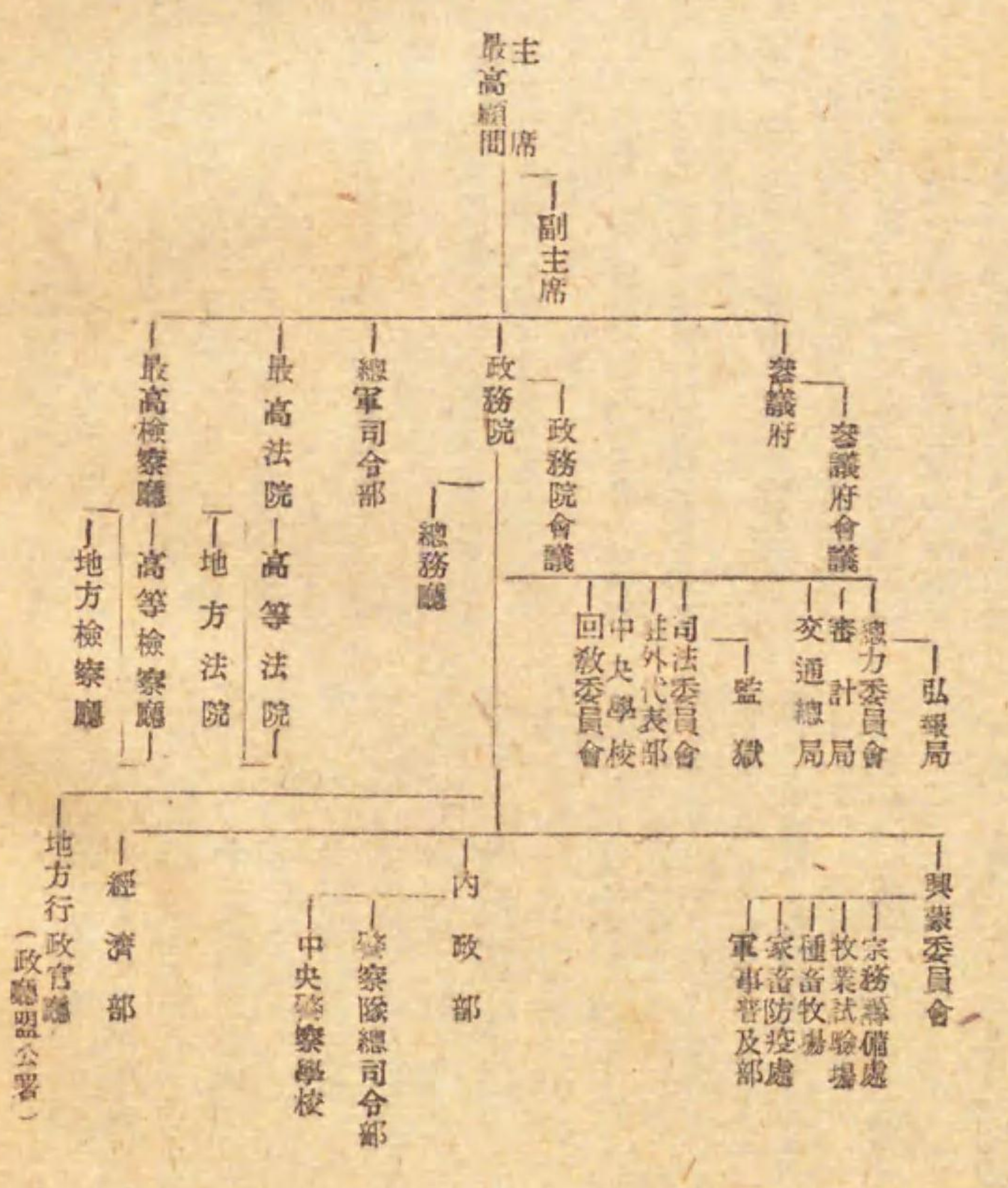
一、我等は知識を世界に求め文化の向上發展を期す

一、我等は勤儉業に勵み産業の興隆を期す

一、我等は更生を計り民族の增殖繁榮を期す

の條項に基き政治力の浸透、國防財政の確立、現地人心の把握に重點を置き同年六月一日左表の如く改革された。

〔政府組織表〕



【蒙疆の特殊性】 蒙疆地域は北方に赤化の外蒙に接し西方に寧夏・甘肅・新疆等ソ聯の赤化ルートに臨み南方はソ聯の容共地帶に接する關係上親日防共を使命とする蒙疆政權の成立は完全に此の赤化ルートを遮斷しソ聯の極東赤化政策に大打擊を與えると共に之に依り日滿兩國は西方に一大防共の鐵壁を築いたのみならず、更に支那軍閥の壓迫より脫し蒙古民族多年の宿望を達成せしめることになつた。

之等民族復興運動は蒙古民族のみならず回敎族にも一大刺戟を與べ赤化ソ聯の羈絆を脫し亞細亞民族の亞細亞建設一大運動の原動力となるものである。

また蒙疆地域は鐵・石炭・羊毛・阿片・穀物・鹽其の他の重要資源を有し一大寶庫を爲し北支の背後地として重要なるは勿論國防上並に經濟上より見ても日本帝國にとつて極めて重要な地位にあり、且つ京包線を通じて京津と結び、西方とは道路・水路其の他に依り中央亞細亞に通じ軍事・政治經濟・交通上其の意義極めて深く一大躍進期にある東亞において演ずる役割は極めて重大視されてゐる。

以上の理由が本地域をして、高度の防共自治の特殊地域たらしめた所以である。

【政府の施政大綱】 政府成立の根本義に則り東亞の道義を昂揚し民族協和を鞏固にし人民の福祉厚生を圖り、且共產主義を防遏することを以て施政の根本方針としてゐる。而して政府組織の大綱は政府暫行組織法に規定せられ、特に各民族の特異性を考慮しこれが運用に萬全の考究を拂つてゐる。

政府組織大綱及び施政綱領は次の如くであるが現在支那事變遂行途上に於ける日滿三國の共同體制の一環として、專ら治安の確保、財政の確立、產業の開發に重點を置き着々成果を擧げて居る。

政府組織大綱

一、新政權は蒙疆地域を中心とし東亞諸民族を以て構成す

二、新政權を蒙古聯合自治政府と稱す

三、新政權の首長を主席と稱す

四、新政權は東亞の道義を昂揚宣布し施政は民意を大本とす

五、首都は張家口に奠む

施政綱領

一、東亞の道義を昂揚し之が實踐宣布を期す

二、諸族を大同協和し人民の總意を旨とし大いに經綸を行ふ

三、新たに民生を興し安寧を確保し民の慶福を十全す

四、共產主義の害毒より諸族を解放し世界防共の强化に資す

五、盟を友邦と結び同志と相契り東亞新秩序の建設に參畫す

產業

農產、畜產、鑛產等の豐かな資源に惠まれた鐵道沿線の地帶も邊疆にあつて交通が不便なことや、永い間軍閥政治の弊害に禍され、全線開通已に十五年を經過した今日に於ても、產業の發達は遲々として殆ど見るべきものはない。

資源の所在に從つて見れば大體本線東半晉北地域以東の鑛業と察哈爾盟及び西半の內蒙地域に於ける農業、畜業との二つに大別されるであらう。

鑛產地帶に於ける代表的なものは大同の石炭と龍煙鐵鑛の二つがある。蒙古聯盟に於ける農業は漢人移民の進出によつて、近時非常な發展を遂げ、歸綏・五原の平野は殆ど開拓し盡されたかの感があるが、それだけ蒙古人の游牧地を侵したこととなり、牧畜業は次第に沿線から影を沒しつゝある。

蒙古聯合自治政府に於いて目下蒙疆全般の產業開發につき調査立案を進めつゝあるが、大同の石炭、龍煙の鐵鑛及び畜產資源の維持改善等已に具體化されたものもあり遠からず面目を一新することゝならう。

【開發五箇年計劃】 昭和十三年三月產業五箇年計畫を樹て蒙疆產業資源の開發に着手したが、昭和十四年に入り國際情勢の變

化、日本の物動計畫及び日滿支を繫ぐ生産力擴充など內外共に全面的に促進感勢をとるに至つたので新に修正五箇年計畫を樹てた。右は日本の生産擴充に呼應すると共に蒙疆産業資源の開發に重點を置き、石炭、鐵、石綿、鉛の資源開發と之に關聯する石炭液化、セメント、羊毛、電力、交通、通信各事業の大擴充に向つて進むこととなり終年度に於ける開發量の目標は大約次の如くである。

石炭　大同五百萬瓲、下花園五十萬瓲
　　　大青山四十萬瓲
鐵　　龍煙百七十萬瓲
石綿　二萬瓲
雲母　一萬瓲
鉛　　十五萬瓲

石炭液化は大同炭を用ひ、電力は發電設備十四萬キロに上り、羊毛は在來種の增産とコリデール種の移入による改良と大量日本輸出とで鐵道、自動車、通信施設も亦之に應ずるものである。

○農業

民國二十三年中國經濟年報によれば察哈爾・綏遠兩省の耕地面積は、察省一六、八三九千畝、綏省一八、六六九千畝で支那各省中寧夏・新疆に次いで最も少い地方となつてゐる。しかし兩省の農業は專ら漢人移民の經營であり、而も漢人の侵入地域が主として察哈爾と南半と歸綏平原・豐鎭高地鄂爾多斯平野の東北部と河套(五原)地方であるから耕地も亦この地方に限られ、從つて沿線に接近した地方に於ける耕地は全面積に對して非常に多いことは明かで、事實鐵道沿線の範圍では農耕適地は殆ど開拓し盡され、僅かに鄂爾多斯平野の東部に未墾地を殘してゐるに過ぎない。

「黃河は百害あり只一套を富ます」といはれる如く殊に河套地方の開拓は古く最も富裕な農耕地帶となつてゐる。

主として乾地農業であり水田は舊察哈爾省內に一、八五五(千畝)綏遠省內に一、四〇〇(千畝)がある。黃河沿岸のオルドス地方は灌漑の便があるので將來水田の經營が有望視されてゐる。作物の主なるものは粟・高粱・豆類・小麥・亞麻および馬鈴薯等で、每年京包線一帶から京津方面へ移出される數量は約三十萬噸に達する。最近に於ける主要産額を示せば左の如くである。

【有用植物】本沿線の特産と稱せられるものに各種の藥用植物がある。代表的なものとしては甘草と黃麻を擧げるがその他、知母・柴胡・大黃・赤芍・枸杞などがある。甘草の産地は沿線近くでは包頭一帶から西へ五原・臨河に及んでゐるが、包頭に集散するものには更に寧夏方面より出廻り物が加はり、民國二十五年包頭驛の發送數量は四、八八七噸であつた。その他の藥草類も集散地は主として厚和以西の各地で、寧夏方面のものが集まる關係上包頭の數量が斷然多い。黃麻は下花園が主要集散地である。

蒙疆地方農産額

種類	察南管內 石	晋北管內 石	內蒙五盟管內 石	計 石
米	一三、七五四	—	—	一三、七五四
粟	九一三、九三六	三四五、〇〇〇	三一四、七一〇	一、四七三、六四九
麥	一一八、九六〇	九八、〇〇〇	一、一六四、二三四	一、三八一、一六四
大麥	四七、六六八	一〇七、〇〇〇	四〇五、五八八	一六〇、二五六
高粱	四八九、五七八	一五〇、〇〇〇	一九七、七一〇	八〇七、二八八
豆類	三三、三四〇	一三四、〇〇〇	五二九、三六八	六八六、七〇八
小麥	三四、六八六	一一〇、〇〇〇	三四〇、七〇三	四八五、三八八

【耕地】耕地面積中水田・旱田・菜園・桑園・果樹園等の面積區分を見るに既耕地の約八五—九〇%が旱地で、水田は僅に三—四%に過ぎず、其の他菜園・桑園・果樹園等あるも何れも極めて僅少である。旱地の大部は穀類の栽培が行はれてゐる。

區別	面積 總面積 (陌)	面積 耕地面積 (陌)	面積 %	農戶 總戶數	農戶 農戶數	農戶 %	人口 人口	人口 一戶當人口 (人)	一戶當耕地面積 (陌)
總計	三七、一六三、五七四	二、三六三、八六七	六四・〇	九六七、八六五	八二七、四八四	八五・五	四、九五九、九六一	五・二三	二・八六
察南政廳	二、一九八、七九四	三七一、七三〇	一六・九	三〇七、六六四	二五一、一〇七	八一・九	一、五八七、四〇五	五・〇九	一・四八
晋北政廳	三、九六〇、七〇三	四七三、四六七	一一・九	二四四、四五三	二一〇、〇三五	八五・九	一、四三三、七九五	五・八二	二・二五
巴彥塔拉盟	一九、六六二、〇〇七	七一〇、八六八	三六・〇	三〇三、八八〇	二六八、二三三	八八・五	一、四三五、一四三	四・七三	二・六五
察哈爾盟	一一、三三三、〇〇〇	八二七、八〇二	七三・〇	一一二、八六九	八九、一〇九	八七・〇	五三四、六一八	四・七三	八・三三

小作狀況　小作農は農全人口の二四—四〇%に當るが、小作方法としては新開墾地には多くは開墾小作法、即ち年度の進むに從ひ、漸次小作料を漸增せしむるが如き方法を主として行はれ、舊開墾地では普通包租分租折租の三者が行はれるが、此の內分租折租が最多いのである。次に一畝當り小作料の大體の標準を示せば

一、包租(定額物納)普通二—四斗
二、分租(分益納)普通折半(地主、小作人五割宛)
三、折租(代金納)最高二元、最低數角

○畜産業

農耕地の擴大につれ畜群は次第に沿線から遠ざかつて行つたが、畜産は內蒙に於ける最も重要な資源の一つである。本地域內家畜の概數は緬羊の四百萬頭を第一位とし山羊九十萬頭、牛八十萬頭、騾驢四十八萬頭、馬五十萬頭、豚六十五萬頭で沿線風景の特色とされる駱駝は五萬二、三千頭と見られてゐる。その他鷄の飼養二百六十萬羽があり卵及びその加工品は沿線特産の一に數へられる。

生産數量其他不明の點多いが民國二十五年本路によつて移出された數量及び主要集散地を示せば左の如くである。

(單位噸)

種類	主要集散地	輸送數量
羊毛	張家口、大同、綏遠 包頭	二五、九七四
駱駝毛	綏遠、包頭	一、六七七
皮革	綏遠、包頭、宣化	一、五九二
豚	康莊、察南一帶	四、四八九
羊	康莊、張家口、綏遠	一四、一一一
牛	張家口	一三一
卵及加工品	大同、豐鎭、平地泉	二、四七三

羊毛の數量中には黃河の水運によつて遠く甘肅、寧夏方面から運ばれたのを含むがその數量は明かでなく、包頭がこの集散市場となつてゐる。駱駝毛は嘗て外蒙産のものを多く見たが最近のものは主として伊克昭盟鄂爾多斯及び寧夏産のものが多い。駱駝は重量の負擔に耐へるもので駄獸としてよく沿線では專ら輸送に利用されてゐる。

牛は肉として殆ど現地の需要に充てられ、境外に移出されるものは甚だ少い。

現在のところ蒙疆の畜産資源として最も重要なるものは羊毛であるが、元來蒙古人が羊を飼ふのは食用が主であるから毛質は粗剛で高級な織物には不適當とされてゐる。從來蒙疆の羊毛は主として米國に輸出されてゐたが、今後これを日滿蒙間のブロック內に確保することが必要とされるに至つたので、事變後日本側主要業者八社から成る蒙疆羊毛同業會が組織され、現在已に同會の手により蒙疆羊毛の配給統制が行はれて居り、尚昭和十四年三月蒙疆畜産株式會社が設立され家畜及畜産物の賣買、輸出入並畜産物の處理、屠宰場の經營等畜産振興上必要なる事業を行つてゐる。

○鑛業

本地域に於ける主要鑛産資源としては石炭及び鐵鑛が擧げられ、其他の天然資源と

しては石棉・天然曹達が產出し銀鑛・鉛鑛黑鉛・油母頁岩・硫黃・雲母・アンチモニー等の埋藏が推定されて居るが、現在大規模開發の行はれて居るのは石炭(大同)鐵(龍烟)のみで、其他に至つては土法的稼行で調査も充分に行はれて居ない。政府に於ては昭和十四年八月新鑛業法を制定三十七種の鑛物に就き統制を行ふと共に別に政府所有の鑛區を定め積極的開發を行つて居る。

【石炭】 埋藏量は察南(下花園)五億瓲、晉北(大同)一二〇億瓲、內蒙地域(大青山)四億七千萬瓲と推定されて居るが、現在大規模の開發が行はれて居るのは大同炭田の一部と久恒鑛業委任經營の下花園炭田で大青山炭田は治安並に交通の關係上今商原始的土法採掘である。

〔大同炭田〕 晉北地區大同、懷仁、左雲、右玉平魯、朔縣の六縣 總面積千九百方粁に亘る大炭田にして埋藏量一二〇億又は四〇〇億瓲と稱せられ、事變前年產約四十萬噸を京津地方に移出して居た。本炭鑛は數個の地域に分たれ事變前は晉北鑛務局を主に三四の經營者によつて分割經營されて居たが、昭和十二年十月日本軍接收、滿鐵により採炭が行はれ蒙古政府成立と共にその管理となり蒙古政府、北支開發、滿鐵共同出資の特殊法人大同炭鑛會社を設立目下治安關係上全地域まで至らず舊晉北鑛務局及舊保晉鑛務公司稼行の一部を採炭して居る。

〔下花園炭田〕 宣化、涿鹿、陽原、蔚縣、懷來の五縣に亘り廣陵炭鑛の四億三千萬噸を筆頭に總計五億噸の埋藏が推定され目下久恒鑛業が政府の委任を受け經營中である。

〔大青山炭田〕 陰山山脈南側に點在する十餘個の鑛區からなり事變前の記錄によれば總面積二十三萬陌埋藏量五億瓲と稱せられるが、いづれも原始的土法採掘にして、最も大規模と言はれる包頭東北の石拐溝にしても年額三萬瓲を擧げて居たに過ぎずその開發は將來に屬する。

【鐵】 察南地區宣化、龍關、涿鹿に亘る埋藏量一億二千萬瓲の龍烟鐵鑛を主に、京包線沿線及背後地に白雲山(武川)・公義明(固陽)・老窩舖(薩拉齊)・二道灣(陶林)等の諸鑛區があり、約三千五百萬瓲の埋藏が推定されて居るが現在調査にも至つて居ず稼行中のものは龍烟の煙筒山鑛區のみである。

蒙疆地域鐵鑛埋藏量

鑛區名	所在地	埋藏量	
龍烟	龍關 宣化 涿鹿	一三、〇〇〇萬噸	(赤鐵鑛、磁鐵鑛)
白雲山	武川縣白靈廟北	三、四〇〇萬噸	(赤鐵鑛)
公義明	固陽縣城西二十支里	七〇萬噸	(磁鐵鑛)
老窩舖	薩拉齊	八三萬噸	(赤鐵鑛)
二道灣	陶林縣福生莊北	未詳	未詳

〔龍煙鐵鑛〕 宣化東北烟筒山より滿洲國々境附近赤城に至る東西數十粁に亘り涿鹿、三叉口、辛窰(龍開縣)、龐家堡(宣化、龍開縣、烟筒山(宣化縣)、麻峪口(懷來縣)時の諸鑛床から成り、鑛質は五四%乃至六〇%の赤鐵鑛で中には九五%に達するものもあり、最近磁鐵鑛も發見された。

從來採掘權は官商合辦龍烟鐵鑛公司の獨占に歸してゐた。同公司は民國七年の設立で、宣化煙筒山に製煉所を設け次いで民國十年春、京門支線の石景山に製煉場を建設、十一年その大部分を完成したが偶隅時局の變動に遭つて工事を停止したまゝ今日に至つてゐる。民國十二年日本側に之を擔保として借款したゝめ、前直隸省長より執行を禁止され、十七年秋國有に收められたが、後鐵道部の所有となつてゐたものである。

事變後は蒙疆聯合自治政府の管理下におかれ、興中公司によつて開發が行はれてゐたが、昭和十四年七月、蒙疆政府北支關開共同出資の特殊法人龍烟鐵鑛會社が之に當つて居る。鑛質は赤鐵鑛、鐵分四十%—六十%平均五十三%の富鑛である。

【石棉】 石棉は內蒙五盟地區に於て約七十萬噸の埋藏があるが地域の關係上積極的開發に至つて居ない。

【鹽業】 蒙疆に於ける鹽を大別して青鹽・白鹽・土鹽・池鹽に分れ鹽湖や鹽土から採取されるもので、一般に蒙鹽といはれ、年產額は約八十萬ピクルに上り、蒙古高原一帶に於ける特產物をなし疆域內消費量の殘額二十萬ピクルを滿洲國に供給して居る。

豐富なる埋藏量を有しながらも、これの生產はすべて蒙古人によつて極めて原始的

な方法によつて行はれ、加へて埋藏地が高原內部の僻地なるため搬出も容易でなく、牛車又は駱駝の背によつて搬出されてゐる狀態であつて、從つて生產高も此地域內の需要を充たし得る程度に過ぎなかつた。よつて政府においては生產及び配給の有機的關聯に依る鹽業の開發助長と、鹽價の統制、財政收入の確保等鹽務統制の必要を痛感し其の一元的統制竝に運營を圖るため十四年六月鹽法鹽業令法等を施行しこれが統制機關として權運總署を設立、財政部長の管理下に增產計畫を樹立、著々成果を擧げてゐる。

地域內主要鹽湖の概要を表示すれば左の如くである。

鹽湖名	所在地	品質	埋藏面積	生產數量	備考
ダブス・ノール	錫林郭勒盟	優良	周圍一六哩	一六・〇〇〇瓲	最も有名な鹽湖である
ゴルバン・ノース	同		不詳	不詳	
ダブス・マタイノール	同		周圍一哩	同	東蘇尼特旗にあり數尺に及ぶ鹽層で覆はれてゐる
アルレンダブス・ノール	同		周圍五哩	同	
キル・ノール	巴彥塔拉盟		周圍三〇哩	同	鹽分の濃度高い
タイハ・ノール	同		周圍五〇哩	同	鹽分の濃度頗る高い
安林諾爾	察哈諾爾		不詳	同	

【天然曹達】 鹽と共に重要な天然資源を爲し伊克昭盟鄂爾多斯地方の湖から年額千八百噸の產出がある。又察哈爾は年產八千噸と云はれ、張家口北部の正藍旗地方產のものは張家口に運ばれて精製され口鹼と稱して京津に搬出販賣されてゐる。

【その他の鑛產】 內蒙五盟地域では未だ充分な調査が行はれてゐないが、既に知られてゐるものゝみでも次の樣なものがある。

石綿は武川、薩拉齊、固陽、包頭、歸綏、安北一帶に產し、大青山方面の埋藏量のみでも約六十八萬噸といはれる。榮豐公司、公盡棧等の經營する鑛區は各地にあるが、產額は少く年產二十噸內外を出でない。

その他鄂托克旗のアンチモニー、固陽、清水河の磁土、陶林、武川、固陽、興和及び察哈爾の水晶、華麗石(五色晶瑩)、歸綏興和の石墨及び歸綏、興和、晉北天鎭の黑鉛等があるが採掘狀況、年產額その他不明である。

○工業

電氣(張家口・大同・厚和・包頭)製粉(厚和、包頭)毛織(厚和)酒精(大同)及び事變後開始された洋灰竝にカーバイト工業等に若干近代的設備を有するものがあるほか本地方の工業は全般的に見てまだ原始的家內工業の域を脫してゐない。經營は全く漢人の獨占に歸してゐるが、その主要なものを擧げると粗紙又は痲紙、毛氈及び毡帽製革、卵加工、製油、煙草、製罎、銅器、鹽、曹達の精製等である。この中製毡、製革、曹達、鹽は原料が極めて豐富であるから適當な技術と資本を導き入れるならば充分發展の可能性を持つものであらう。

＝經濟＝

【金融・通貨】 舊察南自治政府は支那事變始つて以來、自治政體の出現に先鞭をつけたものであつたが、政府成立以來當局が最も力を注いだのは紊亂せる金融の回復であつた。從來察哈爾地方に於いては軍閥の機關銀行が紙幣の發行權を擁し、各種の金融に相當手廣く携つてゐたものであるが、事變と共に地方金融を操縱してゐたこれ等軍閥の機關がいち早く逃亡して了つた爲、經濟界の活動は一時全く停止の狀態に陷つた。そこで舊察南自治政府はこの住民の窮狀と經濟界の恐慌を防止する見地から緊急

通貨防備令を發布すると共に十月一日察南銀行を設立し、滿洲國幣にリンクする新紙幣を發行して、舊通貨の回收を行ふと同時に戰後の金融工作に當つて來た。

その後、戰局の進展につれて察南銀行の活動範圍を擴大して行つたが、蒙疆全般の金融統制を行ふことが必要とされるに至つたので、之に綏遠平市官錢局、豐業銀行を合併し蒙疆銀行として新設されることゝなつたが、引續き幣制の統一と金融改善に努めた結果、今日既に蒙疆の幣制は完成の域に達し、又蒙疆銀行を唯一の爲替銀行として事實上の爲替管理が行はれてゐる。目下蒙疆地域に流通してゐる紙幣は蒙疆銀行紙幣一本制となり、之は日本銀行紙幣、鮮銀紙幣、滿洲中央銀行紙幣と何れも等價で兩替される。尙舊蒙聯に於いては更に庶民金融の改善を圖るべく同地方既存の各種群小金融機關を打つて一丸とし合理的な新機關の設立を企圖してゐたが、之が具體化として昭和十三年三月、張家口、大同、厚和の各地に夫々實業銀行の開設を見たので蒙疆の金融狀況は著しく改善され、全く舊來の面目を一新することゝなつた。

【蒙疆銀行】 昭和十二年十二月一日營業を開始し三自治政府の平等出資による株式組織で、公稱資本金一千二百萬圓、四分の一拂込、本店を張家口に置き現在懷來、宣化、涿鹿、大同、厚和、包頭、豐鎭の各地に支店を置いてゐる。

十六年六月三十日現在に於ける蒙疆銀行發券高は次の如くである。

紙幣	六六、四三五、五〇二圓
小額紙幣	一、九七一、〇四五圓
鑄貨	五、〇六三、九〇八圓
計	七三、四七〇、四五五圓

【貿易】 事變前に於る蒙疆貿易は、張家口を中心とする對蒙古貿易、包頭を中心とする西北貿易の二經路共に何れも對內貿易であつたが、事變後は直接外國貿易ルートを有せず詳細は不明であるにしても、日本との經濟的結び付きにより對外貿易に轉化して居る事は明らかな事實である。

又從來原料國として輸出超過の傾向にあつたのが、事變後は產業建設用品資材及生活必需品の對日輸入の增加により入超の傾向を帶びて來て居る。貿易ルートは鐵道貿易と鐵道外貿易に二大別され、鐵道貿易が左表の如く殆んど大部分を占めて居る。

(單位千圓)

	鐵道	鐵道外	計
輸出	九〇、九〇一(九三・七%)	六、一五五(六・三%)	九七、〇五六
輸入	一三五、六九一(九三・九%)	八、一八八(六・一%)	一四三、八七九
合計	二二六、五九二(九三・八%)	一四、三四四(六・二%)	二四〇、九三五
入超	四四、七九〇(九四・五%)	二、〇三三(五・五%)	四六、八二三

鐵道貿易は左表の如く張家口・厚和・大同・包頭の順になり、この四大都市が蒙疆の商業經濟の中心都市たる事を明かにして居る。

地區別貿易額 (單位千圓)

	輸出入合計	輸出	輸入
張家口	六〇、一八八(二六%)	一九、〇二五(二一%)	四一、一六三(三四%)
厚和	三三、八四三(一六%)	一九、八七四(二三%)	一三、九六九(一一%)
大同	二一、二七二(九%)	三、五八二(四%)	一七、六九〇(一四%)
包頭	一七、六八一(八%)	四、二五七(五%)	一三、四二四(一一%)
宣化	一六、五五四(八%)	七、八一三(九%)	八、七四一(七%)
口泉	九、二四五(四%)	一、四一三(二%)	七、八三二(六%)
豐鎭	八、七三〇(四%)	四、三三六(五%)	四、三九四(四%)
平地泉	五、六八五(三%)	三、一三八(三%)	二、五四七(二%)
下花園	四、三九三(二%)	二、一〇四(二%)	二、二八九(二%)
沙城	四、〇八〇(二%)	二、六五六(三%)	一、四二三(一%)
其の他	三三、六六八(一六%)	二三、五五一(二四%)	一〇、一一七(八%)
計	二一三、三三八(一〇〇)	九〇、九〇〇(一〇〇)	一二二、四三八(一〇〇)

鐵道貿易の直接相手國は北支であり中南支、日本滿洲國、第三國との間接貿易も多額に上つて居るが直接徑路を有たない爲め詳細は不明であるが、對北京貿易が輸出に於て總輸出額の五六%(五〇、四八八千圓)輸入に於ては二一%(二六、二五三千圓)對天津貿易が輸出に於て二一%(一九、一六七%)輸入が五三%(六五、〇七六千圓)をためて居り、この中には間接貿易品が多分に含まれて居ると見られる。

鐵道に依る貿易物品は糧穀類の三五%を筆頭に獸毛、牲畜、鑛石の順位にあり、輸入は紡織の三三%嗜好品の二二%雜貨の二〇%を大宗として居るが、今後開發の進行によりこの位置は變化するものと見られる。

輸出類別

類別	金額	割合
糧穀類	三八、〇九四、九二七圓	三五・二%
獸毛類	八、一三五、六八〇	七・五
牲畜類	四、六九五、四三五	四・三
鑛石類	三、五三一、六五九	三・三
獸皮類	二、八五五、八八〇	二・六
調味嗜好類	二、三九一、五四〇	二・二
麻類	二、二九一、七四六	二・〇
食料品類	一、九〇六、一五八	一・八
種子類	七四六、〇三〇	〇・七
木材類	三、五〇〇	—
計	一〇八、三九一、七三〇	一〇〇

輸入類別

類別	金額	割合
紡織品類	二二、二八八、九八〇圓	三三・〇%
調味嗜好品類	一五、二五三、二六八	二二・七
雜貨類	一三、七九七、八一九	二〇・四
建築資材類	四、三六六、七七三	六・五
食料品類	四、三三七、七一一	六・四
獸毛類	二、七一八、〇〇〇	四・〇
燃料燈火類	二、七一九、三〇六	四・〇
藥品類	一、二〇九、四〇八	一・八
獸皮類	四五四、三八〇	〇・七
木材類	三九八、四〇〇	〇・七
小計	六七、五三三、〇四三	一〇〇・〇
輸出超過額	四〇、八五八、六八七	—
計	一〇八、三九一、七三〇	一〇〇・〇

鐵道外貿易は牛車、馬車、駱駝、トラック等により行はれるもので、多倫滿洲國貿易大同、山西、貿易其の他の三ルートに分たれ、その額は多倫滿洲國が三四%を占め

【鐵道外貿易表】 (單位千圓)

	多倫對滿洲	大同對山西	其の他	合計
輸出	二、〇一八	七五五	三、三八二	六、一五五
輸入	二、九三五	八七四	四、三八九	八、一八八
合計	四、九五三(三四%)	一、六二九(一一%)	七、七七一(五五%)	一四、三四三(一〇〇%)
入超	九〇七	一一九	一、〇〇七	二、〇三三

多倫を中心とする對滿洲國貿易は多倫、承德間を中心として、察哈爾盟と滿洲國興安省間に行はれ、

輸出品の主なるものは、牲畜類の一、四一九千圓蒙疆一一七千圓、紡織品二一七千圓等である。輸入品の主なるものは砂糖類一一八八千圓、卷煙草五六五千圓、磚茶五〇六千圓、日本酒一五五千圓等である。特に輸出紡織品は少額であるが注目せられる。このルートは多倫——圍場——承德、赤峰間に定期バスの運行もあり將來の進展を注目せられてゐる。

大同對山西ルートは蒙疆汽車公司により大同より岱岳鎭、雁門關を經由して山西省太原代州に入り、こゝにて太原より發行するバスと聯絡してゐる。

十四年二月同蒲線の開通により荷動きは減少してゐるが、山西に對する鐵道以外の唯一ルートとして重きをなしてゐる。輸出品の主なるものは綿布三四九千圓で、輸入は山西省產水煙草の七五六千圓が主要品をなしてゐる。

尙政府に於ては貿易統制のため、昭和十五年九月より爲替管理法及貿易統制法を施

蒙疆對滿洲國內蒙古との連關性を表して居る。

行し計畫貿易を爲して居る。

【商習慣】旅蒙業者 蒙疆地域在來の漢民族に依る商業は獸皮毛を主とする特產取引が本體となつて發達し之等は所謂旅蒙業者によつて居る。春季最大の旅蒙基地張家口から蒙古平原に向ふ旅蒙業者により綿布、磚茶、生菸、皮靴、綢緞、赤糖、點心(菓子)其の他の生活必需品は包から包へ搬入せられ、秋には皮毛、牲畜、蘑菇、馬尾等が張家口に持歸られる。

此等の旅蒙業者は康熙の初年既に三十餘店存在し雍正、乾隆、道光、咸豐、同治、光緒と隆盛の一途を辿り民國初年には七百餘店となり、取引地帶は熱河呼倫貝爾、烏珠穆沁、察哈爾盟より外蒙古、庫倫、賣買城、伊梨、唐努烏梁海、青海一帶に及び貿易額亦二千三百五十萬圓に達したが、京綏線の開通と民國十八年ソ聯の外蒙古占據後は五百六十九店に減じ事變前年には百餘店となり、更に現在では店舗を持つもの張家口に五店、大境門外崇禮縣に八店、合計僅かに十三店に減少してしまつた。然し店舗を持た

ざる零細業者を併せれば旅蒙業者數は優百名を超え年間取引高は蒙地への搬入品七、八十萬圓、蒙地よりの搬出品百五六十萬圓に上つて居る。

旅蒙業者の蒙地での取引は現物淸算に依り爲され、斯の如くして搬出された商品中獸皮毛は「皮毛棧」牲畜は「牛馬店」の手を經て夫々生皮業洋行、會社筋及び屠殺業者に販賣される。

【毛　店】 蒙疆の西北貿易上看過し難い商業機構を爲すもので、取引者の宿と同時に仲介機構及び倉庫業と言つた位置を占めて居る。

「毛店」は多くは小部屋で圍んだ廣い庭を持つて居る。事務所以外の小部屋には各地の「老客兒」が宿泊して居る。庭の廣いのは貨物や搬運用具を收容する爲であり、獸毛の砂ひも此處で行はれる。「老客兒」と云ふのは「お客樣」と云ふ事であるが、も少し深く「取引客」と云ふ樣な商業機構上の意味を含めた言葉として、滿洲でも支那でも一般に使用せられて居る。「毛店」に於ける「老客兒」の宿泊は無料であつて食事料として一日五十錢程度を徵して居るに過ぎない、運搬用具の中牛馬は各一頭當り十錢の泊料を徵せられるが駱駝は隊をなして入店し一人の駱駝夫は五、六頭を馭して來る事が普通である爲、一頭當り五錢と云ふ事になつて居る。

北の「老客兒」には例へば寧夏定遠營、西磴口、河西、王子池の商店の派遣員と云つた樣な賣皮毛商があるし、これに京包沿線各地からの買皮毛商及び賣雜貨商等があつて、西方からの隊商が到著すると、地場の商人も加はつて買付、賣込の皮毛店の院內は急に活氣を帶びて來る。洋行筋も入荷の報を受けて來り商談を開始しはじめる。

（商談成立の際包頭の「毛店」が受ける手數料は賣手買手雙方より二分宛である。

交通・通信

【鐵　道】 北京を起點とし察南、晉北を經て包頭特別市に至る延長八百十六粁の京包鐵道は蒙疆唯一の鐵道であつて、目下華北交通會社をして一般旅客、貨物の運輸に當らしめてゐる。（旅行機關・鐵道の部參照）

【自動車】 自動車輸送は事變の結果、既存の車輛が悉く支那軍の奪取するところとなつた爲、一時全くその機能を失ふに至つたが事變後政府は疆域內に於ける自動車交通の重要性に鑑み特殊會社たる蒙疆汽車公司をして一元的に經營に當らしめて居る。

同社の經營路線は地方線は勿論各主要都市市內線をも運營しその延長四千粁を突破して居る。

【公　路】 政府に於ては治安竝に產業上道路開發に重點を置き包頭、南口間の橫斷道路、其他各地警備及產業道路の開發に努めつゝあり昭和十四年度に於て施行した延長路線は四千粁に達して居る。

【郵　電】 事變の混亂により一時機能を停止してゐた郵政事務は昭和十二年九月、察哈爾交通委員會の成立直後、滿洲國側の援助を得て治安確保された地方より逐次接收を開始し、十月中旬には北支郵政との通郵成立し、一先つ中華制度に依る通常郵稅の業務を開始するに至つた。

又、電信、電話はその性質上、當初一時的に軍の管理下に置かれてゐたが聯合委員會成立後、郵電の一元的經營の大方針が決定され、之が爲に曩に蒙疆郵電總局が設立されたが、其後蒙疆郵電の統制計畫は着々進捗を見、昭和十三年三月初、資本金一千二百萬圓、日蒙合辦の特殊法人蒙疆電氣通信設備會社の設立によつて全くその基礎を確立するに至つた。

電信設備は政府に於て之が恢復に努めた結果現在では通信可能路線二〇〇〇粁に達してゐる。

尙政府より各縣城に通ずる幹線の整備竝に對外との通信網裝置を計畫中であり、十五年秋東京張家口を開通せしめ、尙無線電信も一部通信を行ひつゝある。

滿支旅行年鑑

昭和十七年度

昭和十六年十二月二十日印刷
昭和十六年十二月二十五日發行

【定價壹圓五拾錢】
送料八錢

發行者　奉天市大和區住吉町六號　北條保平
編輯者　奉天市大和區住吉町六號　藤原欽爾
印刷者　奉天市鐵西區嘉工街三段一號　關眞
印刷所　奉天市鐵西區嘉工街三段一號　興亞印刷株式會社

發行所　奉天市大和區住吉町六號　東亞旅行社滿洲支部

廣告目次

毛皮の御用意は!!

哈爾濱

ペトロフ商會

外國六道街角

電話 二九九〇番

キツネ、リス、男女子供シューバー、帽子、ジャンバー、手袋、洋服、オーバー等

御註文歡迎

尚既成品豐富



哈爾濱の御宿は!

日の丸新館

電話 二八三三

閑靜なる數寄屋造り

キタイスカヤ、バス停留場前

宿料(二食付)六圓、七圓、八圓

鐵道省
ツーリスト・ビューロー
帝國在鄕軍人會本部
東京都市遞信局
御指定

東京上野驛前

旅館 群五舍上野館



上野驛眞正面(電車停留所前 地下鐵乘場前)

電話下谷(83) 一四八〇 長一五六七

同別館下谷(83) 五七五七 七九五三

・御宿料(夕朝食付)五圓七圓

・サービス料一割

・茶代廢止

哈爾濱

ベント商會

マヌファクトゥラ

出來合デパート

(1) 種々な生地と毛皮を豐富ストックして居ります

(2) 外國優秀裁斷師がお氣に召す樣調製いたします

キタイスカヤ馬街130

電話7707

ハルピン

ウラル商會

キタイスカヤ街八十六

電話 四〇三七

○英國製羅紗・毛織物・並に各種毛布類 在庫豐富

○御注文調製は懇切叮寧に致します

○ロシヤ裁斷師監督

○期節男女洋服外套各種既製品

○價格低廉正札付

ハルピンからの御土產なら

異國の香り高き品々を是非!

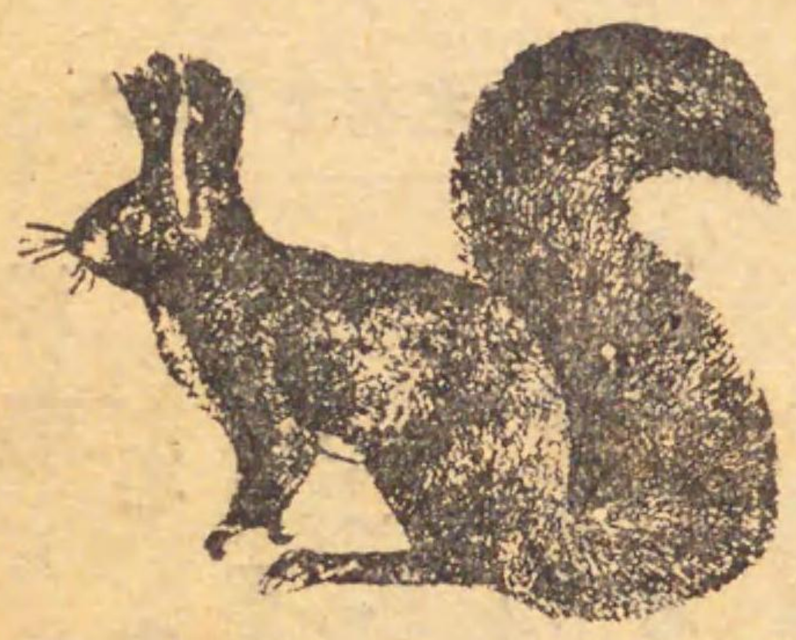
弊店は多種類豐富に取揃て御座います

哈爾濱 中央大街(ビューロー前角店)

ミカタゼ・ツホメリゼ商店

電話三〇〇二番

ロシヤ酒、各種洋酒、ロシヤ煙草、紅茶、ハム、ソーセーヂ、薰製魚類、ロシヤ菓子等各種



毛皮と洋服

哈爾濱キタイスカヤ街六五

カラフト毛皮商會

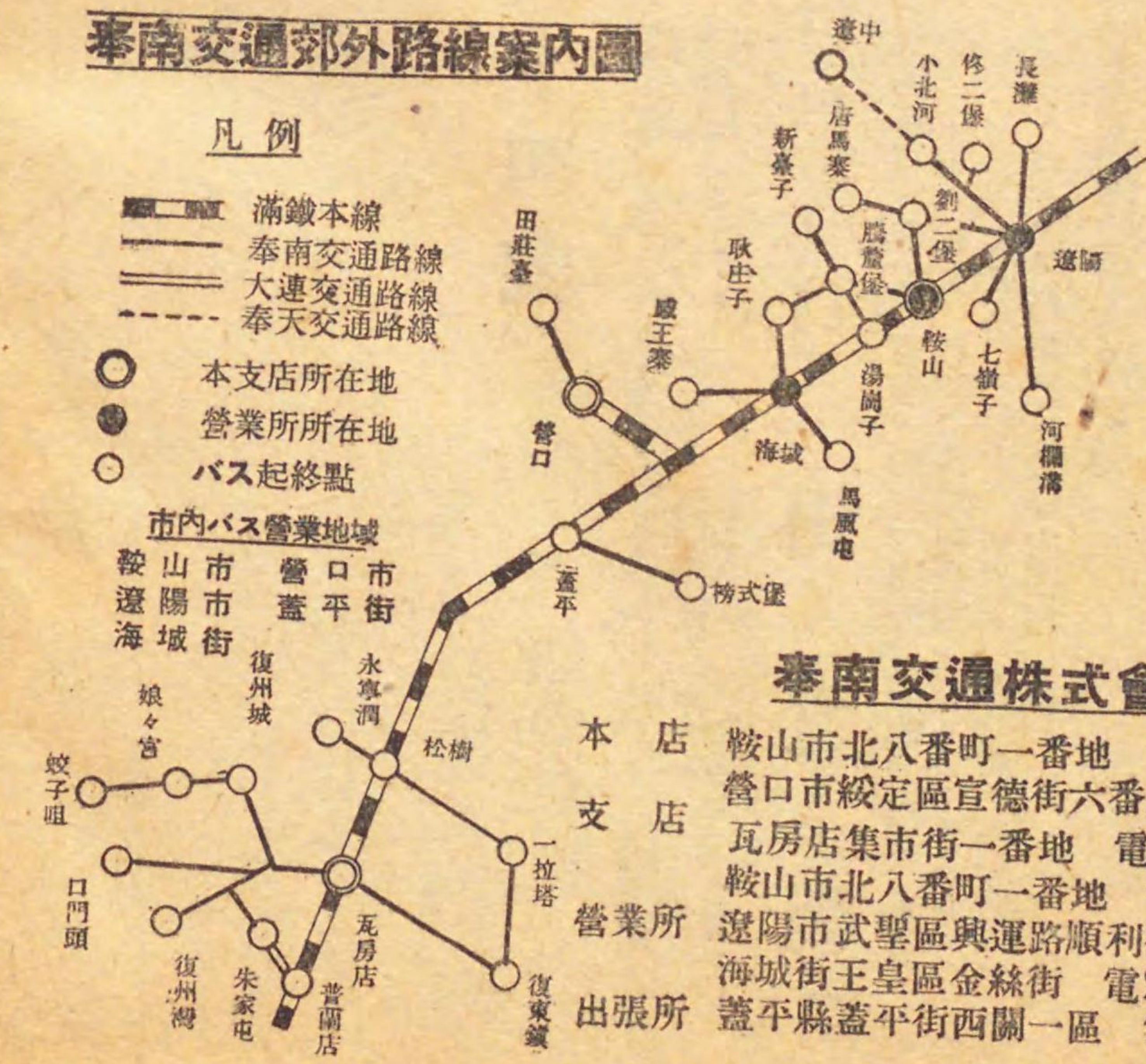
(モストワヤ角)

資本金一億五千萬圓
（全額拂込）

滿洲鑛山株式會社

新京特別市大同大街二一三號
電話本局(2)三六一一六番

社長　加藤穆夫



南滿ノ實狀ヲ摑マントセバ
先ヅ郊外バスヘ

奉南交通株式會社

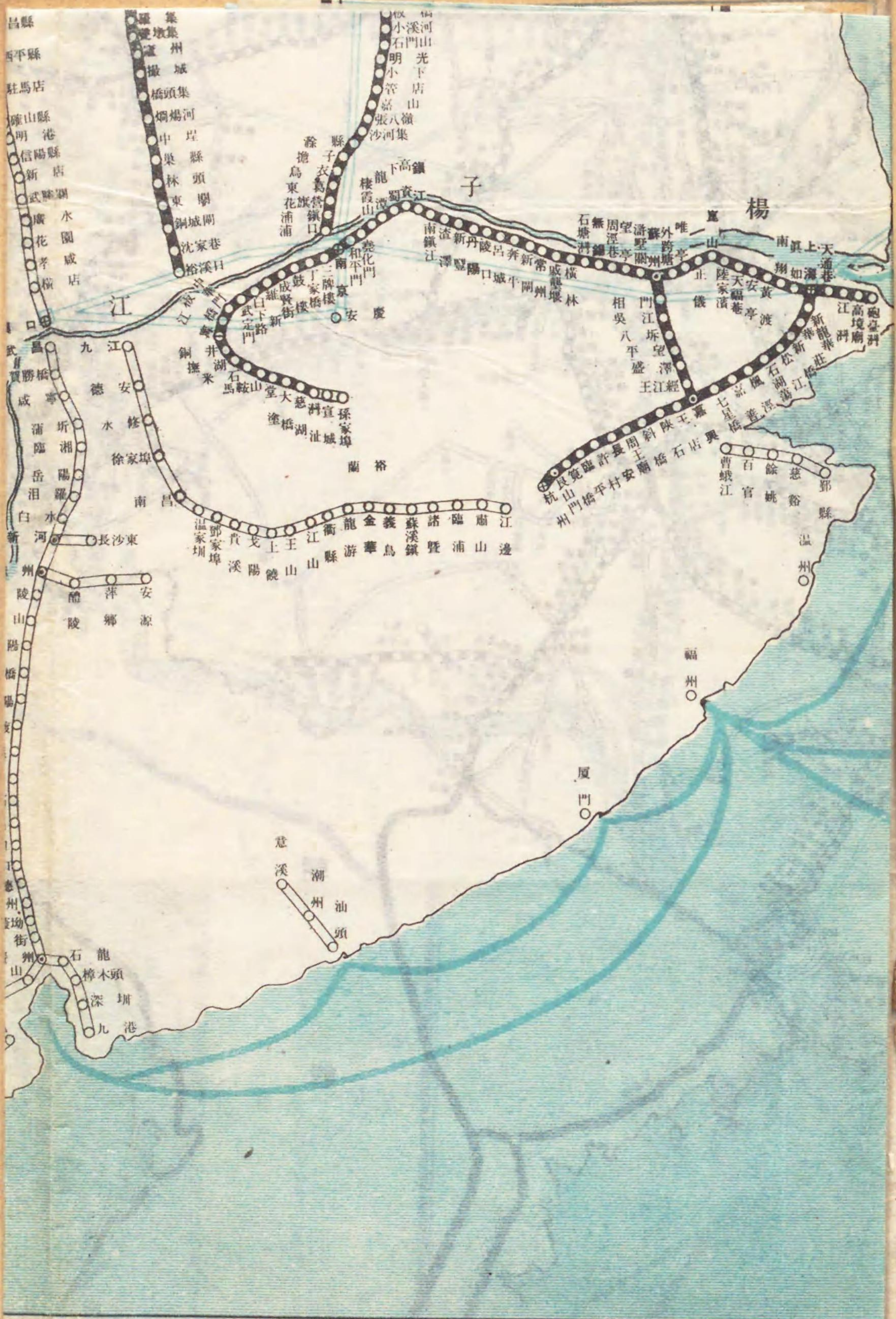
本店　鞍山市北八番町一番地　電3981
支店　營口市綏定區宣德街六番地　電6679
　　　瓦房店集市街一番地　電204
營業所　鞍山市北八番町一番地　電4091
　　　遼陽市武聖區興運路順利街　電440
　　　海城街王皇區金絲街　電242
出張所　蓋平縣蓋平街西關一區　電218

資本金壹億四千萬圓

東邊道開發株式會社

社長　島田利吉
常務取締役　池田卓一

本社　通化省通化縣通化街二道江
新京事務所　新京大同大街

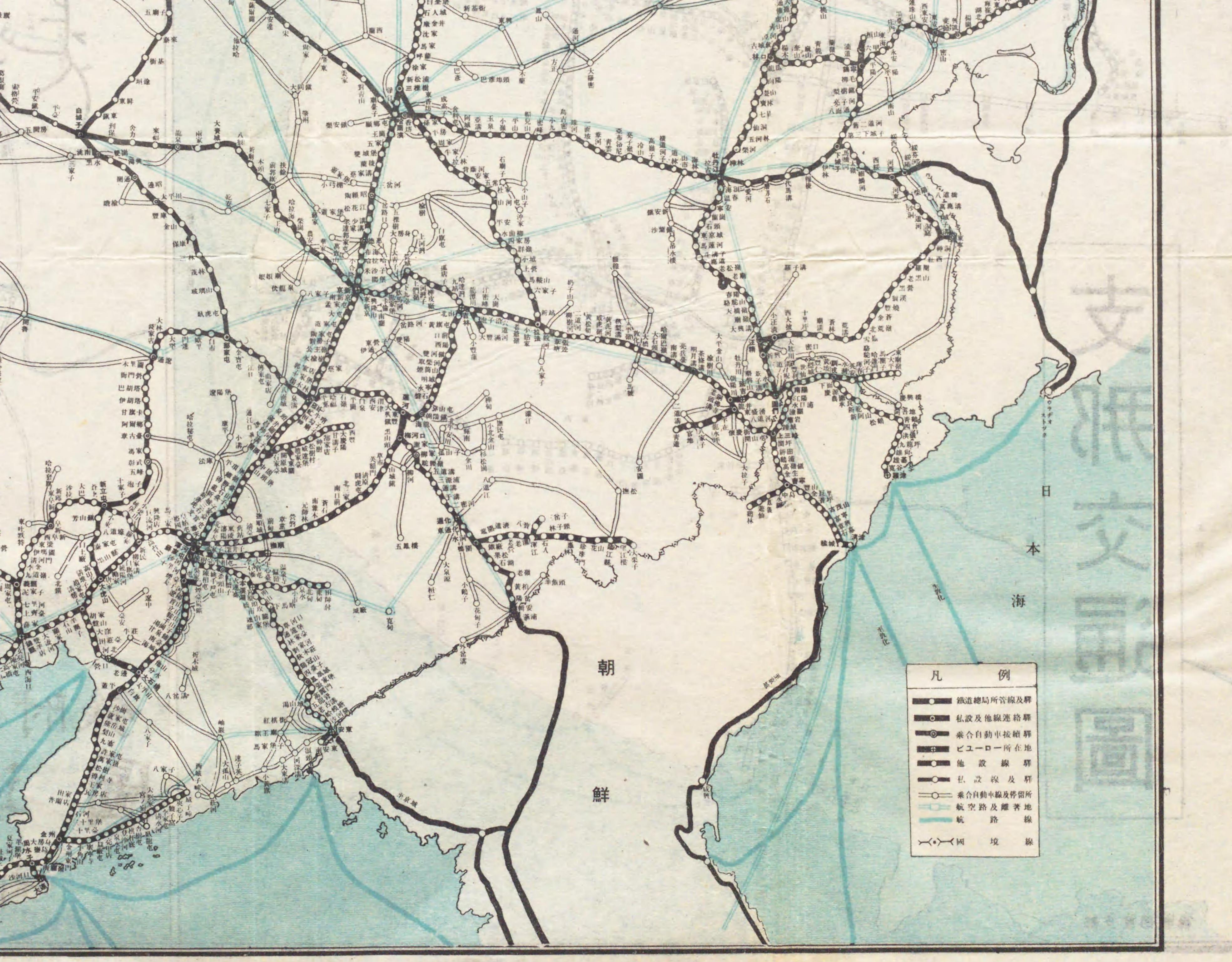

揚子江

滿洲交通圖





蒙
古
北安
大曲



朝鮮
日本海
凡例
鐵道總局所管線及驛
私設及他線連絡驛
乗合自動車接續驛
ビユーロー所在地
他設線驛
私設線及驛
乗合自動車線及停留所
航空路及離著地
航路線
國境線



渤海
安東
大連
旅順
金州
大石橋
瓦房店
熊岳城
蓋平


日滿支交通略圖
滿 洲 國
黃
海
芝罘
威海衛
北京
大同
滿洲里
ウラヂオストック
ハバロフスク



昭和十七年滿支旅行年鑑附錄

滿洲支那交通圖

東亞旅行社滿洲支部



滿洲國
至承德
至承德
至錦縣
黃海
張家口
青島
芝罘
威海衛

東

本社
東京市麹町區內幸町二ノ一三





支那交通圖
支那
成都
萬縣
宜昌
沙市
佛領印度支那


旅は飛行機で
滿洲航空株式會社


日本海航路
日滿連絡最捷路
定期航路
新潟—北鮮線…
伏木—北鮮線…
敦賀—北鮮線…
敦賀北鮮浦潮線…
切符發賣所及案内所
東京本社 東京市麴町區内幸町大阪ビル内
新潟支店 新潟市沿垂中央埠頭
敦賀支店 福井縣敦賀港棧橋
伏木支店 富山縣伏木町港町二七
大阪事務所 大阪市北區宗是町大阪ビル内
名古屋案内所 名古屋市中區南大津通千代田ビル内
京都案内所 京都市四條通富小路東
羅津支店 朝鮮羅津府昭和通國際ビル内
淸津支店 朝鮮淸津府北星町一八
新京事務所 滿洲新京特別市大同大街海上ビル
内鮮滿支各地 特定線全驛及主要驛
東亞旅行社案内所
日本海汽船



田邊
ハリバ服む兒は健康兒
哈利巴
ハリバ
包裝　百粒・五百粒
奉天　田邊藥品株式會社